

# Oracle® Fusion Cloud EPM

## Oracle Enterprise Data Management Cloud の管理および操作



F28070-22

ORACLE®

Oracle Fusion Cloud EPM Oracle Enterprise Data Management Cloud の管理および操作、

F28070-22

Copyright © 2018, 2024, Oracle and/or its affiliates.

著者: EPM Information Development Team

This software and related documentation are provided under a license agreement containing restrictions on use and disclosure and are protected by intellectual property laws. Except as expressly permitted in your license agreement or allowed by law, you may not use, copy, reproduce, translate, broadcast, modify, license, transmit, distribute, exhibit, perform, publish, or display any part, in any form, or by any means. Reverse engineering, disassembly, or decompilation of this software, unless required by law for interoperability, is prohibited.

The information contained herein is subject to change without notice and is not warranted to be error-free. If you find any errors, please report them to us in writing.

If this is software, software documentation, data (as defined in the Federal Acquisition Regulation), or related documentation that is delivered to the U.S. Government or anyone licensing it on behalf of the U.S. Government, then the following notice is applicable:

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs (including any operating system, integrated software, any programs embedded, installed, or activated on delivered hardware, and modifications of such programs) and Oracle computer documentation or other Oracle data delivered to or accessed by U.S. Government end users are "commercial computer software," "commercial computer software documentation," or "limited rights data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, reproduction, duplication, release, display, disclosure, modification, preparation of derivative works, and/or adaptation of i) Oracle programs (including any operating system, integrated software, any programs embedded, installed, or activated on delivered hardware, and modifications of such programs), ii) Oracle computer documentation and/or iii) other Oracle data, is subject to the rights and limitations specified in the license contained in the applicable contract. The terms governing the U.S. Government's use of Oracle cloud services are defined by the applicable contract for such services. No other rights are granted to the U.S. Government.

This software or hardware is developed for general use in a variety of information management applications. It is not developed or intended for use in any inherently dangerous applications, including applications that may create a risk of personal injury. If you use this software or hardware in dangerous applications, then you shall be responsible to take all appropriate fail-safe, backup, redundancy, and other measures to ensure its safe use. Oracle Corporation and its affiliates disclaim any liability for any damages caused by use of this software or hardware in dangerous applications.

Oracle®, Java, MySQL, and NetSuite are registered trademarks of Oracle and/or its affiliates. Other names may be trademarks of their respective owners.

Intel and Intel Inside are trademarks or registered trademarks of Intel Corporation. All SPARC trademarks are used under license and are trademarks or registered trademarks of SPARC International, Inc. AMD, Epyc, and the AMD logo are trademarks or registered trademarks of Advanced Micro Devices. UNIX is a registered trademark of The Open Group.

This software or hardware and documentation may provide access to or information about content, products, and services from third parties. Oracle Corporation and its affiliates are not responsible for and expressly disclaim all warranties of any kind with respect to third-party content, products, and services unless otherwise set forth in an applicable agreement between you and Oracle. Oracle Corporation and its affiliates will not be responsible for any loss, costs, or damages incurred due to your access to or use of third-party content, products, or services, except as set forth in an applicable agreement between you and Oracle.

For information about Oracle's commitment to accessibility, visit the Oracle Accessibility Program website at <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>.

# 目次

## ドキュメントのアクセシビリティについて

---

## ドキュメントのフィードバック

---

## 1 EPM センター・オブ・エクセレンスの作成および実行

---

## 2 Oracle Enterprise Data Management Cloud について

---

このガイドについて	2-1
ホーム・ページの概要	2-2
プリファレンスの設定	2-4
プロセス・フロー	2-6
データの登録とインポート	2-9
データの管理	2-10
ビューの理解	2-11
要求の理解	2-11
データの比較と合理化	2-12
アプリケーション間でのディメンションの整合性確保	2-12
新規ディメンションの作成	2-13
アプリケーション間の変更の共有	2-14
データのエクスポート	2-15
変更のアプリケーションへのエクスポート	2-16

## 第 I 部 データ管理

---

## 3 データ管理の開始

---

ユーザー・タスク	3-1
ノードについて	3-2

リストおよび階層の理解	3-3
共有ノードの理解	3-4
ノード・プロパティの操作	3-5
ノードの場所の表示	3-9
ノード・トランザクション履歴の表示	3-11

## 4 ビューの操作

---

ビューポイントについて	4-1
ビューの検索	4-2
ビューを開く	4-3
ビューのアーカイブおよび削除	4-3
ビューの検査	4-4
「ビュー」リストでのビューの表示方法の構成	4-5
ビュー権限の割当て	4-6
ビューポイントの並替え	4-7
比較プロファイルの作成、編集および削除	4-7
時間ラベルの作成、編集および削除	4-9

## 5 ビューポイントの操作

---

ビューポイントのナビゲート	5-2
ノードの検索	5-5
ビューポイントの問合せ	5-8
ビューポイント問合せの作成、実行および保存	5-9
保存済ビューポイント問合せの操作	5-14
ビューポイントのダウンロード	5-16
ドラフト・ビューポイントの削除	5-18
ビューポイントの検査	5-19
ビューポイントで許可できるアクションの変更	5-20
ビューポイントでのプロパティの表示方法の構成	5-21
関連ビューポイントの構成	5-23
「場所」タブのプロパティの構成	5-23
表示されるプロパティの順序の変更	5-25
複製ビューポイント・タブの使用	5-26
ビューポイントの左右並び表示	5-27
ノードの特定	5-28
ノードの整列	5-30

<b>6</b>	<b>ビューポイントの検証</b>	
	検証の問題の解決	6-3
<b>7</b>	<b>ビューポイントの比較</b>	
	ビューポイントの比較の実行	7-1
	ビューポイントの比較の例	7-6
	比較結果を使用するノード差異の修正	7-8
<b>8</b>	<b>ビューポイントのサブスクリプト</b>	
	サブスクリプションの作成、編集および検証	8-4
	サブスクリプション要求の割当て	8-9
	サブスクリプションへのフィルタおよび条件の追加	8-11
	アクションによるフィルタリング	8-11
	最上位ノードによるフィルタリング	8-12
	ノード条件の定義	8-14
	包含プロパティによるフィルタリング	8-15
	包含プロパティの例	8-18
<b>9</b>	<b>要求について</b>	
	要求タイプおよびプロセス・フロー	9-2
	要求アクション	9-4
	要求の変更の視覚化	9-4
<b>10</b>	<b>要求を使用する変更</b>	
	対話型での変更	10-2
	ノードのリストへの追加	10-3
	ノードの階層への追加	10-5
	既存のノードのモデル元アクションによるノードの追加	10-7
	最上位ノードの追加	10-8
	最上位ノードの挿入	10-9
	ノード・プロパティの更新	10-10
	ノードおよび関連ノードの挿入	10-14
	ノードの移動	10-17
	ノードの並替え	10-18
	ノードの除去	10-20

ノードの削除	10-21
ロード・ファイルを使用する変更	10-21
ロード・ファイル形式の要求	10-22
要求へのファイルの添付	10-31
要求コメントの操作	10-32
要求コメントの追加、編集、および削除	10-33
要求の同時編集	10-34
要求の検証	10-35
要求の検証の問題の操作	10-36
要求アイテムの修復	10-40
要求アイテムの検査	10-41
要求ファイルの添付の確認	10-42
ファイルへの1つの要求のダウンロード	10-44
要求およびブロックアウト期間	10-45

## 11 要求アクティビティの操作

---

要求の検索	11-3
ドラフト要求のオープンおよび編集	11-4
ドラフト要求の削除	11-4
ファイルへの要求のダウンロード	11-6
ファイルへの要求のサマリー情報のダウンロード	11-6
ファイルへの複数の要求のダウンロード	11-6
要求連結の理解	11-7
要求の連結	11-8
要求連結およびワークフロー	11-9
連結要求の破棄	11-11
要求の検査	11-11
要求インスペクタのアクション	11-14
ポリシー実行プラン	11-15
要求系列の表示	11-16
要求のトランザクション履歴の表示	11-19
ホーム・ページからの要求へのアクセス	11-20

## 12 ガバナンス・ワークフローおよび承認

---

ワークフロー・ステージ	12-2
送信プロセス	12-3
要求の割当て	12-4

要求についてのコラボレーション	12-5
要求の送信	12-7
要求の再送信	12-8
要求の撤回	12-8
承認プロセス	12-9
要求の承認	12-9
要求のエンリッチ	12-11
要求のプッシュバック	12-13
要求の却下	12-14
要求の承認の取下げ	12-14
コミット・プロセス	12-15
要求のコミット	12-15

## 13 要求の通知

---

サブスクリプション通知	13-1
ワークフロー通知	13-3

## 14 監査の実行

---

トランザクション履歴の監査	14-1
システム・イベントの監査	14-5
権限の監査	14-7
ポリシーの監査	14-8
プロパティの監査	14-10

## 15 レポートの操作

---

抽出レポート	15-1
権限およびポリシー・レポート	15-3
サブスクリプション・レポート	15-7
カスタム検証レポート	15-8
システム・アクティビティ・レポート	15-9
「レコード数ログ」レポート	15-10

## 第 II 部 管理

---

## 16 管理の開始

---

Enterprise Data Management ビジネス・プロセスの作成	16-3
サンプル・アプリケーションの作成	16-5
サービスの再作成	16-5
ユーザーの表示形式のカスタマイズ	16-6
ホーム・ページ・レイアウトの操作	16-8
お知らせの作成、編集および削除	16-10
システム設定の構成	16-11
レコード数の表示	16-12
EPM Cloud に関するよくある質問	16-13

## 17 アプリケーションの操作

---

アプリケーション・タイプの理解	17-3
アプリケーションの登録の理解	17-3
アプリケーションの変更の理解	17-6
アプリケーションおよびデータ共有の理解	17-7
ブロックアウト期間の理解	17-9
ブロックアウト期間の構成	17-11
アプリケーションのワークフローの無効化	17-13
アプリケーションの検査	17-14
アプリケーション権限の割当て	17-15
アプリケーションの検索	17-16
アプリケーションのコピー	17-16
アプリケーションのアーカイブ、アーカイブ解除および削除	17-17
アプリケーション・インデックスのリフレッシュ	17-19
ディメンションの理解	17-19
ディメンションの検査	17-20
未バインド・ディメンションの操作	17-21
参照ディメンションの操作	17-22
ディメンションのアーカイブおよびアーカイブ解除	17-23
属性の理解	17-24

## 18 データ・オブジェクトおよびデータ・チェーンの操作

---

データ・チェーンの理解	18-3
データ・チェーンの検査	18-6
ノード・タイプの操作	18-7
ノード・タイプの作成	18-9



特殊ノード・タイプ・クラスの操作	18-10
参照ノード・タイプの事前定義済プロパティ	18-11
レガシー GL ノード・タイプの事前定義済プロパティ	18-12
ノード・タイプ修飾子の使用	18-13
ノード・タイプ・コンバータの操作	18-14
ノード・タイプの検査	18-18
ノード・タイプの検索	18-20
ノード・タイプのプロパティの追加、除去および構成	18-20
階層セットの操作	18-21
階層セットの作成	18-23
階層セットの検査	18-25
階層セットの検索	18-26
ノード・セットの操作	18-27
ノード・セットの作成	18-28
ノード・セットの検査	18-30
ノード・セットの検索	18-30
ビューポイントの理解	18-31
ビューポイントのアーカイブ、アーカイブ解除および削除	18-33
バインディングおよびバインドされたデータ・オブジェクトの理解	18-34
ディメンション・バインドの例	18-37
ディメンションにバインドされたオブジェクトの特定	18-40
バインドの作成	18-41
マップ・バインドの作成	18-42
参照バインドの作成	18-44
バインディングの検査および編集	18-45
バインド・キーの編集	18-48
バインディングの削除	18-50
バインディング・ルールの理解	18-51
全アプリケーション・タイプに対するバインディング・ルール	18-52
データ・オブジェクトおよびデータ・チェーンのライフサイクルの理解	18-52
データ・チェーン・オブジェクトのアーカイブおよびアーカイブ解除	18-57

## 19 代替ビューおよびビューポイントの定義

---

ベスト・プラクティス	19-2
ビューの作成	19-3
ビューポイントの作成	19-4
異なる最上位ノードを使用する代替ビューポイント	19-4
異なる親子関係を使用する代替ビューポイント	19-6

異なるノード・タイプを使用する代替ビューポイント	19-7
マッピング・ビューポイントの作成	19-9
ソース・ノードのターゲット・ノードへのマッピング	19-10
時間ラベル付きビューポイントの操作	19-14
ビューポイントのコピー	19-16
バージョン管理のベスト・プラクティス	19-18
ディメンションのバインドされたビューポイントの変更	19-18

## 20 プロパティの操作

---

プロパティ名およびネームスペースの理解	20-4
システムおよび統計プロパティ	20-5
プロパティの作成について	20-8
プロパティの手動での作成	20-8
ビューポイントのプロパティのダウンロードおよびアップロード	20-10
ビューポイント・プロパティ・ファイルの形式	20-12
プロパティ・データ・タイプのパラメータの理解	20-13
ブール・データ型パラメータ	20-17
浮動小数点および整数データ型パラメータ	20-17
リストおよび文字列データ型パラメータ	20-17
ノード・データ型パラメータ	20-19
数値文字列データ型パラメータ	20-21
シーケンス・データ型パラメータ	20-21
プロパティの継承	20-21
プロパティ継承および共有ノード	20-24
派生プロパティ	20-25
「派生および保管」プロパティ	20-28
「派生および保管」プロパティの処理	20-29
計算および格納されたプロパティ	20-31
ノードの名前の計算および保管	20-32
計算された名前を持つ要求ファイルの処理	20-35
ノードの親の計算および保管	20-36
シーケンス・プロパティの操作	20-37
シーケンス値の表示、編集およびリセット	20-38
シーケンス・プロパティの処理	20-40
プロパティの検査	20-42
プロパティ・パラメータの編集	20-43
プロパティの許容値または無効な値の定義	20-47
プロパティ定義のダウンロード	20-48

プロパティでの Null および空の値の理解	20-49
代替名プロパティ	20-50
ビューポイントのプロパティの構成方法の理解	20-50
プロパティの検索	20-52
プロパティの削除	20-52

## 21 検証および制約の理解

---

システム検証	21-2
アプリケーション固有の検証の適用および重要度の管理	21-3
カスタム検証の操作	21-4
検証重要度の理解	21-9
制約の操作	21-10

## 22 参照セットの操作

---

参照セットの検査	22-2
----------	------

## 23 式を使用したカスタム・ビジネス・ロジックの定義

---

式ビルダーの概要	23-2
式の作成	23-6
文の操作	23-6
コメントの操作	23-7
オブジェクトおよび演算子の操作	23-7
式の項のデータ型	23-8
式での Null および空白値の使用	23-28
式での参照セットの使用	23-28
日付と時刻のフォーマット用記号	23-29
リテラル値の操作	23-30
式でのコピーおよび貼付け	23-30
ファイルからの式の保存およびロード	23-32
式: 詳細な例	23-32
式のテスト	23-38

## 24 ロールと権限の操作

---

アプリケーションのロールと権限の理解	24-2
包含および追加権限	24-4
権限カスケード	24-7

権限の操作	24-8
データ・アクセスの構成	24-13
ファイルからの権限およびデータ・アクセスのアップロードおよびダウンロード	24-16
権限ファイル形式	24-18
セキュリティの例	24-19
アプリケーションおよびディメンションのセキュリティ	24-19
階層セットおよびノード・タイプのセキュリティ	24-20
ビューおよびビューポイントのセキュリティ	24-21
要求のセキュリティ	24-22
アクセス制御、移行および日次メンテナンスのセキュリティ	24-26

## 25 ポリシーの構成

---

承認ポリシー	25-4
承認ポリシーの作成および有効化	25-5
要求エンリッチメントの理解	25-9
所有権承認の理解	25-10
要求承認の取下げの理解	25-13
承認ポリシーの例	25-14
コミット・ポリシー	25-19
コミット・ポリシーの作成および有効化	25-20
通知ポリシー	25-23
通知ポリシーの作成および有効化	25-24
ポリシー順序の理解	25-26
ポリシーの変更	25-27
ポリシーのリマインダおよびエスカレーション	25-28

## 26 データの統合

---

アプリケーション接続の作成	26-1
ディメンションのインポート	26-2
マージ・インポートの操作	26-6
インポート・オプションの管理	26-7
ディメンションのエクスポート	26-9
エクスポート・オプションの管理	26-12
増分エクスポート	26-15
マッピング・データのエクスポート	26-16
グローバル接続の作成	26-18
抽出の操作	26-22

抽出の種類を理解	26-23
世代抽出の例	26-24
抽出表示	26-29
抽出の作成、コピー、上位への移動および削除	26-29
抽出の編集	26-31
抽出列の選択	26-33
増分オプションの指定	26-37
世代オプションの指定	26-39
抽出オプションの指定	26-40
抽出での親の再接続	26-46
抽出の実行	26-48
抽出パッケージの操作	26-50
抽出パッケージの作成、編集、コピーおよび削除	26-51
抽出パッケージの実行	26-54
ビューポイント・ロードの操作	26-55
ビューポイント・ロードのファイル形式	26-59
ビューポイント・ロードの実行	26-60
ステージング領域の使用	26-62

## 27 環境間の移行

---

移行シナリオの例	27-2
移行の使用	27-4
テンプレートの操作	27-5
テンプレートを使用した既存のアプリケーションまたはディメンションの更新	27-9
テンプレートのオブジェクトおよび設定	27-10
テンプレート・インポートのプレビューとインポート結果の確認	27-19

## 28 Planning およびフリーフォーム・アプリケーションの操作

---

Planning およびフリーフォーム・アプリケーションの登録	28-3
キューブ、アプリケーション設定およびディメンションの登録	28-6
Planning およびフリーフォーム・アプリケーションの事前定義済プロパティ	28-11
Planning およびフリーフォーム・ディメンションのインポート	28-13
ファイル形式のインポートおよびエクスポート	28-15
登録された Planning およびフリーフォーム・アプリケーションの変更	28-16
Planning モジュールへの Planning アプリケーションのアップグレード	28-17
フリーフォーム・アプリケーションへの Planning アプリケーションの変換	28-18
Planning およびフリーフォーム・アプリケーションのバインディング・ルール	28-19

Planning およびフリーフォーム・アプリケーションのディメンションへのビューポイントのバインド	28-20
Planning およびフリーフォームの検証	28-21
Planning およびフリーフォーム・ディメンションのエクスポート	28-23

## 29 Financial Consolidation and Close アプリケーションの操作

---

Financial Consolidation and Close アプリケーションの登録	29-2
Financial Consolidation and Close のアプリケーション設定およびディメンションの登録	29-5
Financial Consolidation and Close アプリケーションの事前定義済プロパティ	29-10
Financial Consolidation and Close ディメンションのインポート	29-14
Financial Consolidation and Close のインポートおよびエクスポート・ファイル形式	29-16
登録された Financial Consolidation and Close アプリケーションの変更	29-17
Financial Consolidation and Close アプリケーションのバインディング・ルール	29-18
Financial Consolidation and Close アプリケーションのディメンションへのビューポイントのバインド	29-19
Financial Consolidation and Close の検証	29-20
Financial Consolidation and Close ディメンションのエクスポート	29-22

## 30 Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションの操作

---

Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションの登録	30-2
Enterprise Profitability and Cost Management のキューブ、アプリケーション設定およびディメンションの登録	30-5
Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションの事前定義済プロパティ	30-8
Enterprise Profitability and Cost Management ディメンションのインポート	30-11
Enterprise Profitability and Cost Management のインポートおよびエクスポート・ファイル形式	30-13
登録済の Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションの変更	30-14
Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションのバインディング・ルール	30-15
Enterprise Profitability and Cost Management の検証	30-16
Enterprise Profitability and Cost Management ディメンションのエクスポート	30-18

## 31 Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションの操作

---

Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションの登録	31-4
グローバル付加フレックスフィールドの追加	31-7
セグメントおよびツリーの登録	31-9
財務カテゴリの追加、変更または除去	31-11

登録変更の適用	31-12
Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションの事前定義済プロパティ	31-12
Oracle Financials Cloud 一般会計ディメンションのインポート	31-13
登録済みの Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションの変更	31-15
Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションのバインディング・ルール	31-17
Oracle Financials Cloud 一般会計の検証	31-18
ツリーまたはツリー・バージョンを作成するためのバインディングのコピー	31-20
Oracle Financials Cloud 一般会計ディメンションのエクスポート	31-23

## 32 E-Business Suite 一般会計アプリケーションの操作

---

E-Business Suite 一般会計アプリケーションの登録	32-3
グローバル付加フレックスフィールドの追加	32-5
セグメントの登録	32-6
登録変更の適用	32-7
E-Business Suite 一般会計アプリケーションの事前定義済プロパティ	32-8
E-Business Suite 一般会計ディメンションのインポート	32-9
ファイル形式のインポートおよびエクスポート	32-10
登録済の E-Business Suite 一般会計アプリケーションの変更	32-12
E-Business Suite 一般会計アプリケーションのバインディング・ルール	32-13
E-Business Suite 一般会計の検証	32-14
E-Business Suite 一般会計ディメンションのエクスポート	32-15

## 33 汎用アプリケーションの操作

---

汎用アプリケーションの登録	33-2
ユーザー定義ディメンションの追加、除去または変更	33-3
ユーザー定義ディメンションのインポートおよびエクスポート設定	33-4
ユーザー定義ディメンション向けノード・タイプの追加または変更	33-5
ユーザー定義ディメンションのインポート	33-11
ユーザー定義ディメンションに対するファイル形式のインポートおよびエクスポート	33-13
汎用アプリケーションに対するバインディング・ルール	33-15
汎用アプリケーションのユーザー定義ディメンションにバインドされたビューポイントの変更	33-16
汎用アプリケーションの検証	33-17
汎用アプリケーションの変更	33-17
ユーザー定義ディメンションのエクスポート	33-19

## 34 ユーザー・アプリケーションの操作

---

ユーザー・アプリケーションの登録	34-2
ユーザー・アプリケーションの事前定義済プロパティ	34-2

## 第 III 部 ビジネス・シナリオ

---

### 35 Planning との統合

---

管理者のステップ	35-1
ユーザーのステップ	35-6
結果	35-6

### 36 Oracle Financials Cloud 一般会計との統合

---

Oracle Enterprise Data Management Cloud 管理者のステップ	36-1
詳細なステップ	36-2
ステップ 1: Oracle Enterprise Data Management Cloud への Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションの登録	36-2
ステップ 2: Oracle Financials Cloud 一般会計の値セットの Oracle Enterprise Data Management Cloud へのインポート	36-9
Oracle Enterprise Data Management Cloud: ユーザーのステップ	36-13
Oracle Financials Cloud 一般会計: ユーザーのステップ	36-17
詳細なステップ	36-17
ステップ 1: Oracle Financials Cloud での勘定体系データのインポートとロード	36-17
ステップ 2: Oracle Financials Cloud 一般会計でのエクスポート・データの検証	36-25
ステップ 3: Oracle Financials Cloud 一般会計の更新済階層の公開	36-27

### 37 汎用アプリケーションを使用した外部アプリケーションとの統合

---

管理者のステップ	37-1
ユーザーのステップ	37-8

### 38 エンタープライズ・データのアプリケーション間での共有

---

管理者のステップ	38-1
ユーザーのステップ	38-3
結果	38-4



<b>39</b>	<b>エンタープライズ・データのアプリケーション間での比較</b>	
	管理者のステップ	39-1
	ユーザーのステップ	39-4
	結果	39-6
<b>40</b>	<b>エンタープライズ・データのリスト形式での管理</b>	
	管理者のステップ	40-1
	ユーザーのステップ	40-2
	結果	40-3
<b>41</b>	<b>ソース・ディメンションのターゲット・ディメンションへのマッピング</b>	
	管理者のステップ	41-3
	ユーザーのステップ	41-6
<b>42</b>	<b>Data Relationship Management から Oracle Enterprise Data Management Cloud へのエンタープライズ・データの移行</b>	
	管理者のステップ	42-1
	詳細なステップ	42-2
	ステップ 1: Data Relationship Management アプリケーションの登録	42-2
	ステップ 2: Data Relationship Management でのエクスポート・ファイルの作成	42-6
	ステップ 3: ディメンションのインポート	42-7
	結果	42-9
	ユーザーのステップ	42-9
<b>43</b>	<b>バインドされたビューポイントの変更による代替ビューポイントのエクスポート</b>	
	ユーザーのステップ	43-2
<b>44</b>	<b>Oracle Enterprise Data Management Cloud のバックアップおよびリストア</b>	
	Oracle Enterprise Data Management Cloud のバックアップのための管理者のステップ	44-1
	Oracle Enterprise Data Management Cloud 環境のリストアについて	44-4
	Oracle Enterprise Data Management Cloud を復元するための管理者のステップ	44-4

## 45 ガバナンス・ワークフローおよび承認の管理

---

管理者のステップ	45-1
ユーザーのステップ	45-2
結果	45-6

## 46 サブスクリプションおよびガバナンス・ワークフローを使用したアプリケーションの調整

---

管理者のステップ	46-2
詳細なステップ	46-3
ステップ 1: メンテナンス・ビューの作成	46-3
ステップ 2: サブスクリプションの作成	46-6
ユーザーのステップ	46-8
Corporate GL データ担当のステップ	46-9
Corporate GL データ・マネージャのステップ	46-13
Corporate Planning データ・マネージャのステップ	46-17
エンタープライズ・データ・マネージャのステップ	46-19

## 47 環境間でのアプリケーションの転送

---

管理者のステップ	47-1
ステップ 1: アプリケーション開発用のテスト環境のリフレッシュおよび準備	47-2
ステップ 2: アプリケーションの構築	47-8
ステップ 3: テンプレートへの新規アプリケーションのエクスポート	47-10
ステップ 4: テンプレートからのアプリケーションのインポートのプレビュー	47-11
ステップ 5: プレビューのインポートの警告の修正	47-13
ステップ 6: テンプレートからのアプリケーションのインポート	47-19

## A ベスト・プラクティス

---

## B 用語集

---

# ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>)を参照してください。

## Oracle サポートへのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> か、聴覚に障害のあるお客様は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。

# ドキュメントのフィードバック

このドキュメントに対するフィードバックを送るには、Oracle Help Center トピックのページの下部にあるフィードバック・ボタンをクリックします。  
epmdoc\_ww@oracle.com に電子メールを送信することもできます。

# 1

## EPM センター・オブ・エクセレンスの作成および実行

EPM のベスト・プラクティスは、CoE (センター・オブ・エクセレンス)を作成することです。

**EPM CoE** は、導入およびベスト・プラクティスを確実にするための統合された取組みです。パフォーマンス管理およびテクノロジー対応ソリューションの使用に関連するビジネス・プロセスの変革を促進します。

クラウドの導入により、組織がビジネス・アジリティを改善し、革新的なソリューションを促進することが可能になります。**EPM CoE** はクラウド・イニシアチブを監督し、投資を保護および維持し、効果的な使用を促進するのに役立ちます。

**EPM CoE チーム:**

- クラウドの導入を確実にし、組織が **Cloud EPM** の投資を最大限に活用することを支援します
- ベスト・プラクティスの運営委員会として機能します
- **EPM** 関連の変更管理イニシアチブをリードし、変革を促進します

すでに **EPM** を実装済の顧客を含めて、すべての顧客が **EPM CoE** からメリットを得られます。

### 使用を開始する方法

クリックして、**EPM CoE** のベスト・プラクティス、ガイダンスおよび戦略を取得します: **EPM センター・オブ・エクセレンスの概要**。

### さらに学習

- クラウド・カスタマ・コネクト Web セミナーを見る: [Cloud EPM のセンター・オブ・エクセレンス\(CoE\)の作成および実行](#)
- ビデオを見る: [概要: EPM センター・オブ・エクセレンスおよびセンター・オブ・エクセレンスの作成](#)。
- [EPM センター・オブ・エクセレンスの作成および実行の EPM CoE のビジネス上のメリットおよび価値提案の確認](#)。



## 2


# Oracle Enterprise Data Management Cloud について

Oracle Enterprise Data Management Cloud は、様々なアプリケーション間でのエンタープライズ・データの整合性を確保することによって、ビジネスの変化を管理します。

会社が成長し発展していくにつれ、分野ごとに分かれていたエンタープライズ・データ全体の管理が必要になってきます。たとえば、会社を合併または買収する場合は、複数のドメインにわたるビジネス・エンティティを同期する必要があります。同様に、新しいイニシアチブやレガシー・アプリケーションがビジネス・オペレーションの比較および矛盾のないパフォーマンス測定を困難にしています。それでも、ビジネスの成功の鍵を握るのはデータの整合性、正確さ、および品質です。

Oracle Enterprise Data Management Cloud は、様々なアプリケーション間でのエンタープライズ・データの整合性を確保することによって、ビジネスの変化を管理するソリューションを提供します。管理者は業務固有のビューを作成し、複数の異なる業務にわたる財務データおよび管理データの整合性を維持できます。財務レポートおよび管理レポートを単純化して照合するため、標準階層、代替階層およびカスタム階層を定義できます。Oracle Enterprise Data Management Cloud を使用すると、整合性が確保された正確なエンタープライズ・データを迅速にインポート、管理し、複数の外部アプリケーションにエクスポートできます。

### ビデオ

目的	参照するビデオ
Oracle Enterprise Data Management Cloud の機能についてさらに学習します。	 <a href="#">概要: Enterprise Data Management Cloud のツアー</a>

## このガイドについて

この項では、ガイドの内容および構成について説明します。

このガイドは次の項で構成されています。

- **Oracle Enterprise Data Management Cloud について**—Oracle Enterprise Data Management Cloud の使用に関する概要情報および概要レベルのプロセス・フロー。
- **データ管理**—エンタープライズ・データ管理を行うユーザー向けのトピックおよびプロシージャ。通常、ユーザーはビュー、ビューポイント、要求およびノードの更新を使用して作業します。
- **管理**—ユーザー、アプリケーション、およびエンタープライズ・データの設定を行う管理者向けのトピックおよびプロシージャ。この項では、特定のビジネス・シナリオに対する一定の成果を得るための概要レベルのプロシージャも提供します。管理者が実行するタスクには、次のものがあります。
  - 外部アプリケーションの登録
  - ディメンションのインポート

- データ・チェーン・オブジェクトの作成
- ユーザーのプロビジョニング
- ビューの作成
- 外部アプリケーションへのエクスポート
- **ビジネス・シナリオ**—ビジネスで一定の成果を得るための概要レベルのプロシージャ。
- **用語集**—製品およびドキュメントで使用される用語および定義。

## ホーム・ページの概要

ホーム・ページは、ビジネス・プロセス・タスクにアクセスする際の出発点です。

インタフェースにより、直感的なユーザー操作と、よく使用される機能へのクイック・アクセスの概要が提供されます。たとえば、ユーザーは、ビューポイントと要求を使用してアプリケーション・データを表示および管理できます。サービス管理者は、ビジネス・プロセスの管理とカスタマイズ、ユーザー・グループの作成とロールのプロビジョニング、アーティファクトの移行、およびお知らせを行うことができます。

### グローバル・ヘッダー

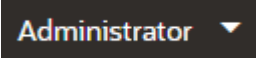
グローバル・ヘッダーは、ユーザー・インタフェース最上部に広がる領域です。ここには、ナビゲーション・アイコンに加えて、「設定およびアクション」メニューへのアクセスが含まれています。



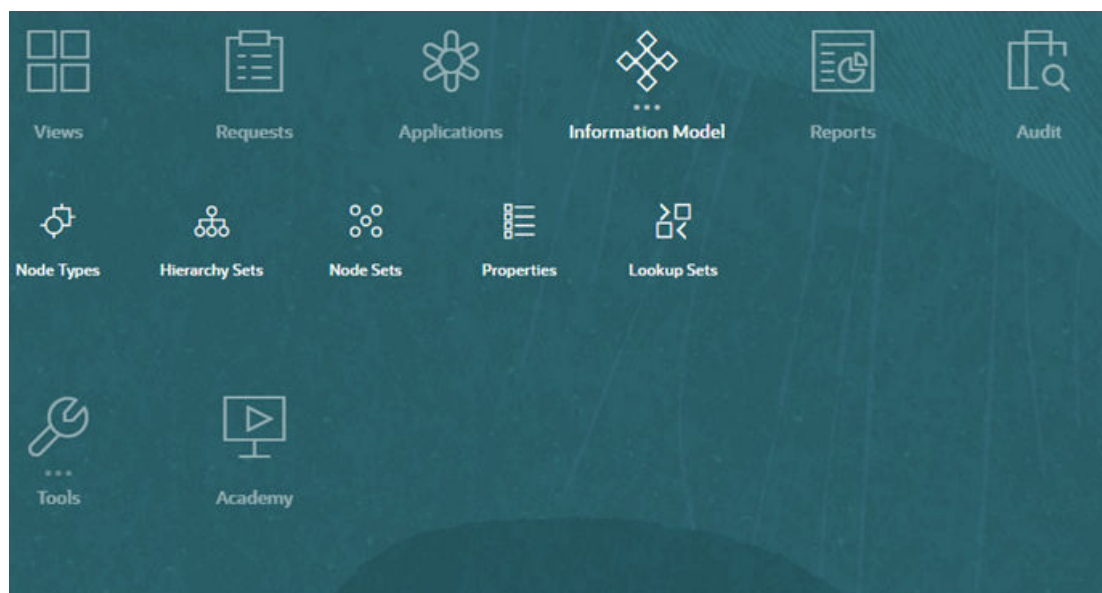
グローバル・ヘッダーの要素(左から右):

グローバル・ヘッダーの要素	説明
	「ナビゲータ」アイコンによって、ビジネス・プロセスのサイトマップとして機能し、アクセス権がある Oracle Enterprise Data Management Cloud のすべての機能へのリンクを提供する「ナビゲータ」メニューが開きます。
	ビジネス・プロセスの他の場所で作業中に Oracle ロゴをクリックすると、ホーム・ページに戻ります。 <b>ノート:</b> サービス管理者はロゴをカスタマイズできます。 <a href="#">ユーザーの表示形式のカスタマイズ</a> を参照してください。
	現在のビジネス・プロセスの名前です。 <b>ノート:</b> サービス管理者はビジネス・プロセス名を非表示にすることができます。 <a href="#">ユーザーの表示形式のカスタマイズ</a> を参照してください。
	ビジネス・プロセスの他の場所で作業しているときに「ホーム」ボタンをクリックすると、ホーム・ページに戻ります。



グローバル・ヘッダーの要素	説明
	ユーザー名をクリックして「設定およびアクション」メニューにアクセスします。

### カードおよびクラスタ



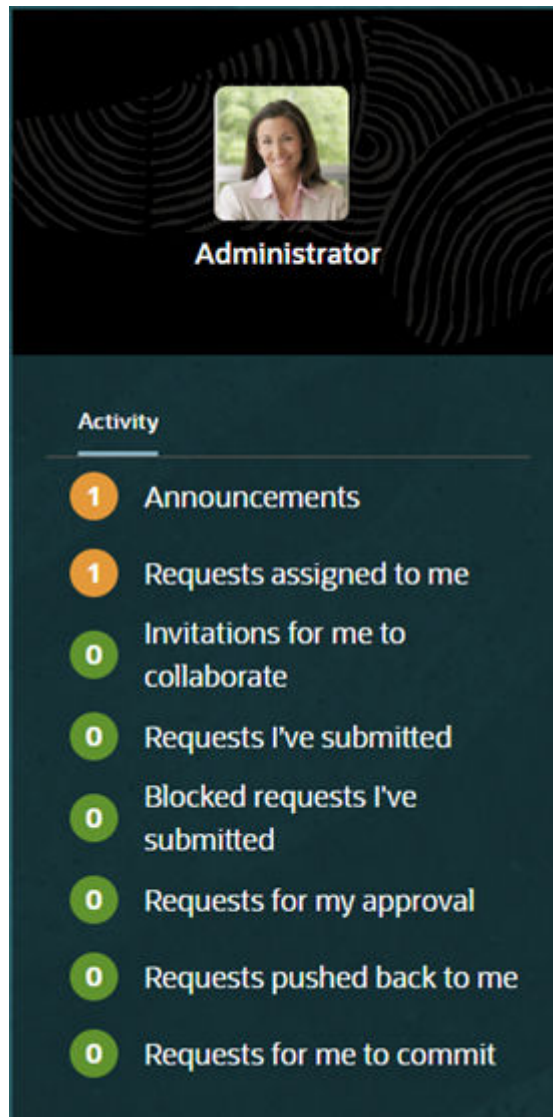
### 用語に関するノート


- カードは、Oracle Enterprise Data Management Cloud の機能(「要求」や「ビュー」など)へのアクセスを提供するユーザー・インタフェース要素です。
- クラスタは、カードのグループが含まれている組織的要素です。クラスタ(「ツール」など)をクリックすると、そのクラスタ内のカードが表示されます。

ホーム・ページのカードおよびクラスタ領域には、アクセス権があるビジネス・プロセスの各機能領域にリンクする、カードと呼ばれるアイコンが表示されます。カード・ラベルの上の3つのドットは、クラスタと呼ばれるカードのグループを示します。上の例では、「情報モデル」クラスタが選択されており、それに含まれているカードが表示されています。

### ようこそパネル

ようこそパネルには、ユーザー名とプロフィール・ピクチャ(設定されている場合)、サービス管理者によって入力されたシステムに関するお知らせが表示され、自分のアクティビティの追跡に役立ちます。



- ようこそパネルの上部に表示するプロフィール・ピクチャを設定できます。プロフィール・ピクチャには、現在の不在ステータスも示されます。[プリファレンスの設定](#)を参照してください。
- サービス管理者からのシステムに関するお知らせを表示するには、「**お知らせ**」をクリックします。開始日でソートされた最新のお知らせが最上部に表示されます。  
「**お知らせを閉じる**」  をクリックすると、「アクティビティ」パネルに戻ります。
- 自分に固有の要求アクティビティにアクセスするには、「要求アクティビティ」リンクを使用します。[ホーム・ページからの要求へのアクセス](#)を参照してください。

## プリファレンスの設定

プリファレンスを設定して、プロフィール・ピクチャをアップロード、タイム・ゾーンと表示言語を変更、および自分を不在としてマークできます。


プリファレンスを設定するには:

1. 画面の右上に表示されるユーザー名をクリックして「**ユーザー・プリファレンス**」を選択します。
2. 「**編集**」をクリックします。
3. 次のプリファレンスを設定します。
  - プロファイル・イメージ。「**ファイルの選択**」をクリックしてから .jpg、.png または .gif のいずれかのタイプのファイルを選択します。選択するファイルは 2 MB 以下である必要があります。  
プロファイル・イメージを除去するには、「**クリア**」をクリックします。
  - タイム・ゾーン。ドロップダウンからタイム・ゾーンを選択するか、デフォルトの「クライアントのタイム・ゾーンの使用」のままにしてブラウザのロケールのタイム・ゾーンを使用します。

 **ノート:**

選択したタイム・ゾーンは、現在のロケールのデフォルトのタイム・ゾーンを上書きして、Oracle Enterprise Data Management Cloud 全体の日時の値に反映されます。

- 言語。言語を選択しなかった場合は、ブラウザのロケールが使用されます。

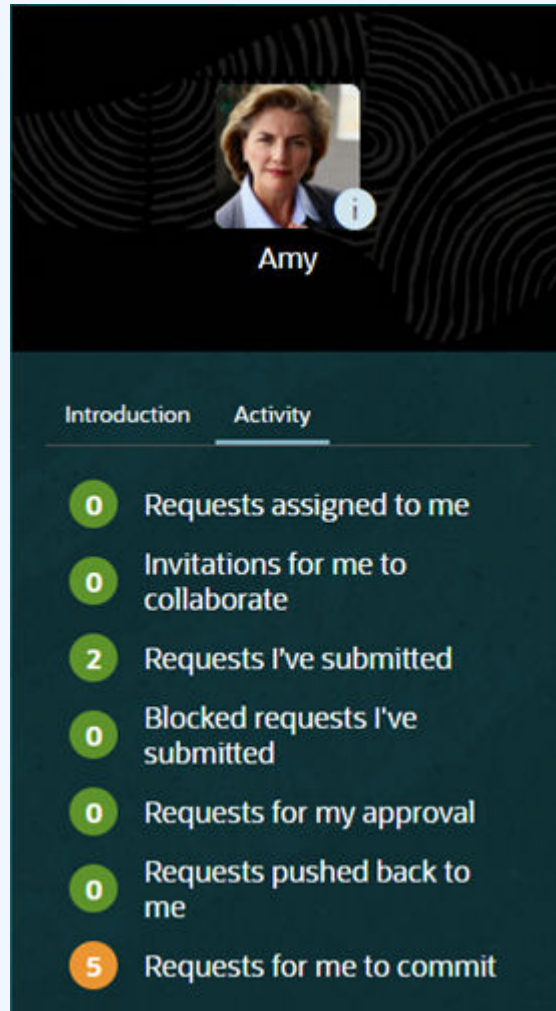
 **ノート:**

言語の変更を表示するには、ログアウトしてからログインします。ほとんどの場所で、日付フォーマットはロケール・フォーマットを使用して表示されます。例:

- データ・オブジェクト(ビュー、アプリケーション、ノード・タイプ、階層セット、ノード・セットなど)
  - プロパティ
  - トランザクション履歴の監査
  - 要求
- 不在ステータス。「**現在不在です**」を選択して、次のように自分をワークフローから退出させます:
    - サブスクリプションで要求が自分に自動割当されなくなります。不在としてマークする前に行われたすべての割当は保持されます。[サブスクリプション要求の割当て](#)を参照してください。
    - 要求エスカレーション時にデッドロックを解除するために自分の承認が必要な場合、不在から戻ったとマークするまで、その要求は自動的にデータ・マネージャに送信されます。

 ノート:

不在にマークすると、ユーザー・プロフィールが更新され、現在のステータスを示すインジケータが表示されます。「**ユーザー・プリファレンス**」に戻り、ステータスを在社中に更新するには、インジケータをクリックします。



4. 「保存」をクリックします。

## プロセス・フロー

Oracle Enterprise Data Management Cloud では、このプロセス・フローを使用して、複数のアプリケーションのビジネス・エンティティを一か所で管理できます。

 **ノート:**

サービス管理者はすべてのタスクを実行できます。ユーザーは、ロールと権限に基づいてタスクを実行します。

次の表に、一般的なタスクの実行に最低限必要なロールと権限をリストします。権限およびデータ・オブジェクトの詳細は、[権限の操作](#)を参照してください。

タスク	ロール	権限	参照
外部アプリケーション (Planning など)を Oracle Enterprise Data Management Cloud に統合	アプリケーション - 作成		<a href="#">アプリケーションの登録の理解</a>
ビューの作成	ビュー - 作成		<a href="#">ビューの作成</a>
ビューポイントの作成		ビューの所有者およびディメンションのデータ・マネージャまたはメタデータ・マネージャ	<a href="#">ビューポイントの作成</a>
ビューおよびビューポイントの参照		ビューポイント内のデータを表示するためのビューポイントのデータ・チェーン・オブジェクトに対する参加者(読取り)	<a href="#">ビューの操作</a> <a href="#">ビューポイントの操作</a>
データの管理		要求を使用して変更を適用するためのデータ・チェーン・オブジェクトに対する参加者(書込み)	<a href="#">要求の理解</a> <a href="#">要求を使用する変更</a> <a href="#">ガバナンス・ワークフローおよび承認</a>

タスク	ロール	権限	参照
アプリケーション間でのデータの比較および合理化		<ul style="list-style-type: none"> <li>• ビューポイントのデータを比較するには: 両方のビューポイントのデータ・オブジェクトに対する参加者(読取り)</li> <li>• データへの変更により発生した問題を解決するには: データ・オブジェクトに対する参加者(書込み)</li> </ul>	<a href="#">ビューポイントの比較</a> <a href="#">比較結果を使用するノード差異の修正</a>
データの検証		要求を使用して変更を適用するためのデータ・チェーン・オブジェクトに対する参加者(書込み)	<a href="#">ビューポイントの検証</a>
データの同期		サブスクリプションを作成するには: <ul style="list-style-type: none"> <li>• ソース・ビューポイントのディメンションに対する参加者(読取り)権限</li> <li>• ターゲット・ビューポイントのディメンションに対するデータ・マネージャまたはメタデータ・マネージャ権限</li> <li>• ターゲット・ビューの所有者</li> </ul>	<a href="#">ビューポイントのサブスクリブ</a>

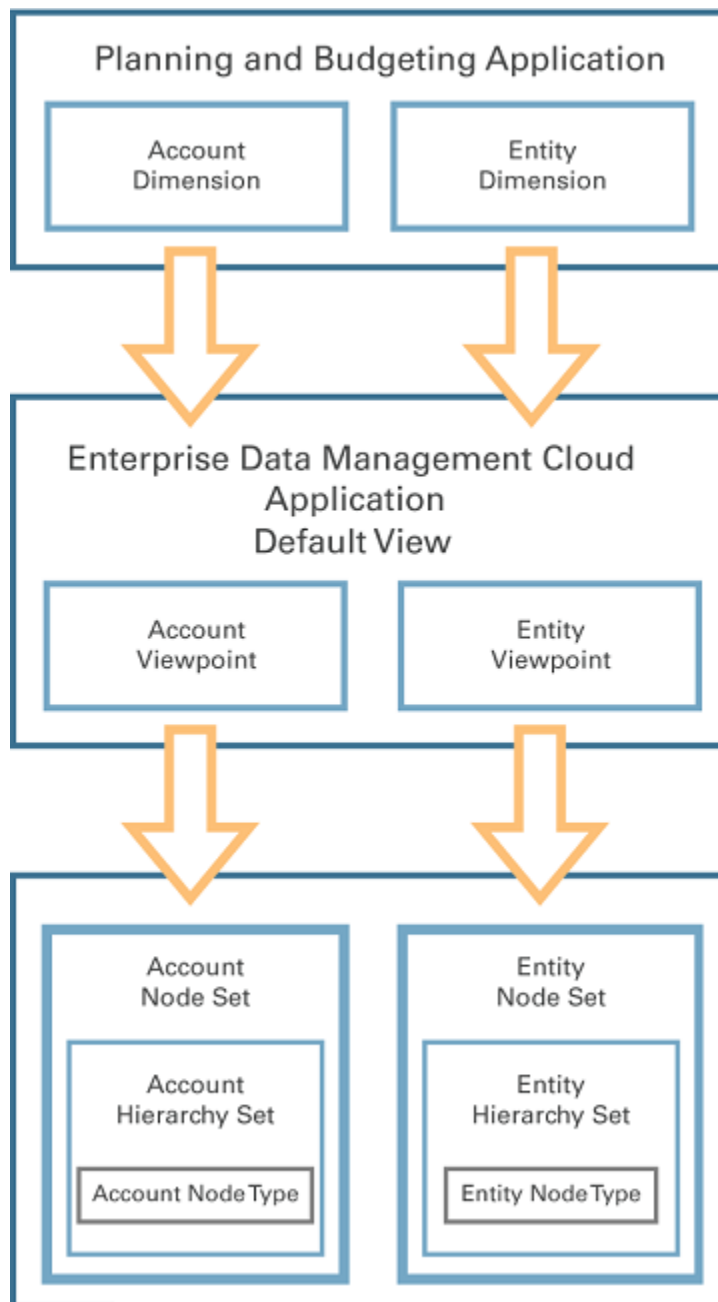
タスク	ロール	権限	参照
外部アプリケーションからのデータのインポートおよびエクスポート		インポート先またはエクスポート元のディメンションに対するデータ・マネージャまたはメタデータ・マネージャ	<a href="#">ディメンションのインポート</a> <a href="#">ディメンションのエクスポート</a>

## データの登録とインポート

Planning などの外部アプリケーションからデータをインポートするには、ウィザードを使用します。ウィザードでは、Oracle Enterprise Data Management Cloud で管理するアプリケーションのディメンション、プロパティおよび接続を選択します。登録プロセスでは、Oracle Enterprise Data Management Cloud データ・チェーンのコンポーネントを作成します。

Oracle Enterprise Data Management Cloud でアプリケーションのデータの操作に必要なノード・タイプ、階層セット、ノード・セット、ビューポイントおよびデフォルト・ビューを作成します。インポート・プロセスでデータ・チェーンにノードが移入されます。

この図では、Planning アプリケーション・ディメンションの勘定科目およびエンティティ用に、登録およびインポートのプロセスを示します。



Planning の勘定科目およびエンティティ・ディメンションが作成され、Oracle Enterprise Data Management Cloud にインポートされます。各ディメンションが、Oracle Enterprise Data Management Cloud のビューポイント、ノード・セット、階層セットおよびノード・タイプに示されます。ユーザーは勘定科目およびエンティティのビューポイントでデータを管理します。

## データの管理

インポートされたデータには Oracle Enterprise Data Management Cloud のビューを使用してアクセスし、要求を使用してデータを変更します。

- [ビューの理解](#)
- [要求の理解](#)



## ビューの理解

ビューには、エンティティ・メンテナンスなどの特定のコンテキストまたはアクティビティのリストおよび/または階層のコレクションが用意されています。ビューは、データを更新できる1つ以上のビューポイントで構成されています。

ビューポイントは操作するノードのサブセットを提供します。たとえば、ビューポイントが異なるコスト・センターを表す場合があります。エンタープライズ・データに対する変更はすべてビューポイント内で実行されます。

- [ビューの操作](#)
- [ビューポイントの理解](#)

## 要求の理解

要求は、データを更新するためのメカニズムです。データに対する変更は、要求アイテムに編成されます。要求アイテムは、特定のノードに対する変更アクションのグループです。

要求を使用すると、変更をコミットする前に変更をビジュアル化できます。

要求内で実行可能な変更アクションは、次のとおりです。

- ノードの追加、挿入、移動、除去および削除
- プロパティのコピーおよび更新

Oracle Enterprise Data Management Cloud 内のデータを変更する方法には3通りあります。

- 対話型(ビューポイントに対する手動変更)。たとえば、**Oracle Enterprise Data Management Cloud** で、フロリダというノードを米国東南部の子ノードとして追加したり、ジョージアというノードを親の米国南部から親の米国東南部に移動します。ユーザー・インタフェースで行う変更ごとに、要求にアイテムが追加されます。
- ターゲット・ビューポイントソース・ビューポイントにサブスクライブします。たとえば、**Planning** アプリケーションのエンティティ・ビューポイントに一般会計アプリケーションのエンティティ・ビューポイントにサブスクライブします。一般会計アプリケーションのエンティティ・ビューポイントにコスト・センターを追加すると、そのコスト・センターを **Planning** アプリケーションのエンティティ・ビューポイントに追加するための要求が自動的に生成されます。[ビューポイントのサブスクライブ](#)を参照してください。
- ファイルからロード。たとえば、新しい米国階層を作成しており、50の新しいノード(それぞれが各州を表す)を追加する必要があるとします。ロード・ファイル内の各変更が、要求内の個別アイテムになります。このシナリオでは、要求内に50のアイテムが作成され、各アイテムが追加対象の各州ノードに対応しています。

対話型による変更、サブスクリプションを使用する変更、またはロード・ファイルを使用する変更のいずれの場合も、提案された変更はすべて、変更やファイルのロードを行うビューポイントでビジュアル化されます。変更は一意的な色およびアイコンで表示されるため、階層またはリストのどの部分が変更されたか、および変更によってどの領域が影響を受ける可能性があるかを確認できます。

ビューポイントへの変更の適用中、提案されている変更の妥当性を確認するために検証チェックが実行されます。要求内のアイテムに検証の問題がある場合、失敗の理由を確認し、問題を解決する方法を決定できます。

要求が送信されると、検証チェックが再実行され、変更がコミットされ、変更を使用してビューポイントが更新されます。

## データの比較と合理化

Oracle Enterprise Data Management Cloud を使用すると、複数の外部アプリケーションにわたるエンタープライズ・データを比較し、合理化できます。複数アプリケーションにわたるディメンションの整合性を確保し、ノードを作成および更新し、データの変更をアプリケーション間で共有できます。

- アプリケーション間でのディメンションの整合性確保
- 新規ディメンションの作成
- アプリケーション間の変更の共有

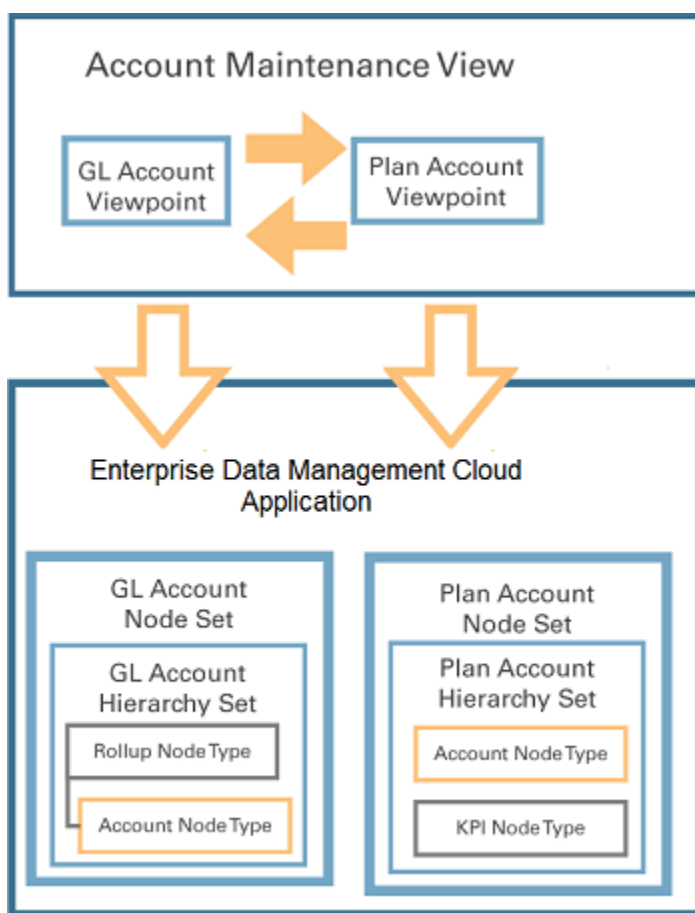
## アプリケーション間でのディメンションの整合性確保

Oracle Enterprise Data Management Cloud の重要なメリットとして、複数のアプリケーション間でのディメンションの比較と整合性確保が可能になることがあげられます。同じディメンション情報を持つと想定される複数のアプリケーションを個別に管理すると、アプリケーション間の不整合発生リスクが高まります。

不整合は次のような原因で発生します。

- あるアプリケーションに存在する特定のノードが別のアプリケーションに存在しない
- 2つのアプリケーションに同じ名前のノードが存在するが目的が異なる。説明が異なる、またはノードが階層内の異なる親にロールアップされているなどが例としてあげられます。

Oracle Enterprise Data Management Cloud を使用すると、階層またはビューポイント内のノードを比較して差異を解決し、2つのアプリケーションの整合性を確保できます。



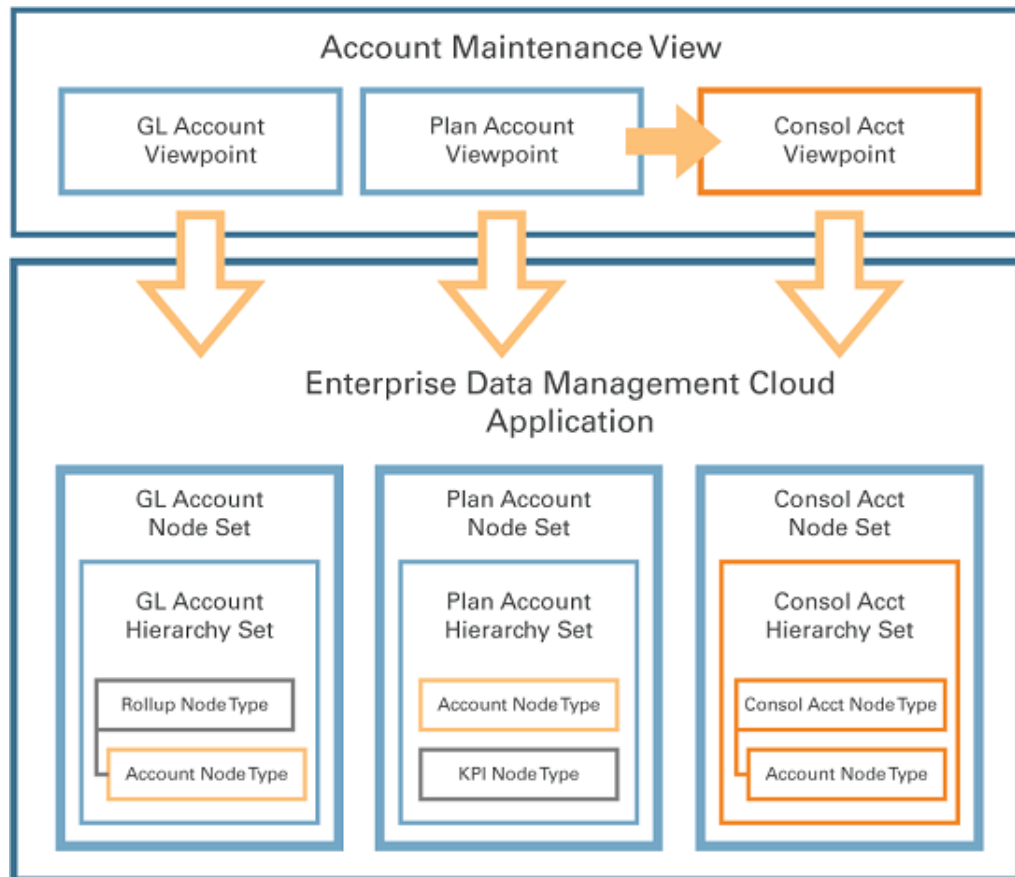
この例では、GL 勘定科目と計画勘定科目の2つのビューポイントを勘定科目メンテナンス・ビューで比較しています。ノードを2つのビューポイントで比較し、解決に必要な差異が存在するかどうかを確認しています。

#### ノート:

異なるノード・タイプのノードを2つのビューポイント全体にわたって比較するには、ノード・タイプ・コンバータが必要です。

## 新規ディメンションの作成

トランザクション・データを共有しているアプリケーションはディメンション情報も共有している場合があります。新しくアプリケーションを作成する場合、ディメンションに関しては Oracle Enterprise Data Management Cloud で管理している他のアプリケーションの既存のディメンションをモデルとして使用できます。



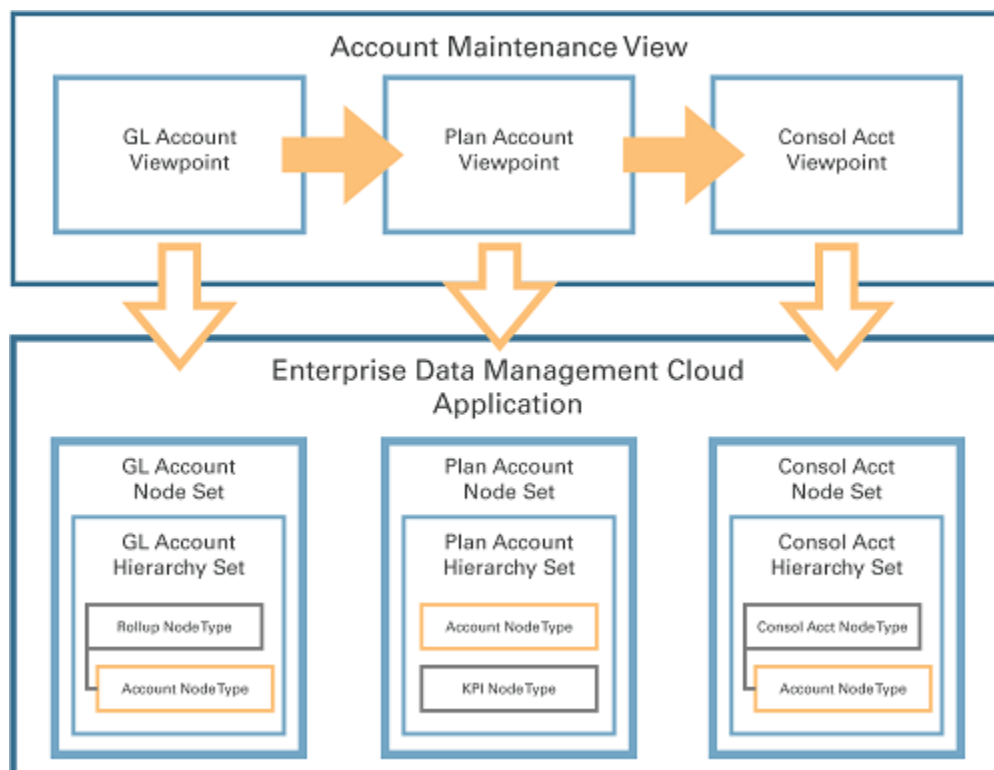
たとえば、一般会計と Planning アプリケーションを使用しており、対応する勘定科目ディメンションを Oracle Enterprise Data Management Cloud の勘定科目メンテナンス・ビューで管理しているとします。その後、Financial Consolidation and Close を購入して、勘定科目ディメンションを新しい Financial Consolidation アプリケーション向けに作成する必要があります。

Oracle Enterprise Data Management Cloud では、既存の計画勘定科目ディメンションを、Financial Consolidation アプリケーションの新規連結勘定科目ディメンションのベースラインとして使用できます。勘定科目メンテナンス・ビューに新規ビューポイント(連結勘定科目)を作成して新規ディメンションを作成します。これは新しいアプリケーションであるため、ノード(新規ノード・タイプ)、関係(新規階層セット)およびプロパティを含む新規データ・チェーンが新規連結勘定科目ディメンションに対して必要になります。

## アプリケーション間の変更の共有

ノード、プロパティおよび関係などのディメンション・コンテンツに対する更新を含むディメンション更新を簡単にメンテナンスしたり、アプリケーション間で共有できます。

目的	参照するビデオ
アプリケーション間でデータを共有する方法について学習します。	 <a href="#">アプリケーション間のデータの共有.</a>



この例は、新しい勘定科目が複数のビューポイント間で同期される方法を示しています。

勘定科目メンテナンス・ビューには3つのビューポイントがあります。

- GL 勘定科目
- 計画勘定科目
- 連結勘定科目

各ビューポイントには固有のノード・セットがあります。

- GL-勘定科目
- 計画-勘定科目
- 連結-勘定科目

各ノード・セットには、3つのビューポイントに共通で共有されるノード・タイプ(勘定科目)があります。3つのノード・タイプ(ロールアップ、KPI、および連結勘定科目)は共通ではなく、共有されません。

ロールアップまたはKPIノード・タイプは、GL勘定科目または計画勘定科目のビューポイントでそれぞれ直接変更できます。勘定科目ノード・タイプは共通であるため、勘定科目を追加する場合は、3つのビューポイントすべてに対して勘定科目を追加し、ビューポイント間で同期できるようにします。新しい勘定科目をいずれかのビューポイントに追加し、残り2つのビューポイントにドラッグ・アンド・ドロップできます。新しい勘定科目を各ビューポイントの階層の一意の位置に追加することもできます。

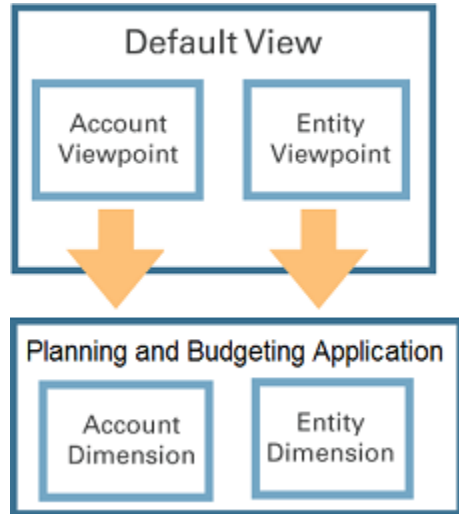
## データのエクスポート

Oracle Enterprise Data Management Cloud でデータを変更後、更新したデータをエクスポートして外部のターゲット・アプリケーションと同期できます。

- 変更のアプリケーションへのエクスポート
- ディメンションのエクスポート

## 変更のアプリケーションへのエクスポート

ビューポイントを使用して、ディメンションの変更を外部アプリケーションにエクスポートします。アプリケーション・ビューは、外部のターゲット・アプリケーションでデータがどのように表示されるかを示します。これにより、データをそれぞれのビューポイントで更新し、ターゲット・アプリケーションの対応するディメンションにそのデータをロードして戻すことができます。



Oracle Enterprise Data Management Cloud で勘定科目およびエンティティに対して変更されたディメンション・データは、**Planning** アプリケーションの勘定科目およびエンティティ・ディメンションにエクスポートされます。

# 第1部

## データ管理

Oracle Enterprise Data Management Cloud には、データ管理と管理の2つのカテゴリのタスクがあります。このセクションでは、データ管理タスクについて説明します。データ管理タスクには、ビューポイントの作成と、ノードやプロパティなどのデータの更新が含まれます。

[データ管理の開始](#)を参照してください。

関連トピック: [管理の開始](#)。

# 3

## データ管理の開始

Oracle Enterprise Data Management Cloud で、ビューおよびビューポイント进行操作してエンタープライズ・データを参照および変更します。


ビューポイントには、リストまたは階層レイアウトでノードが表示されます。要求を使用して、ビューに対して提案された変更を作成およびビジュアル化します。変更は、ビュー内で対話型で行うことも、ロード・ファイルを使用して行うこともできます。変更を実行した後、ビューに変更を実装する要求を提出します。

次を実行できます。

- ノードの追加、移動、順序変更、除去および削除
- ビューポイント間でのドラッグ・アンド・ドロップによるノードの共有
- プロパティのコピーおよび更新

アプリケーション内およびアプリケーション間でビューポイントを比較し、差異を特定および解決することもできます。ビューポイントを検証し、問題を解決し、更新されたディメンションを外部アプリケーションにエクスポートできます。

### ビデオ

目的	参照するビデオ
ユーザー・インタフェースの使用開始に関して役立つ情報をレビューします。	 <a href="#">Enterprise Data Management Cloud ユーザー・スタート・ガイド</a>

詳細は、次を参照してください:

- [Oracle Enterprise Data Management Cloud について](#)
- [ビューの操作](#)
- [要求の操作](#)
- [ユーザー・タスク](#)
- [ノードについて](#)
- [リストおよび階層の理解](#)

## ユーザー・タスク

次の表に、データを参照および管理するユーザーが実行できるタスクをリストします。記載されている権限は、タスクを実行するために最低限必要なものです。

たとえば、オブジェクトを参照するにはデータ・チェーン・オブジェクトに対する *参加者(読取り)* 権限が必要ですが、*参加者(書込み)* 権限には *参加者(読取り)* 権限が含まれているため、この権限を使用してオブジェクトを参照することもできます。権限の詳細は、[権限の操作](#) を参照してください。



タスク	権限	参照
データの参照	データ・チェーン・オブジェクトに対する参加者(読取り)	ビューを開く ビューの操作 ビューポイントの理解 ビューポイントの操作
データの管理	要求を使用して変更を適用するには、データ・チェーン・オブジェクトに対する参加者(書込み)	要求について 要求を使用する変更 ガバナンス・ワークフローおよび承認
データの比較と合理化	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビューポイントのデータを比較するには: 両方のビューポイントのデータ・オブジェクトに対する参加者(読取り)</li> <li>データへの変更により発生した問題を解決するには: データ・オブジェクトに対する参加者(書込み)</li> </ul>	ビューポイントの比較 比較結果を使用するノード差異の修正
データの検証	要求を使用して変更を適用するには、データ・チェーン・オブジェクトに対する参加者(書込み)	ビューポイントの検証
データの同期	サブスクリプションを作成するには: <ul style="list-style-type: none"> <li>ソース・ビューポイントのディメンションに対する参加者(読取り)権限</li> <li>ターゲット・ビューポイントのディメンションに対するデータ・マネージャ権限</li> <li>ターゲット・ビューの所有者</li> </ul>	ビューポイントのサブスクライブ
外部アプリケーションからのディメンションのインポート	インポート先のディメンションに対するデータ・マネージャ	ディメンションのインポート
外部アプリケーションへのディメンションのエクスポート	エクスポート元のディメンションに対するデータ・マネージャ	ディメンションのエクスポート

## ノードについて

エンタープライズ・データの記述、修飾または要約に使用されるマスター・データ・レコードまたは参照データ・レコードは、Oracle Enterprise Data Management Cloud内でノードとして管理されます。ノードは、リストまたは階層にグループ化できます。たとえば、組織構造を表す階層内では、ノードは部門またはコスト・センターを表す場合があります。

すべてのノードはノード・タイプに割り当てられます。ノード・タイプは、ノードで使用可能なプロパティを定義します。詳細は、ノード・タイプの操作を参照してください。

次の用語は、階層内のノードの位置および動作を定義します。例は、次の階層を参照しています。

Name	Description
▶ Depts NAM Only GEO	
▲ GEO	Total Departments By Geo
▶ ASN	ASEAN
▲ EMA	EMEA
▲ FRA	France
◇ 230	International Organization
◇ 410	International Sales

ノード	定義および例
親	他のノードが含まれるノード。FRA は 230 および 410 の親ノードです。
子	別のノード内に含まれるノード。230 および 410 は FRA の子ノードです。
兄弟	階層内で同じ親ノードを持つすべてのノード。CAD および USA は兄弟ノードです。
リーフ	子を持たない最下位レベルのノード。230 および 410 は、リーフ・ノードです。
リム	子を持つノード。EMA、FRA および NAM はリム・ノードです。
最上位ノード	階層の開始ノード。1つのビューポイントが複数の最上位ノードを持つことができます。Depts NAM Only GEO および GEO は最上位ノードです。
ルート・ノード	1つのノード・タイプの階層セット内の最高ノード。ルート・ノードは親を持ちません。たとえば、階層セット内の最高ノードはルート・ノードです。

## リストおよび階層の理解

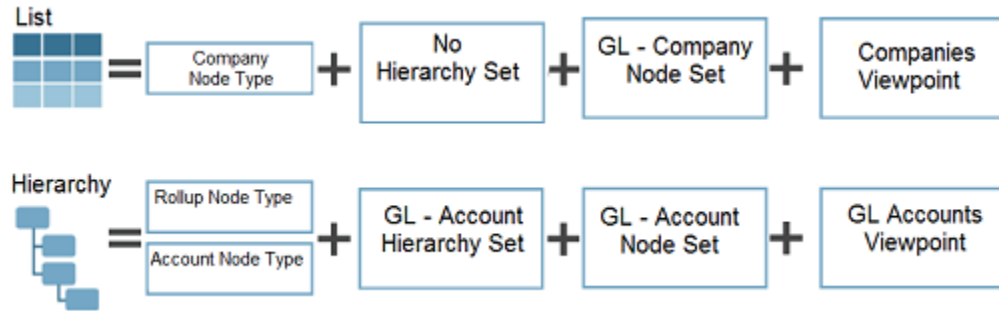
リスト形式または階層構造でノードを表示するようビューポイントを構成できます。

リストは次で構成されています。

- 1つ以上のノード・タイプ(勘定科目や会社など)
- ノード・セット—リストのメンバーを表すノードのセット
- ビューポイント—ユーザーがノードをリスト形式で表示および管理することを可能にするノード・セットの最上位に適用されるインタフェース

階層は次で構成されています。

- 1つ以上のノード・タイプ(勘定科目や会社など)
- 階層セット—階層セット内のノード・タイプ間の関係はここで定義されます。たとえば、どのノード・タイプを別のノード・タイプの子にできるかを定義できます。
- ノード・セット—階層のメンバーを表すノードのセット。ノード・セットには、特定の階層セットの完全な階層セットまたは1つ以上の分岐(最上位ノード)を含めることができます。
- ビューポイント—ユーザーが階層構造内のノードを表示および管理することを可能にするノード・セットの最上位に適用されるインタフェース



この例では、会社ビューポイントではリスト形式が使用されていますが、GL 勘定科目ビューポイントでは階層構造が使用されています。

リストの場合、会社ディメンションは会社ノード・タイプによって管理されます。会社リストを表すノード・セットは、GL 会社ノード・セット内にあります。GL 会社ノード・セットは、会社ビューポイントを使用して使用可能化および管理されます。

階層の場合、ロールアップ・ディメンションおよび勘定科目ディメンションはロールアップ・ノード・タイプおよび勘定科目ノード・タイプによって管理されます。ロールアップ・ノード・タイプと勘定科目ノード・タイプ間の関係は、GL 勘定科目階層セットで定義されます。たとえば、ロールアップ・ノード・タイプは勘定科目ノード・タイプの子を持つよう構成でき、勘定科目ノード・タイプは子を許可するよう設定できます。ロールアップ・ノード・タイプと勘定科目ノード・タイプを表すノード・セットと GL 勘定科目階層セットを組み合わせることで、GL 勘定科目ノード・セットを作成します。GL 勘定科目ノード・セットは、勘定科目ビューポイントを使用して使用可能化および管理されます。

## 共有ノードの理解

共有ノードは、階層セットまたはビューポイント内の異なる親の下に存在するノードです。異なる位置にある共有ノードも引き続き、名前、説明およびノード・タイプなどの同じノード・レベルのプロパティが含まれる同じノードです。1つの共有ノード上のノード・レベルのプロパティに対する変更は、そのすべての位置にあるその共有ノードに影響します。

### ビデオ

目的	参照するビデオ
共有ノードについてさらに学習します。	 <a href="#">概要: Enterprise Data Management Cloud の共有ノード</a>

関係プロパティ値は、階層セット内の特定の親子関係に対して一意であり、複数の共有ノード全体にわたってそれらの位置に基づいてそれぞれ異なります。

共有ノードに対して実行可能なアクション:

- 既存のノードを挿入して共有ノードにします。
- 共有ノードを移動してその親を変更します。
- プロパティを更新します。
- 共有ノードを除去します。共有ノードを除去すると、特定の親から除去することになります。階層セット内のノードの他の関係は、除去の影響を受けません。

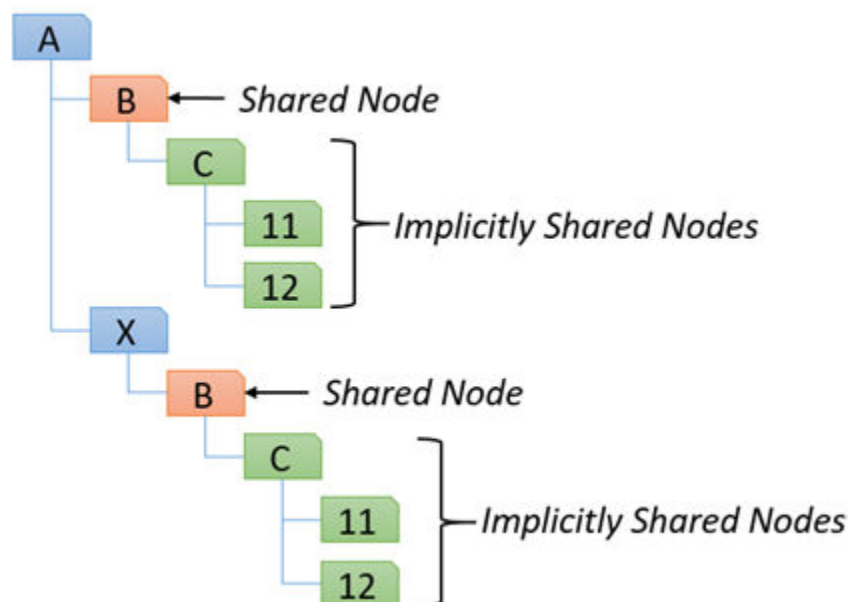
- 共有ノードを削除します。共有ノードを削除すると、すべての階層内のすべての親から削除することになります。ノードは、アプリケーションのノード・タイプからも削除されません。
- 共有ノードを検索します。ビューポイント内のノードを検索する場合、共有ノードのインスタンス間をナビゲートできます。
- 共有ノードを有効化または無効化します。デフォルトでは、共有ノードのサポートは有効化されています。

共有ノードを構成(有効化および無効化)するには、[階層セットの作成](#)を参照してください。

### 暗黙共有ノード

暗黙共有ノードは、階層内の複数の場所で同じ親を持つノードです。

たとえば、次の図で、ノード B は階層内の複数の場所に存在し、異なる親(A および X)を持っているため共有ノードです。ノード C、11 および 12 は、階層内の複数の場所に存在し、同じ親(B)を持ち、異なる祖先(A および X)を持っているため暗黙共有です。



暗黙共有ノードは関係も共有するため、階層の一部で関係を変更すると(ノードの追加、挿入、移動、除去など)、その変更は階層内の暗黙共有ノードが存在するすべての場所で実行されます。たとえば、前述の図で、祖先 A の下の親 C から子ノード 11 を除去すると、そのノードは祖先 X の下の親 C から除去されます。

暗黙共有ノードは同じ親を持つため、暗黙共有ノードの定義済関係レベルのプロパティ値はすべての場所で同じです。1つの場所で定義済関係レベルのプロパティ値を変更した場合、その値は他のすべての場所でも変更されます。

暗黙共有ノードの継承または派生の関係レベル・プロパティ値は、場所によって異なる場合があります。[プロパティ継承および共有ノード](#)および[派生プロパティ](#)を参照してください。

## ノード・プロパティの操作

プロパティとは、名前、説明など、ノードに関する特性です。

リストまたは階層ビューポイントでノードを選択する際、ノードのプロパティはビューポイント・ウィンドウの右側に表示されます。

Entity Maintenance New Request Close

Corporate GL **Financial Consolidation** Planning and Budgeting

!	✓	Name	Description
		⊖ FCCS_Global Assumptions	Global Assumptions
		▶ FCCS_Total Geography	Total Geography
		▶ C_All_Corp_Comp_V1	dafsdyf
		▶ C_T	Total Company
		⊖ C_000	None
		▶ C_100	North-America
		▶ C_200	LAD
		▶ C_300	EMEA
		▶ C_400	APAC
		▶ LegalEntities	Legal Entities

C\_100  
North-America Entity : 10 Properties

Name	C_100
Parent	C_T
Description	North-America
Alias: Default	100-North America
Data Storage	Never Share
Base Currency	USD
Data Type	Unspecified
Aggregation	~
Process Ma...	True

要求を使用して、プロパティ値を更新できます。詳細は、[ノード・プロパティの更新](#)を参照してください。

### プロパティ詳細

ビューポイントのプロパティ・ペインで、プロパティ行にマウス・カーソルを合わせると、プロパティ・ラベルの横に情報アイコンが表示されます。アイコンをクリックすると、名前、説明、プロパティのタイプ(デフォルト、定義、継承、派生、不明)、およびプロパティのカスタム手順など、プロパティに関する情報が表示されます。プロパティ詳細ウィンドウから、プロパティ名をクリックしてインスペクタでプロパティを開きます。[プロパティの検査](#)を参照してください。

情報ウィンドウからテキストを選択し、コピーできます。継承プロパティの場合、継承プロパティを提供する祖先のリンクをクリックできます。プロパティ詳細ウィンドウの外部をクリックするとプロパティ詳細ウィンドウが閉じます。プロパティを表示しているか編集しているかにかかわらず、プロパティ情報を使用できます。

11101  
USBNK Checking Account

Corporate Account

Properties History

Account Type		Asset
All	<b>Account Type</b> Identifies the account type of account segment values	Yes
All	<input checked="" type="checkbox"/> <b>Defined</b>	Yes
Thi		No

### プロパティの発生元

プロパティの発生元によって、ノードのプロパティ値がどのように作成されたかを特定します。プロパティ値の発生元は、次のとおりです：

- デフォルト: アプリケーションの登録または変更時のプロパティに設定されるデフォルト値。
- 定義済: ユーザーによってファイルから入力またはロードされる格納値。
- 継承: 値は祖先から継承されます。
- 派生: 値は計算されます。例: 子の数
- 不明: 値の発生元を特定できません。

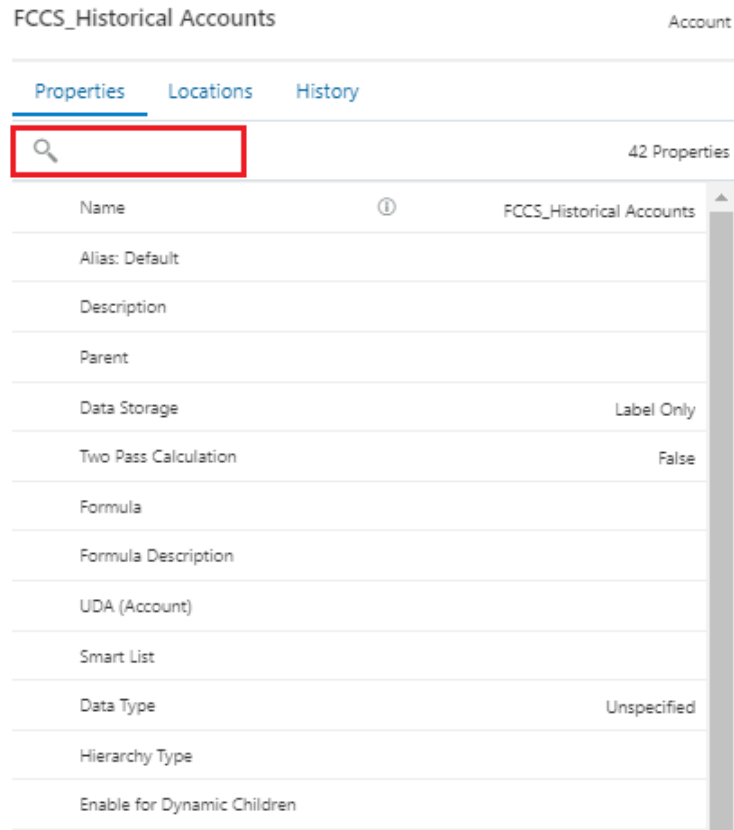
### プロパティ継承の使用

プロパティ継承により、ノードのすべての子孫によって自動的に継承される、ノードのプロパティ値を定義できます。プロパティで値を継承できるようにすると、プロパティを保守する手作業が減少し、ノードの分岐全体での値の整合性が確保されます。プロパティの継承は、階層内でのノードの位置に基づきます。ノードに継承プロパティがある場合、定義済のプロパティ値を持つ最初の祖先が見つかるまで祖先のツリーが検索されます。その定義済の値が、子孫ノードによって継承される値です。

アプリケーションが登録または変更される際、汎用アプリケーションで使用されるプロパティを、継承を使用して構成できます。**Planning** の一部のプロパティは、継承によりデフォルトで有効になります(**Planning** および **フリーフォーム・アプリケーションの事前定義済プロパティ** を参照)。

### プロパティの検索

「プロパティ」ペインでは、選択したノードのプロパティをプロパティ・ラベルで検索できます。これにより、特定のプロパティまたは同様のラベルを持つ複数のプロパティを迅速に検索できます。ノードに多数のプロパティがある場合、プロパティ・ラベルを検索できるため、探しているプロパティが簡単に見つかります。

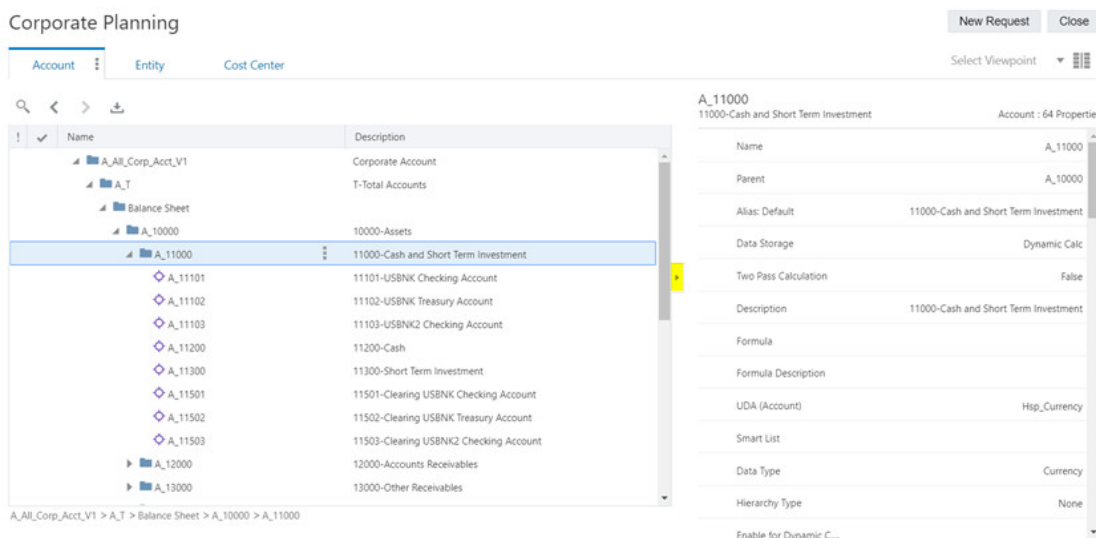


### プロパティ・ペインのサイズ変更および非表示

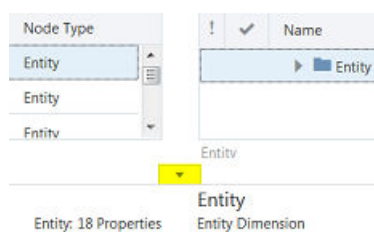
ビューポイント・ウィンドウのプロパティ・ペインは、ペインの枠線にスライダ・コントロールが表示されるまでカーソルを置き、それからコントロールを左または右にドラッグすることでサイズ変更できます。

プロパティ・ペインを非表示にして、ノード・リストまたは階層を表示できるように画面上のスペースを空けることもできます。

タブ・レイアウトでは、プロパティはビューポイントの右側に表示されます。右矢印をクリックするとプロパティ・ペインが非表示になり、左矢印をクリックするとプロパティ・ペインが表示されます。



左右並びのレイアウトでは、プロパティはビューポイントの下に表示されます。下矢印をクリックするとプロパティ・ペインが非表示になり、上矢印をクリックするとプロパティ・ペインが表示されます。



ビューポイントのタブ・レイアウトおよび左右並びレイアウトの詳細は、[ビューポイントのナビゲート](#)を参照してください。

## ノードの場所の表示

「場所」タブでは、階層ビューポイントで選択したノードのすべての場所が識別されます。同じノードの複数の場所をまとめてビジュアル化して、ノードが存在する任意の場所にナビゲートできます。場所は親別にグループ化され、縮小または展開形式で表示できます。各場所のプロパティ値を表示して、場所全体で類似点または相違点を確認できます。

目的	参照するビデオ
階層内のノードの複数の場所の表示および移動について学習します。	 <a href="#">Oracle Enterprise Data Management Cloud でのノードの場所</a>

階層ビューポイントの複数の場所に存在する共有ノードには、「場所」タブを使用すると、次の操作が容易になります:

- ノードの完全な祖先を含めたすべての場所の特定
- データを参照または変更する任意の場所へのナビゲート
- 異なる場所にあるノードのプロパティの視覚的な比較



 ノート:

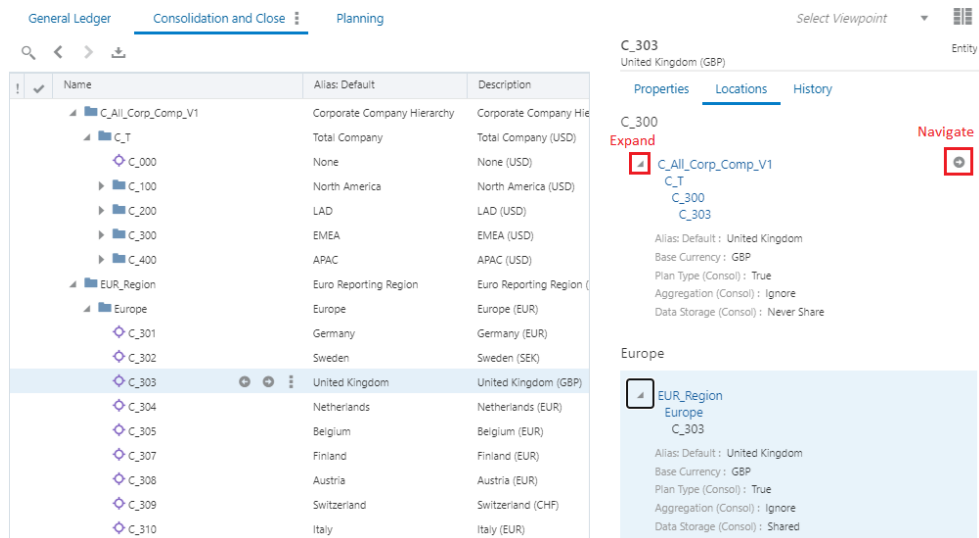
「場所」タブに表示されるプロパティは、ビューポイント・インスペクタで構成されます。詳細は、「場所」タブのプロパティの構成を参照してください。

 ヒント:

ノードが複数の場所に存在しない場合も、「場所」タブにはノードの祖先のリストが表示されます。いずれかのノードの祖先にナビゲートするには、祖先リストを展開します。

ノードの場所を表示するには:


1. ビューを開いて階層ビューポイントを選択します。
2. 階層を展開してノードを選択します。
3. 「場所」タブをクリックします。



The screenshot shows the Oracle Financials interface. On the left, a tree view displays a hierarchy of nodes under 'Consolidation and Close'. The 'United Kingdom (GBP)' node is selected. On the right, the 'Properties' panel is open, showing details for the selected node. The 'Locations' tab is active, and the 'Expand' and 'Navigate' buttons are highlighted with red boxes.

Name	Alias: Default	Description
C_All_Corp_Comp_V1	Corporate Company Hierarchy	Corporate Company Hierarchy
C_T	Total Company	Total Company (USD)
C_000	None	None (USD)
C_100	North America	North America (USD)
C_200	LAD	LAD (USD)
C_300	EMEA	EMEA (USD)
C_400	APAC	APAC (USD)
EUR_Region	Euro Reporting Region	Euro Reporting Region (EUR)
Europe	Europe	Europe (EUR)
C_301	Germany	Germany (EUR)
C_302	Sweden	Sweden (SEK)
C_303	United Kingdom	United Kingdom (GBP)
C_304	Netherlands	Netherlands (EUR)
C_305	Belgium	Belgium (EUR)
C_307	Finland	Finland (EUR)
C_308	Austria	Austria (EUR)
C_309	Switzerland	Switzerland (CHF)
C_310	Italy	Italy (EUR)

4. 「場所」タブでナビゲートするには、次のようにします:
  - 展開ボタンをクリックしてノードの祖先を表示します。
  - 展開されたビューで、ノードの祖先のいずれかをクリックして、そのノードにナビゲートします。
  - ナビゲート・ボタンをクリックして、ビューポイント内のノードの別の場所に移動します。

 ノート:

縮小されたビューでは、ノードにのみナビゲートできます。縮小されたビューからノードの祖先にはナビゲートできません。展開されたビューでは、ノードにナビゲートしたり、ノードの祖先に直接ナビゲートできます。

## ノード・トランザクション履歴の表示

ビューポイントの個々のノードのトランザクション履歴を表示できます。現在のビューポイント・タブのプロパティの横にあるタブとしてノード履歴を使用できます。ノードの履歴は、ビューポイントのアクティブなビューで、およびビューポイントのドラフト要求を表示するときに使用できます。

ノード履歴を表示できるようにするには、選択したノードに対して少なくとも参加者(読取り)権限が必要です。

各ノード履歴トランザクションには次が含まれます:

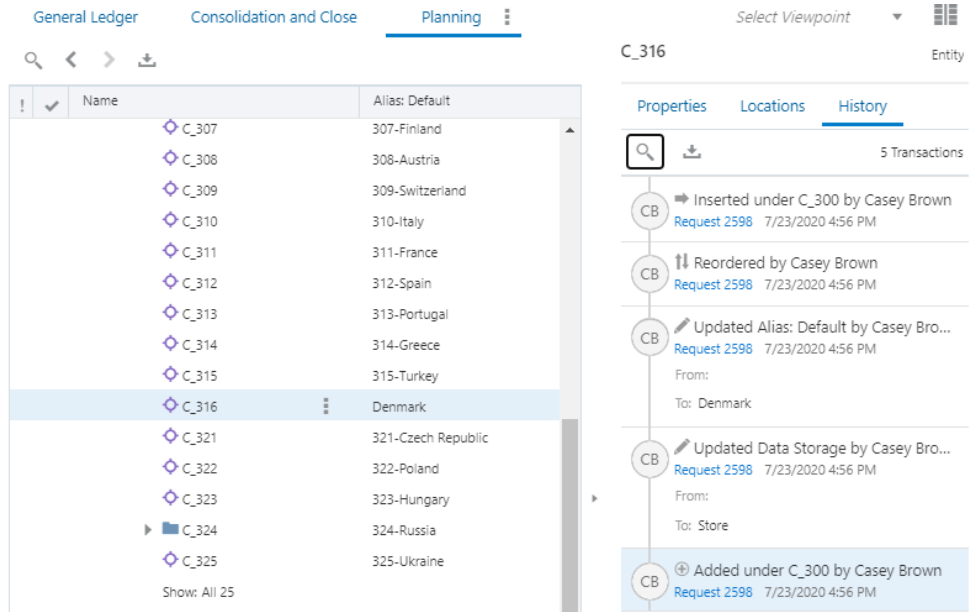
- 変更を行ったユーザー
- ノードで実行されたアクション(名前変更、更新、移動など)
- 変更の日時
- 変更が行われた要求へのリンク

 ノート:

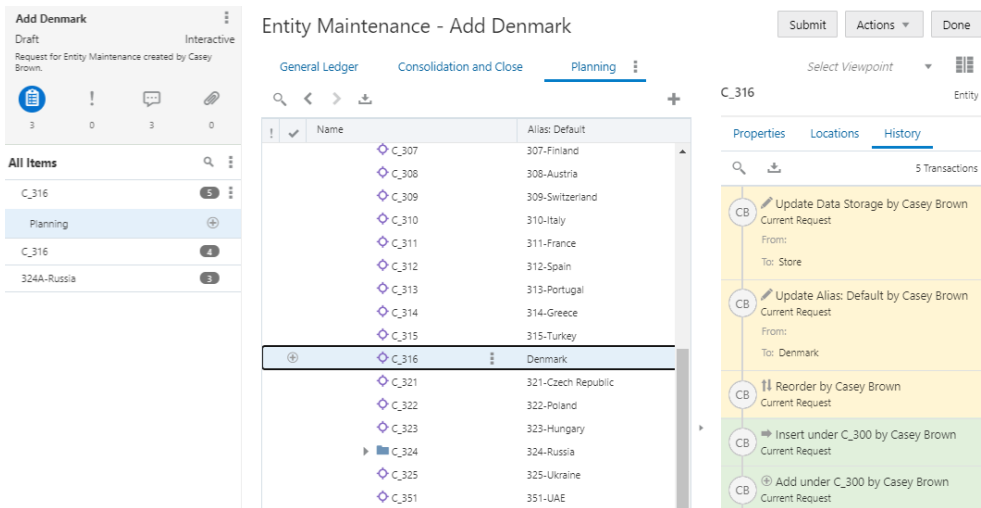
ビューポイントに対して非表示になっているプロパティのトランザクションは、ノード履歴に表示されません。

ノードの履歴を表示するには:

1. ビューを開いてビューポイントを選択します。
2. 履歴を表示するノードを選択し、「履歴」タブを選択します。



ノード履歴はドラフト要求に対しても使用可能です。



3. ノード履歴リストから次のことができます:

- リンクをクリックし、変更が行われた要求を検査します。
- 特定のテキストを検索して、リストをフィルタします。
  - a. 🔍 をクリックし、検索文字列を入力します。
  - b. 異なる検索文字列を入力して別の検索を実行したり、✕ をクリックしてすべてのノード履歴を表示できます。
- ノード履歴リストまたはフィルタ済リストをファイルにダウンロードします。
  - a. 📄 をクリックします。
  - b. 必要に応じてファイル名を変更し、「保存」をクリックします。

# 4

## ビューの操作

ビューには、エンティティ・メンテナンスなどの特定のコンテキストまたはアクティビティのリストおよび/または階層のコレクションが用意されています。ビューは、データを更新できる1つ以上のビューポイントで構成されています。

### ビデオ

目的	参照するビデオ
ビューおよびビューポイントの作成について学習します。	 <a href="#">ビューおよびビューポイントの作成</a>

ビューを作成するには2つの方法があります。

- アプリケーションを登録すると、そのアプリケーションのデータ・チェーン・オブジェクトの関連セットを管理しやすいようにデフォルト・ビューが作成されます。たとえば、**Planning** アプリケーションからインポートする場合、ビューには、インポート対象として登録したすべての要素が含まれます。
- 複数の元帳全体にわたる勘定体系の同期化などの特定のビジネス目的に基づいてデータを管理するために、ビューを作成できます。

詳細は、次を参照してください:

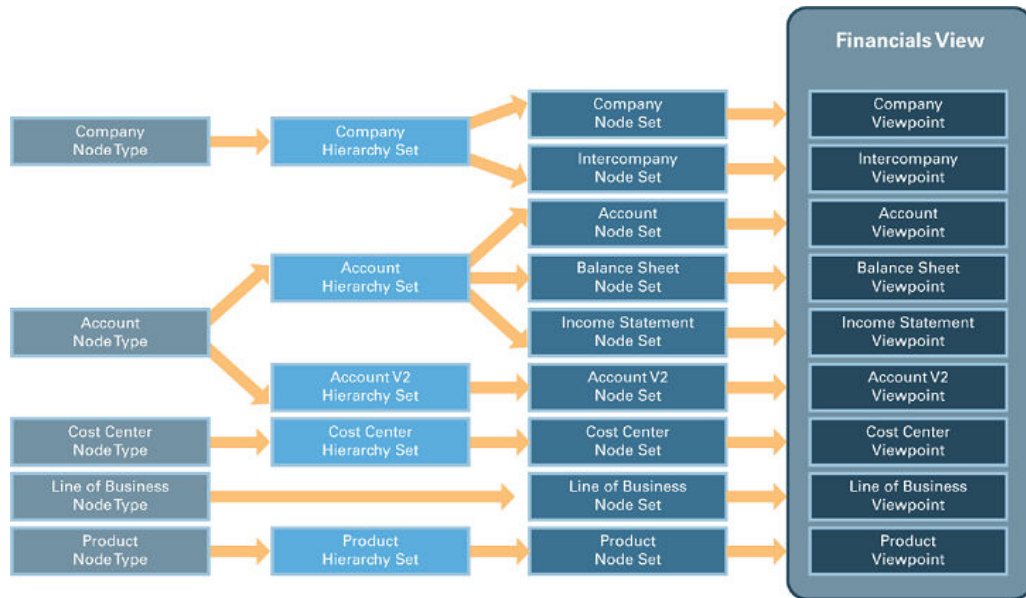
- [ビューポイントについて](#)
- [ビューの作成](#)
- [ビューの検査](#)
- [ビューの検索](#)
- [ビューを開く](#)
- [ビューポイントの操作](#)
- [ビューポイントの検査](#)
- [ビューポイントの比較](#)
- [ビューポイントのサブスクライブ](#)

## ビューポイントについて

ビューポイントは操作するノードのサブセットを提供します。たとえば、財務アプリケーションと **Planning and Budgeting Cloud** アプリケーションなどの複数のアプリケーションにわたるメンテナンスが必要な複数のコスト・センターをビューポイントで表すことができます。

データの変更はすべてビューポイント内で行われます。ノードをリストまたは階層形式で表示するようビューポイントを構成できます。

各ビューポイントは単独のノード・セットをソースとして使用し、業務要件に応じて 1 つ以上のノード・タイプを使用して構成できます。ビューポイントは業務目的を特定のプロパティおよび検証に基づいてノード・セットに追加します。



この例では、複数のビューポイントが 1 つのセグメントの値セットを表しています。各ビューポイントがノード・セットおよびノード・タイプを参照します。階層で表示する必要があるノードの場合は、階層セットも参照されます。

- 会社ビューポイントと会社間ビューポイントは同じ階層セット(会社)を共有するため、会社ノード・セットと会社間ノード・セットの両方で親子関係が一致します。会社と会社間の両方の階層で親が同じ子を持つようになるため、レポートを確実に照合できます。
- 勘定科目、貸借対照表および損益計算書階層は同じ階層セット(勘定科目)を共有しています。1 つのセットの勘定科目階層で変更を行うと、対応する他の階層にも適用されます。
- 勘定科目 V2 のような独立した階層セットを作成すると、計画目的の階層を独立させ、勘定科目階層セットにマッピングされるノード・セットに対する本番での変更を分離できます。代替階層を使用すると、勘定科目階層セットのグローバル関係の仮定を緩やかにでき、次の財務計画期間向けに個別の構造を作成できます。
- 事業部門値セットは階層に関連付けなくてもリストまたは値セットとして独立して管理できます。

## ビューの検索

「ビュー」リストで検索を実行すると、ビュー名と説明のテキストが検索されます。検索テキストを含む名前と説明が結果ウィンドウに太字のフォントで表示されます。アーカイブされたビューを検索に含めることもできます。


「ビュー」リスト内を検索するには:

1. 「ビュー」から、🔍 をクリックします。
2. (オプション)アーカイブ済のビューを検索に含める場合は、🔍 をクリックし、「アーカイブ済の表示」を選択します。

3. 検索するテキスト文字列を入力します。入力を終了すると検索が自動的に実行されます。  
検索を終了するには、**X** をクリックします。

## ビューを開く

ビューポイント内のデータを操作するには、ビューを開く必要があります。

「ビュー」から、ビューの名前をクリックするか、「アクション」列で  をクリックして「開く」を選択します。

## ビューのアーカイブおよび削除

不要になった場合は、ビューをアーカイブまたは削除できます。

### ビューのアーカイブ

ビューをアーカイブする前に、次のことを実行しておく必要があります。

- すべてのアクティブなビューポイントのアーカイブ。[データ・チェーン・オブジェクトのアーカイブおよびアーカイブ解除](#)を参照してください
- ドラフト・ビューポイントの削除。[ドラフト・ビューポイントの削除](#)を参照してください

ビューをアーカイブするには:


1. 「ビュー」で、ビューを検査します。
2. 「全般」を選択し、「編集」をクリックします。
3. 「ステータス」で「アーカイブ済」を選択し、「保存」をクリックします。

このビューは「ビュー」リストに表示されなくなります。

詳細は、[データ・オブジェクトおよびデータ・チェーンのライフサイクルの理解](#)を参照してください。

### アーカイブ済ビューの表示

「ビュー」リストでは、アクティブなビューとアーカイブ済ビューの両方を表示できます。デフォルトでは、アーカイブ済ビューは表示されません。

「ビュー」で、 をクリックし、「アーカイブ済の表示」を選択します。このオプションを再度選択すると、アクティブなビューのみを表示できます。

### アーカイブ済ビューのリストア

一時的にアーカイブされたビューまたは誤ってアーカイブされたビューは、アクティブ・ステータスにリストアできます。


アーカイブ済ビューをリストアするには:

1. 「ビュー」で、ビューを検査します。
2. 「全般」を選択し、「編集」をクリックします。
3. 「ステータス」で「アクティブ」を選択し、「保存」をクリックします。

## ビューの削除

ビューが必要なくなり、アーカイブする理由がない場合、ビューを削除できます。ビューにビューポイントが含まれていない場合のみ、ビューを削除できます。たとえば、ビューに対するすべてのアクティブなビューポイントをアーカイブして削除してから、そのビューを削除できます。

ビューを削除するには:

1. 「ビュー」から  をクリックし、次に「削除」を選択します。
2. 「はい」をクリックして削除を確認します。

### ノート:

ビューを削除するには、ビューにアクティブまたはアーカイブ済のビューポイントを含むことはできません。ビューを削除する前に、すべてのビューポイントを削除する必要があります。

ビューは、「ビュー」リストから除去されています。


## ビューの検査

ビュー・インスペクタから、ビューに関する情報を表示および編集できます。

### ビデオ


目的	参照するビデオ
ビューの作成について学習	 <a href="#">ビューおよびビューポイントの作成.</a>

ビューを検査するには:

1. 「ビュー」で、検査するビューを見つけます。
2. ビューの「アクション」列で、 をクリックしてから「検査」を選択します。
3. 次のタブで、使用可能なオプションから選択します。
  - **全般:** 「編集」をクリックしてこれらのビュー設定を変更します:
    - **サマリー:** ビューの名前、説明またはステータスを変更します。[データ・オブジェクトおよびデータ・チェーンのライフサイクルの理解](#)を参照してください。
    - \* **アクティブ**—ビューが作成されると、ステータスは「アクティブ」に設定されます。
    - \* **アーカイブ済**—ビューが不要になったら、ステータスを「アーカイブ済」に設定できます。[ビューのアーカイブおよび削除](#)を参照してください。
    - **表示:** このビューを「ビュー」ページで表示できるユーザーを指定します。「ビュー」リストでのビューの表示方法の構成を参照してください。

- **要求:** ビューに対して作成される特定の要求タイプの場合、要求の説明を手動で入力する必要があるか(たとえば、要求のビジネス理由を取得するため)または自動的に生成されるかを指定できます:
  - \* **デフォルト設定:** すべての要求タイプの要求の説明は自動的に生成されますが、オプションでユーザーが上書きできます。
  - \* **必須:** 自動送信できる要求タイプ(サブスクリプション、インポートおよびロード)に対してのみ、要求の説明が自動的に生成されます。  
対話型要求および連結要求の場合、これらの要求タイプを送信するには、ユーザーが説明を入力する必要があります。「**プレースホルダ**」フィールドを使用して、要求の説明フィールドに表示される指示テキストをカスタマイズします(たとえば、ユーザーが要求の説明に含める必要がある情報の短縮説明の入力など)。
- **履歴:** ビュー作成者および最後に変更した個人に関する情報を表示します。
- **ビューポイント:** 次のことができます:
  - ビューポイントを作成します([ビューポイントの作成](#)を参照)
  - ビューポイントを並べ替えます([ビューポイントの並替え](#)を参照)
  - ドラフト・ビューポイントを削除します([ドラフト・ビューポイントの削除](#)を参照)
  - ビューポイント、アプリケーション、ディメンションおよびノード・セットを検査します。

#### ノート:

デフォルトでは、アーカイブ済ビューポイントは表示されません。アーカイブ済ビューポイントを表示するには、 をクリックし、「**アーカイブ済の表示**」を選択します。このオプションを再度選択すると、アクティブなビューポイントのみが表示されます。

- **時間ラベル:** ビューの時間ラベルを作成および編集します。[時間ラベルの作成、編集および削除](#)を参照してください。
- **Compares:** ビューのビューポイントの比較プロファイルを作成および編集します([比較プロファイルの作成、編集および削除](#)を参照)。
- **権限:** ビューのユーザーおよびグループ権限を設定します([権限の操作](#)を参照)。

## 「ビュー」リストでのビューの表示方法の構成

デフォルトでは、ビューは「ビュー」ページを参照できるすべてのユーザーに対して、「ビュー」ページに表示されます。ビュー・インスペクタにビューのフィルタを作成することによって、「ビュー」ページでビューを表示できるユーザーを制御できます。

たとえば、2つの異なる地理的地域を含む GL アプリケーションがあり、その地域用に調整された最上位ノードおよびラベルを持つ特定のビューを各地域に作成したとします。「ビュー」リスト内のユーザーの地域に固有のビューのみがユーザーに表示されるように、ビューを構成できます。



 **Note:**

ビューに対してユーザーを含めるまたは除外するフィルタを作成する際、「ビュー」ページでどのビューがユーザーに表示されるかを決定しますが、ビューに対する実際のアクセス権には影響しません。ユーザーは引き続き、要求ワークリストや承認またはコラボレーションのための招待から、ビュー内のビューポイントに移動できます。フィルタは、「ビュー」ページでどのビューがそのユーザーに表示されるかを単に決定するのみです。

「ビュー」リストでのビューの表示方法を構成するには:

1. 構成するビューを検査します。[ビューの検査](#)を参照してください。
2. 「全般」タブで「**編集**」をクリックします。
3. 「**「ビュー」ページに表示**」で、オプションを選択します:
  - **データ・アクセス権を持つすべてのユーザーを含める**(デフォルト): ビューは、ビューに対して少なくとも参照アクセス権(つまり、ビュー内の少なくとも1つのビューポイントのすべてのデータ・チェーン・オブジェクトへの**参加者**(読取り)アクセス権)を持つすべてのユーザーに表示されます。
  - **次のユーザーのみ含める**: ビューは、ビューへの参照アクセス権を持つ指定したユーザーにのみ表示されます。
  - **次のユーザーの除外**: ビューは、指定したユーザーを除く、ビューへの参照アクセス権を持つすべてのユーザーに表示されます。

 **Note:**

ビュー所有者またはサービス管理者は除外できません。

4. 「**次のユーザーのみ含める**」または「**次のユーザーの除外**」を選択した場合、ドロップダウン・リストを使用して、含めるか除外するユーザーまたはグループを選択します。ドロップダウン・リストは、次のユーザーおよびグループを表示します:
  - ビューに対して少なくとも参照アクセス権を持つユーザー
  - 権限またはデータ・アクセスに関係なく、すべてのグループ
5. 「**保存**」をクリックします。

 **Note:**

含める**または**除外するユーザーを指定します。含めるユーザーおよび除外するユーザーの個別のリストを指定することはできません。

## ビュー権限の割当て

他のグループまたはユーザーに対するビュー権限の割当てまたは除去を行うには、特定のビューに関しては**所有者権限**が必要です。

ビュー権限は一度に1つのビューに割り当てられます。自身のビュー権限を不注意で除去した場合は、所有者権限を持つユーザーまたはサービス管理者に連絡し、権限の再割当てを依頼します。

#### ノート:


ビューを作成すると、そのビューに対する所有者権限が付与されます。

[権限の追加、除去および編集](#)を参照してください。

## ビューポイントの並替え

ビューを開くときにビューポイントが表示される順番を変更できます。

ビューポイントを並べ替えるには:

1. 「**ビュー**」でビューを検査します。
2. 「**定義**」を選択し、「**編集**」をクリックします。
3. 並べ替えるビューポイントの横にある  をクリックしてから「**上**」、「**下**」、「**最初**」および「**最後**」から選択してビューポイントを移動します。
4. 「**保存**」をクリックします。

## 比較プロファイルの作成、編集および削除

頻繁に実行するビューポイントの比較について、再使用可能なプロファイルに比較パラメータを格納する比較プロファイルを作成できます。これらの比較プロファイルは、ビューポイントの比較ドロップダウン・メニューに表示されます。

比較プロファイルでは、比較するノードをフィルタするためにノード式を定義することもできます。

### 考慮事項

- 比較プロファイルを使用して比較できるのは、同じビューからのビューポイントのみです。比較プロファイルを使用して、異なるビューのビューポイントを比較することはできません。
- ビューの比較プロファイルを作成するには、そのビューに対する所有者権限が必要です。ユーザーが比較プロファイルを実行するには、その中の両方のビューポイントに対して少なくとも参加者(読取り)権限を持っている必要があります。
- ビューで比較プロファイルを選択すると、プロファイル内のビューポイントが自動的に表示され、その他の比較パラメータは無効になります。ビューポイント比較画面から比較パラメータをオーバーライドすることはできません。かわりに、比較プロファイルを編集して比較パラメータを変更してください。[比較プロファイルの編集](#)を参照してください。

### 比較プロファイルの作成および削除

比較プロファイルを作成するには:

1. 比較を作成するビューを検査します。[ビューの検査](#)を参照してください。


2. 「比較」タブで、「作成」をクリックします。
3. 比較の名前を入力し、(オプションで)説明を入力します。
4. ドロップダウン・メニューから比較の「自」および「至」のビューポイントを選択します。標準ビューポイントまたは時間ラベル付きビューポイントを選択できます。

 **Note:**

「自」および「至」ビューポイントの両方と同じビューポイントを選択し、そのビューポイントの異なる階層を比較するために、それぞれで異なる最上位ノードを選択できます。比較プロファイルを実行すると、ビューポイントの複製タブがビューに追加され(まだ存在しない場合)、左右並びレイアウトで表示されます。複製タブは、ビューを閉じるまでビューに残ります。比較を実行した後、複製タブをビューに残さない場合は、手動で複製タブを除去するか、ビューを閉じて再度開くことができます。

5. 「作成」をクリックします。  
比較プロファイルがインスペクタに表示されます。


**比較プロファイルを削除するには:**

1. ビュー・インスペクタの「比較」タブから、「編集」をクリックします。
2. 「アクション」列で、「アクション」をクリックし、「削除」を選択します。

**比較プロファイルの編集**

1. 比較インスペクタの「全般」タブで、「編集」をクリックして比較プロファイルの名前または説明を変更します。「自」または「至」のビューポイントを変更することはできません。
2. 比較インスペクタの「定義」タブで、「編集」をクリックして比較パラメータを次のように変更します:

- 「比較スコープ」で、比較するノードを選択します(次のいずれかを選択):
  - **すべてのノード:** ビューポイントのすべてのノードを比較します。
  - **最下位ノード:** ビューポイントのすべての最下位ノードを比較します。
  - **選択したノードおよび子孫:** 選択したノードおよびその下位のすべてのノードを比較します。(階層ビューポイントのみ)
  - **選択したノードの最下位ノード:** 選択したノードの下位にある最下位ノードを比較します。(階層ビューポイントのみ)

「選択したノードおよび子孫」オプションと「選択したノードの最下位ノード」オプションの両方については、「自」および「至」のビューポイントにある「選択したノード」を指定する必要があります。それぞれのフィールドでをクリックしてノード・セレクタを表示し、ドリルダウンして、比較するノードを選択します。

- 「**ノード・フィルタ**」で、「**式の編集**」 *fx* をクリックして式ビルダーを開き、比較プロファイルのノード条件式を作成します。式を指定した場合、「**自**」のビューポイントのノードのうち、式の条件を満たすもののみが比較に使用されます。それ以外の場合は、「**自**」のビューポイントのすべてのノードが使用されます。[式の作成](#)を参照してください。
- 「**比較タイプ**」で、実行する比較のタイプを選択します(次の1つ以上を選択):
  - **欠落ノードの検索**
  - **関係の比較**(階層ビューポイントのみ)
  - **プロパティ値の比較**

 **Note:**

デフォルトでは、すべてのプロパティが比較に使用されます。比較に使用する特定のプロパティを選択するには、「**指定済**」をクリックします。ノード・タイプ・コンバータによって「**至**」のビューポイントのプロパティにマップされている、「**自**」のビューポイントのプロパティのみを選択できます。[ノード・タイプ・コンバータの操作](#)を参照してください。

3. 「**保存**」をクリックします。

比較プロファイルを作成したら、それを使用し、保存したパラメータを使用して2つのビューポイントをすばやく比較できます。[ビューポイントの比較](#)を参照してください。

## 時間ラベルの作成、編集および削除

時間ラベルを使用すると、データの比較、レポートおよび分析を支援するために、過去のある時点でのビューポイント・データを操作できます。

次の2つのタイプの時間ラベルを作成できます:

- 「**固定**」時間ラベルは、過去の特定の日時を表します。たとえば、経時的に加えられた変更を追跡するために、製品ノード・セットの初期作成から固定時間ラベルを作成できます。
- 「**ローリング**」時間ラベルは、月、四半期または年の終了を表します。たとえば、現在のデータを前四半期のデータと比較するために、勘定科目ノード・セットについてローリング四半期時間ラベルを作成できます。

ビューの時間ラベルを作成すると、その時点からのデータを操作するために、そのビュー内のビューポイントの時間ラベル付きバージョンを作成できます。[時間ラベル付きビューポイントの操作](#)を参照してください。

 **Note:**

時間ラベル付きビューポイントは読み取り専用です。

ビューの時間ラベルを作成、編集または削除するには、それに対する**所有者権限**が必要です。

**ビューの時間ラベルを作成するには:**

1. 時間ラベルを作成するビューを検査します。[ビューの検査](#)を参照してください。
2. 「時間ラベル」タブで、「作成」をクリックします。
3. 名前を入力し、オプションで説明を入力します。
4. 「タイプ」を選択します:
  - **固定:** 特定の日時。
    - a. 日時セレクタを使用して、時間ラベルの日時を指定します。現在の日付以前の日付を選択する必要があります。
    - b. **オプション:** 固定日時のタイム・ゾーンを調整します。
  - **ローリング:** カレンダー年に基づいたローリング期間。
    - a. 「期間」を選択します:

 **Note:**

会計期間は「**会計年終了月**」システム設定に基づきます。[システム設定の構成](#)を参照してください。

- 月末: 月の最終日
  - 四半期末: グレゴリオ暦カレンダーの四半期の最終日(3月31日、6月30日、9月30日および12月31日)
  - 年末: グレゴリオ暦年の最終日
  - 会計四半期末: 会計四半期の最終日
  - 会計年度末: 会計年度の最終日
- b. 「**現在まで**」で、データを表示する、現在の期間より前の期間数を選択します。

 **Tip:**

「**期間**」および「**現在まで**」の設定の例:

- 12/7/22 の「月末」、「現在まで」 = 2 は、10/31/22 になります
- 12/7/22 の「四半期末」、「現在まで」 = 1 は、9/30/22 になります
- 12/7/22 の「年末」、「現在まで」 = 3 は、12/31/19 になります
- 「会計年終了月」が「5月」に設定されている場合:
  - \* 12/7/22 の「会計四半期末」、「現在まで」 = 1 は、11/30/22 になります
  - \* 12/7/22 の「会計年度末」、「現在まで」 = 2 は、5/31/20 になります

c. 時間ラベルの「時刻」と「タイム・ゾーン」を入力します。

5. 「保存」をクリックします。  
時間ラベルが「時間ラベル」に表示されます。

時間ラベルを編集するには、「編集」をクリックし、前述のパラメータのいずれかを調整して、「保存」をクリックします。

時間ラベルを削除するには、その横にある「X」をクリックし、「はい」をクリックして確認します。ビューポイントで使用されている時間ラベルを削除することはできません。

# 5

## ビューポイントの操作

ビューポイントは操作するノードのサブセットを提供します。たとえば、財務アプリケーションと **Planning and Budgeting Cloud** アプリケーションなどの複数のアプリケーションにわたるメンテナンスが必要な複数のコスト・センターをビューポイントで表すことができます。

### ビデオ

目的	参照するビデオ
ビューポイントの作成について学習	 <a href="#">ビューおよびビューポイントの作成.</a>

各ビューポイントは単独のノード・セットをソースとして使用し、業務要件に応じて 1 つ以上のノード・タイプを使用して構成できます。ビューポイントは業務目的を特定のプロパティおよび検証に基づいてノード・セットに追加します。

次の 2 つのクラスのビューポイントがあります：

- 標準ビューポイントでは、現在のデータにアクセスできます
- 時間ラベル付きビューポイントは、過去のある時点からのデータにアクセスできる読取り専用ビューポイントです。

ビューポイントの詳細は、次を参照してください。

- [ビューポイントの理解](#)
- [ビューポイントのナビゲート](#)
- [ビューポイントの検証](#)
- [ビューポイントの検査](#)
- [表示されるプロパティの順序の変更](#)
- [ビューポイントの比較](#)
- [ビューポイントのコピー](#)
- [ビューポイントのダウンロード](#)
- [ビューポイントのサブスクライブ](#)

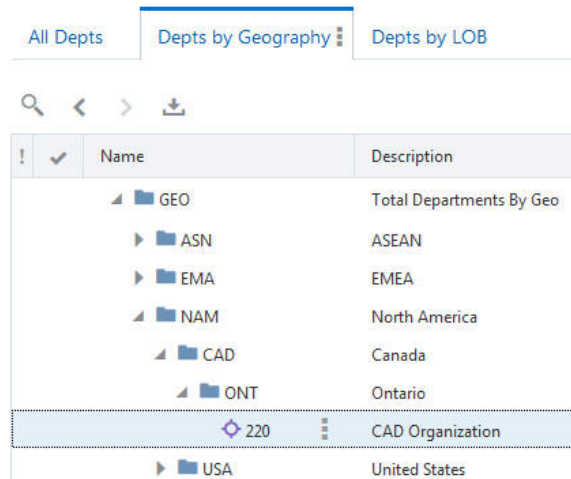
ビューポイント内のデータに変更を加えるには要求を作成します。詳細は、[要求について](#)を参照してください。

# ビューポイントのナビゲート

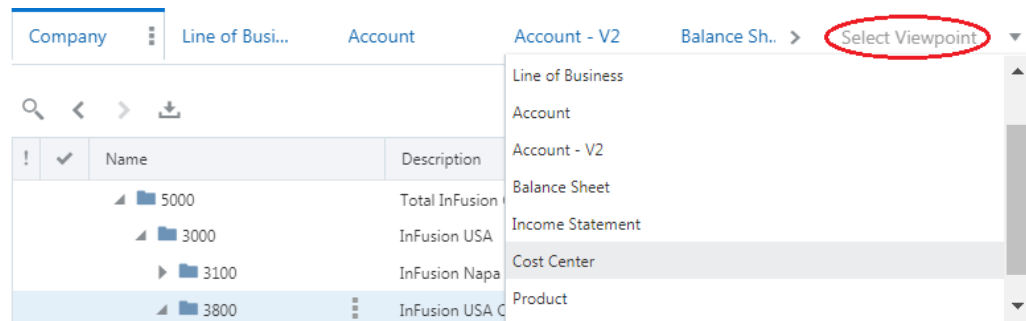
デフォルトでは、ビューポイントはタブ・レイアウトで表示されますが、左右並びでも表示できます。

## タブ・レイアウト

タブ・レイアウトでは、一度に1つのビューポイント进行操作できます。たとえば、Depts by Geography ビューポイントのみ进行操作する必要があります。




また、タブ・レイアウトの右端にあるドロップダウン・リストから、操作するビューポイントを選択することもできます。このリストは、多くのビューポイントがある場合に便利です。



タブ・レイアウトでビューポイント名にマウス・カーソルを置くと、アプリケーションおよびディメンションの詳細を確認できます。ビューポイントがサブスクリプションのターゲットかどうか([ビューポイントのサブスクリプション](#))およびビューポイントのバインディング・ステータス([バインディング・ステータス](#))を確認したり、ビューポイントが現在ブロックアウトされている場合(黄色のブロックアウト・アイコンで表示)や今後のブロックアウト期間がある場合(緑色のブロックアウト・アイコンで表示)は、ブロックアウト期間の開始日と終了日を確認することもできます。[要求](#)および[ブロックアウト期間](#)を参照してください。

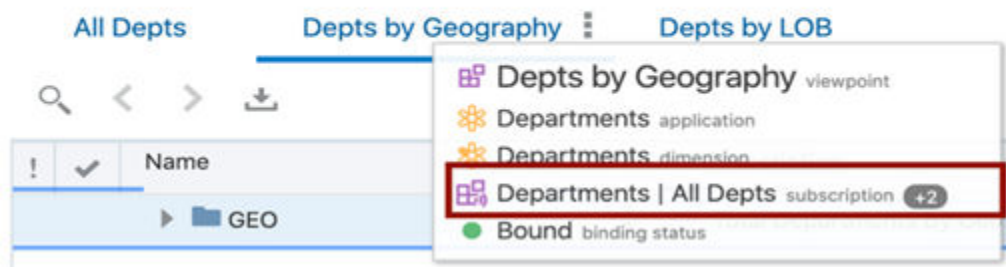


時間ラベル付きビューポイントは、「**カレンダー**」  アイコンで示されます。

### ノート:

ビューポイントが複数のサブスクリプションのターゲットである場合は、作成された最初のビューポイントの名前が表示され、その他のサブスクリプ・ビューポイントの数がプラス記号(たとえば、**+2**)で表示されます。

## Departments



タブ・レイアウトでは、ビューポイントで選択したノードのノード・タイプが右側のパネルの上に表示されます。ノード・タイプをクリックして、インスペクタで開きます。[ノード・タイプの検査](#)を参照してください。

1001		Account Rollup
Total Assets		
Properties	Locations	History
Q		14 Properties
Name	1001	
Description	Total Assets	
Parent	BS	

### 左右並びレイアウト

左右並びレイアウトでは、次が可能です:

- 2つのビューポイントの間でノード、プロパティおよび関係を視覚的に比較します
- 1つのビューポイントからもう1つのビューポイントのノードを特定します
- 2つのビューポイントの間でノードを整列します。1つビューポイントのノードをクリックすると、そのノードがもう1つのビューポイントで強調表示されます。
- アクション・メニューを使用して要求アクションを実行します。

- ビューポイント間でドラッグ・アンド・ドロップします。ビューポイントからノードをドラッグ・アンド・ドロップするには、ソース・ビューポイントのデータ・オブジェクトに対して少なくとも参加者(読取り)権限、ターゲット・ビューポイントのデータ・オブジェクトに対して少なくとも参加者(書込み)権限が必要であり、許容されるアクションは追加または挿入である必要があります。

### ✎ ノート:

左右並びレイアウトの2つのビューポイントで異なるノード・タイプのノードを比較、特定、整列およびドラッグ・アンド・ドロップするには、ノード・タイプ・コンバータが必要です(ノード・タイプ・コンバータの操作を参照)。

たとえば、左右並びレイアウトを使用して、Depts by Geography ビューポイントと Depts by LOB ビューポイントの両方でノード 220 を特定できます。

The screenshot displays two side-by-side views of department hierarchies. The left view, titled 'Depts by Geography', shows a tree structure with nodes for ASEAN, EMEA, North America, Canada, and Ontario. The right view, titled 'Depts by LOB', shows a tree structure with nodes for Total Department, No Department, Resources, Other Corporate, US Organization, CAD Organization, International Organization, Sales, Manufacturing, LP1 MES Labor Performance, Other Departments, Finance\_700, HR and Administration, and Encumbrance. Both views show node 220 (CAD Organization) highlighted in blue. The breadcrumb for the left view is 'GEO > NAM > CAD > ONT > 220' and for the right view is 'TD > 200 > 220'.


ビューポイントは複数の方法でナビゲートできます。

- 検索では、部分文字列を入力してノード名を検索できます(ノードの検索を参照)。
- 戻る矢印と進む矢印を使用して、前に選択したノードと現在のノードの間を切り替えます。
- ページ送り機能を使用して、リスト・ビューポイントのノード間をページ移動します。

また、タブ・レイアウトと左右並びレイアウトの両方で、各ビューポイントには次のオプションで構成されるメニューもあります:

- 検査:** ビューポイント・インスペクタが開きます(ビューポイントの検査を参照)。
- 問合せ:** ビューポイント問合せパネルが開きます(ビューポイントの問合せを参照)。
- 比較:** 「比較」ペインが開き、2つのビューポイントの間のノードの違いを特定できます(ビューポイントの比較を参照)。

- **検証:** ビューポイントのノードを検証します([ビューポイントの検証](#)を参照)。
- **コピー:** ビューポイントのコピーを作成します([ビューポイントのコピー](#)を参照)。
- **ファイルにダウンロード:** ビューポイント・データを.XLSX ファイルにダウンロードします([ビューポイントのダウンロード](#)を参照)。
- **ロード:** 現在のビューポイントがロードされるように選択されたビューポイント・ロード画面が開きます([ビューポイント・ロードの操作](#)を参照)。

 **ノート:**

アプリケーションのブロックアウト設定によりビューポイントが現在ブロックされている場合、「ロード」オプションは使用できません。

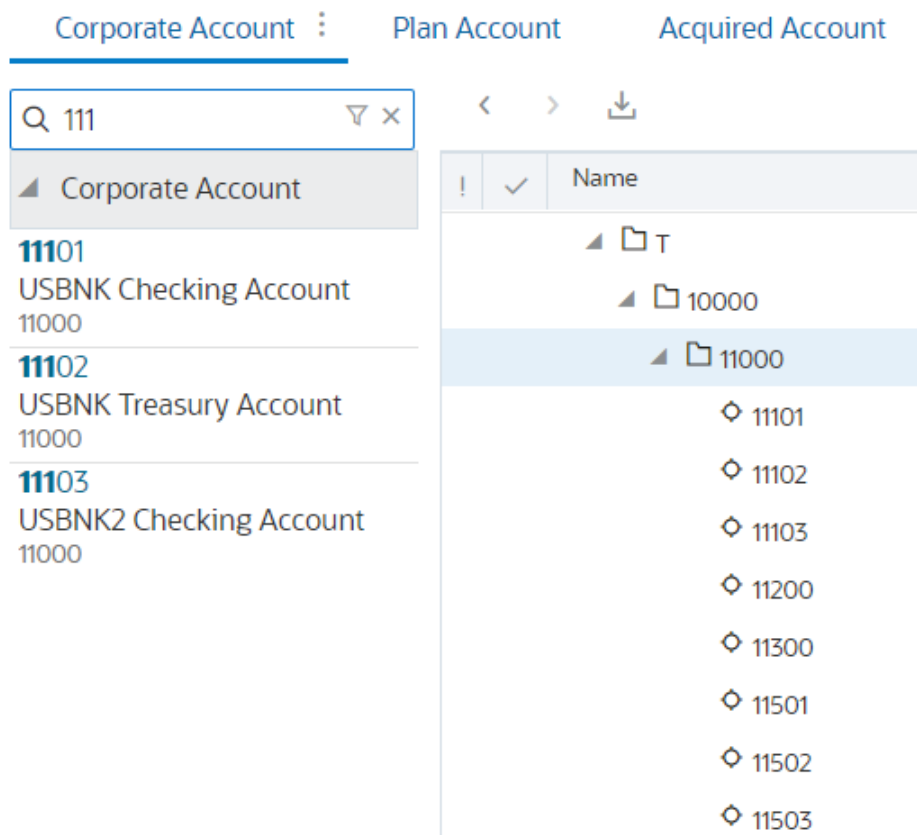
- **新規タブで開く:** 複製タブでビューポイントを開きます。[複製ビューポイント・タブの使用](#)を参照してください。

## ノードの検索

ビューポイントおよびノード・セレクトアで、ノードを名前と説明で検索できます。検索するテキストを「検索」ボックスに入力すると、入力した文字列で始まる語が名前または説明に含まれているノードが表示されます。階層ビューポイントに対してのみ、階層の特定のノードの下のノードを検索できます。



複数の検索文字列を入力すると、検索結果には、検索文字列で始まる語が名前または説明に含まれているノードが表示されます。たとえば、store 002 を検索すると、検索結果には、名前または説明に store で始まる語が含まれているノードと、名前または説明に 002 で始まる語が含まれているノードが表示されます。

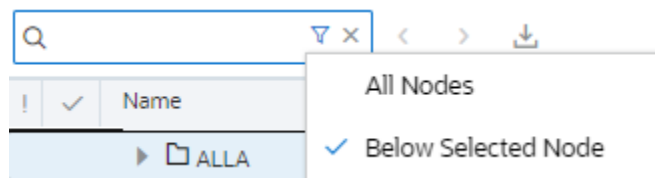
検索結果リストでは、ノードはノード・タイプ別にグループ化されます。操作が必要なノード・タイプのノードのみにナビゲートできるように、ノード・タイプ・セクションを縮小できます。階層ビューポイントの場合、各ノードの親名も検索結果に表示されます。次の例では、検索基準"111"を満たす各ノードの下位の親が検索結果に表示されています。



### ビューポイントの場合

ビューポイントでノードを検索するには:


1. 開いたビューポイントから、「検索」をクリックします。
2. (オプション): 階層ビューポイントで特定のノードの下のノードを検索するには:
  - a. 下を検索するビューポイント内のノードに移動します。
  - b. 検索ボックスで、「フィルタ」をクリックし、「選択したノードより下」を選択します。



3. 検索するテキストを入力し、「検索」をクリックするか[Enter]を押します。
4. 結果内のノードをクリックして、リストまたは階層内で特定します。

### ノート:


ノードが共有ノードの場合、階層内のノードのインスタンス数が結果ボックスのノードの横に表示されます。「ノードの下の検索」オプションを選択した場合、階層内の選択したノードの下のノードのインスタンス数のみが表示されません。


階層内のノードの横にある矢印  をクリックして、共有ノードの次または前のインスタンスに移動できます。

### ノード・セレクタの場合

ノード・セレクタでは、説明はデフォルトで各ノードの横に表示されます。ノード・セレクタ内で検索すると、ノードの名前および説明内で検索テキストが特定されます。ノードの説明をオフにして、ノード・セレクタに表示されないようにすることができます。説明をオフにした場合、ノード・セレクタでの検索はノード名に対してのみ実行されます。

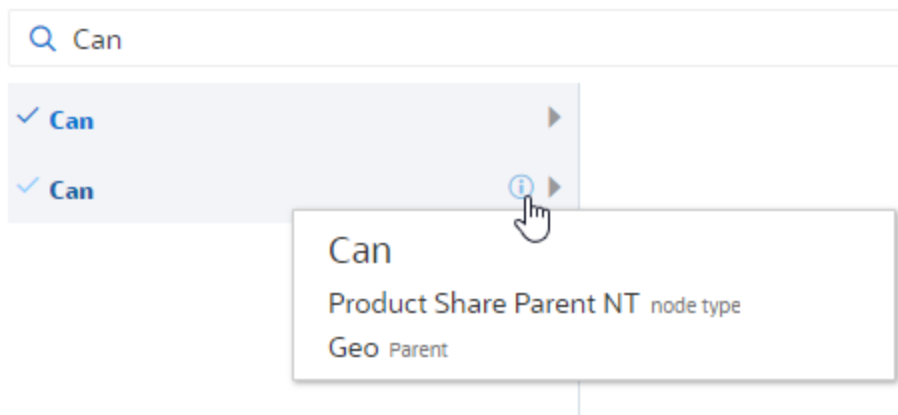
ノード・セレクタでノードを検索するには:

1. ノード・セレクタから、検索するテキストを入力し、「検索」  をクリックするか [Enter] を押します。

検索しているノード・テキストが階層内の複数の親の下に表示される場合、複数の検索結果が表示されます。「情報」  アイコンをクリックして、検索結果に返された各ノードのノード・タイプおよび親情報を表示します。

## Select a Node

Product Share > Dept > Can



### ノート:

暗黙共有ノード(つまり、階層内の複数の場所で同じ親の下に存在するノード)は、検索結果に 1 回のみ表示されます。[共有ノードの理解](#)を参照してください

2. 結果内の特定のノード・インスタンスをクリックして、それを選択します。

## ビューポイントの問合せ

ビューポイントの問合せにより、指定した基準とプロパティが一致するビューポイント内のノードを検索できます。


ビューポイントの検索では、ビューポイント内のノードを名前または説明によってのみ検索できますが([ノードの検索](#)を参照)、ビューポイントの問合せでは、その機能がいくつかの方法で拡張されます:

- 名前と説明のみでなく、プロパティで問合せできます。
- 異なるプロパティ値の複数の問合せフィルタを追加して、問合せをさらに絞り込みます。
- 異なるプロパティに異なる演算子を使用できます(2つの日付の間に追加されたノードの検索など)。

### Note:

時間ラベル付きビューポイントを問い合わせることはできません。

### 考慮事項

- 問合せフィルタにプロパティを追加するには、次のことが当てはまる必要があります:
  - リスト・ビューポイントの場合、ノード・レベル・プロパティのみを選択できます。階層ビューポイントの場合、ノードおよび関係レベル・プロパティを選択できます。
  - 問合せを作成するユーザーは、ビューポイントのプロパティを表示する必要があります。プロパティは、ユーザーのデータ・アクセスまたはビューポイント・セキュリティの結果として非表示にできません。
- ビューポイントのプロパティはインデックス付き( アイコンが表示される)か、インデックス付きでないかのいずれかです。インデックス付きプロパティは、定義済の値(派生および保管された値を含む)が格納されていて、そのデフォルト・タイプが指定、派生または継承されていないプロパティです。
  - AND で結合された複数の問合せフィルタの場合は、少なくとも1つのプロパティがインデックス付きプロパティである必要があります。
  - OR で結合された複数の問合せフィルタの場合は、すべてのプロパティがインデックス付きプロパティである必要があります。

### Note:

「派生および保管」デフォルト・タイプのプロパティは、値が定義されるか、派生してノード上のそのプロパティに対して保管された後でのみ問い合わせることができます。AND文を使用して、「派生および保管」問合せフィルタをインデックス付きプロパティ問合せフィルタと結合した場合でも、これは当てはまります。

- 次の Core および CoreStats プロパティをビューポイント問合せで使用できます:
  - Core.Name
  - Core.Alternate Name
  - Core.Description
  - CoreStats.Created By
  - CoreStats.Created Date
  - CoreStats.Last Modified By
  - CoreStats.Last Modified Date
- 要求のコンテキストで問合せを実行できます。ビューポイント問合せは、要求の"後"の状態に対して実行されます。

## 問合せ表示

### プライベート問合せ

ビューポイント問合せを作成した後、次にそれを実行するときに再作成する必要がないように保存できます。ビューポイント問合せを保存するとプライベート問合せとして保存され、それを作成したユーザーのみが表示および実行できます。

### パブリック問合せ



ビューポイントに対するデータ・マネージャまたはメタデータ・マネージャ権限以上がある場合、プライベート問合せをパブリック問合せに移行でき、問合せでそのビューポイントへのアクセス権を持つすべてのユーザーがこれを表示および実行できます。[ビューポイント問合せの移行](#)を参照してください。

# ビューポイント問合せの作成、実行および保存

ビューポイントの問合せペインからビューポイント問合せを作成および実行します。問合せはプライベート問合せとして保存でき、それを作成したユーザーのみが表示および実行できます。ビューポイントに対するデータ・マネージャまたはメタデータ・マネージャ権限を持つユーザーは、プライベート問合せをパブリック問合せに移行でき、問合せでそのビューポイントへのアクセス権を持つすべてのユーザーがこれを表示および実行できます。

## ビューポイント問合せの作成および実行

ビューポイントで問合せを作成および実行するには:

1. 開いたビューポイントから、ビューポイント・タブ名の横にある「アクション」をクリックして「問合せ」するか、ページの左側の「ビューポイントの問合せ」タブをクリックします。
2. 「ビューポイントの問合せ」ペインで、ビューポイントを選択して上部のドロップダウン・セレクタを使用して問合せします。現在表示しているビューポイントを問い合わせる必要はありません。ドロップダウン・メニューから異なるビューポイントを選択した場合、そのビューが表示されます。
3. 検索するノードを選択します:
  - 階層ビューポイント:
    - **すべてのノード**: ビューポイント全体を検索します。

- **選択したノードより下:** 現在選択しているノードより下のノードに間合せを制限します。  
選択したノードより下を検索するとき、選択したノードを表示するには、  
① アイコンにマウス・カーソルを置きます。
  - **孤立ノード:** 階層セットで使用されているノード・タイプに含まれるが、最上位ノードではないか、ノード・セット内の最上位ノードの子孫ではないノードを検索します。
  - リスト・ビューポイント: **すべてのノード:** ビューポイント全体を検索します。
4. ビューポイントで複数のノード・タイプが使用されている場合は、「**任意のノード・タイプ**」を選択してすべてのノード・タイプを検索するか、ドロップダウン・メニューで特定のノード・タイプを選択して間合せます。間合せフィルタで使用できるプロパティのリストは、選択したノード・タイプのプロパティのみに制限されています。
  5. 「**フィルタの追加**」をクリックします。

 **Note:**

前述の「**すべてのノード**」または「**選択したノードより下**」を間合せの場合は、フィルタが必要です。「**孤立ノード**」を選択した場合は、フィルタを追加する必要はありません。

6. フィルタを追加するプロパティを選択します。プロパティは、前述の**考慮事項**の項で説明したすべての条件を満たす必要があります。
7. フィルタの演算子を選択します。選択できる演算子は、選択したプロパティのデータ型に固有です。次の表に、各データ型に使用できる演算子をリストします。

 **Note:**


指定する値(文字列に「次を含む」値を入力する場合など)については、入力するテキストは大文字と小文字が区別されません。

**Table 5-1 プロパティのデータ型別の演算子**

プロパティのデータ型	演算子
ブール	<ul style="list-style-type: none"> <li>• True である</li> <li>• False である</li> <li>• が空白である</li> <li>• が空白でない</li> </ul>
日付、タイムスタンプ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 等号</li> <li>• 次より前</li> <li>• 次の間</li> <li>• 次より後</li> <li>• が空白である</li> <li>• が空白でない</li> </ul>



Table 5-1 (Cont.) プロパティのデータ型別の演算子

プロパティのデータ型	演算子
整数、浮動小数点	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 等号</li> <li>• 次の間</li> <li>• 次より大きい</li> <li>• 次より小さい</li> <li>• が空白である</li> <li>• が空白でない</li> </ul>
リスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 次を含む</li> </ul> <div style="border: 1px solid #ccc; background-color: #e6f2ff; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p> <b>Note:</b></p> <p>調べるリスト値をフィルタごとに 1 つ指定できます。別のリスト値を問い合わせるために、2 番目のフィルタを追加できます。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>• が空白である</li> <li>• が空白でない</li> </ul>
ノード	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 等号(ノード・セレクタを使用してノードを選択します)</li> <li>• が空白である</li> <li>• が空白でない</li> </ul>
文字列、数値文字列、メモ、シーケンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 次を含む (スペースで区切った)複数の語を問合せに指定できます。検索はそれぞれの語の先頭で照合します。たとえば、"Net Income Current Year"を検索する場合: <ul style="list-style-type: none"> <li>– "Net Income"を含む問合せは、"Net"および "Income"と一致します</li> <li>– "Curr"を含む問合せは、"Current"と一致します</li> <li>– "rent"を含む問合せは、どの文字列の先頭とも一致しません</li> </ul> </li> <li>• 等号</li> <li>• が空白である</li> <li>• が空白でない</li> <li>• 次と類似: 入力したテキストに対してあいまい検索を実行します。検索する値を入力し、オプションで、完全に一致する必要がある文字列の先頭の文字数を指定する接頭辞の長さを入力します。接頭辞の長さを使用すると、問合せ結果を、文字列の先頭の文字が同じものだけに絞り込むことができます。たとえば、"House"の値に類似するものの場合、接頭辞の長さを指定しない場合は、検索で"House"、"Mouse"および"Blouse"が返される可能性があります。ただし、接頭辞の長さを 1 と指定した場合は、値に類似するものの最初の文字が一致する必要があります。そのため、検索で"House"のみが返されます。最適な結果を得るには、部分文字列ではなく完全な文字列に対して「次と類似」を使用します。</li> </ul>

8. フィルタの値を選択します。選択する値は、フィルタのプロパティのデータ型に固有です。たとえば、日付データ型のカレンダーから日付を選択し、リストの文字列値を入力します。


 **Note:**

許容値リストを使用するプロパティの場合、指定された値は、プロパティの値とラベルの両方に対して評価されます。


9. **オプション:** ステップ 4-7 を繰り返してさらにフィルタを追加します。


 **Note:**

複数のフィルタを追加するとき、「および」または「または」の切替えを使用して、フィルタの結合方法を指定します。結合方法（「および」または「または」）がすべての問合せフィルタに適用されます。「および」を使用できないフィルタと、「または」を使用できないフィルタがあります。

10. 問合せフィルタの追加が終了したら、「実行」  をクリックして問合せを実行します。結果が問合せペインに表示されます。


11. **オプション:** 問合せ結果で、次のアクションを実行します:

- **孤立ノード以外の問合せの場合:** 検索結果内のノードをクリックして、ビューポイント内のそのノードに移動します。問合せ基準を満たしているノードは、ビューポイント内の  アイコンによっても示されます。
- **孤立ノードの問合せ結果の場合:** 検索結果内のノードの横にある「アクション」

アイコン  をクリックし、「ノードの挿入」を選択してノード・セレクタを開き、ノードの親を選択します。問合せ結果からビューポイント内の親ノードにノードをドラッグ・アンド・ドロップすることもできます。ノードを挿入するには、要求のコンテキスト内である必要があります。


 **Note:**


孤立ノードに子がある場合、子の数が問合せ結果に表示されます。孤立ノードを親の下に挿入すると、孤立ノードの子も同様に挿入されます。

12. **オプション:** 結果を Excel ファイルにダウンロードするには、問合せパネルで「アクション」  をクリックし、「問合せ結果のダウンロード」を選択します。ビューポイントがダウンロードされ、問合せ結果内のノードにフィルタされます。このファイルには、ビューポイントに表示するように構成されている各プロパティの列が含まれています。


 **Note:**

ダウンロードされた問合せ結果は、画面に表示されている結果の数を超えることがあります。

ビューポイント問合せを実行すると、問合せフィルタが縮小され、さらに多くの問合せ結果を表示できるようになります。「展開」  をクリックして問合せフィルタを再度表示します。


問合せを再実行するには、「リフレッシュ」  をクリックします。

### 問合せフィルタの編集と除去

問合せフィルタを編集するには、問合せペインでフィルタをクリックします。フィルタのプロパティ、演算子および値を変更し、「実行」  をクリックして変更済問合せを実行します。


 **Note:**

「選択したノードより下」オプションを使用して検索するときを選択したノードを変更した場合、元の選択したノードで同じ問合せを実行するか、現在選択しているノードで新しい問合せを実行するかを選択するように求められます。

問合せフィルタを除去するには、フィルタで「X」をクリックし、「実行」  をクリックして変更済問合せを実行します。

### 問合せの保存および保存済問合せの実行

問合せを保存するには:

1. 問合せパネルで、「アクション」  をクリックし、「保存」を選択します。
2. 名前を入力し、オプションで説明を入力し、「保存」をクリックします。


 **Note:**



「可視性」フィールドに、問合せがプライベート問合せとして保存されたことが示されます。ビューポイントに対するデータ・マネージャまたはメタデータ・マネージャ権限がある場合、それをパブリック問合せに移行して他のユーザーが表示および実行できるようにすることができます。



保存済問合せを実行するには:

1. 問合せパネルから、実行する問合せを選択します。

 **Tip:**

開いている問合せがすでにあり、別の保存済問合せを実行する場合、「**ビューポイントの問合せ**」  タブをクリックして保存済問合せのリストに戻ります。

プライベート問合せは「**ロック済**」  アイコンで示されます。パブリック問合せは「**ロック解除済**」  アイコンで示されます。

2. **オプション:** 保存済問合せフィルタを編集します。
3. 「**実行**」  をクリックして保存済問合せを実行します。
4. **オプション:** 問合せフィルタを変更し、変更した問合せを保存する場合、問合せパネルで「**アクション**」  をクリックし、「**保存**」を選択します。

 **Note:**


プライベート問合せへの変更を保存できます。ビューポイントに対するデータ・マネージャまたはメタデータ・マネージャ権限があるユーザーのみが、パブリック問合せへの変更を保存できます。

## 保存済ビューポイント問合せの操作

### ビューポイント問合せのコピー

パブリック問合せおよび自分が作成した任意のプライベート問合せをコピーできます。問合せをコピーすると、プライベート問合せとして保存されます。データ・マネージャおよびメタデータ・マネージャはそれをパブリックに移行できます。

#### 問合せをコピーするには:

1. 問合せパネルで、「**アクション**」  をクリックし、「**コピー**」を選択します。
2. 名前を入力し、オプションで説明を入力し、「**保存**」をクリックします。




 **Note:**

「可視性」フィールドに、問合せがプライベート問合せとして保存されたことが示されます。ビューポイントに対するデータ・マネージャまたはメタデータ・マネージャ権限がある場合、それをパブリック問合せに移行できます。

### ビューポイント問合せの検査

ビューポイント問合せの検査により、問合せの定義およびパラメータを表示し、問合せの名前および説明を変更できます。コードを問合せに割り当てて、REST API により問合せを自動化するときに、問合せ名のかわりに使用することもできます。

### 問合せを検査するには:

- **開いたビューポイントから:** 「ビューポイントの問合せ」  をクリックして、そのビューポイントの保存済問合せのリストを表示します。次に、検査する問合せの横にある「問合せアクション・メニュー」  をクリックし、「検査」を選択します。
- **ビューポイントの開いた問合せから:** 「実行」ボタンの横にある「問合せアクション・メニュー」  をクリックし、「検査」を選択します。
- **ビューポイント・インスペクタから:**
  1. 問合せを含むビューポイントを検査します。[ビューポイントの検査](#)を参照してください。
  2. 「問合せ」タブで、検査する問合せの名前をクリックします。



### 問合せの名前および説明を編集する、または問合せにコードを割り当てるには:

1. 問合せインスペクタの「全般」タブで、「編集」をクリックします。
2. 名前および説明を編集します。
3. 「コード」フィールドに、問合せのコードを入力します。  
入力するコードを、queryName のかわりに[ビューポイント問合せプロファイルの実行 REST API](#)の queryCode パラメータで使用して、API 内の問合せを識別できます。これにより、自動化されたプロセスへの影響なく問合せ名を変更できます。
4. 「保存」をクリックします。

### ビューポイント問合せの移行

問合せを移行するには、ビューポイントに対するデータ・マネージャまたはメタデータ・マネージャ権限が必要です。

### 問合せを移行するには:

1. 次のいずれかのアクションを実行します。
  - 開いたビューポイントから、「ビューポイントの問合せ」  をクリックして、そのビューポイントの保存済問合せのリストを表示します。
  - 移行する問合せを含むビューポイントを検査します。[ビューポイントの検査](#)を参照してください。
2. 移行する問合せの横にある「アクション」  をクリックし、「上位へ移動」を選択します。
3. 「保存」をクリックします。


#### Note:

移行する問合せの名前が既存のパブリック問合せと同じ場合、一意にするために増分数値の接尾辞が問合せに追加されます。


## ビューポイント問合せの削除


問合せパネルまたはビューポイント・インスペクタから、プライベート問合せを削除できます。ビューポイントに対するデータ・マネージャまたはメタデータ・マネージャ権限がある場合、パブリック問合せも削除できます。

### クエリーを削除するには:

- **ビューポイント内の問合せパネルから:** 問合せパネルの問合せのリストから、削除する問合せの横にある「**問合せアクション・メニュー**」をクリックし、「**削除**」を選択します。

#### Tip:

開いている問合せがすでにあり、問合せリストに戻る場合、「**ビューポイントの問合せ**」タブをクリックして保存済問合せのリストに戻ります。

- **ビューポイント・インスペクタから:**
  1. 削除する問合せを含むビューポイントを検査します。[ビューポイントの検査](#)を参照してください。
  2. 削除する問合せの横にある「**アクション**」をクリックし、「**削除**」を選択します。
  3. 「**保存**」をクリックします。

## ビューポイントのダウンロード

ビューポイント内のデータをスプレッドシート・ファイルにダウンロードすると、このデータをオフラインで使用し、他のリソースと共有したり、データを一括変更できます。ファイルを変更した後、ファイルを要求にロードし、変更を Oracle Enterprise Data Management Cloud に適用できます。

階層ビューポイントの場合、特定のノードとその子孫をダウンロードすることもできます。これにより、ノードの分岐をビューポイント間でコピーできるようになります。たとえば、北米ノードとそのすべての子孫を下位の階層ビューポイントからダウンロードし、別のビューポイントにロードできます。

## Entity Maintenance

General Ledger | **Financial Consolidation** | Planning and Budgeting

🔍 < > 📄

! ✓	Name	Description
▶	Entity	Entity Dimension
▶	FCCS_Total Geography	Total Geography
▶	APAC	APAC
▶	Corporate	Corporate
▶	EMEA	EMA
▶	NorthAmerica	North America
▶	SouthAmerica	South America
▶	TOSA	Tosa Corporation

コミットしていない要求のビジュアル化された変更がダウンロード元のビューポイントに含まれている場合、提案された変更は出力ファイルに含まれます。つまり、要求がすでにコミットされているかのように、出力ファイルにデータが含まれます。

- 要求内の追加、挿入、移動、更新、名前変更されたノードまたは並べ替えられたノードは、出力に含まれます
- 除去または削除されたノード(およびその子孫)は、出力から除外されます。

たとえば、Depts by LOB ビューポイントで、ノード 601 を除去してノード 701 を追加します。

All Depts | Depts by Geography | **Depts by LOB** | Depts by

🔍 < > 📄 +

! ✓	Name	Description
▶	TD	Total Department
▶	100	Resources
▶	200	Other Corporate
▶	403	Sales
▶	500	Manufacturing
▶	523	LP1 MES Labor Performance
🗑️	601	Other Departments
▶	700	Finance_700
+	701	Added
▶	800	HR and Administration



要求変更がビジュアル化されたビューポイントをダウンロードすると、結果にはノード 701 が含まれ、ノード 601 は除外されます。

	A	B	C	D	E	F
1	Name	Description	Node Type	Parent	Parent Node	# Children
2	TD	Total Department	Dept Rollup			11
3	100	Resources	Dept Rollup	TD	Dept Rollup	6
4	110	Facilities Resource	Dept	100	Dept Rollup	0
5	200	Other Corporate	Dept Rollup	TD	Dept Rollup	3
6	210	US Organization	Dept	200	Dept Rollup	0
7	403	Sales	Dept Rollup	TD	Dept Rollup	14
8	500	Manufacturing	Dept Rollup	TD	Dept Rollup	26
9	501	Operations Manag	Dept	500	Dept Rollup	0
10	523	LP1 MES Labor Per	Dept	TD	Dept Rollup	0
11	700	Finance_700	Dept Rollup	TD	Dept Rollup	9
12	710	CEO Office	Dept	700	Dept Rollup	0
13	701	Added	Dept Rollup	TD	Dept Rollup	0
14	800	HR and Administra	Dept Rollup	TD	Dept Rollup	6
15	810	HR and Administra	Dept	800	Dept Rollup	0

### ノート:

ファイルにビューポイントをダウンロードする場合、ビューポイント名を 30 文字以下にするか、ラベルを設定する必要があります。ラベルの使用の詳細は、[ビューポイントの検査](#)を参照してください。


ビューポイントをダウンロードするには:

1. 「ビュー」で、アクティブなビューを開きます。
2. ビューポイントを選択します。
3. 次のいずれかのアクションを実行します。
  - ビューポイント全体をダウンロードするには、ビューポイント名の右側にカーソルを移動し、メニュー・アイコン  をクリックし、「ファイルにダウンロード」を選択します。
  - 階層ビューポイント内の特定のノードとその子孫をダウンロードするには、ノードを選択し、 をクリックします。

## ドラフト・ビューポイントの削除

ドラフト・ビューポイントは不要になった場合、削除できます。アクティブなビューポイントは削除できませんが、ビューポイント・インスペクタからアーカイブできます。

ドラフト・ビューポイントを削除するには:

1. 「ビュー」で、ビューを検査します。
2. 「定義」を選択し、「編集」をクリックします。
3. ドラフト・ビューポイントの横の  をクリックし、「削除」を選択します。
4. 削除を確認し、「保存」をクリックします。




詳細は、次を参照してください:

- [ビューポイントの理解](#)
- [データ・オブジェクトおよびデータ・チェーンのライフサイクルの理解](#)


## ビューポイントの検査

ビューポイント・インスペクタから、ビューポイントに関する情報を表示および編集できます。

ビューポイントを検査するには:

1. 開いているビューから、ビューポイントの横の  をクリックして「**検査**」を選択します。
2. 次のタブで、使用可能なオプションから選択します。
  - **全般**—ビューポイントのデータ・チェーン・オブジェクトおよびバインディング・ステータスに関する情報が表示されます。[バインディング・ステータス](#)を参照してください。

### ノート:

ビューポイントが現在ブロックアウト内にある場合は、ブロックアウトされているアプリケーションまたはディメンションがブロックアウト・アイコン () で示されます。リンクをクリックしてアプリケーションまたはディメンションを検査し、ブロックアウトの詳細を確認します。

「**編集**」をクリックして、ビューポイントの名前、説明およびステータスを変更するか、ラベルを追加します。[データ・オブジェクトおよびデータ・チェーンのライフサイクルの理解](#)を参照してください。

ビューポイント名が 30 文字を超えており、そのビューポイントに対して次のいずれかのタスクを実行する必要がある場合は、ラベルを作成する必要があります。

- ファイルからの要求アイテムのロード
- 要求アイテムのファイルへのダウンロード
- ビューポイントのファイルへのダウンロード
- サブスクリプション要求の生成
- ビューポイント間での要求アイテムまたはノードのドラッグ・アンド・ドロップ
- ビューポイントの比較からの要求アイテムの作成

ラベルは最大 30 文字を含むことができますが、次の特殊文字を含むことはできません:

\\\*[]:?

 **ノート:**

時間ラベル付きビューポイントについては、ビューポイントの時間ラベルを変更することもできます。ただし、時間ラベルの選択を解除してビューポイントを標準ビューポイントに変換することはできません。[時間ラベル付きビューポイントの操作](#)を参照してください。

- **定義**—ノード・タイプ、許可されるアクション、編集可能なプロパティについての情報を提供します。ノード・タイプに許可されるアクションを設定し、表示するプロパティを決定し、編集可能なプロパティを設定します([ビューポイントで許可できるアクションの変更とビューポイントでのプロパティの表示方法の構成](#)を参照)。
- **プロパティ**—「定義」タブから選択したプロパティのリストを提供します。プロパティの名前と説明を編集し、ビューポイントに列として表示するプロパティを選択し、ビューポイントの「場所」タブに表示するプロパティを選択し、プロパティのリストを並べ替えることができます。[ビューポイントでのプロパティの表示方法の構成](#)、「場所」タブのプロパティの構成および表示されるプロパティの順序の変更を参照してください。
- **サブスクリプション**—他のビューポイントへのサブスクリプションのリストを提供します。新規サブスクリプションの作成と、既存のサブスクリプションの編集、有効化、無効化または削除が可能です([ビューポイントのサブスクリプション](#)を参照)。
- **データ・チェーン**—ノード・タイプ、階層セット(該当する場合)およびビューポイントを構成するノード・セットを表示するための、クリック可能なグラフィックを提供します。

## ビューポイントで許可できるアクションの変更

ビューポイントで許可されているアクションのタイプを選択できます。たとえば、ノードがビューポイントから削除されないように、ビューポイントを構成できます。

次のノード・アクションのタイプのうちどれがビューポイントで許可されるかを設定できます。

- **追加**—ビューポイントにノードを追加できます
- **挿入**—ビューポイントにノードを挿入できます
- **移動**—ビューポイントにノードを移動できます。
- **除去**—階層セット内の親からノードを除去できます。階層セット内でノードに他の関係がある場合、単一の親からノードを除去してもこれらの関係は影響を受けません。
- **削除**—リストから、またはアプリケーションのすべての階層関係から、ノードを削除できます。
- **並替え**—同じ親の下にあるノードを並べ替えることができます。

ビューポイントに対してどのノード・アクションが許可されるかを編集するには:

1. 「**ビュー**」で、ビューを検査します。
2. 「**定義**」を選択し、検査するビューポイント名をクリックします。

3. 「定義」を選択し、「編集」をクリックします。
4. アクションを選択またはクリアして許容アクションを変更し、「保存」をクリックします。

## ビューポイントでのプロパティの表示方法の構成


ビューポイントに表示されるプロパティとそのラベル、およびユーザーがプロパティを編集できるかどうかを構成できます。

### ヒント:

これらの構成は、特定のビューポイントに適用されます。たとえば、あるプロパティを1つのビューポイントでは元の名前で表示し、別のビューポイントでは異なるラベルを使用して表示できます。

詳細は、[プロパティの操作](#)を参照してください。


ビューポイントのプロパティを構成するには:

1. ビューポイントの**ビュー・インスペクタ**を開きます。
  - a. ビューの「アクション」列で「ビュー」をクリックし、をクリックし、「検査」を選択します。
  - b. 「定義」を選択し、「名前および説明」列で、ビューポイントのリンクをクリックします。
2. ビューポイントに表示されるプロパティ、およびこれらが編集可能であるかどうかを指定します。
  - a. 「定義」を選択します。

「**編集可能なプロパティ**」セクションに、ビューポイントによって表示されるプロパティがリストされ、これらのプロパティが編集可能であるかどうかを示されます。ビューポイントに複数のノード・タイプが含まれる場合、最初のノード・タイプのプロパティが表示されます。

状況によっては、プロパティが読取り専用でもプロパティのクリア・オプションが使用可能である場合があることに注意してください。

編集可能なプロパティのシナリオ	UIのプロパティの更新	UIのクリア・オプション	ファイル要求の更新	ファイル要求のクリア
編集可能なプロパティ(ビューポイント)が False の場合	読取り専用	使用不可	スキップ済	スキップ済
編集可能なプロパティ(ビューポイント)が True で、編集可能なプロパティ(アプリケーション・オーバーライド)が False の場合	読取り専用	使用可能	スキップ済	有効
編集可能なプロパティ(ビューポイント)が True で、編集可能なプロパティ(ノード・タイプ・オーバーライド)が False の場合	検証エラー	使用可能	検証エラー	有効

- b. ビューポイントに複数のノード・タイプが含まれる場合、プロパティが含まれるノード・タイプを選択します。
  - c. 「編集」をクリックします。
  - d. プロパティが編集可能と読取り専用のどちらであるかを指定するには、「編集可能」列のチェック・ボックスを使用します。
  - e. どのプロパティを表示するかを指定するには:
    - i. 「管理」をクリックします。  
ダイアログ・ボックスが表示されます。「選択済」列には、ビューポイントに現在表示されているプロパティが表示されます。2番目の列にはビューポイントのプロパティがすべて表示されますが、ビューポイント内に表示されるプロパティの横にチェック・マークがあります。
    - ii. 現在表示されていないプロパティを表示するには、これを選択します。  
プロパティ名の横にチェック・マークが表示されます。
    - iii. プロパティが表示されないようにするには、これを選択します。  
プロパティ名からチェック・マークが除去されます。
  - f. 「保存」をクリックします。
3. ビューポイントでこれらのプロパティが表示される方法を構成します。
- a. 「プロパティ」を選択し、「編集」をクリックします。
  - b. オプション: 「ソート基準」をクリックして、「ラベル」または「ネームスペースおよび名前」でプロパティ・リストの1回かぎりのソートを英数字順に実行します。
  - c. プロパティのラベルを表示するには、そのテキスト・ボックスを「ラベル」列で編集します。

 **ノート:**

ビューポイント・ラベルは、ビューポイント内のプロパティごとに一意である必要があります。


ビューポイント内のプロパティとして使用できないラベルのリストは、[予約された列名](#)を参照してください。

次の例では、ビューポイントの「Custom.Is ICP」プロパティのラベルとして「Intercompany」が表示されています。

Label	Name	Description
Intercompany	Custom.Is ICP	Specifies whether the account is an intercompany account

- d. プロパティの説明を変更するには、そのテキスト・ボックスを「説明」列で編集します。
- e. プロパティをビューポイントに列として表示することを指定するには、そのプロパティの「列として」チェック・ボックスを選択します。

最大 10 個のプロパティを表示するように設定できます。名前プロパティの選択は必須であり、10 個のプロパティの 1 つとしてカウントされます。

- f. ビューポイントに表示されるプロパティの順序を指定する場合、またはプロパティの元の名前または説明をリストアする場合は、プロパティの行にカーソルを置いたときに表示されるメニュー上のコマンドを使用し、をクリックします。

#### ノート:

列として表示するプロパティの表示順序を変更すると列の表示順序とプロパティ・パネルが影響を受けます。

- g. プロパティの構成が終了したら、「保存」をクリックします。  
「ラベル」および「説明」列が読取り専用になります。

## 関連ビューポイントの構成

関連ビューポイントは、ソース・ビューポイント以外のビューポイントでプロパティ値と階層関係がソース・ノードと同じノードを作成できるようにすることで、モデル元操作を拡張します。[既存のノードのモデル元アクションによるノードの追加](#)を参照してください。

関連ビューポイントは、最下位ノード(つまり、要約フラグが **False** に設定されているノード)がすべての関連ビューポイントに存在することを確認するために、**Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションの同等のノード**検証でも使用されます。[Oracle Financials Cloud 一般会計の検証](#)を参照してください。

### 考慮事項

- 関連ビューポイントは、同じビュー内にあり、モデル元のビューポイントと同じノード・タイプを使用する必要があります。関連ビューポイントでは、ノード・タイプ・コンバータはサポートされていません。
  - 関連ビューポイントであるビューポイントを削除またはアーカイブすると、そのビューポイントは関連ビューポイントのリストから除去されます。アーカイブされたビューポイントの場合、後でビューポイントをアンアーカイブしても関連ビューポイントのリストに自動的に追加されません。そのビューポイントを手動で追加する必要があります。
  - 時間ラベル付きビューポイントは関連ビューポイントとして構成できません。
1. 関連ビューポイントを指定するビューポイントを検査します。
  2. 「定義」タブで「編集」をクリックし、「関連ビューポイント」セクションを見つけます。フィールドを表示するには、下にスクロールする必要がある場合があります。
  3. 「関連ビューポイント」をクリックして、同じノード・タイプを使用する同じビュー内のビューポイントのリストを表示します。
  4. ビューポイントをクリックして、関連ビューポイントのリストに追加します。複数のビューポイントに関連ビューポイントとして選択できます。関連ビューポイントのリストからビューポイントを除去するには、「X」をクリックします。

## 「場所」タブのプロパティの構成


「場所」タブでは、階層ビューポイントで選択したノードのすべての場所が識別されます。各場所のプロパティ値を表示して、場所全体で類似点または相違点を確認できます。プロパティ

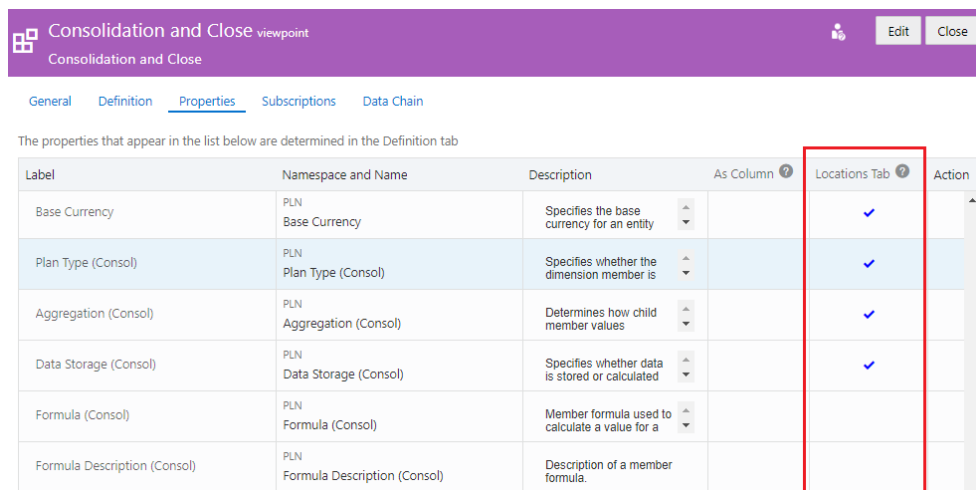
ィをビューポイント・インスペクタに表示するように設定します。最大 10 個のプロパティを表示できます。

**ヒント:**

関係プロパティ、位置指定の継承プロパティまたは派生プロパティのみ、場所ごとに異なる場合があります。

ビューポイントの「場所」タブに表示するプロパティを構成するには:

1. 開いているビューから、構成するビューポイントを選択します。
2. カーソルをビューポイント名の右に置き、メニュー・アイコン  をクリックしてから「検査」を選択します。
3. 「プロパティ」タブを選択し、「編集」をクリックします。
4. 表示するプロパティの「場所」タブ チェック・ボックスを選択し、「保存」をクリックします。



Label	Namespace and Name	Description	As Column	Locations Tab	Action
Base Currency	PLN Base Currency	Specifies the base currency for an entity		<input checked="" type="checkbox"/>	
Plan Type (Consol)	PLN Plan Type (Consol)	Specifies whether the dimension member is		<input checked="" type="checkbox"/>	
Aggregation (Consol)	PLN Aggregation (Consol)	Determines how child member values		<input checked="" type="checkbox"/>	
Data Storage (Consol)	PLN Data Storage (Consol)	Specifies whether data is stored or calculated		<input checked="" type="checkbox"/>	
Formula (Consol)	PLN Formula (Consol)	Member formula used to calculate a value for a		<input type="checkbox"/>	
Formula Description (Consol)	PLN Formula Description (Consol)	Description of a member formula.		<input type="checkbox"/>	

たとえば、C\_303 のプロパティを 2 つの場所で比較できます:

C\_303 Entity  
United Kingdom (GBP)

Properties Locations **History**

C\_300

▶ C\_All\_Corp\_Comp\_V1 > C\_T > C\_300

Alias: Default : United Kingdom  
Base Currency: GBP  
Plan Type (Consol): True  
Aggregation (Consol): Ignore  
Data Storage (Consol): Never Share

Europe

▶ EUR\_Region > Europe



Alias: Default : United Kingdom  
Base Currency: GBP  
Plan Type (Consol): True  
Aggregation (Consol): Ignore  
Data Storage (Consol): Shared

## 表示されるプロパティの順序の変更

ビューポイントにプロパティを表示する順序を構成できます。表示順序はビューポイントに固有であるため、ビューポイントごとに異なる表示順序を設定できます。

詳細は、[ビューポイントでのプロパティの表示方法の構成](#)を参照してください。

プロパティを表示する順序を構成するには:

1. 開いているビューから、構成するビューポイントを選択します。
2. カーソルをビューポイント名の右に置き、メニュー・アイコン  をクリックしてから「**検査**」を選択します。
3. 「**プロパティ**」タブを選択し、「**編集**」をクリックします。
4. 右端の列で、移動するプロパティのセルにカーソルを置いて  をクリックし、プロパティを移動する方法を選択します:
  - 最初 - リストの最初のプロパティになるようにプロパティを移動します。
  - 上 - リストの 1 行上にプロパティを移動します。プロパティを複数行上に移動するには、この選択肢を複数回使用します。
  - 下 - リストの 1 行下にプロパティを移動します。プロパティを複数行下に移動するには、この選択肢を複数回使用します。
  - 最後 - リストの最後のプロパティになるようにプロパティを移動します。

Label	Namespace and Name	Description	As Column
Name	Core Name	Node Name	<input checked="" type="checkbox"/>
Parent	CoreStats Parent	Parent Node Name of the node in the current location	<input type="checkbox"/>
Description	Core Description	Node Description	<input checked="" type="checkbox"/>
Alias: Default	PLN Alias: Default	Alternate unique description the dimension member.	
Data Storage	PLN Data Storage	Specifies whether data is stored or calculated for a	

5. プロパティが目的の表示順序になるまで繰り返し、「保存」をクリックします。

## 複製ビューポイント・タブの使用

ビューポイント内の複数の階層を操作するために、ビュー内の複製タブでそのビューポイントを開くことができます。

### 考慮事項


- 複製ビューポイント・タブでは、元のタブでの操作と同じ操作(参照、検索、要求アクションの実行や検証など)をすべて実行できます。
- 元のビューポイント・タブと複製ビューポイント・タブを左右並びレイアウトで表示し(ビューポイントの左右並び表示を参照)、ビューポイント・タブ間で次のような操作を実行できます:
  - ノードの特定
  - プロパティの整列
  - ノード、関係およびプロパティの比較
  - ノードのドラッグ・アンド・ドロップ、または比較結果からの要求アイテムの作成によるノード差異の修正
- ビューポイントは、複製タブで 1 回のみ開くことができます。ビューポイントを 2 つ目のタブで開いた後、3 つ目のタブで同じビューポイントの別のインスタンスを開くことはできません。
- 複製ビューポイント・タブでの操作が終了した後は、ビューから除去できます。ビューを閉じるか、ビューから離れると、すべての複製ビューポイント・タブがビューから除去されます。



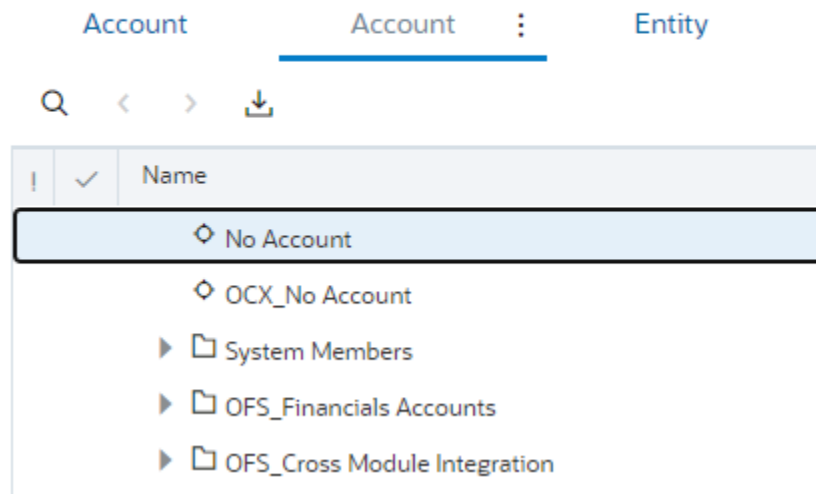
 **Note:**

新しいタブでビューポイントを開くことは、ビューポイントのコピーと同じではありません。ビューポイントのコピーでは、ビューに新しい個別のビューポイントが作成され、そのビューポイントに新しいノードおよび関係が含まれる可能性があります([ビューポイントのコピー](#)を参照)。一方、ビューポイントを開くことは、そのビューポイントの異なる部分を同時に簡単に操作できるように、単一のビューポイントをも2つの異なるタブに単に表示するものです。

**ビューポイントを開くには:**

- 複製タブを開くビューポイントが含まれているビューに移動します。
- 複製タブを開くビューポイントで、**ビューポイント・アクション**  をクリックし、「**新規タブで開く**」を選択します。  
元のタブの右側に複製ビューポイント・タブが表示されます。複製ビューポイント・タブの名前は元の名前と同じですが、元の名前と区別するために名前が異なる色のテキストで表示されます。

## Corporate Planning





- 複製タブを除去するには、**ビューポイント・アクション**  をクリックしてから、「**タブの除去**」を選択するか、移動してビューポイントから離れ、再度ビューポイントを開いて複製タブをすべて除去します。

## ビューポイントの左右並び表示

2つのビューポイントを並べて表示して、比較したり、ノードを特定して整列できます。ビューポイント複製タブを開いた場合は、元のタブと複製タブを左右並びで表示して、そのビューポイント内の複数の階層を操作できます。

ビューポイントを左右並びで表示するには:

1. ビューを開きます。
2. 「左右並びレイアウト」  (またはテーマに応じて ) をクリックし、左右並びレイアウトに切り替えます。
3. 画面の左右にあるビューポイント・ドロップダウン・メニューを使用して、各側に表示するビューポイントを選択します。

ビューポイントに対する変更の詳細は、[対話型での変更](#)を参照してください

## ノードの特定

ビューポイントを左右並び形式で表示する場合、1つのビューポイントでノードを選択し、もう1つのビューポイントで同じノードを特定できます。ノード特定機能では、まず検索対象ノードのノード・タイプを調べ、そのノード・タイプがターゲットのビューポイントに存在する場合は、そのノード・タイプと名前のノードを明示的に検索します。検索対象ノードのノード・タイプがターゲットのビューポイントに存在しない場合は、ノード・タイプ・コンバータ(設定されている場合)を使用してターゲットのビューポイントでノードを検索します。

階層ビューポイント間でノードを特定する場合、ノード特定機能はソース・ビューポイントと同じターゲット・ビューポイントの親の下で同じノードの検索を試行します。ノードがターゲット・ビューポイントの同じ親の下に見つからない場合は、ノード特定機能は最初に見つかるノードを検索します。

### ノート:


検索対象のノード・タイプで代替名プロパティが使用可能になっている場合、ノード特定機能では、最初にノード名、次に代替名を検索してノードを特定します。

特定とは、ノードを1回かぎり検索することです。複数のノードを特定する場合は、[ノードの整列](#)を参照してください。

### ノート:

左右並びレイアウトの2つのビューポイントで異なるノード・タイプのノードを特定するには、ノード・タイプ・コンバータが必要です([ノード・タイプ・コンバータの操作](#)を参照)。

ノードは次によって特定できます。

- ビューポイントでノードを選択します。  
たとえば、Depts by Geography ビューポイントでノード 220 を選択して特定ボタン  をクリックし、Depts by LOB ビューポイントでこのノードを検索します。

Departments

Depts by Geography

Name	Description
▶ ASN	ASEAN
▶ EMA	EMEA
▶ NAM	North America
▶ CAD	Canada
▶ ONT	Ontario
◆ 220	CAD Organization

GEO > NAM > CAD > ONT > 220

Depts by LOB

Name	Description
▶ TD	Total Department
◆ 0	No Department
▶ 100	Resources
▶ 200	Other Corporate
◆ 210	US Organization
◆ 220	CAD Organization
◆ 230	International Organization
▶ 403	Sales
▶ 500	Manufacturing
◆ 523	LPI MES Labor Performance
▶ 601	Other Departments
▶ 700	Finance_700
▶ 800	HR and Administration
◆ 999	Encumbrance

TD > 200 > 220

- 要求アイテムでノードを選択します。

たとえば、ノード 105 の要求アイテムで Depts by LOB を選択して、Depts by LOB ビューポイント内のこのノードに移動します。

Request 1022

Draft

Request for Departments created by Tom Smith.

All Items

105	
-----	--

Depts by Geography

Depts by LOB

Departments - Request 1022

Depts by Geography


Name	Description
▶ CAD	Canada
▶ ONT	Ontario
◆ 105	
◆ 220	CAD Organization
▶ USA	United States

Depts by LOB

Name	Description
▶ 100	Resources
◆ 105	
◆ 110	Facilities Resources
◆ 111	West Region Resources
◆ 112	East Region Resources

Submit Done

左右並びビューポイントでノードを特定するには:

1. 2つのビューポイントを左右並び形式で表示します
2. 1つのビューポイントでノードを選択します
3. ノードを選択したビューポイントで  をクリックします。

### ノート:

特定プロセスの実行中、ページで他の操作を実行することはできません。

もう 1 つのビューポイントでノードが強調表示されます。特定されるノードは、同じノード名または代替名とノード・タイプを持つノード、またはノード・タイプが異なる場合は、同じノード名または代替名とノード・タイプ・コンバータ(適用可能な場合)を持つノードです。

## ノードの整列


ビューポイントを左右に並べて表示するときに、ノードおよびプロパティを整列して類似点および差異を確認できます。整列モードを有効にしておけば、ビューポイントを移動しても、両方のビューポイントの整列状態が保持されます。たとえば、次の場所でノードをクリックしたときにノードは整列します。

- 階層またはリスト
- 検索結果
- 要求アイテム
- ビューポイントの検証結果
- ナビゲーション・リンク(ブレッド・クラム)

### ノート:


ノード・タイプ・コンバータは、2つのビューポイントを左右に並べて、ノード・タイプが異なるノードを整列する場合に必要です。ノード・タイプ・コンバータの操作を参照してください。

複数ビューポイントのノードを整列するには:

1. 2つのビューポイントを選択します。  
2つのビューポイントが同じノード・タイプを使用していない場合は、ノード・タイプ・コンバータを定義する必要があります。
2. ノードを選択し、選択したノードのビューポイントに対して  をクリックします。

### ノート:

整列プロセスの実行中は、ページに対するその他の操作は実行できません。

次のスクリーンショットは、 をクリックし、検索結果、ナビゲーション・リンクまたは左側のビューポイントでノード「120」を選択したときに、右側のビューポイントにもそのノードが表示されることを示しています(そのビューポイントにノードが存在する場合)。水平線で区切られた、各ビューポイントに対するプロパティのリストも表示されます。線の上にあるプロパティは2つのビューポイントに共通するプロパティ、またはノード・タイプ・コンバータでマッピングされたプロパティです。線の下にあるプロパティはビューポイント間で異なるプロパティです。

Departments

Depts by Geography

Align button

Click to locate a node in both viewpoints

Align Left


Depts by LOB

Name	Description
EST	Eastern Region
MWE	Midwest Region
ILL	Illinois
MIN	Minnesota
OHO	Ohio
120	Machine Resources

Name	Description
0	No Department Resources
100	Facilities Resources
110	West Region Resources
111	East Region Resources
112	Machine Resources
120	Machine Resources

Name	Dept : 6 Properties
Name	120
Node Prop	
Associated Node Prop	
Memo Property	Your awesome Default Value!

Name	Dept : 7 Properties
Name	120
Node Prop	
Associated Node Prop	
Memo Property	Your awesome Default Value!

 ノート:

どちらのビューポイントからもノードを整列できます。

# 6

## ビューポイントの検証

ビューポイントを検証して、データの整合性の問題があるかどうかを判断できます。外部ソースからのインポート・プロセスの後にビューポイントを検証できます。または、ビューポイントから外部アプリケーションにデータをエクスポートする前にビューポイントを検証できます。

### ノート:

時間ラベル付きビューポイントを検証することはできません。

検証は、ビューポイント内のすべてのノード、関係およびプロパティに対して実行され、ビューポイントのアプリケーション・タイプ、ディメンション・タイプおよびノード・タイプによって異なる可能性があります。[検証および制約の理解](#)を参照してください。

### ノート:


複製タブでビューポイントを開いている場合は、そのビューポイントの元のタブからのみ検証を実行できます。複製タブから直接検証を実行することはできません。ただし、元のタブおよび複製タブの両方に同じビューポイントが表示されるため、元のタブに表示される検証の問題は、複製タブにも表示されます。

デフォルトでは、ビューポイントを検証するときに、システム検証、重要度が「エラー」または「警告」([検証重要度の理解](#)を参照)のアプリケーション検証とカスタム検証、プロパティ検証および制約が実行されます。特定のアプリケーション検証とカスタム検証、プロパティ・レベルの検証および制約の実行を選択できます。


### ノート:




重要度が「無視」のアプリケーション検証およびカスタム検証は、ビューポイントの検証中には実行されません。

**ビューポイント内のすべてのノードに対してすべての検証を実行するには:**

1. 「ビュー」で、アクティブなビューを開き、ビューポイントを選択します。
2. カーソルをビューポイント名の右に置き、「アクション」 をクリックし、「検証」を選択します。  
システム検証、重要度が「エラー」または「警告」のアプリケーション検証とカスタム検証、プロパティ検証およびすべての制約が実行されます。

**実行する特定の検証または検証する特定のノードを選択するには:**

1. 「ビュー」で、アクティブなビューを開き、ビューポイントを選択します。
2. ページの左側にある「検証」 をクリックし、ドロップダウン・メニューを使用して次のものを選択します:
  - 検証するビューポイント
  - 検証するノード:
    - **すべてのノード:** 選択したビューポイント内のすべてのノードを検証します
    - **選択したノードおよび子孫:** 選択したノードとそのすべての子孫を検証します
    - **選択したノードのみ:** ビューポイントで現在選択しているノードのみを検証します。
  - 実行する検証:
    - **すべての検証:** システム検証、重要度が「エラー」または「警告」のアプリケーション検証とカスタム検証、プロパティ検証およびすべての制約が実行されます。
    - **選択した検証:** チェック・ボックスを使用して、次の検証のカテゴリを有効または無効にします:
      - \* **検証:** 重要度が「エラー」または「警告」のすべての有効なアプリケーション・レベルの検証およびカスタム検証から選択できます。
      - \* **プロパティ:** プロパティ・レベルの検証、およびそのプロパティをトリガーとして使用するカスタム検証を実行するために、アクセス権のあるプロパティから選択できます。
      - \* **制約:** すべての有効な制約から選択できます

選択したオプションについて、「検証の選択」 をクリックし、検証セレクトタを使用して、実行する特定の検証、プロパティ・レベルの検証および制約を選択します。
3. 「検証」 をクリックします。検証を実行するには、実行する検証、プロパティ・レベルの検証または制約を 1 つ以上選択しておく必要があります。
4. **オプション:** 検証エラーがある場合は、「検証結果のダウンロード」 をクリックして、検証エラーをファイルにダウンロードします。これにより、エラーをオフラインで確認できます。ファイル内のエラーを修正し、修正したファイルを要求アイテムとしてロードできます。[ロード・ファイルを使用する変更](#)を参照してください。






#### ノート:

最大で 1000 ノードの検証の失敗が画面に表示されます。検証結果をファイルにダウンロードすると、検証の失敗の完全なセットがダウンロードされます。

## 検証の問題の解決

検証結果を参照し、無効なノードに移動して問題を修正できます。検証の問題を修正すると、検証結果ウィンドウが自動的に更新され、残っているビューポイントの問題のみが表示されます。検証の詳細は、[検証および制約の理解](#)を参照してください。

検証の問題を解決するには:


1. ビューポイントの検証を実行した後、修正する必要がある検証エラーがある場合は、「**要求**」 (またはテーマに応じて)をクリックしてから、 をクリックして新しい要求を作成するか、既存の要求を開きます。
2. ページの左側で「**検証**」 (またはテーマに応じて)をクリックして、検証結果を表示します。

### ノート:

共有ノードを許可する階層ビューポイントの複数の場所にノードが存在する場合、検証結果にノードが複数回リストアップされることがあります。ノードはそれぞれの場所で同じ問題を持つことも、異なる問題を持つこともあります。

3. 次のいずれかのアクションを実行します。
  - 画面の検証の問題を修正します:
    - a. 検証結果でノードを選択して、ビューポイント内のそのノードに移動します。

検証結果で選択したノードについて、無効なノードの検証メッセージが表示されます。無効なプロパティはプロパティ・ペインに赤で記載されます。無効なプロパティをクリックして、検証メッセージを表示します。
    - b. ビューポイントでプロパティの更新、親の変更、ノードの削除などの要求アクションを実行して、検証の問題を解決します。ノードの親の変更の詳細は、[親ノードの変更](#)を参照してください。

ノードの問題をすべて解決すると、ノードは検証結果リストから除去されます。
  - 「**検証結果のダウンロード**」 をクリックして検証エラーをファイルにダウンロードすると、検証エラーをオフラインで確認して修正できます。検証エラーは検証重要度でソートされます。次に、修正したファイルを要求アイテムとしてロードできます。[ロード・ファイルを使用する変更](#)を参照してください。

### ノート:

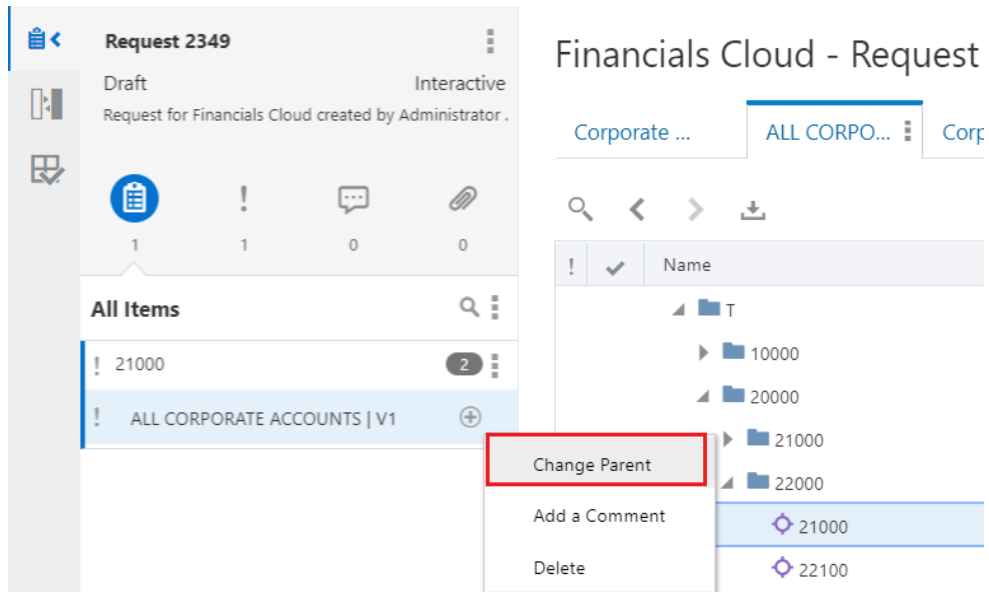
検証タブから検証結果をクリアするには、ペイン右上隅の X をクリックします。



## 親ノードの変更

親がない、または無効な親がある要求アイテムの場合、次のメソッドのいずれかを使用して親を変更します。

- 無効な親がある要求アイテム・インスタンスのコンテキスト・メニューから、「**親の変更**」を選択して有効な親を選択し、「**OK**」をクリックします。



- 無効な親がある要求アイテムを選択し、要求詳細ペインからビューポイントの親ノードにドラッグ・アンド・ドロップします。

# 7

## ビューポイントの比較

2つのビューポイントを体系的に比較し、これらの間でノードの違いを特定できます。たとえば、比較結果を使用して、代替階層に挿入する必要があるノードを特定できます。

### ビデオ

目的	参照するビデオ
ビューポイントの比較について学習	 <a href="#">ビューポイントの比較</a>

異なるビューポイント間でデータを比較する機能は、複数のアプリケーション全体にわたってデータを同期化する上で不可欠の機能です。

### ノート:

2つのビューポイント全体にわたってノード・タイプが異なるノードを左右並べたレイアウトで比較するには、ノード・タイプ・コンバータが必要です。

ビューポイント是对話型で比較でき([ビューポイントの比較の実行](#)を参照)、頻繁に実行する比較については、比較プロファイル([比較プロファイルの作成、編集および削除](#)を参照)を作成して、両方のビューポイントへのアクセス権を持つユーザーが実行できる再使用可能なプロファイルにパラメータを保存できます。

比較プロファイルを使用すると、ノード式を定義して、比較されるノードをフィルタすることもできます。

詳細は、次を参照してください:

- [ビューポイントの比較の実行](#)
- [比較プロファイルの作成、編集および削除](#)
- [比較結果を使用するノード差異の修正](#)
- [ノード・タイプ・コンバータの操作](#)

## ビューポイントの比較の実行

2つのビューポイントを比較して、それらの間の差異を確認できます。また、ビューポイントの複製タブを開くことで、同じビューポイントの2つの異なる階層を比較できます。

ビューポイントを比較して、次を行えます。

- 欠落ノードの検索: 一方のビューポイントには存在し、もう一方のビューポイントには存在しないノードを検索します。
- 関係の比較: 両方のビューポイントに存在するが、親が異なるノードを検索します。

- プロパティ値の比較: 両方のビューポイントに存在するが、1つ以上のプロパティ値に違いがあるノードを検索します。

#### ノート:

文字列またはブール・データ型のプロパティに対して比較を実行すると、プロパティの表示される値および実際の値の両方が差異に対して評価されます。たとえば、あるブール・プロパティの表示される値が"True"で、2つ目のブール・プロパティでは"Yes"の場合、これらのプロパティは異なるプロパティ値を持つとは識別されません。

#### ヒント:

比較を簡単に行えるように、列として表示するプロパティを指定できます。[ビューポイントでのプロパティの表示方法の構成](#)を参照してください。

同時に複数のタイプの比較を実行できます。たとえば、欠落ノードと親が異なるノードの比較を実行できます。

#### ヒント:

繰り返し実行される比較の場合、比較パラメータのセットを再利用可能なプロファイルに保存できる比較プロファイルを作成できます。その後、その比較を実行するたびにパラメータを手動で指定するかわりに、ドロップダウン・メニューから定義済プロファイルを選択します。[比較プロファイルの作成、編集および削除](#)を参照してください。

比較対象のノード・タイプで代替名プロパティが使用可能になっている場合は、ノード名と代替名の両方が比較時に評価されます。名前プロパティの一致は、代替名の一致より優先されます。




階層ビューポイントの場合、階層全体を比較したり、最上位ノードを選択して階層の一部と比較できます。また、最下位ノードのみを階層全体または選択した最上位ノードと比較することもできます。

ビューポイント間の差異を修正すると、比較結果は自動的に更新されます。

#### ノート:


異なるノード・タイプを使用するビューポイントの比較を実行すると、ノード・タイプ・コンバータを設定する必要があることを示すメッセージが表示されます。詳細は、[ノード・タイプ・コンバータの操作](#)を参照してください。


## 2つの異なるビューポイントの比較

1. 左ペインで、「比較」  (またはテーマに応じて ) をクリックして「比較」タブを開きます。
2. 次のいずれかのアクションを実行します。
  - 比較プロファイルを選択するには:
    - a. 「ビューポイントの比較」ヘッダーの下のドロップダウン・メニューをクリックします。  
「左から右」および「右から左」に対話型で比較するオプションが最初に表示され、その後に定義済みの**比較プロファイル**が表示されます。比較プロファイルは両方のビューポイントがアクティブである場合にのみ表示されます。アーカイブ済ビューポイントを含むプロファイルは表示されません。
    - b. 実行する比較プロファイルを選択します。  
プロファイル内のビューポイントは自動的に選択されます。他のすべての比較パラメータは無効になります。
    - c. **オプション**: 実行する比較プロファイルを選択した後、**比較アクション**  をクリックし、「検査」を選択して比較プロファイル・パラメータを検査または編集します。

比較パラメータの作成の詳細は、[比較プロファイルの作成、編集および削除](#)を参照してください。

- 対話型のビューポイントの比較を作成するには:
  - a. 比較するビューポイントを選択します。
  - b. 比較する方向を選択します。  
たとえば、欠落ノードの場合:
    - 「左から右」を選択した場合、比較によって、左のビューポイントにはあるが右のビューポイントにはないノードが特定されます。
    - 「右から左」を選択した場合、比較によって、右のビューポイントにはあるが左のビューポイントにはないノードが特定されます。
  - c. 比較するノードを選択します(1つを選択)。
    - **すべてのノード**: ビューポイントのすべてのノードを比較します。
    - **最下位ノード**: ビューポイントのすべての最下位ノードを比較します。
    - **選択したノードおよび子孫**: 選択したノードおよびその下位のすべてのノードを比較します。(階層ビューポイントのみ)
    - **選択したノードの最下位ノード**: 選択したノードの下位にある最下位ノードを比較します。(階層ビューポイントのみ)
  - d. 実行する比較のタイプをクリックします(1つ以上を選択)。
    - **欠落ノードの検索**
    - **関係の比較**(階層ビューポイントのみ)
    - **プロパティ値の比較**


- e. **オプション:** プロパティの値を比較する場合は、**比較するプロパティの選択**  をクリックし、プロパティ・セレクトを使用して比較する特定のプロパティを選択します。右側でプロパティをクリックして選択します。「X」をクリックして、選択したプロパティを削除します。

3. **比較実行**  をクリックして、選択したビューポイントまたは比較プロファイルの比較を実行します。

比較結果のノードが「**比較**」ペインに表示されます。階層ビューポイントの場合、親名も表示されます。比較結果が画面に表示できる最大を超える場合、結果をダウンロードして完全なセットを表示できます。

ノードをクリックすると、ノードが存在するビューポイントにノードが表示されます。[ノードの整列](#)を参照してください。


 **ノート:**


プロパティの比較の場合、「**整列: 左**」が自動的に選択され、比較結果のノードをクリックすると、ノードは両方のビューポイントにあります。関係の比較の場合、どちらかのビューポイントで  をクリックしてから、比較結果のノードをクリックすると、ノードは両方のビューポイントにあります。

ビューポイント間のノードの差異を解決する要求を作成できます([比較結果を使用するノード差異の修正](#)を参照)。差異を解決すると、ノードは比較結果から除去されます。

 **ノート:**

異なる親の下の各共有ノードは、比較ペインに別々にリストされます。



4. **オプション:** 比較条件を変更して**比較のリフレッシュ**  をクリックし、新しい比較を実行します。


5. **オプション:** 「ビューポイントの比較」ヘッダーの「**アクション**」  をクリックして「**ファイルにダウンロード**」を選択することで、比較結果を Excel ファイルにダウンロードします。ダウンロードしたファイルの個別のタブにビューポイントが表示されます。

 **ノート:**

ダウンロードしたファイルには、画面に表示される結果のみでなく、完全な比較結果が含まれます。

## 同じビューポイント内の異なる階層の比較

1. 比較する階層を含むビューポイントの複製タブを開きます。[複製ビューポイント・タブの使用](#)を参照してください。
2. 左ペインで、「**比較**」 (またはテーマに応じて)をクリックして「**比較**」タブを開きます。
3. 次のいずれかのアクションを実行します。
  - 比較プロファイルを選択するには:

- a. 「**ビューポイントの比較**」ヘッダーの下のドロップダウン・メニューをクリックします。  
「**左から右**」および「**右から左**」に対話型で比較するオプションが最初に表示され、その後に定義済みの**比較プロファイル**が表示されます。比較プロファイルは両方のビューポイントがアクティブである場合にのみ表示されます。アーカイブ済ビューポイントを含むプロファイルは表示されません。
- b. 実行する比較プロファイルを選択します。  
ビューポイントの複製タブがビューに追加され(まだ存在しない場合)、左右並びレイアウトで表示されます。他のすべての比較パラメータは無効になります。
- c. **オプション**: 実行する比較プロファイルを選択した後、**比較アクション**  をクリックし、「**検査**」を選択して比較プロファイル・パラメータを検査または編集します。


比較パラメータの作成の詳細は、[比較プロファイルの作成、編集および削除](#)を参照してください。


- 対話型のビューポイントの比較を作成するには:
  - a. 比較するビューポイントの元のタブおよび複製タブを選択します。
  - b. 比較する方向を選択します。
  - c. 比較するノードを選択します(1つを選択)。
    - **選択したノードおよび子孫**: 選択したノードおよびその下位のすべてのノードを比較します。
    - **選択したノードの最下位ノード**: 選択したノードの下位にある最下位ノードを比較します。

### ノート:

元のタブおよび複製タブには同じビューポイントが表示されるため、「**すべてのノード**」および「**最下位ノード**」オプションを使用しても比較の差異は生成されません。

- d. 実行する比較のタイプをクリックします(1つ以上を選択)。
  - **欠落ノードの検索**
  - **関係の比較**
  - **プロパティ値の比較**

e. **オプション:** プロパティの値を比較する場合は、**比較するプロパティの選択**  をクリックし、プロパティ・セレクタを使用して比較する特定のプロパティを選択します。右側でプロパティをクリックして選択します。「X」をクリックして、選択したプロパティを削除します。

4. **オプション:** プロパティの値を比較する場合は、**比較するプロパティの選択**  をクリックし、プロパティ・セレクタを使用して比較する特定のプロパティを選択します。右側でプロパティをクリックして選択します。「X」をクリックして、選択したプロパティを削除します。

5. **比較実行**  をクリックして、選択したビューポイントの比較を実行します。

### 比較結果の操作

比較を実行した後、比較結果のノードが「**比較**」ペインに表示されます。


#### ノート:

異なる親の下の各共有ノードは、比較ペインに別々にリストされます。

比較結果で、次のアクションを実行できます:

- ノードをクリックすると、ノードが存在するビューポイントにノードが表示されます。[ノードの整列](#)を参照してください。

#### ノート:

関係およびプロパティ比較の場合、方向(左揃えまたは右揃え)は比較の方向に基づいて自動的に選択され、比較結果のノードをクリックすると、ノードは比較されている選択したノードの下の両方のビューポイントにあります。関係の比較の場合、どちらかのビューポイントで  をクリックしてから、比較結果のノードをクリックすると、ノードは比較されている選択したノードの下の両方のビューポイントにあります。

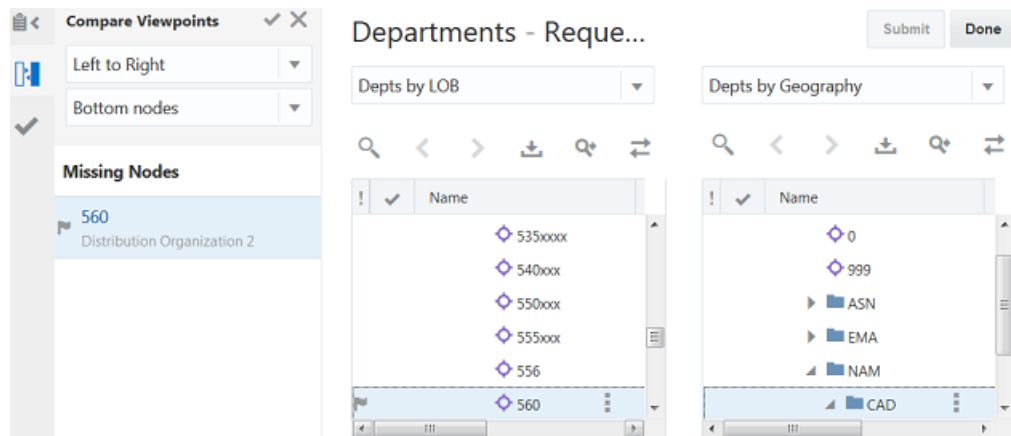
- ビューポイント間のノードの差異を解決する要求を作成します([比較結果を使用するノード差異の修正](#)を参照)。差異を解決すると、ノードは比較結果から除去されます。

## ビューポイントの比較の例

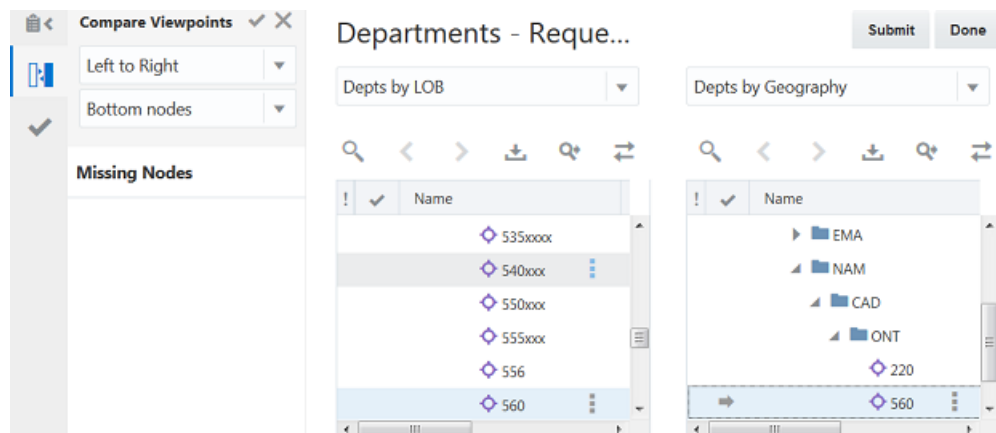
このトピックには、様々なタイプのビューポイントと比較する例と、それらの使用方法が含まれています。

### 欠落ノードの例

次の例では、Depts by LOB ビューポイントと Depts by Geography ビューポイントの最下位ノードを比較しました。その結果、Depts by LOB ビューポイントには Depts by Geography ビューポイントに存在しないノードが1つあることがわかりました。



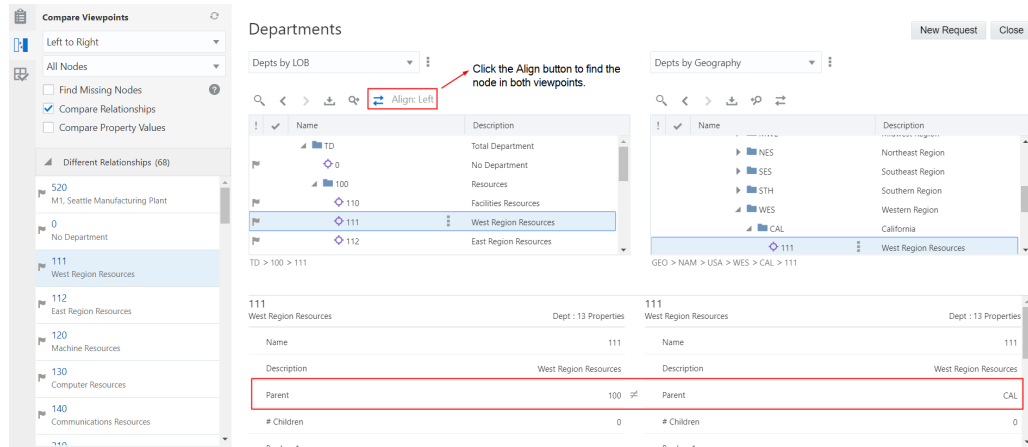
差異を解決するために、要求を作成し、ノード 560 を LOB ビューポイントから Geography ビューポイントにドラッグしました。ノードが Geography ビューポイントに追加されるとすぐに、ノード 560 は比較結果から除去されます。Geography ビューポイントへの変更をコミットする要求を送信しました。



### 関係の比較の例

次の例では、Depts by LOB ビューポイントと Depts by Geography ビューポイントのすべてのノードの関係を比較しました。両方のビューポイントに存在するが、親が異なるノードが表示されます。ノードは左側のビューポイントに基づいて整列されるため、比較結果のノード **111** をクリックすると、ノードは両方のビューポイントに表示されます。

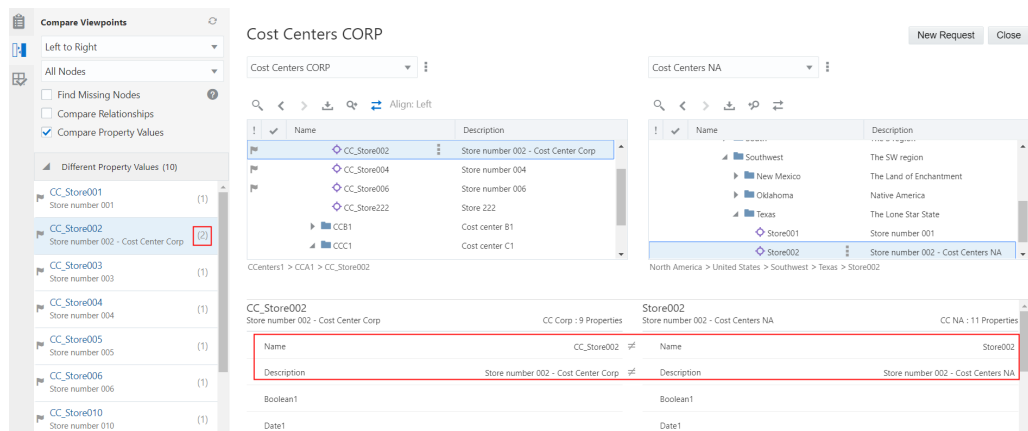




プロパティ・パネルには、親ノードに異なる値が表示されます。

### プロパティの比較の例

次の例では、コスト・センター CORP ビューポイントとコスト・センター NA ビューポイントのすべてのノードのプロパティを比較しました。比較結果には、Store002 ノードの2つのプロパティの違いが示されます。比較結果で CC\_Store002 をクリックします。「整列: 左」が自動的に選択されるため、ノードは両方のビューポイントに表示され、プロパティ・パネルにはこのノードの名前および説明プロパティの違いが示されます。



## 比較結果を使用するノード差異の修正

比較の実行結果を使用して、差異を修正し、2つのビューポイント間の変更を合理化できます。ドラフト要求を作成または開いて、比較での差異に基づいて変更したり、新しい要求を生成できます。

### 欠落ノードの修正

欠落ノードの場合、ノードをドラッグ・アンド・ドロップして、ビューポイントに挿入できます。ソースからターゲットにノードをドラッグ・アンド・ドロップするには、ソース・データ・オブジェクトに対して少なくとも参加者(読取り)権限、ターゲット・データ・オブジェクトに対して少なくとも参加者(書込み)権限が必要です。

欠落ノードの差異を修正するには:

1. 2つのビューポイントを開いて左右に並べます。
2. 要求を新しく開始するか、既存の要求を開きます。
3. いずれかのビューポイントで、ノード・タイプとして子ノードが許可されるノードを選択します。
4. そのビューポイントから別のビューポイントにノードをドラッグします。

#### ノート:

ノードをドロップする親ノードに対して、このノード・タイプの子ノードを持つことが許可されている必要があります。ビューポイント間でノード・タイプが異なる場合は、ドラッグ・アンド・ドロップが正常に機能するようにノード・タイプ・コンバータを設定する必要があります。

- ターゲット・ノード・タイプに同じ名前のノードが存在しない場合は、ドロップされたビューポイントの親の下にノードが新しく追加されます。
- ターゲット・ノード・タイプに同じ名前のノードが存在せず、使用する階層セットでノードの共有が許可されている場合は、ドロップされたビューポイントの親の下に既存のノードが挿入されます。

### 関係およびプロパティの差異の修正

整列機能を使用して、関係またはプロパティに差異がある両方のビューポイント内の既存のノードを表示するには、[ノードの整列](#)を参照してください。

#### ノート:

方向(左揃えまたは右揃え)は、プロパティまたは関係を比較する際の比較の方向に基づいて自動的に選択されます。比較結果のノードをクリックすると、ノードは、比較されている選択したノードの下の両方のビューポイントにあります。

- 関係の差異は、いずれかのビューポイントでノードを移動するか、共有ノード(許可される場合)を挿入することで解決できます。
- プロパティの差異は、いずれかのビューポイントで値を変更するか、ビューポイント間で値をコピーすることで解決できます。

### 比較結果からの要求アイテムの作成

ビューポイント間の差異を修正する際に手動で変更するのではなく、比較結果から要求を直接作成できます。比較を実行した後、要求を作成し、比較結果から要求アイテムとアクションを生成し、要求を送信して変更をコミットできます。

 **ノート:**


親が不明な場所で追加または挿入されたノードの場合(たとえば、ソース・ビューポイントがリストで、ターゲットが階層の場合)、管理者は、各要求アクションの親値を計算し、その値をビューポイントのノード用に格納する式を定義できます。[計算および格納されたプロパティ](#)を参照してください。

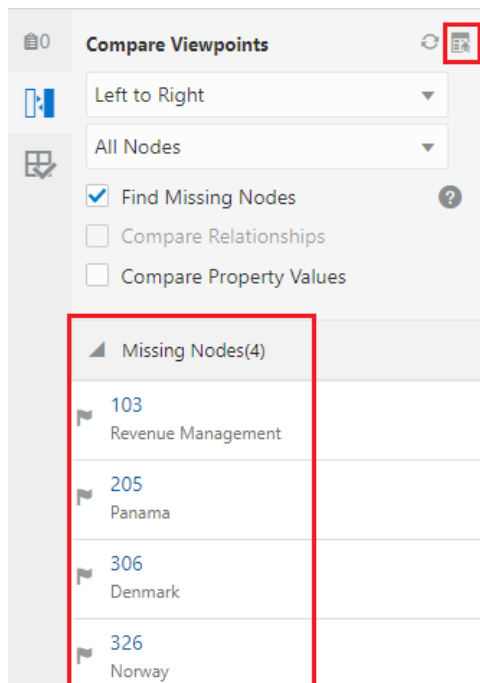
 **注意:**


同じビューポイントの異なる階層を比較する場合([複製ビューポイント・タブの使用](#)を参照)、ターゲット・ビューポイントにノードを挿入するための要求アイテムが作成されないことがあります。ソース階層がターゲット・ビューポイントにも存在し、ソース階層の親の下でノードがすでに特定されているため、ノード挿入用に生成される要求ファイルの行はスキップされる可能性があります。

この状況を解決するには、要求ファイルの添付をダウンロードし、ターゲット階層の適切な親を識別するように親列を変更し、変更したファイルを要求にロードし直します。または、ノードをターゲット階層に手動で挿入することもできます([前述の欠落ノードの修正](#)を参照)。

比較結果から要求アイテムを作成するには:

1. 比較を実行した後、「**新規要求**」をクリックするか、ドラフト要求を開きます。
2. 「**比較からの要求アイテムの作成**」をクリックします。次の例を参照してください。



 **ノート:**

特定のノード(たとえば、最下位ノードのみ)または特定のプロパティを選択してビューポイントの比較をフィルタした場合、要求アイテムは、フィルタされた比較結果に対してのみ作成されます。


3. すべての変更を要求に追加した後、「**送信**」をクリックして変更内容をコミットするか、「**完了**」をクリックして要求を送信せずに閉じます。

# 8

## ビューポイントのサブスクライブ

サブスクリプションを使用すると、ターゲット・ビューポイントソース・ビューポイントにサブスクライブすることで、ビューポイント間でデータを共有できます。ソース・ビューポイントで更新が行われると、ターゲット・ビューポイントで同じ変更を行うための要求が自動的に生成されます。

### ビデオ

目的	参照するビデオ
ビューポイントのサブスクライブについて学習します。	 <a href="#">概要: Enterprise Data Management Cloud でのサブスクリプションの変更管理の自動化</a>

たとえば、Planning および Financial Consolidation and Close アプリケーションでビューポイントを設定し、Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションのビューポイントにサブスクライブできます。一般会計アプリケーションにノードを追加すると(新しいコスト・センターを追加するなど)、そのノードを Planning および Financial Consolidation and Close アプリケーションに追加するための要求が自動的に生成されます。

### 考慮事項

- ビューポイント全体をサブスクライブするか、特定のアクション、最上位ノード(階層ビューポイントの場合)、またはノード条件に対してサブスクリプションを構成することができます。[サブスクリプションへのフィルタおよび条件の追加](#)を参照してください。
- サブスクリプションを作成する際、ターゲット・ビューポイントで要求を自動的に送信するか、サブスクリプション担当者が手動で送信するかを指定します。
  - **自動送信**—ビューポイント間で即座に変更を同期できます。システムでサブスクリプション要求が検証され、変更がターゲット・ビューポイントに自動的に送信されます。

#### ノート:

要求の生成に使用されるいずれかのサブスクリプションで「自動送信」が有効ではない場合、要求は自動送信されません。かわりに、修正処理を実行できるように、サブスクリプション担当者に通知されます。サブスクリプション要求内のアイテムが更新不要または同じキーを持つ行がすでに処理されましたのいずれかのステータスでスキップされ、他の自動送信条件はすべて満たしている場合、要求は送信されます。アイテムがその他のステータスでスキップされる場合(同じ要求内の他のアイテムが前述の2つのいずれかのステータスでスキップされる場合でも)、サブスクリプション要求全体は送信されません。

- **手動送信**—変更を送信する前に、サブスクリプション担当者はターゲット要求をレビューおよび編集できます。

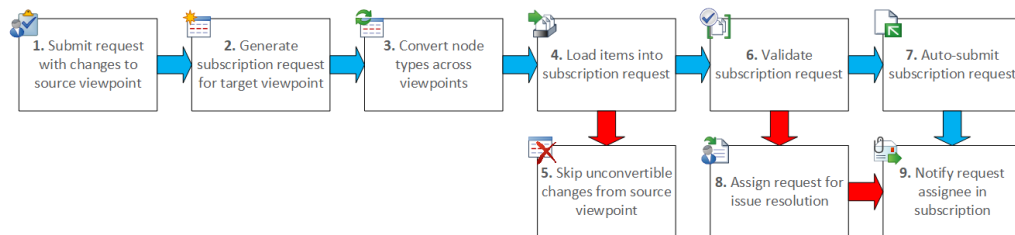
- 自動送信サブスクリプション要求の場合、「承認の省略」を選択して「承認」ステージをスキップし、すべての要求アイテムが有効な場合は要求を自動的に「コミット」ステージに移動します。

複数のサブスクリプションからのアイテムを含むサブスクリプション要求の場合:

- 要求のすべてのサブスクリプションで「承認の省略」が有効な場合、サブスクリプションのすべての要求アイテムが「コミット」ステージに移動されます。
- 要求の一部のサブスクリプションで「承認の省略」が有効で、一部では有効でない場合、サブスクリプション要求は「承認」ステージに移動され、「承認の省略」が有効でないターゲット・ビューポイントのポリシーの承認者が要求を承認するよう招待されます。「承認の省略」が有効なターゲット・ビューポイントのポリシーの承認者は、要求を承認するよう招待されません。
- サブスクリプションでは、ソースのコンテキストはターゲットのコンテキストに関連します。たとえば、ソースで子ノードを追加すると、可能な場合、そのノードはターゲットで同じ親に追加されます。
- レポートを実行して、すべてのビューおよびアプリケーションにわたって定義されているサブスクリプションの完全なリストを表示できます。詳細は、[レポートの操作](#)を参照してください。

### サブスクリプション・プロセスの概要

ターゲット・ビューポイントからソース・ビューポイントにサブスクライブして、サブスクリプションを作成します。サブスクリプションが作成された後、サブスクリプション・プロセスは次のイメージのフローをたどります。このフローは、サブスクリプション・プロセスの概要であり、ユーザーが実行する一連のステップではない点に注意してください。

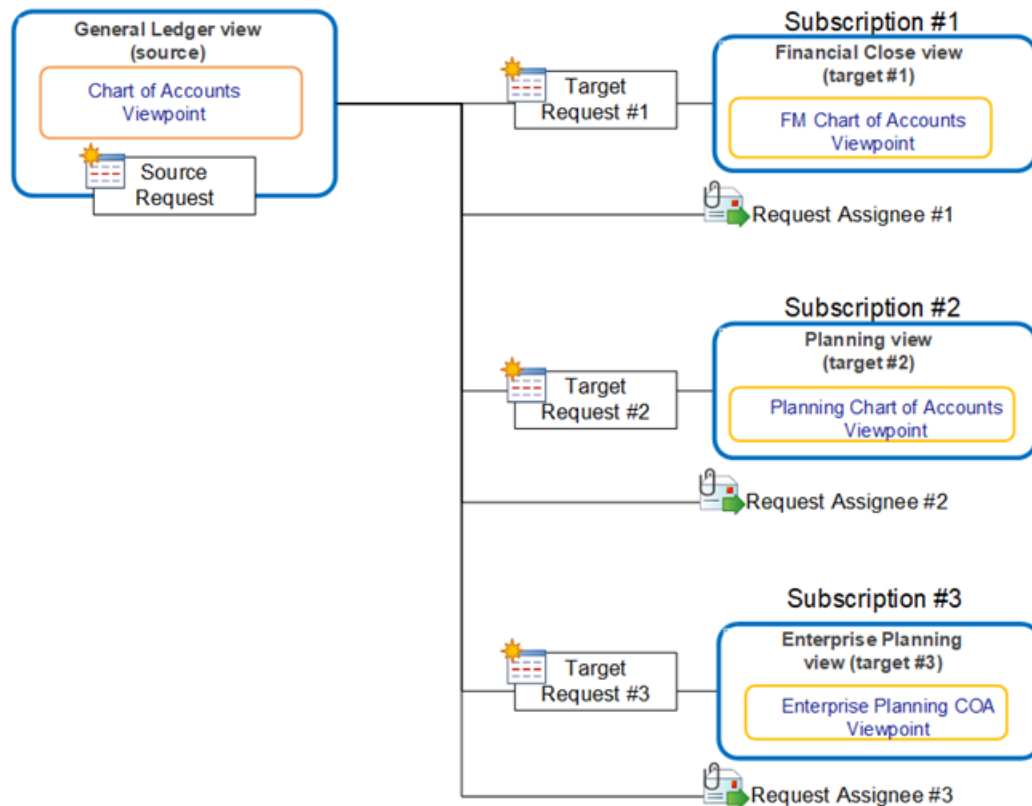


- サブスクリプション・プロセスは、ソース・ビューポイントの変更に伴って、ユーザーが要求を送信するときに開始されます。
- すべてのターゲット・ビューポイントに対する個別または結合ターゲット要求が生成されます。[ターゲット要求の結合](#)を参照してください。
- ノード・タイプ・コンバータを使用して、ソース・ノード・タイプがターゲット・ノード・タイプに変換されます。[サブスクリプションの前提条件](#)を参照してください。
- ノード・タイプが同一の場合、またはノード・タイプ・コンバータを使用してアイテムを変換できる場合、アイテムはターゲット・サブスクリプション要求にロードされます。
- アイテムを変換できない場合(たとえば、そのノード・タイプのノード・タイプ・コンバータが存在しない場合)、アイテムはスキップされます。
- サブスクリプション・ターゲット要求にロードされたすべてのアイテムが検証されます。

7. ターゲット・サブスクリプション要求内のアイテムが有効な場合、どのアイテムもスキップされず、自動送信が使用可能になり、ターゲット・サブスクリプション要求内のアイテムは自動送信され、要求ステータスは**完了**に変わります。
8. ターゲット・サブスクリプション要求内のアイテムが有効でない場合(たとえば、親を特定できない場合)、または自動送信が使用可能でない場合、要求は**ドラフト**・ステータスのままになり、担当者はアクションを取る必要があります。
9. 要求担当者に、要求のステータスとともに通知が送信されます。[要求の通知](#)を参照してください。

### サブスクリプションの例

次の例では、一般会計ビューの勘定体系ビューポイントがサブスクリプション・ソースで、Financial Close ビュー、Planning ビューおよび Enterprise Planning ビューのターゲット・ビューポイントをこれにサブスクライブします。各サブスクリプションには別個の担当者がいます。勘定体系ビューポイントに更新が行われると、サブスクライブしている 3 つのビューポイントで同じ更新が行われるように、ターゲット・サブスクリプション要求が自動的に生成され、各担当者に通知が送信されます。



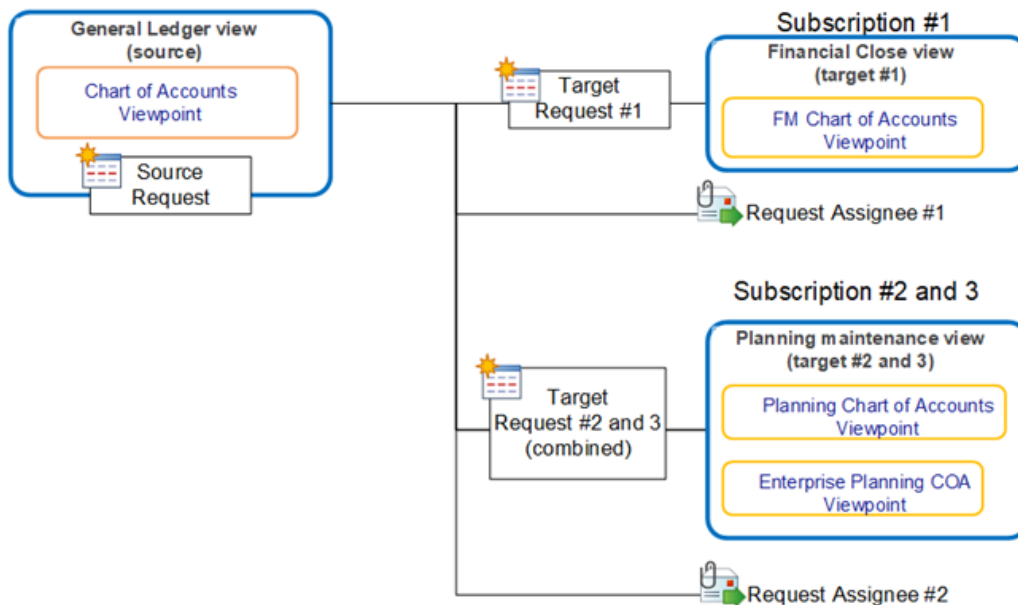
### ターゲット要求の結合

次の条件が満たされる場合、要求アイテムはターゲット要求で結合されます。

- ソース・ビューポイントが同じビューに存在する
- ターゲット・ビューポイントが同じビューに存在する。ソース・ビューポイントと同じビューに存在する必要はありません。

- サブスクリプションの担当者が同じである

次の例では、Planning ビューポイントと Enterprise Planning ビューポイントが Planning Maintenance ビューに追加され、両方のサブスクリプションの担当者は同じです。2つのターゲット・ビューポイントは同じビュー内にあり、担当者が同じであるため、Planning と Enterprise Planning の更新を求めるターゲット要求は、1つの要求に結合されます。



## サブスクリプションの作成、編集および検証

サブスクリプションを作成するには、ターゲット・ビューポイントに移動して、サブスクライブするソース・ビューポイントを選択します。ソース・ビューポイントで変更がコミットされると、ターゲット・ビューポイントで同じ変更を行うための要求が生成されます。

### ベスト・プラクティス

ノード・タイプ・コンバータを作成するとき、ベスト・プラクティスとしては、ソース・ノード・タイプをターゲット・ビューポイントの単一ノード・タイプに変換します。ソース・ノード・タイプを複数のターゲット・ノード・タイプに変換すると、サブスクリプション要求が不明になり、レコードがスキップされる可能性があります。

### サブスクリプションの前提条件

サブスクリプションの作成を可能にするには、これらの条件を満たす必要があります。

- ソース・ビューポイントおよびターゲット・ビューポイントの両方のステータスがアクティブである必要があります。
- サブスクリプションの作成者およびデフォルトと代替の担当者には、十分な権限およびデータ・アクセスが必要です。[要求のセキュリティ](#)を参照してください。
- ソース・ビューポイントとターゲット・ビューポイントの両方に階層タイプ・ノード・セットがある場合は、2つの階層セットは異なる可能性が高く、2つのビュー




ポイントは同等のノード・タイプを少なくとも 1 つ持つ必要があります。つまり、ソース・ビューポイントとターゲット・ビューポイントは、同じアプリケーション内では同じノード・タイプを持つ必要があります。ノード・タイプが異なる場合は、ノード・タイプ・コンバータを設定して、ソース・ノード・タイプをターゲット・ノード・タイプに変換する必要があります。

- ソース・ビューポイントにリスト・タイプ・ノード・セットがあり、ターゲット・ビューポイントに階層タイプ・ノード・セットがある場合は、2 つのビューポイントは同等のノード・タイプを少なくとも 1 つ持つ必要があります。つまり、ソース・ビューポイントとターゲット・ビューポイントは、同じアプリケーション内では同じノード・タイプを持つ必要があります。ノード・タイプが異なる場合は、ノード・タイプ・コンバータを設定して、ソース・ノード・タイプをターゲット・ノード・タイプに変換する必要があります。
- ソース・ビューポイントとターゲット・ビューポイントの両方がリスト・タイプ・ノード・セットを持つ場合、またはソースが階層タイプ・ノード・セットを持ち、ターゲットがリスト・タイプ・ノード・セットを持つ場合、2 つのビューポイントは少なくとも 1 つの異なるノード・タイプを持つ可能性が高いため、ノード・タイプ・コンバータを設定してソース・ノード・タイプをターゲット・ノード・タイプに変換する必要があります。
- ソース・ビューポイントにリスト・タイプ・ノード・セットがあり、ターゲット・ビューポイントに階層タイプ・ノード・セットがある場合にノードを追加または挿入するサブスクリプション・アクションでは、要求アクションごとに階層ビューポイントの親の値を計算できます。管理者は、親の値を計算するための式を定義する必要があります。[計算および格納されたプロパティ](#)を参照してください。
- 計算されたノード名を持つサブスクリプションについては、ソース・ビューポイントでノード名が計算され、結果の名前がターゲット・ビューポイントに渡されます。ターゲット・ビューポイントで名前を計算する場合は、名前プロパティを空白の値、または計算された名前のキーワードのいずれかに変換するように、プロパティ変換をノード・タイプ・コンバータで設定する必要があります。[計算された名前とサブスクリプション](#)を参照してください。
- サブスクリプション要求の要求アイテムが生成されると、ノード・タイプ・コンバータの親変換がソース階層ビューポイントの最上位ノードに対して実行されます。これにより、ソース・ビューポイントに追加された最上位ノードをターゲット階層ビューポイントの別の親の下に配置できます。
- ターゲット・ビューポイント名が 30 文字を超える場合は、30 文字以下のラベルを作成する必要があります。ラベルはサブスクリプション要求ファイルでビューポイント名のかわりに使用されます。[ビューポイントの検査](#)を参照してください。
- 時間ラベル付きビューポイントソース・ビューポイントまたはターゲット・ビューポイントとしてサブスクリプションを作成できません。

### サブスクリプションの作成

ターゲット・ビューポイントを複数のソース・ビューポイントに対してサブスクライブできます。サブスクリプションを作成するには:

1. ターゲット・ビューポイントを含むビューを「**ビュー**」から開きます。
2. ターゲット・ビューポイントを選択します。
3. カーソルをビューポイント名の右に置き、 をクリックしてから「**検査**」を選択します。
4. 「**サブスクリプション**」タブを選択してから「**作成**」をクリックします。
5. サブスクリプションの作成ダイアログ・ボックスで、次のアクションを行います。
  - a. サブスクライブ先のソース・ビューポイントを選択します。

 **ノート:**


サブスクリプションの前提条件の条件に一致するビューポイントのみが選択対象として表示されます。


- b. **オプション:** サブスクリプションの名前と説明を入力します。デフォルトでは、サブスクリプション名は"{Source View Name} | {Source Viewpoint Name}"です。
- c. 「作成」をクリックします。


「作成」をクリックすると、サブスクリプションがサブスクリプション・インスペクタに表示されます。ここから、サブスクリプション設定を編集できます。

### サブスクリプションの編集、有効化、無効化または削除



#### サブスクリプションを編集するには:

1. ターゲット・ビューポイントを含むビューを「ビュー」から開きます。
2. ターゲット・ビューポイントを選択します。
3. カーソルをビューポイント名の右に置き、をクリックしてから「検査」を選択します。
4. 「サブスクリプション」を選択してから、編集するサブスクリプションの名前をクリックします。  
サブスクリプションがサブスクリプション・インスペクタに表示されます。
5. **オプション:** 「全般」タブで、「編集」をクリックし、サブスクリプションの名前または説明を変更します。
6. 「定義」タブで、「編集」をクリックして、次のいずれかのアクションを実行します:
  - デフォルトおよび代替の要求担当者を選択します。サブスクリプション要求の割当てを参照してください。

 **ノート:**

選択できるのは、ターゲット・ビューポイントのディメンションに対して少なくとも参加者(書込み)権限を持つユーザーのみです。   
アイコンは、ユーザーが構成済の電子メール・アドレスを持ち、要求通知を受信できることを示します。

- **オプション:** 次のオプションの 1 つ以上を選択します:


フィールド	説明
有効	<p>サブスクリプションを有効にします。サブスクリプションを作成すると、デフォルトでは無効になります。サブスクリプションを有効にするには、デフォルトまたは代替の担当者を定義しておく必要があります。</p> <p>ビューポイント・インスペクタの「サブスクリプション」タブからサブスクリプションを有効および無効にすることもできます。次のサブスクリプションを有効化、無効化または削除するにはを参照してください。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; background-color: #e6f2ff; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p> <b>ノート:</b></p> <p>サブスクリプションが無効になっていると、ターゲット・ビューポイントに対してサブスクリプション要求または要求アイテムは生成されません。</p> </div>
コラボレーション	<p>要求の協力者として要求が割り当てられていない代替担当者が含まれます。これにより、代替担当者は、要求が割り当てられていない場合も、要求アイテムを変更したり、コメントや添付を追加できます。</p> <p><a href="#">要求についてのコラボレーション</a>を参照してください。</p>
自動送信	<p>検証に合格し、次のいずれかの条件を満たす場合は、サブスクリプションを自動的に送信できます:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- スキップされるアイテムがない場合</li> <li>- 更新不要または同じキーを持つ行がすでに処理されたのいずれかのステータスでアイテムがスキップされる場合。</li> </ul> <p>アイテムがその他のステータスでスキップされる場合(同じ要求内の他のアイテムが前述の 2 つのいずれかのステータスでスキップされる場合でも)、サブスクリプション要求全体は送信されません。</p>
承認の省略	<p>自動送信された要求の承認が省略されるようにします</p> <div style="border: 1px solid #ccc; background-color: #e6f2ff; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p> <b>ノート:</b></p> <p>このオプションは、「自動送信」が選択されている場合にのみ使用できます。</p> </div>

7. **オプション:** 「フィルタ」タブでは、階層ビューポイントのサブスクリプションには、ビューポイント全体をサブスクライブしない場合にのみ最上位ノード・フィルタを追加できます。最上位ノード・フィルタを使用すると、サブスクライブするソース・ビューポイントの分岐を選択できます。[サブスクリプションへのフィルタおよび条件の追加](#)を参照してください
8. 「保存」をクリックします。

### ノート:

サブスクライブ先のソース・ビューポイントを変更するようなサブスクライブの編集はできません。ソース・ビューポイントを変更するには、既存のサブスクリプションを削除し、必要なソース・ビューポイントを使用して新しくサブスクリプションを作成します。

#### サブスクリプションを有効化、無効化または削除するには:

1. 有効化、無効化または削除するサブスクリプションを含むビューポイントを検査します。[ビューポイントの検査](#)を参照してください。
2. 「サブスクリプション」タブで、「編集」をクリックします。
3. アクションを実行するサブスクリプションの「アクション」列で、をクリックし、オプションを選択します:
  - 有効化(サブスクリプションが無効になっている場合にのみ使用可能)
  - 無効化(サブスクリプションが有効になっている場合にのみ使用可能)
  - 削除
4. 「はい」をクリックして確定し、「保存」をクリックします。

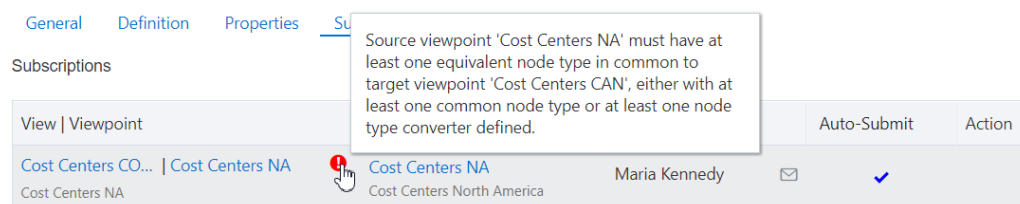
#### サブスクリプションの検証

サブスクリプションを作成した時点では、前述の前提条件は満たされています。ただし、作成後にビューポイントおよびユーザーの構成が変更される可能性があります。結果として前提条件を満たさなくなる可能性があります。サブスクリプション・パネルに移動すると、ビューポイントに対する既存のすべてのサブスクリプションが検証され、ルールを遵守しているかどうかを確認されます。サブスクリプションが無効になっている場合は、問題解決のためのアクションを実行できます。

#### 検証エラーの解決

一般的なサブスクリプション検証エラーおよびそれらのエラー解決のためのアクションを次の例で示します。

ソース・ビューポイントとターゲット・ビューポイントに共通のノード・タイプがない場合、またはノード・タイプ・コンバータがソース・ビューポイントとターゲット・ビューポイントの間に設定されていない場合は、次のエラーが表示されます。

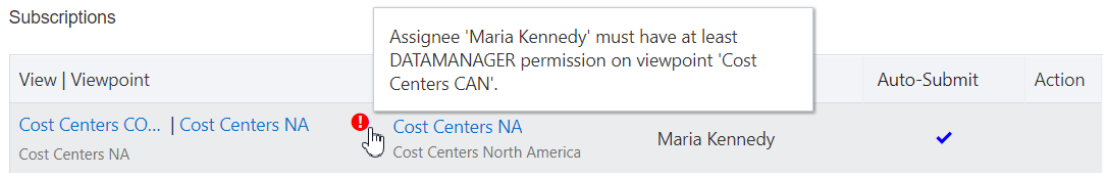


The screenshot shows a table of subscriptions with a tooltip displaying an error message. The error message is: "Source viewpoint 'Cost Centers NA' must have at least one equivalent node type in common to target viewpoint 'Cost Centers CAN', either with at least one common node type or at least one node type converter defined." The table row for "Cost Centers NA" has a red error icon in the "Action" column.

View   Viewpoint	Auto-Submit	Action
Cost Centers CO...   Cost Centers NA Cost Centers NA		Cost Centers NA Cost Centers North America Maria Kennedy ✖

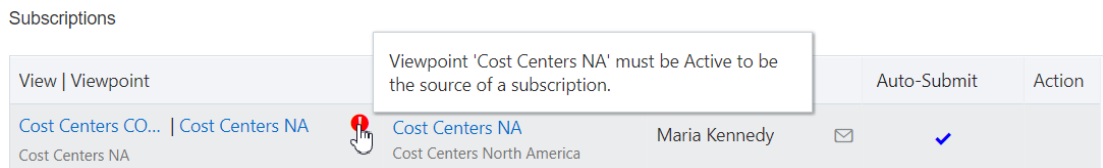
これを解決するには、ノード・タイプ・コンバータを作成してソース・ノード・タイプをターゲット・ノード・タイプに変換します。[ノード・タイプ・コンバータの操作](#)を参照してください。

サブスクリプション担当者に、少なくともソース・ビューポイントに対する **参加者(読取り)** 権限およびターゲット・ビューポイントに対する **参加者(書込み)** 権限がない場合は、次のエラーが表示されます:



これを解決するには、サブスクリプション担当者はソース・ビューポイントに対する **参加者(読取り)** 権限、およびターゲット・ビューポイントのアプリケーションに対する **参加者(書込み)** 権限を少なくとも持つ必要があります。 [アプリケーション権限の割当て](#) および [ビュー権限の割当て](#) を参照してください。

ソースまたはターゲットのいずれかのビューポイントがアクティブでなくなっている場合は、次のエラーが表示されます。



無効ビューポイント・エラーを解決するには、アーカイブ済ビューポイントのステータスをアクティブに変更します。 [データ・オブジェクト](#) および [データ・チェーンのライフサイクル](#) の理解を参照してください。

## サブスクリプション要求の割当て

サブスクリプションを作成する際には、オプションで、そのサブスクリプションによって生成された要求に対するデフォルト担当者として、デフォルト担当者が不在の場合の代替担当者を指定できます。

担当者はターゲット・サブスクリプション要求に要求作成者として追加されます。これにより、担当者は自分に割り当てられたドラフト要求を表示および変更できます。

ユーザーはデフォルト担当者として、ユーザーやグループは代替担当者として割り当てることができます。グループの場合、グループが割り当てられるには、グループ内の少なくとも 1 名がターゲット・ビューポイントのディメンションに対する完全な **参加者(書込み)** 権限(許可されたすべてのアクション、および編集可能なすべてのプロパティ)を持つ必要があります。

### ノート:

代替担当者としてグループを選択した場合、サブスクリプション要求が生成されると、グループの使用可能なすべてのメンバーに要求が割り当てられるまで、グループ内の適切な権限がある使用可能なメンバーに 1 人ひとり割り当てられます。グループのすべての有効なメンバーに割当の最新ラウンドで要求が割り当てられるまで、ユーザーは繰り返されません。その後、割当が最初の使用可能なグループ・メンバーから再度開始されます。

現在協力者として要求を割り当てられていない代替担当者を追加するには、「**コラボレーション**」オプションを有効にします。これにより、要求アイテムを変更し、コメントまたは添付を追加できます。[サブスクリプションの作成、編集および検証](#)を参照してください。

### 担当者の優先度

ユーザーおよびグループはサブスクリプションに次の順序で割り当てられます。

1. 担当者が使用可能であり、かつ適切な権限がある場合、要求は常にデフォルト担当者に割り当てられます。
2. デフォルト担当者が現在不在であるか([プリファレンスの設定](#)を参照)または適切な権限がない場合、要求は代替担当者にリストされているユーザーに次のように割り当てられます。
  - a. 要求割当は代替担当者のリストの最初のユーザーから開始され、代替担当者のリストの下に向かって続行されます。
  - b. 代替担当者が現在不在であるかまたは十分な権限がない場合、要求はリストの次の代替に割り当てられます。
  - c. 代替担当者リストのすべての有効なユーザーに要求が割り当てられたら、現在の割当ラウンドが完了したと見なされ、割当の次のラウンドが開始されます。

#### ノート:

ユーザーが代替担当者に複数回リストされている場合(たとえば、ユーザーが代替担当者としてリストされており、かつ代替担当者としてリストされているグループに含まれている場合)、そのユーザーには割当ラウンドで 1 度のみ要求が割り当てられます。

デフォルト担当者が割り当てられているものの代替担当者が割り当てられておらず、デフォルト担当者が不在の場合、要求はそのデフォルト担当者が戻ってきてから処理できるようにデフォルト担当者に割り当てられます。代替担当者が割り当てられているもののデフォルト担当者が割り当てられておらず、いずれの代替担当者も不在の場合、サブスクリプションはスキップされ、サブスクリプション所有者に通知が送信されます。

#### ノート:

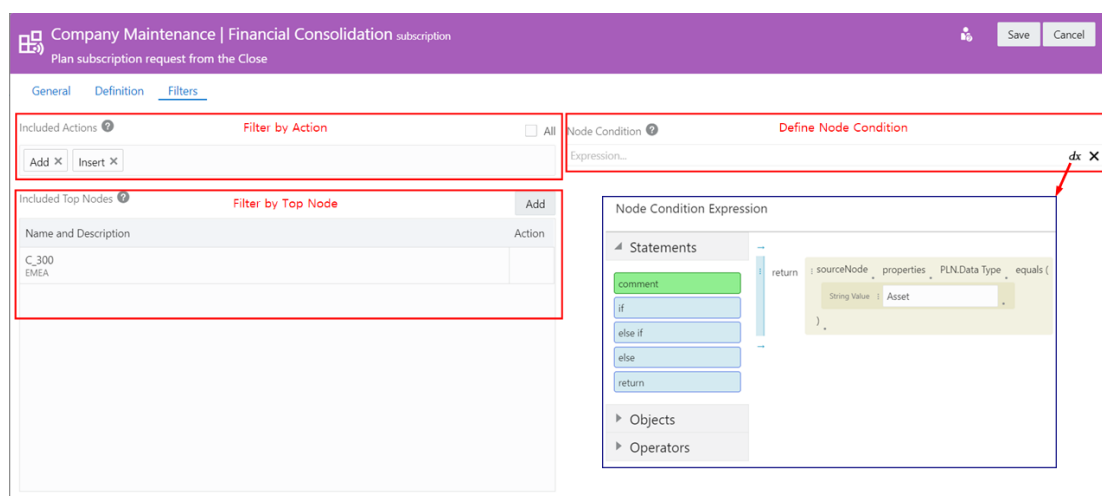
サブスクリプション要求の担当者には、ソース・ビューポイントの権限は必要ありません。

ソース・ビューポイントの要求が送信されると、担当者は電子メール通知を受信します。[要求の通知](#)を参照してください。

## サブスクリプションへのフィルタおよび条件の追加

特定のアクション、最上位ノード(階層ビューポイントの場合)、またはノード条件に対してサブスクリプションを構成できます。たとえば、「追加」および「挿入」アクション、ヨーロッパ最上位ノードの階層ビューポイントのノード、または勘定科目タイプが「資産」のノードのみをサブスクライブできます。サブスクリプション要求が生成されると、指定したフィルタおよび条件を満たすソース・ビューポイントからの要求アイテムのみがターゲット・ビューポイントに作成されます。

フィルタと条件を結合すると、サブスクライブするノードおよびアクションを詳細なレベルで選択できます。次の例では、前述のフィルタおよび条件を結合し、EMEA 最上位ノードの下にある「資産」勘定科目タイプのノードで「追加」および「挿入」アクションのみをサブスクライブしています。



フィルタおよび条件を追加するには、次を参照してください:

- [アクションによるフィルタリング](#)
- [最上位ノードによるフィルタリング](#)
- [ノード条件の定義](#)

## アクションによるフィルタリング

デフォルトでは、ソース・ビューポイントをサブスクライブすると、ソースで実行される各アクションに対してターゲット・ビューポイント用にサブスクリプション要求アイテムが生成されます。アクション・フィルタを使用すると、ソース・ビューポイントのアクションのサブセットのみをサブスクライブできます。たとえば、「追加」および「挿入」アクションのみ、またはプロパティ更新のみをサブスクライブできます。ユーザーがソース・ビューポイントでアクションを実行すると、指定したアクションのみがターゲット・サブスクリプション要求アイテムを生成します。

### 考慮事項

- 階層ビューポイントおよびリスト・ビューポイントの両方のサブスクリプションに対して、アクション・フィルタを追加できます。


- 「すべて」チェック・ボックスをクリアし、アクション・フィルタのアクションのサブセットを指定しない場合、プロパティ更新を含むソース要求は、ターゲット・ビューポイントでそれらのプロパティ更新の要求アイテムを引き続き生成します。
- 同様に、フィルタおよびプロパティ更新に含まれていないアクションがソース要求アイテムに含まれている場合、プロパティ更新の要求アイテムのみがターゲット・ビューポイントに対して生成されます。たとえば、フィルタに「移動」アクションが含まれておらず、ソース要求アイテムに「移動」およびプロパティ更新の両方が含まれている場合、ターゲット・ビューポイントの要求アイテムはプロパティ更新に対してのみ作成されます。

特定のプロパティ更新は、ソース・ビューポイントとターゲット・ビューポイントの間でノード・タイプ・コンバータによって処理されます。[ノード・タイプ・コンバータの操作](#)を参照してください。

#### ノート:

フィルタに「挿入」が含まれているが「追加」が含まれていない、または「除去」が含まれているが「削除」が含まれていない場合、サブスクリプション要求アイテムを処理する際に、ソースの「追加」および「削除」はターゲットで「挿入」および「除去」に変換されます。

#### アクション・フィルタを追加するには:

1. ターゲット・ビューポイントを含むビューを「ビュー」から開きます。
2. ターゲット・ビューポイントを選択します。
3. カーソルをビューポイント名の右に置き、 をクリックしてから「検査」を選択します。
4. 「サブスクリプション」を選択してから、アクション・フィルタを追加するサブスクリプションの名前をクリックします。
5. サブスクリプション・インスペクタで「フィルタ」タブを選択し、「編集」をクリックします。
6. 「含まれるアクション」で、「すべて」チェック・ボックスをクリアします。
7. 「含まれるアクション」内をクリックして、ソース・ビューポイントで使用可能なアクションのドロップ・ダウン・メニューを表示し、追加するアクションを選択します。
8. アクションの選択が終了したら「保存」をクリックします。

アクション・フィルタからアクションを除去するには、「編集」をクリックし、除去するアクションの横にある「X」をクリックします。

## 最上位ノードによるフィルタリング

階層ビューポイントのサブスクリプションでは、ノード・セット全体ではなくソース・ビューポイントの一部をサブスクライブするための最上位ノード・フィルタを追加できます。サブスクライブする対象として複数の最上位ノードを指定できます。ソース・ビューポイントで更新が行われたとき、更新が選択した分岐内であれば、ターゲット・ビューポイントで同じ更新を行うための要求が生成されます。ソース・ビュー





ポイントの更新が選択した分岐内でない場合、その分岐のサブスクリプション要求アイテムは生成されません。

### 考慮事項

- 同じ祖先チェーンのノードまたは子のない最下位ノードなど、階層内のすべてのノードをフィルタ用の最上位ノードとして選択できます。
- ソース・ビューポイントがリスト・タイプ・ノード・セットに基づいている場合は、最上位ノード・フィルタをサブスクリプションに追加できません。
- ソース・ビューポイントの要求アクションの中には、ターゲット・ビューポイント内の同等のアクションに変換されるものがあります。
  - ソースの **Add** アクションおよび **Insert** アクションは、ノードがターゲットに存在している場合、ターゲットで **Update** アクションになることがあります。
  - ソースのノードをターゲットの最上位ノード分岐から移動する場合、ターゲットでは「除去」アクションになります。
  - ソースのノードをターゲットの最上位ノード分岐に移動する場合、ターゲットでは「更新」アクションになります。共有ノードが有効な場合は「挿入」になることがあります、共有ノードが有効でない場合は「移動」になることがあります。
- 異なる最上位ノードの下にある親ノードが、サブスクリプション最上位ノード・フィルタで指定されたノードの下に挿入または移動されると、サブスクリプション要求の一環としてその親ノードの子孫も挿入および移動されます。


### 最上位ノード・フィルタを追加するには:

1. ターゲット・ビューポイントを含むビューを「**ビュー**」から開きます。
2. ターゲット・ビューポイントを選択します。
3. カーソルをビューポイント名の右に置き、 をクリックしてから「**検査**」を選択します。
4. 「**サブスクリプション**」を選択してから、最上位ノード・フィルタを追加するサブスクリプションの名前をクリックします。
5. サブスクリプション・インスペクタで「**フィルタ**」タブを選択し、「**編集**」をクリックします。
6. 「**含まれる最上位ノード**」で、「**追加**」をクリックします。
7. ノード・セレクトタで、サブスクライブする 1 つ以上の最上位ノードを選択します。次のいずれかのアクションを実行します。
  - サブスクライブする最上位ノードの名前を検索バーに入力し、[Enter]を押してノードを直接検索します。
  -  をクリックして、サブスクライブする最上位ノードにドリルします。

選択したノードはチェック・マークで示され、「**選択済**」タブに追加されます。「**選択済**」タブからノードを除去するには、「**X**」をクリックします。


### ノート:

デフォルトでは、ノードの説明はノード・セレクタのノード名の横に表示

されます。「**ノード・プロパティの表示**」 をクリックして、ノード・セレクタに表示する別のプロパティを選択します。ビューポイントで列として表示されるように構成したプロパティを選択できます。[ビューポイントでのプロパティの表示方法の構成](#)を参照してください。

8. 最上位ノードの選択が完了したら、「OK」をクリックし、「保存」をクリックします。

#### 最上位ノード・フィルタを除去するには:

1. サブスクリプション・インスペクタの「定義」タブで、「編集」をクリックします。
2. 「含まれる最上位ノード」で、除去する最上位ノードの「アクション」列にカーソルを置き、 をクリックしてから「除去」を選択します。

## ノード条件の定義


ノード条件式を構成して、ソース・ビューポイントのサブスクライブするノードを定義できます。たとえば、アクティブなノードや、階層内の特定レベルのノードのみをサブスクライブできます。ノード条件式を構成すると、式に対して True と評価されたノードで実行されたアクションのみが、ターゲット・ビューポイントに対してサブスクリプション要求アイテムを生成します。

ビューポイントに関連付けられているノード・タイプ用に構成されたプロパティのみを、式ビルダーで選択できます。

### ノート:

ノード条件式は、「除去」、「名前変更」または「削除」アクションの要求アイテムには適用されません。

#### ノード条件式を定義するには:

1. ターゲット・ビューポイントを含むビューを「ビュー」から開きます。
2. ターゲット・ビューポイントを選択します。
3. カーソルをビューポイント名の右に置き、 をクリックしてから「検査」を選択します。
4. 「サブスクリプション」を選択してから、アクション・フィルタを追加するサブスクリプションの名前をクリックします。
5. サブスクリプション・インスペクタで「フィルタ」タブを選択し、「編集」をクリックします。

6. 「ノード条件」で、「式の定義」  $fx$  (またはテーマに応じて  $dx$ ) をクリックして式ビルダーを起動します。
7. 式ビルダーでノード条件式を作成します。サブスクリプション・ビューポイントで条件に対してノードを評価しているため、式ビルダーで `sourceNode` オブジェクトを使用します。  
式ビルダーにより、ブール値のみに評価される式の作成が示されます。[式の作成](#)を参照してください。
8. ノード条件式の作成が終了したら、「適用」をクリックしてサブスクリプション・インスペクタに戻り、「保存」をクリックします。

## 包含プロパティによるフィルタリング

ノードで包含プロパティを構成することにより、ノードをサブスクリプションに含めるか、サブスクリプションから除外するかを指定できます。

この包含プロパティを使用すると、たとえば、ターゲット・ビューポイントにノードをただちに追加せずに、ソース・ビューポイントのノードを追加できます。次に、ターゲット・ビューポイントにノードを追加する準備ができたなら、ソース・ビューポイントの包含プロパティ値を変更して、サブスクライブしているターゲット・ビューポイントにそのノードを追加するサブスクリプション要求アクションを生成できます。

### Note:

包含プロパティは、ノード・レベル・プロパティである必要があります。

包含プロパティは、サブスクリプションの一環としてソース・ビューポイントのノードをターゲット・ビューポイントに送信するかどうかを制御するブールまたはリストのデータ型プロパティです。

- 包含プロパティがブール・データ型の場合は、ブール値が **True** のときにノードがターゲット・ビューポイントに追加され、値が **False** のときにターゲット・ビューポイントから除去されます。通常、サブスクライブしている単一のターゲット・ビューポイントがあり、そのサブスクリプションにノードを含めるかどうかを指定する場合は、ブール包含プロパティを使用します。
- 包含プロパティがリスト・データ型の場合は、値を入力するか、または「許容値」リストから値を選択して、包含値を指定する必要があります。サブスクライブしている複数のターゲット・ビューポイントがあり、ノードをサブスクリプションに含める必要があるターゲット・ビューポイントを指定する場合は、リスト・データ型プロパティを使用します。

ノードを含めるように包含プロパティがソース・ビューポイントに設定されている場合は(つまり、ブールの値が **True** であるか、またはリストの包含値が含まれている場合)、サブスクリプションによってターゲット・ビューポイントに対してノードの要求アクションが生成されます。ノードがターゲット・ビューポイントにすでに存在しない場合は、追加または挿入されません。

ノードを除外するように包含プロパティがソース・ビューポイントに設定されている場合(つまり、ブールの値が **False** であるか、またはリストの包含値が含まれていない場合)、ターゲット・ビューポイントにノードが存在すると、そのノードは除去または削除されます。存在しない場合、除外されたノードに対する要求アクションは生成されません。

## ベスト・プラクティス

ターゲット・ビューポイントから除外するノードのプロパティ値および子関係を保持する場合は、サブスクリプションで「**含まれるアクション**」フィルタから「**削除**」アクションを除去して、ノードが除去されるのみにすることをお勧めします。[アクションによるフィルタリング](#)を参照してください。

## 考慮事項

- ソース・ビューポイントのノード・タイプからブールまたはリストのデータ型プロパティを使用して、包含プロパティ・フィルタを構成できます。

### Note:

既存のプロパティを包含プロパティとして構成したり、新規プロパティを作成してこのサブスクリプションの包含プロパティとして使用できます。[プロパティの手動での作成](#)を参照してください。

- 包含プロパティには、「なし」または「指定済」のデフォルト・タイプを設定できます。次のシナリオでは、「指定済」デフォルト・タイプが役立ちます：
  - デフォルトで、サブスクリプションのすべてのノードを含め、含めないノードを明示的に指定します。ノードを含めるようにデフォルト値を設定して(ブールの値が True であるか、またはリストの包含値を含める)、除外するノードのプロパティのみを変更できます。
  - デフォルトで、サブスクリプションのすべてのノードを除外し、含めるノードを明示的に指定します。ノードを除外するようにデフォルト値を設定して(ブールの値が False であるか、またはリストの包含値を含めない)、含めるノードのプロパティのみを変更できます。

デフォルト・タイプが「なし」の場合は、すべてのノードの包含プロパティ値を指定する必要があります。

- 「派生」または「継承」はデフォルト・タイプにできません。プロパティを包含プロパティとして指定した後は、そのプロパティのデフォルト・タイプを「派生」または「継承」のいずれかに変更できません。
- ノード式、最上位ノードおよびアクション・フィルタは、生成された要求アクションに適用されます。たとえば、ノードの包含プロパティは含めるように設定されているが、そのノードがサブスクリプションからフィルタリングで除外された最上位ノードの下にある場合、そのノードに対して要求アクションは生成されません。
- ソース・ビューポイントの要求アクションの中には、ターゲット・ビューポイント内の同等のアクションに変換されるものがあります。
  - ソース・ビューポイントの包含値を **False** から **True** に変更する場合(またはリストの包含値を含める場合)、ノードがまだ存在しないと、そのノードはターゲット・ビューポイントに追加(または階層セットに挿入)されます。
  - ソース・ビューポイントの包含値を **True** から **False** に変更する場合(またはリストの包含値を含めない場合)、ノードがターゲット・ビューポイントに存在すると、そのノードは削除(または階層セットから除去)されます。
  - ソース・ビューポイントの包含値を変更しない場合、包含プロパティが **True** に設定されていると(またはリストの包含値を含めると)、ソース・ビューポイ

ントで実行する要求アクションはターゲット・ビューポイントに伝播されます。

- 共有ノードの場合(ターゲット・ビューポイントが階層のとき):
  - ソース・ビューポイントのノードを含めるまたは除外するように包含プロパティが更新された場合は、ノードのすべてのインスタンスに対して要求アクションが生成されます。
  - 包含プロパティが更新されず、ノードを含めるように設定された場合は、アクションが実行されたインスタンスに対してのみ要求アクションが生成されます。
  - 包含プロパティが更新されず、ノードを除外するように設定された場合、ノードのすべてのインスタンスに対して要求アクションは生成されません。

たとえば、ソース・ビューポイントの親 **A**、**B** および **C** の下に共有ノードがあるとします。

- ソース・ビューポイントの親 **A** の下にノードを含めるように包含プロパティを更新する場合は、親 **A** の下にノードを追加し、ターゲット・ビューポイントの親 **B** および **C** の下にノードを挿入するための要求アクションが生成されます。同様に、ソース・ビューポイントの親 **A** の下からノードを除外するように包含プロパティを更新する場合は、親 **A** の下からノードを削除し、ターゲット・ビューポイントの親 **B** および **C** からノードを除去するための要求アクションが生成されます。
- 包含プロパティを更新せず、ノードを含めるように設定された場合は、アクションを実行したノードのインスタンスに対してのみ要求アクションが生成されます。したがって、ソース・ビューポイントの親 **B** の下にあるノードのプロパティを編集した場合は、ターゲット・ビューポイントの親 **B** の下にあるノードの当該プロパティのみを変更するための要求アクションが生成されます。
- 包含プロパティを更新せず、ノードを除外するように設定された場合、アクションを実行したソース・ビューポイントのインスタンスに関係なく、要求アクションは生成されません。

 **Tip:**

サブスクライブしている複数のビューポイントがある場合、どのノードをどのビューポイントが受け取るかを判断するユーザーが 1 名のみ(サービス管理者など)のときは、リスト・データ型の包含プロパティを使用できます。複数の異なるユーザーが存在し、それぞれが管理するビューポイントにプロパティが送信されるかどうかを判断する場合は、複数のブール・データ型の包含プロパティを設定し、プロパティ・レベルのデータ・アクセスを使用して、ビューポイントのブール・プロパティを表示または編集できるユーザーを制御できます。

たとえば、**Planning** 管理者のみが「**Planning** に含める?」プロパティを編集でき、連結管理者のみがソース・ビューポイントの「**連結に含める?**」プロパティを編集できるように、データ・アクセスを構成できます。[包含プロパティの例](#)のブール・データ型の包含プロパティの例を参照してください。

 **Note:**

ブールまたはリストのデータ型のノード・レベル・プロパティの値に基づき、すでにノード条件を使用してサブスクリプションからノードをフィルタリングで除外している場合は([ノード条件の定義](#)を参照)、ノード条件フィルタを包含プロパティ・フィルタに置換する必要があります。

関係レベル・プロパティに対してノード条件フィルタを使用している場合、関係レベル・プロパティに対して包含プロパティ・フィルタは作成できないため、既存のノード条件フィルタを保持する必要があります。

### 包含プロパティの構成

1. 包含プロパティを構成するサブスクリプションを含むビューポイントを検査し、「サブスクリプション」タブをクリックします。
2. サブスクリプションを新規作成するか、または既存のサブスクリプションを編集します。[ビューポイントのサブスクライブ](#)を参照してください。
3. 「フィルタ」タブで「**編集**」をクリックします。
4. 「**包含プロパティ**」ドロップダウン・メニューから、包含プロパティとして構成するプロパティを選択します。選択できるのは、ブールまたはリストのデータ型のノード・プロパティのみです。
5. 選択したプロパティがリスト・データ型の場合は、「**包含値**」に包含値を入力します(または、プロパティで許容値を使用している場合は、値を選択します)。

 **Note:**

プロパティに許容値のアプリケーションまたはノード・タイプ・オーバーライドがある場合は、すべてのオーバーライドからすべての許容値を包含値として選択可能です。

6. 「**保存**」をクリックします。

## 包含プロパティの例

### リスト・データ型の包含プロパティの例

サブスクライブしているターゲット・ビューポイントを指定してソース内のノードに対する変更を含めるように、リスト・データ型の包含プロパティを使用する概念を示すために、**Planning** と連結ビューポイントの両方で変更を同期するようにサブスクリプションが設定された **GL** ソース・ビューポイントがあると想定します。次のように、サブスクリプション内のノードを一方または両方のビューポイントに含めるかどうかを決定するために、包含プロパティを作成できます:

1. 次の詳細を指定して、包含プロパティとして使用する新規プロパティを作成します:

フィールド	値
テンプレート	Custom.List テンプレート

フィールド	値
名前	含めるアプリケーション
説明	このノードをサブスクリプションに含めるターゲット・アプリケーションを決定します。
レベル	ノード
デフォルト・タイプ	指定済
デフォルト値	Plan、Consol
編集可能	True
継承?	なし

プロパティの手動での作成を参照してください

2. プロパティを GL (ソース)ビューポイントの適切なノード・タイプに追加します。プロパティ・パラメータの編集のノード・タイプへのプロパティの追加を参照してください。
3. Planning (ターゲット)ビューポイントのサブスクリプションで、包含プロパティについて次を指定します:
  - **包含プロパティ:** 含めるアプリケーション
  - **包含値:** Plan
4. 連結(ターゲット)ビューポイントのサブスクリプションで、包含プロパティについて次を指定します:
  - **包含プロパティ:** 含めるアプリケーション
  - **包含値:** Consol

これで、GL ビューポイントのノードを使用するとき、含めるアプリケーション・プロパティを編集して、ターゲット・ビューポイントのサブスクリプションにノードを含めるかどうかを制御できます:

- 含めるアプリケーション・プロパティに Plan または Consol の値が含まれる場合、ノードは Planning または連結ターゲット・ビューポイントに追加されます。
- 含めるアプリケーション・プロパティに Plan または Consol の値が含まれない場合、ノードは Planning または連結ターゲット・ビューポイントから除去されます。

### ブール・データ型の包含プロパティの例

ブール・データ型の包含プロパティの場合、Planning と連結ビューポイントの両方で変更を同期するようにサブスクリプションを設定した GL ソース・ビューポイントを使用するシナリオに戻り、今回は、デフォルトで、GL ビューポイントに追加されたノードを Planning に自動的に追加しますが、連結管理者がノードを追加する必要があると判断しないかぎり連結には追加しません。

Planning は True、連結は False をデフォルトに設定して 2 つのブール包含プロパティを作成でき、GL ビューポイントからノードを含めるかどうかを決定するために、各管理者にビューポイントのプロパティへのデータ・アクセスのみを付与できます。

1. 次の詳細を指定して、包含プロパティとして使用する 2 つの新規プロパティを作成します:

フィールド	プロパティ 1	プロパティ 2
テンプレート	Custom.Boolean テンプレート	Custom.Boolean テンプレート
名前	Planning に含める?	連結に含める?
説明	このノードを Planning のサブスクリプションに含めるかどうかを決定します。	このノードを連結のサブスクリプションに含めるかどうかを決定します。
レベル	ノード	ノード
デフォルト・タイプ	指定済	指定済
デフォルト値	True	False
編集可能	True	True
継承?	選択解除	選択解除

[プロパティの手動での作成](#)を参照してください

2. プロパティを GL (ソース)ビューポイントの適切なノード・タイプに追加します。[プロパティ・パラメータの編集のノード・タイプへのプロパティの追加](#)を参照してください。
3. Planning および連結ビューポイント管理者に、それぞれ Planning に含める?および連結に含める?プロパティへの書込みデータ・アクセスを付与します。[データ・アクセスの構成](#)を参照してください。

これで、デフォルトでは、新規ノードは Planning ビューポイントのサブスクリプションに含まれますが、連結ビューポイントのサブスクリプションには含まれません。ただし、ビューポイント管理者は、それぞれのサブスクリプションのプロパティを編集して、アプリケーションに対して特定のノードを含めたり除外することができます:

- Planning 管理者は、Planning (ターゲット)ビューポイントでノードを除外するために、Planning サブスクリプションで Planning に含める?プロパティを False に変更できます。
- 連結管理者は、連結(ターゲット)ビューポイントにノードを含めるために、連結サブスクリプションで連結に含める?プロパティを True に変更できます。




# 9

## 要求について

Oracle Enterprise Data Management Cloud では、データの変更はすべて要求を使用して実行されます。要求は、サブスクリプションを使用してユーザー生成またはシステム生成され、要求が行われるビューの構造に応じて、単一アプリケーション内の階層間で、または複数のアプリケーションにわたって発生する可能性があります。これらのデータに対する変更は、要求アイテムに編成されます。要求アイテムは、特定のノードに対する変更アクションのグループです。要求を使用して、変更をコミットする前に変更をビジュアル化することもできます。

### ビデオ

目的	参照するビデオ
要求を使用したデータの変更についてさらに学習します。	 <a href="#">概要: Enterprise Data Management Cloud での要求の理解</a>

要求内で実行可能な変更アクションは、次のとおりです。

- ノードの追加、挿入、移動、並替え、除去および削除
- 最上位ノードの追加および挿入
- プロパティの更新

Oracle Enterprise Data Management Cloud 内のデータを変更する方法には 3 通りあります。

- 対話型(ビューポイントに対する手動変更)。たとえば、**Oracle Enterprise Data Management Cloud** で、フロリダというノードを米国東南部の子ノードとして追加したり、ジョージアというノードを親の米国南部から親の米国東南部に移動します。ユーザー・インタフェースで行う変更ごとに、要求にアイテムが追加されます。[対話型での変更](#)を参照してください。
- ターゲット・ビューポイントソース・ビューポイントにサブスクライブします。たとえば、**Planning** アプリケーションのエンティティ・ビューポイントに一般会計アプリケーションのエンティティ・ビューポイントにサブスクライブします。一般会計アプリケーションのエンティティ・ビューポイントにコスト・センターを追加すると、そのコスト・センターを **Planning** アプリケーションのエンティティ・ビューポイントに追加するための要求が自動的に生成されます。[ビューポイントのサブスクライブ](#)を参照してください。
- ファイルからロード。たとえば、新しい米国階層を作成しており、50 の新しいノード(それぞれが各州を表す)を追加する必要があるとします。ロード・ファイル内の各変更が、要求内の個別アイテムになります。このシナリオでは、要求内に 50 のアイテムが作成され、各アイテムが追加対象の各州ノードに対応しています。[ロード・ファイルを使用する変更](#)を参照してください。

対話型による変更、サブスクリプションを使用する変更、またはロード・ファイルを使用する変更のいずれの場合も、提案された変更はすべて、変更やファイルのロードを行うビューポイントでビジュアル化されます。変更は一意的な色およびアイコンで表示されるため、階層またはリストのどの部分に変更されたか、および変更によってどの領域が影響を受ける可能性があるかを確認できます。

ビューポイントへの変更の適用中、提案されている変更の妥当性を確認するために検証チェックが実行されます。要求内のアイテムに検証の問題がある場合、失敗の理由を確認し、問題を解決する方法を決定できます。

要求が送信されると、検証チェックが再実行され、変更がコミットされ、変更を使用してビューポイントが更新されます。

時間ラベル付きビューポイントの要求アクションは実行できません。[時間ラベル付きビューポイントの操作](#)を参照してください。

## 要求タイプおよびプロセス・フロー

要求には、4つのタイプがあります。対話型の要求は、ユーザーによって手動で作成されます。サブスクリプション要求は、サブスクリプションによって生成されます。マージ・モードでのインポートまたはロードから、マージ要求が生成されます。連結要求は、複数の連結済ソース要求で構成される、組み合された要求です。

### 対話型要求プロセス・フロー

要求を対話型で作成するプロセス・フローは次のとおりです。

1. ビューを開きます([ビューを開く](#)を参照)
2. 要求を作成します([要求を使用する変更](#)を参照)
3. ビューポイントに変更を加えます。ビューに加えた各変更は要求のアイテムに関連付けられ、アイコンと色を使用して視覚化されます([要求の変更の視覚化](#)を参照)
  - 対話型で([対話型での変更](#)を参照)。
  - ファイルからのロード([ロード・ファイルの使用](#)を参照)
4. 要求にコメントを追加します([要求コメントの追加](#)を参照)
5. 要求または要求アイテムを検証します([要求の検証](#)を参照)
6. 要求を送信します([要求の送信](#)を参照)
7. 送信された要求を表示します([要求アクティビティの操作](#)を参照)

### サブスクリプション要求プロセス・フロー

サブスクリプションによって作成された要求を操作するプロセス・フローは次のとおりです。

1. ターゲット・ビューポイントソース・ビューポイントにサブスクライブします([サブスクリプションの作成、編集および検証](#)を参照)。
2. ソース要求で変更がコミットされると、サブスクリプション担当者は通知を受信します([要求の通知](#)を参照)。
3. サブスクリプション要求でビューポイントの変更を確認します。サブスクリプションを介して受信した各変更は、要求のアイテムに関連付けられ、アイコンと色を使用してビジュアル化されます([要求の変更の視覚化](#)を参照)。
4. 要求にコメントを追加します([要求コメントの追加](#)を参照)
5. 要求を送信します([要求の送信](#)を参照)

6. **(オプション)** 要求ファイル添付と要求アイテム詳細を比較して、サブスクリプション要求の要求アイテムがどのように処理されたかを確認します。[要求ファイルの添付の確認](#)を参照。
7. 完了した要求を表示します([要求アクティビティの操作](#)を参照)。

### インポートおよびロード要求プロセス・フロー

マージ・モードでのインポートまたはロードの結果として生成された要求を操作するプロセス・フローは次のとおりです。

1. 「マージ」モードを使用して、既存のディメンションにデータをインポートするか、既存のビューポイントにデータをロードします。[ディメンションのインポート](#)または[ビューポイント・ロードの実行](#)を参照してください。

要求が「送信」または「承認」ステージにある場合、要求ビューに表示されます。「クローズ済」の場合、インスペクタに表示されます。インポート結果をトランザクション履歴に表示できます。

#### ノート:

インポートの場合は、インポートが完了すると、インポート要求リンクをクリックして、インポート要求に移動できます。

2. 次のいずれかを行います:
  - インポートまたはロードにサブスクリプションのソース・ビューポイントに対する要求アクションが含まれていた場合、ターゲット・ビューポイントのサブスクリプション要求が生成されます。前述の[サブスクリプション要求プロセス・フロー](#)を参照してください。
  - 要求が「送信」または「承認」ステージにある場合、次の手順を続行します。
3. 要求内の変更を確認します。マージ・インポートまたはロードを介して受信した各変更は、要求のアイテムに関連付けられ、アイコンと色を使用してビジュアル化されます([要求の変更の視覚化](#)を参照)。
4. 要求にコメントを追加します([要求コメントの追加](#)を参照)
5. 要求を送信します([要求の送信](#)を参照)
6. 完了した要求を表示します([要求アクティビティの操作](#)を参照)。

### 連結要求プロセス・フロー

[要求連結の理解](#)を参照してください。

#### 要求タイプ別の要求アイテム制限

各要求タイプは、次の最大数の要求アイテムをサポートしています:

- 対話型(対話型で、またはファイルのロードを介して): **10,000** 個の要求アイテム
- サブスクリプション: **12,000** 個の要求アイテム(これにより、最大 **10,000** 個の初期要求アイテムと、サブスクリプション・プロセスの一部として生成される追加の **2,000** 個の要求アイテムのスペースができます)
- マージ・モードでのインポートまたはロード: **20,000** 個の要求アイテム

- 連結: 12,000 個の要求アイテム





## 要求アクション

次の表で、リストと階層で実行できる有効な要求アクションについて説明します。

要求アクション	効果	階層	リスト
ノードの追加	リストまたは階層に新しいノードを追加します。	はい	はい
ノードの削除	すべての階層のすべての親からノードを削除し、アプリケーションのノード・タイプから削除します。	はい	はい
ノード・プロパティの更新	ノード・プロパティに変更を加えます。	はい	はい
ノードの名前変更	ノードの名前を変更します。	はい	はい
ノードの挿入	階層の親ノードの下に既存のノードを挿入します。リスト・ノード・セット、異なる階層セット、または階層セットが共有ノードを許容する場合は同じ階層セットからノードを挿入できます。	はい	いいえ
ノードの移動	ある親から別の親に、ノードのインスタンスを移動します。	はい	いいえ
ノードの並替え	親の下のノードの順序を変更します。	はい	いいえ
ノードの除去	特定の親からノードを除去します。ノードの他の(別の親の下の)インスタンスは除去されません。	はい	いいえ
最上位ノードの追加	新しいノードを階層の最上位ノードとして追加します。	はい	いいえ
最上位ノードの挿入	既存のノードを階層の最上位ノードとして選択します。	はい	いいえ

## 要求の変更の視覚化

ビューに対して行われた変更は一意的な色とアイコンで表示されるため、変更した階層またはリストの部分と、変更の影響を受ける可能性のある領域を確認できます。

アイコン	色	意味
	緑	追加されたノード ノードのリストへの追加 子または兄弟の階層への追加 最上位ノードの追加
	緑	挿入されたノード ノードの挿入 最上位ノードの選択
	赤	除去されたノード ノードの除去
	赤	削除されたノード ノードの削除
	黄	移動されたノード ノードの移動
	黄	並べ替えられたノード ノードの並替え
	黄	更新されたノード・プロパティ ノード・プロパティの更新

# 10

## 要求を使用する変更

ビューを変更する前に、要求を作成する必要があります。ビューに対して行う各変更には、要求内のアイテムが関連付けられます。

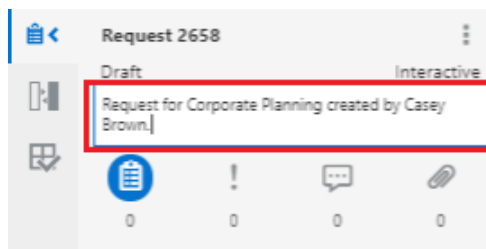
### ビデオ

目的	参照するビデオ
要求を使用した変更について学習します。	 <a href="#">要求を使用した複雑なデータ変更の管理.</a>



### 要求の作成

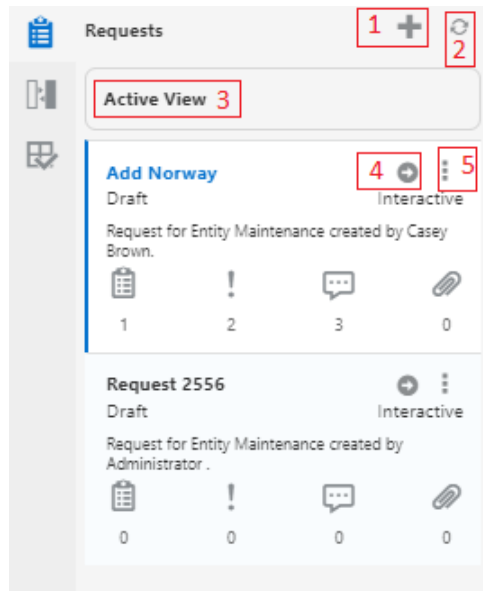
要求を作成するには:

1. ビューを開きます。
2. 「**新規要求**」をクリックします。「要求」ペインが開きます。
3. デフォルト名「**要求 nnnn**」をクリックし、新しい名前を入力することにより、要求のタイトルを変更します。
4. 説明をクリックして新しい説明を入力することで、要求の説明を変更します。








### 「要求」ペインの操作

開いているビューで、「**要求**」 (またはテーマに応じて)をクリックして「要求」ペインを開きます。



「要求」ペインから、次のナビゲーション・ツールを使用します:

-  で新しい要求を追加します。
-  で表示されている要求のリストをリフレッシュします。これは、複数のユーザーが同時に要求を作業しているときに役立ちます。詳細は、[要求の同時編集](#)を参照してください。
- 要求情報を表示した後、「**アクティブなビュー**」でアクティブなビューに戻ります。
-  で要求を開きます。要求アイテムの詳細を確認した後、 をクリックして「要求」ペインに戻ります。
-  で要求を検査または削除できるアクション・メニューを表示します。

## 対話型での変更

リストまたは階層ビューポイントは対話型で変更できます。

### ベスト・プラクティス

ビューポイントに対して一括変更をする必要がある場合は、ビューポイントを Excel にダウンロードし、スプレッドシートで一括更新を行い、要求を使用してその変更内容をビューポイントにロードすることをお勧めします。詳細は、[ロード・ファイルを使用する変更](#)を参照してください。

ビューに対話型で変更を加えるには:

1. 変更を加えるビューを開きます。
2. ドラフト要求を開くか、新しい要求を作成します。

## ビデオ

目的	参照するビデオ
要求を使用した変更について学習します。	 <a href="#">要求を使用した複雑なデータ変更の管理</a>

リスト・ビューポイントに変更を加える場合は、次のトピックを参照してください。

- [ノードのリストへの追加](#)
- [ノードの削除](#)
- [ノード・プロパティの更新](#)
- [ノードの検索](#)

階層ビューポイントに変更を加える場合は、次のトピックを参照してください。

- [最上位ノードの追加](#)
- [最上位ノードの選択](#)
- [ノードの階層への追加](#)
- [ノードの挿入](#)
- [ノードの移動](#)
- [ノードの並替え](#)
- [ノードの除去](#)
- [ノードの削除](#)
- [ノード・プロパティの更新](#)
- [ノードの検索](#)

## ノードのリストへの追加

新規ノードや、別のビューポイントの既存のノードをリストに追加できます。別のビューポイントからノードを追加するには、ビューポイントが同じビューに存在する必要があり、ノード・タイプ・コンバータを使用します。ビューポイントまたは要求アイテムからノードをドラッグ・アンド・ドロップできます。

### ノート:




「追加」がノード・タイプに対して許可されるアクションの場合、ビューポイントにノードを追加できます。

ノードをコピーして新規ノードを作成することもできます。プロパティは新規ノードにコピーされ、必要に応じて変更できます。

### 新規ノードの追加

新しいノードをリストに追加するには:



1. 変更するビューを開き、ドラフト要求を開くか要求を新規作成します。
2. リスト・ビューポイントから、次のいずれかを実行します。
  -  をクリックし、「**新規項目の追加**」を選択します。
  - 既存のノードをコピーするには、ノード名の右にある  をクリックしてコンテキスト・メニューを開き、「**コピー**」を選択します。
  - 既存のノードのモデル元アクションを実行するには、ノード名の右にある  をクリックしてコンテキスト・メニューを起動し、「**モデル元**」を選択します。

 **ノート:**

リスト・ビューポイントでモデル元を使用するには、少なくとも 1 つの関連ビューポイントを構成しておく必要があります。[関連ビューポイントの構成](#)を参照してください。

 **ノート:**

新規ノードが「101 のコピー」のようなデフォルト名でリストの一番上に追加されます。リスト・ビューポイントのデフォルトのソート順は、最新のノードがリストの一番上になるノード作成日順です。

3. 新規ノードの名前を変更し、プロパティ・ペインでノードのプロパティを更新します。

 **ノート:**


名前の値を計算するようにノードが設定されている場合は、ノード名が自動的に計算されることがあります。[ノードの名前の計算および保管](#)を参照してください。

4. 続けて変更を行うか、「**完了**」をクリックして要求を終了します。



### 別のビューポイントからのノードの追加

メニュー・アクションを使用するか、ノードをドラッグ・アンド・ドロップすることで、別のビューポイントからノードを追加できます。画面にビューポイントを表示するには、左右並びレイアウトを使用します。

別のビューポイントからノードを追加するには:

1. 変更するビューを開き、ドラフト要求を開くか要求を新規作成します。
2. リスト・ビューポイントからアクションを実行します。
  -  をクリックし、「**追加元**」を選択します。
    - a. ビューポイントを選択します(選択できるのはノード・タイプがマップされているビューポイントのみ)。

b. ノードを参照または検索して選択します。

- **別のビューポイントからドラッグ・アンド・ドロップ:**  (またはテーマに応じて ) をクリックしてビューポイントを左右並びレイアウトで開き、ノードをターゲット・リスト・ビューポイントにドラッグ・アンド・ドロップします。
- **要求アイテムからドラッグ・アンド・ドロップ:** コピーする要求アイテムがある要求を開き、要求アイテムをターゲット・リスト・ビューポイントにドラッグ・アンド・ドロップします。

#### ノート:

ノードをターゲット・ビューポイントにドラッグ・アンド・ドロップできるようにするには、ノード・タイプ・コンバータを設定する必要があります。

3. 選択またはドラッグしたノードが階層ビューポイントの親である場合は、オプションを選択して「OK」をクリックします。
  - **ノードのみ:** 選択またはドラッグされたノードのみを追加します。
  - **ノードと子:** ノードとその子を追加します。
  - **ノードと子孫:** ノードとその子孫を追加します。
  - **最下位ノード:** 選択またはドラッグされたノードの最下位ノードのみを追加します。

#### ノート:

複数のノード・タイプが使用可能な場合は、いずれか 1 つを選択するように求められます。

## ノードの階層への追加

既存のノードの兄弟または子としてノードを追加できます。ノードをコピーして、選択したノードと同じ親の下に新規ノードを作成することもできます。プロパティは新規ノードにコピーされ、必要に応じて変更できます。ノードの単一インスタンスを作成するには、「コピー」オプションを使用します。ビューポイントのノードを共有するすべての親の下にノードを作成する場合、「モデル元」オプションを使用します。

#### ノート:


「モデル元」オプションは、共有ノードをコピーするためにのみ使用できます。

最上位ノードをビューに追加するには、[最上位ノードの追加](#)を参照してください。

ノードを階層に追加する場合の考慮事項:

- 「追加」がノード・タイプに対して許可されるアクションの場合、ビューポイントにノードを追加できます。
- ノードを階層ビューポイントに追加する場合は、要求アイテム数の増分を 2 にする必要があります。理由は、ノードを追加するアクションとノードを階層に挿入するアクションが実行されるためです。
- 孤立ノードは階層ビューポイントには追加できませんが、ビューポイントには追加できます。あるノードの親が削除されると、そのノードは孤立ノードになります。孤立ノードを追加するには、ノード・タイプを含むリスト・ビューポイントを作成し、階層内の該当する場所に孤立ノードを挿入します。

ノードを階層に追加するには:

1. 次のいずれかを行います:
  - 変更するビューを開き、ドラフト要求を開くか要求を新規作成します。
  - ドラフト要求は「**要求**」から開きます。ビュー、ビューポイント、および要求が開きます。
2. 操作する階層ビューポイントを選択します。
3. ノードを検索して選択し、ノード名の右にある  をクリックしてコンテキスト・メニューを開き、オプションを選択します。
  - **子の追加:** 選択したノードの子として新規ノードを作成します。
  - **兄弟の追加:** 選択したノードの兄弟として新規ノードを作成します。
  - **コピー:** 選択したノードをコピーし、同じ親の下にノードを挿入して新規ノードを作成します。
  - **モデル元:** 選択したノードをコピーし、現在のビューポイントまたは関連ビューポイントで、選択したノードのすべての親の下にノードを挿入して新規ノードを作成します。[既存のノードのモデル元アクションによるノードの追加](#)を参照してください。

#### ノート:

選択するノードの構成に応じて、メニュー・オプションが使用可能になります。たとえば、子を追加できない最下位レベル・ノードを選択した場合は、「子の追加」オプションは使用できません。最上位ノードを選択した場合は、「兄弟の追加」は使用できません。

4. 複数のノード・タイプが使用可能な場合は、新規ノードのノード・タイプを選択します。選択が不要な場合は次のステップに進みます。

#### ノート:

新規ノードが「101 のコピー」のようなデフォルト名で追加されます。

5. 新規ノードの名前を変更し、ノードのプロパティを更新します。

 ノート:

名前の値を計算するようにノードが設定されている場合は、ノード名が自動的に計算されることがあります。[ノードの名前の計算および保管](#)を参照してください。

6. 続けて変更を行うか、「完了」をクリックして要求を終了します。

## 既存のノードのモデル元アクションによるノードの追加

モデル元アクションでは、プロパティ値と階層関係が既存のノードと同じノードを作成できます。同じビューポイント(階層ビューポイントの場合)に新規ノードを作成することも、同じビュー内の指定された関連ビューポイントにノードを作成することもできます。

これにより、個々の要求アクションを実行するのではなく、単一の操作で既存のノードをコピーして関連ビューポイントすべてに挿入できます。

たとえば、リスト・ビューポイントと、それぞれが異なる階層セットを使用する2つの階層ビューポイントがあるとします。リスト・ビューポイントでは、2つの階層ビューポイントに関連ビューポイントとして構成します。次に、リスト・ビューポイントでモデル元アクションを実行すると、次の要求アイテムがある要求が生成されます:

- 既存のノードのコピーに対するリスト・ビューポイントでの追加アクション
- これらの階層セットの既存のノードと同じ親の下に新規ノードを挿入する、両方の階層ビューポイントでの挿入アクション。共有ノードの場合、新規ノードは、階層の元のノードのすべての親の下に挿入されます。

### モデル元に関する考慮事項


- モデル元アクションの一環として生成されるアクションの実行権限がない場合は、検証エラーが表示されます。たとえば、ビューポイントの階層セットに対する挿入権限がなく、その挿入アクションを生成するモデル元アクションを実行すると、要求アクションが生成され、そのアクションの検証エラーが表示されます。
- リスト・ビューポイントでモデル元アクションを実行するには、最初に関連ビューポイントを少なくとも1つ指定する必要があります([関連ビューポイントの構成](#)を参照)。リスト・ビューポイントの関連ビューポイントがない場合は、かわりにコピー・アクションを使用します。

### 関連ビューポイントを使用したモデル元に関する考慮事項

- ソース・ノードを含むビューポイント以外のビューポイントでモデル元アクションを実行するには、最初にそのビューポイントに関連ビューポイントとして構成する必要があります。[関連ビューポイントの構成](#)を参照してください。
- モデル元操作の場合、関連ビューポイントは一方方向です。つまり、ビューポイント A でビューポイント B を関連ビューポイントとして設定すると、ビューポイント A でモデル元アクションを実行した場合はビューポイント B にノードを挿入する要求アクションが生成されますが、ビューポイント B でモデル元アクションを実行した場合はビューポイント A にノードを挿入する要求アクションは生成されません。
- リスト・ビューポイントに関連ビューポイントとして指定すると、そのノードのリスト・ビューポイントの追加プロパティごとに、プロパティ更新アクションが生成されます。たとえば、リスト・ビューポイント A に関連ビューポイントとしてリスト・ビューポイント B があり、リスト・ビューポイント B に、リスト・ビューポイント A がないノードの


プロパティが含まれている場合、リスト・ビューポイント A でモデル元アクションを実行すると、リスト・ビューポイント B の追加プロパティもコピーされます。

### ノードのモデル元アクション

1. 変更するビューポイントを開いて、ドラフト要求を開くか、要求を新規作成します。
2. モデル元アクションを必要とするビューポイントでノード・インスタンスを選択します。
3. 次のいずれかのアクションを実行します。
  - リスト・ビューポイントの場合は、「アクション」、「モデル元」の順にクリックします。

#### Note:

リスト・ビューポイントでモデル元を使用するには、少なくとも 1 つの関連ビューポイントが構成されている必要があります。

- 階層ビューポイントの場合は、「アクション」、「モデル元」の順にクリックし、オプションを選択します:
  - **このビューポイント:** 選択したノードをコピーし、現在のビューポイントで、選択したノードのすべての親の下にそのコピーを挿入します。
  - **関連ビューポイント:** 選択したノードをコピーし、現在のビューポイントおよびすべての関連ビューポイントで、選択したノードのすべての親の下にそのコピーを挿入します。

#### Note:

このオプションは、少なくとも 1 つの関連ビューポイントが構成されている場合にのみ使用できます。

新規ノードは、「(元のノード)のコピー」という名前で作成されます。


4. 新規ノードの名前を変更し、必要に応じて、ノードのプロパティを更新します。

## 最上位ノードの追加

新規ノードを階層ビューポイントの最上位ノードとして作成できます。既存のノードを選択して最上位ノードとする場合は[最上位ノードの選択](#)を参照してください。

最上位ノードを新規作成するには:

1. 次のいずれかを行います:
  - 変更するビューを開き、ドラフト要求を開くか要求を新規作成します。
  - ドラフト要求は「要求」から開きます。ビュー、ビューポイント、および要求が開きます。
2. 操作する階層ビューポイントを選択します。

3.  をクリックしてメニューを開き、「**最上位ノードの追加**」を選択します。
4. 複数のノード・タイプが使用可能な場合は、新規最上位ノードのノード・タイプを選択します。それ以外の場合は次のステップに進みます。

 **ノート:**


新規最上位ノードが **New Dept** のようなデフォルト名で追加されます。

5. 新規最上位ノードの名前を変更し、ノードのプロパティを更新します。
6. 続けて変更を行うか、「**完了**」をクリックして要求を終了します。

## 最上位ノードの挿入

階層ビューポイントの最上位ノードにする既存のノードを選択できます。新規ノードを最上位ノードとして作成する場合は、[最上位ノードの追加](#)を参照してください。




最上位ノードを挿入するには:

1. 次のいずれかを行います:
  - 変更するビューを開き、ドラフト要求を開くか要求を新規作成します。
  - ドラフト要求は「**要求**」から開きます。ビュー、ビューポイント、および要求が開きます。
2. 操作する階層ビューポイントを選択します。
3. 「**最上位ノードの追加**」  をクリックし、「**最上位ノードの挿入**」を選択します。
4. 挿入するノードのビューポイントを選択します。ビューポイントは次にフィルタされます。
  - 共有ノード・オプションが有効化されている場合、現在のビューポイント。
  - 現在のビューポイントと同じ階層セットを共有する、共有ノードが有効化されているビューポイント。
  - 現在のビューと同じノード・タイプを使用するか、現在のビューのノード・タイプに変換できるソース・ノード・タイプを持つビューのビューポイント。

 **ヒント:**

使用できるビューポイントがない場合:

- 同じビューポイントからノードを挿入する場合は、ビューポイント・ディメンションで共有ノードが有効化されていることを確認してください。
- ビューの別のビューポイントからノードを挿入する場合は、別のビューポイントが同じノード・タイプを使用しているか、ノード・タイプ・コンバータが設定されていることを確認してください。[ノード・タイプ・コンバータの操作](#)を参照してください。

5. ノード・セレクトアで、挿入するノードを選択します。挿入するノードの名前を検索バーに入力し、**[Enter]**を押してノードを直接検索することも、をクリックし、挿入するノードにドリルすることもできます。
  - **同じビューポイント、または同じノード・タイプのビューポイントからノードを挿入する場合:** 挿入する複数のノードを選択できます。選択したノードはチェック・マークで示され、「選択済」タブに追加されます。「選択済」タブからノードを除去するには、「X」をクリックします。
  - **ターゲット・ビューポイントとは異なるノード・タイプのソースからノードを挿入する場合:** 挿入する単一のノードおよび関連するノードを選択できます。  
ノードの横にある  をクリックし、挿入のタイプを選択します:
    - ノードのみ
    - ノードと子
    - ノードと子孫
    - 最下位ノード
6. **オプション:** デフォルトでは、ノード・セレクトアのノード名の横にノードの説明が表示されます。「**ノード・プロパティの表示**」 をクリックして、ノード・セレクトアに表示する別のプロパティを選択します。ビューポイントで列として表示されるように構成したプロパティを選択できます。[ビューポイントでのプロパティの表示方法の構成](#)を参照してください。
7. 最上位ノードの選択が完了したら、「**OK**」をクリックしてノード・セレクトアを閉じます。
8. 続けて変更を行うか、「**完了**」をクリックして要求を終了します。

## ノード・プロパティの更新

ビューポイント内のノード・プロパティを更新できます。プロパティを編集する場合は、作業しているアプリケーションに対して編集します。あるアプリケーションでのプロパティの変更は、他のアプリケーションに影響しません。

### ノート:

共有ノードで行ったプロパティの変更は、ビューポイント内のそのすべての場所でその共有ノードに影響します。

詳細は、[ノード・プロパティの操作](#)を参照してください。

ノード・プロパティを更新するには:

1. ドラフト要求を開くか、新しい要求を作成します。
2. 更新するノードを選択します。  
選択したノードのプロパティが「プロパティ」ペインに編集モードで表示されます。
3. 必要に応じて、新規プロパティ値を入力します。

 **ノート:**

ノード・データ型プロパティを更新する場合は、プロパティ用に構成されたノード・セットを使用する単一のビューポイントから選択できます。

4. 「完了」をクリックします。

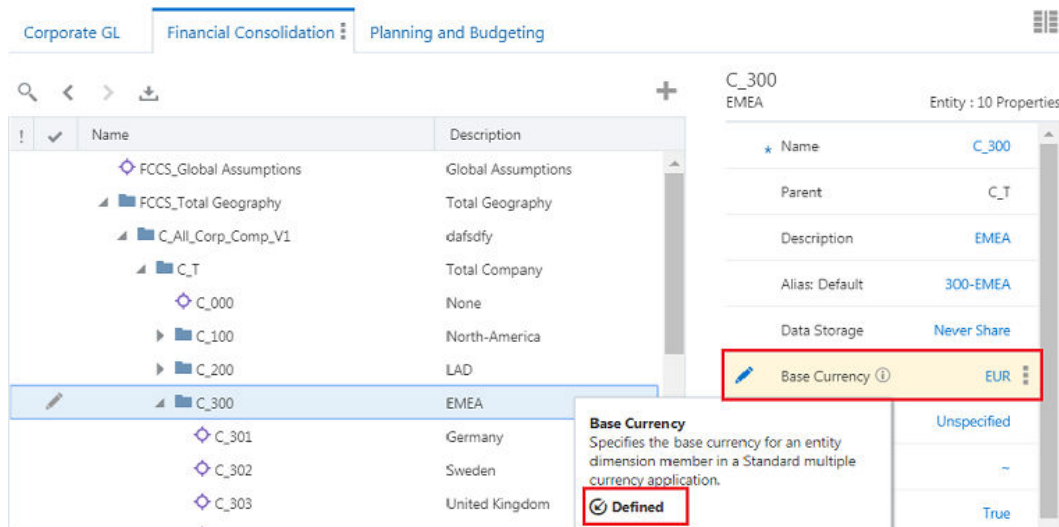
状況によっては、プロパティの更新が許可されなくてもプロパティのクリア・オプションが使用可能である場合があることに注意してください。

編集可能なプロパティのシナリオ	UIのプロパティの更新	UIのクリア・オプション	ファイル要求の更新	ファイル要求のクリア
編集可能なプロパティ(ビューポイント)が <b>False</b> の場合	読取り専用	使用不可	スキップ済	スキップ済
編集可能なプロパティ(ビューポイント)が <b>True</b> で、編集可能なプロパティ(アプリケーション・オーバーライド)が <b>False</b> の場合	読取り専用	使用可能	スキップ済	有効
編集可能なプロパティ(ビューポイント)が <b>True</b> で、編集可能なプロパティ(ノード・タイプ・オーバーライド)が <b>False</b> の場合	検証エラー	使用可能	検証エラー	有効

**継承プロパティの使用**

1. 要求を作成します。
2. 親ノードのプロパティ値を定義します。

Entity Maintenance - Request 1644



The screenshot shows the Oracle Entity Maintenance interface for Request 1644. The breadcrumb navigation is Corporate GL > Financial Consolidation > Planning and Budgeting. The main area displays a tree view of entities, with C\_300 (EMEA) selected. The right-hand pane shows the properties for C\_300, including Name (C\_300), Parent (C\_T), Description (EMEA), Alias: Default (300-EMEA), and Data Storage (Never Share). The 'Base Currency' property is highlighted in red and set to 'EUR'. A tooltip for 'Base Currency' is visible, indicating it is 'Defined'.

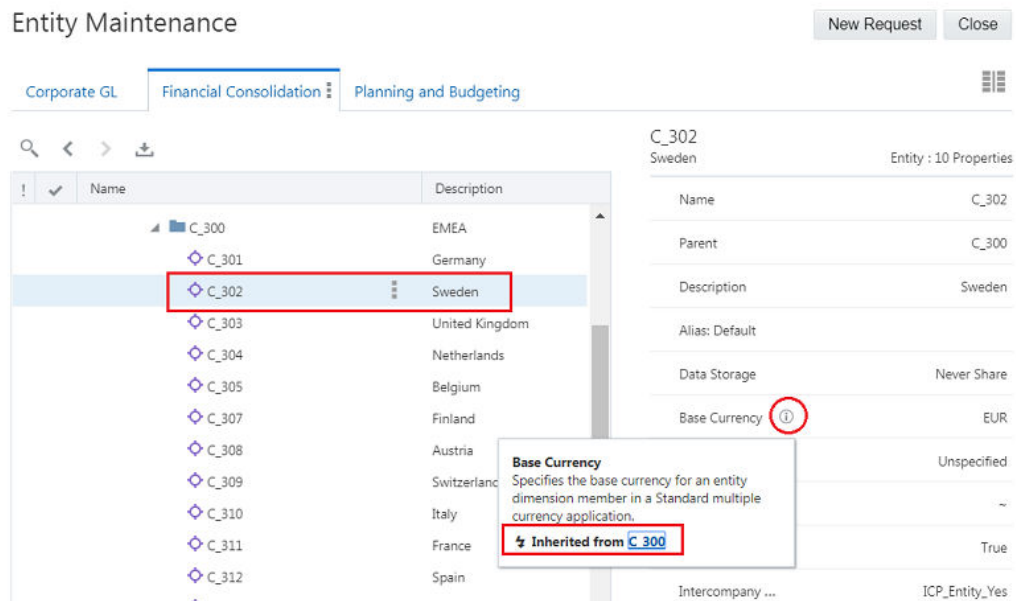


 ノート:

子孫ノードにすでにプロパティ値が定義されている場合、継承値を表示するには、事前にプロパティ値をクリアする必要があります。プロパティ値は 1 度に 1 つずつクリアするか、要求ロード・ファイルを使用してクリアします。

3. 要求を送信します。

祖先ノードに設定した値が、子孫に自動的に設定されます。



The screenshot shows the 'Entity Maintenance' interface. On the left, a tree view lists entities from C\_300 to C\_312. C\_302 (Sweden) is selected and highlighted with a red box. On the right, the 'C\_302 Sweden' entity details are shown. The 'Base Currency' property is circled in red, and a tooltip is displayed over it, stating 'Base Currency' and 'Inherited from C\_300'.

Name	Description
C_300	EMEA
C_301	Germany
C_302	Sweden
C_303	United Kingdom
C_304	Netherlands
C_305	Belgium
C_307	Finland
C_308	Austria
C_309	Switzerland
C_310	Italy
C_311	France
C_312	Spain

Property Name	Value
Name	C_302
Parent	C_300
Description	Sweden
Alias: Default	
Data Storage	Never Share
Base Currency	EUR
	Unspecified
	~
	True
Intercompany ...	ICP_Entity_Yes

**継承プロパティ値のオーバーライド**

祖先ノードから継承したプロパティ値とは異なるプロパティ値が子孫ノードに必要な場合、継承したプロパティをオーバーライドするように、ノードのプロパティ値を変更できます。プロパティ値が、継承した値ではなく定義した値に変更されます。

## Entity Maintenance - Request 1625

Submit Done

Corporate GL | Financial Consolidation | Planning and Budgeting

C\_317  
Croatia Entity : 10 Properties

- Name C\_317
- Parent C\_300
- Description Croatia
- Alias: Default
- Data Storage Store
- Base Currency KUNA

Base Currency  
Specifies the base currency for an entity dimension member in a Standard multiple currency application.  
 Defined

### プロパティ値のクリア

定義済みプロパティのプロパティ値をクリアできます。プロパティ値をクリアすると、格納値が削除され、値はデフォルト値、継承値または派生値に戻ります。

## Entity Maintenance - Request 1625

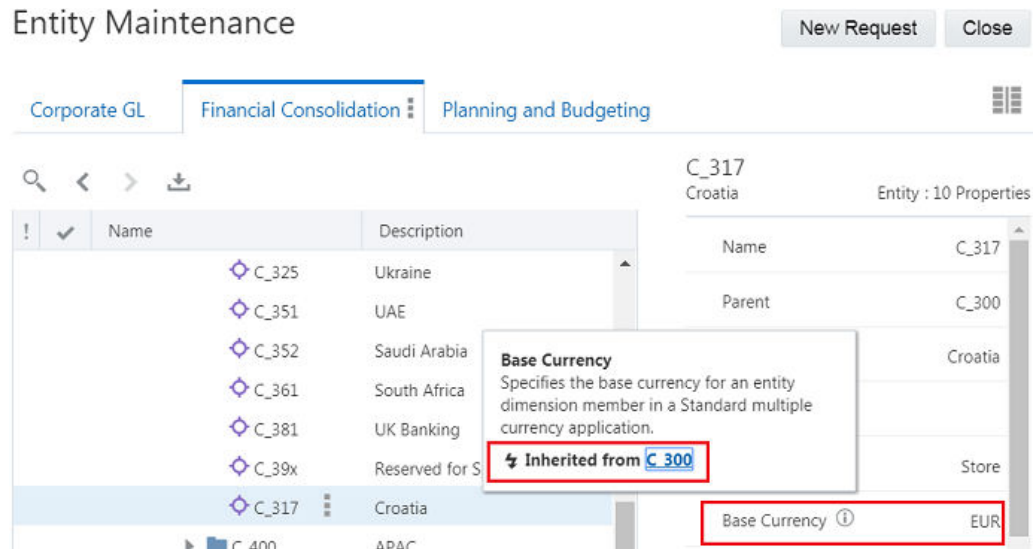
Submit Done

Corporate GL | Financial Consolidation | Planning and Budgeting

C\_300  
EMEA Entity : 10 Properties


- Name C\_300
- Parent C\_T
- Description EMEA
- Alias: Default 300-EMEA
- Data Storage Never Share
- Base Currency KUNA
- Data Type Clear

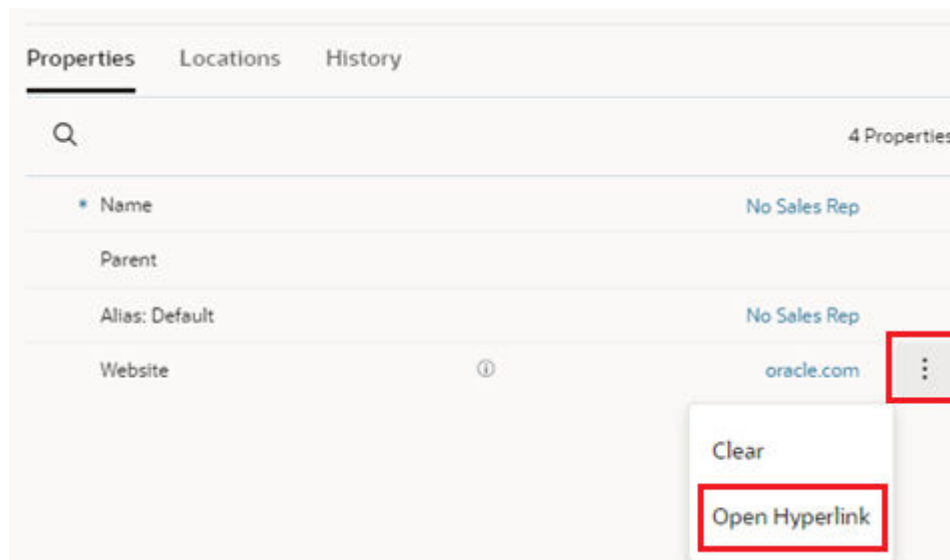
プロパティをクリアするとすぐに、デフォルト値、継承値または派生値が表示されます。



### プロパティのハイパーリンクへの移動

次の 2 つの方法で、ハイパーリンク・プロパティのターゲットに移動できます:

- ビューポイントのプロパティ・ペインで、ハイパーリンクをクリックしてリンク・ターゲットに移動するか、リンクを右クリックして標準のリンク操作(「新規タブで開く」、リンクに名前を付けて保存など)を実行します。
- 要求のコンテキストでは、プロパティはプレーン・テキストで表示されるため編集できます。「アクション」をクリックし、「ハイパーリンクを開く」を選択してリンク・ターゲットに移動します。



## ノードおよび関連ノードの挿入

次からノードを挿入できます。

- リスト・ノード・セット
- 異なる階層セット
- 階層セットが共有ノードを許可する場合は、同じ階層セット

挿入はターゲットの親から「ここに挿入」メニュー・オプションを使用して、または左右に並べた別のビューポイントまたはドラフト要求アイテムからノードをドラッグ・アンド・ドロップして行います。

たとえば、会社が 5 人の新しい従業員を雇い、全員が同じマネージャの部下であるとして。新しい従業員は、5 つの異なる場所で働きます。5 人の新しい従業員を 1 つのビューポイントのマネージャに追加してから、新しい従業員それぞれを異なるビューポイントの適切なオフィスにドラッグ・アンド・ドロップできます。

階層ビューポイントからノードを挿入する場合は、単独でまたは関連するノードを同時に挿入できます。

- ノードと子
- ノードと子孫
- 最下位ノード



#### ノート:

関連ノード・オプションは、選択したノードの子孫が階層内に存在する場合にのみ使用可能です。

### ドラッグ・アンド・ドロップ

別のビューポイントからドラッグ・アンド・ドロップでノードを挿入するには:

1. ビューを開き、「**要求の作成**」をクリックします。

2.  (またはテーマに応じて ) をクリックして、左右に並べる 2 つのビューポイントを選択します。一方からノードをドラッグし、もう一方にそのノードを挿入します。

#### ノート:


ビューポイントを複製タブで開いた場合は、あるビューポイントから別のビューポイントにノードをドラッグすることで、ビューポイント内の別の親の下にノードを挿入できます。[複製ビューポイント・タブの使用](#)を参照してください。

3. 挿入するノードを選択し、ターゲットの親にドラッグ・アンド・ドロップします。
4. 挿入タイプを選択し、「**OK**」. をクリックします。

### 「ここに挿入」メニュー

「ここに挿入」メニュー・オプションを使用してノードを挿入するには:


1. ノードを挿入するビューを開きます。

2. ドラフト要求を開くか、新しい要求を作成します。
3. 挿入するノードの親になるノードを選択し、ノード名の右にある  をクリックして、「ここに挿入」を選択します。
4. 挿入するノードのビューポイントを選択します。ビューポイントは次にフィルタされます。
  - 共有ノード・オプションが有効化されている場合、現在のビューポイント。
  - 現在のビューポイントと同じ階層セットを共有する、共有ノードが有効化されているビューポイント。
  - 現在のビューと同じノード・タイプを使用するか、現在のビューのノード・タイプに変換できるソース・ノード・タイプを持つビューのビューポイント。

### ヒント:

使用できるビューポイントがない場合:

- 同じビューポイントからノードを挿入する場合は、ビューポイント・ディメンションで共有ノードが有効化されていることを確認してください。
- ビューの別のビューポイントからノードを挿入する場合は、別のビューポイントが同じノード・タイプを使用しているか、ノード・タイプ・コンバータが設定されていることを確認してください。[ノード・タイプ・コンバータの操作](#)を参照してください。


5. ノード・セレクタで、挿入するノードを選択します。挿入するノードの名前を検索バーに入力し、**[Enter]**を押してノードを直接検索することも、 をクリックし、挿入するノードにドリルすることもできます。

- **同じビューポイント、または同じノード・タイプのビューポイントからノードを挿入する場合:** 挿入する複数のノードを選択できます。選択したノードはチェック・マークで示され、「選択済」タブに追加されます。「選択済」タブからノードを除去するには、「X」をクリックします。
- **ターゲット・ビューポイントとは異なるノード・タイプのソースからノードを挿入する場合:** 挿入する単一のノードおよび関連するノードを選択できます。

ノードの横にある  をクリックし、挿入のタイプを選択します:

- ノードのみ
- ノードと子
- ノードと子孫
- 最下位ノード

6. **オプション:** デフォルトでは、ノード・セレクタのノード名の横にノードの説明が

表示されます。「**ノード・プロパティの表示**」 をクリックして、ノード・セレクタに表示する別のプロパティを選択します。ビューポイントで列として表示されるように構成したプロパティを選択できます。[ビューポイントでのプロパティの表示方法の構成](#)を参照してください。

7. ノードの選択が終了したら、「OK」をクリックしてノード・セレクタを閉じます。
8. 「OK」をクリックします。

## ノードの移動

ビューポイントのある親から同じビューポイントの別の親に、ノードを移動できます。移動を実行するには、移動するノードをドラッグ・アンド・ドロップするか、新しい親で「ここに移動」メニュー・オプションを使用してノードを特定して移動します。

### ノート:

ノードは階層ビューポイントでのみ移動できます。

ドラッグ・アンド・ドロップを使用してノードを移動するには:



1. ノードを移動するビューポイントを開きます。
2. ドラフト要求を開くか、新しい要求を作成します。
3. 移動するノードを選択し、新しい親にドラッグ・アンド・ドロップします。

### ノート:

複製タブでビューポイントを開いた場合([複製ビューポイント・タブの使用](#)を参照):

- 同じビューポイント・タブ内の新しい親の下にノードをドラッグ・アンド・ドロップすると、ノードが移動されます。
- 新しい親の下にあるノードを一方のタブから他方のタブにドラッグ・アンド・ドロップすると、ノードが挿入されます。


「ここに移動」メニュー・オプションを使用してノードを移動するには:

1. ノードを移動するビューポイントを開きます。
2. ドラフト要求を開くか、新しい要求を作成します。
3. 移動するノードのターゲットの親になるノードを選択し、ノード名の右にある  をクリックして、「ここに移動」を選択します。
4. ノード・セレクタで、移動するノードを 1 つ以上選択します。次のいずれかのアクションを実行します。
  - 移動するノードの名前を検索バーに入力し、[Enter]を押してノードを直接検索します。
  -  をクリックして、移動対象のノードにドリルします。

選択したノードはチェック・マークで示され、「選択済」タブに追加されます。「選択済」タブからノードを除去するには、「X」をクリックします。

 ノート:

デフォルトでは、ノードの説明はノード・セレクタのノード名の横に表示

されます。「**ノード・プロパティの表示**」 をクリックして、ノード・セレクタに表示する別のプロパティを選択します。ビューポイントで列として表示されるように構成したプロパティを選択できます。[ビューポイントでのプロパティの表示方法の構成](#)を参照してください。

5. ノードの選択が終了したら、「OK」をクリックしてノード・セレクタを閉じます。
6. 「完了」をクリックします。

## ノードの並替え

階層セットのソート構成に基づいて、親の下のノードの順序を変更できます([階層セットの作成](#)を参照)。親または最下位ノードの並替えが許可されている場合、ノードをドラッグ・アンド・ドロップするか、「並替え」メニュー・オプションを使用してノードを現在の位置から 1 つ上または下に移動するか、要求ロード・ファイルで順序変更アクション・コードを使用して、ノードを並べ替えることができます。たとえば、外部アプリケーションで計算または共有メンバーのために特定のノード順序が必要になった場合、この機能を使用して適切な順序にすることができます。

階層セットには、親ノードと最下位ノードのソート順序を決定する 3 つの設定があります([階層セットの作成](#)を参照):

- **カスタム順序の使用:** 階層セット内のノードを並べ替えることができます。
- **親ノードからまずグループ化:** 親ノードと最下位ノードが混在している場合、親ノードを兄弟の先頭に配置します。
- **次を基準に最下位ノードをソート:** 「親ノードからまずグループ化」が有効な場合、親の下の最下位ノードのソート順序(「英数字」または「カスタム」)を選択できます。

 ノート:

階層セットのソート構成によって、親ノード、最下位ノードまたは両方を並べ替えることができるかどうかが決まります。たとえば、「**カスタム順序の使用**」と「**親ノードからまずグループ化**」の両方が有効で、かつ「**次を基準に最下位ノードをソート**」が「英数字」に設定されている場合、親ノードを並べ替えることはできますが、最下位ノードを並べ替えることはできません。

### 考慮事項

- ノードは階層ビューポイントでのみ並替えできます。
- 並替えを許可するビューポイントで対話型操作でノードを移動または挿入すると、ノードは親の子リストの一番下に配置されます。ビューポイントに移動または挿入した後に、手動でノードを並べ替える必要があります。

- **Planning** アプリケーションを登録すると、ノードと階層の関係はアプリケーションでのそれまでの順序で表示され、ノードの並替えがデフォルトで有効になります。

ノードの並替え機能を構成するには:

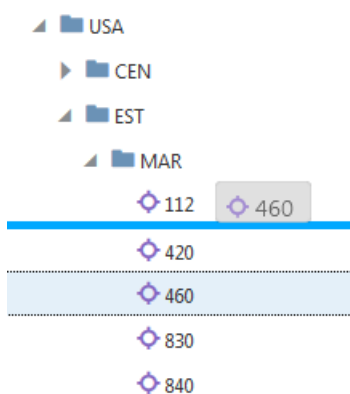
1. カスタム・ソート順を有効にし、ビューポイントで使用される階層セットの親ノードと最下位ノードのソート・オプションを構成します。
  - a. 階層セットを検査します([階層セットの検査](#)を参照)。
  - b. 「定義」タブで「編集」をクリックし、「カスタム順序の使用」、「親ノードからまずグループ化」および「次を基準に最下位ノードをソート」フィールドを使用して、親ノードと最下位ノードのソート順序を設定し([階層セットの作成](#)を参照)、「保存」をクリックします。
2. ビューポイントに許可されているアクションとして、ノードの並替えを有効にします。
  - a. ビューポイントを検査します([ビューポイントの検査](#)を参照)。
  - b. 「定義」タブで「編集」をクリックし、「並替え」を選択してから「保存」をクリックします。

ドラッグ・アンド・ドロップを使用してノードを並べ替えるには:

1. ノードを並べ替えるビューポイントを開きます。
2. ドラフト要求を開くか、新しい要求を作成します。
3. 移動するノードを選択し、同じ親の下の新しい場所にドラッグ・アンド・ドロップします。

#### ノート:


ノードを階層内のノードの間にドロップしてください。ノードをノードの最上位にドロップすると、そのノードの子になります。この例では、ノード 112 と 420 の間になるように、ノード 460 を並べ替えます。



「**並替え**」メニュー・オプションを使用してノードを並べ替えるには:

1. ノードを並べ替えるビューポイントを開きます。
2. ドラフト要求を開くか、新しい要求を作成します。



- 移動するノードを選択し、ノード名の右にある  をクリックして、「**並替え**」を選択してから「**上**」または「**下**」を選択します。

 **ノート:**

ノードが親の下の現在の位置から 1 つ上または下に移動します。

## ノードの除去

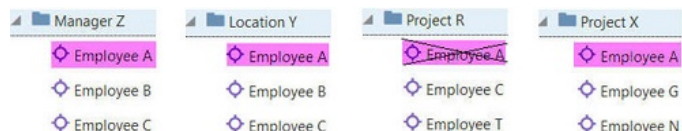
階層構造を使用するビューポイントからノードを除去できます。

 **ノート:**

リストを使用するビューポイントには、除去オプションは使用できません。


ノードを除去すると、ビューポイントの階層セットから親/子関係が除去されます。ノードに階層セット内の他の親がある場合(共有ノードなど)、それらの関係は影響を受けず、ノードはそれらの関係で階層セットに残ります。ノードに他の親がない場合、ノードはその階層セットには存在しませんが、ノード・タイプにはまだ存在し、他の階層セットには存在する可能性があります。

### 例

 **ノート:**

ノードをすべての階層のすべての親から、またはリストを使用するビューポイントから削除するには、[ノードの削除](#)を参照してください。たとえば、従業員 A が会社で勤務しなくなった場合、従業員 A を削除でき、ノードはすべての階層から削除されます。

ノードを除去するには:

- ノードを除去するビューを開きます。
- ドラフト要求を開くか、新しい要求を作成します。
- 除去するノードを検索し、ノード名の右にある  をクリックして、「**除去**」を選択します。
- 「**完了**」をクリックします。

## ノードの削除

ノードを削除すると、アプリケーション内のすべての階層内のすべての親から削除されます。また、リストを使用しているビューポイントからノードを削除することもできます。どちらの場合も、ノードはアプリケーションのノード・タイプからも削除されます。

### 考慮事項

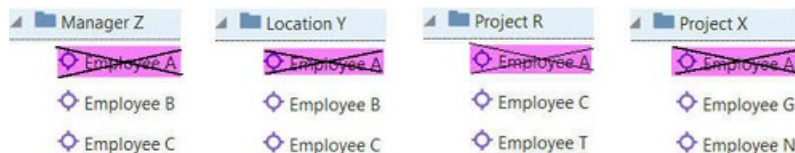
- 階層ビューポイントからノードを削除すると、2つの要求アクションが要求に追加されます。ノード・タイプの削除アクションと階層セットの除去アクションです。
- 階層内の親を削除しても、そのすべての子が削除されるわけではありません。かわりに、削除した親とその子の関係が階層セットから除去されます。これにより、必要な場合は後で、子(およびその子孫)を階層に再挿入できます。

ノードおよびそのすべての子を削除する場合は、削除するノードごとに個別の削除アクションを入力する必要があります。


- 階層セット内の親から特定のノードを除去するが、このノードを使用している他の関係には影響しないようにするには、[ノードの除去](#)を参照してください。

### 例

従業員 A は、次に示すように複数の階層のノードです。従業員 A は退社したため、この従業員をすべての階層から削除する必要があります。



ノードを削除するには:

- ノードを削除するビューを開きます。
- ドラフト要求を開くか、新しい要求を作成します。
- 削除するノードを検索し、ノード名の右側の  をクリックし、「**削除**」を選択します。


## ロード・ファイルを使用する変更

Microsoft Excel スプレッドシートを使用して、要求にアクションをインポートできます。

ロード・ファイルの設定の詳細は、[ロード・ファイル形式の要求](#)を参照してください。

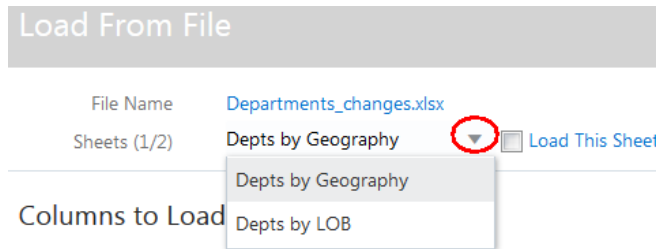
ファイルを処理するとき、要求ファイルをアップロードするユーザーの権限が考慮されます。[要求のセキュリティ](#)を参照してください。

ファイルから要求アイテムをロードするには:

- 変更を加えるビューを開きます。
- ドラフト要求を開くか、新しい要求を作成します。
- 要求タイトルの右にある  をクリックして、「**要求アイテムのロード**」を選択します。
- ファイルを検索して選択するか、ファイルをウィンドウにドロップします。

最初のワークシートの最初の 10 行のプレビューが表示されます。他のワークシートをプレビューするには、**シート**から別のワークシートを選択します。

- オプション:** デフォルトでは、ファイルのすべてのワークシートがロードされます。ロードしないシートについては、**シート**からワークシートを選択して、「**このシートをロード**」をクリアします。



- 「ロード」** をクリックします。  
ファイルのロード結果のサマリが表示されます。ロードされた合計行数、正常に処理された行数、スキップされた行数が表示されます。「**閉じる**」をクリックして、ビューポイントに戻ります。

ファイルはロードされた後に添付として要求に追加されます。2 つの新しい列がファイルに追加されます。

- ステータス—「成功」または「スキップ済」など、行のロード・ステータスを表示します。
- メッセージ—行の追加情報を提供します。たとえば、行がスキップされた理由を示します: 「ノード・タイプが指定されていないか有効ではないため、行はスキップされました。」。


同じファイル名が 2 回以上ロードされた場合、既存の添付は現在のファイルから生成されたものに置き換えられます。

## ロード・ファイル形式の要求

このトピックでは、要求アイテムのロードに使用される Microsoft Excel スプレッドシートの形式について説明します。

### 考慮事項

- スプレッドシート・ファイルの各ワークシートは、ビューポイントに対応しています。
- 複数のワークシートを複数のビューポイントにロードできます。
- ワークシート(および対応するビューポイント)では、30 文字以下のラベルを使用する必要があります。

 ノート:

ビューポイント名が 30 文字を超える場合、要求アイテムをビューポイントにロードする際、ワークシートに使用するラベルを作成する必要があります。ラベルの使用の詳細は、[ビューポイントの検査](#)を参照してください。

- スプレッドシートは、標準列のプロパティ値を導出するための式を含むことができます。スプレッドシートの式は、アプリケーション固有のプロパティ (FCGL、PLN) やカスタム・プロパティでも使用できます。式の値が空と等しいプロパティ・セルはスキップされます。式の値が<clear>または<blank>と等しいプロパティ・セルです。
- ワークシートは、左から右の順序で処理されます。
- インポート・ファイルで重複する行は、ロード時に処理されません。
- サポートされるロケールの日付とタイムスタンプは、次の Java 日付形式パターンのいずれかである必要があります。
  - Short
  - Default
  - Long
  - Medium

 ノート:

Java 日時形式については、[事前定義された形式の使用](#)を参照してください。

- 10,000 を超えるノードがある場合、10,000 未満のノードを含む複数のロード・ファイルを作成します。
- 親が不明な階層ビューポイントに追加または挿入されたノードの場合は、「親」列で <Unknown> キーワードを使用して、親の値を計算し、要求アイテムごとに格納します。管理者は、親値を計算するための式を定義しておく必要があります。[ノードの親の計算および保管](#)を参照してください。
- 追加または挿入されるノードの名前を計算するには、名前列を空白のままにするか、<cn> キーワードまたは <cn #####> キーワードを使用します。ノードは、名前値を計算するように設定する必要があります。[ノードの名前の計算および保管](#)を参照してください。

### 列の考慮事項

- スプレッドシートには、予約された列名またはプロパティの名前と一致する列ヘッダーが必要です([予約された列名](#)を参照)。

 ノート:

名前列がない場合、シートをロードできません。

- プロパティの列ヘッダーは、プロパティ名またはプロパティのカスタム表示ラベル(設定されている場合。このオプションはビューポイント・インスペクタのプロパティ・タブで

設定されます)で構成される必要があります。プロパティ名にネームスペースを含めることはできません。たとえば、Core.Description は無効です。

- ロード・ファイルに代替名プロパティの列がある場合:
  - ロード先のノード・タイプに代替名プロパティが含まれる場合、ファイルのロード時に次の操作が実行されます:
    - \* 行にノード名が含まれる場合、代替名が代替名列にロードされます。
    - \* 行にノード名が含まれない場合、代替名を使用して、代替名プロパティ値が同一の一致するノードがビューポイントで検索されます。
  - ロード先のノード・タイプに代替名プロパティが含まれない場合、列は無視されます。
- 列の順序は任意です。
- 列のヘッダーが予約された列名またはプロパティ名と一致しない場合、その列は無視されます。つまり、スプレッドシートにはロードされないコメントを含めることができます。

### 行の処理順序

要求ファイルからレコードをロードする際、親ノードが子ノードより先にビューポイントに追加されるように、ロード・プロセスによってファイル・コンテンツがソートされます。これにより、ロード・ファイルで子ノードの行がその親ノードの行より前にある場合に、検証エラーを回避します。

たとえば、次のロード・ファイルでは、親の行 Analytics があり、ファイル内でそれよりも前に 2 つの子の行 Emily および Jack があり、その両方が Analytics を親としています:

Action Code	Name	Parent
Add	Emily	Analytics
Add	Jack	Analytics
Add	Analytics	
Add	Mary	Analytics

このファイルがロードされると、Analytics が最初に追加され、次に Emily、Jack および Mary が追加されるように、ロード・プロセスによりコンテンツがソートされます。

### <Blank>および<Clear>処理と空のフィールド

要求ロード・ファイルに<blank>または<clear>キーワードを入力する場合と、セルを空のままにする場合とでは、要求ファイルの処理時に異なる処理が実行されます:

- <clear>キーワードにより、既存の値がプロパティからクリアされます。
- <blank>キーワードにより、空白の定義済みのプロパティ値が設定されます。
- ファイル内の空のセルは無視されます。

<blank>および<clear>キーワードと空のセルはすべてのデータ型でサポートされています。ただし、リスト・データ型の場合、リスト内の空白エントリはサポートされません。つまり、リスト自体は空にできますが、リスト内のエントリは空にできません。

次に例を示します:

- リスト値: '<blank>' はサポートされます。リストに空白をインポートすると、リスト内の既存の定義済値、継承値またはデフォルト値が上書きされることに注意してください。
- リスト値: 'A,B,C' はサポートされます。
- リスト値: 'A,,C' はサポートされません。

### 予約された列名

#### 考慮事項

- プロパティが予約された列と同じ名前を持つ場合、代替列名を使用できます。サポートされる代替名は、以下を参照してください。
- スプレッドシートがリストのビューポイントにロードされる場合、階層の列とアクションは無視されます。たとえば、移動および挿入アクションはリスト・ビューポイントで無視されます。

表 10-1 標準の列


列名	代替列名	説明
Action Code	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Action_Code</li> <li>• ActionCode</li> <li>• {Action Code}</li> </ul>  ノ ー ト : ロ ー ド ・ フ ア イ ル に 、 こ の 名 前 ま た は 「 A c t i o n C o d e 」 列 の い ず れ か の 代 替 名 の 列 が 含	<p>ノードの処理方法を指定します。たとえば、ノードを追加、移動、削除するためのアクション・コードがあります。アクション・コードの詳細は、<a href="#">表 2</a> を参照してください。</p>

表 10-1 (続き) 標準の列

列名	代替列名	説明
	<p>まれていない場合、ファイル内のすべての要求アイテムのアクション・コードが Update に設定されます。</p>	
Description		ノードの説明。



表 10-1 (続き) 標準の列


列名	代替列名	説明
Name		ノード名。ノード名とノード・タイプの組合せは一意である必要があります。 この列は必須です。
New Name	<ul style="list-style-type: none"> <li>New_Name</li> <li>NewName</li> <li>{New Name}</li> </ul>	ノードの名前が変更される場合、このセルには新しいノード名が含まれます。
Node Type		ノードのノード・タイプ。 ビューポイントに 1 つのノード・タイプのみが含まれる場合、列はオプションです。Node Type セルが空の場合、ロード・プロセスではそのノード・タイプを使用します。ただし、ビューポイントに複数のノード・タイプが含まれる場合は、行ごとにノード・タイプを指定する必要があります。
Old Parent Name	<ul style="list-style-type: none"> <li>Old_Parent_Name</li> <li>OldParentName</li> <li>{Old Parent Name}</li> </ul>	ノードが異なる親の下に移動される場合、このセルには古い親ノードの名前が含まれます。 移動されるノードが 1 つの親の下にのみ存在する場合、このセルは空になります。ノードが複数の親ノードの下に存在する場合、ノードを除去する親ノードの名前を指定する必要があります。
Old Parent Node Type	<ul style="list-style-type: none"> <li>Old_Parent_Type</li> <li>OldParentType</li> <li>{Old Parent Type}</li> </ul>	ノードが異なる親の下に移動される場合、このセルには古い親ノードのノード・タイプの名前が含まれます。 移動されるノードが 1 つの親の下にのみ存在する場合、このセルは空になります。ノードが複数の親ノードの下に存在する場合、ノードを除去する親ノードのノード・タイプを指定する必要があります。
Parent		親ノードの名前(存在する場合)。このセルが空の場合、ノードは最上位ノードとしてインポートされます。  <div style="border: 1px solid #0070C0; padding: 10px; background-color: #E6F2FF;"> <p> <b>ノート:</b></p> <p>親列で&lt;Unknown&gt;キーワードを使用して、要求アイテムの親の値を計算して格納します。</p> </div>
Parent Node Type		親ノードのノード・タイプ(存在する場合)。
Sibling		指定した親の下にある兄弟ノードの名前。この後にノードを配置する必要があります。または、並べ替えているノードを親の下の最初の兄弟にする場合は、<First>を入力します。 「並替え」、「追加」、「挿入」および「移動」アクションと一緒に使用します。
Sibling Node Type		兄弟のノード・タイプ。 「並替え」、「追加」、「挿入」および「移動」アクションと一緒に使用します。

表 10-2 アクション・コード

アクション・コード	説明																					
Add	新しいノードを作成します。																					
Delete	ノードを削除します。																					
<Empty cell>	Action Code セルが空の場合、行は Update アクション・コードを使用して処理されます。																					
Insert	既存のノードを、階層の Parent および Parent Node Type セルで指定されたノードの下に挿入します。																					
Move	既存のノードを階層の新しい位置に移動し、ノードを既存の位置から除去します。																					
Prop_Update	<p>既存のノードのプロパティ値のみを更新します。他のアクションを実行するには Update アクション・コードを使用します。</p> <p>定義済みプロパティのプロパティ値をクリアできます。プロパティ値をクリアすると、格納値が削除され、値はデフォルト値または継承値に戻ります。たとえば、下の Prop_Update アクションは説明値をクリアします。</p> <table border="1" data-bbox="706 865 1507 953"> <thead> <tr> <th></th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> <th>E</th> <th>F</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td><b>Action Code</b></td> <td><b>Name</b></td> <td><b>Description</b></td> <td><b>Parent</b></td> <td><b>Node Type</b></td> <td><b>Parent Node Type</b></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>PROP_UPDATE</td> <td>CC_Store030</td> <td>&lt;clear&gt;</td> <td>CCB1</td> <td>CC Corp</td> <td>CC Corp Rollup</td> </tr> </tbody> </table>		A	B	C	D	E	F	1	<b>Action Code</b>	<b>Name</b>	<b>Description</b>	<b>Parent</b>	<b>Node Type</b>	<b>Parent Node Type</b>	2	PROP_UPDATE	CC_Store030	<clear>	CCB1	CC Corp	CC Corp Rollup
	A	B	C	D	E	F																
1	<b>Action Code</b>	<b>Name</b>	<b>Description</b>	<b>Parent</b>	<b>Node Type</b>	<b>Parent Node Type</b>																
2	PROP_UPDATE	CC_Store030	<clear>	CCB1	CC Corp	CC Corp Rollup																
Rename	既存のノードの名前を変更します。																					
Reorder	<p>階層ビューポイントのノードを並べ替えます。</p> <p>ノードを並べ替えることができるのは、そのタイプのノード(親または最下位ノード)の並替えを許可する階層セットを使用するビューポイントのみです。詳細は、<a href="#">ノードの並替え</a>を参照してください。</p>																					
Remove	ノードを指定した親ノードから除去します。																					

表 10-2 (続き) アクション・コード

アクション・コード	説明																					
Update	<p>既存のノードのプロパティ値を更新します。 このようなアクションが必要であることを行のセルが示している場合、Update アクションで追加アクションも実行されます。次に、この仕組みについて説明します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ノードが存在しない場合、ノードが追加されます。ビューポイントが階層である場合、Parent および Parent Node Type セルで指定された階層の位置にノードが挿入されます。</li> <li>ビューポイントが階層で、ノードは存在するが指定した親の下にない場合、実行されるアクションは、階層セットで共有ノードが許可されるかどうかに依存します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>共有ノードが許可される場合、ノードは指定した親の下に挿入されます。</li> <li>共有ノードが許可されない場合、ノードは指定した親の下に移動されます。</li> </ul> </li> </ul> <p>プロパティで空白が許可される場合、プロパティを空白値に更新できます。セルで&lt;空白&gt;インジケータを使用する必要があります。空のセルは、同じ結果を生成しません。</p> <p>たとえば、下の更新アクションは、法的エンティティ・プロパティを空白値に設定します。説明のセルが空白であっても、EMA の既存の説明は変更されません。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> <th>E</th> <th>F</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Action Code</td> <td>Name</td> <td>Description</td> <td>Node Type</td> <td>Parent</td> <td>Parent Node Type</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Update</td> <td>EMA</td> <td style="border: 1px solid red;"></td> <td>Dept Rollup</td> <td>Geo</td> <td>Dept Rollup</td> </tr> </tbody> </table>		A	B	C	D	E	F	1	Action Code	Name	Description	Node Type	Parent	Parent Node Type	2	Update	EMA		Dept Rollup	Geo	Dept Rollup
	A	B	C	D	E	F																
1	Action Code	Name	Description	Node Type	Parent	Parent Node Type																
2	Update	EMA		Dept Rollup	Geo	Dept Rollup																

例 10-1 例

次の例では、いくつかのノードが階層ビューポイントに追加、更新、挿入されています。

	A	B	C	D	E	F
1	Action Code	Name	Node Type	Parent	Parent Node Type	Business Unit
2	Add	Bill	Employees			Support
3	Add	Nadia	Employees	Bill	Employees	Support
4	Add	Katherine	Employees	Bill	Employees	Support
5	Update	George	Employees			Support
6	Insert	James	Employees	Joe	Employees	Support

次に、例のキーポイントを説明します。

- すべてのノードには、Employees ノード・タイプがあります。
- Business Unit 列は、ノード・タイプに Business Unit というプロパティがあることを示しています。
- 2 番目の行では、Bill というノードを追加します。Parent および Parent Node Type セルは空で、これらが最上位ノードであることを示しています。
- 3 番目と 4 番目の行では、Bill というノードの下に子ノードを追加します。

- 5 番目の行では、Business Unit プロパティを **Support** という値に設定して、既存のノードを更新します。
- 6 番目の行では、Joe という親ノードの下に James という既存のノードを挿入します。

## 要求へのファイルの添付

要求の目的または意図を説明する、またはサポート詳細を提供するために、ファイルを要求に添付できます。

ファイルを添付した後、「添付」タブで表示できます。添付をクリックしてダウンロードすると、その内容を表示できます。ファイルを要求に添付した場合、その添付を削除することもできます。

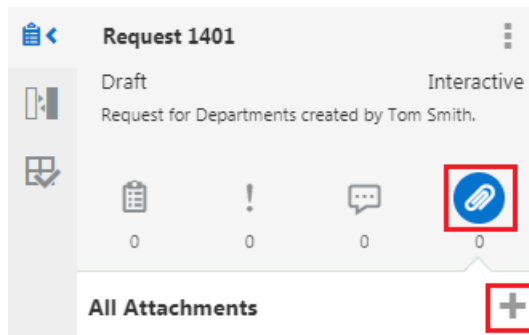
### ノート:

要求アイテムをロードするために使用された添付ファイルは、要求から削除できません。

### ファイルの添付

要求にファイルを添付するには:

1. 開いたドラフト要求から、、の順にクリックします。



2. 添付するファイルを検索して選択するか、ファイルをウィンドウにドロップします。

### ノート:

同じ名前のファイルを以前に添付していた場合、既存の添付を置換できます。別のユーザーがアップロードした既存の添付と同じ名前のファイルを添付しようとしている場合、別のファイル名を指定する必要があります。

3. 「添付」をクリックします。

### 添付の削除

要求の添付を削除するには:

1. 開いたドラフト要求から、📎 をクリックします。
2. 削除する添付を特定し、その添付の上にマウスを置き、✕ をクリックします。

### 📝 ノート:

削除アイコンは、要求に追加された添付に対してのみ使用可能です。

3. 「はい」 をクリックして削除を確認します。

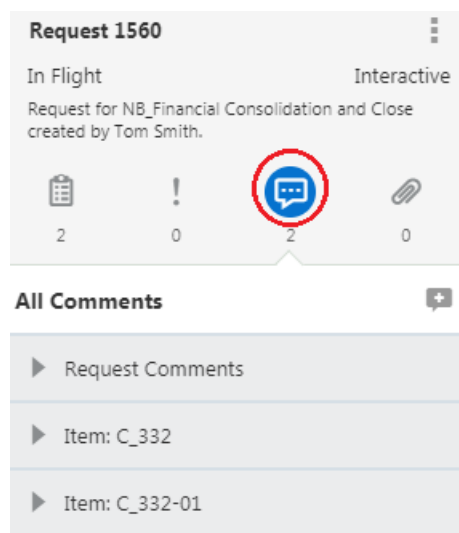
## 要求コメントの操作

ドラフトまたは処理中ステータスの要求の場合、要求および個別の要求アイテムにコメントを追加できます。要求の送信および承認でのコラボレーションに使用できるスレッド型の会話を作成することで、他のユーザーのコメントに返信することができます。コメントを使用して、要約の備考の追加、特定の変更の説明、質問および要求または要求アイテムに関する重要情報のハイライト表示を行えます

ユーザーは要求および要求アイテムのコメントで指定でき、これにより、要求でコラボレーションしているユーザーが質問をしたり、要求に対して行ったことに他のユーザーの注意を向けることができます。ユーザーを指定するには、コメントに@記号を入力し、それから指定するユーザーを選択します。ユーザーのリストには、要求に参加しているユーザーや、要求についてコラボレーションまたは承認するよう招待されているユーザーが含まれます。コメントが保存されたら、確認してすぐに要求に対するアクションを実行できるように、指定されたユーザーにコメントについて通知されます。

コメント・フィールドにハイパーリンクを貼り付けたり、リンクを読みやすくするために「リンク」ツールバー・ボタンを使用して表示テキストを追加したりすることもできます。リンクを除去することもできます。

要求が「ドラフト」ステータスである場合、コメントは編集および削除できます。すべてのコメントは、ドラフトおよび処理中であるオープンな要求の「コメント」タブに表示されます。



詳細は、[要求コメントの追加、編集、および削除](#)を参照してください。






## 要求コメントの追加、編集、および削除

コメントを要求または個別の要求アイテムに追加して詳細情報を提供できます。コメントを入力すると、コメントでユーザーを指定し、ハイパーリンクを含めるオプションが得られます。自分のコメントを編集および削除できます。

要求ステータス	要求コメント・アクション
ドラフト	コメントの追加および編集
処理中	コメントの追加および編集
クローズ済	コメントの表示

### 要求コメント

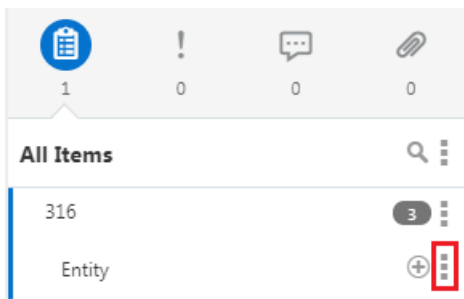
要求コメントを追加、編集または削除するには:

1. ドラフト要求を開きます。
2.  をクリックします。
3. 次のいずれかのオプションを選択します。
  - **コメントの追加** -  をクリックしてコメントを入力し、それから「OK」をクリックします。「保存」をクリックして要求にコメントを追加します。
    - コメントで特定のユーザーを指定するには、@記号を入力して、ユーザーの名前を選択します。
    - コメントにハイパーリンクを含めるには、コメント・フィールドに URL を直接入力するか貼り付けます。または、 をクリックし、リンクとして表示するテキストを入力して、URL を入力するか貼り付けます。
  - **コメントの編集** - コメントを検索して、自分の名前の右側にカーソルを置き、 をクリックして、「編集」をクリックします。変更を加え、「保存」をクリックします。
  - **コメントの削除** - コメントを検索して、自分の名前の右側にカーソルを置き、 をクリックして、「削除」をクリックします。

### 要求アイテムのコメント

要求アイテムにコメントを追加するには:

1. 要求アイテムをクリックし、 をクリックし、次に「コメントの追加」を選択します。



2. コメントを入力し、「保存」をクリックします。

### ✎ ノート:

コメントで特定のユーザーを指定するには、@記号を入力して、指定するユーザーの名前を選択します。コメントにハイパーリンクを含めるには、コメント・フィールドに URL を直接入力するか貼り付けます。または、📎 をクリックし、リンクとして表示するテキストを入力し、URL を入力するか貼り付けてから、「OK」をクリックします。

「ドラフト」または「処理中」の要求内のコメントを編集または削除するには:

1. 要求アイテムをクリックします。
2. 名前の右にマウスを移動し、⋮ をクリックして、次に「編集」または「削除」を選択します。

## 要求の同時編集

複数のユーザーが同じ要求についてコラボレーションしている場合、それらのユーザーはその要求に対して同時に作業できます。同時編集を使用すると、データの整合性を確保し、かつユーザーに対して他のユーザーによる変更をアラートしつつ、複数のユーザーが同時に要求に対して作業できます。

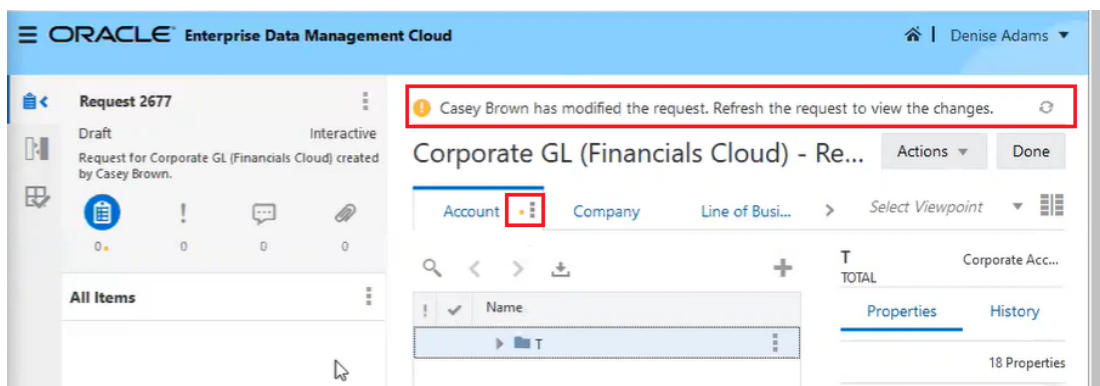
### ビデオ

目的	参照するビデオ
要求の同時編集について学習します。	 <a href="#">Enterprise Data Management での要求の同時編集</a>

同時編集には、要求アイテム、コメントおよび添付に対して加えられる変更が含まれます。同時更新は発生した順序で要求に対して適用され、要求履歴に記録されます。加えられる変更競合がある場合、ユーザーに通知され、その変更は適用されません。

要求を開いているユーザーに対しては、他のユーザーによる同時更新についてのアラートが表示され、要求を更新することでそれらの変更を表示できます。ビューポイント、要求アイテム、コメントおよび添付への変更は視覚的に示されます。

たとえば、Casey と Denise が同じ要求を処理しているとします。Casey が要求に変更を加えると、要求が Casey によって変更されている旨のメッセージが Denise に対して表示されます。変更されたビューポイントの横にも視覚インジケータが表示されます。



Denise が要求をリフレッシュすると、Casey によって加えられた変更が表示されます。

## 要求の検証

要求内のすべてのアイテムまたは 1 つの要求アイテムを検証できます。

システムは、同じ要求内の他のデータおよびシステムにすでに存在するデータと比較して要求アイテムとその要求アクションの有効性を判断するために必要なチェックを実行します。要求アイテムのノードの派生プロパティも検証されます。



### ノート:

要求アイテムの検証はオプションです。システムは、送信時に要求を検証します。



検証重要度に応じて、検証チェックに失敗した要求アイテムはエラーまたは警告でマークされます。要求が次のステージに遷移するには、エラーを修正する必要があります。警告のある要求を次のステージに遷移できます。検証の問題の解決の詳細は、[要求の検証の問題の操作](#)を参照してください。

検証の詳細は、[検証および制約の理解](#)を参照してください。

要求内のすべてのアイテムを検証するには:

1. ドラフト要求を開きます。
2. 「要求」 をクリックし、「すべてのアイテム」の右にある  をクリックし、「検証」を選択します。

1 つの要求アイテムを検証するには:


1. ドラフト要求を開きます。
2. 「要求」 をクリックし、要求アイテムを選択し、アイテムの右にある  をクリックしてから「検証」を選択します。




## 要求の検証の問題の操作

ドラフト要求の要求パネルで、検証の問題のある要求アイテムを識別し、要求アイテムに対してアクションを実行して問題を解決できます。検証の問題は、ファイルをロードしたり、ビューポイントに対話型で変更を加えたりすることで発生する可能性があります。

検証重要度に応じて、検証チェックに失敗した要求アイテムはエラーまたは警告でマークされます。要求が次のステージに遷移するには、エラーを修正する必要があります。警告のある要求を次のステージに遷移できます。

開いたドラフト要求で「**要求の問題**」  をクリックし、問題を表示して解決します。

### 問題の解決

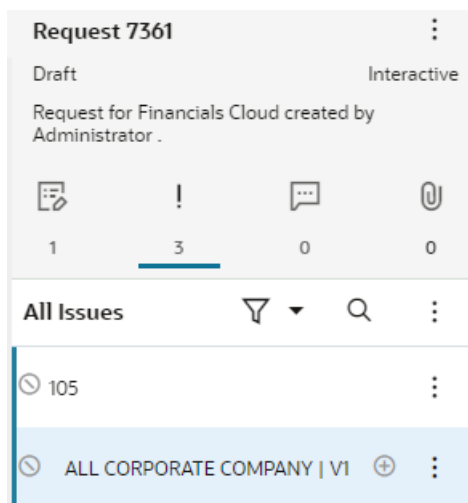
デフォルトでは、すべての要求の問題が問題タブに表示されます。  ボタンをクリックして、次のようにフィルタ・オプションを選択します：

- **「すべての問題」**：すべての警告およびエラーが表示されます
- **自分の問題**：自分が修正を担当する要求アイテムに対する警告およびエラーのみが表示されます。次の「**問題およびエラーの担当**」を参照してください。
- **すべてのエラー**：すべてのエラーが表示されます
- **自分のエラー**：修正を担当する要求アイテムのエラーのみが表示されます。次の「**問題およびエラーの担当**」を参照してください。

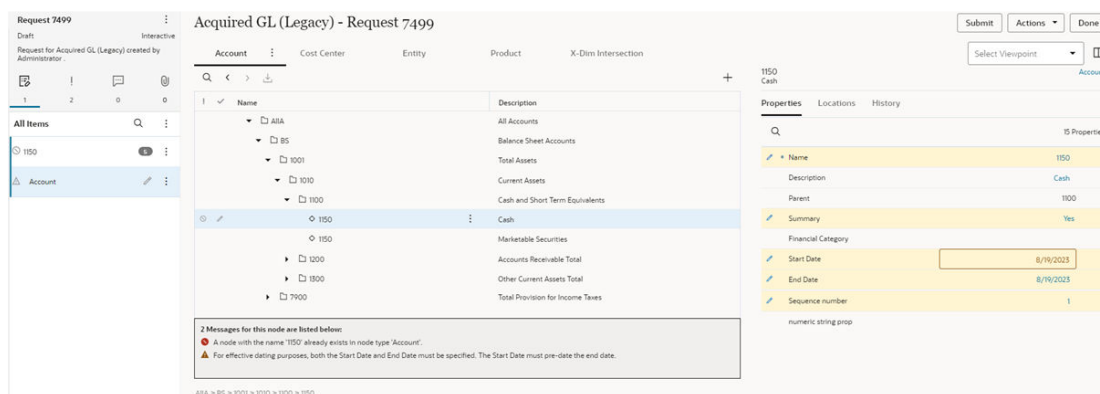
### 問題およびエラーの担当

「**自分の問題**」または「**自分のエラー**」を選択すると、次のように、修正を担当する警告またはエラーのみにリストがフィルタされます：

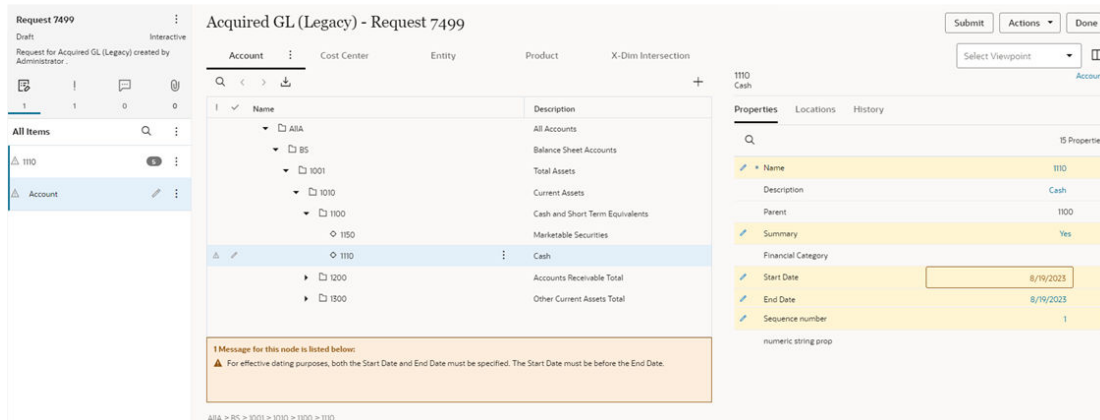
- **要求担当者である場合**、すべてのエラー(および「**自分の問題**」に警告)が表示されます。すべての検証エラーは、要求を送信する前に修正する必要があります。
- **要求の協力者またはエンリッチ者である場合**、次の検証警告およびエラーが表示されます：
  - 変更を加える権限がある要求アイテムの検証警告およびエラー
  - 表示アクセス権がある欠落した必須プロパティ



たとえば、次の要求には 2 つの検証の問題があります。最初の問題は、ノード **1150** がすでに存在することを示しています。2 番目は、「終了日」が「開始日」より後の日付である必要があることを示しています。

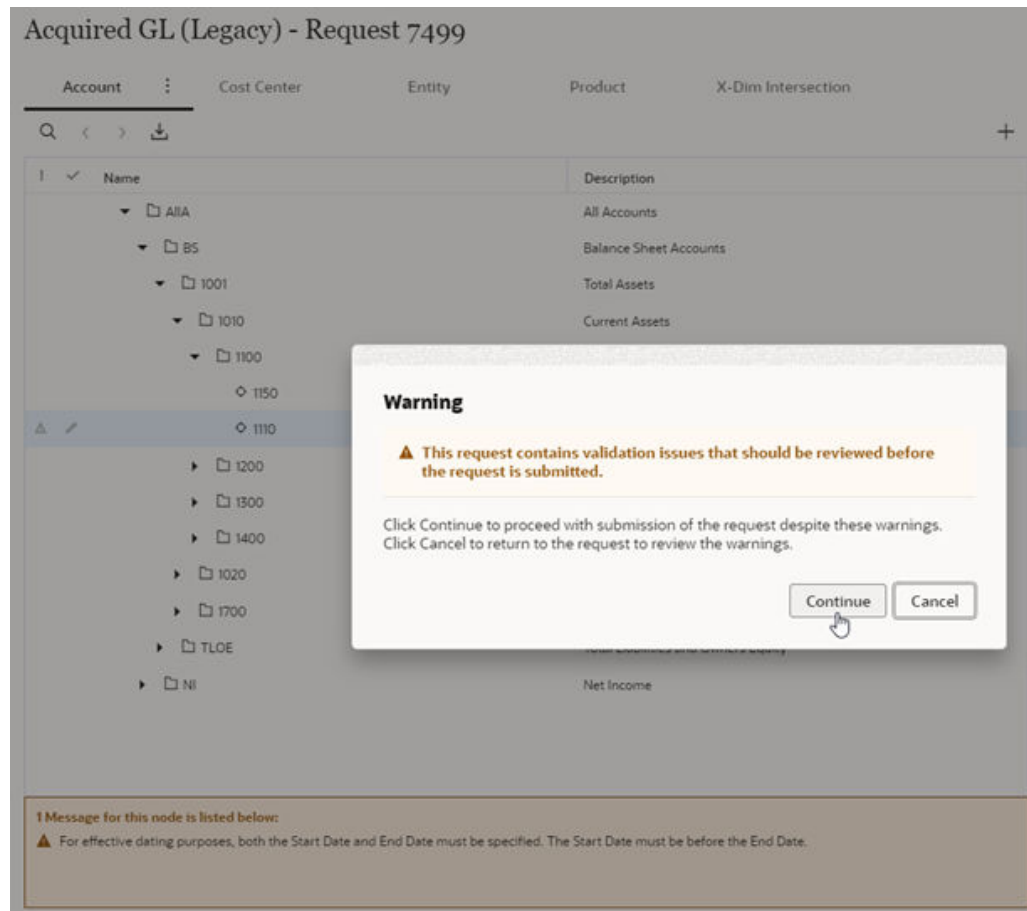


最初の問題を修正するには、プロパティ・ペインでノードの名前を変更します。そのようにすると、エラー・メッセージは表示されなくなります。

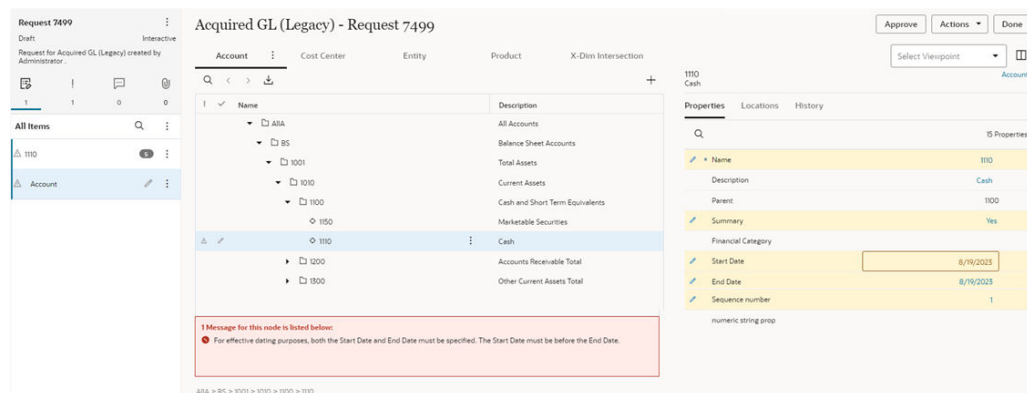


2 番目の問題については、「終了日」が「開始日」より後になるように、「開始日」または「終了日」のいずれかを編集できます。ただし、この例でこの問題の重要度は、送信ステージでは警告であり、承認ステージではエラーです。これは、この時点では問題を修正せずに要求

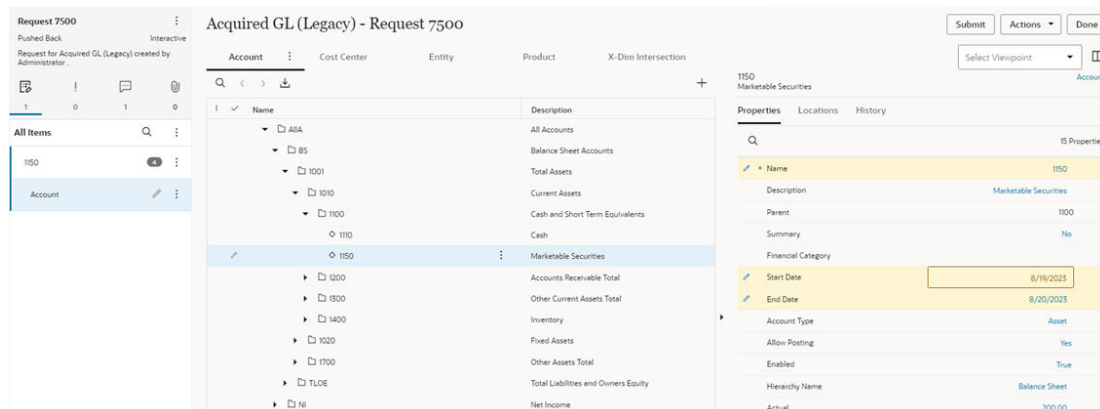
を送信できることを意味します。検証の問題を無視して、要求の送信を続けることを確認する必要があります。



検証の問題が、警告ではなくエラーとして表示されるようになったことに注意してください。この問題の重要度は承認ステージではエラーに設定されているため、エラーを修正せずに要求を承認することはできません。



「開始日」または「終了日」を修正すると、検証の問題は表示されなくなります：




## 他のコントリビュータからの問題の解決


要求の送信者または協力者は、検証の問題が発生している要求アイテムを要求ペインから表示したりアクションを実行できない場合があります。これは、次の場合に起きる可能性があります：

- 要求に割り当てられたか招待されたが、送信者または以前のエンリッチ者が変更を加えた 1 つ以上のビューポイントへのアクセス権がない場合。
- プロパティが更新された要求に割り当てられたか招待されたが、そのプロパティへのアクセス権がない場合。
- 送信したプッシュバック済または撤回済の要求が、自分のアクセス権では実行できない変更でエンリッチされた可能性がある場合。

これらの問題を解決するには、次のアクションを実行します：

- 要求アイテム全体または要求アイテム・インスタンスを削除します。要求ペインで、要求アイテムの横にある  をクリックし、「**削除**」を選択します。
- 要求を検査し、問題が発生している要求アイテムの個々の要求アクションを削除します。[要求アイテムの検査](#)を参照してください。

### ヒント：

他のコントリビュータからの問題を表示するには、 ボタンをクリックして、「**自分の問題**」から「**すべての問題**」に切り替えます。

## 派生プロパティの検証の問題の解決

派生プロパティの検証の問題は、次のいくつかの方法で解決できます。

- プロパティが編集可能な場合、派生プロパティを定義済の値でオーバーライドする
- 派生プロパティが依存する別のプロパティを変更する
- ビューポイント内のノードを移動または除去する
- 要求アイテムまたはアイテム・インスタンスを削除する

詳細は、[派生プロパティ](#)を参照してください。

### 「ノードはすでに存在します。」という検証の問題の解決

「ノードはすでに存在します。」という検証エラーが表示される可能性があるシナリオがいくつかあります。

- **新しいノードが、同じノード・タイプの既存のノードの名前と競合する名前を追加される:** この場合、追加されるノードの名前を一意になるように変更します。
- **1つの要求で、複数のビューポイントに同じノードを追加する複数のサブスクリプション要求が生成される:** この場合、最初のサブスクリプション要求が完了するとノードが追加され、続いて他の要求が完了すると、「ノードはすでに存在します。」という検証エラーが表示されます。このエラーを修正するには、「修復」オプションを使用します。[要求アイテムの修復](#)を参照してください。

## 要求アイテムの修復

1つの要求で、複数のビューポイントに同じノードを追加する複数のサブスクリプション要求が生成されることがあります。この場合、最初のサブスクリプション要求が完了するとノードが追加されますが、2番目のサブスクリプション要求が処理されると、そのノード・タイプにすでにノードが存在するという検証メッセージが表示されて要求は失敗します。

この問題を修正するには、「修復」オプションを使用します。要求を修復すると、要求内の「追加」アクションが「挿入」アクション(階層ビューポイントの場合)または「プロパティの更新」アクション(リスト・ビューポイントの場合)に変換され、要求が再処理されます。


### 考慮事項

- 「修復」オプションは、要求を編集できるユーザー(要求担当者や要求エンリッチ者など)に対してのみ有効になります。
- 要求を修復すると、「ノードはすでに存在します。」というエラーが発生したノードについて、「追加」アクションから「挿入」アクションまたは「プロパティの更新」アクションへの変換を実行する変更のみが行われます。要求内の他の検証の問題は影響を受けませんが、引き続き対処する必要があります。

#### ▲ Caution:

「修復」オプションは、同じノードを複数の要求に追加するときに、最初の要求が完了した後、後続の要求でノードがすでに存在するという検証エラーが表示される問題を解決する場合にのみ使用します。既存のノード名と競合する名前を持つ新しいノードを追加しようとしている場合は、「修復」オプションを使用しないでください。かわりに、追加するノードの一意の名前を選択します。

### 要求を修復するには:


1. 修正する要求アイテムを含む要求を開きます。
2. 要求アイテムまたは要求ペインの上部にある「アクション」をクリックし、「修復」をクリックします。
3. 確認のダイアログ・ボックスで、「OK」をクリックします。

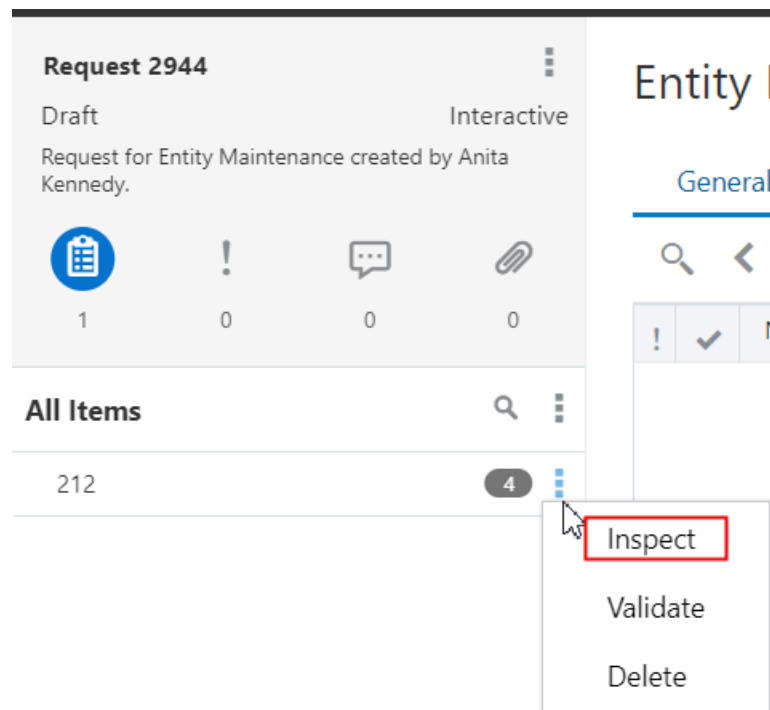
修復操作が処理され、更新された要求アイテムが表示されます。

4. 残りの検証の問題を解決し、「送信」をクリックします。


## 要求アイテムの検査

要求ペインから、アイテムに関する詳細を表示するために要求アイテムを検査できます。

要求アイテムの横にある要求ペインで、をクリックし、次に「検査」をクリックして、その要求アイテムの要求アクションの詳細を表示します。



要求が要求インスペクタで開かれ、「詳細」タブに選択した要求アイテムと、そのアイテムのすべての要求アクションが表示されます。

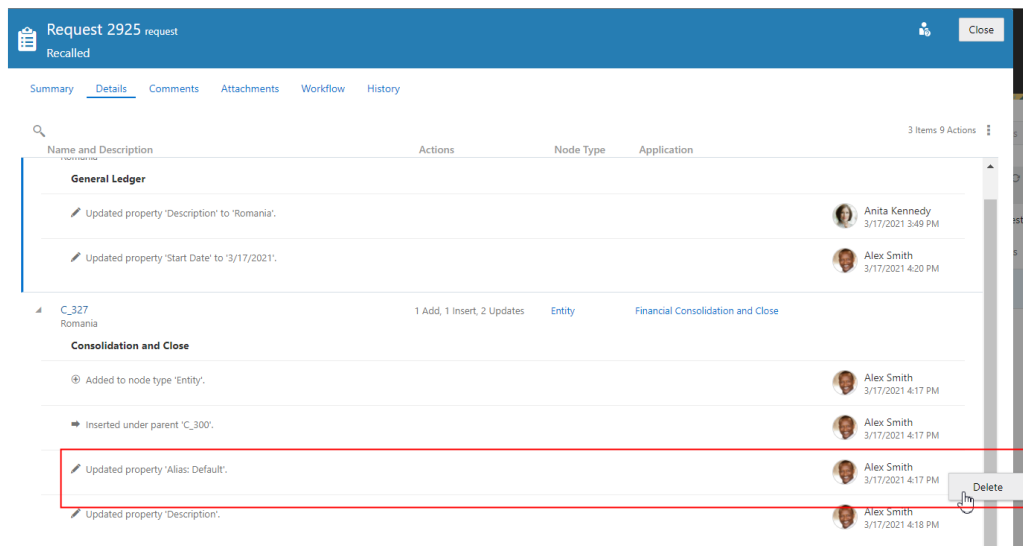
次のいずれかの基準を満たす場合は、をクリックし、次に「削除」を選択して、個々の要求アクションを削除できます:

- 「ドラフト」ステータスの要求の現在の担当者である。
- 「ドラフト」ステータスの要求の現在の協力者で、選択したアクションを実行するための書き込み権限を持つ。
- 「処理中」ステータスの要求の現在の招待者で、選択したアクションを実行するための書き込み権限を持つ。

 **Note:**

権限およびデータ・アクセスで表示が許可されない要求アクションも要求詳細にリストされます。アクションの詳細は表示できませんが、削除することはできます。

たとえば、次のイメージでは、Anita は Alex が要求変更した **Consolidation and Close** ビューポイントへの読取りアクセス権がないため、Alex が「別名: デフォルト」プロパティを更新したことは確認できますが、プロパティ値を表示できません。ただし、彼女は要求送信者であるため、その要求アクションを削除することもできます。



The screenshot shows a web interface for 'Request 2925' (Recalled). It has tabs for Summary, Details, Comments, Attachments, Workflow, and History. Below the tabs is a table of actions. The table has columns for Name and Description, Actions, Node Type, and Application. The actions listed are:

- General Ledger
  - Updated property 'Description' to 'Romania'. (Anita Kennedy, 3/17/2021 3:49 PM)
  - Updated property 'Start Date' to '3/17/2021'. (Alex Smith, 3/17/2021 4:20 PM)
- C\_327 Romania (1 Add, 1 Insert, 2 Updates, Entity, Financial Consolidation and Close)
  - Added to node type 'Entity'. (Alex Smith, 3/17/2021 4:17 PM)
  - Inserted under parent 'C\_300'. (Alex Smith, 3/17/2021 4:17 PM)
  - Updated property 'Alias: Default'. (Alex Smith, 3/17/2021 4:17 PM) - This row is highlighted with a red box and has a 'Delete' button.
  - Updated property 'Description'. (Alex Smith, 3/17/2021 4:18 PM)

 **Caution:**

アクションまたはプロパティの更新は変更が発生する順序に依存する場合があります。その順序が破損する場合があります。そのため、個々の要求アクションを削除するときは注意して実行してください。たとえば、親ノードと子ノードを追加し、親を追加するアクションを削除した場合、子ノードに検証の問題が発生する可能性があります。

終了後に、「閉じる」をクリックしてインスペクタを閉じ、要求ビューポイントに戻ります。

## 要求ファイルの添付の確認


要求ファイルの添付には、要求アイテムが作成される前のインバウンド要求ファイルが含まれています。

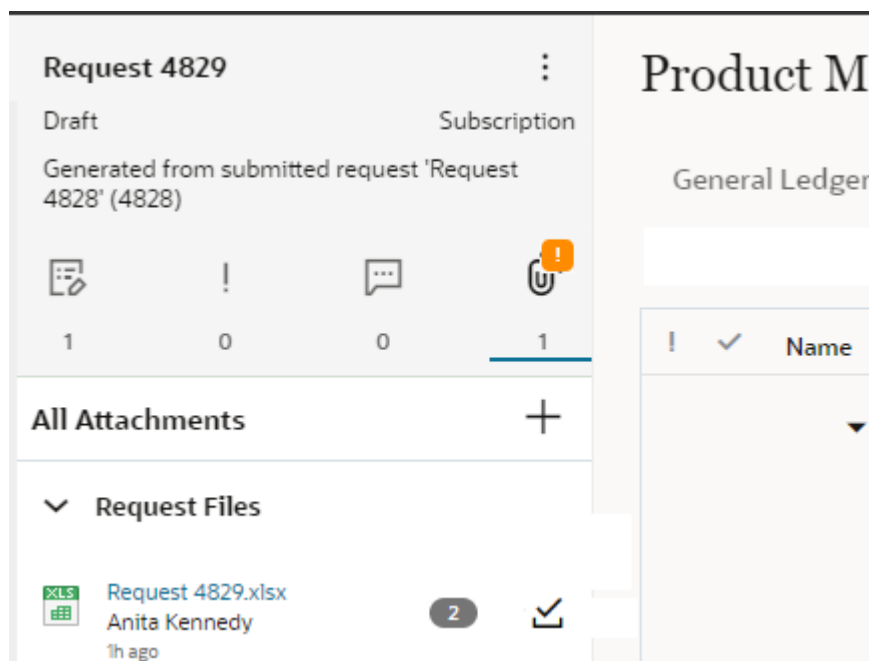
要求アイテムは 3 つの方法のいずれかでロードできます:

- ユーザーがアップロードした要求ファイル。[ロード・ファイルを使用する変更](#)を参照してください。
- サブスクリプションから生成された要求ファイル。[ビューポイントのサブスクライブ](#)を参照してください。
- ビューポイントの比較の一部として生成された要求ファイル。[比較結果からの要求アイテムの作成](#)を参照してください。

要求にロードされるアクションを含むファイルは、ダウンロードして確認できるように要求に添付されます。

要求のファイル添付にスキップされた行がある場合:

- 警告バッジが「添付」 タブに表示されます。
- スキップされた行数が、要求ファイルをダウンロードするためのリンクの横に表示されます。





 **Note:**

スキップされた行があるファイル添付を含む要求を送信しようとする、ファイル添付にスキップされた行があるという警告が表示され、要求の送信を続行することを確認する必要があります。  
ファイルをダウンロードし、スキップされた行を確認すると、要求の送信時に警告が表示されなくなります。

**インバウンド要求ファイルを表示するには:**



ドラフト要求から、「添付」 をクリックし、要求ファイルをダウンロードするためのリンクをクリックします。このファイルには、要求にロードされる同期されたアクションが含まれています。「ステータス」列は、要求ファイルの行がアクションのために作成されたかどうかを示します。

要求ファイルをダウンロードすると、要求ファイルの名前の横に**ダウンロード済** アイコンが表示されます。アイコンにマウス・カーソルを置くと、添付をダウンロードしたユーザーの名前が表示されます。

 **Tip:**

インバウンド・ファイルを、要求処理中にそのファイルから作成された要求アイテムが含まれるファイルと比較すると役立つ場合があります。そのファイルを表示するには、要求アイテムの詳細をダウンロードします。[ファイルへの 1 つの要求のダウンロード](#)を参照してください。

## ファイルへの 1 つの要求のダウンロード

ドラフト要求または完了した要求をファイルにダウンロードし、そのファイルを Microsoft Excel で確認または変更できます。

たとえば、ドラフト要求の場合、要求をダウンロードし、それを変更してアイテムを追加するか既存のアイテムを更新してから、同じビューにロードして戻すことができます。完了した要求の場合、要求をダウンロードし、そのファイルを別のビューの要求にロードして、そのビューに同じ変更を適用できます。

要求のダウンロードのファイル形式には、要求ロード・ファイルと同じ形式が使用されます。[ロード・ファイル形式の要求](#)を参照してください。

### 考慮事項




- 要求内のアクションが含まれるビューポイントごとに、個別のワークシートが作成されます。

 **ノート:**

ファイルに要求をダウンロードする場合、ビューポイント名を 30 文字以下にするか、ラベルを設定する必要があります。ラベルの使用の詳細は、[ビューポイントの検査](#)を参照してください。

- ダウンロード・ファイルには、同じ要求アイテムまたはノードの複数の行を含めることができます。
- アイテムに対して複数のビューポイントで実行されるアクションがあった場合、そのアイテムまたはノードが複数のワークシートに表示される場合があります。
- 要求を検証した場合は、要求の検証エラーがあればこれらがダウンロードしたファイルにリストされます。

要求をダウンロードするには:

1. 次のいずれかのアクションを実行します。
  - 「要求」で、ダウンロードする要求の横の  をクリックして「ファイルにダウンロード」を選択します。
  - 要求を検査し、「詳細」をクリックし、 をクリックして「ファイルにダウンロード」を選択します。
  - 開いたビューで、「要求」パネルを開き、要求名の横の  をクリックして「ファイルにダウンロード」を選択します。
2. 「開く」をクリックして要求を Excel で表示するか、**ファイルの保存**をクリックし、場所を選択して要求をローカル・マシンに保存します。

 ノート:


デフォルトでは、ファイルは要求名で保存されます。保存時にファイル名を変更できます。

保存した要求ファイルをアップロードするには、[ロード・ファイルを使用する変更](#)を参照してください。

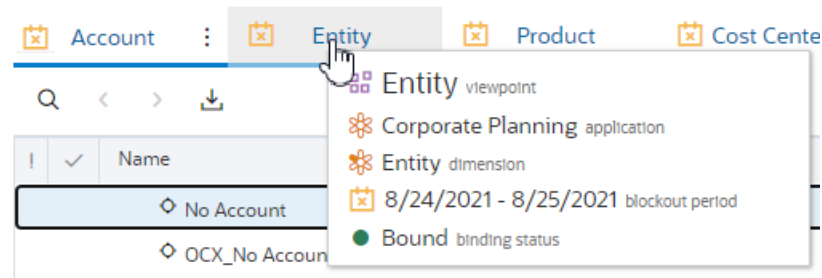
## 要求およびブロックアウト期間

アプリケーションかディメンションの所有者またはメタデータ・マネージャは、ブロックアウト期間が終了するまで要求が保持され、アクティブなビューに適用されない、アプリケーションまたはディメンションのブロックアウト期間を設定できます。

ブロックアウト期間中は、要求を引き続き送信、承認、エンリッチおよびコミットできます。要求が送信された後(および該当する場合は、すべての承認ポリシーおよびコミット・ポリシーが履行された後)、その要求は「ブロック済」の状態になり、ブロックアウト期間が終了するまで保持されます。

現在、ブロックアウト期間中のディメンションのビューポイントは、 アイコンで示されます。ブロックアウト・アイコンがあるビューポイントに対して送信した要求は、ブロックアウト期間が終了するまでブロックされます。ビューでビューポイントの名前にマウス・カーソルを置くと、ブロックアウト期間の開始日と終了日が表示されます。現在のブロックアウト期間は黄色のブロックアウト・アイコンで示され、今後のブロックアウト期間は緑色のブロックアウト・アイコンで示されます。

## Corporate Planning



### Note:

ブロックアウトの構成方法によっては、アプリケーション所有者、ディメンション所有者およびデータ・マネージャがブロックアウト期間の影響を受けない場合があります。ブロックアウトの影響を受けない場合、ブロックアウト・アイコンは表示されません。詳細は、[ブロックアウト期間の理解](#)を参照してください。

異なるアプリケーションまたはディメンションからの要求アイテムが含まれている要求では、要求のいずれかのアプリケーションまたはディメンションが現在ブロックアウト期間にある場合、要求全体がブロックされます。すべての要求アイテムのすべての変更は、関連するすべてのアプリケーションまたはディメンションのブロックアウト期間が終了した後に適用されます。

# 11

## 要求アクティビティの操作

「要求アクティビティ」リストで要求を参照できます。

「要求アクティビティ」リストで、関連付けられたビュー、要求内のアイテム数、要求の期間など、要求に関する情報を迅速に確認できます。「要求の問題」列には、要求のエラーおよび警告の数が表示されます(完了した要求の検証警告を含む)。

### 「要求アクティビティ」リストのフィルタリング

次によって、要求リストをフィルタできます。


- **要求 ID:** 要求 ID を入力します。
- **ビュー:** すべてのビュー、または特定のビューを選択します
- **要求タイプ**
  - すべて: すべての対話型要求とサブスクリプション要求
  - 対話型: ユーザーによって手動で作成された要求。
  - サブスクリプション: サブスクリプションによって生成された要求。
  - インポート: インポートから生成された要求。
  - 連結: 要求連結によって生成された要求
  - ロード: マージ・モードでのビューポイントのロードによって生成された要求
- **ステータス**
  - すべて: すべてのステータス・タイプの要求
  - ドラフト: 自分が作成したドラフト要求。自分が作成していないドラフト要求は表示または変更できません。
  - 処理中: 送信されて承認待ちの要求
  - プッシュバック済: 要求の変更および再送信
  - 完了: コミットされて、もう編集できない要求。
  - 却下済: 却下されクローズされた要求。
  - ブロック済: アプリケーションのブロックアウト期間終了待ちの現在保留されている要求。
- **ステージ**
  - すべて: 送信、承認およびクローズ済のステージにある要求
  - 送信: 送信されていない要求(ドラフト・ステータス)
  - 承認: 送信済であるがまた承認されていない要求(処理中ステータス)
  - クローズ済: 承認済でコミット済である要求または却下済の要求(完了ステータス)
  - コミット: 承認済で、まだコミットされていない要求(処理中ステータス)

- **所有者:** 要求所有者(送信者または担当者)を指定し、そのユーザーによって所有されている要求のみを表示します。すべてのユーザーによって所有される要求を表示するには、「すべて」を選択します。
- **自分のアクティビティ**
  - すべて: 送信済、管理済、割当て済、招待済および参加済のすべての要求。
  - 割当て済: 自分に割り当てられた要求
  - コラボレーション済: コラボレーションする要求
  - 送信済: 送信した要求
  - 招待済: 承認またはコミットするように招待されている要求
  - コントリビューション済: 変更を加えた要求(データの変更、ワークフロー・アクションの実行、またはコメントや添付の編集)
  - 管理済: データ・マネージャ権限以上を持つデータ・オブジェクトを含む要求
- **時間枠:** 「過去 90 日間」などの期間を選択するか、日付範囲を入力します。


### 要求アクティビティ・フィルタの保存


フィルタ選択を保存すると、特定の要求アクティビティをすばやく繰り返し表示できます。保存済フィルタは保存したユーザーのみが使用できます。

#### フィルタを保存するには:

1. フィルタ・ヘッダーで、「保存済フィルタ」メニュー  をクリックし、「保存」をクリックします。
2. 名前を入力して、「保存」をクリックします。

フィルタを保存すると、保存したフィルタの名前が「保存済フィルタ」パネルおよび「要求アクティビティ」ヘッダーに表示されます。


保存済フィルタのフィルタを変更して別の名前でも保存したり、「保存済フィルタ」メニュー  から不要になった保存済フィルタを削除することができます。

保存済フィルタの選択をクリアするには、「すべてのフィルタのリセット」  をクリックします。


### 「要求アクティビティ」リストのアクション

「要求アクティビティ」リストから、次のことができます:

- **検査** 提案または完了した変更の要求アイテム詳細を表示する任意のステージにある要求。要求の検査中は、何も編集できません。


要求を検査するには、要求の「アクション」列で  をクリックして、「検査」をクリックします。

- **開く** ドラフト、処理中およびプッシュバック済の要求を開き、追加の変更を加え、検証の問題を修正し、要求を送信します。

要求を開くには、操作する要求をクリックするか、「アクション」列で  をクリックして、「開く」をクリックします。


要求および関連付けられたビューが開きます。

- **削除** ドラフトまたはプッシュバック済の要求が不要になった場合は、削除します。

要求を削除するには、ドラフト要求の「アクション」列で  をクリックして、「削除」をクリックします。

- **ダウンロード** 要求情報をファイルにダウンロードします。個々の要求、複数の要求のサマリー情報または複数の要求の詳細情報をダウンロードできます。[ファイルへの要求のダウンロード](#)を参照してください。

### 要求アクティビティの列セットの選択

「列セットの選択」  をクリックし、次のオプションのいずれかを選択して、「要求アクティビティ」表に表示される列のセットを変更します。

- **全般:** 発行される要求数、要求経過期間、要求の所有者など、要求に関する基本情報。
- **ワークフロー:** 要求の招待者、承認、コミットなど、要求に関するワークフロー情報。
- **すべて:** 全般情報とワークフロー情報の両方。

## 要求の検索

「要求」リストで特定の要求を検索できます。

要求の次の属性を検索できます。

- **要求 ID:** ドラフト要求の作成時にシステムによって生成されます。要求 ID ("Request 1006"など)は要求のデフォルト・タイトルに挿入されます。
- **要求タイトル:** デフォルト・タイトルはシステムによって生成され、要求 ID を含みます。要求のタイトルは変更できます。要求タイトルを編集しても要求 ID は変更されません。
- **要求の説明:** ビューの名前とユーザーの名前を使用してシステムによって生成されます。たとえば、要求のビューが部門の場合、説明は「部門に対する要求が Maria Kennedy によって作成されました」のようになります。

ID、タイトルまたは説明の一部を検索できます。たとえば、探している要求が部門ビューに変更を行ったことがわかっている場合などです。部門という単語を検索し、要求のリストを、ID、タイトルまたは説明に部門という単語を含む要求のみに絞り込むことができます。

### Request Activity



View	Status
All	All

ID	Title & Description
1005	<b>Departments_Updates</b> Request for Departments created by M

### ノート:

検索は、「要求」リストに現在表示されている要求に制限されます。リストには、最大 200 個の要求が表示されます。

要求を検索するには:

1. 「要求」から、 をクリックします。
2. 検索するテキストを入力し、[Enter]を押すか  をクリックします。

### ノート:

フィルタしていない要求リストに戻すには、検索ボックスからテキストを削除し、[Enter]を押すか検索ボックスの「X」をクリックします。



## ドラフト要求のオープンおよび編集

ドラフト要求を開き、要求アイテムを追加または編集し、コメントを作成し、検証の問題を修正して送信できます。

ドラフト要求および完了した要求を検査して、要求の詳細を表示できます([要求の検査](#)を参照)。ドラフト要求が不要になった場合は、削除することもできます([ドラフト要求の削除](#)を参照)。

### ビューから

要求を開くには:

1. 要求に関連付けられているビューを開きます。
2. 「要求」  (またはテーマに応じて ) をクリックします。
3. 開くドラフト要求の名前をクリックします。

### 要求アクティビティから




要求を開くには、操作するドラフト要求をクリックします。ドラフト要求と要求に関連付けられているビューが開きます。

## ドラフト要求の削除

ドラフト要求が不要になった場合は、削除できます。要求を削除する際は、要求に関連付けられているコメントまたは添付も削除できます。複数のドラフト要求を一度に削除することもできます。


### ビューから

ドラフトの要求を削除するには:

1. 要求に関連付けられているビューを開きます。
2. 「要求」  (またはテーマに応じて ) をクリックします。
3. 削除するには、要求名の右にある  をクリックして、「削除」を選択します。

### 要求アクティビティから

「要求アクティビティ」リストから、個々または複数のドラフト要求を削除できます。自分が要求所有者である「ドラフト」ステータスの要求を削除できます。

- 個々の要求を削除するには:
  1. ドラフト要求の「アクション」列で、 をクリックし、「削除」をクリックします。
  2. 「はい」をクリックして削除を確認します。
- 複数の要求を削除するには:
  1. 削除する個々のドラフト要求の横にあるチェック・ボックスを選択するか、ヘッダーのチェック・ボックスをクリックしてすべてのドラフト要求を選択します。ドラフト要求を削除するには、要求所有者である必要があります。

#### ノート:

すべての要求を選択すると、自分が所有するドラフト要求のみが選択されます。

2. 「要求の削除」をクリックします。
3. 「はい」をクリックして削除を確認します。

### Request Activity

Delete Requests

Request ID	View	Request Type	Status	Stage
All	All	All	All	All

<input checked="" type="checkbox"/>	Request ID	Title and Description	View	Status	Stage	Items
<input checked="" type="checkbox"/>	2172	Request 2172 Request for Entity Maintenance created by A...	Entity Maintenance	Draft	Submit Administrator	1
<input checked="" type="checkbox"/>	2171	Request 2171 Request for Entity Maintenance created by A...	Entity Maintenance	Draft	Submit Administrator	1
<input checked="" type="checkbox"/>	2170	Request 2170 Request for Entity Maintenance created by A...	Entity Maintenance	Draft	Submit Administrator	1
<input checked="" type="checkbox"/>	2169	Request 2169 Request for Entity Maintenance created by A...	Entity Maintenance	Draft	Submit Administrator	1
<input checked="" type="checkbox"/>	2168	Request 2168 Request for Entity Maintenance created by A...	Entity Maintenance	Draft	Submit Administrator	1
<input type="checkbox"/>	2167	Request 2167 Request for Entity Maintenance created by A...	Entity Maintenance	Completed	Closed Administrator	1



## ファイルへの要求のダウンロード

1 つ以上の要求をファイルにダウンロードする方法は複数あります:

- 1 つの要求の要求アイテムをファイルにダウンロードできます。[ファイルへの 1 つの要求のダウンロード](#)を参照してください。
- 複数の要求の要求アイテムをファイルにダウンロードできます。[ファイルへの複数の要求のダウンロード](#)を参照してください。
- 複数の要求のサマリー情報をファイルにダウンロードできます。[ファイルへの要求のサマリー情報のダウンロード](#)を参照してください。

## ファイルへの要求のサマリー情報のダウンロード

「要求アクティビティ」ページで、要求のフィルタ済リストの要求のサマリー情報をダウンロードできます。


たとえば、要求をオフラインで確認するために、「要求アクティビティ」ページの要求のフィルタ済リストをファイルにダウンロードできます。

要求のサマリー情報をファイルにダウンロードするには:

1. 「要求アクティビティ」ページで、フィルタを設定して、サマリー情報をダウンロードする要求を選択します。[要求アクティビティの操作](#)を参照してください。

### Note:

ダウンロードしたファイルには、そのリストが、画面に表示される 500 件の要求を超えている場合でも、フィルタされた要求レベルのサマリー情報が「要求アクティビティ」ページから表示されます。

2. 「ダウンロード」 をクリックし、「**要求のサマリーのダウンロード**」を選択して要求のサマリー情報を Excel ファイルにダウンロードします。Excel ファイルでリンクされている要求 ID をクリックして、Oracle Enterprise Data Management Cloud でその要求に移動します。

### Note:

ページされた要求のサマリー情報はダウンロードできません。

## ファイルへの複数の要求のダウンロード


「要求アクティビティ」ページから、複数の要求を 1 つのページにダウンロードできます。

### 考慮事項

- 要求は同じビューにある必要があります。

- ダウンロードを実行するユーザーには、ダウンロードするすべての要求に対して、少なくとも表示アクセス権が必要です。

要求をファイルにダウンロードするには:

1. 「要求アクティビティ」 ページで、ダウンロードする要求の横のチェック・ボックスを選択します。
2. 「ダウンロード」  をクリックし、「選択した要求詳細のダウンロード」 を選択します。

 **Note:**

ファイルにダウンロードするには、要求は同じビューにある必要があります。

要求は Excel ファイルにダウンロードされます。要求の各ビューポイントは個別のタブに表示され、各タブでは要求アクションが要求別に要求番号順にグループ化されます。Excel ファイルには、最大で 12,000 個の要求アイテムが含まれます。

 **Tip:**

ワークシート内のリンクされている要求番号をクリックして、要求を要求インスペクタで表示します。

## 要求連結の理解

「要求アクティビティ」 ページから、まだ処理中の複数の要求を選択し、組み合された単一の要求に連結できます。

要求を連結すると、複数の要求にわたるすべての変更を単一の要求に定期的に集約して、まとめてレビューおよび承認できます。

 **Tip:**

- **連結済要求**は、組み合されて連結要求になったソース要求です。
- **連結要求**は、複数の連結済ソース要求で構成される、組み合された要求です。

### 連結プロセス・フロー

要求連結プロセスは、次の一般的なフローに従います:

1. ユーザーは、「要求アクティビティ」 ページで連結する要求を選択します。同じビューにあり、ステータスが「処理中」で、かつまだ「連結」タイプでない要求を連結対象として選択できます。ユーザーには、すべての要求のすべての要求アイテムに対して少なくともデータ・マネージャ権限が必要です。
2. ユーザーが「**要求の連結**」をクリックすると、ソース要求内の要求アイテムが組み合されて新しい連結要求になります。連結プロセスについては、次の点に注意してください:
  - 要求は送信日に従って処理されます。2 つ以上の操作が互いに競合する場合(つまり、異なる元の要求に同じノードに対する複数の変更がある場合)、連結要求には要求の

送信日までの最新の変更のみが含まれます。たとえば、ユーザーがノードの説明を「南」に更新する要求を送信し、その後、別のユーザーが同じノードに対して説明を「南東」に更新する要求を送信した場合は、「南東」の更新が連結要求に含まれます。

- 元の要求の要求コメントと添付は連結要求に継承されません。元の連結済要求に移動して連結要求を調査することで、コメントと添付を確認できます。
  - 要求ファイルの添付には、すべての連結済要求のすべての要求アクション(それらを実行したユーザーを含む)のレコードが含まれます。競合する操作は、同じキーを持つレコードがすでに処理されているというノートを付けてハイライトされます。添付には要求の各ビューポイントのタブが含まれ、各タブには元のソース要求に移動するためのリンクが含まれます。
  - 要求を連結するとき、元の要求の所有者を連結要求の協力者として追加できます。これにより、元の要求の所有者は、連結要求へのコントリビューション、進行状況の追跡、詳細の参照が可能になります。
3. ソース要求は「連結済」ステータスに更新され、変更を加えることやワークフロー・アクション(承認など)を実行することはできなくなります。ただし、コメントや添付を追加したり、連結済要求を調査して、連結された時点までに実行されたワークフロー・アクションを確認することは引き続き可能です。要求インスペクタの「サマリー」タブには、連結要求へのリンクも含まれます。
  4. 連結要求のステータスは「ドラフト」に設定され、ステージは「送信」に設定されます。要求インスペクタの「**連結**」タブには、連結要求を作成するために組み合わせたソース要求が表示されます。
  5. 連結要求を破棄した場合は、元のソース要求が復元されて、ワークフローの、連結された時点の位置に戻ります。[連結要求の破棄](#)を参照してください

## 要求の連結

要求連結を使用すると、処理中の複数の要求を組み合わせて単一の連結済要求にすることができます。「要求アクティビティ」ページから要求を連結します。

### 考慮事項

- 連結するすべての要求は同じビューにある必要があります。
- 連結するすべての要求は「処理中」ステータスである必要があります。
- 要求タイプが「連結」の要求を連結対象にすることはできません。
- 連結するすべての要求のすべてのアクションに対して、少なくともデータ・マネージャ権限が必要です。

### 要求を連結するには:

1. 「要求アクティビティ」から、前述の「考慮事項」の項の基準を満たす複数の要求を選択します。

 **Tip:**

連結要求でレビューするすべての要求を選択したことを確認します。既存の連結要求にさらに要求を追加することはできません。連結要求に別のソース要求を追加するには、連結要求を破棄し、すべてのソース要求を含めた新しい連結要求を作成します。[連結要求の破棄](#)を参照してください。

2. 「**要求の連結**」をクリックし、必要に応じてチェック・ボックスを選択して、元の要求の所有者を連結要求の協力者として含めます。続いて、「はい」をクリックして確認します。ソースの連結済要求は「連結済」とマークされ、「要求アクティビティ」では新しい連結要求を使用できます。

要求を連結した後、次のアクションが発生します:

- ソース要求は「連結済」とマークされ、変更に対してロックされ、それらに対するワークフローが停止します。
- 連結アクションおよびユーザーとタイムスタンプを示す要求履歴アイテムが各連結済要求に追加されます。
- ソース要求が組み合されて単一の連結要求になります。新しい連結要求のステータスは「ドラフト」に設定され、ステージは「送信」に設定されます。

 **Note:**

連結要求の要求アイテムは 12,000 件までという制限があります。

## 要求連結およびワークフロー

ソース要求が連結要求に連結されると、次のワークフロー・アクションが発生します:

### 連結済要求の場合:

- ソース要求の所有者に、要求が連結されたことが通知されます。連結要求が完了、却下または破棄された場合にも通知されます([連結要求の破棄](#)を参照)。
- ソース要求のステータスが「連結済」に更新されます。元の要求の要求アイテムは読取り専用になり、編集できなくなります。
- 元の要求に追加の要求アクションを追加することはできません。
- 既存の検証エラーは、元の要求がクローズされるまで元の要求に保持されます。
- ソース要求は、履行されていないポリシーに対して評価されなくなります。既存のワークフロー履歴は保持されます。

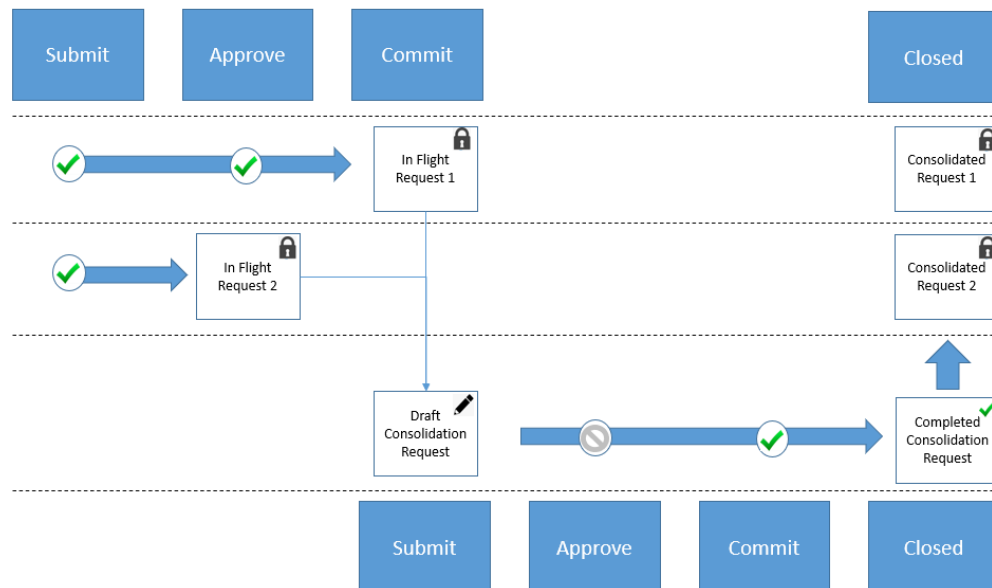
### 連結要求の場合:

- 連結要求が作成されると、要求のステータスは「ドラフト」、ステージは「送信」になります。削除を除いて、他のドラフト要求に対して実行できる任意のアクションを連結要求に対して実行できます(かわりに破棄を使用します。[連結要求の破棄](#)を参照)。たとえば、次のようなことができます。
  - 要求アイテムを追加、編集および削除します。

- 要求をプッシュバック、撤回または却下します。連結要求を却下すると、すべての元の要求のステージが「クローズ済」に更新され、要求の所有者に通知されます。元の要求の要求ステータスは「連結済」のままです。
- 要求を送信します。その後、要求は、要求内の要求アイテムに関連付けられたポリシーに基づいて、承認またはコミット・フェーズに入ります。要求タイプに連結が含まれる承認ポリシーとコミット・ポリシーのみが連結要求に対して評価されます。[承認ポリシーの作成および有効化](#)または[コミット・ポリシーの作成および有効化](#)を参照してください。
- 前述した通常のドラフト要求アクションに加えて、連結要求を破棄することもできます。これにより、連結要求が削除され、すべての元の要求が以前の状態に戻ります。[連結要求の破棄](#)を参照してください。

次の図は、連結プロセスのワークフローの例を示しています：

1. 同じビューからの処理中の要求が 2 件表示されています。1 つは「コミット」ステージ、もう 1 つは「承認」ステージです。
2. 要求が連結され、各ソース要求のワークフローが停止します。連結済要求は編集できなくなります(ロック・アイコン)。
3. 連結要求が「ドラフト」ステータスで作成され、新しいガバナンス・ワークフローが開始されます。連結要求タイプを含めるように構成されたポリシー([承認ポリシーの作成および有効化](#)または[コミット・ポリシーの作成および有効化](#)を参照)がワークフローに含まれます。  
この例では、連結要求ポリシーに承認ステージがないため、要求が送信されるとコミット・ステージに進みます。
4. コミット・ポリシーが履行されると、連結要求は完了してクローズされ、両方の連結済要求もクローズされます。



## 連結要求の破棄

連結要求の所有者は、連結を元に戻し、元の要求を以前の状態に戻すために、連結要求を破棄できます。

様々な理由により、連結要求を破棄できます。たとえば、連結要求に追加のソース要求を含める、連結要求から 1 つ以上のソース要求を削除する、ソース要求が通過するワークフローを追加する(たとえば、連結前にソース要求として追加承認を受けるため)などのことが必要になる場合があります。



### Note:

要求が送信ステージにある場合は、要求の所有者が連結要求を破棄できます。

連結要求を破棄すると、次のアクションが発生します:

- 元のソース要求は以前の「処理中」ステータスに戻り、要求の所有者に通知されます。
- ソース要求の現在のポリシーが評価され、ワークフローが通常どおり進行します。
- 連結要求が削除されます。
- 各ソース要求に要求履歴アイテムが追加されます。

連結要求を破棄するには、次のアクションを実行します:

- 「要求アクティビティ」から連結要求を選択し、「アクション」 をクリックして、「破棄」を選択し、「はい」を選択して確認します。
- 連結要求から、要求タイトルの横にある「アクション」 をクリックし、「破棄」を選択し、「はい」を選択して確認します。

## 要求の検査



要求を調査して、詳細を確認できます。要求の承認者またはコミット者である場合は、要求を調査するときに承認またはコミット・アクションを実行できます。


### ビューからの要求の検査

#### ノート:

ドラフト要求と処理中要求はビューで確認できます。完了した要求は要求リストで使用できます。


ビューから要求を検査するには:

1. 要求に関連付けられているビューを開きます。
2. 「要求」 (またはテーマに応じて)をクリックします。

3. 要求名の右にある  をクリックして、「検査」を選択します。

### 要求リストからの要求の検査

要求リストから要求を検査するには:

1. 「要求」をクリックします。
2. 要求の「アクション」列で、 をクリックしてから「検査」をクリックします。

要求を検査すると、次が表示されます。

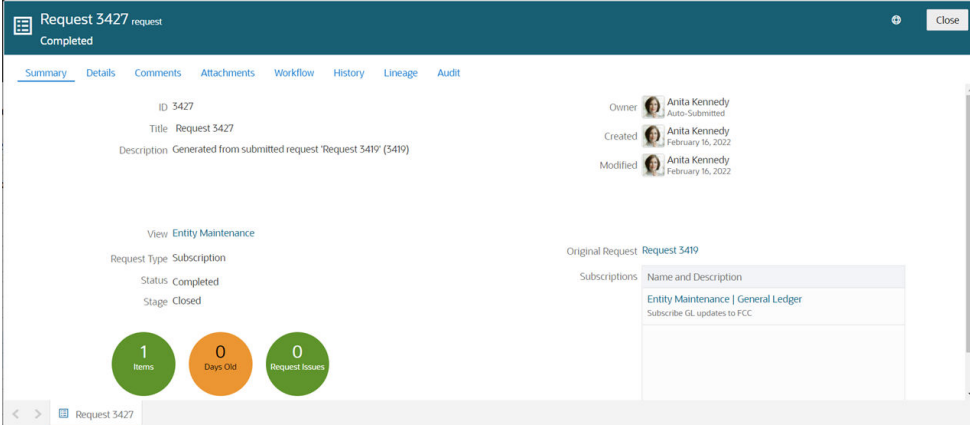
- **サマリー:** 要求のタイプ、要求アイテムの数、要求が作成されてからの日数、要求の問題数など、要求に関する情報が表示されます。

### ノート:


問題数には、警告およびエラーの両方が含まれます。アイコンの色は、検証の問題の最も高い重要度に基づきます。

要求がサブスクリプションから生成された場合は、元の要求タイトルに加えてサブスクリプションも表示されます。要求タイトルまたはサブスクリプション・タイトルをクリックしてインスペクタで開き、サブスクリプション要求がどのように発生したのかについて詳細を取得します。

要求がサブスクリプションまたはインポートの一部として自動的に送信された場合、「所有者」フィールドに「自動送信済」と表示されます。



- **詳細:** 要求アイテムの縮小されたリストが表示され、影響を受けたノードおよびノードに対して行われたアクションに加えて、アクション・タイプ、ノード・タイプ、アプリケーション、およびアクションの実行者が示されます。要求アイテムを展開すると、各アクションの検証エラーや警告を含めて、ノードに具体的に何が行われたかが表示されます。要求アイテムまたは要求アイテム・インスタンスの個々の要求アクションを削除できます。[要求アイテムの検査](#)を参照してください。

「アクション」 アイコンをクリックし、「ファイルにダウンロード」を選択して、要求の詳細を Excel ファイルにダウンロードします。

ページされた要求の要求アクションは、表示またはダウンロードできません。

- **コメント:** ハイパーリンクを含む要求のコメントが表示されます(指定された場合)。

Summary Details Comments Attachments Workflow History

**System** Pushback  
March 27, 2020  
Request was automatically pushed back to the Submit stage because of validation failures.

---

**Casey Brown** Request  
March 23, 2020  
Please add your cost centers.

---

**Casey Brown** Request  
March 23, 2020  
Anita and Kerry - please add your cost centers.

- **添付:** ファイルを使用して要求アクションを作成した場合のロード・ファイルおよび要求に追加された添付が表示されます。ここでファイルをクリックして、直接開くことができます。
- **ワークフロー:** 要求のワークフロー・パスおよび承認履歴を表示します。「送信」アイコンをクリックして、送信者、要求を送信した日付、およびユーザーが要求に対してコラボレーションを依頼した日付を表示します。承認ステージの招待者および承認を表示するには「承認」アイコンをクリックします。コミット・ステージの招待者およびコミットを表示するには、「コミット」アイコンをクリックします。

Request 3103 request  
In Flight

Summary Details Comments Attachments Workflow History

Submit Approve Commit Closed

**Commits**

User	Activity	Data Chain Object	Policy	Date
No data to display.				

Remaining Commits		5 of 5	Invitees	4
P&B Commit policy	Planning and Budgeting application	1 of 1	Amy Marlin	1
Corporate Planning commit policy	Corporate Planning application	4 of 4	Alex Smith	1
			Tracey Allen	1
			Anita Kennedy	1

- **連結:** 要求が連結要求の場合は、連結要求を作成するために組み合されたソース要求が表示されます。[要求の連結](#)を参照してください。
- **履歴:** 参加者、実行されたアクション、日時を含む要求の履歴が表示されます。要求アイテムのいずれかに検証警告があった場合、それらも表示されます。

特定の情報を検索できます。たとえば、要求の承認情報を検索する場合があります。タブに表示されているフィールド内のテキストが検索されます。



Summary Details Comments Attachments Workflow History

🔍

User and Date	Action	From	To
Casey Brown March 2, 2020	Request for Company Maintenance created by Casey Brown.		
Casey Brown March 23, 2020	User 'Kerry Lane' added as collaborator on request.		Kerry Lane
Casey Brown March 23, 2020	User 'Anita Kennedy' added as collaborator on request.		Anita Kennedy
Kerry Lane March 27, 2020	Node 'New Entity' added in viewpoint 'Financial Consolidation'.		Entity
Kerry Lane			

- **系列:** 要求の前後の関連要求を示す要求の系統図を表示します。[要求系列の表示](#)を参照してください。
- **監査:** 完了した要求に関連付けられているトランザクション履歴を表示します。このタブは、完了した要求にのみ表示されます。[要求のトランザクション履歴の表示](#)を参照してください。

## 要求インスペクタのアクション

要求の承認者またはコミット者には、「アクション」ドロップダウンが表示され、要求インスペクタからの要求を承認(またはコミット)、プッシュバックまたは却下できるようになります。これにより、要求を開いてビューで変更内容を表示するかわりに、「要求アクティビティ」で要求に対して直接アクションできるようになります。

これが役立つのは、要求がサマリー視点で承認またはコミットされる時、承認者またはコミット者の権限で送信元のビューにアクセスできないとき、または承認者またはコミット者が階層ではなくノード・タイプの承認を担当しているときです。

📄 Request 2235 request  
In Flight
👤 Actions ▼ Close

Summary Details Comments Attachments Workflow History

ID 2235

Title Request 2235

Description Request for Entity Maintenance created by Administrator .

Status In Flight

Stage Approve

View [Entity Maintenance](#)

Request Type Interactive

Created Administrator November 26, 2019

Modified System Today at 11:57 AM

Submitted Administrator November 26, 2019

1  
Items

141  
Days Old

0  
Request Issues

「アクション」メニューで、いずれかのアクションを選択します。

- **承認** 要求を承認するには、必要に応じてコメントを入力し、「OK」をクリックします。
- **コミット** 要求をコミットするには、必要に応じてコメントを入力し、「OK」をクリックします。
- **プッシュバック** 変更に関して送信者に要求をプッシュバックするには、コメントを入力し、[Tab]を押し、「OK」をクリックします。
- **却下** 要求を却下するには、コメントを入力し、[Tab]を押し、「却下」をクリックします。

詳細は、[承認プロセス](#)または[コミット・プロセス](#)を参照してください。

## ポリシー実行プラン

ポリシー実行プランにより、現在の履行ステータスおよびそれぞれの処理の順序を含めて、要求に影響するすべてのポリシーを表示できます。

この情報は、要求の複雑なガバナンス・シナリオを視覚化する際に役立つ場合があります。たとえば、データ・マネージャは、要求がワークフロー・プロセスのどこにあるか、どのポリシーが残っているかを判断するために、ポリシー・プランを使用することがあります。所有者はプランを使用して、特定のタイプの要求に対してワークフローを適切に構成できます。

要求インスペクタの「ポリシー」タブからポリシー実行プランにアクセスします。

The screenshot displays the 'Policy Execution Plan' for 'Request 7541'. The plan is organized into a grid with 'Order' (1, 2, 3) on the vertical axis and 'Stage' (Approve, Commit, Closed) on the horizontal axis. Blue arrows labeled '(Workflow direction)' show the sequence of actions: starting from the 'Approve' stage of Order 1, moving down to Order 2, then across to the 'Commit' stage, then down to Order 3, across to the 'Closed' stage, and finally down to Order 4. The 'Approve' stage for Order 4 shows two approvers: 'GL Entity Thomas' and 'GL Entity Approv...'. The 'Closed' stage for Order 4 shows the inviter 'Carol Judd'. A sidebar on the right provides details for the selected policy: 'GL Entity Approval Aruna and Charlie', including its type (Approval), object (Corporate Company dimension), data chain (Financials Cloud application), fulfillment status (In Progress), stage (Approve), approval method (Parallel), and policy order (3).




### ワークフローの方向

前述のイメージの青い矢印で示されているように、ポリシー実行プランのワークフローは 1 列目の上部(ここでは、ポリシー順序 1 の承認)から開始され、1 列目を下へと続行します。1 列目の最後のポリシーが履行されると、2 列目の最初のポリシー(ここでは、ポリシー順序 1 のコミット)が処理され、2 列目のポリシーがすべて履行されると、3 列目の最初のポリシーが処理される、のようになります。

### ポリシー・タイプおよび履行ステータス

ポリシー実行プランのアイコンおよび色は、次のように各ポリシーのタイプおよび履行ステータスを示します:

#### ポリシー・タイプ

- 承認: 
- エンリッチ: 
- コミット: 
- 通知: 

#### 履行ステータス

- 緑: 履行済
- 茶: 進行中
- 青: 将来
- 赤: エラー
- グレー: 未完

#### Note:

未完の履行ステータスは、ポリシーが履行される前に要求が却下または連結されたポリシーに対して表示されます。(たとえば、「承認」ステージで要求が却下されたために履行されなかったコミット・ポリシー)。

#### ポリシー詳細ペイン

ポリシーの名前をクリックして、ポリシー詳細ペインに詳細を表示します。このペインでは、ポリシーまたはデータ・チェーン・オブジェクトの名前をクリックして、インスペクタにポリシーまたはデータ・チェーン・オブジェクトを表示できます。

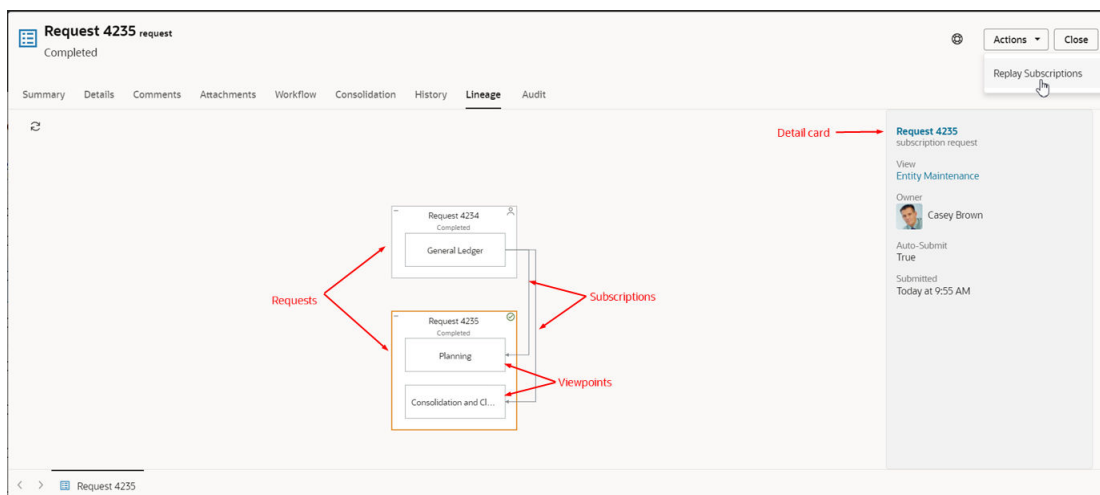
詳細ペインには、ステータス、すでに付与された承認またはコミット、現在の招待者、将来招待されるユーザーおよびグループなどのポリシーに関する情報も表示されます。

ポリシーにエラーがある(たとえば、アクティブなユーザーがいないグループが割り当てられている)場合、修正処理を実行できるようにその情報も詳細ペインに表示されます。

## 要求系列の表示

要求インスペクタの「系列」タブには、要求の前後の関連要求を示す要求の図が表示されます。

系列図には、元の要求、およびそこから生成されたサブスクリプション要求が含まれます。各要求を展開して、詳細(タイトル、ステータス、所有者、影響を受けたビューポイント、要求の作成に使用されたサブスクリプションなど)を表示できます。また、詳細カードの要求タイトルをクリックして、系列内の要求を検査したり、詳細情報(要求アイテム、コメント、添付、要求ワークフロー、履歴など)にアクセスできます。



「系列」タブ内の各要求はボックスで表され、図の最上部に元の対話型要求が表示されます。各ボックスを展開して、要求内のビューポイントを表示できます。サブスクリプションは、要求が縮小されているときは破線の矢印で表され、要求が展開されてビューポイントが表示されているときは実線の矢印で表されます。

要求、ビューポイントまたはサブスクリプションをクリックして、これらに関する詳細(完了した要求の送信日、ドラフト要求の現在の担当者など)を詳細カードに表示します。詳細カードには、そのオブジェクトに関する詳細情報を確認するためのリンクも含まれています。たとえば、詳細カードに要求が表示されているとき、詳細カードのリンクを使用して、要求またはビューを検査できます。詳細カードにサブスクリプションが表示されているときは、詳細カードのリンクを使用して、ソース・ビューとターゲット・ビューおよびビューポイントとともにサブスクリプションを検査できます。

**Note:**

要求系列に含まれる要求が削除されると、削除された要求のプレースホルダが図に表示され、後続のサブスクリプションまたは要求は表示されません。削除されたサブスクリプション要求をクリックすると、削除された要求に関する追加情報が表示されます。

マウスを使用して、図の位置を調整したり、図のズーム・インやズーム・アウトができます。元の図を復元したり、現在進行中のサブスクリプションのステータスを更新するには、「リフレッシュ」

**レッシュ」** をクリックします。

図には、元の要求または要求の結果を表示するアイコンが表示されます。次の表は、系列図内のアイコンを説明しています：


**Table 11-1 要求系列のアイコン**

アイコン	意味
+	要求を展開します

Table 11-1 (Cont.) 要求系列のアイコン

アイコン	意味
	要求を縮小します
	要求は対話型で作成されました
	要求はサブスクリプションから作成されました
	要求はインポートにより作成されました
	サブスクリプション要求は自動送信されました
	要求は削除されました
	サブスクリプション要求は失敗したか、またはスキップされました

### 失敗した、またはスキップされたサブスクリプション

失敗したか、またはスキップされたサブスクリプション要求の場合、系列図には、失敗したか、またはスキップされたサブスクリプションのソース要求に  アイコンが表示されます。詳細カードには、次のような失敗に関する詳細が表示されます：

- サブスクリプションに作業可能な担当者はいません。
- アイテムが生成されなかったため、サブスクリプションはスキップされました。

完了した要求から、サービス管理者およびビューに対する所有者権限があるユーザーは、構成の問題(サブスクリプション担当者の欠落など)が原因で失敗したサブスクリプションをリプレイできます。これにより、ソース・ビューポイントとターゲット・ビューポイントの間でデータの整合性を確保するために、完了した要求について以前に実行されなかったサブスクリプションを再処理できます。

#### Note:

アイテムが生成されなかったためにスキップされたサブスクリプションをリプレイすることはできません。

サブスクリプションをリプレイする場合、次のサブスクリプションが再処理されます：

- 以前に実行に失敗したサブスクリプション
- 実行されたことがないサブスクリプション(新しいサブスクリプションを含む)

### 失敗したサブスクリプションをリプレイするには:

1. 完了した要求の要求インスペクタから、「アクション」、「サブスクリプションのリプレイ」の順にクリックします。

#### Note:

「サブスクリプションのリプレイ」メニュー項目は、完了した要求すべてについて表示されます。ただし、このアクションを選択したときに再処理されるのは、失敗したサブスクリプションまたは実行されたことがないサブスクリプションがある要求のみです。

2. オプションで、リプレイから作成されたサブスクリプション要求について自動送信を無効にし、「OK」をクリックします。  
完了した要求のサブスクリプションが再処理されます。

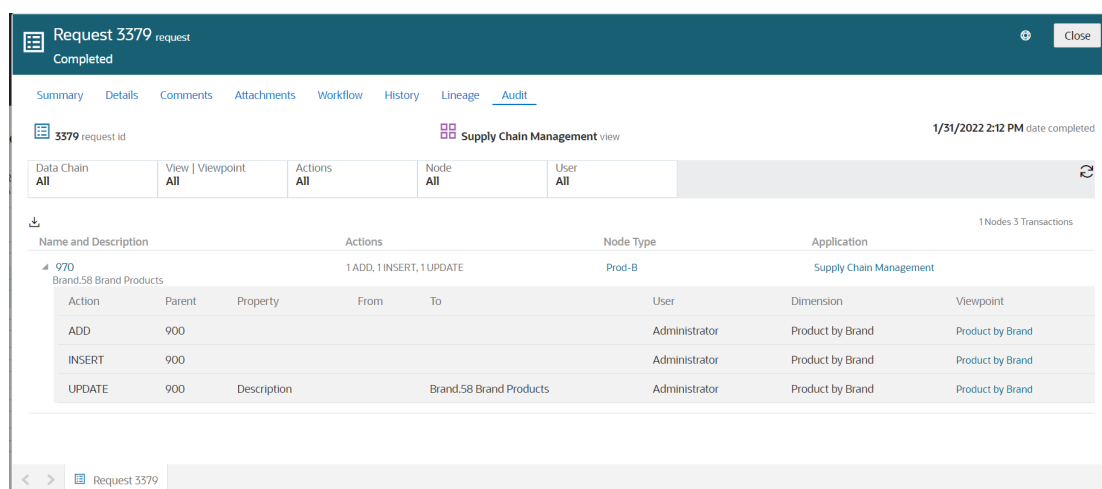
## 要求のトランザクション履歴の表示

完了した要求のトランザクション履歴は、要求インスペクタの「監査」タブで表示できます。結果をフィルタして特定のノードを表示したり、トランザクション履歴をファイルにダウンロードできます。

### 考慮事項

- 完了した要求についてのみ表示される「監査」タブから、要求のトランザクション履歴を表示します。
- 要求で更新されたプロパティを表示する権限がない場合、プロパティの「自」および「至」値は、画面に表示されないか、またはトランザクション履歴ファイルにダウンロードされません。



要求のトランザクション履歴を表示するには、要求を検査して、「監査」タブをクリックします。




Request 3379 request							
Completed							
Summary Details Comments Attachments Workflow History Lineage <u>Audit</u>							
3379 request id Supply Chain Management view 1/31/2022 2:12 PM date completed							
Data Chain	View   Viewpoint	Actions	Node	User			
All	All	All	All	All			
Name and Description		Actions		Node Type	Application		
970 Brand.58 Brand Products		1 ADD, 1 INSERT, 1 UPDATE		Prod-B	Supply Chain Management		
Action	Parent	Property	From	To	User	Dimension	Viewpoint
ADD	900				Administrator	Product by Brand	Product by Brand
INSERT	900				Administrator	Product by Brand	Product by Brand
UPDATE	900	Description		Brand.58 Brand Products	Administrator	Product by Brand	Product by Brand

表示する要求に含まれるトランザクションをフィルタできます。次のフィルタを使用できます。

- **データ・チェーン:** アプリケーション、ディメンション、ノード・タイプまたは階層セットを選択して、そのオブジェクトで実行された要求のトランザクションを表示します。
- **ビューポイント:** 要求に複数のビューポイントのトランザクションが含まれる場合は、ビューポイントを選択して、ビューポイントに固有のトランザクションを表示します。
- **アクション:** 表示する特定のアクションを選択します。選択には、次のアクションを使用できます。フィルタするアクションを複数選択できます。
  - 追加
  - 挿入
  - 移動
  - 除去
  - 削除
  - 更新
  - 名前変更
  - 並替え
- **ノード:** 個々のノードを入力して、そのノードのトランザクションを表示します。完全一致のみが表示され、ワイルドカード文字はサポートされていません。
- **ユーザー:** ユーザー名を選択して、そのユーザーが実行した要求のトランザクションを表示します。

要求に対してトランザクション履歴フィルタを使用する際、すべてのフィルタをデフォルト値にリセットするには「すべてのフィルタのリセット」 をクリックし、現在のフィルタ設定で返されたデータをリフレッシュするには「データのリフレッシュ」 をクリックします。

「要求トランザクションのダウンロード」 をクリックして、Excel ファイルに結果をダウンロードできます。ダウンロード・ファイルには、要求に対して現在フィルタされたデータに基づいて、すべてのトランザクション履歴(展開されたり、画面に表示された履歴のみではなく)が含まれます。

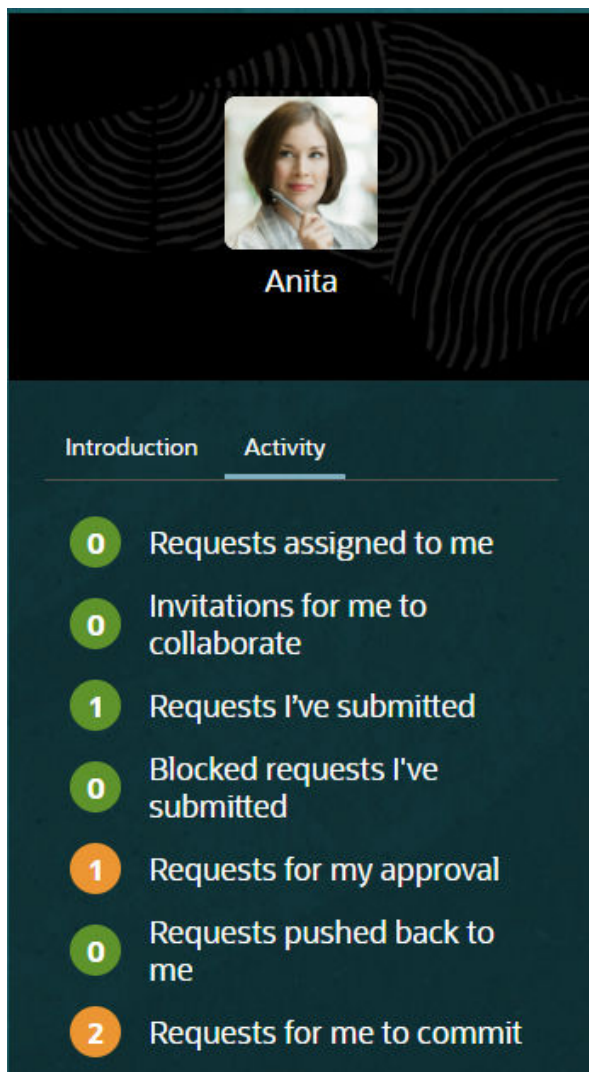
## ホーム・ページからの要求へのアクセス

ホーム・ページのようなパネルには、現在のユーザーに固有の要求アクティビティが表示されます。

次のカテゴリ内の要求数を確認できます。

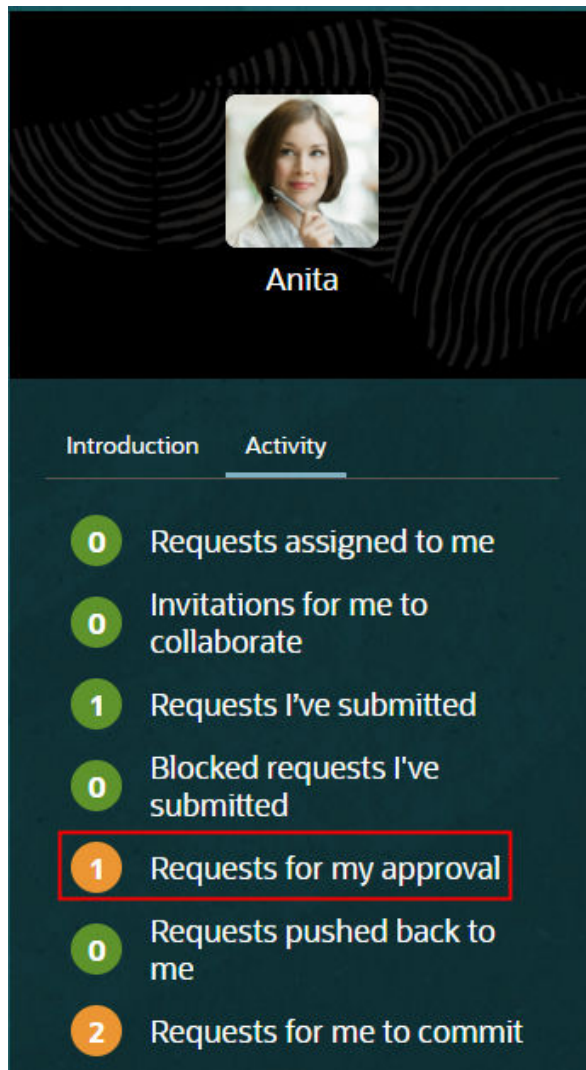
- 自分に割り当てられた要求
- 自分に対するコラボレーションの招待
- 自分が送信した要求
- 自分が送信したブロック済の要求

- 自分の承認の要求
- 自分にプッシュ・バックされた要求
- 自分に対するコミットの要求



1. 「アクティビティ」リスト内のいずれかのカテゴリをクリックし、特定の要求を操作できる「要求アクティビティ」ページに移動します。





2. 要求をクリックして開きます。

Request Activity Delete Requests

Request ID	View	Request Type	Status	Stage	Owner	My Activity	Time Frame					
All	All	All	In Flight	Approve	All	None	All	1 Requests				
Q												
<input type="checkbox"/>	Request ID	Title and Description	View	Request Type	Status and Stage	Items	Request Issues	Age (In Days)	Owner	Modified	Actions	
<input type="checkbox"/>	3081	<b>Request 3081</b> Request for Corporate P...		Corporate Plann...	Interactive	In Flight	Approve	1	0	4	Casey Brown Submitted 8/10/2021	

3. 変更を確認し、要求を承認、却下またはプッシュバックするかを決定します。

Corporate Planning - Request 3081

Account Entity **Product** Cost Center Memory

Q < > ⚙

Name	Alias: Default
Total Product	Total Product
All Product	All Product
SmartPhones	SmartPhones
Smart Phone 4 in	Smart Phone 4 in
Smart Phone 5 in	Smart Phone 5 in
Smart Phone 6 in	Smart Phone 6 in
<b>Smart Phone 7 in</b>	<b>Smart Phone 7 in</b>
Tablets	Tablets
Notebooks	Notebooks
Computer Accessories	Computer Accessories
Computer Services	Computer Services
No Product	No Product
P_T	T-Total Product
Total Services and Applications	
Total Brand	

Smart Phone 7 in

Approve Actions Done

Select Push-back Reject

Properties Locations History

Q 31 Properties

Name	Smart Phone 7 in
Parent	SmartPhones
Description	
Alias: Default	Smart Phone 7 in
Alias: EPMO	
Attribute Dim - Memory	
Data Storage	Store
Two Pass Calculation	False
Formula	
Formula Description	

## ガバナンス・ワークフローおよび承認

データ・ガバナンスは、情報をエンタープライズ内の資産として扱うことに関連するデータ品質、データ管理、データ・ポリシー、ビジネス・プロセス管理およびリスク管理が一元的に行われることを表します。Oracle Enterprise Data Management Cloud では、組織で要求ワークフローを使用して、データ・スチュワードやデータ保管者がデータを処理するために使用するプロセスおよび方法を積極的に管理し、高品質なエンタープライズ・データ・アセットを作成し維持できます。

要求ワークフローでは、いくつかの重要な方法でガバナンスに関する課題に取り組みます。

- 要求モデルは、アイテムおよびアクションのセットに基づいて変わります。要求内のアイテムは、まとめて検証、承認およびコミットされます。これにより、変更管理における整合性が維持され、変更の制御が可能になります。
- ワークフローの承認は推論ベースです。アプリケーション、ディメンション、階層セットまたはノード・タイプ・レベルで 1 つ以上の承認ポリシーを構成します。ワークフローは、承認ポリシーの実行と承認者の招待の調整を同時に行い、質の高い成果を達成します。
- ワークフローは、デフォルトで、"4 つの目"の原則に従います。承認ポリシーは、指定されていない限り、送信者を承認者として除外するようにデフォルトで構成されます。
- ワークフローは、複数のビジネス・コンテキストにわたり実装できます。
  - アプリケーション、ディメンションまたはノード/階層レベルの承認を保証するためにアプリケーション・ビュー内で構成されます。
  - アプリケーション・コンテキスト全体の関連する変更に対する承認を保護するためにメンテナンス・ビューに実装されます。
  - 複数のアプリケーション・コンテキストにわたるアプリケーションのディメンション・レベルのエンリッチメントおよび承認ステージをシミュレートするために、サブスクリプション要求の一環としてトリガーされます。

### ノート:

承認ポリシーを使用する別のビューポイントの変更にサブスクライブしている場合、変更は、要求が承認されたとき、サブスクライブしているビューポイントに適用されます。サブスクライブしているビューポイントがエンリッチメント用に構成されている場合、サブスクリプション担当者は要求を変更できます。[ビューポイントのサブスクライブ](#)を参照してください。

### ビデオ

目的	参照するビデオ
ワークフロー承認についての理解を深める	 <a href="#">概要: Enterprise Data Management Cloud でのワークフローの承認</a>

<b>目的</b>	<b>参照するビデオ</b>
ワークフローでのサブスクリプションの使用 方法の理解	 <a href="#">Oracle Enterprise Data Management Cloud での承認ワークフローへのサブスクリプションの組み込み</a>

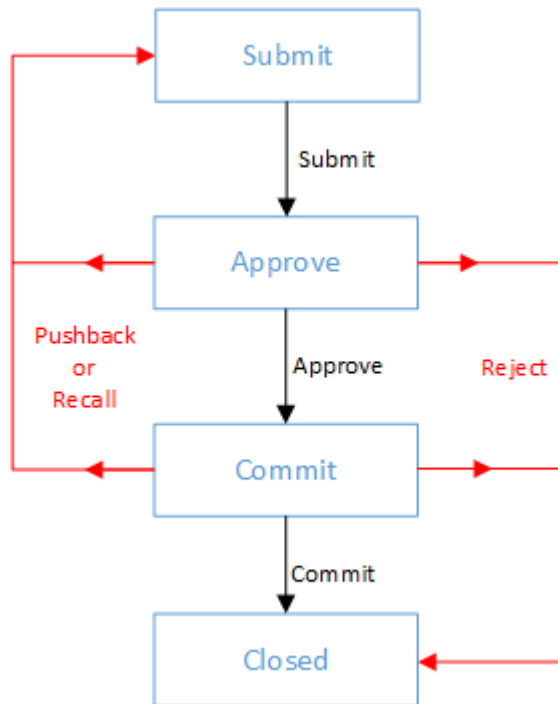
ワークフロー承認プロセスの実践例のこのチュートリアルを完了してください。



[Oracle Enterprise Data Management Cloud でのワークフロー承認](#)

## ワークフロー・ステージ

要求のワークフロー・ステージおよび要求を別のステージに移動させるアクションを次の図に示します。



要求は、送信、承認、コミットおよびクローズ済の 4 つのステージを移動します。承認およびコミット・ステージは、承認ポリシーおよびコミット・ポリシーを作成して有効にできるオプションのステージです。[ポリシーの構成](#)を参照してください。

次の表は、各ワークフロー・ステージで実行できるタスクを説明しています。

要求ステージ	タスク	参照
送信	要求の作成 要求アイテムの追加、更新、削除	<a href="#">要求を使用する変更</a>

要求ステージ	タスク	参照
	コメントおよび添付の追加	要求コメントの操作 要求へのファイルの添付
	要求の割当て、コラボレーション、送信および削除	要求の割当て 要求についてのコラボレーション 要求の送信 ドラフト要求のオープンおよび削除
承認	承認者は、送信済の要求を承認するよう招待されます。	ワークフロー通知
	要求の承認、エンリッチ、プッシュバック、撤回(要求送信者のみ)または却下	要求の承認 要求のエンリッチ 要求のプッシュバック 要求の撤回 要求の却下
	コメントおよび添付の追加(要求の承認、プッシュバックまたは却下)	要求コメントの操作 要求へのファイルの添付
コミット	コミット者は、承認済の要求をコミットするよう招待されます。	ワークフロー通知
	要求のコミット、却下、撤回(要求送信者のみ)またはプッシュバック	要求のコミット 要求の却下 要求の撤回 要求のプッシュバック
クローズ済	要求履歴の表示	要求の検査

### アプリケーションのブロックアウト期間について

アプリケーション所有者またはメタデータ・マネージャは、ブロックアウト期間が終了するまで要求が保持され、アクティブなビューに適用されない、アプリケーションのブロックアウト期間を設定できます。このブロックアウト期間はクローズ済ステージの直前に発生し、ブロックアウト期間が終了するまですべての要求が「ブロック済」ステータスになります。ブロックアウト期間が終了すると、ブロック済のすべての要求が検証され、検証エラーがない場合は完了またはクローズ済のいずれかになり、検証エラーがある場合はワークフローに戻されます。

## 送信プロセス

ユーザーは、要求の送信でコラボレーションできます。要求は、要求を処理および送信できる別のユーザーに割り当てることができます。複数のユーザーに要求についてコラボレーションするよう依頼することもできます。

送信プロセスには、次が含まれます。

- 要求の作成
- 要求アイテムの追加、更新、削除

- 要求または特定の要求アイテムへのコメントの追加
- サポート・ドキュメントの添付
- 別のユーザーへの要求の処理の割当て
- ドラフト要求の削除
- 要求の送信

## 要求の割当て

ドラフト要求は、要求の処理を続行できる別のユーザーに割り当てることができます。

たとえば、要求の作成者が、要求の送信ステージを完了できない場合、要求を別のユーザーに再割当てする必要があることがあります。新規担当者は、要求の送信または削除を担当します。

### ノート:

別のユーザーに再割当てするには、要求は送信ステージにある必要があります。

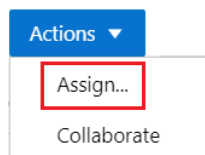
### 考慮事項

- 要求を割り当てる場合は、要求の割当者と担当者の両方の権限とデータ・アクセスが考慮されます。[要求のセキュリティ](#)を参照してください。
- 要求を検証する際、新しい担当者に権限がないアクションが要求に含まれている場合、または新しい担当者に編集権限がないプロパティ (非表示のプロパティを含む) を更新する場合、その要求アイテムはユーザー権限のために検証が失敗となります。検証エラーは、要求を送信する前に解決する必要があります。
- 検証エラーを修正する場合、要求の担当者は、権限で実行できないアクションや更新する権限のないプロパティが指定されている要求アイテムなど、要求に含まれている要求アイテムを削除できます。

要求が再割り当てされると、以前および新規担当者に担当の変更が通知されます。以前の担当者には、要求がもう割り当てられていないことを知らせる電子メール通知が送信されます。新規の担当者には、要求を送信する担当者として要求が自分に割り当てられていることを知らせる電子メール通知が送信されます。

要求を割り当てるには:

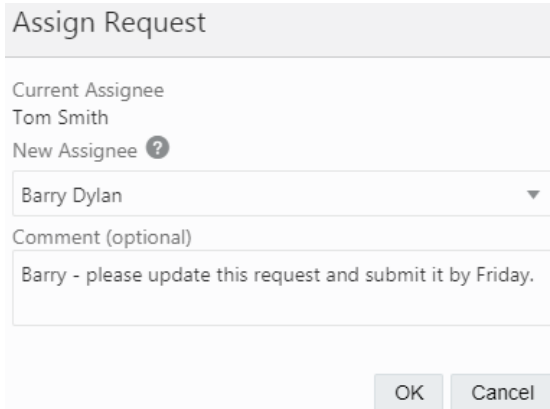
1. 要求を開きます。
2. 「**アクション**」をクリックして、次に「**割当て**」を選択します。



 ノート:

「割当て」メニュー・アイテムは、現在のユーザーが要求を割当てできる場合のみ使用できます(つまり、ユーザーは、現在の要求担当者、ビューに対するビュー所有者権限を持つユーザー、またはサービス管理者である必要があります)。

3. 要求の割当て先のユーザーを選択し、オプション・コメントを追加して「OK」をクリックします。



The image shows a dialog box titled "Assign Request". It contains the following fields and controls:

- Current Assignee:** Tom Smith
- New Assignee ?**: A dropdown menu with "Barry Dylan" selected.
- Comment (optional)**: A text area containing "Barry - please update this request and submit it by Friday."
- Buttons:** "OK" and "Cancel" buttons at the bottom right.

## 要求についてのコラボレーション

複数のユーザーが要求に参加しやすくなるように、要求担当者は他のユーザーに送信ステージでドラフトおよびプッシュ・バック済の要求についてコラボレーションするよう依頼できます。協力者は要求に対して追加または除去できます。協力者に対しては協力するよう依頼された要求について通知されます。

ユーザーはホーム・ページおよび要求アクティビティの「アクティビティ」リストからコラボレーション要求にアクセスできます。「自分のアクティビティ」フィルタの「コラボレーション済」アイテムを使用して、ユーザーが協力者である要求を検索できます。

コラボレーション・ユーザーは要求アイテムに対して次の処理を実行できます。

- 参照
- 追加
- 編集
- ロード
- 検証
- 削除

また、要求コメントの参照、追加、編集および削除に加えて、添付の表示、追加および削除もできます。

 ノート:

要求に割り当てられたユーザーは要求を制御できます。協力者は送信ステージで要求を送信、再割当、削除することはできません。

**考慮事項**

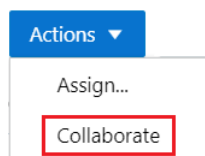
要求についてコラボレーションするようにユーザーを招待する場合は、次の考慮事項が適用されます:

- 要求についてコラボレーションする場合は、要求の担当者と協力者の両方の権限とデータ・アクセスが考慮されます。[要求のセキュリティ](#)を参照してください。
- 協力者が要求を検証する際、協力者に権限がないアクション、または協力者に編集権限がないプロパティ (非表示のプロパティを含む) を更新するアクションが要求に含まれている場合、その要求アイテムはユーザー権限のために検証が失敗となります。検証エラーは、要求を送信する前に解決する必要があります。
- 検証エラーを修正する場合、*担当者*は、権限で実行できないアクションや更新する権限のないプロパティが指定されているアイテムなど、要求に含まれている要求アイテムを削除できます。一方、*協力者*は、すべてのアクションおよびプロパティ更新を実行するのに十分なデータ・アクセスがある要求アイテムのみを削除できます。


協力者が参加した後に、担当者は要求を承認およびコミットできます。

要求についてコラボレーションするユーザーを追加するには:

1. 要求を開きます。
2. 「**アクション**」をクリックし、「**コラボレーション**」を選択します。



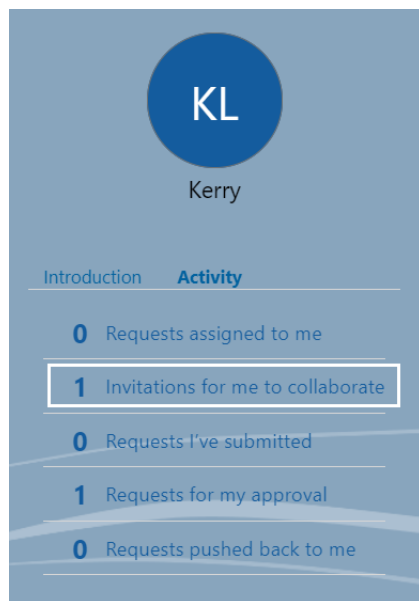
3. ユーザーを選択し、オプションのコメントを追加してから「**OK**」をクリックします。

 ノート:

ビューの 1 つ以上のビューポイントにアクセス可能なユーザーのみがドロップダウン・リストに表示されます。



要求についてコラボレーションするよう求められたユーザーに電子メール通知が届き、そのアクティビティ・リストが更新されます。



要求から協力者を除去するには:

1. 要求を開きます
2. 「アクション」をクリックし、「コラボレーション」を選択します。
3. 除去するユーザー名の右側にある「X」をクリックし、それから「OK」をクリックします。

## 要求の送信

要求が送信されると、検証チェックが実行され、変更がコミットされ、ビューポイントが変更で更新されます。

要求を送信すると、自動的に検証されます:

- 検証エラーがある場合、要求を送信する前にエラーを修正する必要があります。
- 検証の警告のみがある場合(エラーなし)、要求の送信を続行することを確認する必要があります。警告を無視して要求を送信するには「**続行**」をクリックし、要求を確認するには「**取消**」をクリックします。

要求を送信するには:

1. ドラフト要求を開きます。
2. 「**送信**」をクリックします。

「要求」リストで完了した要求を表示できます。[要求アクティビティの操作](#)を参照してください。

## 要求の再送信

プッシュバックされた要求または撤回した要求は、承認のために再送信する必要があります。要求がエンリッチされている場合は、要求を送信する前に新しい要求アイテムを検証する必要があります。

### 考慮事項

要求送信者は、自分の権限とデータ・アクセスによって要求のすべてのアクションを実行できる必要があります。自分のアクセス権で実行できないアクションで要求がエンリッチされた場合は、要求を検証して送信するために次のいずれかのステップを実行します:

- 要求アイテムまたは要求アイテム・インスタンスを削除します。
- 要求インスペクタから、実行できない個々の要求アクションを削除します。

[要求の検証の問題の操作](#)を参照してください。

要求を再送信するには:

1. プッシュバック済または撤回済の要求を開きます。
2. 要求がエンリッチされた場合は、要求アイテムをレビューし、要求アイテム、要求アイテム・インスタンスまたは要求アクションを削除することにより、実行できない検証またはアクションで問題を解決します。
3. 「**送信**」をクリックします。

要求は「承認」ステージに移動し、承認の招待が再度送信されます。

## 要求の撤回

要求の送信者である場合は、追加の変更を加えるために、送信後に「処理中」要求を撤回できます。

要求を撤回すると、すべての要求の承認およびコミットがクリアされ、要求が送信ステージに戻されます。要求アイテムを変更して要求を再送信したり([要求の再送信](#)を参照)、不要になった場合は要求を削除できます。

既存の協力者は保持されて要求を変更することができ、他のすべての要求参加者は引き続き要求にアクセスできます。要求がエンリッチされた場合、エンリッチメント・プロセスのすべての変更は保持されます。

1. 送信した処理中要求で、「アクション」をクリックし、次に「撤回」をクリックします。



2. コメントを追加し、「OK」をクリックします。

## 承認プロセス

ユーザーは、要求の承認でコラボレーションできます。

承認者は、送信済の要求を承認するよう、電子メール通知によって招待されます。誰が招待されるかは、承認ポリシーの構成に基づきます。詳細は、[ポリシーの構成](#)を参照してください。

承認プロセスには、次が含まれます。

- 要求へのコメントの追加
- サポート・ドキュメントの添付
- 要求アイテムの追加または編集による要求のエンリッチ(エンリッチが有効になっている場合)
- 更新および再送信できるようにするための要求のプッシュバック
- 要求の却下
- 要求の承認
- 要求からの承認の取下げ

## 要求の承認

要求を承認するよう招待されている場合、そのユーザーには電子メール通知が送信されます。

承認する要求を開く際、次の項目を実行できます。

- 「アイテム」タブで要求アイテムを確認し、ビューポイントで変更をビジュアル化できます。
- 「アイテム」タブで特定の要求アイテムのコメントを表示し、追加できます。
- 「コメント」タブで要求のコメントを表示し、追加できます。
- 「添付」タブで要求の添付を表示し、追加できます。

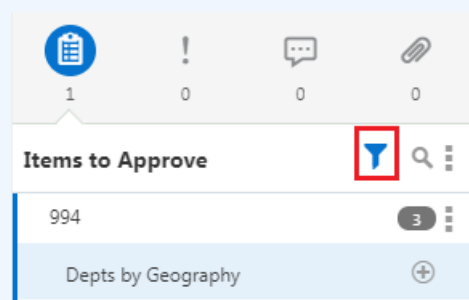
 ノート:

承認ポリシーのエンリッチメントが有効になっている場合は、承認者が要求アイテムを追加、削除および編集して要求をエンリッチすることもできます。  
[要求のエンリッチ](#)を参照してください。

1. 電子メール通知からリンクをクリックして、要求アクティビティを開き、次に要求を開きます。

 ノート:

変更の一部のみを承認する要求を開くと、「承認するアイテム」フィルタがデフォルトで有効になり、承認を招待されている要求アイテムのみが表示されます。フィルタ・アイコンをクリックすると、すべての要求アイテムを表示できます。



2. 要求内の変更を確認します。コメントまたは添付を表示および追加し、「承認」をクリックします。

Departments - Request 1524

Approve Actions Done

All Depts Depts by Geography Depts by LOB Select Viewpoint

994  
Campeche Office Dept : 6 Properties

!	✓	Name	Description
		▲ GEO	Total Departments By Geo
		▶ ASN	ASEAN
		▶ EMA	EMEA
		▲ NAM	North America
		▶ CAD	Canada
		▲ MEX	
		⊕ 994	Campeche Office
		▶ USA	United States

GEO > NAM > MEX > 994

Name	994
Description	Campeche Office
Tax Code	
Node Prop	
Associated...	

3. 承認コメントを追加でき、次に「OK」をクリックします。

#### ノート:

要求を承認するには、検証エラーを修正する必要があります。検証の警告のみがある場合、要求の承認を続行することを確認する必要があります。警告を無視して要求を承認するには「**続行**」をクリックし、要求を確認するには「**取消**」をクリックします。

## 要求のエンリッチ

承認ポリシーのエンリッチメントが有効になっている場合は、要求を承認する前に、要求アイテムを追加、削除および編集して要求をエンリッチできます。

実行できる要求アクションは、権限およびデータ・アクセスによって異なります。[要求のセキュリティ](#)を参照してください

要求をエンリッチすると、次のことができます:

- 承認者が実行できるすべてのアクションを実行します。[要求の承認](#)を参照してください。
- 新しいノードの追加、以前は要求に含まれていなかったビューポイントの変更など、要求に新しいアイテムを追加します。
- アイテムの削除、以前のアクションを相殺または無効にする変更の追加など、既存の要求アイテムを変更します(権限で許可される場合)。

変更を加えて要求をエンリッチした後、要求を承認します。要求は、権限およびデータ・アクセスに基づいて検証されます。

 **Note:**

承認ポリシーでエンリッチメントが有効になっている場合、要求に、アクションを実行できる検証の問題がある場合は、要求を承認できません。要求に次のいずれかのタイプの検証の問題があり、承認ポリシーのエンリッチ者である場合は、承認しようとするエラーが表示されます:

- 変更を追加し、それによって検証の問題が発生しました
- 他のユーザーによる変更で発生した検証の問題を修正するための適切な権限があります

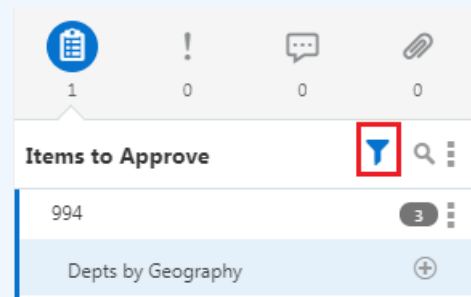
要求を承認するには、その前に検証の問題を修正する必要があります。[要求の検証の問題の操作](#)を参照してください。

要求に、アクションを実行できない検証の問題がある場合は、要求を承認できません。

1. 電子メール通知からリンクをクリックして、要求アクティビティを開き、次に要求を開きます。

 **Note:**

変更の一部のみを承認する要求を開くと、「承認するアイテム」フィルタがデフォルトで有効になり、承認を招待されている要求アイテムのみが表示されます。フィルタ・アイコンをクリックすると、すべての要求アイテムを表示できます。



2. 権限およびデータ・アクセスに従って、ノードの追加と削除、プロパティの編集など、要求アクションを実行します。[要求を使用する変更](#)を参照してください。

 **Note:**

「承認するアイテム」フィルタにより、承認のために招待されたアイテムのみが表示されるため、エンリッチメント中に、自分が承認者でないデータ・チェーン・オブジェクトの要求アイテムを追加した場合、これらのアイテムを要求ペインに表示するには、フィルタ・アイコンをクリックしてフィルタを無効にする必要があります。

3. 要求内の変更を確認します。コメントまたは添付を表示および追加し、「承認」をクリックします。

The screenshot shows the 'Departments - Request 1524' interface. At the top right, the 'Approve' button is highlighted with a red box. Below it are 'Actions' and 'Done' buttons. The main area has tabs for 'All Depts', 'Depts by Geography', and 'Depts by LOB'. A search bar and navigation icons are visible. A tree view on the left shows a hierarchy: GEO (Total Departments By Geo) > NAM (North America) > MEX (Mexico) > 994 (Campeche Office). The '994 Campeche Office' item is selected. On the right, a details pane shows '994 Campeche Office Dept : 6 Properties' with fields for Name (994), Description (Campeche Office), Tax Code, Node Prop, and Associated... The breadcrumb at the bottom reads 'GEO > NAM > MEX > 994'.

4. 承認コメントを追加でき、次に「OK」をクリックします。

## 要求のプッシュバック

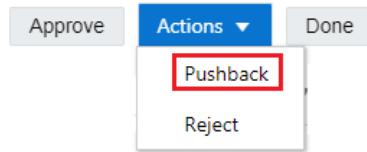
要求の承認またはコミットに招待された場合は、要求を変更して再送信できるように送信者にプッシュバックできます。

要求をプッシュバックする前に、コメントを要求および要求アイテムに追加し、添付を追加できます。

### ノート:

要求をプッシュバックすると、要求の以前の承認および現在の招待がクリアされます。

1. 承認者またはコミット者として確認する開いている要求から、「アクション」をクリックし、「プッシュバック」をクリックします。



2. コメントを入力し(必須)、[Tab]を押し、「OK」をクリックします。

## 要求の却下

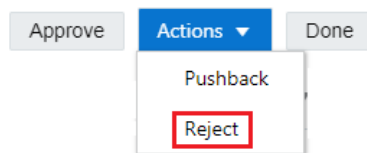
要求の承認またはコミットに招待された場合は、要求を却下し、以降のアクションを実行できないように要求を完全に終了できます。

要求を却下する前に、コメントを要求および要求アイテムに追加し、添付を追加できます。

### ノート:

要求を却下すると、以前の承認は保持され、却下は要求承認履歴に記録され、要求の現在の招待がクリアされます。

1. 承認者またはコミット者として確認する開いている要求から、「アクション」をクリックし、「却下」をクリックします。



2. コメントを入力し(必須)、[Tab]を押してから、要求を却下するには「却下」、変更について送信者に要求をプッシュバックするには「プッシュバック」をクリックします。

## 要求の承認の取下げ

承認した要求がまだ「処理中」である場合、さらに編集できるように承認を取り下げることができます。

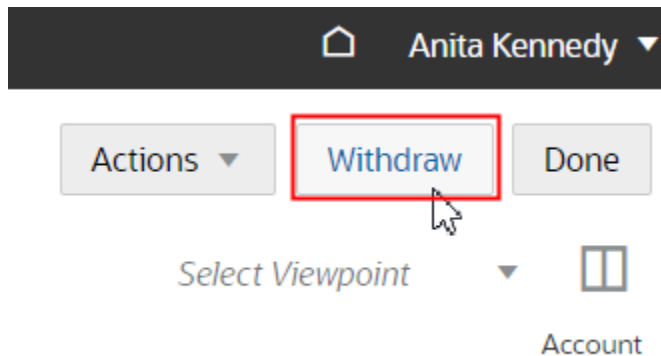
次の条件の場合、要求から承認を取り下げることができます:

- 「承認」アクションで要求に対してコントリビューションしました。
- 要求はまだ完了しておらず、「処理中」です。
- 要求送信者ではありません(要求送信者の場合は、要求を撤回する必要があります)。要求の撤回を参照してください。

要求から承認を取り下げるには:



1. 「要求アクティビティ」から、以前承認した「処理中」要求を開きます。
2. 「取下げ」をクリックします。



3. コメントを入力し、「OK」をクリックします。

承認を取り下げると、その要求に関連付けられているすべての承認ポリシーから自分の承認アクションが除去され、すべてのコミットがクリアされます。シリアル・ポリシーの場合、その承認の後のすべての後続の承認も除去されます。[要求承認の取下げの理解](#)を参照してください。

## コミット・プロセス

コミット者は、承認された要求をコミットするように電子メール通知で招待されます。

要求のコミットに招待されるユーザーは、コミット・ポリシーの構成に基づきます。[ポリシーの構成](#)を参照してください。

コミット・プロセスには、次が含まれます:

- 承認された要求のコミット
- 承認された要求の却下
- 承認された要求を更新して再送信できるようにする、送信者へのプッシュバック

## 要求のコミット

要求のコミットに招待された場合、そのユーザーには電子メール通知が送信されます。

コミットする要求を開くと、次の操作を実行できます:

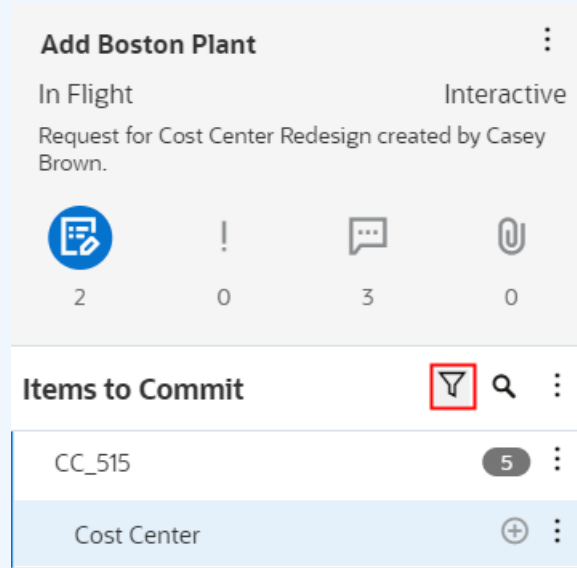
- 「アイテム」タブで要求アイテムを確認し、ビューポイントで変更をビジュアル化できます。
- 「アイテム」タブで特定の要求アイテムのコメントを表示し、追加できます。
- 「コメント」タブで要求のコメントを表示し、追加できます。
- 「添付」タブで要求の添付を表示し、追加できます。

コミット・フェーズでは、要求アイテムに変更を追加できません。

1. 電子メール通知からリンクをクリックして、要求アクティビティを開き、次に要求を開きます。

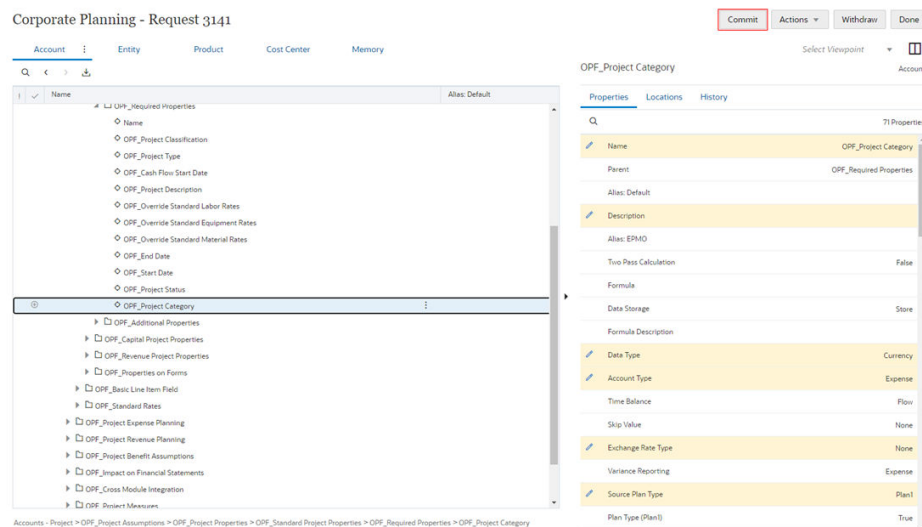
 **Note:**

変更の一部のみをコミットする要求を開くと、「**コミットするアイテム**」フィルタがデフォルトで有効になり、コミットを招待されている要求アイテムのみが表示されます。フィルタ・アイコンをクリックすると、すべての要求アイテムを表示できます。



2. 要求内の変更を確認します。コメントまたは添付を表示して追加し、アクションを実行します:

- 「**コミット**」をクリックします。



コミットのコメントを追加して、「OK」をクリックします。

 **Note:**

検証エラーは、要求をコミットする前に修正する必要があります。検証の警告のみがある場合、要求のコミットを続行することを確認する必要があります。警告を無視して要求をコミットするには「**続行**」をクリックし、要求を確認するには「**取消**」をクリックします。

要求がコミットされて終了します。

- 「**アクション**」をクリックし、次のいずれかを選択します:
  - **プッシュバック**([要求のプッシュバック](#)を参照)。
  - **却下**([要求の却下](#)を参照)。
  - **撤回**([要求の撤回](#)を参照)。
- 「**取下げ**」をクリックします([要求の承認の取下げ](#)を参照)。このアクションは、承認ステータスで要求を承認した場合にのみ使用できます。

# 13

## 要求の通知

割り当てられたワークフロー・アクションおよびサブスクリプション要求に関する電子メール通知がユーザーに送信されます。

通知は、「**言語**」ユーザー・プリファレンスで選択した言語に翻訳されます。言語プリファレンスを指定しないと、電子メールのコンテンツはサービスのデフォルト言語になります。また、通知には、プリファレンスで設定したタイム・ゾーンが使用されます。タイム・ゾーンを選択していない場合は、ブラウザのロケールのタイム・ゾーンが使用されます。[プリファレンスの設定](#)を参照してください。

詳細は、次を参照してください：

- [サブスクリプション通知](#)
- [ワークフロー通知](#)

## サブスクリプション通知

ユーザーにサブスクリプションを介して受信した変更を認識させるため、およびレビューや問題解決を担当する要求担当者に通知するために、サブスクリプション要求では電子メール通知が送信されます。

ソース・ビューポイントの変更が送信されると、サブスクリプション・ユーザーに通知が送信されます。サブスクリプション要求が自動送信される場合、ユーザーは変更がビューポイントに自動的に適用されたことを通知されます。それ以外の場合、ユーザーはレビューおよび手動送信のために要求が自分に割り当てられていることを通知されます。

### ノート:

サブスクリプション担当者が電子メール・アドレスを持っていない場合、またはその担当者がシステムから除去された場合、ソース・ビューポイントに含まれるアプリケーションのアプリケーション所有者権限を持つすべてのユーザーに電子メール通知が送信されます。

ソース・ビューポイントが更新されると、サブスクライブしているすべてのターゲット・ビューポイントの担当者は、要求詳細を含む電子メール通知を受信します。

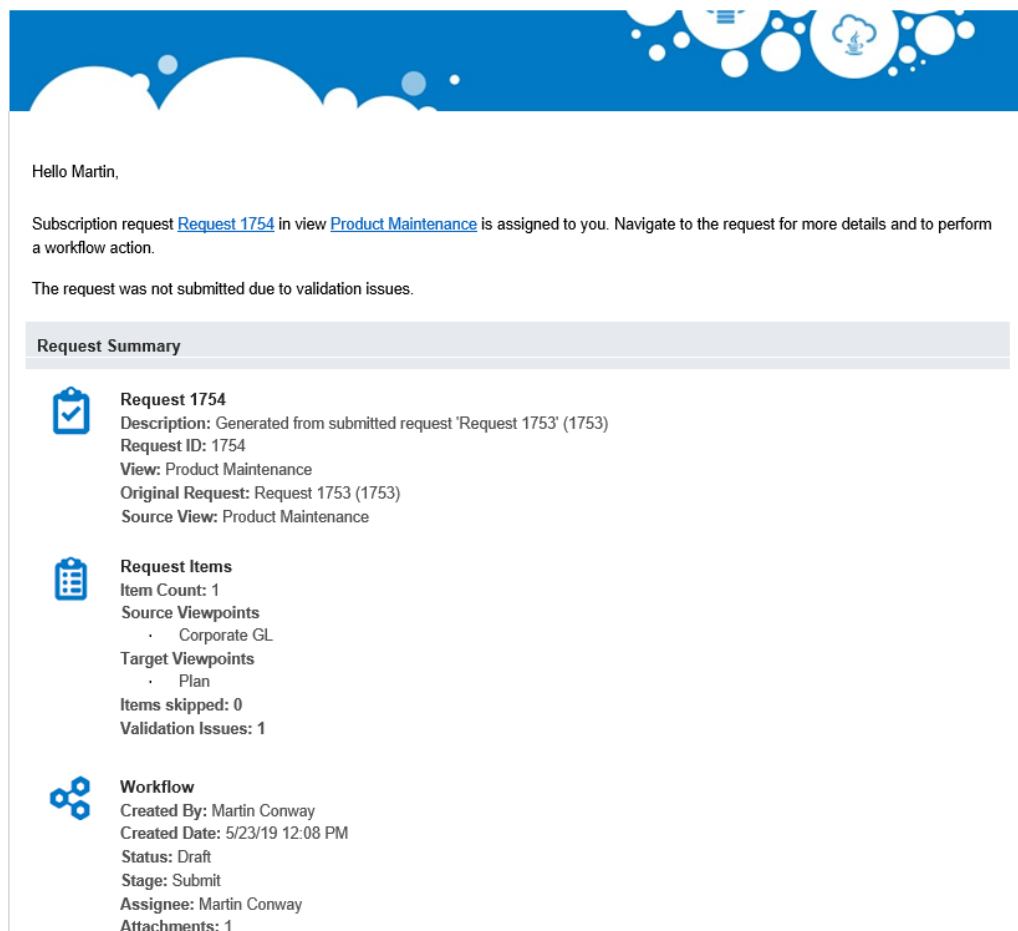
### ノート:

サブスクリプションで「**コラボレーション**」オプションが有効になっている場合([サブスクリプションの作成、編集および検証](#)を参照)、代替担当者にも電子メール通知が送信されます。

正常に処理された要求のサブスクリプション通知メールには、次の情報が含まれます。

- 要求を開くためのリンク付きの、要求 ID およびタイトル
- ソース・ビューおよびビューポイント
- ターゲット・ビューおよびビューポイント
- サブスクリプション要求内の要求アイテム数およびスキップされた元の要求のアイテム数
- 要求が正常に自動送信されたかどうかを示す自動送信ステータス・メッセージ。
- 有効になっている場合([システム設定の構成](#)の「**サブスクリプション要求ファイルの添付**」を参照)、サブスクリプション通知には、サブスクリプションの要求アイテムの生成に使用された要求ファイルも添付として含まれます。添付を確認して、要求内の変更のプレビューおよび潜在的な問題を確認できます。[要求ファイルの添付の確認](#)を参照してください。

たとえば、次の通知は、サブスクリプション要求が作成され、スキップされたレコードがないことを示しています。これは、すべてのアイテムがサブスクリプション要求に正常にロードされたが、一部のアイテムについては、送信する前にアクションを実行する必要があることを示しています。たとえば、このサブスクリプション要求には、要求が送信される前に解決する必要がある検証問題があります。通知の要求リンクをクリックすると、要求が開いて詳細情報が表示されます。





Hello Martin,


Subscription request [Request 1754](#) in view [Product Maintenance](#) is assigned to you. Navigate to the request for more details and to perform a workflow action.

The request was not submitted due to validation issues.

**Request Summary**

 **Request 1754**  
 Description: Generated from submitted request 'Request 1753' (1753)  
 Request ID: 1754  
 View: Product Maintenance  
 Original Request: Request 1753 (1753)  
 Source View: Product Maintenance

 **Request Items**  
 Item Count: 1  
 Source Viewpoints  
 · Corporate GL  
 Target Viewpoints  
 · Plan  
 Items skipped: 0  
 Validation Issues: 1

 **Workflow**  
 Created By: Martin Conway  
 Created Date: 5/23/19 12:08 PM  
 Status: Draft  
 Stage: Submit  
 Assignee: Martin Conway  
 Attachments: 1

### スキップされた、または失敗したサブスクリプションの通知

スキップされた、または失敗したサブスクリプション要求の場合、ターゲット・ビューポイントのアプリケーションまたはディメンションに対する所有者またはメタデータ・マネージャ権限があるユーザーに電子メール通知が送信され、結果が知らされます。スキップされたサブスクリプションの場合、要求担当者にも通知が送信されます。これらの問題は、次のような多くのシナリオから発生する可能性があります：

- サブスクリプション担当者に、ソース・ビューポイントへの参加者(読取り)権限、およびターゲット・ビューポイントへの参加者(書き込み)権限がありません
- ユーザーが削除されたか、グループにユーザーがいません
- ソース・ビューポイントとターゲット・ビューポイントの間に互換性がないノード・タイプがあります
- サブスクリプションの最上位ノード・フィルタが無効です(たとえば、最上位ノードが除去または削除されました)
- ノード・フィルタ式が無効です

失敗したサブスクリプションの場合、問題が解決されるとビュー所有者またはサービス管理者は、以前失敗した要求のサブスクリプションをリプレイできます。[要求系列の表示](#)を参照してください。

### ブロックされているサブスクリプション要求に対する通知


現在アプリケーションのブロックアウト期間にあるアプリケーションに対するサブスクリプション要求を受信すると、通知が送信されます。通知には、ブロックアウト期間が終了する日時が記載されています。

## ワークフロー通知

ワークフロー・プロセスで送信される電子メール通知にはいくつかのタイプがあります。

通知タイプ	説明
承認	送信済の要求を承認する必要があるユーザーに送信されます
割当	要求が割り当てられたユーザーに送信されます
コラボレーション	要求についてコラボレーションするように依頼されるユーザーに送信されます
コミット	承認済の要求をコミットする必要があるユーザーに送信されます
エスカレーション	次の理由により注意が必要な要求についてデータ・マネージャに送信されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• タイムアウト: 招待者がリマインダ電子メールに応答していません</li> <li>• デッドロック: 承認ポリシー要件を満たすために必要な承認者が十分に存在しません</li> </ul>

通知タイプ	説明
無効なポリシー	「処理中」要求の適用されるポリシーに招待者がいない(たとえば、使用可能なポリシー・ユーザーがない、またはポリシー・グループにユーザーが含まれていない)場合、ポリシーが適用されるアプリケーションまたはディメンションの所有者およびメタデータ・マネージャに送信されます。
リマインダ	要求に対するアクションを実行していない承認者またはコミット者に送信されます
ユーザー指定	要求または要求アイテムのコメントで指定されたユーザーに送信されます
更新	要求に次の処理が行われたときに要求の送信者に送信されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>完了</li> <li>プッシュバック済</li> <li>却下済</li> </ul>

 **ノート:**

リマインダおよびエスカレーション通知は、それらが要求を管理する承認ポリシーまたはコミット・ポリシーで構成されている場合のみ送信されます。

**ワークフロー電子メールの例**

次のワークフロー通知は、New rollup という名前の送信済要求を承認するよう William を招待しています。電子メールには、要求の要約、つまり、誰が作成したが、影響を受けるビューおよびビューポイント、承認する要求アイテム数およびコメントと添付の数が含まれます。William は、リンクをクリックして要求に直接移動できます。

Hello William,

You are invited to approve request [New rollup](#). Navigate to the request for more details and to perform a workflow action.

### Request Summary



#### New rollup

**Description:** Request for Departments created by Barry Dylan.

**Request ID:** 1205

**View:** Departments



#### Request Items

**Item Count:** 1

##### Viewpoints

- Depts by Geography



#### Workflow

**Submitter:** Barry Dylan

**Submit Date:** 1/8/19 9:55 AM

**Status:** In Flight

**Stage:** Approve

**Comments:** 1

**Attachments:** 1



## 監査の実行

監査により、データに対するトランザクションの変更および経時的なメタデータの変更の両方を表示できます。「監査」画面からアクセスします。各監査画面でフィルタを使用し、表示する変更に対してパラメータを設定します。たとえば、特定の階層セットに対して実行されたすべての挿入や、特定のグループに付与された権限を表示できます。

監査ページからドリル・スルーして、表示しているオブジェクトに関する詳細を表示できます。たとえば、関連付けられている権限監査のインスペクタにドリル・スルーしたり、トランザクション履歴の要求にドリル・スルーできます。


監査の詳細は、次を参照してください:

- [トランザクション履歴の監査](#)
- [システム・イベントの監査](#)
- [権限の監査](#)
- [ポリシーの監査](#)

## トランザクション履歴の監査

トランザクション履歴を使用すると、データに関連するトランザクションを表示することで、そのデータに対する経時的な変化を表示できます。表示するトランザクションをフィルタできます。たとえば、特定のノードについて先月行われたすべてのトランザクションを表示したり、過去7日間に行われた特定の階層セットの移動アクションのみを表示できます。その後、監査するフィルタされたトランザクションのビューを Excel ファイルにダウンロードできます。

### ビデオ

目的	参照するビデオ
トランザクション履歴の監査について学習します。	 <a href="#">Enterprise Data Management の監査.</a>

### セキュリティに関する考慮事項

表示できるトランザクションは、アプリケーション・ロールおよびセキュリティ権限によって異なります。

- サービス管理者の事前定義済ロールが割り当てられているユーザーは、すべてのアプリケーションのデータに対する変更を表示できます。また、アプリケーション全体にわたってデータを変更することもできます。
- 監査アプリケーション・ロールが割り当てられているユーザーは、すべてのアプリケーションのデータに対する変更を表示できますが、データ自体を変更することはできません。
- データ・オブジェクトに対して少なくともデータ・マネージャ権限が割り当てられているユーザーは、そのデータ・オブジェクトに対する変更のみを表示できます。たとえば、アプリケーション内の勘定科目ディメンションに対してデータ・マネージャ権限が割り当て

られている場合は、勘定科目ディメンションに対する変更のみを表示できます。エンティティ・ディメンションや製品ディメンションのデータは表示できません。

## トランザクション履歴の表示

トランザクション履歴にアクセスするには、ホーム・ページで「監査」カードをクリックし、左パネルの「トランザクション」を選択します。デフォルトでは、過去7日間のトランザクションが表示されます。

Audit: Transaction History

Data Chart		View Viewpoint	Actions	Node	Request ID	User	Time Frame								
Corporate Planning		All	All	All	All	All	Last 7 Days	11 Transactions							
Timestamp	Node	Parent	Action	Property	From	To	Request	Title	User	View	Viewpoint	Application	Dimension	Node Type	Hierarchy Set
1/22/2021 10:42 AM	Smart Phone 6.5 in	SmartPhones	Add				2844	Update smartphone invent...	Administrator	Corporate Planning	Product	Corporate Planning	Product	Product	Product
1/22/2021 10:42 AM	Smart Phone 6.5 in	SmartPhones	Insert				2844	Update smartphone invent...	Administrator	Corporate Planning	Product	Corporate Planning	Product	Product	Product
1/22/2021 10:42 AM	Smart Phone 6.5 in	SmartPhones	Update	Description	Smart Phone 6.5 in		2844	Update smartphone invent...	Administrator	Corporate Planning	Product	Corporate Planning	Product	Product	Product
1/22/2021 10:42 AM	Smart Phone 6.5 in	SmartPhones	Update	Plan Type (Plan1)	1	0	2844	Update smartphone invent...	Administrator	Corporate Planning	Product	Corporate Planning	Product	Product	Product
1/22/2021 10:42 AM	Smart Phone 6.5 in	SmartPhones	Update	Hierarchy Type		Stored	2844	Update smartphone invent...	Administrator	Corporate Planning	Product	Corporate Planning	Product	Product	Product
1/22/2021 10:42 AM	Smart Phone 8 in	SmartPhones	Add				2844	Update smartphone invent...	Administrator	Corporate Planning	Product	Corporate Planning	Product	Product	Product
1/22/2021 10:42 AM	Smart Phone 8 in	SmartPhones	Insert				2844	Update smartphone invent...	Administrator	Corporate Planning	Product	Corporate Planning	Product	Product	Product
1/22/2021 10:42 AM	Smart Phone 8 in	SmartPhones	Update	Plan Type (Plan1)	1	0	2844	Update smartphone invent...	Administrator	Corporate Planning	Product	Corporate Planning	Product	Product	Product
1/22/2021 10:42 AM	Smart Phone 8 in	SmartPhones	Update	Description	Smart Phone 8 in		2844	Update smartphone invent...	Administrator	Corporate Planning	Product	Corporate Planning	Product	Product	Product
1/22/2021 10:42 AM	Smart Phone 8 in	SmartPhones	Update	Hierarchy Type		Stored	2844	Update smartphone invent...	Administrator	Corporate Planning	Product	Corporate Planning	Product	Product	Product

「監査: トランザクション履歴」から、表示するトランザクションをフィルタできます。次のフィルタを使用できます。

- データ・チェーン:** アプリケーション、ディメンション、ノード・タイプまたは階層セットを選択して、そのオブジェクトのトランザクションを表示します。「監査」ロールが割り当てられているユーザーは、任意のデータ・チェーン・オブジェクトを選択できます。それ以外の場合、オブジェクトを選択するには、少なくともそのオブジェクトに対するデータ・マネージャ権限が必要です。
- ビューまたはビューポイント:** ビューまたはビューポイントを選択して、そのビューまたはビューポイントからトランザクションを表示します。ノードが複数のビューポイントにある場合は、選択したビューポイントで発生したトランザクションのみが表示されます。

### ヒント:

ノードの変更がどのビューポイントで行われたのかを把握していない場合があるため、ノードでトランザクションを検索するときは、ビューポイントではなくアプリケーションまたはディメンションでフィルタするほうが有用です。

- アクション:** 表示する特定のアクションを選択します。選択には、次のアクションを使用できます。フィルタするアクションを複数選択できます。
  - 追加
  - 挿入
  - 移動
  - 除去
  - 削除
  - 更新
  - 名前変更

## - 並替え

 **ノート:**



データ・インポート・アクションには、アクションとしてインポートを含む単一のトランザクションが表示されます。インポートされたデータとその場所の完全な詳細は監査には取得されません。


- **ノード:** 個々のノードを入力して、そのノードのトランザクションを表示します。完全一致のみが表示され、ワイルドカード文字はサポートされていません。
- **要求 ID:** 特定の要求 ID を入力して、その要求のトランザクションを表示します。完全一致のみが表示され、ワイルドカード文字はサポートされていません。  
**オプション:** 「**関連要求を含める**」オプションを使用して、入力した要求 ID と同じ系列のすべての要求のトランザクション([要求系列の表示](#)を参照)を同様にフィルタ済結果に含めます。

 **ヒント:**

サブスクリプション要求の場合は、「**ソース要求**」列にサブスクリプション要求を生成した元の要求が表示されます。この列を表示するためにスクロールする必要がある場合があります。

- **ユーザー:** ユーザー名を選択して、そのユーザーが実行したトランザクションを表示します。
- **時間枠:** 「期間」から時間枠を選択して、その期間に実行されたトランザクションを表示するか、「日付範囲」をクリックして、カスタム日付範囲を入力します。選択には、次の日付範囲を使用できます。
  - 過去 7 日間
  - 過去 30 日間
  - 過去 60 日間
  - 過去 90 日間
  - 前年

トランザクション履歴フィルタを使用する際、すべてのフィルタをデフォルト値にリセットするには「**すべてのフィルタのリセット**」 をクリックし、現在のフィルタ設定で返されたデータをリフレッシュするには「**データのリフレッシュ**」 をクリックします。

フィルタ選択によって返されたトランザクションを検索するには、「**検索**」 をクリックします。入力すると、すべてのフィールドで検索が動的に実行されます。たとえば、「**ro**」を検索すると、「ユーザー」列に「**Casey Brown**」、「ビューポイント」列に「**Product**」、「ディメンション」列に「**Corporate Products**」というトランザクションが返されます。


 ノート:

アプリケーションを削除すると、そのアプリケーションのデータ・オブジェクトに関するトランザクション履歴もすべて削除されます。


### トランザクション履歴フィルタの保存


フィルタ選択を保存すると、特定のトランザクションをすばやく繰り返し表示できます。保存済フィルタは保存したユーザーのみが使用できます。

#### フィルタを保存するには:

1. フィルタ・ヘッダーで、「保存済フィルタ」メニュー  をクリックしてから「保存」をクリックします。
2. 名前を入力して、「保存」をクリックします。

フィルタを保存した後、保存済フィルタの名前が左パネルと「監査」ヘッダーに表示されます。左パネルの「トランザクション」の横にある矢印をクリックして、保存済フィルタのリストを展開します。


保存済フィルタからフィルタを変更して別の名前で作成したり、不要になった保存済フィルタを「保存済フィルタ」メニュー  から削除できます。

保存済フィルタの選択をクリアするには、「すべてのフィルタのリセット」  をクリックします。

### トランザクション履歴からの要求の検査


「要求 ID」列で要求 ID をクリックし、その要求を要求インスペクタで開きます。これにより、承認ワークフロー履歴など、各要求に関する詳細情報を表示できます。

### トランザクション履歴のダウンロード

トランザクション履歴をフィルタして監査するトランザクションを表示した後、「ダウンロード」  をクリックしてオプションを選択し、結果を Excel ファイルにダウンロードできます:

- **トランザクション履歴:** トランザクションのみをダウンロードします。
- **トランザクションおよびワークフロー履歴:** トランザクションおよびすべてのトランザクションのワークフロー履歴(送信、承認、コミットなど)を別のタブにダウンロードします。

 ノート:

画面表示には最大 10,000 件のレコードが返されますが、Excel ファイルには結果セット全体がダウンロードされます。たとえば、フィルタが 12,000 件の結果を返す場合、画面には最初の 10,000 件が表示されますが、「ダウンロード」 をクリックすると、12,000 件すべてが Excel ファイルにダウンロードされます。

Excel ファイルでリンクされている要求 ID をクリックして、Oracle Enterprise Data Management Cloud でその要求に移動します。

## システム・イベントの監査

システム・イベントの監査を使用すると、サービス管理者は、システムで発生した一般的なイベント(移行タスクやユーザー変更など)を、イベントが発生した時間や各イベントのステータスを含めて確認できます。

イベント・タイプ別にイベント監査をフィルタして、結果を Excel ファイルにダウンロードできます。

システム・イベントを表示するには、ホーム・ページの「監査」カードをクリックし、「監査タイプ」パネルの「システム・イベント」を選択します。デフォルトでは、過去 7 日間のイベントが表示されます。

Audit Type	Audit: System Events							
Transactions	Event Category and Type: All Time Frame: Last 7 Days							
System Events	20 Events							
Permissions	Timestamp	Event Category	Event Type	Event Action	Event Description	User	Application Name	Status
Policies	8/2/2023, 10:05 AM	Security	User	Create	User Jack Adams added			Success
	8/2/2023, 10:05 AM	Index	Finish Index Application	Message	Index Rebuild Finishing for application C...	Administrator	Citizen Hub	Success
	8/2/2023, 10:05 AM	Index	Start Index Application	Message	Index Rebuild Starting for application C...	Administrator	Citizen Hub	Success
	8/2/2023, 10:05 AM	Template	Multiple Application Template	Export	Multiple Application Template Export co...	Administrator	Corporate Planning	Success
	8/2/2023, 10:05 AM	Template	Multiple Application Template	Export	Multiple Application Template Export co...	Administrator	ESG Planning	Success
	8/2/2023, 10:01 AM	Security	Group	Create	Group Finance added			Success
	8/1/2023, 11:32 PM	System	System Startup	Event	System starting up			Success
	8/1/2023, 11:30 PM	System	System Shutdown	Event	System shutting down			Success
	7/31/2023, 11:32 PM	System	System Startup	Event	System starting up			Success
	7/31/2023, 11:30 PM	System	System Shutdown	Event	System shutting down			Success
	7/30/2023, 11:32 PM	System	System Startup	Event	System starting up			Success

「監査: システム・イベント」から、表示するイベントをフィルタできます。次のフィルタを使用できます。



- イベント・カテゴリおよびタイプ:** イベント・カテゴリを選択し、そのカテゴリ内の表示するイベントのタイプを選択します。次のカテゴリ・タイプを使用できます:


カテゴリ	タイプ	説明
インデックスを除くすべて	すべて	インデックス再構築を除くすべてのイベントが表示されます
すべて	すべて	インデックス再構築を含むすべてのイベントが表示されます

カテゴリ	タイプ	説明
インデックス	<ul style="list-style-type: none"> <li>- インデックス再構築</li> <li>- インデックス・アップグレードの開始</li> <li>- インデックス・アップグレードの終了</li> <li>- インデックス・アプリケーションの開始</li> <li>- インデックス・アプリケーションの終了</li> <li>- インデックス移行インポート</li> </ul>	インデックス・イベントが表示されます
メタデータ	<ul style="list-style-type: none"> <li>- アプリケーション</li> <li>- ディメンション</li> <li>- 制約</li> <li>- 階層セット</li> <li>- 参照セット</li> <li>- ノード・セット</li> <li>- ノード・タイプ</li> <li>- 権限</li> <li>- ポリシー</li> <li>- プロパティ</li> <li>- 検証</li> <li>- ビュー</li> <li>- ビューポイント</li> </ul>	メタデータ・オブジェクトの作成および削除イベントが表示されます
移行	<ul style="list-style-type: none"> <li>- インポートの移行</li> <li>- 移行バックアップ</li> </ul>	インポートやバックアップなどの移行タスクが表示されます <b>ノート:</b> 移行タスクの場合、ユーザーは常にシステム管理者です。
システム	<ul style="list-style-type: none"> <li>- システム起動</li> <li>- システム・シャットダウン</li> </ul>	システム起動およびシャットダウン・イベントが表示されます
セキュリティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>- すべて</li> <li>- ユーザー</li> <li>- グループ</li> </ul>	追加または削除されたユーザーおよびグループが表示されます
テンプレート	<ul style="list-style-type: none"> <li>- アプリケーション・テンプレート</li> <li>- ディメンション・テンプレート</li> <li>- 複数のアプリケーション・テンプレート</li> </ul>	アプリケーションおよびディメンションのテンプレート・インポートおよびエクスポート情報が表示されます


- **時間枠:** 「期間」から時間枠を選択して、その期間のイベントを表示するか、「日付範囲」をクリックして、カスタム日付範囲を入力します。選択には、次の日付範囲を使用できます。
  - 過去 7 日間
  - 過去 30 日間
  - 過去 60 日間
  - 過去 90 日間
  - 前年

- すべて(「**イベント・カテゴリおよびタイプ**」が「すべて」または「インデックスを除くすべて」に設定されていない場合のみ使用可能)。

「監査: システム・イベント」フィルタを使用する際、すべてのフィルタをデフォルト値にリセットするには  をクリックし、現在のフィルタ設定で返されたデータをリフレッシュするには  をクリックします。

フィルタ選択によって返されたイベントを検索するには、 をクリックします。

### システム・イベント監査結果のダウンロード






フィルタを調整して監査するイベントを表示した後、「**ダウンロード**」  をクリックして結果を Excel ファイルにダウンロードできます。

イベントをダウンロードすると、すべてのイベントがスプレッドシートに含まれます。これには、画面に表示されないイベントが含まれます。

## 権限の監査

権限の監査により、経時的に権限に加えられた変更を表示できます。表示する権限をフィルタできます。たとえば、特定のデータ・チェーン・オブジェクトでの権限の変更、または特定のユーザーに対する権限の変更を表示できます。

権限の変更を表示するには、ホーム・ページで「**監査**」カードをクリックし、「監査タイプ」パネルの「**権限**」を選択します。デフォルトでは、過去7日間の変更が表示されます。

Audit Type		Audit: Permissions							
Transactions		Data Chain	View	Name	Time Frame				
Permissions		All	All	All	Last 30 Days				
		10 Results							
Timestamp & User	Name & Permission Level	Data Chain / View	Action	Permission	Allowed Actions Mode	Allowed Actions List	Property Access Mode	Property Access List	
5/20/2022 22:22:22 Administrator	 Amy Marlin Node Type	Corporate Plan... Account dimension Acquired Acco...	Create	Participant	None		Specified		
4/29/2022 22:22:22 Administrator	 Interactive U... Hierarchy Set	Corporate Plan... Account dimension Account hierarch...	Update			Remove, M...			
Previous Values							Move, Insert		
4/29/2022 22:22:22 Administrator	 Interactive U... Hierarchy Set	Corporate Plan... Account dimension Account hierarch...	Create	Participant	Specified	Move, Insert			
4/29/2022 21:11:11 Administrator	 Casey Brown Application	Profitability an...	Create	Participant	None		Display All		



「監査: 権限」から、表示する権限の変更をフィルタできます。次のフィルタを使用できます。



- データ・チェーン:** アプリケーション、ディメンション、ノード・タイプまたは階層セットを選択して、そのオブジェクトに対する権限の変更を表示します。
- ビュー:** ビューを選択して、そのビューに対する権限の変更を表示します。

**▲ Caution:**


特定の「データ・チェーン」オブジェクトまたは特定の「ビュー」でのフィルタを選択できますが、両方は選択できません。これらのフィルタのいずれかで「すべて」以外を選択した場合、もう 1 つのフィルタは「すべて」に設定する必要があります。

- **名前:** ユーザーまたはグループの名前を選択して、そのユーザーまたはグループに対して実行された権限の変更を表示します。
- **時間枠:** 「期間」から時間枠を選択して、その期間に実行された権限の変更を表示するか、「日付範囲」をクリックして、カスタム日付範囲を入力します。選択には、次の日付範囲を使用できます。
  - 過去 7 日間
  - 過去 30 日間
  - 過去 60 日間
  - 過去 90 日間
  - 前年
  - すべて(「データ・チェーン」、「ビュー」または「ユーザー」フィルタの少なくとも 1 つが「すべて」以外の何かに設定されている場合のみ使用可能)

「監査: 権限」フィルタを使用する際、すべてのフィルタをデフォルト値にリセットするには  をクリックし、現在のフィルタ設定で返されたデータをリフレッシュするには  をクリックします。

変更された権限について、前の値を表示するには「展開」(  ) をクリックします。「プロパティ・アクセス・リスト」に対する変更は個別にはリストされませんが、  アイコンで示されます。これらの変更の詳細は、権限の監査結果をダウンロードして確認できます。

**権限の監査結果のダウンロード**

フィルタを調整して監査する権限を表示した後、「ダウンロード」  をクリックして結果を Excel ファイルにダウンロードできます。

権限の変更をダウンロードすると、すべての変更がスプレッドシートに含まれます。これには、プロパティ・アクセス・リストに対する変更など、画面に表示されない変更が含まれます。

## ポリシーの監査

ポリシーの監査により、経時的にポリシーに加えられた変更を表示できます。表示するポリシーをフィルタできます。たとえば、特定のデータ・チェーン・オブジェクトでのポリシー変更、または特定のポリシー・タイプに対するポリシー変更を表示できます。



ポリシー変更を表示するには、ホーム・ページで「監査」カードをクリックし、「監査タイプ」パネルで「ポリシー」を選択します。デフォルトでは、過去 7 日間の変更が表示されます。

Audit: Policies										
Data Chain	Policy Type	Policy Level	Time Frame Last 7 Days							
Timestamp & User	Policy Level & Policy type	Data Chain	Action	Name	Enabled	Policy Groups	Included Actions Mode	Included Actions	Property Selection Mode	Property List
7/25/2022 ... Administra...	Dimension Notify	Financials Cloud ... Corporate Accou...	Update	Notify FCGL Account			Selected	Add, Insert		
Previous Values							All			
7/25/2022 ... Administra...	Dimension Notify	Financials Cloud ... Corporate Accou...	Update	Notify FCGL Account	True					
Previous Values					False					
7/25/2022 ... Administra...	Dimension Notify	Financials Cloud ... Corporate Accou...	Create	Notify FCGL Account	False		All		All	
7/25/2022 ... Administra...	Node Type Approval	Corporate Planni... Account emensio... Acquired Accoun...	Update	Approval					Include	
7/25/2022 ... Administra...	Application Approval	Corporate Planni...	Update	Approval - Corp Plan	False					
7/25/2022 ... Administra...	Application Approval	Corporate Planni...	Update	Approval - Corp Plan	True					



「監査: ポリシー」から、表示するポリシー変更をフィルタできます。次のフィルタを使用できます。



- **データ・チェーン:** アプリケーション、ディメンション、ノード・タイプまたは階層セットを選択して、そのオブジェクトに対するポリシー変更を表示します。


#### Note:

データ・チェーン・オブジェクトに対するポリシー変更をフィルタすると、選択したオブジェクトに含まれているデータ・チェーン・オブジェクトに対するポリシー変更も表示されます。たとえば、アプリケーションをフィルタすると、そのアプリケーション内のディメンション、階層セットおよびノード・タイプに対するポリシー変更が表示されます。「**ポリシー・レベル**」フィルタを使用して、結果をさらに絞り込みます。

- **ポリシー・タイプ:** ポリシー・タイプ(承認、コミットまたは通知)を選択して、そのタイプのポリシー変更のみを表示します。
- **ポリシー・レベル:** レベルを選択して、そのレベルで行われたポリシー変更をすべて表示します。たとえば、階層セット・レベルで行われたポリシー変更をすべて表示できます。
- **時間枠:** 「期間」から時間枠を選択して、その期間に実行された権限の変更を表示するか、「日付範囲」をクリックして、カスタム日付範囲を入力します。選択には、次の日付範囲を使用できます。
  - 過去 7 日間
  - 過去 30 日間
  - 過去 60 日間
  - 過去 90 日間
  - 前年
  - すべて(「データ・チェーン」、「ポリシー・タイプ」または「ポリシー・レベル」フィルタの少なくとも 1 つが「すべて」以外の何かに設定されている場合のみ使用可能)

「監査: ポリシー」フィルタを使用する際、すべてのフィルタをデフォルト値にリセットするには  をクリックし、現在のフィルタ設定で返されたデータをリフレッシュするには  をクリックします。

変更されたポリシーについて、前の値を表示するには「展開」() をクリックします。ポリシー・グループ、プロパティ・リストおよびノード条件フィルタに対する変更は個別にはリストされませんが、 アイコンで示されますこれらの変更の詳細は、ポリシー変更をダウンロードして確認できます。

ポリシーをフィルタして監査する変更を表示した後、「ダウンロード」 をクリックして結果を Excel ファイルにダウンロードできます。

ポリシーの変更をダウンロードすると、すべての変更がスプレッドシートに含まれます。これには、ポリシー・グループなど、画面に表示されない変更が含まれます。

## プロパティの監査

プロパティの監査により、経時的にプロパティに加えられた変更を表示できます。表示するプロパティをフィルタできます。たとえば、特定のプロパティに対して加えられた変更や特定の期間に加えられた変更を表示できます。

プロパティ変更を表示するには、ホーム・ページの「監査」カードをクリックし、「監査タイプ」パネルの「プロパティ」を選択します。デフォルトでは、過去7日間の変更が表示されます。



Audit: Properties

Property	Time Frame							
All	Last Year							
<div style="text-align: right;">126 Results</div>								
Timestamp & User	Namespace & Name	Data Type & Level	Case	Minimum Length	Maximum Length	Invalid Characters	Invalid First Characters	Invalid
10/25/2023, 101... Administrator	core Name	String Node	Mixed Case	0	255	!,@, ,tab		
10/25/2023, 101... Administrator	core Name	String Node	Mixed Case	0	255	!,@, ,tab		
10/25/2023, 101... Administrator	core Name	String Node	Mixed Case		80	square_brackets,backslash,tab	at,lf,square_brackets,comma,minus,equ...	History
10/25/2023, 101... Administrator	core Name	String Node	Mixed Case		80	square_brackets,backslash,tab	at,lf,square_brackets,comma,minus,equ...	History
10/25/2023, 101... Administrator	core Name	String Node	Mixed Case		80	square_brackets,slash,backslash,tab	at,lf,square_brackets,square_brackets,co...	History
10/25/2023, 101... Administrator	core Name	String Node	Mixed Case		80	square_brackets,backslash,tab	at,lf,square_brackets,comma,minus,equ...	History

「監査: プロパティ」から、表示するプロパティ変更をフィルタできます。次のフィルタを使用できます。

- プロパティ:** 変更を表示するプロパティを選択するか、「すべて」を選択してすべてのプロパティに対する変更を表示します(「時間枠」が「すべて」に設定されている場合は使用できません)。
- 時間枠:** 「期間」から時間枠を選択して、その期間に実行されたプロパティ変更を表示するか、「日付範囲」をクリックして、カスタム日付範囲を入力します。選択には、次の日付範囲を使用できます。
  - 過去7日間

- 過去 30 日間
- 過去 60 日間
- 過去 90 日間
- 前年
- すべて(「プロパティ」が「すべて」以外の何かに設定されている場合のみ使用可能)


「監査: プロパティ」フィルタを使用する際、すべてのフィルタをデフォルト値にリセットするには  をクリックし、現在のフィルタ設定で返されたデータをリフレッシュするには  をクリックします。

### 列の選択

「監査」画面には 2 つのタイプの列があります。共通列は常に表示されます。これには次のものが含まれます:

- **タイムスタンプとユーザー**
- **アクション**
- **ネームスペースおよび名前**
- **データ型とレベル**
- **定義セクション**
- **データ・チェーン**
- **説明**
- **デフォルト・タイプ**
- **デフォルト値**
- **編集可能**
- **コミット時にロック**
- **継承**

画面上の他の列はデータ固有であり、表示される列は選択した列セットによって異なります。たとえば、文字列列セットの場合は「最小長」および「最大長」列が表示され、ノード・プロパティの場合は「割当済ノード・セット」列が表示されます。


「列セットの選択」  メニューを使用して、表示されるデータ固有の列を変更します。次のオプションから選択できます:

- **なし**: データ固有の列は表示されません。
- **すべて**: すべてのデータ型のデータ固有の列が表示されます


#### Note:

すべてのプロパティが表示される場合、表示されるデータ固有の列のグループを複数選択できます。

- **文字列:** 表示されているレコードの文字列固有の列(「無効な文字」や「無効な値」など)が表示されます。文字列、リストおよびメモ・データ型が含まれます。
- **ブール:** 表示されているレコードのブール固有の列(「ブール表示タイプ」など)が表示されます。
- **数値:** 表示されているレコードの数値固有の列(「最小値」や「最大値」など)が表示されます。浮動小数点、整数および数値文字列データ型が含まれます。
- **シーケンス:** 表示されているレコードのシーケンス固有の列(「開始値」や「ステップ値」など)が表示されます。
- **ノード:** 表示されているレコードのノード固有の列(「割当済ノード・セット」など)が表示されます。

画面にリストするには複雑すぎる変更は、 アイコンで示されます。これらの変更の詳細は、プロパティ変更をダウンロードして確認できます。[監査結果のダウンロード](#)を参照してください

### 監査結果のダウンロード

プロパティをフィルタして監査する変更を表示した後、「**ダウンロード**」 をクリックして結果を Excel ファイルにダウンロードできます。

プロパティ変更のダウンロード時には、すべての変更がスプレッドシートに含まれます。これには、画面に表示されない変更が含まれます。たとえば、「無効な値」の完全なリストが画面に表示するには長すぎる場合でも、ダウンロードしたスプレッドシートには完全なリストが含まれます。

# 15

## レポートの操作

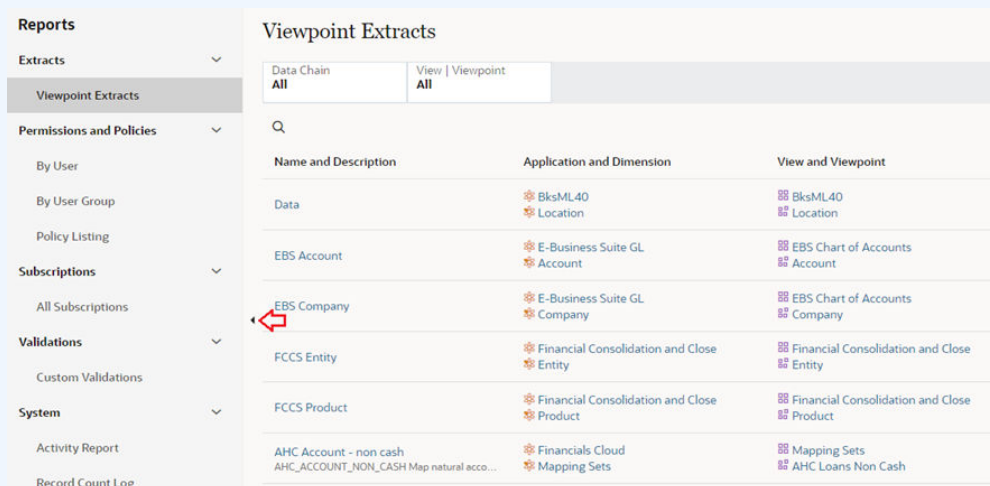
レポートはタイプ別にグループ化されます。

次のレポート・タイプを使用できます:

- 抽出レポート
- 権限およびポリシー・レポート
- サブスクリプション・レポート
- カスタム検証レポート
- システム・アクティビティ・レポート
- 「レコード数ログ」レポート

### ノート:

すべてのレポート・タイプで、サイドバーを縮小してレポート画面のスペースを大きくできます。縮小/展開アイコンを見つけるには、レポートのサイドバーとレポート画面の間のラインにマウス・カーソルを置きます。



The screenshot shows the 'Viewpoint Extracts' interface. On the left is a sidebar with categories: Reports, Extracts, Permissions and Policies, Subscriptions, Validations, and System. The 'Extracts' category is expanded, showing 'Viewpoint Extracts' selected. The main area displays a table of reports with columns for Name and Description, Application and Dimension, and View and Viewpoint. A red arrow points to the line between the sidebar and the table.

Name and Description	Application and Dimension	View and Viewpoint
Data	BksML40 Location	BksML40 Location
EBS Account	E-Business Suite GL Account	EBS Chart of Accounts Account
EBS Company	E-Business Suite GL Company	EBS Chart of Accounts Company
FCCS Entity	Financial Consolidation and Close Entity	Financial Consolidation and Close Entity
FCCS Product	Financial Consolidation and Close Product	Financial Consolidation and Close Product
AHC Account - non cash AHC_ACCOUNT_NON_CASH Map natural acco...	Financials Cloud Mapping Sets	Mapping Sets AHC Loans Non Cash


## 抽出レポート



抽出レポートでは、アクセス可能なすべての抽出または抽出パッケージのビューが提供されます。このレポートから、抽出または抽出パッケージ、アプリケーションまたはディメンション、ビューまたはビューポイントを検査できます。適切なアクセス権がある場合は、ファイルへの抽出または抽出パッケージを実行することもできます。


次の抽出レポートを使用できます:

- 「**ビューポイント抽出**」レポート: ビュー内の少なくとも 1 つのビューポイントの少なくとも 1 つのデータ・チェーン・オブジェクトに対する「**参加者(読取り)**」権限(またはそれ以上)を持っているすべての抽出が表示されます。
- 「**抽出パッケージ**」レポート: パッケージ内のすべての抽出を実行するアクセス権がある抽出パッケージが表示されます。

### 抽出レポートのナビゲート


「**検索**」をクリックし、テキストを入力することで、レポートの結果を検索できます。入力したテキストについて、レポートの列が検索されます。

フィルタの変更後にレポートを再実行するには「**データのリフレッシュ**」をクリックし、レポートのフィルタをデフォルト設定にリセットするには「**すべてのフィルタのリセット**」アイコンをクリックします。

ファイルへの抽出を実行するか、ファイルへの抽出パッケージを実行するには、「**ファイルへの抽出の実行**」または「**ファイルへの抽出パッケージの実行**」をクリックします。抽出の場合は、ファイル名を入力して(またはデフォルトを受け入れて)、「**実行**」をクリックします。抽出を実行するには、ビューポイントのすべてのノード・タイプのすべてのプロパティに対する**参加者(読取り)**権限(またはそれ以上)が必要です。

#### Note:

増分抽出の場合のみ、現在の抽出の「自」と「至」の日付をオーバーライドすることもできます。これにより、抽出自体のデフォルト値が変更されるこ

とはありません。**オーバーライドの除去**  をクリックして、抽出から元の値を復元します。

増分抽出のタイム・ゾーンは抽出レベルで設定されます。抽出を検査し、「**オプション**」タブに移動して変更します。[抽出オプションの指定](#)を参照してください。

### 「ビューポイント抽出」レポート

このレポートには、すべてのプライベート抽出と、ビュー内の少なくとも 1 つのビューポイントの少なくとも 1 つのデータ・チェーン・オブジェクトに対する**参加者(読取り)**権限(またはそれ以上)を持っているすべてのビューのパブリック抽出が表示されます。

レポートをカスタマイズするには、次のフィルタから選択します:

- **データ・チェーン**: 「**すべて**」を選択するか、アプリケーションを選択し、必要に応じてディメンションを選択します。
- **ビュー | ビューポイント**: デフォルトでは、アクセス権を持っている最初のビュー(アルファベット順)内のすべてのビューポイントがレポートに表示されます。このフィルタを使用して、別のビューまたはビューポイントを選択します。

Viewpoint Extracts						
Data Chain All	View   Viewpoint All					
Q						18 Records
Name and Description	Application and Dimension	View and Viewpoint	Visibility	Extract Type	Extract Filename	Action
EBS Account	E-Business Suite GL Account	EBS Chart of Accounts Account	Private	Full	EBS Account.txt	↓
EBS Company	E-Business Suite GL Company	EBS Chart of Accounts Company	Private	Full	EBS Company.txt	↓
FCCS Entity	Financial Consolidation and Close Entity	Financial Consolidation and Close Entity	Private	Full	FCCS Entity.txt	↓
FCCS Product	Financial Consolidation and Close Product	Financial Consolidation and Close Product	Private	Full	FCCS Product.txt	↓
AHC Account - non cash AHC_ACCOUNT_NON_CASH Map natural acco...	Financials Cloud Mapping Sets	Mapping Sets AHC Loans Non Cash	Public	Full	AHC-MapImport.csv	↓

## 「抽出パッケージ」レポート

レポートをカスタマイズするには、「**アプリケーション**」フィルタを使用して、抽出パッケージを表示する特定のアプリケーションを選択します。

Extract Packages					
Application All					
Q					
7 Records					
Name and Description	Application	Visibility	# of Extracts	Extract Package Filename	Action
Citizen Hub	Citizen Hub	Public	3	citizen.zip	↓
Corporate Planning extract package	Corporate Planning	Public	0	Corporate Planning extract package.zip	↓
Corporate Planning extract package (copy)	Corporate Planning	Public	0	Corporate Planning extract package (copy).zip	↓
Corporate Products Extract	Financials Cloud	Public	3	corporate_products_full.zip	↓
EBS Extract	E-Business Suite GL	Public	2	ebs_extract.zip	↓
FCCS Extract package	Financial Consolidation and Close	Public	2	fccs_extract.zip	↓

# 権限およびポリシー・レポート

権限レポートおよびポリシー・レポートでは、すべてのアプリケーションにわたってユーザーとグループに割り当てられている権限およびポリシー・タイプの包括的なビューを提供します。これらのレポートは、アプリケーション全体のユーザー・アクセスを簡単に表示できるため、アクセスを設定または変更できます。レポートから、関連するアプリケーション、ディメンションおよびデータ・チェーン・オブジェクトを検査して、詳細を表示したり、権限やポリシーを変更できます。

### ノート:

アーカイブされたデータ・チェーン・オブジェクトの権限およびポリシーは、レポートには含まれません。





次のレポートを使用できます:



- **ユーザー別:** 指定したユーザーの権限およびポリシーが表示されます。
- **グループ別:** 指定したユーザー・グループの権限およびポリシーが表示されます。

- **ポリシー・リスト:** 選択したデータ・チェーン・オブジェクト全体のすべてのポリシーのリストが表示されます。



### 権限およびポリシー・レポートのナビゲート

権限およびポリシーのレポートでは、次のアイコンが使用されます:

-  - 権限を示します
-  - ポリシーを示します
-  - ユーザーを示します
-  - ユーザー・グループを示します

 をクリックしてテキストを入力することで、レポートの結果を検索できます。入力したテキストについて、レポートの列が検索されます。 をクリックしてレポートをダウンロードすることもできます。

レポートをカスタマイズして、特定の権限およびポリシーの情報を表示するには、フィルタを使用します。フィルタを変更した後にレポートを再実行するには、「リフレッ

シュ」 をクリックし、レポートのフィルタをデフォルト設定にリセットするには、「すべてのフィルタのリセット」アイコン をクリックします。

### ユーザー別

レポートをユーザー別に作成するには、次のフィルタから選択します:

- **データ・チェーン** - 「すべて」を選択するか、アプリケーション、ディメンション、ノード・タイプおよび階層セットから選択します。
- **ユーザー** - 「すべて」、「現在のユーザー」または特定のユーザーを選択します。レポートを最初に開いたときのデフォルト設定は「現在のユーザー」です。
- **ポリシー/権限** - 「すべて」、「承認者」、「コミット者」、「データ・マネージャ」、「メタデータ・マネージャ」、「通知済」、「所有者」、「参加者(読取り)」または「参加者(書込み)」を選択します。

たとえば、このレポートで、Anita は、3つのアプリケーションに対してデータ・マネージャ権限があり、Corporate Planning に対してメタデータ・マネージャ権限があり、Financials Cloud アプリケーションに対して参加者(書込み)権限があり、Financials Cloud アプリケーションの Corporate Company ディメンションに対する承認者です。



### Permissions and Policies by User


Data Chain	User	Permission/Policy			
All	Anita Kennedy	All			
12 Records					
User	Application	Dimension	Data Chain	Permission/Policy	Assigned To
Anita Kennedy Anita.Kennedy	Account Reconciliation	Profiles		Data Manager	
	Corporate Planning			Metadata Manager	
				Data Manager	Interactive User
	Financial Consolidation and Close			Data Manager	Interactive User
	Financials Cloud			Participant (Write)	Interactive User
		Corporate Company		Approver	Approvers Grp2

### グループ別

レポートをグループ別に作成するには、次のフィルタから選択します：

- **データ・チェーン:** 「すべて」を選択するか、アプリケーション、ディメンション、ノード・タイプおよび階層セットから選択します。
- **ユーザー・グループ:** 「すべて」または特定のグループを選択します。

#### ノート:

現在ユーザーが含まれていないグループには、 アイコンが表示されます。サービス管理者は、アクセス制御でユーザーをグループに割当てできます。  
*Oracle Enterprise Performance Management Cloud* の *アクセス制御の管理* のアクセス制御の概要を参照してください。

- **ポリシー/権限:** 「すべて」、「承認者」、「コミット者」、「データ・マネージャ」、「メタデータ・マネージャ」、「通知済」、「所有者」、「参加者(読取り)」または「参加者(書込み)」を選択します。

たとえば、このレポートで、アナリスト・ユーザー・グループには、2つのアプリケーションに対して参加者(書込み)権限があります。

### Permissions and Policies by Group

Data Chain	User Group	Permission/Policy			
All	Analyst	All			
2 Records					
User Group	Application	Dimension	Data Chain	Permission/Policy	
Analyst	Acquired GL (Legacy)			Participant (Write)	
	Financials Cloud			Participant (Write)	

グループに割り当てられているユーザーを表示するには、行にカーソルを置き、情報アイコンにマウス・カーソルを置きます。

## Permissions and Policies by Group

### ポリシー・リスト

ポリシーを表示するには、次のフィルタから選択します:

- **データ・チェーン:** 「すべて」を選択するか、「アプリケーション」、「ディメンション」、「階層セット」または「ノード・タイプ」から選択します。このフィルタを使用して、ポリシーが定義されているレベルを選択します。
- **ポリシー・タイプ:** 「承認」、「コミット」または「通知」を選択します。
- **レベル:** 「すべて」、「アプリケーション」、「ディメンション」、「階層セット」または「ノード・タイプ」を選択します。このフィルタを使用して、ポリシーが関係しているデータ・チェーン・オブジェクトを選択します。  
たとえば、Corporate Planning アプリケーション内のすべての階層セットに関するすべてのポリシーを表示するには、「データ・チェーン」フィルタで Corporate Planning アプリケーションを選択し、「レベル」フィルタで「階層セット」を選択します。
- **メソッド:** 「すべて」、「所有権」、「パラレル」または「シリアル」を選択します。
- **ポリシー・グループ:** 「すべて」、あるいは特定のユーザーまたはグループを選択します。
- **有効:** 「すべて」、「True」または「False」を選択します。

### Policy Listing

Data Chain	Policy Type	Level	Method	Policy Group	Enabled	
All	All	All	All	All	True	
18 Records						
Name and Description	Policy Type & Level	Data Chain	Policy Groups	Enabled	Method & Policy Order	Settings
APAC GL Entity Approval APAC (400) approval policy for the Corporate Company dimension, valid for requests submitted by any user	Approve Dimension	Financials Cloud Corporate Company	Approvers Grp1 (2) Approvers Grp2 (1)	True	Serial 1	Total Required: 3 approvals Allow Enrichment During Reminder Notification: 3 Approval Escalation: 5 re
APAC GL Entity Notification APAC notify policy for the Corporate Company dimension; Allow Budgeting True	Notify Dimension	Financials Cloud Corporate Company	Notifiers	True		Notify on Status Change:
Approval Policy 1 Only active when parent node = A	Approve Dimension	Standard Industrial Classification Codes SIC Code	Approvers Grp1	True	Parallel 1	One Approval Per Group Total Required: 1 approval Allow Enrichment During Reminder Notification: 2 Approval Escalation: 4 re
Approval Policy 2 Only active when parent node = B	Approve Dimension	Standard Industrial Classification Codes SIC Code	Approvers Grp2	True	Parallel 1	One Approval Per Group Total Required: 1 approval Allow Enrichment During Reminder Notification: 1 Approval Escalation: 2 re

権限およびポリシーの詳細は、次を参照してください:


- 権限の操作
- ポリシーの構成

## サブスクリプション・レポート

サブスクリプション・レポートは、すべてのビューおよびアプリケーションにわたって定義されているサブスクリプションの完全なリストを提供します。レポートのサブスクリプションは、データ・チェーン、ビューおよび担当者でフィルタできます。レポートからサブスクリプションを直接検査して、詳細を表示したり、サブスクリプションを変更できます。

サブスクリプション・レポートを作成するには、次のフィルタから選択します:

- **アプリケーション** - 「すべて」を選択するか、アプリケーションを選択します。
- **ビュー | ビューポイント** - 「すべて」または特定のビューを選択します。ビューを選択する場合は、「すべて」のビューポイントまたは特定のビューポイントを選択できます。
- **担当者** - 「現在のユーザー」、「すべて」、「データ・マネージャ」または特定のユーザーを選択します。担当者はユーザーまたはグループであり、デフォルトの担当者または代替担当者に適用します。

 をクリックしてテキストを入力することで、レポートの結果を検索できます。入力したテキストについて、レポートの列が検索されます。

 をクリックして、レポートを Excel ファイルにダウンロードできます。


### ノート:

アーカイブ済ソースおよびターゲット・ビューポイントのサブスクリプションは、サブスクリプション・レポートに含まれません。

サブスクリプション・レポートには、次の情報が表示されます:

- サブスクリプションの名前および説明
- ソース・ビューポイント(ビューおよびアプリケーションを含む)
- ターゲット・ビューポイント(ビューおよびアプリケーションを含む)
- デフォルトおよび代替のサブスクリプション担当者

### ノート:

現在ユーザーが含まれていないグループには、 アイコンが表示されます。サービス管理者は、アクセス制御でユーザーをグループに割当てできます。*Oracle Enterprise Performance Management Cloud* の *アクセス制御の管理* のアクセス制御の概要を参照してください。

- サブスクリプションが有効になっているかどうか
- ターゲット・ビューポイントがサブスクライブされるアクション
- サブスクライブされる最上位ノード

- ノード条件式が定義されているかどうか
- 送信オプション: 自動送信、承認の省略

たとえば、このレポートでは、「Company Maintenance | Corporate GL」サブスクリプションは無効ですが、他のすべてのサブスクリプションは有効です。

Subscriptions



Application	View   Viewpoint	Assignee						
All	All	All	8 Records					
Name and Description	Source	Target	Assignee(s)	Enabled	Actions	Top Nodes	Node Expression	Options
Company Maintenance   Corporate GL	Corporate GL Company Maintenance Financials Cloud	Planning Company Maintenance Corporate Planning		False	All			
Corporate GL (Financials Cloud)   Cos...	Cost Center Corporate GL (Financials Cloud) Financials Cloud	Cost Center Corporate Planning Corporate Planning		True	All			Auto-Submit
Product Maintenance   Corporate GL Creates subscription for Plan when a new n...	Corporate GL Product Maintenance Financials Cloud	Planning Product Maintenance Corporate Planning		True	All			Auto-Submit
Company Maintenance   Consolidati... Plan subscription request for the Close	Consolidation and Close Company Maintenance Financial Consolidation and Close	Planning Company Maintenance Corporate Planning		True	All			Auto-Submit
Company Maintenance   Corporate GL Close subscription request from the GL	Corporate GL Company Maintenance Financials Cloud	Consolidation and Close Company Maintenance Financial Consolidation and Close		True	All			Auto-Submit
Product Maintenance   Corporate GL Subscription for Close for the Corp GL	Corporate GL Product Maintenance Financials Cloud	Consolidation and Close Product Maintenance Financial Consolidation and Close		True	All			Auto-Submit

サブスクリプションの詳細は、[ビューポイントのサブスクライブ](#)を参照してください。

## カスタム検証レポート

カスタム検証レポートでは、すべてのアプリケーションのデータ・チェーン・オブジェクトに対して手動で作成されたすべての検証のビューを提供します。レポートから、検証、アプリケーション、ディメンション、ノード・タイプまたは階層セットを検査して、詳細を表示したり、そのオブジェクトを変更できます。

レポートの検証は、アプリケーション、ディメンション、ノード・タイプまたは階層セットでフィルタできます。



をクリックしてテキストを入力することで、レポートの結果を検索できます。入力したテキストについて、レポートの列が検索されます。をクリックしてレポートをダウンロードすることもできます。






カスタム検証の詳細は、[カスタム検証の操作](#)を参照してください。

### Note:

カスタム検証レポートには、システムまたはアプリケーション固有の検証は含まれません。

カスタム検証レポートには、次のものが表示されます:

- 検証の名前および説明
- 検証レベル:
  - アプリケーション: 
  - ディメンション: 

- 階層セット: 
- ノード・タイプ: 
- 検証を含むアプリケーションおよびディメンション
- 検証チェックをトリガーするアクションおよびプロパティ
- 検証失敗のメッセージ
- 検証重要度:
  - 警告: 
  - エラー: 
  - 無視: 
- 検証が有効になっているかどうか

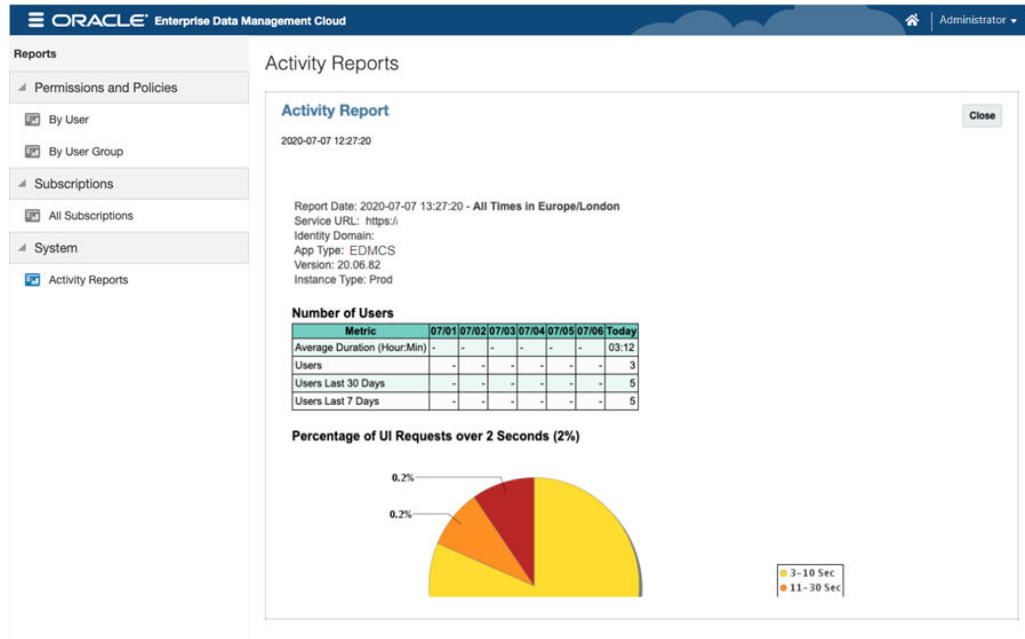
たとえば、このレポートには、複数のアプリケーションの階層セット・レベルとノード・タイプ・レベルの両方での様々な重要度レベルの複数の検証がリストされています。"親に無効な名前"検証は無効になっていることに注意してください。

Reports		Custom Validations																																																						
Extracts		Data Chain																																																						
Permissions and Policies		All																																																						
Subscriptions		16 Records																																																						
Validations		Q																																																						
System		<table border="1"> <thead> <tr> <th>Name and Description</th> <th>Level</th> <th>Application and Dimension</th> <th>Trigger Actions</th> <th>Trigger Properties</th> <th>Failure Message</th> <th>Severity</th> <th>Enabled</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Household Head A person must be designated the h...</td> <td>Residence</td> <td>Citizen Hub Citizens By Household</td> <td></td> <td>Custom.Household Head</td> <td>A head of household is requir...</td> <td>Request Submit Request Approve Request Commit</td> <td>True</td> </tr> <tr> <td>Input Values and Effective Da... Input Values and Effective Dates M...</td> <td>CMEp</td> <td>Financials Cloud Mapping Sets</td> <td>Add Insert Rename</td> <td>Custom.EndDateRelationship Custom.Costing Category Ide... Core Name Custom.Inventory Organizati... Custom.Item Number Custom.StartDateRelationship</td> <td>The combination of input val...</td> <td>Request Submit Request Approve Request Commit</td> <td>True</td> </tr> <tr> <td>Input Values and Effective Da... Input Values and Effective Dates M...</td> <td>AHC Mappings</td> <td>Financials Cloud Mapping Sets</td> <td>Add Insert Rename</td> <td>Custom.EndDateRelationship Custom.Line Type Core Name Custom.Loan Type Custom.StartDateRelationship</td> <td>The combination of input val...</td> <td>Request Submit Request Approve Request Commit</td> <td>True</td> </tr> <tr> <td>Name Invalid for Parent Node name must be within range s...</td> <td>ALL CORPORATE COMPA...</td> <td>Financials Cloud Corporate Company</td> <td>Add Insert Move Rename</td> <td>Core Name</td> <td>Name of child must be within...</td> <td>Request Submit Request Approve Request Commit</td> <td>False</td> </tr> <tr> <td>SSN Format Social Security Number must be in ...</td> <td>Citizen</td> <td>Citizen Hub Citizen</td> <td>Add Rename</td> <td>Core Name</td> <td>Social Security Number must ...</td> <td>Request Submit Request Approve Request Commit</td> <td>True</td> </tr> </tbody> </table>							Name and Description	Level	Application and Dimension	Trigger Actions	Trigger Properties	Failure Message	Severity	Enabled	Household Head A person must be designated the h...	Residence	Citizen Hub Citizens By Household		Custom.Household Head	A head of household is requir...	Request Submit Request Approve Request Commit	True	Input Values and Effective Da... Input Values and Effective Dates M...	CMEp	Financials Cloud Mapping Sets	Add Insert Rename	Custom.EndDateRelationship Custom.Costing Category Ide... Core Name Custom.Inventory Organizati... Custom.Item Number Custom.StartDateRelationship	The combination of input val...	Request Submit Request Approve Request Commit	True	Input Values and Effective Da... Input Values and Effective Dates M...	AHC Mappings	Financials Cloud Mapping Sets	Add Insert Rename	Custom.EndDateRelationship Custom.Line Type Core Name Custom.Loan Type Custom.StartDateRelationship	The combination of input val...	Request Submit Request Approve Request Commit	True	Name Invalid for Parent Node name must be within range s...	ALL CORPORATE COMPA...	Financials Cloud Corporate Company	Add Insert Move Rename	Core Name	Name of child must be within...	Request Submit Request Approve Request Commit	False	SSN Format Social Security Number must be in ...	Citizen	Citizen Hub Citizen	Add Rename	Core Name	Social Security Number must ...	Request Submit Request Approve Request Commit	True
Name and Description	Level	Application and Dimension	Trigger Actions	Trigger Properties	Failure Message	Severity	Enabled																																																	
Household Head A person must be designated the h...	Residence	Citizen Hub Citizens By Household		Custom.Household Head	A head of household is requir...	Request Submit Request Approve Request Commit	True																																																	
Input Values and Effective Da... Input Values and Effective Dates M...	CMEp	Financials Cloud Mapping Sets	Add Insert Rename	Custom.EndDateRelationship Custom.Costing Category Ide... Core Name Custom.Inventory Organizati... Custom.Item Number Custom.StartDateRelationship	The combination of input val...	Request Submit Request Approve Request Commit	True																																																	
Input Values and Effective Da... Input Values and Effective Dates M...	AHC Mappings	Financials Cloud Mapping Sets	Add Insert Rename	Custom.EndDateRelationship Custom.Line Type Core Name Custom.Loan Type Custom.StartDateRelationship	The combination of input val...	Request Submit Request Approve Request Commit	True																																																	
Name Invalid for Parent Node name must be within range s...	ALL CORPORATE COMPA...	Financials Cloud Corporate Company	Add Insert Move Rename	Core Name	Name of child must be within...	Request Submit Request Approve Request Commit	False																																																	
SSN Format Social Security Number must be in ...	Citizen	Citizen Hub Citizen	Add Rename	Core Name	Social Security Number must ...	Request Submit Request Approve Request Commit	True																																																	

## システム・アクティビティ・レポート

システム・アクティビティ・レポートは毎日自動的に生成され、サービス管理者はシステムの使用状況を経時的にモニターできます。これには、ユーザー・アクティビティのメトリック、リソース使用状況、パフォーマンス統計およびトラブルシューティング情報が含まれます。システム・ログをオフラインでレビューおよび分析するように、ログをダウンロードすることもできます。

「システム」の下にある「**アクティビティ・レポート**」をクリックして、「レポート」ページからシステム・アクティビティ・レポートにアクセスできます。使用可能なアクティビティ・レポートのリストから、「**表示**」をクリックしてレポートを表示するか、または「**ダウンロード**」をクリックしてアクセス・ログをダウンロードします。詳細は、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者のためのスタート・ガイドのアクティビティ・レポートについて*を参照してください。



## 「レコード数ログ」レポート

「レコード数ログ」レポートにより、様々なアプリケーションおよびディメンションのノードが、システムで決定された合計レコード数のどの程度を占めているかを特定できます。

ノード数を計算する際、修飾子(デフォルトまたは代替の修飾子、接頭辞または接尾辞)を除去した後のソース・ノードとターゲット・ノードのベース名が同じ場合、2つのノードは同等と見なされます。

### Note:

「参照」や「ユーザー」などの特殊ノード・タイプ・クラスを持つノードは、「レコード数ログ」レポートの対応するラベル(カッコ付き)で識別されますが、使用環境の合計レコード数には含まれません。

レコード数ログ・レポートはサービス管理者のみが使用可能です。

「システム」の下にある「レコード数ログ」をクリックして、「レポート」ページからレコード数ログ・レポートにアクセスします。各アプリケーション、ディメンションおよびノード・タイプのノード数が「ノード」列に表示され、それぞれの追加の一意のレコード数が「レコード数コントリビューション」列に含まれます。

### Note:

日次メンテナンス・ウィンドウ後、またはサービスが再起動された後にレコード数が更新されます。レコード数が最後に更新された日時がレポート・タイトルの下に表示されます。

Record Count Log  
As of November 6, 2023 at 7:52 PM  
↓

Application	Dimension	Node Type	Nodes	Record Count Contribution
<b>Account Reconciliation Total</b>			<b>1,414</b>	<b>1,414</b>
Acquired GL (Legacy)	Account	Account	99	99
		Account Rollup	34	34
		Multi Segment	0	0
	<b>Account Total</b>		<b>133</b>	<b>133</b>
	Cost Center	Cost Center	82	82
	<b>Cost Center Total</b>		<b>82</b>	<b>82</b>
	Entity	Entity	21	19
	<b>Entity Total</b>		<b>21</b>	<b>19</b>
	Product	Product	102	63
	<b>Product Total</b>		<b>102</b>	<b>63</b>
<b>Acquired GL (Legacy) Total</b>			<b>338</b>	<b>297</b>
All Corp Users	Users	All Corp Users User (User)	0	0
		All Corp Users User Rollup (User Rollup)	0	0
		Rollup (User Rollup)	1	0

「ダウンロード」 ↓ をクリックして、「レコード数ログ」レポートから Excel ファイルに情報をダウンロードします。ダウンロードしたファイルには、各ノード・タイプのノード数とレコード数が含まれています。

# 第 II 部

## 管理

Oracle Enterprise Data Management Cloud には、データ管理と管理の 2 つのカテゴリのタスクがあります。ガイドのこの項では、管理タスクについて説明します。

管理タスクは次のとおりです。

- アプリケーションの登録
- ディメンションのインポートおよびエクスポート
- ビュー・データチェーンおよび代替ビューポイントの作成

[管理の開始](#)を参照してください。

データ管理タスクには、ビューポイントの作成、およびノードやプロパティなどのデータの更新が含まれます。[データ管理の開始](#)を参照してください。



# 16

## 管理の開始

管理タスクには、アプリケーションの登録、ディメンションのインポートとエクスポート、およびビュー、データ・チェーン、代替ビューポイントの作成が含まれます。サービス管理タスクには、ユーザーやグループの追加、環境の保守などがあります。

### ビデオ

目的	参照するビデオ
サービス管理者として使用開始する際に役立つ情報を確認します。	 <a href="#">Enterprise Data Management Cloud サービス管理者スタート・ガイド</a>
アプリケーション所有者として使用開始する際に役立つ情報を確認します。	 <a href="#">Enterprise Data Management Cloud アプリケーション所有者スタート・ガイド</a>

### アイデンティティ・ドメイン管理タスク

アイデンティティ・ドメイン管理者は、Oracle Cloud 個人用サービス内でユーザーを作成し、事前定義されているロールを割り当てます。従来のクラウド・アカウントのユーザーおよび事前定義済ロールの理解を参照してください。

### サービス管理タスク

サービス管理者とは、サービス管理者の事前定義済ロールを持つユーザーであり、次のタスクを実行します：

1. アクセス制御内でアプリケーション・ロールをユーザーに割り当てます。アクセス制御および[アプリケーションのロールと権限の理解](#)を参照してください。
2. テスト環境と本番環境間でアーティファクトを移行します。[移行の使用](#)を参照してください。
3. 日次メンテナンスを実行します。メンテナンス・スナップショットの使用を参照してください。

#### ノート：

これらのタスクを実行するには、サービス管理者の事前定義済ロールが必要です。

### 管理タスク

管理者とは、ユーザーの事前定義済ロールを持つユーザーです。次の表に、管理タスク、およびタスクの実行に最低限必要なロールと権限をリストします。

タスク	ロール	権限	参照
権限の割当て		ディメンション内のデータ・チェーン・オブジェクトへの権限を割り当てるためのディメンションの所有者またはメタデータ・マネージャ ビュー権限を割り当てるためのビューの所有者	アプリケーションのロールと権限の理解を参照してください。
サンプル・アプリケーションの作成	サンプル・アプリケーションを作成するには、サービス管理者の事前定義済ロールが必要です。		サンプル・アプリケーションの作成
ビューの作成	「ビュー - 作成」アプリケーション・ロール		ビューの操作
アプリケーションの登録	「アプリケーション - 作成」アプリケーション・ロール		アプリケーションの登録の理解
アプリケーションの変更		アプリケーションの所有者またはメタデータ・マネージャ	アプリケーションの変更の理解
アーカイブによるデータ・オブジェクトのライフサイクルの管理		データ・オブジェクトの所有者またはメタデータ・マネージャ	データ・オブジェクトおよびデータ・チェーンのライフサイクルの理解
ディメンションのインポート		インポート先のディメンションに対するデータ・マネージャまたはメタデータ・マネージャ	ディメンションのインポート
ディメンションのエクスポート		エクスポート元のディメンションに対するデータ・マネージャまたはメタデータ・マネージャ	ディメンションのエクスポート
代替ビューポイントの作成		ディメンションのデータ・マネージャまたはメタデータ・マネージャおよびビューの所有者	代替ビューおよびビューポイントの定義
データ・チェーン・オブジェクトの作成		ディメンションの所有者またはメタデータ・マネージャ	ノード・タイプの作成 階層セットの作成 ノード・セットの作成 ビューポイントの作成

タスク	ロール	権限	参照
データの管理		データを表示するためのデータ・チェーン・オブジェクトの参加者(読取り) 要求を使用して変更を適用するには、データ・チェーン・オブジェクトに対する参加者(書込み) アプリケーションまたはディメンション内のデータ・オブジェクトの承認ポリシーを構成するためのアプリケーションまたはディメンションの所有者	<a href="#">プロパティの操作</a> <a href="#">検証および制約の理解</a> <a href="#">ポリシーの構成</a>
サービスの再作成	サービスを再作成するには、サービス管理者の事前定義済ロールが必要です。		<a href="#">サービスの再作成</a>

管理タスクを実行するには、サービス管理者によって割り当てられたロールが必要です。

- アプリケーションを登録するには、「アプリケーション - 作成」ロールが必要です。アプリケーションが登録された後、アプリケーションに対する所有者権限が割り当てられ、アプリケーションとデータを更新し、データ・オブジェクトを作成し、アプリケーションを使用する権限をユーザーに付与することが可能になります。
- ビューを作成するには、「ビュー - 作成」ロールが必要です。ビューが作成された後、ビューに対する所有者権限が割り当てられ、ビューを更新し、ビューの権限をユーザーに付与することが可能になります。

#### ノート:

[アプリケーションのロールと権限の理解](#)を参照してください。

## Enterprise Data Management ビジネス・プロセスの作成

Oracle Enterprise Performance Management Cloud では、Enterprise Data Management の 2 つのオプションをデプロイできます:

- スタンドアロン Oracle Enterprise Data Management Cloud
- EPM Enterprise Cloud Service - Enterprise Data Management ビジネス・プロセス

(詳細は、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者のためのスタート・ガイド*の Enterprise Data Management Cloud を参照してください)

スタンドアロンの Oracle Enterprise Data Management Cloud オプションの場合、環境はすでに作成されており、サンプル・アプリケーション、新規アプリケーションの作成、または既存のスナップショットの移行を開始できます。これらのタスクの実行のステップは、[サービスの再作成](#)で説明しています。

EPM Enterprise Cloud Service - Enterprise Data Management ビジネス・プロセス・オプションの場合、Enterprise Data Management にアクセスする前に、Enterprise Data Management ビジネス・プロセスを作成する必要があります。ランディング・ページで、「Enterprise Data Management」の下の **SELECT** をクリックします。このプロセスには約 20 分かかります。ビジネス・プロセスの作成の進行中は環境にアクセスできません。

The screenshot displays a grid of business process options. Each option includes an icon, a title, a brief description, a 'SELECT' button, and a 'Take a quick tour' link. The 'Enterprise Data Management' option is highlighted with a red border.

Planning	Financial Consolidation and Close	Account Reconciliation	Profitability and Cost Management
Drive accurate, integrated plans - from long-range planning to budgeting and line of business planning that incorporates best practices	Optimize the financial close - comprehensive consolidation and close, including close process orchestration, on a single reporting platform	Streamline Account Reconciliation - automate, comprehensively address risk, and efficiently manage the global account reconciliation process	Manage and drive profitability - efficiently model profitability by segment and complex costing of shared services.
<b>SELECT</b>	<b>SELECT</b>	<b>SELECT</b>	<b>SELECT</b>
<a href="#">Take a quick tour</a>	<a href="#">Take a quick tour</a>	<a href="#">Take a quick tour</a>	<a href="#">Take a quick tour</a>
FreeForm	Tax Reporting	Narrative Reporting	Enterprise Data Management
Create flexible and fully customizable applications for reporting and planning. Migrate your On-Prem Essbase cubes for use in EPM Cloud	Align tax reporting with corporate financial reporting - seamless transparency between tax and finance with a strong compliance framework	Satisfy internal and external reporting requirements - collaborative narrative and regulatory reporting with interactive dashboards	Manage change with enterprise data management - enterprise data governance, change data visualization and hierarchy management
<b>SELECT</b>	<b>SELECT</b>	<b>SELECT</b>	<b>SELECT</b>
<a href="#">Take a quick tour</a>	<a href="#">Take a quick tour</a>	<a href="#">Take a quick tour</a>	<a href="#">Take a quick tour</a>

事前構成が完了した後は、次のステップを使用します:

1. EPM Enterprise Cloud Service 環境にサービス管理者としてサインインします。  
*Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者のためのスタート・ガイド* の EPM Cloud へのアクセスを参照してください
2. ビジネス・プロセスを作成するオプションを選択します。
  - **サンプル・アプリケーションの作成:** 「作成」をクリックして、データおよびアーティファクトを含むサンプル・ビジネス・プロセスを作成します。このすぐに使用できるビジネス・プロセスは、テスト、機能領域の確認およびチュートリアルに使用できます。[サンプル・アプリケーションの作成](#)を参照してください
  - **新規アプリケーションの作成:** 「開始」をクリックして、アプリケーションを登録します。アプリケーションの登録の理解を参照してください
  - **移行:** 「移行」をクリックして、前に環境で使用していたスナップショットをインポートします。前提条件およびスナップショット互換性は *Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者のためのスタート・ガイド* の EPM Standard Cloud Service および EPM Enterprise Cloud Service に移行可能なアプリケーション、および *Oracle Enterprise Performance Management Cloud 移行の管理* のこれらのトピックを参照してください:
    - アーティファクトとアプリケーションのバックアップ
    - サービスへのアーカイブのアップロード
    - スナップショットからのアーティファクトとアプリケーションのインポート

## サンプル・アプリケーションの作成

サンプル・アプリケーションは、Oracle Enterprise Data Management Cloud の事前ロード済のサンプル・データと関連アーティファクトで構成されています。このすぐに使用できる環境を使用して、Oracle Enterprise Data Management Cloud の機能を参照し、その機能を理解して、自分のデータを操作し始める前にチュートリアルを使用できます。サンプル・アプリケーションには、Financials Cloud 一般会計、Planning、Financial Consolidation、および E-Business Suite 一般会計アプリケーション・タイプの例が含まれています。

Oracle Enterprise Data Management Cloud を初めて使用するときは、サンプル・アプリケーションを作成するオプションがあります。後で、サンプル・アプリケーションの使用が必要になり、サービス管理者である場合は、すべてのアプリケーションとアーティファクトを除去するサービスを再作成する必要があり、その後でサンプル・アプリケーションを作成できます。[サービスの再作成](#)を参照してください。

たとえば、サンプル・アプリケーションでチュートリアルを使用する場合は、次のようになります。

1. サービスをバックアップします。
2. サービスを再作成します。
3. サンプル・アプリケーションを作成し、チュートリアルを実行します。
4. チュートリアルを終了した後、ステップ 1 のバックアップを使用してサービスを復元できます。

### ノート:

チュートリアルには、トピックを学習するのに役立つ一連のビデオおよびドキュメントを使用した説明が用意されています。[ヘルプ・センターのチュートリアル](#)を参照してください。

## サービスの再作成

「サービスの再作成」コマンドを使用して、新規ビジネス・プロセスを作成したり、新規アプリケーションを作成します。

### ノート:

「サービスの再作成」コマンドを使用すると、既存のアプリケーションおよびアーティファクトが失われます。このコマンドを使用する前に完全バックアップを実行します。

サポートを再作成するには、画面の右上隅にあるユーザー名をクリックして「サービスの再作成」をクリックします。このプロセスは約 20 分かかり、プロセスが完了するまで環境にアクセスできません。サービスの再作成を参照してください。

サービスを再作成するには、2 つのシナリオがあります。

1. Oracle EPM Cloud Service を使用している場合は、サービスを再作成して異なるビジネス・プロセスを設定できます(EPM Cloud Service についてを参照)。
2. Oracle Enterprise Data Management Cloud を使用している場合は、サービスを再作成して、新規アプリケーションを作成できます。再作成が完了した後に、次のいずれかのステップを実行します。
  - **サンプル・アプリケーションの作成:** 「作成」をクリックして、データおよびアーティファクトを含むサンプル・ビジネス・プロセスを作成します。このすぐに見えるビジネス・プロセスは、テスト、機能領域の確認およびチュートリアルに使用できます。
  - **新規アプリケーションの作成:** 「開始」をクリックして、アプリケーションを登録します。アプリケーションの登録の理解を参照してください
  - **移行:** 「移行」をクリックして、前に環境で使用していたスナップショットをインポートします。

Oracle Enterprise Performance Management Cloud 移行の管理で次のトピックを参照してください。

- アーティファクトとアプリケーションのバックアップ
- サービスへのアーカイブのアップロード
- スナップショットからのアーティファクトとアプリケーションのインポート

## ユーザーの表示形式のカスタマイズ

サービス管理者は、テーマを変更するかカスタム・ロゴや背景イメージを追加することで、すべてのユーザーに対する表示をカスタマイズできます。

### 使用可能なテーマ

ユーザーの表示形式をカスタマイズするために、次のテーマを使用できます:

#### レッドウッド・エクスペリエンスが有効な場合:

- **Oracle:** レッドウッド・エクスペリエンスのデフォルトのルック・アンド・フィール
- **カスタム・ダーク:** オプションで独自のロゴとホーム・ページの背景イメージ、ブランド色を構成できる、暗い外観。
- **カスタム・ライト:** オプションで独自のロゴとホーム・ページの背景イメージ、ブランド色を構成できる、明るい外観。

#### ヒント:

カスタム背景を使用する場合と使用しない場合のレッドウッド・テーマのイメージのサンプルを表示するには、「例の表示」リンクをクリックします。

#### レッドウッド・エクスペリエンスが無効な場合:

- **スカイ・ブルー:** オプションで独自のロゴと背景イメージを構成できる、薄い青のテーマ。

- **濃い青:** オプションで独自のロゴと背景イメージを構成できる、濃い青のテーマ。  
**すべてのユーザーの表示をカスタマイズするには:**

1. ホーム・ページで「ツール」をクリックし、「外観」をクリックします。

 **ノート:**

「外観」アイコンはサービス管理者に対してのみ表示されます。

2. 「Oracle」、「カスタム・ライト」および「カスタム・ダーク」テーマにアクセスするには、「**レッドウッド・エクスペリエンスの有効化**」を選択します。「スカイ・ブルー」または「濃い青」のテーマを使用するには、それを無効にします。
3. **レッドウッド・エクスペリエンスが有効な場合:**
  - a. 「**テーマ**」ドロップダウン・メニューで、「Oracle」、「カスタム・ライト」または「カスタム・ダーク」テーマを選択します。
  - b. 「カスタム・ライト」および「カスタム・ダーク」テーマの場合のみ:
    - i. 「**ロゴ・イメージ**」で、デフォルトを受け入れるか、「**イメージのアップロード**」を選択し、ロゴ・ファイルを選択します。[ロゴおよび背景イメージの要件](#)を参照してください。
    - ii. 「**ホーム背景イメージ**」で、デフォルトを受け入れるか、「**イメージのアップロード**」を選択し、ホーム・ページの背景に表示するイメージ・ファイルを選択します。[ロゴおよび背景イメージの要件](#)を参照してください。
    - iii. 「**ブランド色**」で、色の付いた円をクリックし、ページ・ヘッダーのパターン・ストライプ・イメージについて事前定義された色のいずれかを選択します。
4. **レッドウッド・エクスペリエンスが無効な場合:**
  - a. 「**テーマ**」ドロップダウン・メニューで、「スカイ・ブルー」または「濃い青」のテーマを選択します。
  - b. 「**ロゴ・イメージ**」で、「**ファイルの選択**」を選択し、ロゴ・ファイルを選択します。[ロゴおよび背景イメージの要件](#)を参照してください。
  - c. 「**背景イメージ**」で、「**ファイルの選択**」を選択し、背景イメージ・ファイルを選択します。[ロゴおよび背景イメージの要件](#)を参照してください。
  - d. カスタム・イメージを除去してデフォルトのロゴと背景を復元するには、「**クリア**」をクリックします。
5. 「**ビジネス・プロセス名の表示**」で、ホーム・ページおよびブラウザのタブを開いたときのタブのロゴの横にビジネス・プロセス名を表示するには、「**はい**」を選択します。ホーム・ページのビジネス・プロセス名を非表示にし、ブラウザのタブに **Oracle Applications** を表示するには、「**いいえ**」を選択します。
6. 「**保存**」をクリックします。

#### ロゴおよび背景イメージの要件

ロゴおよび背景イメージ・ファイルについては、タイプ.jpg、.png または.gif のファイルを選択します。最大ファイル・サイズは 5 MB です。

ロゴおよび背景イメージについて次の点に注意してください:

- **ロゴ・イメージ:** 幅 125 ピクセル×25 ピクセルより小さいイメージは、サイズ変更なしで表示されます。大きいイメージ・ロゴの場合、そのイメージが歪みなしでスケーリングされるように、5:1 の比率を維持することをお勧めします。
- **背景イメージ:** 背景イメージのデフォルト・サイズは 1024x768 です。それより大きい背景イメージを使用する場合、そのイメージは、ディスプレイの解像度設定に適合するようにスケーリングされます。背景イメージをブラウザとモバイル・デバイスの両方に適合させる場合、最大画面(または最高解像度のデバイス)に適合するようにイメージをサイズ調整することをお勧めします。背景イメージは、水平方向の中央に配置されます。

#### ノート:

カスタムの背景イメージを使用している顧客は、新しいテーマに切り替える際に、アイコンおよびラベルの色のコントラストが適切であることの確認が必要となる場合があります。修正するには、別のテーマまたは適切な背景を選択することを考慮してください。

## ホーム・ページ・レイアウトの操作

サービス管理者は、様々なホーム・ページ・カードおよびクラスタのレイアウトを構成し、事前定義済みのロールまたはユーザー・グループに基づいて、それぞれ異なるユーザーに割り当てることができます。

#### Tip:

ホーム・ページのカードは、機能にアクセスできるユーザー要素です。クラスタは、カードのグループです。[カードおよびクラスタ](#)を参照してください。

### 考慮事項


- サービス管理者は、そのユーザーが別のレイアウトが割り当てられているユーザー・グループの一員である場合でも、ホーム・ページにすべてのカードおよびクラスタが表示されるデフォルト・レイアウトを常に使用します。デフォルト・レイアウトは変更できません。
- ホーム・ページ・レイアウトは、「ユーザー」事前定義済ロールまたは単一のユーザー・グループにのみ割り当てることができます。レイアウトを複数のユーザー・グループに割り当てることはできません。
- レイアウトにカードまたはクラスタが表示されるようにしても、そのレイアウトのユーザーにそのカードまたはクラスタの表示アクセス権が自動的に付与されるわけではありません。カードまたはクラスタを表示するために必要なロールを持っていないユーザーには、レイアウトに表示されるように設定されているカードまたはクラスタも表示されません。
- ユーザーのグループにレイアウトが割り当てられていない場合は、「ユーザー」ロールに割り当てられているレイアウトが使用されます。「ユーザー」ロールのレイアウトがない場合は、デフォルト・レイアウトが使用されます。
- ユーザーが、レイアウトが割り当てられている複数のユーザー・グループに属している場合、そのユーザーはリスト(レイアウト名でアルファベット順にソートされる)内の自分のグループに適用される最初のレイアウトを使用します。



- ホーム・ページ・レイアウトに対する変更は、「ナビゲータ」メニューにも反映されます。


### 既存のレイアウトをコピーすることによるホーム・ページ・レイアウトの作成

新しいホーム・ページ・レイアウトを作成するには、既存のレイアウトをコピーして変更します。レイアウトを初めて作成したときは、非アクティブになっています。ユーザーがレイアウトを使用できるようにするには、レイアウトをアクティブ化する必要があります。[ホーム・ページ・レイアウトのアクティブ化、非アクティブ化および削除](#)を参照してください。

- ホーム・ページで、「ツール」、「レイアウト」の順にクリックします。
- コピーするレイアウトの「アクション」列で、「アクション」をクリックし、「コピー」を選択します。  
ホーム・ページ・レイアウトのコピーがレイアウト・エディタに表示されます。


### ホーム・ページ・レイアウトの編集

レイアウト・エディタで、次のアクションを実行します：

- レイアウト・エディタを開くには、レイアウトの名前をクリックするか、「アクション」、「編集」の順にクリックします
- レイアウト・エディタで、レイアウトの名前および説明(オプション)を編集します。名前はレイアウト間で一意である必要があります。
- 「適用先」で、次のいずれかを選択します：
  - ユーザー・グループ**: ドロップダウン・メニューを使用して、レイアウトに割り当てるユーザー・グループを選択します。選択できるグループは 1 つのみです。
  - ロール**: 「ユーザー」事前定義済ロールが選択されており、変更できません。
- 「レイアウト」で、次のアクションを実行して、ホーム・ページ・レイアウトをカスタマイズします：
  - 「表示可能」列で、チェック・マークをクリックして、カードまたはクラスタがホーム・ページに表示可能かどうかを切り替えます。

#### Note:

少なくとも 1 つの最上位レベル・カードが表示可能である必要があります。クラスタが表示可能な場合は、少なくとも 1 つの表示可能カードが含まれている必要があります。クラスタが「表示可能」に設定され、かつそのクラスタ内のすべてのカードがユーザーのロールによって非表示になる場合、そのクラスタは表示されません。


- 「順序」列で、上矢印と下矢印をクリックして、ホーム・ページのカードおよびクラスタのソート順を変更します。
- 「移動先」列で、「アクション」をクリックし、クラスタの内外にカードを移動するオプションを選択します：
  - 最上位レベル**: ホーム・ページにカードを直接表示します
  - ツール**: 「ツール」クラスタ内のカードを表示します
  - 情報モデル**: 「情報モデル」クラスタ内のカードを表示します

 **Note:**

クラスタは別のクラスタ内に移動できません。

5. 「保存」をクリックします。

### ホーム・ページ・レイアウトのアクティブ化、非アクティブ化および削除

「アクション」列で、「アクション」をクリックし、次のアクションを実行します:

- **アクティブ化:** レイアウトをアクティブに変更します。

 **Note:**

すでにアクティブなレイアウトがあるユーザー・グループまたはロールのレイアウトをアクティブ化する場合は、そのユーザー・グループまたはロールを、アクティブ化するレイアウトに切り替えるかどうかを確認するプロンプトが表示されます。

- **非アクティブ化:** レイアウトを非アクティブに変更します。
- **削除:** レイアウトを削除します。

 **Note:**

レイアウトを削除するかどうかを確認するプロンプトが表示されます。レイアウトがアクティブであるかどうかが表示されます。

## お知らせの作成、編集および削除

サービス管理者は、システム・メンテナンス、アップグレードおよび新機能などの近々のイベントに関するお知らせを作成してユーザーに公開できます。お知らせは、ホーム・ページの「アクティビティ」タブの「お知らせ」領域に表示されます。

### お知らせの作成


1. ホーム・ページで、「ツール」をクリックし、「お知らせ」をクリックします。
2. 「作成」をクリックします。
3. お知らせの件名ヘッダー(最大 100 文字)と開始日時に加え、オプションで終了日時を入力します。
4. リッチ・テキスト・エディタを使用して、お知らせの内容(最大 1,000 文字)を追加します。
5. 「保存して閉じる」をクリックしてお知らせを保存します。  
最新のアクティブなお知らせを先頭にして、お知らせが「お知らせ」ページに表示されます。

お知らせを編集するには:

### お知らせの編集

1. 「お知らせ」ページで、編集するお知らせの件名ヘッダーをクリックします。
2. お知らせの件名ヘッダー、開始日、終了日および内容を編集します。
3. 「保存して閉じる」をクリックします。

### お知らせの削除

1. 「お知らせ」ページで、削除するお知らせの「アクション」列にある「アクション」をクリックし、「削除」を選択します。
2. お知らせが現在アクティブである場合は、それを削除することを確定します。

## システム設定の構成

システム設定を構成して、電子メール通知などシステムレベルの動作を制御します。「ツール」クラスタの「設定」カードを使用して、システム設定にアクセスします。システム設定を構成するには、サービス管理者である必要があります。

### 通知設定

通知設定により、システムが電子メール通知を送信する方法を構成できます。

1. 「ツール」から、「設定」を選択します。
2. 次のいずれかのアクションを実行します。
  - 「通知の送信」で、チェック・ボックスをクリックして、システム全体に対する電子メール通知の送信を有効化または無効化します。
  - 「電子メールの件名接頭辞」で、電子メールの送信元となった環境を識別するために、システム生成電子メールの件名行に対する接頭辞を入力します。
  - 「代替受信者」で、プライマリ受信者(要求担当者、要求協力者、要求承認者など)のかわりに電子メールが送信される単一のデフォルト・ユーザーを選択します。これは、テスト・システムで通知をテストする際に役立つ場合があります。定義済電子メール・アドレスを持つユーザーのみが表示されます。
  - 「サブスクリプション要求ファイルの添付」で、チェック・ボックスをクリックして、サブスクリプション要求の要求アイテムを生成するために使用された要求ファイルを、サブスクリプション担当者および協力者に送信される通知電子メールへの添付として、自動的に含める機能を有効化または無効化します。
3. 「保存」をクリックします。

### 要求ページ設定

要求ページ設定を使用すると、完了した要求に対する要求アクションがシステムから自動的にページされるまでの月数を設定できます。これにより、移行スナップショット・ファイルのサイズを縮小できます。

### 考慮事項

- 要求アクションがページされるまでの月数は、6 から 18 か月の範囲で設定できます。

- 要求のページ後でも要求アイテムを (要求インスペクタや要求ワークリストなどで)表示できますが、各要求アイテムを展開してそのアイテムの要求アクションを表示したり、要求アイテムの詳細をダウンロードすることはできません。
- ページされた要求のトランザクションは、トランザクション履歴で引き続き使用可能です。[トランザクション履歴の監査](#)を参照してください。
- 完了した要求アクションのページは、週ベースで実行され、要求アクションがページされた後は復元できません。

### カレンダー設定

カレンダー設定を使用すると、組織の会計年度末を指定できます。この設定は、グレゴリオ暦カレンダーではなく会計カレンダーに基づいてローリング時間ラベル付きビューポイントを作成するために、時間ラベルによって使用されます。[時間ラベルの作成、編集および削除](#)を参照してください。

ドロップダウン・メニューを使用して、会計年度の最終月を選択します。

## レコード数の表示

すべてのユーザーのすべてのアプリケーションにわたる一意のノードの数を表すレコード数を表示できます。許可されるレコード数は、サブスクリプションの購入時に設定され、テスト環境と本番環境に個別に適用されます。たとえば、5000 レコードのサブスクリプションがある場合は、本番環境で最大 5000 レコード、さらにテスト環境で最大 5000 レコードを使用できます。

#### ノート:

追加のレコードは営業担当から購入できます。

ライセンスのノード数を計算する際、修飾子(デフォルトまたは代替の修飾子、接頭辞または接尾辞)を除去した後のソース・ノードとターゲット・ノードのベース名が同じ場合、2つのノードは同等と見なされます。

たとえば、ライセンス数を決定する際、次のすべてがビジネス・エンティティ "1000" と見なされます:

- "A\_1000"
- "1000-A"
- "1000-B"
- "C\_1000"

#### ノート:

参照クラス・ノード・タイプのノードは、使用環境の合計レコード数にはカウントされません。

レコード数を表示するには:

1. 画面の右上にあるユーザー名をクリックし、「情報」、「サブスクリプション」の順に選択します。
2. 合計レコード数がサブスクリプションで許可されている数を超える場合は、営業担当に連絡して追加のレコード数を購入してください。

 **ノート:**

日次メンテナンス・ウィンドウ後、またはサービスが再起動された後にレコード数が更新されます。レコード数が最後に更新された日時が合計ノードの下に表示されます。

サービス管理者は、「レコード数ログ」レポートを表示して、すべてのアプリケーション、ディメンションおよびノード・タイプのノード数に関する詳細を確認することもできます。「レコード数ログ」レポートを参照してください。

## EPM Cloud に関するよくある質問

このトピックには、Oracle Enterprise Performance Management Cloud の管理タスクに関するよくある質問のリソースへのリンクが用意されています。

### よくある質問

- EPM Cloud サービスのトラブルシューティング時に、テクニカル・サポートを支援するための「フィードバックの提供」機能をどのように使用しますか。
- EPM Cloud ビジネス・プロセスの一般的なトラブルシューティングのヒントはどこで入手できますか。
- EPM Cloud サービスの SOC1 および SOC2 レポートをどのようにして取得できますか。
- EPM Cloud サービスはどのように再起動しますか。
- ユーザーのパスワードをどのようにリセットしますか。
- EPM Cloud で本番からテストへのデータ移行をどのように実行しますか。
- 自分の環境の自動月次更新をどのように延期しますか。
- OAuth 2 for OCI (Gen 2)環境での認証をどのように設定しますか。
- REST API または EPM 自動化を使用した、グループの作成または除去方法、およびそれらに対するユーザーの追加または除去方法
- オラクル社によって本番およびテストのバックアップが保持される期間、および自分の環境へのバックアップ・スナップショットのコピー方法

**EPM Cloud サービスのトラブルシューティング時に、テクニカル・サポートを支援するための「フィードバックの提供」機能をどのように使用しますか。**

画面の右上に表示されるユーザー名をクリックして「フィードバックの提供」を選択します。

 **Tip:**

サービス管理者の場合、メンテナンス・スナップショットを含めて、テクニカル・サポートがサービスをトラブルシューティングすることを支援できます。「フィードバックの提供」ユーティリティで、「**アプリケーション・スナップショットの送信の確認**」を展開し、「**アプリケーション・スナップショットの送信**」オプションを有効化します。

*Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者のためのスタート・ガイド* のフィードバックの提供ユーティリティを使用したフィードバックの送信を参照してください

**EPM Cloud ビジネス・プロセスの一般的なトラブルシューティングのヒントはどこで入手できますか。**

トラブルシューティングのヒント、およびお客様から報告された一般的な問題に関する情報とその修正手順については、[Oracle Enterprise Performance Management Cloud オペレーション・ガイド](#)を参照してください。

**EPM Cloud サービスの SOC1 および SOC2 レポートをどのようにして取得できますか。**

アプリケーションの「**アクション**」メニューをクリックし、「ドキュメント」タブを選択することで、「個人用サービス」でこれらのレポートにアクセスできます。*Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者のためのスタート・ガイド*のコンプライアンス・レポートへのアクセスを参照してください

**EPM Cloud サービスはどのように再起動しますか。**

- EPM 自動化で **resetService** コマンドを使用して、EPM Cloud サービスを再起動します。*Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作*で **resetService** を参照してください。
- **サービス・インスタンスの再起動** REST API を使用して、EPM Cloud サービスを再起動します。*Enterprise Performance Management Cloud の REST API* のサービス・インスタンスの再起動(v2)を参照してください

**ユーザーのパスワードをどのようにリセットしますか。**

OCI (Gen 2)環境の場合、Oracle Identity Cloud Service を使用してユーザー・アカウントのパスワードをリセットします。*Oracle Cloud の管理とモニタリングのパスワードのリセット*に関する項を参照してください。

クラシック環境の場合、「個人用サービス」を使用してユーザー・アカウントのパスワードをリセットします。*Oracle Cloud の管理とモニタリングのユーザーのパスワードのリセット*に関する項を参照してください。

**EPM Cloud で本番からテストへのデータ移行をどのように実行しますか。**

「**クローン**」機能を使用して、本番からテストにデータを移行します。*Oracle Enterprise Performance Management Cloud 移行の管理*の EPM Cloud 環境のクローニングを参照してください。

または、EPM 自動化の `cloneEnvironment` コマンドを使用できます。環境のクローニング REST API を使用することもできます。

 **Note:**

Oracle Enterprise Data Management Cloud の場合、テンプレートを使用して、ある環境での特定のアプリケーション変更を別の環境に移動できます(たとえば、テスト環境で新規ディメンションを追加して、それを本番環境に移動する場合)。  
*Enterprise Data Management Cloud の管理および操作のテンプレートの操作を参照してください。*

### 自分の環境の自動月次更新をどのように延期しますか。

更新のスキップの設定は、**skipUpdate** EPM 自動化コマンドを使用して実行するセルフサービス操作です。*Oracle Enterprise Performance Management Cloud オペレーション・ガイドの環境の自動更新のスキップのリクエスト*を参照してください。

**skipUpdate** REST API を使用して月次更新を延期することもできます。*Enterprise Performance Management Cloud の REST API の更新のスキップ(v2)*を参照してください

### OAuth 2 for OCI (Gen 2)環境での認証をどのように設定しますか。

EPM 自動化の場合、OAuth 2.0 承認プロトコルを使用して、コマンドを実行するため、特にコマンドの実行を自動化するために OCI (GEN 2) Oracle Enterprise Performance Management Cloud 環境にアクセスできます。*Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作*で OCI での OAuth 2.0 承認プロトコルの使用を参照してください。

REST API の場合、Oracle Cloud Infrastructure (OCI) Gen 2 アーキテクチャ上の EPM Cloud 環境では、環境でのパスワードの使用を回避するという要件を満たすために、EPM Cloud で OAuth 2 アクセス・トークンを使用して REST API を発行できます。*Enterprise Performance Management Cloud の REST API の OAuth 2*での認証 - OCI のみを参照してください

### REST API または EPM 自動化を使用した、グループの作成または除去方法、およびそれらに対するユーザーの追加または除去方法

- グループを追加するには、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作*の `createGroups` または *Enterprise Performance Management Cloud の REST API* のグループの追加を参照してください。
- グループを削除するには、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作*の `deleteGroups` または *Enterprise Performance Management Cloud の REST API* のグループの削除を参照してください。
- ユーザーをグループに追加するには、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作*の `addUsersToGroup` または *Enterprise Performance Management Cloud の REST API* のグループへのユーザーの追加を参照してください。
- ユーザーをグループから削除するには、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作*の `removeUsersFromGroup` または *Enterprise Performance Management Cloud の REST API* のグループからのユーザーの削除を参照してください。

### Oracle社によって本番およびテストのバックアップが保持される期間、および自分の環境へのバックアップ・スナップショットのコピー方法

OCI (Gen 2)環境の場合、Oracle社によって本番環境のスナップショットが 60 日間保持され、テスト環境のスナップショットは 30 日間保持されます。`listBackups` および `restoreBackup EPM` 自動化コマンドを使用して、使用可能なバックアップ・スナップショットをチェックし、自分の環境にコピーします。バックアップのリストおよびバックアップの復元 REST API を使用することもできます。

クラシック環境の場合、(本番およびテスト環境の)過去 3 日間の日次スナップショットと、(本番環境のみの)過去 60 日間の週次バックアップ・スナップショットがOracle社によってアーカイブされます。Oracle社に、過去 3 日間のテスト・バックアップおよび過去 60 日間の本番バックアップをコピーするようリクエストできます。

*Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者のためのスタート・ガイド* の日次スナップショットのアーカイブ、保持および取得を参照してください



## アプリケーションの操作


ユーザー・アプリケーションを除くすべてのアプリケーション・タイプで、Oracle Enterprise Data Management Cloud アプリケーションを使用して、外部アプリケーションのエンタープライズ・データを管理します。データに対するすべての操作に、アプリケーションのビューポイントと関連するデータ・オブジェクトが関与します。

様々なアプリケーション・タイプがあります。[アプリケーション・タイプの理解](#)を参照してくださいこのトピックで説明されているアプリケーションの原則および機能のすべてが、ユーザー・アプリケーションに適用されるわけではありません。詳細は、[ユーザー・アプリケーションの操作](#)を参照してください。

### ノート:

- 外部アプリケーションとは、操作するエンタープライズ・データを含むシステムまたはアプリケーションです。たとえば、Planning は外部アプリケーションです。
- エンタープライズ・データを含む任意のデータ・ソースを外部アプリケーションに指定できます。たとえば、データベース表、スプレッドシート、テキスト・ファイルを外部アプリケーションとして使用できます。

### ビデオ

目的	参照するビデオ
アプリケーションの操作について学習します。	 <a href="#">概要: Enterprise Data Management Cloud でのアプリケーションの理解</a>

次に、アプリケーションの主な機能をリストします。

- データが外部アプリケーションの要件に準拠していることを確認します。たとえば、アプリケーションは使用できるプロパティおよびそれらが必須かどうかを指定します。
- 要件に従ってユーザーにデータを表示します。たとえば、ディメンションのノードのサブセットを異なるユーザーが使用できるようにアプリケーションを構成できます。
- カンマ区切りファイルを使用して、外部アプリケーションからエンタープライズ・データをインポートします。接続を使用して、外部アプリケーションから Planning エンタープライズ・データをインポートすることもできます。
- カンマ区切りファイルを使用して、外部アプリケーションにエンタープライズ・データをエクスポートします。接続を使用して、Planning エンタープライズ・データを外部アプリケーションの受信ボックスにエクスポートすることもできます。

 ノート:

すべてのアプリケーション・タイプで、カンマ区切りファイルのインポートとエクスポートがサポートされます。

**Planning** アプリケーションの場合は、登録時に外部アプリケーションに対する有効な接続情報を入力すると、接続を使用して外部アプリケーションの受信ボックスからインポートおよびエクスポートできます。その後、そのファイルを **Planning** アプリケーションにインポートできます。

**Oracle Financials Cloud** 一般会計アプリケーションの場合は、登録時に外部アプリケーションに対する有効な接続情報を入力すると、接続を使用して外部アプリケーション・サーバーにエクスポートできます。後でそのファイルを **Oracle Financials Cloud** 一般会計アプリケーションにインポートできます。

様々なアプリケーション・タイプのアプリケーションを登録できます。たとえば、**Planning** 用のアプリケーション・タイプがあります([アプリケーション・タイプの理解](#)を参照)。

アプリケーションの登録時には、登録プロセスで設定、ディメンション、プロパティが構成され、データの操作に使用されるデータ・オブジェクトが作成されます([アプリケーションの登録の理解](#)を参照)。

アプリケーションの登録後は、次の表にリストされているタスクを実行できます。

**表 17-1 アプリケーション・タスク**

タスク	詳細情報
登録済アプリケーションの設定を変更します。たとえば、アプリケーションにディメンションを追加できます。	<a href="#">アプリケーションの変更の理解</a>
外部アプリケーションからデータをインポートします。	<a href="#">ディメンションのインポート</a>
外部アプリケーションにデータをエクスポートします。	<a href="#">ディメンションのエクスポート</a>
アプリケーションの設定を確認します。たとえば、ディメンションの設定を調べることができます。	<a href="#">アプリケーションの検査</a>

 ノート:

複数の外部アプリケーションのエンタープライズ・データを操作する場合は、外部アプリケーションごとに **Oracle Enterprise Data Management Cloud** アプリケーションを登録します([アプリケーションおよびデータ共有の理解](#)を参照)。

## アプリケーション・タイプの理解

Oracle Enterprise Data Management Cloud では、一般的に使用される外部アプリケーションに対応したアプリケーション・タイプを提供しています。これらのアプリケーション・タイプによって、外部アプリケーションとの整合性が確保され、構成も最小限で済みます。たとえば、Planning アプリケーション・タイプでは、ディメンションで要求されるプロパティが自動的に定義されます。

Oracle Enterprise Data Management Cloud では、任意の方法で定義および構成できる汎用アプリケーション・タイプと、他のアプリケーションのノードへの関連付けが可能な一連のユーザーの管理に使用できるユーザー・アプリケーションも提供されます。

使用可能なアプリケーション・タイプを次の表に示します。


アプリケーション・タイプ	詳細情報
Planning アプリケーション	Planning およびフリーフォーム・アプリケーションの操作
Planning モジュール・アプリケーション	Planning およびフリーフォーム・アプリケーションの操作
Financial Consolidation and Close アプリケーション	Financial Consolidation and Close アプリケーションの操作
Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーション	Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションの操作
Oracle Financials Cloud Oracle General Ledger アプリケーション	Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションの操作
Oracle E-Business Suite 一般会計アプリケーション	E-Business Suite 一般会計アプリケーションの操作
汎用アプリケーション	汎用アプリケーションの操作
ユーザー	ユーザー・アプリケーションの操作

## アプリケーションの登録の理解

アプリケーションの登録によって、アプリケーションのディメンションとディメンションのプロパティが定義されます。

アプリケーション登録では、アプリケーション・タイプに必要な他の設定も構成します。たとえば、Planning アプリケーションを登録する場合は、アプリケーションのキューブを指定します。

## ビデオ

目的	参照するビデオ
アプリケーションの操作について学習します。	 <a href="#">概要: Enterprise Data Management Cloud でのアプリケーションの理解</a>

段階的な手順は、次を参照してください。

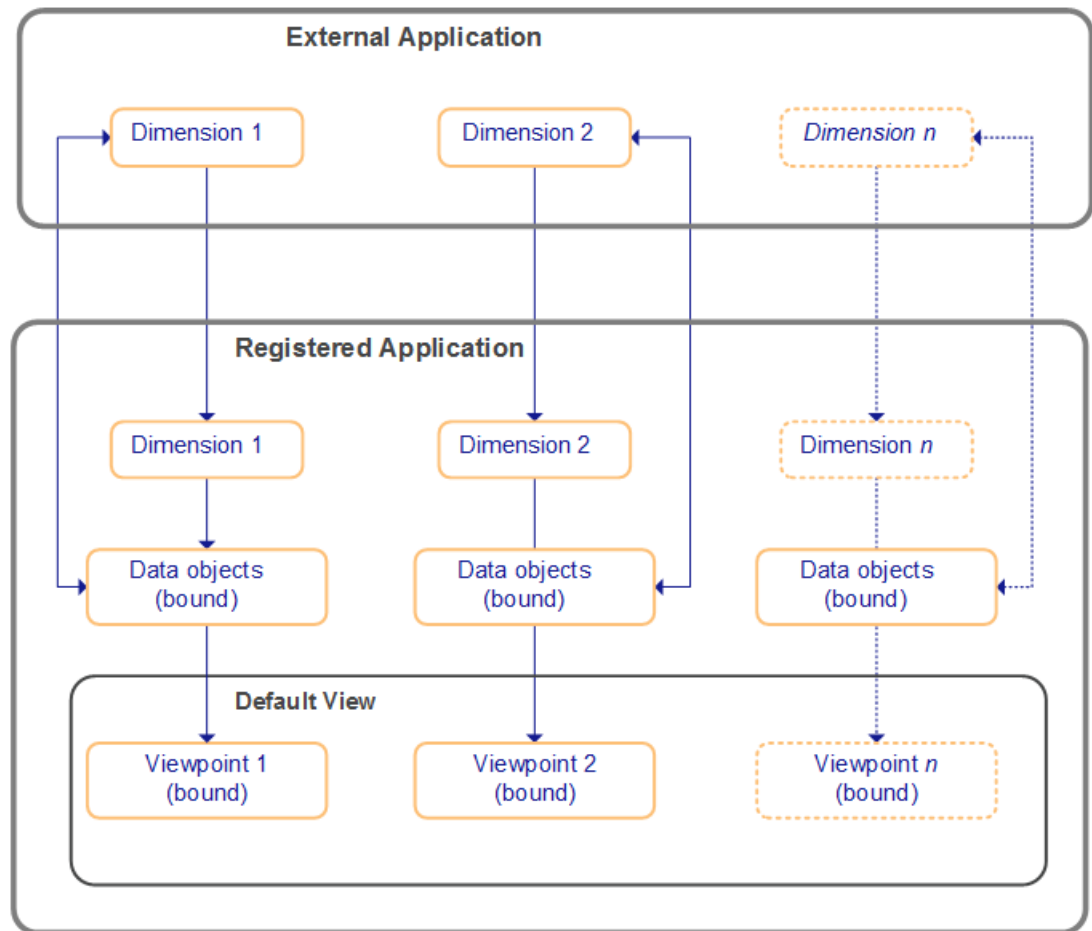
- [Planning](#) およびフリーフォーム・アプリケーションの登録
- [Financial Consolidation and Close](#) アプリケーションの登録
- [Enterprise Profitability and Cost Management](#) アプリケーションの登録
- [Oracle Financials Cloud](#) 一般会計アプリケーションの登録
- [E-Business Suite](#) 一般会計アプリケーションの登録
- [汎用アプリケーションの登録](#)
- [ユーザー・アプリケーションの登録](#)

登録プロセスでは、次のアイテムが作成されます。

- アプリケーションのデフォルト・ビュー
- 登録された各ディメンションのビューポイントおよび関連データ・オブジェクト

登録プロセスで作成されたビューポイントとデータ・オブジェクトは、ディメンションにバインドされます。データをインポートすると、そのデータはディメンションにバインドされたビューポイントに含まれます。エクスポートする場合、バインドされたビューポイントのデータがエクスポートされます。[バインディングおよびバインドされたデータ・オブジェクトの理解](#)を参照してください。

次の図は、外部アプリケーションのディメンションまたはセグメントと **Oracle Enterprise Data Management Cloud** ディメンションとの関係を示しています。



外部アプリケーションの各ディメンションは、登録済アプリケーションのディメンションにバインドされています。

 ノート:

未バインド・データ・オブジェクトを作成できます。

### 権限およびアプリケーションの登録

アプリケーションを登録するには、「アプリケーション - 作成」ロールが割り当てられている必要があります。アプリケーションの登録時には、登録プロセスで次の権限が割り当てられます。

- アプリケーションのデフォルト・ビューに対する *所有者* 権限
- アプリケーションに対する *所有者* 権限

詳細は、次を参照してください:

- [ディメンションの理解](#)
- [アプリケーションの変更の理解](#)

## アプリケーションの変更の理解

登録されたアプリケーションのディメンションおよびその他の設定を変更できます。行うことができる変更は、アプリケーション・タイプによって異なります。

ディメンションまたはアプリケーション設定を追加、除去または更新できます。たとえば、**Planning** アプリケーションでは、キューブを追加または除去できます。特定のアプリケーションを変更するには、次を参照してください。

- [登録された Planning およびフリーフォーム・アプリケーションの変更](#)
- [登録された Financial Consolidation and Close アプリケーションの変更](#)
- [登録済の Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションの変更](#)
- [登録済の Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションの変更](#)
- [登録済の E-Business Suite 一般会計アプリケーションの変更](#)
- [汎用アプリケーションの変更](#)

### ノート:

ユーザー・アプリケーションでは登録ウィザードが使用されないため、アプリケーションを検査してディメンションおよびアプリケーションの設定を変更します。

登録されたアプリケーションからディメンションまたはプロパティを除去すると、除去されたアイテムのデータはエクスポートまたはインポートに含まれなくなります。次の表に、考慮事項を示します。

除去されたアイテム	説明
ディメンション	ディメンションのバインド済ビューポイントおよびデータ・オブジェクトは未バインドです。ディメンションとそのデータ・チェーン・オブジェクトは保持されます。ディメンションのステータスは「アーカイブ済」に設定されます。
汎用アプリケーションのプロパティ	プロパティはノード・タイプから除去されません。

### ヒント:

除去されたディメンションまたはプロパティのデータをダウンロードする必要がある場合は、ディメンションのビューポイントをダウンロードします([ビューポイントのダウンロード](#)を参照)。

登録済アプリケーションからディメンションを除去すると、そのディメンションのステータスは「アーカイブ済」に設定されます。アーカイブ済ディメンションと同じ名前でアプリケーション登録にディメンションを追加した場合、そのディメンションはアンアーカイブされて「アクティブ」に設定されます。


 **ノート:**

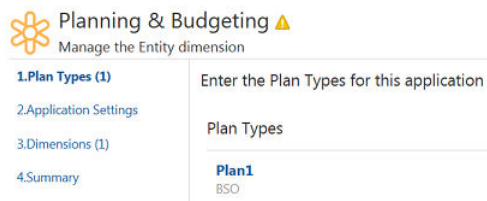
バインドされていないディメンションと同じ名前のディメンションは、そのディメンションがアーカイブされている場合でも、アプリケーション登録に追加できません。

ディメンション・インスペクタからディメンションをアーカイブおよびアンアーカイブすることもできます。[ディメンションのアーカイブおよびアーカイブ解除](#)を参照してください。

### アプリケーションの変更

アプリケーションを変更するには、次のステップを実行します。

1. 「**アプリケーション**」をクリックします。
2. アプリケーションの「**アクション**」列で  をクリックしてから、「**検査**」を選択します。変更できるアイテムは、アプリケーション・タイプによって異なります。次の例は、**Planning** アプリケーションではキューブ、アプリケーション設定およびディメンションを変更できることを示しています。



## アプリケーションおよびデータ共有の理解

通常は、Oracle Enterprise Data Management Cloud を使用して、複数の外部アプリケーションのエンタープライズ・データを管理します。たとえば、組織が Oracle Enterprise Data Management Cloud を使用して、一般会計、連結および Planning 外部アプリケーションで使われるエンティティ・ノードを管理します。

### ビデオ

目的	参照するビデオ
アプリケーション間でのデータの共有について学習します。	 <a href="#">アプリケーション間のデータの共有</a>

アプリケーションを構築するために、ユーザーは次のステップを使用して外部アプリケーションのデータを管理できます。

1. 外部アプリケーションごとに、Oracle Enterprise Data Management Cloud アプリケーションを登録します。
2. 新規ビューを作成します。

- ビューで、共有するデータを含むアプリケーション・ディメンションごとに 1 つのビューポイントを作成します。各ビューポイントは、アプリケーションのエンティティ・ディメンションにバインドされたノード・セットを使用する必要があります。

ユーザーは、ビューポイントを使用してエンタープライズ・データを管理します。たとえば、ユーザーは 2 つのアプリケーションのビューポイントを比較し、ビューポイント間でノードをコピーできます。変更を外部アプリケーションにエクスポートできます。

#### ノート:

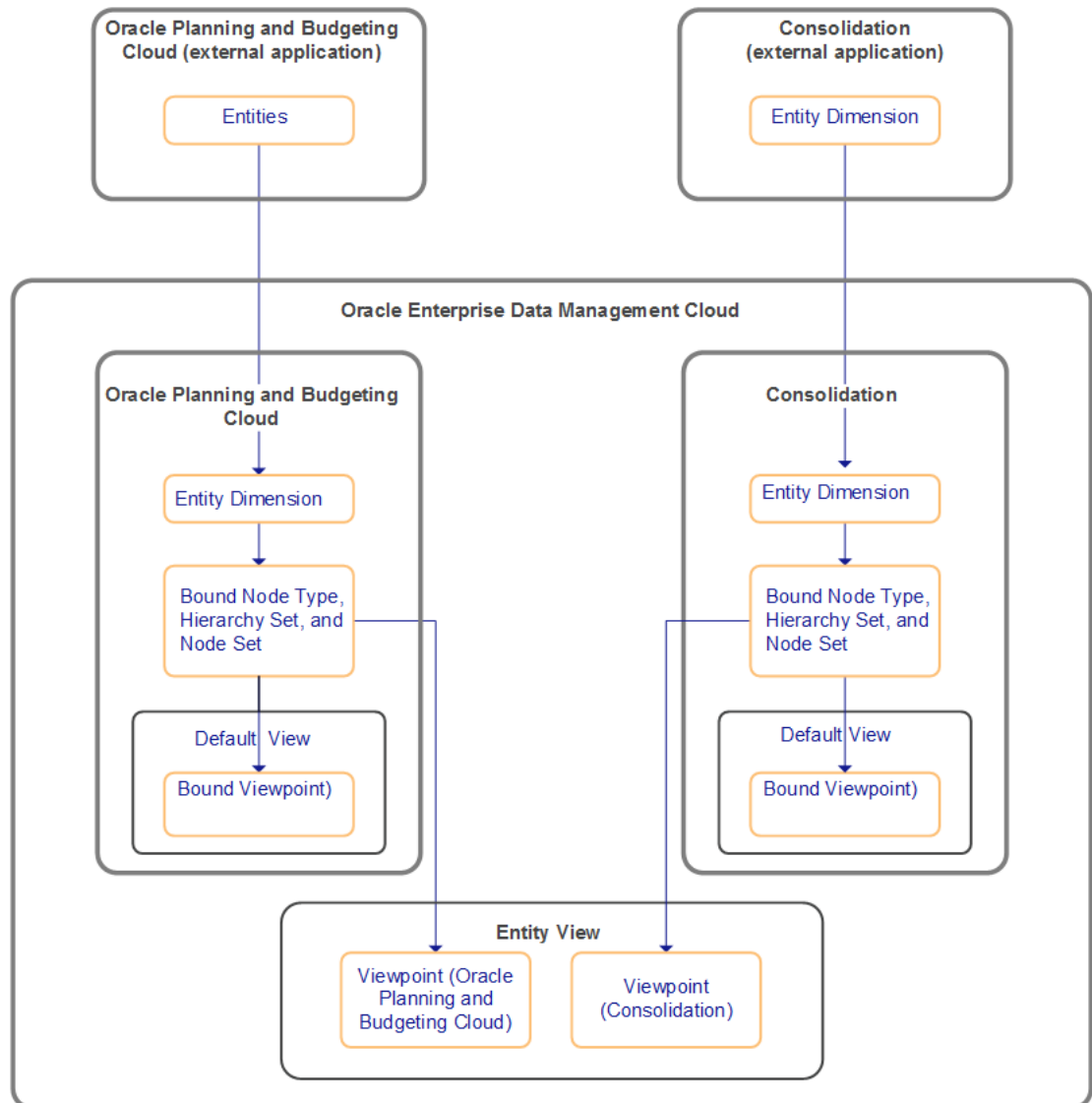
異なるノード・タイプを使用するビューポイント間で共通ノードをドラッグ・アンド・ドロップ、比較および特定するには、ノード・タイプ・コンバータが必要です。[ノード・タイプ・コンバータの操作](#)を参照してください。

### データを共有する 2 つのアプリケーション

連結と Planning 外部アプリケーションに含まれるエンティティ・ディメンションのノードを合理化する必要があるとします。2 つの外部アプリケーションを登録し、それぞれのエンティティ・ディメンションを定義します。登録プロセスでは、デフォルト・ビュー、バインドされたビューポイントおよびバインドされた関連データ・オブジェクトが作成されます。

次の図に示すように、アプリケーション間での共有を有効にするには、2 つのビューポイントを持つビューを作成します。この例では、新しいビューの名前は「**エンティティ・ビュー**」です。各ビューポイントは、そのエンティティ・ディメンションのバインドされたノード・セットを使用します。





ユーザーは、「エンティティ・ビュー」を使用して、ディメンションのデータを管理します。たとえば、ユーザーはビューポイント間でノードをコピーできます。「エンティティ・ビュー」のビューポイントはバインドされたノード・セットを使用するため、新しいビューポイントで行われた変更は、バインドされたビューポイントに反映され、エクスポートできます。

例については、[エンタープライズ・データのアプリケーション間での比較](#)を参照してください。

## ブロックアウト期間の理解

アプリケーションまたはディメンションにブロックアウト期間を設定することで、所有者またはメタデータ・マネージャは、ブロックアウト期間が終了するまで要求、インポートおよびビューポイント・ロードが保持され、アクティブなビューに適用されない日付範囲を設定できます。

たとえば、財務クローズ、システム照合またはデータ移行中はデータの変更を防止する場合があります。

ブロックアウト期間中でも要求の作成および送信は可能で、要求は引き続き承認およびコミットのポリシー・ワークフローに従います。ただし、すべての承認ポリシーおよびコミット・ポリシーが履行された後、要求は、ブロックアウト期間が終了するまでブロックされた状態になります。ブロックアウト期間が終了すると(ブロックアウト期間が終了日に達したため、または所有者がブロックアウト期間を手動で無効にしたため)、ブロックされたすべての要求が検証され、問題がない場合は完了してクローズし、検証の問題がある場合はワークフローに戻ります。

### 考慮事項

- アプリケーションおよびディメンションのブロックアウト期間を構成できます。デフォルトでは、ディメンション・ブロックアウト設定はアプリケーション・ブロックアウト設定と同じですが、アプリケーション設定をディメンション・ブロックアウト設定でオーバーライドできます。[アプリケーションおよびディメンションのブロックアウト設定](#)を参照してください。
- アプリケーション・インスペクタまたはディメンション・インスペクタからブロックアウト期間を構成します。指定した期間のみまたは繰返し期間のブロックアウトを設定できます。繰返し期間の場合は、グレゴリオ暦期間または会計期間の期間に基づくことができます。[ブロックアウト期間の構成](#)を参照してください。
- デフォルトの場合、ブロックアウトは、完全または部分的にバインドされたデータ・チェーン・オブジェクトの要求アイテムに適用されます。バインドされていないデータ・チェーン・オブジェクトにも適用するように、ブロックアウト期間を構成できます。
- アプリケーションまたはディメンションに対して所有者またはデータ・マネージャ権限のあるユーザーによって送信された要求には、ブロックアウト期間を適用せずに正常に完了するように指定できます。
- 異なるアプリケーションまたはディメンションからの要求アイテムが含まれている要求では、要求のいずれかのアプリケーションまたはディメンションが現在ブロックアウト期間にある場合、要求全体がブロックされます。すべての要求アイテムのすべての変更は、関連するすべてのアプリケーションまたはディメンションのブロックアウト期間が終了した後に適用されます。

### ブロックアウト期間がアクティブな間:

- ワークフロー・アクション(撤回、承認の取下げ、プッシュバックなど)はブロックされている要求には実行できません。ただし、要求にはコメントや添付を引き続き追加できます。
- ブロックされたディメンションに対してインポートまたはビューポイント・ロードを実行できません(影響するブロックアウト(アプリケーションまたはディメンション)の「**例外の許可**」設定で許可されている場合は除く)。
- ブロックされたアプリケーションのディメンションには別のビューポイントをバインドできません。

### ブロックアウト期間が終了した場合:

- 要求が検証されます。エラーがない場合、要求は完了します。同じアプリケーションのブロックされている複数の要求は、ワークフローが終了して「ブロック済」ステータスになった順序で完了します。
- 検証エラーがある場合、要求ステータスは「ブロック済」からブロックアウト前のステージ(「ドラフト」または「処理中」)に変更され、送信者に通知されます。

 **Note:**

ブロックアウト期間が終了すると(ブロックアウト期間が終了日に達したため、または所有者がブロックアウト期間を手動で無効にしたため)、ブロックアウト・ステータスが更新され、ブロックされたすべての要求が処理されるのに最大で 5 分かかる場合があります。

## ブロックアウト期間の構成

アプリケーションまたはディメンション・インスペクタからブロックアウト 期間を構成します。

1. ブロックアウト期間を構成するアプリケーションまたはディメンションを検査します。  
[アプリケーションの検査](#)を参照してください。
2. 「全般」タブで「**編集**」をクリックします。
3. 次のいずれかのアクションを実行します。
  - アプリケーションの場合: 「**ブロックアウトの有効化**」をクリックします。
  - ディメンションの場合: オプションを選択します:
    - **アプリケーションと同じ**: ディメンションはアプリケーションのブロックアウトと同じ設定を使用します。
    - **有効**: ディメンションは、指定された設定でアプリケーションのブロックアウト設定をオーバーライドします。
    - **使用不可**: ディメンションは、アプリケーションのブロックアウト設定をオーバーライドして、このディメンションのブロックアウトを使用不可にします。
4. ブロックアウト・タイプを選択します:
  - **指定済**: 指定された期間にのみブロックアウト設定を適用します。
  - **繰返し**: 指定した期間に基づいて、反復的にブロックアウト設定を適用します。
5. ブロックアウト・タイプに基づいて、ブロックアウトの期間を選択します:
  - **指定済**: 指定されたブロックアウト期間のタイム・ゾーンを選択してから、ブロックアウト期間の開始日時と終了日時を選択します。日時ピッカーを使用するか、エントリを手動で編集できます。
  - **繰返し**: 次を選択します:
    - **期間**: ドロップダウン・メニューから繰返し期間を選択します。グレゴリオ暦の期間(「**四半期末**」など)または会計期間(「**会計年度末**」など)を選択できます。

 **Tip:**

会計年度はシステム設定で構成できます。[カレンダー設定](#)を参照してください。

- **時刻**: 繰返しブロックアウトが開始する時刻を入力します。
- **タイム・ゾーン**: 「時刻」設定のタイム・ゾーンを選択します。

 **Note:**

開始日と終了日の両方に同じ「時刻」および「タイム・ゾーン」設定が使用されます。繰返しブロックアウトの開始と終了に異なる時刻を選択することはできません。

- **開始:** ブロックアウトが開始する期間日付からの日数を入力します。ブロックアウトを期間日付よりも前に開始するには負の数を、期間日付よりも後に開始するには正の数を入力します。たとえば、「期間」が「会計四半期末」である場合に **-5** を入力すると、繰返しブロックアウトは各会計四半期が終了する **5 日前** に発生します。
  - **終了:** ブロックアウトが終了する期間日付からの日数を入力します。ブロックアウトを期間日付よりも前に終了するには負の数を、期間日付よりも後に終了するには正の数を入力します。たとえば、「期間」が「月末」である場合に **1** を入力すると、繰返しブロックアウトは各月末の次の日に終了します。
6. **オプション: 「例外の許可」** で、ドロップダウンをクリックして、所有者またはデータ・マネージャがブロックアウト期間の影響を受けない要求を送信できることを指定します。

 **Note:**

設定の変更は、すでに「ブロック済」ステータスになっている要求には影響しません。これを「データ・マネージャ」に設定すると、アプリケーション所有者も含まれます。 [包含および追加権限](#) を参照してください。

7. **オプション:** ブロックアウト期間に完全にバインドされていないビューポイントにデータ・オブジェクトの要求アイテムを含めるには、「**未バインド・オブジェクトのブロック**」を選択します。

 **Note:**

バインド済または一部バインド済のビューポイントのデータ・オブジェクトは、常にブロックアウト期間に含まれます。

8. 「**保存**」をクリックします。

### アプリケーションおよびディメンションのブロックアウト設定

ブロックアウト期間をアプリケーション・レベルとディメンション・レベルの両方で構成した場合、通常、次のように、ディメンションのブロックアウト設定がアプリケーション設定をオーバーライドします:

- 「**有効**」と「**使用不可**」:
  - ブロックアウトがアプリケーション・レベルでは有効だがディメンション・レベルでは使用不可の場合、そのディメンションからの要求アイテムは処理されません。

- ブロックアウトがアプリケーション・レベルでは使用不可だがディメンション・レベルでは有効な場合、そのディメンションからの要求アイテムはブロックされますが、他のディメンションからの要求アイテムは処理されます。

 **Note:**

異なるアプリケーションまたはディメンションからの要求アイテムが含まれている要求では、要求のいずれかのアプリケーションまたはディメンションが現在ブロックアウト期間にある場合、要求全体がブロックされます。

- **未バインド・オブジェクトのブロック:** 未バインド・オブジェクトのディメンションとアプリケーションの両方がブロックアウト中である場合、ディメンションの「未バインド・オブジェクトのブロック」設定が使用されます。
- **例外の許可:** アプリケーションとディメンションの両方がブロックアウト中である場合、ディメンションの「例外の許可」設定が使用されます。複数のアプリケーションまたはディメンションがブロックアウト中である場合、最も厳しい「例外の許可」の設定が使用されます。
- **終了日:** ディメンションとそのアプリケーションの両方がブロックアウト中である場合、ディメンションのブロックアウトの「終了日」が使用されます。異なるブロックアウト終了日を持つ複数のビューポイントが単一の要求にある場合、終了日はこの先の最も遅くて有効な「終了日」になります。

## アプリケーションのワークフローの無効化

アプリケーション・レベルでワークフローを無効化して、そのアプリケーションで実行された要求が要求の送信時にすべてのアクティブ・ポリシーを省略するようにできます。

このことは、ワークフロー・プロセスを通さないでテスト環境でデータを変更する必要がある場合などに役立つことがあります。

### 考慮事項


- アプリケーションについてワークフローを無効にしても、そのアプリケーションの個々のポリシーは無効になりません。ワークフローを再開すると、すべての有効なポリシーが再び適用されます。個々のポリシーを無効にするには、[ポリシーの変更](#)を参照してください。
- 「ワークフローの無効化」設定は、すでに送信された既存の要求には影響しません。新しく送信される要求でのみ、アクティブなポリシーが省略されます。
- テンプレートを使用してアプリケーションを転送するときに、この設定は転送されません。つまり、1つの環境でアプリケーションについてワークフローを無効にし、そのアプリケーションを別の環境に転送した場合、2つ目の環境ではそのアプリケーションについてワークフローは無効になりません。

### アプリケーションについてワークフローを無効にするには:

1. アプリケーションを検査します。[アプリケーションの検査](#)を参照してください。
2. 「全般」タブで、「ワークフローの無効化」を選択して、アプリケーションで行われた要求ですべてのアクティブなワークフロー・ポリシーが省略されるようにします。
3. オプションで、「送信者」パラメータを使用して、省略されるワークフローを、選択したユーザーによって送信された要求のみに制限します。

# アプリケーションの検査


アプリケーションの登録後、アプリケーションを検査して設定を編集できます。

「**アプリケーション**」でアプリケーションをスクロールし、をクリックし、次に「**検査**」をクリックして、次のタブからオプションを選択します。

- **全般:** 次に示す全般的なアプリケーション情報を確認するか、「**編集**」をクリックして変更します:

- **サマリー:**


- \* 名前
- \* 説明
- \* ステータス: 「**ドラフト**」、「**アクティブ**」または「**アーカイブ済**」。アプリケーションのアーカイブ、アーカイブ解除および削除を参照してください。

 **ノート:**

アプリケーションのステータスが「ドラフト」の場合は、インスペクタのステータスを変更できません。アプリケーションの登録後、ステータスは「ドラフト」から「アクティブ」に変わります。

- \* アプリケーション・タイプ(変更できません)
- \* デフォルト・ビュー(変更できません)
- **ブロックアウト期間:** アプリケーションのブロックアウト期間を有効または無効にします。 [ブロックアウト期間の構成](#)を参照してください
- **外部システム・タイプ**(「汎用」アプリケーション・タイプのみ): ドロップダウン・メニューをクリックして、汎用アプリケーションの外部システムのタイプを選択します。
- **要求:** アプリケーションで行われた要求ですべてのアクティブなワークフロー・ポリシーが省略されるようにするには、「**ワークフローの無効化**」を選択します。 [アプリケーションのワークフローの無効化](#)を参照してください。
- **履歴:** アプリケーションが作成されたときと最後に変更されたときのユーザー名および日付情報を表示します。
- **ディメンション:** ディメンションをクリックして、バインディングまたはマッピング・キーを変更します。 [ディメンションの検査](#)を参照してください。

 ノート:

デフォルトでは、アーカイブ済ディメンションは表示されません。アーカイブ済ディメンションを表示するには、 をクリックし、「**アーカイブ済の表示**」を選択します。このオプションを再度選択すると、アクティブなディメンションのみが表示されます。


- **抽出パッケージ:** アプリケーションの抽出パッケージを作成および編集します。[抽出パッケージの操作](#)を参照してください。
- **接続:** 外部アプリケーション接続設定を編集します。変更を加えた場合もそうでない場合も、接続をテストして正しく構成されているかどうか確認できます。(汎用またはユーザー・アプリケーションには使用できません)

 ノート:

「**接続**」タブを使用できるのは、アプリケーション・タイプで接続がサポートされ、ユーザーがアプリケーションの少なくとも「**データ・マネージャ**」または「**メタデータ・マネージャ**」権限を持っている場合のみです。

- **登録:** 登録設定を表示します。(ユーザー・アプリケーションには使用できません)

 ノート:

登録設定を編集するには、「**アプリケーション**」でお使いのアプリケーションまでスクロールして、 をクリックしてから「**変更**」をクリックします。

- **権限:** アプリケーションのセキュリティ権限を変更します。[アプリケーション権限の割当て](#)を参照してください。
- **ポリシー:** アプリケーションの承認ポリシーを構成します。[ポリシーの構成](#)を参照してください。

## アプリケーション権限の割当て

他のグループまたはユーザーに対する権限の割当てまたは除去を行うには、特定のアプリケーションに関しては**所有者**または**メタデータ・マネージャ**権限が必要です。アプリケーション権限は一度に**1**つのアプリケーションに割り当てられます。自身のアプリケーション権限を不注意で除去した場合は、**所有者**または**メタデータ・マネージャ**権限を持つユーザーまたはサービス管理者に連絡し、権限の再割当てを依頼します。

 ノート:

アプリケーションを登録すると、そのアプリケーションに対する**所有者**権限が付与されます。

アプリケーション権限を割り当てるには:



1. 「**アプリケーション**」で、アプリケーションを開きます。
2. 「**権限**」を選択し、「**編集**」をクリックします。
3. ユーザーまたはグループを選択します。
4. 割り当てる権限を選択し、「**保存**」をクリックしてから「**閉じる**」をクリックします。

[権限の操作](#)を参照してください。

## アプリケーションの検索

「アプリケーション」リストで検索を実行すると、アプリケーション名と説明のテキストが検索されます。検索テキストを含む名前と説明が結果ウィンドウに太字のフォントで表示されます。アーカイブされたアプリケーションを検索に含めることもできます。

アプリケーション・リスト内を検索するには:

1. 「**アプリケーション**」から、をクリックします。
2. (オプション)アーカイブ済のアプリケーションを検索に含める場合は、をクリックし、「**アーカイブ済の表示**」を選択します。
3. 検索するテキスト文字列を入力します。入力を終了すると検索が自動的に実行されます。

検索を終了するには、をクリックします。

## アプリケーションのコピー

アプリケーションをコピーして、元と同じタイプの同じ構成の新しいアプリケーションを作成できます。

アプリケーションをコピーすると、元のアプリケーション内のディメンション、データ・チェーン、検証、ポリシーおよびサブスクリプションを含むすべてのメタデータが新しいアプリケーションにコピーされます。

### Note:

アプリケーション・データはコピーされません。エクスポートおよびインポート・プロセスを使用して、バインド済データおよびプロパティを新しいアプリケーションに転送し、抽出およびロード・プロセスを使用して、非バインドまたは一部バインド済データおよびプロパティを転送します。


### 考慮事項

- アプリケーションをコピーするには、「**アプリケーション - 作成**」アプリケーション・ロールが必要です。[ロールと権限の操作](#)を参照してください。
- アプリケーション・ビュー:



- 新しいアプリケーションに、新しいデフォルト・アプリケーション・ビューが作成されます。
- 他のビューについては、コピーされるアプリケーションのビューに対して「所有者」権限がある場合、次のようにビューおよびそのビューポイントが新しいアプリケーションにコピーされます:
  - \* ビューのすべてのビューポイントがコピーされるアプリケーションに属している場合、そのビューおよびすべてのビューポイントのコピーが作成されます。
  - \* ビューのすべてではなく一部のビューポイントがコピーされるアプリケーションに属している場合(たとえば、メンテナンス・ビュー)、コピーされるアプリケーションのそのビューポイントがコピーされ、既存のビューに追加されます。
- 次のオブジェクトは新しいアプリケーションにコピーされません:
  - 接続ログインの詳細
  - 時間ラベルおよび時間ラベル付きビューポイント
  - 比較プロファイル
  - グローバル接続に対するアプリケーション固有の権限
- アクティブおよびアーカイブ済の両方のメタデータ・オブジェクトがコピーされます。

#### アプリケーションをコピーするには:

1. アプリケーション・リストから、「アクション」をクリックし、「コピー」を選択します。
2. 「アプリケーションのコピー」ダイアログ・ボックスで、新しいアプリケーションの名前および(オプションで)説明を入力します。新しい名前は一意にする必要があります。
3. オプション: 「重複する接尾辞」に、新しいアプリケーションのオブジェクト(ビューポイントなど)の作成時に一意のラベルを作成するために使用する接尾辞を入力します。接尾辞を入力しない場合、増分数値の接尾辞が使用されます。
4. 確認のダイアログ・ボックスで、「はい」をクリックします。

## アプリケーションのアーカイブ、アーカイブ解除および削除

不要になった場合は、アクティブなアプリケーションをアーカイブできます。たとえば、四半期や年度などの期間の終了時にアプリケーションのアーカイブが必要になる場合があります。また、アーカイブしたアプリケーションのステータスをアクティブに戻したり、アプリケーションを削除できます。

#### 考慮事項

- アプリケーションに対する所有者権限を持つユーザーは、ステータスを変更するか、または削除できます。
- アプリケーションをアーカイブすると、アプリケーションのすべてのディメンションおよびデータ・チェーン・オブジェクト(ノード・タイプ、階層セットおよびノード・セット)もアーカイブされます。デフォルト・ビューはアクティブなままです。
- アーカイブ済のアプリケーションのステータスをアクティブに戻すと、アプリケーションのすべてのディメンションおよびデータ・チェーン・オブジェクトが、アプリケーションをアーカイブする前のステータスにリストアされます。

- アプリケーションは、削除する前にアーカイブする必要があります。
- アプリケーションを削除すると、そのデータはデータ・チェーン・オブジェクトや要求を含め、すべて完全に削除されます。この操作を元に戻すことはできません。将来、リストアが必要になる場合に備えて、アプリケーションを削除する前に移行バックアップの作成が必要になる場合があります。[Oracle Enterprise Data Management Cloud のバックアップおよびリストア](#)を参照してください
- ユーザー・アプリケーションのノード・セットのいずれかが別のアプリケーションのノード・データ型プロパティで参照されている場合、そのユーザー・アプリケーションは削除できません。

詳細は、[データ・オブジェクトおよびデータ・チェーンの操作](#)を参照してください。


### アーカイブ

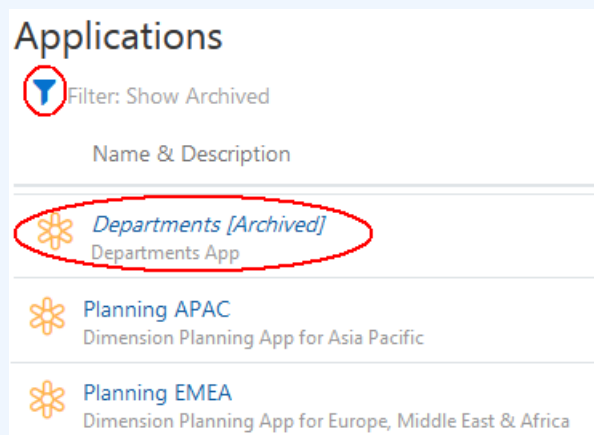
アプリケーションをアーカイブするには:

1. 「**アプリケーション**」で、アーカイブするアプリケーションを検査します。
2. 「**全般**」で、「**編集**」をクリックします。
3. 「**ステータス**」で「**アーカイブ済**」を選択し、「**保存**」をクリックします。

「アプリケーション」リストにアプリケーションが表示されなくなります。


#### ノート:

アーカイブ済アプリケーションを「アプリケーション」リストに表示するには、 をクリックします。



### アーカイブ解除



アーカイブしたアプリケーションのステータスをアクティブに戻すには:

1. 「**アプリケーション**」で、 をクリックしてアーカイブ済アプリケーションを表示します。
2. ステータスをアクティブに戻すアプリケーションを検査します。

3. 「全般」で、「編集」をクリックします。
4. 「ステータス」で「アクティブ」を選択し、「保存」をクリックします。  
「アプリケーション」リストにアプリケーションが表示されます。

### 削除

アーカイブしたアプリケーションを削除するには:

1. 「アプリケーション」で、 をクリックしてアーカイブ済アプリケーションを表示します。
2. アプリケーションの「アクション」列で、 をクリックし、「削除」を選択します。
3. 「はい」をクリックして削除を確認します。

アプリケーションは「アプリケーション」リストから除去されます。


## アプリケーション・インデックスのリフレッシュ

プロパティの「デフォルト・タイプ」または「継承」パラメータに次のいずれかの変更を加えると(プロパティ・パラメータの編集を参照)、そのプロパティを使用するアプリケーションのインデックスは、ビューポイントの間合せてインデックスが適切に使用されるためにリフレッシュが必要になる場合があります。

- 「デフォルト・タイプ」を「指定済」から「なし」に変更
- 「デフォルト・タイプ」を「派生」から「なし」に変更
- 「継承」を「位置的」から「なし」に変更

アプリケーションのインデックスをリフレッシュするには 2 つの方法があります:

- 毎週、自動的に実行する
- 手動でアプリケーションのインデックスのリフレッシュを実行する

アプリケーションのインデックスを手動でリフレッシュするには、「アプリケーション」からアプリケーションを検索し、 をクリックして、「インデックスのリフレッシュ」を選択します。アクティブなアプリケーションに対してのみ、インデックスを再作成できます。

### Note:

インデックスを再作成するには、サービス管理者であるか、アプリケーションの所有者またはメタデータ・マネージャ権限を保持している必要があります。

## ディメンションの理解

登録されたアプリケーションには、1 つ以上のディメンションが含まれます。登録されたディメンションは、外部アプリケーションのディメンション、セグメント値または他のデータ・ドメインを表します。

アプリケーションを登録するときに、ディメンションを追加します。アプリケーションが登録された後、ディメンションを追加したり、登録されたアプリケーションを変更することによってディメンションの設定を更新できます。

ディメンションはビューポイントにバインドされます。データをインポートする場合、データはバインドされたビューポイントに含まれます。エクスポートする場合、バインドされたビューポイントのデータがエクスポートされます。[バインディングおよびバインドされたデータ・オブジェクトの理解](#)を参照してください。

#### ノート:

- ディメンション内の一部の設定は、アプリケーション・タイプにのみ適用されます。たとえば、**Planning** アプリケーション・タイプでは、ディメンションに対して少なくとも 1 つのキューブを指定する必要があります。
- まだ外部アプリケーション内に存在していない登録されたアプリケーション内でディメンションを作成できます。これにより、新しいディメンションをモデル化できるようになります。

詳細は、次を参照してください:

- [アプリケーションの登録の理解](#)
- [データ・チェーンの理解](#)

## ディメンションの検査

- **全般:** ディメンションの名前、説明およびステータスを表示および編集します。ディメンションのブロックアウト期間を有効または無効にします。[ブロックアウト期間の構成](#)を参照してください。
- **バインド:** (バインドされたディメンションのみ)
  - マップ・バインドを追加するには、「**マップ・バインドの作成**」をクリックします。[マップ・バインドの作成](#)を参照してください。
  - バインドを変更するには、バインドをクリックして更新します。次を参照してください:
    - \* [Planning およびフリーフォーム・アプリケーションのディメンションへのビューポイントのバインド](#)
    - \* [ツリーまたはツリー・バージョンを作成するためのバインディングのコピー](#)
    - \* [汎用アプリケーションのユーザー定義ディメンションにバインドされたビューポイントの変更](#)
- **インポート/エクスポート:** (バインドされたディメンションのみ)。ディメンションのインポートおよびエクスポート・オプションを管理します。[インポート・オプションの管理](#)および[エクスポート・オプションの管理](#)を参照してください。
- **抽出:** ディメンションの抽出を管理します。[抽出の操作](#)を参照してください。

- **検証:** アプリケーション固有の検証の適用を管理します。[アプリケーション固有の検証の適用および重要度の管理](#)を参照してください。
- **権限:** ディメンションに対するユーザーおよびグループ権限を設定します。[権限の操作](#)を参照してください。
- **ポリシー:** ディメンションの承認ポリシーを構成します。[ポリシーの構成](#)を参照してください。

## 未バインド・ディメンションの操作

未バインド・ディメンションは、アプリケーション登録プロセスの外部で作成され、インポートまたはエクスポートされません。Oracle Enterprise Data Management Cloud では、未バインド・ディメンションを使用して、関連する値セット、勘定科目の組合せ、マルチディメンション・マッピングなど、複雑なデータ・セットを管理できます。

要求ロード・ファイルを使用してデータを未バインド・ディメンション・ビューポイントにロードし([ロード・ファイルを使用する変更](#)を参照)、抽出を使用してデータを抽出します([抽出の操作](#)を参照)。

### 考慮事項

- 未バインド・ディメンションを作成するには、サービス管理者であるか、アプリケーションの所有者またはメタデータ・マネージャ権限を保持している必要があります。
- 未バインド・ディメンションは、アプリケーション登録ウィザードまたはインポート画面やエクスポート画面に表示されません。未バインド・ディメンションの抽出を定義できません。
- 未バインド・ディメンションに、バインド済または一部バインド済のデータ・チェーンを含めることはできません。
- 未バインド・ディメンションはバインド済ディメンションに変換できません。
- アプリケーション内で、未バインド・ディメンションとバインド済ディメンションを同じ名前にできません。バインド済ディメンションを追加するようにアプリケーション登録を変更する場合、登録プロセス時にそのアプリケーションの未バインド・ディメンションの名前は使用できません。
- 「ドラフト」ステータスの汎用アプリケーションで未バインド・ディメンションを作成すると、アプリケーション・ステータスが「アクティブ」に変更されます。

### 未バインド・ディメンションを作成するには:

1. 未バインド・ディメンションを作成するアプリケーションを検査します。
2. 「ディメンション」タブで、「作成」をクリックします。
3. 「タイプ」で、「未バインド」を選択します。
4. ディメンションの名前、およびオプションで説明を入力し、「保存」をクリックします。

#### Note:

ディメンションは、アプリケーション内の他のバインド済ディメンション、未バインド・ディメンションまたは参照ディメンションと同じ名前にすることはできません。

ディメンションは、ディメンション・インスペクタに表示されます。

未バインド・ディメンションは作成後に、ビューポイントおよびその他のユーザー定義のデータ・チェーン・オブジェクトやプロパティを作成するときに、バインド済ディメンションと同様に使用できます。また、ディメンションの抽出を作成したり、権限、ポリシーおよびカスタム検証を追加することもできます。ただし、未バインド・ディメンションのバインディングを作成したり、それを使用してデータをインポートおよびエクスポートすることはできません。

## 参照ディメンションの操作

参照ディメンションを使用すると、外部システムから供給された参照データを Oracle Enterprise Data Management Cloud で管理されるデータに関連付けることができます。参照ディメンションのノードは、使用環境のレコード数には含まれません。

たとえば、既存のコスト・センター・ディメンションに関連付けるコスト・センター所有者のリストがあるとします。Oracle Enterprise Data Management Cloud でコスト・センター所有者の参照ディメンションを作成し、ノード・データ型プロパティを使用して、所有者をコスト・センター・ディメンションのコスト・センターに割り当てることができます。参照ディメンションとして、所有者のリストを構造(たとえば、事業部門や部門ごと)に維持できます。参照ディメンションのノードは、合計レコード数にはカウントされません。

### 考慮事項

- 参照ディメンションを作成するには、サービス管理者であるか、アプリケーションの所有者またはメタデータ・マネージャ権限を持っている必要があります。参照ディメンションは、任意のアプリケーション・タイプに追加できます。
- 参照ディメンションでは、追加や除去ができない事前定義済のプロパティ・セットを保持する参照ノード・タイプ・クラスが使用されます。プロパティの順序を変更したり、ノード・タイプ・インスペクタでプロパティが必須かどうかを設定できます。[ノード・タイプのプロパティの追加、除去および構成](#)を参照してください。参照ディメンションのノードでは、事前定義済の任意のプロパティを使用できます。[参照ノード・タイプの手前定義済プロパティ](#)を参照してください。
- 参照ディメンションには複数のバインドを追加できます。バインドにはノードまたは階層タイプを設定できます。[参照バインドの作成](#)を参照してください。
- 参照ディメンションは既存のビューで使用することも、参照ディメンションに使用するビューをディメンションの作成時に作成することもできます。
- 参照ディメンションからデータをインポート、エクスポートまたは抽出することはできません。参照ディメンション・ビューポイントにをファイルにダウンロードすることもできません。要求ロード・ファイル([ロード・ファイルを使用する変更](#)を参照)またはビューポイント・ロード([ビューポイント・ロードの操作](#)を参照)を使用して、データを参照ディメンション・ビューポイントにロードできます。
- 参照ディメンションは、アプリケーション登録ウィザードには表示されません。
- 「ドラフト」ステータスの汎用アプリケーションで参照ディメンションを作成すると、アプリケーション・ステータスが「アクティブ」に変更されます。

### 参照ディメンションを作成するには:

- 参照ディメンションを作成するアプリケーションを検査します。
- 「ディメンション」タブで、「作成」をクリックします。

3. 「タイプ」から、「参照」を選択します。
4. ディメンションの名前を入力し、必要に応じて説明を入力します。

 **Note:**

ディメンションは、アプリケーション内の他のバインド済ディメンション、未バインド・ディメンションまたは参照ディメンションと同じ名前にはできません。

5. **オプション:** 「ビュー」で、名前を入力して、参照ディメンション・ビューポイントに使用するビューを作成します。

 **Note:**

サービス管理者でない場合は、ビューを作成する「ビュー - 作成」ロールが必要です。

6. 「保存」をクリックします。  
ディメンションは、ディメンション・インスペクタに表示されます。

参照ディメンションを作成したら、必要に応じて関連データ・チェーン・オブジェクトを作成する参照バインドをそれに対して作成できます(参照バインドの作成を参照)。または、データ・チェーン・オブジェクトを手動で作成することもできます(未バインド・ディメンションの場合と同様)。その後、参照ディメンションの使用、要求によるデータの変更、ディメンションの抽出の作成、権限、ポリシーおよびカスタム検証の追加ができます。

 **Note:**


このディメンションからプロパティを追加または除去したり、このディメンションをデータのインポートおよびエクスポートに使用することはできません

## ディメンションのアーカイブおよびアーカイブ解除

不要になった場合は、ディメンションをアーカイブできます。たとえば、ディメンションにバインドされたビューポイントを変更するときに、履歴を確認する目的でオリジナルのディメンションのアーカイブが必要になる場合があります。アーカイブしたディメンションのステータスをアクティブに戻すこともできます。

### 考慮事項

- ディメンションのステータスを変更するには、サービス管理者であるか、アプリケーションまたはディメンションの所有者権限を保持している必要があります。
- ディメンションに「処理中」要求がある場合、そのディメンションをアーカイブできません。ディメンションをアーカイブするには、そのディメンションに対するすべての要求が完了している必要があります。
- ディメンションをアーカイブする場合:
  - ディメンション、バインドおよび関連付けられたデータ・チェーン・オブジェクトが「アーカイブ済」に設定されます。

- デフォルトで、ディメンションはアプリケーション・インスペクタの「ディメンション」タブにリストされていません。アーカイブ済ディメンションを表示するには、 をクリックし、「**アーカイブ済の表示**」を選択します。
- ディメンションはアプリケーション登録に表示されません。
- ディメンションは、アプリケーションの「インポート」、「エクスポート」または「抽出」画面に表示されません。
- アーカイブ済のディメンションのステータスをアクティブに戻すと、ディメンションのすべてのデータ・チェーン・オブジェクトおよびバインディングが、ディメンションをアーカイブする前のステータスにリストアされます。

詳細は、[データ・オブジェクトおよびデータ・チェーンの操作](#)を参照してください。

**ディメンションをアーカイブまたはアンアーカイブするには：**


1. ディメンションを検査します。[ディメンションの検査](#)を参照してください。
2. 「全般」タブで「**編集**」をクリックします。
3. 「**ステータス**」フィールドで、「アーカイブ済」を選択してディメンションをアーカイブします。「アクティブ」を選択してディメンションをアンアーカイブします。

 **ノート：**

アプリケーション登録を変更して、ディメンションを追加または除去することによって、そのディメンションをアーカイブまたはアンアーカイブすることもできます。[アプリケーションの変更の理解](#)を参照してください。

## 属性の理解

属性は、許容値リストまたは別のディメンションを参照するノード・データ型プロパティのいずれかを使用して、そのディメンションのデータを記述するディメンションのノードのプロパティです。

目的	参照するビデオ
属性ディメンションの操作について学習します。	 <a href="#">Oracle Enterprise Data Management Cloud の属性ディメンション</a>

 **ノート：**

属性ディメンションは、Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close および Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションのすべての疎ディメンションでサポートされます。これには、Financial Consolidation and Close アプリケーションの「勘定科目」ディメンション(疎の場合)を含みます。



Oracle Enterprise Data Management Cloud では、2 つのタイプの属性がサポートされています:

- **簡易属性:** その属性の選択可能なすべての値を含む、許容値リストを備えた文字列データ型プロパティ。これは、経時的にあまり変化せず、値の数が少ない属性に最適です。たとえば、製品ディメンションには、色という単純な属性があり、この属性には、緑、青、黄および赤の値を使用できます。
- **属性ディメンション:** 属性値を含む完全なディメンションと、基本ディメンションからその属性ディメンションを参照するノード・データ型プロパティの組合せ。属性ディメンションの値は、次のいずれかのタイプになります:
  - テキスト
  - 数値
  - 日付

属性ディメンションは、Oracle Enterprise Data Management Cloud で保持する値が多数ある属性に最適です。たとえば、エンティティ・ディメンションには、リージョンという属性ディメンションがあり、これには、親メンバーと子メンバーの地理的階層を含めることができます。

簡易属性と属性ディメンションの両方が、アプリケーションの登録時に作成されます。[キューブ](#)、[アプリケーション設定およびディメンションの登録](#)を参照してください。

### 簡易属性の操作

簡易属性を作成するには、アプリケーションの登録時に属性名を入力し、その属性プロパティに許容される値のリストにすべての値を入力します。許容値のリストを変更するには、登録時に簡易属性用に作成されたプロパティを編集します。[プロパティ・パラメータの編集](#)を参照してください。

### 属性ディメンションの操作

アプリケーションの登録時に属性ディメンションを登録すると、その属性ディメンションの完全なディメンションが、独自のデータ・チェーン、バインディングおよびビューポイントで作成されます。属性ディメンションのビューポイントがアプリケーションのデフォルト・ビューに追加され、属性ディメンションのノードを管理する際に使用できます。基本ディメンションから属性ディメンションを参照するのに使用できるノード・データ型プロパティも作成されます。

### 考慮事項

- 基本ディメンションのノードから参照できるのは、属性ディメンションの最下位ノードのみです。
- 数値型と日付型の属性ディメンションでは、最下位ノードにフォーマット検証が適用されます。つまり、属性ディメンション・タイプに応じて、すべての最下位ノードは、数値または有効な日付形式である必要があります。

#### ノート:

親ノードを数値型または日付型の属性ディメンションに追加すると、親ノード・タイプを選択した場合も検証メッセージが表示されることがあります。親の下に子ノードを追加してから要求を再検証すると、検証エラーは解決されます。

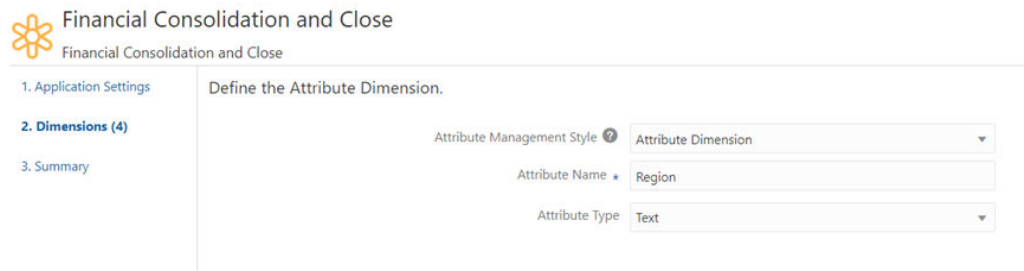
- 属性ディメンションは、Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close および Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションからインポートおよびエクスポートできます。

 ノート:

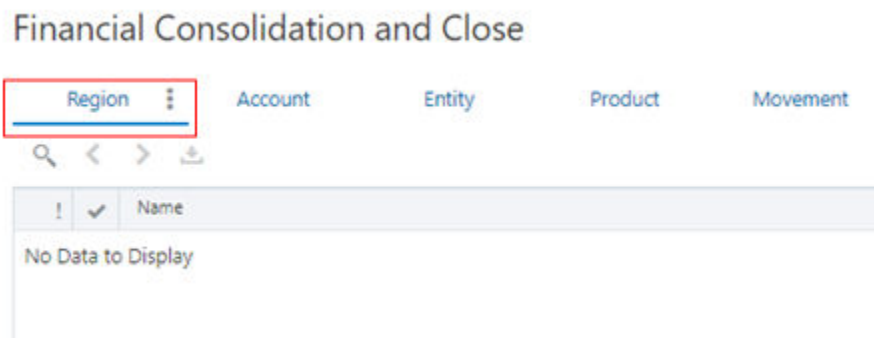
属性ディメンションをエクスポートすると、デフォルトの別名表のみがエクスポート・ファイルに含まれます。

### 属性ディメンションの例

この例では、Financial Consolidation and Close アプリケーションの登録を変更して、地域という名前の属性ディメンションをエンティティ 基本ディメンションに追加しました:

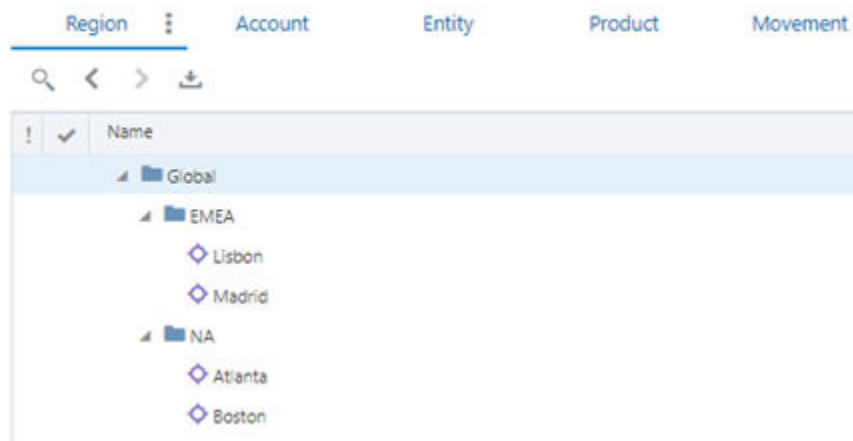



地域属性ディメンションのビューポイントがアプリケーションのデフォルト・ビューに追加されます:

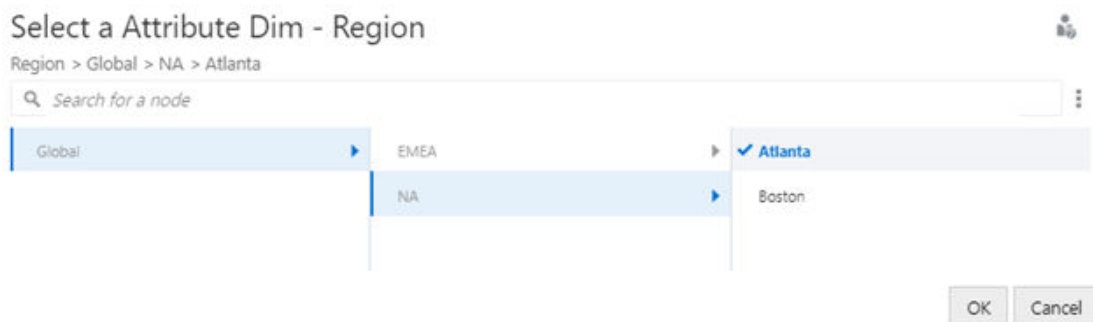


次に、属性ディメンションにメンバーを追加します。この例では、グローバルという最上位ノードと 2 つの親ノード(ボストンとアトランタが子ノードである NA と、リスボンとマドリードが子ノードである EMEA)を追加します。

## Financial Consolidation and Close



これで、エンティティ基本ディメンションのメンバーを編集するときに、プロパティ・ペインで「属性ディメンション - 地域」の  をクリックして、基本ディメンション・メンバーに割当てできる属性ディメンション・メンバーを表示できます。この例では、アトランタ地域を C\_131 メンバーに追加しました。




ノードが、選択した属性ディメンション・プロパティで更新されます。

C\_131 Entity  
US 2 Operations (USD)

---

[Properties](#) [Locations](#) [History](#)

---

 34 Properties

Hierarchy type	Stored	▲
Enable for Dynamic Children		
Number of Possible Dynamic Children		
Solve Order (Consol)	0	
Solve Order (Rates)	0	
Attribute Dim - Region	Atlanta	

# データ・オブジェクトおよびデータ・チェーンの操作

Oracle Enterprise Data Management Cloud の基本的な組織構造はアプリケーションであり、各アプリケーションにはディメンション(製品、エンティティなど)が含まれています。各ディメンションには、データ・チェーンと呼ばれる一連のデータ・オブジェクトが含まれており、データ・チェーンは、ノード・タイプ、階層セット、ノード・セットおよびビューポイントで構成されています。これらのデータ・オブジェクトは、作成する Oracle Enterprise Data Management Cloud ソリューションのビルディング・ブロックです。

ビューポイントおよびその関連データ・オブジェクトの構成方法により、ビューポイント内で使用可能なノードが決まります。また、データ・チェーンにより、次のリストに示すようなビューポイントの特性を定義します。

- ノードがリストと階層のどちらであるか
- 階層のノード間の関係を定義するルール
- ノードのプロパティ
- ユーザーが実行可能なアクション

次の表にデータ・オブジェクトをまとめます。データ・オブジェクトの詳細は、[データ・チェーンの理解](#)を参照してください。

データ・オブジェクト	説明
ノード・タイプ	特定のカテゴリのノードすべてが含まれます。たとえば、勘定科目ノード・タイプに勘定科目ノードが含まれます。 <a href="#">ノード・タイプの操作</a> を参照してください
階層セット	ノードの親子関係を定義します。 <a href="#">階層セットの操作</a> を参照してください。
ノード・セット	ビューポイント内で使用可能なノードのグループを定義します。 <a href="#">ノード・セットの操作</a> を参照してください。
ビューポイント	ノード・セットをユーザーに提示し、ユーザーが実行可能なアクションおよびユーザーが編集可能なプロパティを定義します。 <a href="#">ビューポイントの理解</a> を参照してください。

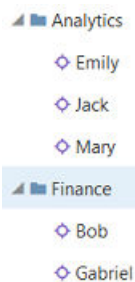
ノード・タイプ、階層セットおよびノード・セットは、再使用可能なオブジェクトです。たとえば、様々なビューポイントで使用される階層がある場合は通常、その階層セット・オブジェクトをこれらすべてのビューポイントで使用します。

詳細は、次を参照してください:

- [データ・チェーンの理解](#)
- [データ・オブジェクトおよびデータ・チェーンのライフサイクルの理解](#)

## 例 18-1 階層のデータ・チェーンの例

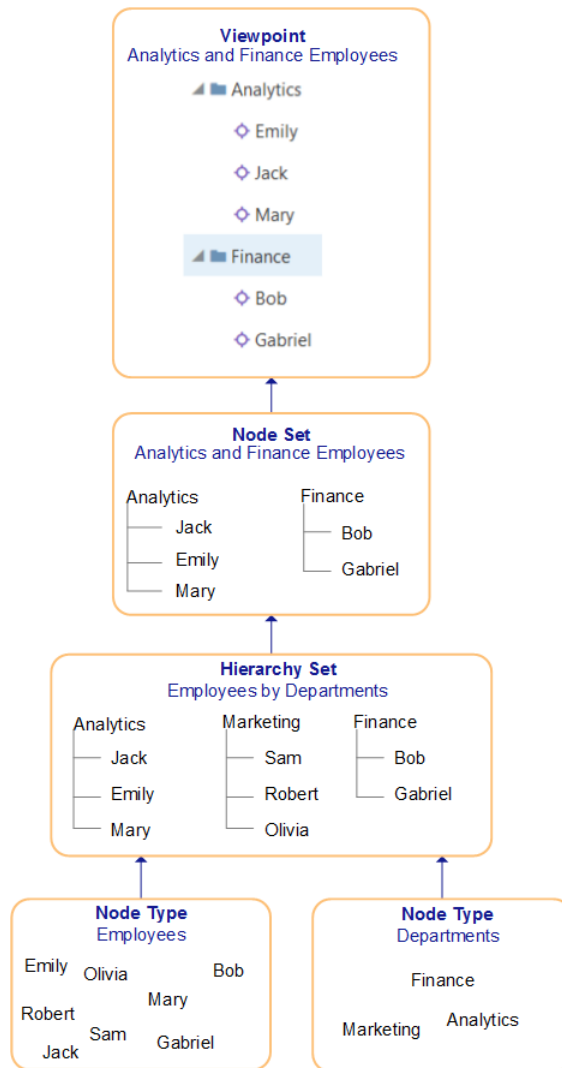
従業員が部門別にリストされた階層を操作しているとします。ビューポイントには、次の例に示すように、分析および財務部門の従業員を表す階層が含まれています。




このアプリケーションには、マーケティング部門用の別の階層も含まれますが、その階層はビューポイントに含まれていません。次の表で、このビューポイントの構築元であるデータ・チェーンについて説明します。

データ・オブジェクト	説明
ノード・タイプ	ノードは次のノード・タイプに属します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>従業員ノードは従業員ノード・タイプに含まれています。</li> <li>部門ノードは部門ノード・タイプに含まれています。</li> </ul>
階層セット	次のように親子関係を定義します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>部門ノードは子従業員ノードを持つことができます。</li> <li>従業員ノードは子ノードを持つことができません。</li> </ul> 階層セットでは、部門ノードの子従業員ノードも定義されません。
ノード・セット	分析および財務部門の階層が含まれます。階層セットのマーケティング階層は除外されます。
ビューポイント	ノード・セットに指定されているノードを表示します。

次の図に、ビューポイントを定義するために使用されるデータ・チェーンを示します。



## ビデオ

目的	参照するビデオ
データ・オブジェクトとデータ・チェーンについてさらに学習します。	 <a href="#">概要: Enterprise Data Management Cloud 内の情報モデル</a>

# データ・チェーンの理解

データ・チェーンは、関連する一連のデータ・オブジェクトです。ビューポイントでユーザーが使用可能なノードは、データ・チェーンによって定義されます。

データ・チェーン上のオブジェクトの構成により、ビューポイントで使用可能なプロパティも定義されます。

データ・チェーンは、次のデータ・オブジェクトで構成されています。

- **アプリケーション:** Oracle Financials Cloud 一般会計や Planning など、管理するエンタープライズ・データが格納されており、特定の目的に対応するビジネス・アプリケーション。
  - **ディメンション:** 勘定科目、エンティティ、製品など、アプリケーションのビジネス・ディメンション。
    - \* **ノード・タイプ:** 一般会計セグメント値、Planning ディメンション・メンバー、一般会計から Planning へのマッピングなど、ディメンションのエンタープライズ・データ・レコードのタイプ。各ノード・タイプは、ノードと呼ばれるレコードの特性を定義します。ディメンションは、1つ以上のノード・タイプで構成できます。ノードとそのプロパティはノード・タイプに保存されます。
    - \* **階層セット:** ディメンションの特定のノード・タイプのノード間の階層関係のセット。各階層セットは、関連するノード・タイプとそのセットの階層のルールを定義します。階層セットには、セット内の階層関係のスタート地点を定義する 1つ以上のルート・ノードを含めることができます。階層セットには、関係とそのプロパティが保存されます。
    - \* **ノード・セット:** リストや階層などの特定の構造がある、ディメンション内のノードのセット。リスト・ノード・セットは、フラット・リスト内の 1つ以上のノード・タイプで構成されます。階層ノード・セットは、階層セットと 1つ以上の最上位ノードで構成されます。ノード・セットの最上位ノードは、階層セットのルート・ノードまたはルート・ノードの子孫になります。
  - **ビューポイント:** 勘定科目のリストの表示、製品階層の管理、エンティティ階層のエクスポートなど、特定の目的に使用されるディメンションのビジネス・パースペクティブ。ビューポイントは、1つ以上のビューに編成されます。各ビューポイントはノード・セットを使用し、ユーザーが特定のビューでそのノード・セットのデータを操作する方法を制御します。
- **ビュー:** アプリケーション間でディメンションのデータを管理したり、外部システムとの間でデータを総合するなど、特定の目的に使用されるビューポイントのグループ。各アプリケーションは、デフォルト・ビューを使用して、エンタープライズ・データをエクスポートします。デフォルト・ビューの各ビューポイントは、外部システムに存在するデータを表します。ユーザーは、追加で独自のビューを定義して、特定のビジネス目的のデータを表示および管理できます。

#### ノート:

リレーショナル・データベースの概念に慣れている場合、ノード・タイプと階層セットは、データを保持するという点でデータベース表と類似しており、ノード・セットは、操作するノードを選択するという点でデータベース述語または Where 句と類似しており、ビューポイントは、ユーザーがデータを操作するユーザーインターフェースを提供するという点でデータベース・ビューと類似しています。

データ・オブジェクトはモジュール方式です。ノード・タイプ、階層セットおよびノード・セットは、複数のデータ・チェーン内で使用できます。データ・オブジェクトには、次の関係があります。

- 1つのノード・タイプが 1つ以上の階層セットまたはノード・セットによって使用されます。



- 1つの階層セットが1つ以上のノード・タイプを使用します。
- 1つの階層セットが1つ以上のノード・セットによって使用されます。
- 1つのノード・セットが1つの階層セットを使用します。
- 1つのリストの1つのノード・セットが1つ以上のノード・タイプを使用します。

 **ノート:**

1つのノード・セットが1つの階層セットを使用する場合、ノード・タイプは階層セットから継承されます。

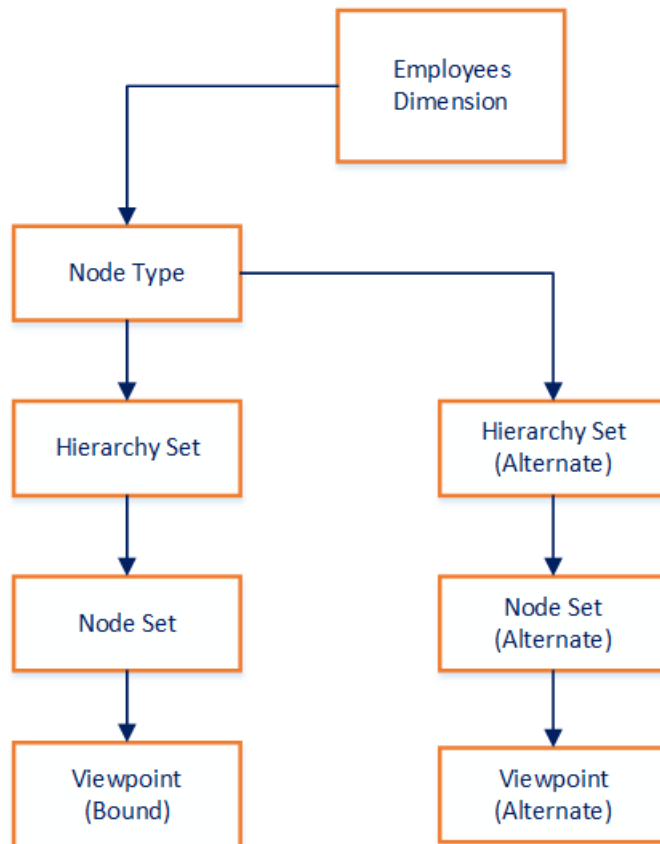
- 1つのノード・セットが1つ以上のビューポイントによって使用されます。
- 1つのビューポイント・セットが1つのノード・セットを使用します。

### データ・チェーンが複数あるディメンションの例

ディメンションとデータ・オブジェクトの関係を理解するには、次の例を検討してください。

- ユーザーは従業員ディメンションを操作しており、再編成の結果をモデル化する代替ビューポイントを作成する必要があります。
- 代替ビューポイント用のビューポイントを作成するために、ユーザーは次のステップを実行します。
  1. バインドされたビューポイントのデータ・チェーンで使用されていたノード・タイプを再使用します。
  2. このノード・タイプを参照する新しい階層セットを作成します。
  3. この階層セットを参照する新しいノード・セットを作成します。

次の図のように、両方のデータ・チェーンで使用されたデータ・オブジェクトが従業員ディメンションに割り当てられます。



 ノート:

代替ビューポイントとその階層セットおよびノード・セットはディメンションにバインドされていないため、ディメンションのバインディング・ルールに準拠する必要はありません。この例のノード・タイプは、代替ビューポイントの一部であるとしても、ディメンションのバインディング・ルールに準拠しています。これは、ノード・タイプが、バインドされたビューポイントのデータ・チェーンの一部でもあるためです。

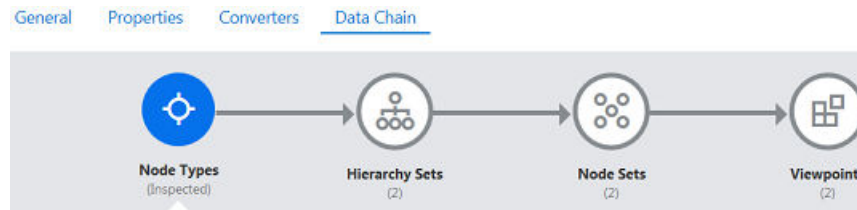
詳細は、次を参照してください:

- [データ・オブジェクトおよびデータ・チェーンの操作](#)
- [データ・チェーンの検査](#)
- [代替ビューおよびビューポイントの定義](#)

## データ・チェーンの検査

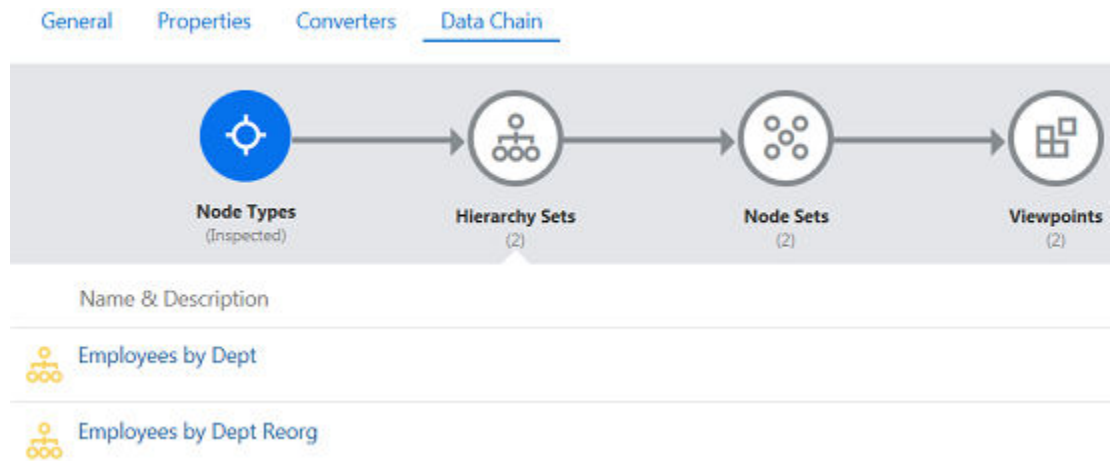
Oracle Enterprise Data Management Cloud の多くの画面には「**データ・チェーン**」タブがあります。このタブを使用して、データ・チェーン上のデータ・オブジェクトを検査できます。データ・チェーンの詳細は、[データ・チェーンの理解](#)を参照してください。

次の例は、ノード・タイプが 2 つの階層セット、ノード・セットおよびビューポイントのデータ・チェーンで使用されていることを示しています。



該当するアイコンをクリックして、データ・チェーン上のオブジェクトを検査してアクセスできます。アイコンをクリックすると、データ・オブジェクトへのリンクが表示されます。いずれかのオブジェクトを検査する場合、リンクをクリックすると、画面下部に新しいタブが表示されます。

次の例では、ユーザーによって「階層セット」アイコンがクリックされています。ノード・タイプを使用する両方の階層セットの定義へのリンクが表示されます。



## ノード・タイプの操作

ノード・タイプは、共通のビジネス目的を共有するアプリケーションのノードの集まりです。ノード・タイプを使用してノードのプロパティを定義し、あるノード・タイプを別のノード・タイプに変換するルールを定義します。

各ノードは、ノード・タイプのメンバーです。たとえば、勘定科目のノードは通常、アプリケーションの勘定科目のノード・タイプのメンバーです。

次のリストに、ノード・タイプでノードを分類する方法の例を示します。

- 会社ディメンションのノードは、会社のノード・タイプに割り当てることができます。
- オフィスの場所別に従業員を編成する階層のノードは、従業員または場所のノード・タイプに割り当てることができます。

次に、ノード・タイプの特徴と考慮事項をリストします。

- すべてのノードにノード・タイプが割り当てられます。

- ノードは、ノード名とノード・タイプの組合せによって一意に識別されます。
- ノードのタイプが変わることはありません。つまり、1つのノードを複数のビューポイントで使用できる場合、どのビューポイントでもノード・タイプを変更できません。
- ノード・タイプは、データ・チェーンにそのノード・タイプを含むすべてのビューポイントで使用できるプロパティを定義します。
- ノード・タイプには、次のいずれかのクラスを指定できます。作成した後、ノード・タイプのクラスは変更できません：
  - 標準:** 参照ディメンション以外のディメンション・タイプ用です。「標準」クラスのノード・タイプに対してプロパティを追加または除去できます。
  - 参照:** 外部システムからの参照データを格納するために使用される特殊ノード・タイプです。変更できない汎用参照プロパティが含まれます。任意のディメンション・タイプで使用できます。
  - レガシー GL:** レガシー一般会計システムからの勘定体系値をモデル化する場合に使用される特殊ノード・タイプです。変更できない基本的な一般会計およびマッピング・セット・プロパティが含まれます。任意のディメンション・タイプで使用できます。

 **ノート:**

参照またはレガシー GL クラス・ノード・タイプのノードは、合計レコード数に含まれません。[特殊ノード・タイプ・クラスの操作](#)を参照してください。

- ノード・タイプ・データ・オブジェクトは、他のデータ・チェーン・オブジェクトに依存しません。
- ノード・タイプのノードを別のノード・タイプに変換できるように指定できます ([ノード・タイプ・コンバータの操作](#)を参照)。

詳細は、次を参照してください：

- [データ・オブジェクトおよびデータ・チェーンの操作](#)
- [ノード・タイプのプロパティの追加、除去および構成](#)
- [ノード・タイプの検査](#)

**例 18-2 ノード・タイプの例**

[階層のデータ・チェーンの例](#)では、次の図に示すように、従業員ノード・タイプと部門ノード・タイプを使用しています。



部門ノードと従業員ノードは扱いが異なるため、例では 2 つのノード・タイプを使用しています。たとえば、従業員ノードには従業員の住所、電話番号、電子メール・アドレスのプロパティを設定でき、部門ノードには部門マネージャのプロパティを設定できます。

## ビデオ

目的	参照するビデオ
ノード・タイプの設定について学習します。	 <a href="#">ノード・タイプの設定</a>

# ノード・タイプの作成

## ベスト・プラクティス

次の場合は、新しいノード・タイプを作成することがベスト・プラクティスです。

- 異なるプロパティを使用する。たとえば、Location ノード・タイプに 10 のプロパティがあるときに、これらのプロパティのうち 5 つをユーザーに公開する場合、5 つのプロパティを持つ新しい Location\_dm ノード・タイプを作成します。
- 特定のノード・タイプの関係を定義する。たとえば、Entity ノード・タイプに Entity ノードとして Companies および Departments が含まれるとします。Company を Department の親として設定する場合、Company ノード・タイプと Department ノード・タイプを作成します。次に、Company ノード・タイプを Department ノード・タイプの親として設定した階層セットを定義します。
- ビジネス目的で一意的ノード・セットを分類する。たとえば、Entity ノード・タイプに部門と買収部門が含まれるとします。これらの差異を区別するには、Department ノード・タイプと Acquired Department ノード・タイプを作成します。次に、適切なノード・タイプにノードを割り当てます。

詳細は、[ノード・タイプの操作](#)を参照してください。

## ビデオ

目的	参照するビデオ
ノード・タイプの設定についてさらに学習します。	 <a href="#">ノード・タイプの設定</a>

- 「ノード・タイプ」で、「作成」をクリックします。
- アプリケーション・ディメンションを選択します。  
ディメンション・タイプが、選択したディメンションの下に表示されます。
- ノード・タイプ・クラスを選択します:
  - 標準(参照ディメンションでは使用不可)
  - レガシー GL
  - 参照

### ノート:

レガシー GL や参照などの特殊ノード・タイプを操作する際の考慮事項は、[特殊ノード・タイプ・クラスの操作](#)を参照してください。

ノード・タイプのインスペクタが表示されます。

4. ノード・タイプの名前および(オプションで)説明を入力し、「作成」をクリックします。
5. **オプション:** 「全般」を選択し、「編集」をクリックし、**デフォルト修飾子**(および必要に応じて**代替修飾子**)を定義して、ノード・タイプ名を一意にするための接頭辞または接尾辞を追加します。代替修飾子を指定するには、デフォルト修飾子を定義する必要があります。[ノード・タイプ修飾子の使用](#)を参照してください。

#### ノート:

デフォルト修飾子および代替修飾子から先頭と末尾の空白文字は切り取られます。

6. 「プロパティ」を選択し、「編集」をクリックします。どのプロパティが必要であるかを選択し、これらが表示される順序を変更できます。ノード・タイプでプロパティを追加または除去するには、「管理」をクリックし、必要な変更を行います。
7. 「保存」をクリックします。

ノード・タイプのノード・タイプ・コンバータを設定する必要がある場合は、[ノード・タイプ・コンバータの操作](#)を参照してください。

## 特殊ノード・タイプ・クラスの操作

特殊ノード・タイプ・クラスのノード・タイプには、外部システムからのデータの格納またはモデル化や、ユーザー・アプリケーションのユーザーの管理に使用できる限定された機能のセットがあります。

特殊ノード・タイプには次の 4 つのクラスがあります:

- **参照:** ノード・データ型プロパティを使用してビューポイントでポイントできる外部システムからデータを格納する場合に使用します。[参照ディメンションの操作](#)を参照してください。
- **レガシー GL:** クラウド一般会計システムへの移行をサポートするために、レガシー一般会計システムからの勘定体系値をモデル化する場合に使用されます。
- **ユーザー:** ユーザー・アプリケーションでユーザーを管理する場合にのみ使用します。
- **ユーザー・ロールアップ:** ユーザー・アプリケーションでロールアップを管理する場合にのみ使用します。

#### Note:

ユーザー・アプリケーション以外のアプリケーション・タイプでは、「ユーザー」または「ユーザー・ロールアップ」ノード・タイプ・クラスを使用できません。

#### 考慮事項

- 特殊ノード・タイプ・クラスのノードには、変更できない限定された事前定義済プロパティのセットがあります。次のトピックを参照してください:

- 参照ノード・タイプの事前定義済プロパティ
- レガシー GL ノード・タイプの事前定義済プロパティ
- ユーザー・アプリケーションの事前定義済プロパティ
- 特殊ノード・タイプ・クラスのノードは、合計レコード数に含まれません。「レコード数ログ」レポートを参照してください。
- 特殊ノード・タイプ・クラスのすべてのノードは、ディメンション・レベルおよびビューポイント・レベルで統合機能が制限されています：
  - 「参照」および「レガシー GL」：
    - \* ビューポイント・ロードを実行できます。
    - \* インポート、エクスポートまたはビューポイント・ダウンロードはできません。
    - \* マッピング・バインド済ビューポイントからのみ抽出できます(バインディングおよびバインドされたデータ・オブジェクトの理解を参照)。
  - 「ユーザー」および「ユーザー・ロールアップ」：
    - \* ビューポイント・ロードを実行できます。
    - \* インポート、エクスポート、抽出またはビューポイント・ダウンロードはできません。

## 参照ノード・タイプの事前定義済プロパティ

参照ディメンションは、次の事前定義済プロパティを備えた参照クラス・ノード・タイプを使用します。参照クラス・ノード・タイプに対してプロパティを作成または除去することはできません。

参照ネームスペースのプロパティは、参照データの格納に使用できる汎用プロパティです。ビューポイントでラベルを変更して、ディメンションでの用途をさらに適切に表現できます。たとえば、参照ディメンションを使用して従業員参照データを格納している場合は、Lookup.String プロパティのラベルを「従業員 ID」に変更できます。ビューポイントで使用していないプロパティを非表示にすることもできます。ビューポイントでのプロパティの表示方法の構成を参照してください。

プロパティ	ネームスペース	データ型	レベル	説明
ブール	Lookup	ブール	ノード	汎用の参照ブール・プロパティ
最下位ノード	CoreStats	ブール	関係	ノードに子があるかどうかを決定します
日付 1	Lookup	日付	ノード	汎用の参照日付 1 プロパティ
日付 2	Lookup	日付	ノード	汎用の参照日付 2 プロパティ
説明	Core	文字列	ノード	ノードの説明
浮動小数点	Lookup	浮動小数点	ノード	汎用の参照浮動小数点プロパティ
整数	Lookup	整数	ノード	汎用の参照整数プロパティ

プロパティ	ネームスペース	データ型	レベル	説明
レベル	CoreStats	整数	ノード	階層ノード・セット内のノードのレベル
名前	Core	文字列	ノード	ノード名
親	CoreStats	ノード	関係	現在の位置にあるノードの親ノード名
文字列	Lookup	文字列	ノード	汎用の参照文字列プロパティ

## レガシー GL ノード・タイプの事前定義済プロパティ

レガシー GL ネームスペースのプロパティは、レガシー GL システムからのデータを格納するために使用できます。ビューポイントでラベルを変更して、レガシー GL システムでの用途をさらに適切に表現できます。ビューポイントで使用していないプロパティを非表示にすることもできます。[ビューポイントでのプロパティの表示方法の構成](#)を参照してください。

レガシー GL クラス・ノード・タイプに対してプロパティを追加または除去することはできません。プロパティ順序の並替え、および必須フラグの設定を実行できます。

プロパティ	ネームスペース	データ型	レベル	説明
名前	Core	文字列	ノード	ノード名
説明	Core	文字列	ノード	ノードの説明
親	CoreStats	ノード	関係	現在の位置にあるノードの親ノード名
最下位ノード	CoreStats	ブール	関係	ノードに子がいない場合は <b>True</b>
勘定科目タイプ	LegacyGL	文字列	ノード	レガシー GL 勘定科目タイプ
代替説明	LegacyGL	文字列	ノード	レガシー GL 代替説明
転記の許可	LegacyGL	ブール	ノード	レガシー GL 転記を許可フラグ
有効	LegacyGL	ブール	ノード	レガシー GL 有効フラグ
ターゲット名	LegacyGL	文字列	関係	ソースのマッピング・ターゲット名
開始日	LegacyGL	日付	関係	発効開始日
終了日	LegacyGL	日付	関係	発効終了日
デフォルト・マッピング	LegacyGL	ブール	関係	デフォルト・マッピング(Y/N)



## ノード・タイプ修飾子の使用

ノード・タイプ修飾子はノード・タイプに定義する接頭辞または接尾辞で、ノード・タイプの一意的命名を可能にします。ノード・タイプ修飾子は、ノード・タイプまたはディメンションに一意的命名を使用する外部アプリケーションに定義します。たとえば、アプリケーションはエンティティ、勘定科目およびコスト・センターに **ENT\_**、**ACCT\_** および **CC\_** という修飾子を使用できます。

Oracle Enterprise Data Management Cloud で修飾子が使用されるのは、ノードを比較し、ビューポイントを並べて表示し、あるビューポイントから別のビューポイントにドラッグ・アンド・ドロップする場合です。

たとえば、一般会計アプリケーションに **750** という名前のコスト・センターがあり、これを **Planning** アプリケーションに追加する場合は、このコスト・センターを一般会計ビューポイントから **Planning** ビューポイントにドラッグ・アンド・ドロップできます。ノード・タイプ修飾子が定義され、ノード・タイプ・コンバータが設定されている場合、**Planning** のコスト・センターは **CC\_750** として追加されます。

### ノート:

ノード数を計算する際、修飾子(デフォルトまたは代替の修飾子、接頭辞または接尾辞)を除去した後のソース・ノードとターゲット・ノードのベース名が同じ場合、2つのノードは同等と見なされます。  
[レコード数の表示](#)を参照してください。

### デフォルトおよび代替の修飾子

ノード・タイプは、デフォルト修飾子と最大 3 つの代替修飾子をサポートしています。代替修飾子は、デフォルト修飾子を使用してノードが見つからない場合に使用されます。特定のノード・タイプに対するデフォルト修飾子および代替修飾子はすべて、接頭辞または接尾辞のいずれかである必要があります。単一のノード・タイプに修飾子として接頭辞と接尾辞が混在することはできません。

### ノート:

代替修飾子を指定するには、デフォルト修飾子を定義しておく必要があります。デフォルト修飾子を削除すると、代替修飾子も削除されます。

ノード・タイプ間でノードを比較して特定し、ノードを追加または挿入する場合(ノード・タイプ・コンバータを使用)、デフォルトおよび代替の修飾子は次のように取り扱われます:

- ノードを比較、検索および整列する場合:
  - ソース・ノード名がデフォルト修飾子で開始する場合は、修飾子を削除し、その結果をベース名として使用します。デフォルト修飾子が見つからない場合は、各代替修飾子を使用してノードを探します。見つかった場合は、修飾子を削除し、その結果をベース名として使用します。
  - ターゲット・ノード・タイプにデフォルト修飾子が定義されている場合は、その修飾子を名前の先頭に追加し、ターゲット・ビューポイントでそのノード・タイプと名前

を持つノードを探します。デフォルト修飾子が見つからない場合は、各代替修飾子を使用してノードを探します。

- ノード・タイプにわたってノードを追加または挿入する場合:
  - ソース・ノード名がデフォルト修飾子で開始する場合は、修飾子を削除し、その結果をベース名として使用します。デフォルト修飾子が見つからない場合は、各代替修飾子を使用してノードを探します。見つかった場合は、修飾子を削除し、その結果をベース名として使用します。
  - ターゲット・ノードの場合、新しいノード名には常にデフォルト修飾子が使用されます。

#### ノート:

ノードを追加または挿入するときにノード名を変換するように、ノード・タイプ・コンバータでプロパティ名の変換を定義することもできます。[ノード・タイプ・コンバータの操作](#)の [プロパティ変換](#)に関する項を参照してください。

## ノード・タイプ・コンバータの操作

ノード・タイプ・コンバータを作成すると、あるノード・タイプを別のノード・タイプに変換できます。

#### ノート:

ノード・タイプ・コンバータは、2つのビューポイントを左右に並べて、ノード・タイプが異なるノードを比較、特定、調整およびドラッグ・アンド・ドロップする場合があります。


変換先のノード・タイプを最初に選択し、次に変換元のノード・タイプを選択してコンバータを作成します。**Acquired Depts** という名前のノード・タイプを使用するビューポイントのノードと、**All Depts** という名前のノード・タイプを使用する別のビューポイントのノードを比較とします。**Acquired Depts** ノード・タイプを **All Depts** ノード・タイプに変換するノード・タイプ・コンバータを作成する必要があります。

### ビデオ

目的	参照するビデオ
ノード・タイプの変換について学習します。	 <a href="#">ノード・タイプの変換</a>

### チュートリアル

チュートリアルには、トピックを学習するのに役立つ一連のビデオおよびドキュメントを使用した説明が用意されています。

目的	方法の学習
ノード・タイプ・コンバータでノードの親を導出する式を作成します	 ノード・タイプ・コンバータの式を使用した親ノードの検出

ノード・タイプ・コンバータを 2 つのアプリケーション間で設定します。

- ビューポイントで使用されるターゲット・ノード・タイプにノードが存在しない場合は、ノードが変換されてそのノード・タイプに追加されます。ノードがターゲット・ノード・タイプに追加されると、ノード・タイプ・コンバータで指定されたプロパティがターゲット・ノードにコピーされます。
- ノード・タイプ・コンバータでコピー対象として指定されたプロパティが、ターゲット・ビューポイントで読み取り専用設定されている場合、そのプロパティの値はターゲット・ノードにコピーされません。

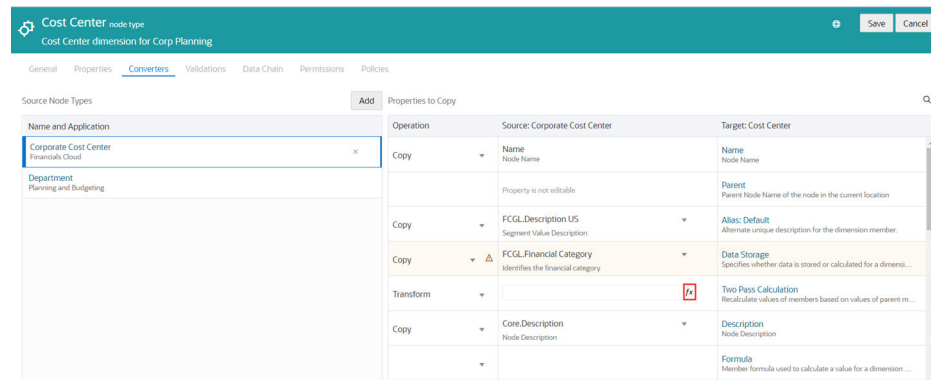
### ヒント:

コンバータのノード・タイプ修飾子を設定する必要がある場合は、[ノード・タイプ修飾子の使用](#)を参照してください。

## ノード・タイプ・コンバータの作成

### ノード・タイプ・コンバータを作成するには:

1. コピー先となるノード・タイプを検査します。
2. 「**コンバータ**」タブを選択します。
3. 「**編集**」をクリックして、「**追加**」をクリックします。
4. 変換するノード・タイプを選択します。これは変換元のノード・タイプになります。
5. 「**コピーするプロパティ**」画面で、同じまたは類似しているプロパティが自動的に移入されます。「**操作**」列で、プロパティに対して次のオプションから選択します。
  - **コピー**: ソースから既存のプロパティをコピーします。「**ソース**」列のドロップダウン・リストからプロパティを選択します。同じまたは類似するプロパティが自動的に選択されますが、変更できます。
  - **変換**: ターゲット・プロパティの値を計算する式を定義します。「**ソース**」列で、「**式の定義**」  $fx$  (またはテーマに応じて  $dx$ ) をクリックし、式を定義して「**適用**」をクリックします。式の定義方法の詳細は、[式を使用したカスタム・ビジネス・ロジックの定義](#)を参照してください。



### 💡 ヒント:

🔍 をクリックしてテキストを入力し、プロパティ・リスト内で検索します。プロパティ名および説明で検索が実行されます。

### ✍️ ノート:

- プロパティの「操作」列が空白の場合、そのプロパティは編集できません。
- 「操作」列が空でドロップダウン・リストがある場合は、前述のオプションから選択できます。
- プロパティの行に注意 ⚠️ アイコンがある場合、ソース・プロパティは読み取り専用のターゲット・プロパティにマッピングされています。ソース・プロパティに加えた変更は、ターゲット・プロパティには伝播されません。

6. **オプション:** ノード・タイプ・コンバータからプロパティ変換を除去するには、プロパティの「操作」を「コピー」または空白に変更します。

7. 「保存」をクリックします。

詳細は、次を参照してください:

- [ノード・タイプの操作](#)
- [ノードおよび関連ノードの挿入](#)

### プロパティ変換

プロパティ変換は、ノード・タイプ・コンバータのターゲット・プロパティの定義値を計算し、ビューポイント間でデータを共有、マッピングまたは同期するときのみ実行されます。変換は、式を使用してノード・タイプ・コンバータのプロパティに対して構成されます。


 **ノート:**

これらのデータ型でプロパティを変換できます。

- ブール
- 日付
- 整数
- リスト
- ノード
- 文字列

プロパティ変換は、次の操作時に計算されます。

- ビューポイント間でのノードの追加または挿入
- 比較の差異からの要求アイテムの作成
- サブスクリプション要求の生成

 **ノート:**

プロパティを特定または調整する場合、プロパティ名の変換は使用できません。かわりに、ノード・タイプに代替修飾子を追加して、デフォルトの修飾子を使用してノードを特定できない場合に、代替を使用してノードを検索できるようにします。  
[ノード・タイプ修飾子の使用](#)のデフォルトおよび代替の修飾子を参照してください。

**考慮事項**

式を使用してプロパティ変換を構成する場合は、次の情報に注意してください。

- **SourceNode** オブジェクトは、ソース・ノードから情報にアクセスする際に使用できます。
- ターゲット・ノードから情報にアクセスすることはできません。
- ソース・ノードの派生プロパティにアクセスできます。

**ノード・パターンの変換**

デフォルトでは、「名前」プロパティの変換を設定している場合、対話型要求やビューポイントの比較に、およびサブスクリプション要求を生成するときにその変換が親にも使用されます。たとえば、変換式で接尾辞を「名前」に連結する場合、接尾辞は「親」参照にも追加されます。

ただし、「名前」プロパティの変換とは別のソース・ノードの親には変換を設定できます。親変換がソースの親に対して実行され、ソース・ノードが別の親に移動している場合は古い親にも使用されます。

「名前」ノードと「親」ノードに別々の変換が設定されている場合は、ビューポイントをまたいで手動でノードを挿入してさらにノードの子孫を挿入するとき、要求アイテムが比較結果

から作成されるとき、またはサブスクリプションによって要求アイテムが生成されるとき、親に対して次のことが行われます:

- ノード・タイプ・コンバータで「親」に対して変換操作が設定されている場合、ソースの親ごとに親変換が実行され、結果の値が各階層アクションの親として使用されます。サブスクリプション要求の場合は、古い親に対しても親変換が使用されません(適用可能な場合)。
- ノード・タイプ・コンバータで「親」ではなく「名前」に対して変換操作が設定されている場合、ソースの名前およびソースの親ごとに名前変換が実行され、ソースの親の結果の値が各階層アクションの親として使用されます。サブスクリプション要求の場合は、古い親に対しても名前変換が使用されます(適用可能な場合)。
- ノード・タイプ・コンバータで親に対してコピー操作が使用されている場合、ソースの親(該当する場合はノード・タイプ修飾子を含む)が各階層アクションの親として使用されます。サブスクリプション要求の場合は、古い親に対してもソースの親(該当する場合はノード・タイプ修飾子を含む)が使用されます(適用可能な場合)。

#### ノート:

サブスクリプションの場合は、サブスクリプション要求の要求アイテムが生成されるときに、ノード・タイプ・コンバータの親変換がソース階層ビューポイントの最上位ノードに対して実行されます。これにより、ソース・ビューポイントに追加された最上位ノードをターゲット階層ビューポイントの別の親の下に配置できます。

### ターゲット・ノード・タイプのフィルタリング

複数のノード・タイプが含まれるターゲット・ビューポイントでは、使用可能なノード・タイプのリストを、変更を許可するものだけにフィルタリングできます。ノード・タイプのフィルタリングは以下の場合に適用されます。

- ビューポイント間でのノードのドラッグ・アンド・ドロップ
- 別のビューポイントからのノードの挿入
- サブスクリプション要求の生成

使用可能なノード・タイプ・リストからノード・タイプをフィルタリングで除外するには、許可されるアクションや編集可能なプロパティを含まないようにノード・タイプを構成します。


1. ターゲット・ビューポイントを検査します。
2. 「定義」タブで「編集」をクリックします。
3. ノード・タイプを選択し、許可されたアクションと編集可能なプロパティをすべてクリアします。
4. 「保存」をクリックします。

## ノード・タイプの検査

ノード・タイプ・インスペクタから、ノード・タイプに関する情報を表示および編集できます。詳細は、[ノード・タイプの操作](#)を参照してください。

## ビデオ

目的	参照するビデオ
ノード・タイプの設定についてさらに学習します。	 <a href="#">ノード・タイプの設定.</a>

1. 「**ノード・タイプ**」で、検査するノード・タイプまでスクロールし、「**アクション**」列で  をクリックして、「**検査**」を選択します。
2. 次のタブで、使用可能なオプションから選択します。
  - **全般**—ノード・タイプのアプリケーション、ディメンション、ステータス、クラスおよびバインディング・ステータスの情報が表示されます。[バインディング・ステータス](#)を参照してください。  
「**編集**」をクリックして、ノード・タイプに対して次のアクションを実行します:
    - 名前、説明およびステータスを変更します。[データ・オブジェクトおよびデータ・チェーンのライフサイクルの理解](#)を参照してください。
    - ノード・タイプ修飾子を追加または変更します。[ノード・タイプ修飾子の使用](#)を参照してください。
    - 「**組合せノード・タイプ**」を選択して、他の複数のノード・タイプの値の組合せを表すノード・タイプを指定します。組合せノード・タイプは、レコード数ログ・レポートに記載されます。「[レコード数ログ](#)」レポートを参照してください。
  - **プロパティ**—ノード・タイプからプロパティを追加または除去し、必要に応じてプロパティを設定し、表示されたリストでプロパティを並べ替えます([ノード・タイプのプロパティの追加、除去および構成](#)を参照)。
  - **コンバータ**—ノード・タイプ・コンバータを作成して、あるノード・タイプを別のノード・タイプに変換します([ノード・タイプ・コンバータの操作](#)を参照)。

### ノート:



ノード・タイプ・コンバータでの式の作成の詳細は、[式を使用したカスタム・ビジネス・ロジックの定義](#)を参照してください。


- **検証**: カスタム・ビジネス・ロジックを追加して、カスタム検証を作成することによってノード・タイプのデータ・ルールを適用します。[カスタム検証の操作](#)を参照してください
- **データ・チェーン**—階層セット(該当する場合)、ノード・セットおよびノード・タイプによって参照されるビューポイントを表示するための、クリック可能なグラフィックを提供します。
- **権限**—ノード・タイプに対するユーザーおよびグループ権限を設定します。[権限の操作](#)を参照してください。
- **ポリシー**—ノード・タイプの承認ポリシーを構成します。[ポリシーの構成](#)を参照してください。

## ノード・タイプの検索

「ノード・タイプ」リストで検索を実行すると、ノード・タイプの名前と説明、アプリケーションの名前とタイプ、ディメンション名とバインディング・ステータスおよびクラスのテキストが検索されます。検索テキストを含むフィールドが結果ウィンドウに太字のフォントで表示されます。アーカイブされたノード・タイプを検索に含めることもできます。

「ノード・タイプ」リスト内を検索するには:

1. 「ノード・タイプ」から、をクリックします。
2. **オプション:** アーカイブ済のノード・タイプを検索に含める場合は、「フィルタ」をクリックし、「**アーカイブ済の表示**」を選択します。
3. 検索するテキスト文字列を入力します。入力を終了すると検索が自動的に実行されます。

検索を終了するには、をクリックします。

## ノード・タイプのプロパティの追加、除去および構成

ノード・タイプにより、ビューポイントで使用可能なプロパティ、およびこれらが必要であるかどうかを定義します。

### ノート:

ノード・タイプにプロパティを追加するときに、プロパティがアプリケーション登録プロセスを介してディメンションに追加されていない場合、プロパティはインポートおよびエクスポートには含まれません。[プロパティの操作](#)を参照してください。


### ノート:

レガシー GL または参照クラス・ノード・タイプに対してプロパティを追加または除去することはできません。



詳細は、次を参照してください:

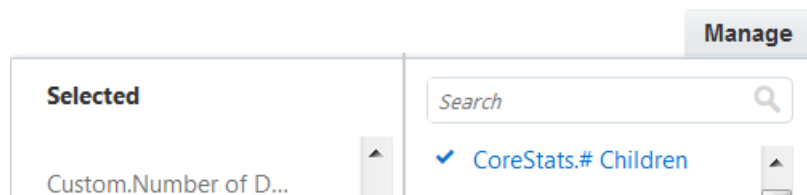
- [プロパティの操作](#)
- [ノード・タイプの操作](#)
- [ビューポイントでのプロパティの表示方法の構成](#)

ノード・タイプのプロパティを構成するには、次のステップを実行します。

1. 「ノード・タイプ」でノード・タイプを検索し、をクリックし、「**検査**」を選択します。



2. 「プロパティ」で、「編集」をクリックします。
3. (オプション)プロパティ名または説明を検索するには、「検索」をクリックしてテキストを入力します。検索フィルタをクリアしてすべてのプロパティを表示するには、「X」をクリックします。
4. プロパティを必須またはオプションに設定するには、「必須」列でプロパティのチェック・ボックスを選択またはクリアします。
5. プロパティの順序を変更するには、「アクション」列で「アクション」をクリックし、「最初」、「上」、「下」または「最後」を選択します。
6. プロパティを追加または除去するには、次のステップを実行します。
  - a. 「管理」をクリックします。  
ダイアログ・ボックスが表示されます。「選択済」列には、ノード・タイプにすでに追加されているプロパティが表示されます。2 番目の列には、使用可能なプロパティがすべて表示されます。ノード・タイプにすでに追加されているプロパティには、プロパティ名の横にチェック・マークが表示されます。
  - b. 2 番目の列で、追加または除去するプロパティを検索および選択し、次のステップの 1 つを実行します。
    - プロパティを追加するには、これを選択します。



に示すように、選択したプロパティの横にチェック・マークが表示されます。

- プロパティを除去するには、これを選択します。選択したプロパティの横のチェック・マークが除去されます。
  - c. プロパティの追加および除去が終了したら、「OK」をクリックします。  
ノード・タイプのプロパティがリストされたグリッドが表示されます。
  - d. プロパティを追加したら、「必須」列のチェック・ボックスを使用して、プロパティが必須とオプションのどちらであるかを指定します。
7. 「保存」をクリックします。

## 階層セットの操作

階層セットは、ノードの親子関係を定義します。たとえば、階層セットを使用して、製品を製品カテゴリにロールアップする階層を定義します。

階層セットは、階層の次のルールを定義します。

- 階層が構成されるノード・タイプ。
- 階層のレベル。これは、ノード・タイプ間の階層関係です。次のリストで、階層レベルの例を示します。

- 組織チャートの階層セットは、従業員ノードが他の従業員ノードの親ノードになることができることを指定します。
- オフィス・ビル別に従業員をグループ化する階層セットは、ビル・ノードは従業員ノードの親になることはできるが、他のビル・ノードの親になることはできず、従業員ノードは子ノードを持つことができないことを指定します。
- 部門別ロールアップの階層セットは、ロールアップ・ノードは部門ノードとロールアップ・ノード両方の親になることができ、部門ノードは部門ノードの親になることができることを指定します。
- 階層が共有ノード(階層の様々なブランチに含めることのできるノード)を許可するかどうか。
- 階層がビューポイント、インポート、エクスポートでカスタム・ソート順を許可するかどうか。

次のリストで、階層セットの特徴と考慮事項を説明します。

- 階層セットは、ノード自体の関係も定義します。階層セット内では、ノードが別のブランチに出現した場合でも、ノードの親子関係は同じです。

#### ノート:

ノードが階層セットとは異なる親を持つ階層を定義する必要がある場合は、新しい階層セットを作成する必要があります。たとえば、新しい階層セットを作成して、ビジネス・ユニットを複数のビジネス・ユニットに分割する組織の再編成を評価できます。

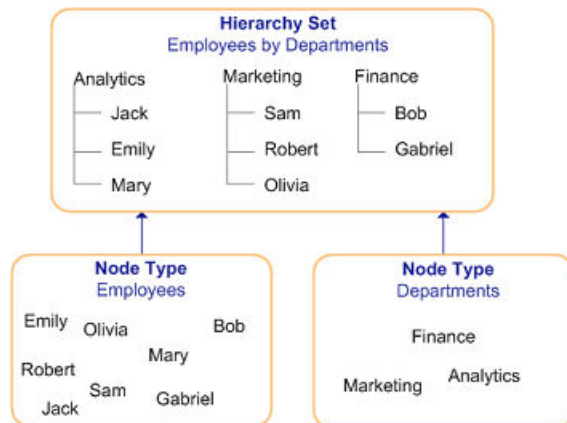
- 階層セット・データ・オブジェクトには1つ以上のノード・タイプが必要で、ノード・セット・オブジェクトで参照されます。

詳細は、次を参照してください:

- [データ・オブジェクトおよびデータ・チェーンの操作](#)
- [階層セットの検査](#)

### 例 18-3 階層セットの例

次の図は、分析、財務およびマーケティング階層で構成される階層セットを表しています。



この例の階層セットは、次の例に示すように、部門ノードは従業員子ノードを持つことができ、従業員ノードは子ノードを持つことができないことを指定します。

Name & Description	Child Option	Child Node Types
Departments	Selected	Employees
Employees	None	

部門ノードに部門ノードと従業員ノードの両方を含めることのできるビューポイントを作成する必要があります。次の例に示すように、部門ノードは従業員と部門の**子ノード・タイプ**を持つことができることを指定する階層セットを作成します。

Name & Description	Child Option	Child Node Types
Departments	Selected	Departments Employees
Employees	None	

階層セットをビューポイントのデータ・チェーンに含めます。

## ビデオ

目的	参照するビデオ
階層セットの作成について学習します。	 <a href="#">階層セットの作成</a>

## 階層セットの作成

階層セットを作成する場合、セット内で操作するノード・タイプを選択するとともに、ノード・タイプで子を許可するかどうかを選択します。ノード・タイプに子がある場合、子のノード・タイプも選択する必要があります。たとえば、勘定科目ノード・タイプの子が許可された勘定科目ロールアップ・ノード・タイプを持つ場合があります。詳細は、[階層セットの操作](#)を参照してください。

### ベスト・プラクティス

次の場合は、新しい階層セットを作成することがベスト・プラクティスです。

- 同じノード・タイプ間の異なる関係を使用して代替階層を定義する([異なる親子関係を使用する代替ビューポイント](#)を参照)。
- 別の階層セットとは異なるノード・タイプを使用して代替階層を定義する([異なるノード・タイプを使用する代替ビューポイント](#)を参照)
- 階層をバージョン管理する。たとえば、階層セットを使用しているときに、再編成が原因でこのセットが次年度に変更されることがわかっている場合、新しい階層セットを作成してこの再編成を表し、これを計画のために使用します。

### 考慮事項

- 標準および未バインド・ディメンション:
  - 未バインド階層セットの場合:
    - \* **ユーザー・アプリケーション内のものを除く、すべての未バインド階層セット:** 標準、レガシー GL または参照クラス・ノード・タイプを追加できます。すべてのノード・タイプが同じクラスである必要があります。
    - \* **ユーザー・アプリケーション内の未バインド階層セットのみ:** ユーザーとユーザー・ロールアップの両方のクラス・ノード・タイプを追加できますが、他のノード・タイプ・クラスを追加することはできません。

- マッピング・バインド済階層セットの場合(バインディングおよびバインドされたデータ・オブジェクトの理解を参照): 同じクラス・ノード・タイプのすべてを追加するか、標準クラスと 1 つの特殊クラス(レガシー GL または参照)ノード・タイプの混合を追加できます。両方の特殊タイプを一緒に追加することはできません。
- マッピング・バインド済以外の他のすべてのバインドされた階層セットの場合: 標準クラス・ノード・タイプのみを追加できます。
- 参照ディメンションの場合、レガシー GL または参照クラス・ノード・タイプを階層セット(バインド済または未バインド)に追加できます。すべてのノード・タイプが同じクラスである必要があります。

#### 階層セットを作成するには:

1. 「階層セット」で、「作成」をクリックします。
2. アプリケーション・ディメンションを選択し、階層セットの名前と説明を定義し、「作成」をクリックします。  
階層セットのインスペクタが開きます。階層セットを使用できるようにするには、先に階層セットのノード・タイプを選択および構成する必要があります。
3. 「定義」タブを選択し、「編集」をクリックし、「管理」をクリックし、階層セット内で使用する 1 つ以上のノード・タイプを選択して、「OK」をクリックします。

#### ノート:

選択できるノード・タイプのクラスは、前述の「考慮事項」を参照してください。特殊ノード・タイプ・クラスの場合、クラスは、ノード・タイプ・セレクトアのノード・タイプ名の後に表示されます。

4. ノード・タイプごとに、「子オプション」を選択します。
  - **任意** - 任意のノード・タイプが子として許可されます
  - **なし** - いずれのノード・タイプも子として許可されません
  - **選択済** - 選択したノード・タイプのみが子のタイプとして許可されます。「子ノード・タイプ」については、子のノード・タイプを選択し、「OK」をクリックします。
5. 次のオプションの設定を選択します。
  - **共有ノードを許可**: 階層セットの共有ノードを構成します。共有ノードを使用すると、階層セット内で同じノードが複数存在できます。

#### ノート:

デフォルトでは、1 つの階層セット内で複数の共有ノードが許可されます。

- **カスタム順序の使用**: 階層ビューポイント内でノードの並替えを許可する場合に選択します。これを選択しない場合、ノードは英数字順にソートされます。これを選択した場合、カスタム順序を使用してノードをソートできます。
- **親ノードからまずグループ化**: 親ノードと最下位ノードが混在するときに親ノードを兄弟の先頭に配置する場合に選択します。

- **次を基準に最下位ノードをソート:** 「親ノードからまずグループ化」を有効にしたときに、親の下での最下位ノードのソート順(「英数字」または「カスタム」)を選択します。

 **ノート:**

このフィールドは、「親ノードからまずグループ化」を有効にしたときのみ表示されます。

次の表は、これらの設定が連携して親ノードおよび最下位ノードのソート順を制御する方法を示しています:

シナリオ	カスタム・ソートの使用	親ノードからまずグループ化	次を基準に最下位ノードをソート	並替えアクション
すべてのノードを一緒にグループ化、英数字順にソート	False	False	(使用不可)	すべてのノードで無効
すべてのノードを一緒にグループ化、カスタム・ソート順	True	False	(使用不可)	すべてのノードで有効
親ノードおよび最下位ノード別に兄弟をグループ化、すべてを英数字順にソート	False	True	英数字	すべてのノードで無効
親ノードおよび最下位ノード別に兄弟をグループ化、親ノードを英数字順にソートし最下位ノードをカスタム・ソート	False	True	カスタム	親ノードで無効。 最下位ノードで有効。
親ノードおよび最下位ノード別に兄弟をグループ化、親ノードをカスタム・ソートし最下位ノードを英数字順にソート	True	True	英数字	親ノードで有効。 最下位ノードで無効。
親ノードおよび最下位ノード別に兄弟をグループ化、両方をカスタム・ソート	True	True	カスタム	すべてのノードで有効。

6. 「保存」をクリックします。


## 階層セットの検査

階層セット・インスペクタから、階層セットに関する情報を表示および編集できます。詳細は、[階層セットの操作](#)を参照してください。

## ビデオ

目的	参照するビデオ
階層セットの作成について学習します。	 <a href="#">階層セットの作成</a>



階層セットを検査するには:

1. 「階層セット」をクリックします。
2. 検査する階層セットについて、「アクション」列で  をクリックして、「検査」を選択します。
3. 次のタブで、使用可能なオプションから選択します。
  - **全般:** 階層セットのアプリケーション、ディメンション、ステータスおよびバインディング・ステータスの情報が表示されます。 [バインディング・ステータス](#)を参照してください。
  - 「**編集**」をクリックして、名前、説明およびステータスを変更します。 [データ・オブジェクトおよびデータ・チェーンのライフサイクルの理解](#)を参照してください。
  - **定義:** ノード・タイプが子を許可するかどうか、許可する場合は許可される子ノード・タイプは何か、階層セットで共有ノードは許可されるかどうか、ノードにカスタム順序は許可されるかどうかなど、この階層セットのノード・タイプを構成します。 [ノード・タイプの検査](#)を参照してください
  - **検証:** カスタム・ビジネス・ロジックを追加して、カスタム検証を作成することによって階層セットのデータ・ルールを適用します。 [カスタム検証の操作](#)を参照してください
  - **データ・チェーン**—ノード・タイプ、ノード・セットおよび階層セットによって参照されるビューポイントを表示するための、クリック可能なグラフィックを提供します。
  - **権限**—階層セットに対するユーザーおよびグループ権限を設定します。 [権限の操作](#)を参照してください。
  - **ポリシー**—階層セットの承認ポリシーを構成します。 [ポリシーの構成](#)を参照してください。

## 階層セットの検索

「階層セット」リストで検索を実行すると、階層セットの名前と説明、アプリケーション名およびディメンション名のテキストが検索されます。検索テキストを含む名前と説明が結果ウィンドウに太字のフォントで表示されます。アーカイブされた階層セットを検索に含めることもできます。

「階層セット」リスト内を検索するには:

1. 「階層セット」から、 をクリックします。
2. (オプション)アーカイブ済の階層セットを検索に含める場合は、 をクリックし、「**アーカイブ済の表示**」を選択します。

3. 検索するテキスト文字列を入力します。入力を終了すると検索が自動的に実行されます。  
検索を終了するには、**X** をクリックします。

## ノード・セットの操作

ノード・セットは、ビューポイントで使用できるノードのグループを定義します。ノード・セットには、階層セット内のすべての階層を含めることも、最上位ノードのサブセットのみを使用して一部の階層を除外することもできます。たとえば、地理的階層の **US** ブランチのみを操作する場合は、**US** 階層のみを含むノード・セットを定義します。

### ヒント:

ノード・セットの最上位ノードを定義するには、要求を使用してそれらをビューポイントに追加または挿入します([要求を使用する変更](#)を参照)。

ノード・セットは階層またはリストで構成できます。たとえば、ノード・セットには国コードのリスト、またはコスト・センター関係の階層を含めることができます。ノード・セットのノード・タイプが定義されるデータ・オブジェクトは、ノード・セットがリストか階層かによって異なります。

- ノード・セットが階層を表す場合、ノード・タイプはノード・セットで使用される階層セットによって指定されます。
- ノード・セットがリストを表す場合、ノード・タイプはノード・セットによって指定されます。

ノード・セットと他のデータ・オブジェクトの関係は、ノード・セットがリスト用か階層用かによって異なります。

- 階層: ノード・セットは **1** つの階層セットを参照します。階層セットは、ノード・セットのノード・タイプを定義します。
- リスト: ノード・セットは **1** つ以上のノード・タイプを参照します。  
複数のノード・タイプを使用して、複数のタイプのノードを含むリストを作成します。たとえば、コスト・センターと調整コスト・センターのノード・タイプがあり、両方のタイプのコスト・センターを含むリストを作成するとします。それには、両方のノード・タイプを参照するノード・セットを定義します。

### ノート:

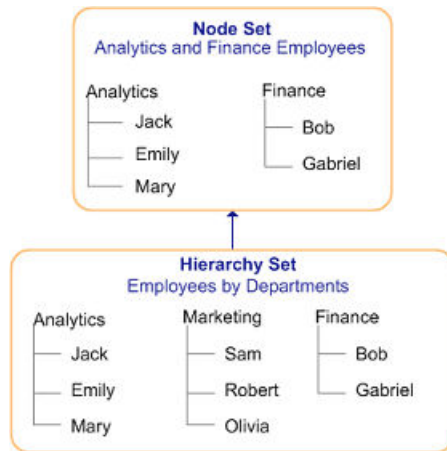
1 つのノード・セットを複数のビューポイントで使用できます。

詳細は、次を参照してください:

- [データ・オブジェクトおよびデータ・チェーンの操作](#)
- [ノード・セットの検査](#)

### 例 18-4 ノード・セットの例

[階層のデータ・チェーンの例](#)は次の図に示すように、階層セットの分析および財務階層を含め、マーケティング階層を除外するノード・セットを使用します。



ノード・セットは、次の例に示すように、分析および財務部門を最上位ノードとして定義します。

Top Nodes

Name
Analytics
Finance

マーケティング階層のみを含むビューポイントを作成する必要があるとします。前の例で使用したのと同じ階層セットを使用するノード・セットを作成します。マーケティング・ノードは次の例に示すように、ノード・セットの唯一の最上位ノードです。

Top Nodes

Name
Marketing

## ビデオ

目的	参照するビデオ
ノード・セットの作成について学習します。	<a href="#">ノード・セットの作成</a>

## ノード・セットの作成

### ベスト・プラクティス

次の場合は、新しいノード・セットを作成することがベスト・プラクティスです。

- 階層の異なる階層セットを指し示す。
- リストの異なるノード・タイプを指し示す。
- 異なる最上位ノードを持つビューポイントを表示する。

詳細は、[ノード・セットの操作](#)を参照してください。



## ビデオ

目的	参照するビデオ
ノード・セットの作成について学習します。	 <a href="#">ノード・セットの作成</a>

## 考慮事項

- 未バインドのリスト・ベースのノード・セットの場合:
  - **ユーザー・アプリケーション内のものを除く、すべての未バインド・ノード・セット:** 標準、レガシー GL または参照クラス・ノード・タイプを追加できます。すべてのノード・タイプが同じクラスである必要があります。
  - **ユーザー・アプリケーション内の未バインド・ノード・セットのみ:** ユーザーとユーザー・ロールアップの両方のクラス・ノード・タイプを追加できますが、他のノード・タイプ・クラスを追加することはできません。
- バインド済または一部バインド済のリスト・ベースのノード・セットの場合: 標準クラス・ノード・タイプのみを追加できます。
- 参照ディメンションの場合: レガシー GL または参照クラス・ノード・タイプのみを追加できます。すべてのノード・タイプが同じクラスである必要があります。

## ノード・セットを作成するには:

1. 「ノード・セット」で、「作成」をクリックします。
2. アプリケーション・ディメンションを選択し、ノード・セットの名前と説明を定義し、「作成」をクリックします。  
ノード・セットのインスペクタが開きます。
3. 「全般」を選択し、「ソース・タイプ」で、ノード・セットを階層とリストのどちらとして表示するかを選択します。階層を選択する場合、使用する階層セットも選択する必要があります。
4. 「保存」をクリックします。
5. 次のいずれかを行います:
  - リストを使用する場合、「定義」を選択し、「編集」をクリックし、「管理」をクリックして、ノード・セットに含めるノード・タイプを選択します。「保存」をクリックします

### ノート:


選択できるノード・タイプのクラスは、前述の「考慮事項」を参照してください。特殊ノード・タイプ・クラスの場合、クラスは、ノード・タイプ・セレクトアのノード・タイプ名の後に表示されます。


- 階層を使用する場合、選択した階層セットに基づいてノード・タイプがすでに割り当てられています。
6. オプション: 「定義」で、プロパティを編集するノード・タイプの名前をクリックします。

## ノード・セットの検査

ノード・セット・インスペクタから、ノード・セットに関する情報を表示および編集できます。詳細は、[ノード・セットの操作](#)を参照してください。

### ビデオ



目的	参照するビデオ
ノード・セットの作成について学習します。	 <a href="#">ノード・セットの作成</a>


1. 「**ノード・セット**」をクリックします。
2. 検査するノード・セットについて、「**アクション**」列で  をクリックして、「**検査**」を選択します。
3. 次のタブで、使用可能なオプションから選択します。
  - **全般**—ノード・セットのアプリケーション、ディメンション、ステータスおよびバインディング・ステータスの情報が表示されます。[バインディング・ステータス](#)を参照してください。  
「**編集**」をクリックして、名前、説明およびステータスを変更します。[データ・オブジェクトおよびデータ・チェーンのライフサイクルの理解](#)を参照してください。
  - **定義**—階層内のノード・タイプの表示、またはリストへのノード・タイプの追加を行います。最上位ノードを追加するには、[最上位ノードの追加](#)を参照してください。
  - **データ・チェーン**—ノード・タイプ、階層セット(該当する場合)およびノード・セットによって参照されるビューポイントを表示するための、クリック可能なグラフィックを提供します。

## ノード・セットの検索

「ノード・セット」リストで検索を実行すると、ノード・セットの名前と説明、アプリケーション名およびディメンション名のテキストが検索されます。検索テキストを含む名前と説明が結果ウィンドウに太字のフォントで表示されます。アーカイブされたノード・セットを検索に含めることもできます。

「ノード・セット」リスト内を検索するには:

1. 「**ノード・セット**」から、 をクリックします。
2. (オプション)アーカイブ済のノード・セットを検索に含める場合は、 をクリックし、「**アーカイブ済の表示**」を選択します。
3. 検索するテキスト文字列を入力します。入力を終了すると検索が自動的に実行されます。

検索を終了するには、 をクリックします。

## ビューポイントの理解

ビューポイントは、ユーザーがノードを操作できるユーザー・インタフェースを提供します。ビューポイントの使用可能なノードと階層関係は、そのデータ・チェーンによって定義されます。

ビューポイントに次のアイテムを構成できます。

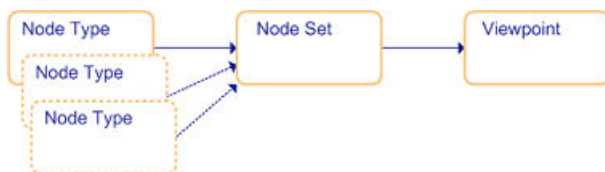
- 編集できるプロパティ。
- ユーザーがビューポイントで実行できるアクション。次のアクションを有効にできます。
  - 追加
  - 挿入
  - 移動
  - 除去
  - 削除
  - 並替え

「**並替え**」が選択されている場合、ユーザーはノードの順序を変更できます。「**並替え**」は、データ・チェーンの階層セットがカスタム・ソート順を許可するように構成されている場合にのみ選択できます。
- プロパティのラベル。たとえば、「国」という名前のプロパティを国名と表示する場合があります。

ビューポイントは 1 つのノード・セットを参照し、ビューポイントのデータ・チェーンのオブジェクトはビューポイントがリストと階層のどちらを表すかに依存します。

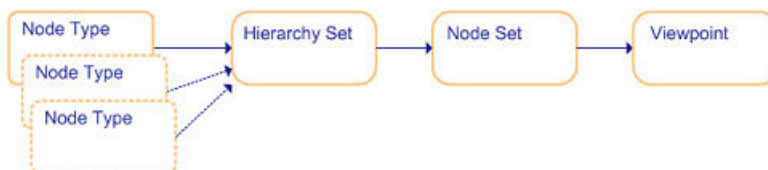
### リストのデータ・チェーン

リストを表すビューポイントは、1 つのノード・セットを参照します。次の図に示すように、ノード・セットは 1 つ以上のノード・タイプを参照します。



### 階層のデータ・チェーン

階層を表すビューポイントは、1 つのノード・セットを参照します。ノード・セットは 1 つの階層セットを参照し、階層セットは 1 つ以上のノード・タイプを参照します。次の図は、階層を含むビューポイントのデータ・チェーンを示します。

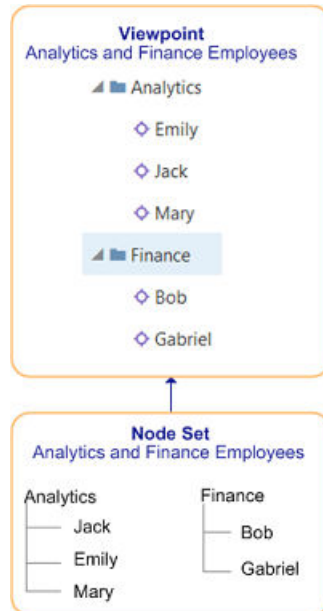


詳細は、次を参照してください:

- データ・オブジェクトおよびデータ・チェーンの操作
- ビューポイントの操作

### 例 18-5 ビューポイントの例

次の図に示すように、階層のデータ・チェーンの例のビューポイントは、「分析」および「財務」階層を含むノード・セットを使用します。



ユーザーが実行できるアクションとビューポイントで編集できるプロパティを指定できます。次の例では、ユーザーはノードの挿入と移動のみが可能で、「説明」プロパティを編集できますが、「名前」プロパティは編集できません。

#### Allowed Actions

Add	<input checked="" type="checkbox"/> Move	Delete
<input checked="" type="checkbox"/> Insert	Remove	<input type="checkbox"/> Reorder

#### Editable Properties

Name/Label & Description	Editable
<b>Core.Name</b> Node Name	<input type="checkbox"/>
<b>Core.Description</b> Node Description	<input checked="" type="checkbox"/>

## ビデオ

目的	参照するビデオ
ビューポイントの作成について学習します。	 <a href="#">ビューおよびビューポイントの作成</a>

## ビューポイントのアーカイブ、アーカイブ解除および削除

不要になった場合は、アクティブなビューポイントを実アーカイブできます。ビューポイントを実アーカイブした後、それをアクティブ・ステータスに戻したり、削除することができます。


### 考慮事項


- ビューのビューポイントを実アーカイブ、アンアーカイブまたは削除するには、ビューの所有者権限が必要です。
- ビューポイントは、削除する前に実アーカイブする必要があります。
- サブスクリプションのソースまたはターゲットであるビューポイントを実アーカイブする場合:
  - 実アーカイブするビューポイントがサブスクリプションのソース・ビューポイントである場合、実アーカイブする前に警告が表示されます。
  - 実アーカイブするビューポイントがサブスクリプションのターゲット・ビューポイントである場合、そのビューポイントに対してすべてのサブスクリプションが自動的に無効になります。
- 実アーカイブ済ビューポイントを実削除するには、次のいずれかの依存性も持つことはできません:
  - ディメンションにバインドできません。
  - アクティブなサブスクリプション(ソースまたはターゲット・ビューポイントとして)、比較プロファイルまたは定義済のパブリック抽出を持つことはできません。プライベート抽出はビューポイントの実削除を阻止しません。それらはビューポイントとともに削除されます。
  - 「完了」ステータスではない要求を持つことはできません。

ビューポイントを実アーカイブまたはアンアーカイブするには:

1. ビュー・インスペクタの「ビューポイント」タブから、「編集」をクリックします。
2. 次のいずれかのアクションを実行します。
  - 実アーカイブするには: 「ステータス」で「実アーカイブ済」を選択し、「保存」をクリックします。
  - アンアーカイブするには: 「ステータス」で「アクティブ」を選択し、「保存」をクリックします。

ビューポイントを実削除するには:

1. ビュー・インスペクタの「ビューポイント」タブで、「フィルタ」 をクリックして「実アーカイブ済の表示」を選択し、実アーカイブ済ビューポイントを表示します。
2. 「編集」をクリックします。

3. アーカイブ済ビューポイントの「アクション」列で、「アクション」をクリックし、「削除」を選択してから「はい」をクリックします。  
ビューポイントにまだアクティブな依存性がある場合(前述の「考慮事項」の項を参照)、問題を特定するメッセージが表示されます。依存性を解決する適切なアクションを実行し(たとえば、抽出またはサブスクリプション定義の削除、アクティブな要求の削除または完了、異なるビューポイントへのディメンションのバインド)、アクションを再試行してください。

ビューポイントを削除すると、「ビュー」ページまたはビュー・インスペクタの「ビューポイント」タブに表示されなくなります。削除したビューポイントと同じ名前で新しいビューポイントを作成できます。要求および監査履歴は、削除したビューポイントの履歴を引き続き表示します。

## バイディングおよびバインドされたデータ・オブジェクトの理解

バイディングは、バインドされたデータ・オブジェクトが外部アプリケーションの要件に準拠するようにするために、Oracle Enterprise Data Management Cloud アプリケーションでディメンションとビューポイントの間に作成されます。ビューポイントおよびその関連データ・チェーン・オブジェクトがディメンションにバインドされている場合は、それらのオブジェクトが外部アプリケーションで使用されることを意味します。

バインドされた参照ディメンションの場合を除き、バインドされたオブジェクトへの変更は、外部アプリケーションからインポートされ、外部アプリケーションにエクスポートされます。たとえば、Oracle Enterprise Data Management Cloud で、バインドされたビューポイントに 10 個の新規ノードを追加すると、ディメンションを次回エクスポートするときに、10 個の新規ノードは外部アプリケーションへのエクスポートの一部になります。

Oracle Enterprise Data Management Cloud のバインドには 3 つのタイプがあります:

- **ディメンション・バインド:** アプリケーションの登録時に自動的に作成されます。アプリケーションに対してディメンションが登録されると、Oracle Enterprise Data Management Cloud によって 1 つ以上のビューポイント(アプリケーション・タイプおよび登録時に提供される情報に基づく)および一連の関連データ・チェーン・オブジェクトが自動的に作成されます。このビューポイントおよび関連するデータ・チェーン・オブジェクトは、ディメンション・レベルで外部アプリケーションにバインドされます。

 ノート:

- Oracle Financials Cloud 一般会計ディメンションを複数のビューポイントにバインドして、複数のツリーおよびツリー・バージョンをサポートできます。ツリーまたはツリー・バージョンを作成するためのバインディングのコピーを参照してください。
  - 他のすべてのアプリケーション・タイプは、単一のディメンション・バインドをサポートします。つまり、Oracle Financials Cloud 一般会計を除くすべてのアプリケーション・タイプで、ディメンションのバインド先ビューポイントを変更できますが、ディメンションを複数のビューポイントにバインドすることはできません。
- **マップ・バインド:** 様々なソース・アプリケーションのディメンションからターゲット・アプリケーションのディメンションにノード・タイプをマップできるように手動で作成されます。マップ・バインドを作成すると、マッピング階層セット、ノード・セットおよびビューポイントも作成されます。1つのディメンションに対して作成できるマップ・バインドは1つのみですが、マッピングでは複数のソース・システムをマップできます。マップ・バインドの作成を参照してください。
  - **参照バインド:** 参照ディメンションに対して手動で作成されます。参照バインドを作成すると、バインドをサポートするために必要なデータ・チェーン・オブジェクトも作成されます(ない場合)。これには、ビューポイント、階層セット(必要な場合)、ノード・セットおよび参照クラス・ノード・タイプが含まれます。参照バインドは、データのインポートおよびエクスポートには使用されません。参照ディメンションには複数の参照バインドを作成できます。参照バインドの作成を参照してください。

ディメンションに対してインポートおよびエクスポートされたデータは、ディメンションにバインドされたデータ・オブジェクトによって格納および表示されます。ディメンションが他のデータ・オブジェクトに関連付けられている場合、これらのオブジェクトは非バインドです。ディメンションのバインドされたビューポイントに含まれるデータのみがインポートおよびエクスポートされます。

次のリストに、バインドおよびバインドされたデータ・オブジェクトに関する考慮事項を示します:

- ディメンションのデータを外部アプリケーションの要件に確実に準拠させる場合、関連データ・オブジェクトでの設定によって一部のバインディングの設定は上書きできません。たとえば、バインディングで共有ノードが有効化されていない場合、ディメンションにバインドされた階層セットで共有ノードを有効化することはできません。バインディング・ルールにより、このようなディメンションの設定が上書きされないようにします。バインディング・ルールの理解を参照してください。
- ディメンションにバインドされたデータ・オブジェクトおよびビューポイントは変更できません。汎用アプリケーションについては [Planning およびフリーフォーム・アプリケーションのディメンションへのビューポイントのバインド](#)、または汎用アプリケーションのユーザー定義ディメンションにバインドされたビューポイントの変更を参照してください。
- アプリケーション登録プロセスの一部として作成されたバインド(ディメンション・バインドなど)を手動で削除することはできません。マップ・バインドや参照バインドなど、手動で作成されたバインドは削除可能です。

 ノート:

バイディング・ルールに準拠する必要があるのは、ディメンションにバインドされたデータ・オブジェクトのみです。バインドされていないデータ・オブジェクトを使用すると、ディメンションに対する潜在的な変更がディメンションの現在のバイディング・ルールに準拠していない場合に、これらの変更をモデル化および評価できます。

## バイディング・ステータス

データ・チェーン・オブジェクトのバイディング・ステータスによって、そのデータが外部アプリケーションで使用されているかどうかを示されます。データ・オブジェクトがバイディングされるのは、データ・オブジェクトそのものがバイディングで使用される場合、またはバインドされたデータ・チェーン・オブジェクトがデータ・オブジェクトに含まれる場合です。たとえば、バイディングで使用されないビューポイントに、ディメンションにバインドされたノード・セットが含まれる場合、そのビューポイントのステータスは「**ノード・セットのバインド済**」になります。インポートおよびエクスポート操作時にデータ整合性を保証するため、アプリケーション固有の検証ルールをバイディング・ステータスが「**未バインド**」以外のデータ・オブジェクトに対して実行します。[検証および制約の理解](#)を参照してください。

次の表に、データ・オブジェクトのバイディング・ステータスを示します。

表 18-1 データ・オブジェクトのバイディング・ステータス

バイディング・ステータス	ビューポイント	ノード・セット	階層セット	ノード・タイプ
<b>バインド済</b>	ビューポイントはバイディングで使用されています。	ノード・セットはバインドされたビューポイントによって使用されています。	階層セットはバインドされたビューポイントによって使用されています。	ノード・タイプはバインドされたビューポイントによって使用されています。
<b>ノード・セットのバインド済</b>	ビューポイント自体はバインドされていませんが、バインドされたノード・セットを使用します。	ノード・セットはバインドされたビューポイントによって使用されています。	階層セットには該当しません	ノード・タイプには該当しません
<b>階層セットのバインド済</b>	ビューポイント自体はバインドされていませんが、バインドされた階層セットを使用します。	ノード・セットはバインドされていませんが、バインドされた階層セットを使用します。	階層セットはバインドされたビューポイントによって使用されています。	ノード・タイプには該当しません
<b>ノード・タイプのバインド済</b>	ビューポイント自体はバインドされていませんが、バインドされたノード・タイプを使用します。	ノード・セットはバインドされていませんが、バインドされたノード・タイプを使用します。	階層セットはバインドされていませんが、バインドされたノード・タイプを使用します。	バインド済および未バインドのノード・タイプを含む場合があります。



表 18-1 (続き) データ・オブジェクトのバイディング・ステータス

バイディング・ステータス	ビューポイント	ノード・セット	階層セット	ノード・タイプ
マッピング・バインド済	ビューポイントはマップ・バインドで使用されています。参照およびレガシー GL クラス・ノード・タイプなどの特殊ノード・タイプを含む抽出で使用できます。	ノード・セットはマップ・バインドで使用されています。	階層セットはマップ・バインドで使用されています。	バインド済および未バインドのノード・タイプを含む場合があります。
未バインド	ビューポイントはバイディングで使用されていませんが、含まれるデータ・チェーン・オブジェクトすべてのバイディング・ステータスが「未バインド」です。	ノード・セットはバイディングで使用されていませんが、含まれるデータ・チェーン・オブジェクトすべてのバイディング・ステータスが「未バインド」です。	階層セットはバイディングで使用されていませんが、含まれるデータ・チェーン・オブジェクトすべてのバイディング・ステータスが「未バインド」です。	ノード・タイプのバイディング・ステータスが「未バインド」です。

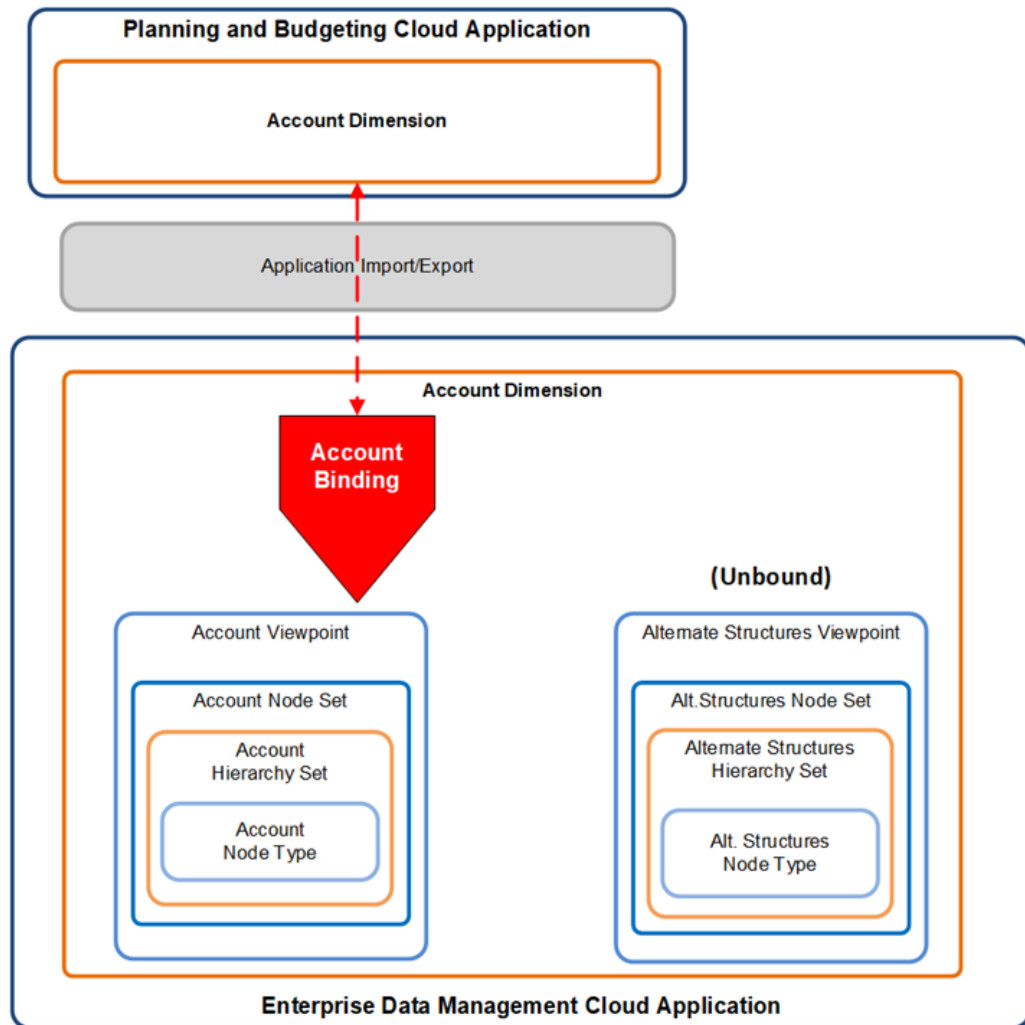
詳細は、次を参照してください:

- [ディメンションの理解](#)
- [ディメンションにバインドされたオブジェクトの特定](#)
- [アプリケーションおよびデータ共有の理解](#)

## ディメンション・バインドの例

### バイディングの例

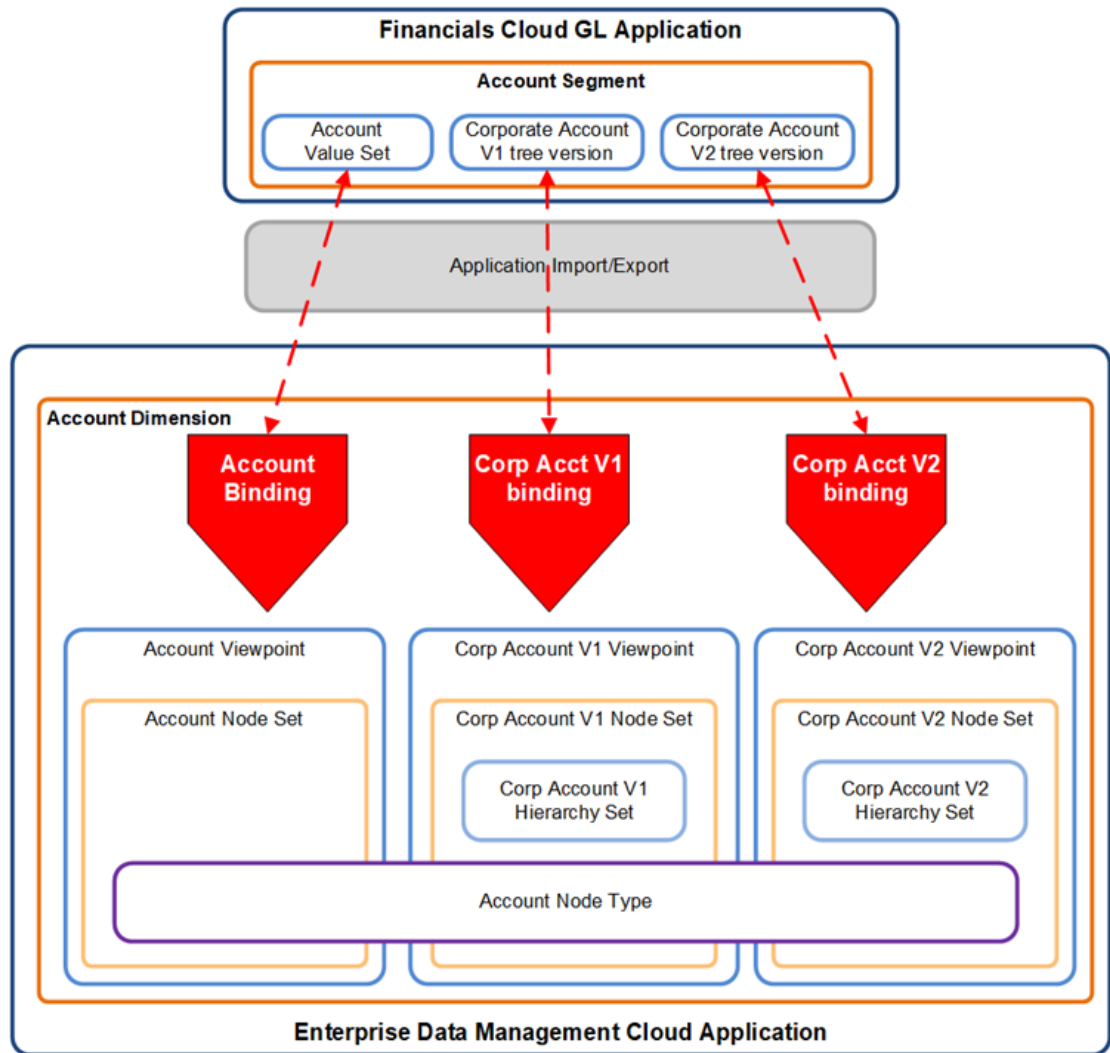
バイディングの原則を理解するために、Planning アプリケーションのバイディングを確認してみます。



この図でのバインディングについて、次の点に注意してください。

- **Planning** アプリケーションでは、ディメンションは単一のビューポイントにのみバインドできます。この例では、**Account** ディメンションが **Account** ビューポイントにバインドされますが、**Alternate Structures** ビューポイントはバインド解除されます。データはバインドされたビューポイントに対してのみインポートおよびエクスポートされるため、インポートおよびエクスポート操作は **Alternate Structures** ビューポイントには影響しません。[ディメンションのインポート](#) を参照してください。
- **Account** バインディングは、Oracle Enterprise Data Management Cloud で **Account** ディメンションと **Account** ビューポイントの間にあります。このバインディングによって、外部アプリケーションの **Account** ディメンションに対するインポートおよびエクスポートが制御され、Oracle Enterprise Data Management Cloud 内でバインディング・ルールが適用されます。
- **Account** ビューポイントに含まれるすべてのデータ・チェーン・オブジェクトも、**Account** ディメンションにバインドされます。

ここで、Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションのバインディングを確認してみます。



Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションでは、複数のビューポイントへのディメンションのバインドがサポートされています。この例では、Oracle Enterprise Data Management Cloud の Account ディメンションは、3 つのビューポイントにバインドされています。各バインディングによって、外部アプリケーションの特定のデータ構造に対するインポートおよびエクスポートが制御され、Oracle Enterprise Data Management Cloud 内でバインディング・ルールが適用されます。

- **Account ビューポイントのバインディング** - 外部アプリケーションの Account 値セットに対するインポートおよびエクスポートを制御します。
- **Corporate Account V1 ビューポイントのバインディング** — 外部アプリケーションの Corporate Account V1 ツリー・バージョンに対するインポートおよびエクスポートを制御します。
- **Corporate Account V2 ビューポイントのバインディング** — 外部アプリケーションの Corporate Account V2 ツリー・バージョンに対するインポートおよびエクスポートを制御します。


Oracle Financials Cloud 一般会計情報モデルの詳細は、[Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションの操作](#)を参照してください。

## ディメンションにバインドされたオブジェクトの特定

このトピックでは、ディメンションにバインドされているオブジェクトを識別する様々な方法を説明します。

### ディメンションのバインドされたビューポイントの識別

ディメンションにバインドされたビューポイントを見つけるには、次のステップをとります:


1. 「アプリケーション」をクリックします。
2. アプリケーションの「アクション」列で  をクリックして、「検査」を選択します。
3. 「ディメンション」をクリックします。  
 「ディメンション」タブに、登録されたアプリケーションのディメンションおよびディメンションがバインドされたビューポイントが表示されます。次の例では、Corporate Account ディメンションが Corporate Account ビューポイントおよび ALL CORPORATE ACCOUNTS | V1 ビューポイントにバインドされ、Corporate Company ディメンションが ALL CORPORATE COMPANY | V1 ビューポイントおよび Corporate Company ビューポイントにバインドされています。

<a href="#">General</a> <a href="#">Dimensions</a> <a href="#">Connection</a> <a href="#">Registration</a> <a href="#">Permissions</a> <a href="#">Policies</a>		
Dimensions		
Name	Dimension Type	Bound Viewpoint(s)
Corporate Account Corporate Account	Natural Account Segment	Corporate Account ALL CORPORATE ACCOUNTS   V1
Corporate Company Corporate Company	Segment	ALL CORPORATE COMPANY   V1 Corporate Company

バインディングを検査し、ディメンションがバインドされたビューポイントを変更できます。[バインディングの検査および編集](#)を参照してください。

### ビューのバインドされたビューポイントおよびバインドされていないビューポイントの識別

ビューに含まれるバインドされたビューポイントおよびバインドされていないビューポイントを識別するには、次のステップをとります:

1. 「ビュー」をクリックします。
2. ビューの「アクション」列で  をクリックして、「検査」を選択します。
3. 「ビューポイント」をクリックします。  
 「ビューポイント」タブには、次の情報が表示されます:
  - 登録されたアプリケーションのビューポイント。
  - 各ビューポイントのディメンションとアプリケーション。

- バインディング・ステータス**列は、ビューポイントのバインディング・ステータスを示します。[バインディング・ステータス](#)を参照してください。  
 次の例は、勘定科目メンテナンス・ビューの 3 つのビューポイントを示しています。**Corporate Account** ビューポイントには **Corporate Account** ディメンションにバインドされたノード・セットが含まれ、**Plan Account** ビューポイントには **Account** ディメンションにバインドされたノード・セットが含まれ、**Acquired Account** ビューポイントには **Account** ディメンションにバインドされたノード・タイプが含まれます。

Name and Description	Application and Dimension	Node Set	Binding Status	Actions
<b>Corporate Account</b> Accounts in Financials Cloud GL	Financials Cloud Corporate Account	ALL CORPORATE ACCOUNTS   ...	● Node Set Bound	
<b>Plan Account</b> Planning accounts	Corporate Planning Account	Account	● Node Set Bound	
<b>Acquired Account</b> Accounts from acquired GL	Acquired GL (Legacy) Account	Acquired Account	● Node Type Bound	

### バインド済データ・オブジェクトの識別

「ノード・タイプ」、「階層セット」および「ノード・セット」ページには、それらのデータ・チェーン・オブジェクトのバインディング・ステータスが示されます。各ページに、データ・チェーン・オブジェクトのバインディング・ステータスを示す「**ディメンションおよびバインド**」列が含まれます。

詳細は、[バインディングおよびバインドされたデータ・オブジェクトの理解](#)を参照してください。

次の例には、**Corporate Planning** アプリケーションの 2 つのノード・セットがあります。**New Cost Center** ノード・セットには **Cost Center** ディメンションにバインドされたノード・タイプが含まれ、**Product** ノード・セットは **Product** ディメンションにバインドされています。

Name and Description	Structure	Application and Application Type	Dimension and Binding Status
 <b>New Cost Center</b> Combines cost center and department	Hierarchy	Corporate Planning Enterprise Planning and Budgeting Cloud	Cost Center ● Node Type Bound
 <b>Product</b> Product dimension for Corp Plan	Hierarchy	Corporate Planning Enterprise Planning and Budgeting Cloud	Product ● Bound

## バインドの作成

ディメンション・バインドはアプリケーション登録時に自動的に作成されますが、マップ・バインドおよび参照バインドは、ディメンション・インスペクタで手動で作成します。参照ディメンションには、参照バインドのみを作成します。その他のディメンション・タイプには、マップ・バインドを作成します。

関連リンク:

- [マップ・バインドの作成](#)
- [参照バインドの作成](#)

## マップ・バインドの作成

マップ・バインドでは、複数の異なるソース・アプリケーションのディメンションからターゲット・アプリケーションのディメンションにノード・タイプをマップできます。

### マップ・バインドの作成

マップ・バインドを作成するには:

1. ターゲット・ディメンションが含まれているアプリケーションを検査します。[アプリケーションの検査](#)を参照してください。
2. 「ディメンション」タブで、ターゲット・ディメンションをクリックします。
3. 「バインド」タブで、「**バインドの作成**」をクリックします。

#### ノート:

マップ・バインドがすでに存在する場合、「**バインドの作成**」ボタンは表示されません。

4. 名前、説明(オプション)およびマップ・バインドの少なくとも 1 つのターゲット・ノード・タイプを入力し、「**作成**」をクリックします。

#### ノート:

同じクラス・ノード・タイプのすべてを追加するか、標準クラスと 1 つの特殊クラス(レガシー GL または参照)ノード・タイプの混合を追加できます。両方の特殊タイプを一緒に追加することはできません。

これらのデータ・チェーン・オブジェクトとともに、マップ・バインドが作成されます:

- 新しい階層セットが作成され、マップ・バインドの作成時に特定したターゲット・ノード・タイプが階層セットに追加されます。
- 新しいノード・セットが作成され、新しい階層セットがポイントされます。
- ターゲット・アプリケーションのデフォルト・ビューに新しいマッピング・ビューポイントが作成され、新しいノード・セットを使用するように設定されます。

#### ノート:

マップ・バインドを再作成しなくても、マップ・バインドに別のソース・システムを追加できます。マップ・バインドの階層セットを編集して新しいソース・ノード・タイプを追加した後、新しいソース・ノード・タイプの新しいマッピング・キーを追加します。[ソース・ノードのターゲット・ノードへのマッピング](#)を参照してください。


## マッピング・キーの定義

マッピング・キーを作成することにより、ターゲット・ノード・タイプにマッピングされるソース・ノード・タイプを指定したり、マッピング・データをエクスポートする場所名を定義します。考慮事項は次のとおりです。

- マッピング・キーは、**Enterprise Performance Management** アプリケーションのエクスポートのマッピングにのみ使用されます。[マッピング・データのエクスポート](#)を参照してください。
- ターゲット・ノード・タイプにマッピングされるソース・ノード・タイプごとに1つのマッピング・キーを定義します。たとえば、2つのソース・アプリケーションを1つのターゲット・アプリケーションにマッピングする場合は、各ソース・ノード・タイプからターゲット・ノード・タイプへのマッピング関係を定義する2つのマッピング・キーを定義します。ソース・ノード・タイプを1つのターゲット・ノード・タイプにのみマッピングできます。
- 各マッピング・キーは、入力する一意の場所名によって識別されます。場所名は、マッピング・データをエクスポートするために使用されるとともに、使用中のアプリケーションまたは外部アプリケーションがマッピング・データをインポートするために使用されます。たとえば、データ管理内の場所名を使用して **Planning** 内のマッピングをインポートします。

マッピング・キーを定義する前に、マッピング・キーのメンテナンス・ビューを設定します。[マッピング・ビューポイントの作成](#)を参照してください。

マッピング・キーを定義するには:

- 「アプリケーション」** で、ターゲット・ディメンションが含まれるアプリケーションを検索します。
- アプリケーションの **「アクション」** 列で、 をクリックします
- 「検査」** をクリックし、**「ディメンション」** タブからターゲット・ディメンションを選択します。  
ディメンションのインスペクタ・ダイアログが表示されます。
- 「バインド」** タブで、マップ・バインドを選択するか、**「マップ・バインドの作成」** をクリックして作成します。

### ノート:

マップ・バインドがすでに存在する場合、**「マップ・バインドの作成」** ボタンは表示されません。

- バインド・インスペクタで、**「マッピング」**、**「編集」** の順にクリックします。  
「マッピング」タブに、次の基準を満たすマッピング・ビューポイントがすべて表示されます。
  - ビューポイントはアクティブです。
  - ビューポイントで、検査中のディメンションおよびアプリケーションと同じものが使用されています。
  - ビューポイントはターゲット・ディメンションにバインドされていません。

- ビューポイントは、ターゲット・ディメンションにバインドされているビューポイントと同じビューにあります。
6. マッピング・ビューポイントを選択します。
  7. 「作成」をクリックし、次を入力します。
    - マッピングを外部アプリケーションにエクスポートするときに使用される場所名。

#### ノート:

Planning および Financial Consolidation and Close アプリケーションの場合、データ管理を使用してマッピング・データをインポートする際にロケーション名を使用します。

- ソース・ノード・タイプ(標準、参照またはレガシー GL クラスのいずれか)
- ターゲット・ノード・タイプ(標準、参照またはレガシー GL クラスのいずれか)

#### ノート:

「デフォルト」チェック・ボックスは、この時点では使用されないため、設定する必要はありません。

## 参照バインドの作成

参照バインドは、参照ディメンションに対してのみ作成できます。参照ディメンションには複数の参照バインドを指定でき、それらの参照バインドにはノードまたは階層のタイプを指定できます。

### 参照バインドの作成

#### 参照バインドを作成するには:

1. ターゲット・ディメンションが含まれているアプリケーションを検査します。[アプリケーションの検査](#)を参照してください。
2. 「ディメンション」タブで、ターゲット・ディメンションをクリックします。参照バインドには、参照ディメンションを選択する必要があります。
3. 「バインド」タブで、「バインドの作成」をクリックします。
4. バインド・タイプ(ノードまたは階層)を選択します。
5. 名前を入力し、必要に応じて説明を入力します。
6. バインドのノード・タイプ・クラス(参照またはレガシー GL)を選択します。
7. 新しいバインドのビューポイントを含めるビューを選択します。



 **Note:**


サービス管理者でない場合、そのビューでバインドを作成するには、そのビューに対する所有者権限が必要です。


8. 「作成」をクリックします。  
参照バインドおよびこれらのデータ・チェーン・オブジェクト(ない場合)が作成されます:
  - 選択したクラスの新しいノード・タイプが作成されます。
  - バインド・タイプが「階層」の場合は、新しい階層セットが作成され、ノード・タイプが追加されます。
  - 新規ノード・セットが作成され、ノード・タイプ(バインド・タイプが「ノード」の場合)または新しい階層セット(バインド・タイプが「階層」の場合)のいずれかにポイントされます。
  - 選択したビューに新規ビューポイントが作成され、新規ノード・セットに接続されます。

## バインディングの検査および編集

ディメンションのバインディングを検査でき、バインディングを編集して、そのバインディングでディメンションがバインディングされているビューポイントを変更できます。アプリケーション・タイプに応じて、ディメンションは 1 つのビューポイント(Planning アプリケーションの場合など)または複数のビューポイント(Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションの場合など)にバインドされます。

ディメンションのバインドを検査してバインドされているビューポイントを変更するには:

1. 「アプリケーション」をクリックします。
2. アプリケーションの「アクション」列で  をクリックして、「検査」を選択します。
3. 「ディメンション」をクリックします。  
「ディメンション」タブに、登録されたアプリケーションのディメンションおよびディメンションがバインドされたビューポイントが表示されます。
4. バインドを表示するディメンションをクリックします。  
**ディメンション・インスペクタ** ダイアログの「全般」タブが表示されます。
5. 「バインド」をクリックします。  
ディメンションへのバインドが、バインド・タイプ(階層またはノード)およびバインドされたビューポイントとともに表示されます。次の例では、ALL CORPORATE ACCOUNTS | V1 ディメンションには、ALL CORPORATE ACCOUNTS | V1 ビューポイントへの階層タイプ・バインド、および Corporate Account ビューポイントへのノード・タイプ・バインドがあります。

 ノート:

ノード・タイプ・バインドは、リスト・ノード・セットを使用するノードのフラット・リストを持つビューポイントを表します。階層タイプ・バインドは、階層ノード・セットを使用するノードの構造化セットを持つビューポイントを表します。


General Bindings Import/Export Validations Permissions Policies

Bindings

Name and Description	Binding Type	Bound Viewpoint
<a href="#">ALL CORPORATE ACCOUNTS   V1</a> ALL CORPORATE ACCOUNTS   V1	Hierarchy	<a href="#">ALL CORPORATE ACCOUNTS   V1</a>
<a href="#">Corporate Account</a> Corporate Account	Node	<a href="#">Corporate Account</a>

6. 検査するバインド名をクリックします。  
**バインド・インスペクタ**の「全般」タブには、バインドに関する次の情報が表示されます。

- 名前と説明
- ステータス(ドラフト、アクティブ、アーカイブ済)
- バインドを含むアプリケーション
- バインドがアタッチされるディメンション
- バインド・タイプ(ノードまたは階層)
- ディメンションがバインドされるビューポイント、およびビューポイントを含むビュー

Account Britannia | Account Britannia Base binding 
[Edit](#) [Close](#)

Account Britannia | Account Britannia Base

General Keys

Name <a href="#">Account Britannia   Account Britannia ...</a>	Binding Type <a href="#">Node</a>
Description <a href="#">Account Britannia   Account Britannia ...</a>	View <a href="#">FC Connected</a>
Status <a href="#">Active</a>	Viewpoint <a href="#">Account Britannia   Account Britannia ...</a>
Application <a href="#">FC Connected</a>	
Dimension <a href="#">Account Britannia</a>	

7. **オプション:** ディメンションがバインドされるビューポイントを変更するには、次のアクションを実行します。

- a. バインド・インスペクタで「**編集**」をクリックします。
- b. 「**ビュー**」で、ディメンションにバインドするビューポイントが含まれるビューを選択します。
- c. 「**ビューポイント**」で、ディメンションにバインドするビューポイントを選択します。
- d. 「**保存**」をクリックします。  
「**保存**」をクリックすると、アプリケーション固有のバインド・ルールが適用されません。詳細は、次のトピックを参照してください。
  - [Planning およびフリーフォーム・アプリケーションのバインディング・ルール](#)
  - [Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションのバインディング・ルール](#)
  - [E-Business Suite 一般会計アプリケーションのバインディング・ルール](#)
  - [Financial Consolidation and Close アプリケーションのバインディング・ルール](#)
  - [汎用アプリケーションに対するバインディング・ルール](#)

### ノート:

バインド先のポイントタイプを異なるビューポイントに変更することはできません。つまり、ノード・タイプのビューポイントがバインド先である場合は、階層タイプのビューポイントにバインド先を変更することはできません。

General Keys

Name	Account Britannia   Account Britannia ...	Binding Type	Node
Description	Account Britannia   Account Britannia ...	View	FC Connected
Status	Active	Viewpoint	Account Britannia   Account Brit...
Application	FC Connected		
Dimension	Account Britannia		

### バインディング設定の編集

Oracle Financials Cloud 一般会計ディメンションの階層タイプのバインディングの場合のみ、バインディング設定を編集して、バインディングが指すツリー・コードとツリー・バージョンを変更できます。

バインディング設定を編集するには:

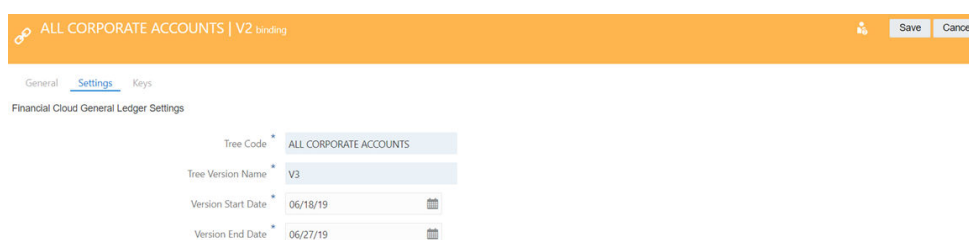
1. 編集するバインディングが含まれているアプリケーションを検査します。
2. 「**ディメンション**」タブで、バインディングを編集するディメンションをクリックします。ディメンションは、ディメンション・インスペクタに表示されます。

3. 「**バインド**」 タブで、設定を編集するバインディングをクリックします。設定を編集できるのは、階層タイプのバインディングのみです。
4. バインディング・インスペクタで「**設定**」をクリックします。

#### ノート:

「設定」タブは、Oracle Financials Cloud 一般会計ディメンションの階層タイプのバインディングに対してのみ有効になります。

5. 「**編集**」をクリックします。
6. バインディングの新しいツリー・コード、ツリー・バージョン名、およびツリー・バージョンの開始日と終了日を入力し、「**保存**」をクリックします。



バインディング設定が検証され、新しい設定でバインディングが更新されます。

## バインド・キーの編集

バインド・キーは、ディメンションのバインディングのバインディング・ルールやインポートおよびエクスポートの制約条件を制御するためにアプリケーション登録時に作成されます。バインド・キーを編集して、方向(例: バインド・キーがエクスポートについてのみ有効になるように指定)およびエクスポート・ファイルの列順序を変更できます。


#### ノート:

Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションのバインド・キーは表示専用です。これらのアプリケーションのエクスポート・ファイルの列順序や方向は編集できません。



#### バインド・キーを編集するには:

1. キーを編集するバインディングを検査します。[バインディングの検査および編集](#)を参照してください。
2. 「キー」タブをクリックします。バインド・キーについて次の情報が表示されます。

フィールド	定義
ヘッダー	Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーション(これについてはインポートおよびエクスポート・ファイルに列ヘッダーがありません)を除くすべてのアプリケーション・タイプのインポートおよびエクスポート・ファイルの列ヘッダー。



フィールド	定義
キー	バインド・キーに含まれる情報のタイプを示します。たとえば、PARENT キーにはノードの親が、VALIDCONSOL キーにはノードが連結可能かどうかの情報が含まれます。
サブ・キー	キーとの組合せでバインド・キーに含まれる情報のタイプを示します。たとえば、キーが ALIAS の場合、サブ・キー DEFAULT にはノードのデフォルト別名表が含まれ、サブ・キー ENGLISH には英語の別名表が含まれます。
キー・タイプ	このキーの使用方法: <ul style="list-style-type: none"> <li>プロパティ: ノード・プロパティについての情報が含まれます。</li> <li>定数: 定数の値が含まれます。</li> <li>編集可能な定数: Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションの定数の値が含まれ、これはアプリケーションの登録時、およびバインディング・インスペクタの「設定」タブで編集できます。バインディングの検査および編集のバインディング設定の編集を参照してください。</li> <li>ノード・タイプ: 「ノード・タイプ列の使用」または「親ノード・タイプ列の使用」が選択されている場合に、汎用アプリケーションでノード・タイプおよび親ノード・タイプの列を識別します。ユーザー定義ディメンションのインポートおよびエクスポート設定を参照してください。</li> </ul>
ソース値	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロパティ・キー・タイプについては、完全修飾のプロパティ名が含まれます。</li> <li>定数および編集可能な定数キー・タイプについては、定数値が含まれます。</li> </ul>
方向	<p>バインド・キーのインポートおよびエクスポートを識別します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>インポート: バインド・キーはエクスポート時には処理されません。</li> <li>エクスポート: バインド・キーはインポート時には処理されません。</li> <li>両方: バインド・キーはインポートおよびエクスポート時に処理されます。</li> <li>なし: バインド・キーはインポート時にもエクスポート時にも処理されません。このオプションは、Oracle Enterprise Data Management Cloud のバインド・プロパティが外部アプリケーションで必要ない場合に選択します。</li> </ul> <div style="border: 1px solid #0070C0; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p> <b>ノート:</b></p> <p>定数および編集可能な定数のバインド・キーは、「エクスポート」または「なし」にのみ設定可能です。</p> </div>
アクション	エクスポート・ファイルでのキーの列順序を上または下に移動したり、汎用アプリケーションの定数列のキーを削除できます。

3. **オプション:** バインド・キーの方向を変更するには:
  - a. 「編集」をクリックします。
  - b. バインド・キーの「方向」列で、バインド・キーをエクスポート、インポート、または両方について処理するか、あるいはまったく処理しないかを選択します。
4. **オプション:** エクスポート・ファイルの列順序を変更するには:

- a. 「編集」をクリックします。
  - b. 「アクション」列で、をクリックし、それからバインド・キーをファイルで上、下、最初、または最後に移動するオプションを選択します。
5. オプション: バインド・キーを削除するには:
- a. 「編集」をクリックします。
  - b. 「アクション」列で、をクリックし、それから「削除」を選択します。
6. 「保存」をクリックします。

### 汎用アプリケーションの定数キーの管理

汎用アプリケーションについてのみ、定数キーを作成、編集、移動および削除できます:

1. 定数キーを管理するバイディングを検査します。
2. 「編集」をクリックします。
3. 次のいずれかのアクションを実行します。
  - 定数キーを追加するには、「作成」をクリックし、それからヘッダー、ソース値および方向を入力します。
  - 定数キーを編集するには、定数キーのヘッダー、ソース値および方向を変更します。
  - 定数キーを移動するには、「アクション」列で、をクリックし、それからエクスポート・ファイルで列を上または下に移動するオプションを選択します。
  - 定数キーを削除するには、「アクション」列で  をクリックし、それから「削除」を選択します。
4. 「保存」をクリックします。

#### ノート:

デフォルトでは、汎用アプリケーションに対して定数キーを作成するとエクスポート・ファイルの末尾にソートされます。


## バイディングの削除

マップ・バインドまたは参照バインドなどの作成済のバイディングを削除できます。アプリケーション登録プロセスの一部として作成したバイディングを削除できます。

バインドを削除するには、ディメンションに対して少なくとも「メタデータ・マネージャ」または「所有者」権限を持っている必要があります。

バインドを削除すると、そのバインドに関連付けられているデータ・チェーン・オブジェクトについてバインド・ステータスが更新されますが、オブジェクト自体は削除されません。これらのオブジェクトが不要になった場合は、個別にアーカイブおよび削除できます。

### バインドを削除するには:

1. 削除するバインドを含むディメンションを検査します。[ディメンションの検査](#)を参照してください。
2. 「バインド」タブで、「編集」をクリックし、削除するバインドの横にある「アクション」メニュー  をクリックします。
3. 「削除」をクリックし、そのバインドを削除することを確認して、「保存」をクリックします。

## バインディング・ルールの理解

バインディング・ルールにより、ユーザーが変更を行うことができないようにし、アプリケーションのデータがインポートまたはエクスポートされることを阻止します。つまり、バインディング・ルールにより、登録されているアプリケーションが外部アプリケーションの要件に準拠するようにします。バインディング・ルールはアプリケーション・タイプによって異なります。たとえば、**Oracle Financials Cloud** 一般会計アプリケーションは、ディメンションごとに複数のバインディングをサポートし、**Planning** アプリケーションは、ディメンションごとに単一のバインディングをサポートしています。

バインディング・ルールは、ディメンションにバインドされたビューポイントおよび関連データ・オブジェクトに対して適用されます。アプリケーションを登録すると、**Oracle Enterprise Data Management Cloud** により、バインドされたビューポイントおよび関連データ・チェーン・オブジェクトが作成されます。バインドされたデータ・オブジェクトには、管理、インポートおよびエクスポートされるデータが格納および表示されます。[バインディングおよびバインドされたデータ・オブジェクトの理解](#)を参照してください。

### ヒント:

バインドされたビューポイントを変更すると、ディメンションは、ビューポイントのデータ・チェーン上のデータ・オブジェクトにバインドされます。

バインディング・ルールは、ユーザーが次のタスクを実行したときに適用されます。

- バインドされたデータ・オブジェクトの更新。変更がバインディング・ルールに違反している場合、**Oracle Enterprise Data Management Cloud** によって変更が阻止されます。
- ディメンションにバインドされたビューポイントの更新。

たとえば、ディメンションで共有ノードが許可されていないとします。バインディング・ルールにより、ディメンションにバインドされた階層セット内の共有ノードをユーザーが有効化できないようにします。

### ノート:

バインディング・ルールに準拠する必要があるのは、ディメンションにバインドされたデータ・オブジェクトのみです。バインドされていないデータ・オブジェクトを使用すると、ディメンションに対する潜在的な変更がディメンションの現在のバインディング・ルールに準拠していない場合に、これらの変更をモデル化および評価できます。

すべてのアプリケーション・タイプに適用される基本的なバインディング・ルールがあります。一部のアプリケーション・タイプには追加のバインディング・ルールがあります。

詳細は、次を参照してください:

- [全アプリケーション・タイプに対するバインディング・ルール](#)
- [汎用アプリケーションに対するバインディング・ルール](#)
- [Planning およびフリーフォーム・アプリケーションのバインディング・ルール \(Planning の場合\)](#)
- [Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションのバインディング・ルール](#)
- [E-Business Suite 一般会計アプリケーションのバインディング・ルール](#)
- [Financial Consolidation and Close アプリケーションのバインディング・ルール](#)

## 全アプリケーション・タイプに対するバインディング・ルール

次の表に、すべてのアプリケーション・タイプに適用されるバインディング・ルールをリストします。

バインドされたオブジェクト	バインディング・ルール
ビューポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>• バインディングに必要なプロパティを非表示または読取り専用にできません。</li> <li>• ビューポイントをアーカイブできません。</li> </ul>
ノード・セット	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ノードが階層であることがバインディングに指定されている場合、ノードがリストであることをノード・セットで指定できません。</li> <li>• ノードがリストであることがバインディングに指定されている場合、ノードが階層であることをノード・セットで指定できません。</li> <li>• ノード・セットをアーカイブできません。</li> </ul>
階層セット	<ul style="list-style-type: none"> <li>• バインディングで共有ノードが許可されていない場合、共有ノードを許可するよう階層セットを構成できません。</li> <li>• 階層セットをアーカイブできません。</li> </ul>
ノード・タイプ	ノード・タイプをアーカイブできません。

詳細は、次を参照してください:

- [バインディング・ルールの理解](#)
- [汎用アプリケーションに対するバインディング・ルール](#)

## データ・オブジェクトおよびデータ・チェーンのライフサイクルの理解

アプリケーション、ディメンション、ビューおよびデータ・チェーン・オブジェクトは、「ドラフト」、「アクティブ」、「アーカイブ済」の 3 つのステータスのいずれかで存在します。



- **ドラフト:** アプリケーションおよびほとんどのデータ・チェーン・オブジェクトは、作成時に「ドラフト」ステータスに設定されます。システム内の他のオブジェクトにドラフト・オブジェクトを割り当てることはできません。

#### ノート:

ビューおよびノード・タイプでは「ドラフト」ステータスは使用されません。これらは、作成するとすぐに「アクティブ」ステータスに設定されます。

次を実行できます。

- ドラフト・オブジェクトの編集(「アプリケーション」および「ステータス」は例外)
- ドラフト・オブジェクトの削除
- **アクティブ:** 「アクティブ」ステータスでは、システムで使用するためにオブジェクトを使用できます。「アプリケーション」および「ディメンション」を例外として、アクティブ・データ・チェーン・オブジェクトを編集できます。「アクティブ」ステータスのオブジェクトはアーカイブできますが、削除はできません。「アーカイブ済」ステータスに設定されている依存オブジェクトがある場合にのみ、ステータスを「アクティブ」から「アーカイブ済」に変更できます。

#### 注意:

データ・チェーン・オブジェクトをアーカイブする際は、ビューポイント、ノード・セット、階層セット(使用している場合)、ノード・タイプの順番でアーカイブする必要があります。

たとえば、データ・チェーン ABCD で、ノード・タイプ A、階層セット B、ノード・セット C およびビューポイント D を使用し、これらすべてが「アクティブ」に設定されているとします。階層セット B を「アーカイブ済」に設定する場合は、最初にビューポイント D を「アーカイブ済」に設定してからノード・セット C を「アーカイブ済」に設定し、さらに階層セット B を「アーカイブ済」に設定する必要があります。ノード・タイプ A は「アクティブ」ステータスのままにすることができます。

- **アーカイブ済:** 「アーカイブ済」ステータスに設定されているオブジェクトは、システムの他のオブジェクトで使用できません。「名前」、「説明」および「所有者」のみ編集できます。オブジェクトのリスト内のアーカイブ済オブジェクトにアクセスできます。

#### 注意:

データ・チェーン・オブジェクトをアーカイブ解除する際は、ノード・タイプ、階層セット(使用している場合)、ノード・セット、ビューポイントの順番でアーカイブ解除する必要があります。

 ノート:

アーカイブ済アプリケーションのみ削除できます。ディメンション、ビューおよびデータ・チェーン・オブジェクトは削除できません。

次の表に、アプリケーション、ディメンション、ビューおよびデータ・チェーン・オブジェクトのライフサイクル・ステータスを示します。

オブジェクト	ドラフト	アクティブ	アーカイブ済
アプリケーション	アプリケーションは「ドラフト」ステータスで開始します。ドラフト・アプリケーションは削除できます。アプリケーションの登録後、ステータスは「アクティブ」に変わります。	アプリケーションは、登録後に「アクティブ」ステータスになります。アプリケーションをアーカイブするには、アプリケーションのインスペクタでステータスを「アーカイブ済」に変更します。	アーカイブ済アプリケーションは、「アプリケーション」リストで検索できます。アンアーカイブまたは削除することもできます。アプリケーションをアンアーカイブするには、アプリケーションのインスペクタでステータスを「アクティブ」に変更します。
ディメンション	該当なし	ディメンションは、アプリケーションの登録後に「アクティブ」ステータスになります。ディメンションをアーカイブするには、アプリケーションの登録からディメンションを除去します。	アプリケーション・インスペクタの「 <b>ディメンション</b> 」タブで表示することにより、アプリケーションに対してアーカイブされているディメンションを参照できます。アーカイブ済ディメンションはアンアーカイブできません。ディメンションをアンアーカイブするには、アプリケーションの登録にディメンションを追加します。ディメンションは、以前に使用されていた名前と同じ名前を使用する必要があります。

オブジェクト	ドラフト	アクティブ	アーカイブ済
ビュー	該当なし	<p>新規に作成されたビューは「アクティブ」ステータスで開始します。</p> <p>ビューをアーカイブするには、そのアクティブなビューポイントすべてをアーカイブし、ドラフト・ビューポイントを削除し、次にビュー・インスペクタでそのステータスを「アーカイブ済」に変更します。</p> <p>ドラフト・ビューを削除して、ビューポイントを含まないビューをアクティブ化できます。</p>	<p>アーカイブ済ビューは、「ビュー」リストで検査できます。</p> <p>ビューのアンアーカイブはできません。</p>
ビューポイント	<p>ビューポイントは「ドラフト」ステータスで開始します。ビューポイントは、ノード・セットを割り当てて保存することにより「アクティブ」ステータスに移行します。</p>	<p>ビューポイントは、ノード・セットを割り当てた後に「アクティブ」ステータスになります。</p> <p>ビューポイントをアーカイブするには、ビューポイントのインスペクタでステータスを「アーカイブ済」に変更します。</p> <p>ディメンションにバインドされたビューポイントはアーカイブできません。ディメンションにバインドされたビューポイントをアーカイブするには、ディメンションにバインドされたビューポイントを最初に変更する必要があります。</p>	<p>アーカイブ済ビューポイントは、ビューポイントを使用したビューから検査できます。アンアーカイブすることもできます。</p> <p>ビューポイントをアンアーカイブするには、ビューのインスペクタから、「定義」タブを選択し、アーカイブされたビューポイントをクリックして、ステータスを「アクティブ」に変更します。</p>
ノード・タイプ	該当なし	<p>新規に作成されたノード・タイプは「アクティブ」ステータスで開始します。</p> <p>ノード・タイプをアーカイブするには、ノード・タイプのインスペクタでステータスを「アーカイブ済」に変更します。</p>	<p>アーカイブ済ノード・タイプは、「ノード・タイプ」リストで検査できます。アンアーカイブすることもできます。</p> <p>ノード・タイプをアンアーカイブするには、ノード・タイプのインスペクタでステータスを「アクティブ」に変更します。</p>

オブジェクト	ドラフト	アクティブ	アーカイブ済
階層セット	階層セットは「ドラフト」ステータスで開始します。ドラフト階層セットは削除できません。階層セットは、ノード・タイプを割り当てて保存することにより「アクティブ」ステータスに移行します。	ノード・タイプの選択後、階層セットは「アクティブ」ステータスに移行します。階層セットをアーカイブするには、階層タイプのインスペクタでステータスを「アーカイブ済」に変更します。	アーカイブ済階層セットは、「階層セット」リストで検査できます。アンアーカイブすることもできます。階層セットをアンアーカイブするには、階層タイプのインスペクタでステータスを「アクティブ」に変更します。
ノード・セット	ノード・セットは「ドラフト」ステータスで開始します。ドラフト・ノード・セットは削除できます。ノード・セットは、階層セットを割り当てて保存することにより「アクティブ」ステータスに移行します。	階層セットの割当て後、ノード・セットは「アクティブ」ステータスに移行します。ノード・セットをアーカイブするには、ノード・セットのインスペクタでステータスを「アーカイブ済」に変更します。	アーカイブ済ノード・セットは、「ノード・セット」リストで検査できます。アンアーカイブすることもできます。ノード・セットをアーカイブ解除するには、ノード・セットのインスペクタでステータスを「アクティブ」に変更します。
バインディング	該当なし	ディメンションが(アプリケーション登録および変更プロセスで)作成された後、バインディング・ステータスが「アクティブ」ステータスに設定されます。ディメンションをアーカイブする際、関連付けられているバインディングは自動的にアーカイブされます。	アーカイブされたバインディングは、ディメンション・インスペクタで表示できます。ディメンションをアンアーカイブする際、関連付けられているバインディングは自動的にアンアーカイブされます。

### データ・チェーン・オブジェクトのアーカイブおよびアーカイブ解除の順序

データ・チェーン・オブジェクトをアーカイブする際は、ビューポイント、ノード・セット、階層セット(使用している場合)、ノード・タイプの順番でアーカイブする必要があります。

データ・チェーン・オブジェクトをアーカイブ解除する際は、ノード・タイプ、階層セット(使用している場合)、ノード・セット、ビューポイントの順番でアーカイブ解除する必要があります。

詳細は、次を参照してください:

- [データ・オブジェクトおよびデータ・チェーンの操作](#)
- [アプリケーションのアーカイブ、アーカイブ解除および削除](#)
- [ディメンションのアーカイブおよびアーカイブ解除](#)
- [ビューのアーカイブおよび削除](#)

- データ・チェーン・オブジェクトのアーカイブおよびアーカイブ解除

## データ・チェーン・オブジェクトのアーカイブおよびアーカイブ解除

アクティブなデータ・チェーン・オブジェクト(ビューポイント、ノード・セット、階層セット、およびノード・タイプ)は、今後使用しない場合はアーカイブできます。アーカイブしたデータ・チェーン・オブジェクトのステータスをアクティブに戻すこともできます。

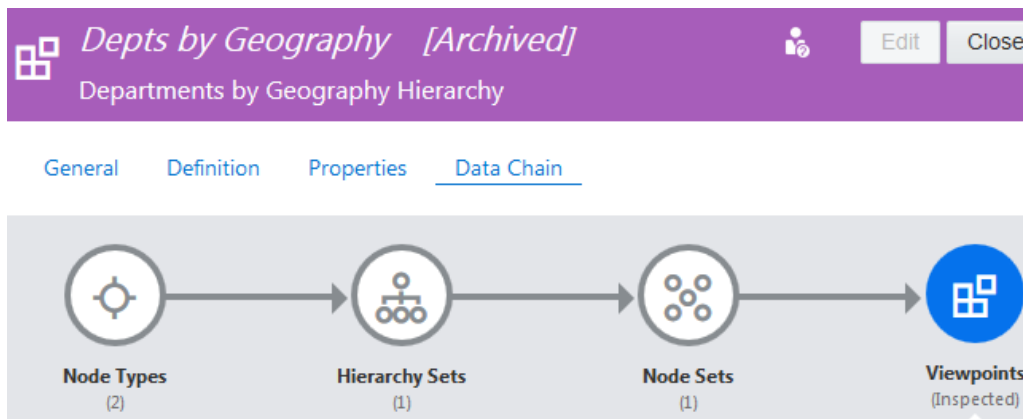
### 考慮事項

- データ・チェーン・オブジェクトを含むアプリケーションまたはディメンションに対する所有者またはメタデータ・マネージャ権限を持つユーザーは、オブジェクトのステータスを変更できます。
- データ・チェーン・オブジェクトのステータスをアクティブに戻すには、データ・チェーン・オブジェクトを含むディメンションがアクティブである必要があります。
- ディメンションをアプリケーション登録から除去すると、ディメンションとそのデータ・チェーン・オブジェクトがアーカイブ済に設定されます。
- ディメンションにバインドされたビューポイントはアーカイブできません。ディメンションにバインドされたビューポイントをアーカイブするには、ディメンションにバインドされたビューポイントを最初に変更する必要があります。[Planning およびフリーフォーム・アプリケーションのディメンションへのビューポイントのバインド](#)を参照してください。汎用アプリケーション・ディメンションに関しては、[汎用アプリケーションのユーザー定義ディメンションにバインドされたビューポイントの変更](#)を参照してください。
- ビューポイントはいつでもアーカイブ済に設定できます。ただし、アーカイブされたビューポイントを参照するアイテム詳細を持つ要求を検証すると、ビューポイントが見つからなかったことを通知する検証メッセージを受信します。アーカイブされたビューポイントを参照する要求アイテム詳細を削除して要求を再度検証するか、ステータスがドラフトの場合は要求全体を削除できます。

詳細は、[データ・オブジェクトおよびデータ・チェーンの操作](#)を参照してください。

### アーカイブの順序

アクティブなデータ・チェーン・オブジェクトは、他のアクティブなデータ・チェーン・オブジェクトがそのオブジェクトに依存していなければアーカイブできます。データ・チェーン・オブジェクトは、ビューポイント、ノード・セット、階層セット(使用している場合)、ノード・タイプの順番でアーカイブする必要があります。次の例では、ビューポイントをアーカイブしています。ノード・セットをアーカイブするまでは、階層セットをアーカイブできません。



### データ・チェーン・オブジェクトのアーカイブ

データ・チェーン・オブジェクトをアーカイブするには:

#### ノート:

データ・チェーン・オブジェクトは、ビューポイント、ノード・セット、階層セット、ノード・タイプの順番でアーカイブします。

1. データ・チェーン・オブジェクトを含むビューを検査します。
2. 「定義」を選択し、ビューポイント名をクリックします。  
ビューポイント・インスペクタの「全般」タブが開きます。
3. 次のステップに従います。
  - ビューポイントをアーカイブするには:
    - a. 「編集」をクリックします。
    - b. 「ステータス」で「アーカイブ済」を選択し、「保存」をクリックします。
  - ノード・セット、階層セット、またはノード・タイプをアーカイブするには:
    - a. 「データ・チェーン」を選択します。
    - b. データ・チェーン・オブジェクトをクリックします。
    - c. アーカイブするオブジェクトを選択します。
    - d. 「編集」をクリックします。
    - e. 「ステータス」で「アーカイブ済」を選択し、「保存」をクリックします。

### アーカイブ解除の順序

アーカイブ済オブジェクトのステータスをアクティブに戻すことができるのは、そのオブジェクトが依存しているオブジェクトもアクティブな場合のみです。データ・チェーン・オブジェクトのステータスをアクティブに設定する場合は、ノード・タイプ、階層セット(使用している場合)、ノード・セット、ビューポイントの順序で行う必要があります。前述の例では、ノード・タイプ、階層セット、およびノード・セットの順番でステータスをアクティブに戻しています。この時点で、ビューポイントのステータスもアクティブに設定できます。

## データ・チェーン・オブジェクトのアーカイブ解除

データ・チェーン・オブジェクトのステータスをアクティブに戻すには:

### ノート:

データ・チェーン・オブジェクトのステータスをアクティブに戻す場合は、ノード・タイプ、階層セット、ノード・セット、ビューポイントの順序で行います。

1. データ・チェーン・オブジェクトを含むビューを検査します。
2. 「定義」を選択し、ビューポイント名をクリックします。  
ビューポイント・インスペクタの「全般」タブが開きます。
3. 次のステップに従います。
  - ビューポイントのステータスをアクティブに戻すには:
    - a. 「編集」をクリックします。
    - b. 「ステータス」で「アクティブ」を選択し、「保存」をクリックします。
  - ノード・セット、階層セット、またはノード・タイプのステータスをアクティブに戻すには:
    - a. 「データ・チェーン」を選択します。
    - b. データ・チェーン・オブジェクトをクリックします。
    - c. ステータスをアクティブに戻すオブジェクトを選択します。
    - d. 「編集」をクリックします。
    - e. 「ステータス」で「アクティブ」を選択し、「保存」をクリックします。


## 代替ビューおよびビューポイントの定義

代替ビューおよびビューポイントを使用すると、エンタープライズ・データを別の方法で整理して表示できます。

アプリケーションを登録すると、デフォルト・ビューが自動的に作成されます。このデフォルト・ビューには、アプリケーション内のバインドされた個々のディメンションのビューポイントが含まれます。そのため、デフォルト・ビューを使用すると、外部アプリケーションの構造に一致する階層構造で、すべてのディメンションのすべてのデータを操作できます。

では、編成済みのこの階層構造を別の方法で整理して表示するにはどうすればよいでしょうか。または、特定のユーザーがアプリケーション内のデータのサブセットを操作できるようにするにはどうすればよいでしょうか。あるいは、複数のアプリケーションからのデータを同時に操作するにはどうすればよいでしょうか。これらのユースケースに対して代替ビューおよびビューポイントを作成できます。

### ビデオ

目的	参照するビデオ
代替ビューポイントの作成について学習します。	 <a href="#">代替ビューポイントの作成</a>

### 代替ビューの定義

デフォルトのアプリケーション・ビューとは別のビューを作成する主なユースケースは 2 つあります:

- 専用のビューを作成し、アプリケーション内のすべてのデータへのフル・アクセス権を持たない特定のユーザーが、特定のデータ・セットを保守できるようにします。
- 複数のアプリケーションからのビューポイントを含むマスター・ビューを作成します。この場合、マスター・ビューを変更し、サブスクリプションを使用して、サブスクライブしているビューポイントにそれらの変更をプッシュできます([ビューポイントのサブスクライブ](#)を参照)。

この代替ビューではエンタープライズ・データを操作するためのより柔軟なオプションが複数提供されます:

- そのビューで保守するディメンションのみのビューポイントを追加できます([ビューポイントの作成](#)を参照)。
- デフォルト・ビューのビュー権限とは別の固有の権限をそのビューに設定できます([ビューおよびビューポイントのセキュリティ](#)を参照)。

### 代替ビューポイントの定義

代替ビューポイントでは、バインドされたビューポイントの階層とは異なる階層を使用して、ノードを集約、ロールアップまたは要約できます。つまり、代替ビューポイントを使用すると、バインドされたビューポイントの最上位ノード以外の最上位ノードを使用して下位レベルのノードをグループ化できます。

次のリストに、代替ビューポイント作成の一般的な理由をいくつか示します。



- 既存の親子関係を保持したまま、ノードを異なる親ノードでグループ化します。たとえば、コスト・センターを地域、機能および法的エンティティでグループ化する階層を作成できます。
- バインドされたビューポイントと異なる親子関係を使用してノードをロールアップした場合に、階層と関連するデータがどのような影響を受けるかを調査します。たとえば、代替ビューポイントを使用して、事業部門を分割した場合の影響を分析できます。次に代替ビューポイントを外部アプリケーションにエクスポートして、関連するデータに対する影響を評価できます。
- レポートに使用する階層を定義します。

## ベスト・プラクティス

様々なタイプの代替ビューポイントがあります。どのタイプの代替ビューポイントを使用するか、代替ビューポイントの構築にどのデータ・チェーン・オブジェクトを使用するかは、目的に応じて決まります。どのタイプの代替ビューポイントを定義する必要があるか、どのデータ・チェーン・オブジェクトを作成する必要があるかは、次の質問で特定できます。

- バインドされたビューポイントで使用されていないノード・タイプ間の関係が代替ビューポイントで作成されますか。つまり、バインドされたビューポイントで使用されていないノード・カテゴリを代替ビューポイントで使用していますか。
- バインドされたビューポイントの親子関係とは異なる関係を代替ビューポイントで使用しますか。
- 代替ビューポイントの最下位レベル・ノードを新しい最上位ノードでグループ化しても、バインドされたビューポイントの親子関係が保持されますか。保持される場合、ユーザーが作業する代替ビューポイントはバインドされたビューポイントと一致しますか、それともビューポイントが変わりますか。

作成可能な代替ビューポイントのタイプを次の表にまとめます。

**表 19-1 代替ビューポイントのタイプ**

タイプ	例	詳細情報
バインドされたビューポイントの親子関係を保持したまま、ノードを新しい最上位ノードでグループ化します。	地域および機能でロールアップされるコスト・センター。	異なる最上位ノードを使用する代替ビューポイント
バインドされたビューポイントで定義されている親子関係と異なる親子関係を定義します。 このタイプの階層は、仮定計画シナリオまたは将来の計画シナリオで頻繁に使用されます。	事業単位の再編成の影響分析。	異なる親子関係を使用する代替ビューポイント
バインドされたビューポイントのデータ・チェーンに含まれないノード・タイプを使用して関係を作成します。	製品のバインドされたビューポイントで開始され、サプライヤでまとめられた製品リスト階層。	異なるノード・タイプを使用する代替ビューポイント

表 19-1 (続き) 代替ビューポイントのタイプ

タイプ	例	詳細情報
情報を相互に共有している、異なるアプリケーションのノード間の関係を定義します。	マッピング階層は、あるアプリケーションのソース・ノードを別のアプリケーションのターゲット・ノードにマッピングします。マッピング階層は、ディメンション・マッピング関係をディメンションの階層関係から分離します。	<a href="#">マッピング・ビューポイントの作成</a>

新しいノード・タイプ、ノード・セットまたは階層セットを作成する必要がある場合は、次を参照してください。

- [ノード・タイプの作成](#)
- [ノード・セットの作成](#)
- [階層セットの作成](#)

### 代替ビューポイントのデータのエクスポート

代替ビューポイントのデータを外部アプリケーションにエクスポートするには、ディメンションを代替ビューポイントにバインドします。[Planning](#) および [フリーフォーム・アプリケーションのディメンションへのビューポイントのバインド](#) を参照してください。

#### ノート:

汎用アプリケーションのディメンションに対してバインドされたビューポイントは変更できません。ただし、代替ビューポイントのデータはダウンロードして外部アプリケーションにロードできます。[ビューポイントのダウンロード](#) を参照してください。

## ビューの作成

代替ビューを作成し、アプリケーションのデフォルト・ビューとは異なる方法でデータを整理および管理します。

#### ノート:

ビューを作成する前に、達成するタスクに定義されたデータ・チェーンがあることを確認してください。

ビューを作成するには:

1. 「ビュー」で、「**作成**」をクリックします。
2. ビューの名前と説明を定義し、「**作成**」をクリックします。ビューのインスペクタが開きます。

ビューを作成したら、アプリケーションのデータを操作するためのビューポイントを作成します。[ビューポイントの作成](#)を参照してください。

## ビューポイントの作成

異なるノード・セットをポイントする、またはプロパティを編集したり許容可能なアクションを変更するための権限を設定するためのビューポイントを作成できます。たとえば、データ・スチュワードにデータの表示は許可するが変更は許可しないようにするとします。追加、挿入、移動などの許容可能なアクションを実行する権限をオフにしたり、プロパティを編集する権限を無効化したりできます。

ビューポイントを作成するには:

1. ビューポイントの追加先のビューを検査します。
2. 「ビューポイント」タブで、「作成」をクリックします。
3. 「アプリケーション・ディメンション」で、ビューポイントに使用するアプリケーションを選択します。
4. ビューポイントの名前を入力し、必要に応じて説明を入力します。
5. 「ビューポイント・クラス」で、オプションを選択します:
  - **標準:** 現在のアプリケーション・データを表示します。[ビューポイントの操作](#)を参照してください。
  - **時間ラベル付き:** 過去の時点からアプリケーション・データを表示します。[時間ラベル付きビューポイントの操作](#)を参照してください
6. 時間ラベル付きビューポイントの場合、そのビューの時間ラベルを選択します。ビューポイントに対して使用するには、時間ラベルがすでに作成されている必要があります。新しい時間ラベルを作成するには、[時間ラベルの作成、編集および削除](#)を参照してください。
7. 「作成」をクリックします。  
ビューポイントのインスペクタが開きます。ビューポイントは、ノード・セットを選択するまではドラフト状態のままです。
8. 「編集」をクリックし、「ノード・セット」を選択して、「保存」をクリックします。

### ヒント:

時間ラベル付きビューポイントの場合、アクセスする履歴データが含まれているノード・セットを選択します。

ビューポイント・ステータスが「アクティブ」に変更されます。

## 異なる最上位ノードを使用する代替ビューポイント

プライマリ・ビューポイントの最上位ノードとは異なる最上位ノードの下に下位レベルのノードがグループ化されながら下位レベルのノードの親子関係も保持される代替ビューポイントを作成できます。

たとえば、115、116 および 117 という名前の子ノードを持つ 110 という名前のノードが含まれるコスト・センターの階層があるとします。110 ノードとその子ノードは、プ

ライマリ・ビューポイントとは別のビューポイント内の異なる最上位ノードの下に配置できます。

このタイプの代替ビューポイントには、プライマリ・ビューポイントのデータ・チェーン内にある階層が含まれる必要があります。この階層セットでは、共有ノードを許可する必要があります。[共有ノードの理解](#)を参照してください。

このタイプの代替ビューポイントを新しいビューポイント内に作成するには、次のステップを実行します。詳細は、[代替ビューおよびビューポイントの定義](#)を参照してください。

1. プライマリ・ビューポイントに使用されるものと同じ階層セットを使用して新しいノード・セットを作成します。
2. 作成したノード・セットを使用して代替ビューポイントを作成します。

#### ノート:

必要に応じて、かわりにプライマリ・ビューポイントを使用して異なる最上位ノードの下にノードをグループ化できます。これを行うには、新しい最上位ノードを追加し、下位レベルのノードを挿入します。

#### 例 19-1 国の最上位ノード下でのノードのグループ化

コスト・センターを業務別にグループ化したプライマリ・ビューポイントがあるとします。業務には、米国内の研究および開発用のコスト・センターが含まれます。次の例の米国のコスト・センターの階層には、**115**、**116** および **117** という名前の子ノードを持つ **110** という名前の親ノードがあります。

Name	Description
▲ 999	Total InFusion Cost Centers
◇ 000	None
▲ 100	Research and Development
▲ 110	RandD US
◇ 115	RandD New York
◇ 116	RandD San Francisco
◇ 117	RandD Boston
◇ 111	RandD Growing

ここで、コスト・センターが位置する国別にコスト・センターをグループ化する代替ビューポイントを作成する必要があるとします。次の例では、代替ビューポイントの最上位ノードは、**USA** のノードが含まれる **Countries** です。次の例では、**USA** ノードには、米国の研究および開発用のコスト・センターの階層が含まれています。

Name	Description
<ul style="list-style-type: none"> <li>▲ Countries</li> <li>▶ Canada</li> <li>▲ USA</li> <li>▲ 110</li> <li>◇ 115</li> <li>◇ 116</li> <li>◇ 117</li> <li>◇ 210</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>RandD US</li> <li>RandD New York</li> <li>RandD San Francisco</li> <li>RandD Boston</li> <li>GandA US</li> </ul>

## 異なる親子関係を使用する代替ビューポイント

ノードの親子関係がプライマリ・ビューポイントに定義されている関係とは異なる代替ビューポイントを作成できます。たとえば、このタイプの階層を使用して、複数のビジネス・ユニットを 1 つのユニットに結合する再編成の影響を分析します。

### ヒント:

このタイプの代替ビューポイントは、仮定シナリオ計画や将来のシナリオ計画に使用します。

### ノート:

Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションの場合は、各ツリー(ツリー・コード/ツリー・バージョン名)に独立した階層セットが必要です。

親子関係がプライマリ・ビューポイントの親子関係とは異なる階層を定義するには、次のデータ・チェーン・オブジェクトの新しいインスタンスを作成します。

- 階層セット

### ノート:

プライマリ・ビューポイントの親子関係は変更しないため、新しい階層セットが必要です

- ノード・セット
- ビューポイント

次のステップでは、プライマリ・ビューポイントの親子関係とは異なる親子関係を持つ階層を作成する方法について説明します。詳細は、[代替ビューおよびビューポイントの定義](#)を参照してください。

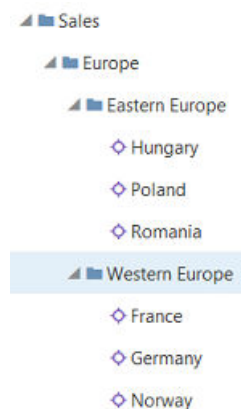
1. プライマリ・ビューポイントで使用されているノード・タイプと同じノード・タイプを使用する新しい階層セットを作成します。
2. 作成したものと同じ階層セットを使用して新しいノード・セットを作成します。
3. 作成したノード・セットを使用して代替ビューポイントを作成します。

### 例 19-2 再編成の評価

ある会社が販売部門の再編成の影響を評価する必要があるとします。現在、販売組織には大陸用の最上位ノードがあり、大陸ノードには国用の子ノードがあります。次の例は、ヨーロッパの階層分岐を示しています。



再編成をモデル化した代替ビューポイントでは、大陸用の分岐が地域用の子ノードを持ち、地域ノードが国用の子ノードを持ちます。次の例は、代替ビューポイント内のヨーロッパ・ノードが東ヨーロッパおよび西ヨーロッパ地域用の子ノードを持ち、地域ノードに国用の子ノードが含まれる様子を示しています。



## 異なるノード・タイプを使用する代替ビューポイント

プライマリ・ビューポイントで使用されるものとは別のノード・タイプを使用する、代替ビューポイントを作成できます。たとえば、製品のノードで構成されるプライマリ・ビューポイントがあり、サプライヤによる製品の代替ビューポイントの作成を任されているとします。登録済アプリケーションにはサプライヤのノードがまだないため、サプライヤのノード・タイプを作成し、次にサプライヤ・ノードに製品ノードが含まれる階層を作成します。

このタイプの代替ビューポイントを作成するには、新しい階層セットとノード・セットを作成します。アプリケーションに存在しないノード・タイプを使用する代替ビューポイントを作成する場合は、新しいノード・タイプも作成します。

次のステップで、プライマリ・ビューポイントのノード・タイプとは別のノード・タイプ間の関係を作成するための、代替ビューポイントを作成する方法を説明します。詳細は、[代替ビューおよびビューポイントの定義](#)を参照してください。

1. 代替ビューポイントに現在アプリケーションには存在しないノード・タイプが含まれる場合、ノードの新しいカテゴリごとに新しいノード・タイプを作成します。
2. ノード・タイプ間の親子関係を定義する階層セットを作成します。
3. 作成したものと同一階層セットを使用して新しいノード・セットを作成します。
4. 作成したノード・セットを使用して代替ビューポイントを作成します。

### 例 19-3 ストア別製品

次の例に示すように、音楽製品のノードを含む製品のプライマリ・ビューポイントを作成するとします。

▶ 1000	Baroque
▶ 2000	Classical
◇ 2111	Beethoven
◇ 2211	Mozart
◇ 2311	Haydn
◇ 2411	Pleyel
▶ 3000	Romantic
▶ 4000	Modern

ストア別に製品をリストする、代替ビューポイントの作成を任されているとします。アプリケーションには現在、ストアのノード・タイプはありません。この代替ビューポイントを作成するには、次の作業を行います。

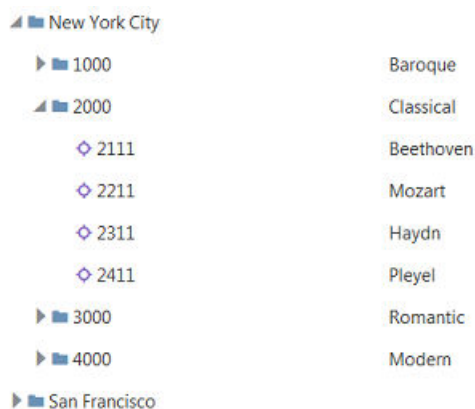
1. ストアのノード・タイプを作成します。
2. ノード・タイプ間の親子関係を定義する階層セットを作成します。この例では、ストアは製品の子ノードを持つことができますが他のストアの子ノードを持つことはできず、製品は他の製品の子ノードのみ持つことができます。

#### NODE TYPES

Name & Description	Child Option	Child Node Types
Store Stores	Selected <input type="button" value="v"/>	Product
Product Product	Selected <input type="button" value="v"/>	Product

3. 作成した階層セットを使用して、新しいノード・セットを作成します。
4. 作成したノード・セットを使用して代替ビューポイントを作成します。

次の例は、新しい階層を示しています。最上位ノードはストアのノードです。




## マッピング・ビューポイントの作成

マッピングにより、ノードおよびそれらの関係がアプリケーション全体にわたって正確に表現されるようになります。マッピングを使用して、互いに情報を共有する様々なアプリケーションのディメンション内のノード間の関係を定義します。ソース・データのディメンションがターゲット・アプリケーションと一致しない場合は、共有データがターゲット・アプリケーションによって使用されるように変換する方法を決定するために、マッピングを定義します。

例については、[ソース・ディメンションのターゲット・ディメンションへのマッピング](#)を参照してください。

### ビデオ

目的	参照するビデオ
アプリケーション間でのデータのマッピングについて学習します。	 <a href="#">アプリケーション間でのデータのマッピング</a>

マッピングに関する一般的なシナリオは、次のとおりです。

- あるアプリケーションから別のアプリケーションに最下位レベルのノードをマッピングします。  
たとえば、自社によって子会社が合併される際に、子会社のローカル勘定科目を自社の勘定科目にマッピングするとします。この場合、マッピング階層を使用すると、マッピングを実行できます。これにより、最下位レベルのノードが自社の勘定科目ディメンションではなくマッピング階層内に配置されるため、自社の勘定科目ディメンションへの影響および混乱を回避できます。
- 計画目的で使用される財務上要約された勘定科目に一般会計トランザクション勘定科目をマッピングします。

### ノート:

すべてのシナリオで、マッピング階層セットは、ディメンション内の階層関係とは別のマッピング関係を保持します。

考慮事項:



- マッピングは Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションではサポートされていません。
- 他のすべてのアプリケーションの場合:
  - 最下位レベルのソース・ノードは最下位レベルのターゲット・ノードにのみマッピングできます。
  - 1 つ以上のソース・ノード・タイプを 1 つのターゲット・ノード・タイプにし、マッピングできません。
  - マッピング・データをエクスポートするには:
    - \* マッピング・ビューポイントとターゲット・ディメンションにバインドされたビューポイントの両方を含むビューを使用します。
    - \* Planning および Financial Consolidation and Close アプリケーションの場合は、マッピング・データをファイルまたは外部アプリケーションの受信ボックスにエクスポートできます。
    - \* 汎用アプリケーションの場合、マッピング・データはファイルにのみエクスポートできます。
  - 様々なタイプのノードをマッピングしているときに、ターゲット・ノードの符号を反転させる必要がある場合は、必要に応じて、Core.Change.Sign プロパティを使用します。たとえば、資産を負債にマッピングする場合、Core.Change.Sign プロパティを追加して True に変更します。マッピング・データをエクスポートする場合:
    - \* ターゲット・ノードが Planning または Financial Consolidation and Close アプリケーション内にある場合は、ターゲット・ノードにマイナス符号が追加されます。
    - \* ターゲット・ノードが汎用アプリケーション内にある場合、負数の符号が含まれる列がエクスポートされます。

外部アプリケーションによってマッピング・データがインポートされる場合、ターゲット・ノードに変更符号が適用されます。たとえば、ターゲットが Planning アプリケーションであるときに、資産ノードを負債ノードにマッピングする場合、ソース・ノード・タイプに Core.Change.Sign を追加して True に設定します。エクスポート時には、ターゲット・ノードに変更符号が追加されます。Planning 内で、データ管理モジュールにより、データがインポートされ、ターゲット・ノードに変更符号が適用されます。

## ソース・ノードのターゲット・ノードへのマッピング

ソース・アプリケーションの 1 つ以上のディメンション内のノードを、ターゲット・アプリケーションのディメンション内のノードにマッピングできます。最初に、ソース・ディメンションごとに少なくとも 1 つのソース・ノード・タイプを作成します。次に、ソースとターゲットのノード・タイプを含むマップ・バインド、およびソース・ノード・タイプごとに場所を定義するマッピング・キーを作成します。ソース、ターゲットおよびマッピング・ビューポイントを備えたメンテナンス・ビューを作成すると、ソースおよびターゲット・ビューポイントからマッピング・ビューポイントにノードをドラッグ・アンド・ドロップすることで、ソースをターゲットにマップできます。ノードのマッピングが終了した後は、マッピングをエクスポートできます。

**ソース・ノードをターゲット・ノードにマップするには:**

1. **マップ・バインドのソース・ノードタイプを作成します。** ソース・ディメンションごとに少なくとも 1 つのノード・タイプを作成する必要があります。必要に応じて、ソース・ディメンションに複数のノード・タイプを作成できます。
  - a. ターゲット・ディメンションを使用して、ソース・ノードを保持するためのノード・タイプをマッピング・ビューポイントに作成します。[ノード・タイプの作成](#)を参照してください。

 **ノート:**

ソース・アプリケーションのソース・ノード・タイプは使用できないため、新しいソース・ノード・タイプを作成する必要があります。ノード・タイプはディメンションとアプリケーションに対して固有です。

- b. ノード・タイプ・コンバータを作成し、各ソース・アプリケーションのノード・タイプを前述のステップ 1a で作成したノード・タイプに変換します。[ノード・タイプ・コンバータの操作](#)を参照してください。
  - c. アプリケーション間で数値データを転送するときに符号の変更が必要となるノードをマッピングする場合(たとえば、資産を負債にマッピングする場合は、必要に応じて、ソース・ノード・タイプに `Core.Change.Sign` プロパティを追加します。
2. **マップ・バインドを作成します。** [マップ・バインドの作成](#)を参照してください。

マップ・バインドを使用して、様々なソース・システムおよびターゲット・システムのノード・タイプを相互にマップできます。

 **ノート:**


ノード・タイプをマップ・バインドに追加する場合は、マップ先のすべてのターゲット・ノード・タイプと、マッピング・ビューポイント用に作成したソース・ノード・タイプを追加します。

マップ・バインドを作成すると、次のデータ・チェーン・オブジェクトも作成されます:

- 新しい階層セットが作成され、マップ・バインドの作成時に特定したターゲット・ノード・タイプが階層セットに追加されます。
  - 新しいノード・セットが作成され、新しい階層セットがポイントされます。
  - ターゲット・アプリケーションのデフォルト・ビューに新しいマッピング・ビューポイントが作成され、新しいノード・セットを使用するように設定されます。
3. **(オプション)マッピング階層セットを構成します。** [階層セットの作成](#)を参照してください。  
マップ・バインドの作成時に作成される階層セットには、マップ・バインドの作成時に指定したすべてのソース・ノード・タイプとターゲット・ノード・タイプが含まれます。この階層セットは、必要に応じて編集できます。
    - マップ・バインドの作成後に別のソース・ノード・タイプを追加した場合は、それらを階層セットに追加して、マッピング・キーを定義する際に使用できるようにします。

- 階層セットのノードに対して、関連するロールアップ・ルールを追加します。たとえば、ターゲット・ノード・タイプは、ソース・ノードとそれ自体を子として指定できますが、ソース・ノード・タイプには子を指定できません。
4. **マッピング・キーを定義します。** [マッピング・キーの定義](#)を参照してください。

マッピング・キーを使用すると、マッピング・データをエクスポートするために、選択したソース・ノード・タイプとターゲット・ノード・タイプの組合せである場所を設定できます。



 **ノート:**

マッピング・キーを定義する際は、マップ・バインドの作成時に作成されたマッピング・ビューポイントを選択します。

5. **ソース・ビューポイント、ターゲット・ビューポイントおよびマッピング・ビューポイントが含まれるメンテナンス・ビューの作成**

マップ・バインドの作成時に作成されたソース・ビューポイント、ターゲット・ビューポイントおよびマッピング・ビューポイントが含まれるメンテナンス・ビューを設定します。これにより、ソース・ビューポイントとターゲット・ビューポイントからマッピング・ビューポイントにノードをドラッグ・アンド・ドロップできるようになります。

- ビューを作成します。 [ビューの作成](#)を参照してください。
  - ソース・ディメンションが含まれるビューポイントを作成します。 [ビューポイントの作成](#)を参照してください。
  - ターゲット・ディメンションが含まれるビューポイントを作成します。
  - マップ・バインドで作成されたノード・セットを使用して、マッピング・ビューポイントを作成します。
6. **ソース・ノードのターゲット・ノードへのマッピング**

- メンテナンス・ビューを開き、**左右並び**ボタン  (またはテーマに応じて ) をクリックし、ビューポイント进行操作します。
- マッピング・ビューポイントを右側に表示し、左側ではターゲット・ビューポイントとソース・ビューポイントを切り替えて表示します。
- マッピング・ビューポイント内での操作:
  - ターゲット・ノード・タイプを使用して、最上位ノードを作成します。たとえば、勘定科目ノードをマッピングしている場合、勘定科目のマッピングという名前を付けます。 [対話型での変更](#)を参照してください。

 **ノート:**

この最上位ノードを使用して、マッピングされたターゲット・ノードとソース・ノードをグループ化します。これにより、マッピングを編成し、最上位ノードの数を最小限に抑えることができます。

- ii. ターゲット・アプリケーションからノードをドラッグ・アンド・ドロップします。これはマッピング・ビューポイントでは親ノードになります。
- iii. ソース・アプリケーションからノードをドラッグ・アンド・ドロップします。これはマッピング・ビューポイントでは子ノードになります。

 **ノート:**

最下位レベルのソース・ノードは最下位レベルのターゲット・ノードにのみマッピングできます。

- d. **オプション:** アプリケーション間で数値データを転送するときに符号の変更が必要となるノードをマッピングする場合は、ソース・ノード・タイプで `Core.Change.Sign` プロパティを **True** に設定すると、ターゲット・ノードで符号が反転します。それ以外の場合、プロパティは **False** に設定されたままにします。
- e. これらのステップを繰り返し、ノードを必要な数だけマッピングします。
- f. マッピング・キーを作成してマッピング・データをエクスポートするには、マッピング・ビューポイントとターゲット・ディメンションにバインドされたビューポイントの両方を含むビューが必要です。これを設定するには、次のいずれかのビューを使用します。
  - アプリケーションの登録時に作成され、ターゲット・ディメンションにバインドされたビューポイントがあるアプリケーションのデフォルト・ビューを使用します。デフォルト・ビューに設定されたマッピング階層ノードを使用して、マッピング・ビューポイントを追加します。デフォルトのビューを使用して、マッピング・データとディメンション・データの両方をエクスポートできるようになりました。
  - メンテナンス・ビューを使用して、ターゲット・ビューポイントをターゲット・ディメンションにバインドします。

 **ノート:**

メンテナンス・ビューでは、ターゲット・ビューポイントはアプリケーション登録の外部で作成され、デフォルトではターゲット・ディメンションにバインドされていません。ターゲット・ビューポイントをバインドするには、ターゲット・ディメンションの既存のバインドを編集し、ターゲット・ビューポイントを指すように変更します。[ディメンションにバインドされたオブジェクトの特定](#)を参照してください。

- 7. **マッピング・データをエクスポートします** [マッピング・データのエクスポート](#)を参照してください。

(オプション)データ管理を使用して、マッピング・データを **Planning** または **Financial Consolidation and Close** にインポートできます。

**ヒント:**


マップ・バインドの作成後にソース・ノード・タイプを追加した場合は、次の手順に従って、それらをマッピング・ビューポイントに追加します:

1. マップ・バインドの作成時に作成された階層セットに新しいソース・ノード・タイプを追加します。
2. 階層セットのソース・ノード・タイプのロールアップ・ルールを追加します。
3. マッピング・キーに新しいソース・ノード・タイプを追加します。

## 時間ラベル付きビューポイントの操作

時間ラベル付きビューポイントを使用すると、過去の時点からノード・セット内のデータにアクセスできます。

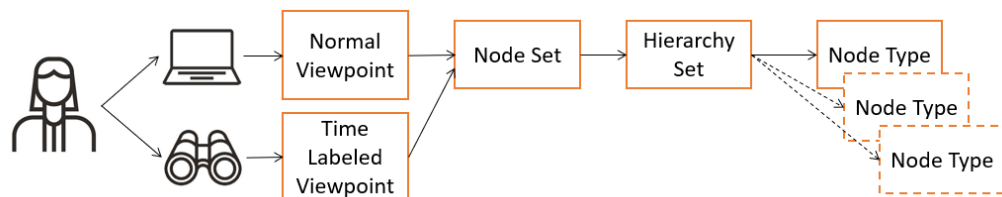
### ビデオ

目的	参照するビデオ
時間ラベル付きビューポイントを使用して、データの比較、レポートおよび分析を支援するために、過去の時点からノード・セット内のデータにアクセスする方法を学習します。	 <a href="#">時間ラベル付きビューポイントの操作</a>

それぞれの時間ラベル付きビューポイントでは単一の時間ラベルが使用されるため、様々なビジネス・ニーズに基づいて様々なタイプの時間ラベル付きビューポイントを作成できます。たとえば、エンティティ・データを四半期ベースで履歴と比較するローリング時間ラベル付きビューポイントを作成したり、再編成前の参照として使用するコスト・センター階層について固定時間ラベルを作成できます。

時間ラベル付きビューポイントを作成する前に、時間ラベル自体を作成する必要があります。[時間ラベルの作成、編集および削除](#)を参照してください。

時間ラベル付きビューポイントを作成するときには、表示する履歴データが含まれているノード・セットを使用する必要があります。次の図は、標準ビューポイントと時間ラベル付きビューポイントの両方に同じノード・セットを使用できることを示しています。標準ビューポイント内のデータは表示および編集できますが、時間ラベル付きビューポイントは読取り専用です。



## 考慮事項

- ビューの時間ラベル付きビューポイントを作成するには、ビューに対する所有者権限およびそのビュー内のデータ・オブジェクトに対するデータ・マネージャまたはメタデータ・マネージャ権限が必要です。
- 時間ラベル付きビューポイントは**読取り専用**です。時間ラベル付きビューポイント内のデータを変更することはできません。つまり、次の操作は使用できません:
  - 要求
  - インポートおよびビューポイント・ロード
  - サブスクリプション

時間ラベル付きビューポイントからの検索、比較、抽出(全体抽出のみ)、ダウンロードといった読取り専用は実行できます。

- 時間ラベル付きビューポイントは外部アプリケーションにバインドできないため、インポートまたはエクスポートで使用することはできません。
- 時間ラベル付きビューポイントをビューポイント問合せで使用したり、時間ラベル付きビューポイントを検証することはできません。
- ユーザーの現在のビューポイント権限によって、時間ラベル付きビューポイントにおけるデータ・アクセスが決まります。つまり、ユーザーが現在、ビューポイント・データに対するアクセス権を持っている場合は、時間ラベルに関連付けられている期間にそのビューポイント・データに対するアクセス権を持っていなかったとしても、そのデータを表示できます。
- 時間ラベル付きビューポイントは、そのビューポイントのノード・セットの作成日より後の期間のデータにのみアクセスできます。
- 時間ラベル付きビューポイントに表示されるプロパティは、ノード・セットにおける各ノード・タイプの現在のプロパティに基づきます:
  - 時間ラベルに関連付けられている期間に存在していなかったノード・タイプのプロパティが現在存在する場合、そのプロパティは、ビューポイントに値なしで表示されます。
  - ノード・タイプのプロパティが現在は存在しないが、時間ラベルに関連付けられている期間に存在していた場合、そのプロパティはビューポイントに表示されません。
- 時間ラベル付きビューポイントでは、プロパティ値を決定するために、時間レベルに関連付けられている期間に存在していた履歴プロパティ・パラメータが使用されます。これには次のものが含まれます:
  - 許容値または無効な値
  - 継承された値
  - 式に基づいて導出された値

ただし、時間ラベル付きビューポイントでプロパティを検査する場合、インスペクタでは、現在のプロパティ・パラメータを使用してプロパティ値が決定されます。

たとえば、別名プロパティが履歴時間ラベルの時点ではノード名から導出されていたが、後で変更されて、ノード名と説明から導出されるようになった場合、その時間ラベルを使用する時間ラベル付きビューポイントにはノード名が別名として表示されます。ただし、別名プロパティを検査する場合は、ノード名と説明がインスペクタに表示されます。

- 時間ラベル付きビューポイントのノード履歴は、時間ラベルで構成した指定の日時まで表示されます。

# ビューポイントのコピー

アクティブ・ビューポイントのコピーして新しいビューポイントを作成できます。階層ビューポイントからコピーする場合、ビューポイントからノードだけでなく、ノード・タイプ間の関係もコピーできます。ビューポイントのバージョンを保持する場合、バージョンをコピーして読取り専用にすることができます。

## ノート:

時間ラベル付きビューポイントはコピーできません。

## 考慮事項

- ビューポイントがコピーされる際、関連付けられたデータ権限およびデータ・オブジェクトの承認ポリシーもコピーされます。ただし、保存済ビューポイント問合せ (パブリックおよびプライベートの両方) は新しいビューポイントにコピーされません。
- ビューポイント内で自分と同じ階層を持つ特定のユーザーに対してノードおよびプロパティ・アクションを制限する場合、ビューポイントのコピーするかわりに、同じノードを使用して新しいビューポイントを作成するが許容可能アクションと編集可能プロパティを設定することにより、新しいビューポイント内のノードおよびプロパティ・アクションを制限できます。
- 複製タブでビューポイントを開いた場合、複製タブからビューポイントのコピーすることはできません。ビューポイントは元のタブからのみコピーできます。[複製ビューポイント・タブの使用](#)を参照してください。

## ノードのコピー

ノードをコピーする場合:

- 元のビューポイント内のノード・タイプがコピーされ、新しいビューポイントのノード・セット内で使用される新しいノード・タイプが作成されます。
- 元のビューポイントのノード・タイプ内のノードが、新しいビューポイントの新しいノード・タイプにコピーされます。

階層ビューポイントのノードをコピーする場合、関係もコピーする必要があります。

## ノート:

ノードをコピーしない場合、元のビューポイントのノード・タイプが新しいビューポイントのノード・セット内で使用されます。

## 関係のコピー

階層ビューポイントから関係をコピーする場合:

- 元のビューポイントの階層セットがコピーされ、新しいビューポイントの新しい階層セット内が作成されます。元の階層セット内の関係がすべて、新しい階層セットにコピーされます。

- ノードのコピー・オプションに基づくノード・タイプが新しい階層セットによって使用されます。

### コピー・オプションに基づく新しいビューポイントの作成

次の表に、ビューポイントのコピー時に選択するコピー・オプションに応じて新しいビューポイントのデータ・チェーンがどのように作成されるかを示します。

たとえば、階層ビューポイントからのみ関係をコピーすることを選択した場合:

- 新しいノード・セットが作成されます。
- 新しい階層セットが作成されます。
- コピーしたビューポイントの元のノード・タイプが使用されます。

表 19-2 階層ビューポイントのコピー

ノードのコピー	関係のコピー	ノード・セット	階層セット	ノード・タイプ
はい	はい	新規	新規	新規
いいえ	はい	新規	新規	オリジナル
いいえ	いいえ	新規	オリジナル	オリジナル

#### ノート:

階層ビューポイントをコピーする場合、ノードのみをコピーすることはできません。

表 19-3 リスト・ビューポイントのコピー

ノードのコピー	ノード・セット	ノード・タイプ
はい	新規	新規
いいえ	新規	オリジナル

### ビューポイントをコピーする際のバインディングに関する考慮事項

バインドされたビューポイントをコピーする場合は、ノードおよび関係のコピーについて選択したオプションが、次のように新しいビューポイントのデータ・オブジェクトのバインディング・ステータスに影響します。


- 「ノードのコピー」または「関係のコピー」を選択していない場合は、新しいビューポイントが完全にバインドされます。これを使用して、新しいノード・セットを使用してフィルタされたビューを作成できます。コピーされたビューポイントで実行された更新は、本番データに影響します。
- 関係をコピーし、ノードをコピーしないと、ビューポイントはノード・タイプにバインドされます。これは、代替階層の **what-if** シナリオを作成するのに役立ちます。たとえば、ビューポイントの関係をコピーし、ノードをコピーしないことで、従業員の再編成をモデル化できます。ビューポイントはノード・タイプにバインドされるため、ノードに対する変更(たとえば、従業員の住所変更)は本番データに影響しますが、関係に対する変更(たとえば、別のマネージャへの従業員の異動)は影響しません。



- 関係とノードの両方をコピーすると、新しいビューポイントはまったくバインドされません。これは本番データに影響を与えることなく、すべての変更を自由にモデル化できるサンドボックス環境を作成するのに役立ちます。このオプションはバージョン管理にも使用できます。

### ビューポイントのコピー

ビューポイントのコピーするには:

- 「ビュー」で、アクティブなビューを開きます。
- ビューポイントを選択します。
- ビューポイント名の右側にカーソルを置き、メニュー・アイコン  をクリックし、「コピー」を選択します。
- ビューポイントの名前と説明を定義し、ノードと関係(階層ビューポイントのみ)をコピーするかどうかを選択し、「コピー」をクリックします。  
ビューポイントが作成され、操作が可能になります。

## バージョン管理のベスト・プラクティス

次に、ビューポイントのコピーする際のバージョン管理のベスト・プラクティスを示します。

使用例	ベスト・プラクティス
特定の期間に関するノードおよび階層の履歴コピーを作成します。たとえば、2018 年 1 月時点の貸借対照表および損益計算書のコピーを作成します。引き続き、2018 年 2 月の変更を使用して元のバージョンを編集します。	「ノードのコピー」および「関係のコピー」を選択することで、個別のバージョンのノードと階層を作成します。
異なる期間またはビジネス・イベントについて階層を再編成または再構築します。たとえば、ビジネス・ユニット階層のコピーを作成してから、コピーしたビューポイント階層を再構築し、提案された組織変更の効果をビジュアル化します。	「関係のコピー」を選択することで、同じノードを使用して個別のバージョンの階層を作成します。 <a href="#">バインドされたビューポイントの変更による代替ビューポイントのエクスポート</a> を参照してください。

## ディメンションのバインドされたビューポイントの変更

代替ビューポイントはアプリケーション登録の外部で作成されるため、デフォルトでは外部アプリケーションにバインドされません。代替ビューポイントのデータをインポートまたはエクスポートする必要がある場合、バインディングに対する Oracle Enterprise Data Management Cloud ディメンションを検査し、バインドされたビューポイントを変更して、代替ビューポイントを外部オブジェクトにバインドする必要があります。

 ノート:

時間ラベル付きビューポイントはディメンションにバインドできません。

バインドされたビューポイントの変更プロシージャは、アプリケーション・タイプによって異なります。

- **Planning** アプリケーションは、**Oracle Enterprise Data Management Cloud** ディメンション内の単一の外部ディメンションへのバインドをサポートしています。代替ビューポイントをバインドする場合、既存のバインディングを編集し、代替のビューポイントをポイントするように変更します。[Planning およびフリーフォーム・アプリケーションのディメンションへのビューポイントのバインド](#)を参照してください。
- **Oracle Financials Cloud** 一般会計アプリケーションでは、**Oracle Enterprise Data Management Cloud** ディメンション内の複数の外部オブジェクト(セグメント/値セットおよびツリー)へのバインドがサポートされています。既存のバインドされたビューポイントを変更したり(たとえば、古いバージョンのツリーをエクスポートしない場合など)、既存のバインディングをコピーして新しいバインディングを作成できます(たとえば、バインドされたツリーの新しいバージョンを追加するが、既存のバインドされたツリーのバージョンも維持する場合など)。[ツリーまたはツリー・バージョンを作成するためのバインディングのコピー](#)を参照してください。
- **Financial Consolidation and Close** アプリケーションは、**Oracle Enterprise Data Management Cloud** ディメンション内の単一の外部ディメンションへのバインドをサポートしています。代替ビューポイントをバインドする場合、既存のバインディングを編集し、代替のビューポイントをポイントするように変更します。[Financial Consolidation and Close アプリケーションのディメンションへのビューポイントのバインド](#)を参照してください。
- 汎用アプリケーションは、**Oracle Enterprise Data Management Cloud** ディメンション内の単一の外部ディメンションへのバインドをサポートしています。代替ビューポイントをバインドする場合、既存のバインディングを編集し、代替のビューポイントをポイントするように変更します。また、ディメンションのノード・タイプおよびプロパティもカスタマイズできます。[汎用アプリケーションのユーザー定義ディメンションにバインドされたビューポイントの変更](#)を参照してください。
- 標準ディメンションのバインディングを変更する際、マップ・バインド以外の任意のバインディングに対してレガシー **GL** または参照クラス・ノード・タイプを含むビューポイントは選択できません。参照ディメンションの場合、レガシー **GL** または参照クラス・ノード・タイプのビューポイントを選択できます。

## プロパティの操作

ディメンションには、ノードで使用されるプロパティが含まれます。「プロパティ」ページには、ディメンションに追加できるプロパティがリストされます。**Oracle Enterprise Data Management Cloud** では、プロパティの初期セットが提供されます。カスタム・プロパティは、「プロパティ」ページから、または汎用アプリケーションを登録するときに作成できます。

アプリケーションのディメンションで使用可能なプロパティは、アプリケーション・タイプによって決まります。

- 汎用アプリケーションの登録時に、カスタム・プロパティを作成するか既存のプロパティを選択できます。
- **Oracle Fusion Cloud EPM** アプリケーションの登録時に、ディメンションのディメンション・タイプに基づいてプロパティが自動的に追加されます。

プロパティがビューポイントに表示される方法をカスタマイズできます。たとえば、プロパティの代替名を表示できます。[ビューポイントのプロパティの構成方法の理解](#)を参照してください。

次の表で説明するように、アプリケーションのタイプによってプロパティの一部の特性が決まります。

**表 20-1 プロパティとアプリケーション・タイプ**

アプリケーション・タイプ	プロパティの考慮事項
Oracle Fusion Cloud EPM アプリケーション	プロパティの追加や除去はできません。ノードに使用できるプロパティは、アプリケーションの登録時に自動的に追加されるプロパティのみです。アプリケーション固有のプロパティの場合、次を参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <a href="#">Planning</a> および <a href="#">フリーフォーム・アプリケーションの事前定義済プロパティ</a></li> <li>• <a href="#">Financial Consolidation and Close</a> アプリケーションの事前定義済プロパティ</li> <li>• <a href="#">Enterprise Profitability and Cost Management</a> アプリケーションの事前定義済プロパティ</li> </ul>
Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーション	プロパティの追加や除去はできません。ノードに使用できるプロパティは、アプリケーションの登録時に自動的に追加されるプロパティのみです。アプリケーション固有のプロパティの場合、 <a href="#">Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションの事前定義済プロパティ</a> を参照してください
Oracle E-Business Suite 一般会計アプリケーション	プロパティの追加や除去はできません。ノードに使用できるプロパティは、アプリケーションの登録時に自動的に追加されるプロパティのみです。アプリケーション固有のプロパティの場合、 <a href="#">E-Business Suite 一般会計アプリケーションの事前定義済プロパティ</a> を参照してください
汎用アプリケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 汎用以外のアプリケーション・タイプのプロパティを追加できます。たとえば、<a href="#">Planning</a> プロパティを汎用アプリケーションに追加できます。</li> <li>• ディメンションのノード・タイプのプロパティを追加または除去できます。</li> <li>• 他のデータ・チェーン・オブジェクトまたはアプリケーション登録によって参照されていないかぎり、カスタム・プロパティを削除できます。</li> </ul>

表 20-1 (続き) プロパティとアプリケーション・タイプ

アプリケーション・タイプ	プロパティの考慮事項
ユーザー・アプリケーション	プロパティの追加や除去はできません。ノードに使用できるプロパティは、アプリケーションの作成時に自動的に追加されたプロパティのみです。 <a href="#">ユーザー・アプリケーションの事前定義済プロパティ</a> を参照してください。

### ノート:

- Oracle Fusion Cloud EPM アプリケーションには固有の考慮事項がある可能性があります。その場合、それらの考慮事項についてはアプリケーション・タイプに関するトピックで説明します。
- すべてのアプリケーション・タイプについて、アプリケーションに登録されていないプロパティをノード・タイプに追加して、ビューポイントでプロパティを使用可能にすることができます。ノード・タイプに追加された未登録のプロパティは、アプリケーションのデータのインポートまたはエクスポート時に含められません。インポートまたはエクスポートできない場合にプロパティをノード・タイプに追加するのはなぜでしょうか。このようなプロパティを使用して、ソートをカスタマイズしたり、Oracle Enterprise Data Management Cloud ユーザー向けの説明およびコメントを含めることができます。

### プロパティのデータ型

プロパティは、次のデータ型を使用して定義されます。

プロパティのデータ型	定義	例
ブール	true または false にすることができる値	True はい
日付	日付値。時刻値は含まれません。	03/05/2023
浮動小数点	小数部を持つ数値	587.5
整数	整数	1000
リスト	一連の文字列	売掛金 現金 減価償却
メモ	改行やタブ文字などのフォーマットおよび空白文字を使用できる大きい文字列。	Java 正規表現(例: <code>return node.properties.PLN.Formula.replace("\R", ".");</code> )
ノード ノート: サブタイプはノード・データ型で使用できます。 <a href="#">ノード・データ型のサブタイプ</a> を参照してください。	「基本」サブタイプ: 同じノード・セットまたは異なるノード・セット内の別のノードへのポインタ。	親ノード(例: Accounts - Project)

プロパティのデータ型	定義	例
	「ユーザー」サブタイプ: ユーザー・アプリケーション内のユーザー・ノードまたはユーザー・ロールアップ・ノードへのポインタ	コスト・センター・マネージャ(例: Barry Mills)
数値文字列	数字(0-9)のみを使用できる文字列。	12475381469113081838
シーケンス	自動的に生成される増分番号。	0001005 0001010 0001015
文字列 ノート: サブタイプは文字列データ型で使用できます。文字列サブタイプを参照してください。	「基本」サブタイプ: テキストおよび数字。 「電子メール」サブタイプ: 電子メール・アドレス 「ハイパーリンク」サブタイプ: ハイパーリンク情報	自己資本 user@companyname.com https://companyname.com
タイムスタンプ	日時値	03/05/2023 11:30 AM

### プロパティ・レベル

プロパティ・レベルは、プロパティ値がどこで定義されるかを決定します。

- **ノード:** 定義済のプロパティ値がすべての場所およびビューポイント全体でそのノードに適用されます。
- **関係:** 定義済のプロパティ値は、階層セット内の特定の親子関係に対して一意です。

#### ▲ 注意:

プロパティ・レベルは、定義済のプロパティ値のみに適用されます。継承値および派生値(デフォルト式で位置指定ロジックを使用する場合は、ノードおよび関係レベルの制約条件に準拠しない場合があります。プロパティの継承および派生プロパティを参照してください)。

### プロパティの発生元

プロパティの発生元は、ノードの値がどのようにして発生したかを特定します。プロパティ値の発生元は、次のとおりです:

- デフォルト: 値はアプリケーションの登録時に構成できます
- 定義: 値はユーザーによって定義されます
- 継承: 値は祖先ノードから継承されます
- 派生: 値は計算されます。例: 子の数
- 派生および保管: 値が派生され、ノードに保管されました。
- 計算済(「名前」プロパティと「親」プロパティのみ): 要求中に、ノード名または親の値が計算されました。ノード名の場合、要求が完了すると、発生元に「定義済」と表示されません。

- 不明: 値の発生元を特定できません

詳細は、次を参照してください:

- [データ・チェーンの理解](#)
- [ビューポイントでのプロパティの表示方法の構成](#)
- [プロパティ名およびネームスペースの理解](#)
- [ノード・タイプのプロパティの追加、除去および構成](#)
- [ユーザー定義ディメンションのノード・タイプからのプロパティ除去](#)
- [プロパティの検査](#)
- [プロパティの継承](#)
- [派生プロパティ](#)

 **ノート:**

プロパティ値を導出するための式の作成の詳細は、[式を使用したカスタム・ビジネス・ロジックの定義](#)を参照してください。

## プロパティ名およびネームスペースの理解

プロパティは、名前とネームスペースで識別されます。たとえば、Core.Node Type プロパティはネームスペース Core と名前 Node Type を持ちます。

様々な外部アプリケーションが同じプロパティ名を使用する可能性があるため、ネームスペースは便利です。これにより、プロパティ名を保持しながら、各プロパティを一意に識別できます。ネームスペースは、アプリケーションを登録する際にプロパティに自動的に割り当てられます。

次の表に、使用可能なネームスペースの説明を示します。

**表 20-2 ネームスペース**

ネームスペース	説明
Core	Oracle Enterprise Data Management Cloud システム・プロパティ。たとえば、Core.Name プロパティはノード名に使用されます。 <a href="#">システムおよび統計プロパティ</a> を参照してください。
CoreStats	Oracle Enterprise Data Management Cloud 統計プロパティ。たとえば、CoreStats.# Children プロパティは特定ノードの子ノードの数を計算します。 <a href="#">システムおよび統計プロパティ</a> を参照してください。
Custom	汎用アプリケーションのプロパティ。
EBSSL	Oracle E-Business Suite 一般会計アプリケーションのプロパティ。 <a href="#">E-Business Suite 一般会計アプリケーションの事前定義済プロパティ</a> を参照してください。
FCCS	Financial Consolidation and Close アプリケーションのプロパティ。 <a href="#">Financial Consolidation and Close アプリケーションの事前定義済プロパティ</a> を参照してください。

表 20-2 (続き) ネームスペース

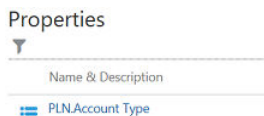
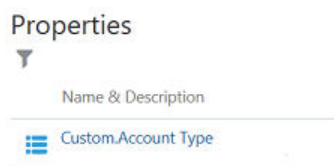
ネームスペース	説明
FCGL	Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションのプロパティ。 <a href="#">Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションの事前定義済プロパティ</a> を参照してください。
Lookup	参照クラス・ノード・タイプのプロパティ。 <a href="#">参照ノード・タイプ</a> の事前定義済プロパティを参照してください。
PLN	Planning アプリケーションのプロパティ。 <a href="#">Planning およびフリーフォーム・アプリケーションの事前定義済プロパティ</a> を参照してください。
User	ユーザー・クラス・ノード・タイプのプロパティ。 <a href="#">ユーザー・アプリケーションの事前定義済プロパティ</a> を参照してください。

アプリケーションを登録したかどうかに関係なく、Core および CoreStats ネームスペースを持つプロパティが「プロパティ」ページに表示されます。他のネームスペースを持つプロパティについては、登録済アプリケーションによって使用されたプロパティのみが「プロパティ」ページに表示されます。たとえば、Planning アプリケーションを登録したが、汎用アプリケーションは登録しなかった場合、「プロパティ」ページには PLN ネームスペースを持つプロパティは表示されますが、Custom ネームスペースを持つプロパティは表示されません。

詳細は、[プロパティの操作](#)を参照してください。

#### 例 20-1 同じ名前を持つ 2 つのプロパティを一意に識別

Oracle Enterprise Data Management Cloud には PLN.Account Type プロパティが含まれます。Account Type という名前のプロパティを持つ汎用アプリケーションを登録するとします。次に例に示すように、Custom および PLN ネームスペースは 2 つのプロパティを区別します。



## システムおよび統計プロパティ

次のプロパティは、システム内で事前定義済であり、登録されたアプリケーションがあるかどうかに関係なく、「プロパティ」ページに表示されます。システム・プロパティでは、Core ネームスペースが使用されます。統計プロパティでは、CoreStats ネームスペースが使用されます。

詳細は、次を参照してください:

- プロパティの操作
- プロパティ名およびネームスペースの理解

### システム・プロパティ

プロパティ	データ型	レベル	説明
代替名	文字列	ノード	代替ノード識別子(様々なノード・タイプにわたる共通ノードを識別するのに使用)
符号の変更	ブール	関係	エクスポートのマッピングの符号の変更インジケータ
説明	文字列	ノード	ノードの説明
名前	文字列	ノード	ノード名

### 統計プロパティ

プロパティ	データ型	レベル	説明
子の数	整数	関係	直接の子の数
子孫の数	整数	関係	子孫の数
最下位ノード	ブール	関係	ノードに子があるかどうかを決定します
作成者	文字列	ノード	ノードを作成したユーザー
作成日	タイムスタンプ	ノード	ノードが作成された日時
EDM ユーザー	ブール	ノード	User.Email Address プロパティが有効なユーザーと一致した場合、True を返します。
EDM ユーザー名	文字列	ノード	User.Email Address プロパティが有効なユーザーと一致した場合、Oracle Enterprise Data Management Cloud ユーザー名を返します。



プロパティ	データ型	レベル	説明
最終変更者	文字列	ノード	ノード、またはノードに対して実行する要求アクションを更新した最終個人のユーザー ID。これには、ノードに対して定義されたノード名、説明または任意のノード・プロパティ(ノードおよび関係)の更新、およびノードに対して加えられた構造的な変更(全階層セット間のノードの移動や挿入など)が含まれます。
最終変更日	日付	ノード	ノードが最後に更新された日時。これには、ノードに対して定義されたノード名、説明または任意のノード・プロパティ(ノードおよび関係)の更新、およびノードに対して加えられた構造的な変更(全階層セット間のノードの移動や挿入など)が含まれます。
レベル	整数	関係	階層ノード・セット内のノードのレベル
ノード ID	文字列	ノード	ノードのユニバーサル一意識別子(UUID) 例: 31B42B2B-00FF-436F-9C95-5E7247069C81
ノード ID (32 ビット)	数値文字列	ノード	ノード ID の 32 ビット・ハッシュ値 例: 3940068023 <b>注意:</b> ノード ID のハッシュ値は一意でない場合があります。
ノード ID (64 ビット)	数値文字列	ノード	ノード ID の 64 ビット・ハッシュ値 例: 12475381469113081838 <b>注意:</b> ノード ID のハッシュ値は一意でない場合があります。
ノード・タイプ	ノード・タイプ	ノード	ノードのノード・タイプ

プロパティ	データ型	レベル	説明
親	ノード	関係	現在の位置にあるノードの親ノード名
親ノード・タイプ	ノード・タイプ	関係	親ノード・タイプ
関係 ID	文字列	関係	関係のユニバーサル一意識別子(UUID) 例: 8CC68310-A7AB-44C9-89BA-026A2BDAE2BA
兄弟のソート順	整数	関係	親ノードの下の子ノードをソートするための数値。これは、階層セットで「 <b>カスタム順序の使用</b> 」が有効になっている場合に使用されます。同じソート順序番号の兄弟は、英数字順にソートされます。

## プロパティの作成について

Oracle Enterprise Data Management Cloud では、プロパティは 3 つの方法で作成されます:

- アプリケーション固有のアダプタを使用してパッケージ化されたアプリケーションを登録すると、事前定義済プロパティが自動的に作成されます。作成されるプロパティは、登録時に指定した設定(たとえば、**Planning** アプリケーションの登録時に追加したキューブと別名の数)の影響を受けます。これらの事前定義済プロパティは、外部アプリケーションにバインドされ、インポートおよびエクスポートの対象となります。[アプリケーション・タイプの理解](#)を参照してください。
- 汎用アプリケーションを登録する際、登録プロセスの中でカスタム・プロパティを作成できます。登録時に作成したプロパティは、バインドされたノード・タイプに追加され、インポートおよびエクスポートの対象となります。[カスタム・プロパティの作成](#)を参照してください。
- 「プロパティ」ページからプロパティを手動で作成できます。これらのプロパティは、最初はアプリケーションにバインドされておらず、インポートまたはエクスポートされません。アプリケーション登録を変更し、バインドされたノード・タイプにプロパティを追加することで、汎用アプリケーションにバインドできます。[プロパティの手動での作成](#)を参照してください。

## プロパティの手動での作成

パッケージ・アプリケーションまたは汎用アプリケーションの登録時にシステムで作成されるプロパティに加えて、「プロパティ」ページから、外部アプリケーションにバインドされていないプロパティを手動で作成できます。

プロパティを作成するには、サービス管理者であるか、アプリケーションの所有者またはメタデータ・マネージャ権限を保持している必要があります。プロパティを手動で作成した後、ビューポイントで使用できるようにするには、プロパティをノード・タイプに追加する必要があります。

 **ノート:**

プロパティ・ページから手動で作成したプロパティは、最初はアプリケーションにバインドされていないため、インポートまたはエクスポートされません。プロパティを汎用アプリケーションにバインドする場合は、アプリケーション登録を変更し、バインドされたノード・タイプにプロパティを追加する必要があります。

プロパティを手動で作成するには:

1. 「プロパティ」から「作成」をクリックします。
2. プロパティが含むデータのタイプと一致する「**プロパティ・テンプレート**」を選択します。たとえば、プロパティの値が整数の場合は、Custom.Integer Template を選択します。
3. プロパティの「名前」と、必要に応じて「説明」を入力します。
4. 「**プロパティ・レベル**」では、プロパティ・テンプレートがカスタム・ネームスペース(たとえば、Custom.String Template)にある場合に、プロパティをノードに適用するか、ノード間の関係に適用するかを指定します。


 **ノート:**

プロパティ・テンプレートが「カスタム」ネームスペース(たとえば PLN.Alias)にない場合、「**プロパティ・レベル**」フィールドは読取り専用です。

5. 文字列データ型のプロパティについては、オプションでプロパティ・サブタイプを選択します:
  - 基本
  - 電子メール
  - ハイパーリンク

[文字列サブタイプ](#)を参照してください。

6. デフォルト、共通およびデータ型のパラメータを指定します。[プロパティ・データ・タイプのパラメータの理解](#)を参照してください。
7. プロパティに許容値のリストを使用する場合は、許容値を入力します。[プロパティの許容値または無効な値の定義](#)を参照してください。
8. プロパティをビューポイントで使用できるようにするアクションを実行します:
  - プロパティを汎用アプリケーションにバインドしてインポートおよびエクスポートできるようにする場合は、アプリケーション登録を変更し、バインドされたノード・タイプにプロパティを追加します。[汎用アプリケーションの変更](#)を参照してください。
  - プロパティをビューポイントに表示する一方で、アプリケーションにはバインドしない場合は、プロパティを使用可能にするビューポイントのノード・タイプを編集して、プロパティを追加します。[ノード・タイプのプロパティの追加、除去および構成](#)を参照してください。

 **ノート:**

手動で作成されたプロパティは、汎用アプリケーションにのみバインドできます。手動で作成したプロパティは、**Planning** などのパッケージ化されたアプリケーションにはバインドできません。

## ビューポイントのプロパティのダウンロードおよびアップロード


ビューポイントのプロパティを構成するときには、オフラインで参照するか、複数のビューポイントで同様の構成を再利用するために、ビューポイントのプロパティ定義を **Excel** ファイルにダウンロードでき、さらに、ユーザー・インタフェースを介して手動でプロパティ定義を構成するかわりに、それらを含む **Excel** ファイルをアップロードできます。

### ファイルへのビューポイントのプロパティのダウンロード

 **Tip:**

この手順では、特定のビューポイントのプロパティ構成をダウンロードする方法について説明します。プロパティ・ワークリストから単一のプロパティまたはすべてのプロパティのプロパティ定義をダウンロードするには、[プロパティ定義のダウンロード](#)を参照してください。

### プロパティをファイルにダウンロードするには:

1. プロパティのアップロード先となるビューポイントを検査します。[ビューポイントの検査](#)を参照してください。
2. 「プロパティ」タブで、**ファイルへのプロパティのダウンロード**  をクリックします。

 **Note:**

「編集」モードの場合、**ファイルへのプロパティのダウンロード**・ボタンは表示されません。

ファイルがダウンロードされた後、Excel で表示できます。

### ファイルからのビューポイントのプロパティのアップロード

#### プロパティをアップロードする際の考慮事項


- プロパティをアップロードする際は、次のルールまたは権限の少なくとも **1** つが必要です:
  - サービス管理者

- ビューポイントを含むビューに対する「所有者」権限、およびビューポイントに関連付けられているアプリケーションまたはディメンションに対する少なくとも「データ・マネージャ」権限または「メタデータ・マネージャ」権限
- ビューポイントのプロパティは、ファイルにリストされている順序で、アップロードされたファイル内のプロパティに置き換えられます。そのため、アップロード・ファイルには、ビューポイントのすべてのプロパティが、ビューポイントで求められる表示順どりに含まれている必要があります。部分アップロードまたはマージ・アップロードはサポートされていません。
- ビューポイントの無効なプロパティまたは重複したプロパティは、アップロードが処理される時にスキップされます。
- プロパティのデフォルト値は、必要に応じて移入されます。

 **Tip:**

ビューポイントの現在のプロパティをダウンロードして、追加の変更を加えることができるテンプレートとして使用し、再びシステムにアップロードできます。[ファイルへのビューポイントのプロパティのダウンロード](#)を参照してください。

**プロパティをビューポイントにアップロードするには:**

1. プロパティのアップロード先となるビューポイントを検査します。[ビューポイントの検査](#)を参照してください。
2. 「プロパティ」タブで、「編集」をクリックします。
3. 「ファイルからのビューポイント・プロパティのロード」  をクリックします。

 **Note:**

「ファイルからのビューポイント・プロパティのロード」ボタンを表示するには、「編集」モードである必要があります。

4. プロパティ・ファイルを参照して、「開く」をクリックします。

 **Note:**

プロパティ・ファイルが正しい形式である必要があります。[ビューポイント・プロパティ・ファイルの形式](#)を参照してください。

プロパティ・ファイルが処理され、結果が表示されます。

5. **オプション:** 結果のメッセージで、「成功」または「警告ありで成功」の結果について、リンクをクリックして処理されたプロパティ・ファイルをダウンロードし、「ステータス」列および「メッセージ」列を確認して各プロパティの結果を確認します。アップロードが失敗した場合は、エラー・メッセージを確認します。
6. 確認ダイアログ・ボックスで、「OK」をクリックし、「保存」をクリックして変更内容を保存します。

 **Note:**

「取消」をクリックすると、アップロードしたプロパティはビューポイントに保存されません。

## ビューポイント・プロパティ・ファイルの形式

このトピックでは、ビューポイントへのプロパティのロードに使用する Microsoft Excel スプレッドシートの形式について説明します。

権限ファイルは、「**プロパティ**」という名前のシートが含まれた Excel ファイルである必要があります。

 **Note:**

ファイルに他のシートを含むことができます。たとえば、プロパティをダウンロードすると、ファイルにはサマリー情報が記載された「サマリー」という名前のシートが含まれています。このサマリー・シートは情報提供用であり、アップロードには不要です。

### プロパティ・シート形式

#### 考慮事項

- すべてのヘッダー・レコードは、次に示す順序でファイルに含まれている必要があります。
- ビューポイントに表示される各プロパティについてファイル内にレコードが存在する必要があります。
- ファイル内のプロパティがビューポイントに表示されるプロパティでない場合、その行はスキップされます。
- ファイル内でプロパティに複数のレコードがある場合、ファイル内の最初のレコードが処理されます。後続のレコードはスキップされ、スキップ済ステータスおよび対応するメッセージでマークされます。

#### ヘッダー列

- **プロパティ** (必須): プロパティの完全修飾名(例: CoreStats.Parent)
- **ラベル**: ビューポイント内のプロパティのカスタム・ラベル
- **説明**: プロパティのカスタムの説明
- **列として表示**: ビューポイントでプロパティを列として表示する必要があるかどうかを指定するブール値(TRUE/FALSE)。 [ビューポイントでのプロパティの表示方法の構成](#)を参照してください。
- **場所に対して表示**: ビューポイントでプロパティを「場所」タブに表示する必要があるかどうかを指定するブール値(TRUE/FALSE)。 [「場所」タブのプロパティの構成](#)を参照してください。

#### ステータス列

- **ステータス:** プロパティのアップロード後にプロパティのステータス(「成功」または「スキップ済」)を表示するシステムで予約された列。
- **メッセージ:** スキップされたプロパティについての情報メッセージを表示するシステムで予約された列。

## プロパティ・データ・タイプのパラメータの理解



プロパティを作成または編集するときに、プロパティのパラメータを構成できます。設定はプロパティとそのデータ型によって異なります。たとえば、文字列のプロパティによってプロパティ値の最小および最大長を指定できます。

多くのデータ型は、デフォルト値、最小および最大値、小数点以下桁数、大文字または小文字値を使用できるかどうかなどのパラメータを指定します。さらに、一部のデータ型では、指定する値のみを許可するようにプロパティを構成できます。



プロパティを手動で作成する場合または汎用アプリケーションを登録する場合は、作成するプロパティのデータ型に対応するテンプレートを選択します(たとえば、Custom.Integer)。


### すべてのデータ型のパラメータ

次のパラメータを、すべてのプロパティのデータ型に設定できます。

設定	説明
<p>デフォルト・タイプ</p> <p><b>ノート:</b> 汎用アプリケーションの登録時にプロパティを作成する場合、このフィールドは使用できません。指定された値を「デフォルト値」に入力するか、デフォルト値を使用しない場合は空白のままにします。</p>	<p>プロパティにデフォルト値があるかどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>なし:</b> プロパティにデフォルト値は使用されません。</li> <li>• <b>指定済:</b> プロパティにはデフォルト値が使用されます。「デフォルト値」に値を指定します。</li> <li>• <b>派生:</b> プロパティのデフォルト値は式から計算されます。「<b>式の定義</b>」 <i>fx</i> (またはテーマに応じて <i>dx</i>) をクリックして式ビルダーを開き、プロパティの値を決定するための式を作成します。<a href="#">式を使用したカスタム・ビジネス・ロジックの定義</a>を参照してください。</li> </ul> <div style="border: 1px solid #0070c0; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p> <b>ノート:</b></p> <p>このオプションは、プロパティ・パラメータを編集する場合にのみ使用できます。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>派生および保管:</b> プロパティのデフォルト値が要求、インポート、またはビューポイント・ロード中に式から派生し、ノードに保管されます。「<b>式の定義</b>」 <i>fx</i> (またはテーマに応じて <i>dx</i>) をクリックして式ビルダーを開き、プロパティの値を決定するための式を作成します。<a href="#">式を使用したカスタム・ビジネス・ロジックの定義</a>を参照してください。</li> </ul> <div style="border: 1px solid #0070c0; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p> <b>ノート:</b></p> <p>このオプションは、プロパティ・パラメータを編集する場合にのみ使用できます。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>計算および保管:</b> Core.Name プロパティおよび CoreStats.Parent プロパティでのみ使用可能です。要求アイテムが作成されると、ノード名または親値が式から計算され、ノード(名前の場合)または要求アイテム(親の場合)に保管されます。</li> </ul> <p>「<b>式の定義</b>」 <i>fx</i> (またはテーマに応じて <i>dx</i>) をクリックして式ビルダーを開き、プロパティの値を決定するための式を作成します。<a href="#">式を使用したカスタム・ビジネス・ロジックの定義</a>を参照してください。</p> <p><a href="#">計算および格納されたプロパティ</a>を参照してください。</p>
<p>デフォルト値</p>	<p>プロパティに許容値リストが使用されている場合は、そのリストからデフォルト値を選択します。それ以外の場合は、プロパティのデフォルト値を入力します。</p>



設定	説明
編集可能 <b>ノート:</b> 汎用アプリケーションの登録時にプロパティを作成する場合、このフィールドは使用できません。登録によってプロパティが作成された後は、プロパティ・パラメータのこのフィールドにアクセスできます。	ユーザーがプロパティを編集できるかどうかを指定します。
コミット時にロック	<p>このプロパティは、新規に追加されたノードのみを更新できることを指定します。このプロパティが有効になっている場合は、ノードを追加する要求がコミットされるとプロパティの値がロックされ、更新できなくなります。</p> <div data-bbox="873 730 1377 1037" style="background-color: #e6f2ff; padding: 10px; border: 1px solid #add8e6;"> <p> <b>ノート:</b></p> <p>このオプションは、プロパティ・パラメータを編集する場合にのみ使用できます。</p> <p>「コミット時にロック」は、ノードレベル・プロパティでのみ使用できます。</p> </div> <div data-bbox="873 1075 1377 1579" style="background-color: #fff9c4; padding: 10px; border: 1px solid #ffc107;"> <p> <b>注意:</b></p> <p>「コミット時にロック」を使用する場合は、ユーザーが更新する必要があるプロパティを気付かずに更新不可にしないように注意してください。たとえば、Core.Name に対して「コミット時にロック」を有効にすると、ノードが作成された後、ユーザーはノード名を変更できなくなります。また、プロパティに対して「コミット時にロック」を有効にし、プロパティの値を指定しなかった場合は、コミット後にユーザーがプロパティを更新して値を指定することはできません。</p> </div>

設定	説明
継承	<p>プロパティで使用する継承のタイププロパティの継承を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>なし: プロパティ値は別のノードから継承されません。</li> <li>位置的: プロパティ値は祖先ノードから継承されます。</li> </ul> <div style="border: 1px solid #0070C0; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p> <b>ノート:</b></p> <p>継承パラメータはアプリケーション・レベルでのみオーバーライドできます。</p> </div>

 **ノート:**

ノード・データ型プロパティの場合のみ、「ノード・セット」、「許可されるノード・タイプ」および「選択基準のプロパティ」パラメータ(ノード・データ型パラメータを参照)と組み合わせて入力する「デフォルト値」は、次のようにノード値に変換されます:

- 見つかったノードが 1 つのみの場合は、そのノードがプロパティ値として使用されます。
- 複数のノードが見つかった場合は、「許可されるノード・タイプ」の順序で最初のノードがプロパティ値として使用されます。
- ノードが見つかって、そのノードが許可されるノード・タイプのいずれにも該当しない場合または選択基準を満たしていない場合は、文字列自体がプロパティ値として使用されます。ノード・データ型の「デフォルト値」フィールドの文字列値を使用してビューポイントを検証することはできません。
- 文字列およびその他のプロパティ・パラメータと一致するノードが見つからない場合は、文字列自体がプロパティ値として使用されます。ノード・データ型の「デフォルト値」フィールドの文字列値を使用してビューポイントを検証することはできません。

特定のデータ型のパラメータの詳細は、次を参照してください:

- ブール・データ型パラメータ
- 浮動小数点および整数データ型パラメータ
- リストおよび文字列データ型パラメータ
- ノード・データ型パラメータ
- 数値文字列データ型パラメータ
- シーケンス・データ型パラメータ



## ブール・データ型パラメータ

設定	説明
ブール表示タイプ	プロパティで <b>true</b> および <b>false</b> 値を表示する方法。
ブール値の True	インポートおよびエクスポートで <b>true</b> を表す値。通常、これは外部アプリケーションが <b>true</b> に使用する値である必要があります。
ブール値の False	インポートおよびエクスポートで <b>false</b> を表す値。通常、これは外部アプリケーションが <b>false</b> に使用する値である必要があります。

## 浮動小数点および整数データ型パラメータ

設定	説明
最小値	プロパティ 値の最小値
最大値	プロパティ 値の最大値
小数点以下の桁数 - 浮動小数点のみ	使用する小数点以下の桁数 - 浮動小数点のみ

## リストおよび文字列データ型パラメータ

設定	説明
文字列の大/小文字	テキストに使用する大/小文字: 大/小文字混在、大文字または小文字
最小長	テキストの最小長
最大長	テキストの最大長
	<div style="border-left: 2px solid #0070C0; padding-left: 10px; margin-left: 20px;"> <p> <b>Note:</b></p> <p><b>Planning</b> アプリケーションでは、プロパティ構成を変更できないため、「最大長」値は 1000 です。</p> </div>
無効な文字	テキストで使用した場合に無効な文字
無効な先頭文字	文字列データ型のプロパティで開始できない文字。(文字列データ型のプロパティのみ)
無効な値	文字列データ型のプロパティと等しくできない値。(文字列データ型のプロパティのみ)
	<p>「+」をクリックして値を手動で入力するか、「アクション」をクリックしてリストから値をインポート、エクスポートまたはクリアします。<a href="#">プロパティの許容値または無効な値の定義</a>を参照してください。</p> <p>「X」をクリックしてリストから値を削除します。</p>
許容値リストの使用	許容値のリストがあるかどうかを示します。
許容値	許容値のリスト <a href="#">プロパティの許容値または無効な値の定義</a> を参照してください。



設定	説明
空白エントリを含む	空白エントリが許可されるかどうかを指定します(文字列データ型のプロパティのみ)

### 文字列サブタイプ

文字列データ型については、追加機能を提供し、オプションで追加の構文検証を実行できるサブタイプを指定できます。構文検証については、「エラー」を選択して検証を実施するか(下の表の詳細を参照)、「スキップ」を選択してその検証を無視します。

設定	説明	オプションの構文検証
基本	特別な機能や検証を含まない基本的な文字列情報。	なし
電子メール	電子メール・アドレス	<b>電子メール構文必須:</b> 有効な電子メール構文が文字列に含まれていることを検証するには、「エラー」を選択します。
ハイパーリンク	<p>次の追加機能を提供するハイパーリンク情報:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ユーザーは、リンクをクリックしてリンク先に移動できます。 <b>ノート:</b> ユーザーが要求のコンテキスト内にいる場合、ハイパーテキスト・リンクはプレーン・テキストで表示され、編集できません。「アクション」 をクリックし、「<b>ハイパーリンクを開く</b>」を選択してリンク・ターゲットに移動します。</li> <li>ユーザーは、リンクを右クリックして、「新規タブで開く」やリンクに名前を付けて保存など、標準のリンク操作を実行できます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>セキュアなプロトコル (HTTPS)のみ:</b> リンクが https://で始まることを検証するには、「エラー」を選択します <b>ノート:</b> プロトコルが指定されていない場合、デフォルトでは、https://がリンクに使用されます。そのため、この検証が「エラー」に設定されている場合、oracle.com は失敗しませんが(デフォルトで https://oracle.com に設定されるため)、http://oracle.com は失敗します。</li> <li><b>ユーザー情報の防止:</b> ユーザー情報(ユーザー名やパスワードなど)がリンクに含まれていないことを検証するには、「エラー」を選択します。</li> <li><b>リンク構文必須:</b> 有効なハイパーリンク構文のみを文字列に含めることができることを検証するには、「エラー」を選択します。 <b>ヒント:</b> この検証を「スキップ」に設定した場合、ユーザーは、"None"や"Not available"などの非ハイパーリンク・テキストを入力できます。</li> </ul>

## ノード・データ型パラメータ

設定	説明
割り当てノード・セット	このプロパティの参照先ノードが含まれているノード・セット <div data-bbox="911 430 1459 877" style="border-left: 2px solid #0070C0; border-right: 2px solid #0070C0; border-bottom: 2px solid #0070C0; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p> <b>Note:</b></p> <p>基本サブタイプについては、参照先のノード・セットは、参照元のノード・データ型のノード・セットと同じアプリケーションにある必要があります。</p> <p>ユーザー・サブタイプについては、ノード・セットとして、「ユーザー」または「ユーザー・ロールアップ」ノード・タイプ・クラスを使用する任意のアクティブなノード・セットを選択できます。<a href="#">ノード・データ型のサブタイプ</a>を参照してください。</p> </div>
許可されるノード・タイプ	このプロパティの参照先ノードが含まれているノード・セット内のノード・タイプ <div data-bbox="911 1016 1459 1215" style="border-left: 2px solid #0070C0; border-right: 2px solid #0070C0; border-bottom: 2px solid #0070C0; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p> <b>Note:</b></p> <p>ユーザー・サブタイプについては、ノード・タイプは「ユーザー」クラスである必要があります。</p> </div>
最下位レベルのみ	以降にリストされている選択基準フィールドと組み合わせて、最下位レベルのノードのみを含めるかどうかを決定します。

設定	説明
選択基準のプロパティ	許可されるすべてのノード・タイプノード・データ型プロパティではないすべてのプロパティのリスト。特定のノードを選択するために、「選択基準の演算子」および「選択基準の値」フィールドとともに使用します。  <div style="border-left: 2px solid #f0e68c; padding-left: 10px; margin-top: 10px;"> <p><b>▲ Caution:</b></p> <p>「選択基準のプロパティ」の場合、ノード・データ型プロパティにはノードへの参照が格納され、ノードの特定の場所（場所）は格納されないため、位置情報（継承または導出されたデフォルト値など）が含まれているプロパティを参照して、参照元のノードが共有されている場合は、システムでは参照先ノードが見つかった最初の場所が使用されます。これは予期していたノードではない可能性があります。</p> </div>
選択基準の演算子	Equal および Not Equal が含まれます。特定のノードを選択するために、「選択基準のプロパティ」および「選択基準の値」フィールドとともに使用します。
選択基準の値	特定のノードを選択するために、「選択基準のプロパティ」および「選択基準の演算子」フィールドで使用するテキスト値を入力します。空白の値を使用できます。

**割当済ノード・セット** および **許可されるノード・タイプ** を選択した後、「**最下位レベルのみ**」、「**選択基準のプロパティ**」、「**選択基準の演算子**」 および 「**選択基準の値**」 フィールドを使用して、ノードの選択をさらに絞り込みできます。たとえば、会社間フラグが true に設定されている最下位レベルのノードにのみアプリケーションレベルのオーバーライドが適用されるように指定できます。

### ノード・データ型のサブタイプ

ノード・データ型プロパティについては、追加機能を提供するサブタイプを指定できます。サブタイプは、アプリケーション・レベルでのみ変更できます。

- 基本:** 現在のアプリケーション内のみの任意のノード・タイプのノードを参照するために使用されます。「**割当済ノード・セット**」 および 「**許可されるノード・タイプ**」 では、現在のアプリケーションからのものを選択する必要があります。
- ユーザー:** 任意のユーザー・アプリケーション内の「ユーザー」または「ユーザー・ロールアップ」ノード・タイプのノードを参照するために使用されます。「**割当済ノード・セット**」 では任意のユーザー・アプリケーションからのものを選択でき、「**許可されるノード・タイプ**」 では「ユーザー」または「ユーザー・ロールアップ」を選択する必要があります。[ユーザー・アプリケーションの操作](#)を参照してください。

## 数値文字列データ型パラメータ

設定	説明
最小長	テキストの最小長(ゼロまたは整数である必要があります)。
最大長	テキストの最大長(ゼロまたは整数である必要があります)。
パディング	文字列とゼロのパディングの合計長(0-40)を示し、0 はパディングが追加されないことを意味します。たとえば、パディングを 10 に設定し、数値文字列値の長さが 7 桁の場合、10 桁になるように文字列の前にゼロが 3 つ追加されます。

## シーケンス・データ型パラメータ

設定	説明
開始値	シーケンスの初期開始値。 <b>ノート:</b> これは最小値ではありません。後続のすべての派生シーケンス値はこの初期開始値より大きくなりますが、開始値より小さいシーケンス値を手動で定義できます。
ステップ値	シーケンスを増分するステップ。たとえば、「開始値」が 1000 で「ステップ値」が 5 の場合、次のシーケンス値は 1005 になります。
パディング	シーケンス値とゼロのパディングの合計長(0-40)を示し、0 はパディングが追加されないことを意味します。たとえば、パディングを 10 に設定し、シーケンス値の長さが 7 桁の場合、10 桁になるように値の前にゼロが 3 つ追加されます。
最終シーケンス値	シーケンスの最新の値、またはこのプロパティについてシーケンス値が生成されていない場合は N/A が表示されます。 最終シーケンス値は手動で入力でき、それをリセットしてプロパティの初期開始値に戻すこともできます。 <a href="#">シーケンス値の表示</a> 、 <a href="#">編集およびリセット</a> を参照してください。

シーケンス・データ型のプロパティは数値文字列としてフォーマットされます。つまり、最大長が 40 文字までの整数値がサポートされます。

シーケンス・データ型のプロパティでは、位置指定の継承や「なし」以外の「デフォルト・タイプ」はサポートされていません。

## プロパティの継承

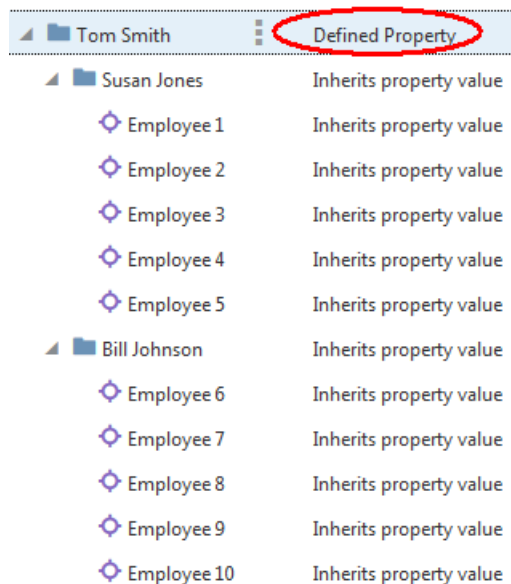
プロパティ継承により、ノードのすべての子孫によって自動的に継承される、ノードのプロパティ値を定義できます。

値を継承するようにプロパティを構成すると、プロパティを保守する手作業が減少し、ノードの分岐全体での値の整合性が確保されます。プロパティの継承は、階層内でのノードの位置に基づきます。ノードに継承プロパティがある場合、定義済みのプロパティ値を持つ最初の祖先が見つかるまで祖先のツリーが検索されます。その定義済みの値が、子孫ノードによって継承される値です。

## ビデオ

目的	参照するビデオ
プロパティの継承について学習します。	 <a href="#">概要: Enterprise Data Management Cloud で継承されるプロパティ</a>

継承する値を決定するために、プロパティの定義値を持つ最初の祖先ノードが見つかるまで、システムで階層が検索されます。たとえば、Tom Smith は人事部門の部長です。彼の下には 2 人のマネージャがいて、各マネージャの下には 5 人の従業員がいます。この部門のすべての従業員を、HR コスト・センターに割り当てる必要があります。コスト・センター・プロパティを継承プロパティとして設定すれば、Tom Smith のコスト・センター値を "HR" として定義し、彼の下にいるすべての従業員が "HR" 値を継承することができます。



ノード名	継承関係
Tom Smith	Defined Property
Susan Jones	Inherits property value
Employee 1	Inherits property value
Employee 2	Inherits property value
Employee 3	Inherits property value
Employee 4	Inherits property value
Employee 5	Inherits property value
Bill Johnson	Inherits property value
Employee 6	Inherits property value
Employee 7	Inherits property value
Employee 8	Inherits property value
Employee 9	Inherits property value
Employee 10	Inherits property value

## 考慮事項

- プロパティの継承は、階層ビューポイントでのみ使用できます。
- 継承は、ノード・セットの最上位で停止します。これにより、様々なノード・セットで(たとえば、全体のビューポイントより低いレベルで開始するメンテナンス・ビューポイントで)異なる継承プロパティ値になる可能性があります。
- 例外を処理するために、下位レベルで継承プロパティ値をオーバーライドできます。
- ノードと関係レベルの両方のプロパティで、共有ノードのある階層では、ノードが複数の位置に存在し、各位置で異なる値を継承できます。関係レベル・プロパティの場合、ノードは共有の祖先ノードの下位にある可能性があるため、親が複数の場所で同じであっても異なる値を保持できます。詳細は、[プロパティ継承および共有ノード](#)を参照してください。



- **Planning** および **Planning** モジュール・アプリケーション・タイプでは、これらのプロパティは、継承によりデフォルトで自動的に有効になります。
  - PLN.AccountType
  - PLN.Aggregation
  - PLN.BaseCurrency
  - PLN.DataType
  - PLN.ExchangeRateType
  - PLN.PlanType
  - PLN.SkipValue
  - PLN.SourcePlanType
  - PLN.TimeBalance
- アプリケーションを登録または変更する際、汎用アプリケーションで使用されるプロパティを継承で構成できます。詳細は、[汎用アプリケーションの登録](#)および[汎用アプリケーションの変更](#)を参照してください。
- 継承は、プロパティ・インスペクタで設定されます。[プロパティ・パラメータの編集](#)を参照してください。

**▲ 注意:**

Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションでは、リスト・ビューポイントからセグメント値のデータをエクスポートするため、プロパティの継承は無効になっており、使用しないでください。

### 汎用アプリケーションのプロパティ継承の構成

プロパティの継承は、汎用アプリケーションの登録または変更時に構成できます。

Reference Data ⓘ  
Reference Data; Geo, Product

1. Dimensions (6)  
2. Summary

Property for Dimension (Country Codes) Node Type (Country Codes)

Property App Override Parameters

Property Name Custom.ISO Alpha2

String Case Upper Case

Invalid Characters

Minimum Length 2

Maximum Length 2

Use Allowed Values List

Include Blank Entry

Allowed Values

Default Value

Inheritance Positional

App Property Usage Info

Column Header ISO Alpha-2 Code

Allowed Value Mode Code

Sync Direction Both

プロパティ・インスペクタからプロパティの継承を構成することもできます:

Custom.ISO Alpha2 property  
ISO Alpha2

Global

Base Parameters

Applications

Reference Data

Country Codes

Default Parameters

Default Type None

Default Value

Common Parameters

Editable

Lock on Commit

Inheritance Positional

Data Type Parameters

Case Upper Case

Invalid Characters

Minimum Length 2

Maximum Length 2

Allowed Values

Use Allowed Values List

詳細は、次を参照してください:

- [ユーザー定義ディメンション向けノード・タイプの追加または変更](#)
- [ノード・プロパティの操作](#)

## プロパティ継承および共有ノード

継承は、階層構造内でのノードの位置に基づいてデフォルト値を定義する方法です。

共有ノードは、階層構造内で複数の位置にあるノードです。このことから、共有ノードはノード・レベルのプロパティおよび関係レベルのプロパティについて、異なる継承値を持つ可能性があります。

#### ノート:

定義値が位置ごとに異なることはできません。値はノードレベル・プロパティのためにノードで、または関係レベル・プロパティのためにノードと親で定義されているためです。

### インポート

インポート中、すべての値は定義値としてインポートされます。その後インポート・プロセスでは、継承を可能にするために値がクリアされ、デフォルトが使用されます。これが行われるのは、インポートがトップ・ダウンの階層順序ではなく、1度で処理を実行できない可能性があるためです。

非共有ノード(最上位ノードを除く)の場合、インポート・プロセスでは、値が継承値またはデフォルト値と等しいかどうか、および等しい場合は、値が除去されているかどうかを特定します。

共有ノードは、その位置によって継承値が異なる可能性があるため、すべての共有位置が同じ値を継承する場合であっても、インポート・プロセスでは共有ノードの値をクリアしません。

### エクスポート

エクスポート中、このロジックがシステム固有の要件によってオーバーライドされる場合を除き、共有ノードに対してプロパティ値が繰り返されます(例: Planning)。

## 派生プロパティ

派生プロパティとは、定義した式からデフォルト値が計算されるプロパティです。派生プロパティを使用すると、ノードのプロパティ値のメンテナンスを軽減でき、値のデータ整合性を保持するのに役立ちます。式ビルダーを使用して式を定義します。式の定義方法の詳細は、[式を使用したカスタム・ビジネス・ロジックの定義](#)を参照してください。

#### ノート:

次のデータ型を使用してプロパティの値を導出できます:

- ブール
- 日付
- 整数
- リスト
- ノード
- 文字列

## 考慮事項

- 式を作成するときは、プロパティ・レベル(ノードまたは関係)に関係なく、または関係プロパティまたは継承を使用するプロパティを参照することで、bottom、parent、ancestors、siblings などの位置情報を使用できます。
- 式で位置情報を使用する場合、値はノードまたは関係レベルで一貫していない可能性があります。次の点に注意してください。
  - 導出されたデフォルト値は、ノード・レベルまたは関係レベルのプロパティのいずれかのビューポイント内のノードの場所によって異なる場合があります。
  - ノードに導出されたデフォルト値は、同じ階層セットに基づいている場合も、様々な階層ビューポイント間で異なる可能性があります。
  - リスト・ビューポイントのノードに導出されたデフォルトは、階層ビューポイントのそのノードに導出された値とは異なります。

## 検証

派生プロパティ値は、要求が送信またはコミットされる前に検証されます。派生プロパティ検証は、次の場合に要求に対して実行されます。

- すべての要求アイテムの検証
- 選択された要求アイテムの検証
- 対話型、サブスクリプション、またはインポートのいずれかによる要求の送信
- 要求の承認

### ノート:

派生プロパティ検証は、要求に要求アイテムがあるノードに対してのみ実行されます。

派生プロパティの検証の問題は、次のいくつかの方法で解決できます。

- 編集可能な場合、派生プロパティを定義済の値でオーバーライドする
- 派生プロパティが依存する別のプロパティを変更する
- ビューポイント内のノードを移動または除去する
- 要求アイテムまたはアイテム・インスタンスを削除する

詳細は、[要求の検証](#)を参照してください。

## 派生プロパティの定義

派生プロパティ式を定義するには:

1. ブール、日付、整数、浮動小数点、リスト、ノードまたは文字列のデータ型を使用するプロパティ定義を検査します。[プロパティの検査](#)を参照してください。
2. 所有者またはメタデータ・マネージャ権限が割り当てられているアプリケーションを選択します。
3. 「編集」をクリックします。

4. 「デフォルト・タイプ」から「派生」を選択します。

FCGL.Description US property  
Segment Value Description

Global

- Base Parameters

Applications

- Financials Cloud

Default Parameters

Default Type: **Derived** (selected from dropdown)

Default Value: [Empty]

Common Parameters

Editable:

Inheritance: None

5. 「デフォルト値」テキスト・ボックスにある「式」アイコンをクリックします。

FCGL.Description US property  
Segment Value Description

Global

- Base Parameters

Applications

- Financials Cloud

Default Parameters

Default Type: Derived

Default Value: **dx** (highlighted)

Common Parameters

Editable:

Inheritance: None

6. プロパティを計算する式を定義して、「適用」をクリックします。式の定義方法の詳細は、[式を使用したカスタム・ビジネス・ロジックの定義](#)を参照してください。
7. 「保存」をクリックします。

ノート:

プロパティの派生式を除去するには、ステップ 1 から 4 を繰り返して、「デフォルト・タイプ」を「派生」から「なし」または「指定済」に変更します。

# 「派生および保管」プロパティ

「派生および保管」プロパティは、定義した式からの要求中にデフォルト値が計算され、要求の完了時にノードに保管されるプロパティです。

「派生および保管」デフォルト・プロパティ値は、ビューポイントの問合せ時にそれらを参照できるようにインデックス付きです。[ビューポイントの問合せ](#)を参照してください。それらを使用して、階層ビューポイントのプロパティの値を派生させて、リスト・ビューポイントのプロパティのその格納値にアクセスすることもできます。

## Note:

「派生および保管」デフォルト・タイプのプロパティは、値が定義されるか、派生してノード上のそのプロパティに対して保管された後でのみ問い合わせることができます。**AND** 文を使用して、「派生および保管」問合せフィルタをインデックス付きプロパティ問合せフィルタと結合した場合でも、これは当てはまりません。[ビューポイントの問合せ](#)を参照してください。

## 考慮事項

- ノード・レベル・プロパティのデフォルト値のみを派生させて保管できます。
- **Core** または **CoreStats** ネームスペース内のプロパティまたはシーケンス・データ型のプロパティのデフォルト値を派生させて保管することはできません。
- プロパティ・インスペクタで、アプリケーションおよびノード・タイプ・レベルで「派生および保管」デフォルト・タイプを設定できます。[プロパティ・パラメータの編集](#)を参照してください。
- 「派生および保管」プロパティ値は、要求、インポートまたはビューポイントのロード中に処理されます。
- 値を再度派生させて保管するために、派生および保管デフォルト値の現在の値をクリアできます。

## 「派生および保管」プロパティの定義

1. ブール、日付、浮動小数点、整数、リスト、ノードまたは文字列のデータ型を使用するプロパティ定義を検査します。[プロパティの検査](#)を参照してください。
2. アプリケーションまたはノード・タイプを選択し、「**編集**」をクリックします。
3. 「**デフォルト・タイプ**」から「**派生および保管**」を選択します。
4. 「**デフォルト値**」テキスト・ボックスにある「式」アイコンをクリックします。
5. プロパティを計算する式を定義して、「**適用**」をクリックします。式の定義方法の詳細は、[式を使用したカスタム・ビジネス・ロジックの定義](#)を参照してください。

 **Note:**

デフォルト・タイプを「派生」から「派生および保管」(またはその逆)に変更した場合、プロパティ値を計算するための式を再入力する必要はありません。

6. 「保存」をクリックします。

## 「派生および保管」プロパティの処理

このトピックでは、ビューポイントにノードが追加または更新される場合の「派生および保管」デフォルト・タイプのプロパティの処理方法について説明します。

 **Tip:**

次の処理の各項では、*保管された値*は、定義済の値またはすでに派生してノードに保管されている値のいずれかを参照します。

### 対話型要求

「派生および保管」デフォルト・タイプのプロパティの場合、値は要求中に派生し、要求がコミットされた後、完了する前に保管されます。要求が処理中の際、保管された値がまだない「派生および保管」プロパティの場合、そのプロパティの値は「**デフォルト値**」に定義した式に基づいて動的に計算されます。要求処理中のプロパティの発生元は「**派生**」です。

要求がコミットされた後、完了する前に、「派生および保管」デフォルト・タイプのすべてのプロパティがチェックされます。保管された値がないプロパティ、またはユーザー定義値を持つプロパティ更新アクションがないプロパティは、定義した式からの値で更新され、値は「**派生および保管**」値として保管されます。

 **Note:**

これらのプロパティ更新アクションは要求に追加され、要求インスペクタで表示できます。[要求アイテムの検査](#)を参照してください。

プロパティ内の派生値を計算および移入するプロセスは、内部的なシステム・プロパティ更新アクションであることから、セキュリティおよび検証の対象になりません。つまり、ユーザーがノードを追加または更新すると、次の場合でも、システムによって、定義済の値がまだないノードの「派生および保管」デフォルト・タイプがすべてのプロパティに移入されます:

- ユーザーにそのプロパティへの書込み権限がありません
- プロパティがビューポイントで非表示になっています
- プロパティが編集可能として定義されていません
- プロパティの「コミット時にロック」が有効になっています

ただし、定義済の値をユーザーがクリアまたは手動で入力する場合は、通常のセキュリティおよび検証が適用されます。

「派生および保管」プロパティの値をクリアした場合、定義した式に基づいて現在計算されている値が表示され、プロパティの発生元は「派生」です。値をクリアすると、式で使用されている情報が変更された場合は、「派生および保管」プロパティの値を再計算する方法が提供されます。要求がコミットされると、計算値が「派生および保管」値として保管されます。

 **Note:**

コピーおよびモデル元操作の場合、「派生および保管」値はソース・ノードからコピーされません。新規ノードの値は、「デフォルト値」に定義された式から計算されて保管されます。

### 要求ファイル・ロード

ファイル・ロードからの要求(つまり、対話型要求、比較要求、コピーまたはモデル元要求、サブスクリプション、連結要求およびマージ・インポート内のアップロードされた要求ファイル)の場合、「派生および保管」プロパティに対して保管済の値がまだないノードは、次のように更新されます:

- 要求ファイルに「派生および保管」プロパティの定義済の値が含まれる場合、その値が通常どおり更新されます。これはユーザー・アクションであり、セキュリティおよび検証が適用されます。
  - <blank>キーワードにより、プロパティは定義済の空白値で更新されます。
  - <clear>キーワードにより、既存の値(空白値を含む)がクリアされ、派生値が計算されます。

 **Tip:**

既存のノード・タイプに「派生および保管」デフォルト・タイプのプロパティを追加する場合、他に何も変更することなく既存のノードのそのプロパティの値を移入する簡単な方法は、このプロパティを、要求ファイルまたはビューポイント・ロードを使用して、<clear>キーワードでプロパティを更新することです。

- 要求ファイルに「派生および保管」プロパティの定義済の値が含まれていない場合は、「デフォルト値」で定義した式に基づいて派生値でプロパティが更新され、「派生および保管」値として保管されます。これは内部的なシステム・アクションであり、セキュリティおよび検証は適用されません。

 **Note:**

要求ファイル内のノードの「派生および保管」プロパティ値は、そのプロパティがファイルに含まれていない場合であっても更新されます。たとえば、ファイルに「説明」プロパティの更新のみが含まれる場合、そのファイル内のノードのうち、「派生および保管」デフォルト・タイプのプロパティに対して保管された値がないすべてのノードでも、ユーザーがそのプロパティへの書込み権限を持っていないか、またはプロパティがビューポイントで非表示になっている場合であっても、そのプロパティが計算値で更新されます。



## インポートおよびビューポイント・ロード

### 「マージ」モード

「マージ」モードでのインポートおよびビューポイント・ロードは、前述の[要求ファイル・ロード](#)と同様に処理されます。「派生および保管」デフォルト・タイプのすべてのプロパティ (未バインドのプロパティを含む) で、まだ保管された値がないものは、インポートまたはビューポイント・ロード中に計算値で更新されます。その計算値はそのプロパティに対して保管されます。

<clear>キーワードを使用して、「マージ」モードのインポートおよびビューポイント・ロードで「派生および保管」値を計算できます。

### 「リセット」および「置換」モード

「リセット」および「置換」の両方のモードでのインポートでは、「派生および保管」デフォルト・タイプの未バインドのプロパティは変更されません。汎用アプリケーションのバインド・プロパティのみを「派生および保管」値で更新できます。値は、前述の[要求ファイル・ロード](#)と同じ処理に従って更新されます。

「置換」モードのビューポイント・ロードでは、ビューポイント・ロード・ファイルに含まれる「派生および保管」プロパティのみが派生および保管値で更新されます。ビューポイント・ロード・ファイルに「派生および保管」デフォルト・タイプのプロパティの列が含まれていない場合は、そのプロパティはビューポイント・ロード中に更新されません。

### 「リセット」および「置換」モードでの<clear>キーワードの使用

「置換」モードのビューポイント・ロードでは、<clear>キーワードを使用して、プロパティの「派生および保管」値を計算できます。

「リセット」または「置換」の両方のモードのインポートでは、インポート・オプションで設定済の場合に clear キーワードを使用してプロパティの「派生および保管」値を計算できます。[インポート・オプションの管理](#)を参照してください。

# 計算および格納されたプロパティ

特定のプロパティについては、式を定義して値を計算し、要求アクションごとにその値を格納できます。

「計算および保管」オプションは、次のプロパティについてのみ使用可能です:

- Core.Name。 [ノードの名前の計算および保管](#)を参照してください。
- CoreStats.Parent。 [ノードの親の計算および保管](#)を参照してください。

「計算および保管」オプションは、アプリケーションまたはノード・タイプ・レベルでのデフォルト・タイプへのパラメータ・オーバーライドとして構成します。[プロパティ・パラメータの編集](#)を参照してください。

### ヒント:

計算および保管プロパティは、要求のコンテキストで名前または親プロパティの値を計算するために使用される点で、「派生および保管」プロパティと異なります。親プロパティについては、ノードではなく、それぞれの要求アクションに結果が保管されます。

## ノードの名前の計算および保管

式を定義して要求時にノード名を計算し、要求が完了してクローズするときにその値を保管できます。

計算された名前は、ノードのプロパティ、または階層内でのノードの位置に基づくことができます。

### ユースケースの例

- シーケンス番号に基づいて、ノード名を計算できます。たとえば、ノードを追加するときに `CC_0034`、`CC_0035` などの名前が自動的に付けられるように、`"CC_"` のような接頭辞をシーケンスと連結できます。
- プロパティに基づいて、ノード名を計算できます。たとえば、ノード・データ型のカスタム・プロパティをまとめて連結できます。その場合、プロパティを定義すると、ノード名が自動的に計算されます。つまり、カスタム・プロパティ `1 = 120`、カスタム・プロパティ `2 = 200`、カスタム・プロパティ `3 = 340` の場合、`120-200-340` というノード名が自動的に計算されます。

#### Tip:

また、かわりに `120-200-340` というノード名を追加した場合、各プロパティの値がそれぞれ `120`、`200` および `340` として導出されるように、ノード・データ型のプロパティに基づいて式を設定して、それらの値を導出することもできます。「[派生および保管](#)」プロパティを参照してください。

- 親、祖先、兄弟といった階層構造情報に基づいて、ノード名を計算できます。たとえば、親の名前とノードの説明を連結できます。
- また、計算されたノード名を使用して、新しいノードを追加するときにデフォルト名をカスタマイズすることもできます。たとえば、ユーザーが `Entity` ノード・タイプにノードを追加するときに、名前をデフォルトで `"New Entity Node"` に設定するかわりに、`"CC_####"` という計算された名前を返して、`####` に適した値をユーザーが手動で入力するようにすることができます。

### 考慮事項


- 次の操作中にノード名を計算できます：
  - 対話型でのノードの追加
  - 要求ファイルのロード
  - サブスクリプションによるノードの同期
- 要求内の追加アクション中に、ノードが変更されるたびにノード名が再計算されます。

 **Note:**

兄弟リストに基づいて(たとえば、最後の兄弟を検出し、それに 1 を加算することによって)ノード名が計算される場合、他の兄弟がその後に追加され、元のノードが更新されると、ノード名が変更されることがあります。

- 計算されたノード名が要求内で表示される場合:
  - ノード名の式が値を返す場合は、その値が「計算済」という発生元とともに表示されます。
  - 式が null 値を返す場合は、計算された名前のキーワード<cn #####> (#####は現在のタイムスタンプのハッシュ)が「計算済」という発生元とともに表示されます。[計算された名前のキーワードの理解](#)を参照してください。
- 手動で名前を入力することによって、ノード名を上書きできます。発生元には「定義済」と表示されます。
- 要求内で追加されるノードについて、手動で入力された名前をクリアして、計算された名前に戻すには、「**クリア**」アクションを使用し、現在の場所をプライマリ場所として設定して([プライマリ場所の理解](#)を参照)、式に基づいてノード名を再計算するには、「**リセット**」アクションを使用します。[計算された値のクリアとリセット](#)を参照してください。
- 要求が完了してクローズされると、計算されたノード名が保管され、発生元には「定義済」と表示されます。「派生および保管」プロパティの場合とは異なり、発生元は計算および保管として保持されません。
- 計算されたノード名を含む要求のコンテキストで実行される検証では、現在の計算された名前が使用されます。つまり、たとえば、式が現在 null を返す場合、検証のノード名は "<cn #####>" です。
- 要求内でノードを検索するときには、追加アクションにおける現在の名前が、計算された名前を持つ新しいノードに使用されます。つまり、たとえば、式が現在 null を返す場合は、"<cn #####>" でノード名を検索できます。
- 要求ファイルを読み込むときに、要求ロード・ファイルの名前列で<cn>または<cn #####>キーワードを使用するか(Core.Name プロパティについて式が構成されている場合)、名前列を空白のままにして、そのノード名の値を計算します。[計算された名前を持つ要求ファイルの処理](#)を参照してください。

### 計算および保管プロパティの定義

1. Core.Name プロパティの定義を検査します。
2. ノード名を計算するアプリケーションまたはノード・タイプを選択します。
3. 「デフォルト・タイプ」から、「**計算および保管**」を選択します。
4. 「デフォルト値」で、「**式**」ボタン  をクリックします。
5. ノード名を計算する式を定義して、「**適用**」をクリックします。[式を使用したカスタム・ビジネス・ロジックの定義](#)を参照してください

### プライマリ場所の理解

ノードを追加し、同じノードを他の複数の場所に挿入する場合、システムによって内部で、ノードが追加された階層内の最初の場所がプライマリ場所として指定され、それを使用して

ノード名が計算されます。ノードが挿入された後続の場所ではすべて、最初の場所からの計算された名前が使用されます。

 **Note:**

ノードが追加された最初の場所がリスト内にある場合、初めてそれが階層に挿入されるときにプライマリ場所が設定されます。

たとえば、ノードの親の名前をノードのプロパティと連結することによってノード名を計算する式があるとします(この例では、そのプロパティに **ABC** という値があります)。親 **111** の下にノードを追加すると、名前が **111-ABC** として計算されます。その後、親 **222** の下にノードを挿入した場合、**111** がプライマリ場所であるため、名前は引き続き **111-ABC** です。

ノードのプライマリ場所を変更するには、複数の方法があります:

- 要求内でプライマリ場所からノードを移動した場合、新しい場所がプライマリ場所になり、名前が再計算されます。
- 要求中にプライマリ場所からノードを除去した場合、それが挿入された次の場所がプライマリ場所になります。
- ノードが複数の場所にあり、プライマリ場所である場所を手動で変更する場合は、「リセット」アクションを使用します。[計算された値のクリアとリセット](#)を参照してください

### 計算された値のクリアとリセット

手動で定義された名前をクリアして、計算された名前に戻すには、「クリア」を使用します。「クリア」アクションは、デフォルト・タイプが「計算および保管」で、かつ手動で入力された名前を持つ、この要求で追加されたノードについてのみ使用可能です。

計算された名前のプライマリ場所を現在の場所に設定して([プライマリ場所の理解](#)を参照)、現在の場所に基づいてノード名を再計算するには、「リセット」を使用します。「リセット」アクションは、デフォルト・タイプが「計算および保管」で、かつ手動で入力された名前を持たない、この要求で追加されたノードについてのみ使用可能です。

ノードの外部で、ノード名に影響するアクションを実行した場合にも(親プロパティを変更し、新しいプロパティに基づいてノード名を再計算する場合など)、「リセット」を使用してノード名を再計算できます。

### 検証と計算されたノード名

要求が検証されるときには、追加アクションにおける現在の名前が、計算された名前を持つ新しいノードに使用されますが、例外が 1 つあります。現在の名前がキーワードのいずれか(<cn>または<cn #####>)である場合は、最小および最大長の検証がスキップされます。これにより、送信者は、名前にキーワードのいずれかを含む要求を送信して、名前を計算するために必要な情報を承認者またはエンリッチ者が追加できるようにすることができます。

最小および最大長の検証は、要求が承認またはコミットされるときに実行されます。

### 計算された名前とサブスクリプション

計算された名前を使用するサブスクリプションを設定した場合、ソース・ビューポイントで名前が計算され、結果の名前がサブスクリプション要求でターゲット・ビュー

ポイントに渡されます。ターゲット・ビューポイントでノード名が計算されるようになる場合は、名前を空白の値、または計算された名前のキーワードのいずれか(追加の場合は<cn>、追加と挿入の場合は<cn #####> (#####は一意的識別子文字列))に変換するように、プロパティ変換をサブスクリプションのノード・タイプ・コンバータで設定する必要があります([ノード・タイプ・コンバータの操作](#)を参照)。[計算された名前のキーワードの理解](#)を参照してください。

 **Note:**

代替名(使用可能な場合)を使用する場合は、名前を空白の値に変換します。ターゲット・ビューポイントで常に、計算された値を使用する場合は、名前をキーワードのいずれかに変換します。

## 計算された名前を持つ要求ファイルの処理

計算されたノード名を使用する要求ファイルのアップロード時には、次の考慮事項に注意してください。

計算された名前を使用する要求ファイルでは、名前列を除き、他の要求ファイルと同じフォーマットが使用されます([ロード・ファイル形式の要求](#)を参照)。「計算および保管」がプロパティに設定されている場合、名前列を空白のままにするか、<cn>または<cn #####>キーワードを使用できます。[計算された名前のキーワードの理解](#)を参照してください。

### 計算された名前のキーワードの理解

計算された名前を持つノードを要求ファイルに追加するときには、キーワード<cn>または<cn #####> (#####は、一意的識別子として使用される文字列)を使用できます。

- <cn>: 追加アクションについてのみ、ノード名を計算するために使用されます。
- <cn #####>: 追加および挿入について、計算された名前の一意的識別子を指定します。要求に追加アクションと挿入アクションの両方が含まれる場合は、一意的識別子を持つ<cn #####>キーワード(<cn 1234>など)を追加アクションで使用した後、その識別子を持つ同じキーワードを挿入アクションで使用します。これにより、追加操作中にシステムでノードの名前を計算し([プライマリ場所の理解](#)を参照)、その後、同じ名前を挿入アクションに使用できます。

 **Note:**

追加アクションは、ロード・ファイルの最初にある必要があります。

### 名前列の処理の概要

「計算および保管」がプロパティについて設定されている場合に、空白の値、あるいは<cn>または<cn #####>キーワードが指定された名前列がどのように処理されるかについての概要を次のリストに示します:

#### 空白の値:

- 代替名がファイルで指定されている場合、代替名がノードに使用されます。
- 代替名がファイルで指定されていない場合:

- 追加については、名前が式から計算されます。
- 更新については、ノードがまだ存在しない場合、名前が式から計算されます。
- 挿入については、行がスキップされます。

**<cn>:**

- 追加については、代替名が指定されている場合でも、名前が式から計算されます。
- 更新については、ノードがまだ存在しない場合、名前が式から計算されます。
- 挿入については、行がスキップされます。

**<cn #####> (#####は、一意の識別子として使用される文字列):**

- 追加については、代替名が指定されている場合でも、名前が式から計算されます。
- 更新については、ノードがまだ存在しない場合、名前が式から計算されます。
- 挿入については、<cn #####>の識別子文字列が前の追加アクションの識別子文字列と一致する場合、計算された名前が挿入に使用されます。<cn #####>の識別子文字列が前の追加アクションと一致しない場合は、行がスキップされます。

#### Note:

要求ファイルにアクション・コードの列が含まれていない場合は、ファイル内のすべての要求アイテムのアクション・コードが「Update」に設定されます。

## ノードの親の計算および保管

親が不明な各要求アクションに対して親を計算するための式を定義し、その値を保管できます。

階層ビューポイントの場合のみ、次の操作時にノードを追加または挿入する際、`CoreStats.Parent` プロパティの値を計算して保管できます:

- 親が定義されていない場合に要求ファイルをロードする操作
- ソースの親が定義されていない場合(ソース・ビューポイントがリストで、ターゲットが階層の場合)に、比較の違いから要求アイテムを作成する操作
- ソースの親が定義されていない場合(ソース・ビューポイントがリストで、ターゲットが階層の場合)に、サブスクリプション要求アイテムを生成する操作

### 考慮事項

- 親を計算する式を作成するときに、式ビルダーの `node` オブジェクトの次のフィールドから選択できます:
  - `dimension`
  - `name`
  - `nodeType`
  - `properties` (ノード・プロパティのみ。関係プロパティは親を計算するときには使用できません。)

[式を使用したカスタム・ビジネス・ロジックの定義](#)を参照してください。

- 計算済の親の式は、ターゲット・ビューポイントの既存のノードを参照する必要があります。親ノードを作成するための式は定義できません。
- 要求ロード・ファイルを作成するときは、(CoreStats.Parent プロパティの式が構成されている)要求ロード・ファイルの親列で<Unknown>キーワードを使用して、その親の値を計算します。親列を空白のままにすると、ノードが最上位ノードになります。
- 比較の差異およびサブスクリプションから生成された要求の場合、CoreStats.Parent プロパティがあり、親が不明なターゲット・ビューポイントのノードに対して要求アクションを作成すると、生成された要求ファイル添付の親列に<Unknown>キーワードが使用され、親の値を計算する必要があることが示されます。
- 計算済の親のノード・タイプは、次のように計算されます:
  - 階層セットの 1 つのノード・タイプのみが子を許可する場合、そのノード・タイプが親に使用されます。
  - 階層セットの複数のノード・タイプが子を許可する場合、それらのノード・タイプで、計算済の親と同じ名前のノードが検索されます:
    - \* 計算済の親と同じ名前のノードがそれらのノード・タイプの 1 つでのみ見つかった場合、そのノード・タイプが使用されます。
    - \* それ以外の場合は、子ノードのノード・タイプが計算済の親に使用されます。

## シーケンス・プロパティの操作

シーケンス・プロパティではシーケンス・データ型が使用され、これによりノード・プロパティ値に対して、増分するシーケンス番号が自動的に生成されます。

シーケンス・プロパティを使用するノードは、ビューポイントに追加されたときに値を取得します。ノードがすでにビューポイントにある場合は、次に更新されたときに値を取得します。

たとえば、シーケンス・プロパティを使用して、データ・ウェアハウス・ディメンションについて一意のレコード ID を生成したり、シーケンス・プロパティをカスタム検証で使用して、新しいノード名でそのシーケンス(cc\_001005 など)が使用されていることを確認できます。

### 考慮事項

- シーケンス・プロパティは、ノード・レベル・プロパティとしてのみ定義できます。
- シーケンス・プロパティは、「デフォルト・タイプ」が「なし」である必要があります。継承をサポートしていません。
- シーケンス・プロパティは手動でオーバーライドでき、現在の値(空白値を含む)をクリアしてシーケンスの次の番号を取得できます。
- プロパティ・インスペクタで最終シーケンス値を表示したり、データ型パラメータを編集してシーケンス値を手動で入力したり、シーケンス値をプロパティの初期開始値にリセットすることができます。[シーケンス値の表示、編集およびリセット](#)を参照してください。
- シーケンス・プロパティのデータ型パラメータは、アプリケーション・レベルでのみ編集できます。データ型パラメータをノード・タイプ・レベルで編集することはできません。

- シーケンス値は、プロパティごとにアプリケーション・レベルで保守されます。つまり、2つの異なるディメンションで同じシーケンス・プロパティを使用する場合、それらのディメンション間でシーケンスが共有されます。
- シーケンス値は、ビューポイントでノードが追加または更新されたときに導出され([シーケンス・プロパティの処理](#)を参照)、その後、格納されてインデックスが作成されます。式とビューポイント問合せの両方でシーケンス値を参照できます。
- 生成されるシーケンス番号は一意ですが、デフォルトでは、プロパティ値自体に一意性制約はありません。このことは、たとえば、アプリケーションで2つの異なるノードに同じシーケンス値を手動で移入できることを意味します。値が一意になるように強制する必要がある場合は、アプリケーション・レベルの制約を作成できます。[制約の操作](#)を参照してください。
- 次のシーケンス番号は、現在のシーケンス値にステップ値を加算することにより内部で保守されます。システムでは既存の値はスキャンされず、現在最も大きいものが増分されます。たとえば、導出された値 1000、1001 および 1002 を持つノードを追加した後、値 1005 を持つノードを手動で追加したとします。次に追加するノードは、値 1006 ではなく 1003 を取得します。また、さらに2つのノードを追加した場合、値 1005 を持つノードがすでに存在していても、それらは値 1004 および 1005 を取得します(一意性を確保するためにアプリケーション・レベルの制約を作成している場合を除きます)。
- シーケンス・プロパティは、手動で作成することも([プロパティの手動での作成](#)を参照)、汎用アプリケーションの登録中に作成することもできます([カスタム・プロパティの作成](#)を参照)。

## シーケンス値の表示、編集およびリセット

プロパティを検査してシーケンス・データ型パラメータを表示することで、最後のシーケンス値を表示できます。インスペクタから手動で新しいシーケンス値を入力することもできます。また、最後のシーケンス値をクリアして、シーケンスの次の値を元のシーケンス開始値で始めることができます。

### 考慮事項

- シーケンス値への変更は、新しい要求、インポートおよびロードに適用されます。処理中の要求が変更されることはありません。
- 新しいシーケンス値を手動で入力すると、入力した数値にシーケンス・ステップ値をプラスした値で新しいシーケンス値が開始します。[最終シーケンス値の編集](#)を参照してください。

#### Note:

ステップ値を表示して編集するには、プロパティ・パラメータを編集します。[シーケンス・データ型パラメータ](#)を参照してください。

- シーケンス値をリセットすると、新しいシーケンス値として、シーケンス・プロパティの初期開始値にステップ値をプラスした値が使用されます。[最終シーケンス値のリセット](#)を参照してください。



 **Note:**


初期シーケンス開始値およびステップ値を表示して編集するには、プロパティ・パラメータを編集します。[シーケンス・データ型パラメータ](#)を参照してください。

- 最終値より小さい最終シーケンス値を手動で入力する場合、またはシーケンス値を初期開始値にリセットする場合は注意してください。これにより、シーケンス番号が、すでに割り当てられている既存のシーケンス番号と重複する可能性があります。シーケンス・プロパティの値が確実に一意になるようにアプリケーション制約を設定することを検討してください。[制約の操作](#)を参照してください。

### 最終シーケンス値の表示

- 最終値の表示対象とするシーケンス・プロパティを検査します。[プロパティの検査](#)を参照してください。
- 最終値を表示するアプリケーションを選択します。  
使用されたシーケンスの最終値が「**最終値**」フィールドに表示されます。シーケンスの次の番号は、最終値にステップ値をプラスした値になります。

### 最終シーケンス値の編集

- プロパティ・インスペクタから、最終シーケンス値の編集対象とするアプリケーションを選択します。
- 「**編集**」をクリックします。
- 「**最終値**」で、「**編集**」  をクリックします。

 **Note:**

このアイコンは、インスペクタで編集モードのときにのみ表示されます。

- 「**最終シーケンス値**」に、値を入力します。この値は、現在の最終値より大きくする必要はありません。
- オプション:** 表示された「**次のシーケンス値**」(指定した値にステップ値をプラスした値)を確認して、期待を満たすことを確かめます。
- 「**保存**」をクリックして、「最終シーケンス値の編集」ウィンドウを閉じます。


 **Caution:**

「**保存**」をクリックすると、次の画面で「**取消**」をクリックしても、新しい値が保管されます。

- 「**保存**」をクリックし、確認のダイアログ・ボックスで「**はい**」をクリックします。

### 最終シーケンス値のリセット

- プロパティ・インスペクタから、最終シーケンス値のリセット対象とするアプリケーションを選択します。

2. 「編集」をクリックします。
3. 「最終値」で、「編集」  をクリックします。

 **Note:**

このアイコンは、インスペクタで編集モードのときにのみ表示されます。

4. 「最終シーケンス値」の横にある「クリア」をクリックします。
5. **オプション:** 表示された「次のシーケンス値」(初期シーケンス開始値にステップ値をプラスした値)を確認して、期待を満たすことを確かめます。
6. 「保存」をクリックして、「最終シーケンス値の編集」ウィンドウを閉じます。

 **Caution:**

「保存」をクリックすると、次の画面で「取消」をクリックしても、新しい値が保管されます。

7. 「保存」をクリックし、確認のダイアログ・ボックスで「はい」をクリックします。

## シーケンス・プロパティの処理

このトピックでは、ビューポイントにノードが追加または更新される場合のシーケンス・プロパティの処理方法について説明します。

### 対話型要求

ノード・タイプにシーケンス・プロパティを追加した場合、そのノード・タイプのノードが追加、挿入、移動、編集されるか並べ替えられるたびに、そのプロパティに定義済の値がまだない場合は次のシーケンス値が移入されます。ノードが除去または削除される場合、シーケンス・プロパティは移入されません。

プロパティ内の次のシーケンス値を取得および移入するプロセスは、内部的なシステム・プロパティ更新アクションであることから、セキュリティおよび検証の対象になりません。つまり、ユーザーがノードを追加または更新すると、次の場合であっても、定義済の値を持たない、そのノードのすべてのシーケンス・データ・タイプが移入されます:

- ユーザーにそのプロパティへの書込み権限がありません
- プロパティがビューポイントで非表示になっています
- プロパティが編集可能として定義されていません
- プロパティの「コミット時にロック」が有効になっています

ただし、ユーザーがシーケンス・プロパティを手動でクリアまたは編集する場合は、通常のセキュリティおよび検証が適用されます。

 **Note:**

コピーおよびモデル元操作の場合、シーケンス値はソース・ノードからコピーされません。新規ノードの値は、シーケンスの次の値から生成されます。

### 要求ファイル・ロード

ファイル・ロードからの要求(つまり、対話型要求、比較要求、コピーまたはモデル元要求、サブスクリプション、連結要求およびマージ・インポート内のアップロードされた要求ファイル)の場合、シーケンス・プロパティに対して定義済の値がまだないノードは、次のように更新されます:

- 要求ファイルにシーケンス・プロパティの値が含まれる場合、その値が通常どおり更新されます。これはユーザー・アクションであり、セキュリティおよび検証が適用されます。
  - <blank>キーワードにより、プロパティは定義済の空白値で更新されます。
  - <clear>キーワードにより、既存の値(空白値を含む)がクリアされ、次のシーケンス値が取得されます。

 **Tip:**

既存のノード・タイプにシーケンス・プロパティを追加する場合、他に何も変更することなく既存のノードのそのプロパティの連番を生成する簡単な方法は、このプロパティを、要求ファイルまたはビューポイント・ロードを使用して、<clear>キーワードでプロパティを更新することです。

- 要求ファイルにシーケンス・プロパティの値が含まれない場合、プロパティはシーケンスの次の値で更新されます。これは内部的なシステム・アクションであり、セキュリティおよび検証は適用されません。

 **Note:**

要求ファイル内のノードのシーケンス・プロパティは、そのプロパティがファイルに含まれていない場合であっても更新されます。たとえば、ファイルに「説明」プロパティの更新のみが含まれる場合、そのファイル内のノードのうち、シーケンス・プロパティに対して値がまだ定義されていないすべてのノードでも、ユーザーがそのプロパティへの書込み権限を持っていないか、またはプロパティがビューポイントで非表示になっている場合であっても、そのプロパティが次のシーケンス値で更新されます。

### インポートおよびビューポイント・ロード

#### 「マージ」モード

「マージ」モードでのインポートおよびビューポイント・ロードは、前述の[要求ファイル・ロード](#)と同様に処理されます。すべてのシーケンス・プロパティ(未バインドのプロパティを含む)で、まだ定義済の値がないものは、インポートまたはビューポイント・ロード中にシーケンスの次の値で更新されます。

<clear>キーワードを使用して、「マージ」モードのインポートおよびビューポイント・ロードでシーケンス値を生成できます。

### 「リセット」および「置換」モード

「リセット」または「置換」モードのインポートでは、未バインドのシーケンス・プロパティは変更されません。汎用アプリケーションのバインド・プロパティのみをシーケンス値で更新できます。値は、前述の[要求ファイル・ロード](#)と同じ処理に従って更新されます。

「置換」モードのビューポイント・ロードでは、ビューポイント・ロード・ファイルに含まれるシーケンス・プロパティのみが値で更新されます。ビューポイント・ロード・ファイルにシーケンス・プロパティの列が含まれていない場合は、そのプロパティはビューポイント・ロード中に更新されません。

### 「リセット」および「置換」モードでの<clear>キーワードの使用

「置換」モードのビューポイント・ロードでは、<clear>キーワードを使用して、シーケンス・プロパティのシーケンス値を生成できます。

「リセット」または「置換」モードのインポートでは、インポート・オプションで設定済の場合に **clear** キーワードを使用してシーケンス値を生成できます。[インポート・オプションの管理](#)を参照してください。

## プロパティの検査

**プロパティ・インスペクタ**・ダイアログを使用して、プロパティ定義を調べ、特定のプロパティの名前および説明の基本パラメータを編集し、アプリケーション固有のデフォルト値と許容値を変更できます。

プロパティを検査すると、アプリケーションの登録時に設定された基本パラメータおよびアプリケーション固有のプロパティを表示できます。インスペクタを編集モードにせず、プロパティの許容値リストをエクスポートできます。

プロパティを検査するには、「**プロパティ**」で、検査するプロパティのリンクをクリックします。

### ノート:

編集可能プロパティを、特定のビューポイントで読取り専用として構成できます。[ビューポイントでのプロパティの表示方法の構成](#)を参照してください。

詳細は、[プロパティの操作](#)を参照してください。

## プロパティ・パラメータの編集

基本パラメータは初期アプリケーション登録中に設定されます。これらの基本パラメータをアプリケーション・レベルまたはノード・タイプ・レベルでオーバーライドしてから、必要に応じてアプリケーションまたは基本の値に戻すことができます。

### 基本パラメータ

基本パラメータは、アプリケーション登録プロセスからのプロパティの初期構成です。基本パラメータは、次のセクションで構成されています。

- 全般: プロパティのネームスペース、名前、説明、レベルおよびデータ型が含まれます。
- デフォルト・パラメータ: デフォルト・タイプとデフォルト値が含まれます。
- 共通パラメータ: デフォルト値、プロパティが継承向けに構成されるかどうか、プロパティが編集可能かどうかなどの一般的なパラメータが含まれます。
- データ型パラメータ: プロパティ・データ型に固有のパラメータが含まれます。たとえば、string プロパティは文字列長の下限と上限、無効な文字のリストを持つことができます。
- 許容値: プロパティに許可されている値が含まれます。

プロパティの基本パラメータは、そのプロパティを使用するアプリケーションを最初に構成する際に設定されます。アプリケーションの登録を変更しても、基本パラメータは更新されません。

プロパティ・インスペクタから、プロパティの要約パラメータを除くすべてのパラメータをアプリケーションまたはノード・タイプ・レベルでオーバーライドできます。

### 名前および説明の基本パラメータの編集

サービス管理者は、Core または CoreStats ネームスペースにないプロパティの名前および説明の基本パラメータを編集できます。名前または説明の基本パラメータを変更すると、そのプロパティを使用するすべてのアプリケーションに影響します。

名前または説明の基本パラメータを変更するには:

1. 「**編集**」をクリックしてから、新しい名前または説明を入力します。
2. 「**保存**」をクリックします。  
確認メッセージに、名前変更の影響を受けるアプリケーションが表示されます。続行する場合は「**はい**」を、取り消す場合は「**いいえ**」をクリックします。

#### ヒント:

特定のビューポイントでのみプロパティに異なるラベルまたは説明を設定する場合は、そのビューポイントに対してのみプロパティのラベルまたは説明をオーバーライドできます。[ビューポイントでのプロパティの表示方法の構成](#)を参照してください。

### プロパティのノード・タイプへの追加

プロパティ・インスペクタからノード・タイプにプロパティを追加できます。プロパティをノード・タイプに追加した後、プロパティに対するアプリケーションおよびノード・タイプ・オーバーライドを定義できます。

 **ノート:**

プロパティ・インスペクタでのノード・タイプへのプロパティの追加は、プロパティがアプリケーション登録プロセスを介してディメンションに追加されなかったため、プロパティがインポートおよびエクスポートに含まれないという点で、ノード・タイプ・インスペクタでのプロパティの追加と似ています(ノード・タイプのプロパティの追加、除去および構成を参照)。プロパティの操作を参照してください。

プロパティをノード・タイプに追加するには:

1. 「**プロパティ**」で、検査するプロパティのリンクをクリックします。
2. 「アプリケーションとノード・タイプ」で「**追加**」をクリックします。

 **ノート:**

プロパティをノード・タイプに追加する際は、編集モードにはできません。

3. アプリケーションとノード・タイプのドロップダウン・リストから、プロパティを追加するノード・タイプを選択し、「**保存**」をクリックします。

 **ノート:**

ドロップダウン・リストには、そのプロパティをまだ使用していないノード・タイプのうち、そのノード・タイプを含むディメンションで「所有者」または「メタデータ・マネージャ」権限があるもののみが表示されます。




**アプリケーションまたはノード・タイプ・レベルでのパラメータのオーバーライド**

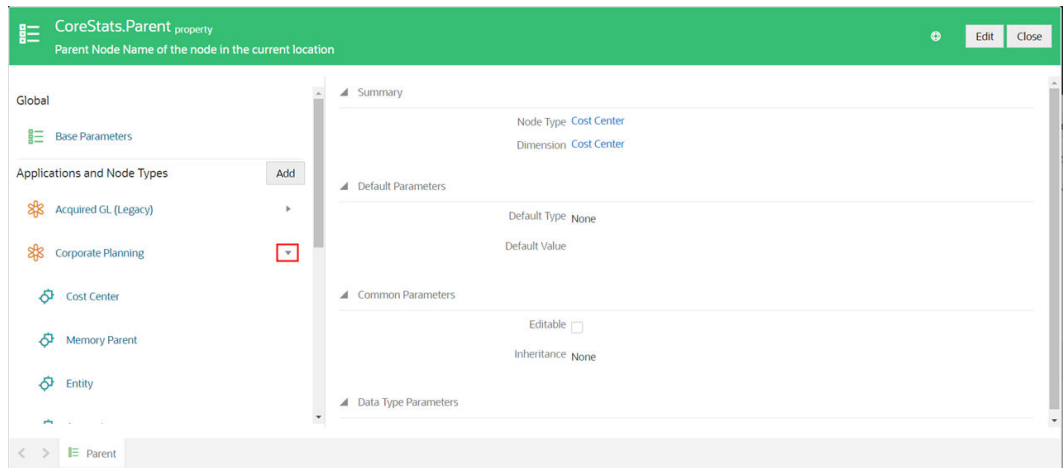
パラメータにオーバーライドを追加して、そのパラメータの値をアプリケーションまたはノード・タイプ・レベルで変更できます。ノード・タイプ・レベルでオーバーライドされたパラメータは、アプリケーション・レベルのパラメータより優先されます。たとえば、プロパティの「**編集可能**」パラメータがアプリケーション・レベルで選択されているが、ノード・タイプ・レベルでは選択されていない場合、ユーザーはそのノード・タイプのそのプロパティを編集できません。

**考慮事項**




- パラメータをオーバーライドするには、アプリケーションに対する所有者またはメタデータ・マネージャ権限が必要です。
- 更新内容がプロパティ・インスペクタに保存されると、アプリケーションの登録を変更する際に、アプリケーション・オーバーライドの更新された値は使用できますが、ノード・タイプ・オーバーライドの更新された値は使用できません。
- システム定義のプロパティについては、ノードの名前および説明プロパティのデータ型パラメータ(大小文字の種類、無効な文字、最小長および最大長)のみを上書きできます。

アプリケーションまたはノード・タイプのパラメータをオーバーライドするには:

1. 「**プロパティ**」で、検査するプロパティのリンクをクリックします。
2. リストからアプリケーション(  アイコンで表示)またはノード・タイプ(  アイコンで表示)を選択します。アプリケーション名の横にある  をクリックし、そのアプリケーションのノード・タイプを表示します。



3. 「**編集**」をクリックします。
4. 必要に応じて、デフォルト、共通およびデータ型のパラメータを編集します。[プロパティ・データ・タイプのパラメータの理解](#)を参照してください。
5. **オプション**: 文字列パラメータの場合は、必要に応じて許容値を編集します。[プロパティの許容値または無効な値の定義](#)を参照してください。
6. 「**保存**」をクリックし、アプリケーションの値が変更されることを確認するメッセージで、「**はい**」をクリックします。



アプリケーションまたはノード・タイプ・レベルでパラメータをオーバーライドすると、同じグループ内のすべてのパラメータがアプリケーション・レベルでは  アイコン、ノード・タイプ・レベルでは  アイコン付きで更新され、それらの値が基本パラメータ値と異なることが示されます。たとえば、アプリケーション・レベルで「**最小長**」パラメータを更新すると、「**大小文字の種類**」、「**無効な文字**」、「**最小長**」および「**最大長**」に  アイコンが表示されます。

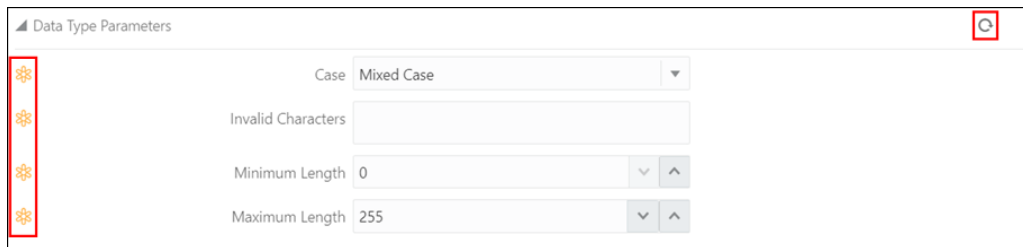
### アプリケーションまたはノード・タイプ・レベルでのパラメータの無効化

フィールドに入力したテキストの値をクリアし、「**保存**」をクリックすることで、アプリケーションまたはノード・タイプ・レベルでパラメータが適用されないことを指定できます。そのパラメータの値は、デフォルトでそのパラメータのデータ型の値に設定されます。たとえば、整数データ型のプロパティ・パラメータの最大長の入力値をクリアした場合、アプリケーションまたは基本レベルの最大長パラメータに関係なく、ユーザーは整数型データベースの境界内の任意の数を入力できます。


### オーバーライドされたパラメータをアプリケーションまたは基本の値に戻す

アプリケーションまたはノード・タイプ・レベルでプロパティ・パラメータをオーバーライドすると、オーバーライドしたプロパティは、現在のパラメータが基本パラメータと異なる

ことを示す  または  インジケータ付きで更新されます。アプリケーション・レベルでオーバーライドしたプロパティは基本の値に戻すことができ、ノード・タイプ・レベルでオーバーライドしたプロパティはアプリケーションまたは基本の値に戻すことができます。プロパティをアプリケーションまたは基本の値に戻すと、パラメータ・タイプ・レベルで元に戻ります。たとえば、「データ型パラメータ」を元に戻すと、「**大文字の種類**」、「**無効な文字**」、「**最小長**」および「**最大長**」のプロパティ設定がすべてアプリケーションまたは基本の値に戻ります。



オーバーライドされたパラメータをアプリケーションまたは基本の値に戻すには:

1. プロパティ・インスペクタで、アクションを実行します。
  - アプリケーションを選択し、アプリケーション・レベルでオーバーライドされたパラメータを基本の値に戻します。
  - ノード・タイプを選択し、ノード・タイプ・レベルでオーバーライドされたパラメータをアプリケーションまたは基本の値に戻します。
2. 「**編集**」をクリックします。
3. 元に戻すパラメータ・タイプで、 をクリックし、そのタイプのすべてのプロパティをアプリケーションまたは基本の値に戻します。
4. 「**保存**」をクリックします。
5. 「**はい**」をクリックして、オーバーライドされた値をアプリケーションまたは基本の値に戻すことを確認します。
6. アプリケーションまたは基本の値にリセットするすべてのパラメータ・タイプを元に戻した後、「**保存**」をクリックします。
7. アプリケーションの値が変更されることを確認するメッセージで、「**はい**」をクリックします。

#### ノート:

ノード・データ型プロパティのデータ型パラメータに対して実行されたアプリケーション・オーバーライドは元に戻せません(たとえば、「割当済ノード・セット」または「最下位レベルのみ」)。これらのパラメータはアプリケーションに固有であり、元に戻すための基本レベルで定義された値はありません。

ノード・データ型プロパティのデータ型パラメータの完全なリストは、[プロパティ・データ・タイプのパラメータの理解](#)の「ノード・データ型に固有の設定」を参照してください。



## プロパティの許容値または無効な値の定義

一部のデータ型では、プロパティを一連の値(許容値)に制限するか、一連の値の 1 つと等しくできないように(無効な値を)指定できます。次の例は、**Asset** (資産)、**Equity** (エクイティ)、**Expense** (費用)、**Liability** (負債)、**Revenue** (収益)の値のみを許容するように構成された Account Type プロパティを示しています。

The image shows a dropdown menu for 'Account Type'. The menu is open, displaying five options: Asset, Equity, Expense, Liability, and Revenue. The 'Account Type' label is to the left of the dropdown box.

プロパティに対して許容または無効にする値は、プロパティ・インスペクタのプロパティ・パラメータ・ページから指定します。[プロパティ・パラメータの編集](#)を参照してください。

### ノート:

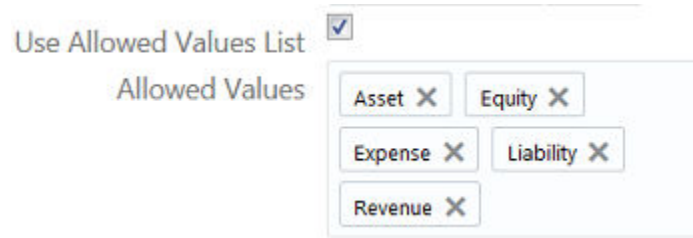
汎用アプリケーションのカスタム・プロパティの場合にのみ、プロパティを追加または変更する際に表示される **ディメンション・ノード・タイプのプロパティ** ページで、許容値を指定することもできます。[カスタム・プロパティの作成](#)を参照してください。





プロパティが特定の値のみを許容するか、特定の値にできないように指定するには:

1. (許容値のみ)許容値の使用を有効にするには、次のアクションを実行します:
  - a. 「**許容値リストの使用**」チェック・ボックスを選択します。
  - b. 「**空白エントリを含む**」オプションがデフォルトで選択されています。これにより、リストに空白が追加されます。ユーザーの選択肢に空白エントリを含めない場合は、このオプションをクリアします。
2. 許容値または無効な値を指定するには、「**許容値**」または「**無効な値**」テキスト・ボックスで、指定する各値に対して次の手順を実行します:
  - a. 「**新規行の追加**」(+ )をクリックし、値を入力して新しい行にテキストを表示します。

[Enter]または[Tab]を押すと、値の横に  ボタンが表示されます。ボタンをクリックして、そのエントリを除去します。

次の例は、**Asset**(資産)、**Equity**(エクイティ)、**Expense**(費用)、**Liability**(負債)、**Revenue**(収益)の値のみを許容するように Account Type プロパティを定義する方法を示しています。



- b. オプション: 「ソート基準」  をクリックして、「値」または「ラベル」で許容値リストの 1 回かぎりのソートを英数字順に実行します。
- c. リストのアイテムを並べ替えるには、「アクション」列で「アクション」  をクリックし、アイテムの位置を選択します。
- d. リストからすべてのアイテムをクリアするには、「アクション」 、「クリア」の順にクリックします。
- e. 許容値または無効な値のリストをインポートまたはエクスポートするには、「アクション」  をクリックし、適切なオプションをクリックします。値は Excel ファイルにインポートおよびエクスポートできます。

## プロパティ定義のダウンロード



単一のプロパティまたはすべてのプロパティのプロパティ定義を、プロパティ・ワーク・リストまたはプロパティ・インスペクタからダウンロードできます。ダウンロードされる情報には、基本パラメータおよびプロパティのアプリケーションおよびノード・タイプ・オーバーライドが含まれます。

これにより、たとえば、オフライン・ファイルの基本、アプリケーション、およびノード・タイプ・レベルで、プロパティ・パラメータをフィルタおよび視覚的に比較できます。

### 単一のプロパティの定義のダウンロード

単一のプロパティの定義を、プロパティ・ワーク・リストまたはプロパティ・インスペクタからダウンロードできます。

単一のプロパティの定義のダウンロードするには、次のいずれかのアクションを実行します:


- プロパティ・ワーク・リストから、定義をダウンロードするプロパティの「アクション」列で、「アクション」  をクリックし、「ダウンロード」を選択します。
- プロパティ・インスペクタから、左の列の「ダウンロード」  をクリックします。

 **Note:**

プロパティ・インスペクタが編集モードの場合、プロパティ定義をダウンロードできません。ダウンロード・ボタンを有効化するには、「保存」または「取消」をクリックして編集モードを終了します。

プロパティ定義が Excel ファイルにダウンロードされます。

### すべてのプロパティの定義のダウンロード

プロパティ・ワーク・リストから、「ダウンロード」 をクリックしてすべてのプロパティのプロパティ定義を Excel ファイルにダウンロードします。

 **Caution:**

環境に多くのプロパティがある場合、この操作に数分かかることがあります。

### プロパティ定義のダウンロード・ファイル形式

単一のプロパティの定義またはすべてのプロパティの定義のどちらをダウンロードした場合も、ダウンロードした Excel ファイルには次のタブがあります：

- **プロパティ:** 基本、アプリケーションおよびノード・タイプ・レベルのプロパティ定義が含まれます(「許容値」、「無効な値」および「デフォルト式」の詳細な値を除く)。
- **許容値:** 基本、アプリケーションおよびノード・タイプ・レベルの詳細な許容値が含まれます。
- **無効な値:** 基本、アプリケーションおよびノード・タイプ・レベルの詳細な無効な値が含まれます。
- **デフォルト式:** 基本、アプリケーションおよびノード・タイプ・レベルの詳細なデフォルト式が含まれます。

 **Note:**

式は json 形式でダウンロードされます。

## プロパティでの Null および空の値の理解

プロパティでは、null 値と定義済みの空の値には相違があります。この相違により、データをディメンションにインポートおよびエクスポートする際に重要な影響があります。

### Null および定義済みの空の値の定義

- **Null 値:** 次の条件を満たすプロパティです：
  - 定義された値がない

- デフォルト値がない。つまり、プロパティにデフォルト値が指定されていないか、指定されたデフォルト値が空の文字列であるか、プロパティが派生プロパティで派生値が空の文字列である場合のいずれかです。[派生プロパティ](#)を参照してください。
  - 継承プロパティの場合に継承値がない。[プロパティの継承](#)を参照してください。
- **定義済の空の値:** 保存されている定義済の値が空の文字列であるプロパティ。

すべてのプロパティには `null` を使用できますが、定義済の空の値をサポートするのは、次のプロパティ・データ型のみです:

- リスト
- メモ
- 文字列 ([「許容値リストの使用」](#) が有効になっていない場合)
- 文字列 ([「許容値リストの使用」](#) が有効になっていて、[「空白エントリを含む」](#) も有効になっている場合)

違いを説明するために、親ノードから値を継承するコスト・センター・プロパティがあると仮定します。親ノードにそのプロパティの値がない場合、コスト・センターのプロパティ値は `null` です。親ノードに値を入力すると、コスト・センターのプロパティ値が親ノードから継承されます。その後、コスト・センター・プロパティから値をクリアすると、その値は `null` に戻らず、**定義済の空の値** になります。

`null` および空の値のインポートおよびエクスポートの詳細は、[インポート・オプションの管理](#) および [エクスポート・オプションの管理](#) を参照してください。

## 代替名プロパティ

代替名プロパティを使用して、ノードを特定して比較する際に様々なノード・タイプにわたる共通ノードを識別します。また、ノードのプライマリ名が指定されていない場合に、プロファイルのアップロードでノードを照合する際にも使用されます。

代替名プロパティを使用するには、代替名を使用するノード・タイプに `Core.Alternate Name` プロパティを追加します。[ノード・タイプのプロパティの追加、除去および構成](#) を参照してください。

代替名プロパティをノード・タイプに追加した後、次の方法で使用できます:

- ノードを特定する際、プライマリ・ノード名が見つからない場合は代替名が検索されます。[ノードの特定](#) を参照してください。
- ノードを比較する際は、プライマリ・ノード名と代替名の両方が比較のために評価され、プライマリ名が優先されます。[ビューポイントの比較の実行](#) を参照してください。
- 要求アイテムをロードする際、ノード名がファイルにない場合は、代替名を使用してノードを特定および更新します。[ロード・ファイル形式の要求](#) を参照してください。

## ビューポイントのプロパティの構成方法の理解

ビューポイントのノードに使用できるプロパティは、データ・チェーンのノード・タイプで使用できるプロパティです。様々な方法でプロパティを表示するようビューポ

イントを構成できます。たとえば、特定のプロパティを 1 つのビューポイントでは編集可能にし、別のビューポイントでは読取り専用にすることができます。

次の表に、データ・オブジェクトでプロパティを構成する方法を示します。

表 20-3 データ・オブジェクトおよびプロパティ

データ・オブジェクト	プロパティ構成
ノード・タイプ	データ・チェーン内にノード・タイプが含まれるすべてのビューポイントに対して次を定義します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>使用可能なプロパティ。</li> <li>プロパティが必要かどうか。</li> </ul> 必要なプロパティとは、そのプロパティに対する値をすべてのノードが持つ必要があることを意味します。これは、ノード・タイプがアプリケーションのバインディング・ルールに準拠するために含める必要があるプロパティである、必須プロパティとは異なります。
ビューポイント	特定のビューポイントに対して次を定義します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ビューポイントに表示されるプロパティ。</li> <li>プロパティに対して表示される名前。つまり、プロパティのラベルを指定できます。</li> <li>プロパティ値が編集可能であるか読取り専用であるか。</li> </ul>

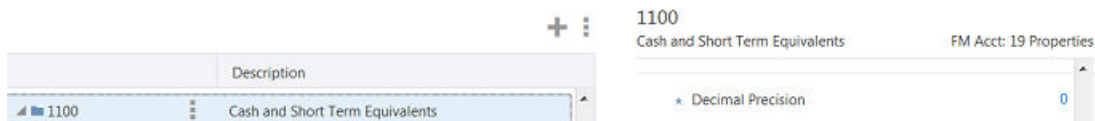
詳細は、[プロパティの操作](#)を参照してください。

### 例 20-2 プロパティの構成

汎用アプリケーションの勘定科目ディメンションのノード・タイプがあり、Custom.Number of Decimal Places という名前のオプションのプロパティを作成したとします。また、次の方法でプロパティを処理するビューポイントを構成する必要があるとします。

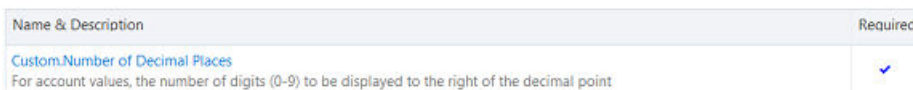
- プロパティがすべての勘定科目ノードに対して使用可能かつ必須です。
- このビューポイントによって表示されるプロパティ名は Decimal Precision です。

次の例は、このプロパティがビューポイント内でどのように表示されるかを示しています。



これを実現するには、次で説明するようにノード・タイプおよびビューポイントを構成します。

- ノード・タイプの「プロパティ」タブで、Custom.Number of Decimal Places プロパティを必須として指定します。



- ビューポイントの「プロパティ」タブで、「ラベル」を「Decimal Precision」に変更します。

Label	Name
Decimal Precision	Custom.Number of D...

## プロパティの検索

「プロパティ」リストで検索を実行すると、「名前」、「説明」、「データ型」および「レベル」の各列が検索されます。検索テキストと一致する項目が結果ウィンドウに太字のフォントで表示されます。

たとえば、この検索では、関係レベルのプロパティのみが返されます。

### Properties

Name and Description		Data Type	Level	Defined	Actions
<input type="text" value="relationship"/> <span style="float: right;">46 Properties (filtered to search results)</span>					
	<b>Core.Change Sign</b> Change Sign indicator for mapping exports	Boolean	<b>Relationship</b>	<span style="color: green;">●</span> True	
	<b>CoreStats.# Children</b> Number of direct Children	Integer	<b>Relationship</b>		
	<b>CoreStats.# Descendants</b> Number of Descendants	Integer	<b>Relationship</b>		
	<b>CoreStats.Bottom Node</b> True if Node has no children	Boolean	<b>Relationship</b>		
	<b>CoreStats.Level</b> Level of the node in a hierarchy node set	Integer	<b>Relationship</b>		
	<b>CoreStats.Parent</b> Parent Node Name of the node in the current location	Node	<b>Relationship</b>		
	<b>CoreStats.Parent Node Type</b> Parent Node Type	Node Type	<b>Relationship</b>		

「プロパティ」リスト内を検索するには:

1. 「プロパティ」から、 をクリックします。
2. 検索するテキスト文字列を入力します。入力を終了すると検索が自動的に実行されます。

検索を閉じてプロパティの完全なリストに戻るには、 をクリックします。


## プロパティの削除

カスタム・プロパティのみを削除できます。カスタム・プロパティは、他のデータ・チェーン・オブジェクトまたはアプリケーション登録によって参照されていない場合に削除できます。サービス管理者のみがカスタム・プロパティを削除できます。

 **ノート:**

予約された名前スペース (Core、CoreStats、PLN など)内のプロパティは削除できません。

カスタム・プロパティを削除するには:

1. 「**プロパティ**」で、削除するカスタム・プロパティを見つけます。
2. プロパティの「**アクション**」列で、 をクリックし、「**削除**」を選択します。
3. 「**はい**」をクリックして削除を確認します。

## 検証および制約の理解

検証および制約により、データ整合性が保たれ、Oracle Enterprise Data Management Cloud のビジネス・ロジックが適用されます。

Oracle Enterprise Data Management Cloud で実行される検証には 3 つのタイプがあります。

- **システム検証:** 一般的なシステム・チェックです。たとえば、検証では、すでに存在するノードを作成しようとしているかどうかをチェックされます。システム検証のリストは、[システム検証](#)を参照してください。システム検証はすべてのデータに適用され、無効にはできません。
- **アプリケーション固有の検証:** Planning などの外部アプリケーションに固有の検証です。アプリケーション固有の検証は、ディメンション内のすべてのバインド済データに適用されますが、ディメンション・レベルで検証を無効にすることや、重要度レベルを設定することができます。[アプリケーション固有の検証の適用および重要度の管理](#)を参照してください。
  - [Planning およびフリーフォームの検証](#)
  - [Oracle Financials Cloud 一般会計の検証](#)
  - [E-Business Suite 一般会計の検証](#)
  - [Financial Consolidation and Close の検証](#)

### ノート:

データ整合性を保つために、これらのバインディング・ステータスのデータ・オブジェクトについてアプリケーション固有の検証が実行されます。[バインディング・ステータス](#)を参照してください。

- バインドされたビューポイントでは、アプリケーション固有の検証がすべて実行されます。
- ノード・セットまたは階層セットがバインドされている階層ビューポイントでは、アプリケーション固有の検証がすべて実行されます。
- ノード・タイプがバインドされている階層ビューポイントでは、次の検証を実行します。
  - \* すべてのノード・タイプ・レベル(プロパティ検証など)およびアプリケーション・レベルの検証(名前の一意性など)が実行されます。
  - \* 構造ベースの検証(親子検証など)がビューポイントの階層セットに対して実行されます。これらの検証結果は、バインドされた階層セットによって異なる場合があります。
- ノード・タイプがバインドされているリストタイプ・ビューポイントでは、アプリケーション固有の検証がすべて実行されますが、構造ベースの検証(親子検証など)は除かれます。



- **カスタム検証:** 特定の実装に固有のビジネス・ロジックを適用するユーザー作成の検証です。[カスタム検証の操作](#)を参照してください。

**制約**では、アプリケーションのノード・タイプとディメンション全体で特定の条件(名前の一意性など)がチェックされます。たとえば、制約では、特定のノード・タイプのノードまたは階層セットのみで実行するカスタム検証とは対照的に、アプリケーション・レベルでノード名の一意性を強制できます。これは、アプリケーション固有の検証と同じですが、検証を適用するアプリケーションまたはディメンションを構成でき、汎用アプリケーションに検証を追加できます。[制約の操作](#)を参照してください。

検証および制約は次の場合に実行されます:

- 外部アプリケーションからのデータのインポート
- 「**エクスポート前に検証**」が「エラー時にアラート」または「エラー時に中止」に設定されている場合は、外部アプリケーションにデータをエクスポートします。[エクスポート・オプションの管理](#)を参照してください。
- ビューポイントへの変更の手動入力
- ビューポイントへの要求変更を含むファイルのロード
- 要求アイテムの検証
- 要求の検証
- ビューポイントの検証

## システム検証

システム検証は、すべてのアプリケーション・タイプに対して実行される一般的なシステム・チェックです。

次の表は、システム検証をリストしています。

**表 21-1 ノード・レベルの検証**

名前	次の場合、検証エラーになる
ノード・タイプが存在	ノード・タイプが存在しません
ノードがノード・タイプに存在	ノードがノード・タイプに存在しません
ノードが要求アイテムに存在	ノードが要求アイテムに存在しません
ノードがノード・セットに存在	ノードがノード・セットに存在しません
ノード名の長さ	名前が最大長を超えています

**表 21-2 階層レベルの検証**

名前	次の場合、検証エラーになる
親ノード・タイプが存在	親ノード・タイプが存在しません
親がノード・タイプに存在	親がノード・タイプの既存ノードではありません
親が要求アイテムに存在	親が要求アイテムに存在しません
親がノード・セットに存在	親がノード・セットに存在しません

表 21-2 (続き) 階層レベルの検証

名前	次の場合、検証エラーになる
階層セット内の子ノード・タイプ	ノード・タイプが階層セット内の親の子ノード・タイプではありません
関係が階層セットに存在	親子関係が階層セットに存在しません
階層セット内の共有ノード	共有ノードは階層セットには許可されません
自身の子孫	ノードが親(または先祖)と同じです
自身の兄弟	ノードが親の子として存在します

表 21-3 ビューポイント・レベルの検証

名前	次の場合、検証エラーになる
ノード・タイプに対して許可されるアクション	要求アクションはビューポイントのノード・タイプに対して許可されません
ビューポイント・ステータス	ビューポイントで編集は許可されません
ビューポイントに表示されるプロパティ	プロパティがビューポイントのノード・タイプに対して表示されません
ビューポイントで編集可能なプロパティ	プロパティがビューポイントのノード・タイプに対して編集できません


表 21-4 プロパティ・レベルの検証

名前	次の場合、検証エラーになる
プロパティのデータ型	値はプロパティのデータ型と一致しません
プロパティの形式	値がプロパティに期待される形式と一致しません
プロパティの最大長	値がプロパティの最大長を超えています
プロパティに対して無効な文字	プロパティに対して無効な文字が値に含まれます
プロパティの最小値と最大値	値がプロパティの最小値と最大値の範囲内にありません
プロパティのリスト内の値	値がプロパティに対して許可される値リストにありません
ノード・タイプの必須プロパティ	ノード・タイプのプロパティの値が入力されていません
ノードがプロパティ・ノード・セットに存在	値がプロパティに対して構成されているノード・セット内のノードではありません

## アプリケーション固有の検証の適用および重要度の管理

デフォルトでは、アプリケーション固有のすべての検証がエラーの重要度に応じて適用されます。重要度を変更するか、またはアプリケーション固有の各検証をディメンション・レベルで無効化できます。無効化した検証は、そのディメンションのデータに対して実行されなくなります。

アプリケーション固有の検証の適用および重要度を管理するには:

1. 検証を管理するディメンションを検査します。[ディメンションの検査](#)を参照してください。
2. 「検証」タブを選択して、そのディメンションで実行されるアプリケーション固有の検証を表示します。
3. 「編集」をクリックします。
4. 検証を有効または無効にするには、「有効」チェック・ボックスを選択またはクリアします。
5. 検証の重要度を変更するには、「**検証設定の編集**  をクリックし、「要求送信」、「要求承認」、「要求コミット」および「ビューポイント検証およびエクスポート」ステージにおける検証の重要度(「エラー」、「警告」、「無視」)を選択します。[検証重要度の理解](#)を参照してください。
6. 「保存」をクリックします。

#### ノート:

Oracle Financials Cloud 一般会計および Oracle E-Business Suite 一般会計アプリケーションで、大文字のノード名の検証を適用しない場合は、アプリケーション・レベルで「大文字のノード名」検証を無効にすることに加え、オーバーライド・ラベルで Core.Name プロパティの「大/小文字の種類」設定を更新する必要があります。[プロパティ・パラメータの編集](#)を参照してください。

## カスタム検証の操作

カスタム検証を使用すると、カスタム・ビジネス・ロジックを追加して、アプリケーション、ディメンション、ノード・タイプおよび階層セットでデータ・ルールを適用できます。検証が作成されたデータ・チェーン・オブジェクトのインスペクタの「検証」タブで、カスタム検証を操作します。

### 考慮事項

- カスタム検証を作成、編集または削除するには、少なくともディメンションに対する所有者またはメタデータ・マネージャ権限が必要です。
- ノード・タイプの検証は、ノード・タイプ別にビューポイント内のすべてのノードに対して実行されます。
- 階層セットの検証は、ビューポイントが階層である場合は、ビューポイント内のすべてのノードに対して実行されます。
- 検証は、要求が実行された後のノードの状態(つまり、要求がコミットされた後のノードの状態)で実行されます。要求が実行される前のノードの状態では検証を実行することはできません。
- 要求が送信、承認、コミットされたとき、または検証が実行されたときに検証が実施されます。次の表に、異なるコンテキストで検証が実行されるときにどのカスタム検証が実行されるかを示します。

検証コンテキスト	実行される検証
要求の検証	カスタム検証は、トリガー・アクションまたはトリガー・プロパティを満たす要求アイテムに対して実行されます
開いている要求のあるビューポイントの検証	カスタム検証は、要求アイテムを含む、ビューポイント内のすべてのノードに対して実行されます
要求の範囲外のビューポイントの検証	カスタム検証は、トリガー・プロパティを満たし、トリガー・アクションを満たさない要求アイテムに対して実行されます

### カスタム検証の作成

1. 検証を追加するデータ・チェーン・オブジェクトを検査します。次を参照してください：
  - [アプリケーションの検査](#)
  - [ディメンションの検査](#)
  - [ノード・タイプの検査](#)
  - [階層セットの検査](#)
2. 次のいずれかのアクションを実行します。
  - アプリケーション、ノード・タイプ、階層セットおよび汎用アプリケーションのディメンションの場合：「検証」タブで、「作成」をクリックします。
  - 汎用以外のアプリケーションのディメンションの場合：「検証」タブで、「カスタム」サブ・タブをクリックし、「作成」をクリックします
3. 検証の名前、およびオプションで説明を入力し、「作成」をクリックします。検証が検証インスペクタに表示されます。

### カスタム検証の編集

1. カスタム検証を編集するデータ・チェーン・オブジェクトを検査します。
2. 次のいずれかのアクションを実行します。
  - アプリケーション、ノード・タイプ、階層セットおよび汎用アプリケーションのディメンションの場合：「検証」タブで、「編集」をクリックします。
  - 汎用以外のアプリケーションのディメンションの場合：「検証」タブで、「カスタム」サブ・タブをクリックし、「編集」をクリックします
3. 検証インスペクタの「全般」タブで、「編集」をクリックして検証の名前または説明を編集します。
4. 「定義」タブで、次の情報を入力して検証を定義します：
  - 「有効」フラグ：カスタム検証が実施されるかどうかを指定します。デフォルトで検証は無効化されており、次の条件を満たす場合のみ有効化できます。
    - 有効な式が定義されています
    - 少なくとも 1 つのトリガー・アクションまたはトリガー・プロパティが構成されています
    - エラー・メッセージが定義されています

 **ノート:**

ノード・タイプまたは階層セット・インスペクタの「検証」タブから検証を有効または無効にすることもできます。[カスタム検証の有効化、無効化または削除](#)を参照してください。

- **式: 「式の定義」**  $fx$  (またはテーマに応じて  $dx$ ) をクリックして式ビルダーを開き、検証のビジネス・ロジックを定義します。[式を使用したカスタム・ビジネス・ロジックの定義](#)を参照してください。  
検証の式はブール値を返す必要があります。式が **True** の値を返す場合、検証は成功です。式が **False** の値を返す場合、検証は失敗し、エラー・メッセージが表示されます。
- **トリガー・アクション:** 検証が実行される 1 つ以上の要求アクションを選択するか、「**すべて**」チェック・ボックスを選択してすべてのアクションを選択します。
- **トリガー・プロパティ:** 更新された場合に検証が実行される 1 つ以上のプロパティを選択するか、「**すべて**」チェック・ボックスを選択してすべてのプロパティを選択します。
  - ノード・タイプ検証の場合、そのノード・タイプに割り当てられているすべてのプロパティを選択できます。
  - 階層セット検証の場合、その階層セットで参照される任意のノード・タイプに割り当てられているすべてのプロパティを選択できます。

 **ヒント:**

検証は、要求内のすべてのトリガー・アクションおよびトリガー・プロパティに対して実行されます。つまり、複数のトリガー・プロパティを追加し、それらのすべてが失敗した場合、複数のエラー・メッセージを受信します。要求でビジネス・ロジックを適用する最小数のトリガー・プロパティまたはトリガー・アクションを追加する必要があります。


- **要求状況:** 要求のコンテキストでカスタム検証が実行される状況を選択します:
  - **コミット済**(デフォルト): 要求アイテムおよびアクションがビューポイントに適用された後のデータに対して検証が評価されます。「コミット済」状況でデータ条件を評価するときに、要求で除去または削除されたノードは除外されます。
  - **ビジュアル化済:** 要求アイテムおよびアクションがビューポイントに適用される前のデータに対して検証が評価されます。「ビジュアル化済」状況でデータ条件を評価するときに、要求で除去または削除されたノードも含まれます。

 ノート:

「ビジュアル化済」状況を使用する評価を実行するのは、要求アイテムを評価するときのみであり、ビューポイント进行评估するときには実行しないでください。

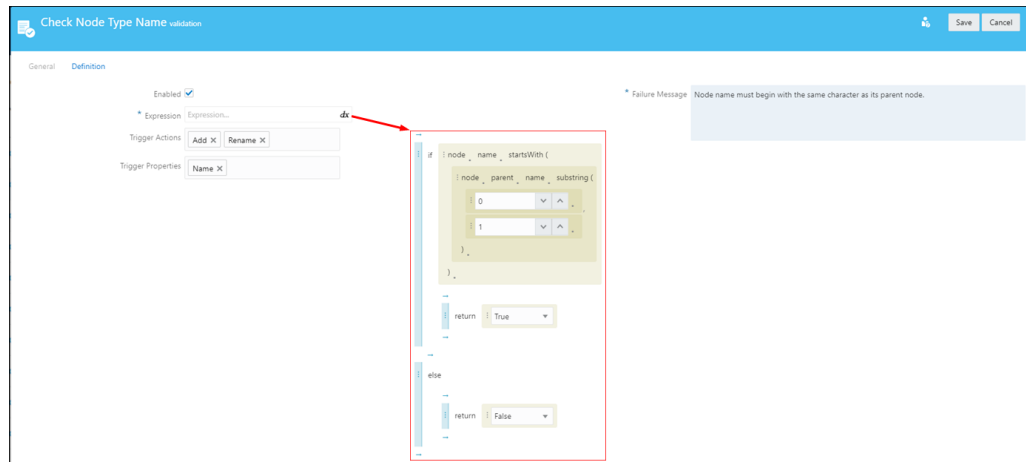
- **重要度:** 「要求送信」、「承認」および「コミット」ステージおよびビューポイントの検証時とディメンションのエクスポート時における検証の重要度(「エラー」、「警告」、「無視」)を選択します。 [検証重要度の理解](#)を参照してください。
  - **エラー・メッセージ:** 検証に失敗した場合にユーザーに表示されるメッセージを入力します。
5. 「保存」をクリックします。

### カスタム検証の有効化、無効化または削除

1. カスタム検証を有効化、無効化または削除するデータ・チェーン・オブジェクトを検査します。
2. 次のいずれかのアクションを実行します。
  - アプリケーション、ノード・タイプ、階層セットおよび汎用アプリケーションのディメンションの場合: 「検証」タブで、「編集」をクリックします。
  - 汎用以外のアプリケーションのディメンションの場合: 「検証」タブで、「カスタム」サブ・タブをクリックし、「編集」をクリックします。
3. アクションを実行する検証の横にある「アクション」列で、 をクリックし、オプションを選択します:
  - **有効化**(評価が無効になっている場合にのみ使用可能)
  - **無効化**(評価が有効になっている場合にのみ使用可能)
  - **削除**
4. 確認メッセージで「はい」をクリックした後、「保存」をクリックします。

### カスタム検証の例

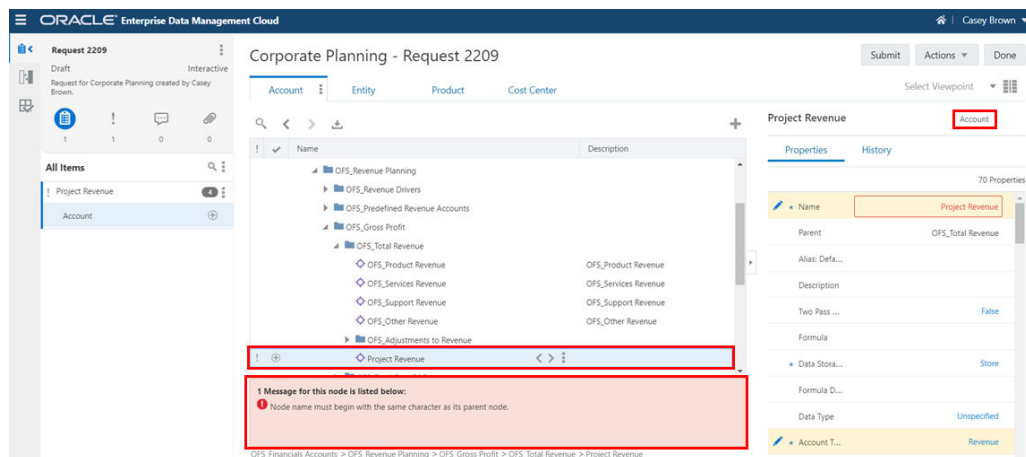
この例では、Corporate Planning アプリケーションの「勘定科目」ノード・タイプに、すべてのノード名がそのノードの親と同じ文字で開始する必要があるという検証を追加します。次のスクリーンショットに、作成したカスタム検証を示します。



検証には次の定義があります:

- 「有効」フラグが **True** に設定されています。
- ノード名がノードの親の名前の最初の文字と同じ文字で開始する場合、式は **True** の値を返し、そうでない場合は **False** の値を返します。
- 検証のトリガー・アクションは「追加」および「名前変更」で、トリガー・プロパティは「名前」です。
- エラー・メッセージは、勘定科目ノードがその親ノードと同じ文字で開始しない場合は検証が失敗することを示しています。

検証をテストするために、親の最初の文字とは異なる文字で名前が開始する、「勘定科目」ノード・タイプのノードを追加する要求を送信してみましょう。ここでは、親ノード **OFS\_Total Revenue** の下に、**Project Revenue** という名前のノードを追加してみます。



要求を送信すると、ノード名はその親ノードと同じ文字で開始する必要があるという検証エラーが表示されます。

## 検証重要度の理解

カスタム検証およびアプリケーション固有の検証では、デフォルトで、検証失敗によってエラーが表示され、現在の操作が停止します。重要度を変更すると、警告を表示したり、逆に検証を無視できます。

次の各操作の重要度レベルを設定できます：

- **要求送信:** 要求が「送信」ステージのときに(「ドラフト」、「プッシュ・バック済」または「撤回済」のステータスに関係なく)検証が評価されます
- **要求承認:** 要求が「承認」ステージのときに検証が評価されます
- **要求コミット:** 要求が「コミット」ステージのときに検証が評価されます

### Tip:

各要求ステージに異なる重要度レベルを構成すると、たとえば、失敗によって「送信」ステージ中は警告が表示されます(要求の送信はまだ許可されきます)が、失敗が解決されるまで要求を承認できないように「承認」ステージ中はエラーが表示されるように検証を構成できます。

- **ビューポイント検証およびエクスポート:** ビューポイントを検証するとき、またはディメンションをエクスポートするときに検証が評価されます。

### Note:

ディメンションをエクスポートするときは、重要度が「エラー」の検証のみが実行され、結果はディメンションの「**エクスポート前に検証**」設定によって異なります。[ディメンションをエクスポートする前のビューポイントの検証](#)を参照してください。

各シナリオの結果を次の表に示します。

Table 21-5 操作ごとの検証重要度

重要度	すべての要求ステージ	ビューポイントの検証	ディメンションのエクスポート
エラー	エラーが表示され、要求が次のステージに遷移できないようにします。	検証が実行され、重要度「エラー」がビューポイント検証結果に表示されます。	ディメンションをエクスポートする前に検証が実行されます。「 <b>エクスポート前に検証</b> 」設定により、検証失敗の結果が決まります。 <a href="#">ディメンションをエクスポートする前のビューポイントの検証</a> を参照してください。
警告	エラーが表示されませんが、要求は次のステージに遷移できます(ユーザーによる確認後)。	検証が実行され、重要度「警告」がビューポイント検証結果に表示されます。	ディメンションをエクスポートする前に検証は実行されません。



Table 21-5 (Cont.) 操作ごとの検証重要度

重要度	すべての要求ステージ	ビューポイントの検証	ディメンションのエクスポート
無視	検証は処理されません。	ビューポイントの検証中に検証は実行されません。	ディメンションをエクスポートする前に検証は実行されません。

 **Note:**

検証重要度は、カスタム検証およびアプリケーション固有の検証に対してのみ構成できます(アプリケーション固有の検証の適用および重要度の管理を参照)。システム検証の検証重要度は常に「エラー」です。

## 制約の操作

制約を使用すると、アプリケーションのノード・タイプとディメンション全体に特定のデータ・ルール(名前の一意性など)を適用できます。

制約はカスタム検証とは異なります。制約はノード・セット全体で条件をチェックしますが、カスタム検証はノード・レベルで条件をチェックします。たとえば、カスタム検証はノードまたはその親で条件をチェックできますが、制約はディメンションまたはアプリケーション・レベルのノード・セット全体で条件をチェックできます。

### 考慮事項

- アプリケーションの任意のタイプの制約を作成するには、そのアプリケーションの所有者またはメタデータ・マネージャ権限を保持している必要があります。
- 制約を追加して、アプリケーション、ディメンションに対して、または特定のノード・タイプ全体でプロパティ値の一意性を適用できます。制約を有効にすると、指定したアプリケーションまたはディメンション内のすべてのバインドされたノード・タイプ全体で、または指定した任意のノード・タイプ(バインドまたは非バインド)全体で、指定したプロパティの値が一意であることがチェックされます。

 **Note:**

- Oracle Enterprise Data Management Cloud の Planning、Planning モジュールおよび Financial Consolidation and Close アプリケーションは、アプリケーション・レベルでノード・タイプ全体でのノード名の一意性をチェックするアプリケーション固有の検証をすでに備えています。これらのアプリケーション・タイプに対して、このデータ・ルールを強制する制約を作成する必要はありません。
  - Oracle Enterprise Data Management Cloud の Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションは、ディメンション・レベルでノード・タイプ全体でのノード名の一意性をチェックするアプリケーション固有の検証をすでに備えています。セグメント値セット全体にノード名の一意性ルールを適用する場合は、アプリケーション・レベルで制約を追加できます。
- 次の基準を満たすプロパティの制約を作成できます:
    - プロパティは、ノード・レベル・プロパティである必要があります。関係レベル・プロパティの制約を作成することはできません。
    - プロパティのデータ型は、文字列、数値文字列またはシーケンス・データ型である必要があります。
    - プロパティ値は継承できず、「派生」または「派生および保管」デフォルト値を持つことができません。  
プロパティの制約を追加した場合、そのプロパティが継承値、「派生」または「派生および保管」デフォルト値を持つように変更することはできません。
  - アプリケーションごとに 4 つまでの一意のプロパティに制約を追加できます。ただし、単一のプロパティに複数の制約を追加できます。たとえば、Alias:Default プロパティに 1 つのアプリケーションを設定し、非バインド・ノード・タイプに対してチェックする Alias:Default のノードに別のノード・タイプの制約を作成できます。これは、4 つのアプリケーション制限に関して 1 つのプロパティとしてカウントされます。

 **Note:**

特定のプロパティに対してアプリケーション制約を作成した場合、そのアプリケーション内の同じプロパティに対して個別のディメンション制約を作成する必要はありません。アプリケーション制約により、そのアプリケーション内のすべてのバインドされたディメンション全体で、プロパティ値の一意性がすでにチェックされています。

## 制約の作成、編集および削除

### 制約を作成するには:

1. 制約を作成するアプリケーションを検査します。
2. 「制約」タブで、「作成」をクリックし、次のアクションを実行します:
  - アプリケーションのすべてのバインドされたノード・タイプ内のすべてのノードに対するプロパティの一意性をチェックするには:
    - a. 「バインド済アプリケーション一意性」を選択します。

- b. 名前と説明を入力します。
- c. 「プロパティ」から、制約のプロパティを選択します。デフォルト値が継承または導出されていない文字列データ型のノード・レベル・プロパティのみが表示されます。
- d. 制約が有効かどうかを選択します。デフォルトでは、制約は有効です。
- ディメンションのすべてのバインドされたノード・タイプ内のすべてのノードに対するプロパティの一意性をチェックするには:
  - a. 「バインド済ディメンション一意性」を選択します。
  - b. ディメンション・ドロップダウン・メニューから、ディメンションを選択します。ドロップダウン・メニューには、バインドされたディメンションのみ表示されます。
  - c. 名前と説明を入力します。
  - d. 「プロパティ」から、制約のプロパティを選択します。デフォルト値が継承または導出されていない文字列データ型のノード・レベル・プロパティのみが表示されます。
  - e. 制約が有効かどうかを選択します。デフォルトでは、制約は有効です。
- アプリケーションの選択されたノード・タイプ内のすべてのノードに対するプロパティの一意性をチェックするには:
  - a. 「ノード・タイプの一意性」を選択します。
  - b. 「ノード・タイプ」で、ノード・タイプを選択してそれを制約に追加します。制約に複数のノード・タイプを選択でき、バインドおよび非バインドのノード・タイプを選択できます。選択したノード・タイプを制約から除去するには、「X」をクリックします。
  - c. 名前と説明を入力します。
  - d. 「プロパティ」から、制約のプロパティを選択します。選択したノード・タイプのうち、文字列データ型であり、デフォルト値が継承または導出されていないノード・タイプのノード・レベル・プロパティのみが表示されます。
  - e. 制約が有効かどうかを選択します。デフォルトでは、制約は有効です。

### 3. 「保存」をクリックします。

制約を作成した後に、「編集」をクリックして、制約の名前と説明を編集したり、制約を有効または無効にします。制約を保存した後に、制約のタイプを変更したり(たとえば、アプリケーション・タイプからディメンション・タイプへ)、制約を適用するディメンションを変更することはできません。

制約を削除するには、削除する制約で「X」をクリックします。編集モードでは制約を削除できません。

## 参照セットの操作

参照セットを使用すると、プロパティの値のセットを別の値のセットに変換できます。たとえば、勘定科目タイプ・プロパティで、「A」という値を「Asset」という値に変換できます。参照セットは、プロパティを導出してノード・タイプを変換する式で使用されます。

[式を使用したカスタム・ビジネス・ロジックの定義](#)を参照してください。

### 考慮事項

- 参照セットを作成または削除するには、少なくとも 1 つのアプリケーションに対する所有者またはメタデータ・マネージャ権限が必要です。参照セットが作成されると、すべてのユーザーが表示して検査できます。
- アプリケーションの参照を追加または更新するには、そのアプリケーションに対する所有者またはメタデータ・マネージャ権限が必要です。
- 参照セットには、ソース値(キーと呼ばれる)およびターゲット値が含まれます。キー値は一意である必要がありますが、複数のキーを各ターゲット値に関連付けることができます。
- 参照は、キーから値にのみ実行されます。値からキーを参照できません。
- 参照セットを定義するとき、キーと関連付けられた値が異なる場合はキーと値のペアのみを追加します。キーと値が同じ場合は、それらを参照セットに追加する必要はありません。参照セットに含まれないキーを渡すと、そのキー自体が返されます。
- 参照キーと値は、文字列データ型のみサポートしています。

### 参照セットの作成

参照セットを作成するには:


- ホーム・ページから、「参照セット」 タイルをクリックします。
- 「作成」** をクリックします。
- 名前、およびオプションで説明を入力し、**「作成」** をクリックします。  
参照セットが作成されます。

キーと値を参照セットに追加するには、参照セットの名前をクリックしてインスペクタに開きます。[参照セットの検査](#)を参照してください。

### 参照セットの削除

サービス管理者は、どのアプリケーションでも使用していない(つまり、参照セットで定義されたアプリケーションの参照値がない)参照セットを削除できます。

参照セットを削除するには:

- ホーム・ページから、「参照セット」 タイルをクリックします。
- 「アクション」列で、「アクション・メニュー」  をクリックし、「削除」 をクリックします。

 **ノート:**


参照セットがアプリケーションによって使用されている場合、「削除」メニュー項目は使用できません。

3. 「はい」をクリックして参照セットを削除することを確認するか、「いいえ」をクリックして取り消します。


参照セットを削除した後、その名前を再利用して新しい参照セットを作成することや、既存の参照セット名を変更することができます。


## 参照セットの検査

キーとその値を追加、編集または削除するために、参照セットを検査できます。


1. 「参照セット」から、検査する参照セットまでスクロールして  をクリックし、「検査」を選択します。
2. 次のタブで、使用可能なオプションから選択します。
  - **全般:** 名前、説明および作成者と変更者のユーザーが表示されます。
  - **定義:** アプリケーション参照および各アプリケーションのキーと参照値が表示されます。

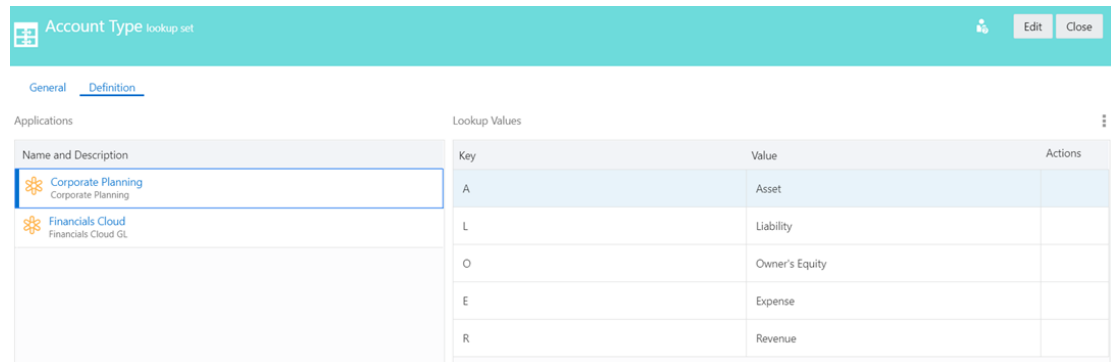
アプリケーション参照を追加するには:

1. 「定義」タブで「編集」をクリックします。
2. 「アプリケーション」で、「追加」をクリックします。
3. 参照に追加するアプリケーションを選択します。所有者またはメタデータ・マネージャ権限が割り当てられているアプリケーションのみが表示されます。
4. 「参照値」で  をクリックします。
5. 参照のキーと値のペアを入力します。

 **ノート:**

各キーは一意にする必要がありますが、キーに複数の値を追加できます。

6. アプリケーション参照のすべてのキーと値のペアを追加するまで、ステップ 4 と 5 を繰り返します。
7. キーと値のペアを削除するには、「アクション」列で  をクリックして「削除」を選択します。
8. アプリケーション参照のキーと値のペアの入力が終了した後、「保存」をクリックします




Applications		Lookup Values		
Name and Description		Key	Value	Actions
Corporate Planning	Corporate Planning	A	Asset	
Financials Cloud	Financials Cloud GL	L	Liability	
		O	Owner's Equity	
		E	Expense	
		R	Revenue	


### 参照セット値のインポートおよびエクスポート

参照セットのキーと値のペアは、Excel ファイルにインポートおよびエクスポートできます。1 列目の値はキーで、2 列目の値は値です。その他の列はすべて無視されます。

アプリケーション参照のキーと値のペアをインポートすると、インポートにより、アプリケーション参照の既存の値はオーバーライドされます。

アプリケーション参照をインポートするには:

1. 「定義」タブで「編集」をクリックします。
2. 「参照値」の横にある  をクリックし、「インポート」を選択します。インポート・ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. Excel ファイルを選択するか、ダイアログ・ボックスにドラッグします。インポートが自動的に実行され、ダイアログ・ボックスが閉じます。
4. 「保存」をクリックします。

アプリケーション参照をエクスポートするには、「定義」タブで  をクリックし、「エクスポート」を選択します。エクスポート・ファイルが作成され、クライアントのローカル・ファイル・システムに自動的にダウンロードされます。このファイルには、構成しているプロパティとアプリケーションの名前が付きます(例: Account+Type-Corporate+Planning.xlsx)。

# 式を使用したカスタム・ビジネス・ロジックの定義

式を使用すると、データを管理するためのビジネス・ロジックを定義できます。式を使用して、アプリケーション間でデータを移動する際にプロパティを変換したり、別のプロパティの値に基づいてプロパティの値を導出したり、ノード・タイプまたは階層セットのカスタム検証を作成できます。式ビルダーを使用すると、最小限のコーディングまたはスクリプト知識を必要とする構造化環境で、複雑なビジネス・ロジックを定義できます。作成する式は、作成時に自動的に検証されます。

このトピックでは、式ビルダーを使用してビジネス・ロジックを定義する方法について説明します。このビジネス・ロジックが適用されるコンテキストの詳細は、次のトピックを参照してください。


- [ノード・タイプ・コンバータの操作](#)
- [派生プロパティ](#)
- [カスタム検証の操作](#)
- [サブスクリプションへのフィルタおよび条件の追加](#)
- [承認ポリシーの作成および有効化](#)
- [通知ポリシーの作成および有効化](#)

## ビデオ

目的	参照するビデオ
カスタム・ビジネス・ロジックについての理解を深める	 <a href="#">概要: Enterprise Data Management のカスタム・ビジネス・ロジック</a>
式を使用したプロパティの派生	 <a href="#">式を使用したプロパティの派生</a>
式を使用したプロパティの変換	 <a href="#">式を使用したプロパティの変換</a>

## チュートリアル

チュートリアルには、トピックを学習するのに役立つ一連のビデオおよびドキュメントを使用した説明が用意されています。

目的	方法の学習
ノード・タイプ・コンバータでノードの親を導出する式を作成します	 <a href="#">ノード・タイプ・コンバータの式を使用した親ノードの検出</a>

## 式ビルダーの概要

式ビルダーは、次の 2 つの領域で構成されます。

- **パレット**では、式に挿入するフィールドを選択できます。
- **エディタ**では、式を構成できます。








The screenshot displays the Oracle Form Builder interface for the property 'PLN.Alias: English'. The title bar indicates the property name and its description: 'Alternate unique description for the dimension member.' Below the title bar, the text 'Default Value for PLN.Alias: English' is shown. The interface is divided into two main sections: the 'Palette' on the left and the 'Editor' on the right. The 'Palette' section contains a list of 'Statements' (comment, if, else if, else, return) and 'Objects' and 'Operators' sections. The 'Editor' section shows a 'return' statement with a 'null' value.

### 式ビルダーのツールバー

式ビルダーのツールバーを使用すると、式の項のコピーおよび貼付け、ファイルからの式のロード、式のテストといった機能を実行できます。次の機能を使用できます：

- **コピー** : 式をコピーします。[式全体のコピーおよび貼付け](#)を参照してください。



- **貼付け** : 式を貼り付けます。 [式全体のコピーおよび貼付け](#)を参照してください。
- **式をテキストとして取得** : 式のテキスト・バージョンをクリップボードにコピーします
- **ファイルからロード** : JSON ファイルから式をロードします。 [ファイルからの式のロード](#)を参照してください。
- **ファイルに保存** : 現在の式を JSON ファイルに保存します。 [ファイルへの式の保存](#)を参照してください
- **式のテスト** : 現在の式をテストします。 [式のテスト](#)を参照してください。
- **元に戻す** : 前に実行したアクションを取り消します
- **やり直し** : 前に元に戻したアクションを復元します

### 用語

式ビルダーを使用する場合は、次の概念が理解に役立ちます。

- **式**は、**文**と呼ばれる 1 行以上のロジックで構成されます。
- **文**は、式のロジックを制御する個別の指示です。文には 3 つのタイプがあります。
  - *Return* 文は値を返します。
  - *If* 文は条件が真のときに実行される文のリストを指定します。*Else* および *Else If* 文は、*If* 文に追加して条件を拡張できます。
  - *Comments* を使用して、式の一部に注釈を付加できます(たとえば、変更が行われた場所を識別するため)。これらは情報提供のみを目的としており、式の実行時に評価されることはありません。
- **式の項**は、値に評価されるオブジェクトと演算子で構成されます。この例では、式は、ノード名、ハイフンおよびノードの説明を連結して、別名プロパティの値を導出しています。

**PLN.Alias: English** property  
Alternate unique description for the dimension member.

Default Value for PLN.Alias: English

The screenshot shows the 'Statements' panel on the left with a 'return' statement selected. To the right, a visual representation of the formula is shown: `return : node . name . concat (` followed by three 'String Value' inputs: a hyphen character, `node . properties . Core . Description`, and the text `blank`. The formula ends with `).`

この式には 3 つの式の項(および 4 番目を追加するためのオプションのプレースホルダ)があり、それぞれが アイコンで示されています。

- `Node.name.concat (`
- `-` (ハイフン文字)
- `Node.properties.Core.Description`

式ビルダーでは、式の項が黄色の背景で示され、各式の項を文の中で移動または除去できます。式内の式の項をコピーして貼り付けることもできます。[式でのコピーおよび貼付け](#)を参照してください。

- **オブジェクト**は式の要素で、値を表します。各オブジェクトには、そのオブジェクトで使用可能な追加のオブジェクト、メソッドおよび属性を決定するデータ型があります。たとえば、式で `sourceNode` オブジェクトを選択すると、式ビルダーには、`dimension`、`name` など、ノード・データ型に適用可能なフィールドのみが表示されます。[式の項のデータ型](#)を参照してください。  
式でオブジェクトを選択した後、そのオブジェクトの**属性**および**メソッド**を選択することで、式をさらに絞込みできます。
  - **属性**は、オブジェクトの側面を説明します。たとえば、`dimension` オブジェクトには `name` という属性があります。
  - **メソッド**は、オブジェクトに対してアクションを実行します。たとえば、`concat` メソッドは文字列を連結し、`length` メソッドは文字列の長さを返します。一部のメソッドには *引数*があり、これはメソッドの入力パラメータです。ラベルは必要な入力(たとえば、「**文字列値**」)を記述します。
- **演算子**は、式で論理比較を実行します。式ビルダーでは、AND と OR の演算子をサポートしています。
- **リテラル**は、式に手動で入力する定数値です。たとえば、`If Account.Type = E, return Expense` の文で、「E」と「Expense」は両方ともリテラルです。

用語の理解を深めるために、式の例を確認してみます。

⚙️
Account node type  
Account dimension for Corp Planning

---

### Property Transform for PLN.Variance Reporting

**Statements**

- comment
- if
- else if
- else
- return

**Objects**

**Operators**

```

if : sourceNode . properties . FCGL.Account Type . equals (
  String Value : E
) .
return : Expense
else
return : Non-Expense


```

これは、Corporate Planning 勘定科目ディメンションと Financials Cloud GL 勘定科目ディメンション間でマップするノード・タイプ・コンバータの式です。記述されたこの式は、次のようになります。

**PLN.Variance Reporting プロパティの場合、ソース・ノード・プロパティ FCGL.Account Type が「E」と等しい場合は「Expense」を返します。そうでない場合は「Non-Expense」を返します。**

スクリーンショットのこの式には、次の要素が含まれています。

1. 3つの文:
  - If FCGL.Account Type equals "E"
  - Return "Expense"
  - Return "Non-Expense"

 ノート:

式を作成するときは、**Else If** 文を追加する必要はありません。式が実行される際、**IF** 文が真でない場合はロジックが次の文に移動します。[式の作成](#)を参照してください。

2. 4 つの式の項。
  - FCGL.Account Type equals
  - "E"
  - "Expense"
  - "Non-Expense"
3. 1 つのオブジェクト: sourceNode。
4. 2 つの属性: FCGL.Account Type および properties。
5. 1 つのメソッド: equals。
6. 3 つのリテラル: E、Expense、Non-Expense。



## 式の作成

式は文で構成され、文にはオブジェクトと演算子で構成される式の項が含まれ、メソッドと属性を選択することでさらに絞込みできます。

このトピックでは、式ビルダーを使用して式を作成する一般的なステップについて説明します。詳細な例は、[式: 詳細な例](#)を参照してください。

式を作成するには、**If** 文または **Return** 文のいずれかを選択し、その文にオブジェクト、メソッド、属性および演算子を使用して式の項を作成します。

式のデータ型の詳細は、[式の項のデータ型](#)を参照してください。

式の編集時に、最後のアクションを元に戻すには  をクリックし、やり直すには  をクリックします。

式の作成の詳細は、次のトピックを参照してください:

- [文の操作](#)
- [コメントの操作](#)
- [オブジェクトおよび演算子の操作](#)
- [リテラル値の操作](#)
- [式での参照セットの使用](#)
- [式でのコピーおよび貼付け](#)



## 文の操作

文は式のロジックを制御します。

文には 2 つのタイプがあります。

- **Return** 文は値を返します。**return** 文が有効であるために、結果は、式が定義されているプロパティのデータ型と一致する必要があります。
- **If** 文は条件が真のときに実行される文のリストを指定します。**If** 文が有効であるために、結果は、ブール値である必要があります。**Else** および **Else If** 文を使用して、条件を拡張できます。



文を挿入するには:

1. パレットの「文」セクションから、文をエディタにドラッグするか、 をクリックしてドロップダウン・リストから文を選択します。  
エディタ内で青い矢印がある場所に文を挿入できます。文をエディタに追加すると、文のブロックを示す青い縦棒がエディタに追加されます。文は他の文にネストできます。各文は青い棒で示されます。
2. 式に対してオブジェクトおよび演算子を選択します。オブジェクトを選択した後、そのオブジェクトの属性またはメソッドを選択できます。[オブジェクトおよび演算子の操作](#)を参照してください
3. 文のブロックを除去するには、文のブロックで  をクリックして「**除去**」を選択します  
文でフィールドの選択を開始すると、式の項は、有効でないことを示す赤いアウトラインが表示されます。次のように式のすべての文が有効になるまで、式を保存できません。
  - If 文はブール値に評価される必要があります。
  - Return 文は期待されるデータ型に戻す必要があります。
    - プロパティ変換および派生プロパティの場合、期待されるデータ型は変換または派生元のプロパティのデータ型です。[プロパティ](#)を参照してください。
    - カスタム検証の場合、期待されるデータ型はブール値です。

## コメントの操作

コメントを使用して、式に注釈を追加します。コメント・ブロック内の情報は情報提供のみで、式の一部として評価されることはありません。


コメントを追加または除去するには:

1. コメントを追加するには、パレットの「文」セクションからコメントをエディタにドラッグするか、 をクリックしてドロップダウン・リストから「**コメント**」を選択します。  
式ビルダーにより、コメントを挿入できる場所が表示されます。たとえば、If 文の前または後にコメントを挿入できますが、文自体のなかには挿入できません。  
コメントをエディタに追加すると、文のブロックを示す青い縦棒がエディタに追加されます。
2. コメントを除去するには、コメントの周囲の文のブロックで  をクリックして「**除去**」を選択します。

## オブジェクトおよび演算子の操作

オブジェクトおよび演算子は文の式の項に追加されます。

オブジェクトおよび演算子を追加するには:

1. 文の黄色い式の項でパレットを使用するか、 をクリックしてオブジェクトまたは演算子を選択します。最初に、次のオブジェクトを選択できます。
  - **node** (派生プロパティの場合)または **sourceNode** (プロパティ変換の場合)
  - **request**
  - **lookupSets**
  - **currentProperty** (派生プロパティのみ)
  - **Boolean**
  - **integer**
  - **float**
  - **now**
  - **null**
  - **string**
  - **today**

**And** または **Or** 演算子を文に追加して、式の項をリンクすることもできます。
2. 各要素の横にあるドットをクリックしてドロップダウン・リストから選択することで、オブジェクトのメソッドと属性を選択します。選択できるフィールドは、フィールドのデータ型によって異なります。たとえば、ノードの後にフィールドを選択した場合は、ノードの祖先、子、ディメンション、名前、ノード・タイプ、親またはプロパティを選択できます。ディメンションの後にフィールドを選択した場合は、ディメンションの名前属性を選択できます。[式の項のデータ型](#)を参照してください。
3. オブジェクトからメソッドおよび属性を除去するには、除去する要素の横にあるドットをクリックし、「**クリア**」を選択します。

## 式の項のデータ型

式でオブジェクトまたは演算子などのフィールドを選択すると、そのフィールドのデータ型によって、その式で次に選択できるオブジェクト、属性およびメソッドが決まります。次のトピックでは、式に追加できるフィールドのデータ型について詳細に説明します:

- [ブール](#)
- [日付およびタイムスタンプ](#)
- [現在の日時](#)
- [ディメンションおよびノード・タイプ](#)
- [整数および浮動小数点](#)
- [整数リストおよび浮動小数点リスト](#)
- [リストおよび文字列リスト](#)
- [LookupSets](#)
- [メモ](#)
- [ノード](#)

- [ノード・データ型プロパティ](#)
- [ノード・リスト](#)
- [演算子](#)
- [プロパティ](#)
- [要求](#)
- [文字列、数値文字列およびシーケンス](#)

## ブール

ブール・データ型は、条件が真か偽かを示します。次のメソッドをブール・データ型に追加できます:

- **and**: **And** 演算子の使用のかわりに、複数の式の項を結合できます。現在の式および指定した条件の両方が真の場合に **True** を返します。
- **equals**: 指定されたフィールドと等しい値がブールに含まれている場合は **True** を返します。
- **isNull**: ブールが **null** 値の場合は **True** を返します
- **not**: 逆のブール値を返します
- **or**: **Or** 演算子の使用のかわりに、複数の式の項を結合できます。現在の式または指定された条件のいずれかが真の場合に **True** を返します。

ブール・データ型にはリテラル値を追加できます。[リテラル値の操作](#)を参照してください。

## 現在の日時

次のいずれかのオブジェクトを使用して、現在の日付または時刻を式で返します。

- **now**: 現在のタイムスタンプを返します。after、before または equals を指定できます。[日付およびタイムスタンプ](#)を参照してください。
- **today**: 現在日を返します。[日付およびタイムスタンプ](#)で、任意の属性を指定できます。

## CurrentProperty

派生プロパティ式で `currentProperty` オブジェクトを使用して、プロパティの名前や説明などのプロパティ・メタデータにアクセスします。



### Note:

`currentProperty` オブジェクトは、派生プロパティ式でのみ使用可能です。

`currentProperty` オブジェクトでは、次の属性およびメソッドを使用できます:

属性またはメソッド	説明	パラメータ	例
<b>説明</b>	式の現在のプロパティの説明を返す属性	なし	<code>return currentProperty.d escription</code> は、現在のプロパティの説明を返します
<b>IsValueAllowed</b> (ノード・データ型のプロパティのみ)	ノード・データ型のプロパティについて、指定された値が、割り当てられたノード・セットおよび許可されたノード・タイプに存在するかどうかを確認するメソッド。	チェックするノード名	<code>if currentProperty.i sValueAllowed("10 0"), return "100"</code> は、現在のプロパティについて値 <b>100</b> が許可されている場合にのみ、その値を返します
<b>名前</b>	式の現在のプロパティの名前を返す属性	なし	<code>if currentProperty.n ame.startsWith("E DM")</code> は、現在のプロパティの名前が <b>EDM</b> で始まる場合に式の残りを実行します。

## 日付およびタイムスタンプ

日付データ型には日付値が含まれ、タイムスタンプ・データ型には日時値が含まれます。日付およびタイムスタンプ・メソッドはブール値に評価される必要があります。次のメソッドを日付またはタイムスタンプ・データ型に追加できます。

- `after`: 日付またはタイムスタンプの値が、指定された時点より後の場合は **True** を返します
- `afterOrEqual`: 日付またはタイムスタンプの値が、指定された時点以降の場合は **True** を返します
- `before`: 日付またはタイムスタンプの値が、指定された時点より前の場合は **True** を返します
- `beforeOrEqual`: 日付またはタイムスタンプの値が、指定された時点以前の場合は **True** を返します
- `equals`: 日付またはタイムスタンプの値が、指定された時点と等しい場合は **True** を返します
- `isNull`: 日付またはタイムスタンプの値が **null** 値の場合は **True** を返します
- `minus`: 指定された期間を差し引いた日付を返します。差し引く期間の長ささと単位(日、週、月、年)を指定する必要があります。
- `plus`: 指定された期間を加えた日付を返します。加える期間の長ささと単位(日、週、月、年)を指定する必要があります。
- `toDate` (タイムスタンプ・データ型のみ): 時間の部分を切り捨てて、タイムスタンプを日付に変換します。

日付データ型の場合は、`format` メソッドを追加して、日付をフォーマットされた文字列データ型に変換することもできます。たとえば、



`node.properties.EBS.StartDate.format(MM/dd/yyyy)` は、開始日をフォーマットされた文字列に変換します。日時フォーマットについては、[日付と時刻のフォーマット用記号](#)を参照してください。

#### Note:

リテラル値を日付またはタイムスタンプ値として式に入力することはできません。たとえば、`node.properties.startDate before node.properties.endDate` のカスタム検証は作成できますが、`node.properties.startDate before "01-01-2019"` に対しては作成できません。

## ディメンションおよびノード・タイプ

ディメンションとノード・タイプの両方のデータ型では、選択できる属性は `name` のみです。

## 整数および浮動小数点

整数は自然数であり、浮動小数点値(浮動小数点)は小数点以下の桁がある数です。次のメソッドを整数および浮動小数点データ型に追加できます。

- `add`
- `divide`
- `equals`
- `greaterThan`
- `greaterThanOrEqual`
- `lessThan`
- `lessThanOrEqual`
- `isNull`
- `multiply`
- `modulo` (整数のみ): ある整数を別の整数で割ったときの余りを返します。
- `subtract`
- `toString`: 整数値または浮動小数点値を文字列値に変換します。

整数および浮動小数点データ型にはリテラル値を追加できます。[リテラル値の操作](#)を参照してください。

## 整数リストおよび浮動小数点リスト

`toIntegerList` または `toFloatList` メソッドを使用して、ノード・リストの各ノードから整数または浮動小数点値を返します。

次のメソッドを整数および浮動小数点リストに追加できます。

- `Average`: 整数または浮動小数点リストの各数値から平均を計算します
- `Sum`: 整数または浮動小数点リストの各数値から数値を合計します。

- Size: 整数または浮動小数点リストの浮動小数点値の数

## リストおよび文字列リスト

リスト・データ型には一連の文字列が含まれます。文字列リスト・オブジェクトを使用すると、toStringList メソッドを使用してノード・リストを文字列のリストに変換するか、split メソッドを使用して文字列を文字列リストに分割することで、リスト・データ型プロパティから返される値のリストを選択できます。

リスト・データ型プロパティまたは文字列リスト・オブジェクトを追加した後、次のメソッドを追加できます。メソッドを追加した後、ブール値に評価されるそのメソッドの条件を指定する必要があります。

メソッド	説明	パラメータ	例
Any	文字列リストのいずれかの文字列が指定した条件と一致する場合は <b>True</b> を返します	文字列リスト・オブジェクトを評価する条件	node.properties.PLN.UDA (Account).any.stringItem.matches("UDA")) は、文字列リストのいずれかの文字列が UDA と一致する場合に <b>True</b> を返します。
Count	指定した条件と一致するリストの文字列数を返します	文字列リスト・オブジェクトを評価する条件	node.properties.PLN.UDA (Account).count.stringItem.greaterThan("ABC")) は、値が ABC より大きい文字列リストの文字列数を返します。
Find	指定した条件と一致する文字列リストの最初の文字列を返します	文字列リスト・オブジェクトを評価する条件	node.properties.PLN.UDA (Account).find.stringItem.equals("Expense")) は、名前が Expense と等しい選択されたノードの文字列リストで、最初の文字列を返します。
Get	指定されたインデックスの文字列リストの文字列を返します	文字列を返すインデックス <b>ノート:</b> 正のインデックス番号(またはゼロ)は、最初のインデックスから最後に向かって数え、最初のインデックスはゼロです。負のインデックス番号は、最後から最初に向かって数えます。	node.properties.PLN.UDA (Account).get(0) は、PLN.UDA (Account)文字列リストの最初の文字列を返します。
IndexOf	文字列リスト内の指定された文字列の位置を返します。 <b>ノート:</b> 指定された文字列が見つからない場合は -1 を返します。	位置を返す指定の文字列。	node.ancestors[name].toStringList.indexOf(Texas) は、ノードの祖先名の文字列リストに指定されている文字列 Texas の開始位置を返します。

メソッド	説明	パラメータ	例
Intersect	指定された両方のリストに存在する共通の値を返します。	共通の値を最初の文字列リストと比較している 2 番目の文字列リスト。	<code>node.ancestors[name].toStringList.intersect(node.properties.UDA)</code> は、ノードの祖先名のリストと <code>node.properties.UDA</code> 文字列リストの両方に存在する共通の値を返します。
IsEmpty	プロパティに <code>null</code> 値または空の文字列が含まれている場合は <code>True</code> を返します。	なし	<code>node.properties.PLN.UDA (Account).IsEmpty</code> は、 <code>PLN.UDA (Account)</code> 文字列リストの値が <code>null</code> または空の場合に <code>True</code> を返します。
isNull	プロパティに <code>null</code> 値が含まれている場合は <code>True</code> を返します。 ノート: isNull メソッドは、リスト・データ型のプロパティにのみ使用できます。 <code>toStringList</code> または <code>Split</code> メソッドからの文字列リストには、 <code>isNull</code> を使用できません。	なし	<code>node.properties.PLN.UDA (Account).isNull</code> は、 <code>PLN.UDA (Account)</code> 文字列リストの値が <code>null</code> の場合に <code>True</code> を返します。
Join	指定された区切り文字を使用して、リストの文字列値を区切り文字列に連結します	各文字列を区切る区切り文字	<code>return.node.properties.PLN.UDA (Account).join(" ")</code> は、 <code>PLN.UDA (Account)</code> 文字列リストのすべての文字列を連結して <code>" "</code> で区切った文字列を返します。
Reverse	文字列リストの値を逆の順序で返します。	なし	<code>node.ancestors[name].toStringList.reverse</code> は、ノードの祖先名のリストを逆の順序で返します。
Size	文字列リストの文字列数を返します ノート: <code>Size</code> メソッドは、述語条件を必要としないという点で、 <code>Count</code> とは異なります。	なし	<code>return.node.properties.PLN.UDA (Account).size</code> は、 <code>PLN.UDA (Account)</code> 文字列リストの文字列数を文字列値として返します。

## LookupSets

LookupSets を使用すると、キーを値に関連付けて入力値を出力値に変換できます。LookupSet オブジェクトを選択した場合、選択できる属性は参照セットの名前のみです。参照セットの名前を選択した後、`find` メソッドを選択して、式で検索するキーと値のペアを検索できます。

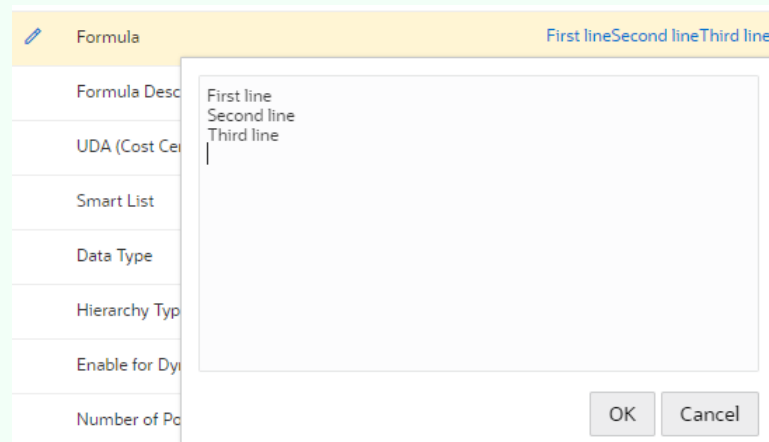
[参照セットの操作](#)を参照してください。

## メモ

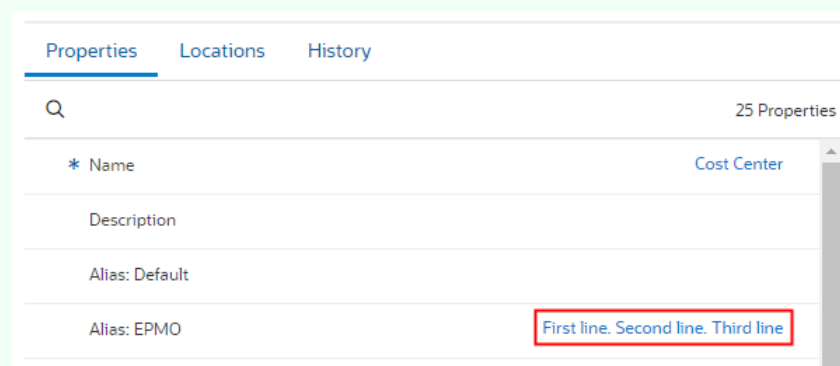
Memo オブジェクトは、改行やタブ文字などのフォーマットおよび空白文字を使用できる大きい文字列です。String データ型と同じメソッドと属性を使用します。[文字列](#)、[数値文字列](#)および[シーケンス](#)を参照してください。

### 💡 Tip:

matches や replace など、**Java** 正規表現を使用するメソッドの場合は、メモ・フィールドのフォーマット文字を識別するための正規表現を作成できます。たとえば、`return node.properties.PLN.Formula.replace("\R", ".")` は、**PLN.Formula** プロパティの行区切り文字をピリオドとそれに続くスペースに置換します。変換前:



変更後:



## ノード

派生プロパティ式で node オブジェクトを選択するか、プロパティ変換式で sourceNode オブジェクトを選択した場合は、ノード・オブジェクトのデータ型に応じてノード属性を選択できます。

- **Actions:** 要求内のノードの要求アクション・オブジェクトのリストを返します。Actions コレクションでは、次のメソッドおよび属性を使用できます:
  - Any
  - Count
  - Filter
  - Find
  - Get
  - IsEmpty
  - Size

Any、Count、Filter、Find および Get については、**Action** オブジェクトは次の属性とともに使用できます:

- CreatedBy
  - ModifiedBy
  - PropertyName
  - Type (IsAdd や IsDelete などのアクション・タイプを指定します)。
  - ViewpointName
- **AllAncestors:** ノード・セット内のすべてのノードの場所から結合されたすべての祖先ノード・オブジェクト。属性については、[ノード・リスト](#)を参照してください。
  - **Ancestors:** ノード・セット内のノード・インスタンスの祖先ノード・オブジェクト。属性については、[ノード・リスト](#)を参照してください。
  - **BoundAncestors:** 階層セットのバインドされたビューポイントで、バインドされたビューポイントのノードの祖先ノードのリストを返します。ノード・タイプのバインドされたビューポイントまたはバインドされていないビューポイントで、ノード・インスタンスの祖先ノード・オブジェクトを返します(**Ancestors** の使用時と同じ結果)。属性については、[ノード・リスト](#)を参照してください。
  - **BoundLocations:** 階層セットのバインドされたビューポイントで、バインドされたビューポイントのノードの場所のリストを返します。ノード・タイプのバインドされたビューポイントまたはバインドされていないビューポイントで、ノードの場所を返します(**Locations** の使用時と同じ結果)。**オプション:** 「**暗黙的共有の除外**」を有効にして、バインドされた場所の戻りリストを、一意の親の下にあるノード・インスタンスのみにフィルタします。属性については、[ノード・リスト](#)を参照してください。

 **Tip:**

**Ancestors** および **Locations** のバインドされたバージョンを使用すると、メンテナンス・ビューポイントでの式の使用時に、バインドされたビューポイントのすべてのスコープにアクセスできます。

- **Children:** ノードの子ノード・オブジェクト。属性については、[ノード・リスト](#)を参照してください。
- **CompareTo:** 2つのノードの場所をこれらのオプションを使用して比較します:
  - **SAME\_LOCATION:** ノードの場所は、指定されたノードの場所と同じです

- SAME\_PARENT\_AND\_NODE: ノードの場所に、指定されたノードの場所と同じ親があります
- SUBSET\_LOCATION: ノードの場所に、指定されたノードの場所と同じ連続する祖先のセットがあります

 **Tip:**

これにより、ノードの場所の比較に基づいて異なる結果を返す式を作成できます。たとえば、特定のノードが階層内の最初の場所であるかどうか、および他のノードの場所と親または祖先を共有するかどうかに基づいて、データ・ストレージ・プロパティの値を格納または共有として導出できます。

- **Dimension:** ノード・ディメンション。name 属性を選択できます。
- **HierarchySet:** ビューポイントのノードの階層セットを識別します。階層セットには、name 属性を選択できます。
- **Locations:** ノードの場所(ノード・インスタンスを含めることができます)。
  - **オプション: 「暗黙的共有の除外」** を有効にして、場所の戻りリストを、一意の親の下にあるノード・インスタンスのみにフィルタします。
  - **オプション: 「ソート」** を有効にして、階層ビューポイントに表示される順序で場所を返します。これにより、階層順序に基づく共有ノードのビジネス・ロジックを実装できます。たとえば、最初のメンバー・インスタンスに格納値を割り当て、階層の他のメンバー・インスタンスに共有値を割り当てる、**Planning** ディメンションの派生データ・ストレージ・プロパティを作成できます。

属性については、[ノード・リスト](#)を参照してください。

- **Name:** ノード名。属性については、[文字列](#)、[数値文字列](#)および[シーケンス](#)を参照してください。
- **NextSibling:** 階層内でノードの後にあるノードの兄弟。これが最後のノードである場合、NextSibling 属性は Null を返します。次のパラメータを追加できます:
  - dimension
  - name
  - nodeType
  - properties
- **NodeSet** (計算および格納された親プロパティ式でのみ使用可能): ノードのノード・セット。ノード・セットには、name 属性を選択できます。
- **NodeType:**。ノードのノード・タイプ。ノード・タイプには、name 属性を選択できます。
- **Parent:** ノードの親。親にはノード・データ型もあります。つまり、親のディメンションやノード・タイプなど、他のノード属性を選択できます。ただし、親の親を選択することはできません。
- **PreviousSibling:** 階層内でノードの前にあるノードの兄弟。これが前に兄弟のない最初のノードである場合、PreviousSibling 属性は Null を返します。次のパラメータを追加できます:

- dimension
  - name
  - nodeType
  - properties
- **Properties:** ノードのプロパティ。属性については、[プロパティ](#)を参照してください。
  - **Siblings。** ノード・インスタンスの兄弟ノード・オブジェクト。属性については、[ノード・リスト](#)を参照してください。

## ノード・データ型プロパティ

式にノード・データ型プロパティを追加すると、プロパティ変換の実行、プロパティ値の導出、カスタム検証の適用、サブスクリプション要求のフィルタリング、承認または通知ポリシーのフィルタリング、またはデータ型がノードのプロパティを使用した抽出のフィルタリングを実行できます。プロパティで参照されているノードの次の属性を選択できます。



### Note:

ノード・データ型プロパティで参照されているノードは、現在のデータ・チェーンの外にある可能性があります。

- **Description:** プロパティで参照されているノードの説明
- **Dimension:** プロパティで参照されているノードのディメンション
- **IsNull:** プロパティが null の場合は True を返します
- **Locations:** 関連するノード・セット内のノードの場所のリストを返します。リストにはノード・インスタンスが含まれています。ノードの場所の次の属性にアクセスできます:
  - 名前
  - ディメンション
  - ノード・タイプ
  - 親
  - ノード、関係および継承プロパティ
- **Name:** プロパティで参照されているノードの名前
- **NodeType:** プロパティで参照されているノードのノード・タイプ
- **Properties:** プロパティで参照されているノードの定義または導出されたノード・レベル・プロパティ

## ノード・リスト

ノード・リスト・オブジェクトを使用すると、式でノード関係を選択できます。たとえば、node オブジェクトを式に追加した後、children オブジェクトを追加して式をさらに絞り込むことができます。

ノード・リスト・オブジェクトを追加した後、次のメソッドをそのオブジェクトに追加できます。メソッドを追加した後、そのメソッドの条件を指定する必要があります(メソッドに応

じて、これはブール値に評価できる値になるか、toFloatList、toIntegerList および toStringList メソッドのリストの各ノードに対して返される浮動小数点、整数または文字列値になります)。

メソッド	説明	パラメータ	例
Any	ノード・リストのいずれかのノードが指定した条件と一致する場合、True を返します。	ノード・リスト・オブジェクトが評価される条件。	選択したノードのいずれかの子の勘定科目タイプが「費用」の場合、any.childNode.properties.AccountType.equals(Expense) は True を返します。
Count	指定した条件と一致するノード・リストのノード数を返します。	ノード・リスト・オブジェクトが評価される条件。	count.childNode.properties.SourcePlanType.equals(Plan1) は、選択したノードのソース・プラン・タイプが"Plan1"である子の数を返します。
Filter	指定した条件と一致するノードのリストを返します。	フィルタの条件(ブール値を返す必要があります)。	ancestors.filter(ancestorNode.properties.Level.lessThan(4)) は、最初の 3 つのレベルにある祖先ノードのリストを返します。
Find	指定した条件と一致するノード・リストの最初のノードを返します。	ノード・リスト・オブジェクトが評価される条件。	find.childNode.properties.Name.startsWith(A_) は、選択したノードの名前が文字"A_"で開始する最初の子を返します
Get	指定されたインデックスのノードのリストのノードを返します	取得するノードのインデックス(リスト内の位置)。指定する位置は整数値である必要があります。正のインデックス番号(またはゼロ)は、最初のインデックスから最後に向かって数え、最初のインデックスはゼロです。負のインデックス番号は、最後から最初に向かって数えます。	node.children.get(0) は、ノードの最初の子ノードを取得します
isEmpty	ノード・リストが null または空の場合に True を返します。	なし	node.properties.PLN.UDA(Account).IsEmpty は、PLN.UDA(Account)文字列リストの値が null または空の場合に True を返します。



メソッド	説明	パラメータ	例
Max	指定したデータ型の最大値を持つ 1 つのノードを返します。 リスト内の複数のノードが最大値を持つ場合は、最初のノードが返されます。	リスト内のどのノードが最大値を持つかを決定するために評価される値。 値に使用できるデータ型は、文字列、整数、浮動小数点、日付、タイムスタンプまたはブールです。	<code>node.children.max.</code> ( <code>childNodes.name</code> ) は、データ型に基づいて最大の子の名前を返します。たとえば、子のノード名が整数の場合は、最大の数値が返されます。
Min	指定したデータ型の最小値を持つ 1 つのノードを返します。 リスト内の複数のノードが最小値を持つ場合は、最初のノードが返されます。	リスト内のどのノードが最小値を持つかを決定するために評価される値。 値に使用できるデータ型は、文字列、整数、浮動小数点、日付、タイムスタンプまたはブールです。	<code>node.children.min.</code> ( <code>childNodes.properties.Salary</code> ) は、従業員階層で給与が最も低い、マネージャの部下を返します。
Reverse	ノード・リストの値を逆の順序で返します。	なし	<code>node.ancestors.reverse</code> は、ノードの祖先のリストを逆(下から上)の順序で返します。
Size	ノード・リストのノード数を返します。 <b>ノート:</b> <code>Size</code> メソッドは、述語条件を必要としないという点で、 <code>Count</code> とは異なります。	なし	<code>return</code> <code>node.children.size.toString</code> は、ノードの子の数を文字列値として返します。
<code>toFloatList</code>	ノード・リストの各ノードから浮動小数点値を返します メソッドについては、 <a href="#">整数リストおよび浮動小数点リスト</a> を参照してください。	なし	<code>return</code> <code>node.children.toFloatList(childNode.properties.Ownership%).sum</code> は、ノードのすべての子の出資比率パーセントの合計を返します。
<code>toIntegerList</code>	ノード・リストの各ノードから整数値を返します メソッドについては、 <a href="#">整数リストおよび浮動小数点リスト</a> を参照してください。	なし	<code>return</code> <code>node.children.toIntegerList(childNode.properties.Employees).size</code> は、すべての子ノードの従業員数を返します。
<code>toStringList</code>	ノード・リストの各ノードから文字列値を返します 文字列リストに追加できるメソッドについては、 <a href="#">リストおよび文字列リスト</a> を参照してください。	なし	<code>return</code> <code>node.ancestors.toStringList(ancestorNode.name).join(" ")</code> は、ノードの祖先の文字列リストを " " で区切って返します。

## 演算子

AND や OR などの演算子は、式で論理比較を実行します。演算子には not メソッドを選択できます。

## プロパティ

プロパティ・データ型を使用すると、ノードのプロパティを選択できます。プロパティ変換の場合は、ソース・ノードのノード・タイプがわかっているため、そのノード・タイプのプロパティのみが表示されます。ただし、派生プロパティのプロパティを表示する場合は、ノード・タイプが不明なため、アプリケーションに有効なすべてのプロパティが表示されます。

選択したプロパティのデータ型によって、式でのプロパティの使用方法が決まります：

- 式では任意のデータ型のプロパティを参照できます。
- メモおよびタイムスタンプを除く任意のデータ型のプロパティは、値を導出または変換できます。

プロパティを選択した後は、そのプロパティのデータ型によって、そのプロパティに対して選択できるメソッドと属性が決まります。たとえば、name プロパティは文字列で、文字列のメソッドと属性を選択できます。Custom.Allow Posting プロパティはboolであるため、選択できるのは not メソッドのみです。

parent、ancestors、allAncestors、boundAncestors、boundLocations および locations の派生プロパティを参照する式を作成できます。式でこれらのいずれかの項を選択すると、その項で参照できるプロパティのリストには、アプリケーションまたはノード・タイプの派生値を持つプロパティが含まれます(現在のプロパティは parent のみのリストに含まれます)。派生プロパティを参照してください。

children、previousSibling、nextSibling または siblings の派生プロパティは参照できません。

プロパティの値を計算する際、children または siblings など、ノード・コレクション内の同じプロパティの値は参照できません。

### Note:

式ビルダーでは、循環参照が含まれる式は作成できません(たとえば、プロパティ A がプロパティ B に基づいており、プロパティ B を派生させる式がプロパティ A を参照する場合など)。循環参照が検出された場合は、式の項が赤色で囲まれ、問題を示す検証メッセージが表示されます。

## 要求

要求オブジェクト・データ型を使用すると、サブスクリプション・フィルタ、承認ポリシー、通知ポリシーおよびカスタム検証で要求の属性にアクセスできます。メソッドを追加した後、bool値を返す属性およびパラメータを追加します。

要求属性	説明	返されるオブジェクトの属性
attachments	要求の添付のリスト	添付のリスト: <ul style="list-style-type: none"> <li>any</li> <li>count</li> <li>find</li> <li>get</li> <li>isEmpty</li> <li>size</li> </ul> 添付オブジェクト: 次の要求の添付およびコメント・オブジェクトの属性表を参照してください。
comments	要求レベルのコメントのリスト	コメントのリスト: <ul style="list-style-type: none"> <li>any</li> <li>count</li> <li>find</li> <li>get</li> <li>isEmpty</li> <li>size</li> </ul> コメント・オブジェクト: 次の要求の添付およびコメント・オブジェクトの属性表を参照してください。
createdBy	要求を作成したユーザーまたはグループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>isMemberOf パラメータ: チェックするユーザーまたはグループの名前</li> <li>username</li> </ul>
description	要求の説明	文字列、数値文字列およびシーケンスのメソッドまたは属性を参照してください。
isNull	要求コンテキストが <b>null</b> の場合は <b>True</b> を返します。	ブールのメソッドまたは属性を参照してください。
owner	要求ステージに応じて割当者または送信者	<ul style="list-style-type: none"> <li>isMemberOf パラメータ: チェックするユーザーまたはグループの名前</li> <li>username</li> </ul>
stage	要求ステージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>isApprove</li> <li>isClosed</li> <li>isCommit</li> <li>isSubmit</li> </ul>
status	要求ステータス	<ul style="list-style-type: none"> <li>isCompleted</li> <li>isDraft</li> <li>isInFlight</li> <li>isPushedBack</li> <li>isRejected</li> </ul>

要求属性	説明	返されるオブジェクトの属性
title	要求のタイトル	文字列、数値文字列およびシーケンスのメソッドまたは属性を参照してください。
type	要求タイプ	<ul style="list-style-type: none"> <li>isConsolidation</li> <li>isImport</li> <li>isInteractive</li> <li>isLoad</li> <li>isSubscription</li> </ul>

要求の添付およびコメント・オブジェクトについては、次の属性を使用できます。

**Table 23-1 要求の添付およびコメント・オブジェクトの属性**

オブジェクトの属性	説明	返されるオブジェクトの属性
<b>添付オブジェクト</b>		
name	添付ファイルの名前	文字列、数値文字列およびシーケンスのメソッドまたは属性を参照してください。
fileOrigin	添付ファイルの発生元(システムまたはユーザー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>isSystem (要求ロード・ファイル)</li> <li>isUser (要求の添付)</li> </ul>
createdBy	添付を作成したユーザーまたはグループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>isMemberOf パラメータ: チェックするユーザーまたはグループの名前</li> <li>username</li> </ul>
<b>コメント・オブジェクト</b>		
value	コメントの内容(HTML 形式)。たとえば、テキスト "Approved"のコメントの場合、コメント値オブジェクトには" <p>Approved</p> "が含まれます	文字列、数値文字列およびシーケンスのメソッドまたは属性を参照してください。
createdBy	コメントを作成したユーザーまたはグループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>isMemberOf パラメータ: チェックするユーザーまたはグループの名前</li> <li>username</li> </ul>

## 文字列、数値文字列およびシーケンス




式の文字列には、フィールド(プロパティ名、説明など)とリテラル値があります。式で文字列を選択すると、その文字列に対して選択できる複数のメソッドおよび属性があります。たとえば、ノードの名前と説明を連結し、結果の文字列を「別名」プロパティに使用したり、**substring** メソッドを使用してソース文字列の一部のみを返すようにできます。


数値文字列およびシーケンス・データ型は、数値のみ(0-9)をサポートする文字列です。これらは 40 文字までに制限されます。



文字列データ型にリテラル値を追加できます。[リテラル値の操作](#)を参照してください。



大半の文字列メソッドでは、追加のパラメータを入力する必要があります。そのメソッドを選択すると、それらのパラメータの新しい式の項が式ビルダーで作成されます。たとえば、concat メソッドを選択すると、追加する文字列を指定するための追加の式の項が 1 つ追加されます。replace メソッドを選択すると、検索するテキストと置換するテキストを指定するための追加の式の項が 2 つ追加されます。

次の表に、式ビルダーで文字列値の操作に使用できるメソッドと属性、およびそれらのフィールドのパラメータを示します。


メソッドまたは属性	使用方法	パラメータ
Concat	<p>2 つ以上の文字列フィールドを連結(または追加)し、組み合された文字列を結果として返します。</p> <div style="border-left: 2px solid #0070C0; border-right: 2px solid #0070C0; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p> <b>Note:</b></p> <p>1 つの concat 文に複数の文字列を追加できます。連結する複数の文字列がある場合は、式の項で  をクリックし、<b>上に挿入</b>または<b>「除去」</b>を選択して、そのフィールドを移動または除去できます。</p> </div>	追加する文字列
endsWith	<p>元の文字列が指定した文字列で終了する場合、True を返します。</p> <div style="border-left: 2px solid #0070C0; border-right: 2px solid #0070C0; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p> <b>Note:</b></p> <p>指定する文字列は大文字と小文字が区別されます。</p> </div>	元の文字列がそれで終了しているかどうかを確認するために指定した文字列です。
equals	<p>文字列が指定した文字列と等しい場合、True を返します。</p>	元の文字列がそれと等しいかどうかを確認するために指定した文字列です。

メソッドまたは属性	使用方法	パラメータ
greaterThan	文字列値が指定した値より大きい場合は True を返します(両方が同じデータ型である必要があります)。	元の文字列がそれより大きいかどうかを確認するために指定した文字列です。
greaterThanOrEqualTo	文字列値が指定した値以上の場合は True を返します(両方が同じデータ型である必要があります)。	元の文字列がそれ以上であるかどうかを確認するために指定した文字列です。
indexOf	元の文字列内での指定された文字列の開始位置を返します。  <div style="border: 1px solid #0070c0; padding: 10px; background-color: #e6f2ff;"> <p> <b>Note:</b></p> <p>indexOf メソッドは整数を返しますが、整数を戻り値として直接使用することはできません。この整数を使用して、部分文字列の開始位置を判断できます。<a href="#">整数および浮動小数点</a>を参照してください。</p> </div>	開始位置を検索する文字列
isEmpty	プロパティに null 値または空の文字列が含まれている場合は True を返します。	パラメータ不要
isNull	文字列プロパティに null 値が含まれている場合は True を返します	パラメータ不要
length	文字列内の文字数を数えます length 属性は整数です。 <a href="#">整数および浮動小数点</a> を参照してください。	パラメータ不要
lessThan	文字列値が指定した値未満の場合は True を返します(両方が同じデータ型である必要があります)。	元の文字列がそれより小さいかどうかを確認するために指定した文字列です。
lessThanOrEqualTo	文字列値が指定した値以下の場合は True を返します(両方が同じデータ型である必要があります)。	元の文字列がそれ以下であるかどうかを確認するために指定した文字列です。

メソッドまたは属性	使用方法	パラメータ
matches	<p>文字列が指定した <b>Java</b> 正規表現と一致する場合、True を返します。</p> <div style="border-left: 2px solid green; border-right: 2px solid green; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p> <b>Tip:</b></p> <p>正規表現は、標準化構文規則を使用して文字列データで検索するパターンを指定します。正規表現(<i>regex</i>)は、複雑なパターンの文字の並びを指定できます。</p> <p>たとえば、次の正規表現: <code>a(b c)d</code> は、<code>a</code>、その後に <code>b</code> または <code>c</code>、その後に <code>d</code> が続くパターンを検索します。この正規表現は、<code>abd</code> および <code>acd</code> の両方と一致します。</p> </div>	<p>元の文字列が一致するかどうかを確認するために指定した <b>Java</b> 正規表現です。</p> <div style="border-left: 2px solid blue; border-right: 2px solid blue; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p> <b>Note:</b></p> <p><b>Java</b> 正規表現は文字列に対して、部分一致ではなく完全一致を実行します。したがって、アプリケーション名で <code>Corporate</code> を検索すると、<code>Corporate Planning</code> という名前のアプリケーションは一致しません。文字列の前後にワイルドカードを使用して、部分一致を検索します。たとえば、<code>*Corporate*</code> は、<code>Corporate Planning</code> と一致します。</p> </div>
orElse	<p>前の式の項に <b>null</b> 値がある場合は、指定された値を返します。</p>	<p>前の式の項が <b>null</b> の場合に返される値です。</p> <p>たとえば、<code>return node.properties.Core.Description.orElse('Default Descr')</code> は、ノードの <b>Core.Description</b> プロパティが <b>null</b> の場合に <code>"Default Descr"</code> を返します。</p>

メソッドまたは属性	使用方法	パラメータ
replace	古い文字列のすべてのインスタンスを新しい文字列で置換します	<ul style="list-style-type: none"> <li>検索する元の文字列</li> </ul> <div style="border-left: 2px solid #0070C0; border-right: 2px solid #0070C0; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p> <b>Note:</b></p> <p>Java 正規表現を使用して、検索する文字列パターンを識別できます。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>元の文字列を置換する文字列</li> </ul>
split	指定された区切り文字に基づいて、文字列を文字列のリストに分割します。	<p>文字列を分割する区切り文字</p> <p><b>空白を含む:</b> 結果の文字列リストにリスト・アイテムとして空白値を含めるかどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>True: 結果の文字列リストに空白値を含めることができます。</li> <li>False (デフォルト): 空白値は結果の文字列リストから除外されます。</li> </ul> <p>たとえば、文字列 A//C の場合、「<b>空白を含む</b>」が有効になっていると、文字列リストのエントリは、A、(空白値)、C の 3 つになります。無効になっていると、文字列リストのエントリは、A と C の 2 つになります。</p>
startsWith	元の文字列が指定した文字列で開始する場合、True を返します。	<p>元の文字列がそれで開始しているかどうかを確認するために指定した文字列です。</p> <div style="border-left: 2px solid #0070C0; border-right: 2px solid #0070C0; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p> <b>Note:</b></p> <p>指定する文字列は大文字と小文字が区別されます。</p> </div>
substring	文字列の一部を返します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>開始位置</li> <li>返す文字数</li> </ul>
toDate	文字列値を日付値に変換します	日付フォーマット(MM/dd/yyyy など)。日時フォーマットについては、 <a href="#">日付と時刻のフォーマット用記号</a> を参照してください。
toFloat	文字列値を浮動小数点値に変換します	パラメータ不要
toInteger	文字列値を整数値に変換します。	パラメータ不要
toLowerCase	すべて小文字の文字列を返します。	パラメータ不要
toUpperCase	すべて大文字の文字列を返します。	パラメータ不要



メソッドまたは属性	使用方法	パラメータ
trim	先頭と末尾のスペースを除去して文字列を返します。  <div style="border: 1px solid #0070c0; padding: 5px; background-color: #e6f2ff;"> <p> <b>Note:</b></p> <p>Trim はタブや改行などの空白文字も除去します。</p> </div>	パラメータ不要

greaterThan、greaterThanOrEqualTo、lessThan および lessThanOrEqualTo の場合、文字列は最初の文字、次に 2 番目の文字などの順にソートされます。比較する場合、0-9 は A-Z よりも小さくなります。

例:

- A < AA
- AA > B
- 11 < 2
- A > 1

式では、文字列のメソッドと属性を組み合わせることができます。たとえば、次の文字列は、ノードの説明で @ 文字を検索し、その文字以降のすべてを返します。

```
return :: sourceNode . properties . Core.Description . substring (
  :: sourceNode . properties . Core.Description . indexOf (
    :: @
  ) .
  :: sourceNode . properties . Core.Description . length .
)
```

この例では、最初の式の項が substring 式で、開始位置および返す文字数の 2 つのパラメータが必要です。

- 開始位置の式の項に、パラメータが「@」の indexOf メソッドを選択しました。これにより、説明フィールドで @ 記号が検索され、その記号が配置されている場所の整数値が開始位置として返されます。

- 式の項を返す文字数には、length 属性を選択しました。これにより、文字数がどれほど長くても、文字数は完全な文字列の長さに等しいため、@記号の後の完全な値が返されます。

## 式での Null および空白値の使用


式で null および空白値を使用して、If 文の null および空白値を確認したり、null 値と null 以外の値を比較したり、return 文で null または空白値を戻すことができます。

### 考慮事項

- プロパティを変換するとき、null 値を戻すとターゲット・ノードのプロパティが更新されず、空白値を戻すとターゲット・ノード・プロパティが空白値でオーバーライドされます。
- プロパティを導出するとき、null 値を戻すと計算値が null になり、空白値を戻すと計算値が空白になります。
- 2つの null 値を比較した場合、equals メソッドは **True** を返します。null 値と null 以外の値を比較した場合、equals メソッドは **False** を返します。

式の文字列および整数フィールドに null または空白値を挿入できます。デフォルトでは、文字列または整数オブジェクトを式に挿入すると、値は null になります。空白値を挿入する場合、フィールドに任意のテキストを入力し、入力したテキストをクリアします。文字列または整数フィールドに、null ではなく blank が表示されます。

また、null オブジェクトを挿入して、文字列以外のデータ型(整数や浮動小数点など)に対して null 値が返されるのを有効にすることに加えて、式の null 値の簡単な評価を許可できます。

空白値を null にリセットするには、フィールドの横にある  をクリックし、「**文字列**」または「**整数**」を再度選択します。

## 式での参照セットの使用

参照セットを使用すると、式で入力値を出力値に変換できます。たとえば、勘定科目タイプ・プロパティ・フィールドの「A」、「L」および「O」の値を「Asset」、「Liability」および「Owner's Equity」の値に変換する参照セットを作成できます。

[参照セットの操作](#)を参照してください。

式で参照セットを使用するには、使用する参照セットを選択し、「**検索**」を選択した後、参照セットで検索する参照値を指定します。デフォルトでは、参照値が見つからないと、検索値が渡されて返されます。かわりに、null 値を返すようにパス・スルーを無効にできます。

 ヒント:

「パススルーの無効化」と `orElse` 関数を使用して、参照セットに参照値が見つからない場合は指定された値を返します。

たとえば、式 `lookupSets.Account Type.find("A", true).orElse("Not Found")` は、勘定科目タイプ参照セットで "A" の値を検索し、見つからない場合は "Not Found" を返します。

1. パレットから「lookupSet」をエディタの戻りブロックにドラッグします。
2. 参照セットの横にあるドットをクリックし、使用する参照セットを選択します。現在のアプリケーションの参照値が含まれている参照セットのみが表示されます。
3. 名前の横にあるドットをクリックし、「find」を選択します。
4. 「find」文字列にリテラル値を入力するか、ノードのプロパティを参照値として指定します。たとえば、「sourceNode.properties.FCGL Account Type」のようにします。
5. オプション: 「パススルーの無効化」で、True を選択して、参照値が見つからない場合は null 値を返すようにします。

## 日付と時刻のフォーマット用記号


次の表に、抽出オプションの定義、式での `toDate` または `format` メソッドの使用など、Oracle Enterprise Data Management Cloud で日時をフォーマットするときに使用できる日付と時刻のフォーマット用記号を示します。フィールドでは大文字と小文字が区別されることに注意してください。

記号	日付または時刻の構成要素	例
G	紀元	AD
Y	年	1996; 96
Y	年(週単位)	2009; 09
M	月	7月、July、07
w	年間の通算週	27
W	月間の通算週	2
D	年間の通算日	10
d	日	2
E	曜日	火曜日、火
u	曜日番号(1 = 月曜日、7 = 日曜日)	1
a	午前/午後のマーカー	午後
H	時(0-23 時)	0
k	時(1-24 時)	24
K	午前/午後の時間(0-11)	0
h	午前/午後の時間(1-12)	12
m	分	30

記号	日付または時刻の構成要素	例
s	秒	55
S	ミリ秒	978
Z	タイム・ゾーン	太平洋標準時、PST、GMT-08:00
Z	タイム・ゾーン	-800
X	タイム・ゾーン	-08; -0800; -08:00

## リテラル値の操作

リテラル値を使用すると、式に文字列値、ブール値、整数値または浮動小数点値を手動で入力できます。たとえば、リテラル値を使用して、ノードの勘定科目タイプが「Asset」と等しいかどうかを評価できます。

式の項にリテラル値を追加するには、**文字列**、**ブール**、**整数**または**浮動小数点**オブジェクトをパレットからエディタにドラッグするか、 をクリックしてそれらのオブジェクトの 1 つを選択します。

### ノート:


式に null または空白リテラル値を挿入できます。[式での Null および空白値の使用](#)を参照してください。


## 式でのコピーおよび貼付け

式の作成を容易にするために、式で個々の式の項をコピーして貼り付けたり、コンテキスト間で式全体をコピーしたり、式ビルダーの外部(電子メールなど)で他のパーティと式を共有できるように式をテキストとして取得できます。

### 式の項のコピーおよび貼付け

単一の式内で個々の式の項をコピーして貼付けできます。式の項をコピーすると、その項が格納されます。一度に格納できるのは 1 つの式の項のみですが、その式の項を複数回貼り付けることができます。コピーされた式の項はユーザー・セッションの間保持されます。

式の項をコピーするには、式の項を囲む黄色のボックス内で、 をクリックし、「**コピー**」を選択します。

式の項を貼り付けるには、置換する式の項を囲む黄色のボックス内で、 をクリックし、「**貼付け**」を選択します。

式の項を貼り付けると、選択した式の項が格納された項に置き換えられます。貼り付けることができる式の項を作成するために、新規の If または Return 文を挿入する必要がある場合があります。

## 式全体のコピーおよび貼付け


あるコンテキストから式全体をコピーして別のコンテキストに貼付けできます。式をコピーすると、その式が格納されます。一度に格納できるのは 1 つの式のみですが、その式を複数回貼り付けることができます。コピーされた式はユーザー・セッションの間保持されます。

### 考慮事項

- 式を貼り付けると、コピーされた式によって、現在のコンテキストの既存の式全体が置換されます。
- 式を別のコンテキストに貼り付けると、新しいコンテキストでは、コピーされた式の一部のオブジェクトが無効になることがあります。無効なオブジェクトは、次のように有効なオブジェクトに変換されます:
  - プロパティ変換またはサブスクリプション・フィルタからの `SourceNode` は、派生プロパティ、カスタム検証またはポリシー・フィルタに貼り付けるときに `Node` に変換されます。
  - 派生プロパティ、カスタム検証またはポリシー・フィルタからの `Node` は、プロパティ変換またはサブスクリプション・フィルタに貼り付けるときに、`SourceNode` に変換されます。
- ある環境(たとえば、テスト)から式をコピーして別の環境(たとえば、本番)に貼り付けることはできません。
- ソース式の一部のプロパティと参照セットは、貼り付けられたコンテキストでは無効になる場合があります。
- 貼り付けられた式の無効な式の項は、有効な部分に切り捨てられます。たとえば、`node.properties.Custom.SourceProp.concat(-)` は、`node.properties` に切り捨てられます。

式ビルダーで、 をクリックして式をコピーし、 をクリックして貼り付けます。

## 式をテキストとして取得


電子メール、サービス・リクエスト、インスタント・メッセージなどを介して他のパーティと共有するために、式ビルダーで  をクリックして式のテキスト・バージョンをクリップボードにコピーします。



## ファイルからの式の保存およびロード

ある環境から別の環境に式を移行するために、JSON ファイルから式を保存またはロードできます。

### ファイルへの式の保存

式ビルダーの現在の式を JSON ファイルに保存するには、「**ファイルに保存**」をクリックします。

ブラウザのデフォルトのダウンロード場所に式ファイルがダウンロードされます。ファイル名は、エクスポートするオブジェクトのタイプ(たとえば、Derived Property、Policy Filter、Subscription)に、編集しているオブジェクトの名前を追加したものになります。

たとえば、「Approval - Corp Plan」を保存する場合、ファイル名は次のようになります:


```
Policy_Filter_Approval_-_Corp_Plan.json。
```

式をファイルに保存した後、json ビューアで式を確認できます。

### ▲ Caution:

式の json ファイルの手動での作成または編集はサポートされていません。

### ファイルからの式のロード

1. 式ビルダーで、「**ファイルからロード**」をクリックします。
2. 「**ファイルを開く**」ダイアログで、ロードする JSON ファイルを選択し、「**開く**」をクリックします。

### Note:

式ビルダーに式をすでに開いている場合は、既存の式が上書きされます。不明なオブジェクト参照または構文エラーは、式のロード時は省略されます。不完全な式の項は、エラーを示す赤いアウトラインで表示されず。

3. **オプション:** ロードを取り消して現在の式を保持するには、「**取消**」をクリックします。

## 式: 詳細な例

この詳細な例は、式ビルダーを使用してカスタム・ビジネス・ロジックを作成する方法を詳細に示しています。

式ビルダーの詳細は、次のトピックを参照してください。

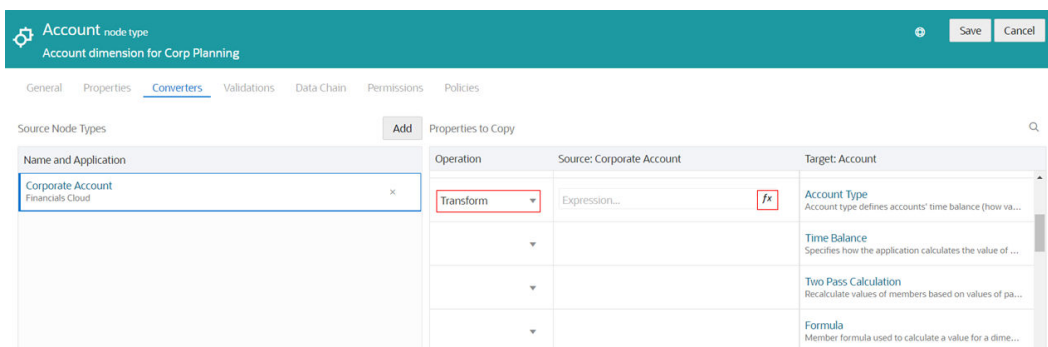
- 式ビルダーの概要
- 式の作成

この例では、Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションの勘定科目ディメンションから Corporate Planning アプリケーションの勘定科目ディメンションに、ノードをドラッグできるようにします。そのために、各アプリケーションのノード・タイプ間で、ノード・タイプ・コンバータを設定しました。(ノード・タイプの変換に関する詳細は、[ノード・タイプ・コンバータの操作](#)を参照してください)。次の式を作成して、Planning アプリケーションの勘定科目タイプ・プロパティを変換します。

Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションの勘定科目タイプが「Asset」(資産)、「Liability」(負債)または「Owner's Equity」(自己資本)の場合は、Corporate Planning アプリケーションの勘定科目タイプ・プロパティを「Expense」(費用)に設定します。他の種類の勘定科目タイプの場合は、Corporate Planning 勘定科目タイプ・プロパティを「Non-Expense」(費用外)にする必要があります。

最初に、設定したノード・タイプ・コンバータでプロパティを確認してみます。

1. 「ノード・タイプ」から、Corporate Planning の「勘定科目」ノード・タイプをクリックし、インスペクタでノード・タイプを開きます。
2. 「コンバータ」タブをクリックします。
3. 「コピーするプロパティ」パネルで、「ターゲット」列の「勘定科目タイプ」プロパティを探します。
4. 「編集」をクリックします。
5. 「操作」列で、ドロップダウン・メニューから「変換」を選択します。
6. 「ソース」列で、「式の定義」  $fx$  (またはテーマに応じて  $dx$ ) をクリックします。



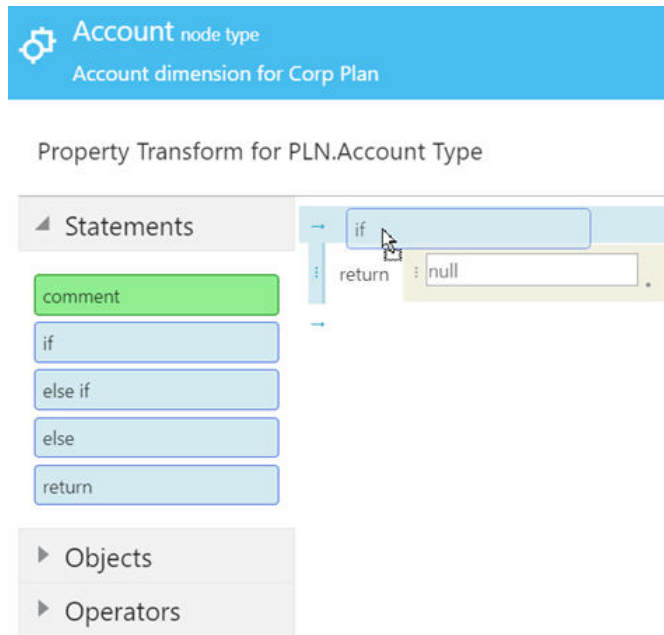
式ビルダーが表示されます。

次に、勘定科目タイプを変換する式を作成します。

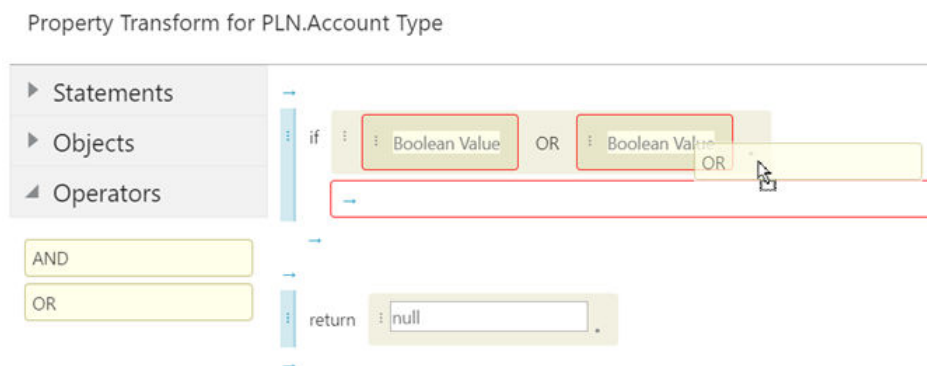
### 式の作成

変換式を作成するには:


1. 「文」のパレットからエディタ上部の青い矢印に IF 文をドラッグします。



2. 「演算子」 から 2 つの **OR** 演算子をエディタの **IF** 条件にドラッグします。

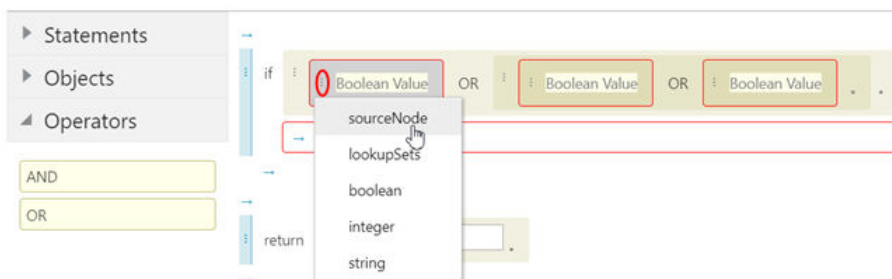


各 **IF** 文と文のブロックの周りに赤いアウトラインが表示されていることに注意してください。これは、それらが有効でないことを意味します。各 **IF** 文には、ブール型であることが期待される条件があり、各文のブロックには **return** 文が含まれていることが期待されます。式ビルダーでは、作成した式がリアルタイムで評価されるため、これらの検証エラーは、式へのフィールドの追加を続行すると解決されます。

3. 最初の **IF** 条件で  をクリックし、ドロップダウン・メニューから「sourceNode」を選択します。

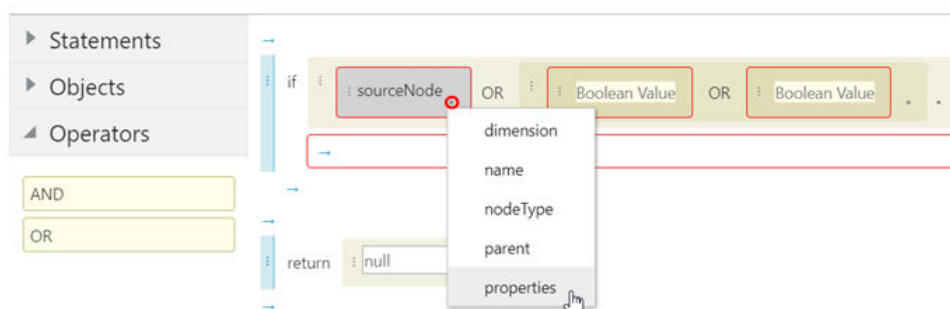


Property Transform for PLN.Account Type



4. 「sourceNode」の横にあるドットをクリックし、ドロップダウン・メニューから「properties」を選択します。

Property Transform for PLN.Account Type

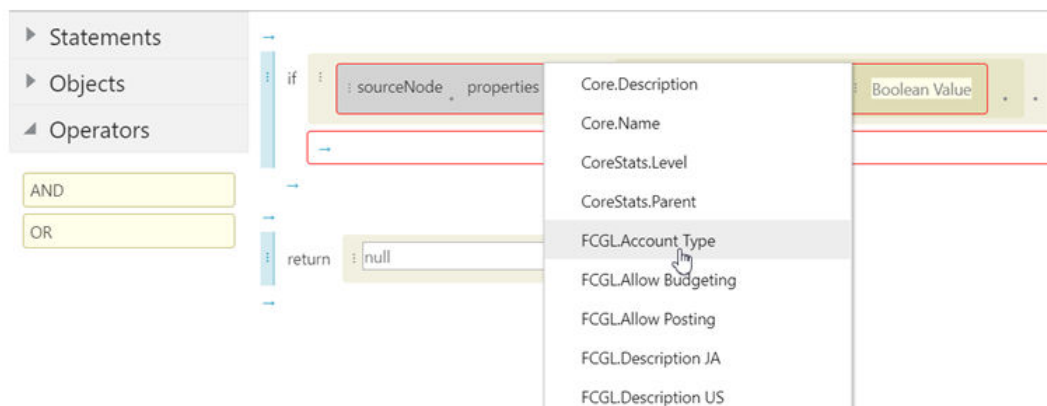



**ノート:**

式のフィールドの横にあるドットをクリックすると、ドロップダウン・メニューには、そのフィールドに適用可能なオブジェクト、メソッドおよび属性のみが表示されます。

5. 「properties」の横にあるドットをクリックし、ドロップダウン・メニューから「FCGL.Account Type」を選択します。

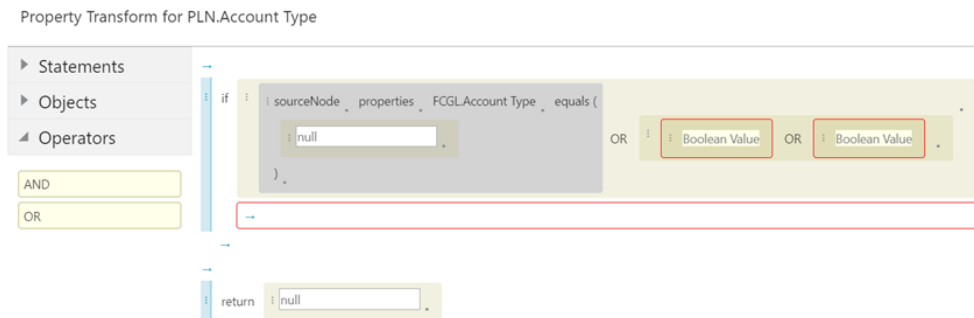
Property Transform for PLN.Account Type



 ノート:

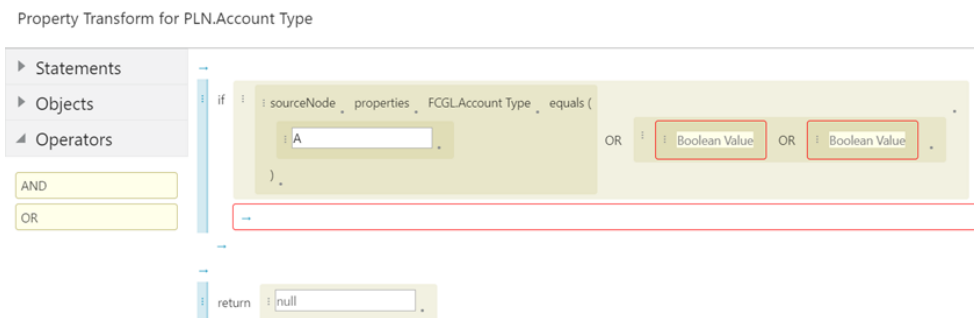
プロパティ変換のプロパティが表示される場合は、ソース・ノードのノード・タイプがわかっているため、そのノード・タイプのプロパティのみが表示されます。ただし、派生プロパティのプロパティを表示する場合は、ノード・タイプが不明なため、アプリケーションに有効なすべてのプロパティが表示されます。

6. 「FCGL.Account Type」の横にあるドットを選択し、ドロップダウン・メニューから「equals」を選択します。

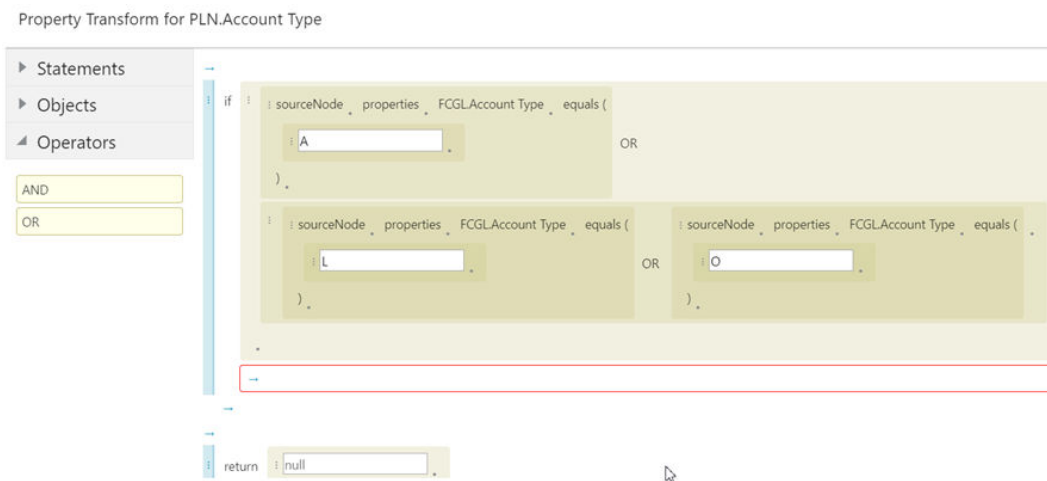


最初の IF 条件に検証の赤い枠線が表示されなくなったことに注意してください。これは、equals 文を追加したことで、条件に必要なブール値が含まれるようになったためです。

7. リテラル・テキスト・フィールドに、「A」(資産)を入力します。

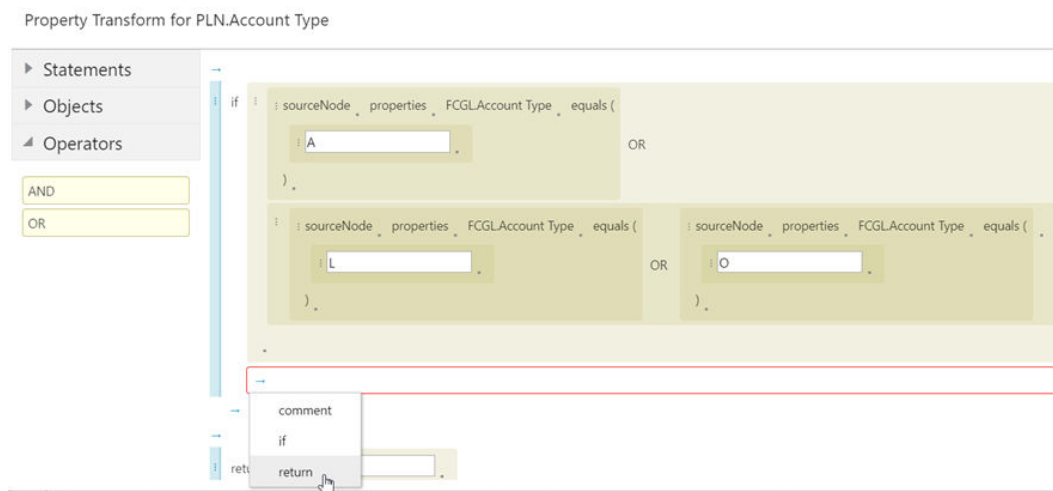


8. ステップ 3-7 を繰り返して、「FCGL.Account Type equals L」(負債)および「FCGL.Account Type equals O」(自己資本)の IF 条件を追加します。



すべての IF 条件にブール値が含まれるようになり、検証の問題を示す赤い枠線が表示されなくなりました。ただし、文のブロックには依然として **return** 文がありません。したがって、検証エラーを示す赤い枠線が引き続き表示されています。

- 文のブロックで → をクリックし、ドロップダウン・メニューから「return」を選択します。



**return** 文を追加すると、文のブロックに検証の赤い枠線が表示されなくなることに注意してください。

- return** ブロックに「Expense」と入力します。

Property Transform for PLN.Account Type

```

if :sourceNode_properties_FCGLAccount Type_equals (
  :A
) OR
:sourceNode_properties_FCGLAccount Type_equals (
  :L
) OR :sourceNode_properties_FCGLAccount Type_equals (
  :O
)
return :Expense

```

11. 下の return ブロックに「Non-Expense」と入力します。

Property Transform for PLN.Account Type

```

:A
) OR
:sourceNode_properties_FCGLAccount Type_equals (
  :L
) OR :sourceNode_properties_FCGLAccount Type_equals (
  :O
)
return :Expense
return :Non-Expense

```

ノート:

最初の IF 文の後に手動で Else If 文を入力する必要はありません。IF 文が True に評価されない場合は、次の文に自動的に進みます。

12. 「適用」をクリックします。  
式ビルダーが閉じて、ノード・タイプ・インスペクタが表示されます。



## 式のテスト

式ビルダーから式をテストして、式ロジックが期待どおりに機能していることを確認できます。

式をテストするときには、現在の式を評価するビューポイントとノードを選択します。カスタム検証、ポリシー・フィルタまたはサブスクリプション・フィルタの式については、現在の式を評価する、「送信」、「承認」または「コミット」ステージのビューの要求を選択することもできます。

ノードを選択したら、「評価」ボタンをクリックして、現在の式のロジックによって計算された、選択したノードの値を返します。

**式をテストするには:**

1. 式ビルダーで、**式のテスト**  をクリックします。  
式のテスト・ドロワーが表示されます。
2. 「**ビューポイント**」で、評価するノードを含むビューポイントを選択します。選択したアプリケーション内にあるか、プロパティについて同じノード・タイプを使用する、少なくとも「**参加者(読取り)**」アクセス権を持っているビューポイントを選択できます。
3. 「**ノード**」で、**ノード・セレクタ**  をクリックし、評価するノードを選択します。  
ノードのプロパティが表示されます。特定のプロパティを検索するには、検索バーを使用します。
4. **オプション**: カスタム検証、ポリシー・フィルタまたはサブスクリプション・フィルタの式については、「**要求**」ドロップダウン・メニューをクリックし、式を評価する要求を選択します。アクセス権を持っている現在のビューの要求の中から、「送信」、「承認」または「コミット」ステージにあるものを選択できます。
5. 「**評価**」をクリックして、選択したノードについて現在の式のロジックを評価します。  
計算された結果が、「**評価**」ボタンの横に表示されます。

## ロールと権限の操作

セキュリティにより、各ユーザーが機能およびデータへの適切なアクセス権を持っていることが保証されます。

### ビデオ

目的	参照するビデオ
Oracle Enterprise Data Management Cloud のセキュリティについて学習します。	 <a href="#">概要: Enterprise Data Management Cloud でのセキュリティの理解パート 1</a>  <a href="#">概要: Enterprise Data Management Cloud でのセキュリティの理解パート 2</a>

2つのレベルのセキュリティがあります。

1. Oracle Fusion Cloud EPM では、ユーザーが作成され、事前定義済ロールが割り当てられます。
2. Oracle Enterprise Data Management Cloud では、ユーザーとグループにアプリケーションのロールと権限が割り当てられます。ユーザーにビューポイントへのアクセス権が与えられた後は、ビューポイント・データ・セキュリティによってノードおよびプロパティに許可されるアクションが制御されます。

アイデンティティ・ドメイン管理者がユーザーを作成すると、セキュリティの最初のレベルが個人用サービスを介して Oracle Fusion Cloud EPM で管理されます。各ユーザーには、事前定義済ロールが割り当てられます。

2つの Oracle Enterprise Data Management Cloud 事前定義済ロールがあります。

- ユーザー  
ユーザー事前定義済ロールを持つユーザーは Oracle Enterprise Data Management Cloud にログインでき、アプリケーション・データを表示および管理するロールと権限が割り当てられます。
- サービス管理者  
サービス管理者事前定義済ロールを持つユーザーは、ほとんどの機能アクティビティを実行でき、次を含むビュー、アプリケーション、データにアクセスできます。
  - Oracle Enterprise Data Management Cloud でのロールのプロビジョニング、およびグループの作成(Oracle Enterprise Performance Management Cloud のアクセス制御の管理のアクセス制御を参照)。
  - テストおよび本番環境間でのアーティファクトの移行(移行の使用を参照)。
  - 日次メンテナンスの実行(Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者のためのスタート・ガイドのメンテナンス・スナップショットの使用を参照)。

ただし、サービス管理者が要求内のデータ・オブジェクトに対する参加者(書込み)権限を持っていない場合は、サービス管理者を要求または要求のサブスクリプションに割当てできません。

ユーザーまたはサービス管理者の事前定義済ロールがない場合、Oracle Enterprise Data Management Cloud にアクセスできず、次のメッセージが表示されます:

"このユーザーに有効なロールがありません。Enterprise Data Management Cloud にログインするには、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management でユーザーまたはサービス管理者の事前定義済ロールが割り当てられている必要があります。ロールが割り当てられるようにシステム管理者に連絡してください。"

### Oracle Enterprise Data Management Cloud でのグループの操作

グループを使用して、アプリケーション、ディメンション、ノード・タイプ、階層セットおよびビューに対する権限を付与できます。Enterprise Data Management には 3 つのタイプのグループが用意されています:

- **PREDEFINED:** これらのグループは、それぞれの事前定義済ロールについて自動的に作成されます。すべてのユーザーが事前定義済ロール(「ユーザー」など)に基づいて事前定義済グループに割り当てられます。
- **EPM:** これらは、「ツール」の「アクセス制御」で作成したグループです。
- **IDCS:** これらは、Oracle Cloud Identity Console で作成したグループです。「アクセス制御」でそれらを表示し、アプリケーション・ロールおよび EPM グループに割り当てることができます。

詳細は、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud のアクセス制御の管理のグループの管理*を参照してください。

## アプリケーションのロールと権限の理解


第 2 レベルのセキュリティは、ユーザーに割り当てられているアプリケーション・ロールとアプリケーション権限の組合せを使用して Oracle Enterprise Data Management Cloud で管理されます。デフォルトでは、サービス管理者は、すべての機能を実行できデータにアクセスできます。アプリケーションのロールおよび権限は必要ありません。

### ビデオ

目的	参照するビデオ
ユーザーおよびグループの設定について学習します。	 <a href="#">ユーザーおよびグループの設定</a>

### アプリケーション役割

アプリケーション役割は、ビューの作成やアプリケーションとディメンションの登録など、ユーザーが実行できる機能を制御します。アプリケーション役割は互換性があり、権限からは独立しています。

 **ノート:**

アクセス制御でユーザーの名前が変更された場合、そのユーザーのすべての参照(承認ポリシー内など)は無効になります。

次のアプリケーション役割を使用できます。

- **アクセス制御 - 管理:** グループの管理、ユーザーへのアプリケーション・ロールの割当て、およびユーザー・セキュリティについてのレポートを実行できます。 *Oracle Enterprise Performance Management Cloud* の *アクセス制御の管理* のアクセス制御を参照してください
- **アプリケーション - 作成:** Oracle Enterprise Data Management Cloud にアプリケーションを登録できます。アプリケーションの登録後、アプリケーションに対する *所有者権限* が割り当てられます。
- **監査:** すべてのアプリケーションでデータに対して行われた変更を表示できます。データに対して変更を加える権限は付与されません。データに対して変更を加える場合は、データ・オブジェクトに対して少なくとも *参加者(書込み)* 権限が付与されている必要があります。 *トランザクション履歴の監査* を参照してください。
- **移行 - 管理:** 移行スナップショットのインポートおよびエクスポート、テンプレートに対するアプリケーションとディメンションのインポートおよびエクスポート、および環境のクローニングを実行できます。 *環境間の移行* を参照してください。
- **ビュー - 作成:** ビューを作成できます。ビューを作成すると、ビューに対する *所有者権限* が割り当てられます。

## 権限

権限は、アプリケーション、ディメンション、データ・チェーン・オブジェクト(ノード・セット、階層セット、ノード・タイプ)およびデータへのアクセスを保護します。次の権限レベルを割り当てできます。

- *所有者*
- *メタデータ・マネージャ*
- *データ・マネージャ*
- *参加者*

 **ノート:**

デフォルトでは、*参加者* 権限により、データ・チェーン・オブジェクトへの *読取り* アクセス権が付与されます。データ・アクセスを構成すると、これらのオブジェクトへの *書込み* アクセス権を付与できます。 *データ・アクセスの構成* を参照してください。

アプリケーション、ディメンション、階層セットおよびノード・タイプの権限を割り当てます。アプリケーションおよびディメンションはすべての権限レベルをサポートし、一方階層セットおよびノード・タイプは *参加者* 権限のみをサポートします。 *権限の操作* を参照してください。



 **ノート:**

また、ビューの所有者権限も割り当てできます。この権限により、ビューを構成し、そのビューの他のユーザーおよびグループに所有者権限を割り当てできます。

### データ・アクセス

参加者権限を持つユーザーに対して、データ・アクセスを使用して、実行できるアクションと、特定のデータ・チェーン・オブジェクトについて表示または編集できるプロパティを指定できます。

データ・アクセスの構成を参照してください。

### ビューポイントのアクションおよびプロパティ

ユーザーへのロールおよび権限の割当ての他に、ユーザーが実行できるアクションおよびビューポイントで更新できるプロパティを指定できます。たとえば、ノードの追加は可能であるか削除はできないユーザー、またはノードの説明を編集できるが名前は編集できないユーザーを指定できます。ビューポイントのこれらの許可されたアクションおよび編集可能なプロパティは、ロールまたは権限に関係なく、すべてのユーザーに対して適用されます。

 **ノート:**

ビューポイントで許可されたアクションおよび編集可能なプロパティを指定するには、ビューポイント内のディメンションのデータ・マネージャ権限、およびそのビューポイントを含むビューの所有者権限が必要です。

ビューポイントで許可できるアクションの変更およびビューポイントでのプロパティの表示方法の構成を参照してください。

## 包含および追加権限

権限レベルは、包含(上位レベルの権限が下位レベルのすべての権限を含む)または追加(他の権限レベルに含まれずに、権限により追加のアクセス権が付与される)のいずれかです。

### 包含権限

3つの包含権限レベルをデータ・オブジェクトに割り当てることができます:

- **所有者** (すべての包含および追加権限を含みます)
- **データ・マネージャ**
- **参加者**

 **Note:**

**参加者**権限により、データ・チェーン・オブジェクトへの**読取り**データ・アクセスが自動的に付与されます。許可されたアクションおよびオブジェクトのプロパティ・アクセスを選択することにより、権限を変更してデータ・チェーン・オブジェクトへの**書込み**データ・アクセスを付与できます。[データ・アクセスの構成](#)を参照してください。

上位レベルの権限(所有者など)をユーザーまたはグループに割り当てると、その付与には下位レベルのすべての権限(データ・マネージャ、参加者(書込み)および参加者(読取り))が包含されます。同じデータ・オブジェクトに対して、ユーザーまたはグループに複数の権限を割り当てる必要はありません。

アプリケーションおよびディメンションはすべての包含権限レベルをサポートし、一方階層セットおよびノード・タイプは参加者権限のみをサポートします。複数の権限レベル(参加者およびメタデータ・マネージャなど)をアプリケーションおよびディメンションに割り当てることができます。[権限の結合](#)を参照してください。

階層セットまたはノード・タイプへのデータ・アクセスを指定することにより、参加者権限をさらに見直すことができます。[データ・アクセスの構成](#)を参照してください。

### 追加権限

追加権限は、さらに詳細なアクセス権をアプリケーションおよびデータ・チェーン・オブジェクトに提供します。それらはそれら自身によって割り当てるか、包含権限の最上位に割り当てることができます。

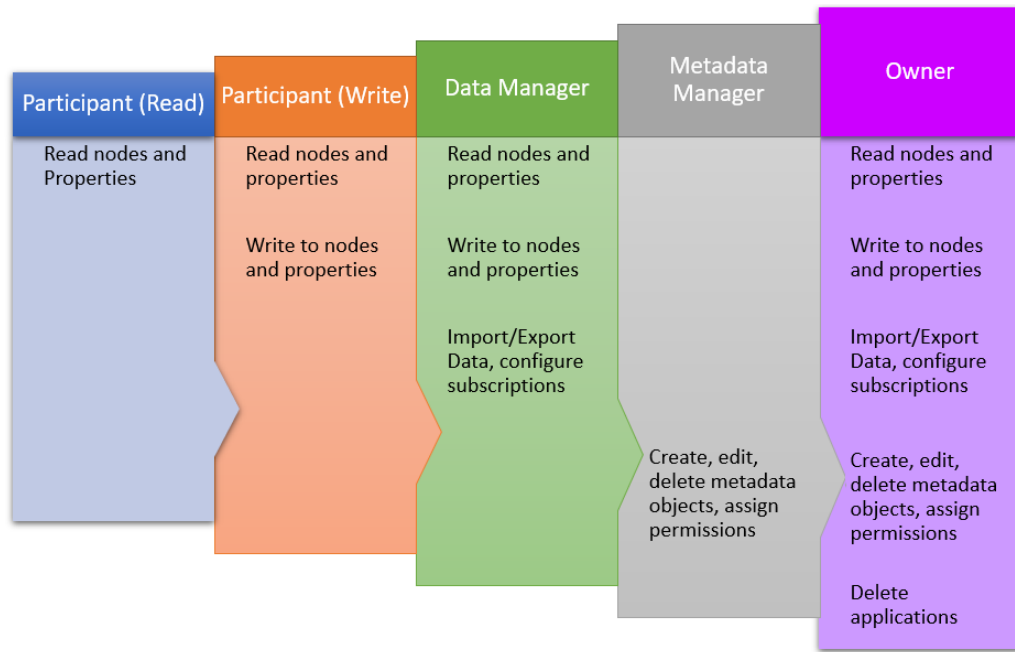
割り当てることができる追加権限は**メタデータ・マネージャ**です。この権限は、アプリケーションまたはディメンション・レベルで割り当てることができ、ノード・タイプ、階層セット、コンバータ、カスタム検証、権限およびポリシーを含むアプリケーションまたはディメンション内のすべてのメタデータ・オブジェクトを、ユーザーが作成、編集または削除することを許可します。

 **Note:**

メタデータ・マネージャ権限は、ユーザーにアプリケーションを作成または削除するためのアクセス権は与えません。

メタデータ・マネージャ権限は、データへのアクセス権を与えません。データを表示するには、この権限があるユーザーを、包含権限レベル(参加者(読取り)など)のいずれかに割り当てる必要があります。

次の図は、包含および追加権限レベルがどのように機能するかを示しています。3つの包含権限が相互に作成されており、参加者(書込み)は参加者(読取り)のアクセス権を含み、データ・マネージャは参加者(書込み)のアクセス権を含みます。メタデータ・マネージャは追加であるため、下位レベルの権限を含みません。所有者は、両方のタイプの権限レベルのアクセス権をすべて含み、アプリケーションを削除する機能があります。



次の表は、いくつかの一般的に実行されるタスクおよびそれらの実行に必要な権限レベルを示しています:

Task	Participant (Read)	Participant (Write)	Data Manager	Metadata Manager	Owner
Open and browse viewpoints	✓	✓	✓	✗	✓
Read nodes and properties	✓	✓	✓	✗	✓
Create/edit/delete private extracts	✓	✓	✓	✓	✓
Run private extract	✓	✓	✓	✗	✓
Edit application data using requests	✗	✓	✓	✗	✓
Act as request or subscription assignee	✗	✓	✓	✗	✓
Import/Export data	✗	✗	✓	✗	✓
Run viewpoint loads	✗	✗	✓	✗	✓
Run public extract	✗	✗	✓	✗	✓
Create/edit/delete public extract	✗	✗	✗	✓	✓
Create/update/delete data chain objects	✗	✗	✗	✓	✓
Assign permissions to data objects	✗	✗	✗	✓	✓
Modify application registration	✗	✗	✗	✓	✓
Archive applications	✗	✗	✗	✓	✓
Delete applications	✗	✗	✗	✗	✓

### 権限の結合

ユーザーのアクセス権に詳細なレベルの制御を提供するために、包含および追加権限を組み合わせることができます。組合せには次のものがあります:

- データ・マネージャおよびメタデータ・マネージャ: この組合せは、データおよびメタデータの両方に対してほとんどのタスク(データ・チェーン・オブジェクトの作成、更新および削除、パブリック抽出の作成および実行、インポートおよびエクスポートの実行など)を実行するためのアクセス権をユーザーに提供しますが、ユーザーがアプリケーションを削除することは許可しません。
- 参加者(読取り)およびメタデータ・マネージャ: この組合せは、メタデータ・マネージャがビューポイントでデータを参照および検証できるように、メタデータ・マネージャにデータ・アクセス権を付与します。これにより、たとえば、作成した式が意図したとおりに機能することを確認できます。

## 権限カスケード

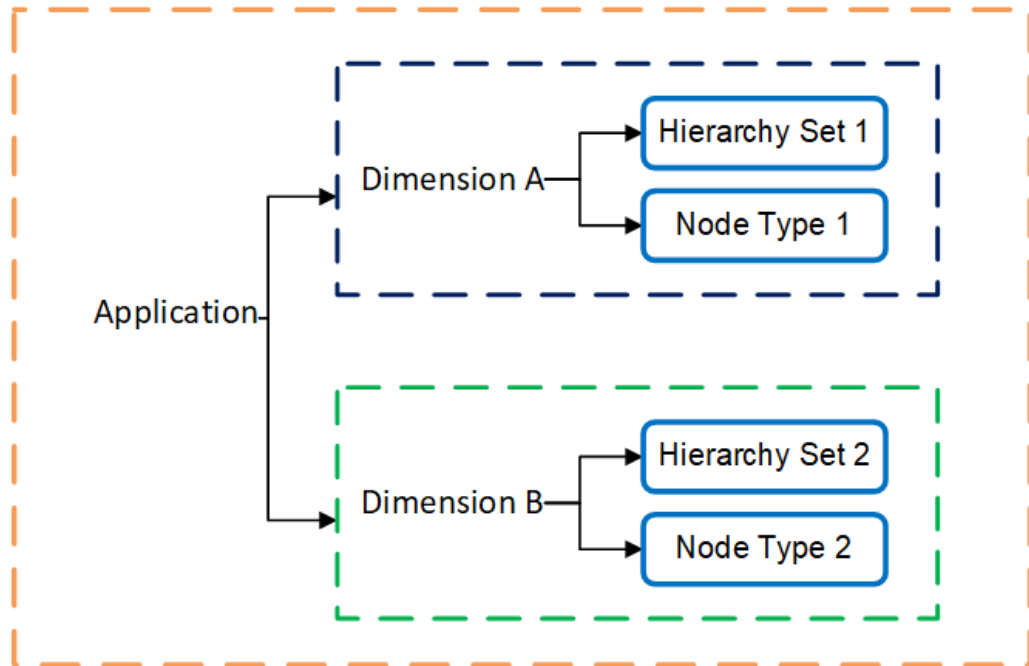
### ベスト・プラクティス

ベスト・プラクティスでは、最初に最も一般的なレベル(たとえば、アプリケーション・レベルまたはディメンション・レベル)で権限を割り当て、満たす必要がある特定のビジネス要件がある場合のみ、後から特定のレベル(階層セットまたはノード・タイプなど)の権限を割り当てます。

### 考慮事項

- アプリケーションに割り当てられている権限は、そのアプリケーション内のすべてのディメンションに割り当てられます。たとえば、次のイメージで、データ・マネージャ権限をアプリケーションのユーザーに割り当てると、そのユーザーには、ディメンション A およびディメンション B のデータ・マネージャ権限も付与されます。
- ディメンションに割り当てられている権限は、そのディメンション内のすべてのノード・タイプおよび階層セットに割り当てられます。たとえば、次の図で、ユーザーにディメンション A に対する参加者(書込み)権限を割り当てると、そのユーザーは階層セット 1 およびノード・タイプ 1 の両方に対する参加者(書込み)権限を持ちます。

次の図は、この概念を表しています。



**ノート:**

また、ビューに対する所有者権限も割り当てできます。ただし、データ・アクセスは、データ・オブジェクト(アプリケーション、ディメンション、階層セットおよびノード・タイプ)レベルで制御されます。ビューの所有者権限により、ユーザーはビューを構成し、所有者権限をそのビューの他のユーザーおよびグループに割り当てできますが、そのビュー内のデータ・オブジェクトへのアクセス権は付与されません。

## 権限の操作

権限により、アプリケーション、ディメンション、データ・チェーン・オブジェクトおよびデータが保護されます。

### ビデオ

目的	参照するビデオ
権限について学習します。	<a href="#">Oracle Enterprise Data Management Cloud でのロールと権限の設定</a>

### 権限レベルおよびデータ・オブジェクト

次の表は、データ・オブジェクトに割り当てできる権限および実行できるアクションを示しています。権限レベルおよびカスケードの詳細は、[権限カスケード](#)を参照してください。

表 24-1 データ・オブジェクトの権限およびアクション



少なくともこの権限が必要	対象データ・オブジェクト	次のアクションの実行:
メタデータ・マネージャ	アプリケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべてのデータ・チェーン・オブジェクトの作成、更新および削除</li> <li>すべてのデータ・オブジェクトの権限の他のユーザーおよびグループへの割当て</li> <li>アプリケーション登録の変更</li> </ul>
所有者	アプリケーション	アプリケーションの削除
メタデータ・マネージャ	ディメンション	<ul style="list-style-type: none"> <li>このディメンションのノード・セット、階層セットおよびノード・タイプの作成、更新および削除</li> <li>このディメンションのデータ・チェーン・オブジェクトへの権限の他のユーザーおよびグループへの割当て</li> </ul>
メタデータ・マネージャ	ディメンション	ディメンションのアーカイブおよびアーカイブ解除
データ・マネージャ	アプリケーション	アプリケーション内のすべてのディメンションのデータのインポートまたはエクスポート
データ・マネージャまたはメタデータ・マネージャ	アプリケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>アプリケーションのすべてのディメンションのビューポイントの作成および更新</li> </ul> <div style="border-left: 2px solid #0070C0; padding-left: 10px; margin: 10px 0;"> <p> <b>ノート:</b></p> <p>ビューポイントを含むビューの所有者権限も必要です。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>アプリケーションのすべてのディメンションのビューポイント・サブスクリプションの作成および更新</li> </ul> <div style="border-left: 2px solid #0070C0; padding-left: 10px; margin: 10px 0;"> <p> <b>ノート:</b></p> <p>ビューポイントを含むビューの所有者権限も必要です。</p> </div>

表 24-1 (続き) データ・オブジェクトの権限およびアクション






少なくともこの権限が必要	対象データ・オブジェクト	次のアクションの実行:
データ・マネージャまたはメタデータ・マネージャ	ディメンション	<ul style="list-style-type: none"> <li>このディメンションのビューポイントの作成および更新</li> </ul> <p> <b>ノート:</b></p> <p>ビューポイントを含むビューの所有者権限も必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>このディメンションのビューポイント・サブスクリプションの作成および更新</li> </ul> <p> <b>ノート:</b></p> <p>ビューポイントを含むビューの所有者権限も必要です。</p>
データ・マネージャ	ディメンション	このディメンションのデータのインポート、エクスポートおよび更新
参加者(書込み)	アプリケーション	新規要求の作成、またはアプリケーションのディメンションの要求担当者としての役割の実行
参加者(書込み)	ディメンション	新規要求の作成、またはこのディメンションを使用する要求担当者としての役割の実行
参加者(書込み) <b>ノート:</b> ユーザーまたはグループは、データ・アクセスで許可される要求アクションのみを実行できます。	階層セット	新規要求の作成、または階層セット内のノードを挿入、移動、除去および並べ替える要求の要求担当者としての役割の実行 <p> <b>ノート:</b></p> <p>階層セットに対する参加者(書込み)権限をユーザーに付与する際、そのユーザーには階層セットのノード・タイプに対する参加者(読取り)権限も暗黙的に付与されます。</p>


表 24-1 (続き) データ・オブジェクトの権限およびアクション

少なくともこの権限が必要	対象データ・オブジェクト	次のアクションの実行:
<p>参加者(書込み)  <b>ノート:</b> ユーザーまたはグループは、データ・アクセスで許可される要求アクションのみを実行できます。</p>	<p>ノード・タイプ</p>	<p>要求の作成、または、ノードを追加または削除する要求、またはノード・プロパティを更新する要求の要求担当者としての役割の実行</p> <div data-bbox="1040 493 1458 926" style="border: 1px solid #0070C0; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p> <b>ノート:</b></p> <p>ノード・タイプに対する参加者(書込み)権限をユーザーに付与する際、そのノード・タイプを使用する階層セットに対する権限は暗黙的に付与されません。このため、その階層セットに対する参加者(書込み)権限も付与されない限り、ユーザーは階層セット内のノードを追加または削除できません。</p> </div>
<p>参加者(読取り)</p>	<p>アプリケーション</p>	<p>アプリケーション内のディメンションのデータを含むビューポイントの参照</p>
<p>参加者(読取り)</p>	<p>ディメンション</p>	<p>アプリケーション内のこのディメンションのデータを含むビューポイントの参照</p>
<p>参加者(読取り)</p>	<p>階層セット</p>	<p>この階層セットのデータを含むビューポイントおよびこの階層セットのノード・タイプの参照</p> <div data-bbox="1040 1199 1458 1486" style="border: 1px solid #0070C0; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p> <b>ノート:</b></p> <p>階層セットに対する参加者(読取り)権限をユーザーに付与する際、そのユーザーには階層セットのノード・タイプに対する参加者(読取り)権限も付与されます。</p> </div>
<p>参加者(読取り)</p>	<p>ノード・タイプ</p>	<p>リスト内のこのノード・タイプのデータを含むビューポイントの参照</p>

**権限の追加、除去および編集**

オブジェクト・インスペクタの「権限」タブのデータ・オブジェクトへの権限を追加、除去または編集します。それを行うには、データ・オブジェクトを含むアプリケーションまたはディメンションに対する所有者またはメタデータ・マネージャ権限が必要です。




 ノート:


レポートを実行して、すべてのアプリケーションに割り当てられている権限を確認できます。詳細は、[レポートの操作](#)を参照してください。

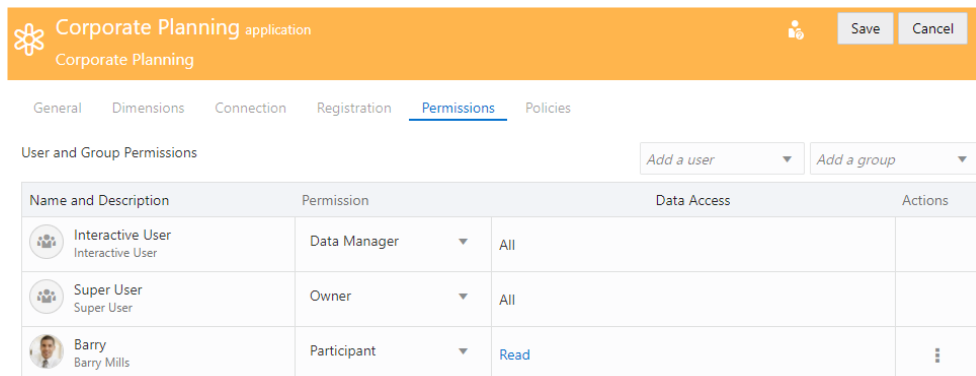
データ・オブジェクトの権限をユーザーまたはグループに追加するには:





1. データ・オブジェクトのオブジェクト・インスペクタを開きます。次の例を参照してください。
  - [アプリケーションの検査](#)
  - [ディメンションの検査](#)
  - [階層セットの検査](#)
  - [ノード・タイプの検査](#)
  - [ビューの検査](#)
2. 「権限」タブで、「編集」をクリックします。
3. 「ユーザーの追加」または「グループの追加」ドロップダウン・リストで、権限を付与するユーザーまたはグループを選択します。

 ノート:

現在ユーザーが含まれていないグループには、 アイコンが表示されます。サービス管理者は、アクセス制御でユーザーをグループに割当てることができます。[Oracle Enterprise Performance Management Cloud のアクセス制御の管理](#)のアクセス制御の概要を参照してください。

4. (オプション)グループ内のユーザーを表示するには、 をクリックします。
5. 「権限」ドロップダウン・リストで、ユーザーまたはグループに付与する権限レベルを選択します。




Name and Description	Permission	Data Access	Actions
 Interactive User Interactive User	Data Manager	All	
 Super User Super User	Owner	All	
 Barry Barry Mills	Participant	Read	

6. (オプション)参加者権限に対して、データ・アクセスも指定できます。[データ・アクセスの構成](#)を参照してください。

7. 「保存」をクリックします。

データ・オブジェクトの権限をユーザーまたはグループから除去するには:

1. オブジェクト・インスペクタを開きます。
2. 「権限」タブで、「編集」をクリックします。
3. 除去する権限に移動し、「アクション」列の  をクリックし、「除去」を選択します。
4. 「保存」をクリックします。

データ・オブジェクトに対する権限を編集するには:

1. オブジェクト・インスペクタを開きます。
2. 「権限」タブで、「編集」をクリックします。
3. 「権限」ドロップダウン・リストで、編集する権限の新規値を選択します。
4. 「保存」をクリックします。

ロールと権限がどのように機能するかの詳細は、[セキュリティの例](#)を参照してください。

## データ・アクセスの構成

参加者権限を持つユーザーに対して、データ・アクセスを使用して、実行できるアクションと、特定のデータ・チェーン・オブジェクトについて表示または編集できるプロパティを指定できます。

データへのアクセスは、次の 2 つの方法で指定できます:

- **許可されたアクション:** 要求のデータ・チェーン・オブジェクトで実行できるアクションを指定できます。
- **プロパティ・アクセス:** 表示または非表示にするプロパティ、およびデータ・チェーン・オブジェクトに対して編集可能なプロパティを指定できます。

デフォルトでは、参加者権限をユーザーまたはグループに割り当てると、データ・アクセスは**読取り**に設定されます。これは、データ・チェーン・オブジェクトで許可されたアクションは「なし」に設定され、プロパティ・アクセスは「表示のみ」に設定されることを意味します。参加者に少なくとも 1 つのプロパティに対する許可されたアクションまたは編集アクセスを付与すると、データ・アクセスはそのデータ・チェーン・オブジェクトに対する**書込み**に変更されます。

次の表に、参加者権限を持つユーザーの各データ・チェーン・オブジェクトに設定できる、許可されたアクションおよびプロパティ・アクセスのデータ・アクセスをリストします。

Table 24-2 データ・チェーン・オブジェクトに対するデータ・アクセス

データ・チェーン・オブジェクト	許可されたアクション	プロパティ・アクセス
アプリケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>• なし</li> <li>• すべて</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• すべて表示</li> <li>• すべて編集</li> </ul>
ディメンション	<ul style="list-style-type: none"> <li>• なし</li> <li>• すべて</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• すべて表示</li> <li>• すべて編集</li> </ul>

Table 24-2 (Cont.) データ・チェーン・オブジェクトに対するデータ・アクセス

データ・チェーン・オブジェクト	許可されたアクション	プロパティ・アクセス
階層セット	<ul style="list-style-type: none"> <li>• なし</li> <li>• すべて</li> <li>• 指定済                             <ul style="list-style-type: none"> <li>- 挿入</li> <li>- 移動</li> <li>- 除去</li> <li>- 並替え</li> </ul> </li> </ul>	該当なし <b>ノート:</b> 階層セット・レベルでプロパティへのアクセスを設定することはできません。ノード・タイプなど、他のいずれかのデータ・チェーン・オブジェクトを使用して、プロパティへのアクセスを制御します。
ノード・タイプ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• なし</li> <li>• すべて</li> <li>• 指定済                             <ul style="list-style-type: none"> <li>- 追加</li> <li>- 削除</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• すべて表示</li> <li>• すべて編集</li> <li>• 指定済                             <ul style="list-style-type: none"> <li>- 表示</li> <li>- 編集</li> <li>- 非表示</li> </ul> </li> </ul>

### 考慮事項

- データ・アクセスは参加者権限を持つユーザーのみ構成できます。データ・チェーン・オブジェクトに対する所有者またはデータ・マネージャ権限を持つユーザーには、そのデータ・チェーン・オブジェクトのすべてのアクションおよびプロパティへのすべてのアクセス権が自動的に付与されます。たとえば、所有者およびデータ・マネージャは、非表示に設定されているプロパティを常に表示できます。
- アプリケーションおよびディメンションの場合、許可されたアクションに対しては「すべて」または「なし」、プロパティ・アクセスに対しては「すべて表示」または「すべて編集」のみ指定できます。より詳細なアクションまたはプロパティ・アクセス(追加と削除のみ許可、特定のプロパティのみ表示など)を指定する場合は、階層セットまたはノード・タイプ・レベルで指定する必要があります。

#### Note:

これは、たとえば、アプリケーションまたはディメンション・レベルでプロパティを非表示にできないことを意味します。プロパティはノード・タイプ・レベルのみで非表示にします。

- 編集不可のプロパティ(たとえば、Core.Name や Core.Description 以外の Core ネームスペースのプロパティ、または CoreStats ネームスペースのプロパティ)に編集アクセス権を割り当てることはできません。また、Core.Name プロパティを非表示に設定することもできません。

### データ・アクセスのカスケード



権限と同様に、データ・アクセスにより、上位レベルから下位レベルにデータ・チェーン・オブジェクトがカスケードされます(たとえば、ユーザーにディメンションで許可されたアクション「追加」がある場合、そのディメンションの階層セットおよびノード・タイプで追加ができます。)権限カスケードを参照してください。

許可されたアクションおよび編集可能なプロパティに対しては、最小の制限設定が使用されます。たとえば、ユーザーにディメンション・レベルで許可されたアクション

はないが、ノード・タイプ・レベルで許可されたアクション「追加」がある場合、そのユーザーはそのノード・タイプに対して追加アクションを実行できます。


非表示のプロパティに対しては、最大の制限設定が使用されます。プロパティがノード・タイプで非表示の場合は、その設定により他の権限が上書きされます。たとえば、参加者権限があるユーザーがアプリケーションのプロパティに対する「すべて表示」を持つが、ノード・タイプでコスト・センター・プロパティが非表示の場合、そのユーザーはビューポイントにそのプロパティを表示できません。

### データ・アクセスの構成

1. データ・アクセスを構成するデータ・チェーン・オブジェクトを検査します:
  - [アプリケーションの検査](#)
  - [ディメンションの検査](#)
  - [階層セットの検査](#)
  - [ノード・タイプの検査](#)
2. 「権限」タブで、「編集」をクリックします。
3. 次のいずれかのアクションを実行します。
  - 権限を編集するには:
    - a. 変更する権限について、次のいずれかのアクションを実行してデータ・アクセス・パネルを表示します:
      - 「データ・アクセス」列で、権限レベル(「読取り」または「書込み」)をクリックします
      - 「アクション」列で、をクリックし、**アクションの編集**を選択します。
    - b. 「参加者のデータ・アクセス」パネルで、ユーザーまたはグループの「許可されたアクション」および表示されるプロパティ設定を選択します。各データ・チェーン・オブジェクトに適用できる設定の詳細は、前述の表 1 表を参照してください。
    - c. 「適用」をクリックし、次に「保存」をクリックします。
  - 権限を除去するには: 「アクション」列で  をクリックし、「除去」を選択します。

例として、次のスクリーンショットは、許可されたアクションとして「追加」が指定され、CoreStats.Parent および Core.Description プロパティが「表示」に設定され、PLN.Alias:Default プロパティが「非表示」に設定され、PLN.Data Storage が「編集」に設定されて構成された参加者権限を示しています。

### Data Access for Participant

 Anita Kennedy (Anita.Kennedy)

Allowed Actions

None All **Specified**

Add ×

Properties

Display All Edit All **Specified**

Name and Description	Access
CoreStats.Parent Parent Node Name of the node in the current...	Display ▼
PLN.Alias: Default Alternate unique description for the dimensio...	Hide ▼
Core.Description Node Description	Display ▼
PLN.Data Storage Specifies whether data is stored or calculated...	Edit ▼

Apply Cancel

## ファイルからの権限およびデータ・アクセスのアップロードおよびダウンロード

ノード・タイプ・レベルで権限を割り当てるとき、権限をノード・タイプ・インスタンスで手動で割り当てのではなく、権限およびデータ・アクセスが含まれる Excel ファイルをアップロードできます。ノード・タイプの権限およびデータ・アクセスを、オフライン参照のために Excel ファイルにダウンロードすることもできます。

### 考慮事項

- ノード・タイプの権限およびデータ・アクセスのみを、ダウンロードおよびアップロードできます。
- ノード・タイプの権限をアップロードするには、そのノード・タイプを含むアプリケーションまたはディメンションに対する所有者またはメタデータ・マネージャ権限が必要です。
- 権限をアップロードするとき、ファイルからの権限は既存の権限とマージされます。ユーザーおよびグループの既存の権限およびデータ・アクセスは、ファイル内のものの上書きされます。


### ファイルからの権限およびデータ・アクセスのアップロード

権限ファイルが正しい形式である必要があります。[権限ファイル形式](#)を参照してください

 **Tip:**

ノード・タイプに対する現在の権限をダウンロードして、追加の変更を加えることができるテンプレートとして使用し、再びシステムにアップロードすることができます。[ファイルへの権限およびデータ・アクセスのダウンロード](#)を参照してください。

**権限をアップロードするには:**

1. 権限をアップロードするノード・タイプを検査します。[ノード・タイプの検査](#)を参照してください。
2. 「**編集**」をクリックします。
3. 「**ファイルからの権限のロード**」  をクリックします。

 **Note:**

「**ファイルからの権限のロード**」 ボタンが表示されるには、「**編集**」モードである必要があります。


4. 権限ファイルを参照して、「**開く**」をクリックします。  
権限がシステムにロードされます。
5. **オプション:** 確認ダイアログ・ボックスで、権限ファイルをダウンロードするリンクをクリックし、「**ステータス**」および「**メッセージ**」列で各権限の結果を確認します。
6. 確認ダイアログ・ボックスで、「**OK**」をクリックし、「**保存**」をクリックして変更内容を保存します。

 **Note:**

「**取消**」をクリックすると、アップロードした権限はノード・タイプに保存されません。

**ファイルへの権限およびデータ・アクセスのダウンロード**

**権限をダウンロードするには:**

1. 権限をダウンロードするノード・タイプを検査します。[ノード・タイプの検査](#)を参照してください。
2. 「権限」タブで、「**ファイルへの権限のダウンロード**」  をクリックします。

 **Note:**

「**編集**」モードの場合、「**ファイルへの権限のダウンロード**」 ボタンは表示されません。

ファイルがダウンロードされた後、Excel で表示できます。

## 権限ファイル形式

このトピックでは、権限およびデータ・アクセスのロードに使用される Microsoft Excel スプレッドシートの形式について説明します。

権限ファイルは、「**権限**」という名前のシートが含まれた Excel ファイルである必要があります。

### Note:

ファイルに他のシートを含むことができます。たとえば、権限をダウンロードすると、ファイルにはサマリー情報が記載された「サマリー」という名前のシートが含まれています。このサマリー・シートは情報提供用であり、アップロードには不要です。

### 権限シート形式

#### 考慮事項

- ヘッダー列は次に示す順序である必要があります。ノード・タイプ・プロパティ列はどの順序にもできます。
- ヘッダー列のいずれかの情報が無効である場合、レコードがスキップされます。
- ファイル内のノード・タイプに有効でないプロパティは無視されますが、レコードは処理されます。
- ファイル内で同じユーザーまたはグループに複数のレコードがある場合、ファイル内の最初のレコードが処理されます。後続のレコードはスキップされ、スキップ済ステータスおよび対応するメッセージでマークされます。

#### ヘッダー列

- **アクセス・タイプ:** 「ユーザー」または「グループ」を選択します
- **名前:** 権限が作成されるユーザーまたはグループの名前を入力します。
- **権限:** 有効な権限を選択します。ノード・タイプの場合、これは「参加者」です。
- **許可されたアクション:** 「なし」、「すべて」または「指定済」を選択します
- **指定したアクション:** 「許可されたアクション」で「指定済」を選択した場合、カンマで区切られたアクションのリストを入力します(例: 追加, 削除)。
- **プロパティ・アクセス:** 「すべて編集」、「すべて表示」または「指定済」を選択します

#### ノード・タイプ・プロパティ列

プロパティ・アクセスで「指定済」を選択した場合、完全修飾(Namespace.Property)ノード・タイプ・プロパティを列ごとに 1 つ入力し、各プロパティに次の値のいずれかを入力します: 「表示」、「編集」または「非表示」。



**Note:**

Core.Name プロパティに「非表示」は指定できません。

**ステータス列**

- **ステータス:** 権限のアップロード後に権限のステータス(「成功」または「スキップ済」)を表示するシステムで予約された列です。
- **メッセージ:** スキップされた権限についての情報メッセージを表示するシステムで予約された列です。

次の例は、「権限」シートの正しい形式を示しています。

Access Type	Name	Permission	Allowed Actions	Specified Actions	Properties Access	Core.Name	Core.Descrip	FCGL.Descript	FCGL.Start D	FCGL.End Da
Group	Approvers Grp2	Participant	None		Specified	Edit	Edit	Display	Hide	Hide
Group	Approvers Grp1	Participant	None		Display All					
Group	Collaborators	Participant	Specified	Add	Specified	Edit	Edit	Display	Display	Display
User	Anita.Kennedy	Participant	All		Edit All					

## セキュリティの例

次の例は、各事項について必要なロールと権限の組合せを示しています。

- [アプリケーションおよびディメンションのセキュリティ](#)
- [階層セットおよびノード・タイプのセキュリティ](#)
- [ビューおよびビューポイントのセキュリティ](#)
- [要求のセキュリティ](#)
- [アクセス制御、移行、および日次メンテナンスのセキュリティ](#)

## アプリケーションおよびディメンションのセキュリティ

次の表に、アプリケーションおよびディメンションを操作するために最低限必要なユーザー・ロールと権限の組合せをリストします。

アプリケーションまたはディメンション・タスク	少なくともこの権限が必要
アプリケーションを登録するには、「アプリケーション-作成」ロールが必要です。 <b>ノート:</b> アプリケーションの登録および作成後、アプリケーションおよびデフォルト・ビューの所有者権限がユーザーに自動的に割り当てられます。	
アプリケーションまたはディメンションの権限の別のユーザーまたはグループへの割当て	アプリケーションまたはディメンションのメタデータ・マネージャ
アプリケーションの検査またはアプリケーション登録の変更	アプリケーションのメタデータ・マネージャ。
アプリケーションの削除	アプリケーションの所有者
アプリケーションのオープンおよび参照	アプリケーションの参加者(読取り)



アプリケーションまたはディメンション・タスク	少なくともこの権限が必要
アプリケーション・データの編集	アプリケーションまたはディメンションの <b>参加者(書込み)</b> <b>ノート:</b> <b>参加者(書込み)</b> 権限によりビューポイントのアプリケーション・データの編集が可能になり、指定されたデータ・アクセス、ビューポイントで許可されるアクションおよび編集可能なプロパティは実行可能なアクションを最終的に制御します。 <b>データ・アクセスの構成</b> および <b>ビューポイントで許可できるアクションの変更</b> を参照してください。
データのインポートまたはエクスポート	アプリケーションまたはディメンションの <b>データ・マネージャ</b>
ディメンションの作成または編集	アプリケーションまたはディメンションの <b>メタデータ・マネージャ</b>
グローバル接続の作成、編集および削除	アプリケーションの <b>メタデータ・マネージャ</b>
制約の作成、編集および削除	アプリケーションの <b>メタデータ・マネージャ</b>
バインドの作成および編集	アプリケーションまたはディメンションの <b>メタデータ・マネージャ</b>
パブリック抽出の作成、編集、コピー、上位への移動、削除	アプリケーションまたはディメンションの <b>メタデータ・マネージャ</b>


 **ノート:**

サービス管理者は、すべてのアプリケーションおよびディメンションの登録、インポート、エクスポートおよび変更の他、アプリケーション、データ・オブジェクトおよびビューに対するすべての権限の割当てを行えます。

## 階層セットおよびノード・タイプのセキュリティ

この表は、階層セットおよびノード・タイプを作成、表示および編集するために必要な最小限のユーザー・ロールと権限の組合せをリストしています。

データ・チェーン・オブジェクト	少なくともこの権限が必要
階層セットまたはノード・タイプの作成、検査、編集、アーカイブまたは削除	データ・チェーン・オブジェクトを含むアプリケーションまたはディメンションの <b>メタデータ・マネージャ</b>
階層セットまたはノード・タイプ内のアプリケーション・データの表示	アプリケーションまたはディメンションの <b>参加者(読取り)</b> では、そのアプリケーションまたはディメンション内のすべてのデータ・チェーン・オブジェクトを参照できます。 <b>階層セットの参加者(読取り)</b> では、階層セットおよび階層セット内で使用されるノード・タイプを参照できます。 <b>ノード・タイプの参加者(読取り)</b> では、そのノード・タイプのみを参照できます。

 **ノート:**


サービス管理者は、すべてのデータ・チェーン・オブジェクトを参照および更新できます。

## ビューおよびビューポイントのセキュリティ

次の表に、ビューおよびビューポイントに必要な最小限のユーザーのロールと権限の組合せをリストします。

ビューポイント	必要な権限	このビュー権限が必要
ビューの作成 <b>ノート:</b> 「ビュー - 作成」ロールが必要です。ビューを作成すると、デフォルト・ビューに対する <b>所有者権限</b> が自動的に割り当てられます。		
ビューに対する権限の割当て		ビューの <b>所有者</b>
要求を使用したビューポイント内のアプリケーション・データの更新 <b>ノート:</b> 割り当てられたデータ・アクセス、ビューポイントで許可されるアクション、および編集可能なプロパティ設定によって、ノードとプロパティに対して実行できるアクションが決まります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>アプリケーションまたはディメンションの<b>参加者(書込み)</b>は、データに対する更新ができます。</li> <li>階層セットの<b>参加者(書込み)</b>は、その階層セットに対してノードを挿入、移動、並替えおよび除去できます</li> <li>ノード・タイプの<b>参加者(書込み)</b>は、ノードを追加および削除し、ノード・プロパティを更新できます</li> </ul>	
ビューポイントの作成、編集、アーカイブまたは削除	アプリケーションの <b>データ・マネージャ</b> または <b>メタデータ・マネージャ</b>	ビューポイントを含むビューの <b>所有者</b>
ビューポイントでのサブスクリプションの作成	ディメンションの <b>データ・マネージャ</b> または <b>メタデータ・マネージャ</b>	ビューポイントを含むビューの <b>所有者</b>
ビューポイントのコピー	ディメンションの <b>所有者</b>	ビューポイントを含むビューの <b>所有者</b>

ビューポイント	必要な権限	このビュー権限が必要
ビューポイントの参照、検査、比較、検証またはダウンロード	<p>次のような、ノード・セットの完全な参加者(読取り)権限:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>リストタイプ・ノード・セット</b>: すべてのノード・タイプに対する参加者(読取り)アクセス権限。</li> <li>• <b>階層タイプ・ノード・セット</b>: 階層セットに対する参加者(読取り)アクセス権限。</li> </ul> <p><b>ノート</b>: ノード・セットの完全な参加者(読取り)権限を持っていない場合、ビューを開く際にそのノード・セットのビューポイントは表示されません。</p>	<p>ビューポイントの参照に表示権限は必要ありません</p> <p><b>ノート</b>: ビューポイントを含むビューの所有者権限では、そのビューのビューポイントを表示できません。ビューを開く際にビューポイントを表示するには、そのビューポイント内のノード・セットに対する完全な参加者(読取り)権限を持っている必要があります。</p> <p>たとえば、5 つのビューポイントを含むビューの表示権限を持っているが、そのうち 3 つのビューポイントのデータ・オブジェクトに対する参加者(読取り)権限しか持っていない場合、ビューを開く際、その 3 つのビューポイントしか表示されません。</p>
ビューのオープンまたは検査	ビューのビューポイント内のデータ・オブジェクトの参加者(読取り)権限	ビューの所有者権限により、ビューを開くことはできますが、そのビュー内のビューポイントを表示するには、そのビュー内のビューポイントのデータ・オブジェクトの参加者(読取り)権限が必要です。
ビューの編集またはアーカイブ		ビューの所有者

 **ノート:**

サービス管理者は、すべてのビューとビューポイントを参照および更新し、ビューへの権限を割り当てできます。

## 要求のセキュリティ

### 権限およびデータ・アクセス

次の表に、要求ワークフロー・アクションに必要な権限およびデータ・アクセスを示します。

表 24-3 要求アクションと権限

この要求ワークフロー・アクションを実行するには:	必要な権限:
要求の割当て	<p>次のロールまたは権限の少なくとも 1 つが必要です:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 現在の要求担当者</li> <li>• ビューに対する所有者権限</li> <li>• サービス管理者ロール</li> </ul>

表 24-3 (続き) 要求アクションと権限

この要求ワークフロー・アクションを実行するには:	必要な権限:
要求が割り当てられる	<p>次のような、要求のすべてのビューポイントの少なくとも 1 つのデータ・チェーン・オブジェクトに対する参加者(書込み)アクセス権:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プロパティの追加、削除または更新アクションの場合、ユーザーにはノード・タイプに対する参加者(書込み)が必要です。</li> <li>挿入、移動、並替えまたは除去アクションの場合、ユーザーには階層セットに対する参加者(書込み)が必要です。</li> </ul>
要求の協力者として追加	<p>要求の少なくとも 1 つのビューポイントの少なくとも 1 つのデータ・チェーン・オブジェクトに対する参加者(書込み)。</p> <p>次のように、要求の要求アイテムの要求アクションおよびプロパティ・アクセスは、要求担当者と協力者の両方に対するデータ・アクセス権限によって決まります:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>許可されたアクションの場合、担当者と協力者は両方とも、そのアクションを使用可能にするために要求アクションを実行できる必要があります。たとえば、ノードを階層に挿入するには、担当者と協力者は両方とも、階層セットの許可されたアクションとして「挿入」が必要です。いずれかのユーザーに挿入権限がない場合、ノードを挿入するオプションは使用できません。</li> <li>同様に、担当者と協力者の両方にプロパティへの編集アクセス権がある場合のみ、そのプロパティを編集できます。</li> </ul>
要求ロード・ファイルを使用した要求の変更	<ul style="list-style-type: none"> <li>要求ファイルをアップロードするユーザーは、要求ファイルをロードするために、階層セットまたはノード・タイプへの参加者(書込み)アクセス権(直接、または権限のカスケードを介して)が必要です。</li> <li>ロード・ファイルに、実行するためのデータ・アクセスがユーザーにないアクションまたはプロパティ更新が含まれる場合(たとえば、ロード・ファイルに削除アクションが含まれ、ユーザーに追加アクションに対するデータ・アクセスのみがある場合)、要求アクションは要求アイテムとしてロードされますが、要求が検証されると検証エラーとして識別されます。</li> <li>ロード・ファイルに、ユーザーには非表示のプロパティに対する更新が含まれる場合、その要求アイテムは要求にロードされませんが、添付ファイルには含まれます。</li> </ul>

表 24-3 (続き) 要求アクションと権限


この要求ワークフロー・アクションを実行するには:	必要な権限:
サブスクリプションの作成	<p>次のすべての権限が必要です:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ソース・ビューポイントの階層セットまたはノード・タイプへの参加者(読取り)アクセス権(直接、または権限のカスケードを介して)。</li> <li>• ターゲット・ビューポイントのディメンションに対するデータ・マネージャ権限</li> <li>• ターゲット・ビューに対する所有者権限</li> </ul>
サブスクリプションのデフォルトまたは代替担当者として割り当てられるのに適格	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ターゲット・ビューポイントの階層セットまたはノード・タイプへの参加者(書込み)アクセス権(直接、または権限のカスケードを介して)。</li> </ul> <div data-bbox="933 779 1385 1123" style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p> <b>ノート:</b></p> <p>グループを割り当てる場合、そのグループを選択肢として使用可能にするには、グループの少なくとも 1 つのメンバーにターゲット・ビューポイントの階層セットまたはノード・タイプへの参加者(書込み)権限が必要です。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>• サブスクリプション・ソース要求に、実行するためのデータ・アクセスがユーザーにないアクションまたはプロパティ更新が含まれる場合(たとえば、ソース要求に削除アクションが含まれ、ユーザーに追加アクションに対するデータ・アクセスのみがある場合)、要求アクションは要求アイテムとしてターゲット・サブスクリプション要求にロードされますが、要求が検証されると検証エラーとして識別されます。</li> <li>• サブスクリプション・ソース要求に、ユーザーには非表示のプロパティに対する更新が含まれる場合、その要求アイテムはターゲット・サブスクリプション要求にロードされませんが、添付ファイルには含まれます。</li> </ul>
要求の承認	<p>当初はなし。</p> <p>データ・オブジェクトのポリシーにユーザーまたはグループを追加すると、そのデータ・オブジェクトに対する暗黙的な参加者(読取り)権限がそのユーザーまたはグループに付与されます。 <a href="#">ポリシーの構成</a>を参照してください</p>

表 24-3 (続き) 要求アクションと権限

この要求ワークフロー・アクションを実行するには:	必要な権限:
承認ステージでの要求のエンリッチ	エンリッチ者は承認者であるため、承認ポリシーのデータ・オブジェクトに対する暗黙的な参加者(読取り)権限が自動的に付与されます。エンリッチメント時に変更を加えるには、エンリッチ者には、変更する要求のデータ・チェーン・オブジェクトに対する参加者(書込み)も必要です。エンリッチ者は、データ・アクセスおよび権限に従って要求アイテムを編集できません。

### ユーザー

この項では、ユーザーとサービス管理者が完了した要求とドラフト要求に対して実行できるアクションについて説明します。

### ドラフト要求

- **現在の担当者:**
  - 権限およびデータ・アクセスに従った要求アクションの実行
  - 要求アイテムのロード
  - 要求アイテムの削除
  - 要求の送信
  - 要求アイテムのファイルへのダウンロード
  - コメントおよび添付の追加、編集または削除
- **以前の参加者:**
  - 要求アイテム、コメントおよび添付の表示
  - 要求コメントおよび添付の追加
  - 要求の検査
  - 要求の検証
  - 要求内のビューポイントの検査、検証および比較
  - 要求アイテムのファイルへのダウンロード

要求のコメントまたは添付の作成者は、要求がドラフト・ステータスの間、コメントまたは添付を編集できます。

### 完了した要求

要求が行われたビューに対する参加者(読取り)アクセス権があるユーザーは、完了した要求を参照できます。

 ノート:

完了した要求は、履歴監査証跡を提供するため変更できません。

**サービス管理者**

サービス管理者は、すべての要求を表示できます。

サービス管理者が現在の担当者である場合、ドラフト要求を変更または削除できます。

 ノート:

要求が行われたデータに対する参加者(書込み)権限を持つサービス管理者は、要求の担当者として指定できます。

サービス管理者は、割り当てられていない要求を変更および送信することはできず、自分が承認者ではない要求を承認、却下またはプッシュバックすることもできません。

## アクセス制御、移行および日次メンテナンスのセキュリティ

次の表に、アクセス制御、移行およびメンテナンス・タスクを実行するために必要な権限または役割を示します。

タスク	必要な権限または役割
Oracle Enterprise Data Management Cloud のロールのプロビジョニングとグループの作成。アクセス制御を参照してください。	「サービス管理者」または「アクセス制御 - 管理」
テスト環境と本番環境間でのアーティファクトの移行。 <a href="#">移行の使用</a> を参照してください。	「サービス管理者」または「移行 - 管理」
日次メンテナンスの実行。メンテナンス・スナップショットの使用を参照してください。	サービス管理者

## ポリシーの構成

ポリシーは、アプリケーション、ディメンション、ノード・タイプまたは階層セットのレベルで設定できます。承認ポリシーは承認ワークフロー・ステージで適用され、これにより、承認者は要求を確認し、その内容を承認または却下できます。コミット・ポリシーは、コミット・ワークフロー・ステージで適用され、コミット・ポリシーに対してユーザーが最終レビューを実施し、要求のすべての変更をコミットできるようにします。通知ポリシーは要求がコミットされるとクローズ済ワークフロー・ステージで適用され、これにより、ユーザーは他のユーザーが完了した要求を送信したときに電子メール通知を受信します。

詳細は、[こちら](#)を参照してください

- [承認ポリシー](#)
- [コミット・ポリシー](#)
- [通知ポリシー](#)

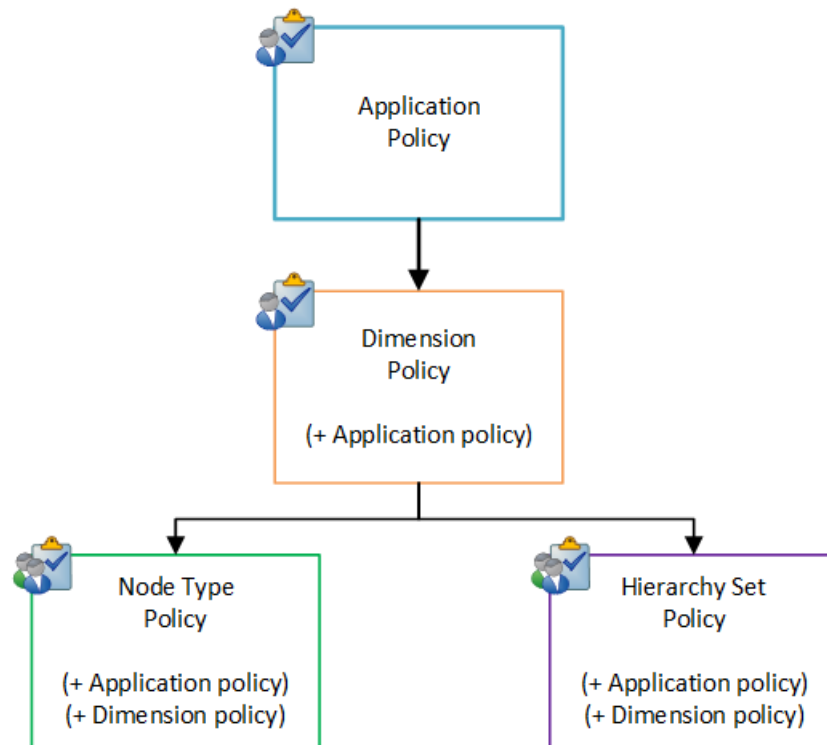
### ポリシーおよびデータ・オブジェクト

ポリシーは、アプリケーション、ディメンション、階層セットまたはノード・タイプ・レベルで有効化します。権限と同様に、ポリシーは、アプリケーションからディメンションに、次に階層セットおよびノード・タイプに伝播されます。つまり、アプリケーションで構成されるポリシーは、そのアプリケーション内のすべてのディメンションに適用され、ディメンションで構成されるポリシーはそのディメンション内のノード・タイプおよび階層セットに適用されます。詳細は、[権限カスケード](#)を参照してください。

#### ノート:

レポートを実行して、すべてのアプリケーションにわたって割り当てられているポリシーを確認できます。詳細は、[こちら](#)を参照してください [レポートの操作](#)





### データ・オブジェクトでのポリシーおよび要求アクション

ポリシーで「含まれるアクション」フィルタを使用して(承認ポリシーの作成および有効化、コミット・ポリシーの作成および有効化および通知ポリシーの作成および有効化を参照)、ポリシーが特定の要求アクションに対してのみトリガーされるかどうかを指定します。指定するアクションのタイプは、ポリシーが存在するデータ・チェーン・オブジェクトに影響されません。たとえば、移動アクションが階層セット・アクションであっても、ノード・タイプのポリシーに移動アクションを指定できます。この場合、ポリシーは、そのノード・タイプのすべての階層セットのすべての移動に対してトリガーされます。

### データ・オブジェクトでのポリシーの伝播

ポリシーは、高いレベルのオブジェクト(アプリケーションなど)から、データ・チェーン内の低いレベルのオブジェクト(ディメンション、ノード・タイプ、階層セットなど)に伝播されます。データ・チェーン・オブジェクトは、それ自体に対して有効化されたポリシーによって直接影響を受ける場合と、データ・チェーン内でそのオブジェクトの上位にあるオブジェクトからポリシーが伝播される場合があります。この場合、各ポリシーは独立して評価されます。

たとえば、次の承認ポリシーが有効化されているとします:

- アプリケーション・レベルの承認ポリシーでは、Accounting の 3 人の承認者が必要です。
- ディメンション・レベルの承認ポリシーでは、Accounting の 4 人の承認者が必要です。

これらのポリシーは組み合されないため、Accounting の合計 7 人の承認者が必要です。かわりに、各ポリシーは個別に評価され、両方のポリシーは、同じ Accounting グル

プからの承認を必要とするため、Accounting の最初の 3 つの承認は次のように両方のポリシーに適用されます。

- アプリケーション・レベルのポリシーは、Accounting の 3 人の承認者が要求を承認したときに満たされます。
- ディメンション・レベルのポリシーは、Accounting の追加の 1 人の承認者が要求を承認したときに満たされます。

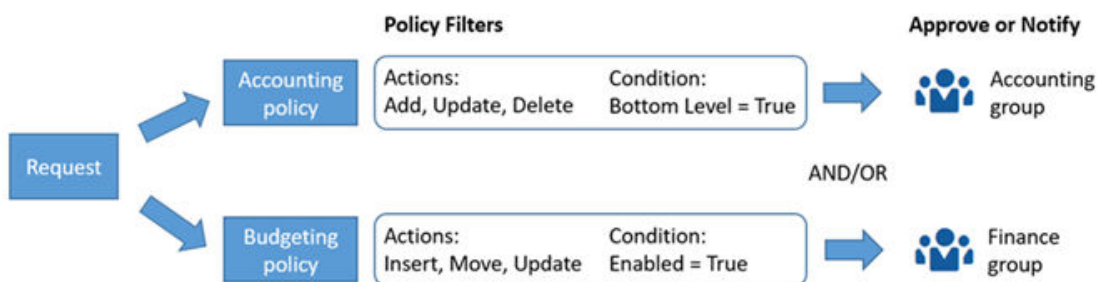
### ノート:

承認者が複数の承認グループ内に含まれる場合、1 回のみ要求を承認します。その承認は、ユーザーがメンバーであるすべての承認ポリシーに対してカウントされます。たとえば、Barry が Accounting グループと Cost Center グループの両方のメンバーであり、承認ポリシーで各グループからの 2 つの承認が必要であると示されている場合、Barry の承認は、各グループからの 1 つの承認としてカウントされます。

### 同じデータ・オブジェクトに対する複数のポリシー

同じデータ・チェーン・オブジェクトに複数のポリシーを定義して、異なるユーザーが異なるタイプの要求を承認したり、通知を受け取ることを許可できます。異なるフィルタが設定された追加のポリシーを作成して、様々なユーザーによる異なる固有のデータ・セットの条件付き承認または通知を処理できます。たとえば、次の図は、2 つのポリシーを備えたディメンションを示しています:

- 最下位レベルのノードが追加、更新または削除されると、会計ポリシーは承認要求または通知を Accounting グループに送信します
- ノードが挿入、移動または更新されると、予算策定ポリシーは承認要求または通知を Finance グループに送信します。



### ポリシーおよび権限

データ・オブジェクトのポリシーを構成するには、そのオブジェクトに対する所有者またはメタデータ・マネージャ権限を所有する必要があります。

データ・オブジェクトのポリシーにユーザーまたはグループを追加すると、そのデータ・オブジェクトに対する暗黙的な参加者(読取り)権限がそのユーザーまたはグループに付与されます。権限は伝播されるため、アプリケーションまたはディメンションのポリシーにユーザーまたはグループを追加する場合は、アプリケーションまたはディメンションに含まれるデータ・チェーン・オブジェクト(ディメンション、ノード・タイプおよび階層セット)に対する暗黙的な参加者(読取り)権限もそのユーザーまたはグループに付与されます。

ユーザーまたはグループがポリシーに追加され、階層セットに対する暗黙的な参加者(読取り)権限が付与される際、階層セットで使用されるノード・タイプに対する暗黙的な参加者(読取り)権限も付与されます。これにより、完了した要求を承認または表示する際にビューを開き階層セットを参照できます。ただし、ユーザーをポリシーに追加し、ノード・タイプに対する暗黙的な参加者(読取り)権限をユーザーに付与しても、そのノード・タイプを使用する階層セットに対する暗黙的な参加者(読取り)権限は付与されません。ノード・タイプに対する参加者(読取り)権限を所有していても階層セットに対する権限を所有していない場合、要求を承認または表示するために、ビューを開きビューポイント内の階層セットを参照することができません。かわりに、要求インスタペクタで要求を承認する必要があります。

ポリシーからユーザーを除去する場合、そのポリシー内のデータ・オブジェクトに対するそのユーザーの暗黙的な参加者(読取り)権限は無効になりますが、そのデータ・オブジェクトに明示的に付与された権限は保持されます。[権限の操作](#)を参照してください。

### ノート:

アクセス制御でユーザーの名前が変更されると、そのユーザーは無効になり、割り当てられているどのポリシーにも参加できなくなります。

## 承認ポリシー

承認ポリシーにより、承認者は要求を確認し、その内容を承認または却下できます。要求を承認できるユーザーおよび必要な承認数を指定して、要求を構成します。また、要求アイテムを追加、編集および削除することで、承認者が要求をエンリッチできるようにできます。

承認ポリシーの要件が満たされたら、要求をコミットできます。レビュー担当者は要求を却下し、要求を終了して通知を要求送信者に送信するか、要求を送信者にプッシュバックし、送信者が編集および再送信できるようにします。

詳細は、[を参照してください](#)

- [承認ポリシーの作成および有効化](#)
- [ポリシーのリマインダおよびエスカレーション](#)
- [ポリシーの変更](#)
- [承認ポリシーの例](#)

### ビデオ

#### 目的

承認ポリシーの構成について学習します。

#### 参照するビデオ



[Oracle Enterprise Data Management Cloud での承認ポリシーの構成](#)


## 承認ポリシーの作成および有効化



アプリケーション、ディメンション、階層セットおよびノード・タイプのインスペクタの「ポリシー」タブで承認ポリシーを作成し、有効化します。これらの各データ・チェーン・オブジェクトの「ポリシー」タブには、デフォルトで無効化されている、そのオブジェクトの空の承認ポリシーが含まれます。そのオブジェクトに対して承認を必須とするには、データ・チェーン・オブジェクトでポリシーを有効化する必要があります。また、異なるフィルタが設定された追加の承認ポリシーを作成して、様々なユーザーによる固有のデータ・セットの条件付き承認を処理できます。

承認ポリシーを作成して有効化するには:

1. データ・オブジェクトのオブジェクト・インスペクタを開きます。次の例を参照してください。
  - [アプリケーションの検査](#)
  - [ディメンションの検査](#)
  - [階層セットの検査](#)
  - [ノード・タイプの検査](#)
2. 「ポリシー」タブで、次のいずれかのアクションを実行します:
  - デフォルトの承認ポリシーを有効化するには、承認ポリシーの名前をクリックします。デフォルトでは、これは Approval です。  
承認ポリシーは、ポリシー・インスペクタに表示されます。
  - 新しい承認ポリシーを作成するには、「作成」をクリックします。「ポリシー・タイプ」から「承認」を選択し、ポリシーの名前および説明(オプション)を入力します。「作成」をクリックします。
3. (オプション)「全般」タブで、「編集」をクリックし、ポリシー名または説明を変更します。「保存」をクリックします。
4. 「定義」タブで、「編集」をクリックし、ポリシー設定を定義します。


フィールド名	有効な値
有効	ポリシー設定に影響を及ぼさずに、ポリシーを有効化または無効化できます。デフォルトでは、これは「False」に設定されています。
承認方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>並列:</b> 承認者は、同時に任意の順序で承認できます。</li> <li>• <b>シリアル:</b> 「ポリシー・グループ」リストにリストされているユーザーおよびグループの順序で、承認を一度に1つずつ指定する必要があります。</li> <li>• <b>所有権:</b> 承認者は、各ノードの所有権プロパティに基づいて承認に招待されます。<a href="#">所有権承認の理解</a>を参照してください。</li> </ul>

フィールド名	有効な値
グループあたり 1 承認(シリアルおよびパラレル・ポリシーのみ)	<p><b>シリアル・ポリシー:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>選択済:</b> ポリシー・グループあたり 1 つの承認のみが必要です。「必要合計数」フィールドは、「ポリシー・グループ」にリストされているグループ数に自動的に設定されます。</li> <li><b>選択解除済:</b> 各グループから複数の承認が必要です。各グループに必要な承認数を、「ポリシー・グループ」リストの「グループ当たりの承認」列に指定します。</li> </ul> <p><b>パラレル・ポリシー:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>選択済:</b> ポリシー・グループあたり 1 つの承認のみが必要です。「必要合計数」フィールドは、「ポリシー・グループ」にリストされているグループ数に自動的に設定されます。</li> <li><b>選択解除済:</b> 各グループから複数の承認が必要です。すべてのグループ全体に必要な合計承認数を「必要合計数」に指定します。</li> </ul>
所有権プロパティ(所有権ポリシーのみ)	<p>各ノードの変更を承認するノード所有者を決定するプロパティです。プロパティは、ユーザー・サブタイプを持つノード・データ型プロパティである必要があります(ノード・データ型のサブタイプを参照)。</p>
必要な合計	<p>すべてのユーザーおよびグループ全体に必要な承認者の合計数です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「グループあたり 1 承認」が選択されている場合、このフィールドは、「ポリシー・グループ」リストにリストされているグループ数に自動的に設定されます。</li> <li>「グループあたり 1 承認」が選択されていない場合: <ul style="list-style-type: none"> <li><b>シリアル・ポリシー:</b> このフィールドは、「ポリシー・グループ」に指定したすべてのグループ全体の合計承認者数に自動的に設定されます。「グループ当たりの承認」フィールドを使用して、各グループに必要な承認数を指定します。</li> <li><b>パラレル・ポリシー:</b> すべてのグループ全体に必要な承認者の合計数を指定します。</li> <li><b>所有権ポリシー:</b> このフィールドは自動的に所有者あたり 1 承認に設定され、変更はできません。</li> </ul> </li> </ul>
送信者を含む	<p>要求送信者が承認者でもある場合、送信者の承認が自動的に付与されるように指定する場合に選択します。たとえば、3 つの承認を必要とするポリシーでこのオプションを選択し、送信者がそのポリシーの承認グループに含まれる場合、送信者の承認は自動的に付与されるため、ポリシーではコミットに必要な承認は 2 つのみとなります。</p> <div style="border: 1px solid #0070c0; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p> <b>ノート:</b></p> <p>「送信者を含む」が無効になっている場合、要求送信者は、承認ポリシーにリストされている場合でも承認者として招待されません。</p> </div>
承認時のエンリッチメントの許可	<p>承認者が権限およびデータ・アクセスに応じて要求アイテムを追加、変更および削除することで、要求をエンリッチできるように選択します。<a href="#">要求エンリッチメントの理解</a>を参照してください。</p>


フィールド名	有効な値
リマインダ通知	現在の招待者にリマインダ電子メールが送信するまでの経過日数を入力します。   <b>ノート:</b>  これがゼロに設定されている場合、承認に対するアクションを実行しない現在の招待者にはリマインダは送信されません。
承認エスカレーション	ポリシー内のデータ・オブジェクトに対するデータ・マネージャ権限を持つユーザーに要求承認がエスカレーションされるまで、送信されるリマインダの数を入力します。   <b>ノート:</b>  これがゼロに設定されている場合、タイムアウト時に要求はエスカレーションされません。  ポリシーのリマインダおよびエスカレーションを参照してください
ポリシー順序	ポリシーの順序に番号を割り当てます。同じ番号のポリシーはグループとして履行されます。グループ内のすべてのポリシーが履行されると、次の順序番号のポリシーが連続して評価されます。 <a href="#">ポリシー順序の理解</a> を参照してください。

5. 「**ポリシー・グループ**」で、「**ポリシー・グループを追加します**」ドロップダウン・リストをクリックし、ユーザーおよびグループを承認リストに追加します。

 **ノート:**

現在ユーザーが含まれていないグループには、 アイコンが表示されます。サービス管理者は、アクセス制御でユーザーをグループに割り当てできます。  
*Oracle Enterprise Performance Management Cloud のアクセス制御の管理のアクセス制御の概要*を参照してください。

承認方法として「**シリアル**」を選択した場合、このリストで指定されている順序で承認を指定する必要があります。ドラッグ・アンド・ドロップして、リスト内のユーザーおよびグループを並替えることができます。最初にユーザーまたはグループをクリックし、目的的位置にドラッグする必要があります。

 **ノート:**

このリストのユーザーおよびグループには、ポリシーのデータ・オブジェクトに対する**参加者(読取り)**権限が付与されます。

 ノート:

所有権ポリシーの場合、「ポリシー・グループ」リストは空になり、変更はできません。

6. (オプション): 「グループ当たり 1 承認」が有効ではないシリアル・ポリシーの場合、「グループ当たりの承認」フィールドを使用して、リストの各グループに必要な合計承認数を指定します。  
「必要合計数」フィールドは、すべてのグループ全体のすべての承認者の合計で自動的に更新されます。
7. 「保存」をクリックします。
8. (オプション)「フィルタ」タブで、「編集」をクリックし、ポリシーのアクション・フィルタおよびノード条件を定義します。
  - 「含まれるアクション」で、「すべて」チェック・ボックスをクリアし、「含まれるアクション」リストから追加するアクションを選択します。アクション・フィルタを使用すると、選択したアクションのみに対して承認を設定できます。
  - 「プロパティ」で、アクションを実行します:
    - 「すべて」を選択して、プロパティが更新されるたびにユーザーを承認に招待します。
    - 「含める」を選択し、次に特定のプロパティを選択して、そのプロパティが更新された場合にのみユーザーを承認に招待します。
    - 「除外」を選択し、次に特定のプロパティを選択して、選択したプロパティ以外のプロパティが更新された場合にユーザーを承認に招待します。
    - 「なし」を選択して、プロパティの更新に基づいてユーザーを承認に招待しないように指定します。

 ノート:

プロパティ・フィルタを使用するために、要求アイテムの基本アクションを更新する必要はありません。たとえば、プロパティ・フィルタに `Core.Description` プロパティが含まれている場合は、基本要求アクションが追加または挿入であったとしても、説明プロパティに対する更新は、プロパティ・フィルタの対象になります。

- 「ノード条件」で、「式の定義」 *fx* (またはテーマに応じて *dx*) をクリックして式ビルダーを起動します。アクションが実行されたビューポイントでノードを評価しているため、式ビルダーで `node` オブジェクトを使用します。  
  
式ビルダーにより、ブール値のみに評価される式の作成が示されます。式の作成を参照してください。
- 「要求タイプ」で、このポリシーが適用される要求のタイプを選択するか、「すべて」チェック・ボックスを選択してポリシーをすべての要求タイプに適用します。要求タイプおよびプロセス・フローを参照してください。
  - 連結
  - インポート

- 対話型
- ロード
- サブスクリプション
- 「保存」をクリックします。

## 要求エンリッチメントの理解

要求エンリッチメントにより、ポリシーの承認者は、要求を承認する前に要求アイテムを変更できます。変更できるアイテムとアクションは、ビューでの承認者の権限とデータ・アクセスによって異なります。

承認ポリシーのエンリッチメントを有効化すると、ビューの少なくとも 1 つのデータ・オブジェクトに対する参加者(書込み)権限を持つ承認者は、承認フェーズ中にエンリッチメントを実行できます。エンリッチ者が実行できるアクションは、ビューのエンリッチ者の権限およびデータ・アクセスのみに依存します。

### Note:

要求送信者のデータ・アクセスは考慮されません。これは、元の要求送信者が実行できなかった要求のアクションをエンリッチ者が実行できる可能性があることを意味します。

エンリッチ者が実行できる変更は、元の要求のポリシーまたはデータ・オブジェクトに限定されません。要求のデータ・オブジェクトのポリシーに対してエンリッチメントが有効な場合、エンリッチ者は、自分の権限およびデータ・アクセスで許可されるビューの要求アクションを実行できます。

たとえば、一般会計アプリケーションおよび Planning アプリケーションのビューポイントを含むメンテナンス・ビューがあり、一般会計アプリケーションにエンリッチメントが有効になった承認ポリシーがあるとします。コスト・センターを一般会計に追加する要求が送信されるとき、GL ポリシーの承認者に Planning アプリケーションに対する参加者(書込み)アクセス権もある場合は、承認する前に Planning アプリケーションにもコスト・センターを追加できます。

### 考慮事項

- データ・チェーン・オブジェクトの複数のポリシーに承認者が含まれるとき、任意のポリシーのエンリッチメントが有効な場合、承認者は要求をエンリッチできます。
- エンリッチ者は、要求に変更を加えるには、現在招待されている必要があります。要求が要求ステージでない場合(たとえば、別の承認者が要求をプッシュバックした場合)、エンリッチ者は要求を変更できません。
- エンリッチ者が実行できる要求アクションおよびプロパティ更新を決定する際、エンリッチ者のビューの権限およびデータ・アクセスが考慮されます(データ・アクセスの構成を参照)。例:
  - エンリッチ者は、ノード・タイプで追加のみを実行するデータ・アクセスがある場合、要求アイテムを追加または削除してノードを削除できません。
  - エンリッチ者は、プロパティへの表示のみアクセスがある場合、要求アイテムを追加または削除してそのプロパティを変更できません。



- エンリッチ者は、送信者または他のエンリッチ者が実行した以前のアクションを反転または変更する要求アクションを実行できます。

### エンリッチされた要求の検証および承認

エンリッチ者が要求に変更を加えるかどうかに関係なく、エンリッチ者は承認者でもあるため、自分に割り当てられた要求を承認する必要があります。エンリッチ者が要求を承認すると、エンリッチ者の権限およびデータ・アクセスに基づいてデータ検証が実行されます。検証および承認プロセスは次のとおりです：

- 検証エラーが発生した場合：
  - 承認者がエンリッチ者で、検証に失敗したアクションを担当している場合、要求は承認されません。要求はビューに開いたままで、検証失敗を示すメッセージが表示されます。エンリッチ者は、データの問題を修正したり、要求を送信者にプッシュバックしたり、要求を却下することにより、要求に対してアクションを実行して検証失敗を修正する必要があります。
  - 承認者が検証に失敗したアクションを担当していない場合、要求は承認され、新しい招待者が計算されます。
- 検証エラーが発生していない場合、要求は承認され、新しい招待者が計算されます。

すべての承認ポリシーが満たされても検証エラーが発生する場合は、送信者に通知されます。送信者は、検証の問題が発生している要求アイテムを削除でき、それには、送信者の権限およびデータ・アクセスに含まれないアクションまたはプロパティを含む要求アイテムも含まれます。

検証エラーがない場合、要求はコミットされます。

## 所有権承認の理解

所有権承認方法を使用すると、ビューポイントのノードに定義した所有権プロパティに基づいて承認者を招待できます。

ノードの所有権プロパティは、そのノードに対する要求の承認を担当するユーザーを識別します。ポリシーの所有権プロパティを割り当てると、識別されたユーザーが、そのノードを含む要求アイテムの変更を承認するために招待されます。ポリシーを履行するには、招待された各ノード所有者が要求を承認する必要があります。

### Note:

所有権承認方法のコンテキストでの用語"所有者"は、データ・チェーン・オブジェクトの「所有者」権限と同じではありません。ノード所有者は承認ポリシーの承認者として招待され、そのノードの要求を承認する機能のみが付与されます。ノード所有者に、そのノードの表示または編集などの追加権限が自動的に付与されることはありません。

### 考慮事項

- 所有権方法は承認ポリシーでのみ構成できます。コミット・ポリシーまたは通知ポリシーでは所有権方法を構成できません。
- 1つのノードに複数の所有権プロパティを定義できるため、複数のノード所有者をそのノードの承認者にできます。ポリシーごとに割り当て可能な所有権プロパティ

は 1 つのみであるため、個々のプロパティが別々の承認ポリシーに付加される必要があります。

- 所有者として指定するユーザーは、ユーザー・サブタイプを持つノード・データ型プロパティを使用して(ノード・データ型のサブタイプを参照)、ユーザー・アプリケーションから選択されます(ユーザー・アプリケーションの操作を参照)。
- 要求が「処理中」のときにノードの所有者が変更された場合、新しい所有者が承認のために招待され、前の所有者は承認に招待されなくなります。前の所有者がすでに要求を承認済である場合、その承認は要求履歴に残ります。
- ノード所有者が対応できない場合(所有者が有効なユーザーでない場合や外出中である場合など)、要求はエスカレーションされます。ポリシーのリマインダおよびエスカレーションを参照してください。

## プロセス・フロー

次に、所有権承認を設定する場合の一般的なプロセス・フローについて説明します。これはステップバイステップの手順ではなく、所有権承認方法を使用するために必要なステップの概要を示すことを目的としています。

1. **ユーザー・アプリケーションを設定してユーザーを保管します。**(ユーザー・アプリケーションの操作を参照してください)。  
**重要:** ノード所有者として割り当てるには、ユーザー・アプリケーションのユーザーが Oracle Enterprise Data Management Cloud の有効なユーザーである必要があります (CoreStats.EDM User = True)。ユーザー・アプリケーションの User.Email Address プロパティを使用して有効なユーザーが決定されます。ユーザー・アプリケーションの事前定義済プロパティを参照してください。
2. **ユーザー・サブタイプを持つノード・データ型プロパティを作成し、所有権プロパティとして使用します。**プロパティの手動での作成を参照してください。
3. **ビューポイントのノード・タイプにプロパティを関連付けます。**プロパティのノード・タイプへの追加を参照してください。

### Tip:

「割当済ノード・セット」および「許可されるノード・タイプ」では、ステップ 1 で作成したユーザー・アプリケーションから適切なノード・セットおよびノード・タイプを選択します。

4. **所有権方法を使用するように承認ポリシーを構成します。**(承認ポリシーの作成および有効化を参照してください)。
  - a. 「承認方法」では、「所有権」を選択します。
  - b. 「所有権プロパティ」では、所有権プロパティとして構成したプロパティ(前述のステップ 2 で作成済)を選択します。
  - c. ポリシーを有効化して保存します。
5. **ノード所有者を割り当てます:**
  - a. ビューポイントで要求を作成し、各ノードの所有権プロパティの値(前述のステップ 2 で作成済)をユーザー・アプリケーションのユーザーに設定します。

 Tip:

このプロパティの値が継承または派生されるように設定すると、このプロセスを簡略化できます。

- b. 要求を送信して完了します。

### 要求の処理

所有権承認のユーザー・アプリケーション、ビューポイントおよび承認ポリシーの構成が完了すると、所有権プロパティの値に基づいて招待者およびポリシー履行が計算されます。所有権ポリシーを持つ要求が承認ステージに到達した場合:

1. ポリシーに関連付けられている要求アイテムごとに、ノードに対して所有権ポリシーが評価されます。
2. ノードごとに所有権プロパティの値がチェックされ、所有権プロパティで参照されているユーザーごとに要求の承認に招待されます。ユーザーは **Oracle Enterprise Data Management Cloud** で有効なユーザーである必要があります。
3. 各招待者はポリシーを履行するために要求を承認する必要があります。
4. 招待者が有効なユーザーでないか外出中の場合は、要求がエスカレーションされません。

### ベスト・プラクティス

- ノード所有者は常に要求インスペクタを介して要求を承認できます([要求インスペクタのアクション](#)を参照)。ただし、ビューポイントの要求変更をビジュアル化できるようにするには、ノード所有者に少なくとも、自分が所有者であるノードを含むビューポイントへの「[参加者\(読取り\)](#)」アクセス権が必要です。[ビューおよびビューポイントのセキュリティ](#)を参照してください。
- 「**所有権承認権限**」アプリケーション固有の検証を有効化して、ノード所有者が少なくともビューポイントへの「[参加者\(読取り\)](#)」アクセス権を持っていない場合は、要求またはビューポイントの検証時に検証エラーまたは警告が表示されるようにします。[アプリケーション固有の検証の適用および重要度の管理](#)を参照してください。
- 所有権プロパティとして使用するプロパティを作成する場合、各ノードに常にノード所有者が割り当てられるように、ビューポイントでそのプロパティを「必須」として設定します。
- 新規ノードの追加時に所有権プロパティが自動的に移入されるように、所有権プロパティを継承(履歴ビューポイント内)または参照からの派生(リスト・ビューポイント内)として設定します。
- 所有権プロパティを構成する場合は、「**選択基準のプロパティ**」、「**選択基準の演算子**」および「**選択基準の値**」フィールドを使用して、有効なユーザーのみをノード所有者として割り当てることができるようにします。[ノード・データ型パラメータ](#)を参照してください。  
例:
  - **選択基準のプロパティ**: EDM User
  - **選択基準のプロパティ**: Equal
  - **選択基準の値**: 1 (True)

- ノード所有権を保守するための別個のリスト・ビューポイントを特別に作成します。これにより、ノード所有権をデータ変更とは別に管理できます。
- ノード所有者として使用するユーザーをアクセス制御に追加する場合は、そのユーザーを所有権承認ユーザーとして使用する前にユーザー・アプリケーションにも追加する必要があります。

## 要求承認の取下げの理解

要求を承認したユーザーは、要求がまだ「処理中」の間に承認を取り下げることができます。シリアル・ポリシーの場合、ユーザーが承認を取り下げると、すべての後続の承認もその要求に関連付けられているすべての承認ポリシーから除去されます。

### 考慮事項

- ユーザーが要求の「承認」アクションにコントリビューションしておく必要があります。
- 要求はまだ「処理中」である必要があります。
- 要求送信者は承認を取り下げることができません。要求を変更するには、その要求を撤回する必要があります。

承認者が要求から承認を取り下げると、取下げ者の承認は、その要求に関連付けられているすべてのポリシーから除去されます。シリアル・ポリシーの場合、すべての後続の承認もその要求に関連付けられているすべてのポリシーから除去されます。これにより、元の取下げ者が含まれていなかったポリシーが影響を受ける場合があります。

### Note:

パラレル承認ポリシーの場合、承認の取下げは、取り下げた承認の前または後のどちらに他の承認が行われたかに関係なく、それらの他の承認に影響しません。

### シリアル・ポリシー承認取下げの例

2つのシリアル承認ポリシーがあったとします。ポリシー 1 については、Alex、Barry および Anita が要求に承認しました。ポリシー 2 については、Casey、Anita および Amy が要求を承認しました(太字は承認が行われたことを意味します):

#### 承認ポリシー 1 (シリアル)

1. Alex
2. Barry
3. Anita
4. Henry

#### 承認ポリシー 2 (シリアル)

1. Casey
2. Anita
3. Amy
4. Denise

次に、**Barry** がポリシー 1 から承認を取り下げます。ポリシーは次のようになります (**太字**は承認が行われたことを意味します):

#### 承認ポリシー 1 (シリアル)

1. **Alex**
2. Barry
3. Anita
4. Henry

#### 承認ポリシー 2 (シリアル)

1. **Casey**
2. Anita
3. Amy
4. Denise

Barry がポリシー 1 から承認を取り下げると、シリアル・ポリシー内で **Anita** の承認は Barry の承認の後であったため、ポリシー 1 の **Anita** の承認もクリアされます。しかし、Barry が別のポリシーの承認を取り下げたにもかかわらず、ポリシー 2 の **Anita** および **Amy** の承認もクリアされます。**Anita** または **Amy** が要求に関連付けられた他のポリシーの承認者である場合、それらの承認もクリアされます。

すべての承認がクリアされた後、承認者が計算され、承認の招待が再度送信されます。承認がクリアされなかった承認者(前述の例の **Alex** および **Casey**)は、承認が影響されなかったため、もう招待されません。

#### Note:

承認者は、現在のポリシーおよび要求のデータ・チェーン・オブジェクトでの権限に基づいて計算されます。取下げアクションの後に変更が行われた場合、たいていは、最初に要求を取り下げた承認者が、承認のために再度招待されます。

## 承認ポリシーの例

次の例は、アプリケーション、ディメンション、ノード・タイプおよび階層セット・レベルの承認ポリシーを示し、様々なポリシー設定を使用して承認がどのように処理されるかを表しています。

### 例 1: アプリケーション・レベルの承認ポリシー

まず、承認が基本的なレベルでどのように機能するかを示す単純な例を見てみましょう。この例では、**GL Govern** グループの少なくとも 2 人が勘定体系へのすべての変更を承認する必要があることを示すアプリケーション・レベルの承認ポリシーがあります。

表 25-1 例 1: アプリケーション・レベルのポリシー設定

Fusion GL Application	ディメンション	ノード・タイプ	階層セット
<b>ポリシー A</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>承認グループ: GL Govern</li> <li>方法: 並列</li> <li>必要な合計: 2 人の承認者</li> </ul>	勘定科目ディメンション	勘定科目ノード・タイプ	勘定科目階層セット

GL Govern グループは Barry、Julie および Jane で構成されます。Tom は、Fusion GL アプリケーションの所有者です。

承認ワークフロー:

1. 勘定科目を追加し、コスト・センターの説明を更新する要求の送信をマークします。
2. 承認方法は並列であるため、要求は GL Govern グループのメンバー 3 人すべてに承認のために送信されます。
3. Julie は要求を承認します。
4. Barry は要求を承認します。
5. ポリシー要件が満たされ、要求がコミットされます。

#### 例 2: デッドロック・エスカレーション

もう一度同じ例を見てみましょう。ただし今回は、Barry と Jane は GL Govern グループから移動されています。

表 25-2 例 2: デッドロック・エスカレーション・ポリシー設定

Fusion GL Application	ディメンション	ノード・タイプ	階層セット
<b>ポリシー A</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>承認グループ: GL Govern</li> <li>方法: 並列</li> <li>必要な合計: 2 人の承認者</li> </ul>	勘定科目ディメンション	勘定科目ノード・タイプ	勘定科目階層セット

GL Govern グループは Julie でのみ構成されています。Tom は、Fusion GL アプリケーションの所有者です。

承認ワークフロー:

1. 勘定科目を追加し、コスト・センターの説明を更新する要求の送信をマークします。
2. 承認要求は Julie に送信されます。
3. Julie は要求を承認します。  
ポリシーでは GL Govern グループの承認者が 2 人必要ですが、そのグループに含まれるのは Julie のみです。ポリシー要件を満たすために必要な承認者が他にいない場合、この結果はデッドロックとなります。結果として、要求は、アプリケーションに対するデータ・マネージャ権限を持つユーザーにエスカレーションされます。Tom はアプリケーションの所有者であるため、この所有者権限にはデータ・マネージャ権限が含まれます。

4. 要求は Tom にエスカレーションされます。
5. Tom は要求を承認します。
6. ポリシー要件が満たされ、要求がコミットされます。

### 例 3: ディメンション・レベルのシリアル承認ポリシー

次に、ディメンション・レベルのシリアルタイプ・ポリシーを見てみましょう。この例では、Josh は要求を承認し、次に Frank、最後に Accounting グループの誰かが承認します。

表 25-3 例 3: ディメンション・レベルのシリアル・ポリシー設定

アプリケーション	ディメンション	ノード・タイプ	階層セット
Planning アプリケーション	勘定科目ディメンション <b>ポリシー A</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>承認グループ:</b> Josh、Frank、Accounting</li> <li>• <b>方法:</b> シリアル</li> <li>• <b>必要な合計:</b> 3 つのグループ</li> </ul>	勘定科目ノード・タイプ	勘定科目階層セット

Accounting グループは James および Heather で構成されます。

承認ワークフロー:

1. 3 つの勘定科目を移動する要求の送信をマークします。
2. 承認要求は Josh に送信されます。
3. Josh は要求を承認します。
4. 承認要求は Frank に送信されます。
5. Frank は要求を承認します。
6. 承認要求は Accounting グループ (James および Heather) に送信されます。
7. Heather は要求を承認します。
8. ポリシー要件が満たされ、要求がコミットされます。

### 例 4: ノード・タイプおよび階層セット・レベルの承認ポリシー

アプリケーションおよびディメンション・レベルの承認ポリシーはすべての要求アクションに適用されますが、ノード・タイプおよび階層セット・レベルのポリシーは特定の要求アクションにのみ適用されます。ノード・タイプのポリシーは、ノードを追加または削除する要求、またはノード・プロパティを更新する要求にのみ適用されます。階層セットのポリシーは、階層セットにおけるノードの挿入、除去、移動または並替えの要求、またはノード関係プロパティの更新の要求にのみ適用されます。

これらの原則を表すために、ノード・タイプと階層セットの両方に対するポリシーのある例の 2 つの要求を見てみましょう。最初の要求はノード・プロパティを更新するため、ノード・セット上のポリシーのみが適用されます。2 番目の要求は勘定科目を追加しますが、これはノード・タイプと階層セットの両方に影響するため、両方のポリシーが適用されます。

表 25-4 例 4: ノード・タイプおよび階層セット・レベルのポリシー設定

アプリケーション	ディメンション	ノード・タイプ	階層セット
Planning アプリケーション	勘定科目ディメンション	勘定科目ノード・タイプ ポリシー A <ul style="list-style-type: none"> <li>承認グループ: Accounting、TaxUsers</li> <li>方法: 並列</li> <li>グループあたり 1 承認: True</li> </ul>	勘定科目階層セット ポリシー B <ul style="list-style-type: none"> <li>承認グループ: EssAdmins</li> <li>方法: 並列</li> <li>グループあたり 1 承認: False</li> <li>必要な合計: 5 回の承認</li> </ul>

これらの要求のその他の背景:

- Accounting グループは James および Heather で構成されます。
- TaxUsers グループは、Brian、Jane および Rachel で構成されます。
- EssAdmins グループには、7 人の管理者がいます(EssAdmin1 から EssAdmin7)。

まず、ノード・プロパティを更新する要求を見てみましょう。ノード・プロパティの更新は、ノード・タイプのポリシーによってのみ影響されます。

要求 1 承認ワークフロー:

- 3 つの勘定科目の説明を更新する要求(ノード・プロパティ更新)の送信をマークします。
- 承認要求は Accounting および TaxUsers グループに送信されます。

 **ノート:**

ノード・プロパティの更新は階層セットに影響を及ぼさないため、EssAdmins グループは承認要求を受信しません。

- James は Accounting グループの要求を承認します。
- Rachel は TaxUsers グループの要求を承認します。
- ポリシー要件が満たされ、要求がコミットされます。

次に、2 番目の要求(今回はノードの追加)を見てみましょう。前回と同じように、ノード・タイプのポリシーが適用されますが、これは要求アクションによりノードが追加されるためです。ただし、この要求では、追加アクションにより階層ベースのビューポイントにアクションが挿入されるため、階層セットのポリシーも適用されます。

要求 2 承認ワークフロー:

- 3 つの新規勘定科目を追加する要求の送信をマークします。
- 承認要求は Accounting および TaxUsers グループに送信されます。
- 階層ベースのビューポイントでの追加アクションにより、階層セットでの挿入アクションが作成されるため、承認要求は EssAdmins グループへも送信されます。
- James は Accounting グループの要求を承認します。



 ノート:

James はノード・タイプに対する暗黙的な参加者(読取り)権限を持っていますが、階層セットに対しては持っていないため、要求インスペクタで要求を承認する必要があります。ポリシーおよび権限を参照してください。

- Rachel は TaxUsers グループの要求を承認します。

 ノート:

Rachel はノード・タイプに対する暗黙的な参加者(読取り)権限を持っていますが、階層セットに対しては持っていないため、要求インスペクタで要求を承認する必要があります。ポリシーおよび権限を参照してください。

- 5 人の Essbase 管理者が要求を承認します。

 ノート:

EssAdmins グループは階層セットに対する暗黙的な参加者(読取り)権限を持っているため、ノード・タイプに対する暗黙的な参加者(読取り)権限も付与されます。ビューを開き階層セットを参照して、要求を承認できます。ポリシーおよび権限を参照してください。



- ポリシー要件が満たされ、要求がコミットされます。

#### 例 5: エンリッチメントが有効な承認

承認ポリシーでエンリッチメントが有効になっている場合、要求のビュー内の任意のデータ・オブジェクトに対して参加者(書込み)アクセス権を持つ承認者は、承認する前に要求を変更できます。

この例では、一般会計、Planning および連結の 3 つのアプリケーションのビューポイントがあるメンテナンス・ビューで要求が実行されます。各アプリケーションには、アプリケーション・レベルの承認ポリシーがあり、GL および Planning のポリシーのエンリッチメントが有効になっています。

表 25-5 例 5: エンリッチメント可能な承認

一般会計アプリケーション	Planning アプリケーション	連結アプリケーション
<p><b>GL 承認ポリシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>承認グループ: Josh (一般会計管理者)</li> </ul> <div style="border: 1px solid #0070C0; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p> <b>ノート:</b></p> <p>Josh には、Planning アプリケーションに対する参加者(書込み)権限がありません。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>方法: シリアル</li> <li>必要合計数: 1</li> <li>エンリッチメントは有効かはい</li> </ul>	<p><b>Planning 承認ポリシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>承認グループ: Julie (Planning 管理者)</li> </ul> <div style="border: 1px solid #0070C0; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p> <b>ノート:</b></p> <p>Julie には、連結アプリケーションに対する参加者(書込み)権限があります。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>方法: シリアル</li> <li>必要合計数: 1</li> <li>エンリッチメントは有効かはい</li> </ul>	<p><b>連結承認ポリシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>承認グループ: 会計</li> <li>方法: シリアル</li> <li>必要合計数: 1</li> <li>エンリッチメントは有効かいいえ</li> </ul>

承認ワークフロー:

1. Mark は、一般会計アプリケーションにコスト・センターを追加する要求を送信します。
2. 承認要求は、GL 管理者の Josh に送信されます。
3. Josh は、Planning アプリケーションにコスト・センターを追加して要求をエンリッチした後、GL アプリケーションの要求を承認します。
4. Josh が Planning アプリケーションにノードを追加したことで、Planning 承認ポリシーがアクティブ化され、承認要求が Planning 管理者の Julie に送信されます。
5. Julie は、連結アプリケーションにコスト・センターを追加して要求をさらにエンリッチした後、Planning アプリケーションの要求を承認します。
6. 連結承認ポリシーがアクティブ化され、承認要求が会計グループに送信されます。
7. 会計グループのメンバーである Barry は、連結アプリケーションに対する要求を承認しますが、連結ポリシーではエンリッチメントが有効になっていないため、Barry は要求をさらにエンリッチすることはできません。
8. すべての承認ポリシーのポリシー要件が満たされると、要求がコミットされ、3 つのアプリケーションすべてにコスト・センターが追加されます。

## コミット・ポリシー

コミット・ポリシーは、要求の最後のレビュー・ステージを提供します。このステージでは、職務分掌を適用するために、コミット・ポリシーで指定されたユーザーがすべての要求アイテムをレビューしてコミットします。コミット・ポリシーでは複数のユーザーを指定できますが、各ポリシーを履行するために必要なコミット・アクションは 1 つのみです。

 **Note:**

コミット・ステージでは、要求の変更は許可されません。

要求のすべての承認ポリシーが履行された後、いずれかの要求アイテムに対してコミット・ポリシーが有効になっている場合は、ポリシーで構成されているユーザーに電子メールが送信され、変更を確定するために要求をレビューしてコミットする必要があることが通知されます。コミット者は、要求を却下し、要求を終了して通知を要求送信者に送信することも、送信者が要求を編集して承認のために再送信できるように、要求を送信者にプッシュバックすることもできます。

**考慮事項**

- 承認ポリシーとコミット・ポリシーの両方にリストされているユーザーは、要求を承認した後でもコミットに招待されます。
- コミット・ステージではエンリッチメントは許可されていませんが、要求へのコメントおよび添付の追加は実行できます。
- 要求がコミット・ステージにある場合:
  - 要求送信者は引き続き要求を撤回できます。これにより、要求は「撤回」ステータスで送信ステージに戻されます。
  - 要求承認者は引き続き承認を取下げできます。これにより、要求は「処理中」ステータスで承認ステージに戻されます。
- データ・チェーン・オブジェクトに複数のコミット・ポリシーを設定できます。すべてのコミット・ポリシーが履行されるまで、要求は完了しません。

## コミット・ポリシーの作成および有効化

アプリケーション、ディメンション、階層セットおよびノード・タイプのインスペクタの「ポリシー」タブでコミット・ポリシーを作成し、有効化します。データ・チェーン・オブジェクトの要求アイテムに対してコミット・ステージを必須とするには、データ・チェーン・オブジェクトでポリシーを有効化する必要があります。

コミット・ポリシーを作成して有効化するには:

- データ・オブジェクトのオブジェクト・インスペクタを開きます。次の例を参照してください。
  - [アプリケーションの検査](#)
  - [ディメンションの検査](#)
  - [階層セットの検査](#)
  - [ノード・タイプの検査](#)




- 「ポリシー」タブで、「作成」をクリックします。

- 「ポリシー・タイプ」から「コミット」を選択し、ポリシーの名前および説明(オプション)を入力します。「作成」をクリックします。

新しいポリシーがポリシー・インスペクタに表示されます。


- (オプション)ポリシー・インスペクタの「全般」タブで、「編集」をクリックし、ポリシー名または説明を変更します。「保存」をクリックします。

5. 「定義」タブで、「編集」をクリックし、ポリシー設定を定義します。

フィールド名	有効な値
有効	ポリシー設定に影響を及ぼさずに、ポリシーを有効化または無効化できます。デフォルトでは、これは「False」に設定されています。
コミット方法	コミット・ポリシーに対して自動的に「並列」(複数のコミット者を同時に招待)に設定され、変更できません。
必要な合計	コミット・ポリシーに対して自動的に「1」に設定され、変更できません。コミット・ポリシーを履行するために1つのコミットのみが必要です。
送信者を含む	要求送信者がコミット者でもある場合に、送信者のコミットが自動的に許可されるように指定する場合に選択します。  <div style="border: 1px solid #0070C0; padding: 5px; background-color: #E6F2FF;"> <p> <b>Note:</b></p> <p>「送信者を含む」が無効になっている場合、要求送信者は、コミット・ポリシーにリストされている場合でもコミット者として招待されません。</p> </div>
リマインダ通知	現在の招待者にリマインダ電子メールが送信するまでの経過日数を入力します。  <div style="border: 1px solid #0070C0; padding: 5px; background-color: #E6F2FF;"> <p> <b>Note:</b></p> <p>ゼロに設定すると、現在の招待者がコミットに対するアクションを実行していない場合も、招待者にリマインダは送信されません。</p> </div>
コミット・エスカレーション	ポリシー内のデータ・オブジェクトに対するデータ・マネージャ権限を持つユーザーに要求コミットがエスカレーションされるまで、送信されるリマインダの数を入力します。  <div style="border: 1px solid #0070C0; padding: 5px; background-color: #E6F2FF;"> <p> <b>Note:</b></p> <p>これがゼロに設定されている場合、タイムアウト時に要求はエスカレーションされません。</p> </div> <p>ポリシーのリマインダおよびエスカレーションを参照してください</p>
ポリシー順序	ポリシーの順序に番号を割り当てます。同じ番号のポリシーはグループとして履行されます。グループ内のすべてのポリシーが履行されると、次の順序番号のポリシーが連続して評価されます。 <a href="#">ポリシー順序の理解</a> を参照してください。

6. 「ポリシー・グループ」で、「ポリシー・グループを追加します」ドロップダウン・リストをクリックし、ユーザーおよびグループをコミット・リストに追加します。

 **Note:**

現在ユーザーが含まれていないグループには、 アイコンが表示されます。サービス管理者は、アクセス制御でユーザーをグループに割当てできます。*Oracle Enterprise Performance Management Cloud のアクセス制御の管理*のアクセス制御の概要を参照してください。

 **Note:**

このリストのユーザーおよびグループには、ポリシーのデータ・オブジェクトに対する参加者(読取り)権限が付与されます。

7. 「保存」をクリックします。
8. (オプション)「フィルタ」タブで、「編集」をクリックし、ポリシーのアクション・フィルタおよびノード条件を定義します。
  - 「含まれるアクション」で、「すべて」チェック・ボックスをクリアし、「含まれるアクション」リストから追加するアクションを選択します。アクション・フィルタを使用すると、選択したアクションのみに対してコミットを設定できます。
  - 「プロパティ」で、アクションを実行します:
    - 「すべて」を選択して、プロパティが更新されるたびにユーザーをコミットに招待します。
    - 「含める」を選択し、次に特定のプロパティを選択して、そのプロパティが更新された場合にのみユーザーをコミットに招待します。
    - 「除外」を選択し、次に特定のプロパティを選択して、選択したプロパティ以外のプロパティが更新された場合にユーザーをコミットに招待します。
    - 「なし」を選択して、プロパティの更新に基づいてユーザーをコミットに招待しないように指定します。

 **Note:**

プロパティ・フィルタを使用するために、要求アイテムの基本アクションを更新する必要はありません。たとえば、プロパティ・フィルタに `Core.Description` プロパティが含まれている場合は、基本アクションが追加または挿入であったとしても、説明プロパティに対する更新は、プロパティ・フィルタの対象になります。

- 「ノード条件」で、「式の定義」  $fx$  (またはテーマに応じて  $dx$ ) をクリックして式ビルダーを起動します。アクションが実行されたビューポイントでノードを評価しているため、式ビルダーで `node` オブジェクトを使用します。  
式ビルダーにより、ブール値のみに評価される式の作成が示されます。式の作成を参照してください。

- 「**要求タイプ**」で、このポリシーが適用される要求のタイプを選択するか、「**すべて**」チェック・ボックスを選択してポリシーをすべての要求タイプに適用します。[要求タイプおよびプロセス・フロー](#)を参照してください。
  - 連結
  - インポート
  - 対話型
  - ロード
  - サブスクリプション
- 「**保存**」をクリックします。

## 通知ポリシー

通知ポリシーを使用すると、アプリケーションまたはディメンションの所有者は、要求が特定のステータスに変更されたときにポリシー・ユーザーに通知できます。要求ステータスが「処理中」、「完了」またはその両方に変更されたときにポリシー・ユーザーに電子メール通知を送信するようにポリシーを構成できます。

たとえば、このポリシーは、**Corporate Planning** アプリケーションで追加または挿入されたノードに対する、完了した要求と処理中の要求の両方を財務部門のメンバー(**Anita**、**Barry** および **Frank**)に通知します。

**Notify Corp Plan** policy

General **Definition** Filters

**Policy Settings**

Enabled

**Notify on Status Change** Completed, In Flight

**Policy Groups**

Name and Description	Action
Anita.Kennedy Anita Kennedy	
Barry Barry Mills	
Frank Frank Taylor	

**Notify Corp Plan** policy

General Definition **Filters**

Included Actions  All

Add, Insert

詳細は、[通知ポリシーの作成および有効化](#)を参照してください。


## 通知ポリシーの作成および有効化

アプリケーション、ディメンション、階層セットおよびノード・タイプのインスペクタの「ポリシー」タブで通知ポリシーを作成し、有効化します。データ・チェーン・オブジェクトに対して通知を送信するには、そのオブジェクトでポリシーを有効化する必要があります。また、異なるフィルタが設定された追加の通知ポリシーを作成して、様々なユーザーによる固有のデータ・セットの条件付き通知を処理できます。

通知ポリシーを作成して有効化するには:

1. データ・オブジェクトのオブジェクト・インスペクタを開きます。次の例を参照してください。
  - [アプリケーションの検査](#)
  - [ディメンションの検査](#)
  - [階層セットの検査](#)
  - [ノード・タイプの検査](#)
2. 「ポリシー」タブで、「作成」をクリックします。
3. 「ポリシー・タイプ」から「通知」を選択し、ポリシーの名前および説明(オプション)を入力します。
4. 「作成」をクリックします。
5. 「定義」タブで、「編集」をクリックし、ポリシー設定を定義します:
  - 「有効」チェック・ボックスを選択して、ポリシーを有効化します。デフォルトでは、これは「False」に設定されています。
  - 「ステータス変更の通知」で、これらのステータスの一方または両方を選択します。デフォルトでは、両方のステータスが選択されています。ステータスを除去するには、「X」をクリックします。
    - **完了:** 要求がクローズされたときにポリシー・ユーザーに通知します。
    - **処理中:** 要求が送信されたときにポリシー・ユーザーに通知します。
  - 「ポリシー・グループ」で、「ポリシー・グループを追加します」ドロップダウン・リストをクリックし、ユーザーおよびグループを通知リストに追加します。


### ノート:

現在ユーザーが含まれていないグループには、 アイコンが表示されます。サービス管理者は、アクセス制御でユーザーをグループに割当てできます。[Oracle Enterprise Performance Management Cloud のアクセス制御の管理のアクセス制御の概要](#)を参照してください。

 ノート:

このリストのユーザーおよびグループには、ポリシーのデータ・オブジェクトに対する **参加者(読取り)** 権限が付与されます。

6. 「保存」をクリックします。
7. (オプション) 「フィルタ」タブで、「編集」をクリックし、ポリシーのアクション・フィルタおよびノード条件を定義します。
  - 「含まれるアクション」で、「すべて」チェック・ボックスをクリアし、「含まれるアクション」リストから追加するアクションを選択します。アクション・フィルタを使用すると、選択したアクションのみに対して通知を設定できます。
  - 「プロパティ」で、アクションを実行します:
    - 「すべて」を選択して、プロパティが更新されるたびにユーザーを通知します。
    - 「含める」を選択し、次に特定のプロパティを選択して、そのプロパティが更新された場合にユーザーに通知します。
    - 「除外」を選択し、次に特定のプロパティを選択して、選択したプロパティ 以外のプロパティが更新された場合にユーザーに通知します。
    - 「なし」を選択して、プロパティの更新に基づいてユーザーに通知しないように指定します。

 ノート:

プロパティ・フィルタを使用するために、要求アイテムの基本アクションを更新する必要はありません。たとえば、プロパティ・フィルタに **Core.Description** プロパティが含まれている場合は、基本要求アクションが追加または挿入であったとしても、説明プロパティに対する更新は、プロパティ・フィルタの対象になります。

- 「ノード条件」で、「式の定義」 *fx* (またはテーマに応じて *dx*) をクリックして式ビルダーを起動します。アクションが実行されたビューポイントでノードを評価しているため、式ビルダーで `node` オブジェクトを使用します。

式ビルダーにより、ブール値のみに評価される式の作成が示されます。式の作成を参照してください。

- 「要求タイプ」で、このポリシーが適用される要求のタイプを選択するか、「すべて」チェック・ボックスを選択してポリシーをすべての要求タイプに適用します。要求タイプおよびプロセス・フローを参照してください。
  - 連結
  - インポート
  - 対話型
  - ロード
  - サブスクリプション
- 「保存」をクリックします。



## ポリシー順序の理解

ポリシーが実行される順序を指定して、承認およびコミット・ポリシーに優先度を割り当てることができます。要求が承認またはコミットされると、同じ順序のポリシーがグループとして履行されてから、次のグループに進みます。

たとえば、承認ポリシーより前にエンリッチメント・ポリシーが実行されるように、またはノード・タイプ・ポリシーがディメンション・ポリシーより前に適用されるように、ポリシー順序を割り当てることができます。

承認またはコミット・ポリシーの「定義」タブで、ポリシー順序を指定します。[\(承認ポリシーの作成および有効化を参照してください\)](#)。

### ポリシー順序の処理

複数のポリシーがある要求が承認またはコミット・ステージに入ると、次の処理が実行されます:

1. ポリシー順序が最も低い順序(たとえば、1)のすべてのポリシーの承認(またはコミット・ステージのコミット)がグループとして処理されます。承認(またはコミット)への招待が、そのグループのすべてのポリシーのすべての招待者に送信されます。
2. 最も低いポリシー順序のポリシーがすべて履行されると、順に次に高いポリシー順序(たとえば、2)のポリシーがグループとして処理されます。招待は現在のグループのすべての招待者および以前のグループの未履行ポリシーに(要求の処理中に下位の番号に変更されている未履行ポリシーのアカウントに)送信されます。

#### Note:

現在の招待者が、前のポリシー順序ですでに承認またはコミットを指定している場合、そのユーザーは現在のグループの各ポリシーを自動承認します。

3. ポリシーは、未履行で残っているポリシーがなくなるまで、ポリシー順序番号別にグループで処理されます。
4. 要求が次のステージに移動します(たとえば、要求が承認ステージにあった場合で、コミット・ポリシーがあるとき、その要求はコミット・ステージに移動します)。
5. コミット・ステージ内の最も低い番号のポリシー順序のポリシーがグループとして処理される、のようになります。
6. 残りのステージがなくなったら、要求の完了が試行され、クローズされます。

### 要求エンリッチメントおよびポリシー順序

ポリシーをアクティブ化する方法で要求がエンリッチされた場合、新しいポリシーがそのポリシー順序に従って次のワークフロー・サイクルに含まれます。つまり、要求が、現在のグループより前のグループ内のポリシー(たとえば、最初にアクティブ化されていなかったポリシーやすでに承認済のポリシー)によって影響されるデータでエンリッチされている場合、現在のグループの招待者とともに、以前のグループ内のすべてのポリシーの招待者が要求の承認に招待されます。

例として、1、2 および 3 の順序が付けられたポリシーの 3 つのグループがあるとします：

1. グループ 1 および 3 のポリシーによって影響されるが、2 によっては影響されないデータを使用して要求が送信されました。
2. グループ 1 のポリシーは履行されますが、グループ 3 の処理中に、グループ 2 のポリシーによって影響されるデータを含むように要求がエンリッチされます。
3. グループ 2 の招待者は、グループ 3 の現在の招待者とともに含まれます。要求が次のステージに遷移するには、グループ 2 および 3 のすべてのポリシーが履行される必要があります。

### 要求プッシュバック、撤回および承認の取下げ

プッシュバック、撤回および承認の取下げの結果の要求ステージの変更は、次のように処理されます：

- 要求プッシュバックまたは撤回の場合、すべての承認がクリアされます。要求が再び承認またはコミット・ステージに入ると、ポリシー順序は再び最も低い順序から始まります。
- 承認が要求から取り下げられた場合、承認の取下げより前に発生した承認は保持され、承認の取下げより後に発生した承認はクリアされます。たとえば、ポリシー・グループ順序 2 の承認が取り下げられた場合、ポリシー・グループ順序 1 の承認は保持され、ポリシー・グループ順序 3 の承認はクリアされます。  
取り下げられた承認と同じポリシー・グループの承認の場合：
  - 取り下げられた承認がシリアル・ポリシー内の場合、取り下げられた承認より後の承認はクリアされます。
  - シリアル・ポリシー内の取り下げられた承認より前の承認およびパラレル・ポリシー内のすべての承認は、保持されます。

### ポリシー実行プランの表示

要求インスペクタの「ポリシー」タブに、要求のポリシーの実行プランが表示されます。[ポリシー実行プラン](#)を参照してください。



## ポリシーの変更

ポリシーに基づいて承認またはコミットするためにすでに送信済の要求がある場合でも、承認ポリシーやコミット・ポリシーを変更できます。ポリシーを変更すると、日次スケジュール済プロセスがそのポリシーの処理中の要求を評価し、適切なアクションを実行します。

### ノート:

これらの変更は、処理中の要求にのみ適用されます。これらは、ドラフトまたは完了の要求、あるいはプッシュバックされた要求には影響しません。

現在進行中の要求に影響を与えるポリシーを変更すると、要求インスペクタの「ワークフロー」タブの「残りの承認」または「残りのコミット」および「招待者」のカウントには、スケジュール済の日次プロセスが実行されてカウントが同期されるまで、不正確なカウントが表示されることがあります。

変更されたポリシー設定	実行されるアクション
有効	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>無効から有効への変更:</b> このデータ・オブジェクトを使用する新規要求では承認またはコミットが必要になります。要求が他のポリシーの承認待ちまたはコミット待ちの場合、新たに有効化されたポリシー内のユーザーは、要求を承認またはコミットするように招待されます。</li> <li><b>有効から無効への変更:</b> このデータ・オブジェクトを使用する新規要求では承認またはコミットが不要になります。要求がこの新たに無効化されたポリシーに対してのみ承認待ちまたはコミット待ちの場合、その要求は承認またはコミットされます。</li> </ul> <p><b>ノート:</b> 個々のポリシーを無効にするかわりに、アプリケーション・レベルでワークフローを無効にすることができます。これは、テスト環境などで役立つことがあります。<a href="#">アプリケーションのワークフローの無効化</a>を参照してください。</p>
承認グループまたはコミット・グループ	<p>新規グループは既存グループと比較され、次のアクションが実行されます:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>既存のグループ内にはない新規ユーザーが招待者として追加されます。</li> <li>既存のグループ内にはないユーザーが招待者として除去されます。</li> </ul>
承認方法、グループ当たり 1 承認、必要な合計、送信者を含む	<p>承認していない残りのユーザーは、新規設定に基づいて承認またはコミットするように招待されます。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; background-color: #e6f2ff; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p> <b>ノート:</b></p> <p>コミット・ポリシーの「<b>コミット方法</b>」および「<b>必要な合計</b>」は変更できません。</p> </div>
承認時のエンリッチメントの許可	<p>承認していない残りのユーザーは、承認する前に、権限およびデータ・アクセスに基づいて要求をエンリッチできます。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; background-color: #e6f2ff; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p> <b>ノート:</b></p> <p>コミット・ポリシーには適用されません。</p> </div>
リマインダ通知	<p>リマインダ通知は、新規設定に基づいて現在の招待者に送信されます。</p>
承認エスカレーション	<p>要求は、新規設定に基づいて要求内のデータ・オブジェクトに対するデータ・マネージャ権限を持つユーザーにエスカレーションされます。</p>

## ポリシーのリマインダおよびエスカレーション

承認またはコミット・ポリシーが有効化されているデータ・オブジェクトで要求が送信されると、要求を承認またはコミットするように招待者に通知電子メールが送信されます。招待者が要求に対してアクションを実行していない場合またはエスカレーション

ョンが必要な場合にリマインダおよびエスカレーション電子メールが送信されるように、ポリシーを構成することもできます。

### ノート:

リマインダおよびエスカレーションの電子メールが送信されるのは、ポリシーでこれらの設定を構成した場合のみです。

## リマインダ

要求が送信され、通知が招待者に送信された後、招待者が 24 時間経ってもアクションを実行しない場合、リマインダ電子メールを送信できます。要求をエスカレーションするまでに、送信されるリマインダの数を指定できます。[承認ポリシーの作成および有効化](#)または[コミット・ポリシーの作成および有効化](#)を参照してください。

## エスカレーション

解決のために要求がエスカレーションされるシナリオは 2 つあります。

- **タイムアウト:** ポリシーの構成時に「承認エスカレーション」または「コミット・エスカレーション」フィールドで指定した数のリマインダ電子メールに対して招待者が応答しなかった場合。

### ノート:

エスカレーションがゼロに設定されている場合、タイムアウト時に要求はエスカレーションされません。

- **デッドロック:** ポリシー要件を満たすためのポリシー・グループまたはユーザーが十分にいない場合。たとえば、ユーザーがグループから除去され、ポリシーの「必要な合計」を満たすために必要なユーザー数が残っていない場合、リクエストはデッドロックとなります。

両方のシナリオにおいて、影響を受けるポリシー内のデータ・オブジェクトに対するデータ・マネージャ権限を持つユーザーに要求はエスカレーションされ、タイムアウトまたは競合に介入し解決できるように通知がこれらのユーザーに送信されます。

### ノート:

所有者権限には、データ・マネージャ権限が含まれるため、要求はデータ・オブジェクトに対する所有者権限を持つユーザーにもエスカレーションされます。

データ・マネージャ権限を持つユーザーが要求に対するアクションを実行した後、通常の要求ワークフローが再開されます。

たとえば、Accounting の誰かが承認し、次に Barry、Jane の順に承認するシリアル承認ポリシーがあるとします。Accounting 内のユーザーがポリシーを承認しますが、Barry は外出中であるため要求を承認できません。この場合、リマインダ電子メールが Barry に送信された後、要求内のデータ・オブジェクトに対するデータ・マネージャ権限を持つユーザーに要求がエ

スカレーションされます。データ・マネージャ権限を持つ 1 人のユーザーがポリシーを承認した後、ポリシーは承認のために Jane に移動されます。

 ノート:

要求が複数回エスカレーションされた場合、データ・マネージャ権限を持つユーザーは要求を 1 回のみ承認する必要があります。

複数の承認ポリシーの影響を受けるアイテムが要求に含まれており、いずれかのポリシーがエスカレーションされた場合、他のポリシーは影響を受けません。たとえば、要求に、5 回のリマインダの後にエスカレーションされるポリシーを持つ勘定科目ディメンションのアイテム、および 2 回のリマインダの後にエスカレーションされるポリシーを持つコスト・センター・ディメンションのアイテムがある場合、2 回目のリマインダの後、要求はコスト・センター・ディメンションのデータ・マネージャ権限を持つユーザーにエスカレーションされます。勘定科目ディメンションに対するデータ・マネージャ権限を持つユーザーには、5 回目のリマインダが送信されるまでエスカレーション通知は送信されません。

#### 承認者およびコミット者の不在ステータスの処理

承認者およびコミット者は、要求ワークフローから自分を外すために、自分を不在としてマークできます。(プリファレンスの設定を参照してください)。このステータスは次のように処理されます:

- 不在の承認者およびコミット者は、要求の承認に招待されたままです。ただし、ポリシーの残りの承認者またはコミット者の数には含まれません。
- 残りの承認者またはコミット者がポリシーを満たすために十分ではない場合、要求は、デッドロックを解除するためにデータ・マネージャ権限を持つユーザーに自動的にエスカレーションされます。
- 不在の承認者またはコミット者は、要求の承認またはコミットに招待されたままであり、不在から戻るとアクションを実行できます。

# 26

## データの統合

データの統合は、インポート、エクスポート、抽出およびビューポイント・ロードの実行で構成されます。

詳細は、次のトピックを参照してください。

- [ディメンションのインポート](#)
- [ディメンションのエクスポート](#)
- [マッピング・データのエクスポート](#)
- [グローバル接続の作成](#)
- [抽出の操作](#)
- [ビューポイント・ロードの操作](#)
- [ステージング領域の使用](#)

## アプリケーション接続の作成

アプリケーション接続を使用すると、外部アプリケーションとの間でデータをインポートおよびエクスポートできます。

アプリケーションの登録時にアプリケーション接続を作成します。次を参照してください：

- [Planning およびフリーフォーム・アプリケーションの登録](#)
- [Financial Consolidation and Close アプリケーションの登録](#)
- [Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションの登録](#)
- [Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションの登録](#)

アプリケーションを検査し、「**接続**」タブにナビゲートして、アプリケーション接続を作成したり、接続 URL やユーザー名およびパスワードなどの接続詳細を変更したり、接続を削除することができます。[アプリケーションの検査](#)を参照してください。

### Note:

抽出または抽出パッケージではアプリケーション接続を使用できません。かわりに、グローバル接続を使用する必要があります。[グローバル接続の作成](#)を参照してください。


# ディメンションのインポート

データを外部アプリケーションのディメンションから Oracle Enterprise Data Management Cloud にインポートすると、ディメンションの登録されたバインド済データ・チェーンにノード、プロパティおよび階層関係が生成されます。

「アプリケーション」リストから、ディメンションをインポートします。

- [Planning およびフリーフォーム・ディメンションのインポート](#).
- [Financial Consolidation and Close ディメンションのインポート](#)
- [Enterprise Profitability and Cost Management ディメンションのインポート](#)
- [Oracle Financials Cloud 一般会計ディメンションのインポート](#)
- [E-Business Suite 一般会計ディメンションのインポート](#)
- [ユーザー定義ディメンションのインポート](#).

## ビデオ

目的	参照するビデオ
ディメンションのインポートおよびエクスポートについて学習します。	 <a href="#">アプリケーション・データのインポートおよびエクスポート</a>

### ノート:

すべてのアプリケーション・タイプで、カンマ区切りファイルのインポートとエクスポートがサポートされます。

**Planning** および **Financial Consolidation and Close** アプリケーションの場合は、登録時に外部アプリケーションに対する有効な接続情報を入力すると、接続を使用して外部アプリケーションの受信ボックスからインポートおよびエクスポートできます。その後、そのファイルを **Planning** アプリケーションにインポートできます。

**Oracle Financials Cloud** 一般会計アプリケーションの場合は、登録時に外部アプリケーションに対する有効な接続情報を入力すると、接続を使用して外部アプリケーション・サーバーにエクスポートできます。後でそのファイルを **Oracle Financials Cloud** 一般会計アプリケーションにインポートできます。

## インポートの考慮事項

- インポートするには、インポート先のアプリケーションまたはディメンションに対するデータ・マネージャ権限が少なくとも必要です。
- 「アクティブ」ステータスのディメンションにのみインポートできます。
- 未バインド・ディメンションや参照ディメンションにはインポートできません。
- まず、インポートするディメンションを登録する必要があります。

- すべてのインポート・モードで、インポート・ソース・ファイルにはビューポイントの完全なデータ・セットが含まれている必要があります。ビューポイントに対する変更のみが受信ソース・ファイルに含まれている増分更新を実行する場合は、インポートではなく要求ファイルのアップロードを使用します。[ロード・ファイルを使用する変更](#)を参照してください。
- **Planning**、**Planning** モジュールおよび **Financial Consolidation and Close** アプリケーションでは、属性ディメンションもインポートできます。最初に属性ディメンションを登録する必要があります。[属性の理解](#)を参照してください。
- 既存のディメンションにインポートする際に、ディメンションのバインド済データ・チェーンのデータが影響を受けます。バインドされていないオブジェクトはインポート・プロセスで更新されませんが、データ・チェーン内の他のオブジェクトに対する変更によって間接的に影響を受ける場合があります。
- 階層形式の場合、ノードと階層関係がインポートされ、階層セットのグループ化およびソートのオプションに基づいて表示されます。インポートを実行する前に、階層セットを開き、「**カスタム順序の使用**」、「**親ノードからまずグループ化**」および「**次を基準に最下位ノードをソート**」設定を使用して親ノードと最下位ノードのソート順を決定することで、外部アプリケーションと一致するように親ノードと最下位ノードのソートを調整できます。[階層セットの作成](#)を参照してください。

#### ノート:

マージ・インポートの場合、「**並替えの処理**」を有効にして、インポート先のビューポイントでのノードの順序をインポート・ソース・ファイルでの順序に設定します。[インポート・オプションの管理](#)を参照してください。

- 「マージ」または「置換」モードで既存のディメンションにインポートすると、次のように、インポートしているノードのノード・タイプがチェックされます。
  - ノードが、バインドされたディメンション内にすでに存在する場合、インポートの実行時にシステムによって既存のノードとノード・タイプが検出されて使用されます。
  - ノードが、バインドされたディメンションにまだ存在していない場合、最初の登録時に作成されたノード・タイプを使用してノードがインポートされます。

#### ノート:

汎用アプリケーションでのインポートについて、ノード・タイプの追加の考慮事項があります。[ユーザー定義ディメンションのインポート](#)を参照してください。

- インポート・ファイルは **UTF-8** でエンコードしてください。


#### ヒント:

Unicode 文字を保持するには、**Excel** の次のオプションでインポート・ファイルを保存します: **CSV UTF-8 (コンマ区切り) (\*.csv)**。



## インポート・モード

データをインポートするとき、選択できるインポート・モードが 3 つあります。次の表に、インポート・モードを示します。

インポート・モード	階層ビューポイント更新	リスト・ビューポイント更新
<b>マージ</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• インポート・ソースにあり、バインドされたビューポイントにないノードを追加します</li> <li>• インポート・ソースとバインドされたビューポイントで値が異なるノード・プロパティ値を更新します。</li> <li>• インポート・ソースに、バインドされたビューポイントとは異なる親があるノードの場合:               <ul style="list-style-type: none"> <li>– 共有ノードが有効な場合はノードが挿入されます。</li> <li>– 共有ノードが有効でない場合はノードが移動されます。</li> </ul> </li> <li>• バインドされたビューポイントにあり、インポート・ソースにないノードを除去します。</li> <li>• マージ・インポート・オプションに基づいて、バインドされたビューポイントにあり、インポート・ソースにないノードが削除されます。<a href="#">インポート・オプションの管理</a>を参照してください。</li> <li>• 関係プロパティ値の場合:               <ul style="list-style-type: none"> <li>– 関係プロパティ値がインポート・ソースに存在し、バインドされたビューポイントに存在しない場合、関係プロパティ値が更新されます。</li> <li>– 関係プロパティ値がインポート・ソースとバインドされたビューポイントで同じ場合、更新は行われません。</li> <li>– インポート・ソースに関係プロパティ値が含まれていない場合、更新は行われません。</li> </ul> </li> <li>• 「<b>並替えの処理</b>」を選択して、ノードをインポート・ファイルでの順序に並べ替えます。<a href="#">インポート・オプションの管理</a>を参照してください。</li> </ul> <div style="border: 1px solid #0070C0; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p> <b>ノート:</b></p> <p>マージ・インポートでの「並替え」アクションは、挿入または追加でのみサポートされます。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• インポート・ソースにあり、バインドされたビューポイントにないノードを追加します</li> <li>• インポート・ソースとバインドされたビューポイントで値が異なるノード・プロパティ値を更新します。</li> <li>• ノードは、作成または更新された日付の降順で表示されます。</li> </ul>

インポート・モード	階層ビューポイント更新	リスト・ビューポイント更新
置換	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ノードがインポートされ、階層が次のように再作成されます。               <ul style="list-style-type: none"> <li>- バインドされたビューポイントおよびインポート・ソースにある階層関係は保持されます。</li> <li>- バインドされたビューポイントにあり、インポート・ソースにない階層関係は削除されます。</li> </ul> </li> <li>• 既存の関係プロパティの場合:               <ul style="list-style-type: none"> <li>- インポート・ファイルに関係と関係プロパティ値の両方が含まれている場合は、既存の値がインポートからの値で上書きされます。</li> <li>- インポート・ファイルに関係が含まれ、関係プロパティ値が含まれていない場合は、既存の値が保持されます。これにより、これらの関係に対して <b>Oracle Enterprise Data Management Cloud</b> で直接定義されたプロパティ値をアプリケーションに残すことができます。</li> <li>- インポート・ファイルに関係が含まれていない場合、関係プロパティは削除されます。</li> </ul> </li> </ul> <div style="border: 1px solid orange; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p><b>▲ 注意:</b></p> <p>インポート・ファイルに階層セット全体が含まれていることを確認してからインポートを実行してください。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• インポート・ソースにあり、バインドされたビューポイントにないノードを追加します</li> <li>• インポート・ソースとバインドされたビューポイントで値が異なるノード・プロパティ値を更新します。</li> <li>• ノードは、作成または更新された日付の降順で表示されます。</li> </ul>
リセット	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ディメンションのすべてのバインドされたノード・タイプのすべてのノードがクリアされます</li> <li>• ディメンションのすべてのバインドされた階層セットのすべての関係がクリアされます</li> <li>• ノードが再インポートされ、関係が再作成されます</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 既存のバインドされたノードがクリアされ、ノードがインポートされます</li> <li>• ノードがインポートされ、インポート・ファイルまたは外部アプリケーションでリストされている順序で表示されます。</li> </ul>

### ノート:

ディメンションに初めてインポートするときは、「リセット」インポート・モードを使用する必要があります。空のディメンションで「マージ」または「置換」インポートは使用できません。

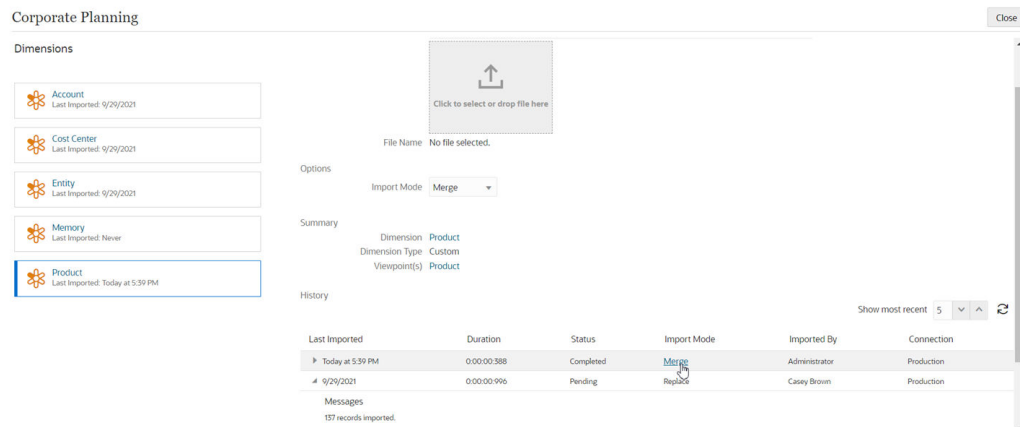
## インポート履歴のレビュー

インポート画面で、「履歴」セクションをレビューして、このディメンションに対して実行された最新のインポートの日時を確認します。デフォルトでは、最近の 5 つが表示されます。表示されるインポートの数(50 個まで)を「最新の表示」フィールドで調整

できます。  をクリックすると表が更新されます。

表には、各インポートの実行に要した時間、インポートのステータスとモード、インポートを実行したユーザー、および使用された接続の名前が表示されます。ファイルからのインポートの場合、接続には「なし」が表示されます。

行の展開矢印をクリックして、インポートされたレコード数またはインポート・プロセスで発生したエラーを表示します。マージ・インポートの場合、「インポート・モード」列のリンクをクリックして、インポートから生成された要求を検査します。



The screenshot shows the 'Corporate Planning' interface. On the left, there is a 'Dimensions' list with items like Account, Cost Center, Entity, Memory, and Product. The 'Product' dimension is selected. On the right, there is an 'Import' dialog box with a file upload area, 'Options' (Import Mode: Merge), and a 'Summary' table. Below the dialog is the 'History' section, which contains a table of import records.

Last Imported	Duration	Status	Import Mode	Imported By	Connection
Today at 5:39 PM	0:00:00:388	Completed	<a href="#">Merge</a>	Administrator	Production
9/29/2021	0:00:00:906	Pending	Replaced	Casey Brown	Production


Below the table, it says 'Messages: 157 records imported.'

## マージ・インポートの操作

マージ・インポートは、(置換およびリセットのように)データを直接インポートするのではなく、インポート要求の変更を取得します。これにより、インポートで実行された増分変更を識別し、トランザクション履歴にインポート変更を表示し、サブスクリプションを使用してビューポイント間でインポート変更を同期できます。

マージ・インポートを実行すると、次のプロセスに従ってデータがインポートされます。

1. インポート・ソース・データが既存のデータと比較され、差異が特定されます。
2. バインドされたビューポイントのビューのドラフト要求が作成され、これにはインポート差異からの要求アイテムおよびアクションが含まれます。差異がない場合、インポート要求は作成されず、ユーザーに通知されます。

 ノート:

マージ・インポートの要求アイテム制限は 20,000 アイテムです。

3. アプリケーション固有の検証は要求に対して実行されます。
  - デフォルトでは、検証エラーが見つからない場合、要求は自動的に送信されます。「**自動送信**」の選択を解除すると、要求が自動的に送信されないようにすることができます。[インポート・オプションの管理](#)を参照してください。
  - 検証エラーが見つかった場合、要求は送信ステージの「ドラフト」ステータスのままになり、インポートを実行したユーザーに割り当てられます。要求に割り当てられたユーザーに電子メール通知が送信されます。

 ノート:

Planning および Financial Consolidation and Close のインポートの場合、定義済メンバーは追加できませんおよび定義済メンバー・プロパティは変更できませんの検証は実行されません。

4. デフォルトでは、「承認」および「コミット」ステージが省略され、要求アイテムがコミットされて、要求が「クローズ済」に設定されます。これらのステージが省略されないようにするには、「**承認およびコミットの省略**」の選択を解除します。[インポート・オプションの管理](#)を参照してください。
5. インポートにサブスクリプションのソース・ビューポイントに対する要求アクションが含まれている場合、ターゲット・ビューポイントのサブスクリプション要求が生成されます。同じターゲット・ビューのサブスクリプションでは、要求アイテムが同じサブスクリプション要求にグループ化されます。[ビューポイントのサブスクライブ](#)を参照してください。

インポートが完了すると、インポート要求リンクをクリックして、インポート要求に移動できます。要求が「送信」または「承認」ステージにある場合、要求ビューに表示されます。「クローズ済」の場合、インスペクタに表示されます。インポート結果をトランザクション履歴に表示できます。

## インポート・オプションの管理

インポート・オプションを使用して、空の入力値の処理方法、インポート時のデータ・クリアの管理方法、およびマージ・インポート時の削除および並替えの処理方法をディメンション・レベルで指定できます。

ディメンションのインポート・オプションを管理するには、インポート先のディメンションを検査([ディメンションの検査](#)を参照)してから、「インポート/エクスポート」タブを選択します。

### 空の値のインポート

空の値([プロパティでの Null および空の値の理解](#)を参照)をサポートしているデータ型のプロパティの場合、空の値の処理方法は「**インポート時に空のフィールドを無視**」フィールドで決まります。プロパティの値が含まれていないファイルをインポートすると、次のようになります:

- 「**インポート時に空のフィールドを無視**」が有効になっている場合、プロパティの値はインポートされません。(プロパティの値を継承せず、定義済またはデフォルトの値がない場合、プロパティの値は null になります。)
- 「**インポート時に空のフィールドを無視**」が無効になっており、定義済の空の値をプロパティのデータ型がサポートしている場合は、定義済の空の値がプロパティに格納されます。定義済の空の値をプロパティのデータ型がサポートしていない場合は、インポートで警告が表示され、そのプロパティの値はインポートされません。

定義済の空の値をプロパティのデータ型がサポートしていない(ブールなど)場合に、そのプロパティの値が含まれていないファイルをインポートすると、インポート・プロセスで警告が表示され、そのプロパティの値はインポートされません。

### インポート時の値のクリア

「**インポートにおける値のクリアのキーワード**」設定では、キーワードを定義して、そのキーワードが指定されたファイルのインポート時に、プロパティの値をクリアすることができます。たとえば、このフィールドに<none>と入力すると、プロパティのフィールドに<none>が含まれているファイルをインポートしたときに、そのプロパティの既存の値がクリアされます。(プロパティの値を継承せず、デフォルト値がない場合、プロパティの値は null になります。)

### インポート時の許容値の拡張

「リセット」および「置換」のインポート・モードの場合のみ、「**インポート時の許容値の拡張**」を選択して、インポートの実行時に文字列およびリスト・データ型のプロパティに新しい個別の許容値を追加します。ノード・タイプ・オーバーライド・レベルに現在許容されている値がある場合、インポートされた許容値がそれらに追加されます。それ以外の場合は、新しい許容値がアプリケーション・オーバーライド・レベルに追加されます。

#### ノート:

「**インポート時の許容値の拡張**」オプションは、「マージ」インポートには使用できません。

### マージ・インポート・オプション

#### マージ・インポートの際のノードの削除や並べ替え

デフォルトの場合、マージ・インポートではインポート先のディメンションからノードは削除されません。インポート・ファイルではなくバインドされたディメンションにノードがある場合、ノードはインポート先の階層セットから除去されますが、ノード・セットからは削除されません。インポート・ファイルにないバインドされたディメンションのすべてのノードを削除するように選択することも、ディメンションの他の階層ノード・セットで参照されていないバインドされたディメンションのノードのみを削除することもできます。さらに、インポート・ファイルのノードの順序に基づいてディメンションのノードを並べ替えることもできます。

マージ・インポートの際にノードの削除や並べ替えがどのように処理されるかを指定するには:

1. 「**マージ・インポート・オプション**」セクションで、「**削除の処理**」について次のオプションから選択します。

モード	説明	使用例
使用不可 (デフォルト設定)	ノードがインポート・ソースに存在しない場合、バインドされたビューポイントからそのノードを除去します。バインドされたノード・タイプからはノードは削除されません。	バインドされたビューポイントにあり、インポート・ソースにないノードは削除しません。
セーフ・モード	ノードがインポート・ソースに存在しない場合、バインドされたビューポイントからそのノードを除去します。ノードがディメンションの他の階層ノード・セットまたは階層セットで使用されていない場合にのみ、除去されたノードはバインドされたノード・タイプからも削除されます。	他の階層セットや階層ノード・セットで使用されている除去されたノードが削除されないようにします。
強制モード	ノードがインポート・ソースに存在しない場合、バインドされたビューポイントからそのノードを削除します。これらのノードは、ディメンション内のノード・セットまたは階層セットで使用されているノード・タイプから削除されません。	インポート・ソースにないバインドされたビューポイントから、それがディメンションの他の階層セットや階層ノード・セットで使用されているかどうかにかかわらず、ノードを削除します。

2. 「**並替えの処理**」を選択して、インポート先のビューポイントでのノードの順序をインポート・ソース・ファイルでの順序に設定します。

**▲ 注意:**

既存の順序とインポート・ファイルでの順序に著しい差異がある場合、このオプションにより大量に要求アイテムが生成される場合があります。

3. 「**保存**」をクリックします。

### マージ・インポートのワークフロー・オプションの構成

デフォルトでは、マージ・インポート要求に検証エラーがない場合、要求は自動送信され、承認またはコミット・ポリシーは省略されます。次のオプションを使用して、デフォルトの動作を調整します:

- マージ・インポート要求が自動送信されないようにするには、「**自動送信**」の選択を解除します
- 自動送信されたマージ・インポート要求に対してすべての承認およびコミット・ポリシーが自動的に省略されないようにするには、「**承認およびコミットの省略**」の選択を解除します。(「**自動送信**」フィールドの選択を解除した場合、このオプションは自動的にクリアされます)。

## ディメンションのエクスポート

ディメンションにバインドされたビューポイントから外部アプリケーションにエクスポートし戻すことができます。ノードは、ノード・セットの最上位ノードから始めてエクスポートされます。たとえば、1つのディメンションに米国とすべての州を含めることができます。ノ

ード・セットの最上位ノードがテキサスである場合、テキサスとその下位のノードがエクスポートされます。

### ベスト・プラクティス

エクスポートする前にディメンションにバインドされたビューポイントを検証し、データの整合性を確保することをお勧めします。ディメンションのエクスポート時にビューポイントを自動的に検証するには、「**エクスポート前に検証**」オプションを使用します。[エクスポート・オプションの管理](#)を参照してください。

#### ノート:

「**エクスポート前に検証**」オプションを使用すると、すべてのシステム、アプリケーションレベルおよびカスタム検証に加えて、すべての制約が実行されます。[検証および制約の理解](#)を参照してください。

「アプリケーション」リストから、ディメンションをエクスポートします。

- [Planning](#) および [フリーフォーム・ディメンションのエクスポート](#)
- [Oracle Financials Cloud 一般会計ディメンションのエクスポート](#)
- [Enterprise Profitability and Cost Management](#) ディメンションのエクスポート
- [E-Business Suite 一般会計ディメンションのエクスポート](#)
- [Financial Consolidation and Close](#) ディメンションのエクスポート
- [ユーザー定義ディメンションのエクスポート](#)

### ビデオ

目的	参照するビデオ
ディメンションのインポートおよびエクスポートについて学習します。	 <a href="#">アプリケーション・データのインポートおよびエクスポート</a>

### 考慮事項

- すべてのアプリケーション・タイプで、カンマ区切りファイルのインポートとエクスポートがサポートされます。
- **Planning** アプリケーションの場合は、登録時に外部アプリケーションに対する有効な接続情報を入力すると、接続を使用して外部アプリケーションの受信ボックスからインポートおよびエクスポートできます。その後、そのファイルを **Planning** アプリケーションにインポートできます。
- **Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーション**の場合は、登録時に外部アプリケーションに対する有効な接続情報を入力すると、接続を使用して外部アプリケーション・サーバーにエクスポートできます。後でそのファイルを **Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーション**にインポートできます。
- **Oracle Enterprise Data Management Cloud** では、エクスポート・オプションを使用して、外部 **Financials Cloud** 環境でインポートおよび公開プロセスを開始し、セ

グメント値とツリーの同期を完了する追加のエクスポート後タスクを組み込むことができます。[エクスポート・オプションの管理](#)を参照してください。

#### 開始する前に:

- エクスポートするには、エクスポート元のアプリケーションまたはディメンションに対するデータ・マネージャ権限が少なくとも必要です。
- 「アクティブ」ステータスのディメンションからのみエクスポートできます。
- 未バインド・ディメンションや参照ディメンションからエクスポートすることはできません。
- Planning、Planning モジュールおよび Financial Consolidation and Close アプリケーションでは、属性ディメンションもエクスポートできます。[属性の理解](#)を参照してください。
- エクスポートでのノードおよび階層関係のソート順は、階層セットのグループ化およびソートのオプションに基づきます。[階層セットの作成](#)を参照してください。
- エクスポート・ファイルは UTF-8 でエンコードされます。

#### ヒント:

Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションを除くすべてのアプリケーション・タイプについて、エクスポートするディメンションのバインド・キーを編集することで、エクスポート・ファイルの列の順序を変更したりエクスポートされる列を制御できます。[バインド・キーの編集](#)を参照してください。


#### エクスポート履歴のレビューおよびエクスポート・ファイルのダウンロード

エクスポート画面で、「履歴」セクションをレビューして、このディメンションに対して実行された最新のエクスポートの日時を確認します。デフォルトでは、最近の 5 つが表示されます。表示されるエクスポートの数(50 個まで)を「最新の表示」フィールドで調整できます。




をクリックすると表が更新されます。

表には、各エクスポートの実行に要した時間、エクスポートのステータスとモード、エクスポートを実行したユーザー、および使用された接続の名前が表示されます。ファイルへのエクスポートの場合、接続には「なし」が表示されます。行の展開矢印をクリックして、エクスポートされたレコード数、エクスポート後タスクのステータス、検証エラーなど、エクスポートに関する詳細を表示します。

「アクション」列で、「ファイルにダウンロード」 をクリックして、エクスポート・ファイルをサーバーからダウンロードします。これは、長時間のエクスポート中にブラウザがタイムアウトする場合や、エクスポート結果を以前のエクスポート・ファイルと比較するために役立ちます。ファイルに対して実行されたエクスポート・ファイルのみをダウンロードできます。エクスポートが接続に対して実行された場合は、「エクスポート」画面からダウンロードできません。

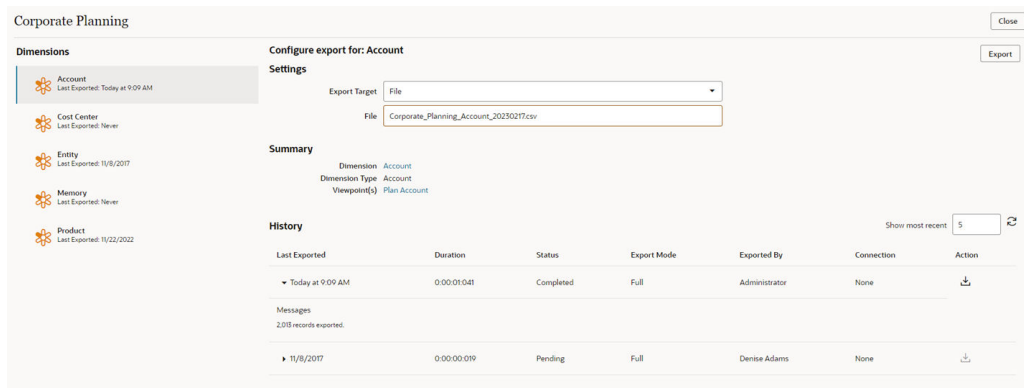
ファイルがサーバーで使用できなくなっている場合、メッセージが表示されます。



 ノート:

REST API から実行されたエクスポートは、エクスポート画面からダウンロードできません。EPMAutomate または REST API を使用して、それらのエクスポート・ファイルをステージング領域からダウンロードします。**Oracle Enterprise Data Management Cloud REST API のステージング領域からのファイルのダウンロード**を参照してください。

接続への Oracle Financials Cloud 一般会計のエクスポートでは、Financials Cloud 環境でエクスポート後タスク(勘定科目階層の処理など)を有効にしている場合は、これらのタスクのステータスも表示されます。**エクスポート・オプションの管理**を参照してください。



**Configure export for: Account**



**Settings**

Export Target: File  
File: Corporate\_Planning\_Account\_20250217.csv

**Summary**

Dimension: Account  
Dimension Type: Account  
Viewpoint(s): Plan Account

**History**

Last Exported	Duration	Status	Export Mode	Exported By	Connection	Action
Today at 9:09 AM	0:00:01.041	Completed	Full	Administrator	None	
Messages 2,018 records exported.						
11/8/2017	0:00:00.019	Pending	Full	Denise Adams	None	

## エクスポート・オプションの管理

エクスポート・オプションを使用して、null または空の値のかわりにエクスポートするキーワードに加えて、エクスポート前にどのように検証を実行するかを定義できます。

ディメンションのエクスポート・オプションを管理するには、エクスポート元のディメンションを検査(**ディメンションの検査**を参照)してから、「インポート/エクスポート」タブを選択します。

### Null および空の値にかわるキーワードのエクスポート

null および空の値のかわりにキーワードをエクスポートできます。null または空の値があるプロパティをエクスポートすると、実際の空白値ではなく、そのプロパティに対して「**Null 値のエクスポート・キーワード**」または「**空の文字列のエクスポート・キーワード**」で指定したキーワード(たとえば、<none>)がエクスポートされます。

### ノート:

Planning、Planning Modules および Financial Consolidation and Close アプリケーションの場合、null および空の値に対するデフォルトのキーワードは<none>です。このキーワードは変更できますが、ターゲット・アプリケーションでキーワードが null または空の値として認識されないことがあります。指定したキーワードは、ターゲット・アプリケーションでそれをサポートするプロパティにのみ適用されます:

- 別名
- 属性
- 説明(共有ノードでない場合)
- 式(データ・ストレージが「共有」の場合は常にキーワードをエクスポートします)
- 式の説明(データ・ストレージが「共有」の場合は常にキーワードをエクスポートします。「共有」でないときは、空白値(定義されている場合)またはキーワード(デフォルトが空白の場合)がエクスポートされます)
- スマート・リスト(共有ノードでない場合)
- UDA

さらに、null または空の値のキーワードは、事前定義済メンバーにはエクスポートされません。

### ヒント:

エクスポート先のアプリケーションが null 値と空の値を区別しない場合は、「Null 値のエクスポート・キーワード」と「空の文字列のエクスポート・キーワード」の両方に同じキーワードを使用する必要があります。

### ディメンションをエクスポートする前のビューポイントの検証

データの整合性を確保するために、「エクスポート前に検証」オプションを使用して、ディメンションまたはマッピングをエクスポートするときに、ディメンションのビューポイントが自動的に検証されるかどうかを指定できます。次のオプションから選択してください。

- **使用不可**(デフォルト): エクスポート前に検証は実行されません。
- **エラー時にアラート**: エクスポートが実行される前に、重要度が「エラー」である、ディメンションのバインドされたビューポイントの検証([検証重要度の理解](#)を参照)が実行されます。検証に失敗した場合、ユーザーにアラートが表示されますが、エクスポートは実行されます。検証の失敗およびエクスポートの結果は、エクスポート画面の「履歴」セクションに表示されます。
- **エラー時に中止**: エクスポートが実行される前に、重要度が「エラー」である、ディメンションのバインドされたビューポイントの検証([検証重要度の理解](#)を参照)が実行されます。検証に失敗した場合、ユーザーにアラートが表示され、エクスポートは中止されます。検証の失敗およびエクスポートの結果は、エクスポート画面の「履歴」セクションに表示されます。

 ノート:

「エクスポート前に検証」を実行すると、すべてのシステム、アプリケーションレベルおよびカスタム検証に加えて、すべての制約が実行されます。検証および制約の理解を参照してください。

エクスポート検証の問題がある場合は、「ビューポイント」リンクをクリックしてビューポイントを開き、問題を解決します。検証の問題の解決を参照してください。

検証の問題が解決した後、ビューポイント・ペインから「エクスポートに戻る」をクリックしてエクスポート画面に戻ります。

### Oracle Financials Cloud 一般会計のエクスポート・オプション

Oracle Financials Cloud 一般会計ディメンションの接続へのエクスポートの場合にのみ、エクスポート・オプションを構成して、外部 Financials Cloud 環境でインポートおよび公開プロセスを開始し、セグメント値とツリーの同期を完了する追加のエクスポート後タスクを組み込むことができます。エクスポート・オプションを有効にすると、Oracle Financials Cloud 一般会計接続にディメンションをエクスポートするたびに実行されます。

次のオプションを使用できます:

- **セグメント値と階層のインポート:** エクスポートされている値を使用して、外部アプリケーションの Financials Cloud セグメントの値と階層を更新します。

 ノート:

エクスポートを実行するユーザーには、Oracle ERP Cloud の GL\_LOAD\_ACCOUNT\_VALUES\_AND\_HIERARCHIES\_PRIV 権限が必要です。

- **セグメント値と階層の処理:** 行と列の水平化、ツリーの監査とアクティブ化、値セットと勘定科目階層のプロセスの保守、階層プロセスの公開など、勘定科目階層に関連する外部システムでプロセスを送信します。

 ノート:

エクスポートを実行するユーザーには、Oracle ERP Cloud の次の権限が必要です:

- GL\_LOAD\_ACCOUNT\_VALUES\_AND\_HIERARCHIES\_PRIV
- FND\_APP\_MANAGE\_FLEXFIELD\_VALUE\_SET\_PRIV

- **階層をキューブに公開:** 残高キューブの勘定体系ディメンション・メンバーおよび階層を作成および更新します。

### ノート:

エクスポートを実行するユーザーには、Oracle ERP Cloud の次の権限が必要です:

- GL\_LOAD\_ACCOUNT\_VALUES\_AND\_HIERARCHIES\_PRIV
- FND\_APP\_MANAGE\_FLEXFIELD\_VALUE\_SET\_PRIV

### ノート:

「セグメント値と階層の処理」および「階層をキューブに公開」オプションについては、Oracle Enterprise Data Management Cloud からエクスポートされたツリーおよびツリー・バージョンに対してのみ Oracle Financials Cloud 一般会計で統合タスクが実行されます。

デフォルトでは、すべてのエクスポート・オプションの選択が解除されており、最初のオプションのみを選択できます。各オプションを選択すると、次のオプションが選択可能になります。たとえば、「セグメント値と階層の処理」を選択するには、その前に「セグメント値と階層のインポート」を選択する必要があります。

オプションの選択を解除すると、そのオプションの下にある選択済のすべてのオプションがクリアされます。

## 増分エクスポート



増分エクスポートを使用すると、指定した日時またはエクスポート・タイプから新しいノードまたは更新されたノードをエクスポートできます。これらは、特定のアプリケーション・タイプでのみリスト・ビューポイントの REST API メソッドとして使用できます。

### 考慮事項

- [ディメンションの増分エクスポート REST API メソッド](#)を使用して、増分エクスポートを実行します。
- 増分エクスポートは、次のアプリケーション・タイプのリスト・ビューポイントに使用できます:
  - Oracle Financials Cloud 一般会計
  - Oracle E-Business Suite 一般会計
  - 汎用
- 前述のアプリケーション・タイプのファイルへのエクスポートを実行できます。Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションの場合のみ、接続へのエクスポートも実行できます。
- エクスポート・ファイル・フォーマットは、アプリケーション・タイプのエクスポート・フォーマットに基づきます。

次の設定を使用して、増分エクスポートを定義できます:

表 26-1 増分エクスポート設定


設定	説明
nodeChangeTypes	<p>エクスポートするノード変更のタイプ:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>新規:</b> 指定した日時以降に追加されたノードのみがエクスポートされます。</li> <li>• <b>更新済:</b> 指定した日時以降に更新されたノードのみがエクスポートされます。</li> </ul> <div style="border-left: 2px solid #0070C0; padding-left: 10px; margin-top: 10px;"> <p> <b>ノート:</b></p> <p>同じエクスポートに「<b>新規</b>」と「<b>更新済</b>」の両方を選択できます。</p> </div>
since	エクスポート開始のタイムスタンプ(エポック時間)。
sinceLastExportOfType	<p>エクスポート・タイプを指定します(<b>完全</b>または<b>増分</b>)。指定されたエクスポート・タイプがこのバインディングに最後に実行された後に追加または更新されたノードがエクスポートされます。</p> <div style="border-left: 2px solid #0070C0; padding-left: 10px; margin-top: 10px;"> <p> <b>ノート:</b></p> <p>since または sinceLastExportOfType のいずれかを指定する必要があります。</p> </div>

## マッピング・データのエクスポート


マッピング・データのエクスポートは、次のような Enterprise Performance Management データ管理システムと連携するように設計されています:

- Planning、Planning モジュールおよびフリーフォームのターゲット・ディメンション
  - Financial Consolidation and Close ターゲット・ディメンション
  - Enterprise Profitability and Cost Management のターゲット・ディメンション
- 汎用ターゲット・ディメンションのマッピング・データもエクスポートできます。


### ビデオ

目的	参照するビデオ
アプリケーション間でのデータのマッピングについて学習します。	 <a href="#">アプリケーション間でのデータのマッピング</a>

開始する前に:

- エクスポート元のディメンションに対するデータ・マネージャ権限を保有していることを確認してください。
- エクスポート元のディメンションのステータスが「アクティブ」であることを確認してください。
- マッピング階層内のソース・ノードとターゲット・ノードに 1 つ以上のマッピング・キーが定義されていることを確認します。マッピング・キーの場所名が必要です。[マッピング・キーの定義](#)を参照してください。
- 汎用アプリケーションを使用している場合、マッピング・データはファイルに対してのみエクスポートできます。
- **Planning**、**Planning** モジュール、フリーフォームまたは **Financial Consolidation and Close** を使用している場合、マッピング・データは次の場所にエクスポートできます:
  - ファイル
  - データ管理受信ボックス(外部アプリケーション接続を使用)。アプリケーションを検査することで接続設定を表示できます。**「アプリケーション」**で、アプリケーションまでスクロールし、をクリックし、**「検査」**を選択し、**「接続」**を選択します。  
エクスポート後、外部アプリケーションでデータ管理を使用してマッピング・データをインポートできます(*Oracle Enterprise Performance Management Cloud データ管理の管理のメンバー・マッピングのインポート*を参照)

1 つ以上のマッピング・キーのマッピング・データをエクスポートできます。たとえば、2 つのソース・アプリケーションを 1 つのターゲット・アプリケーションにマッピングして、2 つのマッピング・キーを定義した場合は、2 つのマッピング・キーの場所名を使用してマッピング・データを 2 回エクスポートします。マッピング・データをエクスポートするには:

1. **「アプリケーション」**で、アプリケーションを検索し、をクリックし、**「エクスポート・マッピング」**を選択します。
2. **「場所」**で、選択したディメンションのマッピング・キーに定義されている場所名を選択します。  
ディメンションに対してマッピング・キーがすでに設定されている必要があります。[マッピング・キーの定義](#)を参照してください。
3. ターゲット・ディメンションを選択します。
4. **「エクスポート・ターゲット」**で、**「ファイル」**または**「接続」**を選択し、次のいずれかを実行します。
  - **「接続」**を選択した場合、エクスポート先の接続を選択し、エクスポート・ファイル名を指定します。
  - **「ファイル」**を選択した場合、ファイル名が生成されます。デフォルトのファイル名は `アプリケーション名_ディメンション名_日付_場所名.csv` (`Planning_Account_20200123_loc1.csv` など)で、エクスポートを実行する前に編集できます。
5. **「エクスポート」**をクリックします。

EPM 自動化(*Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作*)の `exportDimensionMapping` を参照)、REST API (*Oracle Enterprise Data Management Cloud Service* の *REST API* の [ディメンション・マッピングのエクスポート](#)を参照)、またはタスク・

マネージャ (*Financial Consolidation and Close の管理*) の EPM Cloud の自動化統合を参照) を使用して、ディメンションをエクスポートすることもできます。

### マッピング・データ・ファイルの形式

汎用アプリケーション・ディメンションからエクスポートしたデータ・ファイルは、次の列を持つ.csv ファイルです:

- ソース・ノード名
- ターゲット・ノード名
- ソース・ノード・タイプ内の Core.Change.Sign プロパティの True または False が含まれる列。Core.Change.Sign プロパティが使用されていない場合、この列はデフォルトで False に設定されます。

Planning アプリケーション・ディメンションからエクスポートしたデータ・ファイルは、次の列を持つ.csv ファイルです。

- ソース—ソース・ノードの名前
- ターゲット—ターゲット・ノードの名前

#### ノート:

ソース・ノードに Core.Change.Sign プロパティがある場合、ターゲット・ノードに適用されます。たとえば、Core.Change.Sign が True である場合、ターゲット・ノードには負数の符号が適用されます。

- ルール名—空
- ルール説明—空
- ロード・ルール—空

たとえば、これらのノードが Planning マッピング・ビューポイントにあり、ソース・ノードが CC11100 であり、

ソース・ノードの Core.Change.Sign プロパティが True に設定されており、

ターゲット・ノードが 100 である場合、

マッピング・エクスポート行は、列がカンマで区切られた CC11100,-100 , , , になります。

エクスポート後、外部アプリケーションに移動し、マッピング・データをインポートします。外部アプリケーション内でデータ管理モジュールを開き、マッピング・データをインポートします。ロード中、選択したマッピング・キー(データ管理内の場所)のターゲット・ノード内の値に負数の符号が適用されます。

## グローバル接続の作成

グローバル接続により、抽出を使用して外部アプリケーションとデータを共有できます。

次の接続タイプがサポートされています:

- **Oracle EPM Cloud** 接続は、メタデータ・インポート・プロセスで使用するために、Enterprise Performance Management 受信ボックスにデータを送信します。
- **Oracle ERP Cloud** 接続は、ファイルベース・データ・インポート(FBDI)プロセスで使用するために、Universal Content Management (UCM)ドキュメント・アカウントにデータを送信します。
- **Oracle Object Storage** 接続は、より汎用的な外部システムのテクノロジ・アダプタとして機能します。

#### 使用例

- Oracle ERP Cloud へのグローバル接続を使用して、Financials Cloud にインポートするために、アカウントの組合せ、マッピング・セット、関連する値セットなどのデータを転送できます。
- Oracle EPM Cloud へのグローバル接続は、次のように使用できます:
  - Account Reconciliation ビジネス・プロセスを管理する汎用アプリケーションでグローバル接続を使用して、プロファイルをアプリケーション受信ボックスに送信できます。
  - Profitability and Cost Management ビジネス・プロセスのディメンションを管理する汎用アプリケーションでグローバル接続を使用して、メタデータ・ファイルを profitinbox に送信できます。
  - マッピング・ファイルをデータ管理受信ボックスに送信します

#### ノート:

アプリケーションのインポートおよびエクスポートにグローバル接続は使用されません。かわりに、アプリケーションの登録時に指定するアプリケーション接続情報が使用されます。

Oracle Enterprise Data Management Cloud の特定のアプリケーションでのみ使用できるように、接続タイプを制限できます。

#### グローバル接続の作成

#### ノート:

グローバル接続を作成するには、サービス管理者である必要があります。

#### 考慮事項

- グローバル接続を作成した後、抽出に使用できます。複数の抽出にグローバル接続を使用できますが、各抽出で使用できるグローバル接続は 1 つのみです。
- グローバル接続を作成した後は、接続タイプを変更できません。
- グローバル接続は抽出にのみ使用できます。グローバル接続を使用してディメンションのエクスポートを実行することはできません。



- グローバル接続に指定するパラメータは、接続タイプによって決まります。たとえば、Oracle Object Storage へのグローバル接続を設定するときは、デフォルト・バケットを指定する必要があります。
- グローバル接続では基本認証のみがサポートされます。

**グローバル接続を作成するには:**



1. 「接続」から「作成」をクリックします。
2. 接続タイプを選択します:
  - Oracle EPM Cloud
  - Oracle ERP Cloud
  - Oracle Object Storage
3. 接続の名前および必要に応じて説明を入力し、「作成」をクリックします。グローバル接続が接続インスペクタに表示されます。
4. 「編集」をクリックし、接続のパラメータを指定します。指定するパラメータは接続タイプに依存します:
  - **Oracle EPM Cloud のパラメータ:**

フィールド	説明
場所	EPM 受信ボックスの URL。例: https://epm.mycloud.com
ユーザー名/パスワード	基本認証に必要な資格証明
アイデンティティ・ドメイン (オプション)	認可時にユーザー名の前に追加するアイデンティティ・ドメイン。
デフォルト・フォルダ(オプション)	抽出ファイルを EPM Cloud 環境に送信するためのデフォルト・フォルダ: <ul style="list-style-type: none"> <li>- Planning、フリーフォーム、Financial Consolidation and Close、Enterprise Profitability and Cost Management のデフォルトのアプリケーション受信ボックス</li> <li>- Data Management フォルダ(たとえば、inbox/repository)</li> <li>- Profitability and Cost Management 受信ボックス(たとえば、profitinbox)</li> </ul>

- **Oracle ERP Cloud のパラメータ:**

フィールド	説明
場所	EPM サーバーの URL。例: https://erp.mycloud.com
ユーザー名/パスワード	基本認証に必要な資格証明
アイデンティティ・ドメイン (オプション)	認可時にユーザー名の前に追加するアイデンティティ・ドメイン。
デフォルト・ドキュメント・アカウント	Oracle ERP Cloud でのファイルの抽出先フォルダ。たとえば、fin/generalLedger/import。

- **Oracle Object Storage のパラメータ:**

フィールド	説明
場所	<p>Oracle Object Storage Cloud バケットの swift URL。URL のフォーマットは: <code>https://swiftobjectstorage.region_identifier.mycloud.com/v1/namespace</code> であり、ここで:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>region_identifier は、ホストしている Oracle Cloud Infrastructure (OCI) です</li> <li>namespace は、すべてのバケットとオブジェクトの最上位のコンテナです。各 Oracle Cloud Infrastructure テナントには、アカウントの作成時に、システムによって生成された一意の Object Storage 名前空間名が割り当てられます。</li> </ul> <div style="background-color: #e6f2e6; padding: 10px; border: 1px solid #ccc;"> <p> <b>ヒント:</b></p> <p>Oracle Object Store の swift URL には、バージョンとネームスペースを含める必要があります。「場所」パラメータで末尾にスラッシュを使用しないでください。</p> </div>
ユーザー名/パスワード	<p>基本認証に必要な資格証明</p> <div style="background-color: #e6f2e6; padding: 10px; border: 1px solid #ccc;"> <p> <b>ノート:</b></p> <p>REST API エンドポイントへのグローバル接続については、次のタスクを実行します:</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> <li>認証トークンを生成します(『Oracle Cloud Infrastructure ドキュメント』の<a href="#">認証トークンを作成するには</a>を参照してください)。</li> <li>「ユーザー名」に、認証トークンが生成された OCI ユーザー名を入力します。</li> <li>「パスワード」に、生成された認証トークンを入力します。</li> </ol>
デフォルト・バケット	抽出されたファイルをオブジェクト・ストレージのネームスペース内に格納するためのコンテナ。
デフォルト・サブフォルダ(オプション)	抽出ファイルを書き込む、デフォルト・バケットの下のサブフォルダ。指定したサブフォルダが存在しない場合は、作成されます。

- (オプション): 「サポートされているアプリケーション」で、「指定済」をクリックし、このグローバル接続を使用できるアプリケーションを選択します。
- 「接続のテスト」をクリックし、接続の詳細を検証します。


 **ノート:**

Oracle Object Storage 接続の場合、接続をテストするにはデフォルト・バケットを入力する必要があります。

7. 「保存」をクリックします。

 ノート:

接続を保存する前に、すべての接続内のすべての問題を修正する必要があります。いずれかの接続の接続詳細に欠落した必須フィールドがある場合、その接続にインジケータが表示され、1 つ以上の接続に修正が必要な問題があるというエラーが表示されます。

グローバル接続を削除するには、「アクション」列で  をクリックし、「削除」をクリックします。抽出で使用されているグローバル接続は削除できません。

## 抽出の操作

抽出により、ディメンション内のビューポイントからフォーマットされたファイルまたはグローバル接続にデータを取得できます。任意のプロパティから、任意のプロパティについて抽出できます。ビューポイントとプロパティは、抽出に含めるためにバインドする必要はありません。

### 抽出とエクスポートの比較

抽出とエクスポートは、ディメンションからデータを取得する点で似ています。ただし、いくつかの主要な相違があります:

抽出	エクスポート
バインディング・ステータスに関係なく、任意のビューポイントまたはプロパティに対して実行できます	バインドされたビューポイントおよびプロパティに制限されます
ビューポイントの全体データ・セット、データのフィルタされたサブセット、または増分データ変更を出力できます	バインドされたビューポイントの全体データ・セット、またはバインドされたリスト・ビューポイントに対する増分変更を出力できます。
ディメンション所有者またはメタデータ・マネージャによって(パブリック抽出の場合)、またはビューへのアクセス権があり、ビューポイントに対して少なくとも参加者(読取り)権限があるユーザーによって(プライベート抽出の場合)、作成およびカスタマイズされます。	登録設定に基づいてシステムで作成されます
フォーマット・オプションはユーザーによって構成できます。外部アプリケーションに対する制約はありません。	ターゲット固有のロジックおよびフォーマットが含まれるため、外部アプリケーションによってインポートできます
ディメンションでは複数の抽出をサポートします	ディメンションごとに 1 つのエクスポートが使用可能です
一度に 1 つのビューポイントに対して抽出を実行できます	アプリケーション・タイプに応じて、複数のビューポイント間で抽出を実行できます
グローバル接続またはファイルに抽出できます(権限に応じて)。	アプリケーション接続またはファイルにエクスポートできます。
ロケールおよびタイム・ゾーンは固定であるため、実行場所に関係なく、抽出の出力は常に同じです	アプリケーション・タイプに応じて、ユーザーのロケールに基づき日付および時間フォーマットが異なる場合があります。

## 抽出の種類を理解

抽出の種類を使用すると、ビューポイントからのすべてのデータの抽出、データの経時的な変化の抽出、または個別の列への階層情報の抽出が可能です。

### すべての抽出の種類に関する考慮事項

- 抽出ファイルは UTF-8 でエンコードされます。
- プロパティは、抽出に複数回追加できます。これにより、ノードの「自」および「至」の値を表示するように抽出列を構成できます。[抽出列の選択](#)を参照してください。
- 抽出のノードに対して包含フィルタまたは除外フィルタとして使用する式を作成できます。たとえば、祖先が「A」のすべてのノードを抽出したり、祖先が「A」のノードを除くすべてのノードを抽出できます。[抽出オプションの指定](#)を参照してください。

### 全体抽出

全体抽出により、現在の期間のビューポイントからすべてのデータを抽出できます。ビューポイントはバインドまたは未バインドでき、抽出にはバインドまたは未バインドのプロパティを含めることができます。

### 増分抽出

増分抽出により、2 つの期間の間におけるビューポイントの変更を抽出できます。「自」と「至」の期間が比較され、抽出ファイルに増分差異が出力されます。



#### Note:

増分抽出は、時間ラベル付きビューポイントには使用できません。

### 増分抽出に関する考慮事項

- 増分抽出の期間を確立するには、「自」と「至」の日付、および日付のオフセット(現在の日付までの日数)を指定するか、または最後の抽出実行以降に行われたすべての変更を抽出できます。[抽出の編集](#)を参照してください。
- すべてのアクションを抽出するか、または抽出するアクションを指定できます。たとえば、追加または削除されたが、更新または名前変更はされていないノードのみを抽出できます。[増分オプションの指定](#)を参照してください。
- 次の抽出オプションは、増分抽出では使用できません:
  - ピボット列
  - 主キー列
  - 反転レベル特殊列

### 世代抽出

世代抽出では、ビューポイント内の階層関係を、他の抽出の種類のように親と子の列としてではなく、抽出の別々の列として抽出できます。祖先の最大深さを定義し、最大深さより小さいノードの祖先列に入力するための繰返しオプションを指定できます。[世代オプションの指定](#)を参照してください。

### 世代抽出に関する考慮事項

- 階層ビューポイントでのみ、世代抽出を実行できます。
- 「ソース・タイプ」列では、ノードまたはその祖先のプロパティを抽出していることを指定できます。たとえば、ノードとその祖先の名前を取得するには、抽出に Core.Name を 2 回追加し、「ソース・タイプ」を使用して 1 つはノード用で、もう 1 つはその祖先用であることを指定します(例 1: バランスがとれた階層でのノードおよび祖先フィルタを参照)。
- 抽出オプションは、デフォルトでは「親の再接続」が有効に設定され、「暗黙共有ノードの除外」が無効に設定されています。これらの設定は変更できません。抽出オプションの指定を参照してください。

世代抽出の例は、[世代抽出の例](#)を参照してください。

## 世代抽出の例

このトピックでは、ノードおよび祖先フィルタ、最大深さ、および世代抽出を使用する様々な方法を示すためのバランス入力オプションなどの様々な抽出オプションの例をいくつか示します。

### Tip:

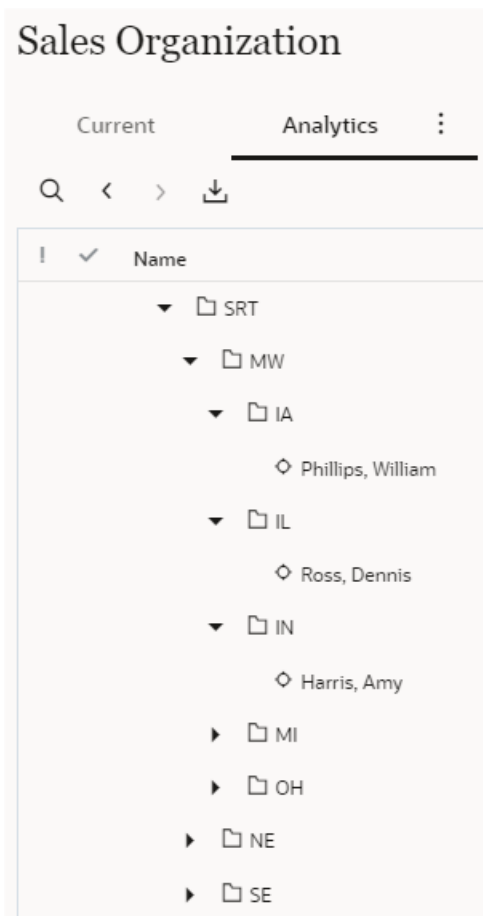
- バランスがとれた階層は、すべての最下位ノードが同じレベルにある階層です。
- バランスがくずれた階層(または自然階層)は、最下位ノードが異なるレベルにある階層です。

「最大深さ」および「バランス入力オプション」フィールドを使用して、すべての最下位ノードを同じレベルにするために親、ノードまたは最上位ノードを繰り返すことにより、バランスがくずれた階層のバランスをとることができます。これは、[例 2: バランスがくずれた階層でのバランス入力オプションの使用](#)に示されています。

### 例 1: バランスがとれた階層でのノードおよび祖先フィルタ

この例では、ノードおよび祖先フィルタを使用して、地域別の営業担当のレポートを抽出します。ノード・フィルタを使用して最下位レベル・ノードのみを返し、祖先フィルタを使用して州をフィルタで除外してレポートを縮小し、地域別のレポートを取得します。これはバランスがとれた階層であるため、バランス入力オプションを使用する必要はありません。

この例では、Sales Representative by Territory (SRT) という最上位ノードとその下に複数の地域ノードがある階層を使用します: Midwest (MW)、Northeast (NE)、Southeast (SE)、Southwest (SW) および West (W)。各地域の下に一連の州があり(Midwest の下に Iowa、Illinois、Indiana、Michigan、Ohio など)、各州の最下位ノードとしてに営業担当のリストがあります:



最初に、祖先の Core.Name とノードの Core.Name を抽出に追加して、ノードとその祖先の名前を抽出します(次の挿入図の列を参照)。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	O	P
1	Level_	Node Name													
2	SRT														
3	SRT	MW													
4	SRT	MW	IA												
5	SRT	MW	IA	Phillips, William											
6	SRT	MW	IL												
7	SRT	MW	IL	Ross, Dennis											
8	SRT	MW	IN												
9	SRT	MW	IN	Harris, Amy											
10	SRT	MW	MI												
11	SRT	MW	MI	Murphy, Edward											
12	SRT	MW	MI	Reed, Mary											
13	SRT	MW	OH												
14	SRT	MW	OH	Taylor, Dorothy											
15	SRT	MW	OH	Wood, Joshua											
16	SRT	NE													
17	SRT	NE	CT												
18	SRT	NE	CT	Cook, George											
19	SRT	NE	DE												
20	SRT	NE	DE	Green, Rose											
21	SRT	NE	MD												
22	SRT	NE	MD	Nelson, Debra											

**Example 1 - Basic extract**

General Columns Generational Options

Columns

Header	Type	Source Value	Source Type
Level_	Property	Core.Name	Ancestor
Node Name	Property	Core.Name	Node

抽出の複数の行に、レポートには有用でない情報があることに注意してください。たとえば、行 2、3 および 4 には祖先情報が含まれていますが、探している営業担当情報がある最下位ノードが含まれていません。ノード・フィルタ式(挿入図に表示)を使用して、最下位レベル・ノードのみを返します。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1	Level_	Node Name											
2	SRT	MW	IA	Phillips, William	→								
3	SRT	MW	IL	Ross, Dennis	⋮	return	:	node	.	children	.	size	.
4	SRT	MW	IN	Harris, Amy			:	node	.	children	.	size	.
5	SRT	MW	MI	Murphy, Edward			:	node	.	children	.	size	.
6	SRT	MW	MI	Reed, Mary			:	node	.	children	.	size	.
7	SRT	MW	OH	Taylor, Dorothy			:	node	.	children	.	size	.
8	SRT	MW	OH	Wood, Joshua			:	node	.	children	.	size	.
9	SRT	NE	CT	Cook, George			:	node	.	children	.	size	.
10	SRT	NE	DE	Green, Rose			:	node	.	children	.	size	.
11	SRT	NE	MD	Nelson, Debra			:	node	.	children	.	size	.
12	SRT	NE	NH	Peterson, Jose			:	node	.	children	.	size	.
13	SRT	NE	NY	Bennett, Gregory			:	node	.	children	.	size	.
14	SRT	NE	NY	Jackson, Karen			:	node	.	children	.	size	.
15	SRT	NE	NY	Morgan, Kenneth			:	node	.	children	.	size	.

次に、抽出を縮小して、州別ではなく、地域別の営業担当を表示します。これには抽出への 2 つの変更が必要です。最初に、州情報が格納されている祖先レベルを識別する必要があります。抽出によって各列にヘッダー情報が追加されるように、最大深さを指定してこれを行います(挿入図を参照)。列 A、B、C および D のすべてに、レベルおよびノード名を識別するヘッダーが表示されるようになったことに注意してください。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	Level_1	Level_2	Level_3	Node Name						
2	SRT	MW	IA	Phillips, William	General	Columns	Generational	Options		
3	SRT	MW	IL	Ross, Dennis						
4	SRT	MW	IN	Harris, Amy						
5	SRT	MW	MI	Murphy, Edward						
6	SRT	MW	MI	Reed, Mary						
7	SRT	MW	OH	Taylor, Dorothy						
8	SRT	MW	OH	Wood, Joshua						
9	SRT	NE	CT	Cook, George						
10	SRT	NE	DE	Green, Rose						
11	SRT	NE	MD	Nelson, Debra						
12	SRT	NE	NH	Peterson, Jose						
13	SRT	NE	NY	Bennett, Gregory						
14	SRT	NE	NY	Jackson, Karen						
15	SRT	NE	NY	Morgan, Kenneth						

州情報が祖先レベル 3 にあることがわかったので、祖先フィルタを追加してレベル 3 をフィルタで除外し、探している地域情報を返すことができます。祖先フィルタが挿入図に表示されています。1 つのレベルをフィルタで除外しているため、最大深さを 4 ではなく 3 に変更する必要があることに注意してください。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
1	Level 1	Level 2	Node Name									
2	SRT	MW	Phillips, William									
3	SRT	MW	Ross, Dennis									
4	SRT	MW	Harris, Amy									
5	SRT	MW	Murphy, Edward									
6	SRT	MW	Reed, Mary									
7	SRT	MW	Taylor, Dorothy									
8	SRT	MW	Wood, Joshua									
9	SRT	NE	Cook, George									
10	SRT	NE	Green, Rose									
11	SRT	NE	Nelson, Debra									
12	SRT	NE	Peterson, Jose									
13	SRT	NE	Bennett, Gregory									
14	SRT	NE	Jackson, Karen									
15	SRT	NE	Morgan, Kenneth									
16	SRT	NE	Edwards, Joseph									
17	SRT	NE	Mitchell, James									

```

return : node . properties . CoreStats.Level . equals (
Integer Value : 3
) . not

```

従業員 ID、開始日、ジョブ・タイトルなどの追加の列を追加し(挿入図を参照)、レポートの情報を識別するためのカスタム・ヘッダーを使用して、レポートを確定します。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S
1	Total	Description	Region	Region Description	Sales Rep	First Name	Last Name	Start Date	Job										
2	SRT	Sales Representatives By Territory	MW	Midwest Region	1000012	William	Phillips	2/27/2007	Sales Associate										
3	SRT	Sales Representatives By Territory	MW	Midwest Region	1000013	Dennis	Ross	6/2/2007	Sales Associate										
4	SRT	Sales Representatives By Territory	MW	Midwest Region	1000014	Amy	Harris	3/13/2008	Sales Associate										
5	SRT	Sales Representatives By Territory	MW	Midwest Region	1000016	Edward	Murphy	9/19/2008	Sales Associate										
6	SRT	Sales Representatives By Territory	MW	Midwest Region	1000015	Mary	Reed	6/16/2008	Sales Associate										
7	SRT	Sales Representatives By Territory	MW	Midwest Region	1000018	Dorothy	Taylor	7/1/2009	Sales Associate										
8	SRT	Sales Representatives By Territory	MW	Midwest Region	1000017	Joshua	Wood	12/23/2008	Sales Associate										
9	SRT	Sales Representatives By Territory	NE	Northeast Region	1000001	George	Cook	1/14/2004	Sales Associate										
10	SRT	Sales Representatives By Territory	NE	Northeast Region	1000002	Rose	Green	4/18/2004	Sales Associate										
11	SRT	Sales Representatives By Territory	NE	Northeast Region	1000003	Debra	Nelson	7/22/2004	Sales Associate										
12	SRT	Sales Representatives By Territory	NE	Northeast Region	1000004	Jose	Peterson	10/25/2004	Sales Associate										
13	SRT	Sales Representatives By Territory	NE	Northeast Region	1000005	Gregory	Bennett	5/3/2005	Sales Associate										
14	SRT	Sales Representatives By Territory	NE	Northeast Region	1000006	Karen	Jackson	8/6/2005	Sales Associate										
15	SRT	Sales Representatives By Territory	NE	Northeast Region	1000007	Kenneth	Morgan	11/9/2005	Sales Associate										
16	SRT	Sales Representatives By Territory	NE	Northeast Region	1000008	Joseph	Edwards	2/12/2006	Sales Associate										
17	SRT	Sales Representatives By Territory	NE	Northeast Region	1000009	James	Mitchell	5/18/2006	Sales Associate										
18	SRT	Sales Representatives By Territory	NE	Northeast Region	1000011	Anna	Hill	11/24/2006	Sales Associate										
19	SRT	Sales Representatives By Territory	SE	Southeast Region	1000022	Jason	Cox	1/22/2011	Sales Associate										
20	SRT	Sales Representatives By Territory	SE	Southeast Region	1000023	Barbara	Jones	4/27/2011	Sales Associate										
21	SRT	Sales Representatives By Territory	SE	Southeast Region	1000021	Amy	Lopez	10/19/2010	Sales Associate										
22	SRT	Sales Representatives By Territory	SE	Southeast Region	1000019	Elizabeth	Brown	10/4/2009	Sales Associate										
23	SRT	Sales Representatives By Territory	SE	Southeast Region	1000040	Ann	Smith	1/7/2013	Sales Associate										
24	SRT	Sales Representatives By Territory	SE	Southeast Region	1000025	Jennifer	Davis	2/6/2012	Sales Associate										
25	SRT	Sales Representatives By Territory	SE	Southeast Region	1000026	Eric	Brooks	5/11/2012	Sales Associate										
26	SRT	Sales Representatives By Territory	SW	Southwest Region	1000027	Kimberly	Lee	8/14/2012	Sales Associate										
27	SRT	Sales Representatives By Territory	SW	Southwest Region	1000028	Larry	Gray	5/26/2013	Sales Associate										
28	SRT	Sales Representatives By Territory	SW	Southwest Region	1000030	Anthony	Cooper	12/2/2013	Sales Associate										
29	SRT	Sales Representatives By Territory	SW	Southwest Region	1000029	Jessica	Hall	8/29/2013	Sales Associate										
30	SRT	Sales Representatives By Territory	SW	Southwest Region	1000029	Jessica	Hall	8/29/2013	Sales Associate										

**Sales Reps By Territory extract**  
Sales hierarchy by region and territory

Header	Type	Source Value	Source Type
Ancestor Name	Property	Core.Name	Ancestor
Description	Property	Core.Description	Ancestor
Employee ID	Property	Custom.Employee ID	Node
First Name	Property	Custom.First Name	Node
Last Name	Property	Custom.Last Name	Node
Start Date	Property	Custom.Start Date	Node
Job	Property	Custom.Job	Node

## 例 2: バランスがくずれた階層でのバランス入力オプションの使用

次に、バランスがくずれた階層のバランスをとるためにバランス入力オプションを使用する例を見てみましょう。今回は勘定科目階層を使用します。最下位ノード 1770 Goodwill Asset と 7110 Advertising が階層内の異なるレベルにあることに注意してください。



Name	Description
▼ All Accounts	All Accounts
▼ Balance Sheet Accounts	Balance Sheet Accounts
▼ Total Assets	Total Assets
▼ Other Assets Total	Other Assets Total
1720	Long Term Receivables
1770	Goodwill Asset
▼ Net Income	Net Income
▼ Total Pretax Income	Total Pretax Income
0002	Pretax Income from Operations
GP	Gross Profit
OpEx	Operating Expenses
7001	Total Operating Expenses
7003	Total Office Expenses
7110	Advertising
7120	Public Relations

最大深さ 8 でこの階層を抽出すると、最下位ノード 1770 Goodwill Asset のレベル 5、6 および 7 には null 値が入り、この階層のバランスがくずれます。

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	
1	Level_1	Descr_Level_1	Level_2	Descr_Level_2	Level_3	Descr_Level_3	Level_4	Descr_Level_4	Level_5	Descr_Level_5	Level_6	Descr_Level_6	Level_7	Descr_Level_7	Node Name	Node Descr	Account Type
31	All Accounts	BS	Balance Sheet	1001	Total Assets	1700	Other Assets Total								1770	Goodwill Asset	Asset
32	All Accounts	BS	Balance Sheet	1001	Total Assets	1700	Other Assets Total								1820	Intercompany Receivable	Asset
33	All Accounts	BS	Balance Sheet	1001	Total Assets	1700	Other Assets Total								1820	Investment in Subsidiaries	Asset
60	All Accounts	NI	Net Income	1	Total Pretax Income	2	Pretax Income from Operations	OpEx	Operating Expenses	6000	Total Employee Expenses				6145	Workers Compensation Insurance	Expense
61	All Accounts	NI	Net Income	1	Total Pretax Income	2	Pretax Income from Operations	OpEx	Operating Expenses	6000	Total Employee Expenses				6160	Other Compensation	Expense
62	All Accounts	NI	Net Income	1	Total Pretax Income	2	Pretax Income from Operations	OpEx	Operating Expenses	7001	Total Operating Expenses	7003	Total Office Expenses		7120	Advertising	Expense
63	All Accounts	NI	Net Income	1	Total Pretax Income	2	Pretax Income from Operations	OpEx	Operating Expenses	7001	Total Operating Expenses	7003	Total Office Expenses		7120	Public Relations	Expense
64	All Accounts	NI	Net Income	1	Total Pretax Income	2	Pretax Income from Operations	OpEx	Operating Expenses	7001	Total Operating Expenses	7003	Total Office Expenses		7410	Utilities	Expense
65	All Accounts	NI	Net Income	1	Total Pretax Income	2	Pretax Income from Operations	OpEx	Operating Expenses	7001	Total Operating Expenses	7003	Total Office Expenses		7420	Rent Expense	Expense

「バランス入力オプション」で「親の繰返し」を選択し、階層の値がない場所に親の名前および説明を充てんします(次の赤でハイライト表示された領域)。階層のバランスがとれました。

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q		
1	Level_1	Descr_Level_1	Level_2	Descr_Level_2	Level_3	Descr_Level_3	Level_4	Descr_Level_4	Level_5	Descr_Level_5	Level_6	Descr_Level_6	Level_7	Descr_Level_7	Node Name	Node Descr	Account Type	
31	All Accounts	BS	Balance Sheet	1001	Total Assets	1700	Other Assets Total		1700	Other Assets Total	1700	Other Assets Total	1700	Other Assets Total	1770	Goodwill Asset	Asset	
32	All Accounts	BS	Balance Sheet	1001	Total Assets	1700	Other Assets Total		1700	Other Assets Total	1700	Other Assets Total	1700	Other Assets Total	1820	Intercompany Receivable	Asset	
33	All Accounts	BS	Balance Sheet	1001	Total Assets	1700	Other Assets Total		1700	Other Assets Total	1700	Other Assets Total	1700	Other Assets Total	1820	Investment in Subsidiaries	Asset	
60	All Accounts	NI	Net Income	1	Total Pretax Income	2	Pretax Income from Operations	OpEx	Operating Expenses	6000	Total Employee Expenses	6000	Total Employee Expenses	6000	Total Employee Expenses	6145	Workers Compensation Insurance	Expense
61	All Accounts	NI	Net Income	1	Total Pretax Income	2	Pretax Income from Operations	OpEx	Operating Expenses	6000	Total Employee Expenses	6000	Total Employee Expenses	6000	Total Employee Expenses	6160	Other Compensation	Expense
62	All Accounts	NI	Net Income	1	Total Pretax Income	2	Pretax Income from Operations	OpEx	Operating Expenses	7001	Total Operating Expenses	7001	Total Operating Expenses	7003	Total Office Expenses	7120	Advertising	Expense
63	All Accounts	NI	Net Income	1	Total Pretax Income	2	Pretax Income from Operations	OpEx	Operating Expenses	7001	Total Operating Expenses	7001	Total Operating Expenses	7003	Total Office Expenses	7120	Public Relations	Expense
64	All Accounts	NI	Net Income	1	Total Pretax Income	2	Pretax Income from Operations	OpEx	Operating Expenses	7001	Total Operating Expenses	7001	Total Operating Expenses	7003	Total Office Expenses	7410	Utilities	Expense
65	All Accounts	NI	Net Income	1	Total Pretax Income	2	Pretax Income from Operations	OpEx	Operating Expenses	7001	Total Operating Expenses	7001	Total Operating Expenses	7003	Total Office Expenses	7420	Rent Expense	Expense
66	All Accounts	NI	Net Income	1	Total Pretax Income	2	Pretax Income from Operations	OpEx	Operating Expenses	7001	Total Operating Expenses	7001	Total Operating Expenses	7003	Total Office Expenses	7430	Property Tax and Insurance	Expense

## 抽出表示

抽出表示により、抽出がプライベート(作成したユーザーのみがそれを表示および実行できる)か、パブリック(適切なデータ・アクセス権があるすべてのユーザーがそれを表示および実行できる)かが定義されます。

### プライベート抽出

抽出を初めて作成すると、プライベート抽出として作成されます。プライベート抽出は、それを作成したユーザーのみが表示および実行できます。プライベート抽出を作成またはコピーするには、ビューへのアクセス権と、ビューポイントに対する参加者(読取り)以上のアクセス権が必要です。プライベート抽出を編集または削除するための権限の要件はありません。

「ビューポイント抽出」レポートからプライベート抽出を実行し、ファイルにのみ実行できます。抽出レポートを参照してください。

### パブリック抽出

パブリック抽出を直接作成することはできませんが、ディメンションの所有者またはメタデータ・マネージャ権限がある場合は、プライベート抽出をパブリックに移行して、他のユーザーがそれを表示および実行できるようにすることができます。パブリック抽出をコピー、編集または削除することもできます。抽出の作成、コピー、上位への移動および削除を参照してください

「アプリケーション」リストまたは「ビューポイント抽出」レポートからパブリック抽出を実行でき、ファイルまたはグローバル接続に実行できます。抽出の実行を参照してください。

## 抽出の作成、コピー、上位への移動および削除

ディメンション・インスペクタから抽出を作成します。ビューポイントで参加者(読取り)権限以上がある場合、プライベート抽出を作成できます。プライベート抽出のパブリック抽出への移行を可能にするには、ディメンションの所有者またはメタデータ・マネージャ権限が必要です。

### 抽出を作成するには:

1. 抽出を作成するディメンションが含まれているアプリケーションを検査します。アプリケーションの検査を参照してください。
2. 「ディメンション」タブから、抽出を作成するディメンションをクリックします。ディメンションは、ディメンション・インスペクタに表示されます。
3. 「抽出」タブで、「作成」をクリックします。
4. 「ビューポイント」ドロップダウン・メニューから、ディメンションを抽出するビューポイントを選択します。

### ノート:


選択したディメンションを含むアクティブなビューポイントのみ表示されます。マップ・バインド済ビューポイントでない場合、レガシー GL または参照クラス・ノード・タイプを含むビューポイントは選択できません。

5. 名前を入力し、オプションで説明を入力します。

6. 抽出の種類を選択します:

- **全体**(デフォルト): ビューポイントからすべてのデータを抽出します。
- **増分**: ビューポイントの特定期間におけるデータへの変更のみを抽出します。
- **世代**: ビューポイント内の階層関係を別々の抽出列に抽出します。

[抽出の種類](#)の理解を参照してください。

 **ノート:**

抽出が作成された後は、抽出の種類を変更できません。

7. 「作成」をクリックします。

抽出が抽出インスペクタに表示されます。

 **ノート:**

抽出を作成すると、プライベート抽出として作成され、「作成」画面から可視性を変更することはできません。ディメンションの所有者またはメタデータ・マネージャ権限がある場合、プライベート抽出をパブリックに移行できます。[プライベート抽出のパブリックへの移行](#)を参照してください。

抽出を編集して列を追加し、フォーマット・オプションを変更します。[抽出の編集](#)を参照してください。


### 抽出のコピー

抽出をコピーして、他の用途に向けて変更できます(たとえば、抽出のビューポイントの変更、抽出オプションを変更して異なるデータを選択など)。

### 考慮事項

- 抽出をコピーするとき、新しい抽出を次の場所に作成できます:
  - 元と同じディメンションおよびビューポイント
  - 元と同じアプリケーション内の異なるディメンションおよびビューポイント
  - 元と同じタイプの異なるアプリケーション(たとえば、Planning または Financials Cloud General Ledger)内の、異なるディメンションおよびビューポイント。
- 抽出のコピー先のディメンションで、すべてのデータ・チェーン・オブジェクトに対して少なくとも「参加者(読取り)」アクセス権が必要です。

### 抽出をコピーするには:

1. ディメンション・インスペクタの「抽出」タブから、コピーする抽出の「アクション」列で、「抽出」アクション・メニュー 、「コピー」の順にクリックし、変更の保存に関するメッセージで「はい」をクリックします。
2. **オプション**: 新しい名前と説明を入力します。新しい名前は、ターゲット・ディメンションで一意にする必要があります。

3. **オプション**: 抽出を作成する異なるアプリケーション、ディメンション、ビューおよびビューポイントを指定します。

 **ノート:**

マップ・バインド済ビューポイントでない場合、レガシー GL または参照クラス・ノード・タイプを含むビューポイントは指定できません。

4. 「**コピー**」をクリックします。  
新しい抽出が抽出インスペクタに表示されます。抽出を変更して、その設定を変更できます。抽出の編集を参照してください。


 **ノート:**

抽出のプロパティのいずれかがターゲット・ビューポイントに存在しない場合、警告が表示されます。新しい抽出を編集して、ターゲット・ビューポイントに存在しないプロパティの列を除去できます。抽出列の選択を参照してください。

### プライベート抽出のパブリックへの移行

プライベート抽出をパブリックに移行すると、ビューへのアクセス権およびビューポイントに対する少なくとも参加者(読取り)アクセス権がある他のユーザーは、それを表示、コピーおよび実行でき、ディメンションの所有者またはメタデータ・マネージャ権限がある他のユーザーは、それを編集および削除できます。


#### プライベート抽出を移行するには:

1. ディメンション・インスペクタの「抽出」タブから、移行する抽出の「アクション」列で、「抽出」アクション・メニュー 、「上位へ移動」の順にクリックします。
2. 「はい」をクリックして確定し、「保存」をクリックします。

#### 抽出の削除

ビューポイントに対する参加者(読取り)アクセス権がもうない場合でも、作成した任意のプライベート抽出を削除できます。パブリック抽出を削除するには、抽出内のディメンションに対する所有者またはメタデータ・マネージャ権限が必要です。

#### 抽出を削除するには:

1. ディメンション・インスペクタの「抽出」タブから、削除する抽出の「アクション」列で、「抽出」アクション・メニュー 、「削除」の順にクリックします。
2. 「はい」をクリックして確定し、「保存」をクリックします。

## 抽出の編集

抽出を作成した後、その抽出を編集して一般的な抽出設定を変更し、列を選択し、フォーマット・オプションを変更できます。パブリック抽出の編集を可能にするには、ディメンションの所有者またはメタデータ・マネージャ権限が必要です。

### 抽出を編集するには:

1. 編集する抽出が含まれているアプリケーションを検査します。[アプリケーションの検査](#)を参照してください。
2. 「ディメンション」タブから、抽出が含まれているディメンションをクリックし、「抽出」タブを選択します。
3. 抽出インスペクタの「全般」タブで、「**編集**」をクリックして、任意の全般設定を変更します:
  - 抽出の名前および説明
  - **統合のみ**(パブリック抽出のみ): この抽出がシステム統合のみを目的としていることを指定するには、このオプションを選択します。「統合のみ」抽出は「ビューポイント抽出」レポートに表示されず、アプリケーション・ワークリストからのみ実行できます。
  - 抽出を実行するビューまたはビューポイント。抽出を作成するディメンション内のアクティブなビューポイントのみ選択可能です。そのビューポイントがアーカイブされている場合は、警告アイコンが表示されます。マップ・バインド済ビューポイントでない場合、レガシー **GL** または参照クラス・ノード・タイプを含むビューポイントは選択できません。

#### 注意:

抽出のビューポイントを変更すると、次のことが発生する可能性があります:

- 元のビューポイントにはあったが新しいビューポイントにはない列はすべて抽出から除去されます。
- 抽出フィルタを設定した場合、フィルタが無効になる場合があります。たとえば、階層ビューポイントからリスト・ビューポイントに変更した場合、フィルタ内の関係レベルのプロパティ(親など)が無効になります。

- 抽出で作成されるテキスト・ファイルのデフォルト・ファイル名。有効なテキスト形式(.csv、.txt、.tsv など)を入力していることを確認します。
- 「**Zip 抽出**」オプション。データを zip 形式で抽出するには、チェック・ボックスを選択します。次に、.zip で終わる zip ファイル名を指定します。

#### ノート:

「**Zip ファイル名**」フィールドは、「**Zip 抽出**」を有効にした後にのみ表示されます。変更を保存する前に、ファイル名の後に.zip ファイル拡張子を入力する必要があります。


4. **パブリック抽出のみ**: グローバル接続名および抽出の任意のパラメータを指定します。指定するパラメータは接続タイプに固有です。[グローバル接続の作成](#)を参照してください。

 ノート:

グローバル接続へのプライベート抽出は実行できません。グローバル接続への抽出を実行するには、パブリックに移行する必要があります。[抽出の作成、コピー、上位への移動および削除](#)を参照してください。

保存する前に接続をテストできます。「**接続のテスト**」ボタンは、グローバル接続を設定し、必須パラメータを定義した場合のみ使用可能になります。[グローバル接続の作成](#)を参照してください。

5. **増分抽出のみ:** 「**自**」および「**至**」セクションで、抽出の開始および終了期間を指定します。「自」と「至」の時間は同じにはできませんが、「自」時間は「至」時間より遅くできます。その場合、アクション・コードは逆になります。たとえば、ノードが追加され、抽出の「自」日付が「至」日付の後の場合、抽出にはそのノードの削除が含まれます。
  - **現行:** 抽出の実行時に現在の日時が使用されます。
  - **指定済:** 「**タイムスタンプ**」に、特定の日時を入力します。タイムスタンプは日付ピッカーから選択するか、または日時を手動で編集できます。
  - **オフセット:** 「**現在までの日数**」フィールドで、使用する現在日までの日数を指定します。「**時刻**」に、オフセット日の時刻を指定します。
  - **最終抽出以降:** 最終抽出の日付が使用されます。このビューポイントに対して抽出が実行されたことがない場合は、ビューポイントの作成日が使用されます。

 ノート:

「自」と「至」日付では、「オプション」タブで指定されたタイム・ゾーンが使用されます。[抽出オプションの指定](#)を参照してください。タイム・ゾーンが指定されていない場合、デフォルトのタイム・ゾーンは UTC です。

6. 「**保存**」をクリックします。

## 抽出列の選択

抽出インスペクタの「列」タブでは、ディメンションについて抽出するプロパティと定数値を選択できます。

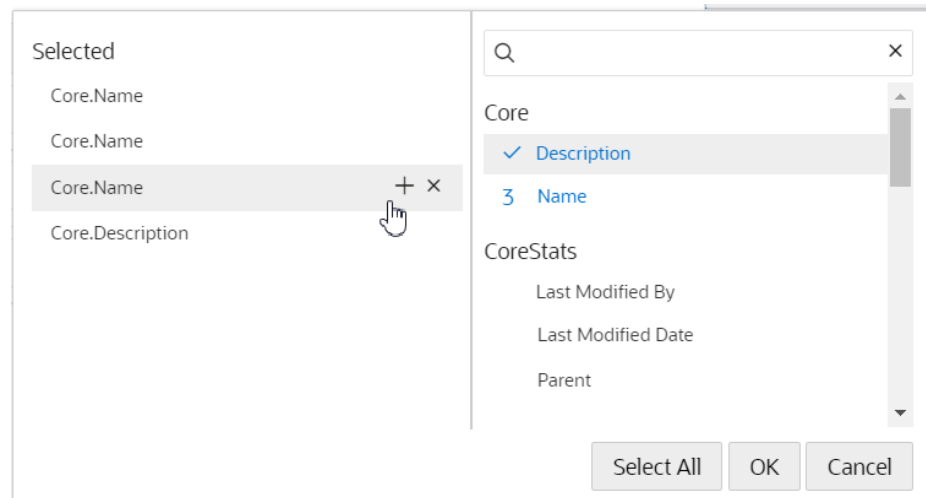
### 抽出列を選択するには:

1. 「列」タブで「**編集**」をクリックします。
2. プロパティを抽出に追加するには、次のアクションを実行します:
  - a. 「**プロパティの管理**」をクリックします。  
ビューポイントのプロパティが表示されます。
  - b. 抽出に追加するプロパティをクリックするか、または「**すべて選択**」をクリックして使用可能なすべてのプロパティを追加します。  
選択したプロパティはチェック・マークで示されます。プロパティを削除するには、「X」をクリックします。

*増分および世代抽出のみ:* 選択したプロパティで、「+」をクリックしてプロパティを抽出に再度追加します。各プロパティのインスタンスの数が示されます。

プロパティを複数回追加し、「ソース・タイプ」フィールドを使用すると(次のステップ 5 を参照)、たとえば、増分抽出で同じプロパティの「自」と「至」の値に異なる列を設定したり、ノードとその祖先の同じプロパティの値に異なる列を設定できます。

選択した列からプロパティのインスタンスを除去するには、「X」をクリックします。



 **ヒント:**

選択したプロパティは、クリックした順に抽出に追加されます。後でアクションを並べ替える手間を省くため、ファイル内に並べる順序でプロパティを選択します。

- c. 「OK」をクリックします。  
選択したプロパティが「列」ページに追加されます。
- 3. オプション: 「ヘッダー」で、プロパティの列ヘッダー名を編集します。

 **ノート:**



列ヘッダー名は、抽出内のプロパティごとに一意である必要があります。

- 4. 特殊列を抽出に追加するには、「列の追加」をクリックし、追加する特殊列のタイプを選択し、列ヘッダー名を入力します:

表 26-2 特殊列の抽出

列タイプ	説明
アクション・コード(増分抽出のみ)	プロパティに対して実行されたアクション。「増分」タブで、アクション・コードのラベルを指定できます。増分オプションの指定を参照してください。


表 26-2 (続き) 特殊列の抽出

列タイプ	説明
定数	ユーザー定義の定数値   <b>ノート:</b> 定数の値を「ソース値」に入力します。
抽出実行 ID	実行されている抽出の一意の GUID(すべてのレコードに対して複製)
抽出タイムスタンプ	抽出のタイムスタンプ(すべてのレコードに対して複製)
反転レベル(全体抽出のみ)	階層セット内のノードのボトムアップ・レベル 最下位レベルのノードはレベル 0 であり、直接の親はレベル 1 のようになります。たとえば、最上位ノードに 1 つの子ノードがあり、その子ノードに 1 つの子ノードがある階層では、最下位ノード・レベルは 0、最上位ノード・レベルは 2 です。   <b>ノート:</b> 階層ビューポイントに対して実行される抽出にのみ使用可能です。
レコード番号	最初のレコードに対して 1 で開始する増分番号
ユーザー名	抽出を実行しているユーザーの名前(すべてのレコードに対して複製)

5. オプション(増分および世代抽出のみ): 「ソース・タイプ」で、プロパティの値の基準を指定します:

**増分:**

- **自:** 値はビューポイントの「自」バージョンに基づきます
- **至:** 値はビューポイントの「至」バージョンに基づきます
- **結合:** 値はビューポイントの「至」バージョンに基づきます(使用可能の場合)。そうでない場合、値はビューポイントの「自」バージョンに基づきます。

 **ノート:**

Core.Name プロパティに対する名前変更アクションの場合のみ、「結合」値はビューポイントの「自」バージョンに基づきます。

**世代:**

- **ノード:** 列の値は抽出されているノードに基づきます
- **祖先:** 列の値は抽出されているノードの祖先に基づきます



 ノート:

祖先列は、グループ化する必要があります。

6. **オプション(全体抽出のみ): 「ピボット」** チェック・ボックスを選択して、抽出ファイルでピボットするプロパティを指定します。これにより、ピボットされるプロパティのすべての値(null または空の値を含む)に対して、抽出ファイルに個別に行が作成されます。抽出では 1 つのプロパティのみピボットできます。

 ノート:

リストまたは文字列データ型のプロパティをピボット列として指定できます。文字列データ型の場合は、「オプション」タブでピボット区切り文字を指定します。[抽出オプションの指定](#)を参照してください。

7. **オプション(全体抽出のみ): 「キー」** チェック・ボックスを選択して、列を主キー列として指定します。主キー列としてマークされた列では、キー値の一意のインスタンスごとに 1 行のデータが出力されます。主キー列の重複したインスタンスは、抽出出力から抑制されます。複数の列を主キー列として指定できます。重複は、キー列の値の組合せに基づいて判断されます。

 ノート:

「ピボット」と「キー」オプションの両方を使用する場合:

- 最初にピボット操作が実行され、次に主キー値の重複行が抽出からフィルタで除外されます。
- ピボットする列は主キー列でもある必要があります。そうしないと、ピボットするプロパティの最初のレコードのみ抽出されます。



8. **オプション(増分抽出のみ):** 次のように、「比較」列および「出力」列を使用して、このノードのレコードを含める必要があるかどうかを決定するためにプロパティ列で比較ロジックを使用するかどうか、およびその列を出力する必要があるかどうかを決定します:
  - 「比較」を使用して、プロパティの「自」と「至」の値の間に差異がある場合にレコードが生成されるかどうかを決定します。
  - 「出力」を使用して、このノードのレコードが生成された場合にその列を出力に含めるかどうかを決定します。

比較設定	出力設定	抽出動作
有効	有効	(デフォルトの動作)プロパティが比較され、プロパティ値の「自」バージョンと「至」バージョンの間でプロパティに差異がある場合は、ノードのレコードが生成され、その列が抽出に含まれます。

比較設定	出力設定	抽出動作
使用不可	有効	プロパティは比較されません。プロパティ値の「自」バージョンと「至」バージョンの間でプロパティに差異があると、レコードは生成されません。ただし、比較される他のプロパティに差異があるためにこのノードのレコードが生成された場合は、この列も抽出に含められます。
有効	使用不可	プロパティが比較され、プロパティ値の「自」バージョンと「至」バージョンの間でプロパティに差異がある場合は、このノードのレコードが生成されます。ただし、その列は抽出に含められません。
使用不可	使用不可	プロパティは比較されず、抽出に含められません。

### ノート:

これらの設定は、増分オプションで「**プロパティの更新の処理**」を有効にした場合にのみ適用されます。[増分オプションの指定](#)を参照してください。


9. 列を除去するには、次のアクションを実行します:
  - 「**すべて除去**」をクリックして、抽出からすべての列を除去します。
  - 個々の列を除去するには、除去するプロパティまたは定数の「アクション」列で  をクリックし、次に「**除去**」を選択します
  - 「**プロパティの管理**」から、選択したプロパティで「**X**」をクリックし、抽出から除去します。
10. 列を並べ替えるには、次のアクションを実行します:
  - 移動するプロパティまたは定数列の行をドラッグ・アンド・ドロップします
  - 移動するプロパティまたは定数の「アクション」列で、  をクリックし、いずれかの移動アクションを選択します。
11. 「**保存**」をクリックします。

## 増分オプションの指定

抽出インスペクタの「増分」タブでは、抽出する必要があるアクションや、名前変更、移動および更新を組み合わせるかどうかなど、抽出の増分オプションを指定できます。このタブは、抽出の種類が「増分」の場合にのみ表示されます。

### 増分オプションを指定するには:

1. 抽出インスペクタの「増分」タブで、「**編集**」をクリックします。
2. 各アクション・タイプで、アクションを処理するチェック・ボックスを選択し、オプションで、抽出でそのアクションに対して出力するアクション・コードを指定します。デフォルトでは、すべてのアクションは増分抽出で処理されます。次の表に、各アクションのデフォルトのアクション・コードを示します。

アクション	デフォルトのアクション・コード
<b>追加の処理</b> ノート: 「移動の処理」を有効にしていない場合、デフォルトでは、移動操作の結果の構造的な変更は「追加」および「削除」として出力されます(それらのオプションが有効になっている場合)。移動の結果発生した追加および削除操作を出力ファイル内に入れない場合、「追加と削除から移動を除外」オプションを有効にします。次のステップ 4 を参照してください。	Add
<b>削除の処理</b> ノート: 「移動の処理」を有効にしていない場合、デフォルトでは、移動操作の結果の構造的な変更は「追加」および「削除」として出力されます(それらのオプションが有効になっている場合)。移動の結果発生した追加および削除操作を出力ファイル内に入れない場合、「追加と削除から移動を除外」オプションを有効にします。次のステップ 4 を参照してください。	Delete
<b>移動の処理</b>	Move
<b>名前変更の処理</b>  <div style="border: 1px solid #0070C0; padding: 5px; background-color: #E6F2FF;"> <p> <b>Note:</b></p> <p>増分抽出期間中にリセット・インポートが実行された場合、プロパティの「自」および「至」バージョンは決定できません。</p> </div>	Rename
<b>プロパティ更新の処理</b>  <div style="border: 1px solid #0070C0; padding: 5px; background-color: #E6F2FF;"> <p> <b>Note:</b></p> <p>「欠落プロパティのスキップ」を有効にして、更新時にビューポイントの「自」および「至」バージョンの両方にプロパティが存在しない場合に、抽出に含めないことを指定します。</p> </div>	Prop_Update

- 「名前変更、移動および更新の結合」を有効にして、プロパティに複数のアクションが実行された場合に、抽出では最も優先度の高いアクション・コードを使用して単一出力レコードに結合されるように指定します。アクション・コードの優先度の順序は、**名前変更、移動、更新**の順です。  
たとえば、プロパティが新しい親の下に移動されてその説明も更新された場合、この設定が有効な場合は、抽出ファイルに 2 つのレコード(1 つは移動、もう 1 つは更新)が含まれるのではなく、「移動」のアクション・コードを使用して 1 レコードのみが抽出に含まれます。

4. 「追加と削除から移動を除外」を有効にして、追加および削除が処理されるときに移動を処理せずに移動アクションを除外します。デフォルトでは、「追加」または「削除」の処理を選択して「移動」を選択していない場合、移動操作の結果の構造的な変更は「追加」および「削除」として抽出ファイルに出力されます(それらのオプションが有効になっている場合)。このオプションを選択した場合、移動の結果の構造的な変更は抽出ファイルに出力されません。

このオプションについて、次の点に注意してください:

- 追加または削除(あるいはその両方)の処理を選択したが、移動は選択しなかった場合、デフォルトではこのオプションは選択されず、移動の結果の構造的な変更は、追加および削除として抽出ファイルに表示されます。オプションを選択して、移動が追加および削除処理として抽出ファイルに出力されないようにすることができます。
- 追加または削除(あるいはその両方)の処理を選択し、移動も選択した場合、このオプションは自動的に選択され、変更できません。
- 追加および削除の両方の処理を選択しなかった場合、このオプションは表示されません。

## 世代オプションの指定

抽出インスペクタの「世代」タブでは、最大深さや祖先の列順序およびバランス入力オプションなど、抽出の世代オプションを指定できます。このタブは、抽出の種類が「世代」の場合にのみ表示されます。

**世代オプションを指定するには:**

1. 抽出インスペクタの「世代」タブで、「編集」をクリックします。
2. 「最大深さ」に、整数(0 または 2 から 99)を入力して、抽出に祖先情報のために生成する列数を定義します。
  - 2 から 99 の値により、バランスがとれた抽出になり、すべてのレコードが同じ数の繰り返される祖先列を持ちます(祖先に作成される列数は、最大深さから 1 を引いて指定されます)。
  - 0 の値により、各レコードが異なる列数を持つ可能性があるため、抽出の列およびヘッダーのバランスがくずれます。
  - 1 の値は、抽出に祖先情報を含まないため、入力できません。

### Note:

祖先ノードの実際の深さが、指定した最大深さより大きい場合、その祖先ノードは抽出でスキップされます。これを防ぐには、最大深さを拡張するか、抽出の「オプション」タブで祖先フィルタを使用して祖先のリストをフィルタします。[抽出オプションの指定](#)を参照してください。

3. 「バランス入力オプション」で、指定した最大深さレベルより少ない祖先を持つレコードを祖先列に配置するための値を選択します。
  - **なし:** 存在しないレベルの祖先列には、抽出オプションの「Null キーワード」値が充てんされます。[抽出オプションの指定](#)を参照してください。
  - **親の繰返し:** 存在しないレベルの祖先列には、抽出されている現在のノードの親ノードからの値が充てんされます。

- **ノードの繰返し:** 存在しないレベルの祖先列には、抽出されているノードからの値が充てんされます。
- **最上位ノードの繰返し:** 最上位レベルの祖先列には、最上位ノードからの値が移入され、残りのレベルは、最後の祖先レベルが最下位レベルになるように押し下げられます。

たとえば、最上位ノードが A、A の子が B、B の子が C、最下位レベル・ノードが 111 の階層があり、最大深さが 5 であるとしします。次の表は、各「バランス入力オプション」設定がどのように表示されるかを表しています:

バランス入力オプション	1 列目	2 列目	3 列目	4 列目	5 列目
なし	A	B	C		111
親の繰返し	A	B	C	C	111
ノードの繰返し	A	B	C	111	111
最上位ノードの繰返し	A	A	B	C	111

4. 「祖先列の順序」で、抽出の祖先列の順序を指定します(「増加」または「減少」)。たとえば、階層がレベル 1 からレベル 10 までである場合、「増加」はレベル 1 (階層の最上位)から開始して下に移動し、「減少」はレベル 10 (最下位レベル)から開始して上に移動します。

## 抽出オプションの指定

抽出インスペクタの「オプション」タブでは、ファイルやデータのフォーマットなど、抽出ファイルを作成するためのオプションを指定できます。

**抽出オプションを指定するには:**

1. 抽出インスペクタの「オプション」タブで、「編集」をクリックします。
2. **オプション:** フィルタ・パラメータを定義します。
  - **ノード・フィルタ:** 「式の定義」  $fx$  をクリックして式ビルダーを開き、抽出するノードを選択するための式を定義します。式はブール値を返す必要があり、フィルタ式が true のノードのみ抽出に含まれます。[式を使用したカスタム・ビジネス・ロジックの定義](#)を参照してください

### ノート:

世代抽出の場合、ノード・フィルタは祖先に適用されません。

- **祖先フィルタ(世代抽出のみ):** 「式の定義」  $fx$  をクリックして式ビルダーを開き、抽出する祖先ノードをフィルタするための式を定義します。フィルタ式が true の祖先ノードのみが抽出に含まれます。これによって世代抽出のレベルを少なくして、階層のレベルが多すぎる場合に少ない深さでバランスがとれるようにすることができます。[式を使用したカスタム・ビジネス・ロジックの定義](#)を参照してください
- オプション:** 「X」をクリックしてノードまたは祖先式フィルタを除去します。

- **フィルタ・ロジック(増分抽出のみ)**: フィルタ・ロジックを包含フィルタ(つまり、フィルタに一致するノードのみを抽出に含める)または除外フィルタ(フィルタに一致するノードを抽出から除外する)のどちらとして使用するかを選択します。
- **親の再接続**: 抽出で親を再接続するかどうかを選択します。[抽出での親の再接続](#)を参照してください。

 **ノート:**

世代抽出の場合、「親の再接続」は常に有効になっており、変更できません。

- **暗黙共有ノードの除外(階層ビューポイントからの抽出でのみ使用可能)**: 階層内の異なる場所にある同じ親の下ですでに処理されたノードを除外するかどうかを選択します。[共有ノードの理解](#)を参照してください。

 **ヒント:**

祖先、継承値または位置指定ロジックを使用するデフォルトの派生値などの位置情報を抽出している場合は、暗黙共有ノードの除外の回避が必要になることがあります。

3. ファイル・フォーマット・オプションを定義します:

表 26-3 ファイル・フォーマット・オプション

フィールド	説明	例
区切り文字	テキスト文字列を区切る文字。値を選択するか、または「その他」を選択して区切り文字を入力します。区切り文字として複数の文字を入力できます。	カンマ
改行スタイル	次の行に進む文字	CR+LF (Windows) CR のみ(Mac) LF のみ(Linux)

表 26-3 (続き) ファイル・フォーマット・オプション


フィールド	説明	例
引用符列	<p>引用符文字が必要な列:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• なし</li> <li>• すべての列</li> <li>• 値ごとに必要に応じて: (デフォルト)次のような特殊文字を含む列に引用符文字を追加します: <ul style="list-style-type: none"> <li>- 区切り文字</li> <li>- 引用符文字</li> <li>- 改行文字</li> </ul> </li> </ul> <div style="border: 1px solid #0070C0; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p> <b>ノート:</b></p> <p>引用オプションは、カスタム・ヘッダーおよびフッターに適用されません。</p> </div>	なし
引用符文字	引用符列を示すのに使用される文字	一重引用符
Null キーワード	ファイル内の null 値を置き換えるキーワード	空白
定義済の空文字列キーワード	ファイル内の定義済の空の値を置き換えるキーワード	データなし
ピボット区切り文字	文字列データ型のプロパティの場合のみ、ピボットする文字列を区切る文字。値を選択するか、または「 <b>その他</b> 」を選択して区切り文字を入力します。区切り文字として複数の文字を入力できます。	カンマ
列ヘッダー・レコードを含める	ファイルの始まりにヘッダー・レコードを含めるインジケータ	選択済

表 26-3 (続き) ファイル・フォーマット・オプション

フィールド	説明	例
カスタム・ヘッダーを含める	<p>選択してカスタム・ヘッダー・レコードを含めます。選択した場合は、含めるカスタム・ヘッダーを入力します。カスタム・ヘッダーには代替パラメータを挿入できます。後続のカスタム・ヘッダーおよびフッターでの代替パラメータの使用を参照してください。</p> <p>生成された列ヘッダー・レコードも使用している場合は、生成された列ヘッダーの前または後にカスタム・ヘッダーを配置するかどうかを指定します。</p>	BOF (ファイルの始まりインジケータ)
カスタム・フッターを含める	<p>選択してカスタム・フッター・レコードを含めます。選択した場合は、含めるカスタム・フッターを入力します。カスタム・フッターには代替パラメータを挿入できます。後続のカスタム・ヘッダーおよびフッターでの代替パラメータの使用を参照してください。</p>	EOF (ファイルの終わりインジケータ)

4. データ・フォーマット・オプションを定義します:

表 26-4 データ・フォーマット・オプション

フィールド	説明	例
負数の符号	負の値を示す文字	カッコ
3 桁ごとの区切り文字	数値を 3 桁ごとに区切る文字	カンマ



表 26-4 (続き) データ・フォーマット・オプション





フィールド	説明	例
小数点	数値の小数を区切る文字   <b>ノート:</b>  両方の区切り文字に同じ文字は使用できません。一方の区切り文字に選択した文字は、もう一方の区切り文字のドロップダウン・メニューから除去されます。	ドット
ブール値	抽出するのがブール・プロパティの実際の値か、表示される値か、または指定した値かを指定します。   <b>ノート:</b>  「指定済」を選択した場合は、 <b>True</b> および <b>False</b> を表す値を入力します。いずれかのオプションに空白値を入力できます。	指定済 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>True</b> の値を指定: IC_INTERCOMPANY_YES</li> <li>• <b>False</b> の値を指定:</li> </ul>
許容値プロパティ	抽出するのが許容値プロパティの実際の値か、または表示される値かを指定します。	表示
タイム・ゾーン	抽出のタイムゾーン	UTC

表 26-4 (続き) データ・フォーマット・オプション

フィールド	説明	例
日付フォーマット	<p>ドロップダウン・メニューから日付フォーマットを選択するか、または「指定済」を選択して日付フォーマットを入力します。</p> <p> <b>ノート:</b></p> <p>日付と時刻のフォーマット用記号を参照してください。</p>	MM/dd/yyyy
時間フォーマット	<p>ドロップダウン・メニューから時間フォーマットを選択するか、または「指定済」を選択して時間フォーマットを入力します。</p> <p> <b>ノート:</b></p> <p>「日付/時間の例」フィールドには、選択または指定する日付と時間のフォーマットが表示されます。</p>	HH:mm:ss


5. 「保存」をクリックします。

 **ノート:**

「タイム・ゾーン」、「日付フォーマット」および「時間フォーマット」は、抽出レベルで保存されます。これは、実行するユーザーのロケールに関係なく、抽出の時間ゾーンおよびフォーマットが常に同じであることを意味します。

### カスタム・ヘッダーおよびフッターでの代替パラメータの使用

カスタム・ヘッダーおよびフッターには代替パラメータを入力できます。抽出を実行すると、パラメータの値が抽出に挿入されます。たとえば、カスタム・フッターに<%Date%>を入力し、抽出を実行すると、抽出が実行された日付がフッターに挿入されます。

 ヒント:

代替パラメータでは大文字と小文字が区別されません。

次の代替パラメータを使用できます:

- `<%Date%>`: タイム・ゾーンとフォーマットの抽出設定に基づいて、抽出が実行された日付を返します。タイム・ゾーンが設定されていない場合は、UTC が使用されます。
- `<%Time%>`: タイム・ゾーンとフォーマットの抽出設定に基づいて、抽出が実行された時刻を返します。タイム・ゾーンが設定されていない場合は、UTC が使用されます。
- `<%Timestamp%>`: タイム・ゾーンとフォーマットの抽出設定に基づいて、抽出が実行された日付と時刻の組合せを返します。
- `<%Username%>`: 抽出を実行するユーザー名を返します。
- `<%UserFirstName%>`: 抽出を実行するユーザーの名を返します。
- `<%UserLastName%>`: 抽出を実行するユーザーの姓を返します。
- `<%UserEmail%>`: 抽出を実行するユーザーの電子メール・アドレスを返します。
- `<%ExtractName%>`: 抽出の名前を返します。
- `<%FileName%>`: 抽出ファイルの名前を返します。
- `<%RecordCount%>`: 抽出されたレコード数を返します。このカウントでは、ヘッダ行とフッター行はレコード数から除外されますが、最後に使用されたレコード数と一致するようにピボットされた行は含まれます。

 ノート:

このパラメータはカスタム・フッター行でのみ使用できます。カスタム・ヘッダーにレコード数を挿入することはできません。

- `<%AppVersion%>`: Oracle Enterprise Data Management Cloud のリリース番号を返します(例: "Oracle EDM Cloud リリース 22.09")。

## 抽出での親の再接続

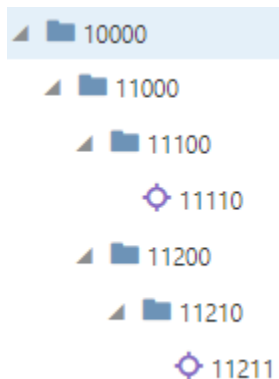
階層ビューポイントの場合のみ、抽出で親ノードをフィルタで除外すると、「**親の再接続**」オプションでは、子ノードの親プロパティに対する値が、最も近いフィルタされていない祖先に変更されます。

「**親の再接続**」オプションは、抽出のビューポイントが階層で、抽出フィルタが作成されている場合のみ使用可能です。[抽出オプションの指定](#)を参照してください。

**▲ Caution:**

「親の再接続」オプションにより、抽出された親値が変更されますが、位置情報(親、祖先、場所、その他の関係レベル・プロパティ)を使用する関係レベル・プロパティ、継承値または派生デフォルト値など、その他の位置情報は再計算されません。親プロパティのみが変更されるため、その他の位置プロパティ(たとえば、レベル)は整合性がなくなる可能性があります。

ノードの次の階層を考えてみます:



階層には、次の親関係プロパティがあります:

親	ノード
	10000
10000	11000
11000	11100
11000	11200
11200	11210
11210	11211

抽出でノード **11000** および **11200** をフィルタで除外し、「親の再接続」オプションを有効にしない場合、**11000** および **11200** ノードは抽出されませんが、抽出されたノードの親の値は変更されません。したがって、たとえば、ノード **11100** の親はノード **11000** のままです。

**Table 26-5 親の再接続無効**

親	ノード
	10000
11000	11100
11100	11110
11200	11210
11210	11211

「親の再接続」を有効にすると、抽出されたノードの親プロパティの値は、抽出に含まれる次の最も近い祖先ノードに変更されます。たとえば、ノード **11100** の親はノード **10000** になります。

Table 26-6 親の再接続有効

親	ノード
	10000
10000	11100
11100	11110
10000	11210
11210	11211

## 抽出の実行

権限に応じて、ファイルまたはグローバル接続へのパブリックおよびプライベート抽出を実行できます。

### 抽出の実行に関する考慮事項


- 抽出におけるノードおよび階層関係のソート順は、階層セットのグループ化およびソート・オプションに基づきます。[階層セットの作成](#)を参照してください。
- 抽出は、「アクティブ」ステータスのディメンションでのみ実行できます。
- 抽出のビューポイントがアーカイブされている場合は、警告アイコンが表示されます。アーカイブ済ビューポイントに対しては抽出を実行できません。

### プライベート抽出

#### 考慮事項


- プライベート抽出を実行するには、ビューへのアクセス権と、ビューポイントに対する *参加者(読取り)* 権限以上が必要です。
- 「ビューポイント抽出」レポートからプライベート抽出を実行し、ファイルにのみ実行できます。

#### プライベート抽出を実行するには:

- 「ビューポイント抽出」レポートで、「**ファイルへの抽出の実行**」をクリックし、ファイル名を入力して(またはデフォルトを受け入れて)、「**実行**」をクリックします。[抽出レポート](#)を参照してください。
- オプション**(増分抽出のみ): 抽出のデフォルトの「自」と「至」の日付を変更し、「**実行**」をクリックします。

#### ノート:

これにより、現在の増分抽出の「自」と「至」の日付のみがオーバーライドされます。抽出自体のデフォルト値は変更されません。**オーバーラ**




**イドの除去**  をクリックして、抽出から元の値を復元します。

## パブリック抽出

### 考慮事項

- パブリック抽出を実行するには、ディメンションに対するデータ・マネージャ権限以上が必要です。
- 「アプリケーション」リスト、「ビューポイント抽出」レポート、REST API または EPM 自動化からパブリック抽出を実行できます。
- ファイルまたはグローバル接続へのパブリック抽出を実行できます。

### 「アプリケーション」リストからパブリック抽出を実行するには:

- 「アプリケーション」から、「アクション」列で  をクリックし、「抽出」を選択します。
- 「抽出」で、実行するディメンション(  で示される)の抽出(  で示される)を選択します。  
▶ ボタンをクリックすると、各ディメンションの抽出が非表示または表示されます。


#### ノート:

抽出が最後に実行された日時が各抽出の下に表示されます。

- 「ターゲットの抽出」で、次のいずれかのオプションを選択します:
  - 接続:** 抽出定義に指定されたグローバル接続への抽出を実行します。(抽出に対してグローバル接続が定義されている場合のみ使用可能)。
  - ファイル:** テキスト・ファイルへの抽出を実行します。抽出先のテキスト・ファイルの名前を編集できます。
- オプション**(増分抽出のみ): 抽出のデフォルトの「自」と「至」の日付を変更します。

#### ノート:

これにより、現在の増分抽出のデフォルトの「自」と「至」の日付のみがオーバーライドされます。抽出自体のデフォルト値は変更されません。**オーバーラ**

**イドの除去**  をクリックして、抽出から元の値を復元します。


- オプション:** 抽出、ディメンション、またはビューとビューポイントをクリックして、これらのオブジェクトを検査または編集します。
- 「抽出の実行」をクリックします。  
ページ上部にステータス・メッセージが表示されます。

EPM 自動化(『Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作』の extractDimension を参照)、REST API (Oracle Enterprise Data Management Cloud Service の REST API のディメンション・ビューポイントの抽出を参照)、またはタスク・マネージャ (Financial Consolidation and Close の管理の EPM Cloud の自動化統合を参照)を使用して、抽出を実行することもできます。


## 抽出履歴の確認

パブリック抽出の履歴のみを表示できます。プライベート抽出の履歴は表示できません。

「抽出」画面で、「履歴」セクションを確認して、このディメンションについて実行された最新の抽出の日時を調べます。デフォルトでは、最近の 5 つが表示されます。「最

新の表示」フィールドで、表示する抽出の数(最大 50)を調整できます。 をクリックすると表が更新されます。

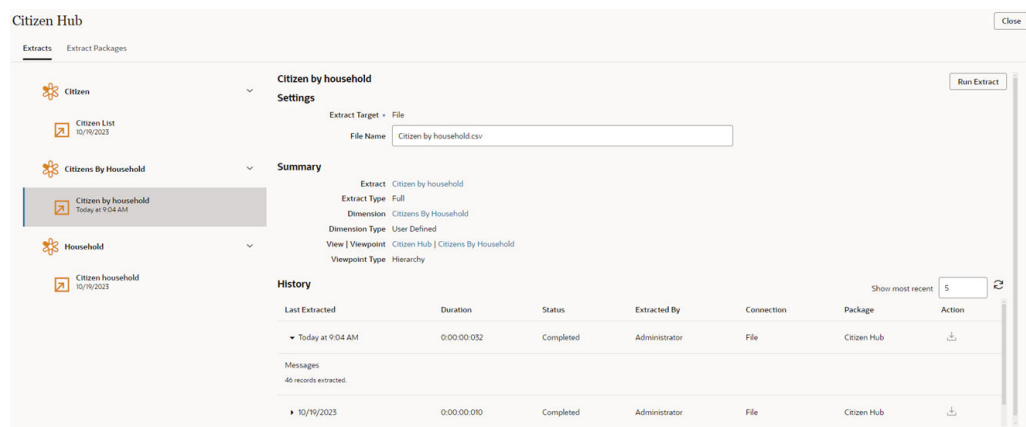
抽出が抽出パッケージの一部として実行された場合は、パッケージの名前が表示されます。

「アクション」列で、「ファイルにダウンロード」 をクリックして、抽出ファイルをサーバーからダウンロードします。これは、時間のかかる抽出中にブラウザがタイムアウトする場合や、抽出結果を以前の抽出ファイルと比較するために役立つことがあります。ダウンロードできるのは、ファイルに対して実行された抽出ファイルのみです。グローバル接続に対して抽出が実行された場合、「抽出」画面からダウンロードすることはできません。



ファイルがサーバーで使用できなくなっている場合、メッセージが表示されます。

### ノート:

REST API から実行された抽出は、「抽出」画面からダウンロードできません。EPM 自動化または REST API を使用して、それらの抽出ファイルをステージング領域からダウンロードします。**Oracle Enterprise Data Management Cloud REST API のステージング領域からのファイルのダウンロード**を参照してください。



The screenshot shows the 'Citizen Hub' interface with the 'Extracts' section selected. The 'Citizen by household' package is highlighted. The settings for this package are displayed, including the file name 'Citizen by household.csv'. The summary section shows the extract type as 'Full' and the dimension as 'Citizens By Household'. The history table shows two recent extracts, both completed by the administrator.

Last Extracted	Duration	Status	Extracted By	Connection	Package	Action
Today at 9:04 AM	0:00:00:032	Completed	Administrator	File	Citizen Hub	
10/19/2023	0:00:00:010	Completed	Administrator	File	Citizen Hub	

## 抽出パッケージの操作

抽出パッケージを使用すると、単一の操作で 1 つのアプリケーションからの複数の抽出を実行できます。抽出パッケージを実行すると、パッケージ内の各抽出が実行され、

それらの個々の結果が単一の zip ファイルに追加されます。オプションで、抽出の一部またはすべてを単一の出力テキスト・ファイルに結合できます。

### ユースケースの例

- 複数の抽出を単一のファイルに結合する機能を使用すると、セクション・ファイル(Oracle Hyperion Financial Management の.APP ファイルや Oracle Data Relationship Management のインポート・ファイルに使用されるものなど)を作成できます。
- さらに、パッケージに含まれるすべての抽出を結合する必要はないため、すべての階層ファイルからの関係を結合した単一の出力テキスト・ファイルと、すべてのノード・レベル・プロパティのリスト・ファイルである別個の出力テキスト・ファイルを含む、単一の zip ファイルを作成する抽出パッケージを作成できます。

### 考慮事項

- 個々の抽出はディメンション・レベルですが、抽出パッケージはアプリケーション・レベルです。このことは、アプリケーションの複数のディメンションからの抽出を含む抽出パッケージを作成できることを意味します。
- 抽出パッケージを他の抽出パッケージに含めることはできません。
- グローバル接続またはファイルへの抽出パッケージを実行できます。パッケージに含まれている抽出が 1 つのみであっても、出力は常に zip されます。

### 結合された抽出ファイルに関するベスト・プラクティス

複数の抽出を単一の出力テキスト・ファイルに結合するときには、次のベスト・プラクティスを考慮してください:

- 抽出パッケージで単一の出力ファイルに結合される個別の抽出では、それぞれ、同じファイルおよびデータ・フォーマット・オプション(区切り文字、改行スタイル、日時フォーマットなど、[抽出オプションの指定](#)を参照)を使用する必要があります。
- 結合されたファイル内に複数の抽出からの単一のセクションを作成する場合は、それぞれの抽出で同じ列を抽出対象に選択する必要があります([抽出列の選択](#)を参照)。
- 出力ファイルの意図に適した抽出パッケージ・ヘッダーおよびフッター・オプションを使用してください([抽出パッケージの作成、編集、コピーおよび削除](#)を参照)。たとえば、関係情報を含む 1 つの抽出とノード情報を含む別の抽出を持つセクション・ファイルを作成する場合は、それぞれの抽出で個別の抽出ヘッダー情報を保持できます。ただし、結合された関係ファイルに 3 つの抽出を含める場合は、最初の抽出でのみヘッダー情報を保持し(他の 2 つの抽出ではヘッダー情報を除外する)、最後の抽出ファイルでフッターを保持することをお勧めします。

## 抽出パッケージの作成、編集、コピーおよび削除

アプリケーション・インスペクタの「抽出パッケージ」タブから抽出パッケージを作成します。

### 抽出パッケージの作成

アプリケーションの抽出パッケージを作成するには、そのアプリケーションの少なくとも 1 つのディメンションに対する「所有者」または「メタデータ・マネージャ」権限を持っている必要があります。

1. 抽出パッケージを作成するアプリケーションを検査します。[アプリケーションの検査](#)を参照してください。



2. 「抽出パッケージ」タブで、「作成」をクリックします。
3. 抽出パッケージの名前と、オプションで説明を入力し、「作成」をクリックします。抽出パッケージがインスペクタに表示されます。

### 抽出パッケージの編集

抽出パッケージを編集するには、そのパッケージのすべてのディメンションに対する「所有者」または「メタデータ・マネージャ」権限を持っている必要があります。

抽出パッケージを作成したら、それを編集して名前または説明を変更し、パッケージに含める抽出、接続情報、抽出の結合オプションなど、抽出パッケージの詳細を指定します。

1. 「全般」タブで、「編集」をクリックし、次の「サマリー」設定を変更します:
  - 抽出パッケージの名前または説明
  - Zip ファイル名(.ZIP ファイル拡張子を含める必要があります)。
2. 「接続」で、グローバル接続の名前とその接続のパラメータを指定します。指定するパラメータは接続タイプに固有です。保存する前に接続をテストできます。「接続のテスト」ボタンは、グローバル接続を設定し、必須パラメータを定義した場合のみ使用可能になります。[グローバル接続の作成](#)を参照してください。

#### Note:

抽出パッケージを作成しているアプリケーションによって、グローバル接続がサポートされている必要があります。

3. パッケージに含まれている 1 つ以上の抽出を単一の出力ファイルに結合する場合は、「抽出の結合」を選択します。結合する抽出は、「抽出」タブで選択します。

#### Note:

このオプションを選択しても、パッケージに含まれているすべての抽出が自動的にまとめて結合されるわけではありません。「抽出」タブの「抽出の結合」チェック・ボックスを使用して、結合する抽出を指定してください。

「抽出の結合」を選択した後、結合されたファイルの名前と、オプションでヘッダーおよびフッターを指定します。

4. 「抽出」タブで、「追加」をクリックし、パッケージに追加する抽出を選択します。「所有者」または「メタデータ・マネージャ」権限を持っているアプリケーションのディメンションのパブリック抽出を選択できます。



#### Note:

抽出のビューポイントがアーカイブされている場合は、警告アイコンが表示されます。アーカイブされたビューポイントを使用する抽出が含まれている抽出パッケージを保存することはできません。

5. 単一の出力ファイルに結合するそれぞれの抽出について、「抽出の結合」を選択します。抽出は、インスペクタにリストされている順序でファイルに出力されます。

 **Note:**


このオプションは、「全般」タブで「抽出の結合」を選択した場合にのみ使用可能です。

- **パッケージ内で抽出を並べ替えるには:** 「アクション」 をクリックし、並替えオプションを使用します。
  - **パッケージから抽出を除去するには:** 「アクション」 をクリックし、「除去」を選択します。
6. **オプション:** 「抽出の結合」を選択した後、結合されたファイルの前に表示する「パッケージ抽出ヘッダー」を入力し、「元の抽出ヘッダーの除外」および「元の抽出フッターの除外」オプションを使用して元の抽出の列またはカスタム・ヘッダーおよびカスタム・フッターを除外します。
  7. 「保存」をクリックします。

### 抽出パッケージのコピー

抽出パッケージをコピーするには、そのパッケージのすべてのディメンションに対する「所有者」または「メタデータ・マネージャ」権限を持っている必要があります。

#### 抽出パッケージをコピーするには:


1. アプリケーション・インスペクタの「抽出パッケージ」タブで、コピーする抽出パッケージの「アクション」列にある「アクション」 をクリックし、「コピー」を選択します。
2. コピーされた抽出パッケージの名前を入力し、「コピー」をクリックします。
3. **オプション:** 抽出パッケージを編集して、パッケージに含める抽出、接続情報、抽出の結合オプションなど、抽出パッケージの詳細を指定します。[抽出パッケージの編集](#)を参照してください。

### 抽出パッケージの削除

抽出パッケージを削除するには、そのパッケージのすべてのディメンションに対する「所有者」または「メタデータ・マネージャ」権限を持っている必要があります。

 **Note:**

抽出パッケージを削除しても、そのパッケージに含まれていた個々の抽出は削除されません。

抽出パッケージを削除するには、アプリケーション・インスペクタの「抽出パッケージ」タブで、削除する抽出パッケージの「アクション」列にある「アクション」 をクリックし、「削除」を選択します。


## 抽出パッケージの実行

ファイルまたはグローバル接続への抽出パッケージを実行できます。

### 考慮事項


- 抽出パッケージを実行するには、それに含まれているすべての抽出のすべてのディメンションに対する「所有者」または「データ・マネージャ」権限を持っている必要があります。
- 抽出パッケージを実行するには、そのパッケージに含まれているすべての抽出のすべてのディメンションが「アクティブ」ステータスである必要があります。
- パッケージに含まれている抽出のいずれかが失敗した場合は、パッケージ全体の抽出が失敗し、パッケージに含まれているいずれの抽出も実行されません。
- 「最終抽出以降」** オプションを使用する増分抽出については(抽出の編集を参照)、抽出が実行されたコンテキスト(個別の抽出として実行されたか、特定の抽出パッケージの一部として実行されたか)が考慮されます:
  - 抽出が(抽出パッケージの一部としてではなく)個別の抽出として実行される場合、「最終抽出以降」パラメータでは、抽出が個別の抽出として最後に実行された時間が使用されます。
  - 抽出が抽出パッケージの一部として実行される場合、「最終抽出以降」パラメータでは、抽出がその特定の抽出パッケージの一部として最後に実行された時間が使用されます。それぞれの抽出パッケージで別個の「最終抽出以降」の値が保持されます。つまり、抽出をパッケージ A の一部として実行した後、抽出をパッケージ B の一部として実行した場合、パッケージ B の抽出は、パッケージ A の一部として実行したときからではなく、パッケージ B の一部として最後に実行した時点に戻ります。
  - 以前の抽出が特定のコンテキストに見つからない場合は(抽出が特定の抽出パッケージで初めて実行された場合など)、ビューポイントの作成日が使用されます。

### 抽出パッケージを実行するには:

- 「アプリケーション」から、「アクション」列で  をクリックし、「抽出」を選択します。
- 「抽出」ページで、「抽出パッケージ」タブを選択します。
- 実行する抽出パッケージを選択します。
- 「設定」で、オプションを選択します:
  - 接続:** 抽出パッケージ定義に指定されたグローバル接続への抽出パッケージを実行します。(抽出パッケージに対してグローバル接続が定義されている場合のみ使用可能)。
  - ファイル:** テキスト・ファイルへの抽出パッケージを実行します。抽出先のテキスト・ファイルの名前を編集できます。
- オプション:** 抽出パッケージ名をクリックして検査または編集します。
- 「パッケージの実行」をクリックします。  
ページ上部にステータス・メッセージが表示されます。

### 抽出パッケージの履歴の確認

「抽出パッケージ」画面で、「履歴」セクションを確認して、このアプリケーションについて実行された最新の抽出パッケージの日時を調べます。デフォルトでは、最近の 5 つが表示されます。「最新の表示」フィールドで、表示する抽出パッケージの数(最大 50)を調整できま


す。 をクリックすると表が更新されます。

抽出パッケージの履歴行を展開して、そのパッケージの一部として実行された抽出とともに、それぞれの抽出の期間、ステータス、抽出されたレコード数を表示できます。

## ビューポイント・ロードの操作

ビューポイント・ロードを使用すると、未バインド、バインド済または一部バインド済のビューポイントにデータをロードできます。バインド済と未バインドの両方のプロパティをロードできます。カンマ区切り(CSV)または Excel ファイル、および CSV または Excel ファイルが含まれた ZIP ファイルを使用して、ビューポイントにデータをロードします。

### ビデオ

目的	参照するビデオ
ビューポイント・ロードを使用してデータをビューポイントにロードする方法についてさらに学習します。	 <a href="#">ビューポイント・ロードの操作</a>

ビューポイント・ロードには主なモードが 2 つあります:

- **マージ:** 要求システムを使用して変更をマージする場合に使用します
- **置換:** ビューポイントのデータをロード・ファイルのデータと置換する場合に使用します。

#### ▲ Caution:

「マージ」または「置換」モードでビューポイント・ロードを実行するとき、ロード・ファイルに次のものが含まれていることを確認してください:

- ロードされているビューポイントのデータの完全なセット。
- 次の例外を除く、ロードされているビューポイントと同じ最上位ノード:
  - 空の階層セットへの初期ロードの場合、ロード・ファイルからの最上位ノードがビューポイントに追加されます。
  - 階層セットが単独のノード・セットによって参照されるビューポイントへのロードの場合、ビューポイントの最上位ノードは、ロード・ファイルの最上位ノードに基づいて追加および除去されます。

ビューポイント・ロードを使用して、代替ビューポイントを作成してそれをロードすることによって、データのサブセットをインポートすることもできます。ロードは代替ビューポイント内の関係を調整し、代替ビューポイントに含まれない階層セット内の関係をそのままにします。代替ビューポイントおよび主なビューポイントの両方にある共通の関係は、影響を受ける可能性があります。

ビューポイント・ロードを使用するユースケースとして、次のようなものが考えられます:

- 階層セット内の複数の最上位ノードの 1 つのみでメンテナンス・ビューポイントを作成し、それにロードすることにより、その最上位ノードのみを更新。たとえば、**Analytics**、**Marketing** および **Finance** を最上位ノードとして持つ **Employees by Department** 階層で、**Finance** のみを最上位ノードとして持つメンテナンス・ビューポイントを作成し、その部門に関する変更のみをロードできます。
- ある分岐から下の階層のサブセットの更新。たとえば、**Geographic** 階層で、**Georgia** を最上位ノードとして持つメンテナンス・ビューポイントを作成し、**Georgia** から下の変更をロードできます。
- 未バインド・プロパティ(ディメンション・バインディングに含まれているもの以外のプロパティ)を持つノードの追加および更新。[バインディングおよびバインドされたデータ・オブジェクトの理解](#)を参照してください。
- 要求アイテム制限を超えるノードのバルク更新。

 **Note:**

ロードされているビューポイントのすべての最上位ノードのすべての関係が、ロード・ファイルに含まれていることを確認してください。

### ビューポイント・ロードの例

階層セット **HS1** は次のビューポイントで使用されています:

ビューポイント名	最上位ノード	ビュー名
CC_VP	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Legal</li> <li>• Managerial</li> <li>• Geographic</li> </ul>	Cost Center (デフォルトのアプリケーション・ビュー)
CC_MGR_VP	Managerial	Managerial (メンテナンス・ビュー)
CC_TX_VP	Texas (Geographic の下のノード)	Texas (メンテナンス・ビュー)

このシナリオの場合:

- **Cost Center** および **Texas** ビューポイントの他の最上位ノードの関係情報を失わずに、**Managerial** ビューポイントにロードできます。ロード・ファイルに **Managerial** 最上位ノードのすべての関係情報が含まれていることを確認してください。
- **Managerial** および **Cost Center** ビューポイントの最上位ノードの関係情報、または **Cost Center** ビューポイントの他の **Geographic** 分岐の関係情報を失わずに、**Texas** ビューポイントにロードできます。ロード・ファイルに **Texas** 最上位ノードのすべての関係情報含まれていることを確認してください。

### ビューポイント・ロードとインポートの比較

ビューポイント・ロードとインポートは、どちらもディメンションにデータをロードするという点で似ています。ただし、いくつかの主要な相違があります:

ビューポイント・ロード	インポート
バインディング・ステータスに関係なく、任意のビューポイントまたはプロパティに対して実行できます	バインドされたビューポイントおよびプロパティに制限されます
バインド済ディメンション、参照ディメンションおよび未バインド・ディメンションで使用できません。	バインド済ディメンションでのみ使用できます。
すべてのバインド済プロパティが必須であるわけではありません。	すべてのバインド済プロパティが必須です。
「置換」および「マージ」モードをサポートしています。	「置換」、「リセット」および「マージ」モードをサポートしています。
ファイルからのみロードできます。	ファイルからインポートすることも、接続を使用して外部アプリケーションからインポートすることもできます。
プロパティの許容値を拡張できません。	プロパティの許容値を(オプションで)拡張できます。
マージ・モードのロードについては、次のオプションが事前定義されており、変更することはできません: <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>削除の処理:</b> False</li> <li>• <b>並替えの処理:</b> True</li> <li>• <b>自動送信:</b> True</li> <li>• <b>承認およびコミットの省略:</b> False</li> </ul>	マージ・インポート・オプションは、ユーザーによる構成が可能です。 <a href="#">インポート・オプションの管理</a> を参照してください

### ロード・モード

データをロードするときに、選択できるモードが2つあります。次の表で、ロード・モードについて説明します。

ロード・モード	階層ビューポイント更新	リスト・ビューポイント更新
マージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ロード・ソースにあるが、ターゲット・ビューポイントにないノードを追加します</li> <li>• ロード・ソースとターゲット・ビューポイントで値が異なるノード・プロパティ値を更新します。</li> <li>• ロード・ソースにターゲット・ビューポイントとは異なる親があるノードの場合:             <ul style="list-style-type: none"> <li>- 共有ノードが有効な場合はノードが挿入されます。</li> <li>- 共有ノードが有効でない場合はノードが移動されます。</li> </ul> </li> <li>• ターゲット・ビューポイントにあるが、ロード・ソースにないノードを除去します。</li> <li>• ビューポイントでカスタム順序がサポートされている場合、並替えアクションを処理します。</li> <li>• 関係プロパティ値の場合:             <ul style="list-style-type: none"> <li>- 関係プロパティ値がロード・ソースに存在するが、ターゲット・ビューポイントに存在しない場合、関係プロパティ値が更新されます。</li> <li>- 関係プロパティ値がロード・ソースとターゲット・ビューポイントで同じ場合、更新は行われません。</li> <li>- ロード・ソースに関係プロパティ値が含まれていない場合、更新は行われません。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ロード・ソースにあるが、ターゲット・ビューポイントにないノードを追加します</li> <li>• ロード・ソースとターゲット・ビューポイントで値が異なるノード・プロパティ値を更新します。</li> <li>• ノードは、作成または更新された日付の降順で表示されます。</li> </ul>
置換	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ターゲット・ビューポイントの既存の最上位ノードの下の階層関係をロード・ファイルの関係と置換します</li> <li>• ターゲット・ビューポイントの最上位ノードにないロード・ファイル内の階層関係は無視されます</li> <li>• ロード・ファイルにないターゲット・ビューポイントの関係プロパティを保持します。</li> <li>• ターゲット・ビューポイントにない、同じ階層セット内の階層関係を保持します</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ロード・ソースにあるが、ターゲット・ビューポイントにないノードを追加します</li> <li>• ロード・ソースとターゲット・ビューポイントで値が異なるノード・プロパティ値を更新します。</li> <li>• ノードは、作成または更新された日付の降順で表示されます。</li> </ul>

## ビューポイント・ロードのファイル形式

ビューポイント・ロードでは、カンマ区切り(CSV)および Excel ファイルと、CSV および Excel ファイルが含まれた ZIP ファイルが受け入れられます。このトピックでは、それらのファイルの要件について説明します。

### 考慮事項

- すべてのビューポイント・ロード・ファイルに、少なくとも次の必須フィールドを持つヘッダー・レコードが含まれている必要があります:
  - 階層ビューポイント: 名前(またはノード)、親、ノード・タイプ、親ノード・タイプ
  - リスト・ビューポイント: 名前(またはノード)、ノード・タイプ
- ロード・ファイルの列ヘッダーは、プロパティ名、完全なプロパティ名(ネームスペースを含む)およびビューポイント・プロパティ・ラベルと照合されます。たとえば、"Account Type"というヘッダーを持つ列は、Account Type または PLN.Account Type と一致します。

#### Note:

列ヘッダーが複数のプロパティ(異なるネームスペースのものなど)と一致する場合は、完全修飾プロパティ名またはビューポイント・ラベルを使用するよう指示するエラーが表示されます。

- ロードされているビューポイントのデータの完全なセットがロード・ファイルに含まれていることを確認してください。
- ヘッダーに含まれているプロパティのみが追加または更新されます。ロード・ファイルに含まれていない、ビューポイントの既存のプロパティは無視されます。
- Excel ファイルについては、ワークシート名が、ロード先のビューポイント名と一致している必要があるとともに、最初の行がヘッダー・レコードである必要があります。
- ZIP ファイルについては、ファイルが Excel または CSV 形式である必要があります。
  - ZIP 内のファイルが 1 つのみである場合、ファイル名に関係なく、それがビューポイントにロードされます。
  - ZIP 内に複数のファイルがある場合:
    - \* ビューポイント名で終わるファイルが 1 つのみである場合、それがビューポイントにロードされます。
    - \* 同じビューポイント名で終わるファイルが複数ある場合、いずれのファイルもロードされず、エラーが表示されます。
- ロード・ファイルは UTF-8 でエンコードしてください。

#### Tip:

Unicode 文字を保持するには、Excel の次のオプションでロード・ファイルを保存します: CSV UTF-8 (コンマ区切り) (\*.csv)。



- 既存の値をプロパティからクリアするには、<clear>キーワードを使用します。
- プロパティについて空白の定義値を設定するには、<blank>キーワードを使用します。
- ファイル内の空のセルは無視されます。

## ビューポイント・ロードの実行

ビューポイント・ロードは「アプリケーション」リストから実行します。

### ベスト・プラクティス

ビューポイント・ロードでバインド済プロパティを処理する場合は、ロードが完了した後にビューポイントを検証することをお勧めします。[ビューポイントの検証](#)を参照してください。


### 考慮事項

- ディメンションへのビューポイント・ロードを実行するには、少なくともそのディメンションに対するデータ・マネージャ権限が必要です。
- 時間ラベル付きビューポイントに対してビューポイント・ロードを実行することはできません。
- 最上位ノードの考慮事項:
  - 空の階層ビューポイントへの初期ロードを実行するとき、または単独のノード・セットに参照されている階層ビューポイントにロードするとき:
    - \* ビューポイントにないロード・ファイルの最上位ノードは、ビューポイントに作成されます
    - \* ロード・ファイルにないビューポイントにある最上位ノードは除去されます。
  - 他のすべての階層ビューポイント:
    - \* ロード・ファイルには、ビューポイントの最上位ノードがすべて含まれている必要があります。含まれていない場合は、ロード・プロセスでエラーが表示されます。
    - \* ロード・ファイルには、ビューポイントにない最上位ノードを含めることはできません。含まれている場合は、ロード・プロセスでエラーが表示されます。
- ロード・ファイルには、ビューポイントの既存の最上位ノード下にはないノードを含めないでください。このようなノードはロード・プロセス中に無視され、警告が表示されます。
- ロード・ファイル内の各最上位ノード下の構造は、完全である必要があります。ファイル内の最上位ノード下のノードがビューポイントの同じ最上位ノード下に存在しない場合、階層セットから除去されますが、ノード・タイプからは削除されません。
- 階層形式については、ノードおよび階層関係がロードされ、階層セットのグループ化およびソート・オプションに基づいて表示されます。外部アプリケーションと一致するように親ノードおよび最下位ノードのソートを調整するには、階層セットを開き、「カスタム順序の使用」、「親ノードからまずグループ化」および「次を基準に最下位ノードをソート」設定を使用して、ビューポイント・ロードを実行する前

に親ノードおよび最下位ノードのソート順を決定します。[階層セットの作成](#)を参照してください。

- アクティブなビューポイントに対してのみビューポイント・ロードを実行できます。
- 現在ブロックアウト期間にあるアプリケーションに対してビューポイント・ロードを実行することはできません。[ブロックアウト期間の理解](#)を参照してください。

ビューポイント・ロードを実行するには:

1. 「アプリケーション」リストから、「アクション」列で「**アクション**」をクリックし、「**ロード**」を選択します。


 **Note:**

アプリケーション内の少なくとも 1 つのディメンションに対して少なくともデータ・マネージャ権限を持っていない場合は、「**ロード**」メニュー項目を使用できません。

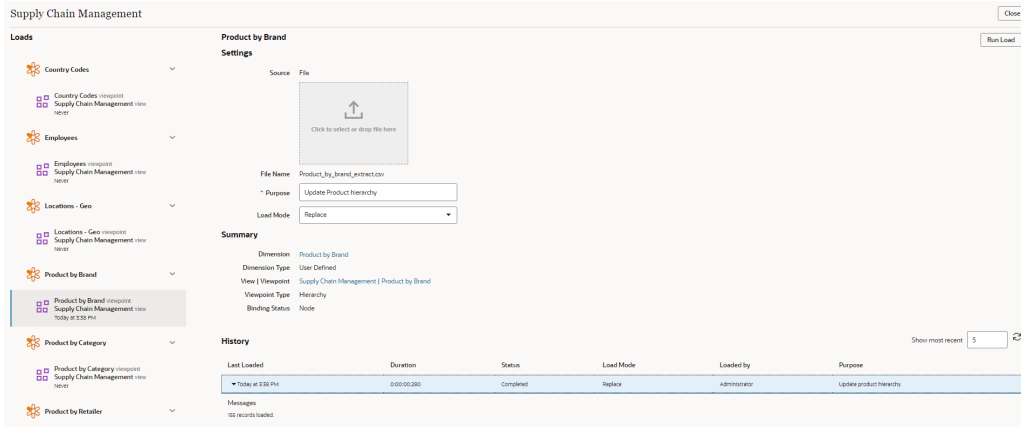
2. 左パネルで、データのロード先のビューおよびビューポイントを選択します。ビューを展開または縮小して、そのビュー内のビューポイントを表示します。
3. 「**ソース**」で、ビューポイント・ロード・ファイルをクリックまたはドラッグして選択します。[ビューポイント・ロードのファイル形式](#)を参照してください。
4. 「**目的**」で、ビューポイント・ロードの目的を指定します。
5. 「**ロード・モード**」を指定します:
  - **マージ**: ロード要求でロード・ファイルからの増分変更を処理します
  - **置換**: 既存のノードをロード・ファイルからのノードに置き換えます。
6. 「**ロードの実行**」をクリックします。  
ビューポイント・ロードが実行され、ページ上部にステータス・メッセージが表示されます。アプリケーション、ディメンション、およびロードされたビューポイントを示すレコードが監査ログに追加されます。

### ビューポイント・ロード履歴の確認

ビューポイント・ロード画面で、「**履歴**」セクションを確認して、このディメンションについて実行された最新のロードの日時を調べます。デフォルトでは、最近の 5 つが表示されます。

「**最新の表示**」フィールドで、表示するロードの数(最大 50)を調整できます。 をクリックすると表が更新されます。

表には、各ロードの実行に要した時間、ロードのステータスとモード、それを実行したユーザーおよび目的が表示されます。行の展開矢印をクリックして、ロードされたレコードの数およびステータス・メッセージを表示します。



## ステージング領域の使用

Oracle Enterprise Data Management Cloud には、外部システムへの直接接続が使用されていない状態で、REST API または EPM 自動化によって開始される自動インポート、エクスポートおよび抽出プロセスのファイルの格納に使用するステージング領域が用意されています。

### Note:

ステージング領域の使用は、サービス管理者のみに制限されます。

ソース・ファイルは、ディメンションにインポートされる前に、ステージング領域にアップロードされます。エクスポート・ファイルおよび抽出ファイルはステージング領域に書き込まれ、リモート・マシンに個別にダウンロードされます。ステージング領域内のファイルは必要に応じてリストして削除できます。

ステージング領域のファイルは、過去 60 日以内に変更されなかった場合は削除されます。[Oracle Enterprise Performance Management Cloud 移行の管理のスナップショットとファイル保持ポリシー](#)を参照してください。

### Note:

ステージング領域のスナップショット以外のファイルは、すべてのスナップショット・ファイルの合計サイズが 150GB を超える場合、古いスナップショット・ファイルを削除するプロセスの一部としては削除されません。

次のプロセスでは、Oracle Enterprise Data Management Cloud のステージング領域を使用します:

- ディメンションのインポート
- ディメンションのエクスポート
- ディメンション・マッピングのエクスポート

- トランザクション履歴のエクスポート
- ディメンション・ビューポイントの抽出
- テンプレートのインポート
- テンプレートのエクスポート

ステータス領域ファイルに対して次の操作が可能です:

#### **REST API**

- [ファイルのアップロード](#)
- [ファイルのダウンロード](#)
- [ファイルのリスト](#)
- [ファイルの削除](#)

#### **EPM 自動化**

- ファイルのアップロード
- ファイルのダウンロード
- ファイルのリスト
- ファイルの削除

## 環境間の移行

環境間で Oracle Enterprise Data Management Cloud アプリケーションを移行するために使用可能な方法が 2 つあります:

- 移行を使用すると、環境全体のスナップショットを作成し、そのスナップショットを新しい環境にインポートできます。[移行の使用](#)を参照してください。
- テンプレートを使用すると、特定のアプリケーションまたはディメンションのメタデータを環境間で転送できます。[テンプレートの操作](#)を参照してください。

### 移行スナップショットに関する考慮事項

移行スナップショットでは、次のものを含む、アプリケーションのメタデータ、データ(つまり、ノード、関係およびプロパティ値)、監査履歴が環境間で転送されます:

- トランザクション履歴
- 要求および要求履歴
- ユーザー、グループ、ポリシーおよび権限
- システム・イベント・ログ内のシステム・イベント
- データ・チェーン・オブジェクトに加えられた変更の履歴

このため、移行スナップショットは、ソース環境をターゲット環境に完全に複製するシナリオに最適です。スナップショットの使用例には次のようなものがあります:

- 本番環境からのすべてのアプリケーション、データおよび履歴でテスト環境をリフレッシュします。
- 障害回復を目的として環境をバックアップします

### テンプレートに関する考慮事項

テンプレートにより、アプリケーションのメタデータのみが環境間で転送されます。データまたは監査履歴は転送されません。このため、テンプレートは、環境間でアプリケーションを移行する必要があるものの、その中のデータは必ずしも移行しないシナリオに最適です。例:

- アプリケーション構造を転送するが、テスト・データは転送しない場合に、テスト環境から本番環境に移行します
- テスト環境からの変更で本番アプリケーションを増分更新します

 **Note:**

テンプレートは、1つの環境から別の環境に変更を移行するように設計されています。そのため、すべての変更を加えるソース・システムと変更の移行先のターゲット・システムを定めることが重要です。両方の環境で変更を加えないでください。移行スナップショットを使用して、必要に応じて環境を再同期できます。[移行シナリオの例](#)の「ベスト・プラクティス」を参照してください。

環境間でデータを移行する場合に移行スナップショットとテンプレートをそれぞれどのようなときに使用するかについてのその他のアイデアは、[移行シナリオの例](#)を参照してください。

## 移行シナリオの例

このトピックでは、様々なシナリオで移行スナップショットおよびテンプレートを使用してアプリケーションを移行する方法の情報を提供します。

### ベスト・プラクティス

- ソース環境からターゲット環境にアプリケーションを転送する前に、両方の環境の **Oracle Enterprise Data Management Cloud** が同じバージョンであることを確認してください。
- 2つの環境間でアプリケーションを転送する場合は必ず、一方の環境でのみ変更(アプリケーション登録の変更やプロパティの作成など)を加え、それをもう一方に転送するようにしてください。ソース環境とターゲット環境の両方で変更を加え、それらをマージしようとししないでください。  
たとえば、両方の環境でプロパティを作成し、テンプレートを使用して、そのプロパティに対する変更を一方の環境からもう一方の環境に移行しようとししないでください。このようにすると、ソース・オブジェクトとターゲット・オブジェクトのIDが同じでないため、システムによってそのプロパティの2つ目のバージョンが作成されます。[テンプレートを使用した既存のアプリケーションまたはディメンションの更新](#)を参照してください。
- オブジェクトのIDが両方の環境で確実に同じになるようにするには、移行スナップショットを使用して再同期します。[シナリオ 4: 本番データによるテスト環境のリフレッシュ](#)を参照してください。

### シナリオ 1: 稼働開始に備えたテスト環境から本番環境へのアプリケーションの移行

このシナリオでは、テスト環境で開発とテストを進めてきたアプリケーションを稼働開始に備えて本番環境に転送する準備が整っています。

このシナリオについては、**テンプレート**を使用してアプリケーションのメタデータを移行できます。これにより、アプリケーションが移行される一方で、本番環境に関連しない可能性のある監査履歴またはテスト・データがテスト環境から移行されないことが確実化されます。

その後、ソース環境からユーザーとグループも転送する場合は、**ユーザーとグループのみの移行スナップショット**を使用してそれらを転送でき、ソース・システムからデータを移行する場合は、ソース環境からターゲット環境へのエクスポートとインポート(または抽出とロード)を使用できます。たとえば、このシナリオの一般的なアプローチは次のとおりです:

1. ターゲット環境に既存のアプリケーション、データまたは監査履歴がすでに存在しないことを確認します。

 **Tip:**

このことを実現するには、ターゲット環境でサービスを再作成します。[サービスの再作成](#)を参照してください。

2. ユーザーとグループがターゲット環境で設定されていることを確認します。

 **Tip:**

ターゲット環境のユーザーとグループがソース環境のユーザーと同じであるか、よく似ている場合は、移行を使用して「**グループとメンバーシップ**」コンポーネントのみをエクスポートし、それをターゲット環境にインポートできます。これにより、ユーザーとグループとともに、割り当てられているアプリケーション・ロールが移行されます。*Oracle Enterprise Performance Management Cloud 移行の管理*のアーティファクトのエクスポートを参照してください

3. テンプレートを使用して、本番環境に移行するソース環境内のアプリケーションを転送します。単一のテンプレート・ファイルを使用して、複数のアプリケーションを転送できます。[テンプレートの操作](#)を参照してください。
4. テスト環境からデータも移行する場合は、次のものを使用してソース環境からターゲット環境にデータを転送します:
  - [エクスポートとインポート](#)(バインドされたデータの場合のみ)。
  - [抽出とビューポイント・ロード](#)(バインドされたデータおよびバインドされていないデータに加えて、バインドされていないディメンションと階層の場合)。
5. テンプレートで転送されないオブジェクトおよび設定について、手動による追加の転送後タスクを実行します。これらには次のものが含まれる場合があります:
  - 場所、アイデンティティ名、ユーザー名、パスワードなど、アプリケーションおよびグローバル接続のパラメータ。
  - ノード・セットの最上位ノード
  - サブスクリプションの最上位ノード・フィルタ詳細は、[テンプレートのオブジェクトおよび設定](#)を参照してください。

## シナリオ 2: テスト環境からの新しいアプリケーションによる本番環境の更新

このシナリオでは、テスト環境で新しいアプリケーションを作成してすべての受入テストを納得がいくまで実行し、それを本番環境にロードしてユーザーにロールアウトする準備が整っています。

このシナリオについては、ほとんどの場合、**テンプレート**を使用します。テンプレートを使用すると、単一のアプリケーションを移行し、他のアプリケーションが含まれている環境にそれをマージできます。ただし、アプリケーションのメタデータのみが転送されることに留意してください。ソース環境のアプリケーションに、ターゲット環境に転送するデータも含まれている場合は、エクスポートしてインポートする(バインドされたデータのみ)か、抽出してロードする(バインドされたデータおよびバインドされていないデータ)必要があります。

### シナリオ 3: テスト環境からの変更による本番アプリケーションの増分更新

このシナリオでは、本番環境のアプリケーションを変更する必要があります。テスト環境で変更を加え(たとえば、いくつかのカスタム検証を変更し、新しい抽出を作成し、派生プロパティの式を変更したとします)、それらの変更を本番アプリケーションに移行します。

このシナリオについては、**テンプレート**を使用して、テスト環境からの変更で本番アプリケーションを増分更新します。考慮事項については、**テンプレートを使用した既存のアプリケーションまたはディメンションの更新**を参照してください。

### シナリオ 4: 本番データによるテスト環境のリフレッシュ

日々のアクティビティに使用する本番環境と新しいアプリケーションや新機能をテストするテスト環境がある場合は、本番環境からの情報でテスト環境を定期的にリフレッシュしてテスト環境の同期を維持しておくことが役立ちます。

このシナリオについては、ほとんどの場合、**移行スナップショット**を使用すると効果的です。これにより、本番環境からのすべてのアプリケーション、設定、データ、ユーザーおよびグループでテスト環境の完全なリフレッシュを行うことができます。

#### Note:

本番環境の移行スナップショットは、ユーザー受入トレーニング(UAT)サイトで使用することや、障害回復サイトでバックアップとして使用することもできます。

## 移行の使用

アーティファクトをエクスポートして、環境間でのサービスの復元またはアプリケーションの移行(テスト環境から本番環境など)、または新しいサービス・インスタンスの設定の支援に使用できるバックアップを作成します。サービス内のすべてのアーティファクトまたはアーティファクトの組合せをエクスポートまたはインポートできます。

### ビデオ

目的	参照するビデオ
移行について学習します。	 <a href="#">アーティファクトの移行</a>

アーティファクトは、2つの Oracle Enterprise Data Management Cloud カテゴリに整理されます。

- 「グループとメンバーシップ」カテゴリには、ユーザー、グループおよび事前定義済ロールに関する情報を含む「ネイティブ・ディレクトリ」アーティファクトが含まれます。
- エンタープライズ・データ管理カテゴリには、次のアーティファクトが含まれます。



- アプリケーション、データ・チェーン、エンタープライズ・データ、要求、トランザクション履歴など、システム内のすべてのデータを含むリポジトリ・データ。
- ユーザーおよびグループを、それらがアクセスできるデータに関連付ける権限を含むデータ権限。

これらは、異なる環境でアーティファクトをインポートする際の考慮事項です。

- アーティファクトを *同じ* ユーザーおよびグループを含む *新しい* 環境にインポートする場合は、ネイティブ・ディレクトリ、リポジトリ・データ、データ権限の順にアーティファクトをインポートします。たとえば、テスト環境から本番環境にアーティファクトをインポートする場合、最初にネイティブ・ディレクトリをインポートし、次に、リポジトリ・データ、データ権限をインポートします。
- *同じ* ユーザーおよびグループを含む *既存* の環境にインポートする場合は、リポジトリ・データ、データ、データ権限の順にアーティファクトをインポートします。

#### ノート:

ネイティブ・ディレクトリは不要です。

- *異なる* ユーザーおよびグループを含む *既存* の環境にインポートする場合は、最初にネイティブ・ディレクトリ、次にリポジトリ・データをインポートします。

#### ノート:

データ権限はインポートしないでください。インポート後、データ・オブジェクトにアクセスするためのユーザーおよびグループ権限を定義できます。

アーティファクトを移行するには、**EPM Cloud Services** での移行の使用を参照してください。

#### ノート:

一度に **1** つのアーティファクトをインポートする場合、ネイティブ・ディレクトリ、リポジトリ・データ、データ権限の順にインポートします。

#### ノート:

データ整合性を保証するため、移行タスクを行う際、移行の実行中に他のユーザーはサービス内ですべての操作を実行できなくなります。サービス管理タスクが進行中であるというメッセージが表示され、ユーザーはホーム画面に戻ります。

## テンプレートの操作

テンプレートにより、アプリケーションまたはディメンションの構成を他の **Oracle Enterprise Data Management Cloud** 環境で使用するためにオフライン・ファイルに格納できます。テンプレートを使用して、アプリケーションまたはディメンションおよびそのメタデ

ータ・オブジェクトを環境間で(たとえば、テスト環境から本番環境に)転送したり、または新規の実装でクイック・スタートを可能にします。

テンプレートを使用するには、最初に、ソース環境のアプリケーションまたはディメンションとその関連メタデータ・オブジェクトのすべてを .json ファイルにエクスポートし、そのテンプレートをターゲット環境にインポートします。

テンプレートにはメタデータのみが含まれ、データ、要求またはトランザクション履歴は含まれません。

### ベスト・プラクティス

既存の本番環境に転送する予定のアプリケーションをテスト環境で作成している場合、最初に本番環境の現在のスナップショットでテスト環境をリフレッシュしてから、転送するアプリケーションを作成することがベスト・プラクティスです。これにより、プロパティやビューなどのグローバル・オブジェクトが、両方の環境で確実に同じ ID を持ちます。

#### ▲ Caution:

テンプレートは、1つの環境から別の環境に変更を移行するように設計されています。そのため、すべての変更を加えるソース・システムと変更の移行先のターゲット・システムを定めることが重要です。両方の環境で変更を加えないでください。移行スナップショットを使用して、必要に応じて環境を再同期できます。[移行シナリオの例](#)の「**ベスト・プラクティス**」を参照してください。

### 考慮事項

- アプリケーションとディメンションをテンプレートにインポートおよびエクスポートするには、サービス管理者であるか、「[移行-管理](#)」アプリケーション・ロール([アプリケーションのロールと権限の理解](#)を参照)を持っている必要があります。
- アプリケーションがターゲット環境に転送される場合:
  - ソース環境のアプリケーション所有者がターゲット環境にも存在する場合、それらはターゲット環境のアプリケーション所有者として保持されます。
  - ソース環境のアプリケーション所有者がターゲット環境に存在しない場合、サービス管理者はターゲット環境のアプリケーションに所有者を割り当てる必要があります。
- ソース環境からターゲット環境に新しいアプリケーションまたはディメンションを転送したり、ターゲット環境にすでに存在するアプリケーションまたはディメンションを転送できます。テンプレートのインポート・プロセスでは、まだ存在しないオブジェクトを作成し、ターゲットのアプリケーションまたはディメンションの既存のオブジェクトを変更することにより、ターゲット環境の既存のアプリケーションまたはディメンションを更新します。[テンプレートを使用した既存のアプリケーションまたはディメンションの更新](#)を参照してください。
- アクティブなアプリケーションのみを転送できます。
- ソース環境のアーカイブ済オブジェクトがターゲット環境にまだ存在しない場合、アーカイブ済データ・チェーン・オブジェクトをテンプレート・インポートから除外できます。

 **Note:**

アーカイブ済オブジェクトに依存するオブジェクトがターゲット環境に存在しない場合、それらもテンプレート・インポートから除外されます。依存オブジェクトが部分的に除外される場合、オブジェクトはテンプレート・プレビューまたはテンプレート・インポートに表示されますが、インポートできないことを示す警告メッセージが表示されます。

たとえば、インポート時にアーカイブ済ディメンションを除外し、このディメンションがターゲット環境にまだ存在しない場合、ディメンション・バインド、ノード・タイプ、ポリシー、抽出などのオブジェクトがターゲット環境にまだ存在しない場合は、これらもテンプレート・インポートから除外されます。

- 単一のテンプレート・ファイルで、複数のアプリケーションを転送できます。ディメンション・レベルで転送する場合、単一のテンプレート・ファイルで複数のディメンションを転送することはできません。
- ディメンションを転送するときは、そのディメンションを含むアプリケーションがターゲット環境に存在する必要があります。
- 環境間でアプリケーションまたはディメンションを転送するには、両方の環境のリリース・バージョンが同じである必要があります。
- テンプレートをインポートする際、ユーザーまたはグループがソース環境とターゲット環境の両方に存在する場合、関連付けられたオブジェクトに対する次のユーザーおよびグループの参照がインポートされます:
  - 権限
  - ポリシー・ユーザーおよびグループ
  - サブスクリプション担当者
  - ユーザーおよびグループのビュー・フィルタ

ソース環境のユーザーまたはグループがターゲットに存在しない場合、関連付けられたユーザーまたはグループの参照は転送されません。ターゲット環境に欠落しているユーザーおよびグループと、インポートされなかった関連するオブジェクトを示すメッセージが表示されます。

- ノード・タイプ・コンバータおよびサブスクリプションをインポートするには、ソースおよびターゲットの両方のアプリケーションまたはディメンションがターゲット環境に存在する必要があります。同じテンプレート・ファイル内のソースおよびターゲットの両方のアプリケーションを転送するか、ターゲットのアプリケーションまたはディメンションのインポート時にコンバータおよびサブスクリプションが作成されるように、コンバータおよびサブスクリプションのソースのアプリケーションまたはディメンションを最初にインポートするようにしてください。
- ノード・データ型を使用して他のディメンションを参照するプロパティを持つディメンションを転送する場合は、それらのソース・ディメンションがターゲット・システムにすでに存在している必要があります。そうでない場合は、それらのソース・ディメンションを最初に転送するか、アプリケーション・テンプレートを使用して同じテンプレート・ファイル内のすべてのディメンションを転送します。
- 同じ名前異なる ID を持つオブジェクトがターゲット環境にすでに存在する場合、次のグローバル・オブジェクトをインポートすると、一意にするためにターゲット環境のソース・オブジェクトの名前が変更されます:
  - プロパティ

- ビュー
  - 参照セット
  - グローバル接続
- アプリケーションまたはディメンションをテンプレートにエクスポートした後、.json ビューアでテンプレート・ファイルのコンテンツを確認できます。

**▲ Caution:**

テンプレート・ファイルの手動編集はサポートされていません。

**アプリケーションまたはディメンションをテンプレートにエクスポートするには:**

1. 「ツール」 タイルから、「テンプレート」 を選択します。

**✎ Note:**

「ツール」 タイルは、サービス管理者または「移行-管理」アプリケーション・ロールを持つユーザーにのみ表示されます。

2. 「エクスポート」 タブで、次のいずれかのアクションを実行します:

- アプリケーションをエクスポートするには、左パネルからアプリケーションを選択します。複数のアプリケーションを選択するには、[Ctrl]/[Cmd]キーを押しながらかlickします。選択するアプリケーションは、「選択済アーティファクト」セクションにリストされています。
- ディメンションをエクスポートするには、左のパネルでアプリケーションを展開し、エクスポートするディメンションを選択します。単一のテンプレート・ファイルで、複数のディメンションを選択することはできません。

**✎ Note:**

属性ディメンションをエクスポートするには、属性ディメンションの基本ディメンションを選択します。

3. 「テンプレート・ファイル」 に.json 拡張子を付けてファイル名を入力し、「エクスポート」 をクリックします。  
テンプレートが作成され、ローカル・ファイル・システムにダウンロードされます。エクスポートのステータスが表示されます。

**アプリケーションまたはディメンションをテンプレートからインポートするには:**

1. 「ツール」 タイルから、「テンプレート」 を選択します。

**✎ Note:**

「ツール」 タイルおよび「テンプレート」 タイルは、サービス管理者または「移行-管理」アプリケーション・ロールを持つユーザーにのみ表示されます。

2. 「インポート」タブで「ファイルの選択」をクリックします。
3. ローカル・ファイル・システムから、.json 拡張子のファイルを選択し、「開く」をクリックします。
4. オプション: 1 つ以上の「インポート・オプション」を選択します:
  - 「置換権限」: ターゲット環境の既存の権限を、ソース・テンプレートの権限と置換します。
  - 「置換ポリシー・グループ」: ターゲット環境の既存のポリシー・グループを、ソース・テンプレートのポリシー・グループと置換します。
  - **アーカイブ済オブジェクトの除外**: ソース・オブジェクトがターゲット環境に存在しない場合は、ターゲット環境へのインポートから、ソース環境のテンプレート内のアーカイブ済オブジェクトを除外します。

 **Note:**

ターゲット環境にすでに存在するソース・テンプレート内のアーカイブ済オブジェクトは、テンプレート・プレビューまたはテンプレート・インポートから除外できません。

テンプレートのオブジェクトおよび設定を参照してください。

5. 「プレビュー」をクリックして、テンプレート・ファイル内のオブジェクトを識別し、それぞれのステータスを表示します。テンプレート・インポートのプレビューとインポート結果の確認を参照してください。
6. 「インポート」をクリックし、確認メッセージの「はい」をクリックします。テンプレートがインポートされ、テンプレート内の各オブジェクトのステータスが表示されます。テンプレート・インポートのプレビューとインポート結果の確認を参照してください。

## テンプレートを使用した既存のアプリケーションまたはディメンションの更新

インポートするアプリケーションまたはディメンションがターゲット環境にすでに存在する場合、そのアプリケーションまたはディメンションは、テンプレートのインポート・プロセス中に更新されます。新しいオブジェクトは追加され、既存のオブジェクトはインポート・ファイルのオブジェクトおよび設定で変更されます。

たとえば、テスト環境のアプリケーションにノード・タイプを追加する場合、テンプレートを使用して、そのノード・タイプを本番環境のアプリケーションに追加できます。

### 考慮事項

- アプリケーションまたはディメンションは、ソース・アプリケーションまたはディメンションと同じ環境に作成されて、テンプレートまたは移行スナップショットのいずれかからターゲットに移行された場合にのみ更新されます。ソース環境とターゲット環境に同じ名前のアプリケーションまたはディメンションがあり、それが同じ環境で作成されていない場合、それらは同じアプリケーションまたはディメンションとは見なされません。
- ソースおよびターゲットのオブジェクトは、名前ではなく ID で照合されます。

- ソース・オブジェクトの名前がターゲットの既存のオブジェクトと同じ名前でも ID が異なる場合は、インポート・プロセス中に増分接尾辞を使用してソース・オブジェクト名が変更され、メッセージが表示されます。
- ソース・オブジェクトの ID がターゲットの既存のオブジェクトと同じ ID で名前が異なる場合、ターゲット・オブジェクト名は、ターゲット環境の既存の名前と競合しないかぎり、ソースの名前に変更されます。競合する場合は、現在のターゲット名が保持され、メッセージが表示されます。
- ソース環境でアーカイブまたは削除されたオブジェクトは、ターゲット環境から除去されません。

## テンプレートのオブジェクトおよび設定

次の表に、アプリケーションまたはディメンションがソース環境からエクスポートされてターゲット環境にインポートされ、(そのアプリケーションまたはディメンションがターゲット環境にすでに存在するかどうかに応じて)追加または更新される場合に、テンプレート内のすべてのオブジェクトおよび設定に予想される動作を示します。

インポートするアプリケーションまたはディメンションがターゲット環境にすでに存在する場合、そのアプリケーションまたはディメンションは、テンプレート・ファイルの情報で更新されます。(テンプレートを使用した既存のアプリケーションまたはディメンションの更新を参照してください)。更新時に、オブジェクト・タイプに応じて次のアクションが考えられます:

- **上書き:** ターゲット・アプリケーションまたはディメンションの設定またはパラメータは、テンプレート・ファイルの設定またはパラメータで上書きされます。たとえば、テンプレート・ファイルにターゲット・アプリケーションとは異なるアプリケーションの名前が含まれている場合、その名前はテンプレートからの名前で上書きされます。
- **マージ:** テンプレート・ファイルの新しいオブジェクトは、ターゲット・アプリケーションまたはディメンションのそれらのオブジェクトの既存のセットに追加され、既存のオブジェクトのセットが保持されます。たとえば、テンプレート・ファイルに新しいディメンションおよびノード・タイプが含まれている場合、それらのオブジェクトはターゲット・アプリケーションの既存のディメンションおよびノード・タイプに追加されます。
- **保持:** テンプレートに新しいオブジェクト、設定またはパラメータが存在する場合でも、ターゲット・アプリケーションまたはディメンションのものが保持されます。これは、主としてオブジェクトがテンプレート・ファイルに含まれていない場合に使用されます。たとえば、サブスクリプションの最上位ノード・フィルタはテンプレート・ファイルに含まれていないため、ターゲット・アプリケーションで保持されます。
- **置換:** ターゲット・アプリケーションまたはディメンションのオブジェクト、設定またはパラメータは、テンプレート・ファイルのものと置換されます。

Table 27-1 テンプレートを使用してアプリケーションまたはディメンションをエクスポート、追加または更新する場合の予想される動作

オブジェクトまたは設定	アプリケーションまたはディメンションのエクスポート時:	アプリケーションまたはディメンションの追加時:	アプリケーションまたはディメンションの更新時:
アプリケーション	アクティブなアプリケーションがエクスポートされます。 <b>ノート:</b> アプリケーション・レベルの「ワークフローの無効化」設定はエクスポートされません。	新しいアプリケーションが追加されます。	名前、説明、外部システム・タイプとラベル(汎用アプリケーションのみ)などの一般的なアプリケーション・パラメータに加え、既存のアプリケーションのアプリケーション登録情報およびアプリケーションのブロックアウト期間が上書きされます。
プロパティ	シーケンス・プロパティの場合、最後のシーケンス値はソース環境からエクスポートされません。ターゲット・システムのシーケンス値は、ターゲット環境でのシーケンス(または、そのシーケンスが増分されていない場合はシーケンスの開始値)に基づいて生成されます。 <a href="#">シーケンス・プロパティの操作</a> を参照してください。	プロパティが作成されます。 プロパティ・オーバーライドがアプリケーションに設定されます。 同じ名前異なる ID を持つターゲット・プロパティがすでに存在する場合、一意にするためにターゲット環境のソース・プロパティの名前が変更されます。	新しいプロパティがマージされ、プロパティ・リストの最後に配置されます。 次のプロパティ属性が上書きされます: <ul style="list-style-type: none"> <li>ラベル</li> <li>説明</li> <li>基本パラメータ</li> <li>アプリケーションおよびノード・タイプ・オーバーライド</li> <li>ソート順</li> <li>必須フラグ</li> </ul>
参照セット	アプリケーションのプロパティまたはノード・タイプ・コンバータによって使用される参照セットのみがエクスポートされます。 ディメンションをエクスポートすると、そのディメンションが含まれているアプリケーションによって使用されるすべての参照セットがテンプレート・ファイルにエクスポートされます。	参照セットが作成されます。 参照値がアプリケーションに設定されます。 同じ名前異なる ID を持つターゲット参照セットがすでに存在する場合、一意にするためにターゲット環境のソース参照セットの名前が変更されます。	新しい参照セットがマージされます。 名前や説明などの一般的な参照セット・パラメータおよび参照値が上書きされます。

Table 27-1 (Cont.) テンプレートを使用してアプリケーションまたはディメンションをエクスポート、追加または更新する場合の予想される動作

オブジェクトまたは設定	アプリケーションまたはディメンションのエクスポート時:	アプリケーションまたはディメンションの追加時:	アプリケーションまたはディメンションの更新時:
グローバル接続	<ul style="list-style-type: none"> <li>アプリケーションの抽出で使用されるグローバル接続のみがエクスポートされます。</li> <li>セキュリティ上の理由から、グローバル接続の場所、アイデンティティ名、ユーザー名およびパスワードはエクスポートされません。</li> </ul>	<p>テンプレート・ファイルのソース・グローバル接続がターゲット環境のグローバル接続と照合されます。</p> <p>同じ名前異なる ID を持つターゲット接続がすでに存在する場合、一意にするためにターゲット環境のソース接続の名前が変更されます。</p> <p>ターゲット環境にグローバル接続が作成された後、場所、アイデンティティ名、ユーザー名およびパスワードを編集して追加する必要があります。<a href="#">グローバル接続の作成</a>を参照してください。</p>	<p>新しいグローバル接続がマージされます。</p> <p>名前や説明などの一般的なグローバル接続パラメータが上書きされます。</p> <p>ターゲット・アプリケーションのグローバル接続の場所および資格証明はテンプレートに含まれていないため、その情報は保持されます。</p>
アプリケーション接続	<p>セキュリティ上の理由から、グローバル接続の場所、アイデンティティ名、ユーザー名およびパスワードはエクスポートされません。</p>	<p>ターゲット環境のアプリケーション登録を変更して、接続の場所、アイデンティティ名、ユーザー名およびパスワードを追加する必要があります。</p>	<p>新しいアプリケーション接続がマージされます。</p> <p>名前や説明などの一般的なアプリケーション接続パラメータが上書きされます。また、プライマリ・フラグは、テンプレートにターゲットとは異なる接続で設定されている場合は上書きされ、テンプレートに接続のプライマリ・フラグが設定されておらず、ターゲットに設定されている場合は保持されます。</p> <p>ターゲット・アプリケーションのアプリケーション接続の場所および資格証明はテンプレートに含まれていないため、その情報は保持されます。</p>



Table 27-1 (Cont.) テンプレートを使用してアプリケーションまたはディメンションをエクスポート、追加または更新する場合の予想される動作

オブジェクトまたは設定	アプリケーションまたはディメンションのエクスポート時:	アプリケーションまたはディメンションの追加時:	アプリケーションまたはディメンションの更新時:
ビュー	選択したアプリケーションのビューポイントを含むビューのみがエクスポートされ、選択したアプリケーションのビューポイントのみがエクスポートされます。アクティブおよびアーカイブ済のビューがエクスポートされます。	同じ名前で異なる ID を持つターゲット・ビューがすでに存在する場合、一意にするためにターゲット環境のソース・ビューの名前が変更されます。ビュー・フィルタについては、ソース・ユーザーまたはグループがターゲット環境に存在しない場合、ビュー・フィルタはインポートされず、欠落しているユーザーまたはグループを示すメッセージが表示されます。	新しいビュー、ビューポイントおよび権限がマージされます。名前や説明などの一般的なビュー・パラメータが上書きされます。「[ビュー] ページに表示」設定: フィルタ・タイプが同じ場合、新しいユーザーおよびグループがマージされます。異なる場合、ターゲットはテンプレートのフィルタで上書きされます。
時間ラベル	アプリケーションをエクスポートすると、そのアプリケーションのビューの時間ラベルがすべてエクスポートされます。		新しい時間ラベルがマージされます。名前などの一般的な時間ラベル・パラメータが上書きされます。
ディメンション	アクティブおよびアーカイブ済のディメンションがエクスポートされます。基本ディメンションの属性ディメンションがエクスポートされます。	アクティブおよびアーカイブ済のディメンションが作成されます。属性ディメンションが作成されます。	新しいディメンションがマージされます。新しい属性ディメンションがマージされます。名前や説明などの一般的なディメンションまたは属性パラメータに加え、インポートおよびエクスポート・オプションが上書きされます。

Table 27-1 (Cont.) テンプレートを使用してアプリケーションまたはディメンションをエクスポート、追加または更新する場合の予想される動作


オブジェクトまたは設定	アプリケーションまたはディメンションのエクスポート時:	アプリケーションまたはディメンションの追加時:	アプリケーションまたはディメンションの更新時:
ノード・タイプ	<p>アクティブおよびアーカイブ済みのノード・タイプがエクスポートされます。</p> <p>各ノード・タイプに対して次のオブジェクトがエクスポートされます:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プロパティおよびプロパティ・オーバーライド</li> <li>ノード・タイプ・コンバータ</li> <li>カスタム検証</li> <li>権限およびポリシー</li> </ul>	<p>各ディメンションに対して、次のオブジェクトとともにノード・タイプが作成されます:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プロパティが各ノード・タイプに追加され、プロパティ・オーバーライドが各ノード・タイプに設定されます。</li> <li>ソース・アプリケーションとターゲット・アプリケーションの両方がターゲット環境に存在する場合、ノード・タイプ・コンバータが作成されます。</li> </ul> <div data-bbox="971 982 1182 1929" style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p> <b>Tip:</b></p> <p>ノード・タイプ・コンバータでアプリケーションを移行する場合、コンバータのターゲット・アプリケーションを移行するときにノード・タイプ・コンバータが作成されるように、コンバータのソース・アプリケーションを最初に移行してください。</p> </div>	<p>新しいノード・タイプ、ノード・タイプ・コンバータおよびカスタム検証がマージされます。</p> <p>名前や説明などの一般的なノード・タイプ・パラメータが上書きされます。</p>

Table 27-1 (Cont.) テンプレートを使用してアプリケーションまたはディメンションをエクスポート、追加または更新する場合の予想される動作

オブジェクトまたは設定	アプリケーションまたはディメンションのエクスポート時:	アプリケーションまたはディメンションの追加時:	アプリケーションまたはディメンションの更新時:
		<ul style="list-style-type: none"> <li>各ノード・タイプにカスタム検証が作成されます。</li> <li>ソース・ユーザーまたはグループがターゲット環境に存在する場合、各ノード・タイプに権限およびポリシーが作成されます。</li> </ul>	
階層セット	<p>アクティブおよびアーカイブ済の階層セットがエクスポートされます。</p> <p>各階層セットに対して次のオブジェクトがエクスポートされます:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>カスタム検証</li> <li>権限およびポリシー</li> </ul>	<p>各ディメンションに対して、次のオブジェクトとともに階層セットが作成されます:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各階層セットにカスタム検証が作成されます。</li> <li>ソース・ユーザーまたはグループがターゲット環境に存在する場合、各階層セットに権限およびポリシーが作成されます。</li> </ul>	<p>新しい階層セット、ノード・タイプおよびカスタム検証がマージされます。一致する子ノード・タイプが更新されます。名前や説明などの一般的な階層セット・パラメータに加え、共有ノードおよびカスタム順序の設定が上書きされます。</p>
ノード・セット	<p>アクティブおよびアーカイブ済のノード・セットがエクスポートされます。</p> <p><b>注意:</b> 最上位ノードはインポートされません。</p>	<p>最上位ノードはインポートされません。</p>	<p>リストの新しいノード・セットおよびノード・タイプがマージされます。名前や説明などの一般的なノード・セット・パラメータが上書きされます。</p> <p>最上位ノードはテンプレート・ファイルに含まれていないため、保持されます。</p>
ビューポイント	<p>アクティブおよびアーカイブ済のビューポイントがエクスポートされます。</p> <p>標準および時間ラベル付きビューポイントがエクスポートされます。</p> <p>選択したアプリケーションのビューポイントのみがエクスポートされます。</p>		<p>新しいビューポイントがマージされます。</p> <p>名前や説明などの一般的なビューポイント・パラメータに加え、許可されているアクション、時間ラベルおよび編集可能なプロパティが上書きされます。</p>

Table 27-1 (Cont.) テンプレートを使用してアプリケーションまたはディメンションをエクスポート、追加または更新する場合の予想される動作

オブジェクトまたは設定	アプリケーションまたはディメンションのエクスポート時:	アプリケーションまたはディメンションの追加時:	アプリケーションまたはディメンションの更新時:
比較プロファイル	<p>プロファイルに「自」または「至」ビューポイントが含まれているアプリケーションまたはディメンションの比較プロファイルがエクスポートされます。</p> <p><b>ノート:</b> 比較プロファイルの「自」および「至」ノード・パラメータはエクスポートされません。</p>	<p>ターゲット環境に「自」と「至」両方のビューポイントが存在する場合、比較プロファイルが作成されます。</p>	<p>新しい比較プロファイルがマージされます。名前や説明などの比較パラメータに加え、比較スコープおよびノード・フィルタが上書きされます。</p>
問合せ	<p>保存済パブリックおよびプライベート問合せは、その問合せを含むアプリケーションまたはディメンションをエクスポートするとエクスポートされます。</p> <p><b>「選択したノード」</b>パラメータはエクスポートされません。</p>	<p>パブリック問合せがインポートされます。プライベート問合せは、ターゲット・システムにユーザーが存在する(ユーザー名により)場合のみインポートされます。</p>	<p>新しいパブリック問合せがマージされます。新しいプライベート問合せは、ターゲット・システムにユーザーが存在する(ユーザー名により)場合のみマージされます。</p> <p>名前、説明、コードなどの一般的な問合せパラメータが上書きされます。</p> <p>ソースでパブリックに移行されたプライベート問合せは、ターゲットでパブリックに移行されます。</p> <p>問合せのビューポイントがターゲットに存在しない場合、問合せはインポートされません。</p> <p>既存の問合せの<b>「選択したノード」</b>パラメータは、ターゲット環境で保持されます。</p>

Table 27-1 (Cont.) テンプレートを使用してアプリケーションまたはディメンションをエクスポート、追加または更新する場合の予想される動作

オブジェクトまたは設定	アプリケーションまたはディメンションのエクスポート時:	アプリケーションまたはディメンションの追加時:	アプリケーションまたはディメンションの更新時:
サブスクリプション	<p>ターゲット・ビューポイントのサブスクリプションがエクスポートされます。</p> <p><b>ノート:</b> サブスクリプションのソースであるビューポイントを含むアプリケーションをエクスポートする場合、サブスクリプションはエクスポートされません。</p> <p><b>注意:</b> サブスクリプションの最上位ノード・フィルタはエクスポートされません。</p>	<p>サブスクリプションのソースおよびターゲットの両方のアプリケーションがターゲット環境に存在する場合のみ、サブスクリプションが作成されます。</p> <p><b>ヒント:</b> サブスクリプションでアプリケーションを移行する場合、ターゲット・アプリケーションを移行するときにサブスクリプションが作成されるように、サブスクリプションのソース・アプリケーションを最初に移行してください。</p> <p>サブスクリプションの最上位ノード・フィルタはインポートされません。</p>	<p>ソースとターゲットのビューポイントを照合して、ターゲットの既存のサブスクリプションを識別します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ターゲットにないビューポイントの組合せの新しいサブスクリプションがマージされます。</li> <li>ターゲットの既存のサブスクリプションが更新されます。</li> </ul> <p>名前や説明などの一般的なサブスクリプション・パラメータに加え、オプション、アクションと条件のフィルタ、および包含プロパティが上書きされます。</p> <p>最上位ノード・フィルタは保持されます。</p> <p>デフォルト担当者は保持されます。代替担当者はマージされます。</p>
バインド			<p>新しい非マップ・バインドがマージされます。</p> <p>各ディメンションでサポートされるマップ・バインドは1つのみであるため、ターゲット・アプリケーションの既存のマップ・バインドは置換されます。</p> <p>名前や説明などの一般的なバインド・パラメータに加え、設定、キーおよびマッピング・キーが上書きされます。</p>

Table 27-1 (Cont.) テンプレートを使用してアプリケーションまたはディメンションをエクスポート、追加または更新する場合の予想される動作

オブジェクトまたは設定	アプリケーションまたはディメンションのエクスポート時:	アプリケーションまたはディメンションの追加時:	アプリケーションまたはディメンションの更新時:
抽出	パブリックおよびプライベート抽出がエクスポートされます。	パブリック抽出がインポートされます。プライベート抽出は、ターゲット・システムにユーザーが存在する(ユーザー名により)場合のみインポートされます。	新しいパブリック抽出がマージされます。新しいプライベート抽出は、ターゲット・システムにユーザーが存在する(ユーザー名により)場合のみマージされます。名前や説明などの一般的な抽出パラメータに加え、列、フィルタおよびオプションが上書きされます。ソースでパブリックに移行されたプライベート抽出は、ターゲットでパブリックに移行されます。
カスタム検証			上書き
制約	アプリケーションのエクスポート時に、アプリケーション、ディメンションおよびノード・タイプの制約がエクスポートされます。ディメンションのエクスポート時は、ディメンションの制約のみがエクスポートされます。		新しい制約がマージされます。既存の制約は上書きされます。
ポリシー <b>ノート:</b> テンプレートをインポートするとき、「置換ポリシー・グループ」を選択して、ターゲット環境の既存のポリシー・グループを、ソース・テンプレートのポリシー・グループと置換します。テンプレートの操作を参照してください。	次のオブジェクトに対して、ポリシー・ユーザーおよびグループがエクスポートされます: <ul style="list-style-type: none"> <li>• 選択したアプリケーション</li> <li>• 選択したアプリケーションのディメンション</li> <li>• 選択したアプリケーションのノード・タイプ</li> <li>• 選択したアプリケーションの階層セット</li> </ul>	ソース・ユーザーまたはグループがターゲット環境に存在する場合、ポリシー・ユーザーおよびグループがインポートされます。ソース・ユーザーまたはグループがターゲット環境に存在しない場合、ポリシー・ユーザーまたはグループはインポートされず、欠落しているユーザーまたはグループおよび関連付けられたオブジェクトを示すメッセージが表示されます。	新しいポリシーおよびポリシー・グループがマージされます。名前や説明などの一般的なポリシー・パラメータに加え、ポリシー・フィルタが上書きされます。既存のポリシーのポリシー・グループは、デフォルトで保持されます。「置換ポリシー・グループ」オプションを使用すると、既存のポリシー・グループが保持されずに置換されます。

Table 27-1 (Cont.) テンプレートを使用してアプリケーションまたはディメンションをエクスポート、追加または更新する場合の予想される動作

オブジェクトまたは設定	アプリケーションまたはディメンションのエクスポート時:	アプリケーションまたはディメンションの追加時:	アプリケーションまたはディメンションの更新時:
<p>権限</p> <p><b>ノート:</b> テンプレートをインポートするとき、「置換権限」を選択して、ターゲット環境の既存の権限を、ソース・テンプレートの権限と置換します。テンプレートの操作を参照してください。</p>	<p>次のオブジェクトに対して、権限およびデータ・アクセスがエクスポートされます:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 選択したアプリケーション</li> <li>• 選択したアプリケーションのディメンション</li> <li>• 選択したアプリケーションのノード・タイプ</li> <li>• 選択したアプリケーションの階層セット</li> <li>• 選択したアプリケーションにビューポイントがあるビュー</li> </ul>	<p>ソース・ユーザーまたはグループがターゲット環境に存在する場合、権限およびデータ・アクセスがインポートされます。</p> <p>ソース・ユーザーまたはグループがターゲット環境に存在しない場合、権限およびデータ・アクセスはインポートされず、欠落しているユーザーまたはグループおよび関連付けられたオブジェクトを示すメッセージが表示されます。</p>	<p>新しい権限がマージされます。</p> <p>ターゲットの既存の権限およびデータ・アクセスはデフォルトで保持されます。「置換権限」オプションを使用すると、既存の権限およびデータ・アクセスが保持されずに置換されます。</p>

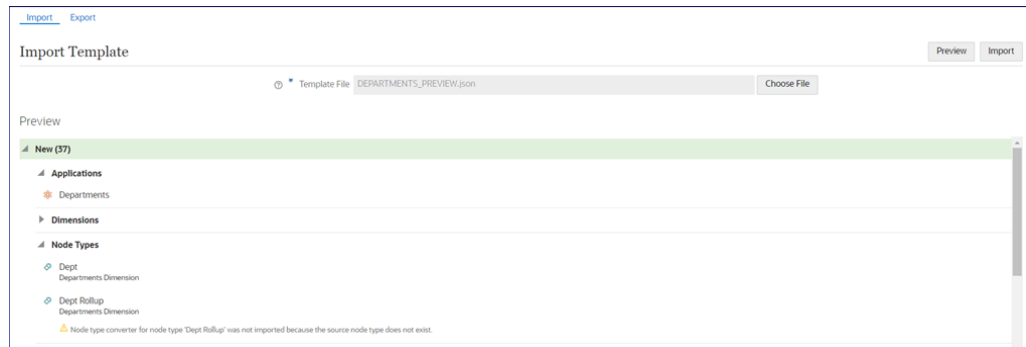
## テンプレート・インポートのプレビューとインポート結果の確認

テンプレートをインポートする前に、テンプレートをプレビューし、テンプレートのインポートによってターゲット環境に作成される変更をビジュアル化できます。インポートを実行した後、各オブジェクトの結果を確認できます。

### テンプレート・インポートのプレビュー

テンプレート・インポートのプレビューにより、テンプレート・ファイルのオブジェクトを識別し、インポート・プロセスによって追加、変更、変更されない、およびスキップされるオブジェクトを判断できます。テンプレート・ファイルの一部のオブジェクトに問題がある場合は、インポートをプレビューすることで、テンプレートをインポートする前にそれらの問題を特定し、修正処理を実行できます。

次の例のプレビューは、ソース・ノード・タイプがターゲット環境にないため、Dept Rollup ノード・タイプのノード・タイプ・コンバータがインポートされないことを示しています。ノード・タイプ・コンバータをインポートするには、インポートを実行する前に、Dept Rollup ノード・タイプをターゲット環境に追加する必要があります。



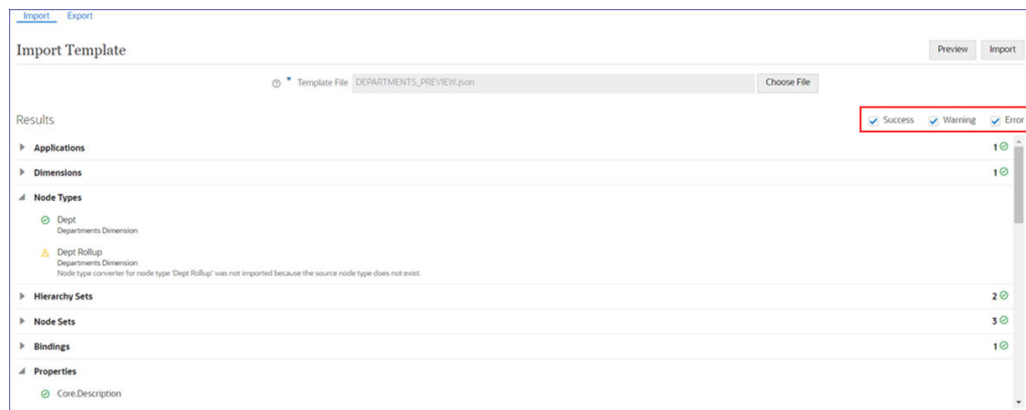
## インポート結果の確認

テンプレートのインポートを実行した後は結果を確認し、テンプレート・ファイルの各オブジェクトのステータスを識別します:

- **成功:** オブジェクトは変更なしでインポート・ファイルからインポートされました。
- **警告:** オブジェクトはインポートされましたが、インポートするためにインポート・ファイルから変更されました。
- **エラー:** オブジェクトはインポートされませんでした。

これらの各フィルタを有効または無効にして、特定のステータスのオブジェクトのみを表示できます。たとえば、警告またはエラーのあるオブジェクトのみを表示できます。

次の例では、ソース・ノード・タイプがターゲット環境にないため、テンプレートの Dept Rollup ノード・タイプのノード・タイプ・コンバータがインポートされませんでした。





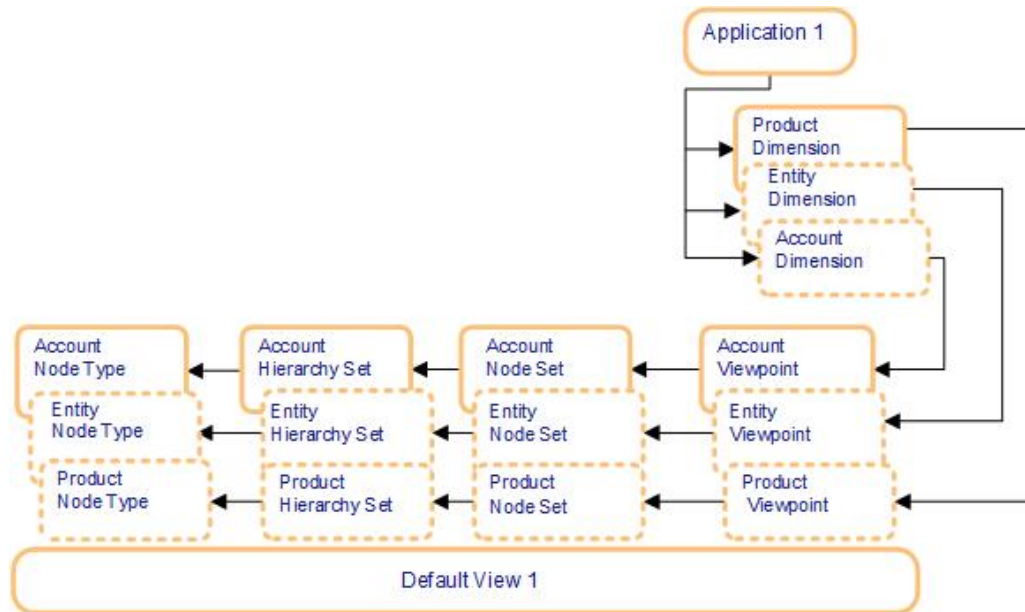
# Planning およびフリーフォーム・アプリケーションの操作

外部アプリケーション・タイプ、接続 URL、ディメンションなどの情報の入力を求めるウィザードを使用して、Planning、Planning モジュールおよびフリーフォーム・アプリケーションを登録および変更します。

- **Planning** はクラウドベースのデプロイメント・モデルで、企業全体のプランニングや予算策定、予測をサポートする柔軟なプランニング・アプリケーションを提供します。
- **Planning モジュール**は、クラウドベースのデプロイメント・モデルで、企業全体のプランニング、予算策定および予測をサポートする事前構築ビジネス・アプリケーションを提供します。財務、要員、資本、プロジェクトおよび戦略モデリングに関するプランニングや予算策定ソリューションが含まれています。特に明記されていないかぎり、この章のトピックで Planning アプリケーションに言及している場合は、Planning モジュール・アプリケーションにも言及しています。
- **フリーフォーム**は、管理対象クラウドベースのデプロイメント・モデルで、マルチ・ディメンショナル分析、レポートおよびプランニングに対してディメンションおよびキューブが完全対応できる柔軟性を持つ、カスタマイズ可能なアプリケーションを提供します。

Oracle Enterprise Data Management Cloud での Planning およびフリーフォーム・アプリケーションのデータの管理には、次の処理が含まれます:

- [Planning およびフリーフォーム・アプリケーションの登録.](#)
- [Planning およびフリーフォーム・ディメンションのインポート.](#)
- [登録された Planning およびフリーフォーム・アプリケーションの変更.](#)
- [データ管理の開始.](#)
- [Planning およびフリーフォーム・ディメンションのエクスポート.](#)



**Planning** アプリケーションまたはフリーフォーム・アプリケーションを作成すると、次のオブジェクトが作成されます：

- アプリケーションは、別名表、複数通貨コード、オプションの接続設定などの設定で作成されます。
- アプリケーションごとに 1 つのデフォルト・ビューが作成されます。
- 登録したディメンションごとに 1 つのディメンションが作成されます。
- 各ディメンションについて、次のオブジェクトが作成されてディメンションにバインドされます。
  - すべてのアプリケーション固有プロパティを持つ 1 つのノード・タイプ。
  - 親と子両方のノード・タイプを使用している 1 つの階層セット。
  - 階層セットを指す 1 つのノード・セット。
  - ノード・セットを指す 1 つのビューポイント。

#### ノート:

バインド・ルールにより、登録したディメンションが外部アプリケーション・ディメンション要件に準拠することが保証されます。[バインディング・ルールの理解](#)を参照してください。

ディメンションの登録に加えて、属性も登録できます。[属性の理解](#)を参照してください。

アプリケーションの登録後、データをディメンションにインポートして、ノード、プロパティおよび階層セットを移入できます。オプションで、登録を変更できます。作業の実行後、ディメンションを外部アプリケーションにエクスポートできます。

#### **Planning モジュールの事前定義済メンバー**

Planning モジュールの事前定義済メンバーは、外部アプリケーションからインポートする必要があります。これらは移動および並替えが可能で、下に子を追加することや、上に最上位ノードを追加することができますが、Oracle Enterprise Data Management Cloud ではそれ以外の編集はできません。

事前定義済メンバーに対する変更は、外部アプリケーションで実行する必要があります。変更を加えた後は、マージ・インポート([マージ・インポートの操作](#)を参照)を実行して、Oracle Enterprise Data Management Cloud で事前定義済メンバーを更新する必要があります。

## Planning およびフリーフォーム・アプリケーションの登録

Planning またはフリーフォーム外部アプリケーションを Oracle Enterprise Data Management Cloud に登録すると、外部アプリケーションを表すアプリケーションとデフォルト・ビューが作成されます。

### ビデオ

目的	参照するビデオ
Planning アプリケーションの登録について学習します。	 <a href="#">Planning アプリケーションの登録</a>

### 開始する前に:

- アプリケーションを登録するには、「アプリケーション - 作成」ロールを持っていることを確認します。登録後、アプリケーションおよびデフォルト・ビューに対する所有者権限が自動的に付与されます。

#### ノート:

サービス管理者はロールを割り当てます([アプリケーションのロールと権限の理解](#)を参照)。

- 登録するディメンションを決定します。各ディメンションに関連付けられているすべてのキューブを登録する必要があります。勘定科目、エンティティ、ユーザー定義の 3 つのディメンション・タイプを登録できます。
- 新規または既存のアプリケーションにキューブを追加すると、キューブのデータ・ストレージ・プロパティ(たとえば、PLN.Data Storage (Plan 1))は、アプリケーションのデフォルトのデータ・ストレージ・プロパティ(PLN.Data Storage)から派生します。[派生プロパティ](#)を参照してください。

 **ノート:**

アプリケーションの登録を変更して既存のキューブを編集すると、アプリケーションのデフォルトから派生するキューブのデータ・ストレージ・プロパティは設定されません。キューブ・データ・ストレージ・プロパティの値をアプリケーションのデフォルトから派生させる場合は、アプリケーション・オーバーライドを設定する必要があります。[プロパティ・パラメータの編集](#)を参照してください。

- サービス管理者が、企業の **SSO** (アイデンティティ・プロバイダ)資格証明を使用してサブスクリプション間接続を構成することはできません。サブスクリプションが **SSO** 用に構成されている場合は、サブスクリプション間接続を構成するサービス管理者に、アイデンティティ・ドメイン資格証明が保持されている必要があります。[アイデンティティ・ドメイン資格証明によるサインインの有効化](#)を参照してください。

詳細は、[アプリケーションの登録の理解](#)を参照してください。

Planning またはフリーフォーム・アプリケーションを登録するには:



1. 「**アプリケーション**」 から 「**登録**」 をクリックします。
2. 次のいずれかのアプリケーション・タイプを選択します:
  - **Planning**
  - **Planning モジュール**
  - **フリーフォーム**
3. アプリケーション名と説明を入力します。

 **ノート:**

アプリケーション・リストにアプリケーション・タイプ、名前および説明が表示されます。

4. ディメンションにローカル csv(カンマ区切り)ファイルを使用する場合は、次のステップをスキップします。
5. 外部アプリケーションに接続している場合は、「**追加**」 をクリックして接続設定を定義します。複数のアプリケーション接続を追加できます。

フィールド	有効な値	例: 外部アプリケーションへの接続
接続名	このアプリケーションに一意の必須の接続名を入力します。	US Planning Cloud 接続
接続の説明	オプションの説明を入力します。	この接続を使用して、 <b>Planning</b> アプリケーションに接続します。

フィールド	有効な値	例: 外部アプリケーションへの接続
インスタンスの場所	外部アプリケーションへの接続 URL を次の形式で入力します。 <code>https://ServiceName-IdentityDomain-ServiceType.DataCenter.oraclecloud.com</code>	<code>https://planbudget-uscompany-entplan.US11.oraclecloud.com</code> ここで <ul style="list-style-type: none"> <li>• ServiceName は planbudget</li> <li>• IdentityDomain は uscompany</li> <li>• ServiceType は entplan</li> <li>• DataCenter は US11</li> </ul>
アイデンティティ・ドメイン	外部アプリケーションのアイデンティティ・ドメインを入力します。  <div style="border: 1px solid #0070C0; padding: 5px; background-color: #E6F2FF;"> <p> <b>ノート:</b></p> <p>これは、「<b>インスタンスの場所</b>」で使用されるのと同じアイデンティティ・ドメインです。</p> </div>	IdentityDomain は uscompany
ユーザー名	認可されたユーザー名を入力します  <b>ノート:</b> ユーザーは、外部アプリケーションのサービス管理者である必要があります。	tom.smith  <div style="border: 1px solid #0070C0; padding: 5px; background-color: #E6F2FF;"> <p> <b>ノート:</b></p> <p>次のいずれかのフィールドにアイデンティティ・ドメインを入力する必要があります: 「<b>アイデンティティ・ドメイン</b>」または「<b>ユーザー名</b>」。たとえば、「<b>アイデンティティ・ドメイン</b>」に uscompany または「<b>ユーザー名</b>」に uscompany.tom.smith を入力します。</p> </div>

フィールド	有効な値	例: 外部アプリケーションへの接続
パスワード	パスワードを入力します。	XXXXXXXXXX
プライマリ接続	これを外部アプリケーションへのインポートまたはエクスポートのデフォルトにする場合は、このチェック・ボックスを選択します。	

6. アプリケーション要約情報を確認して、「作成」をクリックします。

 **ノート:**

アプリケーションとデフォルト・ビューが作成され、ドラフト・モードに設定されます。デフォルト・ビュー名は、上で指定したアプリケーション名と同じです。


7. 登録を続行します(キューブ、アプリケーション設定およびディメンションの登録を参照)。

## キューブ、アプリケーション設定およびディメンションの登録

次のステップを使用して、Planning およびフリーフォーム・アプリケーションからキューブ、アプリケーション設定およびディメンションを登録します。

キューブを登録してアプリケーション設定を定義するには:

1. 「キューブ」画面で「追加」をクリックし、キューブ名を入力してキューブ・タイプを指定します:
  - ASO (すべてのアプリケーション・タイプ)
  - BSO (Planning および Planning モジュール・アプリケーションのみ)
  - BSO ハイブリッド(フリーフォーム・アプリケーションのみ)


 **ノート:**

キューブ名は Source Plan Type プロパティおよび Aggregation、Formula、Data Storage など関連する他のプロパティに配置されます。

登録するディメンションで使用されているすべてのキューブを追加します。

2. アプリケーション設定を定義します。

フィールド	有効な値	例
別名表	ディメンション別名表を入力します	デフォルトの英語スペイン語

フィールド	有効な値	例
週次配分タイプ(Planning および Planning モジュール・アプリケーションのみ)	週次配布タイプを指定します。 フリーフォーム・アプリケーションの週次配分は常に「均等」であるため、このオプションは表示されません。	均等
複数通貨(Planning および Planning モジュール・アプリケーションのみ)	Planning アプリケーションで複数通貨がサポートされる場合は、このチェック・ボックスを設定します。 フリーフォーム・アプリケーションでは複数通貨が常に有効になっているため、このオプションは表示されません。	チェック・ボックスを選択
ハイブリッド・モード(Planning および Planning モジュール・アプリケーションのみ)	<p>Planning アプリケーションでハイブリッド・モードがサポートされる場合は、このチェック・ボックスを設定します。</p> <p>フリーフォーム・アプリケーションではハイブリッドモードが常に有効になっているため、このオプションは表示されません。</p> <div data-bbox="792 1066 1081 1724" style="border: 1px solid #ccc; background-color: #e6f2ff; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p> <b>ノート:</b></p> <p>プラン・タイプ固有の「解決順」プロパティをすべての BSO および ASO キューブに追加するには、このチェック・ボックスを選択します。プラン・タイプ固有の「解決順」プロパティを ASO キューブにのみ追加するには、チェック・ボックスをクリアします。</p> </div>	チェック・ボックスを選択
通貨	少なくとも 1 つの通貨コードを入力する必要があります。	USD, CAD, INR


フィールド	有効な値	例
スマート・リスト	1 つ以上のスマート・リストの名前を入力します。入力するスマート・リスト名は、Smart List プロパティで選択できるアイテムです。スマート・リスト値は、外部アプリケーションでのみ管理できます。	チャンネル

3. ディメンションを登録します。

1 つ以上のディメンションを登録するには、「追加」をクリックして、次の情報を入力します。

フィールド	有効な値	例
ディメンション名	ディメンション名を入力します。外部アプリケーションの実際のディメンションと異なる場合は、下で外部ディメンション名を指定します。	財務勘定科目 入力する値は、Oracle Enterprise Data Management Cloud のピュアポイント、ノード・セット、階層セット、ノード・タイプおよびディメンションの名前になります。
ディメンションの説明	オプションでディメンションの説明を入力します。	



フィールド	有効な値	例
ディメンション・タイプ	<p>「勘定科目」、「エンティティ」または「カスタム」から、ディメンション・タイプを選択します。</p> <div style="border: 1px solid #0070c0; padding: 10px; background-color: #e6f2ff;"> <p> <b>ノート:</b></p> <p>デフォルトのディメンション・タイプは、<b>Planning</b> および <b>Planning</b> モジュール・アプリケーションの場合は「勘定科目」で、フリーフォーム・アプリケーションの場合は「カスタム」です。フリーフォーム・アプリケーションの場合、「勘定科目」または「エンティティ」ディメンション・タイプを選択するときは、ディメンションを有効にし、外部アプリケーションの「勘定科目」または「エンティティ」ディメンション・タイプと関連付けている必要があります。<b>Planning</b> の管理のアプリケーション作成ウィザードを使用したフリーフォーム・アプリケーションの作成を参照してください。</p> </div>	勘定科目
共有ノードを許可	インポートするディメンションに共有ノードがある場合に選択します。	

フィールド	有効な値	例
このディメンションに有効なキューブを選択します	ディメンションのすべてのキューブを選択します。必要に応じて、戻るボタンを使用して追加のキューブを入力します。	Plan1 Plan2
外部ディメンション名を入力します	オプションで、外部ディメンション名を入力しますこれにより、上のディメンション名に異なる値を入力できます。	acc1

4. オプションで、1 つ以上の属性を追加します。
  - 簡易属性の場合:
    - 簡易属性管理スタイルを選択します。
    - 属性名を入力します。
    - 属性に使用するすべての値を入力します。

 **ノート:**

属性名は Attribute - name プロパティに配置され、値はプルダウン・リストに配置されます。

- 属性ディメンションの場合:
  - ディメンション属性管理スタイルを選択します。
  - 属性ディメンション名を入力します。
  - 「**属性タイプ**」で、「テキスト」、「数値」または「日付」を選択します。

 **ノート:**

属性ディメンション名は Attribute Dim - name プロパティに配置され、属性ディメンションのビューポイントがアプリケーションのデフォルト・ビューに追加されます。

[属性の理解](#)を参照してください。

5. 要約を確認して、「**適用**」をクリックします。  
ディメンションとそのデータ・チェーンが作成されます。データ・オブジェクトはディメンションにバインドされ、アクティブ・ステータスが設定されます。これで、ディメンション・データをインポートできます([Planning およびフリーフォーム・ディメンションのインポート](#)を参照)。

## Planning およびフリーフォーム・アプリケーションの事前定義 済プロパティ

### ノート:

事前定義されたメンバーは、**Planning** モジュールでのみ使用されます。事前定義済  
アーティファクトのカスタマイズを参照してください。

**Planning** およびフリーフォーム・アプリケーションに対して、次のプロパティが事前定義  
されています。**Planning** およびフリーフォームのすべてのプロパティには、**PLN** ネームスペ  
ースが使用されます。

詳細は、次を参照してください:

- [プロパティの操作](#)
- [プロパティの継承](#)

プロパティ	データ型	継承	レベル	説明
メンバー作成者に 付与されたアクセ ス権	文字列	いいえ	ノード	作成する動的メンバーに対してメンバ ー作成者が持つ権限を判別します
勘定科目タイプ	文字列	はい	ノード	勘定科目のタイム・バランス(値が時間 をフローする状態)を定義し、メンバ ー式で差異レポートへの勘定科目のサイ ン動作を決定します
集約	文字列	はい	関係	親のメンバーに対する子のメンバーの 値をどのように集約させるか判別しま す
別名	文字列	いいえ	ノード	ディメンション・メンバーの代替の一意 の説明
属性ディメンショ ン名	文字列	いいえ	ノード	属性ディメンションの名前を指定しま す
基本通貨	文字列	はい	ノード	標準の複数通貨アプリケーションにお けるエンティティ・ディメンション・メ ンバーの基本通貨を指定します

プロパティ	データ型	継承	レベル	説明
データ・ストレージ	文字列	いいえ <b>ノート:</b> キューブを追加すると、キューブのデータ・ストレージ・プロパティ(たとえば、PLN.Data Storage (Plan 1)) は、アプリケーションのデフォルトのデータ・ストレージ・プロパティ (PLN.Data Storage) から派生します。	関係	ディメンション・メンバーのデータが格納または計算されるかを指定します
データ型	文字列	はい	ノード	ディメンション・メンバーのデータ値のタイプを指定します
動的な子に対して使用可能	ブール	いいえ	ノード	ユーザーが、動的な親メンバーを使用するように構成されたビジネス・ルールの実行時プロンプトでメンバー名を入力することにより、このメンバーの子を作成できるようにします
エンタープライズの事前定義済メンバー	ブール	いいえ	ノード	ディメンション・メンバーをアプリケーションによって事前定義済と指定します。事前定義済メンバーは、移動などの特定のタイプの変更、またはその下の子やその最上位ノードの追加のみに制限されます。 <b>ノート:</b> このプロパティは、Planning モジュール・アプリケーションから事前定義済メンバーをインポートするときにインポート・プロセスによって設定され、Oracle Enterprise Data Management Cloud で手動で編集することはできません。
為替レート・タイプ	文字列	はい	ノード	値の計算に為替レートをどのように使用するかを判別します
式	メモ	いいえ	ノード	ディメンション・メンバーの値の計算に使用されるメンバー式。
式の説明	文字列	いいえ	ノード	メンバー式の説明

プロパティ	データ型	継承	レベル	説明
階層タイプ	文字列	いいえ	ノード	集約ストレージ・キューブにバインドされたディメンションに使用できます。集約ストレージ・ディメンションは、複数階層を自動的にサポートできるようになります。複数階層のディメンションの最初の階層は保管階層である必要があります。
使用可能な動的な子の数	整数	いいえ	ノード	ディメンション・メンバーに作成できる動的な子の最大数。このオプションは、「動的な子に対して使用可能」が選択されている場合のみ使用可能です。
プラン・タイプ	ブール	はい	関係	ディメンション・メンバーがプラン・タイプに有効かどうかを指定します。
プロセス管理を使用可能	ブール		ノード	プロセス管理を使用可能にするかどうかを決定します
値のスキップ	文字列	はい	ノード	タイム・バランスが「最初」、「残高」または「平均」の場合、データベース計算がゼロ値および欠落した値をどのように処理するかを決定します。
スマート・リスト	文字列	いいえ	ノード	ディメンション・メンバーに関連付けるスマート・リストを選択します。
ソース・プラン・タイプ	文字列	はい	ノード	ディメンション・メンバーのソース・プラン・タイプ
タイム・バランス	文字列	はい	ノード	アプリケーションによる要約期間の値の計算方法を指定します
2 パス計算	ブール	いいえ	ノード	親メンバーまたは他のメンバーの値に基づいてメンバーの値を再計算します。「動的計算」の「データ・ストレージ」または「動的計算および保管」で、勘定科目とエンティティ・メンバーに使用できます。
UDA	リスト	いいえ	ノード	計算またはレポート目的で使用されるユーザー定義属性
差異レポート	文字列	いいえ	ノード	差異レポートの作成時に勘定科目を支出として扱うかどうかを決定します
週次配分	ブール	いいえ	ノード	週次配分を設定します。アプリケーションの作成時に、このオプションが選択済で基本期間が 12 か月の場合、最下位レベル勘定科目メンバーに使用できません。

## Planning およびフリーフォーム・ディメンションのインポート

Planning およびフリーフォーム・ディメンションの場合、Oracle Enterprise Data Management Cloud は、カンマ区切り(CSV)ファイルからのインポート、および .zip ファイルを使用した外部アプリケーション送信ボックスからのインポートをサポートしています。


Planning アプリケーション、フリーフォーム・アプリケーションおよび Planning モジュール・アプリケーションは、Oracle Enterprise Data Management Cloud で管理されるという点では同じですが、Planning モジュールのノードについて、次の違いがあります:

事前定義されたメンバーには、インポート時に Enterprise Predefined Member プロパティが True に設定され、編集することはできません。ただし、下に子を追加したり、上に最上位ノードを追加することは可能です。

#### ノート:

事前定義済メンバーは、Planning モジュールでのみ更新可能です(*Planning モジュールの管理の事前定義済アーティファクトのカスタマイズ*を参照)。外部アプリケーションの事前定義済メンバーが変更された場合は、ディメンションを再インポートして Oracle Enterprise Data Management Cloud の事前定義済メンバーを更新する必要があります。

#### ビデオ

目的	参照するビデオ
ディメンションのインポートおよびエクスポートについて学習します。	 <a href="#">アプリケーション・データのインポートおよびエクスポート</a>


#### 開始する前に:

- インポート・オプション、考慮事項およびインポート・モードの詳細は、[ディメンションのインポート](#)を参照してください。
- 外部アプリケーションで、次のいずれかの形式を使用して、インポートするデータ・ファイルを作成します。
  - ローカル・ファイルを使用する場合は、ディメンションごとに.csv(カンマ区切り)ファイル。ローカルの.csv ファイル名に、ファイル名の制限はありません。
  - 外部アプリケーションの送信ボックスに接続する場合は、1つ以上のディメンションの.csv ファイルを含む.zip ファイル。.csv ファイル名には、先行するテキストの最後にディメンション名または外部ディメンション名(登録で指定されている場合)が含まれている必要があります。たとえば、acc1.csv は無効ですが、tom\_smith\_acc1.csv は有効です(acc1 はディメンション名)。

#### ノート:

Planning から、Oracle Enterprise Data Management Cloud にインポートするファイルを作成します。*Planning の管理*のメタデータのエクスポートを参照してください。

ディメンションをインポートするには:

1. 「アプリケーション」でお使いのアプリケーションまでスクロールして、をクリックし、「インポート」をクリックします。
2. データのインポート先のディメンションをクリックします。
3. 入力ソースで「ファイル」または「接続」を選択して、次のいずれかを行います。
  - 「ファイル」を選択した場合、インポート・ファイル名を指定します。
  - 「接続」を選択した場合、インポート元の接続を選択して、インポート・ファイル名を指定します。
4. 「インポート・モード」で、「マージ」、「置換」または「リセット」を選択します。インポート・モードの詳細は、[ディメンションのインポート](#)を参照してください。
5. オプション: 「サマリー」セクションでディメンション名をクリックして、ディメンションを検査し、インポート・オプションを表示します。インスペクタ・ダイアログを閉じてインポート画面に戻ります。
6. 「インポート」をクリックします。

EPM 自動化(*『Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作』*の importDimension を参照)、REST API (*Oracle Enterprise Data Management Cloud Service の REST API のディメンションのインポート*を参照)、またはタスク・マネージャ (*Financial Consolidation and Close の管理の EPM Cloud の自動化統合*を参照)を使用して、ディメンションをインポートすることもできます。

## ファイル形式のインポートおよびエクスポート

Planning およびフリーフォーム・ディメンションのデータをインポートおよびエクスポートする場合は、カンマ区切り(.csv)ファイルを使用する必要があります。

次に、カンマ区切りファイルの形式と考慮事項をリストします。

- ファイルには、次の列が含まれる必要があります。
  - **名前** 登録で指定したディメンション名または外部ディメンション(入力した場合)。
  - **親** 親ノードの名前。親ノードがない場合、このフィールドは空にする必要があります。
  - **別名: name**。ここで、name は登録した別名表の名前です。少なくとも 1 つの別名表が必要です。
  - 一般的な列を次に示します。
    - **プラン・タイプ**(cube name)、**集約**(cube name)、**データ・ストレージ**(cube name)、**式**(cube name)、**式の説明**(cube name)。これらは一般に、登録したキューブごとに定義されます。
    - **解決順序**(cube name)。これは、登録した ASO キューブごとに定義されます。

### ヒント:

cube name は、登録したキューブの名前です。

- **スマート・リスト**。スマート・リスト名は、オプションでノードに指定されます。
- **属性ディメンション名**。登録中に入力された属性ディメンションの名前。

 ノート:

外部アプリケーションから追加の列をインポートおよびエクスポートできます(ディメンション・プロパティとメンバー・プロパティを参照)。

- インポート・ファイルのデータは行の順序でインポートされます。親ノードの行は子ノードの行よりも前にある必要があります。子ノードの行が親ノードの行よりも前にあると、ファイルのインポート時にエラーが発生します。
- インポートでは、重複する行は無視されます。
- ファイルの区切り文字、引用符または改行(CR/LF)文字を含む文字列、または ASCII 35 以下の文字(Tab、!、#など)で開始する文字列は、引用符で囲まれます。(たとえば、"# Children"、"Accumulated Depreciation, Equipment")。

 ノート:

インポートには、Planning の要件に基づいて共有ノード(データ・ストレージ = 共有)を処理するロジックが含まれています。

## 登録された Planning およびフリーフォーム・アプリケーションの変更

Planning またはフリーフォーム・アプリケーションは、登録後に変更できます。たとえば、追加のディメンションの登録、ディメンションの除去、複数通貨設定の変更(Planning のみ)、またはキューブの追加を実行できます。アプリケーション、ディメンションおよびデータ・オブジェクトが変更内容に基づいて更新されます。行った変更を反映して、ディメンション・バインド・ルールが更新されます。

 ノート:

キューブ、属性ディメンションまたは別名を除去した場合、対応するプロパティはディメンションからバインドが解除され、インポートまたはエクスポートされなくなります。たとえば、デフォルトの別名ディメンションを除去した場合、対応するプロパティ Alias: Default はノード・タイプのためにインポートまたはエクスポートされなくなります。プロパティは、除去するまでノード・タイプに残ります。


ディメンションを除去すると、対応するデータ・チェーン・オブジェクトはそのディメンションからバインド解除されますが、削除はされません。[アプリケーションの変更の理解](#)を参照してください。

**開始する前に:**

アプリケーションを変更するには、アプリケーションに対する所有者またはメタデータ・マネージャ権限が必要です。



Planning またはフリーフォーム・アプリケーションの登録を変更するには:

1. 「**アプリケーション**」でお使いのアプリケーションを見つけて、をクリックし、「**登録の変更**」を選択します。
2. キューブ、アプリケーションの設定、ディメンションを変更または追加するには、[キューブ、アプリケーション設定およびディメンションの登録](#)を参照してください。
3. 完了したら、「**適用**」をクリックします。  
変更内容で、データ・チェーン・オブジェクトが更新されます。



#### ノート:

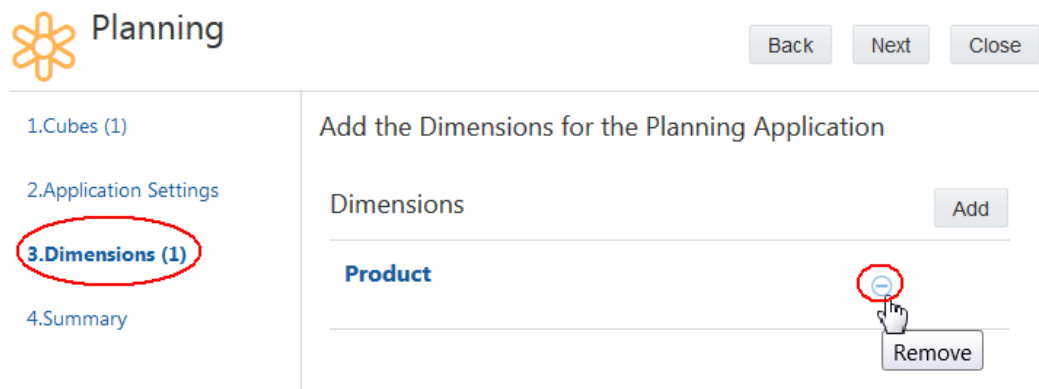
「ドラフト」ステータスではないアプリケーションの登録に変更を加えたが、適用しなかった場合、登録ウィザードを閉じるときに変更内容は保存されません。

「ドラフト」ステータスのアプリケーションの登録に変更を加えたが、適用しなかった場合、変更内容は保存され、後から更新および適用できる場合があります。ただし、登録ウィザードの外部でバインドされたデータ・オブジェクトに変更を追加した場合は、バインドされたオブジェクトと登録を同期する必要があるため、保存された変更がクリアされることがあります。

#### ディメンションの除去

アプリケーションからディメンションを除去するには:

1. 「**アプリケーション**」でアプリケーションを見つけて、をクリックし、「**登録の変更**」を選択します。
2. 「**ディメンション**」を選択して、をクリックします。




## Planning モジュールへの Planning アプリケーションのアップグレード

新しいアプリケーション・インスタンスを作成しなくても、Oracle Enterprise Data Management Cloud の Planning アプリケーション・インスタンスを Planning モジュールにア

アップグレードできます。アップグレードするには、サービス管理者ロールまたはアプリケーションに対する所有者またはメタデータ・マネージャ権限が必要です。

### 考慮事項

- 外部ターゲットの Planning システムをアップグレードした後にのみ、Oracle Enterprise Data Management Cloud で Planning アプリケーション・インスタンスをアップグレードします。
- 外部ターゲットの Planning アプリケーションをアップグレードすると、新しい事前定義済メンバーが追加されます。Oracle Enterprise Data Management Cloud のアップグレードされたアプリケーションに新しい事前定義済メンバーをロードするために、「リセット」オプションを使用してターゲット・アプリケーションからディメンションを再インポートします。ディメンションのインポートを参照してください。
- アップグレードできるのは、アクティブなアプリケーション・インスタンスのみです。アーカイブされたアプリケーションはアップグレードできません。

Planning アプリケーションを Planning モジュールにアップグレードするには、「アプリケーション」から  をクリックし、「プランニング・モジュールへのアップグレード」を選択し、「確認」ボタンをクリックします。

### ▲ 注意:

Planning アプリケーションを Planning モジュールにアップグレードした後、アップグレード・アクションは元に戻せません。

## フリーフォーム・アプリケーションへの Planning アプリケーションの変換

新しいアプリケーション・インスタンスを作成しなくても、Oracle Enterprise Data Management Cloud の Planning アプリケーション・インスタンスをフリーフォーム・アプリケーションに変換できます。変換するには、サービス管理者ロールまたはアプリケーションに対する所有者またはメタデータ・マネージャ権限が必要です。

### Note:

以前に Planning アプリケーション・タイプを使用してフリーフォーム・アプリケーション・データを管理していた実装では、アプリケーションを Planning からフリーフォームに変換する必要があります。


### 考慮事項

- Planning アプリケーションでは、フリーフォーム・アプリケーションに変換できるようにするために、これらのアプリケーション設定に次の値が必要です:
  - ハイブリッド・モードが有効になっている必要があります

- 週次配分が「均等」に設定されている必要があります
- 複数通貨が有効になっている必要があります

これらのアプリケーション設定のいずれかが前述の値と異なる場合、そのままではアプリケーションをフリーフォームに変換できません。アプリケーションを変換する前に、アプリケーションの登録を変更し、アプリケーションの設定を前述の値に変更する必要があります。

- 変換できるのは、アクティブなアプリケーション・インスタンスのみです。アーカイブされたアプリケーションは変換できません。
- Oracle Enterprise Data Management Cloud の Planning アプリケーション・インスタンスをフリーフォーム・アプリケーションに変換する操作は、元に戻せない方向の操作です。フリーフォーム・アプリケーションを変換して Planning アプリケーションに戻すことはできません。


Planning アプリケーションをフリーフォームに変換するには、「アプリケーション」で  をクリックし、「フリーフォーム・アプリケーションに変換」を選択し、確認ボタンをクリックします。

## Planning およびフリーフォーム・アプリケーションのバインディング・ルール

バインディング・ルールが重要である理由は、バインディング・ルールによって Oracle Enterprise Data Management Cloud アプリケーションが外部アプリケーションの要件に自動的に準拠するようになるからです。

次の表に、Planning およびフリーフォーム・アプリケーションのバインディング・ルールを示します。

オブジェクト	ルール
ノード・タイプ	バインドされたノード・タイプから必要なバインディング・プロパティを除去できません。
階層セット	バインドされた階層セットの場合、保存時にプロパティが追加される可能性があることを確認できないかぎり、必要なディメンション・プロパティが欠落しているノード・タイプを選択できません。
ノード・セット	バインドされたノード・セットの場合、独自のバインディング・ルールおよび任意のバインディング・ルールをデータ・チェーンの上位に渡す階層セットを選択する必要があります。
ビューポイント	バインドされたビューポイントの場合、独自のバインディング・ルールおよび任意のバインディング・ルールをデータ・チェーンの上位に渡すノード・セットを選択する必要があります。階層セットがチェックされてから、ノード・タイプがチェックされます。

オブジェクト	ルール
ディメンション	<p>ディメンションにバインドされたビューポイントを編集する場合:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ディメンションへのバインディングに対して別のビューポイントを選択できません。新しいビューポイントはバインディング・ルールを満たしているかどうかチェックされますが、データ・チェーンの上位にあるすべてのデータ・オブジェクトも同様です。</li> </ul> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p> <b>ノート:</b></p> <p>アプリケーション登録から削除することによって、ディメンションを除去することもできます。ディメンションは引き続きアプリケーション・インスペクタに表示され、ディメンションを使用してデータ・チェーン・オブジェクトが作成される可能性があります。このディメンションはデータのインポートまたはエクスポート用として使用できません。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>アプリケーションのインポート・セクションおよびエクスポート・セクションで、独自のバインディング・ルールまたは任意のバインディング・ルールをデータ・チェーンの上位に渡すディメンションを選択する必要があります。</li> </ul>


詳細は、次を参照してください:

- [バインディング・ルールの理解](#)
- [全アプリケーション・タイプに対するバインディング・ルール](#)

## Planning およびフリーフォーム・アプリケーションのディメンションへのビューポイントのバインド

Planning およびフリーフォーム・アプリケーションは、単一の外部ディメンションへのビューポイントのバインドをサポートしています。外部ディメンションにバインドする代替ビューポイントをかわりに作成した場合、次のステップに従って代替ビューポイントをポイントするバインディングを編集できます。

詳細は、次を参照してください:


- [バインディングおよびバインドされたデータ・オブジェクトの理解](#)
  - [ビューポイントの理解](#)
- 「アプリケーション」** で、ビューポイントが含まれるアプリケーションを検索します。
  - アプリケーションの **「アクション」** 列で、 をクリックし、**「検査」** を選択します。
  - 「ディメンション」** タブで、ビューポイントをバインドしているディメンションの名前をクリックします。  
ディメンションのインスペクタが表示されます。
  - 「バインド」** を選択してから、代替ビューポイントに関連付けるバインディングを選択します。
  - 「編集」** をクリックします。

- 「ビュー」および「ビューポイント」ドロップダウン・リストがアクティブになります。
6. 「ビュー」で、ディメンションにバインドするビューポイントが含まれるビューを選択します。
  7. ビューポイントを選択します。
  8. 「保存」をクリックします。


## Planning およびフリーフォームの検証

検証によってデータの整合性が確認されます。次の検証が、Planning、フリーフォームおよび Planning モジュール・アプリケーションに対して実行されます。

名前	次の場合、検証エラーになる	レベル
名前の一意性	メンバー名が、アプリケーションで使用されるすべてのノードで一意でない	アプリケーション
メンバー名	メンバー名が、現在のアプリケーションに対して定義されているディメンション名、キューブまたは属性ディメンションと同じである	メンバー
最初の文字	名前と別名が、最初の文字として特定の文字を使用している	メンバー
無効な文字	名前と別名に特定の無効な文字を使用している	メンバー
最大長	名前と別名が最大長を超えている	メンバー
先頭または末尾のスペース	名前と別名の先頭と末尾にスペースを使用している	メンバー
予約語	名前と別名が、アプリケーションに対して定義されている予約語のリストのいずれかと同じである	メンバー
別名の一意性	別名が、兄弟ノードのグループ内で一意でない	ディメンション
共有メンバー	共有メンバーが同じディメンションにない	ディメンション
共有メンバーが基本メンバーの前にあり	階層内で基本メンバーの上に共有メンバーがある	ディメンション
所有権承認権限	ノードの所有権承認プロパティは、ビューポイントに対して少なくとも「参加者(読取り)」アクセス権を持っていないユーザーを参照します。 <a href="#">所有権承認の理解</a> を参照してください。 この検証はデフォルトで無効になっています。	ディメンション
プラン・タイプ	プラン・タイプは True に設定されているが、親に True 値がない	ディメンション

 **ノート:**

親が事前定義されたメンバーである場合、この検証はスキップされます。

名前	次の場合、検証エラーになる	レベル
データ・ストレージ	デフォルトのデータ・ストレージは「共有」または「ラベルのみ」であるが、キューブのデータ・ストレージが「共有」または「ラベルのみ」でない  <div style="border: 1px solid #0070C0; padding: 5px; background-color: #E6F2FF; margin: 10px 0;"> <p> <b>ノート:</b></p> <p>メンバーがキューブに存在しない場合、これはチェックされません。</p> </div>	プロパティ
為替レート・タイプ	為替レート・タイプが「なし」でなく、データ型が「通貨」でない	プロパティ
許可される式	データ・ストレージが「動的計算」または「動的計算および保管」でない	プロパティ
スマート・リスト必須	データ型が「スマート・リスト」の場合に、メンバーのスマート・リストがない	プロパティ
解決順	解決順が、プロパティの最小値と最大値の間でない	プロパティ
ソース・プラン・タイプ	ソース・プラン・タイプがメンバーに対して有効なプラン・タイプでない	プロパティ
差異レポート	勘定科目タイプが「費用」の場合に差異レポートが「費用」でないか、勘定科目タイプが「費用」または「保存された仮定」以外の場合に差異レポートが「費用外」である。	プロパティ
数値属性名	数値属性ディメンションの最下位レベルのノード名は数値フォーマットではありません	プロパティ
日付属性名	日付属性ディメンションの最下位レベルのノード名は mm-dd-yyyy フォーマットではありません	プロパティ

次の検証は、Planning モジュール・アプリケーションに対してのみ実行されます。

名前	次の場合、検証エラーになる	レベル
定義済メンバーの編集	定義済メンバーに対して増減以外のアクションが実行されている	ノード
定義済メンバー・プロパティ	定義済メンバー・プロパティが変更されている	プロパティ

 ノート:

Planning モジュール・アプリケーションでは、ほとんどのアプリケーション固有の検証は事前定義済メンバー(つまり PLN.Enterprise Predefined Member が True に設定されているノード)に対しては実行されません。これは、これらのメンバーが外部アプリケーションからインポートされ、Oracle Enterprise Data Management Cloud では編集できないためです。

Planning モジュール・アプリケーションで事前定義済メンバーに対して実行されるアプリケーション固有の検証は、定義済メンバーの編集、定義済メンバー・プロパティおよび別名の一意性の検証のみです。

 ノート:


ソース・プラン・タイプ、許可される式、プラン・タイプの各検証は、共有ノードではチェックされません(データ・ストレージ=共有)。アプリケーション・レベルのインポートとエクспортでは、これらの値が Planning および Planning モジュールで求められるとおりに変換されます。

## Planning およびフリーフォーム・ディメンションのエクспорт

ディメンションにバインドされたビューポイントから Planning またはフリーフォーム・アプリケーションにエクспортできます。




ノードは、ノード・セットの最上位ノードから始めてエクспортされます。たとえば、1つのディメンションに米国とすべての州を含めることができます。ノード・セットの最上位ノードがテキサスである場合、テキサスとその下位のノードがエクспортされます。

### ビデオ

目的	参照するビデオ
ディメンションのエクспортについて学習します。	 <a href="#">アプリケーション・データのインポートおよびエクспорт</a>

### チュートリアル

チュートリアルには、トピックを学習するのに役立つ一連のビデオおよびドキュメントを使用した説明が用意されています。

目的	方法の学習
Oracle Enterprise Data Management Cloud から、接続されている Planning 環境へと手動でディメンション・メタデータをエクスポートし、それからメタデータを Planning にインポートします	 手動エクスポートおよびインポートの使用による Enterprise Data Management Cloud のディメンション・メタデータの Planning との統合
EPM 自動化を使用して Oracle Enterprise Data Management Cloud からディメンション・メタデータをエクスポートし、それを Planning 環境へとコピーして、それからメタデータを Planning にインポートします	 EPM 自動化の使用による Enterprise Data Management Cloud のディメンション・メタデータの Planning との統合
Planning で Groovy ビジネス・ルールを使用して Oracle Enterprise Data Management Cloud からディメンション・メタデータをエクスポートして、それからそのメタデータを Planning へとインポートします	 Groovy ルールの使用による Enterprise Data Management Cloud のディメンション・メタデータの Planning との統合

### ベスト・プラクティス

エクスポートする前にディメンションにバインドされたビューポイントを検証し、データの整合性を確保することをお勧めします。[検証および制約の理解](#)を参照してください。

ディメンションのエクスポート時にビューポイントを自動的に検証するには、「**エクスポート前に検証**」オプションを使用します。[エクスポート・オプションの管理](#)を参照してください。

#### 開始する前に:


- エクスポートするには、最低でもエクスポート元のアプリケーションまたはディメンションに対するデータ・マネージャ権限が必要です。
- Planning またはフリーフォーム・アプリケーションを登録すると、ノードと階層関係がインポートされ、アプリケーションに存在していたときの順序で表示されます。ノードと階層関係が、Oracle Enterprise Data Management Cloud に存在していたときの順序でエクスポートされます。ノードおよび階層関係を英数字順にエクスポートする場合は、ディメンションの階層セットを開いて、「**カスタム順序の使用**」をクリアします。
- ディメンションのバインド・キーを編集してエクスポート・ファイルのエクスポート列の順序を変更したり、各列の方向を指定できます。[バインド・キーの編集](#)を参照してください。
- null または空白の値のかわりに、定義されたキーワードをエクスポートできます。[エクスポート・オプションの管理](#)を参照してください。
- ディメンションを CSV (カンマ区切り) ファイルにエクスポートします。ローカル・ファイルにエクスポートできます。または、登録中に外部アプリケーションへの接続を設定した場合は、Planning アプリケーションの受信ボックスにエクスポートできます。



 ヒント:

アプリケーションを検査することによって、アプリケーション接続設定を表示およびテストできます。[アプリケーションの検査](#)を参照してください。

ディメンションをエクスポートするには:

1. 「**アプリケーション**」でお使いのアプリケーションを見つけて、 をクリックし、「**エクスポート**」をクリックします。
2. エクスポートするディメンションを選択します。
3. **オプション**: インスペクタでディメンションのエクスポート・オプションを変更するには、「サマリー」セクションで、ディメンション名をクリックします。[ディメンションの検査](#)を参照してください。
4. 「**エクスポート・ターゲット**」で、「**ファイル**」または「**接続**」を選択し、次のいずれかを実行します。
  - 「**接続**」を選択した場合、エクスポート先の接続を選択し、エクスポート・ファイル名を指定して「**エクスポート**」をクリックします。
  - 「**ファイル**」を選択した場合、エクスポート・ファイル名が生成されます。デフォルトのファイル名は `アプリケーション名_ディメンション名_日付` (Planning\_Account\_20200123.csv など)で、エクスポートを実行する前に編集できます。ブラウザ設定でダウンロード場所が定義されます。デフォルトのファイル名をそのまま使用するか編集し、「**エクスポート**」をクリックします。
5. **オプション**: エクスポートの完了後、エクスポートに検証エラーがある場合は、ビューポイント名をクリックしてビューポイントを開き、エラーを解決できます。[検証の問題の解決](#)を参照してください。検証の問題が解決した後、ビューポイント・ウィンドウから**エクスポートに戻る**をクリックしてエクスポート画面に戻ります。

EPM 自動化([『Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作』の exportDimension を参照](#))、REST API ([Oracle Enterprise Data Management Cloud Service の REST API のディメンションのエクスポートを参照](#))、またはタスク・マネージャ ([Financial Consolidation and Close の管理の EPM Cloud の自動化統合を参照](#))を使用して、ディメンションをエクスポートすることもできます。

ディメンションをエクスポートした後、データを外部アプリケーションのディメンションにインポートできます。[Planning の管理のディメンション・メタデータのインポート](#)を参照してください。

 ノート:

アプリケーションのエクスポートでは、Planning の要件に従うために、共有ノードのノードレベル・プロパティを管理します。

# Financial Consolidation and Close アプリケーションの操作

Financial Consolidation and Close には、連結および決算プロセスを効果的かつ効率的に管理するためのエンド・ツー・エンド・ソリューションが用意されています。Oracle Enterprise Data Management Cloud を使用して Financial Consolidation and Close ディメンションを管理します。

Oracle Enterprise Data Management Cloud での Financial Consolidation and Close データの管理には、次の処理が含まれます。

- [Financial Consolidation and Close アプリケーションの登録](#)
- [Financial Consolidation and Close ディメンションのインポート](#)
- [登録された Financial Consolidation and Close アプリケーションの変更](#)
- [Financial Consolidation and Close ディメンションのエクスポート](#)

Financial Consolidation and Close アプリケーションを作成すると、次のオブジェクトが作成されます。

- アプリケーションは、別名表、複数通貨コード、オプションの接続設定などの設定で作成されます。
- アプリケーションごとに 1 つのデフォルト・ビューが作成されます。
- 登録したディメンションごとに 1 つのディメンションが作成されます。
- 各ディメンションについて、次のオブジェクトが作成されてディメンションにバインドされます。
  - すべてのアプリケーション固有プロパティを持つ 1 つのノード・タイプ。
  - 親と子両方のノード・タイプを使用している 1 つの階層セット。
  - 階層セットを指す 1 つのノード・セット。
  - ノード・セットを指す 1 つのビューポイント。

## ノート:

バインド・ルールにより、登録したディメンションが外部アプリケーション・ディメンション要件に準拠することが保証されます。[バインディング・ルールの理解](#)を参照してください。

ディメンションの登録に加えて、属性も登録できます。[属性の理解](#)を参照してください。

アプリケーションの登録後、データをディメンションにインポートして、ノード、プロパティおよび階層セットを移入できます。オプションで、登録を変更できます。作業の実行後、ディメンションを外部アプリケーションにエクスポートできます。

## Financial Consolidation and Close の事前定義済メンバー


事前定義済メンバーは、外部アプリケーションからインポートする必要があります。これらは移動および並替えが可能で、下に子を追加することや、上に最上位ノードを追加することができますが、Oracle Enterprise Data Management Cloud ではそれ以外の編集はできません。

事前定義済メンバーに対する変更は、外部アプリケーションで実行する必要があります。変更を加えた後は、マージ・インポート([マージ・インポートの操作](#)を参照)を実行して、Oracle Enterprise Data Management Cloud で事前定義済メンバーを更新する必要があります。

## Financial Consolidation and Close アプリケーションの登録

外部アプリケーション設定、接続 URL、ディメンションなどの情報の入力を求めるウィザードを使用して Financial Consolidation and Close アプリケーションを登録および変更します。

### ビデオ

目的	参照するビデオ
Financial Consolidation and Close アプリケーションの登録について学習します。	 <a href="#">Financial Consolidation and Close アプリケーションの登録</a>

### 開始する前に:

- アプリケーションを登録するには、「アプリケーション - 作成」ロールを持っていることを確認します。登録後、アプリケーションおよびデフォルト・ビューに対する所有者権限が自動的に付与されます。


#### ノート:

サービス管理者はロールを割り当てます([アプリケーションのロールと権限の理解](#)を参照)。

- 登録するディメンションを決定します。勘定科目、エンティティ、増減およびカスタムの 4 つのディメンション・タイプを登録できます。各ディメンション・タイプは特定のキューブに対して有効です。アプリケーションを登録すると、各ディメンションのプロパティが自動的に作成されます。標準プロパティ以外に、アプリケーション設定に応じて Financial Consolidation and Close に固有の追加プロパティもいくつか作成されます。[Financial Consolidation and Close アプリケーションの事前定義済プロパティ](#)を参照してください。


ディメンション・タイプ	ディメンションに有効なキューブ	作成された追加プロパティ
勘定科目	連結およびレート	<ul style="list-style-type: none"> <li>- CICTA 勘定科目である</li> <li>- CICTA リダイレクション勘定科目</li> </ul> 会社間が有効である場合: <ul style="list-style-type: none"> <li>- 調整勘定である</li> <li>- 調整勘定</li> <li>- 会社間勘定</li> </ul>
エンティティ	連結およびレート	会社間が有効である場合: 会社間エンティティ
増減	連結	
カスタム	連結	

- 新しいアプリケーションの場合、連結キューブおよびレート・キューブのデータ・ストレージ・プロパティ(たとえば、PLN.Data Storage (Consol))は、アプリケーションのデフォルトのデータ・ストレージ・プロパティ(PLN.Data Storage)から派生するように自動的に設定されます。[派生プロパティ](#)を参照してください。

 **ノート:**

既存のアプリケーションの登録を変更し、既存のキューブを編集すると、アプリケーションのデフォルトから派生するキューブのデータ・ストレージ・プロパティは自動的に設定されません。キューブ・データ・ストレージ・プロパティの値をアプリケーションのデフォルトから派生させる場合は、アプリケーション・オーバーライドを設定する必要があります。[プロパティ・パラメータの編集](#)を参照してください。

- 外部の Financial Consolidation and Close アプリケーションで設定できるカスタム・ディメンションの数は、アプリケーション設定によって決まります。
  - 拡張ディメンションを有効にしていない場合、外部アプリケーションでは最大で 2 つのカスタム・ディメンション(複数 GAAP が有効な場合は 1 つ)がサポートされます。
  - 拡張ディメンションを有効にした場合、外部アプリケーションでは最大で 4 つのカスタム・ディメンション(複数 GAAP が有効な場合は 3 つ)がサポートされます。

 **ノート:**

Oracle Enterprise Data Management Cloud では、Financial Consolidation and Close アプリケーションに対して作成できるカスタム・ディメンションの数に制限はありません。

- サービス管理者が、企業の SSO (アイデンティティ・プロバイダ)資格証明を使用してサブスクリプション間接続を構成することはできません。サブスクリプションが SSO 用に構成されている場合は、サブスクリプション間接続を構成するサービス管理者に、アイデンティティ・ドメイン資格証明が保持されている必要があります。[アイデンティティ・ドメイン資格証明によるサインインの有効化](#)を参照してください。

詳細は、[アプリケーションの登録の理解](#)を参照してください。

Financial Consolidation and Close アプリケーションを登録するには:


1. 「アプリケーション」から「登録」をクリックします。
2. アプリケーションの名前と、オプションで説明を入力します。

 **ノート:**


アプリケーション・リストにアプリケーション・タイプ、名前および説明が表示されます。

3. 外部アプリケーションに接続している場合は、「追加」をクリックして接続設定を定義します。複数のアプリケーション接続を追加できます。

フィールド	有効な値	例: 外部アプリケーションへの接続
接続名	このアプリケーションに一意の必須の接続名を入力します。	US FCCS Cloud 接続
接続の説明	オプションの説明を入力します。	この接続を使用して、 <b>Financial Consolidation and Close</b> アプリケーションに接続します。
インスタンスの場所	外部アプリケーションへの接続 URL を次の形式で入力します。 <code>https://ServiceName-IdentityDomain-ServiceType.DataCenter.oraclecloud.com</code>	<code>https://finclose-uscompany-fccs.US11.oraclecloud.com</code> ここで <ul style="list-style-type: none"> <li>• ServiceName は finclose</li> <li>• IdentityDomain は uscompany</li> <li>• ServiceType は fccs</li> <li>• DataCenter は US11</li> </ul>
アイデンティティ・ドメイン	外部アプリケーションのアイデンティティ・ドメインを入力します。	IdentityDomain は uscompany

 **ノート:**

これは、「**インスタンスの場所**」で使用されるのと同じアイデンティティ・ドメインです。

フィールド	有効な値	例: 外部アプリケーションへの接続
ユーザー名	認可されたユーザー名を入力します <b>ノート:</b> ユーザーは、外部アプリケーションのサービス管理者である必要があります。	tom.smith   <b>ノート:</b> 次のいずれかのフィールドにアイデンティティ・ドメインを入力する必要があります: 「 <b>アイデンティティ・ドメイン</b> 」または「 <b>ユーザー名</b> 」。たとえば、「 <b>アイデンティティ・ドメイン</b> 」に uscompany または「 <b>ユーザー名</b> 」に uscompany.tom.smith を入力します。
パスワード	パスワードを入力します。	XXXXXXXXXX
プライマリ接続	これを外部アプリケーションへのインポートまたはエクスポートのデフォルトにする場合は、このチェック・ボックスを選択します。	

4. アプリケーション要約情報を確認して、「**作成**」をクリックします。

 **ノート:**

アプリケーションとデフォルト・ビューが作成され、ドラフト・モードに設定されます。デフォルト・ビュー名は、上で指定したアプリケーション名と同じです。


5. 登録を続行します([Financial Consolidation and Close のアプリケーション設定およびディメンションの登録](#)を参照)。


## Financial Consolidation and Close のアプリケーション設定およびディメンションの登録

次のステップを使用して、Financial Consolidation and Close アプリケーションのアプリケーション設定およびディメンションを登録します。

アプリケーション設定を定義してディメンションを登録するには:

1. Financial Consolidation and Close アプリケーション設定を定義します:



フィールド	有効な値	例
複数通貨	アプリケーションで複数通貨がサポートされる場合、このチェック・ボックスを設定します。	チェック・ボックスを選択
通貨	少なくとも 1 つの通貨コードを入力する必要があります。最初に入力する通貨がデフォルトで主要通貨として設定されます。	USD, CAD, INR
主要通貨	「通貨」フィールドに入力した通貨の 1 つを選択します。デフォルト値は、最初に入力した通貨です。	USD
会社間有効	アプリケーションでエンティティ間の会社間トランザクションがサポートされる場合、このチェック・ボックスを設定します	チェック・ボックスを選択
複数 GAAP 有効	アプリケーションで複数の GAAP 基準を使用するレポートが必要な場合、このチェック・ボックスを設定します	チェック・ボックスを選択
ハイブリッド・モード	アプリケーションでハイブリッド・モードがサポートされる場合は、このチェック・ボックスを設定します。  <div style="border: 1px solid #0070C0; padding: 10px; background-color: #E6F2FF;"> <p> <b>ノート:</b></p> <p>プラン・タイプ固有の「解決順」プロパティをすべての BSO および ASO キューブに追加するには、このチェック・ボックスを選択します。プラン・タイプ固有の「解決順」プロパティを ASO キューブにのみ追加するには、チェック・ボックスをクリアします。</p> </div>	チェック・ボックスを選択

フィールド	有効な値	例
拡張ディメンション・アプリケーション	これが拡張ディメンション・アプリケーションの場合、このチェック・ボックスを設定します。拡張ディメンション・アプリケーションでは、外部アプリケーションに最大で 4 つ(2 つではなく)のカスタム・ディメンションを持つことができます。	チェック・ボックスを選択
別名表	ディメンション別名表を入力します	デフォルトの英語スペイン語
その他のスマート・リスト	<p>1 つ以上のスマート・リストの名前を入力します。入力するスマート・リスト名は、Smart List プロパティで選択できるアイテムです。スマート・リスト値は、外部アプリケーションでのみ管理できます。</p> <div style="border: 1px solid #0070C0; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p> <b>ノート:</b></p> <p>スマート・リスト・プロパティには、<b>Financial Consolidation and Close</b> の許容値リストにある Calculation Status が常に含まれます。このフィールドに、任意の追加スマート・リストを入力します。</p> </div>	チャンネル

2. ディメンションを登録します。

1 つ以上のディメンションを登録するには、「追加」をクリックして、次の情報を入力します。



フィールド	有効な値	例
ディメンション名	ディメンション名を入力します。   <b>ノート:</b>  ディメンション名は Oracle Enterprise Data Management Cloud のみでの表示名です。外部ディメンション名は Financial Consolidation and Close にエクスポートされます。	財務勘定科目 入力する値は、Oracle Enterprise Data Management Cloud のビューポイント、ノード・セット、階層セット、ノード・タイプおよびディメンションの名前になります。
ディメンションの説明	オプションでディメンションの説明を入力します。	
ディメンション・タイプ	「勘定科目」、「エンティティ」、「増減」または「カスタム」から、ディメンション・タイプを選択します。	勘定科目
共有ノードを許可	インポートするディメンションに共有ノードがある場合に選択します。	チェック・ボックスを選択
外部ディメンション名 (「カスタム」ディメンション・タイプのみ)	ディメンション・タイプが「カスタム」の場合は、外部ディメンション名を入力します。   <b>ノート:</b>  「勘定科目」、「エンティティ」および「増減」ディメンションの場合、外部名は常に「勘定科目」、「エンティティ」または「増減」になり、変更できません。「カスタム」ディメンションの場合は、外部名を入力する必要があります。	Product

3. 「次」をクリックします。
4. ディメンション・タイプが「エンティティ」、「増減」または「カスタム」の場合は、オプションで 1 つ以上の属性を追加します。
  - 簡易属性の場合:
    - 簡易属性管理スタイルを選択します。
    - 属性名を入力します。
    - 属性に使用するすべての値を入力します。

 **ノート:**

属性名は Attribute - name プロパティに配置され、値はプルダウン・リストに配置されます。

- 属性ディメンションの場合:
  - ディメンション属性管理スタイルを選択します。
  - 属性ディメンション名を入力します。
  - 「**属性タイプ**」で、「テキスト」、「数値」または「日付」を選択します。

 **ノート:**

属性ディメンション名は Attribute Dim - name プロパティに配置され、属性ディメンションのビューポイントがアプリケーションのデフォルト・ビューに追加されます。

[属性の理解](#)を参照してください。

 **ノート:**

簡易属性および属性ディメンションの両方とも、属性名は事前定義済の勘定科目名(「勘定科目」、「エンティティ」、「増減」)、または入力したカスタム・ディメンション名と同じにはできません。また、名前は、事前定義済のいずれかの勘定科目属性ディメンション名にはできません。

- CICTA 勘定科目である
- CICTA リダイレクション勘定科目
- 会社間勘定
- 調整勘定である
- 調整勘定
- 会社間エンティティ

5. 要約を確認して、「適用」をクリックします。  
ディメンションとそのデータ・チェーンが作成されます。データ・オブジェクトはディメンションにバインドされ、アクティブ・ステータスが設定されます。これで、ディメンシ

ョン・データをインポートできます(Financial Consolidation and Close ディメンションのインポートを参照)。

## Financial Consolidation and Close アプリケーションの事前定義済プロパティ

すべての Financial Consolidation and Close アプリケーションに対して、次のプロパティが事前定義されています。

プロパティ	データ型	継承	レベル	説明
メンバー作成者に付与されたアクセス権	文字列	いいえ	ノード	作成する動的メンバーに対してメンバー作成者が持つ権限を判別します
勘定科目タイプ	文字列	はい	ノード	勘定科目のタイム・バランス(値が時間をフローする状態)を定義し、メンバー式で差異レポートへの勘定科目のサイン動作を決定します
集約	文字列	はい	関係	親のメンバーに対する子のメンバーの値をどのように集約させるか判別します
別名	文字列	いいえ	ノード	ディメンション・メンバーの代替の一意の説明
上位レベルのエンティティ入力の許可	ブール	いいえ	ノード	親エンティティの入力をこのメンバーに対して許可するかどうかを指定します。
基本通貨	文字列	はい	ノード	標準の複数通貨アプリケーションにおけるエンティティ・ディメンション・メンバーの基本通貨を指定します <b>ノート:</b> アプリケーションの登録時に複数通貨が有効になっている場合にのみ、基本通貨がエンティティ・ディメンションに追加されません。

プロパティ	データ型	継承	レベル	説明
データ・ストレージ	文字列	いいえ <b>ノート:</b> 新しいアプリケーションの連結およびレート・キューブの場合、キューブのデータ・ストレージ・プロパティ(たとえば、PLN.Data Storage (Consol)) は、アプリケーションのデフォルトのデータ・ストレージ・プロパティ (PLN.Data Storage) から派生します	関係	ディメンション・メンバーのデータが格納または計算されるかを指定します
データ型	文字列	はい	ノード	ディメンション・メンバーのデータ値のタイプを指定します
動的な子に対して使用可能	ブール	いいえ	ノード	ユーザーが、動的な親メンバーを使用するように構成されたビジネス・ルールの実行時プロンプトでメンバー名を入力することにより、このメンバーの子を作成できるようにします
エンタープライズの事前定義済メンバー	ブール	いいえ	ノード	ディメンション・メンバーをアプリケーションによって事前定義済と指定します。事前定義済メンバーは、移動などの特定のタイプの変更、またはその下の子やその最上位ノードの追加のみに制限されます。 <b>ノート:</b> このプロパティは、Financial Consolidation and Close アプリケーションから事前定義済メンバーをインポートするときにインポート・プロセスによって設定され、Oracle Enterprise Data Management Cloud で手動で編集することはできません。
為替レート・タイプ	文字列	はい	ノード	値の計算に為替レートをどのように使用するかを判別します
式	メモ	いいえ	ノード	ディメンション・メンバーの値の計算に使用されるメンバー式。
式の説明	文字列	いいえ	ノード	メンバー式の説明

プロパティ	データ型	継承	レベル	説明
階層タイプ	文字列	いいえ	ノード	集約ストレージ・キューブにバインドされたディメンションに使用できます。集約ストレージ・ディメンションは、複数階層を自動的にサポートできるようになります。複数階層のディメンションの最初の階層は保管階層である必要があります。
使用可能な動的な子の数	整数	いいえ	ノード	ディメンション・メンバーに作成できる動的な子の最大数。このオプションは、「動的な子に対して使用可能」が選択されている場合のみ使用可能です。
プラン・タイプ	ブール	はい	関係	ディメンション・メンバーがプラン・タイプに有効かどうかを指定します。
プロセス管理を使用可能	ブール		ノード	プロセス管理を使用可能にするかどうかを決定します
値のスキップ	文字列	はい	ノード	タイム・バランスが「最初」、「残高」または「平均」の場合、データベース計算がゼロ値および欠落した値をどのように処理するかを決定します。
スマート・リスト	文字列	いいえ	ノード	ディメンション・メンバーに関連付けるスマート・リストを選択します。
ソース・プラン・タイプ	文字列	はい	ノード	ディメンション・メンバーのソース・プラン・タイプ
タイム・バランス	文字列	はい	ノード	アプリケーションによる要約期間の値の計算方法を指定します
2 パス計算	ブール	いいえ	ノード	親メンバーまたは他のメンバーの値に基づいてメンバーの値を再計算します。「動的計算」の「データ・ストレージ」または「動的計算および保管」で、勘定科目とエンティティ・メンバーに使用できます。
UDA	リスト	いいえ	ノード	計算またはレポート目的で使用されるユーザー定義属性
差異レポート	文字列	いいえ	ノード	差異レポートの作成時に勘定科目を支出として扱うかどうかを決定します
週次配分	ブール	いいえ	ノード	週次配分を設定します。アプリケーションの作成時に、このオプションが選択済で基本期間が 12 か月の場合、最下位レベル勘定科目メンバーに使用できます。

ディメンションおよびアプリケーション設定に応じて、次のプロパティが **Financial Consolidation and Close** アプリケーションに事前定義されている場合もあります。これらのプロパティは継承されません。

プロパティ	作成される条件	データ型	レベル	説明
CICTA 勘定科目である	勘定科目タイプ・ディメンションが定義されている	文字列	ノード	勘定科目が包括利益累積換算調整 (CICTA) 勘定科目である (CICTA_Acc_Yes) か、そうでない (Blank)かを指定します。
CICTA リダイレクション勘定科目	勘定科目タイプ・ディメンションが定義されている	ノード	ノード	CICTA リダイレクション勘定科目を指定します。 このプロパティは、 <b>CICTA 勘定科目である</b> プロパティが CICTA_Acc_Yes に設定されているノードに制限されます。
会社間勘定	勘定科目タイプ・ディメンションが定義され、「会社間」が有効になっている	文字列	ノード	会社間消去に勘定科目を使用するかどうかを指定します。
調整勘定である	勘定科目タイプ・ディメンションが定義され、「会社間」が有効になっている	文字列	ノード	勘定科目が調整勘定科目である (Plug_Acc_Yes) か、そうでない (Blank)かを指定します。
調整勘定	勘定科目タイプ・ディメンションが定義され、「会社間」が有効になっている	ノード	ノード	会社間調整勘定科目を指定します。 このプロパティは、 <b>調整勘定である</b> プロパティが Plug_ACC_YES に設定されているノードに制限されます。
会社間エンティティ	エンティティ・タイプ・ディメンションが定義され、「会社間」が有効になっている	文字列	ノード	会社間消去にエンティティを使用するかどうかを指定します。

プロパティ	作成される条件	データ型	レベル	説明
デフォルトの増減	勘定科目タイプ・ディメンションが定義されている	文字列	ノード <b>ノート:</b> このプロパティは、最下位ノードでのみ設定できます。	勘定科目ディメンションのメンバーの増減を計算するために、増減ディメンションのメンバーを指定します。 <b>ノート:</b> デフォルトの増減プロパティは、許可値リストを使用するように設定され、最初は値が特定されていません。許容値リストには、 <b>デフォルトの増減である</b> が YES に設定されるように指定した増減ディメンションからノードが移入されます。
デフォルトの増減である	増減タイプ・ディメンションが定義されている	文字列	ノード <b>ノート:</b> このプロパティは、FCCS_Mvmts_Subtotal 祖先の下にある最下位ノードでのみ設定できます。	選択には、増減ディメンション・メンバーを勘定科目ディメンション・メンバーのデフォルトの増減として指定できます。 <b>ノート:</b> 勘定科目ディメンションの <b>デフォルトの増減</b> プロパティで使用されるノードに対して、このフィールドを YES に設定します。 このフィールドを <b>Yes</b> に設定した後、勘定科目ディメンションの <b>デフォルトの増減</b> プロパティの許容値にノードを追加する必要があります。

## Financial Consolidation and Close **ディメンションのインポート**

Financial Consolidation and Close ディメンションの場合、Oracle Enterprise Data Management Cloud は、カンマ区切り(CSV)ファイルからのインポート、および.zip ファイルを使用した外部アプリケーション送信ボックスからのインポートをサポートしています。

事前定義されたメンバーには、インポート時に Enterprise Predefined Member プロパティが True に設定され、編集することはできません。ただし、下に子を追加したり、上に最上位ノードを追加することは可能です。*Financial Consolidation and Close* の管理のシード済ディメンション・メンバーを参照してください。外部アプリケーションの事前定義済メンバーが変更された場合は、ディメンションを再インポートして Oracle Enterprise Data Management Cloud の事前定義済メンバーを更新する必要があります。


#### 開始する前に:

- インポート・オプション、考慮事項およびインポート・モードの詳細は、[ディメンションのインポート](#)を参照してください。
- 外部アプリケーションで、次のいずれかの形式を使用して、インポートするデータ・ファイルを作成します。
  - ローカル・ファイルを使用する場合は、ディメンションごとに .csv(カンマ区切り)ファイル。ローカルの .csv ファイル名に、ファイル名の制限はありません。
  - 外部アプリケーションの送信ボックスに接続する場合は、1つ以上のディメンションの .csv ファイルを含む .zip ファイル。 .csv ファイル名には、先行するテキストの最後にディメンション名または外部ディメンション名(登録で指定されている場合)が含まれている必要があります。たとえば、acc1.csv は無効ですが、tom\_smith\_acc1.csv は有効です(acc1 はディメンション名)。

#### ノート:

Financial Consolidation and Close から、Oracle Enterprise Data Management Cloud にインポートするファイルを作成します。*Financial Consolidation and Close* の管理のメタデータのエクスポートを参照してください。

ディメンションをインポートするには:

1. 「アプリケーション」でお使いのアプリケーションまでスクロールして、 をクリックし、「インポート」をクリックします。
2. データのインポート先のディメンションをクリックします。
3. 入力ソースで「ファイル」または「接続」を選択して、次のいずれかを行います。
  - 「ファイル」を選択した場合、インポート・ファイル名を指定します。
  - 「接続」を選択した場合、インポート元の接続を選択して、インポート・ファイル名を指定します。
4. 「インポート・モード」で、「マージ」、「置換」または「リセット」を選択します。インポート・モードの詳細は、[ディメンションのインポート](#)を参照してください。
5. オプション: 「サマリー」セクションでディメンション名をクリックして、ディメンションを検査し、インポート・オプションを表示します。インスペクタ・ダイアログを閉じてインポート画面に戻ります。
6. 「インポート」をクリックします。

EPM 自動化(*Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作*)の importDimension を参照)、REST API (*Oracle Enterprise Data Management Cloud Service の REST API のディメンションのインポート*を参照)、またはタスク・マネージャ (*Financial*



Consolidation and Close の管理の EPM Cloud の自動化統合を参照)を使用して、ディメンションをインポートすることもできます。

## Financial Consolidation and Close のインポートおよびエクスポート・ファイル形式

Financial Consolidation and Close ディメンションのデータをインポートおよびエクスポートする場合は、カンマ区切り(.csv)ファイルを使用する必要があります。

次に、カンマ区切りファイルの形式と考慮事項をリストします。

- ファイルには、次の列が含まれる必要があります。
  - **名前** 登録で指定したディメンション名または外部ディメンション(入力した場合)。
  - **親** 親ノードの名前。親ノードがない場合、このフィールドは空にする必要があります。
- **別名: name**。ここで、*name* は登録した別名表の名前です。少なくとも 1 つの別名表が必要です。
- 一般的な列を次に示します。
  - **プラン・タイプ**(*cube name*)、**集約**(*cube name*)、**データ・ストレージ**(*cube name*)、**式**(*cube name*)、**式の説明**(*cube name*)。これらは一般に、登録したキューブごとに定義されます。
  - **解決順序**(*cube name*)。これは、登録した ASO キューブごとに定義されます。

### ヒント:

*cube name* は、登録したキューブの名前です。

- **スマート・リスト**。スマート・リスト名は、オプションでノードに指定されます。
- **属性ディメンション名**。登録中に入力された属性ディメンションの名前。

### ノート:

外部アプリケーションから追加の列をインポートおよびエクスポートできます(簡易ディメンション・エディタでのディメンション・プロパティの編集と簡易ディメンション・エディタでのメンバー・プロパティの編集を参照)。

- インポート・ファイルのデータは行の順序でインポートされます。親ノードの行は子ノードの行よりも前になる必要があります。子ノードの行が親ノードの行よりも前にあると、ファイルのインポート時にエラーが発生します。
- ファイルの区切り文字、引用符または改行(CR/LF)文字を含む文字列、または ASCII 35 以下の文字(Tab、!、#など)で開始する文字列は、引用符で囲まれます。(たとえば、"# Children"、"Accumulated Depreciation, Equipment")。

- インポートでは、重複する行は無視されます。

#### ノート:

インポートには、Financial Consolidation and Close の要件に基づいて共有ノード (データ・ストレージ = 共有) を処理するロジックが含まれています。

## 登録された Financial Consolidation and Close アプリケーションの変更

Financial Consolidation and Close アプリケーションは、登録後に変更できます。たとえば、追加のディメンションの登録、ディメンションの除去または複数通貨設定の変更が可能です。アプリケーション、ディメンションおよびデータ・オブジェクトが変更内容に基づいて更新されます。行った変更を反映して、ディメンション・バインド・ルールが更新されます。

#### ノート:


属性ディメンションまたは別名を除去した場合、対応するプロパティはディメンションからバインドが解除され、インポートまたはエクスポートされなくなります。たとえば、デフォルトの別名ディメンションを除去した場合、対応するプロパティ Alias: Default はノード・タイプのためにインポートまたはエクスポートされなくなります。プロパティは、除去するまでノード・タイプに残ります。

ディメンションを除去すると、対応するデータ・チェーン・オブジェクトはそのディメンションからバインド解除されますが、削除はされません。[アプリケーションの変更の理解](#)を参照してください。

#### 開始する前に:

アプリケーションを変更するには、アプリケーションに対する所有者またはメタデータ・マネージャ権限が必要です。

Financial Consolidation and Close アプリケーションの登録を変更するには:

1. 「**アプリケーション**」でお使いのアプリケーションを見つけて、 をクリックし、「**登録の変更**」を選択します。
2. アプリケーション設定またはディメンションを変更または追加するには、[Financial Consolidation and Close のアプリケーション設定およびディメンションの登録](#)を参照してください。
3. 完了したら、「**適用**」をクリックします。  
変更内容で、データ・チェーン・オブジェクトが更新されます。

 ノート:

「ドラフト」ステータスではないアプリケーションの登録に変更を加えたが、適用しなかった場合、登録ウィザードを閉じるときに変更内容は保存されません。


「ドラフト」ステータスのアプリケーションの登録に変更を加えたが、適用しなかった場合、変更内容は保存され、後から更新および適用できる場合があります。ただし、登録ウィザードの外部でバインドされたデータ・オブジェクトに変更を追加した場合は、バインドされたオブジェクトと登録を同期する必要があるため、保存された変更がクリアされることがあります。

## Financial Consolidation and Close アプリケーションのバインディング・ルール

バインディング・ルールが重要である理由は、バインディング・ルールによって Oracle Enterprise Data Management Cloud アプリケーションが外部アプリケーションの要件に自動的に準拠するようになるからです。

次の表に、Financial Consolidation and Close のバインディング・ルールを示します。

オブジェクト	ルール
ノード・タイプ	バインドされたノード・タイプから必要なバインディング・プロパティを除去できません。
階層セット	バインドされた階層セットの場合、保存時にプロパティが追加される可能性があることを確認できないかぎり、必要なディメンション・プロパティが欠落しているノード・タイプを選択できません。
ノード・セット	バインドされたノード・セットの場合、独自のバインディング・ルールおよび任意のバインディング・ルールをデータ・チェーンの上位に渡す階層セットを選択する必要があります。
ビューポイント	バインドされたビューポイントの場合、独自のバインディング・ルールおよび任意のバインディング・ルールをデータ・チェーンの上位に渡すノード・セットを選択する必要があります。階層セットがチェックされてから、ノード・タイプがチェックされます。

オブジェクト	ルール
ディメンション	<p>ディメンションにバインドされたビューポイントを編集する場合:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ディメンションへのバインディングに対して別のビューポイントを選択できます。新しいビューポイントはバインディング・ルールを満たしているかどうかチェックされますが、データ・チェーンの上位にあるすべてのデータ・オブジェクトも同様です。</li> </ul> <div style="border: 1px solid #0070c0; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p> <b>ノート:</b></p> <p>アプリケーション登録から削除することによって、ディメンションを除去することもできます。ディメンションは引き続きアプリケーション・インスペクタに表示され、ディメンションを使用してデータ・チェーン・オブジェクトが作成される可能性があります。このディメンションはデータのインポートまたはエクスポート用として使用できません。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>アプリケーションのインポート・セクションおよびエクスポート・セクションで、独自のバインディング・ルールまたは任意のバインディング・ルールをデータ・チェーンの上位に渡すディメンションを選択する必要があります。</li> </ul>


詳細は、次を参照してください:

- [バインディング・ルールの理解](#)
- [全アプリケーション・タイプに対するバインディング・ルール](#)

## Financial Consolidation and Close アプリケーションのディメンションへのビューポイントのバインド

Financial Consolidation and Close アプリケーションは、単一の外部ディメンションへのビューポイントのバインドをサポートしています。外部ディメンションにバインドする代替ビューポイントをかわりに作成した場合、次のステップに従って代替ビューポイントをポイントするバインディングを編集できます。

詳細は、次を参照してください:


- [バインディングおよびバインドされたデータ・オブジェクトの理解](#)
  - [ビューポイントの理解](#)
- 「アプリケーション」** で、ビューポイントが含まれるアプリケーションを検索します。
  - アプリケーションの **「アクション」** 列で、 をクリックし、**「検査」** を選択します
  - 「ディメンション」** を選択し、ビューポイントをバインドしているディメンションの名前をクリックします。  
ディメンション・インスペクタが表示されます。
  - 「バインド」** を選択し、代替ビューポイントに関連付けるバインディングをクリックします。
  - 「編集」** をクリックします。  
**「ビュー」** および **「ビューポイント」** ドロップダウン・リストがアクティブになります。

6. 「ビュー」で、ディメンションにバインドするビューポイントが含まれるビューを選択します。
7. ビューポイントを選択します。
8. 「保存」をクリックします。


## Financial Consolidation and Close の検証

検証によってデータの整合性が確認されます。次の検証が、Financial Consolidation and Close アプリケーションに対して実行されます。

名前	次の場合、検証エラーになる	レベル
名前の一意性	メンバー名が、アプリケーションで使用されるすべてのノードで一意的でない	アプリケーション
メンバー名	メンバー名が、現在のアプリケーションに対して定義されているディメンション名、キューブまたは属性ディメンションと同じである	メンバー
最初の文字	名前と別名が、最初の文字として特定の文字を使用している	メンバー
無効な文字	名前と別名に特定の無効な文字を使用している	メンバー
最大長	名前と別名が最大長を超えている	メンバー
先頭または末尾のスペース	名前と別名の先頭と末尾にスペースを使用している	メンバー
予約語	名前と別名が、アプリケーションに対して定義されている予約語のリストのいずれかと同じである	メンバー
別名の一意性	別名が、兄弟ノードのグループ内で一意的でない	ディメンション
共有メンバー	共有メンバーが同じディメンションにない	ディメンション
共有メンバーが基本メンバーの前にあり	階層内で基本メンバーの上に共有メンバーがある	ディメンション
所有権承認権限	ノードの所有権承認プロパティは、ビューポイントに対して少なくとも「参加者(読取り)」アクセス権を持っていないユーザーを参照します。 <a href="#">所有権承認の理解</a> を参照してください。この検証はデフォルトで無効になっています。	ディメンション
プラン・タイプ	プラン・タイプは True に設定されているが、親に True 値がない	ディメンション

 **ノート:**

親が事前定義されたメンバーである場合、この検証はスキップされます。

名前	次の場合、検証エラーになる	レベル
データ・ストレージ	<p>デフォルトのデータ・ストレージは「共有」または「ラベルのみ」であるが、キューブのデータ・ストレージが「共有」または「ラベルのみ」でない</p> <div style="border: 1px solid #0070C0; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p> <b>ノート:</b></p> <p>メンバーがキューブに存在しない場合、これはチェックされません。</p> </div>	プロパティ
為替レート・タイプ	為替レート・タイプが「なし」でなく、データ型が「通貨」でない	プロパティ
許可される式	データ・ストレージが「動的計算」または「動的計算および保管」でない	プロパティ
スマート・リスト必須	データ型が「スマート・リスト」の場合に、メンバーのスマート・リストがない	プロパティ
解決順	解決順が、プロパティの最小値と最大値の間でない	プロパティ
ソース・プラン・タイプ	ソース・プラン・タイプがメンバーに対して有効なプラン・タイプでない	プロパティ
差異レポート	勘定科目タイプが「費用」の場合に差異レポートが「費用」でないか、勘定科目タイプが「費用」または「保存された仮定」以外の場合に差異レポートが「費用外」である。	プロパティ
定義済メンバーの編集	定義済メンバーに対して増減以外のアクションが実行されている	ノード
定義済メンバー・プロパティ	定義済メンバー・プロパティが変更されている	プロパティ
デフォルトの増減レベル	デフォルトの増減プロパティが最下位ノード以外のノードに定義されている	プロパティ
デフォルトの増減レベルである	デフォルトの増減であるプロパティが最下位ノード以外のノードに定義されている	プロパティ
デフォルトの増減の祖先である	デフォルトの増減であるプロパティが FCCS_Mvmts_Subtotal の子孫でないノードに定義されている	プロパティ
数値属性名	数値属性ディメンションの最下位レベルのノード名は数値フォーマットではありません	プロパティ
日付属性名	日付属性ディメンションの最下位レベルのノード名は mm-dd-yyyy フォーマットではありません	プロパティ

### ノート:

ほとんどのアプリケーション固有の検証は事前定義済メンバー(つまり PLN.Enterprise Predefined Member が True に設定されているノード)に対しては実行されません。これは、これらのメンバーが外部アプリケーションからインポートされ、Oracle Enterprise Data Management Cloud では編集できないためです。

事前定義済メンバーに対して実行されるアプリケーション固有の検証は、定義済メンバーの編集、定義済メンバー・プロパティおよび別名の一意性の検証のみです。

## Financial Consolidation and Close ディメンションのエクスポート

ディメンションにバインドされたビューポイントから Financial Consolidation and Close アプリケーションにエクスポートできます。

### ベスト・プラクティス

エクスポートする前にディメンションにバインドされたビューポイントを検証し、データの整合性を確保することをお勧めします。[検証および制約の理解](#)を参照してください。

ディメンションのエクスポート時にビューポイントを自動的に検証するには、「**エクスポート前に検証**」オプションを使用します。[エクスポート・オプションの管理](#)を参照してください。

ノードは、ノード・セットの最上位ノードから始めてエクスポートされます。たとえば、1つのディメンションに米国とすべての州を含めることができます。ノード・セットの最上位ノードがテキサスである場合、テキサスとその下位のノードがエクスポートされます。

### 開始する前に:

- エクスポートするには、最低でもエクスポート元のアプリケーションまたはディメンションに対するデータ・マネージャ権限が必要です。
- Financial Consolidation and Close アプリケーションを登録すると、ノードと階層関係はアプリケーションでのそれまでの順序でインポートされ、表示されます。ノードと階層関係が、Oracle Enterprise Data Management Cloud に存在していたときの順序でエクスポートされます。ノードおよび階層関係を英数字順にエクスポートする場合は、ディメンションの階層セットを開いて、「**カスタム順序の使用**」をクリアします。
- ディメンションのバインド・キーを編集してエクスポート・ファイルのエクスポート列の順序を変更したり、各列の方向を指定できます。[バインド・キーの編集](#)を参照してください。
- null または空白の値のかわりに、定義されたキーワードをエクスポートできます。[エクスポート・オプションの管理](#)を参照してください。


- デイメンションを CSV (カンマ区切り)ファイルにエクスポートします。ローカル・ファイルにエクスポートできます。または、登録中に外部アプリケーションへの接続を設定した場合は、Financial Consolidation and Close アプリケーションの受信ボックスにエクスポートできます。

### ヒント:

アプリケーションを検査することによって、アプリケーション接続設定を表示およびテストできます。[アプリケーションの検査](#)を参照してください。

エクスポート後、データを外部アプリケーションのデイメンションにインポートできます。*Financial Consolidation and Close* の管理のメタデータのインポートを参照してください。

デイメンションをエクスポートするには:

1. 「**アプリケーション**」でお使いのアプリケーションを見つけて、 をクリックし、「**エクスポート**」をクリックします。
2. エクスポートするデイメンションを選択します。
3. **オプション**: インспекタでデイメンションのエクスポート・オプションを変更するには、「サマリー」セクションで、デイメンション名をクリックします。[デイメンションの検査](#)を参照してください。
4. 「**エクスポート・ターゲット**」で、「**ファイル**」または「**接続**」を選択し、次のいずれかを実行します。
  - 「**接続**」を選択した場合、エクスポート先の接続を選択し、エクスポート・ファイル名を指定して「**エクスポート**」をクリックします。
  - 「**ファイル**」を選択した場合、エクスポート・ファイル名が生成されます。デフォルトのファイル名は `アプリケーション名_デイメンション名_日付` (FCCS\_Account\_20200123.csv など)で、エクスポートを実行する前に編集できます。ブラウザ設定でダウンロード場所が定義されます。デフォルトのファイル名をそのまま使用するか編集し、「**エクスポート**」をクリックします。
5. **オプション**: エクスポートの完了後、エクスポートに検証エラーがある場合は、ビューポイント名をクリックしてビューポイントを開き、エラーを解決できます。[検証の問題の解決](#)を参照してください。検証の問題が解決した後、ビューポイント・ウィンドウから**エクスポートに戻る**をクリックしてエクスポート画面に戻ります。

EPM 自動化(*『Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作』*の exportDimension を参照)、REST API (*Oracle Enterprise Data Management Cloud Service の REST API のデイメンションのエクスポート*を参照)、またはタスク・マネージャ(*Financial Consolidation and Close の管理*の EPM Cloud の自動化統合を参照)を使用して、デイメンションをエクスポートすることもできます。



# Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションの操作

Enterprise Profitability and Cost Management を使用して、製品、顧客、地域、支店などのビジネス・セグメントの収益性を計算するために必要な、費用および収益の割当てを管理します。

## Note:

Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーション・アダプタは、Enterprise Profitability and Cost Management 外部アプリケーションにのみ使用してください。Profitability and Cost Management 外部アプリケーションと統合する場合は、汎用アプリケーション・アダプタを使用する必要があります。[汎用アプリケーションの操作](#)を参照してください。

Enterprise Profitability and Cost Management のデータの管理には、次のことが含まれます:

- [Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションの登録](#)
- [Enterprise Profitability and Cost Management ディメンションのインポート](#)
- [登録済の Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションの変更](#)
- [Enterprise Profitability and Cost Management ディメンションのエクスポート](#)

Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションを作成すると、次のオブジェクトが作成されます:

- アプリケーションは、別名表、複数通貨コード、オプションの接続設定などの設定で作成されます。
- アプリケーションごとに 1 つのデフォルト・ビューが作成されます。
- 登録したディメンションごとに 1 つのディメンションが作成されます。
- 各ディメンションについて、次のオブジェクトが作成されてディメンションにバインドされます。
  - すべてのアプリケーション固有プロパティを持つ 1 つのノード・タイプ。
  - 親と子両方のノード・タイプを使用している 1 つの階層セット。
  - 階層セットを指す 1 つのノード・セット。
  - ノード・セットを指す 1 つのビューポイント。

 **Note:**

バインド・ルールにより、登録したディメンションが外部アプリケーション・ディメンション要件に準拠することが保証されます。[バインディング・ルールの理解](#)を参照してください。

ディメンションの登録に加えて、属性も登録できます。[属性の理解](#)を参照してください。

アプリケーションの登録後、データをディメンションにインポートして、ノード、プロパティおよび階層セットを移入できます。オプションで、登録を変更できます。作業の実行後、ディメンションを外部アプリケーションにエクスポートできます。

### Enterprise Profitability and Cost Management の事前定義済メンバー

事前定義済メンバーは、外部アプリケーションからインポートする必要があり、これらは Oracle Enterprise Data Management Cloud では編集できません。事前定義済メンバーに対する変更は、外部アプリケーションで実行する必要があります。変更を加えた後は、マージ・インポート([マージ・インポートの操作](#)を参照)を実行して、Oracle Enterprise Data Management Cloud で事前定義済メンバーを更新する必要があります。

## Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションの登録

Enterprise Profitability and Cost Management 外部アプリケーションを Oracle Enterprise Data Management Cloud に登録すると、外部アプリケーションを表すアプリケーションとデフォルト・ビューが作成されます。

### 開始する前に:

- アプリケーションを登録するには、「アプリケーション - 作成」ロールを持っていることを確認します。登録後、アプリケーションおよびデフォルト・ビューに対する所有者権限が自動的に付与されます。

 **ノート:**

サービス管理者はロールを割り当てます([アプリケーションのロールと権限の理解](#)を参照)。

- 登録するディメンションを決定します。各ディメンションに関連付けられているすべてのキューブを登録する必要があります。エンティティおよびカスタムの 2 つのディメンション・タイプを登録できます。
- 新規または既存のアプリケーションにキューブを追加すると、キューブのデータ・ストレージ・プロパティ(たとえば、PLN.Data Storage (PCM\_CLC))は、アプリケーションのデフォルトのデータ・ストレージ・プロパティ(PLN.Data Storage)から派生するように自動的に設定されます。[派生プロパティ](#)を参照してください。

 ノート:

アプリケーションの登録を変更して既存のキューブを編集すると、アプリケーションのデフォルトから派生するキューブのデータ・ストレージ・プロパティは設定されません。キューブ・データ・ストレージ・プロパティの値をアプリケーションのデフォルトから派生させる場合は、アプリケーション・オーバーライドを設定する必要があります。[プロパティ・パラメータの編集](#)を参照してください。

- サービス管理者が、企業の SSO (アイデンティティ・プロバイダ)資格証明を使用してサブスクリプション間接続を構成することはできません。サブスクリプションが SSO 用に構成されている場合は、サブスクリプション間接続を構成するサービス管理者に、アイデンティティ・ドメイン資格証明が保持されている必要があります。[アイデンティティ・ドメイン資格証明によるサインインの有効化](#)を参照してください。

詳細は、[アプリケーションの登録の理解](#)を参照してください。

Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションを登録するには:



- 「**アプリケーション**」から「**登録**」をクリックし、「**Enterprise Profitability and Cost Management**」を選択します。
- アプリケーション名と説明を入力します。

 ノート:

アプリケーション・リストにアプリケーション・タイプ、名前および説明が表示されます。

- ディメンションにローカル csv(カンマ区切り)ファイルを使用する場合は、次のステップをスキップします。
- 外部アプリケーションに接続している場合は、「**追加**」をクリックして接続設定を定義します。複数のアプリケーション接続を追加できます。

フィールド	有効な値	例: 外部アプリケーションへの接続
接続名	このアプリケーションに一意の必須の接続名を入力します。	US Enterprise Profitability Cloud 接続
接続の説明	オプションの説明を入力します。	この接続を使用して、Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションに接続します。

フィールド	有効な値	例: 外部アプリケーションへの接続
インスタンスの場所	外部アプリケーションへの接続 URL を次の形式で入力します。 <code>https://ServiceName-IdentityDomain-ServiceType.DataCenter.oraclecloud.com</code>	<code>https://epcmcs-uscompany-entplan.US11.oraclecloud.com</code> ここで <ul style="list-style-type: none"> <li>• ServiceName は epcmcs</li> <li>• IdentityDomain は uscompany</li> <li>• ServiceType は entplan</li> <li>• DataCenter は US11</li> </ul>
アイデンティティ・ドメイン	外部アプリケーションのアイデンティティ・ドメインを入力します。  <div style="border: 1px solid #0070C0; padding: 5px; background-color: #E6F2FF;"> <p> <b>ノート:</b></p> <p>これは、「<b>インスタンスの場所</b>」で使用されるのと同じアイデンティティ・ドメインです。</p> </div>	IdentityDomain は uscompany
ユーザー名	認可されたユーザー名を入力します <b>ノート:</b> ユーザーは、外部アプリケーションのサービス管理者である必要があります。	tom.smith  <div style="border: 1px solid #0070C0; padding: 5px; background-color: #E6F2FF;"> <p> <b>ノート:</b></p> <p>次のいずれかのフィールドにアイデンティティ・ドメインを入力する必要があります: 「<b>アイデンティティ・ドメイン</b>」または「<b>ユーザー名</b>」。たとえば、「<b>アイデンティティ・ドメイン</b>」に uscompany または 「<b>ユーザー名</b>」に uscompany.tom.smith を入力します。</p> </div>
パスワード	パスワードを入力します。	XXXXXXXX

フィールド	有効な値	例: 外部アプリケーションへの接続
プライマリ接続	これを外部アプリケーションへのインポートまたはエクスポートのデフォルトにする場合は、このチェック・ボックスを選択します。	

5. アプリケーション要約情報を確認して、「作成」をクリックします。

#### ノート:

アプリケーションとデフォルト・ビューが作成され、ドラフト・モードに設定されます。デフォルト・ビュー名は、上で指定したアプリケーション名と同じです。

6. 登録を続行します(Enterprise Profitability and Cost Management のキューブ、アプリケーション設定およびディメンションの登録を参照)。

## Enterprise Profitability and Cost Management のキューブ、アプリケーション設定およびディメンションの登録

次のステップを使用して、Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションのキューブ、アプリケーション設定およびディメンションを登録します。

### 事前定義済のキューブとディメンション

Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションを登録すると、次のキューブとディメンションが自動的に作成されます:

キューブ:

- PCM\_CLC: Enterprise Profitability and Cost Management では、このキューブを使用して計算を実行します。
- PCM\_REP: Enterprise Profitability and Cost Management では、このキューブを使用してデータを表示し、レポートを実行します。

ディメンション:

ディメンション名	ディメンション・タイプ	有効なキューブ
勘定科目	カスタム	PCM_CLC、PCM_REP
エンティティ	エンティティ	PCM_CLC、PCM_REP

これらの事前定義済のキューブとディメンションを削除し、必要に応じて追加のキューブとディメンションを定義できます。

### キューブ、アプリケーション設定を定義し、ディメンションを登録するには:

1. 「キューブ」画面で「追加」をクリックし、キューブ名を入力します。

 **ノート:**

キューブ・タイプは自動的に「ASO」に設定され、変更できません。



登録するディメンションで使用されているすべてのキューブを追加します。

2. Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーション設定を定義します:

フィールド	有効な値	例
別名表	ディメンション別名表を入力します	デフォルトの英語スペイン語
複数通貨	アプリケーションで複数通貨がサポートされる場合、このチェック・ボックスを設定します。	チェック・ボックスを選択
通貨	少なくとも 1 つの通貨コードを入力する必要があります。	USD, CAD, INR

3. ディメンションを登録します。

1 つ以上のディメンションを登録するには、「追加」をクリックして、次の情報を入力します。

フィールド	有効な値	例
ディメンション名	<p>ディメンション名を入力します。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p> <b>ノート:</b></p> <p>ディメンション名は Oracle Enterprise Data Management Cloud のみでの表示名です。外部ディメンション名は、Enterprise Profitability and Cost Management にエクスポートされます。</p> </div>	<p><b>Product</b></p> <p>入力する値は、Oracle Enterprise Data Management Cloud のビューポイント、ノード・セット、階層セット、ノード・タイプおよびディメンションの名前になります。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p> <b>ノート:</b></p> <p>PCM_Balance または PCM_Rule をディメンション名として使用することはできません。</p> </div>
ディメンションの説明	オプションでディメンションの説明を入力します。	


フィールド	有効な値	例
ディメンション・タイプ	ディメンション・タイプを選択します: 「カスタム」(デフォルト)または「エンティティ」。   <b>ヒント:</b>  Enterprise Profitability and Cost Management では、勘定科目ディメンションに「カスタム」ディメンション・タイプが使用されます。	カスタム
共有ノードを許可	インポートするディメンションに共有ノードがある場合に選択します。	チェック・ボックスを選択
このディメンションに有効なキューブを選択します	ディメンションのすべてのキューブを選択します。必要に応じて、戻るボタンを使用して追加のキューブを入力します。	PCM_CLC、PCM_REP
外部ディメンション名	外部ディメンション名を入力します。	Product

4. 「次」をクリックします。
5. オプションで、1つ以上の属性を追加します:
  - 簡易属性の場合:
    - 簡易属性管理スタイルを選択します。
    - 属性名を入力します。
    - 属性に使用するすべての値を入力します。

 **ノート:**

属性名は Attribute - name プロパティに配置され、値はプルダウン・リストに配置されます。

- 属性ディメンションの場合:
  - ディメンション属性管理スタイルを選択します。
  - 属性ディメンション名を入力します。
  - 「**属性タイプ**」で、「テキスト」、「数値」または「日付」を選択します。

 ノート:

属性ディメンション名は Attribute Dim - name プロパティに配置され、属性ディメンションのビューポイントがアプリケーションのデフォルト・ビューに追加されます。

[属性の理解](#)を参照してください。

- 要約を確認して、「適用」をクリックします。  
ディメンションとそのデータ・チェーンが作成されます。データ・オブジェクトはディメンションにバインドされ、アクティブ・ステータスが設定されます。これで、ディメンション・データをインポートできます([Enterprise Profitability and Cost Management ディメンションのインポート](#)を参照)。

## Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションの事前定義済プロパティ

Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションでは、次のプロパティが事前定義されています。Enterprise Profitability and Cost Management のすべてのプロパティは PLN ネームスペースを使用します。


詳細は、次を参照してください:

- [プロパティの操作](#)
- [プロパティの継承](#)

プロパティ	データ型	継承	レベル	説明
メンバー作成者に付与されたアクセス権	文字列	いいえ	ノード	作成する動的メンバーに対してメンバー作成者が持つ権限を判別します
集約	文字列	はい	関係	親のメンバーに対する子のメンバーの値をどのように集約させるか判別します
別名	文字列	いいえ	ノード	ディメンション・メンバーの代替の一意の説明
属性ディメンション名	文字列	いいえ	ノード	属性ディメンションの名前を指定します



プロパティ	データ型	継承	レベル	説明
基本通貨	文字列	はい	ノード	標準の複数通貨アプリケーションにおけるエンティティ・ディメンション・メンバーの基本通貨を指定します。

 **ノート:**

このプロパティは、複数通貨が有効になっているアプリケーションのエンティティ・ディメンションのみ表示されます。

プロパティ	データ型	継承	レベル	説明
データ・ストレージ	文字列	いいえ <b>ノート:</b> キューブを追加すると、キューブのデータ・ストレージ・プロパティ (たとえば、PLN.Data Storage (PCM_CLC)) は、アプリケーションのデフォルトのデータ・ストレージ・プロパティ (PLN.Data Storage) から派生します	関係	ディメンション・メンバーのデータが格納または計算されるかを指定します
データ型	文字列	はい	ノード	ディメンション・メンバーのデータ値のタイプを指定します
動的な子に対して使用可能	ブール	いいえ	ノード	ユーザーが、動的な親メンバーを使用するように構成されたビジネス・ルールの実行時プロンプトでメンバー名を入力することにより、このメンバーの子を作成できるようにします
エンタープライズの事前定義済メンバー	ブール	いいえ	ノード	ディメンション・メンバーをアプリケーションによって事前定義済と指定します。事前定義済メンバーは、移動などの特定のタイプの変更、またはその下の子やその最上位ノードの追加のみに制限されます。 <b>ノート:</b> このプロパティは、Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションから事前定義済メンバーをインポートするときにインポート・プロセスによって設定され、Oracle Enterprise Data Management Cloud で手動で編集することはできません。
式	メモ	いいえ	ノード	ディメンション・メンバーの値の計算に使用されるメンバー式。
式の説明	文字列	いいえ	ノード	メンバー式の説明

プロパティ	データ型	継承	レベル	説明
階層タイプ	文字列	いいえ	ノード	集約ストレージ・キューブにバインドされたデイメンションに使用できません。集約ストレージ・デイメンションは、複数階層を自動的にサポートできるようになります。複数階層のデイメンションの最初の階層は保管階層である必要があります。
使用可能な動的な子の数	整数	いいえ	ノード	デイメンション・メンバーに作成できる動的な子の最大数。このオプションは、「動的な子に対して使用可能」が選択されている場合のみ使用可能です。
プラン・タイプ	ブール	はい	関係	デイメンション・メンバーがプラン・タイプに有効かどうかを指定します。
プロセス管理を使用可能	ブール		ノード	プロセス管理を使用可能にするかどうかを決定します
スマート・リスト	文字列	いいえ	ノード	デイメンション・メンバーに関連付けるスマート・リストを選択します。
解決順	整数	いいえ	ノード	式が評価される順序を指定します。
2パス計算	ブール	いいえ	ノード	親メンバーまたは他のメンバーの値に基づいてメンバーの値を再計算します。「動的計算」の「データ・ストレージ」または「動的計算および保管」で、勘定科目とエンティティ・メンバーに使用できます。
UDA	リスト	いいえ	ノード	計算またはレポート目的で使用されるユーザー定義属性

## Enterprise Profitability and Cost Management デイメンションのインポート

Enterprise Profitability and Cost Management デイメンションの場合、Oracle Enterprise Data Management Cloud は、カンマ区切り(CSV)ファイルからのインポート、および.zip ファイルを使用した外部アプリケーション送信ボックスからのインポートをサポートしています。

事前定義されたメンバーには、インポート時に Enterprise Predefined Member プロパティが True に設定され、編集することはできません。ただし、下に子を追加したり、上に最上位ノードを追加することは可能です。

 ノート:

事前定義済メンバーは、外部の Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションでのみ更新できます。外部アプリケーションの事前定義済メンバーが変更された場合は、デイメンションを再インポートして Oracle Enterprise Data Management Cloud の事前定義済メンバーを更新する必要があります。

## ビデオ

目的	参照するビデオ
デイメンションのインポートおよびエクスポートについて学習します。	 <a href="#">アプリケーション・データのインポートおよびエクスポート</a>


## 開始する前に:

- インポート・オプション、考慮事項およびインポート・モードの詳細は、[デイメンションのインポート](#)を参照してください。
- 外部アプリケーションで、次のいずれかの形式を使用して、インポートするデータ・ファイルを作成します。
  - ローカル・ファイルを使用する場合は、デイメンションごとに.csv(カンマ区切り)ファイル。ローカルの.csv ファイル名に、ファイル名の制限はありません。
  - 外部アプリケーションの送信ボックスに接続する場合は、1つ以上のデイメンションの.csv ファイルを含む.zip ファイル。.csv ファイル名には、先行するテキストの最後にデイメンション名または外部デイメンション名(登録で指定されている場合)が含まれている必要があります。たとえば、acc1.csv は無効ですが、tom\_smith\_acc1.csv は有効です(acc1 はデイメンション名)。

 ノート:

Enterprise Profitability and Cost Management から、Oracle Enterprise Data Management Cloud にインポートするファイルを作成します。*Enterprise Profitability and Cost Management* の管理および操作のメタデータのエクスポートを参照してください。

デイメンションをインポートするには:

1. 「**アプリケーション**」でお使いのアプリケーションまでスクロールして、 をクリックし、「**インポート**」をクリックします。
2. データのインポート先のデイメンションをクリックします。
3. **入力ソース**で「**ファイル**」または「**接続**」を選択して、次のいずれかを行います。
  - 「**ファイル**」を選択した場合、インポート・ファイル名を指定します。
  - 「**接続**」を選択した場合、インポート元の接続を選択して、インポート・ファイル名を指定します。

4. 「インポート・モード」で、「マージ」、「置換」または「リセット」を選択します。インポート・モードの詳細は、[ディメンションのインポート](#)を参照してください。
5. **オプション:** 「サマリー」セクションでディメンション名をクリックして、ディメンションを検査し、インポート・オプションを表示します。インスペクタ・ダイアログを閉じてインポート画面に戻ります。
6. 「インポート」をクリックします。

EPM 自動化(*『Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作』*の importDimension を参照)または REST API (*Oracle Enterprise Data Management Cloud Service の REST API のディメンションのインポート*を参照)を使用して、ディメンションをインポートすることもできます。

## Enterprise Profitability and Cost Management のインポート およびエクスポート・ファイル形式

Enterprise Profitability and Cost Management ディメンションのデータをインポートおよびエクスポートする場合、カンマ区切り(.csv)ファイルを使用する必要があります。

次に、カンマ区切りファイルの形式と考慮事項をリストします。

- ファイルには、次の列が含まれる必要があります。
  - **名前** 登録で指定したディメンション名または外部ディメンション(入力した場合)。
  - **親:** 親ノードの名前。親ノードがない場合、このフィールドは空にする必要があります。
  - **別名:** *name*。ここで、*name* は登録した別名表の名前です。少なくとも 1 つの別名表が必要です。
- 一般的な列を次に示します。
  - **プラン・タイプ**(*cube name*)、**集約**(*cube name*)、**データ・ストレージ**(*cube name*)、**式**(*cube name*)、**式の説明**(*cube name*)。これらは一般に、登録したキューブごとに定義されます。
  - **解決順序**(*cube name*)。これは、登録した ASO キューブごとに定義されます。

### ヒント:

*cube name* は、登録したキューブの名前です。

- **属性ディメンション名**。登録中に入力された属性ディメンションの名前。

### ノート:

外部アプリケーションから追加の列をインポートおよびエクスポートできます([ディメンション・プロパティとメンバー・プロパティ](#)を参照)。

- インポート・ファイルのデータは行の順序でインポートされます。親ノードの行は子ノードの行よりも前になる必要があります。子ノードの行が親ノードの行よりも前にあると、ファイルのインポート時にエラーが発生します。

- インポートでは、重複する行は無視されます。
- ファイルの区切り文字、引用符または改行(CR/LF)文字を含む文字列、または ASCII 35 以下の文字(Tab、!、#など)で開始する文字列は、引用符で囲まれます。(たとえば、"# Children"、"Accumulated Depreciation, Equipment".)

#### ノート:

インポートには、Enterprise Profitability and Cost Management の要件に基づいて共有ノード(データ・ストレージ = 共有)を処理するロジックが含まれています。

## 登録済の Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションの変更

Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションは、登録後に変更できます。たとえば、追加のディメンションの登録、ディメンションの除去、複数通貨設定の変更、またはキューブの追加を行うことができます。アプリケーション、ディメンションおよびデータ・オブジェクトが変更内容に基づいて更新されます。行った変更を反映して、ディメンション・バインド・ルールが更新されます。

#### ノート:


キューブ、属性ディメンションまたは別名を除去した場合、対応するプロパティはディメンションからバインドが解除され、インポートまたはエクスポートされなくなります。たとえば、デフォルトの別名ディメンションを除去した場合、対応するプロパティ Alias: Default はノード・タイプのためにインポートまたはエクスポートされなくなります。プロパティは、除去するまでノード・タイプに残ります。

ディメンションを除去すると、対応するデータ・チェーン・オブジェクトはそのディメンションからバインド解除されますが、削除はされません。[アプリケーションの変更の理解](#)を参照してください。

#### 開始する前に:

アプリケーションを変更するには、アプリケーションに対する所有者またはメタデータ・マネージャ権限が必要です。

Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションの登録を変更するには:

1. 「**アプリケーション**」でお使いのアプリケーションを見つけて、 をクリックし、「**登録の変更**」を選択します。
2. キューブ、アプリケーションの設定、ディメンションを変更または追加するには、[Enterprise Profitability and Cost Management のキューブ、アプリケーション設定およびディメンションの登録](#)を参照してください。

- 完了したら、「適用」をクリックします。  
変更内容で、データ・チェーン・オブジェクトが更新されます。



### ノート:

「ドラフト」ステータスではないアプリケーションの登録に変更を加えたが、適用しなかった場合、登録ウィザードを閉じるときに変更内容は保存されません。


「ドラフト」ステータスのアプリケーションの登録に変更を加えたが、適用しなかった場合、変更内容は保存され、後から更新および適用できる場合があります。ただし、登録ウィザードの外部でバインドされたデータ・オブジェクトに変更を追加した場合は、バインドされたオブジェクトと登録を同期する必要があるので、保存された変更がクリアされることがあります。

### ディメンションの除去

アプリケーションからディメンションを除去するには:

- 「アプリケーション」でアプリケーションを見つけて、 をクリックし、「登録の変更」を選択します。
- 「ディメンション」を選択して、 をクリックします。




Add the Dimensions for the EPCMCS_UA Application	
Dimensions	
<b>Account</b> Account Dimension	
<b>Entity</b> Entity Dimension	

## Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションのバインディング・ルール

バインディング・ルールが重要である理由は、バインディング・ルールによって Oracle Enterprise Data Management Cloud アプリケーションが外部アプリケーションの要件に自動的に準拠するようになるからです。

次の表に、Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションのバインディング・ルールを示します。

オブジェクト	ルール
ノード・タイプ	バインドされたノード・タイプから必要なバインディング・プロパティを除去できません。
階層セット	バインドされた階層セットの場合、保存時にプロパティが追加される可能性があることを確認できないかぎり、必要なディメンション・プロパティが欠落しているノード・タイプを選択できません。
ノード・セット	バインドされたノード・セットの場合、独自のバインディング・ルールおよび任意のバインディング・ルールをデータ・チェーンの上位に渡す階層セットを選択する必要があります。
ビューポイント	バインドされたビューポイントの場合、独自のバインディング・ルールおよび任意のバインディング・ルールをデータ・チェーンの上位に渡すノード・セットを選択する必要があります。階層セットがチェックされてから、ノード・タイプがチェックされます。
ディメンション	<p>ディメンションにバインドされたビューポイントを編集する場合:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ディメンションへのバインディングに対して別のビューポイントを選択できます。新しいビューポイントはバインディング・ルールを満たしているかどうかチェックされますが、データ・チェーンの上位にあるすべてのデータ・オブジェクトも同様です。</li> </ul> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p> <b>ノート:</b></p> <p>アプリケーション登録から削除することによって、ディメンションを除去することもできます。ディメンションは引き続きアプリケーション・インスペクタに表示され、ディメンションを使用してデータ・チェーン・オブジェクトが作成される可能性があります。このディメンションはデータのインポートまたはエクスポート用として使用できません。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>アプリケーションのインポート・セクションおよびエクスポート・セクションで、独自のバインディング・ルールまたは任意のバインディング・ルールをデータ・チェーンの上位に渡すディメンションを選択する必要があります。</li> </ul>

詳細は、次を参照してください:



- バインディング・ルールの理解
- 全アプリケーション・タイプに対するバインディング・ルール

## Enterprise Profitability and Cost Management の検証

検証によってデータの整合性が確認されます。次の検証が、Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションに対して実行されます。

名前	次の場合、検証エラーになる	レベル
名前の一意性	メンバー名が、アプリケーションで使用されるすべてのノードで一意的でない	アプリケーション
メンバー名	メンバー名が、現在のアプリケーションに対して定義されているディメンション名、キューブまたは属性ディメンションと同じである	メンバー



名前	次の場合、検証エラーになる	レベル
最初の文字	名前と別名が、最初の文字として特定の文字を使用している	メンバー
無効な文字	名前と別名に特定の無効な文字を使用している	メンバー
最大長	名前と別名が最大長を超えている	メンバー
先頭または末尾のスペース	名前と別名の先頭と末尾にスペースを使用している	メンバー
予約語	名前と別名が、アプリケーションに対して定義されている予約語のリストのいずれかと同じである	メンバー
別名の一意性	別名が、兄弟ノードのグループ内で一意でない	ディメンション
共有メンバー	共有メンバーが同じディメンションにない	ディメンション
共有メンバーが基本メンバーの前にあり	階層内で基本メンバーの上に共有メンバーがある	ディメンション
所有権承認権限	ノードの所有権承認プロパティは、ビューポイントに対して少なくとも「参加者(読取り)」アクセス権を持っていないユーザーを参照します。 <a href="#">所有権承認の理解</a> を参照してください。この検証はデフォルトで無効になっています。	ディメンション
プラン・タイプ	プラン・タイプは <b>True</b> に設定されているが、親に <b>True</b> 値がない  <div style="border: 1px solid #0070C0; padding: 10px; background-color: #E6F2FF; margin: 10px 0;"> <p> <b>ノート:</b></p> <p>親が事前定義されたメンバーである場合、この検証はスキップされます。</p> </div>	ディメンション
データ・ストレージ	デフォルトのデータ・ストレージは「共有」または「ラベルのみ」であるが、キューブのデータ・ストレージが「共有」または「ラベルのみ」でない  <div style="border: 1px solid #0070C0; padding: 10px; background-color: #E6F2FF; margin: 10px 0;"> <p> <b>ノート:</b></p> <p>メンバーがキューブに存在しない場合、これはチェックされません。</p> </div>	プロパティ
許可される式	データ・ストレージが「動的計算」または「動的計算および保管」でない	プロパティ

名前	次の場合、検証エラーになる	レベル
定義済メンバーの編集	定義済メンバーに対して増減以外のアクションが実行されている	ノード
定義済メンバー・プロパティ	定義済メンバー・プロパティが変更されている	プロパティ
解決順	解決順が、プロパティの最小値と最大値の間がない	プロパティ
数値属性名	数値属性ディメンションの最下位レベルのノード名は数値フォーマットではありません	プロパティ
日付属性名	日付属性ディメンションの最下位レベルのノード名は mm-dd-yyyy フォーマットではありません	プロパティ

#### ノート:

ほとんどのアプリケーション固有の検証は事前定義済メンバー(つまり PLN.Enterprise Predefined Member が True に設定されているノード)に対しては実行されません。これは、これらのメンバーが外部アプリケーションからインポートされ、Oracle Enterprise Data Management Cloud では編集できないためです。

事前定義済メンバーに対して実行されるアプリケーション固有の検証は、定義済メンバーの編集、定義済メンバー・プロパティおよび別名の一意性の検証のみです。

#### ノート:


「許可される式」および「プラン・タイプ」の検証は、共有ノード(データ・ストレージ=共有)ではチェックされません。アプリケーション・レベルのインポートとエクスポートでは、これらの値が Enterprise Profitability and Cost Management で求められるとおりに変換されます。

## Enterprise Profitability and Cost Management ディメンションのエクスポート

ディメンションにバインドされたビューポイントから Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションにエクスポートできます。

ノードは、ノード・セットの最上位ノードから始めてエクスポートされます。たとえば、1つのディメンションに米国とすべての州を含めることができます。ノード・セットの最上位ノードがテキサスである場合、テキサスとその下位のノードがエクスポートされます。

## ビデオ

目的	参照するビデオ
デイメンションのエクスポートについて学習します。	 <a href="#">アプリケーション・データのインポートおよびエクスポート</a>

## ベスト・プラクティス

エクスポートする前にデイメンションにバインドされたビューポイントを検証し、データの整合性を確保することをお勧めします。[検証および制約の理解](#)を参照してください。

デイメンションのエクスポート時にビューポイントを自動的に検証するには、「**エクスポート前に検証**」オプションを使用します。[エクスポート・オプションの管理](#)を参照してください。


## 開始する前に:

- エクスポートするには、最低でもエクスポート元のアプリケーションまたはデイメンションに対するデータ・マネージャ権限が必要です。
- Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションを登録すると、ノードと階層関係はアプリケーションでのそれまでの順序でインポートされ、表示されます。ノードと階層関係が、Oracle Enterprise Data Management Cloud に存在していたときの順序でエクスポートされます。ノードおよび階層関係を英数字順にエクスポートする場合は、デイメンションの階層セットを開いて、「**カスタム順序の使用**」をクリアします。
- デイメンションのバインド・キーを編集してエクスポート・ファイルのエクスポート列の順序を変更したり、各列の方向を指定できます。[バインド・キーの編集](#)を参照してください。
- null または空白の値のかわりに、定義されたキーワードをエクスポートできます。[エクスポート・オプションの管理](#)を参照してください。
- デイメンションを CSV (カンマ区切り)ファイルにエクスポートします。ローカル・ファイルにエクスポートできます。または、登録中に外部アプリケーションへの接続を設定した場合は、Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションの受信ボックスにエクスポートできます。

 ヒント:

アプリケーションを検査することによって、アプリケーション接続設定を表示およびテストできます。[アプリケーションの検査](#)を参照してください。

デイメンションをエクスポートするには:

- 「**アプリケーション**」でお使いのアプリケーションを見つけて、 をクリックし、「**エクスポート**」をクリックします。
- エクスポートするデイメンションを選択します。
- オプション:** インスペクタでデイメンションのエクスポート・オプションを変更するには、「サマリー」セクションで、デイメンション名をクリックします。[デイメンションの検査](#)を参照してください。

4. 「エクスポート・ターゲット」で、「ファイル」または「接続」を選択し、次のいずれかを実行します。
  - 「接続」を選択した場合、エクスポート先の接続を選択し、エクスポート・ファイル名を指定して「エクスポート」をクリックします。
  - 「ファイル」を選択した場合、エクスポート・ファイル名が生成されます。デフォルトのファイル名はアプリケーション名\_ディメンション名\_日付 (Profitability\_Account\_20221223.csv など)で、エクスポートを実行する前に編集できます。ブラウザ設定でダウンロード場所が定義されます。デフォルトのファイル名をそのまま使用するか編集し、「エクスポート」をクリックします。
5. **オプション:** エクスポートの完了後、エクスポートに検証エラーがある場合は、ビューポイント名をクリックしてビューポイントを開き、エラーを解決できます。[検証の問題の解決](#)を参照してください。検証の問題が解決した後、ビューポイント・ウィンドウから**エクスポートに戻る**をクリックしてエクスポート画面に戻ります。

EPM 自動化(*『Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作』*の exportDimension を参照)または REST API (*Oracle Enterprise Data Management Cloud Service の REST API のディメンションのエクスポート*を参照)を使用して、ディメンションをエクスポートすることもできます。

ディメンションをエクスポートした後で、データを外部アプリケーションのディメンションにインポートできます。*Enterprise Profitability and Cost Management の管理および操作*のメタデータのインポートを参照してください。

#### ノート:

アプリケーションのエクスポートでは、Enterprise Profitability and Cost Management の要件に従うために、共有ノードのノードレベル・プロパティを管理します。

# Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションの操作

Oracle Enterprise Data Management Cloud を使用して、Oracle Financials Cloud 一般会計の値セットの勘定体系セグメント値を管理します。ユーザーは新しいセグメント値を作成してそのプロパティを編集し、Oracle Enterprise Data Management Cloud でツリーを保守します。この情報は、Oracle Financials Cloud 一般会計にエクスポートでき、スケジュール済プロセスを使用してインポートできます。

## ビデオ

目的	参照するビデオ
Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションの操作について学習します。	 <a href="#">Oracle Financials Cloud 一般会計の統合.</a>

Oracle Enterprise Data Management Cloud では、次のタイプの一般会計データを管理できます:

- 勘定体系セグメント値
- セグメント値プロパティ

### ▲ 注意:

登録システムで作成された事前定義済プロパティを変更する場合は、プロパティ値を導出するためにプロパティ継承または位置指定ロジックを使用しないでください。[Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションの事前定義済プロパティ](#)を参照してください。

- ツリーおよびツリー・バージョン
- ツリー・バージョンのセグメント値の階層関係
- グローバルおよびコンテキスト依存型付加フレックスフィールド

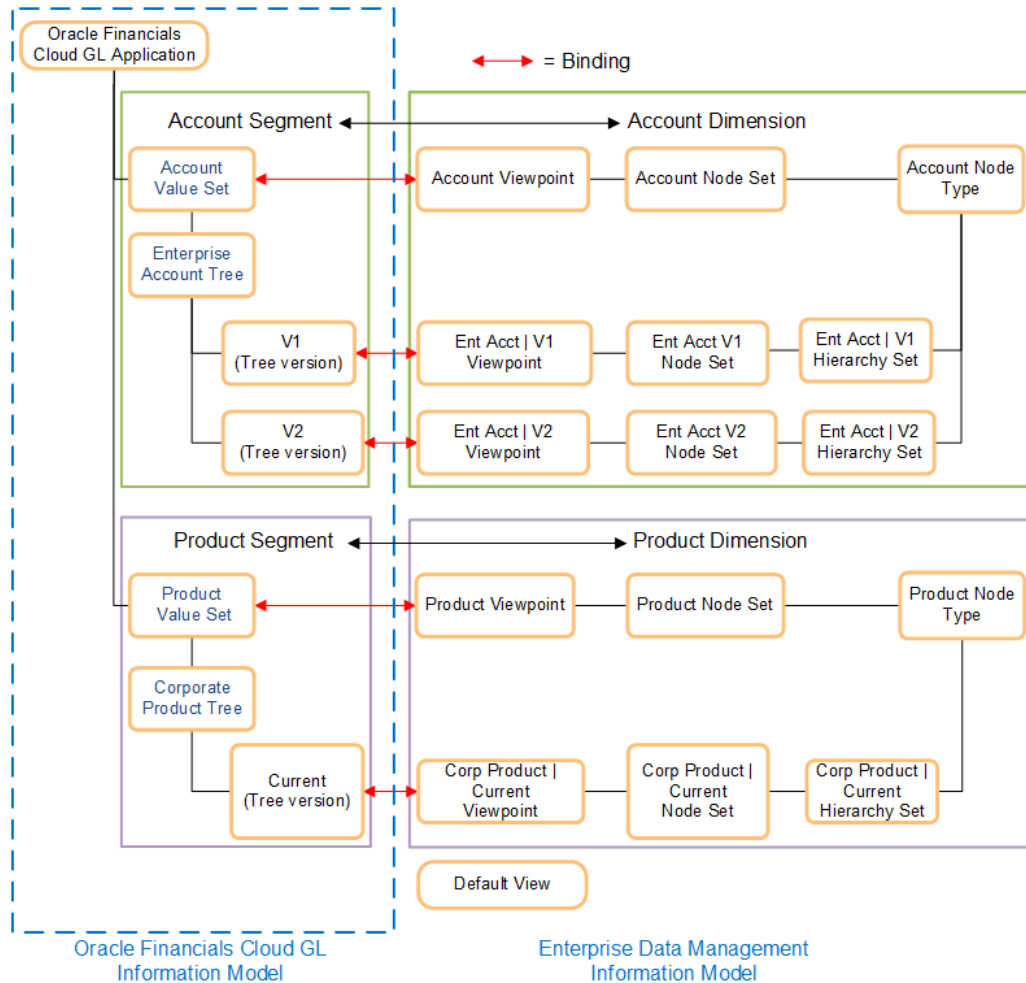
Oracle Financials Cloud 一般会計の概念の詳細は、[企業構造および一般会計の実装の財務構造](#)を参照してください。

Oracle Enterprise Data Management Cloud での Oracle Financials Cloud 一般会計のデータの管理には、次のような作業があります。

- [Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションの登録](#)
- [Oracle Financials Cloud 一般会計ディメンションのインポート](#)
- [登録済の Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションの変更](#)
- [データ管理の開始](#)

- Oracle Financials Cloud 一般会計ディメンションのエクスポート

Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションは、ウィザードに従ってセグメント値セット、ツリー・コードおよびバージョン名などの情報を入力して登録します。次の図は、Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションの情報モデルが Oracle Enterprise Data Management Cloud の情報モデルにどのようにマップされるかを示しています。



Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションを登録すると、Oracle Enterprise Data Management Cloud でアプリケーションの次のデータ・チェーン・オブジェクトが作成されます。

- **デフォルト・ビュー**—アプリケーションのすべてのデータ・チェーン・オブジェクトを管理できます。[ビューの理解](#)を参照してください。
- アプリケーションのセグメント値セットごとに、次のデータ・チェーン・オブジェクトが作成されます。
  - **ディメンション**—データ値を分類する方法を提供します。[ディメンションの理解](#)を参照してください。
  - **ビューポイント**—操作するノードのサブセットを提供します。ビューポイントはノード・セットを指します。[ビューポイントについて](#)を参照してください。

- **リストタイプのノード・セット**—ビューポイントで使用可能なノードのグループを定義します。セグメント値セットの場合、使用可能なすべてのノードを含むリスト・ノード・セットが、階層データなしで作成されます。[ノード・セットの操作](#)を参照してください。
- **ノード・タイプ**—共通のビジネス目的を共有するアプリケーションのノードの集まりを表示します。ノード・タイプには、アプリケーション固有のすべてのプロパティがあります。[ノード・タイプの操作](#)を参照してください。
- アプリケーションのツリー・コードとバージョン名の組合せごとに、次のデータ・チェーン・オブジェクトが作成されます。
  - **ビューポイント**—操作するノードのサブセットを提供します。ビューポイントはノード・セットを指します。[ビューポイントについて](#)を参照してください。
  - **階層タイプのノード・セット**—ビューポイントで使用可能なノードのグループを定義します。ツリー・コードとツリー・バージョン名の組合せごとに、階層内のそのツリー・コードおよびバージョン名のノードを含む階層ノード・セットが作成されます。ノード・セットは階層セットを指します。[ノード・セットの操作](#)を参照してください。
  - **階層セット**—ノードのグループの親子関係を定義します。階層セットは、親ノードと子ノード両方のノード・タイプを使用します。[階層セットの操作](#)を参照してください。

#### ノート:

セグメントのツリーを登録する必要はありません。セグメントのツリーを登録しない場合、エクスポート・データ・ファイルに階層データは含まれません。[Oracle Financials Cloud 一般会計ディメンションのエクスポート](#)を参照してください。

アプリケーションの登録後、データをディメンションにインポートして、ノード、プロパティおよび階層セットを移入できます。オプションで、登録を変更できます。データ・セットの作業の実行後、ディメンションを外部アプリケーションにエクスポートできます。

#### ノート:

Oracle Enterprise Data Management Cloud でディメンションとデータ・チェーン・オブジェクトが作成されると、それらは Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションのセグメント、値セット、ツリーにバインドされます。これらのバインドにより、登録されたデータ・チェーン・オブジェクトは外部アプリケーションの要件に準拠するようになります。また、ユーザーがアプリケーションのデータのインポートまたはエクスポートを阻止するような変更を行うのを防ぐことができます。[バインディング・ルールの理解](#)を参照してください。

# Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションの登録

Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションを Oracle Enterprise Data Management Cloud に登録すると、外部アプリケーションを表すためにアプリケーションとデフォルト・ビューが作成されます。セグメントとそれに関連する値セットを表すためにディメンション、ノード・タイプおよびリスト・ノード・セットが作成されます。ツリーとツリー・バージョンを表すためにビューポイント、階層ノード・セットおよび階層セットが作成されます。

## ビデオ

目的	参照するビデオ
Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションを登録する方法の概要の取得	 <a href="#">Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションの登録</a>
Oracle Enterprise Data Management Cloud を使用して、Oracle Financials Cloud 一般会計の値セットおよびツリーの勘定体系セグメント値を管理する方法の学習。	 <a href="#">Oracle Financials Cloud 一般会計の統合</a>

## 開始する前に:

- アプリケーションを登録するには、「アプリケーション - 作成」ロールを持っていることを確認します。登録後、アプリケーションおよびデフォルト・ビューに対する所有者権限が自動的に付与されます。

### ノート:

サービス管理者はロールを割り当てます([アプリケーションのロールと権限の理解](#)を参照)。

- 登録する勘定体系のセグメントおよび関連する値セットを決定します。セグメントと値セットを定義したら、登録プロセスで各セグメントにツリーを追加します。[Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションの操作](#)を参照してください。

アプリケーションを登録するには:

- 「**アプリケーション**」から「**登録**」をクリックします。
- アプリケーション・タイプとして「**Financials Cloud 一般会計**」を選択します。
- アプリケーションの**名前**と、オプションで**説明**を入力します。

### ノート:

アプリケーション・リストにアプリケーション・タイプ、名前および説明が表示されます。



4. 外部の Oracle Financials Cloud 一般会計サーバーに接続する場合は、「追加」をクリックして、接続設定を定義します。Oracle Enterprise Data Management Cloud アプリケーションからデータをカンマ区切りファイルにエクスポートするとき、外部アプリケーション・サーバーにエクスポートできます。そこで、後から Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションにインポートできます。Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションのエクスポートを参照してください。複数のアプリケーション接続を追加できます。

フィールド	有効な値	例: 外部アプリケーションへの接続
接続名	このアプリケーションに一意の必須の接続名を入力します。   <b>ノート:</b> 接続名にスペースを含めることはできません。	US Financial Cloud GL 接続
接続の説明	オプションの説明を入力します。	この接続を使用して、Oracle Financials Cloud 一般会計サーバーに接続します。
インスタンスの場所	Oracle Financials Cloud 一般会計サービスへの接続 URL を、次の形式で入力します。 <code>https://ServiceName-IdentityDomain-ServiceType.DataCenter.oraclecloud.com</code>	<code>https://fincloudgl-uscompany-fcgl.US11.oraclecloud.com</code> ここで <ul style="list-style-type: none"> <li>ServiceName は fincloudgl</li> <li>IdentityDomain は uscompany</li> <li>ServiceType は fcgl</li> <li>DataCenter は US11</li> </ul>
アイデンティティ・ドメイン	外部アプリケーションのアイデンティティ・ドメインを入力します。   <b>ノート:</b> これは、「インスタンスの場所」で使用されるのと同じアイデンティティ・ドメインです。	IdentityDomain は uscompany

フィールド	有効な値	例: 外部アプリケーションへの接続
ユーザー名	認可されたユーザー名を入力します  <b>▲ 注意:</b> 接続へのエクスポートの場合、認可されたユーザーには Oracle ERP Cloud の FUN_FSCM_REST_SERVICE_ACCESS_INTEGRATION_PRIV 権限が必要です。	tom.smith  <b>✎ ノート:</b> 次のいずれかのフィールドにアイデンティティ・ドメインを入力する必要があります: 「アイデンティティ・ドメイン」または「ユーザー名」。たとえば、「アイデンティティ・ドメイン」に uscompany または「ユーザー名」に uscompany.tom.smith を入力します。
パスワード	パスワードを入力します。	XXXXXXXX
プライマリ接続	これを外部アプリケーションへのエクスポートのデフォルトにする場合は、このチェック・ボックスを選択します。	

5. 「作成」をクリックします。
6. 「アクティブ言語」で、Oracle Financials Cloud アプリケーションでアクティブ・ステータスの言語を入力します。

**✎ ノート:**

言語の名前を入力すると、テキスト入力と一致するサポートされる言語のリストが表示されます。言語を選択して、「アクティブ言語」リストに追加します。

7. アプリケーションの「ベース言語」を 1 つ選択します。前のステップでアクティブ言語として追加した任意の言語から選択できます。
8. **オプション:** アプリケーションに適用する各フィールドの横にあるチェック・ボックスを選択します。
  - **複数のルート・ノードを許可:** 階層内で複数のルート・ノードを有効にします。
  - **重複ノードを許可:** 共有ノードを有効にします。共有ノードの理解を参照してください。

 **ノート:**

デフォルトでは、重複ノードは有効になっていません。これらは、Oracle Financials Cloud で公開されないツリー、(つまり、「**階層をキューブに公開**」エクスポート・オプションが有効になっていないツリーに対してのみ有効にする必要があります。[エクスポート・オプションの管理](#)を参照。)

9. **最大深さ**にツリー構造のデータの深さ限度を入力するか、ツリー構造に深さ限度がない場合は「-1」を入力します。
10. 「**ツリー・ラベル**」に、オプションでツリー・ラベルの許容値を 1 つ以上追加します。入力したラベルは、FCGL.Tree Label プロパティの許容値として追加されます。ツリー・ラベルは最大 50 文字で、先頭または末尾にスペースを使用することはできません。
11. 登録を続行します。[グローバル付加フレックスフィールドの追加](#)を参照してください。

## グローバル付加フレックスフィールドの追加

登録時に最大 50 個の付加フレックスフィールドを定義し、それらを Oracle Financials Cloud 一般会計に対してインポートおよびエクスポートできます。

### 付加フレックスフィールドについて

付加フレックスフィールドはユーザー定義の属性で、セグメント値に関する追加属性を取得できます。たとえば、「製品」セグメントには、色およびサイズの付加フレックスフィールドを含めることができます。2 タイプの付加フレックスフィールドがあります。

- グローバル付加フレックスフィールドは、アプリケーション内のすべてのセグメントに適用され、フレックスフィールドとその関連プロパティは両方とも一意である必要があります。グローバル付加フレックスフィールドの名前またはプロパティは、別のグローバル・フレックスフィールドまたはコンテキスト依存型フレックスフィールドで再利用できません。
- コンテキスト依存型付加フレックスフィールドは、特定のセグメントにのみ適用され、フレックスフィールドとその関連プロパティは両方とも他のセグメントで再利用できます。

グローバル付加フレックスフィールドとコンテキスト依存型付加フレックスフィールドの使用方法を示すために、「勘定科目」、「エンティティ」および「製品」の 3 つのセグメントがあるとします。3 つすべてのセグメントに適用する属性がある場合は、グローバル付加フレックスフィールドを作成し、すべてのセグメントに追加します。しかし、2 つのセグメントのみに適用する属性がある場合は、コンテキスト依存型付加フレックスフィールドを作成し、属性を適用する 2 つのセグメントのみに追加します。

付加フレックスフィールドの詳細は、[Oracle Applications Cloud 構成と拡張のフレックスフィールドの概要](#)を参照してください。

グローバル付加フレックスフィールドを追加するには:

1. 「グローバル付加フレックスフィールドの追加」で、「**追加**」をクリックします。
2. 「**フレックスフィールド名**」を入力し、フレックスフィールドが必要かどうかを指定します。グローバル付加フレックスフィールドの場合、名前は一意である必要があります。

3. 「列」で、ドロップダウン・メニューをクリックし、フレックスフィールドの属性の場所(1-50)を選択します。このフィールドは、インポート・ファイルおよびエクスポート・ファイル内でこのフレックスフィールドの値の場所を決定します。グローバルまたはコンテキスト依存型付加フレックスフィールドのいずれかの属性の場所を選択すると、その場所は別のフレックスフィールドで選択できなくなります。たとえば、グローバル付加フレックスフィールドの Attribute 3 の場所を選択した場合、別のグローバルまたはコンテキスト依存型付加フレックスフィールドを追加するとき、ドロップダウン・メニューに Attribute 3 は表示されません。
4. 「プロパティ」で、ドロップダウン・メニューをクリックし、アクションを実行します。
  - フレックスフィールドの新規プロパティを作成するには、「**(新規プロパティの追加)**」を選択して「次」をクリックします。**フレックスフィールドの新規プロパティの追加**に進みます。
  - フレックスフィールドの既存のプロパティを選択して「次」をクリックし、付加フレックスフィールドの追加に戻ります。**選択するプロパティは、文字列データ型のノード・レベル・プロパティである必要があります。**

 **ノート:**

グローバル付加フレックスフィールドの既存のプロパティを選択すると、ドロップダウン・リストからそのプロパティは除去され、他のグローバルまたはコンテキスト依存型付加フレックスフィールドに対して選択できなくなります。

### フレックスフィールドの新規プロパティの追加

1. デフォルトでは、プロパティ名は"DFE {Flexfield Name}"です。オプションで、名前を変更したり、プロパティの説明を入力して、「次」をクリックします。
2. プロパティのパラメータを次のように指定します。

パラメータ	説明
文字列の大/小文字	プロパティが「大文字」か、「小文字」か、または「大/小文字混在」かを指定します。
無効な文字	プロパティに対して無効な文字を指定します。「 <b>無効な文字</b> 」フィールドをクリックし、表示されたリストから無効な文字を選択します。
最小長	プロパティの最小テキスト長を入力します。デフォルト値は 0 です。
最大長	プロパティの最大テキスト長を入力します。デフォルト値は 240 で、最大値は 240 を超えることができません。
許容値リストの使用	プロパティ・フィールドへの入力、「 <b>許容値</b> 」にリストされた値のみに制限することを選択します。
空白エントリを含む	このプロパティを空白のままにするのを許可することを選択します。
許容値	このプロパティに対して表示する値を入力します。値を入力し、[Tab]を押して次の値を入力します。ユーザー入力をこのフィールド内の値のみに制限するには、「 <b>許容値リストの使用</b> 」を選択します。
デフォルト値	プロパティのデフォルト値を入力します。

パラメータ	説明
継承	このプロパティに対して位置指定の継承を使用するかどうかを選択します。 <a href="#">プロパティの継承</a> を参照してください。

3. 「次」をクリックして、「グローバル付加フレックスフィールドの追加」に戻ります。追加したグローバル付加フレックスフィールドが、属性の場所のデフォルト名、および入力したフレックスフィールド名(たとえば、"Attribute 1 - Color")とともに表示されます。
4. 「追加」をクリックして別のフレックスフィールドを追加するか、または「次」をクリックして登録を続行します。 [セグメントおよびツリーの登録](#)を参照してください。

## セグメントおよびツリーの登録

次のステップを使用して、Oracle Financials Cloud アプリケーションのセグメントおよびツリーを登録します。

### セグメントの登録

セグメントを登録するには:

1. 「セグメントの追加」で「追加」をクリックします。
2. セグメントの「値セット・コード」を入力し、オプションで「説明」を入力します。
3. このセグメントが勘定体系で標準勘定科目として使用される場合は、「標準勘定科目セグメント」の横にあるチェック・ボックスを選択します。
4. 「値のタイプ」で、値セットの値がテキストか数値かを指定します。
5. 値セットの値の**最大文字長**を入力して、「次」をクリックします。
6. ステップ 4 で選択された値タイプに基づいてアクションを実行します。
  - テキスト値タイプの場合:
    - a. 値セットの値の最小値と最大値を入力します。英数字または数値を入力できます。たとえば、最小フィールドに xxxxxx および最大フィールドに 99999 と入力した場合、ユーザーは X、Y または Z で始まる値または 99999 までの数値を入力できます。
    - b. 値セットの値を大文字のみにする必要がある場合は、「大文字」を選択します。
    - c. 値の文字数を最大文字長と同じ文字数にする必要がある場合は、「ゼロ埋め」を選択します。  
たとえば、最大文字長が 5 で、値 AAA を入力するとします。ゼロ埋めが有効になっている場合、5 文字になるように値を変更する必要があることが示されます (00AAA など)。ゼロ埋めが有効になっていない場合、システムは入力された値を受け入れます。
  - 数値タイプの場合、値セットの値の最小値と最大値を入力します。

 **ノート:**

数値タイプの場合、ゼロ埋めが自動的に適用されます。最大文字長が 4 で、値 222 を入力した場合、4 文字になるように値を変更する必要があります(0222 など)。

数値にゼロ埋めを適用しない場合は、値タイプをテキストに変更し、数値の最小値と最大値を入力できます。これにより、ユーザーは数値を入力することは強制されますが、値をゼロで埋めることは強制されません。

7. 「次」をクリックします。

### コンテキスト依存型付加フレックスフィールドの追加

コンテキスト依存型付加フレックスフィールドを使用すると、特定のセグメントのみのセグメント値に関する追加属性を取得できます。コンテキスト依存型付加フレックスフィールドをセグメントに追加する手順はグローバル付加フレックスフィールドの追加と似ていますが、次の点が異なります。

- コンテキスト依存型付加フレックスフィールドは、複数のセグメントで再利用できます。コンテキスト依存型付加フレックスフィールドを複数のセグメントに適用する場合は、適用するセグメントごとに付加フレックスフィールドを追加する必要があります。
- コンテキスト依存型フレックスフィールドに関連付けられたプロパティも再利用できます。グローバル付加フレックスフィールドとは異なり、プロパティを選択してコンテキスト依存型フレックスフィールドに関連付けると、その値は「**プロパティ**」ドロップダウン・メニューから除去されず、異なるコンテキスト依存型フレックスフィールドに対して再度選択できます。

[グローバル付加フレックスフィールドの追加](#)を参照してください。

### ツリーの登録

次に、セグメントのツリーを定義します。ツリーは、ツリー・コードとツリー・バージョン名で構成されます。各ツリー・コードには、複数のツリー・バージョンを設定できます。

 **ノート:**

セグメントのツリーを入力する必要はありません。セグメントのツリーを 1 つも入力しなかった場合、セグメントのエクスポート時に、階層データを含む GLSegmentHierInterface.csv ファイルは生成されません。 [Oracle Financials Cloud 一般会計ディメンションのエクスポート](#)を参照してください。

セグメントのツリーを定義するには:

1. 「追加」をクリックします。
2. 「ツリー・コード」と「ツリー・バージョン名」を入力します。
3. バージョンの開始日と終了日を入力して、「次」をクリックします。

 ノート:


終了日は開始日以降にする必要があります。

4. **オプション:** 追加しているツリー内で共有ノードを許可するには、「**重複ノードを許可**」を選択します。追加しているツリーの場合、このフィールドの値は、アプリケーション・レベルの設定([Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションの登録](#)を参照)にデフォルト設定されますが、ツリー・レベルでオーバーライドできます。既存のツリーの場合、値は階層セットの「**共有ノードを許可**」設定から取得されます。[階層セットの検査](#)を参照してください。
5. ツリー・コードとバージョン名の追加を続行するには、「**追加**」をクリックします。それ以外の場合は、「**次**」をクリックして「**セグメントの追加**」に戻ります。
6. セグメントの追加を続行するには、「**追加**」をクリックします。それ以外の場合は、「**次**」をクリックして登録を続行します。[財務カテゴリの追加、変更または除去](#)を参照してください。

## 財務カテゴリの追加、変更または除去

財務カテゴリによって、Oracle Transactional Business Intelligence でのレポート用の勘定科目のグループが識別されます。デフォルトでは、Oracle Enterprise Data Management Cloud での Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションには、デフォルトの Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションと同じ財務カテゴリのセットがあります。これらの値は、Oracle Financials Cloud の FINANCIAL\_CATEGORY 参照表に格納されています。Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションのこの参照表内のこれらの値を変更した場合、Oracle Enterprise Data Management Cloud のそのアプリケーションのカテゴリに対して同じ変更を加える必要があります。

財務カテゴリを追加、変更または除去するには:

1. 次のいずれかのアクションを実行します。
  - 財務カテゴリの追加:
    - a. 「**追加**」をクリックします。
    - b. 財務カテゴリのラベルと値を入力します。
    - c. 「**次**」をクリックして、カテゴリを追加します。
  - 財務カテゴリの編集:
    - a. 財務カテゴリの名前をクリックします。
    - b. 財務カテゴリのラベルまたは値を編集します。
    - c. 「**次**」をクリックして、変更内容を保存します。
  - 財務カテゴリの除去:
    - a. 除去する財務カテゴリを検索します。
    - b.  をクリックします。
2. 財務カテゴリの編集が終了したら、「**次**」をクリックします。「変更を適用する前に登録を確認します」ページが表示されます。[登録変更の適用](#)を続行します。

## 登録変更の適用

「変更を適用する前に登録を確認」ページで、データを確認します。データが正しい場合は、「適用」をクリックします。

### ノート:

データを変更する必要がある場合は、「戻る」をクリックして「財務カテゴリ」ページに移動するか、左のパネルから次のいずれかを選択して登録ステップに移動します。

- 財務設定
- セグメント
- 財務カテゴリ

アプリケーションとその関連するデータ・チェーン要素が作成されます。

- 外部アプリケーションを表すための、アプリケーションとデフォルト・ビューが作成されます。
- セグメントとそれに関連する値セットを表すためにディメンション、ノード・タイプおよびリスト・ノード・セットが作成されます。
- ツリーとツリー・バージョンを表すためにビューポイント、階層ノード・セットおよび階層セットが作成されます。

## Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションの事前定義済プロパティ

Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションでは、次のプロパティが事前定義されています。Oracle Financials Cloud 一般会計のすべてのプロパティは FCGL ネームスペースを使用します。

### 注意:

セグメント値のプロパティで継承されたプロパティ値は使用しないでください。また、デフォルト値を導出する式を作成するときは、位置指定ロジック (ancestors、parent、children、bottom など) を回避してください。外部の Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションにデータをエクスポートすると、セグメント値とそのプロパティはバインドされたリスト・ビューポイントからエクスポートされ、親子および深さの情報は階層ビューポイントからエクスポートされます。したがって、位置指定ロジックを使用して継承されたプロパティおよび派生式は、リスト・ビューポイントと階層ビューポイントでノードごとに異なるプロパティ値になります。

詳細は、[プロパティの操作](#)を参照してください。



プロパティ	データ型	レベル	説明
勘定科目タイプ	文字列	ノード	勘定科目セグメント値の勘定科目タイプ
予算登録の許可	ブール	ノード	指定のセグメント値に対して予算入力許可されているかどうかを指定します
転記の許可	ブール	ノード	指定のセグメント値に対して転記が許可されているかどうかを指定します
有効	ブール	ノード	セグメント値を使用可能にするかどうかを指定します
終了日	日付	ノード	セグメント値の終了日
財務カテゴリ	文字列	ノード	財務カテゴリを識別します
消込	ブール	ノード	照合を使用可能にします
開始日	日付	ノード	セグメント値の開始日
要約	ブール	ノード	要約を示します
サードパーティ管理勘定科目	文字列	ノード	サードパーティ管理勘定科目を識別します
ツリー・ラベル	文字列	関係	サマリー・ノードのツリー・ラベルを識別します

## Oracle Financials Cloud 一般会計ディメンションのインポート

Oracle Enterprise Data Management Cloud では、Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションの(値セットとツリーを含む)セグメントのデータを含むフラット・ファイルからのインポートがサポートされています。Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションから直接インポートすることはできません。

### 開始する前に:

- インポート・オプション、考慮事項およびインポート・モードの詳細は、[ディメンションのインポート](#)を参照してください。
- インポートするデータ・ファイルは、2つのカンマ区切り(CSV)ファイルを含む ZIP ファイルである必要があります。(Oracle Enterprise Data Management Cloud へのインポートでは、大文字と小文字が区別されません)。
  - G1SegmentValuesInterface.csv - ディメンション内のすべてのノードに加え、そのプロパティおよびセグメントに追加されたグローバルまたはコンテキスト依存型付加フレックスフィールドが含まれています。
  - G1SegmentHierInterface.csv — 個々のツリー(ツリー・コード/ツリー・バージョン名の組合せ)の親/子構造およびツリー・ラベルが含まれています。

インポート ZIP ファイルを作成する方法は 2 通りあります:

- 一般会計セグメントの値および階層を既存の Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションからエクスポートするには、この記事の手順に従います: [Fusion General Ledger セグメント\(値セット\)の値および階層データの FBDI 形式でのエクスポート\(ドキュメント ID 2889994.1\)](#)。

- ZIP ファイルを手動で生成するには: ファイル形式の詳細は、**Oracle Financials Cloud** のファイルベース・データ・インポートの[セグメント値および階層のインポート](#)を参照してください。このリンクから `ChartofAccountsSegmentValuesandHierarchiesImportTemplate.xlsx` テンプレートをダウンロードできます。このテンプレートを使用して、インポートするセグメント値および階層を入力して適切な形式で **CSV** ファイルを生成できます。

### ヒント:

`ChartofAccountsSegmentValuesandHierarchiesImportTemplate.xlsx` テンプレートは、YYYY/MM/DD 形式で日付を設定します。この形式は、他のアプリケーション・タイプで使用される日付形式とは異なる場合があります。たとえば、汎用アプリケーションの日付形式は、インポートを実行するユーザーの地域設定にデフォルト設定されます。

- **Oracle Enterprise Data Management Cloud** アプリケーションに登録されていないインポート・ファイル内の値セット・コード、ツリー・コードおよびツリー・バージョンは、インポート時に処理されません(レコードはスキップされます)。
- 「置換」または「マージ」モードを使用してインポートする場合、インポート階層ファイルに含まれるツリーによって使用される階層セットのみが、インポートの実行前にクリアされます。階層ファイルにないツリーは影響を受けません。


### ノート:

「リセット」モードを使用してインポートする場合、インポートの一部としてすべてのツリーがクリアされ、インポート・ファイル内のツリーのみが作成されます。

- インポートの際にグローバルまたは状況依存の付加フレックスフィールドがあると、次に関する警告が表示されます。
  - インポート・ファイルには、グローバルまたはコンテキスト依存型付加フレックスフィールドに指定された列の値が含まれていますが、アプリケーション登録にはありません。
  - アプリケーション登録には、グローバルまたはコンテキスト依存型付加フレックスフィールドが含まれていますが、インポート・ファイルにはグローバルまたはコンテキスト依存型付加フレックスフィールド用に指定された列の値はありません。

グローバルまたはコンテキスト依存型付加フレックスフィールド用に指定された列(つまり、カンマ区切りファイルの必要数のカンマ)がインポート・ファイルに含まれており、それらのフィールドに値がない場合、警告は表示されません。

ディメンションをインポートするには:

1. 「**アプリケーション**」でお使いのアプリケーションまでスクロールして、 をクリックし、「**インポート**」をクリックします。
2. 左側の列で、データのインポート先のディメンションを選択します。

3. 「**ファイル名**」で、インポート・ファイル名を指定します。インポート・ファイルは、GlSegmentValuesInterface.csv および GlSegmentHierInterface.csv ファイルを含む ZIP ファイルである必要があります。
4. 「**インポート・モード**」で、「**マージ**」、「**置換**」または「**リセット**」を選択します。インポート・モードの詳細は、[ディメンションのインポート](#)を参照してください。
5. **オプション**: 「**サマリー**」セクションでディメンション名をクリックして、ディメンションを検査し、インポート・オプションを表示します。インスペクタ・ダイアログを閉じてインポート画面に戻ります。
6. 「**インポート**」をクリックします。

EPM 自動化(*『Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作』の importDimension を参照*)または REST API (*Oracle Enterprise Data Management Cloud Service の REST API のディメンションのインポートを参照*)を使用して、ディメンションをインポートすることもできます。

## 登録済みの Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションの変更

Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションを登録した後で、登録を変更し、一部のアプリケーション設定を変更できます。たとえば、セグメントやツリーの追加または除去、グローバルまたはコンテキスト依存型の付加フレックスフィールドの追加または除去、財務カテゴリの変更が可能です。アプリケーション、ディメンションおよびデータ・オブジェクトが変更内容に基づいて更新されます。行った変更を反映して、ディメンション・バインドが更新されます。

### ノート:


ツリーを除去すると、対応するビューポイント、ノード・セット、および階層セットからバインド解除されますが、データ・チェーン・オブジェクトは削除されません。たとえば、企業勘定科目ツリーを勘定科目セグメントから除去すると、企業勘定科目ビューポイント、ノード・セット、および階層セットはバインド解除されますが、削除はされず、再利用できます。企業勘定科目ツリーは、アプリケーションからインポートまたはエクスポートされなくなります。

セグメントを除去すると、セグメントに対応するデータ・チェーン・オブジェクトおよびセグメントのすべてのツリーはセグメントからバインド解除されますが、削除はされません。除去されたセグメントは、アプリケーションからインポートまたはエクスポートされなくなります。[アプリケーションの変更の理解](#)を参照してください。

### 開始する前に:

アプリケーションを変更するには、アプリケーションに対する**所有者**または**メタデータ・マネージャ**権限が必要です。

Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションの登録を変更するには:

1. アプリケーションの設定を変更するには、「**アプリケーション**」でお使いのアプリケーションを見つけて、をクリックし、「**登録の変更**」を選択します。

- 財務設定の設定を変更する場合は(複数のアクティブ・ツリー・バージョンを許可したり、最大深さを変更するなど)、[Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションの登録](#)を参照してください
  - グローバル付加フレックスフィールドを追加または除去するには、[グローバル付加フレックスフィールドの追加](#)を参照してください
  - セグメントおよびツリーを変更または追加、あるいは状況依存付加フレックスフィールドを追加または除去するには、[セグメントおよびツリーの登録](#)を参照してください。
  - 財務カテゴリを変更または追加する場合は、[財務カテゴリの追加、変更または除去](#)を参照してください
2. 完了したら、「**適用**」をクリックします。  
変更内容で、データ・チェーン・オブジェクトが更新されます。



#### ノート:

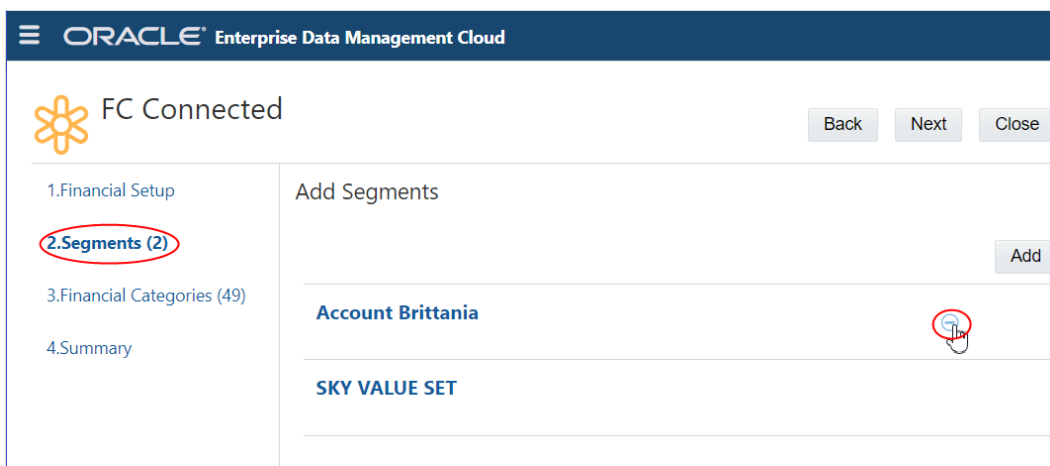
「ドラフト」ステータスではないアプリケーションの登録に変更を加えたが、適用しなかった場合、登録ウィザードを閉じるときに変更内容は保存されません。

「ドラフト」ステータスのアプリケーションの登録に変更を加えたが、適用しなかった場合、変更内容は保存され、後から更新および適用できる場合があります。ただし、登録ウィザードの外部でバインドされたデータ・オブジェクトに変更を追加した場合は、バインドされたオブジェクトと登録を同期する必要があるため、保存された変更がクリアされることがあります。

### セグメント、ツリーまたは財務カテゴリの除去

セグメント、ツリーまたは財務カテゴリをアプリケーションから除去するには:

1. 「**アプリケーション**」でアプリケーションを見つけて、 をクリックし、「**登録の変更**」を選択します。
2. 除去するセグメント、ツリーまたは財務カテゴリに移動して、 をクリックします  
ツリーに移動するには、そのツリーを含むセグメント名をクリックしてから、除去するツリーを選択します。



## Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションのバインディング・ルール

バインディング・ルールによって、Oracle Enterprise Data Management Cloud の Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションは外部アプリケーションの要件に自動的に準拠するようになります。次の表に、Oracle Financials Cloud 一般会計のバインディング・ルールを示します。

オブジェクト	ルール
ノード・タイプ	バインドされたノード・タイプから必要なバインディング・プロパティを除去できません。
階層セット	バインドされた階層セットでは、ノード・タイプを編集できません。
ノード・セット	バインドされたノード・セットの場合: <ul style="list-style-type: none"> <li>バインドされたノード・セットでは、ノード・タイプを編集できません。</li> <li>階層ノード・セット(ツリー)の場合、独自のバインディング・ルールおよび任意のバインディング・ルールをデータ・チェーンの上位に渡す階層セットを選択する必要があります。</li> </ul>
ビューポイント	バインドされたビューポイントの場合、独自のバインディング・ルールおよび任意のバインディング・ルールをデータ・チェーンの上位に渡すノード・セットを選択する必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>リスト・ノード・セット(値セット)の場合、ノード・タイプもチェックされます。</li> <li>階層ノード・セット(ツリー)の場合、階層セットがチェックされてから、ノード・タイプがチェックされます。</li> </ul>
ディメンション/セグメント(値セットおよびツリー)	ディメンションにバインドされたビューポイントを編集する場合、バインディングに対して異なるビューポイントを選択できます。新しいビューポイントとデータ・チェーン内の関連するすべてのデータ・オブジェクトが、バインディング・ルールに対してチェックされます。


 **ノート:**




アプリケーション登録から削除することによって、セグメント(ディメンション)を除去できます。ディメンションは値セットおよびツリーにバインドされたすべてのビューポイントとともに引き続きアプリケーション・インスペクタに表示され、ディメンションを使用してデータ・チェーン・オブジェクトを作成できますが、このディメンションはデータのインポートまたはエクスポート用として使用できません。

アプリケーション登録から削除することによって、ツリーをセグメントから除去できます。ツリーのビューポイントは削除されませんが、バインドが解除され、データのインポートまたはエクスポートに使用できません。[登録済の Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションの変更](#)を参照してください。

## Oracle Financials Cloud 一般会計の検証

検証によってデータの整合性が確保されます。次の検証が Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションに対して実行されます。

検証名	次の場合、検証エラーになる	レベル
必須勘定科目タイプ	標準勘定科目セグメントのノードに対して勘定科目タイプ・プロパティが空白です。	プロパティ
重複(共有ノード)	ツリー・バージョンにリーフ・レベルで重複ノードが含まれていますが、「 <b>重複ノードを許可</b> 」が選択されていません。  <div data-bbox="803 1213 954 1253" data-label="Section-Header"> <p> <b>ノート:</b></p> </div> <div data-bbox="844 1272 1131 1417" data-label="Text"> <p>ロールアップ・レベルでの重複ノードは Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションでは許可されません。</p> </div>	ツリーまたは階層セット

検証名	次の場合、検証エラーになる	レベル
同等のノード	<p>要約フラグが <b>False</b> に設定されているノードが、必要なすべての関連ビューポイントの少なくとも 1 つの場所にありません。 <a href="#">関連ビューポイントの構成</a> を参照してください。</p> <div style="border: 1px solid #0070c0; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p> <b>ノート:</b></p> <p>複数の関連する階層ビューポイントで構成されたリスト・ビューポイントがある場合、関連する階層ビューポイントのいずれかでノードが欠落していないか確認するために、リスト・ビューポイントに対してこの検証を実行する必要があります。</p> </div>	ツリーまたはノード・セット
最大深さチェック	ノードのレベルを「 <b>最大深さ</b> 」よりも大きくすることはできません。 <b>最大深さ</b> が-1の場合、検証は実行されません。	ツリーまたは階層セット
最大長のノード名テキスト/数値	ノード名が <b>最大文字長</b> を超えています	値またはノード
最小/最大のノード名テキスト	ノード名がテキスト範囲内にありません。	値またはノード
	<div style="border: 1px solid #0070c0; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p> <b>ノート:</b></p> <p>最小値または最大値(あるいは両方)として数値が入力されているかぎり、「<b>値のタイプ</b>」がテキストの場合に数値の名前が許可されません。</p> </div>	
最小/最大のノード名数値	ノード名が数値範囲内にありません。	値またはノード
	<div style="border: 1px solid #0070c0; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p> <b>ノート:</b></p> <p>「<b>値のタイプ</b>」が数値の場合、テキスト名は許可されません。</p> </div>	
複数のルート・ノード	複数のルート・ノードが存在しますが、「 <b>複数のルート・ノードを許可</b> 」が選択されていません。	ツリーまたはノード・セット
値セット内で一意のノード名	ノード名が値セット内で一意ではありません。	値セットまたはディメンション

検証名	次の場合、検証エラーになる	レベル
ノード名の無効な文字	ノード名に特定の無効な文字が使用されています。完全なリストは、 <a href="#">Essbase の命名規則</a> を参照してください	値またはノード
ノード名の無効なキーワード	ノード名に特定の無効なキーワードが使用されています。完全なリストは、 <a href="#">Essbase の命名規則</a> を参照してください	値またはノード
ノード開始日/終了日	値セット内でノードの終了日プロパティは開始日プロパティよりも後です。	プロパティ
数値のノード名	<ul style="list-style-type: none"> <li>ノード名に 0-9 および有効な 3 桁ごとの区切り文字および小数点以外の文字が含まれており、「<b>値のタイプ</b>」が「数値」です。</li> <li>ノード名が名前の<b>最大文字長</b>までゼロで埋められていません。ゼロ埋めは、セグメントの「<b>値のタイプ</b>」が数値の場合は自動的に適用されます。<a href="#">セグメントおよびツリーの登録</a>を参照してください。</li> </ul>	値またはノード
所有権承認権限	ノードの所有権承認プロパティは、ビューポイントに対して少なくとも「 <b>参加者(読取り)</b> 」アクセス権を持っていないユーザーを参照します。 <a href="#">所有権承認の理解</a> を参照してください。 この検証はデフォルトで無効になっています。	ディメンション
親の「Summary」フラグ	親ノードで子を許可するには、要約フラグを設定する必要があります。	ツリーまたは階層セット
要約フラグおよび転記を許可プロパティ	要約プロパティと転記を許可プロパティの両方が有効になっています。一度に 1 つのみ有効にすることができます。 ノードに子がある場合は、要約を有効にする必要があります。 転記を許可が有効である場合、ノードは子を持つことができません。	プロパティ
子が欠落したサマリー・ノード	階層ビューポイントで、サマリー・ノードとしてマークされているノードに 1 つ以上の子がありません。	ツリーまたは階層セット
ツリー・ラベルはサマリー・ノード上のみ	ツリー・ラベルが、要約フラグが <b>True</b> に設定されていないノード上に存在します。	プロパティ
テキスト大文字	名前には小文字が含まれており、「 <b>大文字</b> 」が選択されています。	値またはノード
ゼロ埋め	名前には <b>最大文字長</b> よりも少ない文字が含まれており、「 <b>値のタイプ</b> 」が数値であるか、「 <b>ゼロ埋め</b> 」が選択されています。	値またはノード

## ツリーまたはツリー・バージョンを作成するためのバインディングのコピー

Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションの場合のみ、既存のバインディングをコピーして、既存のバージョンをスタート地点として使用する、バインドされた新しいツリーまたはツリー・バージョンを作成できます。

Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションで新しいツリーまたはツリー・バージョンを作成するには、2 つの方法があります。



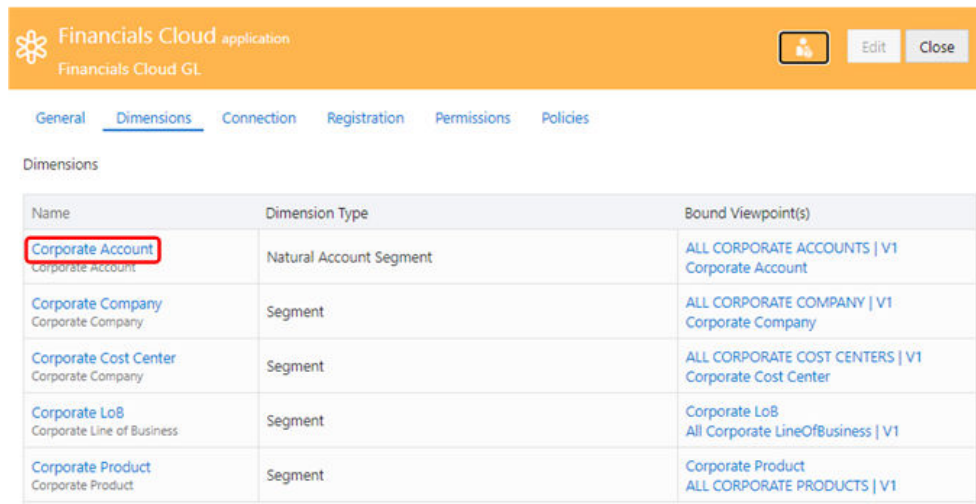
- 空でバインドされていないツリーおよびツリー・バージョンで開始する場合は、アプリケーション登録を変更し、新しいツリーまたはツリー・バージョンを追加できます。これによって、外部アプリケーションにバインドされていない新しい空のツリーまたはツリー・バージョンが作成されます。
- 既存のツリーまたはツリー・バージョンの階層データを含む新しいバインドされたツリー・バージョンを作成する場合は、その既存のツリーまたはツリー・バージョンのバインディングをコピーできます。これによって、外部アプリケーションにバインドされた新しいバインド済ツリーまたはツリー・バージョンが作成されます。

### 考慮事項


- 階層タイプのバインディングのみをコピーできます。ノード・タイプのバインディングはコピーできません。
- バインディングをコピーすると、次のデータ・チェーン・オブジェクトもコピーされ、そのバインディングにバインドされます。
  - 階層セット(元のノード・タイプを使用)
  - ノード・セット(新規の階層セットを使用)
  - ビューポイント(新規のノード・セットを使用)
- バインディングをコピーすると、アプリケーション登録で新しいツリー・バージョンを作成する場合と同じ検証が実行されます。
  - ツリー・コードとツリー・バージョン名の組合せは一意にする必要があります。
  - バージョンの開始日はバージョンの終了日より前にする必要があります。
  - バージョンの開始日と終了日は、同じツリー・コードの別のツリー・バージョンと重複しないようにする必要があります。
- バインディングおよびそれに関連付けられているデータ・チェーン・オブジェクトをコピーした後にアプリケーション登録を変更すると、新しい階層セットとノード・セットが、バインドされたツリーおよびツリー・バージョンとして登録ウィザードに表示されます。
- バインディングをコピーすると、作成されたビューポイントが、バインディングのコピー元のビューに追加されます。

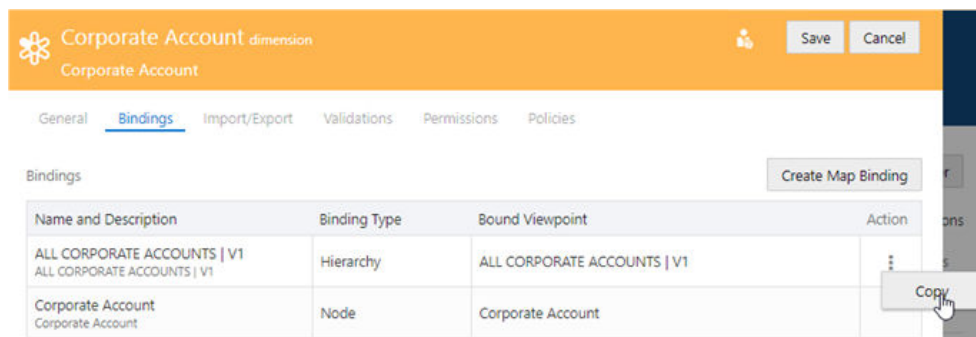
### バインディングのコピー


1. 「**アプリケーション**」から、コピーするバインディングのあるディメンションが含まれているアプリケーションの名前をクリックします。この例では、1つのツリー・バージョン v1 の **Corporate Account** ディメンションが含まれた **Oracle Financials Cloud** 一般会計アプリケーションを所有していると想定し、v1 をスタート地点として使用するバインドされた 2 番目のツリー・バージョンを作成します。
2. アプリケーション・インスペクタで「**ディメンション**」をクリックします。
3. コピーするバインディングがあるディメンションの名前をクリックします。この例では、**Corporate Account** ディメンションを選択します。



Name	Dimension Type	Bound Viewpoint(s)
<b>Corporate Account</b> Corporate Account	Natural Account Segment	ALL CORPORATE ACCOUNTS   V1 Corporate Account
Corporate Company Corporate Company	Segment	ALL CORPORATE COMPANY   V1 Corporate Company
Corporate Cost Center Corporate Company	Segment	ALL CORPORATE COST CENTERS   V1 Corporate Cost Center
Corporate LoB Corporate Line of Business	Segment	Corporate LoB All Corporate LineOfBusiness   V1
Corporate Product Corporate Product	Segment	Corporate Product ALL CORPORATE PRODUCTS   V1

- ディメンション・インスペクタで「バインド」をクリックします。
- 「編集」をクリックして、コピーするバインディングの「アクション」列で  をクリックし、「コピー」を選択します。この例では、ALL CORPORATE ACCOUNTS | V1 バインドをコピーします。



Name and Description	Binding Type	Bound Viewpoint	Action
ALL CORPORATE ACCOUNTS   V1 ALL CORPORATE ACCOUNTS   V1	Hierarchy	ALL CORPORATE ACCOUNTS   V1	 Copy
Corporate Account Corporate Account	Node	Corporate Account	

- 「バインドのコピー」ダイアログ・ボックスで、ツリー・コード、ツリー・バージョン名、および新しいバインディングのツリー開始日と終了日を入力します。デフォルトでは、バインディングに対して作成される新しい階層セット、ノード・セットおよびビューポイントの名前は、ツリー・コードおよびツリー・バージョン名を使用して移入されます(この例では、ALL CORPORATE ACCOUNTS | V2)。

7. **オプション:** 階層セット、ノード・セットまたはビューポイントのデフォルト名を変更します。
8. 「**コピー**」をクリックします。  
 バインディングがコピーされ、バインドされた新しい階層セット、ノード・セットおよびビューポイントが作成されます。ビューポイントがバインディングのコピー元のビューに追加されます。
9. コピー操作が完了すると、バインディング・インスペクタに新しいバインディングが表示されます。バインディング設定を確認し、「**閉じる**」をクリックします。

## Oracle Financials Cloud 一般会計ディメンションのエクスポート

外部の Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションのディメンションにバインドされた 1 つ以上のビューポイントからエクスポートできます。カンマ区切りファイルにエクスポート

ートします。接続情報を指定して、ファイルを自らの Oracle Financials Cloud 一般会計サーバーにアップロードできます。ノードは、ノード・セットの最上位ノードから始めてエクスポートされます。たとえば、1つのディメンションに最上位ノードとしての米国と、その下位にすべての州を含めることができます。ただし、ノード・セットの最上位ノードがテキサスである場合、テキサスとその下位のノードのみがエクスポートされます。ツリー・ビューポイントの場合、ノードのエクスポートは階層セットの最上位ノードから開始されます。

### ベスト・プラクティス

エクスポートを実行する前にディメンションにバインドされたビューポイントを検証し、データの整合性を確保することをお勧めします。[検証および制約の理解](#)を参照してください。

ディメンションのエクスポート時にビューポイントを自動的に検証するには、「**エクスポート前に検証**」オプションを使用します。[エクスポート・オプションの管理](#)を参照してください。

#### 開始する前に:

- エクスポートするには、最低でもアプリケーションまたはディメンションに対するデータ・マネージャ権限が必要です。
- null または空白の値のかわりに、定義されたキーワードをエクスポートできます。[エクスポート・オプションの管理](#)を参照してください。
- ノードと階層関係が、Oracle Enterprise Data Management Cloud に存在していたときの順序でエクスポートされます。ノードおよび階層関係を英数字順にエクスポートする場合は、ディメンションの階層セットを開いて、「**カスタム順序の使用**」をクリアします。
- Oracle Financials Cloud 一般会計では、日付が YYYY/MM/DD 形式でエクスポートされます。この形式は、他のアプリケーション・タイプで使用される日付形式とは異なる場合があります。
- ディメンションをエクスポートすると、次の CSV (カンマ区切り) ファイルが含まれた ZIP ファイルが作成されます。(Oracle Financials Cloud 一般会計へのインポートでは、大文字と小文字が区別されます)。
  - G1SegmentValuesInterface.csv ファイルには、ディメンション内のすべてのノードに加え、そのプロパティおよびセグメントに追加されたグローバルまたはコンテキスト依存型付加フレックスフィールドが含まれています。
  - G1SegmentHierInterface.csv ファイルには、個々のツリー(ツリー・コードとツリー・バージョン名の組合せ)の親子構造およびツリー・ラベルが含まれています。

#### ノート:

エクスポートするディメンションにリスト・タイプ・ノード・セットがあり、ツリーが登録されていない場合、G1SegmentHierInterface.csv ファイルは生成されません。

- ディメンションをエクスポートすると、生成された G1SegmentValuesInterface.csv ファイルのデータ・ソース列にキーワード EDMCS が自動的に移入されます。これにより、Oracle Financials Cloud 一般会計に

インポートされている値セットのすべての付加フレックスフィールド属性列の値は、別の値がそれらの列にまだ存在しない場合はクリアされます。

**▲ 注意:**

値セットによって使用されるすべての付加フレックスフィールドが、Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションに対して登録されており、データを意図せずにクリアすることを阻止するために、それらに対してデータ値が Oracle Enterprise Data Management Cloud で定義されていることを確認してください。

詳細は、*Enterprise Structures and General Ledger の実装のセグメント値および階層のインポート・データの処理方法*を参照してください。

- 登録時に Oracle Financials Cloud 一般会計サーバーへの有効な接続情報を入力した場合、ZIP ファイルはそのサーバーにアップロードされます。ファイルを Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションにインポートできます。Oracle Financials Cloud 財務およびプロジェクト・ポートフォリオ管理の共通機能の実装の Oracle Cloud の外部データ統合サービスを参照してください。
- Oracle Financials Cloud 一般会計ディメンションの接続へのエキスポートの場合にのみ、エキスポート・オプションを構成して、外部 Financials Cloud 環境でインポートおよび公開プロセスを開始し、セグメント値とツリーの同期を完了する追加のエキスポート後タスクを組み込むことができます。Oracle Financials Cloud 一般会計のエキスポート・オプションを参照してください。

**▲ 注意:**

Oracle Enterprise Data Management Cloud からエキスポートした後、外部の Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションにインポートするときは、次の制限に注意してください:


- 標準勘定科目セグメントの勘定科目タイプに対する変更は、外部の一般会計アプリケーションに適用された後はインポートできません。
- すべてのセグメントの要約フラグの場合:
  - Y から N への変更はインポートできますが、これにより、セグメント値に子がある階層の再構築が必要になることがあります
  - N から Y への変更はインポートできません。この変更は、外部の一般会計アプリケーションで行う必要があります。

 ヒント:

REST API を使用して、Oracle Financials Cloud 一般会計ディメンションを Oracle Enterprise Data Management Cloud からアプリケーション接続にエクスポートする際(Oracle Enterprise Data Management Cloud Service REST API のディメンションのエクスポートのユース・ケース を参照)、Oracle Financials Cloud に転送される zip ファイルのドキュメント ID が、Oracle Enterprise Data Management Cloud エクスポート・ジョブの結果に返されません。

次に、このドキュメント ID を ERP 統合サービス API に渡して、zip ファイルを Financials Cloud のセグメント値および階層としてインポートできます(Oracle Financials Cloud REST API のインバウンドまたはアウトバウンドのデータ・セットの作成を参照)。これにより、EDM エクスポート・ファイルのドキュメント ID を取得するための、Financials Cloud SOAP API への追加のコールがなくなります。

ディメンションをエクスポートするには:

1. 「アプリケーション」でお使いのアプリケーションを見つけて、 をクリックし、「エクスポート」をクリックします。
2. 左側の列で、エクスポートするディメンションを選択します。
3. オプション: インспекタでディメンションのエクスポート・オプションを変更するには、「サマリー」セクションで、ディメンション名をクリックします。ディメンションの検査を参照してください。
4. 「エクスポート・ターゲット」で、「ファイル」または「接続」を選択し、次のいずれかを実行します。
  - 「接続」を選択した場合、エクスポート先の接続を選択し、エクスポート・ファイル名を指定して「エクスポート」をクリックします。
  - 「ファイル」を選択した場合、エクスポート・ファイル名が生成されます。デフォルトのファイル名はアプリケーション名\_ディメンション名\_日付(FCGL\_Account\_20200123.csv など)で、エクスポートを実行する前に編集できます。ブラウザ設定でダウンロード場所が定義されます。デフォルトのファイル名をそのまま使用するか編集し、「エクスポート」をクリックします。

 ノート:

「エクスポート・ターゲット」の「接続」オプションは、アプリケーション登録時に Oracle Financials Cloud 一般会計サーバーへの接続情報を入力した場合にのみ使用できます。

5. オプション: エクスポートの完了後、エクスポートに検証エラーがある場合は、ビューポイント名をクリックしてビューポイントを開き、エラーを解決できます。検証の問題の解決を参照してください。検証の問題が解決した後、ビューポイント・ウィンドウからエクスポートに戻るをクリックしてエクスポート画面に戻ります。

EPM 自動化([『Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作』](#)の `exportDimension` を参照)または REST API ([Oracle Enterprise Data Management Cloud Service の REST API のディメンションのエクスポート](#)を参照)を使用して、ディメンションをエクスポートすることもできます。

# E-Business Suite 一般会計アプリケーションの操作

Oracle Enterprise Data Management Cloud を使用して、Oracle E-Business Suite 一般会計の値セットの勘定体系セグメント値を管理します。ユーザーは新しいセグメント値を作成してそのプロパティを編集し、Oracle Enterprise Data Management Cloud を使用して階層を保守します。

この情報は次のことが可能です:

1. E-Business Suite 一般会計からのエクスポート  
Oracle Enterprise Data Management Cloud へのインポート
2. Oracle Enterprise Data Management Cloud での管理
3. Oracle Enterprise Data Management Cloud からのエクスポート
4. E-Business Suite 一般会計へのインポート

Oracle Enterprise Data Management Cloud では、次のタイプの一般会計データを管理できません:

- 勘定体系セグメント値
- セグメント値プロパティ

## ▲ 注意:

登録システムで作成された事前定義済プロパティを変更する場合は、プロパティ値を導出するためにプロパティ継承または位置指定ロジックを使用しないでください。[E-Business Suite 一般会計アプリケーションの事前定義済プロパティ](#)を参照してください。

- セグメント値の階層関係
- グローバルおよびコンテキスト依存型付加フレックスフィールド

## ✎ ノート:

Oracle Enterprise Data Management Cloud と E-Business Suite 一般会計の間のこの統合は、E-Business Suite 一般会計リリース 12.1.3 以上で使用可能です。

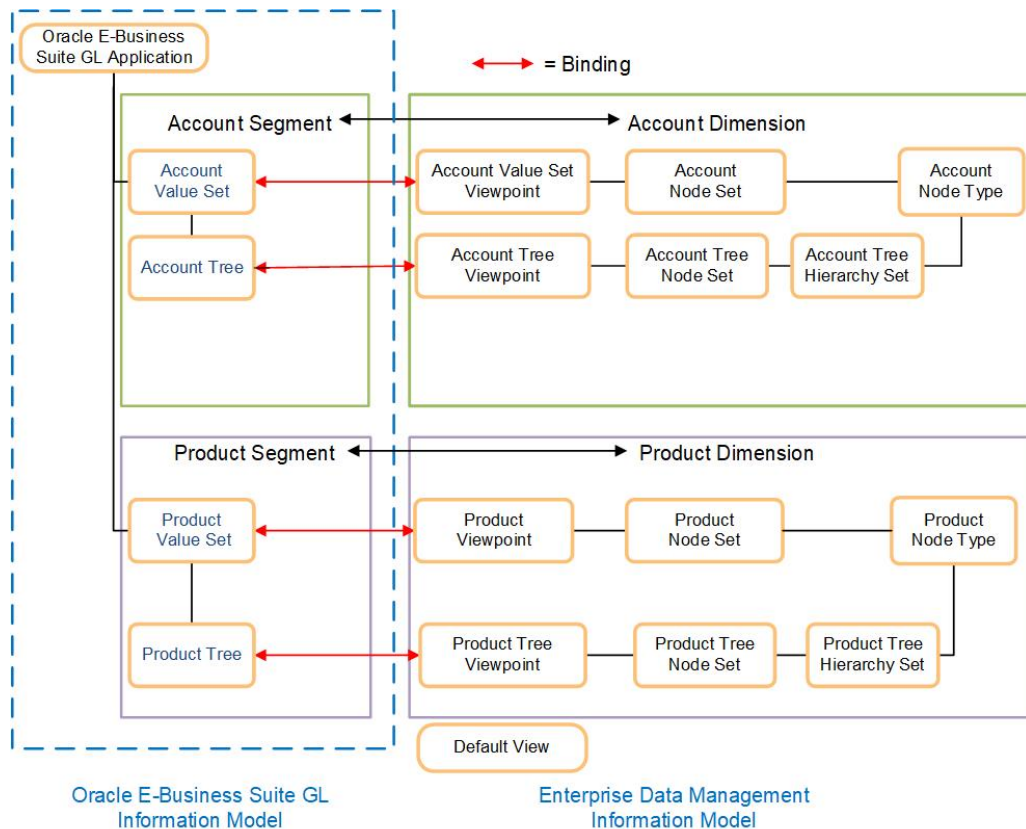
Oracle Enterprise Data Management Cloud での E-Business Suite 一般会計のデータの管理には、次の処理が含まれます。

- [E-Business Suite 一般会計アプリケーションの登録](#)



- [E-Business Suite 一般会計ディメンションのインポート](#)
- [登録済の E-Business Suite 一般会計アプリケーションの変更](#)
- [データ管理の開始](#)
- [E-Business Suite 一般会計ディメンションのエクスポート](#)

E-Business Suite 一般会計アプリケーションは、ウィザードに従ってアクティブ言語やセグメント情報などの情報を入力して登録します。



E-Business Suite 一般会計アプリケーションを登録すると、Oracle Enterprise Data Management Cloud でアプリケーションの次のデータ・チェーン・オブジェクトが作成されます。

- **デフォルト・ビュー**—アプリケーションのすべてのデータ・チェーン・オブジェクトを管理できます。[ビューの理解](#)を参照してください。
- アプリケーションのセグメント値セットごとに、次のデータ・チェーン・オブジェクトが作成されます。
  - **ディメンション**—データ値を分類する方法を提供します。[ディメンションの理解](#)を参照してください。
  - **ビューポイント**—操作するノードのサブセットを提供します。ビューポイントはノード・セットを指します。[ビューポイントについて](#)を参照してください。
  - **リストタイプのノード・セット**—ビューポイントで使用可能なノードのグループを定義します。セグメント値セットの場合、使用可能なすべてのノードを含

むリスト・ノード・セットが、階層データなしで作成されます。[ノード・セットの操作](#)を参照してください。

- **ノード・タイプ**—共通のビジネス目的を共有するアプリケーションのノードの集まりを表示します。ノード・タイプには、アプリケーション固有のすべてのプロパティがあります。[ノード・タイプの操作](#)を参照してください。

アプリケーションの登録後、データをディメンションにインポートして、ノード、プロパティおよび階層セットを移入できます。オプションで、登録を変更できます。データ・セットの作業の実行後、ディメンションを外部アプリケーションにエクスポートできます。

#### ノート:

Oracle Enterprise Data Management Cloud でディメンションとデータ・チェーン・オブジェクトが作成されると、それらは E-Business Suite 一般会計アプリケーションのセグメントおよび値セットにバインドされます。これらのバインドにより、登録されたデータ・チェーン・オブジェクトは外部アプリケーションの要件に準拠するようになります。また、ユーザーがアプリケーションのデータのインポートまたはエクスポートを阻止するような変更を行うのを防ぐことができます。[バインディング・ルールの理解](#)を参照してください。

## E-Business Suite 一般会計アプリケーションの登録

Oracle E-Business Suite 一般会計アプリケーションを Oracle Enterprise Data Management Cloud に登録すると、外部アプリケーションを表すためにアプリケーションとデフォルト・ビューが作成されます。セグメントとそれに関連する値セットを表すためにディメンション、ノード・タイプおよびリスト・ノード・セットが作成されます。階層を表すためにビューポイント、階層ノード・セットおよび階層セットが作成されます。

#### 開始する前に:

- アプリケーションを登録するには、「[アプリケーション - 作成](#)」ロールを持っていることを確認します。登録後、アプリケーションおよびデフォルト・ビューに対する所有者権限が自動的に付与されます。

#### ノート:

サービス管理者はロールを割り当てます([アプリケーションのロールと権限の理解](#)を参照)。

- 登録する勘定体系のセグメントおよび関連する値セットを決定します。[E-Business Suite 一般会計アプリケーションの操作](#)を参照してください。

アプリケーションを登録するには:

1. 「**アプリケーション**」から「**登録**」をクリックします。
2. アプリケーション・タイプとして「**E-Business Suite 一般会計**」を選択します。
3. アプリケーションの**名前**と、オプションで**説明**を入力します。

 **ノート:**

アプリケーション・リストにアプリケーション・タイプ、名前および説明が表示されます。

4. 「作成」をクリックします。
5. 「アクティブ言語」で、E-Business Suite 一般会計アプリケーションでアクティブ・ステータスの言語を入力し、「次」をクリックします。

 **ノート:**

言語の名前を入力すると、テキスト入力と一致するサポートされる言語のリストが表示されます。言語を選択して、「アクティブ言語」リストに追加します。

6. 「セグメントの追加」で「追加」をクリックします。
7. セグメント・パラメータを構成し、「次」をクリックします。
  - セグメントの「セグメント/値セット・コード」を入力します
  - **セグメント・ツリー・ラベル**を入力します。このラベルは、階層のビューポイント名およびノード・セット名の末尾に追加されます。
  - **セグメント値セットの説明**を入力します
  - このセグメントが勘定体系で標準勘定科目として使用される場合は、「**標準勘定科目セグメント**」を選択します。
  - セグメントで重複ノードを許可する場合は、「**重複ノードを許可**」を選択します。
  - 値セットの値の「**最大長**」を入力します。
  - セグメントの「**外部セグメント/値セット・コード**」を入力します。
8. 「変更を適用する前に登録を確認」ページで、データを確認します。データが正しい場合は、「適用」をクリックします。

アプリケーションとその関連するデータ・チェーン要素が作成されます。

- 外部アプリケーションを表すための、アプリケーションとデフォルト・ビューが作成されます。
- セグメントとそれに関連する値セットを表すためにディメンション、ノード・タイプおよびリスト・ノード・セットが作成されます。
- ビューポイント、階層ノード・セットおよび階層セットが作成されます。

## グローバル付加フレックスフィールドの追加

登録時に最大 50 個の付加フレックスフィールドを定義し、それらを Oracle E-Business Suite 一般会計に対してインポートおよびエクスポートできます。

### 付加フレックスフィールドについて

付加フレックスフィールドはユーザー定義の属性で、セグメント値に関する追加属性を取得できます。たとえば、「製品」セグメントには、色およびサイズの付加フレックスフィールドを含めることができます。2 タイプの付加フレックスフィールドがあります。

- グローバル付加フレックスフィールドは、アプリケーション内のすべてのセグメントに適用され、フレックスフィールドとその関連プロパティは両方も一意である必要があります。グローバル付加フレックスフィールドの名前またはプロパティは、別のグローバル・フレックスフィールドまたはコンテキスト依存型フレックスフィールドで再利用できません。
- コンテキスト依存型付加フレックスフィールドは、特定のセグメントにのみ適用され、フレックスフィールドとその関連プロパティは両方も他のセグメントで再利用できます。

グローバル付加フレックスフィールドとコンテキスト依存型付加フレックスフィールドの使用方法を示すために、「勘定科目」、「エンティティ」および「製品」の 3 つのセグメントがあるとします。3 つすべてのセグメントに適用する属性がある場合は、グローバル付加フレックスフィールドを作成し、すべてのセグメントに追加します。しかし、2 つのセグメントのみに適用する属性がある場合は、コンテキスト依存型付加フレックスフィールドを作成し、属性を適用する 2 つのセグメントのみに追加します。

付加フレックスフィールドの詳細は、[Oracle Applications Cloud 構成と拡張のフレックスフィールドの概要](#)を参照してください。

グローバル付加フレックスフィールドを追加するには:

1. 「グローバル付加フレックスフィールドの追加」で、「**追加**」をクリックします。
2. 「**フレックスフィールド名**」を入力し、フレックスフィールドが必要かどうかを指定します。グローバル付加フレックスフィールドの場合、名前は一意である必要があります。
3. 「**列**」で、ドロップダウン・メニューをクリックし、フレックスフィールドの属性の場所 (1-50) を選択します。このフィールドは、インポート・ファイルおよびエクスポート・ファイル内でこのフレックスフィールドの値の場所を決定します。  
グローバルまたはコンテキスト依存型付加フレックスフィールドのいずれかの属性の場所を選択すると、その場所は別のフレックスフィールドで選択できなくなります。たとえば、グローバル付加フレックスフィールドの Attribute 3 の場所を選択した場合、別のグローバルまたはコンテキスト依存型付加フレックスフィールドを追加するとき、ドロップダウン・メニューに Attribute 3 は表示されません。
4. 「**プロパティ**」で、ドロップダウン・メニューをクリックし、アクションを実行します。
  - フレックスフィールドの新規プロパティを作成するには、「**(新規プロパティの追加)**」を選択して「**次**」をクリックします。[フレックスフィールドの新規プロパティの追加](#)に進みます。
  - フレックスフィールドの既存のプロパティを選択して「**次**」をクリックし、付加フレックスフィールドの追加に戻ります。グローバル付加フレックスフィールドの既存のプロパティを選択すると、ドロップダウン・リストからそのプロパティは除去され、他のグローバルまたはコンテキスト依存型付加フレックスフィールドに対して選択できなくなります。

### フレックスフィールドの新規プロパティの追加

1. デフォルトでは、プロパティ名は"DFE {Flexfield Name}"です。オプションで、名前を変更したり、プロパティの説明を入力して、「次」をクリックします。
2. プロパティのパラメータを次のように指定します。

パラメータ	説明
文字列の大/小文字	プロパティが「大文字」か、「小文字」か、または「大/小文字混在」かを指定します。
無効な文字	プロパティに対して無効な文字を指定します。「無効な文字」フィールドをクリックし、表示されたリストから無効な文字を選択します。
最小長	プロパティの最小テキスト長を入力します。デフォルト値は 0 です。
最大長	プロパティの最大テキスト長を入力します。デフォルト値は 240 で、最大値は 240 を超えることができません。
許容値リストの使用	プロパティ・フィールドへの入力は、「許容値」にリストされた値のみに制限することを選択します。
空白エントリを含む	このプロパティを空白のままにするのを許可することを選択します。
許容値	このプロパティに対して表示する値を入力します。値を入力し、[Tab]を押して次の値を入力します。ユーザー入力をこのフィールド内の値のみに制限するには、「許容値リストの使用」を選択します。
デフォルト値	プロパティのデフォルト値を入力します。
継承	このプロパティに対して位置指定の継承を使用するかどうかを選択します。プロパティの継承を参照してください。

3. 「次」をクリックして、「グローバル付加フレックスフィールドの追加」に戻ります。追加したグローバル付加フレックスフィールドが、属性の場所のデフォルト名、および入力したフレックスフィールド名(たとえば、"Attribute 1 - Color")とともに表示されます。
4. 「追加」をクリックして別のフレックスフィールドを追加するか、または「次」をクリックして登録を続行します。

## セグメントの登録

次のステップを使用して、Oracle E-Business Suite 一般会計アプリケーションのセグメントを登録します。

セグメントを登録するには:

1. 「セグメントの追加」で「追加」をクリックします。
2. セグメントの「セグメント/値セット・コード」、「セグメント階層ラベル」を入力し、オプションで「セグメント値セット・コードの説明」を入力します。

3. このセグメントが勘定体系で標準勘定科目として使用される場合は、「**標準勘定科目セグメント**」の横にあるチェック・ボックスを選択します。
4. 共有ノードを許可する場合は、「**重複ノードを許可**」を選択します。
5. 値セットの値の**最大文字長**を入力します。
6. 「**外部セグメント/値セット・コード**」を入力し、「**次**」をクリックします。
7. 追加した各セグメントに対して、セグメントのコンテキスト依存型付加フレックスフィールドを定義するオプションがあります。

### コンテキスト依存型付加フレックスフィールドの追加

コンテキスト依存型付加フレックスフィールドを使用すると、特定のセグメントのみのセグメント値に関する追加属性を取得できます。コンテキスト依存型付加フレックスフィールドをセグメントに追加する手順はグローバル付加フレックスフィールドの追加と似ていますが、次の点が異なります。

- コンテキスト依存型付加フレックスフィールドは、複数のセグメントで再利用できます。コンテキスト依存型付加フレックスフィールドを複数のセグメントに適用する場合は、適用するセグメントごとに付加フレックスフィールドを追加する必要があります。
- コンテキスト依存型フレックスフィールドに関連付けられたプロパティも再利用できます。グローバル付加フレックスフィールドとは異なり、プロパティを選択してコンテキスト依存型フレックスフィールドに関連付けると、その値は「**プロパティ**」ドロップダウン・メニューから除去されず、異なるコンテキスト依存型フレックスフィールドに対して再度選択できます。

[グローバル付加フレックスフィールドの追加](#)を参照してください

## 登録変更の適用

「変更を適用する前に登録を確認」ページで、データを確認します。データが正しい場合は、「**適用**」をクリックします。

### ノート:

データを変更する必要がある場合は、「**戻る**」をクリックして「**セグメント**」ページに移動するか、左のパネルから次のいずれかを選択して登録ステップに移動します。

- **財務設定**
- **グローバル付加フレックスフィールド**
- **セグメント**

アプリケーションとその関連するデータ・チェーン要素が作成されます。

- 外部アプリケーションを表すための、アプリケーションとデフォルト・ビューが作成されます。
- セグメントとそれに関連する値セットを表すためにディメンション、ノード・タイプおよびリスト・ノード・セットが作成されます。
- セグメントを表すためにビューポイント、階層ノード・セットおよび階層セットが作成されます。

## E-Business Suite 一般会計アプリケーションの事前定義済プロパティ

Oracle E-Business Suite 一般会計では、次のプロパティが事前定義されています。E-Business Suite 一般会計のすべてのプロパティは EBSGL ネームスペースを使用します。

### ▲ 注意:

セグメント値のプロパティで継承されたプロパティ値は使用しないでください。また、デフォルト値を導出する式を作成するときは、位置指定ロジック (ancestors、parent、children、bottom など) を回避してください。外部の E-Business Suite 一般会計アプリケーションにデータをエクスポートすると、セグメント値とそのプロパティはバインドされた リスト・ビューポイントからエクスポートされ、親子および深さの情報は階層ビューポイントからエクスポートされます。したがって、位置指定ロジックを使用して継承されたプロパティおよび派生式は、リスト・ビューポイントと階層ビューポイントでノードごとに異なるプロパティ値になります。

詳細は、[プロパティの操作](#)を参照してください。

プロパティ	データ型	レベル	説明
勘定科目タイプ	文字列	ノード	勘定科目セグメント値の勘定科目タイプ
予算登録の許可	ブール	ノード	指定のセグメント値に対して予算入力許可されているかどうかを指定します
転記の許可	ブール	ノード	指定のセグメント値に対して転記が許可されているかどうかを指定します
有効	ブール	ノード	セグメント値を使用可能にするかどうかを指定します
終了日	日付	ノード	セグメント値の終了日
消込	ブール	ノード	照合を使用可能にします
ロールアップ・グループ	文字列	ノード	ロールアップ・グループを識別します
開始日	日付	ノード	セグメント値の開始日
要約	ブール	ノード	要約を示します
サードパーティ管理勘定科目	文字列	ノード	サードパーティ管理勘定科目を識別します

# E-Business Suite 一般会計ディメンションのインポート

Oracle Enterprise Data Management Cloud では、Oracle E-Business Suite 一般会計アプリケーションの(値セットと階層を含む)セグメントのデータを含むフラット・ファイルからのインポートがサポートされています。E-Business Suite 一般会計アプリケーションから直接インポートすることはできません。


## 開始する前に:

- インポート・オプション、考慮事項およびインポート・モードの詳細は、[ディメンションのインポート](#)を参照してください。
- インポートするデータ・ファイルは、2つのカンマ区切り(CSV)ファイルを含む ZIP ファイルである必要があります。(Oracle Enterprise Data Management Cloud へのインポートでは、大文字と小文字が区別されません)。階層ファイルはオプションです。
  - GL\_HIERARCHY\_INTERFACE.CSV — 個々の階層の親子構造が含まれます。
  - GL\_SEGVALUES\_INTERFACE.CSV — ディメンション内のすべてのノードとそれらのプロパティが含まれます。

これらのファイルにはヘッダー・レコードが含まれます。これらのファイルを取得するには、アプリケーションを登録し、それをエクスポートしてヘッダー・レコードが含まれた zip ファイルを取得します。その後、そのファイルを更新し、正しい形式で CSV ファイルを保存できます。詳細は、[ファイル形式のインポートおよびエクスポート](#)を参照してください。

- Oracle Enterprise Data Management Cloud アプリケーションに登録されていないインポート・ファイル内の値セット・コードおよび階層は、インポート時に処理されません(レコードはスキップされます)。

ディメンションをインポートするには:

1. 「**アプリケーション**」でお使いのアプリケーションまでスクロールして、をクリックし、「**インポート**」をクリックします。
2. 左側の列で、データのインポート先のディメンションを選択します。
3. 「**ファイル名**」で、インポート・ファイル名を指定します。インポート・ファイルは、GL\_HIERARCHY\_INTERFACE.CSV および GL\_SEGVALUES\_INTERFACE.CSV ファイルを含む ZIP ファイルである必要があります。

### ノート:

階層ファイルはオプションです。

4. 「**インポート・モード**」で、「**マージ**」、「**置換**」または「**リセット**」を選択します。インポート・モードの詳細は、[ディメンションのインポート](#)を参照してください。
5. **オプション**: 「サマリー」セクションでディメンション名をクリックして、ディメンションを検査し、インポート・オプションを表示します。インスペクタ・ダイアログを閉じてインポート画面に戻ります。



6. 「インポート」をクリックします。

EPM 自動化(『Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作』の importDimension を参照)または REST API (Oracle Enterprise Data Management Cloud Service の REST API のディメンションのインポートを参照)を使用して、ディメンションをインポートすることもできます。

## ファイル形式のインポートおよびエクスポート

Oracle E-Business Suite 一般会計ディメンションのデータをインポートおよびエクスポートするとき、カンマ区切り(.csv)ファイルを使用する必要があります。

### 考慮事項

- インポート・ファイルのデータは行の順序でインポートされます。親ノードの行は子ノードの行よりも前にある必要があります。子ノードの行が親ノードの行よりも前にあると、ファイルのインポート時にエラーが発生します。
- インポートでは、重複する行は無視されます。
- ファイルの区切り文字、引用符または改行(CR/LF)文字を含む文字列、または ASCII 35 以下の文字(Tab、!、#など)で開始する文字列は、引用符で囲まれます。(たとえば、"# Children"、"Accumulated Depreciation, Equipment")

次の表に、E-Business Suite 一般会計のステージング表に関連するカンマ区切りファイルの形式を示します。

ステージング表の列	ファイル・ヘッダー	ファイル・コンテンツ
VALUE_SET_CODE	VALUE_SET_CODE	定数 - セグメント値セット・コードに設定されます
VALUE	VALUE	Core.Name
STATUS	N/A	N/A エクスポート・ファイルに含まれません
START_DATE_ACTIVE	START_DATE_ACTIVE	EBSGL.Start Date
END_DATE_ACTIVE	END_DATE_ACTIVE	EBSGL.End Date
SUMMARY_FLAG	SUMMARY_FLAG	EBSGL.Summary
SORT_ORDER	SORT_ORDER	CoreStats.Level
ENABLED_FLAG	ENABLED_FLAG	EBSGL.Enabled
ACCOUNT_TYPE	ACCOUNT_TYPE	EBSGL.Account Type
ALLOW_POSTING	ALLOW_POSTING_FLAG	EBSGL.Allow Posting
ALLOW_BUDGETING	ALLOW_BUDGETING_FLAG	EBSGL.Allow Budgeting
THIRD_PARTY_CTRL_ACCT	THIRD_PARTY_CTRL_ACCOUNT	EBSGL.Third Party Control Account
RECONCILE	RECONCILE_FLAG	EBSGL.Reconcile
FINANCIAL_CATEGORY	FINANCIAL_CATEGORY	EBSGL.Roll Up Group

ステージング表の列	ファイル・ヘッダー	ファイル・コンテンツ
DESC_AR	DESC_US	EBSGL.Description US などの説明のプロパティまたは空白の定数値のいずれか アクティブ言語として使用される場合、プロパティは、そのプロパティを使用しない場合はただの空白列になってしまう値を保持するために使用されます。
DESC_CS	DESC_AR	
DESC_D	DESC_CS	
DESC_DK	DESC_D	
DESC_E	DESC_DK	
DESC_EL	DESC_E	
DESC_ESA	DESC_EL	
DESC_F	DESC_ESA	
DESC_FRC	DESC_F	
DESC_HR	DESC_FRC	
DESC_HU	DESC_HR	
DESC_I	DESC_HU	
DESC_IS	DESC_I	
DESC_IW	DESC_IS	
DESC_JA	DESC_IW	
DESC_KO	DESC_JA	
DESC_NL	DESC_KO	
DESC_LT	DESC_NL	
DESC_PL	DESC_LT	
DESC_PT	DESC_PL	
DESC_PTB	DESC_PT	
DESC_N	DESC_PTB	
DESC_RO	DESC_N	
DESC_RU	DESC_RO	
DESC_S	DESC_RU	
DESC_SF	DESC_S	
DESC_SK	DESC_SF	
DESC_SL	DESC_SK	
DESC_TH	DESC_SL	
DESC_TR	DESC_TH	
DESC_US	DESC_TR	
DESC_ZHS	DESC_ZHS	
DESC_ZHT	DESC_ZHT	

# 登録済の E-Business Suite 一般会計アプリケーションの変更

Oracle E-Business Suite 一般会計アプリケーションを登録した後で、登録を変更し、一部のアプリケーション設定を変更できます。たとえば、セグメントを追加または除去したり、財務カテゴリを変更できます。アプリケーション、ディメンションおよびデータ・オブジェクトが変更内容に基づいて更新されます。行った変更を反映して、ディメンション・バインドが更新されます。


## ノート:

セグメントを除去すると、セグメントに対応するデータ・チェーン・オブジェクトおよびセグメントのすべての階層はセグメントからバインド解除されますが、削除はされません。除去されたセグメントは、アプリケーションからインポートまたはエクスポートされなくなります。[アプリケーションの変更の理解](#)を参照してください。

## 開始する前に:

アプリケーションを変更するには、アプリケーションに対する所有者またはメタデータ・マネージャ権限が必要です。

E-Business Suite 一般会計アプリケーションの登録を変更するには:

1. アプリケーションの設定を変更するには、「**アプリケーション**」でお使いのアプリケーションを見つけて、 をクリックし、「**登録の変更**」を選択します。
2. セグメントを変更または追加する場合は、[E-Business Suite 一般会計アプリケーションの登録](#)を参照してください。
3. 完了したら、「**適用**」をクリックします。  
変更内容で、データ・チェーン・オブジェクトが更新されます。



## ノート:

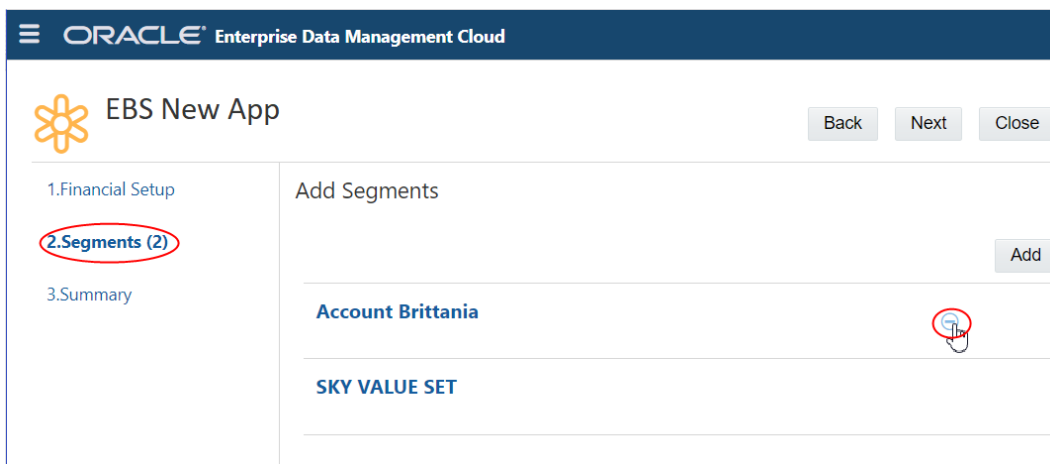
「ドラフト」ステータスではないアプリケーションの登録に変更を加えたが、適用しなかった場合、登録ウィザードを閉じるときに変更内容は保存されません。

「ドラフト」ステータスのアプリケーションの登録に変更を加えたが、適用しなかった場合、変更内容は保存され、後から更新および適用できる場合があります。ただし、登録ウィザードの外部でバインドされたデータ・オブジェクトに変更を追加した場合は、バインドされたオブジェクトと登録を同期する必要があるため、保存された変更がクリアされることがあります。

## セグメントの除去

アプリケーションからセグメントを除去するには:

1. 「アプリケーション」でアプリケーションを見つけて、 をクリックし、「登録の変更」を選択します。
2. 除去するセグメントに移動して、 をクリックします。



# E-Business Suite 一般会計アプリケーションのバインディング・ルール

バインディング・ルールによって、Oracle Enterprise Data Management Cloud の Oracle E-Business Suite 一般会計アプリケーションは外部アプリケーションの要件に準拠するようになります。次の表に、E-Business Suite 一般会計のバインディング・ルールを示します。

オブジェクト	ルール
ノード・タイプ	バインドされたノード・タイプから必要なバインディング・プロパティを除去できません。
階層セット	バインドされた階層セットでは、ノード・タイプを編集できません。
ノード・セット	バインドされたノード・セットの場合: <ul style="list-style-type: none"> <li>• バインドされたノード・セットでは、ノード・タイプを編集できません。</li> <li>• 階層ノード・セット(階層)の場合、独自のバインディング・ルールおよび任意のバインディング・ルールをデータ・チェーンの上位に渡す階層セットを選択する必要があります。</li> </ul>

オブジェクト	ルール
ビューポイント	<p>バインドされたビューポイントの場合、独自のバインディング・ルールおよび任意のバインディング・ルールをデータ・チェーンの上位に渡すノード・セットを選択する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>リスト・ノード・セット(値セット)の場合、ノード・タイプもチェックされます。</li> <li>階層ノード・セット(階層)の場合、階層セットがチェックされてから、ノード・タイプがチェックされます。</li> </ul>
ディメンション/セグメント(値セット)	<p>ディメンションにバインドされたビューポイントを編集する場合、バインディングに対して異なるビューポイントを選択できます。新しいビューポイントとデータ・チェーン内の関連するすべてのデータ・オブジェクトが、バインディング・ルールに対してチェックされます。</p>

## E-Business Suite 一般会計の検証

検証によってデータの整合性が確保されます。次の検証が Oracle E-Business Suite 一般会計アプリケーションに対して実行されます。

検証名	次の場合、検証エラーになる	レベル
必須勘定科目タイプ	標準勘定科目セグメント値に対して勘定科目タイプ・プロパティが定義されていません。	ノード・タイプおよびプロパティ
説明の最大長	E-Business Suite 一般会計セグメント値の説明が 240 文字を超えています。	ノード・タイプおよびプロパティ
所有権承認権限	ノードの所有権承認プロパティは、ビューポイントに対して少なくとも「参加者(読取り)」アクセス権を持っていないユーザーを参照します。所有権承認の理解を参照してください。 この検証はデフォルトで無効になっています。	ディメンション
親転記	親ノード(ノードに子あり)の転記を許可プロパティが True に設定されています。	アプリケーション
親の「Summary」フラグ	親ノードで子を許可するには、要約フラグを設定する必要があります。	アプリケーション
セグメント値の最大長	セグメント値の名前の長さがセグメントの最大より大きくなっています。	アプリケーション
セグメント値大文字	セグメント値がすべて大文字になっていません。	ノード・タイプおよびプロパティ
終了日前の開始日	開始日が終了日の前になっています。	アプリケーション

検証名	次の場合、検証エラーになる	レベル
要約フラグ	ノードに子があり、要約プロパティが <b>False</b> に設定されています。	ツリーまたは階層セット
要約および転記を許可	要約プロパティと転記を許可プロパティの両方が有効になっています。一度に 1 つのみ有効にすることができます。ノードに子がある場合は、要約を有効にする必要があります。転記を許可が有効である場合、ノードは子を持つことができません。	アプリケーション
子が欠落したサマリー・ノード	階層ビューポイントで、サマリー・ノードとしてマークされているノードに 1 つ以上の子がありません。	ツリーまたは階層セット

## E-Business Suite 一般会計ディメンションのエクスポート

外部の Oracle E-Business Suite 一般会計アプリケーションのディメンションにバインドされた 1 つ以上のビューポイントからエクスポートできます。カンマ区切りファイルにエクスポートします。ファイルは、E-Business Suite 一般会計ステージング表にロードされるように設計されています。これを行うには、独自のプロセスを作成する必要があります。

### ベスト・プラクティス

エクスポートを実行する前にディメンションにバインドされたビューポイントを検証し、データの整合性を確保することをお勧めします。[検証および制約の理解](#)を参照してください。


ディメンションのエクスポート時にビューポイントを自動的に検証するには、「**エクスポート前に検証**」オプションを使用します。[エクスポート・オプションの管理](#)を参照してください。

### 開始する前に:

- エクスポートするには、最低でもアプリケーションまたはディメンションに対するデータ・マネージャ権限が必要です。
- ノードと階層関係が、Oracle Enterprise Data Management Cloud に存在していたときの順序でエクスポートされます。ノードおよび階層関係を英数字順にエクスポートする場合は、ディメンションの階層セットを開いて、「**カスタム順序の使用**」をクリアします。
- ディメンションのバインド・キーを編集してエクスポート・ファイルのエクスポート列の順序を変更したり、各列の方向を指定できます。[バインド・キーの編集](#)を参照してください。
- null または空白の値のかわりに、定義されたキーワードをエクスポートできます。[エクスポート・オプションの管理](#)を参照してください。
- ディメンションをエクスポートすると、次の CSV (カンマ区切り)ファイルが含まれた ZIP ファイルが作成されます。(E-Business Suite 一般会計へのインポートでは、大文字と小文字が区別されます)。

- GL\_HIERARCHY\_INTERFACE.CSV — 個々の階層の親子構造が含まれます。
- GL\_SEGVALUES\_INTERFACE.CSV — ディメンション内のすべてのノードとそれらのプロパティが含まれます。

ディメンションをエクスポートするには:

1. 「アプリケーション」でお使いのアプリケーションを見つけて、をクリックし、「エクスポート」をクリックします。
2. 左側の列で、エクスポートするディメンションを選択します。
3. **オプション:** インспекタでディメンションのエクスポート・オプションを変更するには、「サマリー」セクションで、ディメンション名をクリックします。[ディメンションの検査](#)を参照してください。
4. 「エクスポート・ターゲット」から、「ファイル」を選択します。エクスポート・ファイル名が生成されます。デフォルトのファイル名は `アプリケーション名_ディメンション名_日付(EBSGL_Account_20200123.csv` など)で、エクスポートを実行する前に編集できます。ブラウザ設定でダウンロード場所が定義されます。
5. 「エクスポート」をクリックします。

このファイルの出力は、E-Business Suite 一般会計ステージング表にロードされる必要があります。

6. **オプション:** エクスポートの完了後、エクスポートに検証エラーがある場合は、ビューポイント名をクリックしてビューポイントを開き、エラーを解決できます。[検証の問題の解決](#)を参照してください。検証の問題が解決した後、ビューポイント・ウィンドウから**エクスポートに戻る**をクリックしてエクスポート画面に戻ります。

EPM 自動化([『Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作』](#)の `exportDimension` を参照)または REST API ([Oracle Enterprise Data Management Cloud Service の REST API のディメンションのエクスポート](#) を参照)を使用して、ディメンションをエクスポートすることもできます。

## 汎用アプリケーションの操作

汎用アプリケーションを使用すると、Oracle Enterprise Data Management Cloud に対応するアプリケーション・タイプがない外部アプリケーションのデータを管理できます。汎用アプリケーションを使用して、任意のビジネス・ニーズを満たす Oracle Enterprise Data Management Cloud ソリューションを構築できます。

汎用アプリケーションの場合、外部アプリケーションの要件との整合性が徹底されないため、柔軟性が確保されます。汎用アプリケーションには、すべてのアプリケーション・タイプに適用されるバインディング・ルールや検証以外のものが含まれません。また、追加または除去できるプロパティに関する制限はありません。たとえば、汎用アプリケーションを使用して、人事管理外部アプリケーションのエンタープライズ・データを管理できます。

### ベスト・プラクティス

外部アプリケーションと一致するアプリケーション・タイプを使用します。アプリケーション・タイプによって、外部アプリケーションとの整合性が確保され、構成も最小限で済みます。アプリケーション・タイプのリスト [アプリケーション・タイプの理解](#) を参照してください。アプリケーション・タイプがこのリストにない場合、汎用アプリケーション・タイプを使用します。

### プロセス・フロー

汎用アプリケーションを作成する基本のフローをこの後で説明します：

タスク	参照
1. 新しい汎用アプリケーションを登録します。	<a href="#">汎用アプリケーションの登録</a>
2. アプリケーションにディメンションを追加します。	<a href="#">ユーザー定義ディメンションの追加、除去または変更</a>
3. ノード・タイプをディメンションに追加します。	<a href="#">ユーザー定義ディメンション向けノード・タイプの追加または変更</a>
4. ディメンションに追加した各ノード・タイプのプロパティを追加するか作成します。	<a href="#">ユーザー定義ディメンション向けノード・タイプへの既存のプロパティの追加</a> <a href="#">カスタム・プロパティの作成</a>
5. ディメンションのインポートおよびエクスポート設定を構成します。	<a href="#">ユーザー定義ディメンションのインポートおよびエクスポート設定</a>
6. アプリケーションに追加する必要があるディメンションごとにステップ 2 から 5 を繰り返します。	該当なし

詳細は、次を参照してください：

- [ユーザー定義ディメンションのインポート](#)
- [汎用アプリケーションに対するバインディング・ルール](#)
- [汎用アプリケーションの検証](#)
- [汎用アプリケーションの変更](#)



- [ユーザー定義ディメンションのエクスポート](#)

## 汎用アプリケーションの登録

汎用アプリケーションを登録する際、ディメンションを作成します。ディメンションごとに、ノード・タイプ、プロパティ、インポートおよびエクスポートの設定を指定します。


### ビデオ

目的	参照するビデオ
汎用アプリケーションの登録について学習します。	 <a href="#">汎用アプリケーションの登録</a>

詳細は、次を参照してください:

- [アプリケーションの登録の理解](#)
- [汎用アプリケーションの操作](#)


アプリケーションを登録するには、次のステップを実行します。

1. 「**アプリケーション**」をクリックします。
2. 「**登録**」をクリックします。  
「アプリケーション・タイプを選択します」ページが表示されます。
3. 「**汎用**」をクリックします。
4. アプリケーションの「**名前**」と、オプションで「**説明**」を入力します
5. ドロップダウン・メニューを使用して「**外部システム・タイプ**」を指定します。外部システムがリストに表示されない場合は、下にスクロールして「**その他**」を選択し、「**外部システム・タイプ・ラベル**」を入力します。  
「外部システム・タイプ」は、複数の汎用アプリケーションの区別に役立つように、「アプリケーション・サマリー」ページに表示されます。
6. 「**次**」をクリックします。  
「アプリケーション要約」ページが表示されます。
7. 「**作成**」をクリックします。  
**ディメンションの追加**ページが表示されます。
8. 追加または変更するディメンションごとに、[ユーザー定義ディメンションの追加、除去または変更](#)のステップを実行します。
9. ディメンションを除去するには、ディメンションを含む行の上にカーソルを置いて、 をクリックします。

### ノート:

ディメンションを除去すると、データ・オブジェクトとプロパティはバインドが解除されますが、削除はされません。これにより、データ・オブジェクトとプロパティに含まれるデータは保持されます。

10. ディメンションの追加が終了したら、「次」をクリックします。  
「変更を適用する前に登録を確認します」ページが表示されます。
11. データを確認します。データが正しい場合は、「適用」をクリックします。

 **ノート:**

データを変更する必要がある場合は、「戻る」をクリックし、変更するディメンションを選択して変更します。

「適用」ボタンをクリックすると、Oracle Enterprise Data Management Cloud でアプリケーションのデフォルト・ビューが作成され、データ・チェーン・オプションがディメンションにバインドされます。

## ユーザー定義ディメンションの追加、除去または変更


汎用アプリケーション向けにディメンションを構成するときに、ノードがリストまたは階層のどちらの形式を取るか、またはディメンションで共有ノードが許可されるかどうかなどの設定を指定します。ノード・タイプの追加、ノード・タイプに対するプロパティの定義、データのインポートおよびエクスポートのための設定の指定も可能です。

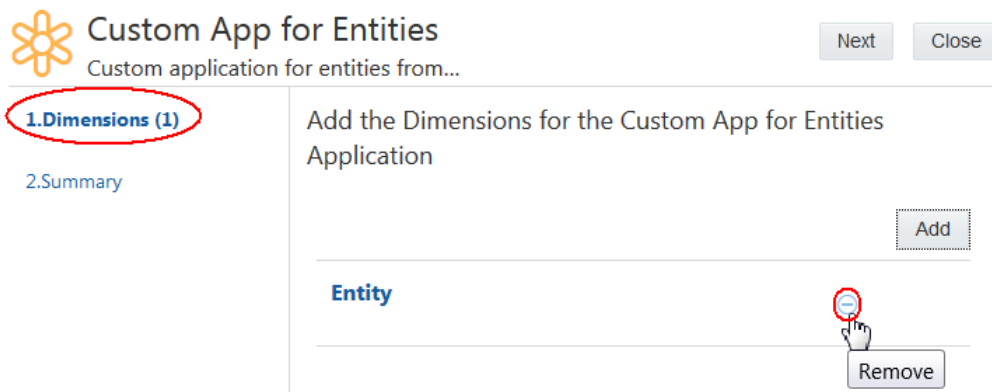
ユーザー定義ディメンションの追加、除去または変更は、ディメンションの追加ページで実行します。次のトピックで、このページへのアクセス方法を説明します。

- 汎用アプリケーションの登録は、[汎用アプリケーションの登録](#)を参照してください。
- 汎用アプリケーションの変更は、[汎用アプリケーションの変更](#)を参照してください。


ディメンションにバインドされたビューポイントを変更する場合は、[汎用アプリケーションのユーザー定義ディメンションにバインドされたビューポイントの変更](#)を参照してください。

汎用アプリケーションでディメンションを追加、除去または変更するには、次のステップを実行します:

1. ディメンションの追加ページで、次のステップのいずれかを実行します。
  - 新しくディメンションを追加するには、「追加」をクリックします。
  - 既存のディメンションを変更するには、リンクをクリックします。
  - ディメンションを除去するには、 をクリックします。



追加または変更は「**ディメンションの基本情報**」ページで実行します。

2. 「**ディメンション名**」を指定し、オプションで「**ディメンションの説明**」も入力します。
3. 「**ディメンション・タイプ**」には、ノードが階層とリストのどちらであるかを指定します。
4. (オプション)「**外部ディメンション名**」には、外部アプリケーションがディメンション、セグメント値セット、またはその他のデータ・ドメインに対して使用する名前を入力します。
5. (オプション)ノードが 1 つの階層内で複数の親ノードを持てる場合は「**共有ノードを許可**」を選択します。[共有ノードの理解](#)を参照してください。
6. 「**次**」をクリックします。  
ディメンションのノード・タイプ・ページが表示されます。
7. 追加または変更が必要な各ノード・タイプに対して、[ユーザー定義ディメンション向けノード・タイプの追加または変更](#)で説明しているステップを実行します。
8. ノード・タイプを除去するには、そのノード・タイプを含む行にカーソルを置き、 をクリックします。

#### ノート:

ノード・タイプを除去すると、そのノード・タイプと関連するデータ・オブジェクトのバインドが解除されますが、削除はされません。このため、ノード・タイプに含まれるデータは保持されます。

9. ノード・タイプをディメンションに追加後、「**次**」をクリックします。  
ディメンションのインポートおよびエクスポート・ページが表示されます。
10. (オプション)ディメンションのインポートおよびエクスポート設定を構成します。[ユーザー定義ディメンションのインポートおよびエクスポート設定](#)を参照してください。
11. 「**次**」をクリックします。  
ディメンションの追加ページが表示され、別のディメンションの追加または変更ができ、またアプリケーション登録を終了できます。

## ユーザー定義ディメンションのインポートおよびエクスポート設定

ディメンションを追加または変更する場合、ディメンションをインポートおよびエクスポートする方法を構成するよう求められます。次の表に、構成可能な設定を示します。

設定	説明
デフォルトのノード・タイプ	インポート・ファイルにノード・タイプ用の列がない場合に、インポート・プロセスによってノードに割り当てられるノード・タイプ。

設定	説明
デフォルトの親ノード・タイプ	インポート・ファイルに親ノード・タイプ用の列がない場合に、インポート・プロセスによって親ノードに割り当てられるノード・タイプ。
最上位ノード・インジケータ	ノードが階層の最上位ノードであることを示す親列内の値。これは通常、外部アプリケーションが最上位ノードを表すために使用する値です。 空のフィールドが最上位ノードであることを示す場合、値を指定しないでください。
ノード・タイプ列の使用	インポート・ファイルとエクスポート・ファイルがノード・タイプ用の列を持つことができることを指定します。
ノード・タイプ列ヘッダー	最下位ノードのノード・タイプを指定する列の列ヘッダー。列ヘッダーが使用されるのは、「 <b>ノード・タイプ列の使用</b> 」チェック・ボックスが選択されている場合のみです。
親ノード・タイプ列の使用	インポート・ファイルとエクスポート・ファイルが親ノード・タイプ用の列を持つことができるように指定します。
親ノード・タイプ列ヘッダー	親ノードのノード・タイプを指定する列の列ヘッダー。列ヘッダーが使用されるのは、「 <b>親ノード・タイプ列の使用</b> 」チェック・ボックスが選択されている場合のみです。

例については、[ユーザー定義ディメンションに対するファイル形式のインポートおよびエクスポート](#)を参照してください。

## ユーザー定義ディメンション向けノード・タイプの追加または変更


汎用アプリケーションでノード・タイプを構成する場合は、一意性修飾子の有無などの設定を指定します。既存のプロパティの追加およびカスタム・プロパティの作成もできます。

ユーザー定義ディメンションのノード・タイプの追加または変更は、ディメンションのノード・タイプ・ページで実行します。次のリストで、このページへのアクセス方法を説明します。

- ディメンションを追加または変更するには、[ユーザー定義ディメンションの追加、除去または変更](#)を参照してください。
- アプリケーションを変更するには、[汎用アプリケーションの変更](#)を参照してください。

ノード・タイプを追加する場合または既存のノード・タイプを変更する場合は、次のステップを実行します。

1. ディメンションのノード・タイプ・ページで、次のステップのいずれかを実行します。
  - 「**追加**」をクリックして、ノード・タイプを新しく追加します。
  - 既存のノード・タイプを変更するには、リンクをクリックします。
 ディメンションのノード・タイプ・ページが表示されます。
2. 「**ノード・タイプ名**」を指定し、必要に応じて「**ノード・タイプの説明**」も入力します。
3. (オプション) 「**ノード・タイプ修飾子**」を入力し、「**ノード・タイプ修飾子の位置**」を選択します。[ノード・タイプ修飾子の使用](#)を参照してください
4. 「**次**」をクリックします。  
プロパティを追加するためのページが表示されます。

5. ノード・タイプ・プロパティを追加または変更するには、次のトピックで説明されているステップを実行します。
  - プロパティを新しく作成するには、[カスタム・プロパティの作成](#)を参照してください。
  - 別のノード・タイプ向けに定義されたプロパティ、あるいは Core または CoreStats ネームスペースのプロパティを追加するには、[ユーザー定義ディメンション向けノード・タイプへの既存のプロパティの追加](#)を参照してください。
  - 既存のプロパティを変更するには、[ユーザー定義ディメンションのノード・タイプのプロパティ変更](#)を参照してください。
6. プロパティのエクスポート・ファイル列の順序を変更するには、ディメンションのバインド・キーを編集する必要があります。[バインド・キーの編集](#)を参照してください。
7. プロパティをインポートおよびエクスポートの対象から除外するには、プロパティを含む行にカーソルを移動し、 をクリックします。

#### ノート:

プロパティに含まれるデータはインポートおよびエクスポートされませんが、プロパティはノード・タイプから除去されません。これにより、プロパティ・データが保持されます。

8. 「次」をクリックします。  
ディメンションのノード・タイプ・ページが表示されます。このページでは、ノード・タイプの追加または変更ができ、またディメンションの構成を終了できます。

## ユーザー定義ディメンション向けノード・タイプへの既存のプロパティの追加

既存のプロパティの追加は、ディメンション・ノード・タイプのプロパティ・ページで行う必要があります。次のタスクのいずれかを実行して、このページにアクセスします。

- ノード・タイプを追加または変更するには、[ユーザー定義ディメンション向けノード・タイプの追加または変更](#)を参照してください。
- 既存のプロパティを追加後、カスタム・プロパティを作成するか、プロパティを変更します。

既存のプロパティは Core.Description のようなシステム定義プロパティまたは登録されるアプリケーションで定義されるプロパティのどちらかです。たとえば、汎用アプリケーションで Custom.Account Type プロパティを定義すると、そのプロパティを他のノード・タイプで使用できるようになります。

#### ヒント:

既存のプロパティのリストは「プロパティ」ページにあります。[プロパティの操作](#)を参照してください。

既存のプロパティをノード・タイプに追加するには、次のステップを実行します:

1. 「**選択**」をクリックします。
2. プロパティを選択して、「**OK**」をクリックします。  
ディメンション・ノード・タイプのプロパティ・ページが表示されます。
3. ページに「**プロパティ・アプリケーション・オーバーライド・パラメータ**」セクションが含まれる場合、プロパティに適用される任意の設定を構成します。設定はプロパティ・テンプレートによって変わります。[プロパティ・データ・タイプのパラメータの理解](#)を参照してください。  
たとえば、Core.Description システム・プロパティでは、値の長さの下限と上限を構成します。
4. 「**列ヘッダー**」で、プロパティに対するインポート・ファイル列およびエクスポート・ファイル列の列ヘッダーを指定します。

 **ノート:**

列ヘッダーは、アプリケーション内のプロパティごとに一意である必要があります。列ヘッダーとして使用できないラベルのリストは、[予約された列名](#)を参照してください。

5. ページに「**同期方向**」が含まれる場合は、ディメンションがインポートとエクスポートのどちらで使用可能か、または両方で使用可能かどうかを指定する必要があります。

 **ノート:**

CoreStats ネームスペースの統計プロパティはインポートおよびエクスポートでは考慮されません。

6. 「**次**」をクリックして、**ディメンションのプロパティ**・ページに戻ります。  
このページでは、別の既存のプロパティの追加、新規プロパティの作成、プロパティの変更、ノード・タイプの構成終了が可能です。

## カスタム・プロパティの作成

カスタム・プロパティの追加は、ディメンション・ノード・タイプのプロパティ・ページで実行します。次のタスクのいずれかを実行して、このページにアクセスします。

- ノード・タイプを追加または変更するには、[ユーザー定義ディメンション向けノード・タイプの追加または変更](#)を参照してください。
- 既存のプロパティを追加後、カスタム・プロパティを作成するか、プロパティを変更します。

 **ヒント:**

汎用アプリケーションの登録時に、戻ってディメンション・プロパティを追加する必要があります:

1. 「戻る」をクリックして、「**<app name>アプリケーションにディメンションを追加します**」画面を表示します。
2. プロパティを追加するディメンションの名前をクリックします。
3. 「**ディメンションの基本情報**」画面で「次」をクリックします。
4. プロパティを追加するノード・タイプの名前をクリックします。
5. 「**ディメンション(<dim name>)のノード・タイプ**」画面で「次」をクリックします。  
「**ディメンション(dim name)ノード・タイプ(node type)のプロパティ**」画面が表示されました。ここで変更またはプロパティの追加ができます。
6. 「**作成**」をクリックして新規プロパティを追加します。

カスタム・プロパティの作成時には、登録プロセスでプロパティを「プロパティ」ページに追加します。プロパティは Custom ネームスペースに割り当てられ、他のノード・タイプでこのプロパティを選択できるようになります。たとえば、Account Type プロパティを定義すると、勘定科目を表す他のノード・タイプでこのプロパティを選択できます。[プロパティの操作](#)を参照してください。

カスタム・プロパティを登録済ノード・タイプに追加するには、次のステップを実行します:

1. 「**作成**」をクリックします。  
ディメンション・ノード・タイプの新規プロパティ・ページが表示されます。
2. プロパティが含むデータのタイプと一致する「**プロパティ・テンプレート**」を選択します。  
たとえば、プロパティの値が整数の場合は、Custom.Integer Template を選択します。
3. 「**プロパティ名**」およびオプションで「**プロパティの説明**」を入力し、「次」をクリックします。  
ディメンションのプロパティ・ページが表示されます。
4. 「**プロパティ・レベル**」では、プロパティ・テンプレートがカスタム・ネームスペース(たとえば、Custom.String Template)にある場合に、プロパティをノードに適用するか、ノード間の関係に適用するかを指定します。

 **ノート:**

プロパティ・テンプレートが「カスタム」ネームスペース(たとえば PLN.Alias)にない場合、「**プロパティ・レベル**」フィールドは読取り専用です。

5. ページに「**プロパティ・アプリケーション・オーバーライド・パラメータ**」セクションが含まれる場合、プロパティの追加設定を指定できます。ページに表示されるパラメータはプロパティ・テンプレートによって変わります。[プロパティ・データ・タイプのパラメータの理解](#)を参照してください。

たとえば、プロパティで `Custom.Integer` プロパティ・テンプレートを使用するとします。このテンプレートを使用すると、プロパティの値の下限および上限を指定できます。

6. 該当する場合は、プロパティの許容値を入力します。[プロパティの許容値または無効な値の定義](#)を参照してください。
7. 「**列ヘッダー**」で、プロパティに対するインポート・ファイル列およびエクスポート・ファイル列の列ヘッダーを指定します。

#### **注意:**

列ヘッダーを入力する必要があります。

8. ページに「**同期方向**」が含まれる場合は、ディメンションがインポートとエクスポートのどちらで使用可能か、または両方で使用可能かどうかを指定する必要があります。

#### **ノート:**

CoreStats ネームスペースの統計プロパティはインポートおよびエクスポートでは考慮されません。

9. デフォルト値に設定された「**許容値モード**」ドロップダウン・リストをそのままにします。

#### **ノート:**

現時点では使用しないため、このオプションを設定する必要はありません。

**コード** – (デフォルト値)入力値をプロパティのコード値にマップします。たとえば、集約プロパティのコード値は"+"です。

- **表示** – 入力値をプロパティの表示値にマップします。たとえば、集約プロパティの表示値は"Addition"です。

10. 「**次**」をクリックして、**ディメンションのプロパティ**・ページに戻ります。

このページでは、別の既存のプロパティの追加、新規プロパティの作成、プロパティの変更、ノード・タイプの構成終了が可能です。

## ユーザー定義ディメンションのノード・タイプのプロパティ変更

カスタム・ノード・タイプのプロパティを変更するには、ディメンション・ノード・タイプのプロパティ・ページ上で作業する必要があります。次のタスクのいずれかを実行して、このページにアクセスします。

- ノード・タイプを追加または変更するには、[ユーザー定義ディメンション向けノード・タイプの追加または変更](#)を参照してください。



- 既存のプロパティを追加後、カスタム・プロパティを作成するか、プロパティを変更します。

### ヒント:

汎用アプリケーションの登録中の場合は、移動してディメンションのプロパティを更新する必要があります:

1. 「戻る」をクリックして、「<app name>アプリケーションにディメンションを追加します」画面を表示します。
2. プロパティを更新するディメンションの名前をクリックします。
3. 「ディメンションの基本情報」画面で「次」をクリックします。
4. プロパティを更新するノード・タイプの名前をクリックします。
5. 「ディメンション(<dim name>)のノード・タイプ」画面で「次」をクリックします。  
「ディメンション(dim name)ノード・タイプ(node type)のプロパティ」画面が表示されました。ここで変更またはプロパティの追加ができます。
6. プロパティの名前をクリックして編集するか、「作成」をクリックして新しいプロパティを追加します。

プロパティを変更するには、プロパティの追加に慣れている必要があります(ユーザー定義ディメンション向けノード・タイプへの既存のプロパティの追加とカスタム・プロパティの作成を参照)。

1. ディメンション・ノード・タイプのプロパティ・ページで、プロパティのリンクをクリックします。
2. ディメンション・ノード・タイプの新規プロパティ・ページが表示された場合、適用可能な設定を変更して「次」を押します。

### ノート:

プロパティの登録後は、名前、データ型またはプロパティ・レベルを変更できません。

3. ディメンション・ノード・タイプのプロパティ・ページで、適用可能な設定を変更して「次」をクリックします。変更できる設定は、プロパティのデータ型によって異なります(プロパティ・データ・タイプのパラメータの理解を参照)。
4. 「次」をクリックして、ディメンションのプロパティ・ページに戻ります。



このページでは、別の既存のプロパティの追加、新規プロパティの作成、プロパティの変更、ノード・タイプの構成終了が可能です。

## ユーザー定義ディメンションのノード・タイプからのプロパティ除去

ユーザー定義のディメンションのノード・タイプからプロパティを除去する必要がある場合は、次のアクションを両方とも実行する必要があります:

- アプリケーションの登録を変更して、ディメンションからプロパティを削除します。
- ノード・タイプからプロパティを削除します。

アプリケーションの登録からプロパティを削除するには:




1. 「**アプリケーション**」で、アプリケーションの横にある  をクリックし、「**登録の変更**」を選択します。
2. ディメンションをクリックしてから、プロパティを含むノード・タイプをクリックします。
3. 「**次**」をクリックします。
4. 削除するプロパティの右端にカーソルを置いて、 をクリックします。

#### Properties for Dimension (Departments) Node Type (Dept)

---

**Core.Name**  
Node Name

---


**CoreStats.Parent**     
Parent Node Name of the node in the current location

---

**Core.Description**  
Node Description

5. 「**はい**」をクリックして削除を確認します。

ノード・タイプからプロパティを削除するには:

1. 「**ノード・タイプ**」で、ノード・タイプの横にある  をクリックし、「**検査**」を選択します。
2. 「**プロパティ**」、「**編集**」の順にクリックします。
3. 「**管理**」をクリックします。
4. 削除するプロパティのチェックマークをクリアして、「**保存**」をクリックします。

## ユーザー定義ディメンションのインポート

汎用アプリケーションのディメンションのデータをインポートする場合、ノードとそのプロパティの値をインポートします。ディメンションが階層の場合、インポートではノード間の親子関係も指定します。

**開始する前に:**

- インポート・オプション、考慮事項およびインポート・モードの詳細は、[ディメンションのインポート](#)を参照してください。
- ブール値を使用するプロパティをインポートする場合は、次のルールが適用されます。


- インポート・ファイルの値がブールの **True** 値またはブールの **False** 値のプロパティ定義パラメータと一致する場合は、その値が使用されます。
- それ以外で、インポート・ファイルの値が **1**、**T**、**True**、**Y** または **Yes** の場合、値には **True** が使用されます。
- それ以外の場合、値には **False** が使用されます。
- **「同期方向」** が「インポート」または「両方」に設定されているプロパティにのみ、データをインポートできます。プロパティをレビューまたは変更するには、[ユーザー定義ディメンションのノード・タイプのプロパティ変更](#)を参照してください。
- 「マージ」または「置換」モードで既存のディメンションにインポートすると、次のように、インポートしているノードのノード・タイプがチェックされます。
  - ノード・タイプ列のないアプリケーションの場合:
    - \* ノードが、バインドされたディメンション内にすでに存在する場合、インポートの実行時にシステムによって既存のノードとノード・タイプが検出されて使用されます。
    - \* ノードが、バインドされたディメンション内に存在しない場合、デフォルトのノード・タイプ(ノードに子がない場合)またはデフォルトの親ノード・タイプ(ノードに子がある場合)を使用してノードがインポートされます。
  - ノード・タイプ列があるアプリケーションの場合、次のように、その列がインポート時にノードの作成に使用されます。
    - \* インポート・ファイル内のノードのノード・タイプがこのビューポイントに対して有効である場合、インポート・ファイル内のノード・タイプが使用されます。ノード・タイプが階層セットまたはノード・セットで使用されている場合、ビューポイントに対して有効です。
    - \* インポート・ファイル内のノードのノード・タイプがこのビューポイントに対して有効でない場合、レコードはスキップされます。
    - \* インポート・ファイル内のノードのノード・タイプが空白の場合、デフォルトのノード・タイプ(ノードに子がない場合)またはデフォルトの親ノード・タイプ(ノードに子がある場合)を使用してノードがインポートされます。

#### ノート:

デフォルト・ノード・タイプがビューポイントに対して有効ではない場合、ビューポイントにおいてアルファベット順で最初に有効なノードを使用してノードがインポートされます。

- 親ノード・タイプ列を持つアプリケーションでは、ディメンションに名前は同じであるがノード・タイプが異なる複数のノードがある場合、インポート時のノードの特定に次のように親のノード・タイプ列が使用されます。
  - \* インポート・ファイル内のノードのノード・タイプがこのビューポイントに対して有効である場合、これがノード・タイプ内のノードの特定に使用されます。ノードが見つからない場合、レコードはスキップされます。
  - \* インポート・ファイル内のノードのノード・タイプがこのビューポイントに対して有効でない場合、レコードはスキップされます。
  - \* インポート・ファイル内のノードのノード・タイプが空白の場合、デフォルト・ノードおよびデフォルトの親ノードの前の箇条書き内のロジックが

使用され、正しい親が特定されます。このロジックを使用して親を決定できない場合、レコードはスキップされます。

1. インポート・ファイルを作成します(ユーザー定義ディメンションに対するファイル形式のインポートおよびエクスポートを参照)。
2. 「アプリケーション」をクリックします。
3. アプリケーションの「アクション」列で  をクリックして、「インポート」を選択します。
4. 「ディメンション」セクションで、データのインポート先のディメンションをクリックします。
5. インポート・ファイルを指定します。  
「ファイル名」テキスト・ボックスにインポート・ファイルの名前が表示されます。
6. 「インポート・モード」で、「マージ」、「置換」または「リセット」を選択します。インポート・モードの詳細は、[ディメンションのインポート](#)を参照してください。
7. オプション: 「サマリー」セクションでディメンション名をクリックして、ディメンションを検査し、インポート・オプションを表示します。インスペクタ・ダイアログを閉じてインポート画面に戻ります。
8. 「インポート」をクリックします。  
データが正常にインポートされたことを示すメッセージが表示されます。
9. 「メッセージ」テキスト・ボックスで、インポートできなかった行があるかどうかを確認します。その場合、問題を解決してからステップを繰り返します。

## ユーザー定義ディメンションに対するファイル形式のインポートおよびエクスポート

ユーザー定義ディメンションのデータをインポートおよびエクスポートする場合は、カンマ区切り(.csv)ファイルを使用する必要があります。

次に、ファイルをインポートおよびエクスポートする形式およびその他の考慮事項を説明します。

- ファイルには、次の列が含まれる必要があります。
  - **名前:** ノードの名前。
  - **親.** ディメンションが階層の場合、親ノードの名前。ノードに親ノードがない場合、このフィールドは空にする必要があります。

### ノート:

「名前」の列ヘッダーは、**ノード**にデフォルト設定されます。名前と親の列ヘッダーは、登録時にカスタマイズできます。

- ディメンションにプロパティがある場合、ファイルには各プロパティの列が含まれます。列ヘッダーは、プロパティの作成時に指定した値です(ユーザー定義ディメンション向けノード・タイプへの既存のプロパティの追加とカスタム・プロパティの作成を参照)。
- エクスポート・ファイルの定数列は作成、編集および削除ができます。[バインド・キーの編集の汎用アプリケーションの定数キーの管理](#)を参照してください。

- ディメンションの構成方法によって、ノード・タイプの列の有無、および最上位ノードを示す方法が決定されます(ユーザー定義ディメンションのインポートおよびエクスポート設定を参照)。
- データは行の順序でインポートされます。親ノードの行は子ノードの行よりも前にある必要があります。子ノードの行が親ノードの行よりも前にあると、ファイルのインポート時にエラーが発生します。
- インポート・ファイルでは、列を任意の順序で配置できます。
- 列ヘッダーが上述のものとは一致しない場合、その列はインポートで無視されます。

#### ヒント:

つまり、インポート・ファイルにはインポートされない情報を含めることができます。たとえば、インポート・ファイルにはコメントの列を含めることができます。

- インポートでは、重複する行は無視されます。
- ファイルの区切り文字、引用符または改行(CR/LF)文字を含む文字列、または ASCII 35 以下の文字(Tab、!、#など)で開始する文字列は、引用符で囲まれます。(たとえば、"# Children"、"Accumulated Depreciation, Equipment"。)
- サポートされるロケールの日付とタイムスタンプは、次の Java 日付形式パターンのいずれかである必要があります。
  - Short
  - Default
  - Long
  - Medium

#### ノート:

Java 日時形式については、[事前定義された形式の使用](#)を参照してください。

### 例 33-1 ディメンションのインポート・ファイル

次のように定義された部門ディメンションがあるとします。

- 部門および部門ロールアップという 2 つのノード・タイプがあります。
- 両方のノード・タイプは Description プロパティを使用します。
- 部門ロールアップ・ノード・タイプには Company というプロパティがあり、略称 **CO** を列ヘッダーとして使用するよう構成されています。
- このディメンションは、次のインポートおよびエクスポート設定で構成されています。
  - TOPNODE は最上位ノードを表します。
  - ファイルはノード・タイプの列を持つことができます。列ヘッダーは**ノード・タイプ**です。

- ファイルは親ノード・タイプの列を持つことができます。列ヘッダーは**親ノード・タイプ**です。
- インポート・ファイルに**ノード・タイプ**および**親ノード・タイプ**列が含まれない場合、インポートでは部門ノード・タイプに最下位ノード、および部門ロールアップノード・ノード・タイプに親ノードが割り当てられます。

Default Node Type	Department
Default Parent Node Type	Department Rollup
Top Node Indicator	TOPNODE
Use Node Type Column	<input checked="" type="checkbox"/>
Node Type Column Header	Node Type
Use Parent Node Type Column	<input checked="" type="checkbox"/>
Parent Node Type Column Header	Parent Node Type

次の表に、この例のディメンションのインポート・ファイルの最初の数行を示します。

名前	説明	ノード・タイプ	親	親ノード・タイプ	CO
TD	部門合計	部門ロールアップ	TOPNODE		1
100	リソース	部門	TD	部門ロールアップ	
110	施設のリソース	部門	100	部門	
111	西部地域のリソース	部門	100	部門	

#### ノート:

親列の TOPNODE 値は、TD がルート・ノードであることを示します。Company プロパティの列ヘッダーは **CO** です。

## 汎用アプリケーションに対するバインディング・ルール

バインディング・ルールによって、Oracle Enterprise Data Management Cloud の汎用アプリケーションは外部のアプリケーションの要件に準拠するようになります。

すべてのアプリケーション・タイプに対して有効なバインディング・ルールが、汎用アプリケーションに適用されます。[全アプリケーション・タイプに対するバインディング・ルール](#)を参照してください。

詳細は、次を参照してください:

- [汎用アプリケーションの操作](#)
- [バインディング・ルールの理解](#)

## 汎用アプリケーションのユーザー定義ディメンションにバインドされたビューポイントの変更

ユーザー定義ディメンションにバインドされたビューポイントを変更できます。ビューポイントのコピーしたが、現在、アプリケーションに対するインポートおよびエクスポートのためにこのコピーを使用する場合、ディメンションにバインドされたビューポイントの変更が必要になる可能性があります。ビューポイントを変更すると、選択したビューポイントに必要なノード・タイプ・プロパティが欠落している場合や、追加のプロパティが含まれている場合は、その旨通知されます。

### 考慮事項

ディメンションのバインドされたビューポイントを変更する場合、選択したビューポイントを使用するために追加のアクションの実行が必要な場合があります。実行すべき追加のアクションがある場合、メッセージが表示されます。追加のアクションは次のとおりです。


- バインド中のビューポイントが同じプロパティを使用している場合、追加のアクションは必要ありません。
- バインド中のビューポイントでプロパティが異なる同じノード・タイプが使用されている場合、次のいずれかを実行します。
  - ディメンションのノード・タイプにプロパティを追加します。
  - アプリケーション登録を変更し、ディメンションのノード・タイプからプロパティを除去します。
- バインド中のビューポイントが、追加のプロパティを含む異なるノード・タイプを使用している場合、次のいずれかを実行します。
  - アプリケーション登録を変更し、ディメンションのノード・タイプにプロパティを追加します。
  - ノード・タイプから追加プロパティを除去します。

詳細については:

- アプリケーションの登録の変更については、[汎用アプリケーションの変更](#)を参照してください。
- ノード・タイプへのプロパティの追加については、[ノード・タイプのプロパティの追加、除去および構成](#)を参照してください。
- ディメンションについては、[ディメンションの理解](#)を参照してください。

バインドされたビューポイントを変更するビジネス・シナリオは、[バインドされたビューポイントの変更による代替ビューポイントのエクスポート](#)を参照してください。

ディメンションにバインドされたビューポイントを変更するには:

1. 「**アプリケーション**」で、ディメンションが含まれるアプリケーションを検索します。
2. アプリケーションの「**アクション**」列で、をクリックし、「**検査**」を選択します。
3. 「**ディメンション**」を選択し、バインドされたビューポイントを変更するディメンションの名前をクリックします。

ディメンションのインスペクタが表示されます。

4. 「編集」をクリックします。
5. 「ビュー」で、ディメンションにバインドするビューポイントが含まれるビューを選択し、ビューポイントを選択します。

 ヒント:

選択するビューポイントが表示されない場合は、階層セットとアプリケーション登録の「共有ノードを許可」の設定が同じになっていることを確認してください。

6. 「保存」をクリックします。

## 汎用アプリケーションの検証

検証により、汎用アプリケーション内のデータの整合性が保証されます。

次の検証は、汎用アプリケーションに対して実行されます:

検証名	次の場合、検証エラーになる	レベル
所有権承認権限	ノードの所有権承認プロパティは、ビューポイントに対して少なくとも「参加者(読取り)」アクセス権を持っていないユーザーを参照します。 <a href="#">所有権承認の理解</a> を参照してください。 この検証はデフォルトで無効になっています。	ディメンション

汎用アプリケーションのその他の検証のみが、すべてのアプリケーションに適用される検証です。[システム検証](#)を参照してください。

詳細は、次を参照してください:

- [汎用アプリケーションの操作](#)
- [検証および制約の理解](#)

## 汎用アプリケーションの変更

汎用アプリケーションのディメンションを追加、除去および再構成できます。

ディメンションを再構成する場合、次のアイテムを変更できます。

- ディメンションの各種設定。たとえば、インポートおよびエクスポート設定を変更できます。

 ノート:

ディメンションの登録後は、ディメンション・タイプを変更できません。



- ノード・タイプを追加または変更します。ノード・タイプをアプリケーションから除去することはできません。別のノード・タイプを使用する場合、バインドされたビューポイントを、そのノード・タイプを持つ別のビューポイントに変更できません。

 **ノート:**

インスペクタを介して、ノード・タイプをバインドされた階層セットまたはノード・セットに追加した場合、アプリケーション登録でそのノード・タイプを編集できます。[階層セットの検査](#)または[ノード・セットの検査](#)を参照してください。

- ノード・タイプのプロパティを追加、除去または変更します。

 **ノート:**

ノード・タイプ・インスペクタを使用して、バインドされたノード・タイプにプロパティを追加した場合は、アプリケーション登録でそのプロパティを編集できます。[ノード・タイプの検査](#)を参照してください。

- プロパティのエクスポート・ファイルの列の順序を変更します。


 **ノート:**

ディメンションおよびプロパティを除去すると、データ・オブジェクトとプロパティは未バインドになります。つまり、除去されたディメンションおよびプロパティのデータはインポートまたはエクスポートされません。ただし、データ・オブジェクトとプロパティは削除されません。これにより、必要であればデータが保持されます。

詳細は、次を参照してください:

- [アプリケーションの変更の理解](#)
- [汎用アプリケーションの操作](#)

ディメンションまたはそのノード・タイプまたはプロパティを変更するには、次のステップを実行します。

1. 「**アプリケーション**」をクリックします。
2. アプリケーションの「**アクション**」列で、 をクリックして「**アプリケーションの変更**」を選択します。  
アプリケーション登録ウィザードが表示されます。
3. 次のステップのいずれかを実行します:
  - ディメンションを追加または変更するには、[ユーザー定義ディメンションの追加、除去または変更](#)のステップを実行します。

- ノード・タイプのプロパティを含め、ノード・タイプを変更するには、ディメンションのリンクをクリックし、「次」をクリックしてから[ユーザー定義ディメンション向けノード・タイプの追加または変更](#)のステップを実行します。
4. 「変更を適用する前に登録を確認します」ページで「適用」をクリックして、変更内容をアプリケーションとそのデータ・オブジェクトに適用します。このページには、ディメンションの変更を終了したとき、または登録ウィザードのページに含まれる「要約」リンクをクリックしてアクセスします。

#### ノート:

「ドラフト」ステータスではないアプリケーションの登録に変更を加えたが、適用しなかった場合、登録ウィザードを閉じるときに変更内容は保存されません。

「ドラフト」ステータスのアプリケーションの登録に変更を加えたが、適用しなかった場合、変更内容は保存され、後から更新および適用できる場合があります。ただし、登録ウィザードの外部でバインドされたデータ・オブジェクトに変更を追加した場合は、バインドされたオブジェクトと登録を同期する必要があります。そのため、保存された変更がクリアされることがあります。

## ユーザー定義ディメンションのエクスポート

汎用アプリケーション内のディメンションのデータをカンマ区切り(.csv)ファイルにエクスポートできます。

### ベスト・プラクティス

エクスポートを実行する前にディメンションにバインドされたビューポイントを検証し、データの整合性を確保することをお勧めします。[検証および制約の理解](#)を参照してください。

ディメンションのエクスポート時にビューポイントを自動的に検証するには、「**エクスポート前に検証**」オプションを使用します。[エクスポート・オプションの管理](#)を参照してください。

CSV ファイル形式の場合、[ユーザー定義ディメンションに対するファイル形式のインポートおよびエクスポート](#)を参照してください。

ノードおよび階層関係は、デフォルトでは英数字順でエクスポートされます。エクスポートされるノードの順序を変更するには、エクスポートする前に、階層セットを開き、「**カスタム順序の使用**」を選択します。

ディメンションのバインド・キーを編集してエクスポート列の順序を変更できます。[バインド・キーの編集](#)を参照してください。

null または空白の値のかわりに、定義されたキーワードをエクスポートできます。[エクスポート・オプションの管理](#)を参照してください。


データは、方向が「エクスポート」または「両方」に設定されているプロパティからのみエクスポートできます。この設定を確認または変更するには、次のアクションを実行します。

- アプリケーション登録でプロパティの「同期方向」を変更します。[ユーザー定義ディメンションのノード・タイプのプロパティ変更](#)を参照してください。
- ディメンションのバインド・キーのプロパティの「方向」を変更します。[バインド・キーの編集](#)を参照してください。

 ノート:

別のアプリケーションのノードにマッピングされたデータをエクスポートすることもできます。[マッピング・データのエクスポート](#)を参照してください。

詳細は、次を参照してください:

- [汎用アプリケーションの操作](#)
  - [ディメンションのエクスポート](#)
1. 「**アプリケーション**」をクリックします。
  2. アプリケーションの「**アクション**」列で、 をクリックし、「**エクスポート**」を選択します。
  3. 「**ディメンション**」セクションで、エクスポートするディメンションを選択します。エクスポート・ファイル名が生成されます。デフォルトのファイル名は `アプリケーション名_ディメンション名_日付(Custom1_Account_20200123.csv` など)で、エクスポートを実行する前に編集できます。ブラウザ設定でダウンロード場所が定義されます。
  4. **オプション**: インスペクタでディメンションのエクスポート・オプションを変更するには、「**サマリー**」セクションで、ディメンション名をクリックします。[ディメンションの検査](#)を参照してください。
  5. 「**エクスポート**」をクリックします。
  6. **オプション**: エクスポートの完了後、エクスポートに検証エラーがある場合は、ビューポイント名をクリックしてビューポイントを開き、エラーを解決できます。[検証の問題の解決](#)を参照してください。検証の問題が解決した後、ビューポイント・ウィンドウから**エクスポートに戻る**をクリックしてエクスポート画面に戻ります。

## ユーザー・アプリケーションの操作

ユーザー・アプリケーションを使用すると、Oracle Enterprise Data Management Cloud の他のアプリケーションのノードに関連付けが可能な、共通の一連の企業ユーザーを管理できます。ユーザー・アプリケーションのノードはレコード数にはカウントされません。

ユーザー・アプリケーションで管理するユーザーは、次の方法で参照できます：

- 所有権承認方法を使用する承認ワークフローのノード所有者として。[所有権承認の理解](#)を参照してください。

### Tip:

「電子メール・アドレス」プロパティに Oracle Enterprise Data Management Cloud の有効なユーザーの電子メール・アドレスが含まれている場合、そのユーザーを所有権承認ポリシーのノード所有者として指定できます。[ユーザー・アプリケーションの事前定義済プロパティ](#)を参照してください。

- ノードの参照データとして。たとえば、Planning アプリケーションの「コスト・センター」ディメンションのノードは、「ユーザー」サブタイプを持つノード・データ型プロパティを使用して、ユーザー・アプリケーション内のユーザーをコスト・センター・マネージャとして参照できます。[ノード・データ型のサブタイプ](#)を参照してください。

### 考慮事項

Oracle Enterprise Data Management Cloud の他のアプリケーション・タイプは外部アプリケーションからエンタープライズ・データを管理するために一般的に使用されるのに対し、ユーザー・アプリケーションはユーザーを管理するために内部的にのみ使用されるという点が独特です。そのため、これらは次のいくつかの重要な点で他のアプリケーション・タイプとは異なります：

- ユーザー・アプリケーションを登録するとき、登録ウィザードは使用しません。かわりに、ユーザー・アプリケーションを登録する場合は、アプリケーションの名前を指定すると、自動的にデータ・チェーン・オブジェクトが作成されます。[ユーザー・アプリケーションの登録](#)を参照してください。
- 次の統合操作は使用できません：
  - インポート
  - エクスポート
  - 抽出
  - マッピング・エクスポート
- ユーザー・アプリケーションを登録した後は、アプリケーション・ワークリストから登録を変更できません。アプリケーションを検査して、ビューポイントまたはデータ・チェーン・オブジェクトに変更を加えます。
- 次のタブは、アプリケーション・インスペクタでは使用できません：
  - 登録

- 接続

## ユーザー・アプリケーションの登録

アプリケーションを登録するには、「アプリケーション-作成」ロールが必要です。登録後、アプリケーションおよびデフォルト・ビューに対する所有者権限が自動的に付与されます。

ユーザー・アプリケーションを登録するには:

1. 「アプリケーション」で、「登録」をクリックし、「ユーザー」を選択します。
2. アプリケーション名および説明(オプション)を入力し、「次」をクリックします。
3. アプリケーション要約情報を確認して、「作成」をクリックします。

ユーザー・アプリケーションを作成すると、次のオブジェクトが作成されます。すべてのオブジェクトはバインドされていません。

オブジェクト	名前
アプリケーション	(入力したアプリケーション名)
デフォルト・ビュー	(入力したアプリケーション名)
ビューポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ユーザー・リスト(リスト・ビューポイント)</li> <li>• ユーザー階層(階層ビューポイント)</li> </ul>
ディメンション	ユーザー
ノード・タイプ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ユーザー</li> <li>• ロールアップ</li> </ul> <p>ノート: これらのノード・タイプでは、特殊ノード・タイプ・クラス「ユーザー」および「ユーザー・ロールアップ」を使用し、変更できない制限されたプロパティを使用して作成されます。特殊ノード・タイプ・クラスの操作を参照してください。</p>
階層セット	ユーザー階層(「ユーザー」および「ユーザー・ロールアップ」ノード・タイプを使用)
ノード・セット	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ユーザー・リスト(「ユーザー」ノード・タイプを指す)</li> <li>• ユーザー階層(「ユーザー階層」階層セットを指す)。</li> </ul>

## ユーザー・アプリケーションの事前定義済プロパティ

ユーザー・アプリケーションでは、「ユーザー」および「ユーザー・ロールアップ」特殊ノード・タイプが使用されます(特殊ノード・タイプ・クラスの操作を参照)。これらのノード・タイプについては、次のプロパティが事前定義されています。

これらのノード・タイプに対してプロパティを追加または除去することはできませんが、プロパティ順序を並べ替えることや、「必須」フラグを設定することができます。また、ビューポイントでそれらのラベルを変更したり、ビューポイントで使用していないプロパティを非表示にすることもできます。ビューポイントでのプロパティの表示方法の構成を参照してください。

Table 34-1 「ユーザー」ノード・タイプの事前定義済プロパティ

プロパティ	ネームスペース	データ型	レベル	説明
名前	Core	文字列	ノード	ノード名
説明	Core	文字列	ノード	ノードの説明
ユーザー名	User	文字列	ノード	ユーザーのユーザー名。これは、Oracle Enterprise Data Management Cloud ユーザー名である必要はありません。
電子メール・アドレス	User	文字列(電子メール・サブタイプ)	ノード	ユーザーの電子メール・アドレス。 <b>ノート:</b> これは、EDM ユーザー名および EDM ユーザー・プロパティの値を導出するために使用されます。
タイトル	User	文字列	ノード	ユーザーのタイトル
名	User	文字列	ノード	ユーザーの名
ミドル・ネーム	User	文字列	ノード	ユーザーのミドル・ネーム
姓	User	文字列	ノード	ユーザーの姓
フル・ネーム	User	文字列	ノード	ユーザーのフル・ネーム <b>ノート:</b> デフォルトでは、これは、ユーザーの名、ミドル・ネームおよび姓を連結することによって導出されます。
開始日	User	日付	ノード	ユーザーの開始日
終了日	User	日付	ノード	ユーザーの終了日
EDM ユーザー名	CoreStats	文字列	ノード	User.Email Address プロパティが有効なユーザーと一致した場合、Oracle Enterprise Data Management Cloud ユーザー名を返します。
EDM ユーザー	CoreStats	ブール	ノード	User.Email Address プロパティが有効なユーザーと一致した場合、True を返します。

Table 34-1 (Cont.) 「ユーザー」ノード・タイプの事前定義済プロパティ

プロパティ	ネームスペース	データ型	レベル	説明
親	CoreStats	ノード	関係	現在の位置にあるノードの親ノード名
レベル	CoreStats	整数	関係	階層セット内のノードのレベル
最下位ノード	CoreStats	ブール	関係	ノードに子がない場合、True を返します

Table 34-2 「ユーザー・ロールアップ」ノード・タイプの事前定義済プロパティ

プロパティ	ネームスペース	データ型	レベル	説明
名前	Core	文字列	ノード	ノード名
説明	Core	文字列	ノード	ノードの説明
親	CoreStats	ノード	関係	現在の位置にあるノードの親ノード名
レベル	CoreStats	整数	関係	階層セット内のノードのレベル
最下位ノード	CoreStats	ブール	関係	ノードに子がない場合は True

# 第 III 部

## ビジネス・シナリオ

次の各項では、ビジネス・シナリオおよび管理者やユーザーによって実行されるタスクについて説明します。

- [Planning](#) との統合
- [Oracle Financials Cloud](#) 一般会計との統合
- [汎用アプリケーションを使用した外部アプリケーションとの統合](#)
- [エンタープライズ・データのアプリケーション間での共有](#)
- [エンタープライズ・データのアプリケーション間での比較](#)
- [エンタープライズ・データのリスト形式での管理](#)
- [ソース・ディメンションのターゲット・ディメンションへのマッピング](#)
- [Data Relationship Management](#) から [Oracle Enterprise Data Management Cloud](#) へのエンタープライズ・データの移行
- [バインドされたビューポイントの変更による代替ビューポイントのエクスポート](#)
- [Oracle Enterprise Data Management Cloud](#) のバックアップおよびリストア
- [ガバナンス・ワークフローおよび承認の管理](#)
- [サブスクリプションおよびガバナンス・ワークフローを使用したアプリケーションの調整](#)

これらのビジネス・シナリオの目的に合わせて以下ようになります。

- 管理者は、ユーザーを設定する人物、または [Oracle Enterprise Data Management Cloud](#) の機能を構成する人物です。
- ユーザーはデータを管理する人物です。



# Planning との統合

このシナリオでは、Planning ウィザードを使用して Planning アプリケーションを管理する方法を示します。Planning アプリケーションの登録とディメンションのインポート、エンタープライズ・データの管理および変更内容のアプリケーションへのエクスポートのステップを説明します。

次のステップでは、Oracle Enterprise Data Management Cloud 内でエクスポートの登録プロセスを完了するために必要な管理タスクに重点を置きます。このシナリオではデータ管理タスクの一般的な概要のみを示します。

## 管理者のステップ

### 管理者の前提条件

Planning アプリケーションからのディメンション・エクスポートは、Planning ウィザードを使用しているときに必要です。Oracle Enterprise Data Management Cloud でインポートおよび管理するすべてのディメンションを含むディメンション・エクスポートを準備する必要があります。このエクスポートを作成し、ジョブを実行して、結果の.CSV ファイルが生成されて Planning の受信ボックス/送信ボックスに配置されるようにします。

[Planning およびフリーフォーム・アプリケーションの操作](#)を参照してください

### 管理者のプロセス

#### ノート:

アプリケーションを登録するには、「アプリケーション - 作成」ロールが必要です。アプリケーションを登録すると、アプリケーション・ビューおよびデフォルト・ビューに対する所有者権限が自動的に割り当てられます。

1. Planning アプリケーションを登録します。[Planning およびフリーフォーム・アプリケーションの登録](#)
2. 登録したディメンションをインポートします。[Planning およびフリーフォームの検証](#)
3. ユーザーに、Planning アプリケーションのディメンションの管理に必要なデータ・チェーン要素に対する適切なアクセス権を付与します。[ロールと権限の操作](#)
4. Planning アプリケーションにディメンションをエクスポートします。[Planning およびフリーフォーム・ディメンションのエクスポート](#)

### 管理者の詳細ステップ

#### ステップ 1: Planning アプリケーションの登録

Planning アプリケーションを登録するには:

1. 「アプリケーション」で、「登録」をクリックします。

The screenshot shows the 'Applications' page with a table of applications. The 'Register' button is highlighted with a red circle.

Name & Description	Type	Default View	Actions
<b>Corporate Close</b> Corporate Financial Close Application	Universal	Corporate Close Corporate Financial Close Application	Register
<b>Corporate Close 2013 Archive</b> Corporate Financial Close Application (2013 Archive)	Universal		
<b>Corporate Close 2014 Archive</b> Corporate Financial Close Application (2014 Archive)	Universal		
<b>Corporate Close 2015 Archive</b> Corporate Financial Close Application (2015 Archive)	Universal		
<b>Departments</b> Departments App	Universal	Departments Departments App	

2. 「Planning」を選択します。

The screenshot shows the 'New Application' page with a section titled 'Choose an Application Type'. The 'Planning' option is highlighted with a red box.

**New Application**

Choose an Application Type

- E-Business Suite General Ledger**  
Provides highly automated financial processing, effective management control, and real-time visibility to financial results.
- Financial Consolidation and Close**  
Provides an end to end solution for both effectively and efficiently managing the consolidation and close process.
- Financials Cloud General Ledger**  
Provides a modern finance experience and delivers success with streamlined processes, increased productivity, and improved business decisions.
- Planning**  
Provides a flexible planning application that supports enterprise-wide planning, budgeting, and forecasting in a cloud-based deployment model and includes custom and free form planning.
- Planning Modules**  
Provides pre-built business applications that support enterprise-wide planning, budgeting, and forecasting in a cloud-based deployment model.
- Universal**  
Manage enterprise data for any business application for which a packaged application type does not exist. This application can be Oracle or non-Oracle, cloud or on premise, or managed by a third-party system.

3. 名前と説明を入力します。

The screenshot shows the 'New Application' page with a section titled 'Enter the Application Instance Information for the Application'. The 'Name' field contains 'PBCS Application' and the 'Description' field contains 'Main Oracle Planning and Budgeting Cloud application'.

**New Application**

Enter the Application Instance Information for the Application

Name \* PBCS Application

Description Main Oracle Planning and Budgeting Cloud application

4. Planning アプリケーションへの接続情報を入力します。

## New Application

Enter connection information

Connection Name \* PBCS Production Application 01

Connection Description  
Connection to the production PBCS server

Instance Location \* http://<<server\_name>>:443

Identity Domain

Username \* User

Password \*

Primary Connection

5. キューブを定義します。

## PBCS Application

1.Cubes (0) Define the Cube

2.Application Settings

3.Dimensions (0)

4.Summary

Cube Name \* Cube1

Specify the cube type BSO

6. アプリケーションの設定を構成します。

## PBCS Application

1.Cubes (1)

2.Application Settings Define Application Settings

3.Dimensions (0)

4.Summary

Enter the Alias Tables \* English × Default ×

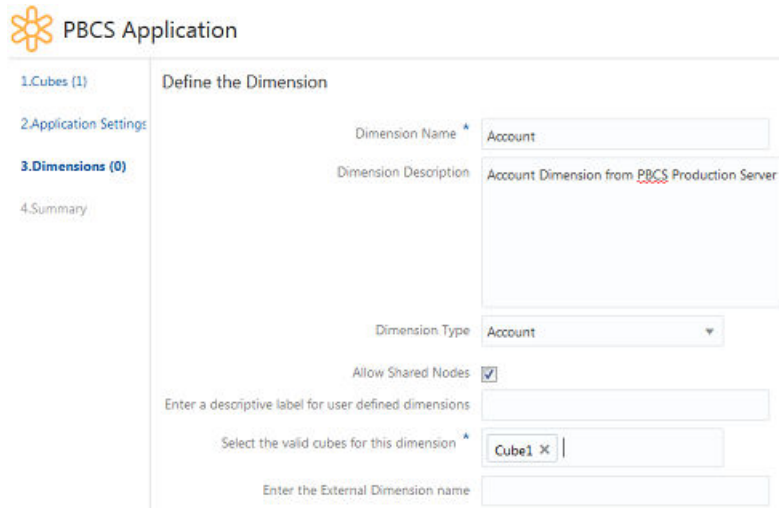
Specify the Weekly Distribution Type for this application Even

Is this application Multi-Currency?

Enter the currencies for the system \* usd ×

Enter the Smart Lists

7. Planning アプリケーションからインポートするディメンションを定義します。



**PBCS Application**

1.Cubes (1)  
2.Application Settings  
**3.Dimensions (0)**  
4.Summary

**Define the Dimension**

Dimension Name \* Account

Dimension Description Account Dimension from PBCS Production Server

Dimension Type Account

Allow Shared Nodes

Enter a descriptive label for user defined dimensions

Select the valid cubes for this dimension \* Cube1

Enter the External Dimension name

8. 登録する基本ディメンションの属性ディメンションを定義します。



**PBCS Application**

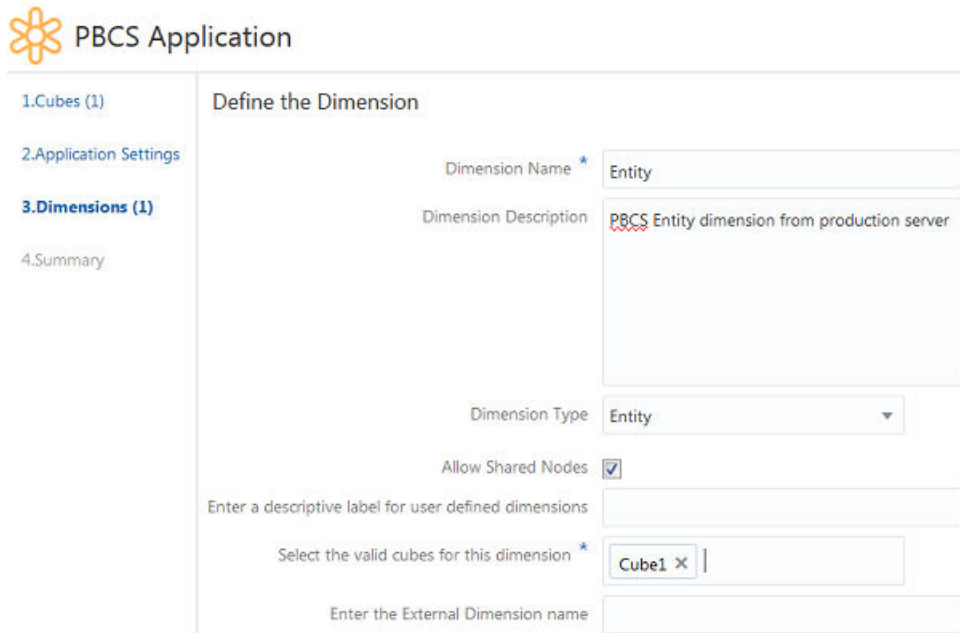
1.Cubes (1)  
2.Application Settings  
**3.Dimensions (0)**  
4.Summary

**Define the Attribute Dimension**

Attribute Name \*

Attribute Values \*

9. 他のディメンションとその属性ディメンションを登録に追加します。



**PBCS Application**

1.Cubes (1)  
2.Application Settings  
**3.Dimensions (1)**  
4.Summary

**Define the Dimension**

Dimension Name \* Entity

Dimension Description PBCS Entity dimension from production server

Dimension Type Entity

Allow Shared Nodes

Enter a descriptive label for user defined dimensions

Select the valid cubes for this dimension \* Cube1

Enter the External Dimension name

10. すべての登録情報を確認し、「適用」をクリックして Planning アプリケーションを登録します。

**PBCS Application**

1.Cubes (1)  
2.Application Settings  
3.Dimensions (2)  
4.Summary

Review the registration before applying changes

**Cubes (1)**  
Cube  
Cube Name: Cube1  
Specify the cube type: BSO

**Application Settings**  
Enter the Alias Tables: English  
Default  
Specify the Weekly Distribution Type for this application: Even  
Is this application Multi-Currency?: False  
Enter the currencies for the system: usd

**Dimensions (2)**  
Dimension  
Dimension Name: Account  
Dimension Description: Account Dimension from PBCS Production Server  
Dimension Type: Account  
Allow Shared Nodes: True  
Enter a descriptive label for user defined dimensions  
Select the valid cubes for this dimension: Cube1  
Enter the External Dimension name

## ステップ 2: 登録したディメンションのインポート

PBCS Application 01

Dimensions

Account Last imported: Never
Entry Last imported:

Configure export for Account

Settings

Export Target: Connection  
Connection: PBCS Production Server  
File: zpmedMetadata\_Account.csv

Summary

Dimension Type: Account  
Viewpoint: Account

History

Last Exported: Never  
Imported by:  
Connection: None  
Messages:

## ステップ 3: ユーザーによる変更の実装

このステップでは、ユーザーがエンタープライズ・データに変更を加えます。

## ステップ 4: Planning アプリケーションへのディメンションのエクスポート

エクスポートする前に:

- ディメンションがバインドされていることを確認します。
  - [バインディング・ルールの理解](#)
  - [Planning およびフリーフォーム・アプリケーションのバインディング・ルール](#)
- ビューポイントを検証します。
  - [ビューポイントの検証](#)
  - [検証の問題の解決](#)
  - [Planning およびフリーフォームの検証](#)

「アプリケーション」カードから、**Planning** アプリケーションの接続を選択します。インポートするために、ユーザーは「エクスポート・ターゲット」、「接続」および「ファイル」を指

定できます。Oracle Enterprise Data Management Cloud から Planning アプリケーションにエクスポートするディメンションごとに、このステップを繰り返します。

PBCS Application 01

**Dimensions**

- Account  
Last Exported: Never
- Entity  
Last Exported:

**Configure export for: Account**

Settings:

Export Target: Connection

Connection: PBCS Production Server

File: ExportedMetadata\_Account.csv

Summary

Dimension Type: Account  
Viewpoint: Account

History

Last Exported: Never  
Exported By:  
Connection: None  
Messages:

ファイルがエクスポートされたら、これらの変更のインポートに関する Planning アプリケーションの手順に従います。

## ユーザーのステップ

### ユーザーの前提条件

管理者は、このシナリオのステップに従って、Planning アプリケーションを正常に登録し、エンタープライズ・データ要素をインポートする必要があります。その後、セキュリティ権限に基づいてエンタープライズ・データを管理できます。

### ユーザー・プロセス

実行できるタスクの概要を次に示します。

- メンテナンス・ビューとビューポイントを作成します。[ビューポイントの操作](#)を参照してください
- 左右並びレイアウトを使用して比較し、ビュー内のビューポイント間でノードを合理化します。[ビューポイントの比較](#)を参照してください
- ノードとプロパティを更新し、仮定分析用に代替階層を更新します。[対話型での変更](#)を参照してください
- ある階層から別の階層にノードをマップします。[マッピング・ビューポイントの作成](#)を参照してください
- 勘定科目などのエンタープライズ・データをロードします。[ロード・ファイルを使用する変更](#)を参照してください
- 「要求」リストでドラフト要求と完了した要求を参照します。[要求アクティビティの操作](#)を参照してください

## 結果

Enterprise Data Management Cloud に Planning and Budgeting Cloud アプリケーションを登録したので、このアプリケーションおよび登録されている他のアプリケーション全体で変更をプロアクティブに管理できます。管理するディメンションをインポートし、Enterprise Data Management Cloud から Planning and Budgeting Cloud に変更

を正常にエクスポートしました。いつどこで誰が変更を行ったかを知るための完全な要求アクティビティ 監査情報を入手しました。

## Oracle Financials Cloud 一般会計との統合

このシナリオでは、Oracle Financials Cloud 一般会計の値セットを管理できるように、Oracle Enterprise Data Management Cloud アプリケーションを構成する方法を説明します。

Oracle Enterprise Data Management Cloud アプリケーションを作成する方法、テンプレートを使用して Oracle Financials Cloud 一般会計から勘定科目情報をインポートしアプリケーションにデータを移入する方法、データに変更を加える方法、データを Oracle Financials Cloud 一般会計にエクスポートして戻す方法、一般会計サービスに変更内容をロードする方法、勘定科目階層を公開する方法をステップを追って説明します。

Oracle Enterprise Data Management Cloud と Oracle Financials Cloud 一般会計は異なるデータ・モデル上に構築されているため、違う用語もあります。次の表に、Oracle Enterprise Data Management Cloud の用語と Oracle Financials Cloud の対応する表現を示しています。

Oracle Enterprise Data Management Cloud の用語	Oracle Financials Cloud 一般会計の対応する表現
ノード	値
ディメンション	セグメント
リスト・ビューポイント	値セットの値リスト
階層ビューポイント	ツリー・コード内のツリー・バージョンの関係

## Oracle Enterprise Data Management Cloud 管理者のステップ

### Oracle Enterprise Data Management Cloud: 管理者の前提条件

勘定体系値セットを Oracle Financials Cloud 一般会計に設定しておく必要があります。値セットに階層が含まれる場合は、ツリー構造も設定する必要があります。

アプリケーションを登録するには、「アプリケーション-作成」ロールが必要です。アプリケーションを登録すると、アプリケーション・ビューおよびデフォルト・ビューに対する所有者権限が自動的に割り当てられます。Oracle Financials Cloud サービスでファイルを Universal Content Management (UCM)モジュールにアップロードするための権限も必要です(たとえば、財務アプリケーション管理者ジョブ・ロール)。

### Oracle Enterprise Data Management Cloud: 管理者のプロセス

1. Oracle Enterprise Data Management Cloud への Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションの登録。[Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションの登録](#)を参照してください。
2. Oracle Financials Cloud 一般会計の勘定体系値セットの Oracle Enterprise Data Management Cloud へのインポート。[Oracle Financials Cloud 一般会計ディメンションのインポート](#)を参照してください。



## 詳細なステップ

### 次も参照:





- [ステップ 1: Oracle Enterprise Data Management Cloud への Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションの登録](#)
- [ステップ 2: Oracle Financials Cloud 一般会計の値セットの Oracle Enterprise Data Management Cloud へのインポート](#)

## ステップ 1: Oracle Enterprise Data Management Cloud への Oracle Financials Cloud 一般会計アプリケーションの登録


1. 「アプリケーション」から、「登録」をクリックします。

Applications Register







🔍 ▼

Name and Description	Type	Default View
 <b>Acquired GL (Legacy)</b> General ledger from acquired company	Universal	<b>Acquired GL (Legacy)</b> Acquired GL Chart of Accounts
 <b>Corporate Planning</b> Corporate Planning	Planning Modules	<b>Corporate Planning</b> Corporate Planning
 <b>E-Business Suite GL</b> E-Business Suite General Ledger	E-Business Suite General Ledger	<b>EBS Chart of Accounts</b> E-Business Suite GL Chart of Accounts
 <b>Financial Consolidation and Close</b> Financial Consolidation and Close	Financial Consolidation and Close	<b>Financial Consolidation and Close</b> Financial Consolidation and Close Defau...

2. 「Financials Cloud 一般会計」アプリケーション・タイプを選択します。

 New Application

Choose an Application Type

 <b>E-Business Suite General Ledger</b> Provides highly automated financial processing, effective management control, and real-time visibility to financial results.	 <b>Financial Consolidation and Close</b> Provides an end to end solution for both effectively and efficiently managing the consolidation and close process.
 <b>Financials Cloud General Ledger</b> Provides a modern finance experience and delivers success with streamlined processes, increased productivity, and improved business decisions.	 <b>Planning</b> Provides a flexible planning application that supports enterprise-wide planning, budgeting, and forecasting in a cloud-based deployment model and includes custom and free form planning.
 <b>Planning Modules</b> Provides pre-built business applications that support enterprise-wide planning, budgeting, and forecasting in a cloud-based deployment model.	 <b>Universal</b> Manage enterprise data for any business application for which a packaged application type does not exist. This application can be Oracle or non-Oracle, cloud or on premise, or managed by a third-party system.

3. 「追加」をクリックして、外部の Oracle Financials Cloud 一般会計サービスに対する接続情報を指定します。

## New Application

Back Next Cancel

Configure external system connections

Connections

Add

Application is not connected to an external system.

4. 外部の Oracle Financials Cloud 一般会計サービスの接続詳細を入力し、「次」をクリックします。

## New Application

Enter connection information

Connection Name *	Financials Cloud
Connection Description	Oracle Financials Cloud GL
Instance Location *	https://
Identity Domain	
Username *	casey.brown
Password *	.....
Primary Connection	<input checked="" type="checkbox"/>

5. 「次」をクリックします。

## New Application

Back Next Cancel

Configure external system connections


Connections

Add

### Financials Cloud (Primary Connection)

Oracle Financials Cloud GL

6. 「アプリケーション・サマリー」画面で「作成」をクリックします。

 New Application Back **Create** Cancel

Application Summary

Application	
Name	Financials Cloud
Description	Financials Cloud GL

---

Connections instance (1)	
<u>Connections instance</u>	
Connection Name	Financials Cloud
Connection Description	Oracle Financials Cloud GL
Instance Location	https://[REDACTED]
Identity Domain	
Username	casey.brown
Primary Connection	True

7. 「財務設定」画面で次の情報を入力し、「次」をクリックします。
- **アクティブ言語:** Oracle Financials Cloud アプリケーションでステータスが「アクティブ」になる言語。
  - **ベース言語:** アクティブ言語の中からベース言語を 1 つ選択します。
  - **複数のアクティブ・ツリー・バージョンを許可:** ツリー構造定義で複数のアクティブ・ツリー・バージョンを許可します。
  - **複数のルート・ノードを許可:** 階層内で複数のルート・ノードを有効にします。
  - **重複ノードを許可:** 共有ノードを有効にします。
  - **最大深さ:** ツリー構造のデータの深さ限度を入力するか、ツリー構造に深さ限度がない場合は「-1」を入力します。

#### Financial Setup

Active Languages \*

Base Language \*


Allow Multiple Active Tree Versions

Allow Multiple Root Nodes

Allow Duplicate Nodes

Max Depth (-1 means no max) \*

8. 「セグメント」ページで次のセグメント情報を入力し、「次」をクリックします。
- **値セット・コード:** Oracle Financials Cloud アプリケーションの値セット・コードを入力します。
  - **値セットの説明:** 値セットの説明を入力します。
  - **標準勘定科目セグメント:** このセグメントが勘定体系で標準勘定科目として使用される場合に選択します。
  - **値のタイプ:** 値セットの値がテキストか数値かを指定します。
  - **最大長:** 値セットの値の最大文字長を入力します。

 Financials Cloud  
Financials Cloud GL

1. Financial Setup  
**2. Segments (0)**  
3. Financial Categories (0)  
4. Summary

Segment Information

Value Set Code \* Corporate Account


Value Set Description

Natural Account Segment

Value Type Text

Max Length \* 8

9. 値タイプ定義ページで、最小値と最大値を入力し、テキストを大文字にしたり最大文字長まで 0 を埋め込んだりする必要があるかを指定し、「次」をクリックします。

 Financials Cloud  
Financials Cloud GL

1. Financial Setup  
**2. Segments (0)**  
3. Financial Categories (0)  
4. Summary

Value Type Definition for the Corporate Account Segment

Text Min Value

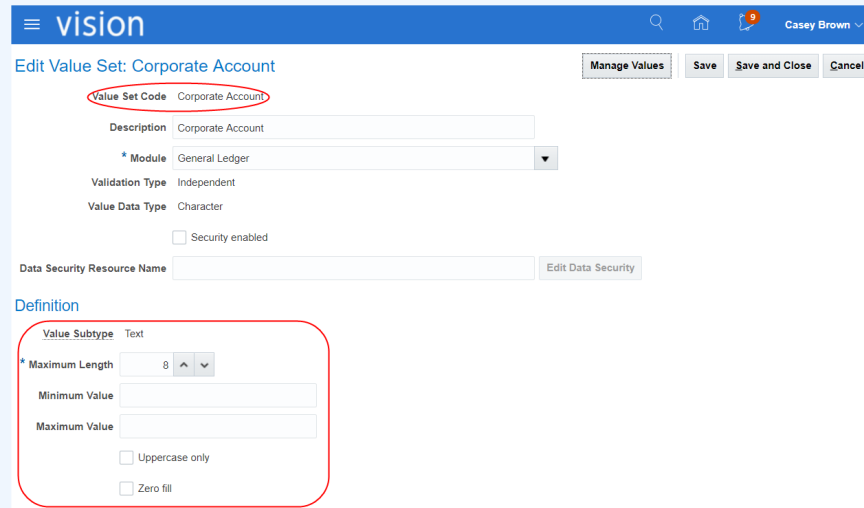
Text Max Value

Uppercase

Zero Fill

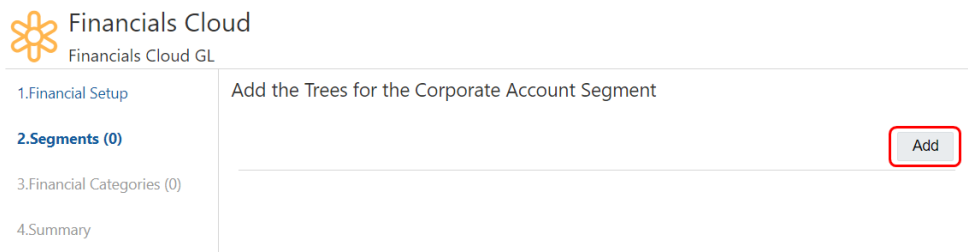
 ノート:

前のステップでの「セグメント情報」および値タイプ定義のフィールドの設定は、Oracle Financials Cloud の値セットの対応する設定と一致する必要があります。Oracle Financials Cloud 一般会計のこれらの設定を調べるには、**値セットの管理**タスクを使用します。



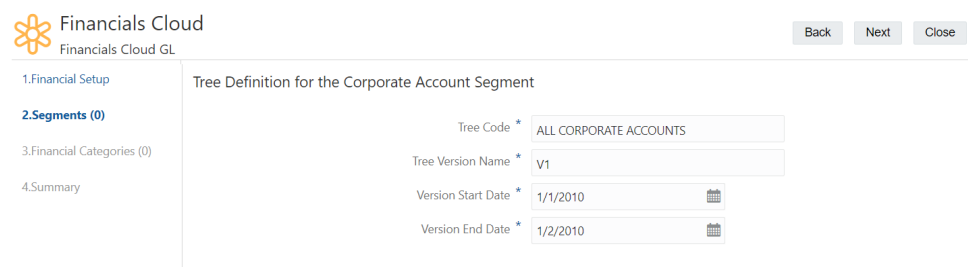
The screenshot shows the 'Edit Value Set: Corporate Account' interface. The 'Value Set Code' field is highlighted with a red circle. Below it, the 'Description' is 'Corporate Account', 'Module' is 'General Ledger', 'Validation Type' is 'Independent', and 'Value Data Type' is 'Character'. The 'Definition' section is also highlighted with a red circle, showing 'Value Subtype' as 'Text', 'Maximum Length' as '8', and checkboxes for 'Uppercase only' and 'Zero fill'.

10. 次に、Corporate Account セグメントのツリーを追加します。「追加」をクリックします。



The screenshot shows the 'Add the Trees for the Corporate Account Segment' screen. The 'Add' button is circled in red. The left sidebar shows the navigation menu with '2.Segments (0)' selected.

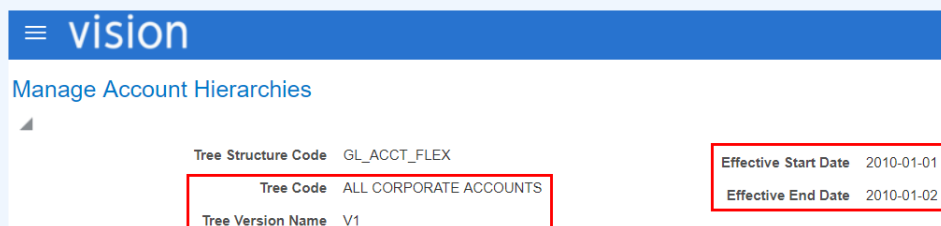
11. 「ツリー・コード」、「ツリー・バージョン名」、「バージョン開始日」および「バージョン終了日」を入力し、「次」をクリックします。



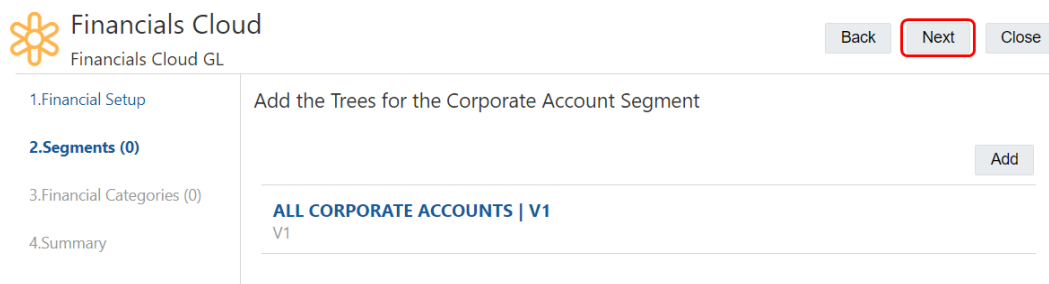
The screenshot shows the 'Tree Definition for the Corporate Account Segment' screen. The 'Tree Code' is 'ALL CORPORATE ACCOUNTS', 'Tree Version Name' is 'V1', 'Version Start Date' is '1/1/2010', and 'Version End Date' is '1/2/2010'. The 'Next' button is visible in the top right corner.

 ノート:

ツリー定義は、Oracle Financials Cloud 勘定科目階層の対応するツリーと一致する必要があります。Oracle Financials Cloud 一般会計のこれらの設定を調べるには、**勘定科目階層の管理**タスクを使用します。



12. 「次」をクリックして、「セグメントの追加」ページに戻ります。



13. 「追加」をクリックしてセグメントとツリーの追加を続行し、終了したら「次」をクリックします。このシナリオでは、Corporate Company、Corporate Cost Center、Corporate LoB および Corporate Product のセグメントを追加しました。

Financials Cloud  
Financials Cloud GL

Back Next Close

1. Financial Setup  
2. Segments (5)  
3. Financial Categories (49)  
4. Summary

Add Segments

Add

**Corporate Account**  
Corporate Account

**Corporate Company**  
Corporate Company

**Corporate Cost Center**  
Corporate Company

**Corporate LoB**  
Corporate Line of Business

**Corporate Product**  
Corporate Product

14. 「財務カテゴリ」 ページで「次」をクリックします。

 ノート:

「財務カテゴリ」 ページに、Oracle Financials Cloud 一般会計のデフォルトの財務カテゴリがリスト表示されます。Oracle Financials Cloud 一般会計サービスの財務カテゴリを編集した場合は、変更済の値と一致するようにここで設定を変更できます。

Financials Cloud  
Financials Cloud GL

Back Next Close

1. Financial Setup  
2. Segments (5)  
3. Financial Categories (49)  
4. Summary

Add the financial categories

Add

**Accounts payable**  
AP

**Accounts receivable**  
AR

**Accrued liabilities**  
ACC LIAB

**Accumulated depreciation**  
ACC DEPCN

**Cash**  
CASH

15. 登録のサマリーを確認して、「適用」をクリックします。

## ステップ 2: Oracle Financials Cloud 一般会計の値セットの Oracle Enterprise Data Management Cloud へのインポート

次に、Oracle Enterprise Data Management Cloud で管理しようとする値セットのデータをインポートします。Oracle Financials Cloud 一般会計からデータをインポートする方法はいくつかあります。このシナリオでは、ChartofAccountsSegmentValuesandHierarchiesImportTemplate.xlsxm テンプレートを使用したデータのインポートについて説明します。テンプレートの使用方法の詳細は、*Oracle Financials Cloud* のファイルベース・データ・インポートのセグメント値および階層のインポートを参照してください

テンプレートを使用してインポート・ファイルを生成するには:

1. ChartofAccountsSegmentValuesandHierarchiesImportTemplate.xlsxm テンプレートで、Oracle Financials Cloud 一般会計値セットのセグメント値とセグメント値階層によって「GL\_SEGMENT\_VALUES\_INTERFACE」タブと「GL\_SEGMENT\_HIER\_INTERFACE」タブを更新します。

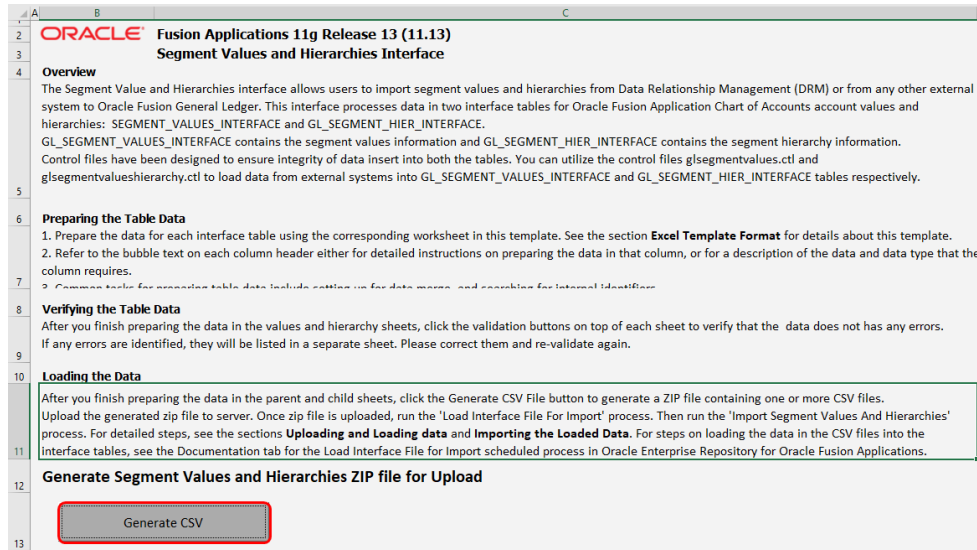
	A	B	C	D	E	Z	AA	AB	AC	AD	AE	AF	AG
1													Validate Segment Hierarchy
2	<b>Segment Value Hierarchies</b>												
3	* Required												
4	*Value Set Code	*Tree Code	*Tree Version Name	*Tree Version Start Date	Tree Version End Date	Parent10	Parent9	Parent8	Parent7	Parent6	Parent5	Parent4	Parent3
5	Corporate Account	ALL CORPORATE ACCOUNTS	V1	2010/01/01	2010/01/02				T				
6	Corporate Account	ALL CORPORATE ACCOUNTS	V1	2010/01/01	2010/01/02					10000			
7	Corporate Account	ALL CORPORATE ACCOUNTS	V1	2010/01/01	2010/01/02						11000		
8	Corporate Account	ALL CORPORATE ACCOUNTS	V1	2010/01/01	2010/01/02							11101	
9	Corporate Account	ALL CORPORATE ACCOUNTS	V1	2010/01/01	2010/01/02							11102	
10	Corporate Account	ALL CORPORATE ACCOUNTS	V1	2010/01/01	2010/01/02							11103	
11	Corporate Account	ALL CORPORATE ACCOUNTS	V1	2010/01/01	2010/01/02							11200	
12	Corporate Account	ALL CORPORATE ACCOUNTS	V1	2010/01/01	2010/01/02							11300	
13	Corporate Account	ALL CORPORATE ACCOUNTS	V1	2010/01/01	2010/01/02							11501	
14	Corporate Account	ALL CORPORATE ACCOUNTS	V1	2010/01/01	2010/01/02							11502	
15	Corporate Account	ALL CORPORATE ACCOUNTS	V1	2010/01/01	2010/01/02							11503	
16	Corporate Account	ALL CORPORATE ACCOUNTS	V1	2010/01/01	2010/01/02						12000		
17	Corporate Account	ALL CORPORATE ACCOUNTS	V1	2010/01/01	2010/01/02							12101	
18	Corporate Account	ALL CORPORATE ACCOUNTS	V1	2010/01/01	2010/01/02							12102	
19	Corporate Account	ALL CORPORATE ACCOUNTS	V1	2010/01/01	2010/01/02							12103	



 **ノート:**

各タブの検証ボタンを使用してデータに検証の問題がないことを確認してから、インポート・ファイルを生成します。

- 手順および CSV 生成のタブで **CSV の生成** をクリックします。



**ORACLE Fusion Applications 11g Release 13 (11.13)**  
**Segment Values and Hierarchies Interface**

**Overview**  
The Segment Value and Hierarchies interface allows users to import segment values and hierarchies from Data Relationship Management (DRM) or from any other external system to Oracle Fusion General Ledger. This interface processes data in two interface tables for Oracle Fusion Application Chart of Accounts account values and hierarchies: SEGMENT\_VALUES\_INTERFACE and GL\_SEGMENT\_HIER\_INTERFACE. GL\_SEGMENT\_VALUES\_INTERFACE contains the segment values information and GL\_SEGMENT\_HIER\_INTERFACE contains the segment hierarchy information. Control files have been designed to ensure integrity of data insert into both the tables. You can utilize the control files glsegmentvalues.ctf and glsegmentvalueshierarchy.ctf to load data from external systems into GL\_SEGMENT\_VALUES\_INTERFACE and GL\_SEGMENT\_HIER\_INTERFACE tables respectively.

**Preparing the Table Data**  
1. Prepare the data for each interface table using the corresponding worksheet in this template. See the section **Excel Template Format** for details about this template.  
2. Refer to the bubble text on each column header either for detailed instructions on preparing the data in that column, or for a description of the data and data type that the column requires.  
3. Common table for preparing table data include setting up for data merge, and specifying for internal identifier.



**Verifying the Table Data**  
After you finish preparing the data in the values and hierarchy sheets, click the validation buttons on top of each sheet to verify that the data does not have any errors. If any errors are identified, they will be listed in a separate sheet. Please correct them and re-validate again.

**Loading the Data**  
After you finish preparing the data in the parent and child sheets, click the Generate CSV File button to generate a ZIP file containing one or more CSV files. Upload the generated zip file to server. Once zip file is uploaded, run the 'Load Interface File For Import' process. Then run the 'Import Segment Values And Hierarchies' process. For detailed steps, see the sections **Uploading and Loading data** and **Importing the Loaded Data**. For steps on loading the data in the CSV files into the interface tables, see the Documentation tab for the Load Interface File for Import scheduled process in Oracle Enterprise Repository for Oracle Fusion Applications.


**Generate Segment Values and Hierarchies ZIP file for Upload**

Generate CSV

- テンプレートによって 2 つの CSV ファイルを含む `glsegmentvaluesandhierarchy.zip` が作成されたことを確認します。
  - `GlSegmentValuesInterface.csv`
  - `GlSegmentHierInterface.csv`

 GlSegmentHierInterface.csv	Microsoft Excel Comma S...	2 KB
 GlSegmentValuesInterface.csv	Microsoft Excel Comma S...	1 KB

生成されたファイルをインポートするには:

- 「アプリケーション」で「Financials Cloud」までスクロールし、 をクリックしてから「インポート」を選択します。

Applications Register

7 Applications

Name & Description	Type	Default View	Primary Connection	Actions
Acquired GL (Legacy) General ledger from acquired company	Universal	Acquired GL (Legacy) Acquired GL Chart of Accounts		
Corporate Planning (EPBCS) Corporate planning application	Enterprise Planning and Budgeting Cloud	Corporate Planning (EPBCS) Corporate Planning dimensions	Production Production Pod	
Cost Center (Draft) NB_Test_Cost_Center	Universal	Cost Center Cost Center Default View		
Financial Consolidation and Close Financial consolidation application	Universal	Financial Consolidation and Close Financial Consolidation and Close dimensions		
Financials Cloud Financials Cloud GL	Financials Cloud General Ledger	Financials Cloud Financials Cloud GL segments	Financials Cloud Oracle Financials Cloud GL	<ul style="list-style-type: none"> <li>Inspect</li> <li>Modify Registration</li> <li>Import</li> <li>Export</li> <li>Export Mapping</li> <li>Delete</li> </ul>
Planning and Budgeting Planning and budgeting application	Planning and Budgeting Cloud	Cost Center Redesign Combine Departments and Cost Centers into enterprise structure	None	
Reference Data Reference Data; Geo, Product 18.10	Universal	Reference Data Reference Data for Products and Geo		

2. 左側の列で、データのインポート先のディメンションを選択します。

## Financials Cloud

**Dimensions**

- Corporate Account  
Last Imported: Never
- Corporate Company  
Last Imported: Never
- Corporate Cost Center  
Last Imported: Never
- Corporate LoB  
Last Imported: Never
- Corporate Product  
Last Imported: Never

**Configure import for: Corporate Account**

Settings

Import Source File

Click to select or drop file here

File Name glsegmentvaluesandhierarchy.zip

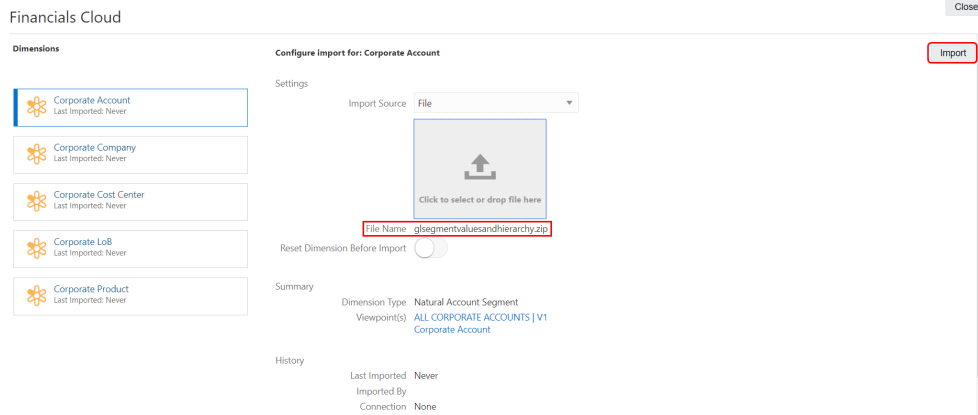
Reset Dimension Before Import

Summary

Dimension Type Natural Account Segment

Viewpoint(s) ALL CORPORATE ACCOUNTS | V1  
Corporate Account

3. 「ファイル名」に、テンプレートから作成した glsegmentvaluesandhierarchy.zip ファイルを指定し、「インポート」をクリックします。



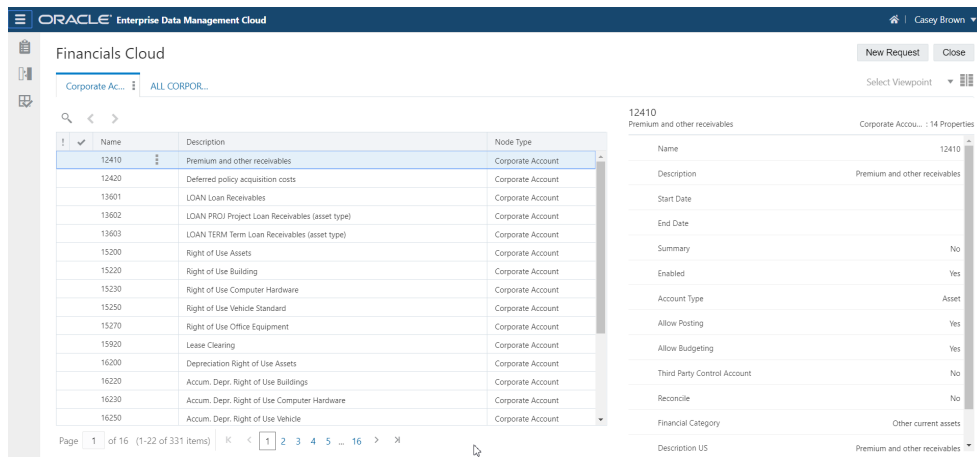
データが正常にインポートされたことを確認するには:

1. 「ビュー」で、アプリケーションの作成時に作成された Financials Cloud デフォルト・ビューを選択します。

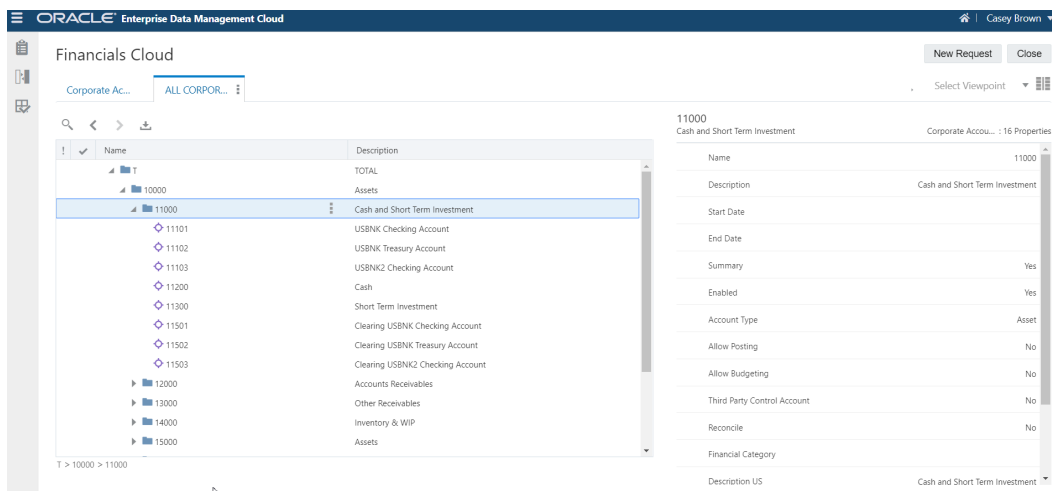
Views

Name & Description	Created	Last Modified
Acquired GL (Legacy) Acquired GL Chart of Accounts	Casey Brown 11/9/2017	Casey Brown 11/9/2017
Corporate GL (Financials Cloud) Corporate general ledger chart of accounts	Administrator 9/12/2018	Casey Brown 9/12/2018
Corporate Planning (EPBCS) Corporate Planning dimensions	Denise Adams 11/8/2017	Denise Adams 11/9/2017
Cost Center Redesign Combine Departments and Cost Centers into enterprise structure	Maria Jones 11/16/2017	Denise Adams 11/16/2017
Entity Maintenance Manage business entities across GL, Consolidation, and Planning	Casey Brown 11/16/2017	Casey Brown 11/16/2017
Financial Consolidation and Close Financial Consolidation and Close dimensions	Denise Adams 11/16/2017	Casey Brown 11/16/2017
Financials Cloud Financials Cloud GL segments	Casey Brown 8/16/2018	Casey Brown 9/12/2018

2. Corporate Account ビューポイントにリスト形式でノードが含まれていることを確認します。



3. ALL CORPORATE ACCOUNTS ビューポイントにノード階層が含まれることを確認します。



データをインポートして確認したら、ユーザーに権限を割り当てる必要があります。このシナリオでは、ユーザーのステップとして、ノードの追加とデータの Oracle Financials Cloud 一般会計へのエクスポートを行います。ユーザーがディメンションからデータをエクスポートするには、そのディメンションに対するデータ・マネージャ権限を保有する必要があります。権限の操作を参照してください。

## Oracle Enterprise Data Management Cloud: ユーザーのステップ

### Oracle Enterprise Data Management Cloud: ユーザーの前提条件

Corporate Account ディメンションからデータをエクスポートするにはそのディメンションに対するデータ・マネージャ権限が必要です。

### Oracle Enterprise Data Management Cloud: ユーザーのプロセス

Financials Cloud アプリケーションには次の勘定科目が含まれています。

- 11101: USBNK Checking Account
- 11102: USBNK Treasury Account
- 11103: USBNK2 Checking Account

このシナリオでは、勘定科目として 11104: USBNK2 Treasury Account を追加し、変更内容を Oracle Financials Cloud 一般会計にエクスポートして戻します。

手順は次のとおりです。

1. Oracle Enterprise Data Management Cloud での新しい勘定科目の追加。ノードの階層への追加を参照してください。
2. 変更した勘定体系データの Oracle Financials Cloud 一般会計へのエクスポート。Oracle Financials Cloud 一般会計ディメンションのエクスポートを参照してください。

## Oracle Enterprise Data Management Cloud: ユーザーの詳細なステップ

ノードを追加するには:

1. 「ビュー」で、Financials Cloud デフォルト・ビューをクリックします。

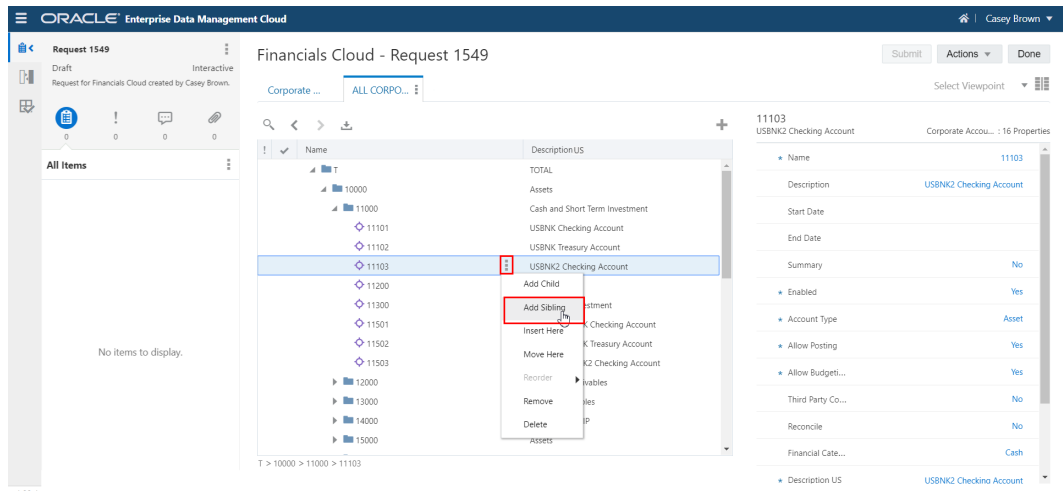
Views

Name & Description	Created	Last Modified
Acquired GL (Legacy) Acquired GL Chart of Accounts	Casey Brown 11/9/2017	Casey Brown 11/9/2017
Corporate GL (Financials Cloud) Corporate general ledger chart of accounts	Administrator 9/12/2018	Casey Brown 9/12/2018
Corporate Planning (EPBCS) Corporate Planning dimensions	Denise Adams 11/8/2017	Denise Adams 11/9/2017
Cost Center Redesign Combine Departments and Cost Centers into enterprise structure	Maria Jones 11/16/2017	Denise Adams 11/16/2017
Entity Maintenance Manage business entities across GL, Consolidation, and Planning	Casey Brown 11/16/2017	Casey Brown 11/16/2017
Financial Consolidation and Close Financial Consolidation and Close dimensions	Denise Adams 11/16/2017	Casey Brown 11/16/2017
Financials Cloud Financials Cloud GL segments	Casey Brown 8/16/2018	Casey Brown 9/12/2018

2. 「新規要求」をクリックします。

The screenshot shows the Oracle Enterprise Data Management Cloud interface. The top navigation bar includes the Oracle logo and 'Enterprise Data Management Cloud'. The user 'Casey Brown' is logged in. The main content area is titled 'Financials Cloud' and shows a list of accounts under the 'ALL CORPORATE' view. The account '11104 USBNK Treasury Account' is selected. On the right side, the 'Properties' panel for this account is visible, with the 'New Request' button highlighted in red. The 'Description US' field is also visible at the bottom right.

3. ALL CORPORATE ACCOUNTS ビューポイントで、ノード 11103 に移動し、をクリックして「兄弟の追加」を選択します。



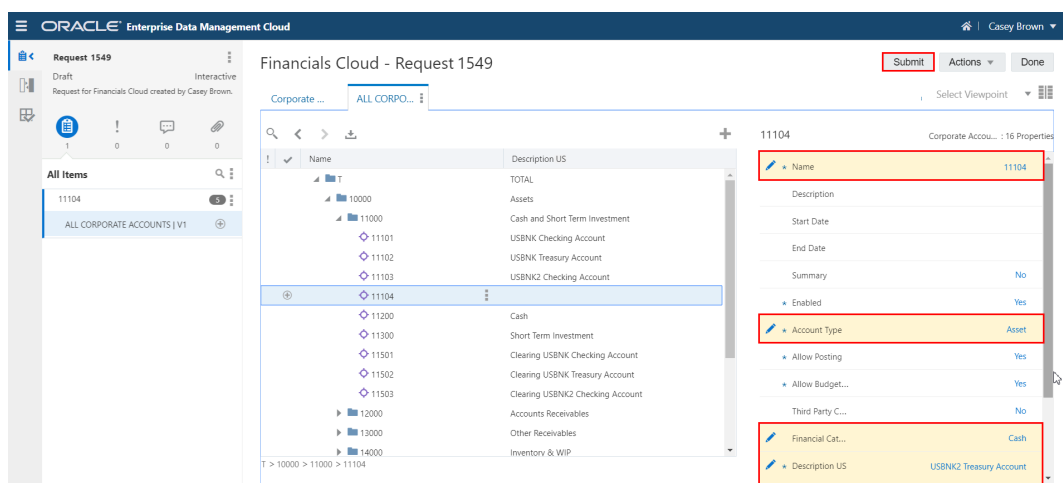
4. プロパティ・パネルで次のプロパティを入力し、「送信」をクリックします。

- 名前: 11104
- 説明(US): USBNK2 Treasury Account

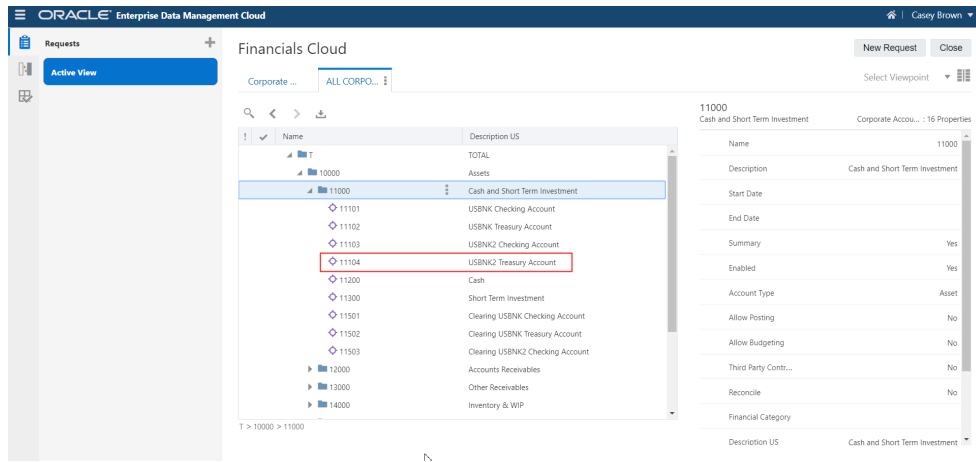
#### ノート:

表示される列にベース言語の説明プロパティ(説明(US)など)を追加すると、この手順の画像に示すように説明が表示されます。


- 勘定科目タイプ: 資産
- 財務カテゴリ: 現金

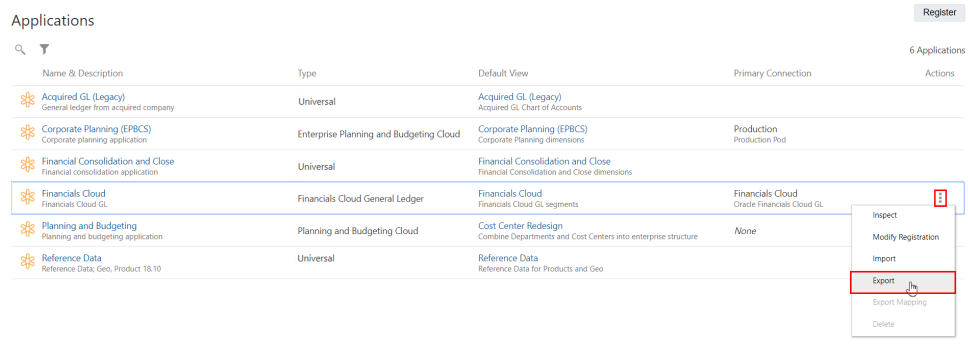


5. ノードがビューポイントに追加されたことを確認します。



ディメンションをエクスポートするには:

1. 「アプリケーション」で「Financials Cloud」までスクロールし、 をクリックしてから「エクスポート」を選択します。



2. エクスポート画面で、次のアクションを行います。
  - a. 「Corporate Account」ディメンションを選択します
  - b. 「エクスポート・ターゲット」で「接続」を選択します。
  - c. 「Financials Cloud」接続を選択します。
  - d. ファイル名(EDMCS\_Corporate\_Account\_Export\_031819.zip など)を入力します。
  - e. 「エクスポート」をクリックします。

## Oracle Financials Cloud 一般会計: ユーザーのステップ

### Oracle Financials Cloud 一般会計: ユーザーの前提条件

インタフェース・ファイルのインポートとロード、セグメント値と階層の更新、および勘定科目階層の公開には、財務アプリケーション管理者のジョブ・ロールが必要です。

### Oracle Financials Cloud 一般会計: ユーザー・プロセス


1. Oracle Financials Cloud 一般会計への変更済の勘定体系データのインポートとロード。*Oracle Financials Cloud Financials* の共通機能の実装の [Oracle Cloud の外部データ統合サービス](#) を参照してください。
2. Oracle Financials Cloud 一般会計での変更済の勘定体系データの確認。*Enterprise Structures and General Ledger* の実装の [ツリーおよびツリー・バージョンの管理](#) を参照してください。
3. Oracle Financials Cloud 一般会計での変更済の勘定体系データの公開。*Enterprise Structures and General Ledger* の実装の [勘定科目階層の公開: 例](#) を参照してください。

## 詳細なステップ

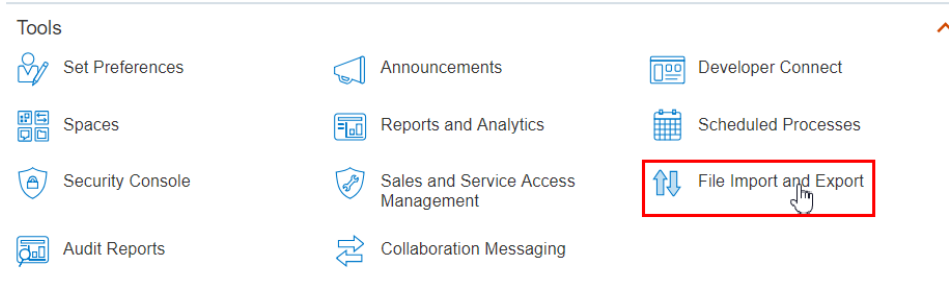
### 次も参照:

- [ステップ 1: Oracle Financials Cloud での勘定体系データのインポートとロード](#)
- [ステップ 2: Oracle Financials Cloud 一般会計でのエクスポート・データの検証](#)
- [ステップ 3: Oracle Financials Cloud 一般会計の更新済階層の公開](#)

## ステップ 1: Oracle Financials Cloud での勘定体系データのインポートとロード

1. Oracle Financials Cloud で、 をクリックし、「ツール」の下の **ファイルのインポートとエクスポート** を選択します。





2. 「勘定科目」ドロップダウン・メニューで `fin/generalLedger/import` を選択し、「検索」をクリックします。

## Overview

### Search

The screenshot shows a search form with the following fields and controls:

- File:
- Account: **fin/generalLedger/import** (dropdown menu, highlighted with a red box)
- Processed:
- Process ID:
- Owner:
- Upload Date Later Than:  (calendar icon)
- Last Updated Date Later Than:  (calendar icon)
- Search:  (highlighted with a red box)
- Reset:

3. Oracle Enterprise Data Management Cloud でエクスポート・ファイルの名前をクリックし、CSV ファイルをダウンロードします。

vision

Overview

Search

File

Account

Processed

Process ID

Owner

Upload Date Later Than

Last Updated Date Later Than

Search Results


Actions View + X

File	Account	Owner	Upload Date	Process ID
EDMCS_Corporate_Account_Ex...	fin/generalLedger/import	casey.brown	3/29/19 5:08 PM	1494916
EDMCS_Corporate_Account_Ex...	fin/generalLedger/import	casey.brown	3/18/19 3:19 PM	1494228
bk1gsegmentvaluesandhierarchy...	fin/generalLedger/import	FIN_IMPL	3/13/19 10:03 PM	1494075
gsegmentvaluesandhierarchy.zip	fin/generalLedger/import	FIN_IMPL	3/8/19 11:13 PM	1493974
GlBudgetDataJan19.Zip	fin/generalLedger/import	CASEY.BROWN	1/14/19 3:55 PM	


4. 各 CSV ファイルを開いて内容を確認し、正しいデータがロードされるようにします。


This PC > Downloads > EDMCS\_Corporate\_Account\_Export\_031819.zip


Name	Type	Compressed size	Password p...	Size	Ratio	Date modified
GlSegmentHierInterface.csv	Microsoft Excel Comma S...	2 KB	No	27 KB	96%	3/18/2019 11:19 AM
GlSegmentValuesInterface.csv	Microsoft Excel Comma S...	5 KB	No	34 KB	87%	3/18/2019 11:19 AM


5. Oracle Financials Cloud で、 をクリックし、「ツール」の下のスケジュール済プロセスを選択します。


Tools ^


 Set Preferences


 Announcements


 Developer Connect


 Spaces


 Reports and Analytics


 Scheduled Processes

 Security Console

 Sales and Service Access Management

 File Import and Export

 Audit Reports

 Collaboration Messaging

6. 新しいプロセスのスケジュールをクリックします。

Overview

Search Results

View: Flat List | Hierarchy

Actions: Schedule New Process | Resubmit | Put On Hold | Cancel Process | Release Process | View Log

Name	Process ID	Status	Scheduled Time	Submission Time	Completion Time
Import User and Role Application Security Data	1494224	Succeeded	3/18/19 9:22 AM UTC	3/18/19 9:22 AM UTC	3/18/19 9:30 AM UTC
Import User and Role Application Security Data	1494223	Succeeded	3/18/19 9:07 AM UTC	3/18/19 9:07 AM UTC	3/18/19 9:15 AM UTC
Import User and Role Application Security Data	1494222	Succeeded	3/18/19 8:35 AM UTC	3/18/19 8:35 AM UTC	3/18/19 8:43 AM UTC
Import User and Role Application Security Data	1494221	Succeeded	3/18/19 7:08 AM UTC	3/18/19 7:08 AM UTC	3/18/19 7:15 AM UTC

7. 「名前」 フィールドの右側の下向き矢印をクリックし、「検索」をクリックします。

Schedule New Process

Type: Job | Job Set

Name: [dropdown arrow]

Description:

- Evaluate Certification Updates
- Evaluate Certification Updates: Subprocess
- Generate Daily Breakdown of Absence Details
- Generate Daily Breakdown of Absence Details: Subprocess
- Evaluate Absences
- Evaluate Absences: Subprocess
- Migrate Previous Versions of Absence Data
- Update Accrual Plan Enrollments
- Update Accrual Plan Enrollments: Subprocess
- Calculate Accruals and Balances

Search

8. 「名前」 フィールドに load と入力して「検索」をクリックし、インポートのためのインタフェース・ファイルのロードを選択して「OK」をクリックします。

Search and Select: Name

Search

Name: load

Search | Reset

Name	Description
Load Business Object	Loads valid business obje...
Load Business Object Data	Loads business-object da...
Load Chart of Accounts Values and Hierarchies	Loads charts of account v...
Load Data Set	Controls the loading to Or...
Load Filter Names for Planning Data Collection	Load the display names f...
Load Geography Data	Load geography data fro...
Load HCM Batch Data	Initiates the loading of HC...
Load HCM Data for Coexistence	Loads data into Oracle F...
Load Interface File for Import	Transfers setup or transa...
Load MX Geography Data	Loads MX geography info...

OK | Cancel

9. 「OK」をクリックします。

**Schedule New Process**

Type  Job  Job Set

Name Load Interface File for Import

Description Transfers setup or transaction data files from a user-specified location to the interface tables.

OK Cancel

10. 「プロセスの詳細」で、**インポート・プロセス**の横の下向き矢印をクリックし、「**検索**」をクリックします。

**Process Details**

This process will be queued up for submission at position 20

Process Options Advanced Submit Cancel

Name Load Interface File for Import

Description Transfers setup or transaction data files from ...  Notify me when this process ends

Schedule As soon as possible Submission Notes

**Basic Options**

Parameters

\* Import Process

Data File	Segment
Post Mass Retirements	Assets
Post Mass Update Descriptive Details	Assets
Asset Physical Inventory Comparison	Assets
Japanese Depreciable Assets Tax Summary Report	Assets
Upload Units of Production	Assets
Post Mass Transfers	Assets
Post Mass Additions	Assets
Import Asset Leases	Assets
Post Mass Fixed Asset Financial Transactions	Assets
Import Budget Amounts	Budgetary Control

Search...

11. **インポート・プロセス**に Import Segment と入力し、「**検索**」をクリックします。

**Search and Select: Import Process** [X]

Search [Advanced] \* Required

\* Import Process  [Search] [Reset]

Import Process	Application Name
No rows to display	

[OK] [Cancel]

12. セグメントの値と階層のインポートを選択し、「OK」をクリックします。

**Search and Select: Import Process** [X]

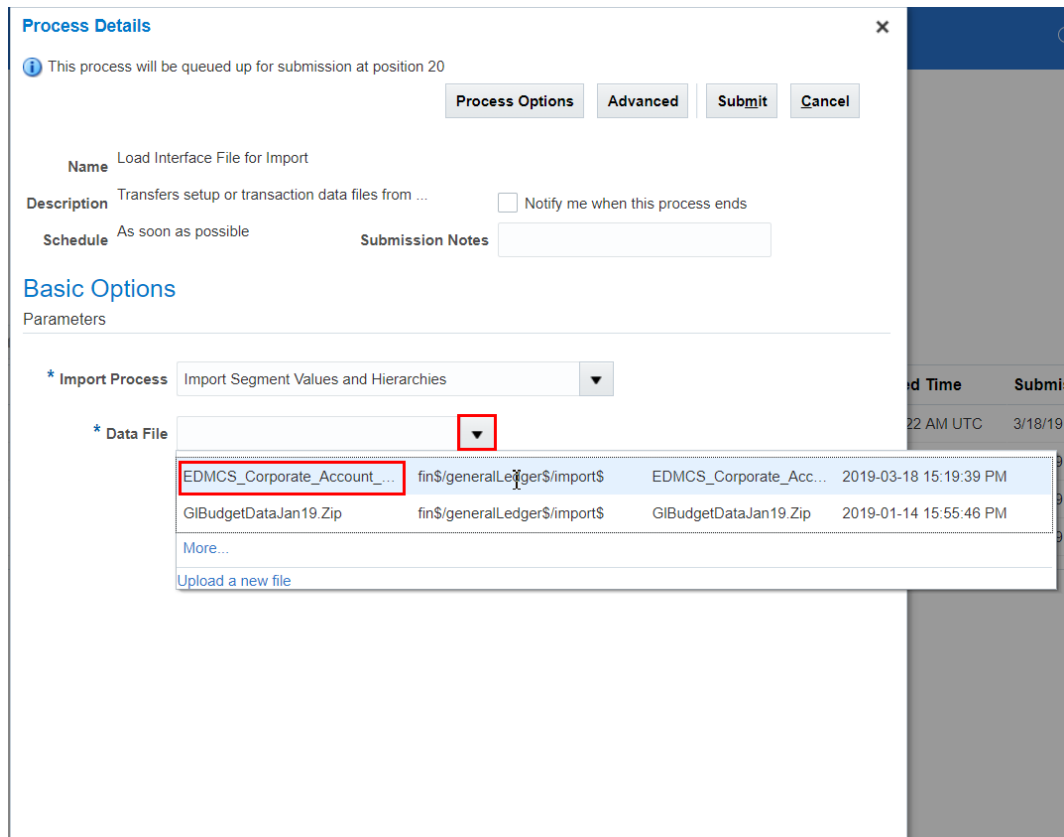
Search [Advanced] \* Required

\* Import Process  [Search] [Reset]

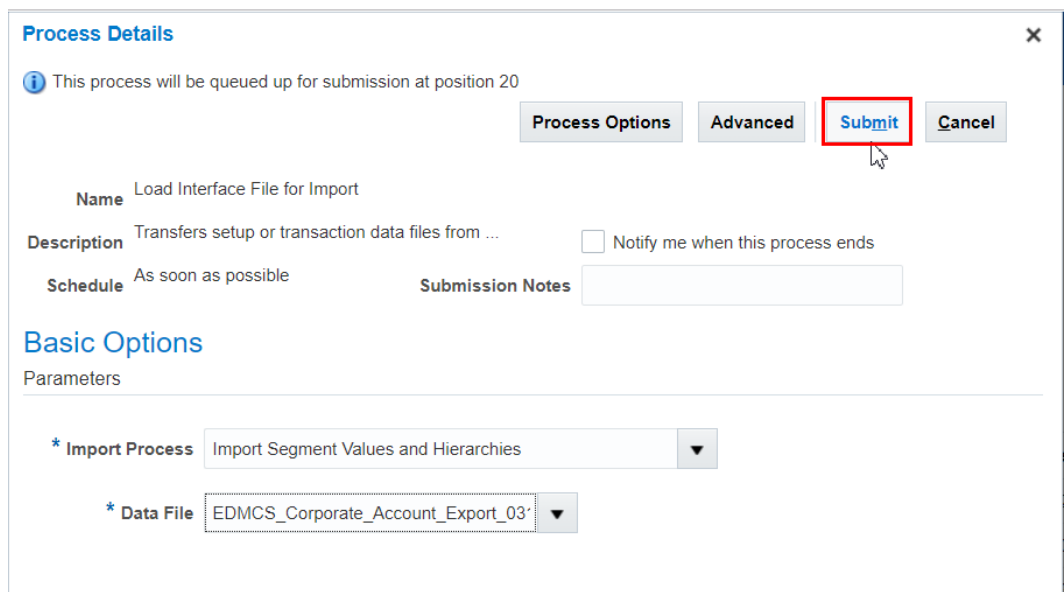
Import Process	Application Name
Import Segment Values and Hierarchies	General Ledger

[OK] [Cancel]

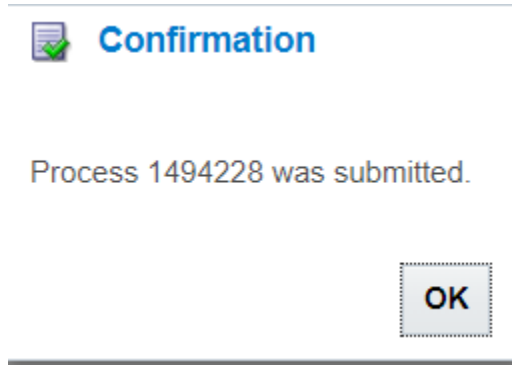
13. 「データ・ファイル」の横の下向き矢印をクリックし、EDMCS\_Corporate\_Account\_Export\_031819.zip を選択します。




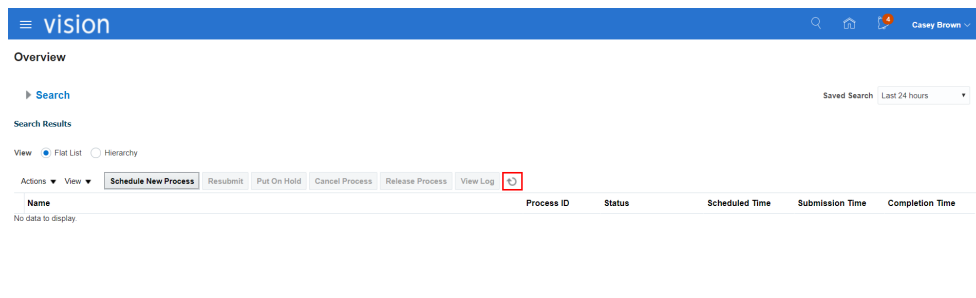
14. 「送信」をクリックします。



15. 確認ダイアログ・ボックスで「OK」をクリックします。



16. 「概要」画面で  をクリックして、スケジュール済のプロセスをリフレッシュします。



17. インポートのためにスケジュールしたすべてのプロセスが正常に完了したことを確認します。全部で 6 個のプロセスがあります。


- インポートのためのインタフェース・ファイルのロード
- ファイルの転送
- インタフェースへのファイルのロード
- インタフェースへのファイルのロード
- 一般会計のセグメント値および階層のインポート・プロセス・ランチャ
- セグメント値および階層のインポート

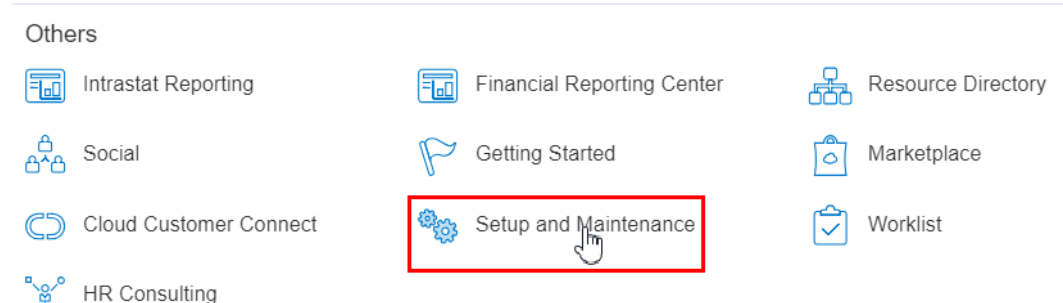
The screenshot shows the "vision" Overview page with a table of search results. The "View Log" button is highlighted with a red box. The table contains 6 rows, all with a "Succeeded" status, which is also highlighted with a red box in the original image.

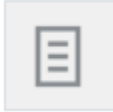
Name	Process ID	Status	Scheduled Time	Submission Time	Completion Time
Import Segment Values and Hierarchies	1494233	Succeeded	3/18/19 3:43 PM UTC	3/18/19 3:43 PM UTC	3/18/19 3:43 PM UTC
General Ledger Segment Values and Hierarchies Import Process Launcher	1494232	Succeeded	3/18/19 3:43 PM UTC	3/18/19 3:43 PM UTC	3/18/19 3:44 PM UTC
Load File to Interface	1494231	Succeeded	3/18/19 3:43 PM UTC	3/18/19 3:43 PM UTC	3/18/19 3:43 PM UTC
Load File to Interface	1494230	Succeeded	3/18/19 3:43 PM UTC	3/18/19 3:43 PM UTC	3/18/19 3:43 PM UTC
Transfer File	1494229	Succeeded	3/18/19 3:42 PM UTC	3/18/19 3:42 PM UTC	3/18/19 3:43 PM UTC
Load Interface File for Import	1494228	Succeeded	3/18/19 3:42 PM UTC	3/18/19 3:42 PM UTC	3/18/19 3:44 PM UTC

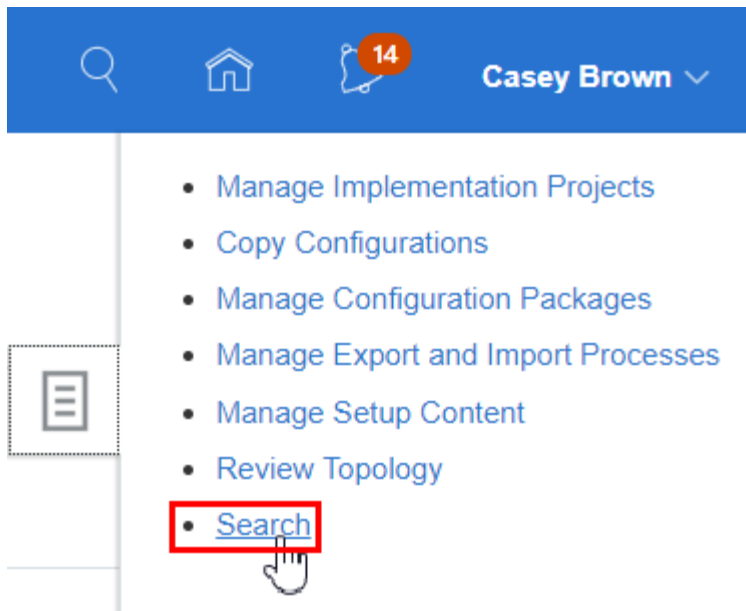
## ステップ 2: Oracle Financials Cloud 一般会計でのエクスポート・データの検証

次は、Oracle Financials Cloud 一般会計の階層を参照して、Oracle Enterprise Data Management Cloud に追加されたノードが正しくロードされたことを確認します。

1. Oracle Financials Cloud で、 をクリックし、「その他」の下の**設定およびメンテナンス**を選択します。

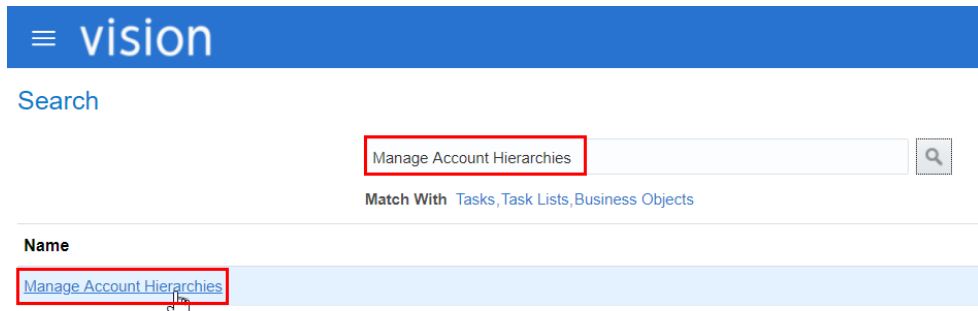


2.  をクリックし、「検索」をクリックします。



3. 勘定科目階層の管理を検索して選択します。





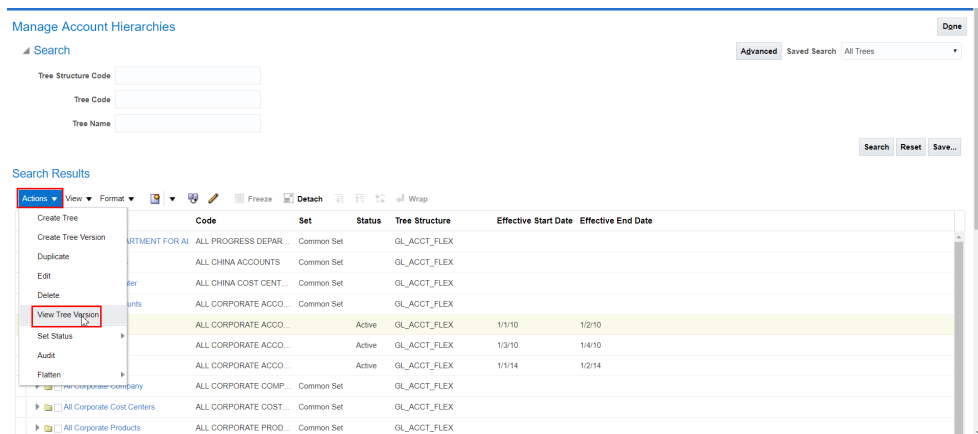
4. 検索結果で、**All Corporate Accounts** を展開し **V1** の行をハイライト表示します。**V1** をクリックするとツリー・バージョンがドラフト・モードになるため、クリックしないでください。

Search Results

Actions View Format Freeze Detach Wrap

Name	Code	Set	Status	Tree Structure	Effective Start Date	Effective End Date
PROGRESS DEPARTMENT FOR AI	ALL PROGRESS DEPART AL...	Common Set		GL_ACCT_FLEX		
All China Accounts	ALL CHINA ACCOUNTS	Common Set		GL_ACCT_FLEX		
All China Cost Center	ALL CHINA COST CENTER	Common Set		GL_ACCT_FLEX		
All Corporate Accounts	ALL CORPORATE ACCOUNTS	Common Set		GL_ACCT_FLEX		
V1	ALL CORPORATE ACCOUNTS		Active	GL_ACCT_FLEX	1/1/10	1/2/10
V1B	ALL CORPORATE ACCOUNTS		Active	GL_ACCT_FLEX	1/3/10	1/4/10
V8B	ALL CORPORATE ACCOUNTS		Active	GL_ACCT_FLEX	1/1/14	1/2/14

5. 「アクション」とツリー・バージョンの表示を順に選択します。



6. 階層を展開して、ノード 11104 が追加されたことを確認し、「完了」をクリックします。

Node Name	Node Description	Label	Data Source
T	TOTAL		Accounting Flexfield Hierarchy Parent Values
10000	Assets		Accounting Flexfield Hierarchy Parent Values
11000	Cash and Short Term Investment		Accounting Flexfield Hierarchy Parent Values
11101	USBNK Checking Account		Accounting Flexfield Hierarchy Detail Values
11102	USBNK Treasury Account		Accounting Flexfield Hierarchy Detail Values
11103	USBNK2 Checking Account		Accounting Flexfield Hierarchy Detail Values
11104	USBNK Treasury Account		Accounting Flexfield Hierarchy Detail Values
11200	Cash		Accounting Flexfield Hierarchy Detail Values
11300	Short Term Investment		Accounting Flexfield Hierarchy Detail Values

## ステップ 3: Oracle Financials Cloud 一般会計の更新済階層の公開

データがロードされ確認されたところで、最後のステップとして、更新された階層を公開します。

**勘定科目階層を公開するには:**

1. 「タスクの検索」で publish を検索し、**勘定科目階層の公開**をクリックします。

2. 次の検索条件を入力し、「**検索**」をクリックします。

- **値セット:** Corporate Account
- **勘定体系:** US Chart of Accounts
- **セグメント:** Account
- **階層:** All Corporate Accounts
- **階層バージョン:** V1
- **公開:** Yes

**Search**

\*\* Value Set: Corporate Account

\*\* Chart of Accounts: US Chart of Accounts

\*\* Segment: Account

\*\* Hierarchy: All Corporate Accounts

\*\* Hierarchy Version: V1

\*\* Publish: Yes

**Search Results**

Hierarchy and Version	Description	Effective Start Date	Effective End Date	Value Set	Publish
No search conducted.					

3. V1 行をハイライト表示し、「公開」をクリックします。

**Search**

\*\* Value Set: Corporate Account

\*\* Chart of Accounts: US Chart of Accounts

\*\* Segment: Account

\*\* Hierarchy: All Corporate Accounts

\*\* Hierarchy Version: V1

\*\* Publish: Yes

**Search Results**


Hierarchy and Version	Description	Effective Start Date	Effective End Date	Value Set	Publish
All Corporate Accounts	All Corporate Accounts	1/1/10	1/2/10	Corporate Account	<input checked="" type="checkbox"/>

4. 確認ダイアログ・ボックスを確認し、「OK」をクリックします。

**Information**


The Publish Chart of Accounts Dimension Members and Hierarchies process 1494234 has been submitted.

OK Cancel

5.  をクリックし、「ツール」の下のスケジュール済プロセスを選択します。

**Tools**

- Set Preferences
- Spaces
- Security Console
- Audit Reports
- Announcements
- Reports and Analytics
- Sales and Service Access Management
- Collaboration Messaging
- Developer Connect
- Scheduled Processes**
- File Import and Export

6. 「概要」画面で  をクリックして、スケジュール済のプロセスをリフレッシュします。

The screenshot shows the 'vision' interface with a search bar and a table of search results. The table is currently empty, displaying 'No data to display.' The 'View Log' button in the actions menu is highlighted with a red box.

- 公開アクションのためにスケジュールしたすべてのプロセスが正常に完了したことを確認します。

The screenshot shows the 'vision' interface with a search bar and a table of search results. The table contains five rows, all with a 'Succeeded' status. The 'Status' column is highlighted with a red box.

Name	Process ID	Status	Scheduled Time	Submission Time	Completion Time
Publish Chart of Accounts Hierarchy Versions	1494238	Succeeded	3/18/19 4:13 PM UTC	3/18/19 4:13 PM UTC	3/18/19 4:23 PM UTC
Publish Chart of Accounts Hierarchy Versions	1494237	Succeeded	3/18/19 4:13 PM UTC	3/18/19 4:13 PM UTC	3/18/19 4:21 PM UTC
Publish Chart of Accounts Hierarchy Versions	1494236	Succeeded	3/18/19 4:13 PM UTC	3/18/19 4:13 PM UTC	3/18/19 4:17 PM UTC
Publish Chart of Accounts Hierarchy Versions	1494235	Succeeded	3/18/19 4:13 PM UTC	3/18/19 4:13 PM UTC	3/18/19 4:19 PM UTC
Publish Chart of Account Hierarchies	1494234	Succeeded	3/18/19 4:13 PM UTC	3/18/19 4:13 PM UTC	3/18/19 4:23 PM UTC

# 汎用アプリケーションを使用した外部アプリケーションとの統合

このシナリオでは、汎用アプリケーションを使用して外部アプリケーションからディメンションを管理する方法を示します。汎用アプリケーションの登録とディメンションのインポート、エンタープライズ・データの管理および変更内容のアプリケーションへのエクスポートのステップを説明します。

次のステップでは、Oracle Enterprise Data Management Cloud 内でエクスポートの登録プロセスを完了するために必要な管理タスクに重点を置きます。このシナリオではデータ管理タスクの一般的な概要のみを示します。

## 管理者のステップ

### 管理者の前提条件

アプリケーションを登録するには、「アプリケーション - 作成」ロールが必要です。アプリケーションを登録すると、アプリケーション・ビューおよびデフォルト・ビューに対する所有者権限が自動的に割り当てられます。

外部アプリケーションからのディメンション・エクスポートは、汎用アプリケーション・ウィザードを使用している場合に必要です。Oracle Enterprise Data Management Cloud でインポートおよび管理するディメンションのデータを含むディメンション・エクスポートを準備する必要があります。

1. 外部アプリケーションからディメンション・データをエクスポートします。
2. Oracle Enterprise Data Management Cloud で汎用アプリケーションにインポートするためにデータを.CSV ファイル形式で準備します。[ユーザー定義ディメンションに対するファイル形式のインポートおよびエクスポート](#)を参照してください。

### 管理者のプロセス

1. 汎用アプリケーションを登録します。[汎用アプリケーションの登録](#)を参照してください。
2. ディメンションをインポートします。[ユーザー定義ディメンションのインポート](#)を参照してください。
3. ユーザーに、汎用アプリケーションのディメンションの管理に必要なデータ・チェーン要素に対する適切なアクセス権を付与します。[ロールと権限の操作](#)を参照してください。
4. 外部アプリケーションにインポートできるファイルにディメンションをエクスポートします。[ユーザー定義ディメンションのエクスポート](#)を参照してください。

### 管理者の詳細ステップ





#### ステップ 1: 汎用アプリケーションの登録

汎用アプリケーションを登録するには:


1. 「アプリケーション」で、「登録」をクリックします。

Applications Register


🔍 ▼


Name and Description	Type	Default View
 <b>Acquired GL (Legacy)</b> General ledger from acquired company	Universal	<b>Acquired GL (Legacy)</b> Acquired GL Chart of Accounts
 <b>Corporate Planning</b> Corporate Planning	Planning Modules	<b>Corporate Planning</b> Corporate Planning
 <b>E-Business Suite GL</b> E-Business Suite General Ledger	E-Business Suite General Ledger	<b>EBS Chart of Accounts</b> E-Business Suite GL Chart of Accounts
 <b>Financial Consolidation and Close</b> Financial Consolidation and Close	Financial Consolidation and Close	<b>Financial Consolidation and Close</b> Financial Consolidation and Close Defau...


2. 「汎用」アプリケーション・タイプを選択します。


 New Application


Choose an Application Type


 **E-Business Suite General Ledger**  
Provides highly automated financial processing, effective management control, and real-time visibility to financial results.

 **Financial Consolidation and Close**  
Provides an end-to-end solution for both effectively and efficiently managing the consolidation and close process.


 **Financials Cloud General Ledger**  
Provides a modern finance experience and delivers success with streamlined processes, increased productivity, and improved business decisions.

 **Planning**  
Provides a flexible planning application that supports enterprise-wide planning, budgeting, and forecasting in a cloud-based deployment model and includes custom and free form planning.

 **Planning Modules**  
Provides pre-built business applications that support enterprise-wide planning, budgeting, and forecasting in a cloud-based deployment model.

 **Universal**  
Manage enterprise data for any business application for which a packaged application type does not exist. This application can be Oracle or non-Oracle, cloud or on premise, or managed by a third-party system.

3. アプリケーションの名前と説明を入力し、「次」をクリックします。


 New Application Next Cancel

Enter the Information for the Application

Name \*

Description

4. アプリケーション要約を確認し、「作成」をクリックします。

 New Application Back Create Cancel

Application Summary

**Application**

Name Custom App for Entities

Description Custom application for entities from external system

5. 「追加」をクリックしてアプリケーションのディメンションを定義します。ユーザー定義ディメンションの追加、除去または変更を参照してください。

**Custom App for Entities**  
Custom application for entities from extern...

1. **Dimensions (0)**  
2. Summary

Add the Dimensions for the Custom App for Entities Application

**Add**

6. ディメンション・タイプが階層かリストかなどのディメンション情報を入力し、「次」をクリックします。

**Custom App for Entities**  
Custom application for entities from external system

1. **Dimensions (0)**  
2. Summary

Dimension Basic Info

Dimension Name \* Entity

Dimension Description

Dimension Type Hierarchy

External Dimension Name

Allow Shared Nodes

7. 「追加」をクリックしてディメンションのノード・タイプを定義します。ユーザー定義ディメンション向けノード・タイプの追加または変更を参照してください。

**Custom App for Entities**  
Custom application for entities from external system

1. **Dimensions (0)**  
2. Summary

Node Types for Dimension (Entity)

**Add**

8. ノード・タイプ情報を入力し、「次」をクリックします。

**Custom App for Entities**  
Custom application for entities from external system

1. **Dimensions (0)**  
2. Summary

Node Type for Dimension (Entity)

Node Type Name \* Entity

Node Type Description

Node Type Qualifier

Node Type Qualifier Position Prefix

9. 「作成」をクリックして新規プロパティを定義するか、「選択」をクリックしてノード・タイプの既存のプロパティを選択します。ノード・タイプのすべてのプロパティを構成したら、「次」をクリックします。ユーザー定義ディメンション向けノード・タイプへの既存のプロパティの追加およびカスタム・プロパティの作成を参照してください。

Custom App for Entities  
Custom application for entities from external system

1. Dimensions (0)

2. Summary

Properties for Dimension (Entity) Node Type (Entity)

Core.Name  
Node Name

Buttons: Back, Next, Close, Create, Select

10. ディメンションの他のノード・タイプを定義するか、「次」をクリックして先に進みます。
11. オプションで、構成されているノード・タイプとインポートおよびエクスポート・ファイルに必要なコンテンツに基づいてディメンションのインポートおよびエクスポート設定を定義します。「次」をクリックして続行します。

Custom App for Entities  
Custom application for entities from external system

1. Dimensions (0)

2. Summary

Import and Export for Dimension (Entity)

Default Node Type: Entity

Default Parent Node Type: Entity

Top Node Indicator: [Text Field]

Use Node Type Column:

Node Type Column Header: [Text Field]

Use Parent Node Type Column:

Parent Node Type Column Header: [Text Field]

Buttons: Back, Next, Close

12. ステップ 5 から 10 を繰り返してアプリケーションにディメンションをさらに追加し、「次」をクリックします。
13. 入力したすべての登録情報を確認し、「適用」をクリックして汎用アプリケーションの登録を完了します。

Custom App for Entities  
Custom application for entities from external system

1. Dimensions (1)

2. Summary

Review the registration before applying changes

**Dimensions (1)**

Dimension

Dimension Name Entity

Dimension Description

Dimension Type Hierarchy

External Dimension Name

Allow Shared Nodes False

**Node Types (1)**

Node Type

Node Type Name Entity

Node Type Description

Node Type Qualifier

Node Type Qualifier Position Prefix

**Import and Export for Dimension (Entity)**


Default Node Type Entity

Default Parent Node Type Entity





Buttons: Back, Apply, Close



## ステップ 2: 登録したディメンションのデータのインポート

1. 「アプリケーション」で、登録したアプリケーションを検索し、 をクリックして「インポート」を選択します。


### Applications

Name & Description	Type	Default View	Primary Connection	Action
 <b>Custom App for Entities</b> Custom application for entities from external syst...	Universal	Custom App for Entities Custom App for Entities Default View		 Inspect Modify Registration <b>Import</b> Export Export Mapping Delete
 <b>Departments</b> Departments App	Universal	Departments Departments App		
 <b>Large Test Data Application</b> Application Large Test Data	Universal	Empty View Empty View		

2. 前に作成したファイルを参照して選択し、「インポート」をクリックします。

### Custom App for Entities


**Dimensions**

 **Entity**  
Last Imported: Never

**Configure import for: Entity** **Import**

Settings

Input Source: File

  
 Click to select or drop file here

File Name: **entity\_import.csv**

Summary

Dimension Type	User Defined
Viewpoint	Entity

History

Last Imported	Never
Imported By	
Messages	

3. インポート後に、インポートしたレコード数を表示できます。

## Custom App for Entities

**Dimensions**

**Entity**  
Last Imported: Today at 1:57 PM

**Configure import for: Entity**

Settings

Input Source File

Click to select or drop file here

File Name No file selected

**Summary**

Dimension Type User Defined

Viewpoint Entity

**History**

Last Imported Today at 1:57 PM

Imported By Tom Smith

Messages 252 records imported.

### ステップ 3: エンタープライズ・データに対する変更

このステップでは、ユーザーがインポートされたエンタープライズ・データに変更を加えます。登録時に汎用アプリケーションに対して作成されたデフォルト・ビューの名前をユーザーに提供します。

## Views






Name & Description	Created	Last Modified	Actions
<b>Account Import</b> Account Import	Tom Smith 2/5/2019	Tom Smith 2/5/2019	
<b>Corporate Close</b> Corporate Financial Close Application	Tom Smith 2/5/2019	Tom Smith 2/5/2019	
<b>Custom App for Entities</b> Custom App for Entities Default View	Tom Smith 2/26/2019	Tom Smith 2/26/2019	⋮ 

### ステップ 4: 外部アプリケーションへのディメンションのエクスポート

ユーザーが変更を行った後で、エンタープライズ・データをファイルにエクスポートでき、そのファイルを外部アプリケーションにインポートできます。

1. 「アプリケーション」ワークリストで、アプリケーションを検索し、⋮をクリックして「エクスポート」を選択します。


## Applications

Name & Description	Type	Default View	Primary Connection	Action
 <b>Custom App for Entities</b> Custom application for entities from external syst...	Universal	Custom App for Entities Custom App for Entities Default View		<ul style="list-style-type: none"> <li>Inspect</li> <li>Modify Registration</li> <li>Import</li> <li><b>Export</b></li> <li>Export Mapping</li> <li>Delete</li> </ul>
 <b>Departments</b> Departments App	Universal	Departments Departments App		
 <b>Large Test Data Application</b> Application Large Test Data	Universal	Empty View Empty View		
 <b>My_Custom_App</b> Custom Application for Entities	Universal	My_Custom_App My_Custom_App Default View		
 <b>Oracle Open World Application</b> A P L I C A T I O N	Universal	Entity Maintenance Entity Maintenance		

2. エクスポートするディメンションを選択し、「エクスポート」をクリックします。

## Custom App for Entities

**Dimensions**

 **Entity**  
Last Exported: Never

**Configure export for: Entity** Export

Settings

Export Target File

File tsmith\_ExportedMetadata\_Entity.csv

Summary

Dimension Type **User Defined**

Viewpoint **Entity**

History

Last Exported **Never**

Exported By

Messages

エクスポート・ファイルがダウンロードされ、ローカル・ファイル・システムに保存されます。エクスポート後に、エクスポートしたレコード数を表示できます。

The screenshot shows the 'Custom App for Entities' interface. At the top, a green message box states 'Export completed successfully' with a checkmark icon. A 'Close' button is located to the right. Below this, the 'Dimensions' section shows a grid with one cell containing an 'Entity' icon and the text 'Last Exported: Today at 2:12 PM'. To the right, the 'Configure export for: Entity' section includes an 'Export' button, a 'Settings' section with an 'Export Target' dropdown menu set to 'File', and a 'File' field containing 'tsmith\_ExportedMetadata\_Entity.csv'. Below that is a 'Summary' section with a table:

Dimension Type	User Defined
Viewpoint	Entity

Below the summary is a 'History' section, which is highlighted with a red box. It contains a table with the following data:

Last Exported	Today at 2:12 PM
Exported By	Tom Smith
Messages	129 records exported.

## ユーザーのステップ

### ユーザーの前提条件

管理者は、このシナリオのステップに従って、汎用アプリケーションを正常に登録し、エンタープライズ・データ要素をインポートする必要があります。その後、セキュリティ権限に基づいてエンタープライズ・データを管理できます。

### ユーザー・プロセス

実行できるタスクの概要を次に示します。

- メンテナンス・ビューとビューポイントを作成します。[ビューポイントの操作](#)を参照してください
- 左右並びレイアウトを使用して比較し、ビュー内のビューポイント間でノードを合理化します。[ビューポイントの比較](#)を参照してください
- ノードとプロパティを更新し、仮定分析用に代替階層を更新します。[対話型での変更](#)を参照してください
- ある階層から別の階層にノードをマップします。[マッピング・ビューポイントの作成](#)を参照してください
- 勘定科目などのエンタープライズ・データをロードします。[ロード・ファイルを使用する変更](#)を参照してください
- 「要求」リストでドラフト要求と完了した要求を参照します。[要求アクティビティの操作](#)を参照してください

### 結果

汎用アプリケーションを登録した後は、このアプリケーション全体で変更をプロアクティブに管理できます。管理するディメンションをインポートし、**Oracle Enterprise Data Management Cloud** から外部システムにロードできるファイルに更新データを正常にエクスポートしました。変更されたデータ、これらの変更を行ったユーザーおよび変更が行われた日時を知るための完全な要求アクティビティ 監査情報を入手しました。

# エンタープライズ・データのアプリケーション間での共有

このシナリオでは、階層を変更し、複数の外部アプリケーション間で階層の同期を維持する方法を示します。単一ディメンション階層に新規ノードを追加し、別のアプリケーションで変更をメンテナンスするステップを示します。追加のディメンション階層についてステップを繰り返すことができます。他の階層およびプロパティの変更にも同様のステップを使用できます。

一般会計アプリケーションが会社セグメントに会社を格納し、Planning アプリケーションがエンティティ・ディメンションに会社を格納するとします。両方のアプリケーションに新しい会社を追加するには、管理者が両方のアプリケーションでメンテナンス・ビューを作成する必要があります、ユーザーは両方のアプリケーションにノードを追加できます。

## 管理者のステップ

### 管理者の前提条件

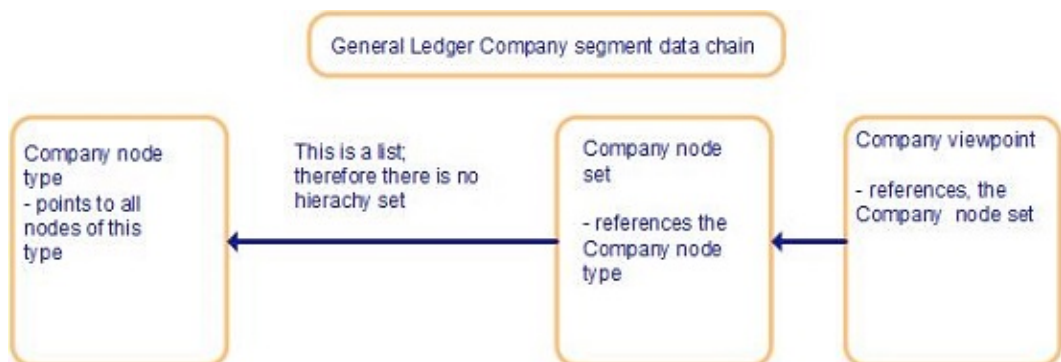
管理者は、2つのアプリケーションを登録し、ディメンションをインポートし、ノード・タイプ・コンバータを作成するために「アプリケーション - 作成」ロールが必要です。メンテナンス・ビューを作成するには、「ビュー - 作成」ロールが必要です。

### 管理者のプロセス

1. 一般会計アプリケーションと Planning アプリケーションを登録およびインポートします。
2. ノード・タイプ・コンバータを作成して、一般会計の会社ノード・タイプを Planning のエンティティ・ノード・タイプに変換します。

### 管理者の詳細ステップ

1. 一般会計アプリケーションを登録およびインポートし、会社セグメントを含めます。次の図は、データ・チェーンを示します。

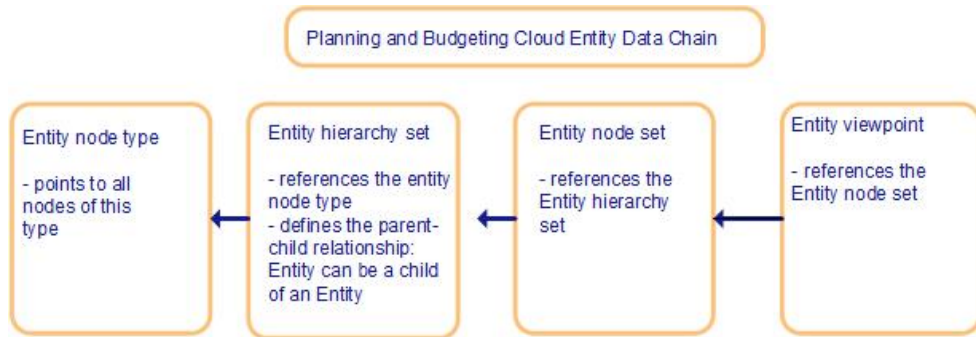


次の図は、会社ビューポイント・ノードを示します。

🔍 < >

!	✓	Name	Description	Node Type
		3000	InFusion USA	Company
		3100	InFusion Napa	Company
		3111	InFusion Marketing - US Napa	Company
		3121	InFusion Sales - US Napa	Company
		3200	InFusion Farms	Company

2. **Planning** アプリケーションとエンティティ・ディメンションを登録およびインポートします。  
次の図は、インポートされたエンティティ・データ・チェーンを示します。



次の図は、エンティティ・ビューポイント・ノードを示します。

🔍 < >

!	✓	Name	Description
		3000	InFusion USA
		3100	InFusion Napa
		3111	InFusion Marketing - US Napa
		3121	InFusion Sales - US Napa
		3200	InFusion Farms
		3300	InFusion Food Production/Mfg

- 次に示すように、ノード・タイプ・コンバータを作成して、一般会計の会社ノード・タイプを **Planning** のエンティティ・ノード・タイプに変換します。

Name & Application	Source: Company	Target: Entity
Company Oracle Open World Application	Core.Name Node Name	Core.Name Node Name
	Property is not editable	CoreStats.Parent Parent Node Name of the node in the ...
	Core.Description Node Description	Core.Description Node Description
		Demo.Allow Posting Allowed for Posting

- メンテナンス・ビューを作成し、2つのビューポイントを作成します。
  - エンティティ・ノード・セットを使用してエンティティ・ビューポイントを作成します。
  - 会社ノード・セットを使用して会社ビューポイントを作成します。
- ユーザーにメンテナンス・ビューの名前と両方のアプリケーションに対する **参加者(書込み)** 権限を付与します。

#### 関連トピック:

- [アプリケーションの操作](#)
- [ノード・タイプ・コンバータの操作](#)
- [セキュリティの例](#)
- [ディメンションのエクスポート](#)

## ユーザーのステップ



### ユーザーの前提条件

管理者から、2つのアプリケーションまたはディメンションに対する **参加者(書込み)** 以上の権限とともにメンテナンス・ビューを付与される必要があります。これにより、両方のアプリケーションまたはディメンションでノードを更新できます。

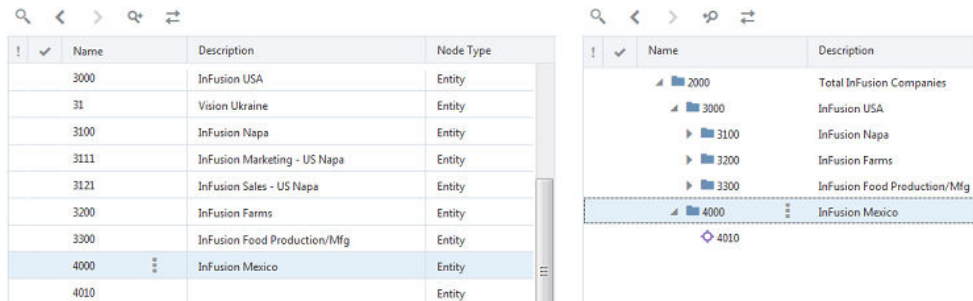
### ユーザー・プロセス

左右並びのレイアウトを使用して、新しいノードを作成し、両方のアプリケーションに配置します。

### ユーザーの詳細なステップ

- メンテナンス・ビューを開き、**左右並び** ボタン  (またはテーマに応じて ) をクリックし、一般会計ビューポイントおよび **Planning** ビューポイントを表示します。
- 要求を作成するか開きます。
- 「Infusion Mexico」ノードを一般会計リストに追加します。

- 「Infusion Mexico」ノードを Planning ビューポイントにドラッグ・アンド・ドロップします。これはノード・タイプ・コンバータを使用してエンティティ・ノード・タイプに変換されます。「Infusion Mexico」ノードは、左の一般会計ビューポイントでは会社ノード・タイプで、右の Planning ビューポイントではエンティティ・ノード・タイプです。



!	✓	Name	Description	Node Type
		3000	InFusion USA	Entity
		31	Vision Ukraine	Entity
		3100	InFusion Napa	Entity
		3111	InFusion Marketing - US Napa	Entity
		3121	InFusion Sales - US Napa	Entity
		3200	InFusion Farms	Entity
		3300	InFusion Food Production/Mfg	Entity
		4000	InFusion Mexico	Entity
		4010		Entity

!	✓	Name	Description
		2000	Total InFusion Companies
		3000	InFusion USA
		3100	InFusion Napa
		3200	InFusion Farms
		3300	InFusion Food Production/Mfg
		4000	InFusion Mexico
		4010	

- 要求を送信します。
- ノードの追加を続行し、両方のアプリケーションを更新できます。

## 結果

1つのメンテナンス・ビューで異なる外部アプリケーションのすべての階層を管理できるプロセスができました。ある階層と別の階層の違いを迅速に特定し、階層がビジネス・ニーズを満たすように修正処理を実行できます。



# エンタープライズ・データのアプリケーション間での比較

Oracle Enterprise Data Management Cloud を使用して、別の階層に含まれるすべてのリーフ・ノードが階層に含まれることを確認できます。これを行うには、管理者がノード・タイプ・コンバータを設定し、ユーザーが比較および要求機能を使用します。

## ノート:

すべてのリーフ・ノードが含まれる階層は、「ソース階層」と呼ばれます。欠落しているリーフ・ノードについてチェックしている階層は、「ターゲット階層」と呼ばれます。

このシナリオには、ノード・タイプ修飾子のロールも示されます。ターゲット階層内のノードはすべて、先頭に「cc\_」が付けられます。たとえば、100 という名前のノードがソース階層に含まれる場合、ターゲット階層内の対応するノードは cc\_100 という名前になります。ノード・タイプ修飾子は、ユーザーがソース階層からターゲット階層にノードをコピーするときにリーフ・ノードに適用されます。詳細は、[ノード・タイプ修飾子の使用](#)を参照してください。

## 管理者のステップ

### 管理者の前提条件

アプリケーションを登録するには、「アプリケーション - 作成」ロールが必要です。アプリケーションを登録すると、アプリケーションおよびデフォルト・ビューに対する所有者権限が割り当てられます。ユーザーには、ビューを作成するには「ビュー - 作成」ロール、データを変更するにはアプリケーションに対する「参加者(書込み)」権限が必要です。

### 管理者のプロセス

管理者は:

1. 2つの汎用アプリケーションを登録します。
2. データをインポートします。
3. ノード・タイプ・コンバータを作成します。[ノード・タイプ・コンバータの操作](#)を参照してください。

### 管理者の詳細ステップ

これらのステップを実行するには、[汎用アプリケーションの登録](#)に精通している必要があります。

1. Source Hierarchy という名前の汎用アプリケーションを作成し、次のステップでディメンションを追加します:

- a. コスト・センターを「**ディメンション名**」に入力し、「**次**」をクリックします。
  - b. 「**追加**」をクリックします。
  - c. コスト・センターを「**ノード・タイプ名**」に入力し、「**次**」をクリックします。
  - d. 「**選択**」をクリックします。
  - e. Core.Description プロパティを選択して、「**OK**」をクリックします。
  - f. 説明を「**列ヘッダー**」に入力し、「**次**」を複数回クリックして、ディメンションのインポートおよびエクスポート・ページを表示します。
  - g. 次のステップを実行します:
    - 「**ノード・タイプ列の使用**」を選択します。
    - ノード・タイプを「**ノード・タイプ列ヘッダー**」に入力します。
    - 「**親ノード・タイプ列の使用**」を選択します。
    - 親ノード・タイプを「**親ノード・タイプ列ヘッダー**」に入力します。
  - h. Source Hierarchy アプリケーションの登録を終了します。
2. Target Hierarchy という名前の汎用アプリケーションを作成し、次のステップでディメンションを追加します:
- a. コスト・センターを「**ディメンション名**」に入力し、「**次**」をクリックします。
  - b. 「**追加**」をクリックします。
  - c. コスト・センターを「**ノード・タイプ名**」に入力します。
  - d. 次の例に示すように、cc\_ を「**ノード・タイプ修飾子**」に指定します。

Node Type Name *	Cost Center
Node Type Description	
Node Type Qualifier	cc_
Node Type Qualifier Position	Prefix

- e. 「**次**」をクリックします。
- f. 「**選択**」をクリックします。
- g. Core.Description プロパティを選択して、「**OK**」をクリックします。
- h. 説明を「**列ヘッダー**」に入力し、「**次**」を複数回クリックして、ディメンションのインポートおよびエクスポート・ページを表示します。
- i. 次のステップを実行します:
  - 「**ノード・タイプ列の使用**」を選択します。
  - ノード・タイプを「**ノード・タイプ列ヘッダー**」に入力します。
  - 「**親ノード・タイプ列の使用**」を選択します。
  - 親ノード・タイプを「**親ノード・タイプ列ヘッダー**」に入力します。

- j. Target Hierarchy アプリケーションの登録を終了します。
3. 次のフィールドを含むカンマ区切りファイル(.csv)を、Source Hierarchy アプリケーションにインポートします。

```
Name,Description,Node Type,Parent,Parent Node Type
1000,Total Cost Centers,Cost Center, ,
100,Research and Development,Cost Center,1000,Cost Center
110,R and D US,Cost Center,1000,Cost Center
111,R and D Growth,Cost Center,1000,Cost Center
112,R and D Mfg,Cost Center,1000,Cost Center
120,R and D Canada,Cost Center,1000,Cost Center
```

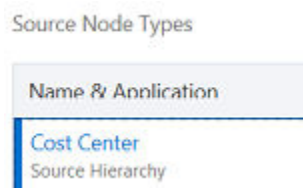
4. 次のフィールドを含むカンマ区切りファイル(.csv)を、Target Hierarchy アプリケーションにインポートします。

```
Name,Description,Node Type,Parent,Parent Node Type
cc_1000,Cost Centers,Cost Center, ,
cc_100,Research and Development,Cost Center,cc_1000,Cost Center
cc_110,R and D US,Cost Center,cc_1000,Cost Center
cc_111,R and D Growth,Cost Center,cc_1000,Cost Center
```

次のステップでノード・タイプ・コンバータを作成します。

5. 「ノード・タイプ」をクリックします。
6. Target Hierarchy アプリケーションの「コスト・センター」リンクをクリックします。
7. 「コンバータ」をクリックします。
8. 「編集」をクリックして、「追加」をクリックします。
9. Source Hierarchy アプリケーションに対する「コスト・センター」ノード・タイプを選択し、「OK」をクリックします。

ノード・タイプ・コンバータの例:



10. 「保存」をクリックし、「閉じる」をクリックします。
11. 両方のアプリケーションのデフォルト・ビューをチェックし、ノードが正しくインポートされていることを確認します。

ソース階層の例:

Name	Description
1000	Total Cost Centers
100	Research and Development
110	R and D US
111	R and D Growth
112	R and D Mfg
120	R and D Canada

ターゲット階層の例:

Name	Description
cc_1000	Cost Centers
cc_100	Research and Development
cc_110	R and D US
cc_111	R and D Growth

## ユーザーのステップ

### ユーザーの前提条件

ビューを作成するには「ビュー - 作成」ロール、アプリケーション・データを変更するにはアプリケーションに対する「参加者(書込み)」権限が必要です。

### ユーザー・プロセス




ソース階層とターゲット階層間の差異を解決するには、ユーザーは:

1. ソース階層とターゲット階層の両方に対してビューポイントが含まれるビューを作成します。新しいビューポイントでは、デフォルト・ビュー内のビューポイントによって使用されるノード・セットと同じものが使用される必要があります。
2. ビューを開き、2つのビューポイントと比較します。[ビューポイントの比較の実行](#)を参照してください。
3. ターゲット階層には含まれないノードがソース階層に含まれることが比較によって示される場合、要求を作成します。[要求を使用する変更](#)を参照してください。
4. 比較結果を使用して欠落ノードをソース階層からターゲット階層にドラッグ・アンド・ドロップします。[比較結果を使用するノード差異の修正](#)を参照してください。
5. 要求を送信します。

### ユーザーの詳細なステップ

この手順を実行するには、管理者が[管理者のステップ](#)の手順を実行している必要があります。

1. ビューを作成し、次のステップを実行して両方の階層のビューポイントを追加します。
  - a. 「定義」をクリックします。
  - b. 「作成」をクリックします。

- c. 「アプリケーション・ディメンション」から、ソース階層アプリケーションの「コスト・センター」ディメンションを選択します。
  - d. 「ソース階層」と入力し、「作成」をクリックします。
  - e. 「編集」をクリックします。
  - f. 「ノード・セット」から「コスト・センター」を選択します。
  - g. 「保存」をクリックします。
  - h. ページの下部で、ビューの名前を含むタブをクリックします。
  - i. 「定義」をクリックします。
  - j. 「作成」をクリックします。
  - k. 「アプリケーション・ディメンション」から、ターゲット階層アプリケーションの「コスト・センター」ディメンションを選択します。
  - l. 「ターゲット階層」と入力し、「作成」をクリックします。
  - m. 「編集」をクリックします。
  - n. 「ノード・セット」から「コスト・センター」を選択します。
  - o. 「保存」をクリックし、「閉じる」をクリックします
2. ビューを開きます。
  3. 左ペインから**左右並び**ボタン  (またはテーマに応じて ) を選択します。  
2つのビューポイントが横並びで表示されます。「ソース階層」ビューポイントは左にあります。
  4. 「ビューポイントの比較」セクションで次のステップを実行します。
    - a. 最初のドロップダウン・リストから「左から右」を選択します。
    - b. 2番目のドロップダウン・リストから「最下位ノード」を選択します。
  5.  をクリックして比較を実行します。  
次の例に示すように、「ノードがありません」セクションに 112 および 120 という名前のノードがリストされます。



6. 次のステップを実行して、不足しているノードをターゲット階層に追加します。
  - a. 「新規要求」をクリックします。
  - b. 「ノードがありません」セクションで、112 という名前のノードを選択します。  
ノードがソース階層でハイライト表示されます。
  - c. 112 ノードをソース階層からターゲット階層の最上位ノードにドラッグ・アンド・ドロップします。

- d. 「**ノードがありません**」セクションで、120 という名前のノードを選択します。  
ノードがソース階層でハイライト表示されます。

- e. 120 ノードをソース階層からターゲット階層の最上位ノードにドラッグ・アンド・ドロップします。


次の例に示すように、2 つの階層が同じリーフ・ノードを持つようになります。

Name	Description
1000	Total Cost Centers
100	Research and Development
110	R and D US
111	R and D Growth
112	R and D Mfg
120	R and D Canada

Name	Description
cc_1000	Cost Centers
cc_100	Research and Dev
cc_110	R and D US
cc_111	R and D Growth
cc_112	R and D Mfg
cc_120	R and D Canada

### ノート:

接頭辞 **cc\_** がターゲット階層のノードに自動的に追加されました。  
これは、ターゲット階層アプリケーションのノード・タイプにノード・タイプ修飾子 **cc\_** があるためです。

7.  をクリックすると、すべての**ソース階層**リーフ・ノードが**ターゲット階層**ビューポイントにあることを検証する比較が再実行されます。

「**ノードがありません**」セクションに、「**表示する差異はありません**」というメッセージが表示されます。

8. 「**送信**」をクリックします。

## 結果

ノード・タイプ・コンバータを作成し、2 つのビューポイントのノードを比較して差異を見つけ、欠落しているノードを追加する要求を作成して送信しました。

# エンタープライズ・データのリスト形式での管理

このシナリオでは、トランザクション・システムからの一般会計勘定科目、コスト・センター、部門などのセグメント値を同期する方法を説明します。

参照データ・リストや従業員のようなエンタープライズ・データなど、階層を必要とせず、ドメインの最下位レベルを使用するシステムにも使用できます。

## 管理者のステップ

### 管理者の前提条件

Oracle Enterprise Data Management Cloud でインポートおよび管理するすべてのセグメント値または参照データを含むシステムからの抽出を行う必要があります。[ユーザー定義ディメンションに対するファイル形式のインポートおよびエクスポート](#)を参照してください。

### 管理者のプロセス

1. 外部アプリケーションから、セグメント値または参照データをファイルに抽出します。
2. 汎用アプリケーション・ウィザードを使用して外部アプリケーションを登録します。[汎用アプリケーションの操作](#)を参照してください。
3. インポート・ウィザードまたはビューポイントへのロード要求を使用してファイルをインポートします。
4. ユーザーに、Oracle Enterprise Data Management Cloud アプリケーションに対するデータ・マネージャ権限を付与します。

### 管理者の詳細ステップ

1. ディメンションを登録し、ディメンション・タイプとして「フラット」を選択します。

The screenshot shows the 'Dimension Basic Info' form in the Oracle Enterprise Data Management Cloud interface. The form includes the following fields and values:

- Dimension Name \***: Accounts
- Dimension Description**: Account List
- Dimension Type**: Flat (highlighted with a red circle)
- External Dimension Name**: Accounts
- Allow Shared Nodes**:

Navigation buttons 'Next' and 'Close' are visible at the top right of the form.

2. デフォルト・ビューの作成後、次のいずれかを行います。
  - ディメンションに対して現在データが存在しない場合はインポート・ウィザードを使用します。[ディメンションのインポート](#)を参照してください

- 既存のディメンションにデータを追加する場合は、デフォルト・ビューでビューポイントを開き、要求を作成して、ビューポイントにファイルをロードします。[ロード・ファイルを使用する変更](#)を参照してください
3. ユーザーに、デフォルト・ビューの名前とアプリケーションに対するデータ・マネージャ権限を付与します。[ユーザーのステップ](#)を参照してください

## ユーザーのステップ

### ユーザーの前提条件

アプリケーションに対するデータ・マネージャ権限が必要です。

### ユーザー・プロセス

ユーザーは、データを管理し、外部アプリケーションにデータをエクスポートします。

1. 必要に応じてノードとプロパティを更新します。[対話型での変更](#)を参照してください。
2. 最下位レベル・ノードをエクスポートします。[ディメンションのエクスポート](#)を参照してください。
3. 最下位レベル・ノードを外部アプリケーションにインポートします。







### ユーザーの詳細なステップ

1. 要求を使用して Oracle Enterprise Data Management Cloud のデータを更新します。
2. エクスポートする前に:
  - ディメンションがバインドされていることを確認します。[バインディング・ルールの理解](#)を参照してください。
  - ビューポイントを検証します。[ビューポイントの検証](#)、[検証の問題の解決](#)および[検証および制約の理解](#)を参照してください。
3. 一般会計アプリケーションなどのターゲット・アプリケーションで使用するために情報をファイルにエクスポートします。  
これを行うには、「**アプリケーション**」画面でアプリケーションの横の「アクション」メニューをクリックし、「**エクスポート**」をクリックします。



## Applications


8 Applications

Name and Description	Type	Default View	Primary Connection	Actions
 <b>Acquired GL (Legacy)</b> General ledger from acquired company	Universal	<b>Acquired GL (Legacy)</b> Acquired GL Chart of Accounts		
 <b>Corporate Planning</b> Corporate Planning	Planning Modules	<b>Corporate Planning</b> Corporate Planning	Production Production Pod	
 <b>E-Business Suite GL</b> E-Business Suite General Ledger	E-Business Suite General Ledger	<b>EBS Chart of Accounts</b> E-Business Suite GL Chart of Accounts		
 <b>Financial Consolidation and Close</b> Financial Consolidation and Close	Financial Consolidation and Close	<b>Financial Consolidation and Close</b> Financial Consolidation and Close Defau...	Production Production FC	<b>Inspect</b>
 <b>Financials Cloud</b> Financials Cloud GL	Financials Cloud General Ledger	<b>Financials Cloud</b> Financials Cloud GL segments	Financials Cl Oracle Financi	<b>Modify Registration</b>
 <b>Planning and Budgeting</b> Planning and Budgeting	Planning	<b>Cost Center Redesign</b> Combine Departments and Cost Centers...	None	<b>Import</b>
 <b>Reference Data</b> Reference Data: Geo, Product	Universal	<b>Reference Data</b> Reference Data for Products and Geo		<b>Export</b>
 <b>ZDW GL</b> GL Application	Universal	<b>ZDW GL</b> ZDW GL Default View		Export Mapping Delete

4. 「エクスポート・ターゲット」で、「ファイル」を選択します。

ZDW GL Close

Dimensions Configure export for: Accounts Export

 Accounts  
Last Exported: Never

Settings

Export Target:

File: ExportedMetadata\_Accounts.csv

Summary

Dimension Type: User Defined  
Viewpoint: Accounts

History

Last Exported: Never  
Exported By:  
Messages

5. ファイルがエクスポートされたら、外部アプリケーションにインポートできます。

## 結果

これで、Oracle Enterprise Data Management Cloud アプリケーションからの基本レベル・ノードのエクスポートを入手しました。このエクスポートをターゲット・アプリケーションにインポートして、参照データの管理や一般会計のセグメント値などのフラット・リストの管理のユース・ケースを処理できます。

# 41

## ソース・ディメンションのターゲット・ディメンションへのマッピング

一般会計を使用している会社を買収し、一般会計勘定科目を **Planning** 勘定科目にマッピングするとします。メンテナンス・ビューを作成すると、マッピングされたデータを定義して、データ管理を使用して再度これを **Planning** にインポートできます。このシナリオでは、ソースである一般会計用、ターゲットである **Planning** 用、一般会計勘定科目の **Planning** 勘定科目へのマッピング用の 3 つのビューポイントを使用します。

### ノート:

最下位レベルのソース・ノードは最下位レベルのターゲット・ノードにのみマッピングできます。

ソースは買収された側の **GL** アプリケーションおよび次に示す勘定科目ディメンションです。

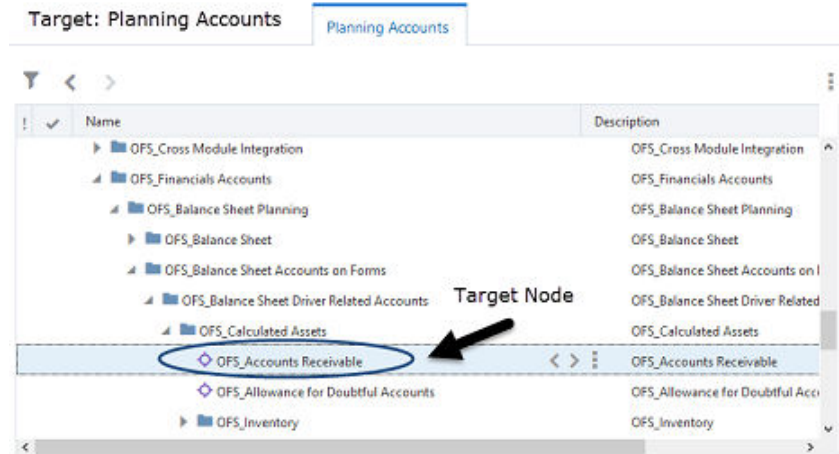
Source: Acquired GL Accounts

Acquired GL Accounts

Source Node

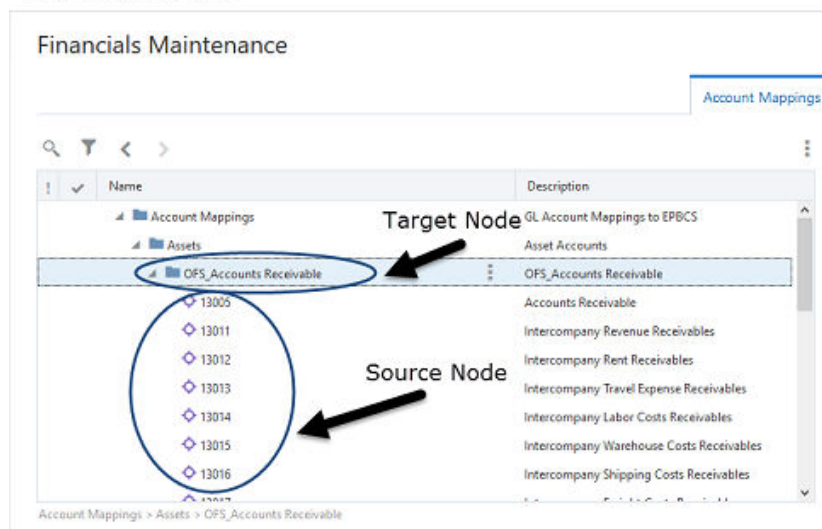
Name	Description	Node Type
13005	Accounts Receivable	Account
13010	Total Intercompany Receivables	Account
13011	Intercompany Revenue Receivables	Account
13012	Intercompany Rent Receivables	Account
13013	Intercompany Travel Expense Receivables	Account
13014	Intercompany Labor Costs Receivables	Account
13015	Intercompany Warehouse Costs Receivables	Account
13016	Intercompany Shipping Costs Receivables	Account
13017	Intercompany Freight Costs Receivables	Account
13018	Intercompany I/T Costs Receivables	Account

ターゲットは **Planning** アプリケーションおよび次に示す勘定科目ディメンションです。



マッピング・ビューポイントまたは階層内で、**Planning** 勘定科目であるターゲット・ノードを追加します。次に、一般会計勘定科目であるソース・ノードを次に示すように追加します。

### Mapping Hierarchy



### プロセス

- 次のステップは管理者が実行します。
  - ソース・アプリケーションおよびターゲット・アプリケーションを登録します。

#### ノート:

アプリケーションを登録するには、「アプリケーション - 作成」ロールが必要です。

- ソース・ディメンションおよびターゲット・ディメンションをインポートします。
- ソース・ディメンションとターゲット・ディメンションをマップするマップ・バインドを作成します。マップ・バインドを作成すると、新しい階層セット、ノード・セットおよびマッピング・ビューポイントが作成されます。
- マッピング・キーを定義します。
- マップ・バインドの作成時に作成されたソース・ディメンション、ターゲット・ディメンションおよびマッピング・ビューポイントが含まれるメンテナンス・ビューを作成します。

### ノート:

ビューを作成するには、「ビュー - 作成」ロールが必要です。

- ユーザーに対して
  - \* ユーザーがマッピング・ビューポイントを更新できるように、ターゲット・アプリケーションに対するデータ・マネージャ権限をユーザーに付与します。
  - \* ユーザーにマッピング・キーの場所名を伝えます。
- 次のステップはユーザーが実行します。
  - マッピング・ビューポイントを更新するには、ターゲット・アプリケーションに対するデータ・マネージャ権限が必要です。
  - 管理者が設定したメンテナンス・ビューを使用します。
  - マッピング・ビューポイントを使用してノードをマッピングします。ターゲット・アプリケーションから親ノードを、ソース・アプリケーションから子ノードを追加します。
  - マッピング・キーの場所名を使用して、マッピング・データをエクスポートします。
  - **Planning** を開き、データ管理モジュールを使用してマッピング・データをインポートします。マッピング・キーに対して管理者が定義した場所名を使用します。

## 管理者のステップ

ユーザーがデータをマッピングして作業するため、管理者はソース、ターゲット、およびマッピングのビューポイントを持つビューを設定します。

### 管理者の前提条件

アプリケーションを登録するには、「アプリケーション - 作成」ロールが必要です。アプリケーションを登録すると、アプリケーションおよびデフォルト・ビューに対する所有者権限が割り当てられます。メンテナンス・ビューとビューポイントを作成するには、「ビュー - 作成」ロールが必要です。

### 管理者のプロセス

1. ソース・アプリケーションおよびターゲット・アプリケーションを登録し、インポートします。
2. マップ・バインドを作成します。これにより、階層セット、ノード・セットおよびマッピング・ビューポイントも作成されます。

3. ソース・ディメンション、ターゲット・ディメンションおよびマッピング・ビューポイントが含まれるビューポイントを備えたメンテナンス・ビューを作成します。
4. マッピング・キーを定義します。
5. ターゲット・アプリケーションにデータ・マネージャ権限を付与し、マッピング・キーの場所名をユーザーに伝えます。

### 管理者の詳細ステップ

#### アプリケーションおよびディメンションの登録とインポート

アプリケーションおよびディメンションを登録およびインポートするには:

1. 一般会計アプリケーションを登録して、ソース・ディメンションである一般会計勘定科目ディメンションをインポートします([汎用アプリケーションの操作](#)を参照)。

#### ノート:

デフォルトのビュー、ビューポイント、ノード・セット、階層セット、ノード・タイプが **GL** 勘定科目という名前で作成されます。**GL** 勘定科目ビューポイント、ノード・セット、階層セット、ノード・タイプが **GL** 勘定科目ディメンションにバインドされます。

2. **Planning** アプリケーションを登録して、ターゲット・ディメンションである **Planning** 勘定科目ディメンションをインポートします([Planning およびフリーフォーム・アプリケーションの操作](#)を参照)。

#### ノート:

デフォルトのビュー、ビューポイント、ノード・セット、階層セット、ノード・タイプが **Planning** 勘定科目という名前で作成されます。**Planning** 勘定科目ビューポイント、ノード・セット、階層セット、ノード・タイプが **Planning** 勘定科目ディメンションにバインドされます。

#### マップ・バインドのソース・ノードタイプを作成します。

#### ノート:

ソース・アプリケーションのソース・ノード・タイプは使用できないため、新しいソース・ノード・タイプを作成する必要があります。ノード・タイプはディメンションとアプリケーションに対して固有です。

1. ターゲット・ディメンションを使用して、ソース・ノードを保持するためのノード・タイプをマッピング・ビューポイントに作成します。[ノード・タイプの作成](#)を参照してください。
2. ノード・タイプ・コンバータを作成し、各ソース・アプリケーションのノード・タイプを前述のステップ 1 で作成したノード・タイプに変換します。[ノード・タイプ・コンバータの操作](#)を参照してください。

- アプリケーション間で数値データを転送するときに符号の変更が必要となるノードをマッピングする場合(たとえば、資産を負債にマッピングする場合は、必要に応じて、ソース・ノード・タイプに Core.Change.Sign プロパティを追加します。

### マップ・バインドの作成

ソース・ノードをターゲット・ノードにバインドするマップ・バインドを作成します。マップ・バインドの作成を参照してください。

ノード・タイプをマップ・バインドに追加する場合は、マップ先のすべてのターゲット・ノード・タイプと、マッピング・ビューポイント用に作成したソース・ノード・タイプを追加します。

### メンテナンス・ビューの設定

ソース・ビューポイントおよびターゲット・ビューポイントが含まれるメンテナンス・ビューを設定します。

- メンテナンス・ビューを作成します(ビューの作成を参照)。
- GL 勘定科目ノード・セットを使用して、ソース・ビューポイントを追加します。
- Planning 勘定科目ノード・セットを使用して、ターゲット・ビューポイントを追加します。

#### ノート:

ビューポイントの作成を参照してください

- マップ・バインドの作成時に作成されたマッピング・ビューポイントを追加します。
- ターゲット・ノード・タイプを使用して、マッピング・ビューポイントの最上位ノードを作成します。  
これにより、最上位ノードの数が最小限に抑えられます。たとえば、勘定科目マッピングという名前を付けて、その下にターゲット勘定科目をドラッグ・アンド・ドロップできます。

この図は、最上位ノードの勘定科目マッピングを含むマッピング・ビューポイントを示します。

!	✓	Name	Description
		Account Mappings	

### ターゲット・ディメンションへのターゲット・ビューポイントのバインド

メンテナンス・ビューを使用してマッピング・キーを作成し、マッピング・データをエクスポートする前に、マッピング・ビューポイントとターゲット・ディメンションにバインドされたビューポイントの両方を含める必要があります。メンテナンス・ビューでは、ターゲット・ビューポイントはアプリケーション登録の外部で作成され、デフォルトではターゲット・ディメンションにバインドされていません。ターゲット・ビューポイントをバインドするには、ターゲット・ディメンションの既存のバインドを編集し、ターゲット・ビューポイントを指すように変更します。ディメンションにバインドされたオブジェクトの特定を参照してください。

## マッピング・キーの作成

マッピング・キーはソース・ノード・タイプのターゲット・ノード・タイプへのマッピングを定義します。マッピング・キーを定義するには:

1. マッピング・キーを作成し、ノード・タイプの相互マッピングを定義します。マッピング・ビューポイントで、ソース・ノード・タイプに取得 **GL** 勘定科目、およびターゲット・ノード・タイプに **Planning** 勘定科目を指定します([マッピング・キーの定義](#)を参照)。
2. 「**場所名**」を MapGLtoPlanning に設定します。

## ユーザーへの情報提供

次の情報をユーザーに提供します。

- 操作するメンテナンス・ビューの名前。
- ターゲット・アプリケーションに対する **参加者(書込み)権限(アプリケーション権限の割当て**を参照)。
- エクスポート時に使用するマッピング・キーの場所名、MapGLtoPlanning。

### ノート:

ユーザーのステップは、[ユーザーのステップ](#)を参照してください。

# ユーザーのステップ

ユーザーはマッピング・ビューポイントでターゲット・ノードを追加し、ソース・ノードを追加したターゲット・ノードにマッピングします。次に、マッピングしたビューポイントを、データ管理を使用して **Planning** にマッピングできます。

## ユーザーの前提条件

管理者はアプリケーションを登録してインポートし、ソース勘定科目、ターゲット勘定科目およびマッピング・ビューポイントの **3** つのビューポイントを持つメンテナンス・ビューを作成し、マッピング・キーを定義します。マッピング・データをエクスポートするには、管理者がマッピング・キーの場所名、MapGLtoPlanning を提供する必要があります。その後、**Planning** からマッピング・データをインポートできます。

マッピング・データをエクスポートするには、ターゲット・アプリケーションに対するデータ・マネージャ権限が必要です。

## ユーザー・プロセス

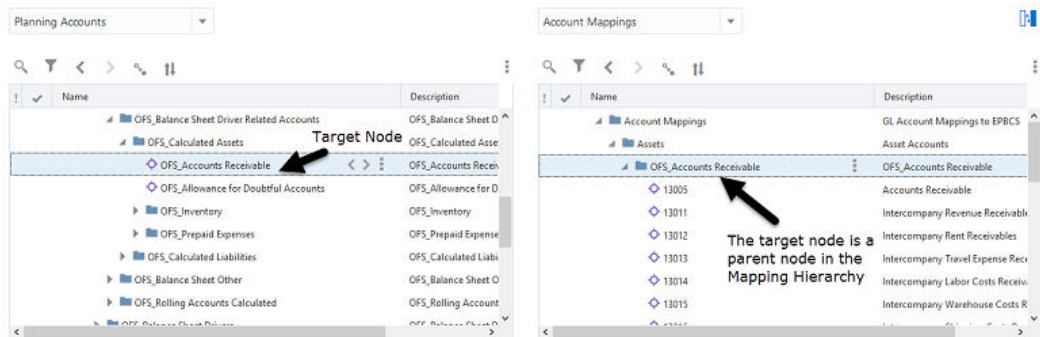
1. ターゲット・アプリケーションの親とソース・アプリケーションの子を使用して、マッピング・ビューポイントを更新します。
2. マッピング・データをエクスポートします。
3. **Planning** にマッピング・データをインポートします。

## ユーザーの詳細なステップ

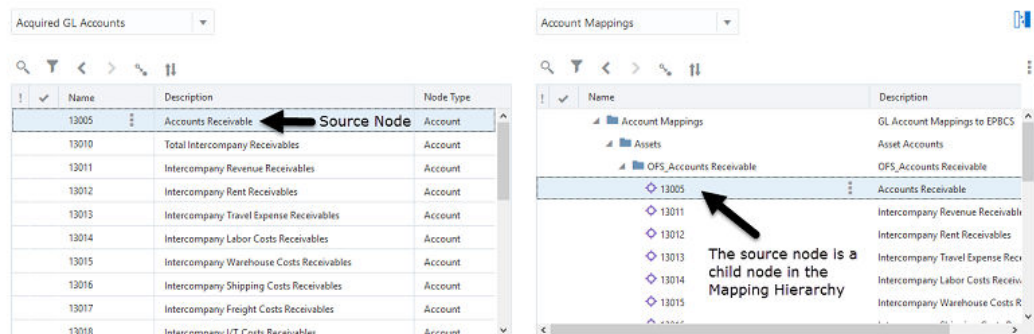
### 最下位ノードのマップ

最下位ノードをマップするには:

1. **Planning** 勘定科目ノードにマッピングするソース取得一般会計勘定科目ノードを確認して決定します。
2. **Planning** 勘定科目が左、マッピング・ビューポイントが右の左右並びレイアウトを使用します。
3. **Planning** ノードを親としてマッピング・ビューポイントにドラッグ・アンド・ドロップします。



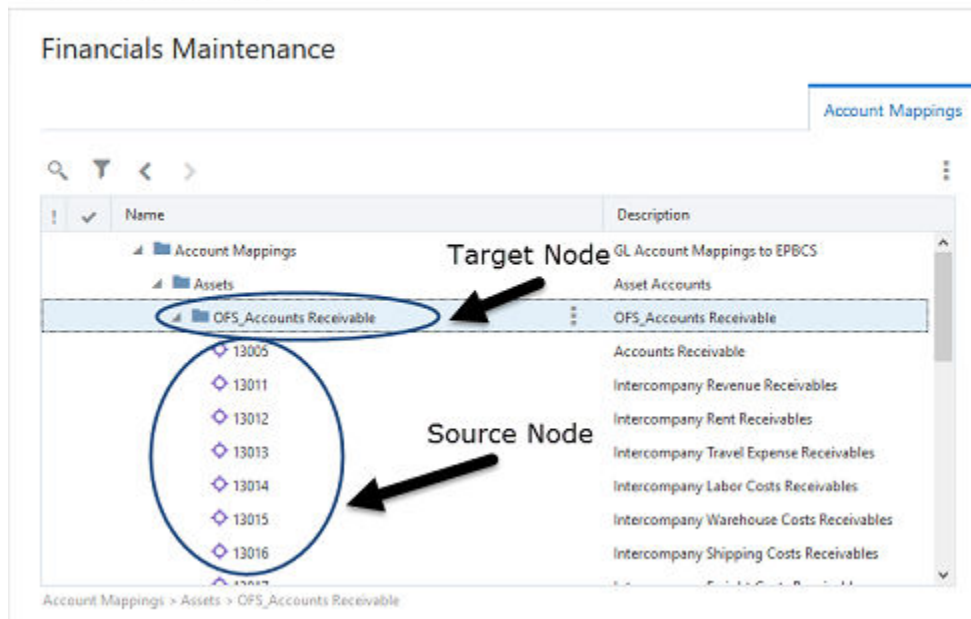
4. 取得 GL 勘定科目が左、マッピング・ビューポイントが右の左右並びレイアウトを使用します。
5. 取得一般会計ノードを子としてマッピング・ビューポイントにドラッグ・アンド・ドロップします。



6. 必要な数だけノードをマップします。



## Mapping Hierarchy



### マッピング・データをエクスポートします

マッピング・データをエクスポートするには:

1. マッピング・ビューポイントを検証します([ビューポイントの検証](#)を参照)。
2. マッピング・データをローカル・ファイルまたはデータ管理受信ボックスにエクスポートします([マッピング・データのエクスポート](#)を参照)。

#### ノート:

エクスポート時には、管理者がマッピング・キーに定義した場所名、MapGLtoPlanning を使用します。

### データ管理受信ボックスを使用したマッピング・データのインポート

Planning 内でデータ管理モジュールを開き、受信ボックスに移動します([Oracle Enterprise Performance Management Cloud データ管理の管理のメンバー・マッピングのインポート](#)を参照)

インポート中、選択したマッピング・キー(データ管理内の場所)のターゲット・ノード内の値に負数の符号が適用されます

マッピング・データをインポートするには:

1. 外部アプリケーションを開き、データ管理受信ボックスに移動します。
2. **データ・ロード・マッピング**をクリックします。
3. 画面下部で、**DelimitedLocation** をクリックします。

4. 「場所」フィールドに、管理者が Oracle Enterprise Data Management Cloud でマッピング・キーに設定した場所名、MapGLtoPlanning を入力します。
5. 「インポート」→現在のディメンションをクリックします。
6. エクスポートしたマッピング・データ・ファイルを選択します。

# Data Relationship Management から Oracle Enterprise Data Management Cloud へのエンタープライズ・データの移行

このシナリオでは、汎用アプリケーション・ウィザードを使用して Oracle Data Relationship Management アプリケーションから Oracle Enterprise Data Management Cloud にエンタープライズ・データを移行する方法を示します。Data Relationship Management アプリケーションを汎用アプリケーションとして登録し、ディメンション構造をアプリケーションにインポートするステップを説明します。

データ・マネージャのロールはエンタープライズ・データ・アセットを管理する際に重要な部分ですが、このシナリオのステップでは、Oracle Enterprise Data Management Cloud 内でエクスポートの登録プロセスを完了するために必要な管理タスクに重点を置きます。

## ノート:

このシナリオは Data Relationship Management アプリケーション用に記述されたものですが、同じステップで汎用アプリケーション・ウィザードを使用して他のタイプのアプリケーションに接続することもできます。

Data Relationship Management 11.1.2.4.330 以上が、オンプレミスからクラウドへの移行でサポートされています。

## 管理者のステップ

### 管理者の前提条件

Oracle Data Relationship Management アプリケーションからのディメンション・エクスポートは、汎用アプリケーション・ウィザードを使用しているときに必要です。Oracle Enterprise Data Management Cloud でインポートおよび管理するすべてのディメンションを含む Data Relationship Management ディメンション・エクスポートを準備する必要があります。このエクスポートを作成し、ジョブを実行して、結果の CSV ファイルが生成されて Oracle Enterprise Data Management Cloud で接続できる場所に配置されるようにします。このファイルを Oracle Enterprise Data Management Cloud にインポートします。

アプリケーションを登録するには、「アプリケーション - 作成」ロールが必要です。アプリケーションを登録すると、アプリケーション・ビューおよびデフォルト・ビューに対する所有者権限が自動的に割り当てられます。

### 管理者のプロセス

1. Data Relationship Management アプリケーションを登録します。汎用アプリケーションの操作を参照してください。

2. Data Relationship Management にエクスポートを作成します。
3. 登録したディメンションをインポートします。 [検証および制約の理解](#)を参照してください。
4. ユーザーに、Data Relationship Management アプリケーションからディメンションを管理するために必要なデータ・チェーン要素に対する適切なアクセス権を付与します。 [ルールと権限の操作](#)を参照してください。
5. ユーザーによって変更が行われた後でディメンションをエクスポートします。 [ユーザー定義ディメンションのエクスポート](#)を参照してください。

## 詳細なステップ

### 次も参照:





- [ステップ 1: Data Relationship Management アプリケーションの登録](#)
- [ステップ 2: Data Relationship Management でのエクスポート・ファイルの作成](#)
- [ステップ 3: ディメンションのインポート](#)

## ステップ 1: Data Relationship Management アプリケーションの登録


1. 「アプリケーション」から、「登録」をクリックします。

Applications Register


🔍 ▼


Name and Description	Type	Default View
 <b>Acquired GL (Legacy)</b> General ledger from acquired company	Universal	<b>Acquired GL (Legacy)</b> Acquired GL Chart of Accounts
 <b>Corporate Planning</b> Corporate Planning	Planning Modules	<b>Corporate Planning</b> Corporate Planning
 <b>E-Business Suite GL</b> E-Business Suite General Ledger	E-Business Suite General Ledger	<b>EBS Chart of Accounts</b> E-Business Suite GL Chart of Accounts
 <b>Financial Consolidation and Close</b> Financial Consolidation and Close	Financial Consolidation and Close	<b>Financial Consolidation and Close</b> Financial Consolidation and Close Defau...


2. 「汎用」アプリケーション・タイプを選択します。


 New Application


Choose an Application Type


 **E-Business Suite General Ledger**  
Provides highly automated financial processing, effective management control, and real-time visibility to financial results.

 **Financial Consolidation and Close**  
Provides an end to end solution for both effectively and efficiently managing the consolidation and close process.

 **Financials Cloud General Ledger**  
Provides a modern finance experience and delivers success with streamlined processes, increased productivity, and improved business decisions.

 **Planning**  
Provides a flexible planning application that supports enterprise-wide planning, budgeting, and forecasting in a cloud-based deployment model and includes custom and free form planning.

 **Planning Modules**  
Provides pre-built business applications that support enterprise-wide planning, budgeting, and forecasting in a cloud-based deployment model.

 **Universal**  
Manage Enterprise data for any business application for which a packaged application type does not exist. This application can be Oracle or non-Oracle, cloud or on-premise, or managed by a third-party system.

3. アプリケーションの名前と説明を指定します。

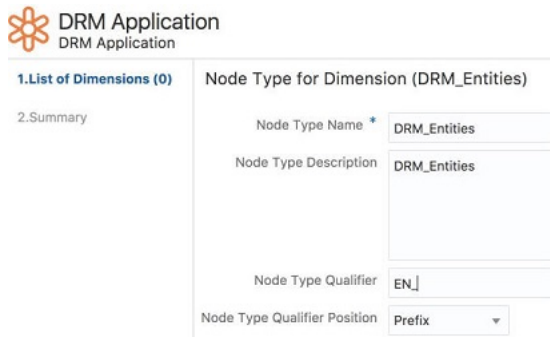
4. Oracle Data Relationship Management アプリケーションを作成します。

5. 「追加」をクリックして、Data Relationship Management アプリケーションからインポートするディメンションを定義します。

6. ディメンション情報を入力します。各ディメンションについて、階層とフラット・リストのどちらであるかを決定し、Data Relationship Management での外部ディメンション名を記録し、共有ノードを許可するかどうかを指定します。

7. 各ディメンションについて、「追加」をクリックしてノード・タイプ・リストを定義します。

8. 必要に応じて各ノード・タイプの名前および修飾子を入力します。



DRM Application  
DRM Application

1.List of Dimensions (0) Node Type for Dimension (DRM\_Entities)

2.Summary

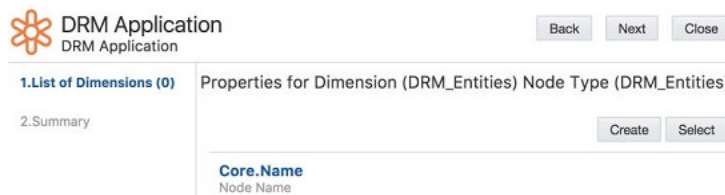
Node Type Name \* DRM\_Entities

Node Type Description DRM\_Entities

Node Type Qualifier EN

Node Type Qualifier Position Prefix

9. 各ディメンションについて、各ノード・タイプのプロパティを作成します。



DRM Application  
DRM Application

Back Next Close

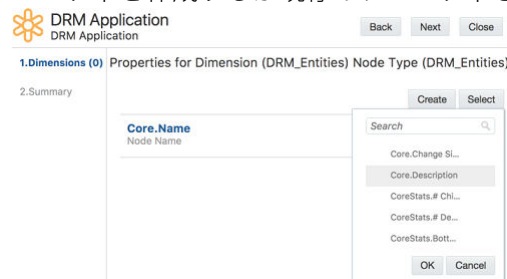
1.List of Dimensions (0) Properties for Dimension (DRM\_Entities) Node Type (DRM\_Entities)

2.Summary

Create Select

Core.Name  
Node Name

10. そのノード・タイプのノードで使用可能にする必要のあるプロパティを定義します。新規プロパティを作成するか既存のプロパティを選択します。「次」をクリック



DRM Application  
DRM Application

Back Next Close

1.Dimensions (0) Properties for Dimension (DRM\_Entities) Node Type (DRM\_Entities)

2.Summary

Create Select

Core.Name  
Node Name

Search

Core.Change Si...

Core.Description

CoreStats.# Chi...

CoreStats.# De...

CoreStats.Bot...

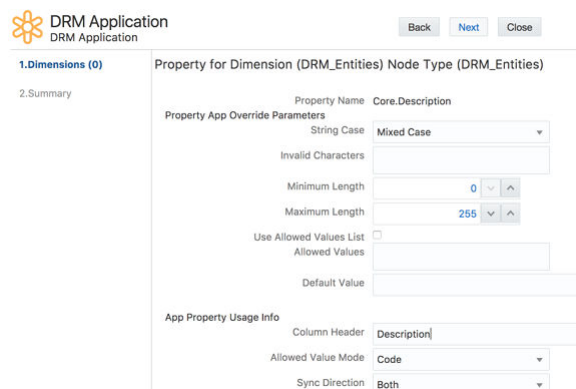
OK Cancel

クします。

11. プロパティ情報を更新し、「次」をクリックします。

### ノート:

列ヘッダーは必須です。



DRM Application  
DRM Application

Back Next Close

1.Dimensions (0) Property for Dimension (DRM\_Entities) Node Type (DRM\_Entities)

2.Summary

Property Name Core.Description

Property App Override Parameters

String Case Mixed Case

Invalid Characters

Minimum Length 0

Maximum Length 255

Use Allowed Values List

Allowed Values

Default Value

App Property Usage Info

Column Header Description

Allowed Value Mode Code

Sync Direction Both

12. プロパティ名、説明、有効値およびプロパティがノード・レベルと関係レベルのどちらであるかを定義します。「次」をクリックします。

DRM Application  
DRM Application

Back Next Close

1.List of Dimensions (0) New Property for Dimension (DRM\_Entities) Node Type (DRM\_Entities)

2.Summary

Property Template Custom.Boolean Template

Property Name \* DRM\_IsEntity

Property Description DRM\_IsEntity - Boolean property that denotes if node is an entity or not.

Property Level Node

Node  
Relationship

13. プロパティ・オーバーライド・パラメータとプロパティ使用情報を定義します。

DRM Application  
DRM Application

Back Next Close

1.Dimensions (0) Property for Dimension (DRM\_Entities) Node Type (DRM\_Entities)

2.Summary

Property Name Custom.DRM\_IsEntity

Property App Override Parameters

Boolean Display Type Y/N

Default Value

App Property Usage Info

Column Header DRM\_IsEntity

Boolean True Value 1

Boolean False Value 0

Sync Direction Both

14. デイメンションのプロパティの要約を確認します。

DRM Application  
DRM Application

Back Next Close

1.Dimensions (0) Properties for Dimension (DRM\_Entities) Node Type (DRM\_Entities)

2.Summary

Create Select

Core.Name  
Node Name

Core.Description  
Node Description

Custom.DRM\_IsEntity  
DRM\_IsEntity boolean property that denotes if a node is an entity or not

15. 各デイメンションの最上位ノードと、インポートおよびエクスポート・ファイル内の「ノード・タイプ」フィールドの列ヘッダーを含めます。

DRM Application  
DRM Application

Back Next Close

1.Dimensions (1) Import and Export for Dimension (DRM\_Entities)

2.Summary

Default Node Type DRM\_Entities

Default Parent Node Type DRM\_Entities

Top Node Indicator EN\_None

Use Node Type Column

Node Type Column Header Node\_Type

Use Parent Node Type Column

Parent Node Type Column Header

16. ステップ 5 から 15 を繰り返して他のデイメンションを登録に追加し、「次」をクリックします。
17. すべての登録情報を確認し、「適用」をクリックして Data Relationship Management アプリケーションを登録します。

DRM Application  
DRM Application

Back Apply Close

1. Dimensions (1)

2. Summary

Review the registration before applying changes

**Dimensions (1)**

Dimension

Dimension Name DRM\_Entities

Dimension Description DRM\_Entities

Dimension Type Hierarchy

External Dimension Name

Allow Shared Nodes True

---

**Node Types (1)**

Node Type

Node Type Name DRM\_Entities

Node Type Description DRM\_Entities

Node Type Qualifier EN\_

Node Type Qualifier Position Prefix

---

**Import and Export for Dimension (DRM\_Entities)**

Default Node Type DRM\_Entities

Default Parent Node Type DRM\_Entities

Top Node Indicator All\_Entities

Use Node Type Column True

Node Type Column Header Node\_Type

Use Parent Node Type Column False

Parent Node Type Column Header

## ステップ 2: Data Relationship Management でのエクスポート・ファイルの作成

### ノート:

このステップは Oracle Data Relationship Management で実行します。

### 前提条件

必要に応じて、Oracle Enterprise Data Management Cloud ノード・タイプなどの新規プロパティを Data Relationship Management で作成します。

Home | DRM\_Export\_for\_EDMCS\* x | New Property\* x

Namespace: Custom

\* Name: Node\_Type Fully Qualified Name: Custom.Node\_Type

\* Label: Node\_Type

Description:

Property Level: Global Node Data Type: String Maximum Length: Minimum Length: Column Width: 20

Property Type: Defined

Default Value: DRM\_Entities

Inherited  Overridable  List  Hidden  Indexed

**Categories** | Lookup Table | List Values | Parameters | Constraints | External Lookup

Available

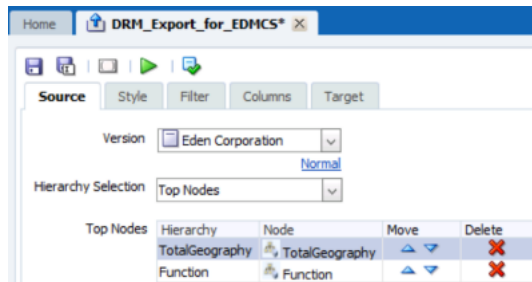
- Address
- Best Buy
- EPM Architect
- Essbase
- FDM
- FDME
- Financial Management
- HR
- ICD
- Lennar

Selected

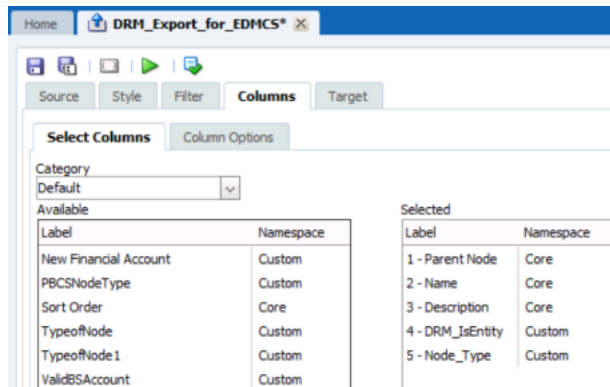
Default

1. Data Relationship Management で、新規エクスポートを作成します。





2. (汎用アプリケーション・ウィザードでこのディメンションに対して設定した内容に基づいて)必要な列とフィールドを選択します。



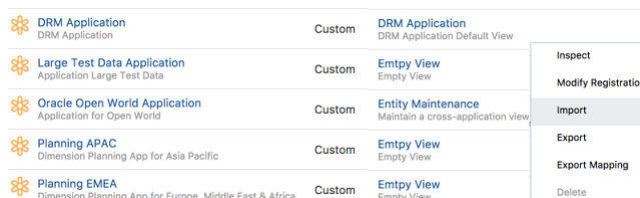
3. これらの選択内容で Oracle Enterprise Data Management Cloud にインポートする場合は、列見出しとともにカンマ区切りでエクスポートします。

## ステップ 3: ディメンションのインポート

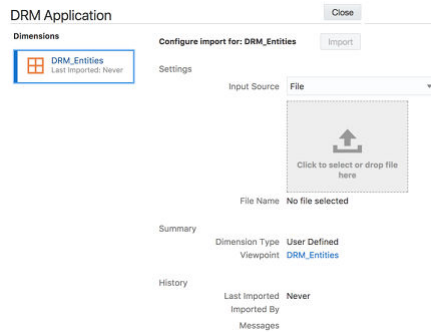
### ノート:

このステップは Oracle Enterprise Data Management Cloud で実行します。

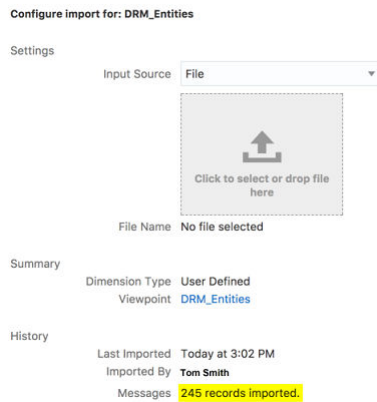
1. 「アプリケーション」で新規アプリケーションを特定し、「アクション」メニューから「インポート」を選択します。



2. 「インポート・ソース」から「ファイル」を選択し、Oracle Data Relationship Management からエクスポートしたファイルを参照して選択します。



インポートに成功すると、インポートしたレコード数が表示されます。

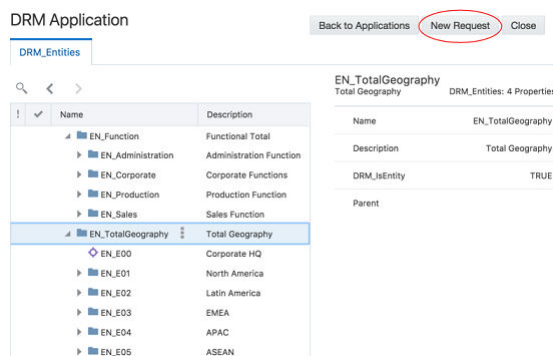


- インポート・ウィザードを閉じ、「アプリケーション」に移動し、アプリケーションのデフォルト・ビューを選択します。

Applications

Name & Description	Type	Default View
<b>Corporate Close</b> Corporate Financial Close Application	Universal	<b>Corporate Close</b> Corporate Financial Close Appl
<b>Corporate Close 2013 Archive</b> Corporate Financial Close Application (2013 Archive)	Universal	<b>Empty View</b> Empty View
<b>Corporate Close 2014 Archive</b> Corporate Financial Close Application (2014 Archive)	Universal	<b>Empty View</b> Empty View
<b>Corporate Close 2015 Archive</b> Corporate Financial Close Application (2015 Archive)	Universal	<b>Empty View</b> Empty View
<b>Departments</b> Departments App	Universal	<b>Departments</b> Departments App
<b>DRM Application</b> DRM Application	Universal	<b>DRM Application</b> DRM Application Default View

- 階層を展開してインポートしたノードに移動し、プロパティ値を表示します。ユーザーがメンテナンス・アクションを開始できるようにビュー名を付与します。[ユーザーのステップ](#)を参照してください。



## 結果

Oracle Data Relationship Management アプリケーションを Oracle Enterprise Data Management Cloud に登録したので、Oracle Enterprise Data Management Cloud 内で管理するために Data Relationship Management からディメンションを移行できます。管理するディメンションをインポートしました。Data Relationship Management アプリケーションまたはその他のアプリケーション用に Oracle Enterprise Data Management Cloud から変更をエクスポートすることもできます。いつどこで誰が変更を行ったかを知るための完全な要求アクティビティ 監査情報を入手しました。

## ユーザーのステップ

### ユーザーの前提条件

管理者は、このシナリオのステップに従って、Oracle Data Relationship Management アプリケーションを正常に登録し、目的のエンタープライズ・データ要素をインポートする必要があります。これが完了すると、セキュリティ 権限に従ってエンタープライズ・データをプロアクティブに管理できます。

### ユーザー・プロセス

実行できるタスクの概要を次に示します。

- メンテナンス・ビューとビューポイントを作成します。[ビューポイントの操作](#)を参照してください。
- 横並びのレイアウトを使用して比較し、アプリケーション間でノードを合理化します。[ビューポイントの比較](#)を参照してください。
- ノードとプロパティを更新し、“仮定”分析用に代替階層を更新します。[対話型での変更](#)を参照してください。
- ある階層から別の階層にノードをマップします。[マッピング・ビューポイントの作成](#)を参照してください。
- データをロードして勘定科目などの新規ディメンションを追加します。[ロード・ファイルを使用する変更](#)を参照してください。
- 「要求」リストでドラフト要求と完了した要求を参照します。[要求アクティビティの操作](#)を参照してください。

### 結果

これで、Data Relationship Management からフィードし、Data Relationship Management アプリケーションおよび必要に応じてその他の外部アプリケーションに戻す可能性のあるエンタープライズ・データの一元的な変更管理ポイントが作成されました。

# バインドされたビューポイントの変更による代替ビューポイントのエクスポート

このユースケースでは、代替ビューポイントをエクスポートできるように、ディメンションにバインドされたビューポイントを変更する方法について説明します。

各ディメンションには、バインドされた1つのビューポイントがあります。ディメンションをインポートすると、ビューポイントのバインドされたデータ・チェーンのオブジェクトが更新されます。ディメンションにエクスポートすると、バインドされたビューポイントのオブジェクトがエクスポートされます。

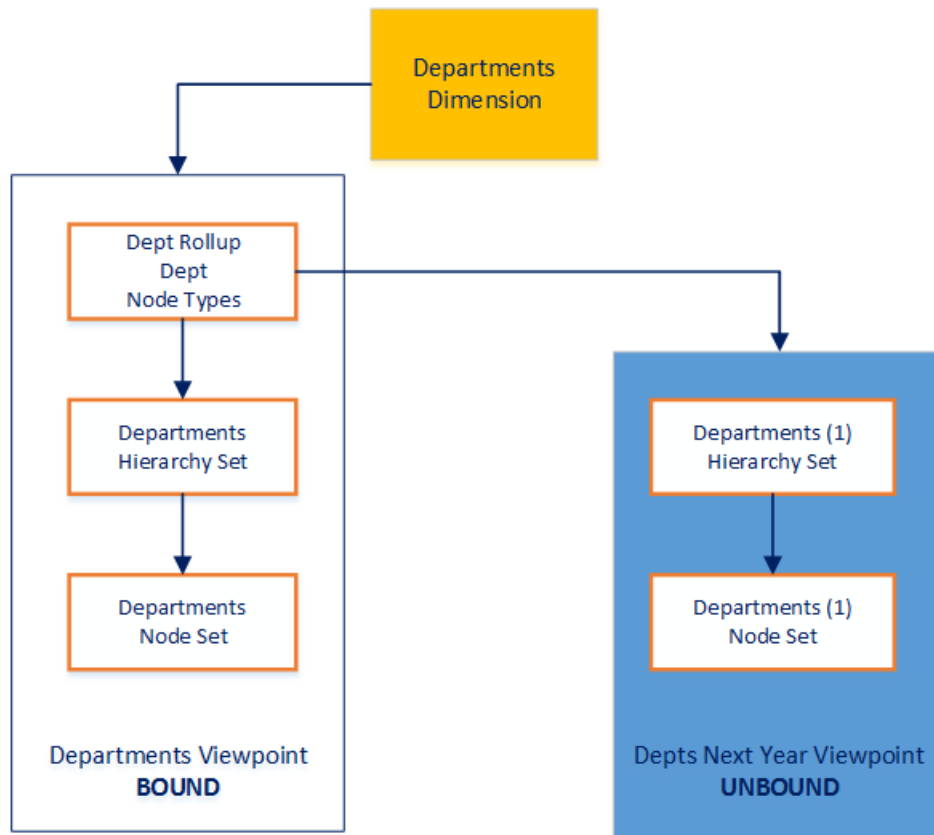
詳細は、次を参照してください：

- [バインディングおよびバインドされたデータ・オブジェクトの理解](#)
- [代替ビューおよびビューポイントの定義](#)
- [ビューポイントのコピー](#)
- [汎用アプリケーションのユーザー定義ディメンションにバインドされたビューポイントの変更](#)

## シナリオ

- 当社は、来年ドイツでの事業を追加します。その変更のために、プランニングを開始する必要があります。
- 当社には、既存の部門ビューポイントがあります。このビューポイントは、部門ディメンションにバインドされています。
- **Depts Next Year** ビューポイントのスタート地点として使用するために、部門ビューポイントのコピーを作成します。
- **Depts Next Year** ビューポイントに変更を加え、新しい親「ドイツ」とその子を追加します。
- **Depts Next Year** ビューポイントをアプリケーションに追加する準備が整ったら、部門ディメンションにバインドされたビューポイントを変更して、ディメンションをエクスポートします。

次の図は、バインドされたビューポイントのデータ・オブジェクト、および既存のビューポイントのコピーして、および関係のみをコピーして作成される新しいオブジェクトを示しています。コピーされたビューポイントで使用されているノード・タイプと同じノード・タイプを再利用します。



### 前提条件

このユースケースでは、次のことを想定しています。

- アプリケーションは登録されています。
- 部門ディメンションはインポートされています。
- 部門という名前のビューポイントが、部門ディメンションにバインドされています。

## ユーザーのステップ


### ユーザーの前提条件

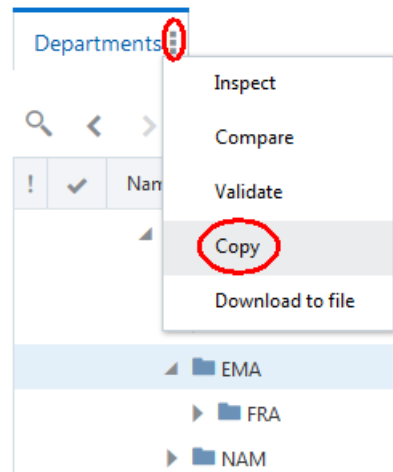
ビューのビューポイントをコピーするためには、アプリケーションとビュー両方の所有者権限が必要です。

### ユーザー・プロセス


1. 既存のビューポイントのコピーして、新しいビューポイントを作成します。
2. 要求を使用して、新しいビューポイントに変更を加えます。
3. 新しいビューポイントをディメンションにバインドします。
4. ディメンションを外部アプリケーションにエクスポートします。

### 詳細なステップ

1. 既存のビューポイントのコピーして、新しいビューポイントを作成します。
  - a. 部門ビューを開いて、部門を選択します。
  - b.  をクリックして、「コピー」を選択します。



- c. 新しいビューポイントの名前(**Depts Next Year**)を入力し、「ノードのコピー」をクリックし、「関係のコピー」が選択されていることを確認して、「コピー」をクリックします。


Copy Viewpoint

Name \*

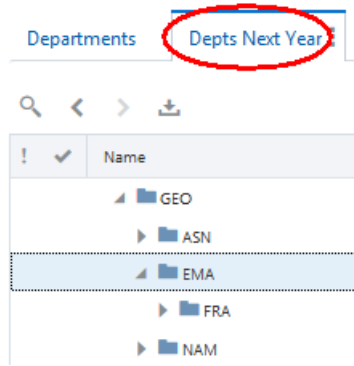
Description

Viewpoint to Copy

Copy Nodes

Copy Relationships

新しいビューポイントがただちに使用可能になります。



新しいビューポイントを作成したビューを調べると、Depts Next Year ビューポイントが作成され、部門ディメンションにバインドされていないことがわかります。

Planning				
Planning Default View				
General Definition Permissions				
Viewpoints				
Name & Description	Application & Dimension	Node Set	Binding	Actions
Departments	Planning Departments	Departments	Bound	
Depts Next Year	Planning Departments	Departments (1)	Unbound	

- 新しいビューポイントを開き、新しい要求を作成して、ビューポイントに変更を加えます。

ここでは、ドイツを EMA の子として追加します。次に、部門 330 と 340 を追加します。

**Request 1202**

Draft

Request for Planning created by Tom Smith.

3 0 0 0

**All Items**

GER	3
330	3
340	3

**Planning - Request 1202**

Departments Depts Next Year

Name	Description
GEO	Total Geography
ASN	Asia
EMA	Europe
FRA	France
GER	Germany
330	Germany Organization
340	Germany Sales
NAM	North America

すべての変更を完了したら、要求を送信して変更をコミットします。

3. Depts Next Year ビューポイントを部門ディメンションにバインドします。新しいビューポイントをディメンションにバインドするときには、バインド・ルールが適用されます。
  - a. 「アプリケーション」から、**Planning** をクリックします。
  - b. 「ディメンション」をクリックしてから「部門」ディメンションをクリックします。

Planning  
Planning

General **Dimensions** Connection Registration Permissions Policies

Dimensions

Name	Dimension Type	Bound Viewpoint(s)
<b>Department</b> Department dimension for planning and budgeting	Entity	Department

- c. 「編集」をクリックします。
- d. 「ビューポイント」から **Depts Next Year** を選択して、「保存」をクリックします。

Departments

General Mapping

Name Departments

Description

Status Active

Application Planning


Dimension Type User Defined

View Planning

Viewpoint **Depts Next Year**

Created Tom Smith Today at 2:26 PM



Modified Tom Smith Today at 2:26 PM

4. 部門ディメンションを外部アプリケーションにエクスポートします。
  - a. 「アプリケーション」から **Planning** を選択し、 をクリックしてから「エクスポート」を選択します。



## Applications


🔍 ⌵

Name & Description	Type	Default View	Primary Connection	Actions
 Planning	Custom	Planning Planning Default View		 Inspect Modify Registration Import <b>Export</b> Export Mapping Delete

- b. 「部門」ディメンション、「エクスポート」の順にクリックします。

### Planning Close

**Dimensions**

 **Departments**  
Last Exported: Today at 3:05 PM

**Configure export for: Departments** Export

Settings

Export Target

File tsmith\_ExportedMetadata\_Departments.csv

Summary

Dimension Type User Defined

Viewpoint **Depts Next Year**

History

Last Exported Today at 3:05 PM  
Exported By Tom Smith  
Messages 476 records exported.

- c. ファイルを保存するか、開くかを選択します。

# Oracle Enterprise Data Management Cloud のバックアップおよびリストア

Oracle Enterprise Data Management Cloud 環境のバックアップにはスナップショットが使用されます。

メンテナンス・スナップショットは、選択した時刻に毎日自動作成されます。このスナップショットはアーティファクト・スナップショットと呼ばれ、Oracle Enterprise Data Management Cloud 環境のすべてのアーティファクトを含みます。

- EDMC リポジトリとデータ権限
- ユーザー、グループおよび割り当てられたロール

新しいメンテナンス・スナップショットによって、以前のスナップショットが毎日置き換えられます。環境をバックアップするためにスナップショットをローカル・コンピュータにダウンロードすることをお勧めします。

障害発生時にサービスを以前の状態にロールバックしたり、サービスをリストアする際に使用できるように、アーティファクトをエクスポートしてスナップショットを作成することもできます。エクスポートするアーティファクトを選択します。サービスのすべてのアーティファクトまたはアーティファクトのサブセットをエクスポートできます。アーティファクトをエクスポートして作成されるスナップショットはサーバーに 60 日保管され、またアーカイブを目的としてローカル・コンピュータにダウンロードできます。

このシナリオでは、エクスポートしたアーティファクトの独自のスナップショットを作成して Oracle Enterprise Data Management Cloud 環境をバックアップする詳細なステップを提示します。

EPM 自動化によるバックアップの詳細は、アプリケーション・スナップショットのコンピュータへのバックアップを参照してください。

## Oracle Enterprise Data Management Cloud のバックアップのための管理者のステップ

### 管理者の前提条件

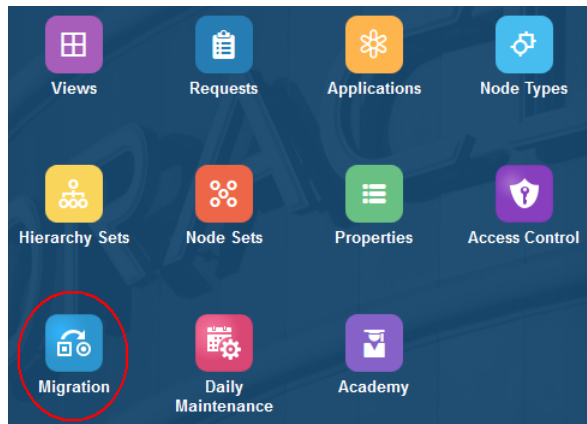
移行機能にアクセスするには、サービス管理者である必要があります。

### 管理者のプロセス

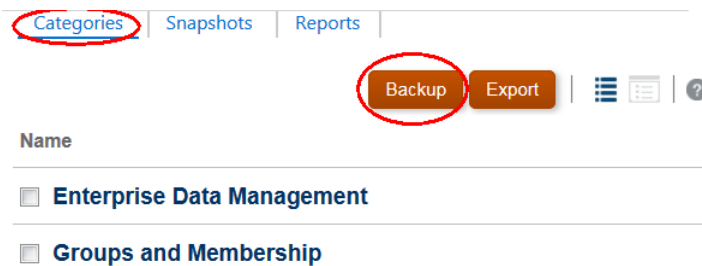
1. スナップショットにアーティファクトをエクスポートします。
2. スナップショットをローカル・コンピュータにダウンロードします。

### 管理者の詳細ステップ

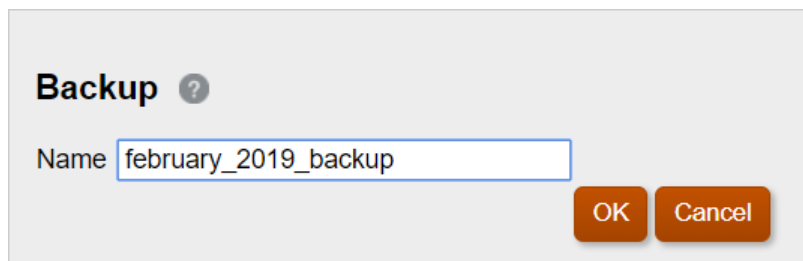
1. 「移行」をクリックします。



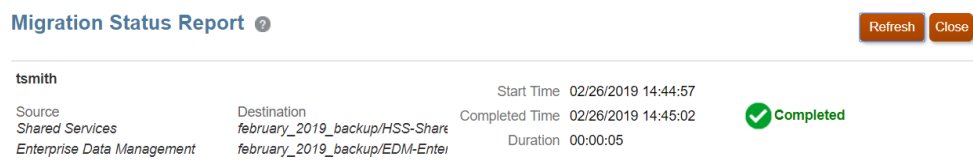
2. 「カテゴリ」で、「バックアップ」をクリックし、Oracle Enterprise Data Management Cloud 環境のすべてのアーティファクトが含まれるスナップショットを作成します。



3. スナップショットの名前を入力し、「OK」をクリックします。



4. 「リフレッシュ」をクリックし、スナップショットが完了するまでの移行ステータス・レポートを更新します。





 ノート:

なんらかの理由でエクスポートが失敗した場合、レポートにはステータスとして「失敗」が表示されます。「失敗」をクリックし、エクスポートが失敗した理由と修正処理を示す「移行詳細」画面が開きます。エクスポートが失敗した原因であるエラーを修正した後、エクスポート操作を再試行できます。


5. 「閉じる」をクリックして、移行ステータス・レポートを閉じます。

エクスポートされたアーティファクトを含むフォルダが、「スナップショット」にリストされます。



Categories | Snapshots | Reports |

Upload Refresh |  | 

Name	Size	Last Modified Time	Actions
▶ dataset	-	02/05/2019 11:56:45	...
▶ february_2019_backup	6 MB	02/26/2019 14:49:39	...

6. スナップショット・ファイルをローカル・コンピュータにダウンロードするには、「スナップショット」でスナップショットの横の  をクリックしてから、「ダウンロード」を選択します。

Categories | Snapshots | Reports |

Upload Refresh |  | 

Name	Size	Last Modified Time	Actions
▶ dataset	-	02/05/2019 11:56:45	...
▶ february_2019_backup	6 MB	02/26/2019 14:49:39	...

Delete

Download

Repeat Export

Rename

Import

Modified Since

7. 圧縮ファイルをローカル・コンピュータに保存します。

## Oracle Enterprise Data Management Cloud 環境のリストアについて

以前のスナップショットからアーティファクトをリストアできます。たとえば、ローカル・マシンにバックアップしたスナップショットからリストアすることで、アーティファクトおよびデータを数日前の状態にリストアできます。このようなケースでは、アーティファクトをリストアする前にスナップショットを Oracle Enterprise Data Management Cloud にアップロードする必要があります。

作成またはサービスにアップロードされたスナップショットは、60 日間サーバーに保存された後に自動的に削除されます。

## Oracle Enterprise Data Management Cloud を復元するための管理者のステップ

### 管理者の前提条件

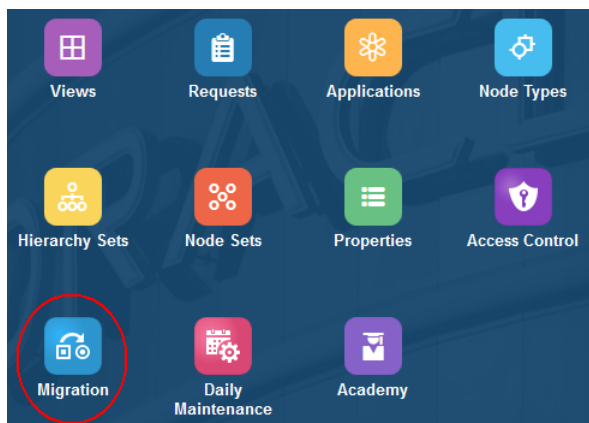
移行機能にアクセスするには、サービス管理者である必要があります。

### 管理者のプロセス

1. 復元するスナップショットをアップロードします。
2. スナップショットをインポートします。

### 管理者の詳細ステップ

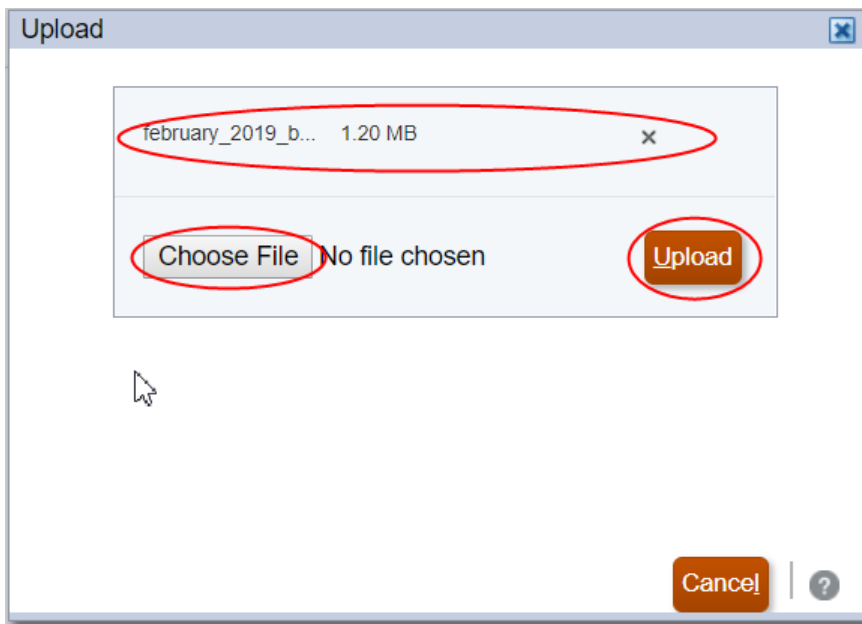
1. 「移行」をクリックします。



2. 「スナップショット」から「アップロード」をクリックします。

Categories		Snapshots	Reports		
Name	Size	Last Modified Time	Actions		
▶ dataset	-	02/05/2019 11:56:45	...		
▶ february_2019_backup	6 MB	02/26/2019 14:49:39	...		

3. 「ファイルの選択」をクリックし、アップロードするスナップショット・ファイルを見つけて、「アップロード」をクリックします。



4. 「スナップショット」でアップロードしたスナップショットを選択し、**...** をクリックしてから「インポート」を選択します。

Categories | **Snapshots** | Reports

Upload Refresh

Name	Size	Last Modified Time	Actions
▶ dataset	-	02/05/2019 11:56:45	...
▶ february_2019_backup	6 MB	02/26/2019 15:02:19	...

- Delete
- Download
- Repeat Export
- Rename
- Import**
- Modified Since

5. 「OK」をクリックしてインポートを確認します。
6. 「リフレッシュ」をクリックして、インポートが完了するまで移行ステータス・レポートを更新します。

Migration Status Report ⓘ

Refresh Close

tsmith		Start Time	02/26/2019 15:05:28
Source	Destination	Completed Time	02/26/2019 15:05:28
february_2019_backup/HSS-Share	Shared Services	Duration	00:00:01
february_2019_backup/EDM-Ente	Enterprise Data Management		

✔ **Completed**

7. 「閉じる」をクリックして、移行ステータス・レポートを閉じます。

# ガバナンス・ワークフローおよび承認の管理

要求ワークフローは、送信および承認ステージを通じて要求を移動します。送信者は、提案された変更の要求を作成し、承認ために送信します。承認ポリシーは、どのユーザーを要求の承認に招待するか、および要求の承認方法を決定します。

このシナリオは、次の方法を示しています。

- 要求の送信を可能にするためのユーザーへの権限の割当て
- 承認ポリシーの有効化および構成
- 要求の送信
- 要求の承認

## 管理者のステップ

アプリケーション所有者は、要求を通じて変更を送信できる **参加者(書込み)**権限をユーザーに割り当てます。権限を割り当てた後、アプリケーション所有者は、送信された要求を他のユーザーが確認および承認できるように、1つ以上の承認ポリシーを構成します。

### 管理者の前提条件

ユーザーに **参加者(書込み)**権限を付与したり、承認ポリシーを構成するには、アプリケーションに対する **所有者**または **メタデータ・マネージャ**権限が必要です。

### 管理者のプロセス

1. ディメンションに対する **参加者(書込み)**権限をユーザーに割り当てます。[権限の操作](#)を参照してください
2. ディメンションの承認ポリシーを有効化し構成します。[ポリシーの構成](#)を参照してください。

### 管理者の詳細ステップ

#### ステップ 1: ユーザーへの **参加者(書込み)**権限の割当て

特定のディメンションに対する **参加者(書込み)**権限をユーザーに割り当てると、そのディメンション内のデータに対する権限がそのユーザーに付与されます。ディメンションに対する **参加者(書込み)**権限をユーザーに割り当てるには:

1. ディメンション・インスペクタを開きます。
2. 「**権限**」タブで、「**編集**」をクリックします。
3. 「**ユーザーの追加**」または「**グループの追加**」ドロップダウン・リストで、権限を付与するユーザーまたはグループを選択します。  
デフォルトでは、ユーザーには、データの読取りアクセス権を持つ **参加者**権限が付与されます。



4. 参加者(書込み)を付与するには、「データ・アクセス」列で「読取り」をクリックし、「許可されたアクション」には「すべて」、「プロパティ」には「すべて編集」を選択します。

Name and Description	Permission	Data Access	Actions
Alex.Smith Alex Smith	Participant	Write	⋮

5. 「保存」をクリックします。

## ステップ 2: ディメンションの承認ポリシーの有効化および構成

特定のディメンションへの変更を管理するには、ディメンションの承認ポリシーを設定します。

1. ディメンション・インスペクタを開きます。
2. 「ポリシー」タブで、承認ポリシーの名前をクリックします。
3. オプション: 「全般」タブで、「編集」をクリックし、ポリシー名または説明を変更します。
4. 「定義」タブで、「編集」をクリックし、ポリシー設定を定義します。詳細は、[承認ポリシーの作成および有効化](#)を参照してください

Name and Description	Action
Alex.Smith Alex Smith	

5. 「保存」をクリックします。

## ユーザーのステップ

送信者は、ドラフト要求を作成し、要求アイテムをこれに追加して、承認のために要求を送信します。

承認者は、要求内の提案された変更を確認し、要求を承認(あるいはプッシュバックまたは却下)します。

### ユーザーの前提条件

要求の下書きや作業を行うユーザーには、そのディメンションの参加者(書込み)権限が設定されている必要があります。

### ユーザー・プロセス

#### 送信者:

1. 要求を作成し、要求アイテムを追加します。
2. **オプションI:** コメントまたは添付を要求に追加します。
3. 承認のために要求を送信します。

#### 承認者:

1. 招待電子メールまたは要求の To Do リストから要求を開きます。
2. 要求内の変更を確認します。
3. **オプションI:** コメントまたは添付を要求に追加します。
4. 要求を承認、プッシュバックまたは却下します。

### ユーザーの詳細なステップ

#### 送信者:

1. ビューを開き、ドラフト要求を作成します。
2. 要求アイテムを追加します。

Departments - Add Domestic Sales to Germany Submit Actions ▾ Done

All Depts Depts by Geography Depts by LOB Select Viewpoint ▾

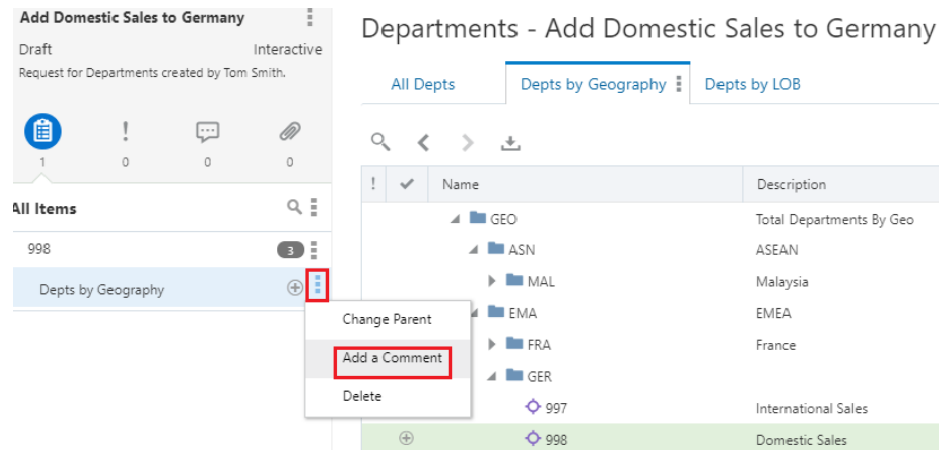
!	✓	Name	Description
		▲ GEO	Total Departments By Geo
		▲ ASN	ASEAN
		▶ MAL	Malaysia
		▲ EMA	EMEA
		▶ FRA	France
		▲ GER	
		◊ 997	International Sales
		◊ 998	Domestic Sales
		▶ NAM	North America

998 Domestic Sales Dept : 6 Properties

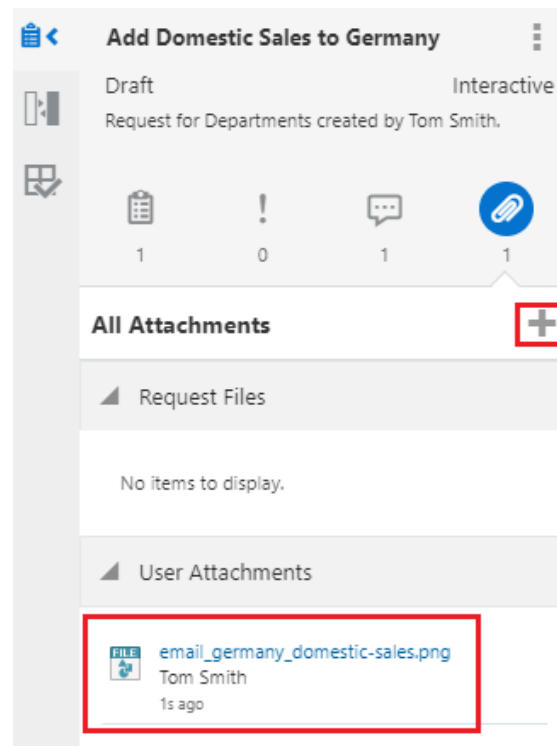
Name	998
Description	Domestic Sales
Tax Code	
Node Prop	
Associate...	

3. オプションとして:
  - 要求コメントを追加します。

- アイテム・レベルのコメントを追加します



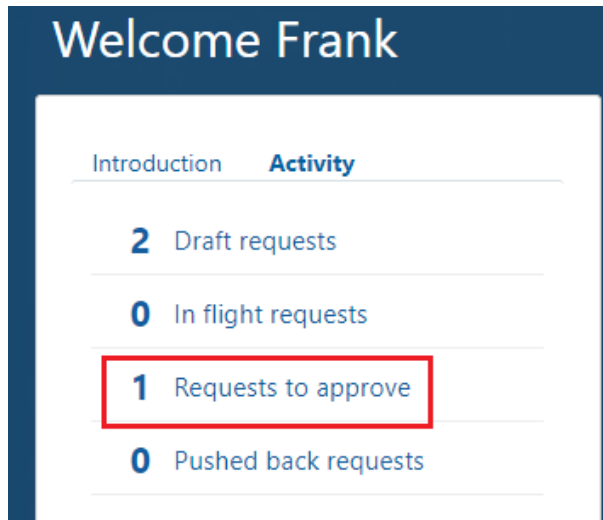
- 添付を追加します。



4. 「送信」をクリックします。要求ステータスは、「ドラフト」から「処理中」に変更されます。要求ステージは、「送信」から「承認」に移動します。

**承認者:**

1. 要求を承認するよう招待されたユーザーは、電子メール内のリンクをクリックするか、Oracle Enterprise Data Management Cloud をログインし、To Do リストから「承認する要求」リンクをクリックします。



- 「要求アクティビティ」リストから、承認する要求をクリックします。

## Request Activity

View	Request Type	Status	Stage
All	All	In Flight	Approve

ID	Title & Description	View	Status	Stage	Items
1620	Add Domestic Sales to Germany Request for Departments created by Tom Smith.	Departments	In Flight	Approve	1

- コメントを表示または追加し、添付をダウンロードして、添付を確認または追加します。

**Add Domestic Sales to Germany**  
In Flight Interactive  
Request for Departments created by Tom Smith.

1 0 1 1

**Items to Approve**

998

Depts by Geography

1 Comments

**Tom Smith**  
2h ago  
Adding Domestic Sales to Germany per VPs email.

**Frank Kennedy**  
1s ago  
Thanks for attaching the email.

Reply

## Departments - Add Domestic Sales to Germany

All Depts Depts by Geography Depts by LOB

! ✓ Name Description

- ▲ GEO Total Departments By Geo
  - ▶ ASN ASEAN
  - ▲ EMA EMEA
    - ▶ FRA France
    - ▲ GER
      - ◆ 997 International Sales
      - ◆ 998 Domestic Sales
    - ▶ NAM North America

4. 「承認」をクリックします。または、要求が承認されなかった場合、要求の「プッシュバック」または「却下」を選択します。要求をプッシュバックすると、変更および再送信できる送信者に戻されます。却下すると要求は「クローズ済」に移動されます。

Departments - Add Domestic Sales to Germany

All Depts | Depts by Geography | Depts by LOB

Name	Description
└─ GEO	Total Departments By Geo
└─ ASN	ASEAN
└─ EMA	EMEA
└─ FRA	France
└─ GER	
└─ 997	International Sales
└─ 998	Domestic Sales
└─ NAM	North America

998 Domestic Sales Dept : 6 Properties

Name	998
Descript...	Domestic Sales
Tax Code	
Node Pr...	
Associat...	

## 結果

管理者は、ユーザーが要求を送信したり、承認ポリシーを構成したりできるように権限を割り当てることができます。ワークフローの承認は、承認ポリシーによって管理されるデータに対する要求をユーザーが送信したときに開始します。要求は、ポリシーに指定されたユーザーによってレビューされ承認されます。

## サブスクリプションおよびガバナンス・ワークフローを使用したアプリケーションの調整

このシナリオは、サブスクリプションを使用してディメンションの変更を同期し、ガバナンス・ワークフローを使用してデータ品質を確保することで、企業アプリケーション全体を調整する方法を示しています。手順では、メンテナンス・ビューの作成およびサブスクリプションの設定について説明し、その後は、ユーザーがソース・ビューポイントで要求を送信して、ターゲット・ビューポイントに対するサブスクリプション要求が生成され、それらのターゲット要求が承認を受けるためにデータ・ガバナンス・ワークフローを通過する、典型的なユーザー・ワークフローに従います。

Corporate Planning、Corporate GL および Financial Close のアプリケーションがあり、GL アプリケーションの製品ディメンションに加えた変更を、他の 2 つのアプリケーションの製品ディメンションと同期化するとします。3 つの各アプリケーションの製品ディメンションのビューポイントを含むメンテナンス・ビューを作成し、サブスクリプションを作成すると、Corporate GL ビューポイントの製品ディメンションに加えた変更によってサブスクリプション要求が生成され、Corporate Planning と Financial Close のビューポイントの製品ディメンションに同じ変更が加えられます。


ソース要求および生成されたサブスクリプション要求は、データ品質を維持するためにレビューと承認が必要なデータ・ガバナンス・ワークフローに含まれます。

シナリオでは次のユーザーがいます。

表 46-1 ビジネス・シナリオのユーザーとタスク

名前	ロール	タスク
管理者	管理者	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Corporate GL、Corporate Planning および Financial Close アプリケーションの製品ディメンションのビューポイントを含むメンテナンス・ビューを作成します</li> <li>2. Corporate GL コスト・センターのビューポイントから Corporate Planning および Financial Close のビューポイントへのサブスクリプションを作成します。</li> </ol>
Betty Anderson	Corporate GL データ担当	新規製品を Corporate GL に追加する要求を送信します。

表 46-1 (続き) ビジネス・シナリオのユーザーとタスク

名前	ロール	タスク
Alex Smith	Corporate GL および Financial Close のデータ・マネージャ。 企業会計グループのメンバー	新規製品を Corporate GL に追加する要求をレビューして承認します。  <div style="border: 1px solid #0070c0; padding: 10px; background-color: #e1f5fe;"> <p> <b>ノート:</b></p> <p>Alex が要求を承認すると、サービスによって Corporate Planning および Financial Close アプリケーション用の 2 つのサブスクリプション要求が生成されます。サブスクリプションは自動的に送信されるように設定されますが、Corporate Planning 用のサブスクリプション要求は検証エラーのために送信に失敗します。</p> </div>
Martin Conway	Corporate Planning データ・マネージャ 企業プランニング・グループのメンバー	サブスクリプションの自動送信失敗をレビューして訂正し、承認のために送信します。
Kerry Lane	企業データ・マネージャ	Corporate Planning および Financial Close アプリケーション用のサブスクリプション要求を承認します。

## 管理者のステップ

管理者はメンテナンス・ビューを作成し、Corporate GL 製品ディメンション、Corporate Planning および Financial Close 製品ディメンション間の変更を同期し、それらの変更を有効にするサブスクリプションを設定します。

### 管理者の前提条件

ビューを作成するには、「ビュー - 作成」ロールが必要です。また、アプリケーション内のすべてのデータ・オブジェクトに対する権限を他のユーザーやグループに割り当てるには、そのアプリケーションに対する所有者またはメタデータ・マネージャ権限が必要です。

### 管理者のステップ

1. Corporate GL、Corporate Planning および Financial Close アプリケーションの製品ディメンションのビューポイントを含むメンテナンス・ビューを作成します。[ビューの作成](#)を参照してください。

- Corporate GL のビューポイントから Corporate Planning および Financial Close のビューポイントへのサブスクリプションを作成します。[ビューポイントのサブスクライブ](#)を参照してください。

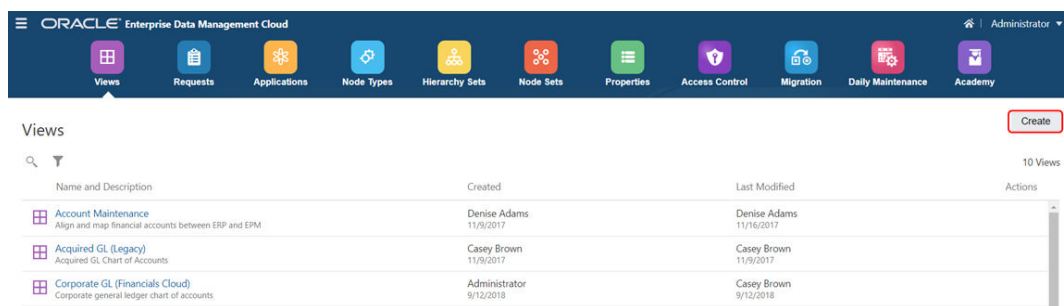
## 詳細なステップ

次も参照:

- ステップ 1: メンテナンス・ビューの作成
- ステップ 2: サブスクリプションの作成

### ステップ 1: メンテナンス・ビューの作成

- 「ビュー」で、「作成」をクリックします。



- メンテナンス・ビューの名前と説明を入力し、「作成」をクリックします。

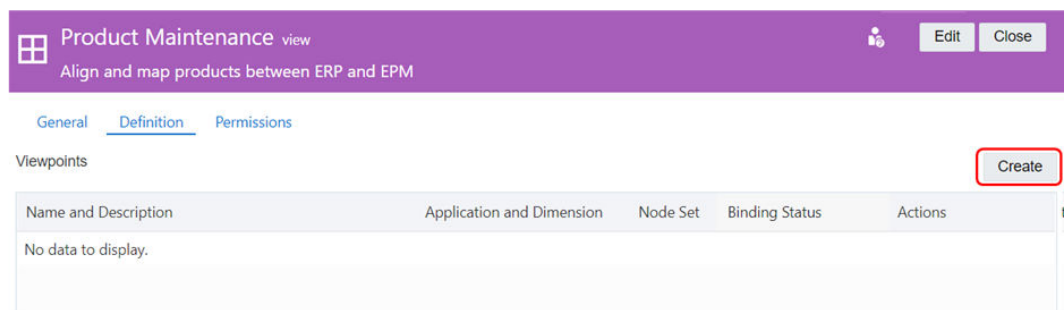
A view is a work area that contains lists and/or hierarchies in viewpoints to support a business scenario. Create a new view by entering the information below.

Name \*

Description

メンテナンス・ビューがビュー・インスペクタに表示されます。

- ビュー・インスペクタの「定義」タブで「作成」をクリックして、メンテナンス・ビューのビューポイントを定義します。





4. 「アプリケーション・ディメンション」で、ドロップダウン・リストを使用して、ビューポイントを作成するディメンションを選択します。このシナリオでは、Financials Cloud アプリケーションの **Corporate Product** ディメンションを選択します。

A viewpoint is a work area that contains a subset of nodes for a business entity.  
Create a new viewpoint by entering the information below.

Application Dimension \*

Name \*

Description

5. ビューポイントの名前、およびオプションで説明を入力し、「作成」をクリックします。

A viewpoint is a work area that contains a subset of nodes for a business entity.  
Create a new viewpoint by entering the information below.

Application Dimension \*

Name \*

Description

ビューポイントが「ドラフト」モードでビューポイント・インスペクタに表示されます。

6. ビューポイント・インスペクタから、「編集」をクリックします。

7. 「**ノード・セット**」で、ドロップダウン・メニューを選択し、ビューポイントのノード・セットを選択します。このシナリオでは、「**ALL CORPORATE PRODUCTS | V1**」を選択します。

ノード・セットを選択すると、階層セットが自動的に移入されます。

8. 「**保存**」をクリックします。

「**バインド・ステータス**」フィールドが更新され「**ノード・セットのバインド済**」と表示されます(これは、ビューポイントに、**Products** ディメンションにバインドされたノード・セットが含まれることを示します)。 [バインディング・ルールの理解](#)を参照してください。

9. ビュー・インスペクタから、ステップ **3 から 8** を繰り返して、次のディメンションのビューポイントを作成します。

ビューポイント名	ビューポイントの説明	アプリケーション	ディメンション	ノード・セット
Plan	Plan	Corporate Planning	Product	Product
Close	Close	Financial Consolidation and Close	Product	Product

Name and Description	Application and Dimension	Node Set	Binding Status	Actions
Corporate GL Products in Financials Cloud GL	Financials Cloud Corporate Product	ALL CORPORATE PRODUCTS   ...	● Node Set Bound	
Plan Plan	Corporate Planning Product	Product	● Node Set Bound	
Close Close	Financial Consolidation and CL... Product	Product	● Node Set Bound	


## ステップ 2: サブスクリプションの作成

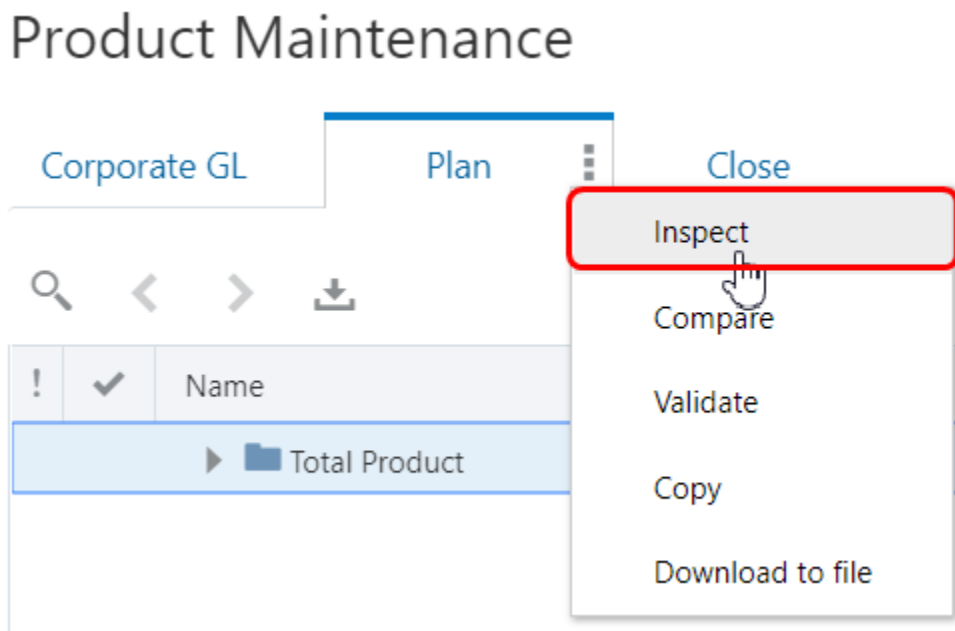
Corporate GL、Corporate Planning および Financial Close のビューポイントを含むメンテナンス・ビューを作成した後に、Corporate Planning および Financial Close ビューポイントのサブスクリプションを作成すると、Corporate GL ビューポイントで変更が行われた際に、サブスクリプション要求が自動的に生成され、同じ変更が他の 2 つのビューポイントでも行われます。

1. 「ビュー」から「Product Maintenance」をクリックします。

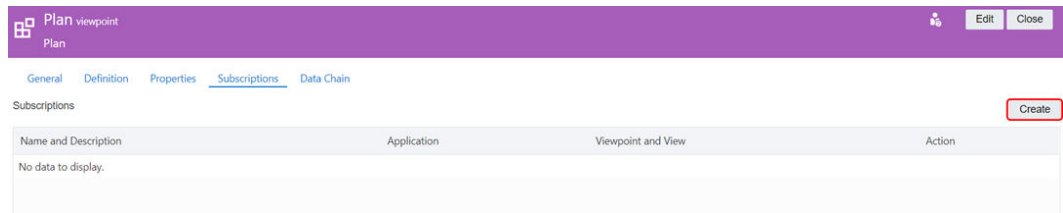
Views

Name and Description	Created	Last Modified
Corporate GL (Financials Cloud) Corporate general ledger chart of accounts	Administrator 9/12/2018	Casey Brown 9/12/2018
Corporate Planning Corporate Planning	Denise Adams 11/8/2017	Casey Brown 3/12/2019
Cost Center Redesign Combine Departments and Cost Centers into enterprise structure	Maria Jones 11/16/2017	Denise Adams 11/16/2017
Entity Maintenance Manage business entities	Casey Brown 11/16/2017	Casey Brown 3/12/2019
Financial Consolidation and Close Financial Consolidation and Close	Denise Adams 11/16/2017	Casey Brown 3/12/2019
Financials Cloud Financials Cloud GL segments	Casey Brown 8/16/2018	Casey Brown 9/12/2018
<b>Product Maintenance</b> Align and map products between ERP and EPM	Denise Adams 4/18/2018	Denise Adams 4/18/2018

2. 「Plan」タブで  をクリックし、「検査」を選択します。



3. 「サブスクリプション」タブで、「作成」をクリックします。



4. 「サブスクリプション」ウィザードで、「ソース・ビューポイント」ドロップダウン・メニューをクリックし、「製品のメンテナンス」ビューの「**Corporate GL**」ビューポイントを選択します。ソース・ビューポイントを選択すると、ソース・ビューおよびビューポイントとともにサブスクリプション名が自動的に移入されます。オプションで説明を入力し、「**作成**」をクリックします。

A request subscription enables you to apply changes that were made in a source viewpoint to a target viewpoint to synchronize data between them. Create a new subscription for target view and viewpoint 'Product Maintenance | Plan' by entering the information below.

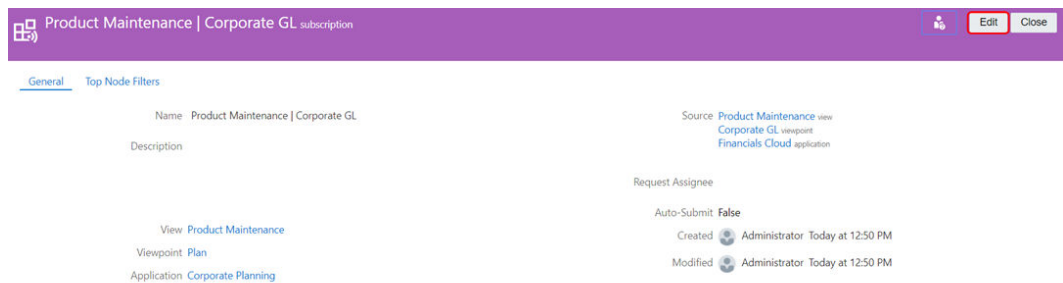
Source Viewpoint \*

Name \*

Description

サブスクリプションがサブスクリプション・インスペクタに表示されます。

5. 次に、要求の担当者を指定します。「**編集**」をクリックします。



6. サブスクリプション・インスペクタで、次のアクションを行います。
  - a. 「**要求担当者**」ドロップダウン・メニューをクリックし、サブスクリプション要求を割り当てる個人を選択します。このシナリオでは、**Corporate Planning** データ・マネージャの **Martin Conway** を選択しています。
  - b. 「**自動送信**」チェック・ボックスを選択します。
  - c. 「**保存**」をクリックし、「**閉じる**」をクリックします

Product Maintenance | Corporate GL subscription

General Top Node Filters

Name Product Maintenance | Corporate GL

Description

View Product Maintenance

Viewpoint Plan

Application Corporate Planning

Source Product Maintenance view  
Corporate GL viewpoint  
Financials Cloud application

Request Assignee Martin Conway

Auto-Submit

Created Administrator Today at 12:50 PM

Modified Administrator Today at 1:05 PM

7. 「Close」タブで、ステップ 2 から 6 を繰り返し、次のように設定された別のサブスクリプションを作成します。

- 「ソース」ビュー: Product Maintenance
- 「ソース」ビューポイント: Corporate GL
- 要求担当者: Alex Smith (Financial Close データ・マネージャ)
- 「自動送信」: True

Product Maintenance | Corporate GL subscription

General Top Node Filters

Name Product Maintenance | Corporate GL

Description

View Product Maintenance

Viewpoint Close

Application Financial Consolidation and Close

Source Product Maintenance view  
Corporate GL viewpoint  
Financials Cloud application

Request Assignee Alex Smith

Auto-Submit True

Created Administrator Today at 12:50 PM

Modified Administrator Today at 1:05 PM

## ユーザーのステップ

管理者がメンテナンス・ビューおよびサブスクリプションを設定して、Corporate GL、Corporate Planning および Financial Close アプリケーションの製品ディメンションを配置した後、このシナリオでは、アプリケーション間の企業データの同期化をデモンストレーションするためにユーザー・フローを示します。

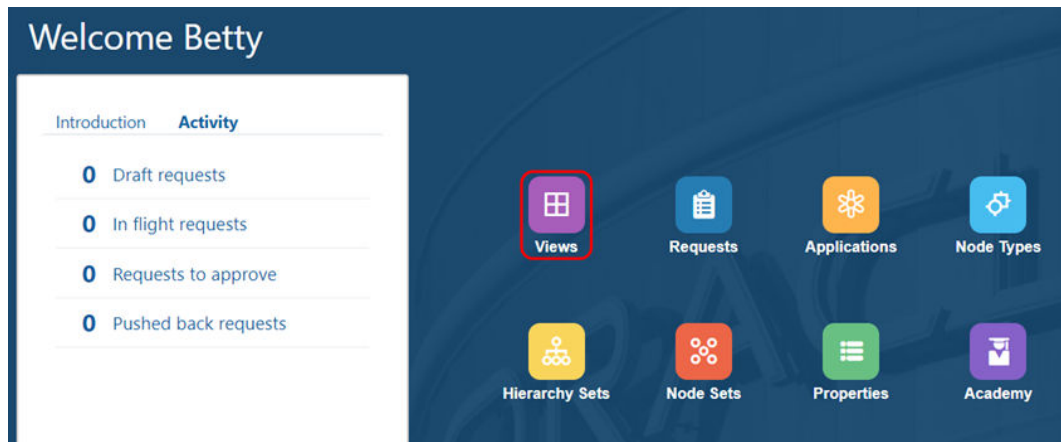
ユーザー・フローは次の順序に従います。

1. Betty Anderson (Corporate GL データ担当)は、製品を Corporate GL に追加する要求を入力します。
2. Alex Smith (Corporate GL と Financial Close の両方のデータ・マネージャ)は要求を承認します。  
Corporate Planning および Financial Close アプリケーションに同じ製品を追加するためのサブスクリプション要求が生成されます。サブスクリプション要求は自動送信するように設定されているため、Financial Close 用の要求が送信されます。ただし、Corporate Planning 用の要求は検証に失敗したため、送信する前にレビューする必要があります。
3. Martin Anderson (Corporate Planning のデータ・マネージャ)は Planning 用のサブスクリプション要求をレビューし、検証エラーを修正して要求を送信します。

4. Kerry Lane (企業データ・マネージャ)は、Corporate Planning および Financial Close の両方の要求を承認します。

## Corporate GL データ担当のステップ

1. Betty Anderson としてサービスにログインし、「ビュー」をクリックします。



2. 「Product Maintenance」ビューをクリックします。

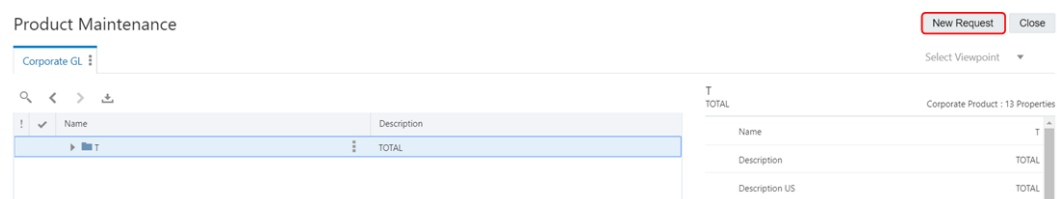
Views

Views

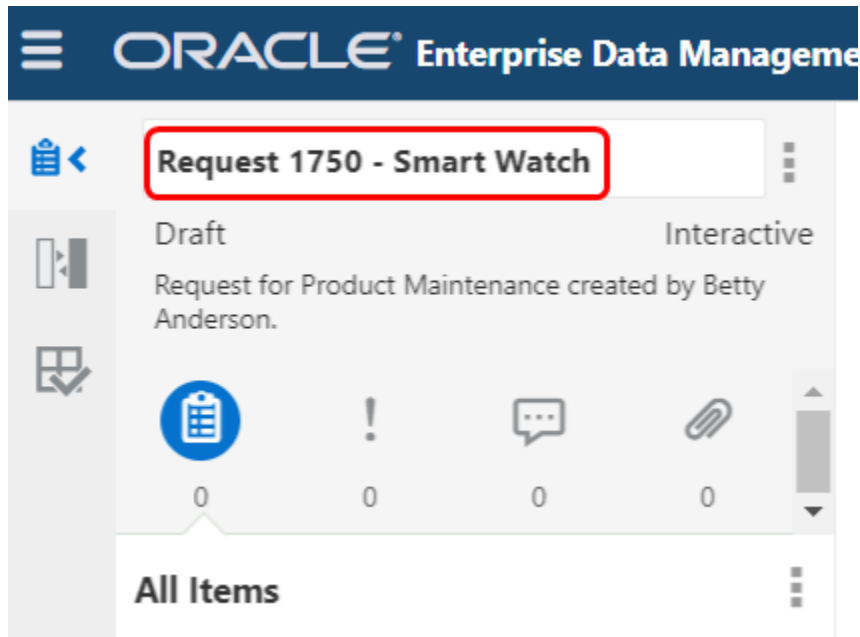
Name and Description	Created	Last Modified
Account Maintenance Align and map financial accounts between ERP and EPM	Denise Adams 11/9/2017	Denise Adams 11/16/2017
Corporate GL (Financials Cloud) Corporate general ledger chart of accounts	Administrator 9/12/2018	Casey Brown 9/12/2018
Entity Maintenance Manage business entities	Casey Brown 11/16/2017	Casey Brown 3/12/2019
Financials Cloud Financials Cloud GL segments	Casey Brown 8/16/2018	Casey Brown 9/12/2018
Product Maintenance Align and map products between ERP and EPM	Denise Adams 4/18/2018	Denise Adams 4/18/2018

「Product Maintenance」ビューが表示されます。Betty は Corporate Planning または Financial Close アプリケーションに対する権限がないため、Corporate GL ビューポイントのみを参照できます。

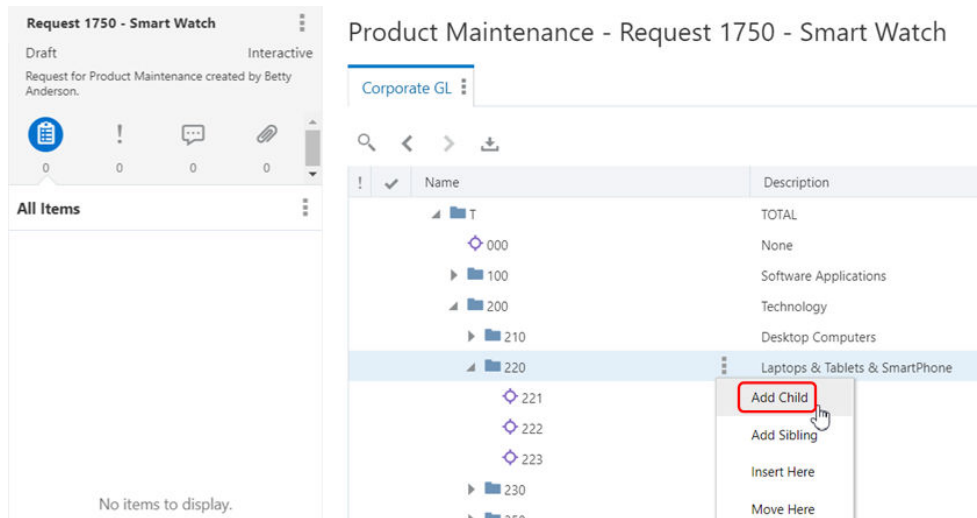
3. 「新規要求」をクリックします。



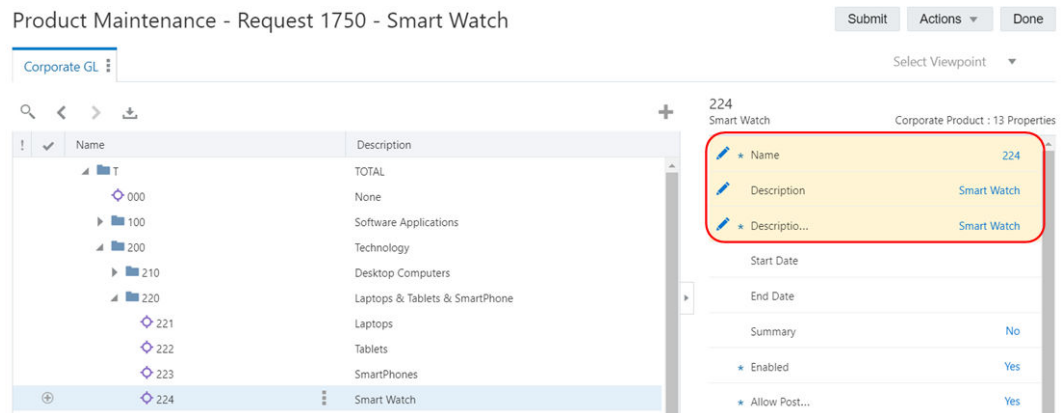
4. 左パネルで要求名をクリックし、「- スマート・ウォッチ」を追加します。




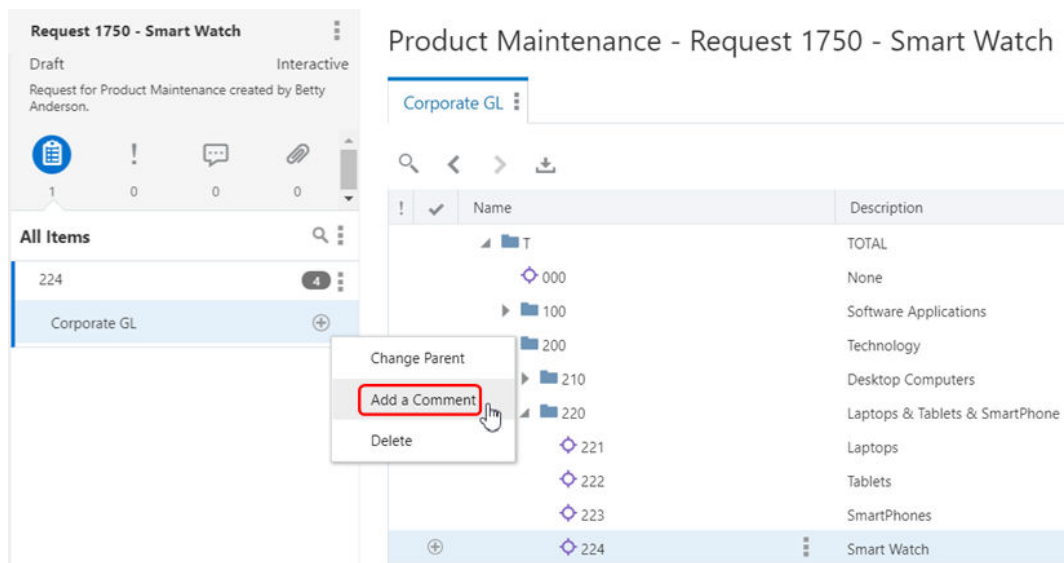
5. 製品階層を展開してノード 220 を選択し、 をクリックして「子の追加」を選択します。



6. プロパティ・パネルで、次のプロパティを設定します。
  - a. 名前: 224
  - b. 説明: スマート・ウォッチ
  - c. 説明(US): Smart Watch

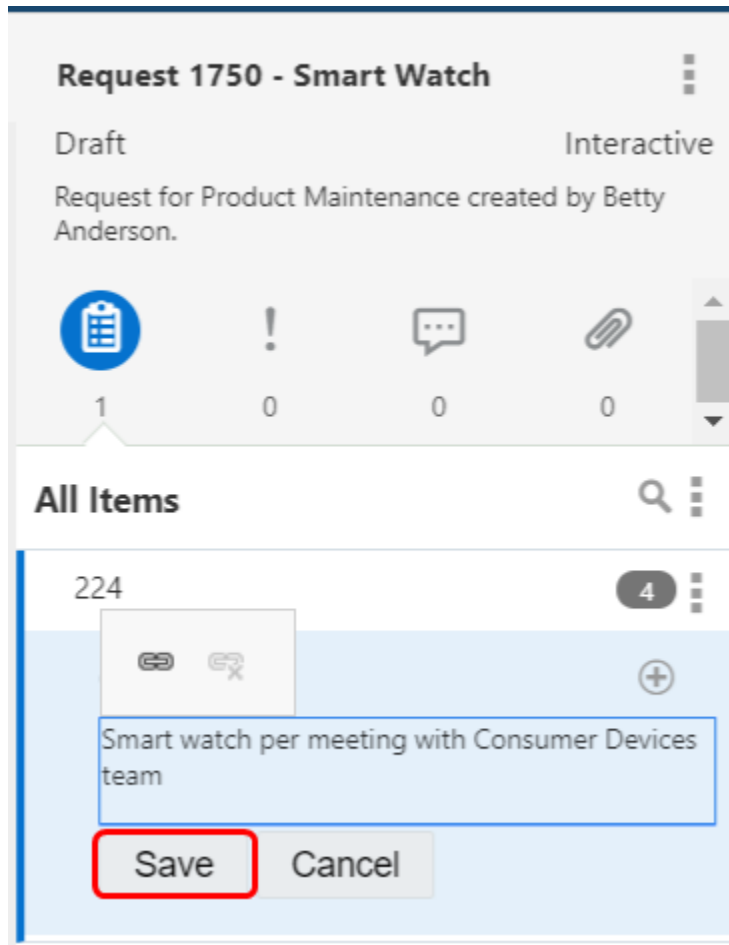



7. 要求パネルで、Corporate GL の横にある  をクリックし、「コメントの追加」を選択します。

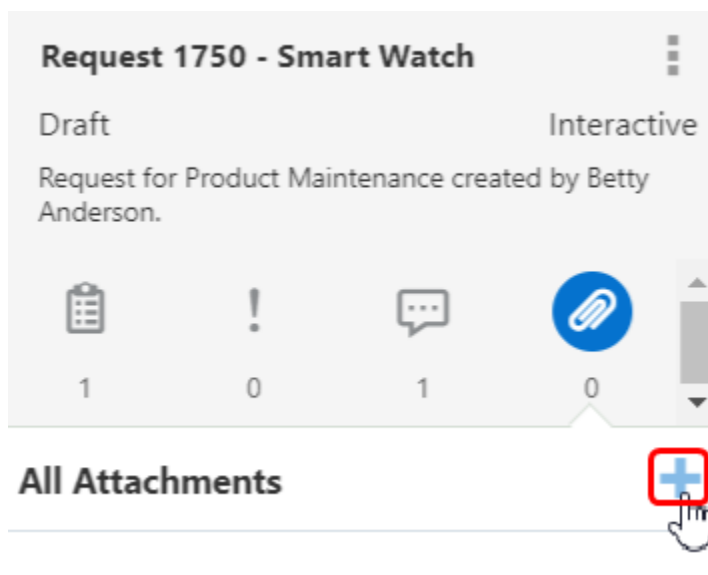


8. コメントを入力し、「保存」をクリックします。このシナリオでは、「コンシューマ・デバイス・チームとのミーティングごとのスマート・ウォッチ」と入力します。

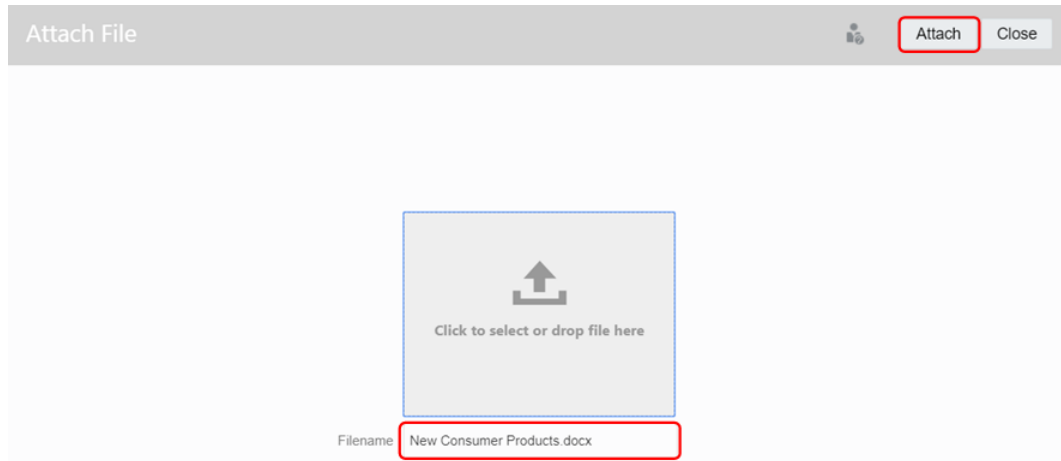




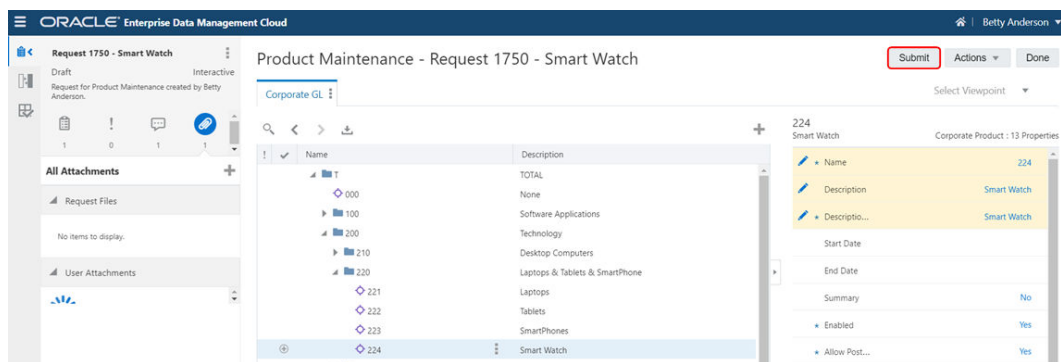
9. 「添付」アイコンをクリックし、 をクリックします。



- 添付するファイルを選択し、「添付」をクリックします。このシナリオでは、新規コンシューマ製品.docx を添付します。



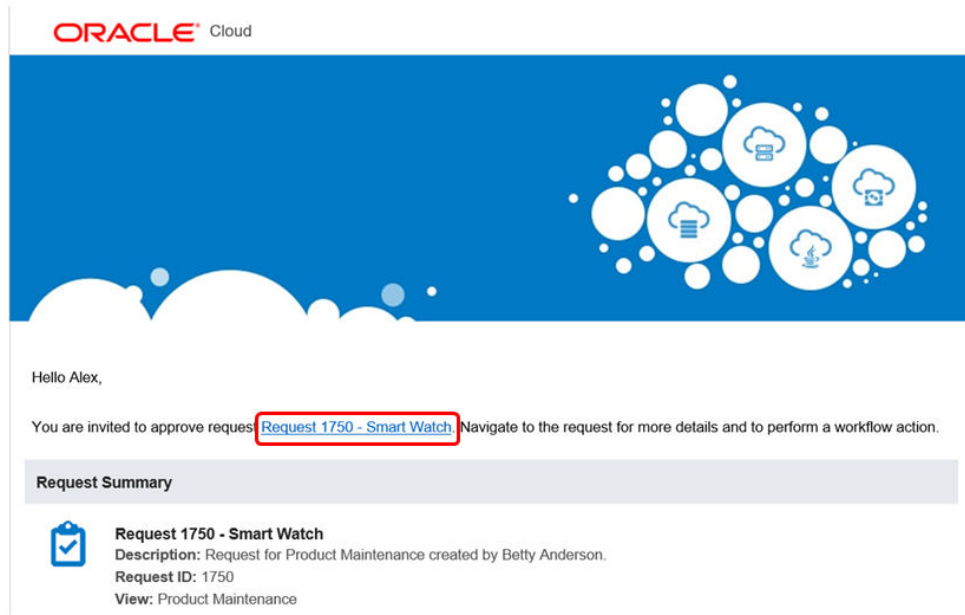
- 「送信」をクリックします。



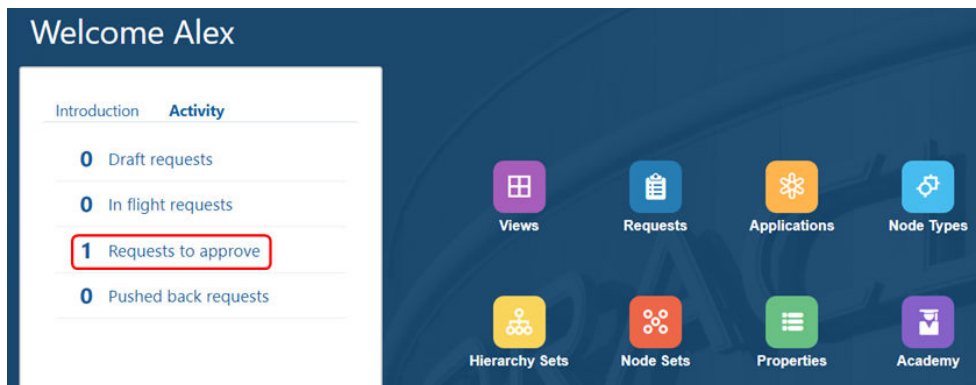
要求が送信されると、ワークフロー・ポリシーによって、Corporate GL データ・マネージャの Alex に、変更要求が承認待ちであることが警告されます。

## Corporate GL データ・マネージャのステップ

- 要求承認の電子メール通知で、リンクをクリックして要求にナビゲートします。



2. 「アクティビティ」リストで、「承認する要求」をクリックします。



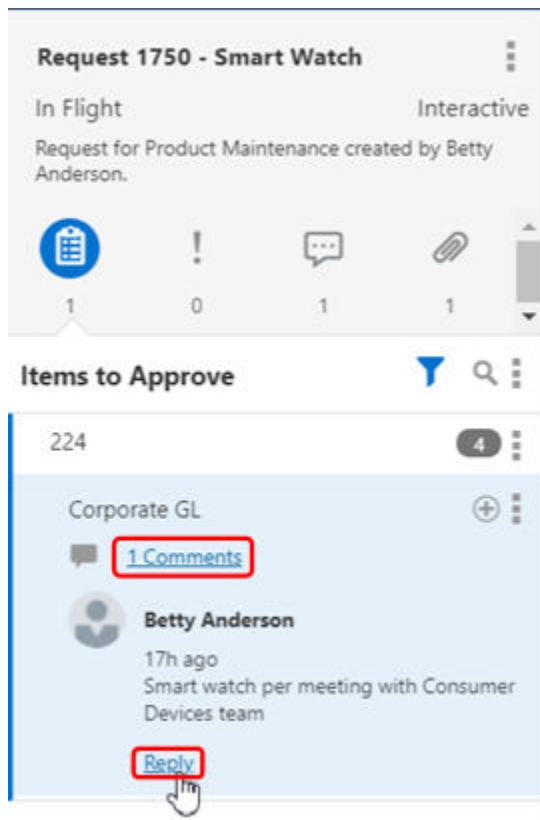
3. 「要求アクティビティ」で、スマート・ウォッチ要求の「要求 ID」をクリックします。

Request Activity

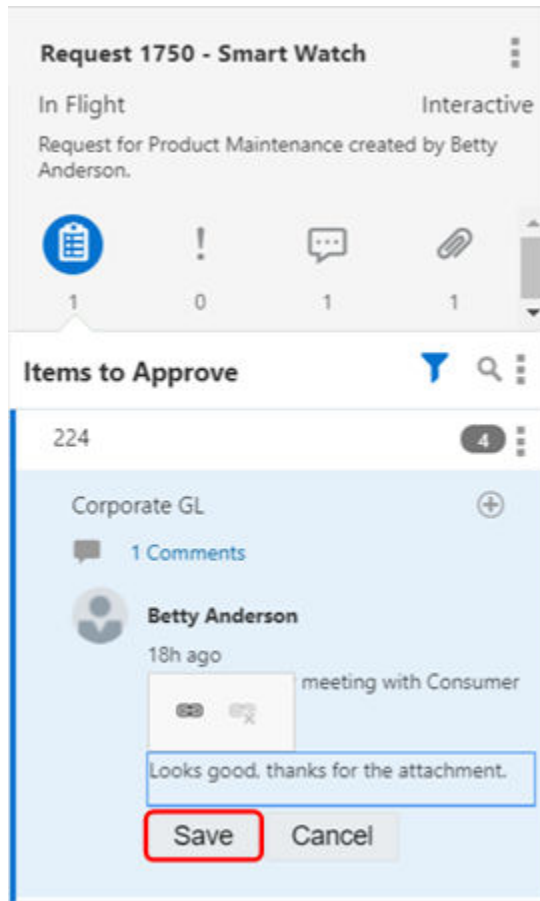
Request ID	View	Request Type	Status	Stage	My Activity	Time Frame				
All	All	All	In Flight	Approve	Invited	All				
1 Requests										
Request ID	Title and Description	View	Status	Stage	Items	Request Issues	Age (In Days)	Submitted	Modified	Actions
<a href="#">1750</a>	Request 1750 - Smart Watch Request for Product Maintenance created by...	Product Maintenance	In Flight	Approve	1	0	0	Betty Anderson 5/22/2019	System 5/23/2019	

要求がメンテナンス・ビューに表示されます。Alex は Financial Close データ・マネージャでもあるため、Alex のデータ権限によって、GL ビューポイントと同様に Close ビューポイントも参照できます。

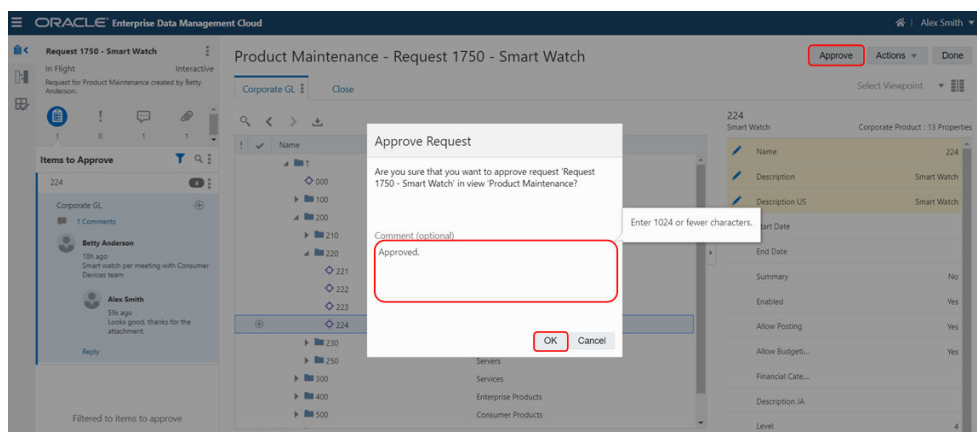
4. 要求パネルで、「コメント」をクリックして Betty のコメントを表示し、「返答」をクリックします。



5. 返答を入力し、「保存」をクリックします。

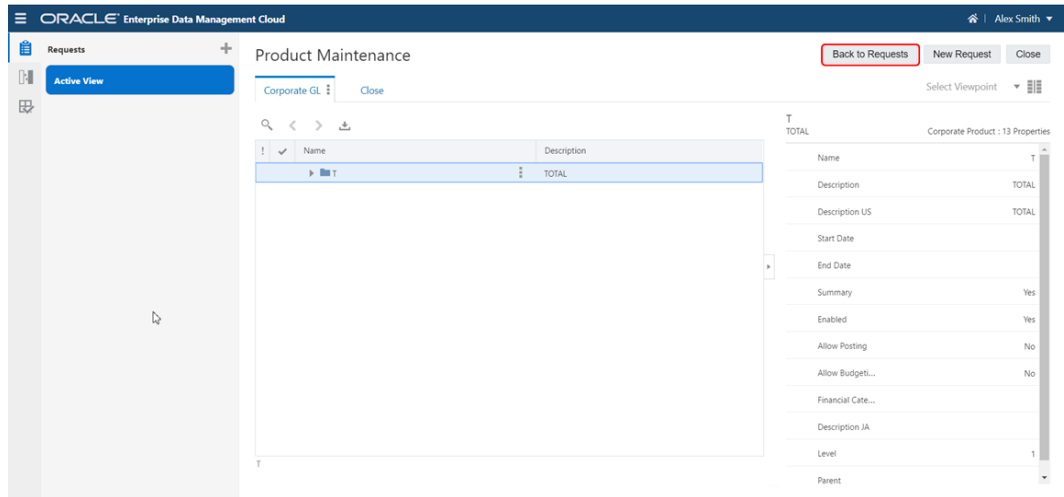


6. 次のアクションを行います。
  - a. 「承認」をクリックします。
  - b. (オプション):コメントを入力します。
  - c. 「OK」をクリックします。



要求を承認すると、Financial Close および Corporate Planning アプリケーション用にサブスクリプション要求が生成されます。

7. 生成されたサブスクリプション要求をレビューします。「**要求に戻る**」をクリックします。



8. 「**すべてのフィルタのリセット**」ボタンをクリックします。

Request Activity


Request ID	View	Request Type	Status	Stage	My Activity	Time Frame	
All	All	All	In Flight	Approve	Invited	All	

0 Requests

9. 次の要求のステータスをレビューします。

- 要求 1750 は「**完了**」です。これは、Betty が Corporate GL アプリケーション用に入力した要求です。
- 要求 1751 は「**ドラフト**」です。これは、Corporate Planning アプリケーション用に生成されたサブスクリプション要求ですが、検証エラーが発生したために送信されていません。Corporate Planning データ・マネージャの Martin は、検証エラーを修正する必要があります。
- 要求 1752 は「**処理中**」です。これは、Financial Close 用に生成されたサブスクリプション要求です。データ・マネージャの Kerry による承認を待っています。

Request Activity

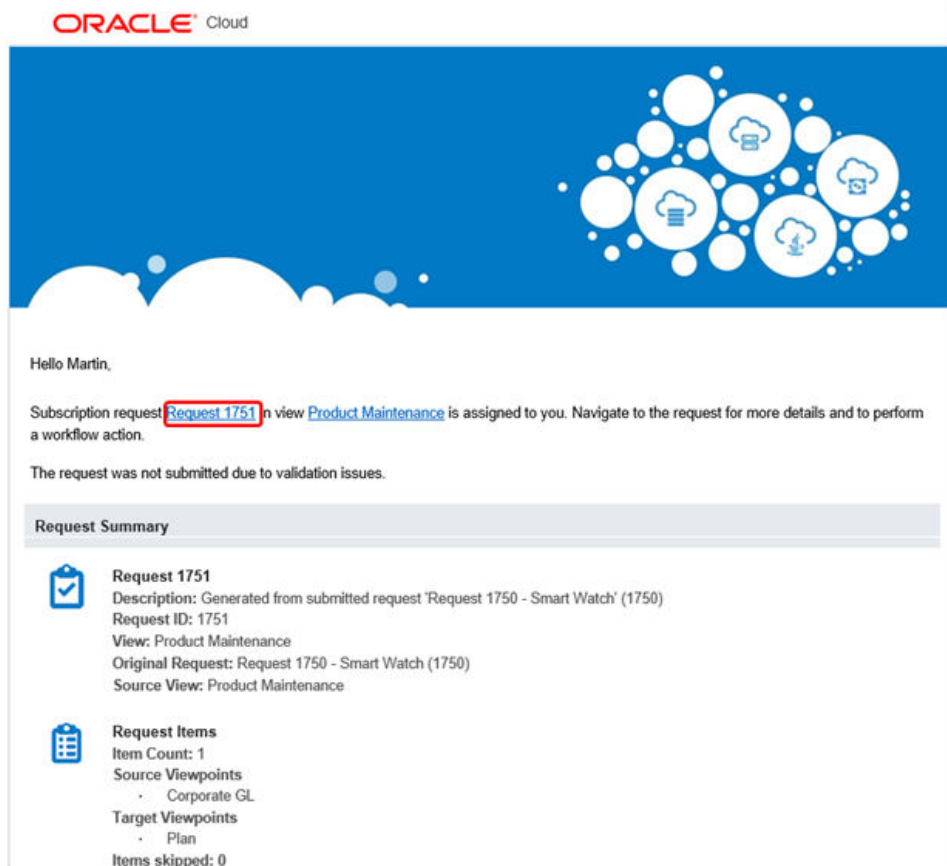
Request ID	View	Request Type	Status	Stage	My Activity	Time Frame	
All	All	All	All	All	All	Last 30 Days	

3 Requests

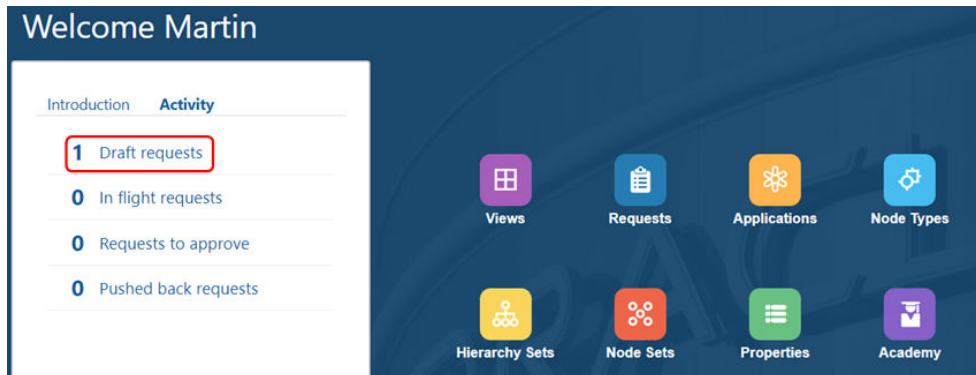
Request ID	Title and Description	View	Status	Stage	Items	Request Issues	Age (In Days)	Submitted	Modified	Actions
1752	Request 1752 Generated from submitted request 'Request ...	Product Maintenance	In Flight	Approve	1	0	0	Alex Smith 5/23/2019	Alex Smith 5/23/2019	
1751	Request 1751 Generated from submitted request 'Request ...	Product Maintenance	Draft	Submit Martin Conway	1	1	0		Martin Conway 5/23/2019	
1750	Request 1750 - Smart Watch Request for Product Maintenance created by ...	Product Maintenance	Completed	Closed	1	0	0	Betty Anderson 5/22/2019	Alex Smith 5/23/2019	

## Corporate Planning データ・マネージャのステップ

1. 要求検証の問題の電子メール通知に、検証の問題が発生したために要求が送信されなかったという文が表示されています。リンクをクリックして、要求にナビゲートします。



- 「アクティビティ」リストで、「ドラフト要求」をクリックします。

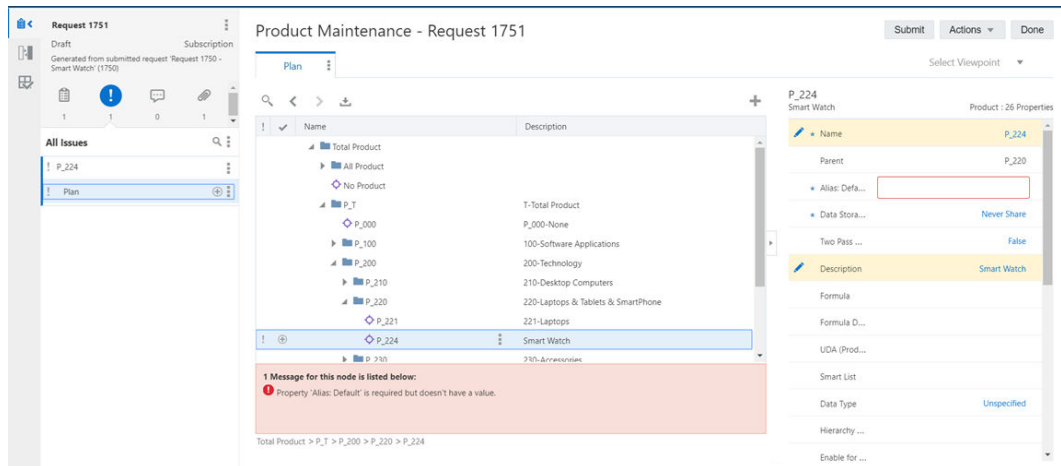


- 「要求アクティビティ」で、「要求 1751」をクリックし、メンテナンス・ビューに開きます。

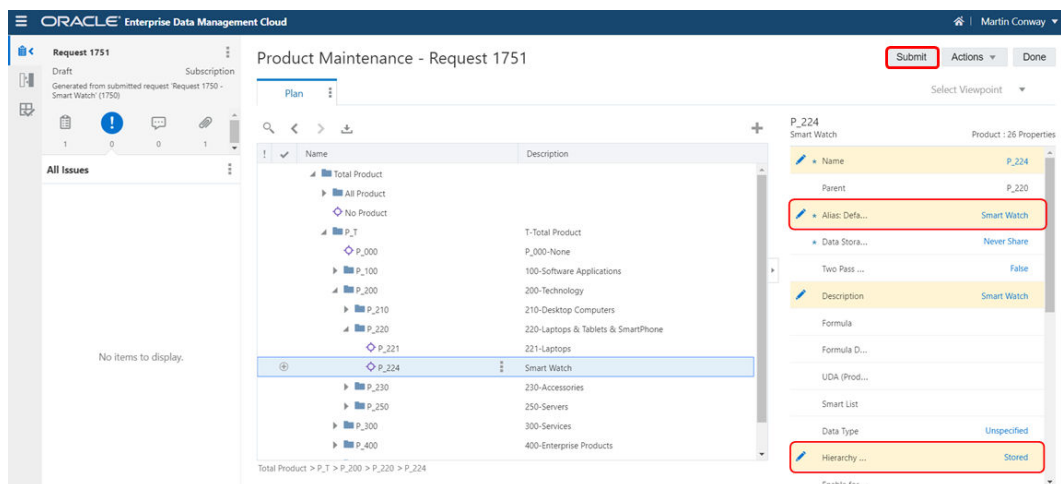
Request Activity

Request ID	View	Request Type	Status	Stage	M/Activity	Time Frame				
All	All	All	Draft	All	Assigned	All				
<div style="text-align: right;">1 Requests</div>										
Request ID	Title and Description	View	Status	Stage	Items	Request Issues	Age (In Days)	Submitted	Modified	Actions
1751	Request 1751 Generated from submitted request 'Request ...	Product Maintenance	Draft	Submit Martin Conway	1	1	0		Martin Conway 5/23/2019	

4. 「要求の問題」をクリックし、要求の問題を展開して検証エラーを表示します。このシナリオでは、要求に必須プロパティ「別名: デフォルト」が欠落しています。



5. プロパティ・パネルで、「別名: デフォルト」に対して「スマート・ウォッチ」と入力します。オプションで、要求をさらにエンリッチできます。このシナリオでは、「階層タイプ」で「保管済」を選択します。完了したら、「送信」をクリックします。



検証の問題が修正されたため、要求は承認のために企業データ・マネージャの Kerry に送信されます。

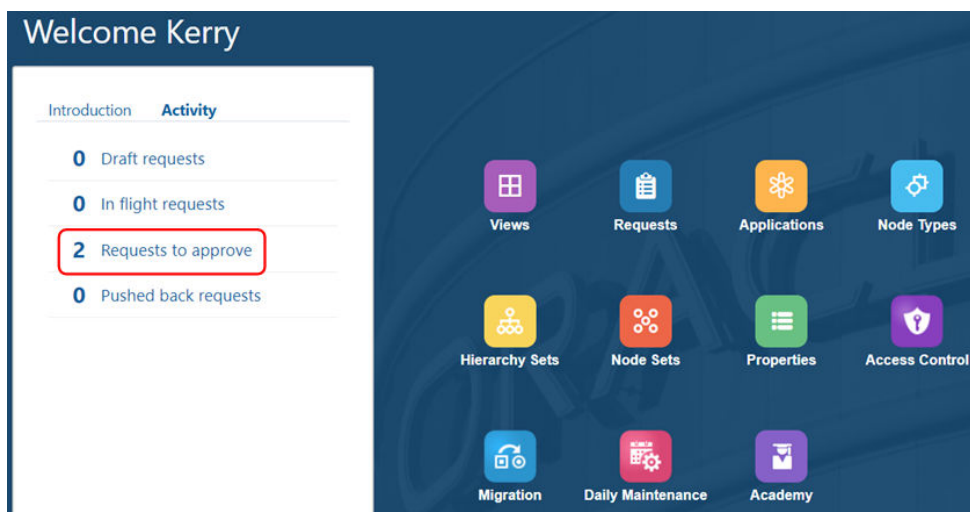
## エンタープライズ・データ・マネージャのステップ

1. 企業データ・マネージャは、両方のサブスクリプション要求を承認するために、電子メール要求を受信します。いずれかの電子メール通知で、リンクをクリックして要求にナビゲートします。





2. 「承認する要求」をクリックします。



3. 「要求アクティビティ」で、「要求 1751」をクリックして承認します。

### Request Activity

Request ID	View	Request Type	Status	Stage	My Activity	Time Frame				
All	All	All	In Flight	Approve	Invited	All				
2 Requests										
Request ID	Title and Description	View	Status	Stage	Items	Request Issues	Age (In Days)	Submitted	Modified	Actions
1751	Request 1751 Generated from submitted request 'Request ...	Product Maintenance	In Flight	Approve	1	0	0	Martin Conway 5/23/2019	Martin Conway 5/23/2019	
1752	Request 1752 Generated from submitted request 'Request ...	Product Maintenance	In Flight	Approve	1	0	0	Alex Smith 5/23/2019	Alex Smith 5/23/2019	

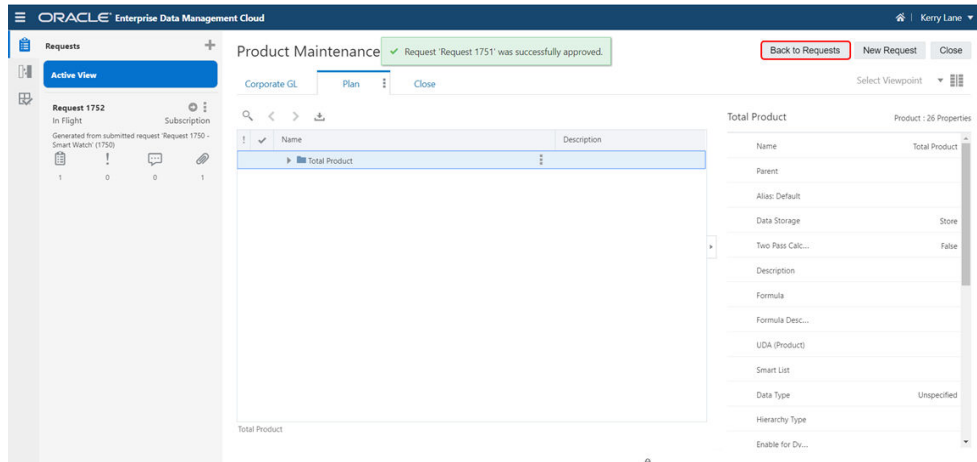
4. 要求詳細をレビューして、「承認」をクリックします。

The screenshot shows the Oracle Enterprise Data Management Cloud interface for 'Product Maintenance - Request 1751'. The 'Approve' button is highlighted with a red box. The interface displays a tree view of product categories and a list of properties for the selected item 'P\_224 Smart Watch'.

5. オプションでコメントを入力し、「OK」をクリックします。

The screenshot shows the Oracle Enterprise Data Management Cloud interface for 'Product Maintenance - Request 1751'. The 'Approve Request' dialog box is open, prompting the user to confirm approval. The 'OK' button is highlighted with a red box. The dialog box prompts the user to confirm approval and provides a field for an optional comment.

6. 「要求に戻る」をクリックします。

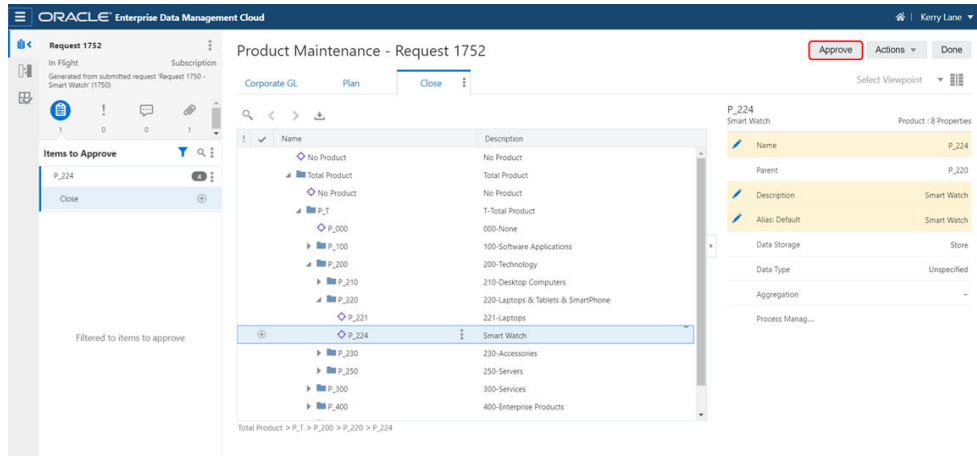


7. 「要求アクティビティ」で、「要求 1752」を選択して承認します。

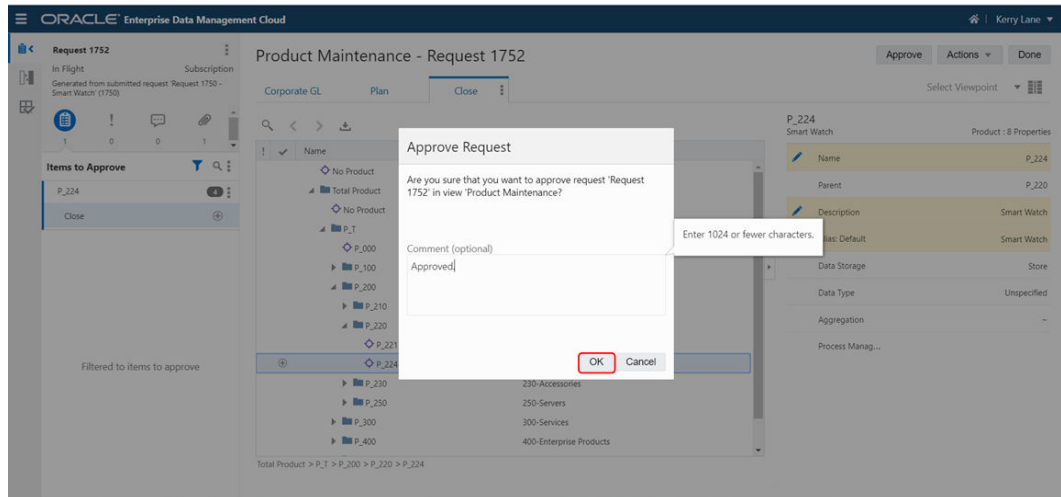
Request Activity

Request ID	View	Request Type	Status	Stage	My Activity	Time Frame					
1752	Request 1752	Product Maintenance	In Flight	Approve	1	0	0	Alex Smith	Alex Smith	5/23/2019	5/23/2019

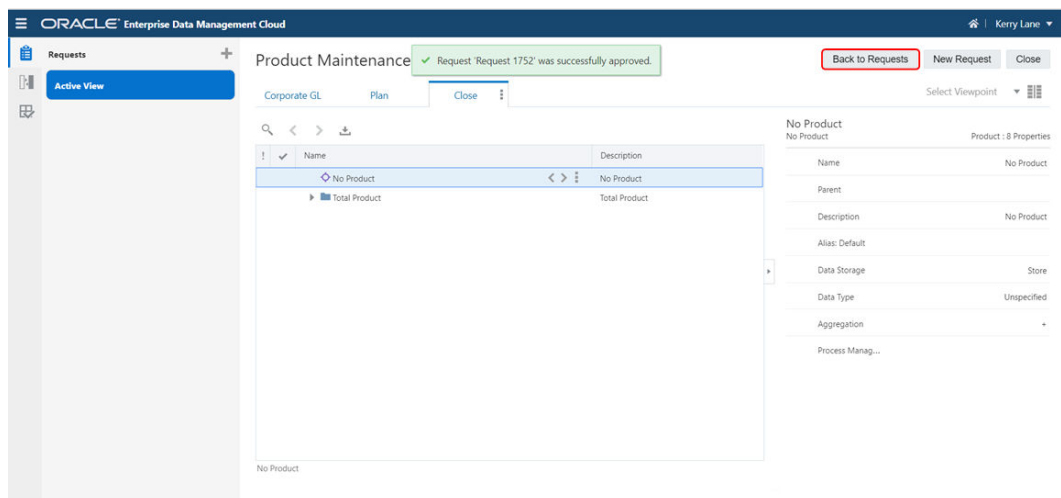
8. 要求詳細をレビューして、「承認」をクリックします。



9. オプションでコメントを入力し、「OK」をクリックします。



10. 要求ステータスをレビューします。「要求に戻る」をクリックします。



11. 「要求アクティビティ」で、「すべてのフィルタのクリア」ボタンをクリックします。

Request Activity

Request ID	View	Request Type	Status	Stage	My Activity	Time Frame	
All	All	All	In Flight	Approve	Invited	All	0 Requests

12. 3 つすべての要求が「クローズ済」ステータスであることを検証します。

Request Activity

Request ID	View	Request Type	Status	Stage	My Activity	Time Frame				
All	All	All	All	All	All	Last 30 Days	3 Requests			
Request ID	Title and Description	View	Status	Stage	Items	Request Issues	Age (In Days)	Submitted	Modified	Actions
1752	Request 1752 Generated from submitted request 'Request ...	Product Maintenance	Completed	Closed	1	0	0	Alex Smith 5/23/2019	Kerry Lane 5/23/2019	
1751	Request 1751 Generated from submitted request 'Request ...	Product Maintenance	Completed	Closed	1	0	0	Martin Conway 5/23/2019	Kerry Lane 5/23/2019	
1750	Request 1750 - Smart Watch Request for Product Maintenance created by ...	Product Maintenance	Completed	Closed	1	0	0	Betty Anderson 5/22/2019	Alex Smith 5/23/2019	



## 環境間でのアプリケーションの転送

このシナリオでは、**Corporate Planning - UK** という新しい Planning アプリケーションを本番環境に追加します。新しいアプリケーションを構築できる既存のテスト環境がありますが、そこに構築する前に、そのテスト環境を本番環境のスナップショットでリフレッシュします。これにより、テスト環境が確実に本番と揃った状態になります。

このシナリオの一般的なステップは次のとおりです:

1. 新しいアプリケーションの開発に備えて、**移行**を使用して本番環境をクローニングします。
2. テスト環境で新しいアプリケーションを構築します。
3. テンプレートを使用して、新しいアプリケーションをテスト環境から本番環境に転送します。

## 管理者のステップ

### 管理者の前提条件

移行にアクセスするには、サービス管理者である必要があります。サービス管理者ロールがあると、このシナリオのすべてのステップを実行できるようになります。

### 管理者のプロセス

1. 本番環境のスナップショットを取ってローカル・コンピュータにダウンロードします。[移行の使用](#)を参照してください。
2. テスト環境でサービスを再作成し、クリーンな環境で開始します。[サービスの再作成](#)を参照してください。
3. 本番環境のスナップショットでテスト環境をリフレッシュします。[移行の使用](#)を参照してください。
4. テスト環境で新しいアプリケーションを構築します。[アプリケーションの登録の理解](#)を参照してください。
5. テスト環境で、新しいアプリケーションをテンプレートにエクスポートします。[テンプレートの操作](#)を参照してください。
6. 本番環境で、テンプレート・インポートをアップロードしてプレビューし、エラーがあれば修正します。[テンプレート・インポートのプレビューとインポート結果の確認](#)を参照してください。
7. テンプレートからアプリケーションをインポートすることによって転送を完了します。[テンプレートの操作](#)を参照してください。

## ステップ 1: アプリケーション開発用のテスト環境のリフレッシュおよび準備

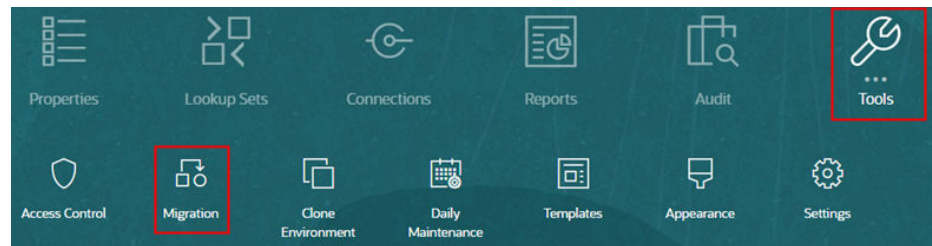
### ▲ Caution:

このシナリオには本番環境とテスト環境の両方で実行するステップが含まれています。作業を進める前に、そのステップを正しい環境で実行しようとしていることを確認してください。各ステップで、そのステップの正しい環境を判断しやすいように、環境の名前が強調されています。

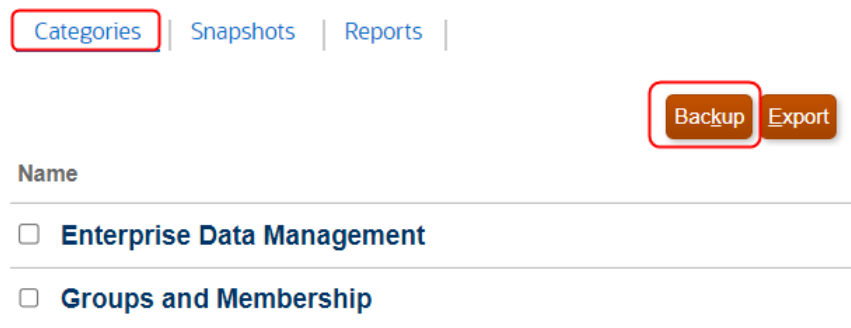
1. 本番環境のスナップショットでテスト環境をリフレッシュする前に、既存のテスト・データを保持するためにバックアップ・スナップショットを取っておくことがベスト・プラクティスです。

"テスト"環境をバックアップするには:

- a. 「ツール」、「移行」の順にクリックします。



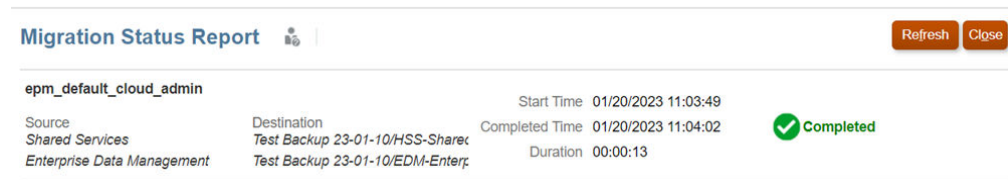
- b. 「カテゴリ」から「バックアップ」をクリックして、現在のテスト環境のバックアップ・スナップショットを作成します。



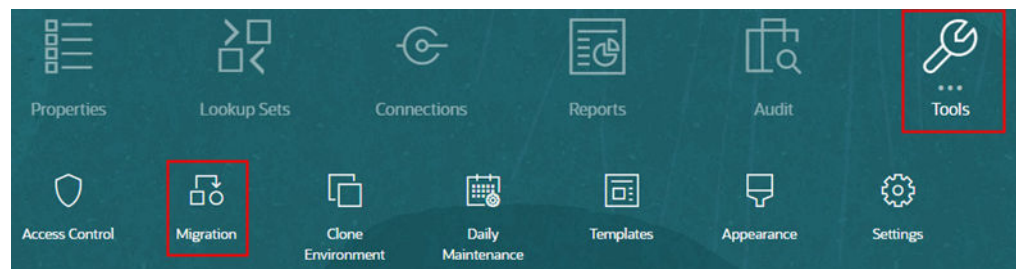
- c. バックアップの名前を入力し、「OK」をクリックします。



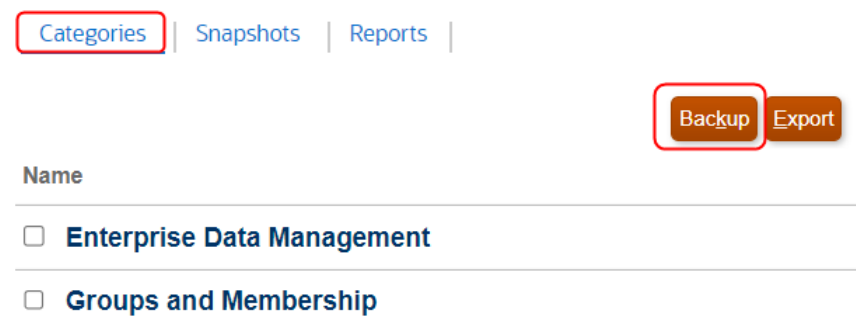
- d. 「リフレッシュ」をクリックしてバックアップのステータスを更新した後、バックアップが完了したら、「閉じる」をクリックしてウィンドウを閉じます。



2. "本番"環境の移行スナップショットを取ります。  
a. 「ツール」、「移行」の順にクリックします。

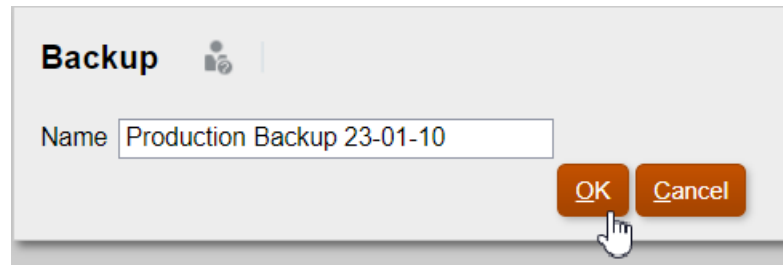


- b. 「カテゴリ」から「バックアップ」をクリックして、現在の本番環境の移行スナップショットを作成します。

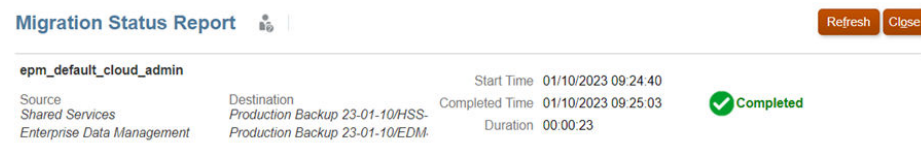



- c. スナップショットの名前を入力し、「OK」をクリックします。

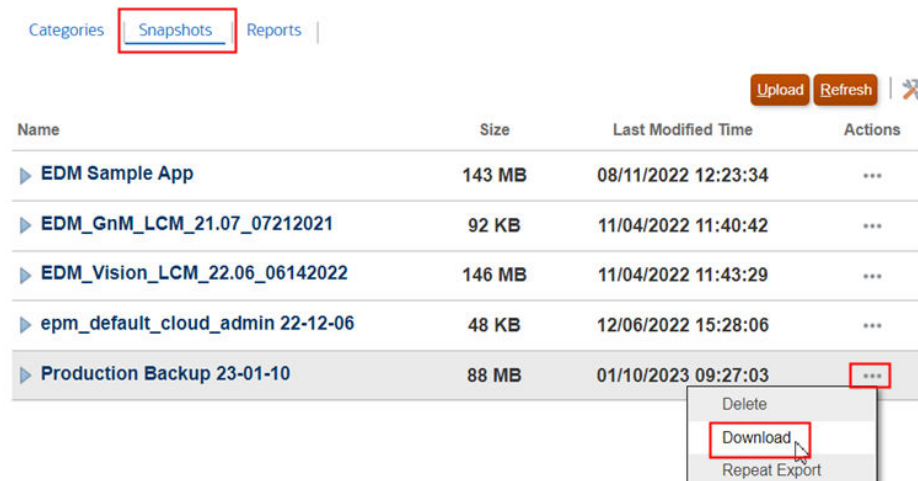




- d. 「リフレッシュ」をクリックしてバックアップのステータスを更新した後、バックアップが完了したら、「閉じる」をクリックしてウィンドウを閉じます。



- e. 「スナップショット」からバックアップを探し、「アクション」列で  をクリックして「ダウンロード」をクリックします。



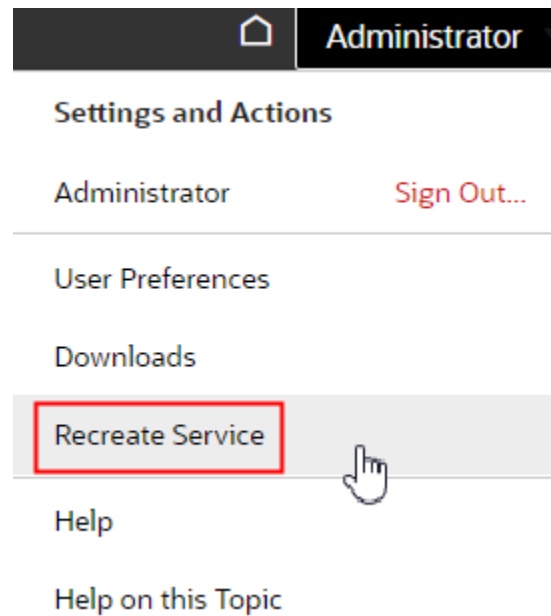
移行スナップショットがローカル・マシンにダウンロードされます。

3. "テスト"環境でサービスを再作成します。これはオプションのステップですが、環境を再作成することでベースラインのスタート地点が確立され、テスト環境に対して Identity Cloud Service (IDCS)の最新のユーザーおよびグループ割当てが再同期されます。

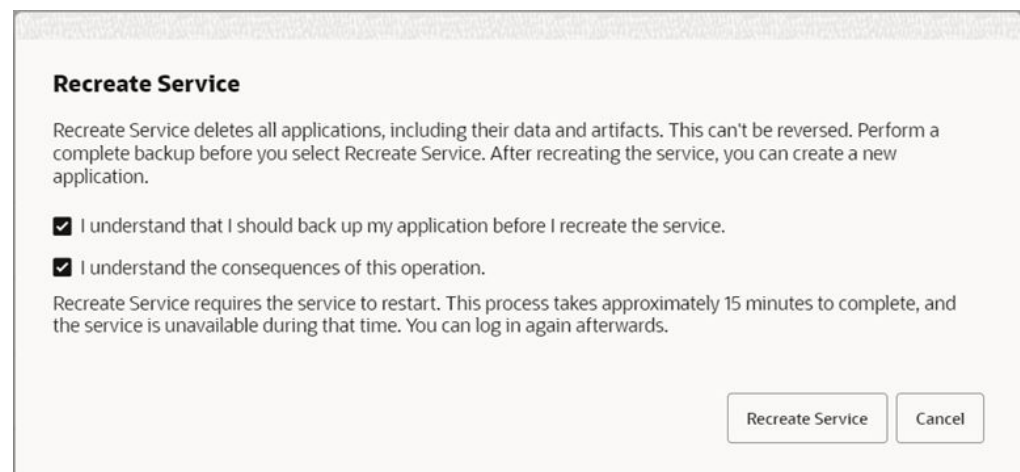
### ▲ Caution:

サービスを再作成すると、テスト環境の既存のすべてのアプリケーションと、テスト・ユーザーやグループを含むアーティファクトが削除されます。テスト・データを保持する必要がある場合は、必ず、[ステップ 1](#)の手順に従って既存のテスト環境を事前にバックアップしてください。

- a. "テスト"環境から、自分のユーザー名の横のドロップ・ダウン・メニューをクリックし、次に「サービスの再作成」を選択します。

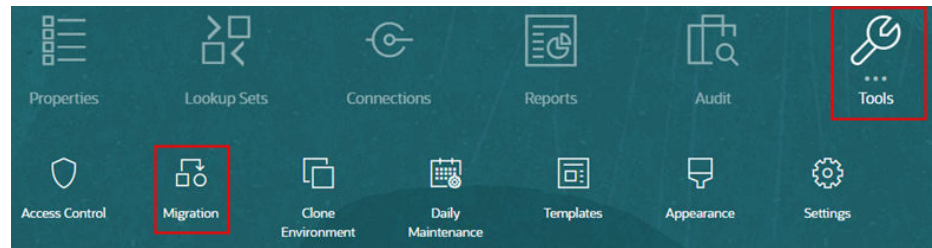


- b. 確認画面で、サービスの再作成の結果を理解したことを示すチェック・ボックスを選択し、「サービスの再作成」をクリックします。

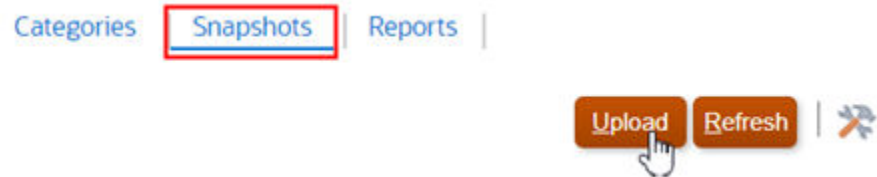


再作成のプロセスが完了するまでに約 15 分かかります。

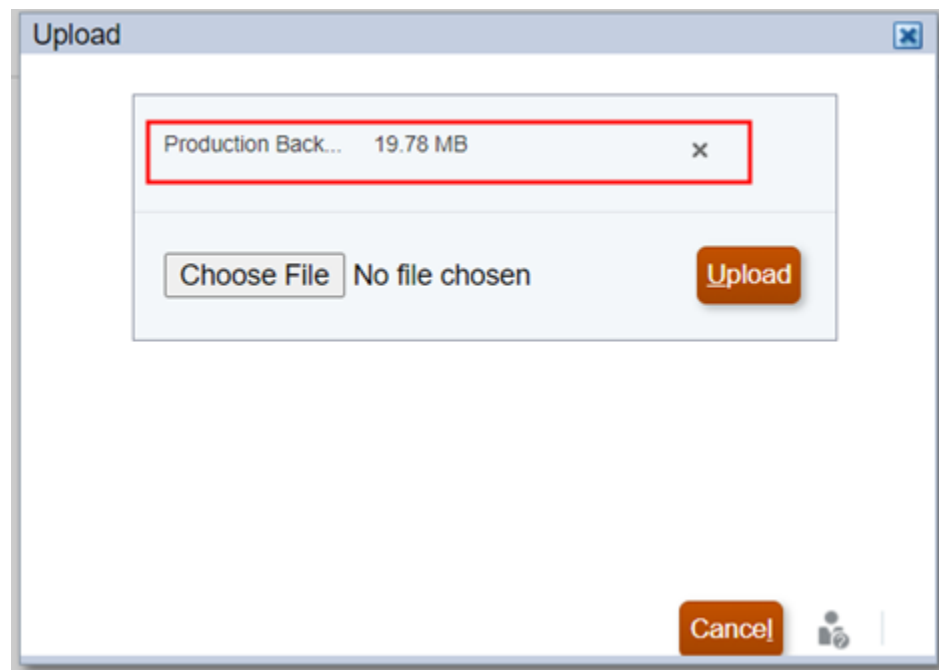
4. 再作成のプロセスが完了したら、ローカル・ファイル・システムから移行スナップショットをアップロードします。
  - a. 「移行」オプションを選択するか、ホーム・ページから「ツール」、「移行」の順にクリックします。



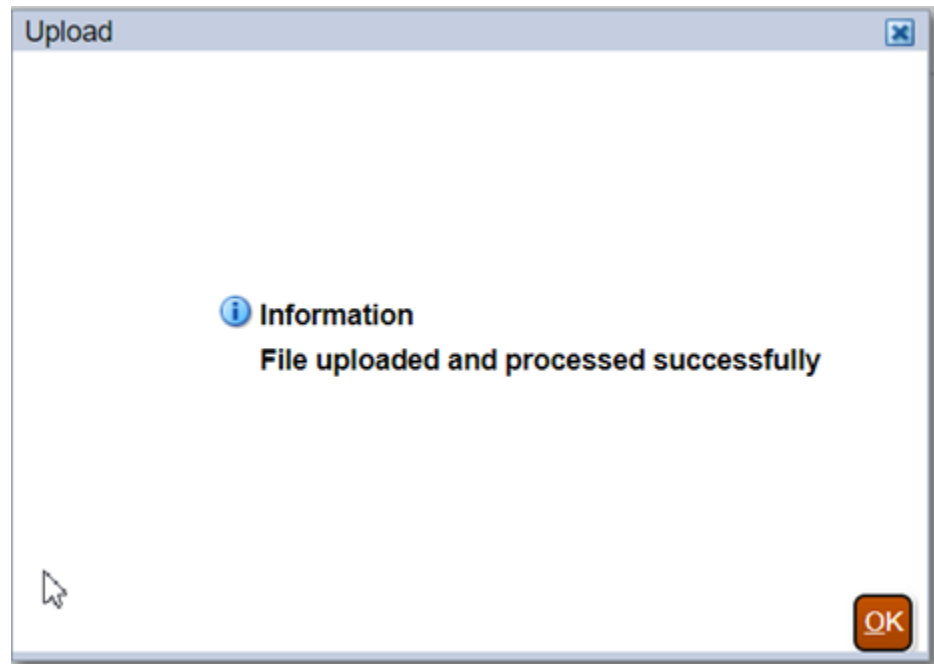
- b. 「スナップショット」から「アップロード」をクリックします。



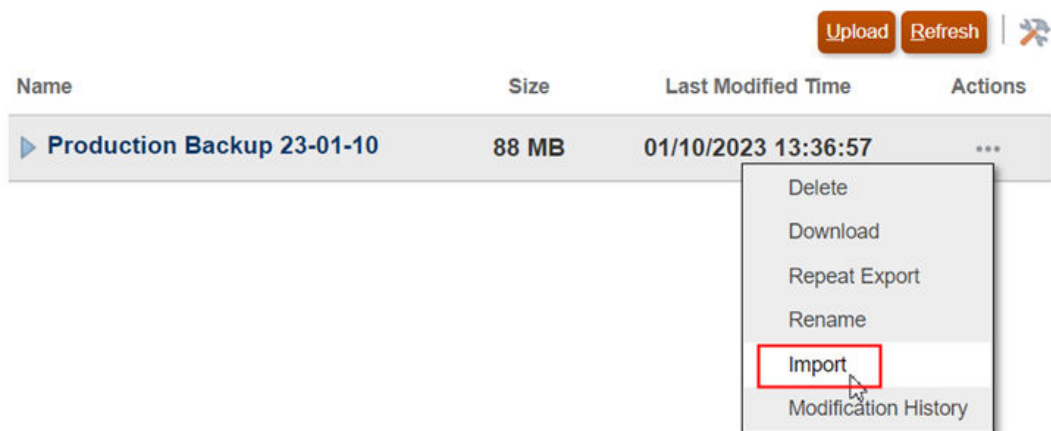
- c. バックアップ・ファイルを選択して「アップロード」をクリックします。



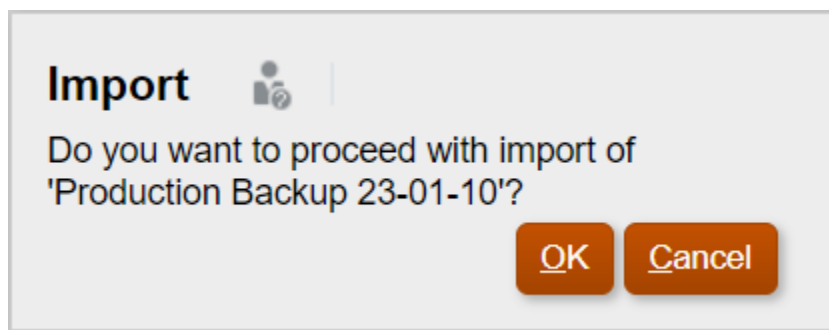
- d. ファイルのアップロードが完了したら、「OK」をクリックします。



5. 「スナップショット」タブでアップロードされたスナップショットを探し、「アクション」列で **...** をクリックして「インポート」をクリックします。



6. 確認のメッセージで「OK」をクリックします。



7. 「移行ステータス」画面で、インポートが完了するまで「リフレッシュ」をクリックした後、「閉じる」をクリックします。

epm_default_cloud_admin		Start Time	01/10/2023 13:39:03
Source	Destination	Completed Time	01/10/2023 13:40:45
Production Backup 23-01-10/HSS-	Shared Services	Duration	00:01:42
Production Backup 23-01-10/EDM	Enterprise Data Management		

8. "テスト"環境に"本番"環境からのアプリケーションが含まれていることを確認します。

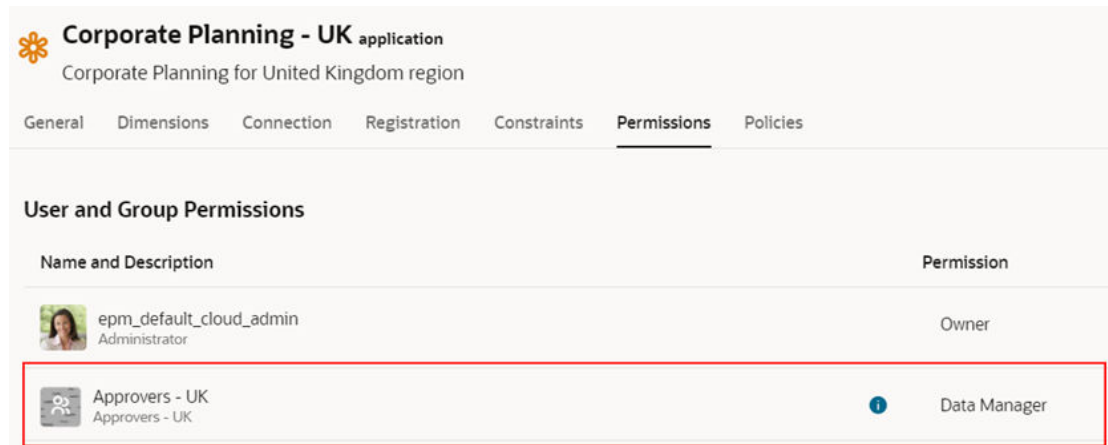
Name and Description	Type	Default View	Primary Connection	Actions
Account Reconciliation Account Reconciliation	Universal	Account Reconciliation Account Reconciliation Default View		
Acquired GL (Legacy) General ledger from acquired company	Universal	Acquired GL (Legacy) Acquired GL Chart of Accounts		
Corporate Planning Corporate Planning	Planning Modules	Corporate Planning Corporate Planning	Production Production Pod	
E-Business Suite GL E-Business Suite General Ledger	E-Business Suite General Ledger	EBS Chart of Accounts E-Business Suite GL Chart of Accounts		
Financial Consolidation and Close Financial Consolidation and Close	Financial Consolidation and Close	Financial Consolidation and Close Financial Consolidation and Close Default Vi...	Production Production FCC connection	
Financials Cloud Financials Cloud GL	Financials Cloud General Ledger	Financials Cloud Financials Cloud GL segments	Financials Cloud Oracle Financials Cloud GL	

## ステップ 2: アプリケーションの構築

このシナリオでは、テスト環境に Planning アプリケーションを登録して構築します。Planning アプリケーションを登録するための個別のステップは、[Planning との統合ビジネス・シナリオ](#)に記載されています。今回の Planning アプリケーションの詳細は次のとおりです：

- 名前: **Corporate Planning - UK**
- キューブ: **Plan1**
- 別名: **デフォルト、EPMO**
- ディメンション:
  - **勘定科目**
  - **エンティティ**
  - **コスト・センター**
  - **製品**




また、**Approvers - UK** という新しいグループを作成して、このグループに新しいアプリケーションに対するデータ・マネージャ権限も付与しました。



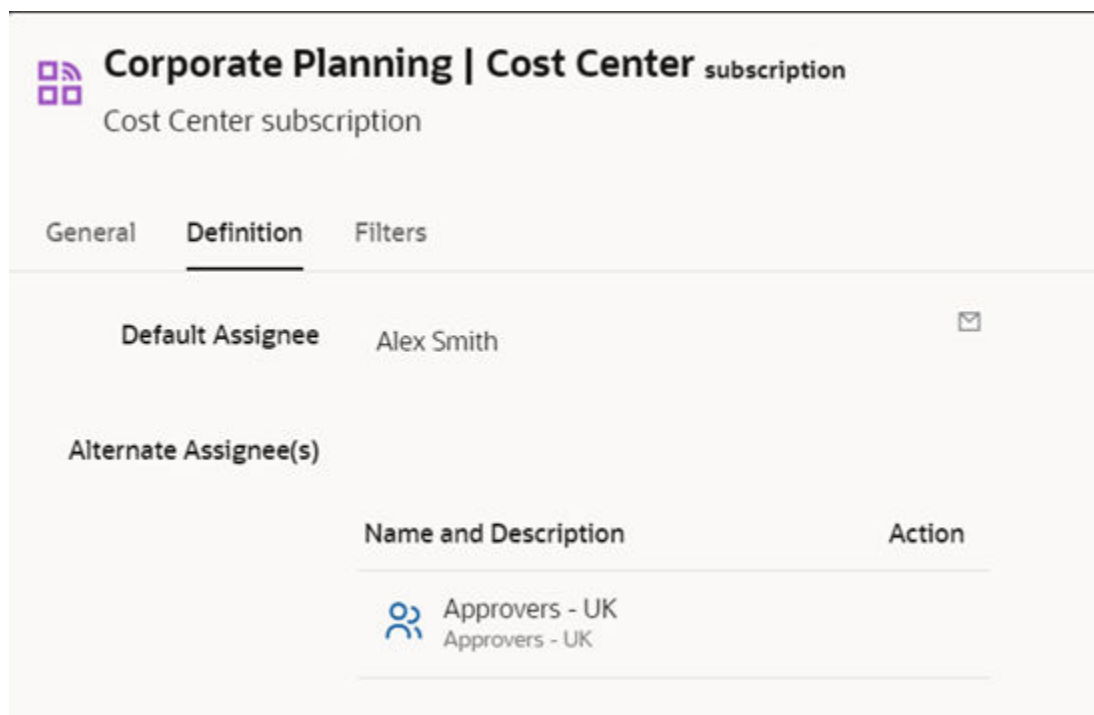
**Corporate Planning - UK** application  
Corporate Planning for United Kingdom region

General Dimensions Connection Registration Constraints **Permissions** Policies

### User and Group Permissions


Name and Description	Permission
 epm_default_cloud_admin Administrator	Owner
 Approvers - UK Approvers - UK	 Data Manager

新しいアプリケーションのコスト・センターのビューポイントから Corporate Planning アプリケーションのコスト・センターのビューポイントへのサブスクリプションを作成しました。前に作成した新しいグループを代替担当者として割り当てました。




**Corporate Planning | Cost Center** subscription  
Cost Center subscription

General **Definition** Filters

**Default Assignee** Alex Smith 

**Alternate Assignee(s)**

Name and Description	Action
 Approvers - UK Approvers - UK	

最後に、Corporate Planning アプリケーションに Cost Center Rollup というノード・タイプを、そして新しいアプリケーションに Cost Center - UK ロールアップというノード・タイプを作成した後、これらの間にノード・タイプ・コンバータを作成しました。

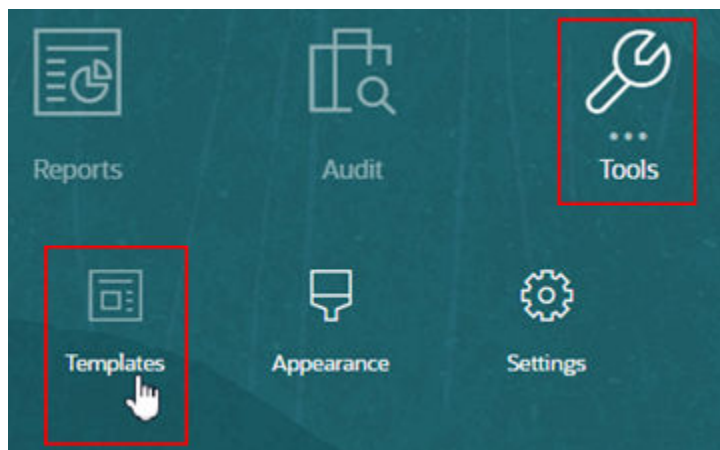
**Cost Center - UK Rollup** node type  
Rollup Node Type for Cost Center - UK

General Properties **Converters** Validations Data Chain Permissions Policies

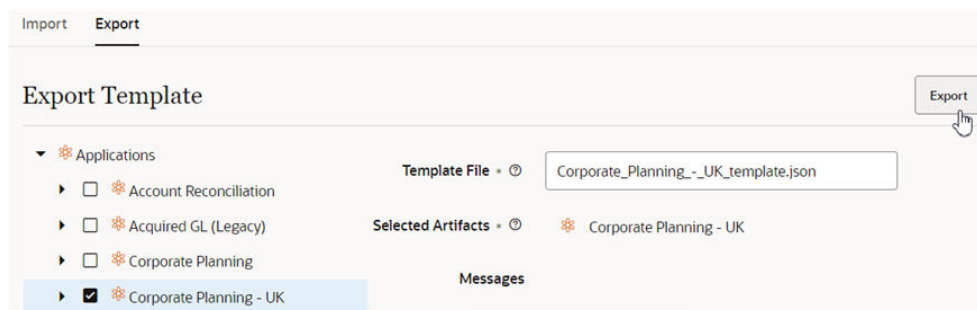
Source Node Types	Properties to Copy		
Name and Application	Operation	Source: Cost Center Rollup	Target: Cost Center - UK Rollup
Cost Center Rollup Corporate Planning	Copy	Core.Name Node Name	Name Node Name
	Copy	Core.Description Node Description	Description Node Description

## ステップ 3: テンプレートへの新規アプリケーションのエクスポート

1. "テスト"環境で、「ツール」、「テンプレート」の順にクリックします。



2. 「エクスポート」タブで:
  - a. 「アプリケーション」を展開します。
  - b. 新しいアプリケーションの横にあるチェック・ボックスを選択します。
  - c. 「テンプレート・ファイル」にファイル名を入力します。
  - d. 「エクスポート」をクリックします。



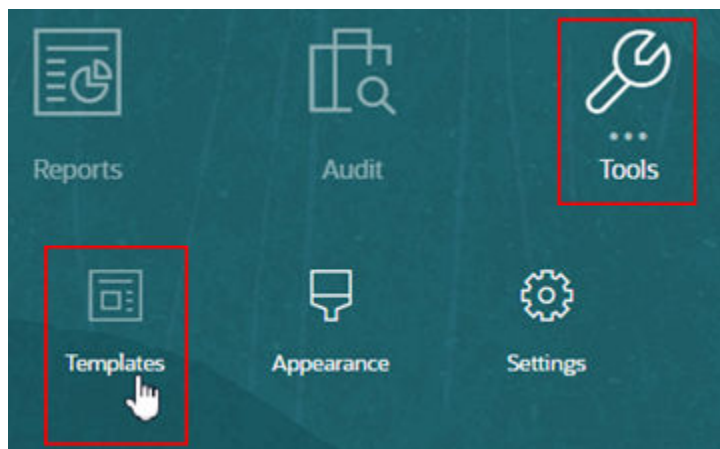
アプリケーションが、.json ファイルにエクスポートされ、ローカル・システムにダウンロードされます。

## ステップ 4: テンプレートからのアプリケーションのインポートのプレビュー

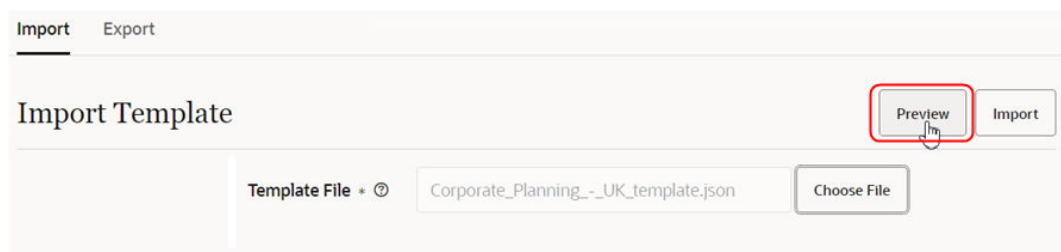
アプリケーションまたはディメンションをテンプレートからインポートする前に、まずインポートをプレビューすることが重要です。インポートをプレビューすることで、テンプレート・インポートによってターゲット環境で作成される変更をビジュアル化でき、さらに重要なこととして、インポート自体を実行する前に、インポートの潜在的なエラーや警告を見つけて修正できます。

テンプレート・インポートをプレビューするには:

1. "本番"環境で、「ツール」、「テンプレート」の順にクリックします。

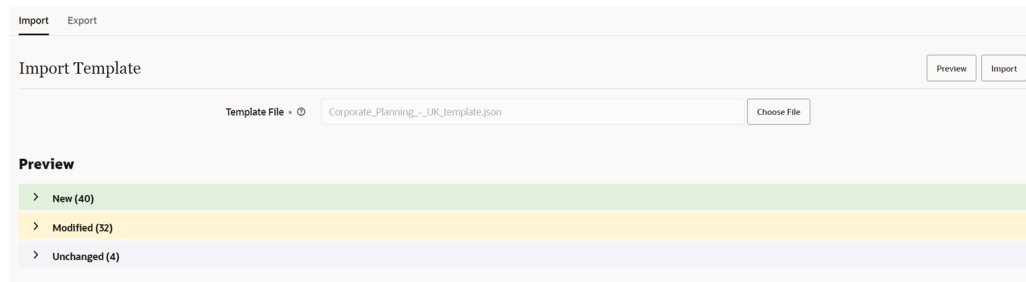


2. 「インポート」タブで:
  - a. 「ファイルの選択」をクリックします。
  - b. ローカル・システムにダウンロードされたエクスポート・ファイルにナビゲートします。
  - c. 「プレビュー」をクリックします。



プレビューには、インポートの結果としての新規、変更済および変更なしのアーティファクトの数が表示されます。





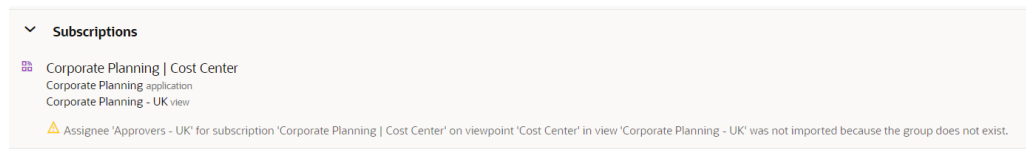
## プレビューの警告の確認

次に、新規、変更済、変更なしのアーティファクトを展開して、警告メッセージがあればすべて確認します。このシナリオでは次の警告が見つかりました:

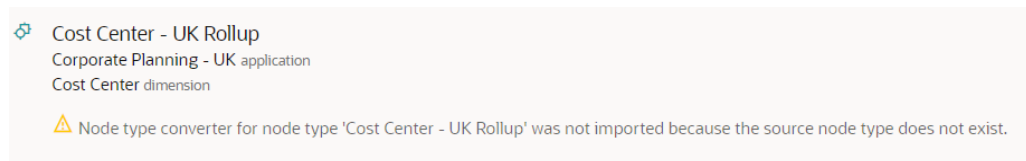
### アプリケーション権限がインポートされない:



### ビューポイント・サブスクリプションがインポートされない:



### ノード・タイプ・コンバータがインポートされない:



次に、[ステップ 5: プレビューのインポートの警告の修正](#)で、これらの警告を修正する方法の詳細を参照します。

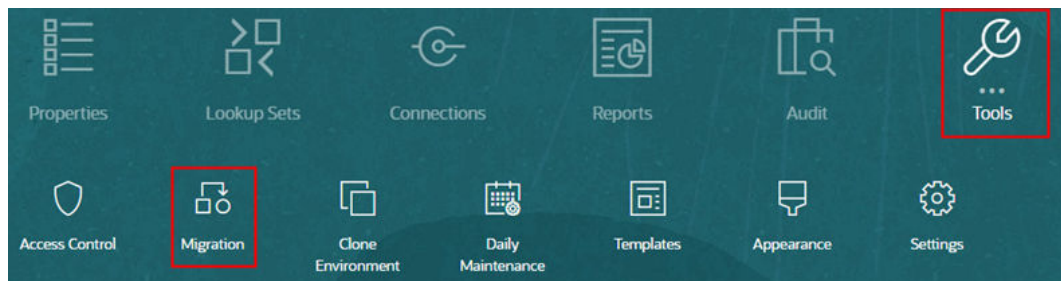
## ステップ 5: プレビューのインポートの警告の修正

### グループがないという警告の修正

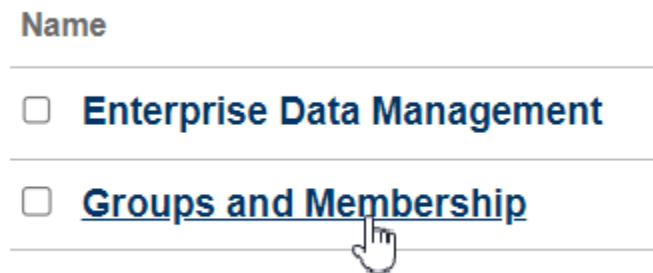
アプリケーション権限とビューポイント・サブスクリプションの警告では、**Approvers - UK**グループがターゲット環境に存在しないため、権限およびサブスクリプションをインポートできないことがメッセージに示されています。これは、このグループをテスト環境でのみ作成したためです。

これを修正するには、移行を使用して、このグループをテスト環境からエクスポートして本番環境にインポートします。

1. "テスト"環境で、「ツール」、「移行」の順にクリックします。



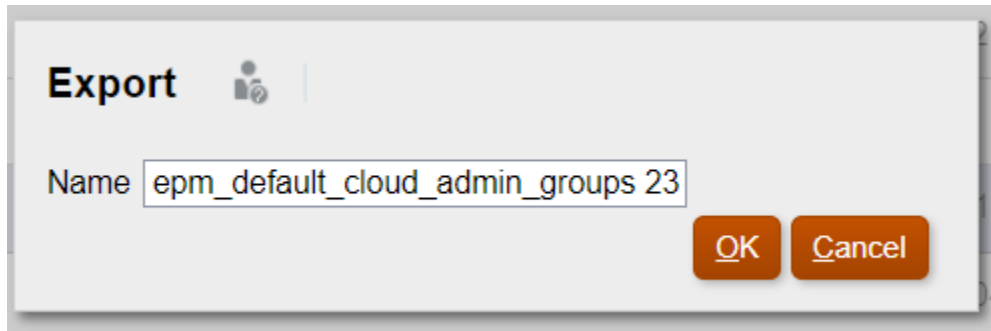
2. 「カテゴリ」タブで、「グループとメンバーシップ」をクリックします。



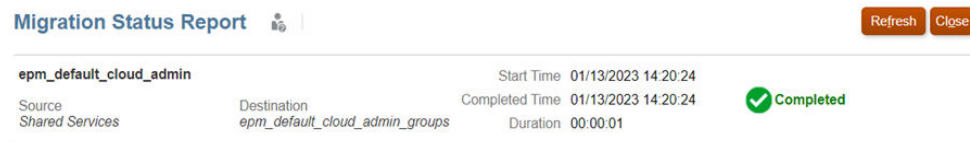
3. 「ネイティブ・ディレクトリ」を展開して、「グループ」を選択した後、「エクスポート」をクリックします。

Name	Type	Modified Date	Modified By
▼ <input type="checkbox"/> Native Directory	Folder		
<input type="checkbox"/> Users	Users	11/21/2022	epm_default_cloud_...
<input type="checkbox"/> Predefined-Groups	Predefined-Groups		
<input checked="" type="checkbox"/> Groups	Groups	01/13/2023	epm_default_cloud_...
<input type="checkbox"/> Roles	Aggregated Roles	11/04/2022	admin
▶ <input type="checkbox"/> Assigned Roles	Folder	11/04/2022	Shared Services Sys...

4. ファイル名を入力して「OK」をクリックします。

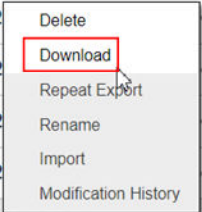


5. エクスポートが完了したら、「OK」をクリックします。



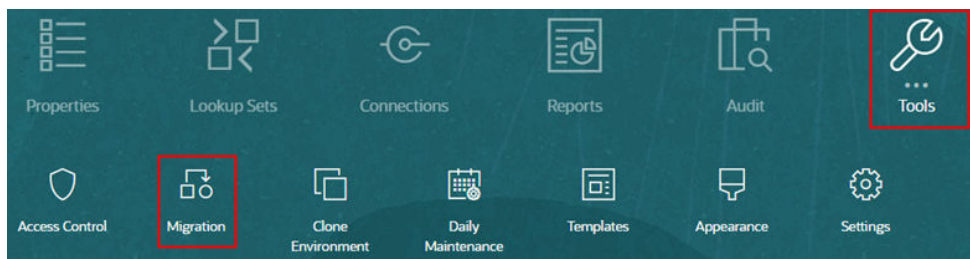
6. 「スナップショット」からグループのエクスポート・ファイルを探し、「アクション」列で「…」をクリックして「ダウンロード」をクリックします。

Name	Size	Last Modified Time	Actions
▶ EDM Sample App	143 MB	08/11/2022	...
▶ EDM_GnM_LCM_21.07_07212021	92 KB	11/04/2022	...
▶ EDM_Vision_LCM_22.06_06142022	146 MB	11/04/2022	...
▶ epm_default_cloud_admin 22-12-06	48 KB	12/06/2022	...
▶ epm_default_cloud_admin_groups 23-01-13	-	01/13/2023 14:20:24	...
▶ Production Backup 23-01-10	88 MB	01/10/2023 09:27:03	...

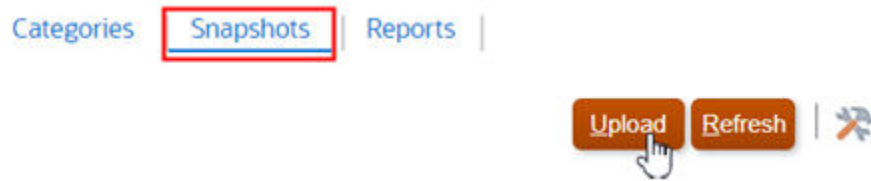


グループのスナップショットがローカル・マシンにダウンロードされます。

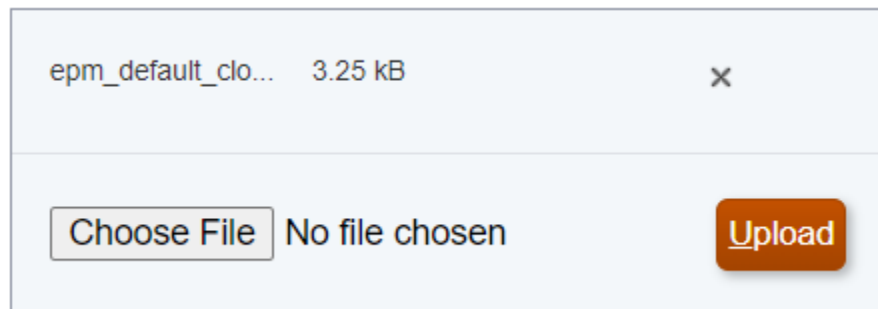
7. "本番"環境で、「ツール」、「移行」の順にクリックします。



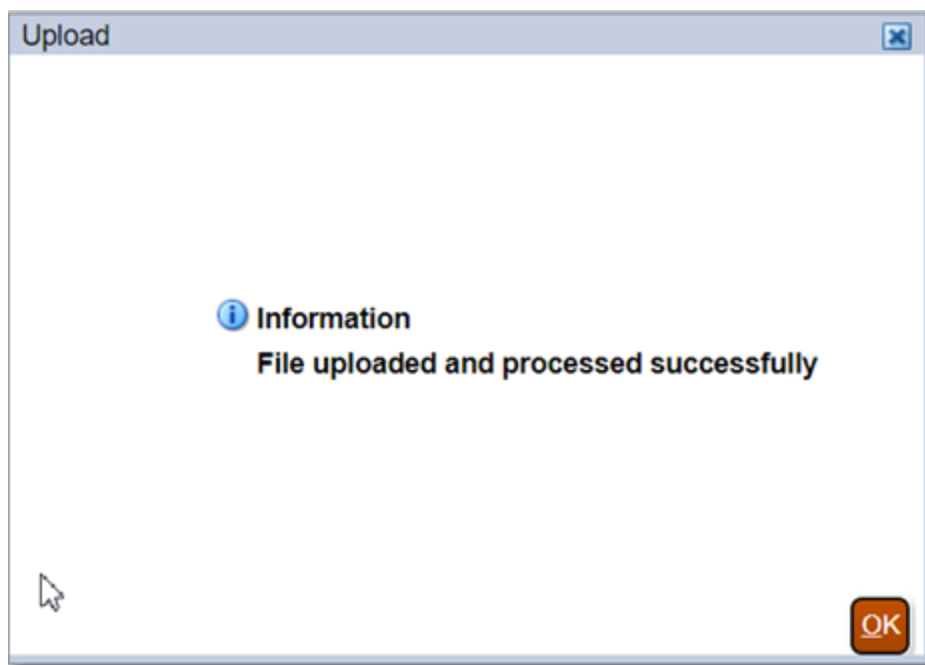
8. 「スナップショット」タブで、「アップロード」をクリックします。




9. 「ファイルの選択」をクリックし、グループを含むファイルを選択した後、「アップロード」をクリックします。



10. ファイルのアップロードが完了したら、「OK」をクリックします。

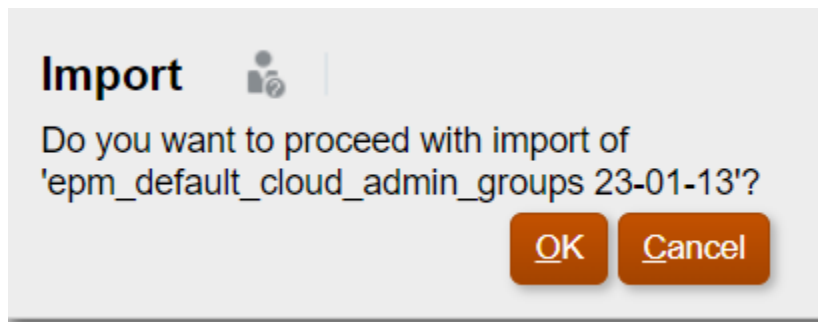


11. 「スナップショット」タブでグループを含むファイルを探し、「アクション」列で  をクリックして「インポート」を選択します。

Name	Size	Last Modified Time	Actions
▶ epm_default_cloud_admin_groups 23-01-13	-	01/13/2023 14:21:55	...
▶ Production Backup 23-01-10	88 MB	01/10/20	

- Delete
- Download
- Repeat Export
- Rename
- Import
- Modification History

12. ダイアログの「OK」をクリックしてインポートを確認します。

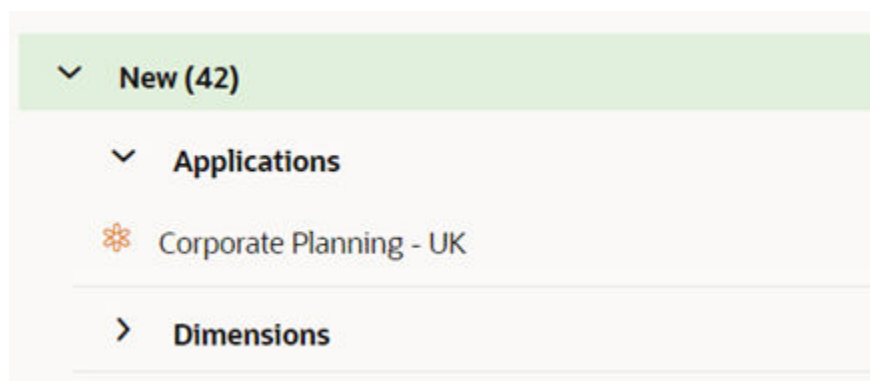


13. インポートが完了したら、「閉じる」をクリックします。

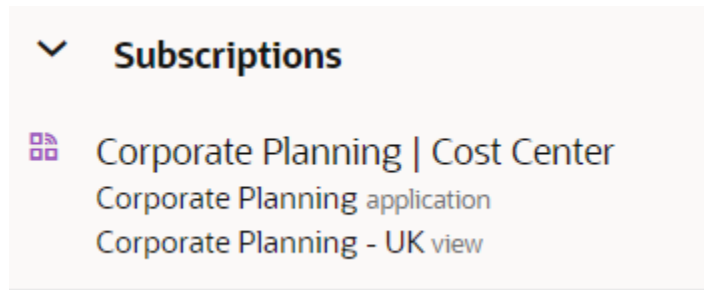
Migration Status Report		Refresh	Close	
epm_default_cloud_admin	Start Time 01/13/2023 14:22:17	<span style="color: green; font-weight: bold;">✔ Completed</span>		
Source: epm_default_cloud_admin_groups	Destination: Shared Services			Completed Time 01/13/2023 14:22:18
				Duration 00:00:01

テンプレート・プレビューに戻り、アプリケーション権限とビューポイント・サブスクリプションの警告が表示されなくなったことを確認します。

アプリケーション権限:



ビューポイント・サブスクリプション:

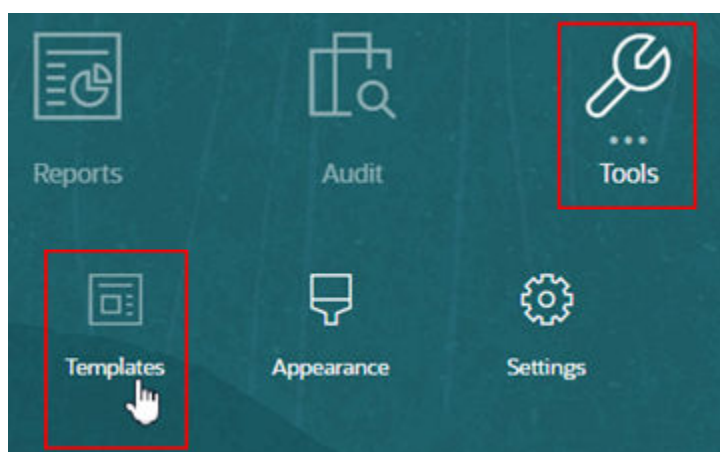


### ノード・タイプがないという警告の修正

ノード・タイプに関する警告では、ソース・ノード・タイプがターゲット環境に存在しないため、**Cost Center - UK Rollup** ノード・タイプ・コンバータをインポートできないことがメッセージに示されています。これは、**Corporate Planning** アプリケーションの **Cost Center Rollup** ノード・タイプを本番環境ではなくテスト環境で作成したためです。

これを修正するには、**Corporate Planning** アプリケーションをテスト環境(このソース・ノード・タイプを作成した)から本番環境に取り込む必要があります。このことはテンプレートをを使用して 2 通りの方法で実現できます:

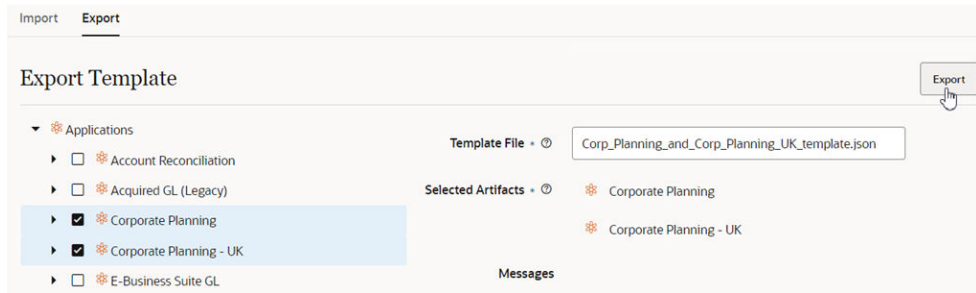
- **Corporate Planning** アプリケーションをテスト環境の別個のテンプレート・ファイルにエクスポートし、それを先にインポートしてから **Corporate Planning - UK** アプリケーションをインポートします。
  - **Corporate Planning** と **Corporate Planning - UK** の両方を同じテンプレート・ファイルにエクスポートして、両方が取り込まれるようにします。このシナリオではこのアプローチを採用します。
1. "テスト"環境で、「ツール」、「テンプレート」の順にクリックします。



2. 「エクスポート」 タブで:

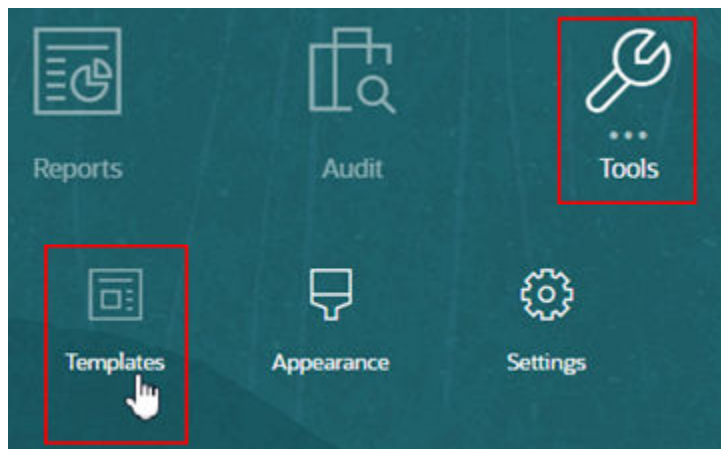
- a. 「アプリケーション」を展開します。
- b. **Corporate Planning** および **Corporate Planning - UK** アプリケーションの横の両方のチェック・ボックスを選択します。
- c. 「テンプレート・ファイル」にファイル名を入力します。

- d. 「エクスポート」をクリックします。

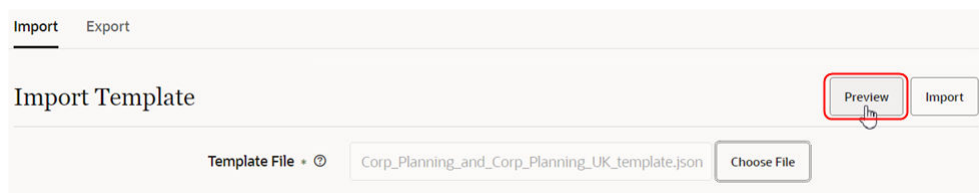


アプリケーションが.json ファイルにエクスポートされ、ローカル・システムにダウンロードされます。


3. "本番"環境で、「ツール」、「テンプレート」の順にクリックします。



4. 「インポート」タブで:
- 「ファイルの選択」をクリックします。
  - ローカル・システムにダウンロードされたエクスポート・ファイルにナビゲートします。
  - 「プレビュー」をクリックします。



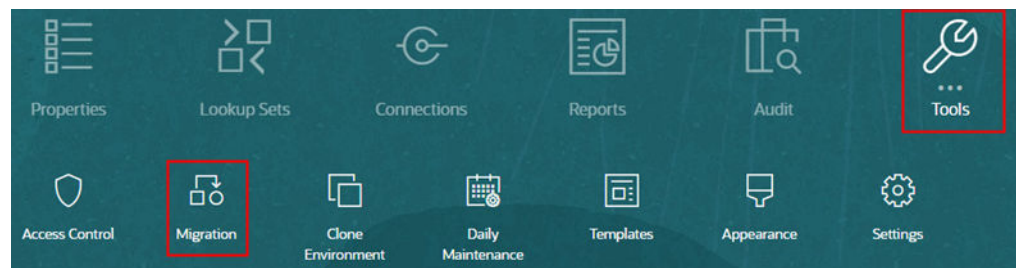
5. ノード・タイプ・コンバータの警告が表示されなくなったことを確認します。

 Cost Center - UK Rollup  
Corporate Planning - UK application  
Cost Center dimension

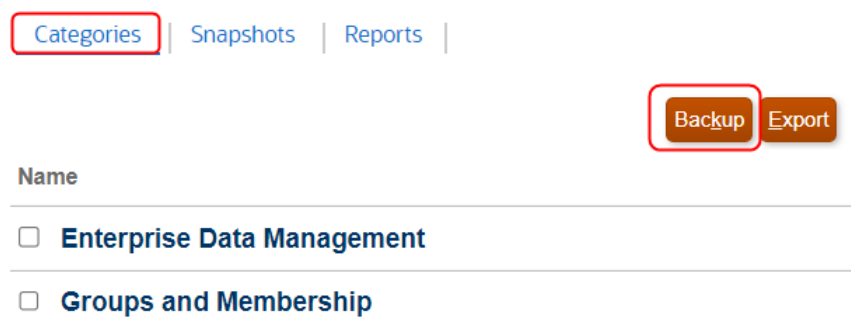
## ステップ 6: テンプレートからのアプリケーションのインポート

確認と、テンプレート・インポートのプレビュー・プロセスからの警告の修正を終了すると、テンプレート・ファイルから両方のアプリケーションをインポートする作業に進むことができるようになります。

1. テンプレートからアプリケーションを転送する前に、本番環境のバックアップ・スナップショットを取っておくことがベスト・プラクティスです:
  - a. "本番"環境で、「ツール」、「移行」の順にクリックします。

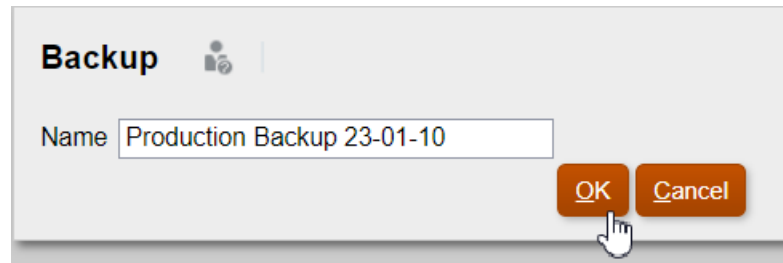


- b. 「カテゴリ」から「バックアップ」をクリックして、現在の本番環境のバックアップ・スナップショットを作成します。

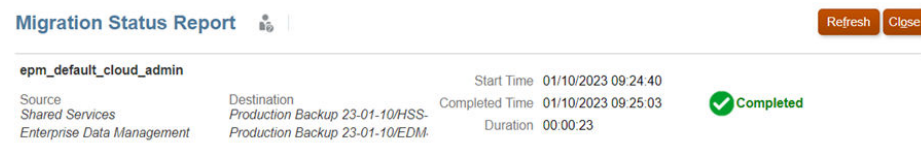


- c. スナップショットの名前を入力し、「OK」をクリックします。

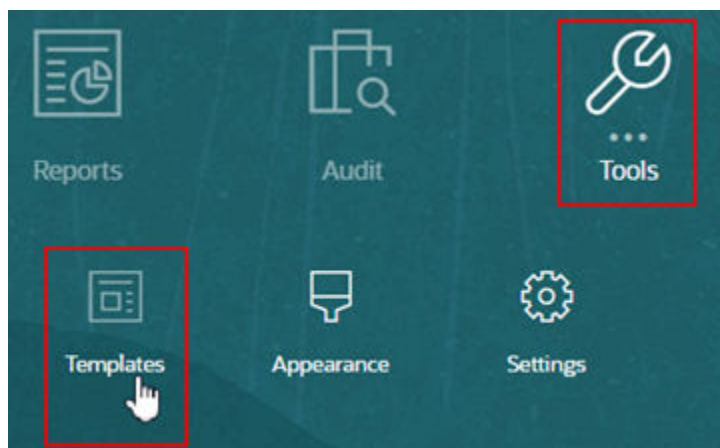




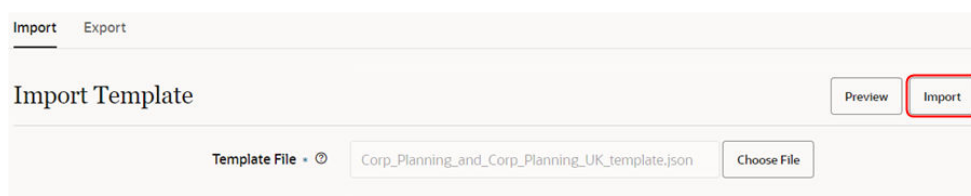
- d. 「リフレッシュ」をクリックしてバックアップのステータスを更新した後、バックアップが完了したら、「閉じる」をクリックしてウィンドウを閉じます。



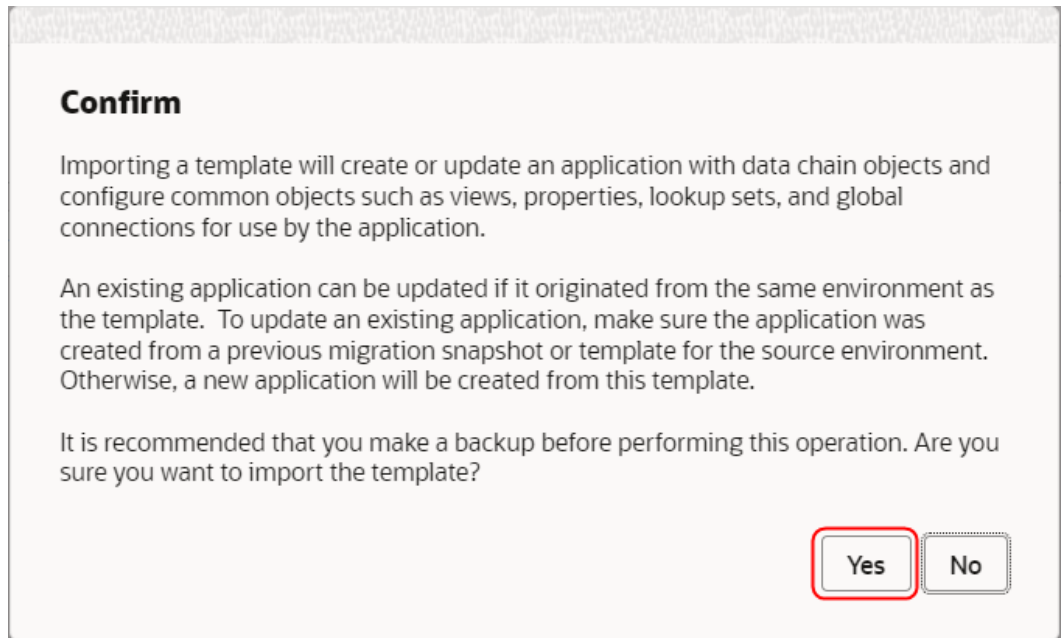
2. 次に、作成したテンプレート・ファイルを使用してアプリケーションをインポートします。"本番"環境で、「ツール」、「テンプレート」の順にクリックします。



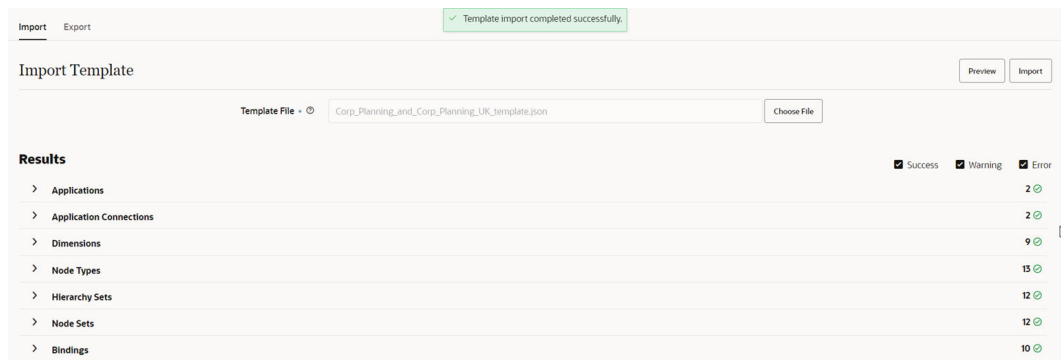
3. 「インポート」タブで:
- 「ファイルの選択」をクリックします。
  - ローカル・システムにダウンロードされたエクスポート・ファイルにナビゲートします。
  - 「インポート」をクリックします。



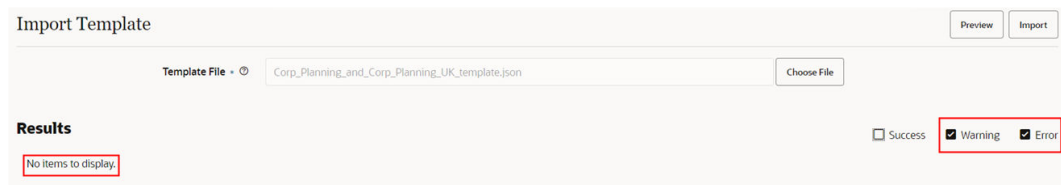
4. 確認メッセージを確認し、「はい」をクリックします。



5. テンプレートが正常にインポートされたことを確認します。







6. インポートの警告やエラーを見つけるには、「警告」および「エラー」フィルタを使用します。



7. 新しいアプリケーション、新しいデフォルトおよびメンテナンス・ビュー、新しいデータ・チェーン・オブジェクトが本番環境に存在することを確認します。

## Applications



Name and Description	Type	Default View
 <b>Account Reconciliation</b> Account Reconciliation	Universal	<b>Account Reconciliation</b> Account Reconciliation Default View
 <b>Acquired GL (Legacy)</b> General ledger from acquired company	Universal	<b>Acquired GL (Legacy)</b> Acquired GL Chart of Accounts
 <b>Corporate Planning</b> Corporate Planning	Planning Modules	<b>Corporate Planning</b> Corporate Planning
 <b>Corporate Planning - UK</b> Corporate Planning for United Kingdom region	Planning Modules	<b>Corporate Planning - UK</b> Corporate Planning - UK Default View

# A

## ベスト・プラクティス

ベスト・プラクティスでは、機能を効果的に使用方法について説明します。次の表には、このガイドで説明したベスト・プラクティスへのリンクが用意されています。

カテゴリ	ベスト・プラクティスの対象	この項を参照
アプリケーションの構成	新規ノード・タイプの作成	<a href="#">ノード・タイプの作成</a>
	新規階層セットの作成	<a href="#">階層セットの作成</a>
	新規ノード・セットの作成	<a href="#">ノード・セットの作成</a>
	権限のカスケードの割当て	<a href="#">権限カスケード</a>
	アプリケーション固有のウィザードを使用したアプリケーションの登録	<a href="#">汎用アプリケーションの操作</a>
ビューの使用	代替ビューポイントの作成	<a href="#">ベスト・プラクティス</a>
	新規バージョンを作成するためのビューポイントのコピー	<a href="#">バージョン管理のベスト・プラクティス</a>
データの管理	サブスクリプションでのノード・タイプ・コンバータの使用	<a href="#">サブスクリプションの作成、編集および検証</a>
	要求ロード・ファイルを使用した一括変更	<a href="#">対話型での変更</a>
統合	エクスポート前のビューポイントの検証	<a href="#">ディメンションのエクスポート Planning</a> および <a href="#">フリーフォーム・ディメンションのエクスポート</a> <a href="#">Oracle Financials Cloud 一般会計ディメンションのエクスポート</a> <a href="#">Financial Consolidation and Close</a> ディメンションのエクスポート <a href="#">E-Business Suite 一般会計ディメンションのエクスポート</a>
	テンプレートを使用したアプリケーションの転送	<a href="#">テンプレートの操作</a>

# B

## 用語集

### アプリケーション

Oracle Enterprise Data Management Cloud アプリケーションは、特定の操作、分析またはレポート要件を満たすために使用される、関連するディメンション、セグメントまたは値セットです。

### アプリケーション・アダプタ

アプリケーション・アダプタは、Oracle Enterprise Data Management Cloud での特定のアプリケーション・タイプの登録、バインド、検証、インポートおよびエクスポートをカバーします。

### アプリケーション・タイプ

アプリケーション・タイプは外部アプリケーションによって示される製品を定義します。たとえば、「Planning」および「汎用」はアプリケーション・タイプの例です。

### 承認グループ

承認グループは、承認者としてポリシーに割り当てられているユーザーまたはグループで構成されます。ポリシーを構成しているユーザーが、ユーザーおよびグループが要求を同時に承認できるかどうか、または特定の順序で承認する必要があるかどうかを決定します。

### 承認方法

承認方法により、承認の処理がシリアルか並列かが決定されます。シリアルの場合、一度に1人の承認者が指定の順序で承認します。並列の場合、すべての承認者は、任意の順序で同時に承認できます。

### 承認ポリシー

承認ポリシーは、アプリケーション、ディメンション、階層セットまたはノード・タイプへの変更を承認するために構成された設定およびグループで構成されます。ポリシー・レベル(アプリケーション、ディメンション、階層セットまたはノード・タイプ)への所有者権限を持つユーザーは、承認ポリシーを構成できます。

### 担当者

担当者は、現在自身に割り当てられている要求があるユーザーです。1人のユーザーのみを一度に割り当てできます。

### バインディング

バインディングは、バインドされたデータ・オブジェクトが外部アプリケーションの要件に準拠するようにするために、Oracle Enterprise Data Management Cloud アプリケーションでディメンションとビューポイントの間に作成されます。

### バインド・キー

バインド・キーは、ディメンションのバインディングのバインディング・ルールやインポートおよびエクスポートの制約条件を制御するためにアプリケーション登録時に作成されます。

## バインド・タイプ

バインドがノード・タイプまたは階層タイプのどちらのバインドであるかを指定します。ノード・タイプ・バインドは、リスト・ノード・セットを使用するノードのフラット・リストを持つビューポイントを表します。階層タイプ・バインドは、階層ノード・セットを使用するノードの構造化セットを持つビューポイントを表します。

## バインド済データ・オブジェクト

バインド済データ・オブジェクトは、外部アプリケーションによって使用されるオブジェクトです。ディメンションのエクスポート時に、バインド済オブジェクトに加えられた変更は外部アプリケーションに影響を及ぼします。既存のディメンションにインポートする際に、ディメンションのバインド済データ・チェーンのデータが影響を受けます。

## コミット・ポリシー

コミット・ポリシーは、要求の最後のレビュー・ステージを提供します。このステージでは、職務分掌を適用するために、コミット・ポリシーで指定されたユーザーがすべての要求アイテムをレビューしてコミットします。

## 接続(アプリケーション固有)

特定の 1 つの外部アプリケーションに対して **Oracle Enterprise Data Management Cloud** の特定の 1 つのアプリケーションのデータを共有できるようにします。アプリケーション固有の接続は、他のアプリケーションで再利用できません。

## 接続(グローバル)

グローバル接続により、抽出を使用して外部アプリケーションとデータを共有できます。複数の抽出にグローバル接続を使用できますが、各抽出で使用できるグローバル接続は 1 つのみです。

## 制約

制約を使用すると、アプリケーションのノード・タイプとディメンション全体に特定のデータ・ルール(名前の一意性など)を適用できます。

## コントリビュータ

コントリビュータは、送信、再割当て、承認、あるいは要求への添付またはコメントの追加を行ったユーザーまたはグループです。

## データ

データは、特定の詳細情報を示す必要がない場合に、オブジェクトまたは情報を参照するために使用される一般的な用語です。たとえば、アプリケーションをインポートする場合、データがインポートされます。

## データ・アクセス

データ・アクセスは、参加者権限を持つユーザーが実行できるアクションと、ユーザーが表示および更新できるプロパティを決定します。

## データ・チェーン

データ・チェーンはディメンションの移入に使用されるオブジェクトから構成されます。データ・チェーンは、1 つ以上のノード・タイプ、1 つの階層セット(関連ノードを操作する場合)、1 つのノード・セットおよび 1 つのビューポイントを含むことができます。

## データ・マネージャ(ロール)

データ・マネージャは、データ・スチュワードまたはアナリストです。データをロードし、データの品質を管理します。たとえば、ディメンションのインポート、比較、検証、データの問題の解決を実行できます。

## デフォルト・ビュー

デフォルト・ビューは登録時に作成され、外部アプリケーションに関連付けられます。

## ディメンション

ディメンションはビジネス情報を編成します。通常、ディメンションは関連ノードの階層を含み、異なるノード・タイプのノードを含むことができます。たとえば、年ディメンションを含むアプリケーションは、多くの場合四半期、月などの期間の各単位のノードが含まれます。

### ノート:

財務アプリケーションでは、ディメンションは値セット、勘定体系または勘定体系セグメントと呼ばれることがあります。

## ディメンション・タイプ

ディメンション・タイプは、アプリケーション・タイプに固有であり、外部アプリケーション・タイプに基づいてディメンション特性を定義します。たとえば、**Financial Consolidation and Close** アプリケーションの場合、ディメンション・タイプは、勘定科目、エンティティ、増減およびカスタムです。ディメンション・タイプは、プロパティ、検証、およびバインド・タイプ(階層またはノード・タイプ)などの他の特性を制御します。

## エンタープライズ・データ

エンタープライズ・データは **Oracle Enterprise Data Management Cloud** で編成および管理されます。マスター・データ、ドメイン、ディメンション、階層、参照データ、アプリケーション設定、メトリック、メジャー、ビジネス分類およびビジネス・タクソノミを含むことができます。

## エクスポート

エクスポートは、**Oracle Enterprise Data Management Cloud** から外部のターゲット・システムにデータを移動する、アプリケーション・タイプ固有のメカニズムです。エクスポートは、アプリケーションの登録、バインディングおよびバインド・キーにより制御されます。

## マッピングのエクスポート

1 つ以上のマッピング・キーのデータをエクスポートします。

## 式

式は、文と呼ばれる 1 行以上のロジックで構成され、カスタム・ビジネス・ロジックの定義に使用できます。

## 式の項

式の項には、値に評価されるオブジェクトと演算子が含まれます。

## 外部アプリケーション

外部アプリケーションは **Planning** などのアプリケーションであり、**Oracle Enterprise Data Management Cloud** の外部に存在します。

### 抽出

抽出により、ディメンション内のビューポイントからフォーマットされたファイルまたはグローバル接続にデータを取得できます。抽出はユーザーが構成でき、バインドされたデータおよびバインドされていないデータを使用できます。

### 階層

階層はノード間の関係を定義します。階層構造は、親、子、兄弟、子孫および祖先などのノード間の家族関係を設定します。

### 階層セット

階層セットは、1 つ以上の最上位ノードを持つことができる階層構造を持つ関連ノードのグループです。

### 暗黙共有ノード

子孫を持つノードが階層内の複数の位置にある場合、ノードの最初の出現以降の階層内でのそのノードのすべての出現は、暗黙共有ノードと見なされます。

### インポート

インポートは、管理者がデータを外部アプリケーションからインポートして、ディメンションのノード、プロパティおよび階層関係に移入するプロセスです。

### 継承

値が定義されている最も近い祖先から値を取得することで、階層構造内でのノードの位置に基づいてプロパティのデフォルト値を定義する方法を提供します。

### 招待者

招待者は、現在要求を承認するよう招待されているユーザーまたはグループです。

### リスト

リストは、階層構造のないノードのグループです。リストは、1 つ以上のタイプのノードを含むことができます。たとえば、リストを使用して、一般会計内の勘定科目セグメントの値セット、連絡先のリストまたはフロント・オフィス・アプリケーション内の勘定科目を表す際に使用できます。

### リテラル

リテラルは、式に手動で入力する定数値です。

### 場所

場所は、階層内のノードの完全な位置です。ノードが階層内の複数の場所にある場合は、それぞれのノードに固有の場所があります。場所は、完全な祖先チェーンと組み合わされたノードです。

### コミット時にロック

新規に追加されたノードに対してのみプロパティを更新できることを指定するプロパティ・パラメータです。このプロパティが有効になっている場合は、ノードを追加する要求がコミットされるとプロパティの値がロックされ、更新できなくなります。

### 参照セット



参照セットはキー-値のペアのセットであり、これを使用すると、プロパティの値のセットを別の値のセットに変換できます。

### マップ・バインド

マップ・バインドでは、複数の異なるソース・アプリケーションのディメンションからターゲット・アプリケーションのディメンションにノード・タイプをマップできます。

### マッピング・キー

ターゲット・ノード・タイプにマッピングされるソース・ノード・タイプを指定し、マッピング・データをエクスポートする場所名を定義します。

### マスター・データ

マスター・データは、複数のアプリケーション間で使用される共通ビジネス・データの単一ソースです。

### ノード

ノードは、実際のビジネス・エンティティのインスタンスです。ノードを使用して、勘定科目、コスト・センター、法的エンティティ、製品などを表すことができます。リストまたは階層でノードを表示できます。

### ノード・セット

ノード・セットは、特定のビジネス用のノードのグループです。ノード・セットは階層セットを使用して、ノードまたはノード・タイプの階層を管理し、ノードのリストを管理します。

### ノード・セット・タイプ

ノード・セットがリスト・タイプまたは階層タイプのどちらのノード・セットであるかを判断します。リスト・タイプのノード・セットは、1つ以上のノード・タイプを参照します。階層タイプのノード・セットは、ノード・セットのノード・タイプを定義する階層セットを参照します。

### ノード・タイプ

ノード・タイプは、共通のビジネス特性に基づいてノードを分類および管理します。ノード・タイプはディメンションに関連付けられており、各ノードをノード・タイプに割り当てます。ノードは一意的な名前と説明で識別されます。たとえば、ノード名「1000」、ノードの説明「現金の勘定科目」です。

### ノード・タイプ・コンバータ

ノード・タイプ・コンバータでは、異なる2つのビューポイントで、異なるノード・タイプのノードを比較、特定、整列およびドラッグ・アンド・ドロップできます。

### 通知ポリシー

通知ポリシーを使用すると、アプリケーションまたはディメンションの所有者は、特定のユーザーに他のユーザーが送信した完了した要求を通知できます。

### オブジェクト

オブジェクトは式の要素で、値を表します。

### 演算子

演算子は、式で論理比較を実行します。

### 所有者(ロール)

所有者は、組織内のビジネス・アプリケーションまたはサブジェクト領域を担当し、Oracle Enterprise Data Management Cloud のいくつかの機能領域を管理します。

### 権限

権限により、アプリケーション、ディメンション、データ・チェーン・オブジェクトおよびデータが保護されます。所有者、データ・マネージャおよび参加者の 3 つの権限レベルがあります。参加者権限では、データ・アクセスを割り当てることもできます。データ・アクセスを参照してください。

### ポリシー・レベル

ポリシー・レベルは、承認ポリシーが設定されているデータ・オブジェクトです。承認ポリシーは、アプリケーション、ディメンション、階層セットまたはノード・タイプ・レベルで設定できます。

### 位置指定ロジック

祖先、親、子、最下位など、ノードの階層位置を記述するロジックです。

### プロパティ

プロパティはオブジェクトの特性のことです。ノードには、名前や説明など、識別するプロパティがあります。階層内のノードには、ノードと関係のプロパティが含まれていることがあります。ノードのプロパティではノード自体に関する特性を記述し、関係のプロパティではコンテキスト内の関係の属性を記述します。

### プロパティのデータ型

プロパティの値のデータ・ストレージ形式(たとえば、ブール、日付、文字列、タイムスタンプ)です。

### プロパティのデフォルト

プロパティは、デフォルトなし、指定されたデフォルトまたは導出されたデフォルトを持つように設定できます。これはプロパティ・インスペクタで管理され、アプリケーション・タイプ、ディメンション・タイプおよびプロパティに基づいてアプリケーションの登録時に設定されます。

### プロパティ・レベル

プロパティ値がどこで定義されるかを決定します。ノード・レベルのプロパティの場合、定義されたプロパティ値は、すべての場所およびビューポイントにわたってそのノードに適用されます。関係レベルのプロパティの場合、定義されたプロパティ値は、階層セット内の特定の親子関係に対して一意です。

### プロパティ・パラメータ

基本プロパティ・パラメータは、アプリケーション登録プロセスからのプロパティの初期構成です。特定のアプリケーションまたはノード・タイプの基本パラメータの値は、アプリケーションまたはノード・タイプのレベルでそのパラメータにオーバーライドを追加することで変更できます。

### 合理化

合理化では、複数のアプリケーション間でのデータ表示の一貫性が確保されます。

### 参照データ

参照データは、郵便番号や州の略称など、頻繁に再使用される許容値です。

### 登録

登録は、管理者が外部アプリケーションから使用するディメンションおよびプロパティを指定して、Oracle Enterprise Data Management Cloud アプリケーション、デフォルト・ビューおよびデータ・チェーンを作成するプロセスです。アプリケーション登録では、アプリケーション・タイプに必要な他の設定も構成します。たとえば、Oracle Planning and Budgeting Cloud アプリケーションの登録ではアプリケーションで使用されるプラン・タイプを指定します。

## 関係

階層セット内のノードの親子の編成に使用される、Oracle Enterprise Data Management Cloud の 2 つのノード間のつながりです。

## 要求

要求は、データを更新するためのメカニズムです。データへの変更は、要求アイテムに編成されます。

### 要求アイテム

要求アイテムは、特定のノードの変更アクションのグループです。要求アイテムは 1 つ以上の変更アクションを含むことができます。

### 要求アイテム・アクション

要求内のアイテムに対して実行される操作(追加、挿入、更新、移動、除去、削除など)です。サブスクリプションまたは要求アイテム・アクションのポリシーにフィルタを作成して、たとえば、特定のアクションのみでサブスクリプション要求が生成されるようにできます。

### 要求ステージ

要求ステージとは、承認ワークフロー内の要求の位置を示します。要求のステージは、送信、承認またはクローズ済のいずれかになります。

### 要求ステータス

要求ステータスとは、ドラフト、処理中、プッシュバック済、撤回済、完了または却下済など、要求のステータスです。

### サービス管理者(ロール)

サービス管理者は技術リーダーです。Enterprise Data Management のサービス・コンポーネントを作成して管理します。たとえば、ユーザー・セキュリティの管理、アプリケーションの作成および移行、メンテナンスとバックアップの設定を実行します。

### 共有ノード

階層セットまたはビューポイント内の異なる位置の下に存在するノードです。

## 文

式の文は、式のロジックを制御する個別の情報です。3 つのタイプの文があります: If 文、Return 文およびコメント。

### サブスクリプション

サブスクリプションを使用すると、ターゲット・ビューポイントソース・ビューポイントにサブスクライブすることで、ビューポイント間でデータを共有できます。ソース・ビューポイントで更新が行われると、ターゲット・ビューポイントで同じ変更を行うための要求が自動的に生成されます。

### 送信者

送信者は、要求を送信したユーザーです。要求には 1 人の送信者がいます。このユーザーには、要求内のすべてのオブジェクトに対する送信者権限が少なくとも必要です。

### テンプレート

テンプレートにより、アプリケーション構成を他の Oracle Enterprise Data Management Cloud 環境で使用するためにオフライン・ファイルに格納できます。

### 非バインド・データ・オブジェクト

非バインド・データ・オブジェクトは、外部アプリケーションでは使用されませんが、ディメンションへの潜在的な変更のモデル化および評価に使用可能なオブジェクトです。非バインド・オブジェクトは、インポート・プロセスでは更新されません。これらは、データ・チェーン内の他のオブジェクトへの変更によって間接的に影響を受けます。

### ユーザー(ロール)

ユーザーは、ビジネス・ユーザーまたは監査者です。データを表示または変更し、要求を承認したり、他のユーザーによる変更を監査できます。たとえば、ビューを介してデータを参照したり、要求を使用して変更を送信および承認できます。

### 検証

検証により、データ整合性が保たれ、Oracle Enterprise Data Management Cloud のビジネス・ロジックが適用されます。

### 検証レベル

検証レベルは、カスタム検証で検証が適用されるデータ・オブジェクトです。検証レベルはノード・タイプまたは階層セットのいずれかにできます。

### ビュー

ビューを使用すると、エンティティ・メンテナンスなどの特定のコンテキストやアクティビティに対して複数のリストまたは階層(あるいはその両方)を示すことができます。ビューは、データを更新できる 1 つ以上のビューポイントで構成されています。アプリケーションを登録すると、デフォルト・ビューが作成されます。メンテナンス・ビューは、特定のビジネス・ニーズにあわせて作成されます。

### ビューポイント

ビューポイントでは、ユーザーが操作するノードのサブセットを提供します。たとえば、ビューポイントは、財務アプリケーションやプランニング・アプリケーションなどのアプリケーションでメンテナンスを必要とする様々なコスト・センターを提示できます。

### ビューポイント・タイプ

ビューポイントがリスト・タイプまたは階層タイプのどちらのビューポイントであるかを判断します。ビューポイント・タイプは、ビューポイントが参照するノード・セットによって決まります。